SETSUNAN UNIVERSITY

SYLLABUS

2017 外国語学部 授業計画

外国語学科

外　国　語　学　部

（学部略号：L）

Faculty of Foreign Studies

外国語学科
（学科略号：L）
Department of Foreign Studies

外国語学部　外国語学科

◎教育研究上の目的

外国語と日本語によるコミュニケーション能力および異文化と日本の文化に対する理解を涵養し、人間力・実践力・統合力を身につけた、異文化接触の現場で活躍できる知的専門職業人を養成する。

◎ディプロマ・ポリシー（DP：卒業認定・学位授与の方針）

本学科の課程を修め、所定の単位を修得したうえで、次の要件を満たした者に学士（文学）の学位を授与します。

■知識・理解

［ＤＰ１］言語と文化が果たす役割や機能に基づいて、人間社会の学術的考察に必要な知識やリテラシーを身につけている。（一般教養と専門教育の基礎知識）

［ＤＰ２］グローバルな視点で国際社会の多様性を理解するとともに、世界と日本の関係について人文・社会学的研究を行うための専門知識を身につけている。（人文・社会分野の国際的専門知識）

■思考・判断

［ＤＰ３］言語・文化・国際社会における問題を発見し、その解決に必要な情報の収集、分析、結論に至るまでの追究の計画・立案にかかる思考力と判断力を身につけている。（計画・立案力）

［ＤＰ４］課題に対する計画的な解決策に基づいて、論理的な思考および多面的・多角的な判断を行うことができる。（問題解決力）

■関心・意欲・態度

［ＤＰ５］問題解決のために他者と協調して活動するとともに、社会的規範やマナーを遵守して行動することができる。（チームワーク・倫理観）

［ＤＰ６］課題や問題の解決のために必要な事柄について、主体的かつ継続的に学ぶ意欲や態度を身につけている。（学習意欲・態度）

■技能・表現

［ＤＰ７］＜英語プロフェッショナルコース＞
国際社会において円滑なコミュニケーションを可能にするような高いレベルの英語の４技能（聞く、話す、読む、書く）を身につけている。
＜国際キャリアコース＞
各専攻言語（英語、スペイン語、中国語、インドネシア・マレー語）について日本語と比較しながら学び、将来のキャリアにつながるようなコミュニケーション能力を身につけている。（コミュニケーション力）

［ＤＰ８］＜英語プロフェッショナルコース＞
必修となっている海外留学の経験なども含めて、英語での議論やプレゼンテーションをしっかり行うことができる表現力を身につけている。

＜国際キャリアコース＞
各専攻言語圏（英語圏、スペイン語圏、中国語圏、インドネシア・マレー語圏）などの言語はもとより文化や歴史についても日本（語）と比較しながら学び、調査や発表を行う技能や表現力を身につけている。（発表力・調査力）

◎カリキュラム・ポリシー（CP：教育課程編成・実施の方針）

ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、次のとおり教育課程を編成・実施します。

■知識・理解

①人間社会において言語と文化が果たす役割や機能などについての知識を習得するために、１年次にはその導入として基礎科目の「英語」「情報処理」など、２年次から３年次にかけては基礎科目の「英語」「中国語」「スペイン語」「インドネシア語」や「時事問題」、教養科目の「心理学」「世界の政治」「自然科学の理解」などを段階的に配当する。

②グローバルな視点で国際社会の多様性を理解し、日本に関する人文・社会的知識を習得するために、１年次にはその導入として文化・社会科目の「各語圏概論」「言語学」「日本文学」など、２年次には文化・社会科目の「異文化接触論」「国際社会論」やパッケージプログラム科目の「ホスピタリティ論」「メディア文化論」、そして３年次には文化・社会科目の「ヨーロッパ史学」「現代学術論」やパッケージプログラム科目の「ビジネスコミュニケーション論」「グローバル社会と日本」などを段階的に配当する。

■思考・判断

③思考力と判断力に基づいて問題を発見し、その解決に必要な情報の収集・分析・結論に至るまでの研究過程を計画・立案する力を養成するため、１年次から４年次にかけてゼミおよび卒業研究を段階的に配当する。

④課題に対する計画的な解決策に基づいて、論理的な思考力および多面的・多角的な判断力を養成するために、１年次から４年次にかけてゼミおよび卒業研究を段階的に配当する。

■関心・意欲・態度

⑤問題解決のために他者と協調して活動することや、社会的規範やマナーを遵守して行動することを身につけるために、１年次から４年次にかけてゼミおよび卒業研究を段階的　に配当する。

⑥課題や問題の解決のために必要な事柄について、主体的かつ継続的に学ぶ意欲や態度を身につけるために、１年次から４年次にかけてゼミおよび卒業研究を段階的に配当する。

■技能・表現

⑦-１＜英語プロフェッショナルコース＞
国際社会において円滑なコミュニケーションを可能にするような高いレベルの英語の４技能（聞く、話す、読む、書く）を身につけるために、１年次にはその導

入として「ボキャブラリー＆グラマー」「スピーキング＆ライティング」など、２年次前期には「Practical English Conversation」「Integrated Skills Training」など、そして２年次後期にはコース所属の全員が英語圏の大学に海外留学する。帰国後の３年次には「English for Global Communication」「Comprehensive English」など、さらに４年次には「Oral Communication」などを段階的に配当する。

⑦-２＜国際キャリアコース＞

各専攻言語（英語、スペイン語、中国語、インドネシア・マレー語）について日本語と比較しながら学び、将来のキャリアにつながるようなコミュニケーション能力を身につけるために、１年次にはその導入として「中国語を聞く/読む/書く/話す」「スペイン語/インドネシア語入門」など、２年次には「スペイン語文章構成」「総合インドネシア語」など、３年次には「スペイン語通訳」「実践インドネシア・マレー語」など、 さらに４年次には「中国語コミュニケーション」「スペシャリストインドネシア・マレー語」などを段階的に配当する。

⑧-１＜英語プロフェッショナルコース＞

英語での議論やプレゼンテーションをしっかり行うことができる表現力を身につけるために、１年次にはその導入として「プレゼンテーション」「トピックスタディーズ」など、２年次前期には「Global Issues」「Academic Reading/Writing」など、そして２年次後期にはコース所属の全員が英語圏の大学に海外留学する。帰国後の３年次には「English Lecture」「Debate & Presentation」など、 さらに４年次には「Advanced English」などを段階的に配当する。

⑧-２＜国際キャリアコース＞

各専攻言語圏（英語圏、スペイン語圏、中国語圏、インドネシア・マレー語圏）などの言語はもとより文化や歴史についても日本（語）と比較しながら学び、調査や発表を行う技能や表現力を身につけるために、１年次にはその導入として「ビジネス中国語」「ドラマ」など、２年次には「メディアイングリッシュ」「観光中国語」「旅行インドネシア語」など、３年次には「貿易中国語」「映画/メディアのスペイン語」「時事インドネシア・マレー語」など、 さらに４年次には「ビジネスイングリッシュ」「スペイン語プレゼンテーション」などを段階的に配当する。

◎アドミッション・ポリシー（AP：入学者受入れの方針）

本学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを理解し、次に掲げる知識・技能・意欲などを備え、入学後は学修・課外活動に主体的に取り組む人を求めます。

■知識・理解

①外国語学部で学ぶ諸科目の前提となる「英語」や「国語」などの科目を中心に、高等学校の教育課程を幅広く修得し、基礎的教養を身につけている。

■思考・判断

②論理的な思考力や、多面的・多角的な判断力の基礎となる文章読解力・記述力および表現力を身につけている。

■関心・意欲・態度

③言語や文化に関心を持ち、大学で学んだ語学や社会・文化論などを自分の将来のキャリアに活かしたいという意欲があり、またそれらを主体的かつ協調的に学ぶ姿勢・態度を身につけている。

■技能・表現

④外国語学部の教育の柱である語学力を養成するために、語学検定試験などに積極的に取り組む姿勢やその実績、およびコミュニケーション能力の基礎を身につけている。

入学者選抜の実施にあたっては、学力試験、適性検査をはじめとして、大学入試センター試験、面接、学修計画書、小論文、高等学校調査書、英語ほかの資格検定試験の結果などを入試毎に組み合わせて評価します。

授　業　計　画

科目名	担当者	ページ
ア		
アーバンツーリズム論	柴　田　陽　一	19
アカデミック　スタディーズ	大　神　雄一郎	20
Academic Writing	松　田　早　恵	21
Academic Writing	西　川　眞由美	23
Academic Reading	フーパー　トッド	25
Academic Reading	マイケル　ハーキー	26
アジア文化論	森　田　良　成	27
アドバンスト　イングリッシュ a	有　本　好一郎	28
アドバンスト　イングリッシュ b	有　本　好一郎	29
アドバンスト　ライティング a	ダニエル　マリンズ	30
アドバンスト　ライティング b	ダニエル　マリンズ	34
アメリカ文化論	大原関　一　浩	39
イ		
ESP(English for Specific Purposes) a	家　口　美智子	40
ESP(English for Specific Purposes) a	ルディ　トート	41
ESP(English for Specific Purposes) a	西　川　眞由美	42
ESP(English for Specific Purposes) a	齋　藤　安以子	43
ESP(English for Specific Purposes) a	住　吉　　誠	45
ESP(English for Specific Purposes) a	久　田　　歩	47
ESP(English for Specific Purposes) b	家　口　美智子	49
ESP(English for Specific Purposes) b	ルディ　トート	50
ESP(English for Specific Purposes) b	西　川　眞由美	51
ESP(English for Specific Purposes) b	齋　藤　安以子	52
ESP(English for Specific Purposes) b	松　田　早　恵	53
ESP(English for Specific Purposes) b	久　田　　歩	55
異文化コミュニケーション論	門　脇　　薫	57
異文化接触論	篠　原　愛　人	58
異文化ビジネス論	中　島　直　嗣	59
イベント企画論	田浦　アマンダ	61
English for Global Communication a	フーパー　トッド	63
English for Global Communication a	アイビス　ウイリアム	64
English for Global Communication a	リチャード　ダィアース	65
English for Global Communication a	田浦　アマンダ	66
English for Global Communication b	フーパー　トッド	67
English for Global Communication b	アイビス　ウイリアム	68
English for Global Communication b	リチャード　ダィアース	69
English for Global Communication b	田浦　アマンダ	70
English for TOEFL	皆　本　智　美	71
English for TOEFL	大原関　一　浩	72
イングリッシュ　プレゼンテーションⅠb	マイケル　ハーキー	73
イングリッシュ　プレゼンテーションⅠb	スコット　ライリー	74
イングリッシュ　プレゼンテーションⅠb	フーパー　トッド	76
イングリッシュ　プレゼンテーションⅠb	ダニエル　マリンズ	77
イングリッシュ　プレゼンテーションⅠb	ニール　カー	79
イングリッシュ　プレゼンテーションⅠb	マシュー　クーパー	80
English Writing Workshop a	マイケル　ハーキー	81
English Writing Workshop a	杉　浦　秀　行	83
English Writing Workshop b	マイケル　ハーキー	85
English Writing Workshop b	鈴　木　大　介	86

科目名	担当者	ページ
English　Language　Teaching	齋　藤　安以子	87
English Lecture Ⅰa	フーパー　トッド	88
English Lecture Ⅰa	ジョセフ　シウンシ	89
English Lecture Ⅰb	ジョセフ　シウンシ	90
English Lecture Ⅰb	フーパー　トッド	91
English Lecture Ⅱa	神　崎　　舞	92
English Lecture Ⅱa	田浦　アマンダ	93
English Lecture Ⅱb	神　崎　　舞	94
English Lecture Ⅱb	田浦　アマンダ	95
インターンシップⅠ	石　井　三　恵	1299
インターンシップⅡ	石　井　三　恵 水　野　　武	1300
Integrated Skills Training	後　藤　一　章	96
Integrated Skills Training	吉　村　征　洋	97
インドネシア・マレー語圏概論	上　田　　達 大　坪　紀　子	98
インドネシア・マレー語圏近現代史	森　田　良　成	100
インドネシア・マレー語圏の諸言語	山　口　真佐夫	101
インドネシア・マレー社会論	大　坪　紀　子	102
インドネシア語Ⅰ	山　口　玲　子	1071
インドネシア語Ⅰ	大　坪　紀　子	1072
インドネシア語Ⅱ	エニ　レスタリ	1073
インドネシア語Ⅱ	山　口　玲　子	1074
インドネシア語Ⅱa	山　口　玲　子	104
インドネシア語Ⅱa	大　坪　紀　子	105
インドネシア語Ⅱb	エニ　レスタリ	106
インドネシア語Ⅱb	山　口　玲　子	107
インドネシア語Ⅲ	大　坪　紀　子	1075
インドネシア語Ⅲa	大　坪　紀　子	108
インドネシア語Ⅲb	大　坪　紀　子	109
インドネシア語Ⅳ	大　坪　紀　子	1076
インドネシア語コムニカシⅡa	エニ　レスタリ	110
インドネシア語コムニカシⅡb	エニ　レスタリ	111
インドネシア語コムニカシⅠa	エニ　レスタリ	112
インドネシア語コムニカシⅠb	エニ　レスタリ	113
インドネシア語コムニカシⅡa（1）	エニ　レスタリ	114
インドネシア語コムニカシⅡa（2）	エニ　レスタリ	115
インドネシア語コムニカシⅢa	エニ　レスタリ	116
インドネシア語コムニカシⅢb	エニ　レスタリ	117
インドネシア語コムニカシⅣa	エニ　レスタリ	118
インドネシア語コムニカシⅣb	エニ　レスタリ	119
インドネシア語入門a（1）	山　口　真佐夫	120
インドネシア語入門a（2）	浦　野　崇　央	121
インドネシア語入門b（1）	山　口　真佐夫	122
インドネシア語入門b（2）	浦　野　崇　央	123
インドネシア語表現法	大　坪　紀　子	124
インドネシア語表現法a	大　坪　紀　子	126
インドネシア語ボキャブラリーa	山　口　玲　子	128
インドネシア語ボキャブラリーb	大　坪　紀　子	129
エ		
エアラインビジネス論	塩　﨑　裕　司	130

科目名	担当者	ページ
エアラインビジネス論Ⅰ	塩　﨑　裕　司	132
エアラインビジネス論Ⅱ	塩　﨑　裕　司	134
映画のスペイン語Ⅰ	篠　原　愛　人	136
映画のスペイン語Ⅱ	篠　原　愛　人	137
映画のスペイン語Ⅱ	オラシオ　ゴメス	138
映画のスペイン語Ⅱ	ディアス　イバン	139
映画のスペイン語Ⅲ	オラシオ　ゴメス	140
映画のスペイン語Ⅲ	ディアス　イバン	141
映画のスペイン語Ⅳ	オラシオ　ゴメス	142
英語Ⅰ	小　川　一　美	1077
英語Ⅰ	大　神　雄一郎	1079
英語Ⅰ	関　　初　海	1080
英語Ⅰ	谷　脇　康　子	1082
英語Ⅰ	曽　我　直　隆	1083
英語Ⅰ	李　　孝　聖	1085
英語Ⅰ	金　原　真由美	1087
英語Ⅱ	小　川　一　美	1088
英語Ⅱ	高　橋　章　夫	1090
英語Ⅱ	関　　初　海	1091
英語Ⅱ	谷　脇　康　子	1093
英語Ⅱ	曽　我　直　隆	1094
英語Ⅱ	李　　孝　聖	1096
英語Ⅱ	金　原　真由美	1098
英語Ⅲ	松　井　信　義	1099
英語Ⅳ	松　井　信　義	1100
英語意味論・語用論	住　吉　　誠	143
英語科教育法Ⅰ	家　口　美智子	1329
英語科教育法Ⅱ	齋　藤　安以子	1330
英語科教育法Ⅲ	齋　藤　安以子	1332
英語科教育法Ⅳ	家　口　美智子	1334
英語学Ⅰ	家　口　美智子	144
英語学Ⅱ	住　吉　　誠	145
英語学Ⅲ	田　中　秀　毅	146
英語学概論	家　口　美智子	147
英語圏概論（北米・ヨーロッパ）	神　崎　　舞	148
英語圏概論（北米・ヨーロッパ）	フーパー　トッド	149
英語圏概論	神　崎　　舞	150
英語圏概論	フーパー　トッド	151
英語構造論	田　中　秀　毅	152
映像中国語ａ	中　西　正　樹	153
映像中国語ｂ	中　西　正　樹	154
英米文学史	齋　藤　安以子	156
英米文学	皆　本　智　美	158
エコツーリズム論	手代木　功　基	159
エリアスタディーズ（アフリカ）	早　川　真　悠	160
エリアスタディーズ（オセアニア）	杉　浦　秀　行	161
エリアスタディーズ（北アメリカ）	大原関　一　浩	162
エリアスタディーズ（東南アジア）	森　田　良　成	163
エリアスタディーズ（日本）	赤　澤　春　彦	164
エリアスタディーズ（東アジア）	瀬　戸　　宏	165
	北　島　由紀子	
エリアスタディーズ（ヨーロッパ）	林　田　敏　子	166
エリアスタディーズ（ラテンアメリカ）	北　條　ゆかり	167
エンプロイメントデザインⅠ	水　野　　武	1302
	石　井　三　恵	
	荻　田　喜代一	
エンプロイメントデザインⅡ	水　野　　武	1304
	安　久　典　宏	
	石　井　三　恵	

オ

オーラル　コミュニケーションⅠａ	アレン　ニール	168
オーラル　コミュニケーションⅠｂ	アレン　ニール	169
オーラル　コミュニケーションⅡａ	ｽﾃｨｰﾌﾞ　ﾄﾏｼｪﾌｽｷｰ	170
オーラル　コミュニケーションⅡａ	曽　我　直　隆	172
オーラル　コミュニケーションⅡｂ	ｽﾃｨｰﾌﾞ　ﾄﾏｼｪﾌｽｷｰ	173
オーラル　コミュニケーションⅡｂ	曽　我　直　隆	175
音声学	中　島　直　嗣	176

カ

海外インターンシップ	杉　浦　秀　行	177
海外実習	吉　村　征　洋	178
海外実習	兪　　鳴　蒙	179
海外実習	篠　原　愛　人	180
海外実習	北　條　ゆかり	181
海外実習	浦　野　崇　央	182
海外ビジネスインターンシップ	佐　井　英　子	1179
海外留学事前演習	杉　浦　秀　行	183
海外留学事前演習	神　崎　　舞	184
海外留学事前演習	家　口　美智子	185
海外留学事前演習	鈴　木　大　介	187
海外留学事前演習	兪　　鳴　蒙	188
海外留学事前演習	兪　　鳴　蒙	189
海外留学事前演習	住　吉　　誠	190
海外留学事前演習	北　條　ゆかり	191
海外留学事前演習	北　條　ゆかり	192
海外留学事前演習	安　達　直　樹	193
海外留学事前演習	安　達　直　樹	194
海外留学事前演習	浦　野　崇　央	195
海外留学事前演習	浦　野　崇　央	196
海外留学事前演習	上　田　　達	197
海外留学事前演習	上　田　　達	198
海外ワークキャンプ	浅　野　英　一	199
外国語通訳法	湊　　由妃子	200
外国語通訳法	段　　飛　虹	201
外国語通訳法	北　條　ゆかり	203
外国語翻訳法	湊　　由妃子	204
外国語翻訳法	安　達　直　樹	205
カレント　イングリッシュａ	ﾏｰﾃｨﾝ　ｵｲｸﾙ	206
カレント　イングリッシュａ	ニール　カー	207
カレント　イングリッシュａ	ルディ　トート	208
カレント　イングリッシュａ	住　吉　　誠	210
カレント　イングリッシュｂ	ﾏｰﾃｨﾝ　ｵｲｸﾙ	211
カレント　イングリッシュｂ	ニール　カー	213

科目名	担当者	ページ
カレント　イングリッシュb	ルディ　トート	214
カレント　イングリッシュb	住　吉　　誠	216
環境学	手代木　功　基	1180
観光中国語a	孫　　輝	217
観光中国語b	孫　　輝	218
韓国語Ⅰ	千　　英　子	1101
韓国語Ⅰ	沈　　明　姫	1102
韓国語Ⅱ	千　　英　子	1103
韓国語Ⅱ	沈　　明　姫	1104
韓国語Ⅱa	千　　英　子	219
韓国語Ⅱa	沈　　明　姫	220
韓国語Ⅱb	千　　英　子	221
韓国語Ⅱb	沈　　明　姫	222
韓国語Ⅲ	北　島　由紀子	1106
韓国語Ⅲa	北　島　由紀子	224
韓国語Ⅲb	北　島　由紀子	225
韓国語Ⅳ	北　島　由紀子	1107
歓待の哲学	森　本　誠　一	226

キ

科目名	担当者	ページ
基礎演習Ⅰ	齋　藤　安以子 天　野　貴　史 門　脇　　薫	228
基礎演習Ⅰ	住　吉　　誠 後　藤　一　章 田　中　　悟	229
基礎演習Ⅰ	西　川　眞由美 赤　澤　春　彦 皆　本　智　美	230
基礎演習Ⅰ	後　藤　一　章 岩　間　　香 手代木　功　基	231
基礎演習Ⅰ	田　中　秀　毅 有　馬　善　一 門　脇　　薫	232
基礎演習Ⅰ	天　野　貴　史 鈴　木　大　介 橋　本　正　俊	233
基礎演習Ⅰ	松　田　早　恵 小　川　豊　生 鳥　居　祐　介	234
基礎演習Ⅰ	大原関　一　浩 柴　田　陽　一 家　口　美智子	235
基礎演習Ⅰ	吉　村　征　洋 中　島　直　嗣 林　田　敏　子	236
基礎演習Ⅰ	林　田　敏　子 神　崎　　舞 杉　浦　秀　行	237
基礎演習Ⅰ	門　脇　　薫 浅　野　英　一 田浦　アマンダ	238
基礎演習Ⅰ	橋　本　正　俊 大原関　一　浩 フーパー　トッド	239
基礎演習Ⅰ	小　川　豊　生 マイケル　ハーキー 松　田　早　恵	240
基礎演習Ⅰ	山　口　真佐夫 上　田　　達 浦　野　崇　央	241
基礎演習Ⅰ	中　西　正　樹 瀬　戸　　宏 兪　　鳴　蒙	242
基礎演習Ⅰ	兪　　鳴　蒙 瀬　戸　　宏 中　西　正　樹	243
基礎演習Ⅰ	篠　原　愛　人 安　達　直　樹 北　條　ゆかり	244
基礎演習Ⅰ	北　條　ゆかり 安　達　直　樹 篠　原　愛　人	245
基礎演習Ⅱ	皆　本　智　美 小　川　豊　生 後　藤　一　章	246
基礎演習Ⅱ	鈴　木　大　介 柴　田　陽　一 田浦　アマンダ	247
基礎演習Ⅱ	家　口　美智子 赤　澤　春　彦 上　田　　達	248
基礎演習Ⅱ	杉　浦　秀　行 田　中　　悟 鳥　居　祐　介	249
基礎演習Ⅱ	鳥　居　祐　介 有　馬　善　一 田　中　秀　毅	250
基礎演習Ⅱ	神　崎　　舞 橋　本　正　俊 松　田　早　恵	251
基礎演習Ⅱ	中　島　直　嗣 岩　間　　香 林　田　敏　子	252
基礎演習Ⅱ	浅　野　英　一 大原関　一　浩 マイケル　ハーキー	253
基礎演習Ⅱ	有　馬　善　一 皆　本　智　美 家　口　美智子	254
基礎演習Ⅱ	赤　澤　春　彦 住　吉　　誠 田浦　アマンダ	255

科目名	担当者	ページ
基礎演習Ⅱ	岩間　香 天野貴史 マイケル　ハーキー	256
基礎演習Ⅱ	田中　悟 齋藤安以子 中島直嗣	257
基礎演習Ⅱ	手代木功基 フーパー　トッド 吉村征洋	258
基礎演習Ⅱ	柴田陽一 西川眞由美 吉村征洋	259
基礎演習Ⅱ	浦野崇央 神崎　舞 田中秀毅	260
基礎演習Ⅱ	山口真佐夫 浅野英一 齋藤安以子	261
基礎ゼミナール	赤澤春彦	262
基礎ゼミナール	浅野英一	263
基礎ゼミナール	安達直樹	264
基礎ゼミナール	天野貴史	265
基礎ゼミナール	有馬善一	266
基礎ゼミナール	岩間　香	267
基礎ゼミナール	上田　達	268
基礎ゼミナール	小川豊生	269
基礎ゼミナール	神崎　舞	270
基礎ゼミナール	後藤一章	271
基礎ゼミナール	柴田陽一	272
基礎ゼミナール	杉浦秀行	273
基礎ゼミナール	住吉　誠	274
基礎ゼミナール	瀬戸　宏	275
基礎ゼミナール	中島直嗣	276
基礎ゼミナール	松田早恵	277
基礎ゼミナール	皆本智美	278
基礎ゼミナール	家口美智子	279
基礎マレー語a	上田　達	280
基礎マレー語b	上田　達	281
北河内を知る	荻田喜代一	1181
キャリアデザイン	石井三恵 亀田峻宣 水野　武 山岡亮太	1306
キャリアプランニング	中島直嗣 赤澤春彦 中西正樹	1308
キャリアプランニング	浅野英一 後藤一章 齋藤安以子	1310
キャリアプランニング	林田敏子 住吉　誠	1312
教育課程論	大野順子	1335
教育経営論	朝日素明	1337
教育原理	小山裕樹	1339
教育実習Ⅰ	大野順子	1341
教育実習Ⅱ	朝日素明	1342
教育実習Ⅲ	朝日素明	1343
教育社会学	大野順子	1344
教育心理学	吉田佐治子	1346
教育相談	吉田佐治子	1347
教育方法論	林　茂樹	1348
教職実践演習（中・高）	吉田佐治子	1350
教師論	朝日素明	1352
共同体論	林田敏子	282

ク

暮らしの中の文化	岩間　香	283
グラマー	俣野裕美	284
クリエイティブビジネス論	針尾大嗣	286
グローカルな視点から異文化共生を考える	糟谷英之	1182
Global Issues	抽冬紘和	288
Global Issues	内山知美	289
グローバル企業研究	中島直嗣	290
グローバル経済論	野口義直	292
グローバル社会と日本	村上司樹	293
グローバルマーケティング論	武居奈緒子	294

ケ

経済学入門	原田裕治	1183
経済のしくみ	原田裕治	1184
芸術論	岩間　香	1185
芸能と文化	岩間　香	295
芸能文化論	岩間　香	297
健康論	西村和恵	1108
言語学	山口真佐夫	299
現代学術論	小川豊生	300
現代社会と法	小野晃正	1187
現代社会論	浦野崇央	301
現代中国論	大西　紀	302
現代ビジネス論	牧　美喜男	1189
現代ラテンアメリカ論	北條ゆかり	303

コ

語学教育工学	後藤一章	304
国際関係の基礎理解	田中　悟	305
国際関係論	田中　悟	307
国際機構論	浅野英一	309
国際協力論	浅野英一	310
国際貢献実習演習	浅野英一	311
国際社会論	田中　悟	312
国際文化概論Ⅰ	田中　悟	314
国際文化概論Ⅱ	赤澤春彦	316
国際平和論	田中　悟	317
国際ボランティア論	浅野英一	319

科目名	担当者	ページ
ことばと意味	西川 眞由美	320
コミュニケーション能力開発	津村 忠 橋本 朗子	1314
Comprehensive English a	鳥居 祐介	321
Comprehensive English a	松田 早恵	322
Comprehensive English b	鳥居 祐介	323
Comprehensive English b	松田 早恵	324

シ

時事インドネシア・マレー語	上田 達	325
時事インドネシア・マレー語a	上田 達	327
時事インドネシア・マレー語b	浦野 崇央	329
時事問題Ⅰ	山本 文子	1109
時事問題Ⅰ	香取 泰行	1110
時事問題Ⅰ	西垣 有	1111
時事問題Ⅰ	早川 真悠	1112
時事問題Ⅱ	山本 文子	1113
時事問題Ⅱ	香取 泰行	1114
時事問題Ⅱ	西垣 有	1115
時事問題Ⅱ	早川 真悠	1116
自然科学の理解	大塚 正人	1191
思想と文化	小川 豊生	330
実践インドネシア・マレー語a	大坪 紀子	331
実践インドネシア・マレー語b	大坪 紀子	332
社会開発論	手代木 功基	334
社会文化史	林田 敏子	336
就職実践基礎	亀田 峻宣	1192
就職実践基礎	山岡 亮太	1193
就職実践基礎	亀田 峻宣	1194
生涯学習概論	橋本 孝成	337
生涯学習論	橋本 孝成	338
上級検定インドネシア語	山口 玲子	339
情報処理Ⅰ	星山 幸子	1117
情報処理Ⅰ	藤木 健史	1118
情報処理Ⅰ	星山 幸子	1119
情報処理Ⅰ	藤木 健史	1120
情報処理Ⅱ	星山 幸子	1121
情報処理Ⅱ	藤木 健史	1123
情報処理Ⅱ	星山 幸子	1124
情報処理Ⅱ	藤木 健史	1126
初級検定インドネシア語	山口 玲子	340
食品機能学	青笹 治	1195
初年次ゼミナール	浅野 英一	341
初年次ゼミナール	天野 貴史	342
初年次ゼミナール	有馬 善一	343
初年次ゼミナール	浦野 崇央	344
初年次ゼミナール	大原関 一浩	345
初年次ゼミナール	門脇 薫	346
初年次ゼミナール	柴田 陽一	347
初年次ゼミナール	篠原 愛人	348
初年次ゼミナール	鈴木 大介	349
初年次ゼミナール	田中 悟	350
初年次ゼミナール	田中 秀毅	351
初年次ゼミナール	手代木 功基	352
初年次ゼミナール	鳥居 祐介	353
初年次ゼミナール	中西 正樹	354
初年次ゼミナール	橋本 正俊	355
初年次ゼミナール	林田 敏子	356
初年次ゼミナール	山口 真佐夫	357
初年次ゼミナール	吉村 征洋	358
人体の構造と機能	松浦 哲郎	1197
心理学	吉田 佐治子	1199
神話論	小川 豊生	359

ス

数的能力開発	津村 忠	1315
スキルズ　トレーニングⅠa	大原関 一浩	360
スキルズ　トレーニングⅠb	吉村 征洋	361
スキルズ　トレーニングa	後藤 一章	362
スキルズ　トレーニングa	杉浦 秀行	364
スキルズ　トレーニングa	田中 秀毅	366
スキルズ　トレーニングa	皆本 智美	368
スキルズ　トレーニングa	鈴木 大介	369
スキルズ　トレーニングa	大原関 一浩	371
スキルズ　トレーニングb	田中 秀毅	372
スキルズ　トレーニングb	吉村 征洋	374
スキルズ　トレーニングb	鈴木 大介	375
スキルズ　トレーニングb	後藤 一章	377
スキルズ　トレーニングb	大原関 一浩	379
スキルズ　トレーニングb	鳥居 祐介	380
スキルズ　トレーニングb	吉村 征洋	381
スピーキングⅠa	ニール カー	382
スピーキングⅠb	グラント バーミンハム	383
スピーキングⅡa	ブライアン スレーター	384
スピーキングⅡb	ブライアン スレーター	385
スピーキング＆ライティングⅠa	マイケル ハーキー	386
スピーキング＆ライティングⅠa	リチャード ダィアース	387
スピーキング＆ライティングⅠa	ダニエル マリンズ	388
スピーキング＆ライティングⅠa	マーティン オイクル	389
スピーキング＆ライティングⅠa	グラント バーミンハム	390
スピーキング＆ライティングⅠa	マシュー クーパー	391
スピーキング＆ライティングⅠa	フーパー トッド	392
スピーキング＆ライティングⅠa	ジェーン パーメンター	393
スピーキング＆ライティングⅠa	スコット ライリー	394
スピーキング＆ライティングⅠa	ニール カー	395
スピーキング＆ライティングⅠb	フーパー トッド	396
スピーキング＆ライティングⅠb	マシュー クーパー	397
スピーキング＆ライティングⅠb	ジェーン パーメンター	398
スピーキング＆ライティングⅠb	マイケル ハーキー	399
スピーキング＆ライティングⅠb	ニール カー	400
スピーキング＆ライティングⅠb	ダニエル マリンズ	401
スピーキング＆ライティングⅠb	スコット ライリー	402
スピーキング＆ライティングⅠb	ジェフリー ベル	403
スピーキング＆ライティングⅠb	アレン ニール	404

科目名	担当者	ページ
スピーキング＆ライティングⅠb	マーティン　オイクル	405
スピーキング＆ライティングⅠb	リチャード　ダィアース	406
スピーキング＆ライティングⅠb	グラント　バーミンハム	407
スピーキング＆ライティングⅡa	田浦　アマンダ	408
スピーキング＆ライティングⅡa	マイケル　ハーキー	409
スピーキング＆ライティングⅡa	アイビス　ウイリアム	410
スピーキング＆ライティングⅡa	グラント　バーミンハム	411
スピーキング＆ライティングⅡa	ダニエル　マリンズ	412
スピーキング＆ライティングⅡa	ブルース　ライリー	415
スピーキング＆ライティングⅡa	ジョン　カール	416
スピーキング＆ライティングⅡa	スコット　ライリー	417
スピーキング＆ライティングⅡa	ブライアン　スレーター	419
スピーキング＆ライティングⅡb	田浦　アマンダ	420
スピーキング＆ライティングⅡb	マイケル　ハーキー	421
スピーキング＆ライティングⅡb	アイビス　ウイリアム	422
スピーキング＆ライティングⅡb	グラント　バーミンハム	423
スピーキング＆ライティングⅡb	ダニエル　マリンズ	424
スピーキング＆ライティングⅡb	ブルース　ライリー	427
スピーキング＆ライティングⅡb	ジョン　カール	428
スピーキング＆ライティングⅡb	スコット　ライリー	429
スピーキング＆ライティングⅡb	ブライアン　スレーター	431
スピーキング＆ライティングⅢa	ジョセフ　シウンシ	432
スピーキング＆ライティングⅢa	アーサー　ロリングスン	433
スピーキング＆ライティングⅢa	杉　浦　秀　行	434
スピーキング＆ライティングⅢa	松　下　乃　亜	435
スピーキング＆ライティングⅢa	中　野　阿佐子	437
スピーキング＆ライティングⅢa	抽　冬　紘　和	438
スピーキング＆ライティングⅢa	中　道　英美子	440
スピーキング＆ライティングⅢa	アレン　ニール	441
スピーキング＆ライティングⅢb	ジョセフ　シウンシ	442
スピーキング＆ライティングⅢb	アーサー　ロリングスン	443
スピーキング＆ライティングⅢb	杉　浦　秀　行	444
スピーキング＆ライティングⅢb	松　下　乃　亜	445
スピーキング＆ライティングⅢb	中　野　阿佐子	447
スピーキング＆ライティングⅢb	抽　冬　紘　和	448
スピーキング＆ライティングⅢb	中　道　英美子	450
スピーキング＆ライティングⅢb	アレン　ニール	451
スペイン語Ⅰ	西　村　初　美	1127
スペイン語Ⅰ	安　達　直　樹	1129
スペイン語Ⅱ	西　村　初　美	1131
スペイン語Ⅱa	西　村　初　美	452
スペイン語Ⅱb	西　村　初　美	454
スペイン語Ⅲ	酒　井　真梨奈	1133
スペイン語Ⅲa	酒　井　真梨奈	456
スペイン語Ⅲb	西　村　初　美	458
スペイン語Ⅳ	西　村　初　美	1135
スペイン語応用Ⅰ	磯　野　吉　美	460
スペイン語応用Ⅰ	林　　安紀子	461
スペイン語応用Ⅱ	磯　野　吉　美	462
スペイン語応用Ⅱ	林　　安紀子	463
スペイン語オラルⅡA	アラセリ　コラール	464
スペイン語オラルⅡA	モンセラート　ロイデ	466

科目名	担当者	ページ
スペイン語オラルⅠ	モンセラート　ロイデ	468
スペイン語オラルⅠ	アラセリ　コラール	470
スペイン語オラルⅡ	アラセリ　コラール	472
スペイン語オラルⅡ	モンセラート　ロイデ	474
スペイン語オラルⅢ	オラシオ　ゴメス	476
スペイン語オラルⅢ	ディアス　イバン	477
スペイン語オラルⅣ	ディアス　イバン	478
スペイン語オラルⅣ	オラシオ　ゴメス	479
スペイン語オラルⅠA	モンセラート　ロイデ	480
スペイン語オラルⅠA	アラセリ　コラール	482
スペイン語オラルⅢA	オラシオ　ゴメス	484
スペイン語オラルⅢA	ディアス　イバン	485
スペイン語オラルⅣA	ディアス　イバン	486
スペイン語オラルⅣA	オラシオ　ゴメス	487
スペイン語オラルⅤ	モンセラート　ロイデ	488
スペイン語オラルⅤ	アラセリ　コラール	489
スペイン語オラルⅥ	アラセリ　コラール	490
スペイン語オラルⅥ	モンセラート　ロイデ	491
スペイン語オラルⅦ	オラシオ　ゴメス	492
スペイン語オラルⅧ	オラシオ　ゴメス	493
スペイン語学	安　達　直　樹	494
スペイン語基礎A	西　村　初　美	495
スペイン語基礎A	北　條　ゆかり	496
スペイン語基礎B	三　浦　知佐子	497
スペイン語基礎B	篠　原　愛　人	498
スペイン語基礎C	西　村　初　美	499
スペイン語基礎C	安　達　直　樹	500
スペイン語圏概論	篠　原　愛　人	501
スペイン語圏トピックスⅣ	北　條　ゆかり	502
スペイン語圏の芸術	オラシオ　ゴメス	503
スペイン語講読Ⅰ	篠　原　愛　人	504
スペイン語講読Ⅱ	三　浦　知佐子	505
スペイン語総合A	北　條　ゆかり	506
スペイン語総合A	酒　井　真梨奈	507
スペイン語総合B	篠　原　愛　人	508
スペイン語総合B	三　浦　知佐子	509
スペイン語通訳Ⅰ	篠　原　愛　人	510
スペイン語通訳Ⅰ	安　達　直　樹	511
スペイン語通訳Ⅱ	安　達　直　樹	512
スペイン語通訳Ⅱ	篠　原　愛　人	513
スペイン語通訳ガイドⅠ	篠　原　愛　人	514
スペイン語通訳ガイドⅠ	安　達　直　樹	515
スペイン語通訳ガイドⅡ	安　達　直　樹	516
スペイン語通訳ガイドⅡ	篠　原　愛　人	517
スペイン語トピックス	北　條　ゆかり	518
スペイン語入門A	北　條　ゆかり	519
スペイン語入門A	酒　井　真梨奈	520
スペイン語入門B	篠　原　愛　人	521
スペイン語入門B	三　浦　知佐子	522
スペイン語入門C	安　達　直　樹	523
スペイン語入門C	西　村　初　美	524
スペイン語文章構成Ⅰ	北　條　ゆかり	525

科目名	担当者	ページ
スペイン語文章構成Ⅱ	林　安紀子	526
スペイン語文章構成Ⅲ	安　達　直　樹	527
スペイン語文章構成Ⅲ	林　安紀子	528
スペイン語文章構成Ⅳ	林　安紀子	529
スペイン語文章構成Ⅳ	安　達　直　樹	530
スペイン語翻訳	北　條　ゆかり	531
スペシャリストインドネシア・マレー語	上　田　達 山　口　玲　子	532
スポーツ科学実習Ⅰ	横　山　喬　之 川　野　裕姫子	1137
スポーツ科学実習Ⅰ	横　山　喬　之 川　野　裕姫子	1138
スポーツ科学実習Ⅱ	横　山　喬　之 川　野　裕姫子	1139
スポーツ科学実習Ⅱ	横　山　喬　之 川　野　裕姫子	1140
住まいとデザイン	北　本　裕　之	1200
住まいとデザイン	岩　波　由　佳	1202

セ

科目名	担当者	ページ
青少年育成ファシリテーター養成講座	浅　野　英　一	1204
生徒指導論	朝　日　素　明	1354
生物と環境	手代木　功　基	1205
生命科学入門	大　塚　正　人	1207
生命と物質	松　浦　哲　郎	1209
世界の宗教	村　上　司　樹	533
世界の政治	田　中　悟	1211
世界の地理	中　山　穂　孝	535
世界の文化の比較	村　上　司　樹	536
世界の歴史	林　田　敏　子	537
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	橋　本　正　治	1213
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	石　田　裕　子	1214
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	浅　野　英　一	1215
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	久　保　貞　也	1216
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	鶴　坂　貴　恵	1217
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	尾　山　廣	1219
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	居　場　嘉　教	1220
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	一　色　美　博	1221
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	田　中　賢太郎	1222
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	大　田　住　吉	1223
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	石　井　信　輝	1225
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	内　部　昭　彦	1226
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	藤　林　真　美	1227
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	水　野　武	1228
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	林　茂　樹	1229
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	荻　田　喜代一	1230
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	西之坊　穂	1231
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	栢　木　紀　哉	1232
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	橋　本　正　治	1233
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	石　田　裕　子	1234
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	浅　野　英　一	1235
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	久　保　貞　也	1236
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	鶴　坂　貴　恵	1237
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	尾　山　廣	1239
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	居　場　嘉　教	1240
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	一　色　美　博	1241
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	田　中　賢太郎	1242
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	大　田　住　吉	1243
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	石　井　信　輝	1245
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	内　部　昭　彦	1246
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	藤　林　真　美	1247
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	水　野　武	1248
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	林　茂　樹	1249
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	荻　田　喜代一	1250
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	西之坊　穂	1251
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	栢　木　紀　哉	1252
専門日本語ＦⅠ	中　岡　樹　里	1141
専門日本語ＦⅡ	中　岡　樹　里	1142
専門日本語Ｒ	中　岡　樹　里	1143

ソ

科目名	担当者	ページ
総合インドネシア語ａ（１）	浦　野　崇　央	538
総合インドネシア語ａ（２）	山　口　真佐夫	539
総合インドネシア語ｂ（１）	浦　野　崇　央	540
総合インドネシア語ｂ（２）	山　口　真佐夫	541
総合スペイン語Ⅰ	磯　野　吉　美	542
総合スペイン語Ⅰ	林　安紀子	543
総合スペイン語Ⅱ	磯　野　吉　美	544
総合スペイン語Ⅱ	林　安紀子	545
総合スペイン語ⅢＡ	北　條　ゆかり	546
総合スペイン語ⅢＡ	酒　井　真梨奈	547
総合スペイン語ⅢＢ	篠　原　愛　人	548
総合スペイン語ⅢＢ	三　浦　知佐子	549
総合中国語ａ	瀬　戸　宏	550
総合中国語ｂ	瀬　戸　宏	551
総合マレー語ａ	上　田　達	552
総合マレー語ｂ	上　田　達	553
ソーシャル・イノベーション実務総論	石　井　三　恵	1253
組織と経営	西之坊　穂	1255
卒業研究Ⅰ	赤　澤　春　彦	554
卒業研究Ⅰ	浅　野　英　一	555
卒業研究Ⅰ	天　野　貴　史	556
卒業研究Ⅰ	有　馬　善　一	557
卒業研究Ⅰ	岩　間　香	558
卒業研究Ⅰ	上　田　達	559
卒業研究Ⅰ	浦　野　崇　央	560
卒業研究Ⅰ	小　川　豊　生	561
卒業研究Ⅰ	門　脇　薫	562
卒業研究Ⅰ	後　藤　一　章	563
卒業研究Ⅰ	齋　藤　安以子	564
卒業研究Ⅰ	篠　原　愛　人	565
卒業研究Ⅰ	大原関　一　浩	566
卒業研究Ⅰ	住　吉　誠	567
卒業研究Ⅰ	瀬　戸　宏	568

科目名	担当者	ページ
卒業研究Ⅰ	田浦　アマンダ	569
卒業研究Ⅰ	田　中　秀　毅	570
卒業研究Ⅰ	鳥　居　祐　介	571
卒業研究Ⅰ	中　島　直　嗣	572
卒業研究Ⅰ	中　西　正　樹	573
卒業研究Ⅰ	西　川　眞由美	574
卒業研究Ⅰ	橋　本　正　俊	575
卒業研究Ⅰ	林　田　敏　子	576
卒業研究Ⅰ	神　崎　　舞	577
卒業研究Ⅰ	北　條　ゆかり	578
卒業研究Ⅰ	マイケル　ハーキー	579
卒業研究Ⅰ	松　田　早　恵	580
卒業研究Ⅰ	皆　本　智　美	581
卒業研究Ⅰ	家　口　美智子	582
卒業研究Ⅰ	兪　　鳴　蒙	583
卒業研究Ⅰ	吉　村　征　洋	584
卒業研究Ⅰ	山　口　真佐夫	585
卒業研究Ⅱ	赤　澤　春　彦	586
卒業研究Ⅱ	浅　野　英　一	587
卒業研究Ⅱ	天　野　貴　史	588
卒業研究Ⅱ	有　馬　善　一	589
卒業研究Ⅱ	岩　間　　香	590
卒業研究Ⅱ	上　田　　達	591
卒業研究Ⅱ	浦　野　崇　央	592
卒業研究Ⅱ	小　川　豊　生	593
卒業研究Ⅱ	門　脇　　薫	594
卒業研究Ⅱ	後　藤　一　章	595
卒業研究Ⅱ	齋　藤　安以子	596
卒業研究Ⅱ	篠　原　愛　人	597
卒業研究Ⅱ	大原関　一　浩	598
卒業研究Ⅱ	住　吉　　誠	599
卒業研究Ⅱ	瀬　戸　　宏	600
卒業研究Ⅱ	田浦　アマンダ	601
卒業研究Ⅱ	田　中　秀　毅	602
卒業研究Ⅱ	鳥　居　祐　介	603
卒業研究Ⅱ	中　島　直　嗣	604
卒業研究Ⅱ	中　西　正　樹	605
卒業研究Ⅱ	西　川　眞由美	606
卒業研究Ⅱ	橋　本　正　俊	607
卒業研究Ⅱ	林　田　敏　子	608
卒業研究Ⅱ	神　崎　　舞	609
卒業研究Ⅱ	北　條　ゆかり	610
卒業研究Ⅱ	マイケル　ハーキー	611
卒業研究Ⅱ	松　田　早　恵	612
卒業研究Ⅱ	皆　本　智　美	613
卒業研究Ⅱ	家　口　美智子	614
卒業研究Ⅱ	兪　　鳴　蒙	615
卒業研究Ⅱ	吉　村　征　洋	616
卒業研究Ⅱ	山　口　真佐夫	617

タ

科目名	担当者	ページ
体験型特別実習Ａ	沖　中　美　喜	618
体験型特別実習Ｂ	中　西　正　樹	619
	浅　野　英　一	
大衆文化論	森　本　誠　一	620
ダイバーシティとコミュニケーション	石　井　三　恵	1257
旅と観光の地理	柴　田　陽　一	622
旅の文学	小　川　豊　生	623
多文化共生論	柴　田　陽　一	624
多文化の共生	柴　田　陽　一	625

チ

科目名	担当者	ページ
地域環境論	手代木　功　基	626
地域研究論	森　田　良　成	627
地域と国際ビジネス	中　島　直　嗣	628
地域と私	鶴　坂　貴　恵	1259
地域連携教育活動Ⅰ	吉　田　佐治子	1261
	朝　日　素　明	
	小　山　裕　樹	
	林　　茂　樹	
地域連携教育活動Ⅱ	吉　田　佐治子	1262
	朝　日　素　明	
	小　山　裕　樹	
	林　　茂　樹	
チームビルディング	水　野　　武	1263
中級検定インドネシア語	山　口　玲　子	630
中国語Ⅰ	兪　　鳴　蒙	1144
中国語Ⅰ	今　中　崇　文	1145
中国語Ⅱ	兪　　鳴　蒙	1146
中国語Ⅱ	今　中　崇　文	1147
中国語Ⅱａ	兪　　鳴　蒙	631
中国語Ⅱａ	今　中　崇　文	632
中国語Ⅱｂ	兪　　鳴　蒙	633
中国語Ⅱｂ	今　中　崇　文	634
中国語Ⅲ	欒　　玉　璽	1148
中国語Ⅲａ	欒　　玉　璽	635
中国語Ⅲｂ	欒　　玉　璽	637
中国語Ⅳ	欒　　玉　璽	1150
中国語ＬＬＩａ	馮　　艶	638
中国語ＬＬＩａ	瀬　戸　　宏	639
中国語ＬＬＩｂ	馮　　艶	640
中国語ＬＬＩｂ	瀬　戸　　宏	641
中国語ＬＬⅡａ	中　西　正　樹	642
中国語ＬＬⅡａ	兪　　鳴　蒙	643
中国語ＬＬⅡｂ	瀬　戸　　宏	644
	中　西　正　樹	
中国語ＬＬⅡｂ	兪　　鳴　蒙	645
中国語圏概論	今　中　崇　文	646
中国語会話Ⅰａ	大　西　　紀	647
中国語会話Ⅰａ	曹　　櫻	648
中国語会話Ⅰｂ	大　西　　紀	649
中国語会話Ⅰｂ	曹　　櫻	650
中国語会話Ⅱａ	段　　飛　虹	651
中国語会話Ⅱａ	曹　　櫻	652

科目名	担当者	ページ
中国語会話Ⅱb	段　飛虹	653
中国語会話Ⅱb	曹　櫻	654
中国語会話表現法Ⅰa	馮　艶	655
中国語会話表現法Ⅰb	馮　艶	656
中国語会話表現法Ⅱa	孫　輝	657
中国語会話表現法Ⅱb	孫　輝	658
中国語科教育法Ⅰ	瀬戸　宏	1355
中国語科教育法Ⅱ	中西正樹	1356
中国語科教育法Ⅲ	瀬戸　宏	1358
中国語科教育法Ⅳ	兪　鳴蒙	1360
中国語学Ⅰ	中西正樹	659
中国語学Ⅱ	兪　鳴蒙	660
中国語原書講読Ⅰa	孫　輝	661
中国語原書講読Ⅰb	孫　輝	662
中国語原書講読Ⅱa	中西正樹	663
中国語原書講読Ⅱb	今中崇文	664
中国語語彙論	兪　鳴蒙	665
中国語講読Ⅰa	欒　玉璽	666
中国語講読Ⅰb	欒　玉璽	667
中国語講読Ⅱa	中西正樹	668
中国語講読Ⅱb	中西正樹	669
中国語コミュニケーションa	曹　櫻	670
中国語コミュニケーションb	曹　櫻	671
中国語作文Ⅰa	兪　鳴蒙	672
中国語作文Ⅰb	兪　鳴蒙	673
中国語作文Ⅱa	今中崇文	674
中国語作文Ⅱb	今中崇文	675
中国語視聴専科a	中西正樹	676
中国語視聴専科b	中西正樹	677
中国語トピックスa	大西　紀	679
中国語トピックスb	大西　紀	680
中国語プレゼンテーションa	馮　艶	681
中国語プレゼンテーションb	馮　艶	682
中国語文字論	中西正樹	683
中国語を書くⅠa	兪　鳴蒙	684
中国語を書くⅠb	兪　鳴蒙	685
中国語を書くⅡa	今中崇文	686
中国語を書くⅡb	今中崇文	687
中国語を聞くⅠa	馮　艶	688
中国語を聞くⅠa	瀬戸　宏	689
中国語を聞くⅠb	馮　艶	690
中国語を聞くⅠb	瀬戸　宏	691
中国語を聞くⅡa	中西正樹	692
中国語を聞くⅡa	兪　鳴蒙	693
中国語を聞くⅡb	瀬戸　宏	694
中国語を聞くⅡb	兪　鳴蒙	695
中国語を話すⅠa	大西　紀	696
中国語を話すⅠa	曹　櫻	697
中国語を話すⅠb	大西　紀	698
中国語を話すⅠb	曹　櫻	699
中国語を話すⅡa	段　飛虹	700
中国語を話すⅡa	曹　櫻	701

科目名	担当者	ページ
中国語を話すⅡb	段　飛虹	702
中国語を話すⅡb	曹　櫻	703
中国語を読むⅠa	欒　玉璽	704
中国語を読むⅠb	欒　玉璽	705
中国語を読むⅡa	中西正樹	706
中国語を読むⅡb	中西正樹	707
中国史学	森川裕貫	708
中国地誌学	瀬戸　宏 北島由紀子	709
中国文学	瀬戸　宏	710

ツ

通訳・翻訳インドネシア・マレー語	山口真佐夫	711
ツーリズム論Ⅰ	手代木功基	712
ツーリズム論Ⅱ	柴田陽一	713

テ

ディスプレイ論	松浦　清	714
ディスプレー論	松浦　清	716
Debate & Presentation a	齋藤安以子	718
Debate & Presentation a	久田　歩	720
Debate & Presentation b	久田　歩	722
Debate & Presentation b	齋藤安以子	724
哲学から学ぶ	有馬善一	1265
哲学と倫理	有馬善一	726

ト

統計学	星山幸子	1267
道徳教育の研究	小山裕樹	1361
東南アジア史学	森田良成	728
東南アジア人類学	森田良成	729
東南アジア地誌学	森田良成	730
特別活動の理論と方法	林　茂樹	1363
トピック　スタディーズⅠ	マーティン　オイクル	731
トピック　スタディーズⅠ	ブライアン　スレーター	732
トピック　スタディーズⅠ	ニール　カー	734
トピック　スタディーズⅠ	サトラー　トニー	735
トピック　スタディーズⅠa	ニール　カー	736
トピック　スタディーズⅠa	ブライアン　スレーター	737
トピック　スタディーズⅠa	サトラー　トニー	739
トピック　スタディーズⅠa	マーティン　オイクル	741
トピック　スタディーズⅠb	マーティン　オイクル	742
トピック　スタディーズⅠb	ブライアン　スレーター	743
トピック　スタディーズⅠb	ニール　カー	745
トピック　スタディーズⅠb	サトラー　トニー	746
トピック　スタディーズⅡ	家口美智子	747
トピック　スタディーズⅡ	金原真由美	749
トピック　スタディーズⅡ	アーサー　ロリングスン	750
トピック　スタディーズⅡ	アイビス　ウイリアム	751
トピック　スタディーズⅡa	リチャード　ダィアース	753
トピック　スタディーズⅡa	金原真由美	755
トピック　スタディーズⅡa	抽冬紘和	756

科目名	担当者	ページ
トピック　スタディーズⅡa	杉　浦　秀　行	758
トピック　スタディーズⅡb	家　口　美智子	759
トピック　スタディーズⅡb	金　原　真由美	761
トピック　スタディーズⅡb	アーサー　ロリングスン	762
トピック　スタディーズⅡb	アイビス　ウイリアム	763
トピック　スタディーズⅢ	大　神　雄一郎	765
ドラマ	神　崎　　舞	766
ドラマ	マシュー　クーパー	767
ドラマ	ニール　カー	769
ドラマ	スコット　ライリー	770
ドラマ	ダニエル　マリンズ	771
ドラマⅠ	神　崎　　舞	773
ドラマⅠ	マシュー　クーパー	774
ドラマⅠ	ニール　カー	776
ドラマⅠ	スコット　ライリー	777
ドラマⅠ	ダニエル　マリンズ	778
トランスレーション　トレーニングa	中　野　阿佐子	780
トランスレーション　トレーニングb	中　野　阿佐子	781

ニ

日米関係論	有　馬　善　一	782
日米比較文化	鳥　居　祐　介	783
日米文化交流史	天　野　貴　史	785
日中関係論	大　西　　紀	786
日中観光文化と通訳法	段　　飛　虹	787
日中翻訳法Ⅱa	孫　　輝	789
日中翻訳法Ⅱb	孫　　輝	791
日本語音韻論	橋　本　正　俊	793
日本語会話ＦⅠ	藤　原　京　佳	1151
日本語会話ＦⅡ	藤　原　京　佳	1152
日本語会話R	藤　原　京　佳	1153
日本語学Ⅰ	橋　本　正　俊	794
日本語学Ⅱ	橋　本　正　俊	795
日本語学Ⅲ	小　川　豊　生	796
日本語学Ⅳ	小　川　豊　生	797
日本語教育実習演習	門　脇　　薫 藤　原　京　佳	798
日本語教授法Ⅰ	門　脇　　薫	799
日本語教授法Ⅱ	後　藤　多　恵	800
日本語教授法Ⅲ	宮　﨑　玲　子	802
日本国憲法	小　野　晃　正	1268
日本語語彙論	小　川　豊　生	803
日本語史概説	橋　本　正　俊	804
日本語総合ＦⅠ	古　川　由理子	1154
日本語総合ＦⅡ	古　川　由理子	1155
日本語総合R	古　川　由理子	1156
日本語読解ＦⅠ	中　岡　樹　里	1157
日本語読解ＦⅡ	中　岡　樹　里	1158
日本語読解R	中　岡　樹　里	1159
日本語能力開発Ⅰ	田　林　千　尋	1316
日本語能力開発Ⅰ	髙　嶋　　藍	1317
日本語能力開発Ⅰ	田　中　教　子	1318
日本語能力開発Ⅰ	人形寺　英利子	1319
日本語能力開発Ⅱ	田　林　千　尋	1320
日本語能力開発Ⅱ	髙　嶋　　藍	1321
日本語能力開発Ⅱ	田　中　教　子	1322
日本語能力開発Ⅱ	人形寺　英利子	1323
日本語表現作文ＦⅠ	中　岡　樹　里	1160
日本語表現作文ＦⅡ	中　岡　樹　里	1161
日本語表現作文R	中　岡　樹　里	1162
日本語表現論	橋　本　正　俊	805
日本語文法ＦⅠ	中　岡　樹　里	1163
日本語文法ＦⅡ	中　岡　樹　里	1164
日本語文法R	中　岡　樹　里	1165
日本語文法論	小　川　豊　生	806
日本史学	赤　澤　春　彦	807
日本事情ＦⅠ	門　脇　　薫	1166
日本事情ＦⅡ	梅　野　将　之	1167
日本事情ＲⅠ	門　脇　　薫	1169
日本事情ＲⅡ	梅　野　将　之	1170
日本と世界の出会い	村　上　司　樹	808
日本の思想	中　村　　翼	809
日本の歴史	赤　澤　春　彦	811
日本文学	小　川　豊　生	812
人間の探求	池　田　　清	1270

ハ

博物館概論	谷　　直　樹	813
博物館教育論	松　永　和　浩	815
博物館実習	谷　　直　樹 赤　澤　春　彦 岩　間　　香	817
博物館情報・メディア論	中　川　　馨	818
博物館資料保存論	赤　澤　春　彦	819
博物館資料論	岩　間　　香	820
パッケージプログラム演習	中　島　直　嗣 天　野　貴　史	822
パッケージプログラム演習	田　中　　悟 手代木　功　基	823
パッケージプログラム演習	住　吉　　誠 橋　本　正　俊	824
パッケージプログラム演習	塩　﨑　裕　司 沖　中　美　喜	825
パッケージプログラム演習	中　西　正　樹 岩　間　　香	826
パッケージプログラム演習	林　田　敏　子 赤　澤　春　彦	827
パブリック　スピーキングa	クリストファー　ジョンストン	828
パブリック　スピーキングa	スティーブ　トマシェフスキー	830
パブリック　スピーキングb	クリストファー　ジョンストン	831
パブリック　スピーキングb	スティーブ　トマシェフスキー	833
犯罪被害者の支援と法的救済	小　野　晃　正	1271

科目名	担当者	ページ
ヒ		
ビジネス　イングリッシュ a	抽　冬　紘　和	834
ビジネス　イングリッシュ b	抽　冬　紘　和	836
ビジネスインドネシア・マレー語	エニ　レスタリ	838
ビジネスインドネシア語	エニ　レスタリ	839
ビジネスコミュニケーション論	石　井　三　恵	840
ビジネス心理学	牧　野　幸　志	842
ビジネス中国語Ⅲ a	馮　　艶	843
ビジネス中国語Ⅲ b	馮　　艶	844
ビジネス中国語 a	瀬　戸　　宏	845
ビジネス中国語 b	瀬　戸　　宏	846
ビジネスマナー	奥　田　和　子	1273
ビジネスマナー	松　尾　久美子	1324
ビジュアルデザイン論	北　村　元　成	847
美術の歩み	岩　間　　香	848
フ		
風土と地理	柴　田　陽　一	850
武道論	横　山　喬　之	1275
Practical English Conversation	アイビス　ウイリアム	851
Practical English Conversation	田浦　アマンダ	852
Practical English Conversation	アレン　ニール	853
Practical English Conversation	アーサー　ロリングスン	854
フランス語Ⅰ	中　井　裕　之	1172
フランス語Ⅱ	中　井　裕　之	1173
フランス語Ⅱ a	中　井　裕　之	856
フランス語Ⅱ b	中　井　裕　之	857
フランス語Ⅲ	藤　本　武　司	1174
フランス語Ⅲ a	藤　本　武　司	858
フランス語Ⅲ b	藤　本　武　司	859
フランス語Ⅳ	藤　本　武　司	1175
プレゼンテーション	マイケル　ハーキー	860
プレゼンテーション	スコット　ライリー	861
プレゼンテーション	フーパー　トッド	863
プレゼンテーション	ダニエル　マリンズ	864
プレゼンテーション	ニール　カー	866
プレゼンテーション	マシュー　クーパー	867
プレゼンテーションインドネシア・マレー語	上　田　　達	868
プレゼンテーション論	石　井　三　恵	1276
フレッシュマン　イングリッシュ	吉　村　征　洋	869
プロポーザル・デザイン	北　村　　浩	1278
文化演習Ⅰ	赤　澤　春　彦	870
文化演習Ⅰ	浅　野　英　一	871
文化演習Ⅰ	安　達　直　樹	872
文化演習Ⅰ	天　野　貴　史	873
文化演習Ⅰ	有　馬　善　一	874
文化演習Ⅰ	岩　間　　香	875
文化演習Ⅰ	上　田　　達	876
文化演習Ⅰ	浦　野　崇　央	877
文化演習Ⅰ	大原関　一　浩	878
文化演習Ⅰ	小　川　豊　生	879
文化演習Ⅰ	門　脇　　薫	880
文化演習Ⅰ	神　崎　　舞	881
文化演習Ⅰ	後　藤　一　章	882
文化演習Ⅰ	齋　藤　安以子	883
文化演習Ⅰ	柴　田　陽　一	884
文化演習Ⅰ	杉　浦　秀　行	885
文化演習Ⅰ	鈴　木　大　介	886
文化演習Ⅰ	住　吉　　誠	887
文化演習Ⅰ	田浦　アマンダ	888
文化演習Ⅰ	田　中　　悟	889
文化演習Ⅰ	田　中　秀　毅	890
文化演習Ⅰ	手代木　功　基	891
文化演習Ⅰ	鳥　居　祐　介	892
文化演習Ⅰ	中　島　直　嗣	893
文化演習Ⅰ	中　西　正　樹	894
文化演習Ⅰ	西　川　眞由美	895
文化演習Ⅰ	橋　本　正　俊	896
文化演習Ⅰ	林　田　敏　子	897
文化演習Ⅰ	フーパー　トッド	898
文化演習Ⅰ	北　條　ゆかり	899
文化演習Ⅰ	マイケル　ハーキー	900
文化演習Ⅰ	松　田　早　恵	901
文化演習Ⅰ	皆　本　智　美	902
文化演習Ⅰ	家　口　美智子	903
文化演習Ⅰ	山　口　真佐夫	904
文化演習Ⅰ	兪　　鳴　蒙	905
文化演習Ⅰ	吉　村　征　洋	906
文化演習Ⅱ	赤　澤　春　彦	907
文化演習Ⅱ	浅　野　英　一	908
文化演習Ⅱ	安　達　直　樹	909
文化演習Ⅱ	天　野　貴　史	910
文化演習Ⅱ	有　馬　善　一	911
文化演習Ⅱ	岩　間　　香	912
文化演習Ⅱ	上　田　　達	913
文化演習Ⅱ	浦　野　崇　央	914
文化演習Ⅱ	大原関　一　浩	915
文化演習Ⅱ	小　川　豊　生	916
文化演習Ⅱ	門　脇　　薫	917
文化演習Ⅱ	神　崎　　舞	918
文化演習Ⅱ	後　藤　一　章	919
文化演習Ⅱ	齋　藤　安以子	920
文化演習Ⅱ	柴　田　陽　一	921
文化演習Ⅱ	杉　浦　秀　行	922
文化演習Ⅱ	鈴　木　大　介	923
文化演習Ⅱ	住　吉　　誠	924
文化演習Ⅱ	田浦　アマンダ	925
文化演習Ⅱ	田　中　　悟	926
文化演習Ⅱ	田　中　秀　毅	927
文化演習Ⅱ	手代木　功　基	928
文化演習Ⅱ	鳥　居　祐　介	929
文化演習Ⅱ	中　島　直　嗣	930
文化演習Ⅱ	中　西　正　樹	931

科目名	担当者	ページ
文化演習Ⅱ	西　川　眞由美	932
文化演習Ⅱ	橋　本　正　俊	933
文化演習Ⅱ	林　田　敏　子	934
文化演習Ⅱ	フーパー　トッド	935
文化演習Ⅱ	北　條　ゆかり	936
文化演習Ⅱ	マイケル　ハーキー	937
文化演習Ⅱ	松　田　早　恵	938
文化演習Ⅱ	皆　本　智　美	939
文化演習Ⅱ	家　口　美智子	940
文化演習Ⅱ	山　口　真佐夫	941
文化演習Ⅱ	兪　　鳴　蒙	942
文化演習Ⅱ	吉　村　征　洋	943
文化観光実習演習	林　田　敏　子	944
	赤　澤　春　彦	
文化人類学	西　垣　　有	1280
文化と表現	橋　本　正　俊	945

へ

科目名	担当者	ページ
平和の思想	田　中　　悟	946

ホ

科目名	担当者	ページ
貿易中国語ａ	中　西　正　樹	948
貿易中国語ｂ	今　中　崇　文	949
ボキャブラリー＆グラマーａ	大原関　一　浩	950
ボキャブラリー＆グラマーａ	後　藤　一　章	951
ボキャブラリー＆グラマーａ	田　中　秀　毅	952
ボキャブラリー＆グラマーａ	西　川　眞由美	953
ボキャブラリー＆グラマーａ	皆　本　智　美	954
ボキャブラリー＆グラマーａ	鈴　木　大　介	955
ボキャブラリー＆グラマーａ	松　田　早　恵	956
ボキャブラリー＆グラマーａ	中　島　直　嗣	957
ボキャブラリー＆グラマーａ	杉　浦　秀　行	958
ボキャブラリー＆グラマーａ	吉　村　征　洋	959
ボキャブラリー＆グラマーｂ	西　川　眞由美	960
ボキャブラリー＆グラマーｂ	中　島　直　嗣	961
ボキャブラリー＆グラマーｂ	松　田　早　恵	962
ボキャブラリー＆グラマーｂ	後　藤　一　章	963
ボキャブラリー＆グラマーｂ	田　中　秀　毅	964
ボキャブラリー＆グラマーｂ	皆　本　智　美	965
ボキャブラリー＆グラマーｂ	鳥　居　祐　介	966
ボキャブラリー＆グラマーｂ	吉　村　征　洋	967
ボキャブラリー＆グラマーｂ	齋　藤　安以子	968
ボキャブラリー＆グラマーｂ	大原関　一　浩	969
ボキャブラリー＆グラマーｂ	鈴　木　大　介	970
ボキャブラリー＆グラマーｂ	俣　野　裕　美	971
ホスピタリティ・インターンシップ	塩　﨑　裕　司	973
ホスピタリティ論	沖　中　美　喜	974
ホスピタリティ論Ⅰ	沖　中　美　喜	976
ホスピタリティ論Ⅱ	沖　中　美　喜	978
ホテルビジネス論	塩　﨑　裕　司	979
ホテルビジネス論Ⅰ	塩　﨑　裕　司	981
ホテルビジネス論Ⅱ	塩　﨑　裕　司	983

科目名	担当者	ページ
ボランティア論	浅　野　英　一	985
翻訳文化論	小　川　豊　生	986

マ

科目名	担当者	ページ
マーケティングと歴史	武　居　奈緒子	1281
マーケティング入門	武　居　奈緒子	1282
マイノリティー論	有　馬　善　一	988
マスコミ論	上　島　誠　司	990

ミ

科目名	担当者	ページ
身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	中　沼　丈　晃	1283
ミュージアムコレクション論	岩　間　　香	992
ミュージアムへの招待	谷　　直　樹	994
ミュージアムマネジメント論	赤　澤　春　彦	996

メ

科目名	担当者	ページ
メディア　イングリッシュａ	里　井　真理子	998
メディア　イングリッシュａ	中　道　英美子	1000
メディア　イングリッシュａ	瀧　川　宏　樹	1001
メディア　イングリッシュａ	アーサー　ロリングスン	1002
メディア　イングリッシュａ	金　原　真由美	1003
メディア　イングリッシュｂ	里　井　真理子	1005
メディア　イングリッシュｂ	中　道　英美子	1007
メディア　イングリッシュｂ	瀧　川　宏　樹	1008
メディア　イングリッシュｂ	アーサー　ロリングスン	1009
メディア　イングリッシュｂ	抽　冬　紘　和	1010
メディア中国語ａ	大　西　　紀	1012
メディア中国語ｂ	大　西　　紀	1013
メディアのスペイン語Ⅰ	ディアス　イバン	1014
メディアのスペイン語Ⅰ	篠　原　愛　人	1015
メディアのスペイン語Ⅱ	磯　野　吉　美	1016
メディアのスペイン語Ⅱ	三　浦　知佐子	1017
メディアのスペイン語Ⅲ	磯　野　吉　美	1018
メディアのスペイン語Ⅲ	篠　原　愛　人	1019
メディア文化論	森　本　誠　一	1020
メディアリテラシー論	有　馬　善　一	1022

モ

科目名	担当者	ページ
ものづくりインターンシップ基礎	奥　野　竜　平	1285
ものづくりインターンシップ基礎	諏　訪　晴　彦	1287
ものづくりインターンシップ実践	奥　野　竜　平	1288
ものづくり海外インターンシップ	諏　訪　晴　彦	1290
ものづくり研究の世界	堀　江　昌　朗	1291

ヤ

科目名	担当者	ページ
役立つ金融知力	陸　川　富　盛	1293

ヨ

科目名	担当者	ページ
ヨーロッパ史学	林　田　敏　子	1024

ラ

科目名	担当者	ページ
ライティングａ	アレン　ニール	1025

科目名	担当者	ページ
ライティングb	ジョセフ　シウンシ	1027
ライフサイエンスの基礎	西　矢　芳　昭	1295
	青　笹　　治	
	井　尻　貴　之	
	居　場　嘉　教	
	尾　山　　廣	
	川　崎　勝　己	
	木　村　朋　紀	
	中　嶋　義　隆	
	長　田　　武	
	西　村　　仁	
	船　越　英　資	
	松　尾　康　光	
	松　川　　通	
	村　田　幸　作	
ラテンアメリカ史学	篠　原　愛　人	1028
ラテンアメリカの社会と文化	北　條　ゆかり	1029

リ

リーディングⅠa	住　吉　　誠	1030
リーディングⅠa	里　井　真理子	1031
リーディングⅠa	瀧　川　宏　樹	1033
リーディングⅠa	西　谷　継　治	1034
リーディングⅠa	湊　　由妃子	1035
リーディングⅠa	金　原　真由美	1036
リーディングⅠb	瀧　川　宏　樹	1037
リーディングⅠb	湊　　由妃子	1038
リーディングⅠb	住　吉　　誠	1039
リーディングⅠb	金　原　真由美	1040
リーディングⅠb	西　谷　継　治	1041
リーディングⅠb	里　井　真理子	1042
リーディングⅠb	木　村　ゆ　み	1044
リーディングⅡa	湊　　由妃子	1045
リーディングⅡa	リチャード　ダィアース	1046
リーディングⅡa	グラント　バーミンハム	1047
リーディングⅡa	ジェーン　パーメンター	1048
リーディングⅡa	マーティン　オイクル	1049
リーディングⅡb	湊　　由妃子	1050
リーディングⅡb	リチャード　ダィアース	1051
リーディングⅡb	グラント　バーミンハム	1052
リーディングⅡb	ジェーン　パーメンター	1053
リーディングⅡb	マーティン　オイクル	1054
リーディングⅢa	リチャード　ダィアース	1055
リーディングⅢa	ジェフリー　ベル	1056
リーディングⅢa	松　浦　茂　寿	1058
リーディングⅢa	有　本　好一郎	1059
リーディングⅢb	リチャード　ダィアース	1060
リーディングⅢb	ジェフリー　ベル	1061
リーディングⅢb	松　浦　茂　寿	1063
リーディングⅢb	有　本　好一郎	1064
旅行インドネシア・マレー語	大　坪　紀　子	1065
旅行インドネシア語	大　坪　紀　子	1066

ロ

ロマンス語研究Ⅰ	柱　本　元　彦	1067
ロマンス語研究Ⅱ	柱　本　元　彦	1068

専　門　科　目

科目名	アーバンツーリズム論	科目名（英文）	Urban Tourism
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	柴田　陽一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	アーバンツーリズムとは，都市が有する歴史的・文化的遺産を活かしながら，都市経済および都市環境の再生を目指す，比較的新しい観光の形である。芸術，娯楽，ショッピングを楽しんだり，その都市の町並みや市民の暮らしに触れたりすることも含まれている。本講義では，都市観光に関する基礎知識を学び，具体例からその現状と課題，今後の展望について考える。受講者が観光まちづくりへの理解を深め，関心を高めることを目的とする。 ※この科目は「観光ホスピタリティ」プログラム対応科目である。
到達目標	アーバンツーリズムに関する基礎知識を習得し，それを用いて，ゲストとホストの立場から都市観光プランと観光まちづくりプランを考案することができる。
授業方法と留意点	配布資料とパワーポイントを用いて授業を進める。毎回の授業の終わりに課題を出すので，それに取り組むことで復習・予習をしてほしい。普段の授業ではグループディスカッションを取り入れる。期末にはグループ発表を行ってもらう。日ごろから観光に関する報道（ＴＶニュース，新聞，ネット等）に関心を払うこと。
科目学習の効果（資格）	アーバンツーリズムについて学習・理解することにより，将来の進路決定をする際の一つの判断材料として役立てることができる（特に公的資格には直接つながらない）。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方，参考書の紹介など	特になし
2	都市の形成と衰退	都市が形成と衰退について，交通との関連から考える	課題による復習・予習
3	都市の類型	都市がもつ機能から類型を考える	課題による復習・予習
4	観光目的の変化	観光の歴史を簡単に振り返りながら，近年の観光目的の変化を確認する	課題による復習・予習
5	都市観光の意義	都市観光が生まれた背景とそれがもつ意義を考える	課題による復習・予習
6	都市観光プランと観光まちづくりプラン	ゲストとホストの視点から見た都市観光について考える	課題による復習・予習
7	京都①	京都の事例から都市観光について考える	課題による復習・予習
8	京都②	京都の事例から都市観光について考える	課題による復習・予習
9	大阪①	大阪の事例から都市観光について考える	課題による復習・予習
10	大阪②	大阪の事例から都市観光について考える	課題による復習・予習
11	神戸①	神戸の事例から都市観光について考える	課題による復習・予習
12	神戸②	神戸の事例から都市観光について考える	課題による復習・予習
13	その他の都市	その他の都市の事例から都市観光について考える	グループ発表の準備
14	グループ発表①	都市観光プランに関するグループ発表	グループ発表の準備
15	グループ発表②	観光まちづくりプランに関するグループ発表	期末レポートの準備

関連科目：「エコツーリズム論」等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	都市観光：まちの観光	須田寛	交通新聞社
2	アーバンツーリズム	淡野明彦	古今書院
3	アーバン・ツーリズム	クリストファー・ロー	近代文芸社

評価方法（基準）	期末レポート４０％，グループ発表３０％，授業中課題３０％
学生へのメッセージ	訪日外国人の増加や２０２０年の東京オリンピック・パラリンピックに向け，観光産業はますます重要性を増している。加えて都市観光は，わたしたちが日常的に接している場所で行われていることである。したがって，観光関連産業を将来の進路として考えている学生はもちろん，そうでない学生も興味をもって学習できる内容であろう。
担当者の研究室等	7 号館 5 階（柴田研究室）
備考	事前・事後学習は総時間６０時間を目安とする。

科目名	アカデミック　スタディーズ	科目名（英文）	Academic Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大神　雄一郎
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	外国人の目から日本について論じるテキストを用い、英文の読解を通して自文化への理解を深める。英文読解の演習とあわせ、文化を相対的に見つめる視点の養成を目的とする。読解内容に基づいて、各自が自分なりの疑問や意見を論じ合う活動を取り入れる。
到達目標	・日本文化について論じる英文を的確に読みこなす。 ・海外の目から見た日本の特徴について知見を得る。 ・読解した英文の内容に基づき、自身の考えを論じることができるようになる。
授業方法と留意点	授業では、はじめにクラス全体で読解内容の確認を行い、当週の課題テキストについて適切な理解を得る。ここでは受講者の理解度を確認しながら適宜解説を行うこととする。各自の予習が前提となるので、毎回の授業にはテキストを読解のうえ参加すること。授業には辞書（電子辞書も可）を持参することが望ましい。テキスト内容の確認の後には、ペア、グループなどの単位で議論の時間をとる。読み取った内容からどのようなことが考えられるかについて積極的に意見を交換し、柔軟で創造的な発想を養う機会とする。
科目学習の効果（資格）	学習テーマに関する英文の知識と読解力を高めながら、日本について文化的観点から改めて考える視点を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の内容、目標、方法について確認	
2	読解とディスカッション	テキストの読解とディスカッション	前週の復習と当週テキストの予習
3	読解とディスカッション	テキストの読解とディスカッション	前週の復習と当週テキストの予習
4	読解とディスカッション	テキストの読解とディスカッション	前週の復習と当週テキストの予習
5	読解とディスカッション	テキストの読解とディスカッション	前週の復習と当週テキストの予習
6	読解とディスカッション	テキストの読解とディスカッション	前週の復習と当週テキストの予習
7	読解とディスカッション	テキストの読解とディスカッション	前週の復習と当週テキストの予習
8	読解とディスカッション	テキストの読解とディスカッション	前週の復習と当週テキストの予習
9	読解とディスカッション	テキストの読解とディスカッション	前週の復習と当週テキストの予習
10	読解とディスカッション	テキストの読解とディスカッション	前週の復習と当週テキストの予習
11	読解とディスカッション	テキストの読解とディスカッション	前週の復習と当週テキストの予習
12	読解とディスカッション	テキストの読解とディスカッション	前週の復習と当週テキストの予習
13	読解とディスカッション	テキストの読解とディスカッション	前週の復習と当週テキストの予習
14	学習内容のまとめと確認１	総復習と理解内容の確認	復習と課題
15	学習内容のまとめと確認２	総復習と理解内容の確認	復習と課題

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Realise Japan	Colin Joyce 著	金星堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	予習と課題への取り組み 50% 受講状況（受講態度、ディスカッションへの参加状況など） 50% 以上による総合評価とする。
学生へのメッセージ	当科目では、英文の読解を前提に、日本について客観的に見つめなおす機会を得たいと考えています。単に英語の文章を「解読」することにとどまらず、ペアやグループでの活動を取り入れながら、アクティブに考え、論じる授業にできればと思っています。
担当者の研究室等	7号館２階　非常勤講師室
備考	授業の事前・事後の学習にかかる総時間はおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	Academic Writing	科目名（英文）	Academic Writing
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	ＡＢ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松田　早恵
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	留学先の大学や帰国後の専門課程での学びに適したライティングスキル（パラグラフライティング）を習得する。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、辞書や参考資料を用いながら、簡単なエッセイやアカデミックなレポートなどが書けるようになる。また、留学生活に必要となる書類の書き方や英文メールの書き方を学ぶ。
授業方法と留意点	・海外留学において必要となるライティングスキル（書類や英文メールの書き方、エッセイの書き方）を養う。 ・エッセイやレポートの書式は、Setsunan Academic Essay Guidelineに従う。 ・課題等は添削された後、合格基準に到達するまで再提出が求められる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 1 Pre-Writing	Understanding course requirements Getting ready to write Understanding process writing	Review / Preview
2	2 The Structure of a Paragraph	The definition of a paragraph The parts of a paragraph Identifying and writing topic sentences	Review / Preview
3	3 The Development of a Paragraph	Paragraph support and development Writing concluding sentences Peer editing	Review / Preview
4	4 Descriptive Paragraphs	Descriptive paragraphs and reasons for writing them Organizing and writing descriptive paragraphs using adjectives and prepositions Using connecting words and phrases to write a paragraph that de	Review / Preview
5	5 Opinion Paragraphs	Distinguishing fact and opinion Organizing and writing paragraphs expressing opinions and arguments Using transition words to express causality Modal expressions to make recommendations	Review / Preview
6	6 Comparison / Contrast Paragraphs	Comparison/contrast paragraphs and reasons for writing them Organizing comparison/contrast paragraphs Connecting words used for comparing and contrasting topics Writing about the advantages and disadvantages of a topic	Review / Preview
7	7 Problem / Solution Paragraphs	Writing about problems and solutions Using real conditionals Writing a two-paragraph paper with linking phrases	Review / Preview
8	In-class Paragraph Test	In-class paragraph test	Review / Test preparation
9	8 The Structure of an Essay	The definition of an essay Formatting an essay Writing a thesis statement	Review / Preview
10	9 Outlining an Essay	The purpose of an outline Writing an outline	Review / Preview
11	10 Introductions and Conclusions	The purpose of an introduction Types of information in introductions The purpose of a conclusion Writing conclusions	Review / Preview
12	11 Unity and Coherence	The importance of unity in essay writing Editing an essay for unity The importance of coherence in essay writing Creating coherence	Review / Preview
13	12 Essays for Examinations	Common instructions for essay tests Writing timed essays and managing time	Review / Preview
14	Wrap-up	Additional materials	Review / Test preparation
15	In-class Essay Test	In-class Essay Test	

関連科目：Academic Reading, Integrated Skills Training

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Writing Essays—Paragraph to essay	Drothy E Zemach & Lisa A Rumisek	マクミランランゲージハウス
2			

	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	平常点　20% 授業内外課題　60% In-class paragraph/essay tests 20%
学生への メッセージ	1 Unit ずつ進む予定なので、結構なスピードになると思います。欠席するとついて行けなくなりますので、毎回出席し、与えられた課題をタイムリーにこなしていくことが成功の鍵です。
担当者の 研究室等	7 号館 5 階（松田研究室）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	Academic Writing	科目名（英文）	Academic Writing
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	ＣＤ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西川　眞由美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	留学先の大学や帰国後の専門課程での学びに適したライティングスキル（パラグラフライティング）を習得する。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、辞書や参考資料を用いながら、簡単なエッセイやアカデミックなレポートなどが書けるようになる。また、留学生活に必要となる書類の書き方や英文メールの書き方を学ぶ。
授業方法と留意点	・海外留学において必要となるライティングスキル（書類や英文メールの書き方、エッセイの書き方）を養う。 ・エッセイやレポートの書式は、Setsunan Academic Essay Guideline に従う。 ・課題等は添削された後、合格基準に到達するまで再提出が求められる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation and self-introduction	Individual Task, Pair work, and group work	Read the chapter of the next lesson in the textbook and prepare to discuss and write about the topics raised in the next lesson; and write a draft
2	Introduction to process writing, paragraph format and paragraph structure	Individual Task, Pair work, and group work	Read the chapter of the next lesson in the textbook and prepare to discuss and write about the topics raised in the next lesson; and write a draft
3	Pre-Writing: Getting Ready to Write	Individual Task, Pair work, and group work	Read the chapter of the next lesson in the textbook and prepare to discuss and write about the topics raised in the next lesson; and write a draft
4	The Structure of a Paragraph	Individual Task, Pair work, and group work	Read the chapter of the next lesson in the textbook and prepare to discuss and write about the topics raised in the next lesson; and write a draft
5	The Development of a Paragraph	Individual Task, Pair work, and group work	Read the chapter of the next lesson in the textbook and prepare to discuss and write about the topics raised in the next lesson; and write a draft
6	Descriptive Paragraphs	Individual Task, Pair work, and group work	Read the chapter of the next lesson in the textbook and prepare to discuss and write about the topics raised in the next lesson; and write a draft
7	Opinion Paragraphs	Individual Task, Pair work, and group work	Read the chapter of the next lesson in the textbook and prepare to discuss and write about the topics raised in the next lesson; and write a draft
8	Comparison/ Contrast Paragraphs	Individual Task, Pair work, and group work	Read the chapter of the next lesson in the textbook and prepare to discuss and write about the topics raised in the next lesson; and write a draft
9	Problem/ Solution Paragraphs	Individual Task, Pair work, and group work	Read the chapter of the next lesson in the textbook and prepare to discuss and write about the topics raised in the next lesson; and write a draft
10	The Structure of an Essay	Individual Task, Pair work, and group work	Read the chapter of the next lesson in the textbook and prepare to discuss and write about the topics raised in the next lesson; and write a draft
11	Outlining an Essay	Individual Task, Pair work, and group work	Read the chapter of the next lesson in the textbook and prepare to discuss and write about the topics raised in the next lesson; and write a draft
12	Introduction and Conclusions	Individual Task, Pair work, and group work	Read the chapter of the next lesson in the textbook and prepare to discuss and write about the topics raised in the next lesson; and write a draft
13	Unity and Coherence	Individual Task, Pair work, and group work	Read the chapter of the next lesson in the textbook and prepare to discuss and write about the topics raised in the next lesson; and write a draft
14	Essays for Examinations	Individual Task, Pair work, and group work	Write a draft
15	Writing an Essay（まとめのテスト）	Individual Task, Pair work, and group work	Write an essay

関連科目　Academic Reading, Integrated Skills Training

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Writing Essays	Dorothy E. Zemach 他	Macmillan
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	平常点　20% 授業内外課題　60% In-class paragraph/essay tests 20%
学生への メッセージ	授業では、英語を書くことはもちろん、英語をたくさん使って読んだり話す活動も重視します！いっしょに授業を楽しみましょう！
担当者の 研究室等	７号館４階　西川研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	Academic Reading	科目名（英文）	Academic Reading
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	ＡＢ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	フーパー　トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	１年時で習得したリーディングスキルを用いて、様々なジャンルのアカデミックなテーマに関わる英文を読解する。また多読活動を取り入れて、大量の英文をインプットする。
到達目標	まとまりのあるパッセージを一定以上の速度で読解し、内容を大筋で理解できるようになる。[CEFR-J B1-1]レベルのリーディング力を目標とする。
授業方法と留意点	比較的難易度の高い英文を読む精読活動と、大量の英文をインプットする多読活動の両方を行う。「TOEIC 基本語彙テスト」およびリンガポルタによる単語学習課題「Academic Reading 用課題 no.1-1500」を課す。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction to the Course and Syllabus	Orientation	Students should study the content of the day's lesson.
2	Finding the Meanings of Words	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
3	Finding the Topic of a Paragraph	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
4	Noticing Parts of Words	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
5	Finding the Main Idea of a Paragraph	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
6	Quiz 1 and Extensive Reading	Individual tasks.	Review for the quiz.
7	Collocations	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
8	Finding Supporting Details	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
9	Phrases	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
10	Finding Contrasts	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
11	Quiz 2 and Extensive Reading	Individual tasks.	Review for the quiz.
12	Finding the Meaning of Words II	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
13	Vocabulary Test and Finding Cause and Effect	Individual tasks and pair work.	Review for the vocabulary test.
14	Noticing the Parts of Words II	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
15	Quiz 3 and Extensive Reading	Individual tasks.	Review for the quiz.

関連科目：Academic Writing, Integrated Skills Training

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Making Connections 1	Jessica Williams	Cambridge
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	Koji Nishiya	Seibido
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	リンガポルタ課題「Academic Reading 用課題 no.1-1500」 20% TOEIC 基本語彙テスト(2 年次英プロ専用) 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
学生へのメッセージ	We will be reading complex texts in this course. Come with an open mind and don't worry if you don't understand the readings 100%. You will learn strategies that will help make academic reading easier for you.
担当者の研究室等	７号館３階　フーパー研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	Academic Reading	科目名（英文）	Academic Reading
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	ＣＤ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マイケル　ハーキー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	１年時で習得したリーディングスキルを用いて、様々なジャンルのアカデミックなテーマに関わる英文を読解する。また多読活動を取り入れて、大量の英文をインプットする。
到達目標	まとまりのあるパッセージを一定以上の速度で読解し、内容を大筋で理解できるようになる。[CEFR-J B1-1]レベルのリーディング力を目標とする。
授業方法と留意点	比較的難易度の高い英文を読む精読活動と、大量の英文をインプットする多読活動の両方を行う。「TOEIC 基本語彙テスト」およびリンガポルタによる単語学習課題「Academic Reading 用課題 no.1-1500」を課す。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目：Academic Writing, Integrated Skills Training

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading Power 1	Linda Jeffries & Bea Mikulecky	Pearson Longman
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	リンガポルタ課題「Academic Reading 用課題 no.1-1500」 20% TOEIC 基本語彙テスト(2 年次英プロ専用) 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
学生へのメッセージ	The roots of education are bitter, but the fruit is sweet.
担当者の研究室等	Herke 研究室（7 号館３階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	アジア文化論	科目名（英文）	Asian Cultures
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森田　良成
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	東南アジアの「文化の多様性」ということがしばしばいわれる。例えばインドネシアについて説明する際に、「多民族国家」「多様な文化」という言葉がよく用いられる。とはいえ、多くの日本人が思い浮かべるインドネシアとは、実際にはバリ島やジャワ島などの、しかもごく限られたイメージに留まるものであり、それは「多様な文化」とはずいぶん遠いものだろう。この講義では、インドネシアの東部地域における人々の暮らしについて、人類学的研究の成果をもとに紹介する。それぞれの地域における多様な生活を通して、インドネシアがいかに「多民族国家」であり「多様な文化」をもつのかを具体的に知る。
到達目標	インドネシアがいかに「多民族」で「多様」であるかを具体的に知ることによって、東南アジアがいかに「多民族」で「多文化」であるかを想像し、深く理解することができるようになる。
授業方法と留意点	東南アジアについて基礎的な知識を習得済みであることが望ましいが、これまで東南アジアに関する講義に参加したことがない初学者も大いに歓迎する。 各時間ごとに、感想や、こちらが提示する質問についての考えを書いて提出してもらう。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について説明	関連する文献を紹介するので読むこと。
2	東南アジア、インドネシアの基礎知識	文化・経済・政治について概説	関連する文献を紹介するので読むこと。
3	インドネシア東部地域の基礎知識	地理、歴史、インドネシア国内における位置づけ	関連する文献を紹介するので読むこと。
4	ティモール島１	低開発と携帯電話	関連する文献を紹介するので読むこと。
5	ティモール島２	東西ティモールの政治経済と国境	関連する文献を紹介するので読むこと。
6	ティモール島３	東西ティモールの政治経済と国境	関連する文献を紹介するので読むこと。
7	スンバ島１	精霊信仰と建築	関連する文献を紹介するので読むこと。
8	スンバ島２	精霊信仰と建築	関連する文献を紹介するので読むこと。
9	スンバ島３	開発と再生可能エネルギー	関連する文献を紹介するので読むこと。
10	フローレス島１	商品作物と贈与の経済	関連する文献を紹介するので読むこと。
11	フローレス島２	キリスト教への改宗と現在	関連する文献を紹介するので読むこと。
12	フローレス島３	キリスト教への改宗と現在	関連する文献を紹介するので読むこと。
13	ロテ島１	ヤシの経済	関連する文献を紹介するので読むこと。
14	ロテ島２	ヤシの経済	関連する文献を紹介するので読むこと。
15	まとめと試験	授業全体のまとめと試験	関連する文献を紹介するので読むこと。

関連科目：東南アジアに関する講義科目すべて、文化人類学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点 40%　授業への参加の度合い。毎回提出してもらうコメント等から判断する。 試験 60%　授業最終回に行う試験から評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	受講者数によって、評価方法を変更することがある。

専門科目

科目名	アドバンスト　イングリッシュ a	科目名（英文）	Advanced English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有本　好一郎
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。この授業では、リーディング II より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。また、速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B2-1]レベルのリーディング力を目標とする。
授業方法と留意点	必ず予習して出席すること。授業中の応答、学習活動への積極的な参加を重視する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目：リーディング IIa, IIb

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Cover to Cover 3	Richard Day	Oxford
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	速読・多読活動　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生へのメッセージ	Pleae please a pen, pencil, paper and dictionary (or smart phone) to class. Please don`t be shy to speak in English and make mistakes.
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	アドバンスト　イングリッシュｂ	科目名（英文）	Advanced English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有本　好一郎
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。この授業では、リーディング II より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。また、速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B2-2]レベルのリーディング力を目標とする。
授業方法と留意点	必ず予習して出席すること。授業中の応答、学習活動への積極的な参加を重視する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Execises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Test	――――――――――	――――――――

関連科目	リーディング IIa, IIb

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Cover to Cover 3	Richard Day	Oxford
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	速読・多読活動　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生へのメッセージ	Please bring a pen, pencil, paper and dictionary (or smart phone) to class. Please don`t be shy to speak in English and make mistakes.
担当者の研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	アドバンスト　ライティングａ	科目名（英文）	Advanced Writing a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル　マリンズ
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	アドバンスト・ライティングでは、ライティングよりさらに高度な文章構成力・表現力を磨く練習をする。　エッセイ・ライティングの力を養う。
到達目標	英語でエッセイを書く能力を身につける。
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.
科目学習の効果（資格）	英語関連の資格一般

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Course introduction. Assessment requirements and explanation.	Orientation and Self-Introduction	Preview course contents. Write first journal entry.
2	Unit 1: Skills/Functions: Journal writing, freewriting, and composition format. Language focus: Journal writing, freewriting, and composition format.	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.
3	Unit 1: (cont.) Skill/Function: Journal writing, freewriting, and composition format. Language focus: Journal writing, freewriting, and composition format.	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.
4	Unit 2 Skills/Functions: freewriting; describing a person; writing interview questions; taking notes; using an idea web to organize information; editing: the writing process; revising: using the Correction Guide and rewriting based on peer feedback Language Focus: simple present tense; subject-verb agreement; using 'because'; combining sentences with 'and'; punctuation: using a comma before 'and'.	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.
5	Unit 2 (cont.) Skills/Functions: freewriting; describing a person; writing interview questions; taking notes; using an idea web to organize information; editing: the writing process; revising: using the Correction Guide and rewriting based on peer feedback Language Focus: simple present tense; subject-verb agreement; using 'because'; combining sentences with 'and'; punctuation: using a comma before 'and'.	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.
6	Unit 3 Skills/Functions:	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.

			freewriting; writing questions; writing about experiences; taking notes; organizing information; writing an introduction; writing a conclusion; editing: irrelevant sentences and overuse of she or he; revising: rewriting based on peer feedback and common mistakes list. Language focus: present perfect; 'ever' and 'before' with present perfect; present perfect vs simple past; present perfect progressive; 'since' and 'for' with present perfect progressive; combining sentences with 'so'; punctuation: using a comma before 'so'.			
		7	Unit 3 (cont.) Skills/Functions: freewriting; writing questions; writing about experiences; taking notes; organizing information; writing an introduction; writing a conclusion; editing: irrelevant sentences and overuse of she or he; revising: rewriting based on peer feedback and common mistakes list. Language focus: present perfect; 'ever' and 'before' with present perfect; present perfect vs simple past; present perfect progressive; 'since' and 'for' with present perfect progressive; combining sentences with 'so'; punctuation: using a comma before 'so'.	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.	
		8	Unit 4 Skills/Functions: freewriting; writing about an experience; organizing information in time order; giving background information to set up a story; writing an introduction; writing a conclusion; writing an outline; writing a title; including specific details to make a story more interesting; revising: checking verb tense, adding or taking out details, and rewriting based on peer feedback. Language focus: simple past tense; past progressive; combining sentences 'with' 'and'.	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.	
		9	Unit 4 (cont.) Skills/Functions: freewriting; writing about an experience; organizing information in time order;	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.	

			giving background information to set up a story; writing an introduction; writing a conclusion; writing an outline; writing a title; including specific details to make a story more interesting; revising: checking verb tense, adding or taking out details, and rewriting based on peer feedback. Language focus: simple past tense; past progressive; combining sentences 'with' 'and'.			
		10	Unit 5 Skills/Functions: freewriting; writing a recipe; describing food; revising: checking preposition usage, checking spelling and agreement, checking verb form, and rewriting based on peer feedback. Language focus: imperatives; vocabulary for describing food; prepositions; spelling; agreement.	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.	
		11	Unit 5 (cont.) Skills/Functions: freewriting; writing a recipe; describing food; revising: checking preposition usage, checking spelling and agreement, checking verb form, and rewriting based on peer feedback. Language focus: imperatives; vocabulary for describing food; prepositions; spelling; agreement.	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.	
		12	Unit 6 Skills/Functions: freewriting; comparing and contrasting; writing questions with comparative forms; brainstorming and organizing information using a list; writing topic sentences; writing an outline; writing an introduction; writing a conclusion; revising: checking for usage of transitional phrases, checking spelling, checking comparative adjective forms, and rewriting based on peer feedback. Language focus: comparative form of adjectives; simple present tense; words and phrases to show comparison; words and phrases to show contrast; transitional phrases for introducing examples; punctuation: using commas with transitional phrases;	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.	

	spelling of comparative adjective forms.		
13	Unit 6 (cont.) Skills/Functions: freewriting; comparing and contrasting; writing questions with comparative forms; brainstorming and organizing information using a list; writing topic sentences; writing an outline; writing an introduction; writing a conclusion; revising: checking for usage of transitional phrases, checking spelling, checking comparative adjective forms, and rewriting based on peer feedback. Language focus: comparative form of adjectives; simple present tense; words and phrases to show comparison; words and phrases to show contrast; transitional phrases for introducing examples; punctuation: using commas with transitional phrases; spelling of comparative adjective forms.	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.
14	Final writing composition and journal editing, rewriting, and submission.	Peer and teacher editing of final composition and journal submissions.	None.
15	Final writing composition and journal feedback. Discussion of common errors and how to overcome them.	Feedback session	None.

関連科目	グラマー，スキルズ　トレーニング、イングリッシュ　プレゼンテーション、ライティングなど

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Write Away Right Away (Second Edition)	Martin, D.	EFL Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	Writing assignment tasks・・・60% Textbook exercises and weekly journal・・・40%
学生への メッセージ	In order to pass this course, you must: - complete at least ten, full page journal entries (complete with evidence of prewriting/brainstorming) - show evidence of prewriting and editing for each assignment - not be absent for more than four lessons. Please use lined, B5 looseleaf writing paper (in a slim binder) for all notes and assignments. N.B.: Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. If you are more than 30 minutes late for a class, it will be counted as an absence.
担当者の 研究室等	Part-time faculty lounge, Bldg. 7, 2F
備考	予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	アドバンスト　ライティングｂ	科目名（英文）	Advanced Writing b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル　マリンズ
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	アドバンスト・ライティングでは、ライティングよりさらに高度な文章構成力・表現力を磨く練習をする。　エッセイ・ライティングの力を養う。
到達目標	英語でエッセイを書く能力を身につける。
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.
科目学習の効果（資格）	英語関連の資格一般

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Course introduction. Assessment requirements and explanation.	Orientation and Self-Introduction	Preview course contents. Write first journal entry.
2	Unit 7: Skills/Functions: freewriting; writing a narrative; organizing information in time order; revising: adding details to make your story more interesting, checking verb tense, adding adverbs, checking for usage of and, but, so, and because, and rewriting based on peer feedback. Language focus: simple past tense; time transition words; direct speech; and, so, but, and because; adverbs; spelling of adverbs; punctuation: using a comma before so and but, punctuation of direct speech.	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.
3	Unit 7 (cont.) Skills/Functions: freewriting; writing a narrative; organizing information in time order; revising: adding details to make your story more interesting, checking verb tense, adding adverbs, checking for usage of and, but, so, and because, and rewriting based on peer feedback. Language focus: simple past tense; time transition words; direct speech; and, so, but, and because; adverbs; spelling of adverbs; punctuation: using a comma before so and but, punctuation of direct speech.	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.
4	Unit 8 Skills/Functions: freewriting; writing emails; writing a letter to a penpal; writing a self-introduction; explaining why you are writing; writing questions; describing personality; describing preferences; writing a personal profile; revising: rewriting	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.

			Language focus: beginning and ending forms for email; adjectives for describing personality; relative clauses; 'I would like to...'; 'I'm looking for...'.			
		5	Unit 8 (cont.) Skills/Functions: freewriting; writing emails; writing a letter to a penpal; writing a self-introduction; explaining why you are writing; writing questions; describing personality; describing preferences; writing a personal profile; revising: rewriting Language focus: beginning and ending forms for email; adjectives for describing personality; relative clauses; 'I would like to...'; 'I'm looking for...'.	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.	
		6	Unit 9 Skills/Functions: freewriting; writing invitations; accepting or declining an invitation; giving reasons; writing directions Language focus: formulaic expressions for inviting and accepting or declining an invitation; present progressive with future meaning; imperatives; prepositions of location; 'How/What about (verb+ing)...' .	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.	
		7	Unit 9 (cont.) Skills/Functions: freewriting; writing invitations; accepting or declining an invitation; giving reasons; writing directions Language focus: formulaic expressions for inviting and accepting or declining an invitation; present progressive with future meaning; imperatives; prepositions of location; 'How/What about (verb+ing)...' .	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.	
		8	Unit 10 Skills/Functions: freewriting; writing a description of a restaurant; writing directions; writing a conclusion; writing a story (Fun Writing Activity); revising: checking spelling, checking agreement, checking vocabulary and pattern usage, adding details to make a description more interesting, rewriting based on peer feedback.	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.	

		Language focus: vocabulary and patterns for describing food and restaurants; descriptive adjectives; simple present tense; imperatives; agreement; spelling: common spelling mistakes.			
	9	Unit 10 (cont.) Skills/Functions: freewriting; writing a description of a restaurant; writing directions; writing a conclusion; writing a story (Fun Writing Activity); revising: checking spelling, checking agreement, checking vocabulary and pattern usage, adding details to make a description more interesting, rewriting based on peer feedback. Language focus: vocabulary and patterns for describing food and restaurants; descriptive adjectives; simple present tense; imperatives; agreement; spelling: common spelling mistakes.	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.	
	10	Unit 11 Skills/Functions: freewriting; writing a letter of request; writing a letter of confirmation; writing a thank-you letter; writing a postcard; filling out a disembarkation card; revising: rewriting. Language focus: formulaic expressions for business letters; 'I would like...'; 'I'll be (verb+ing)...'; '(We) look forward to...'; weather vocabulary; vocabulary to describe a holiday; expressions of gratitude; punctuation: commas.	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.	
	11	Unit 11 (cont.) Skills/Functions: freewriting; writing a letter of request; writing a letter of confirmation; writing a thank-you letter; writing a postcard; filling out a disembarkation card; revising: rewriting. Language focus: formulaic expressions for business letters; 'I would like...'; 'I'll be (verb+ing)...'; '(We) look forward to...'; weather vocabulary; vocabulary to describe a holiday; expressions of gratitude; punctuation: commas.	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.	
	12	Unit 12	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal	

	Skills/Functions: freewriting; writing about advantages & disadvantages; organizing information; brainstorming using a list; writing topic sentences; writing an introduction; writing a conclusion; using a variety of forms to make your writing more interesting; revising: checking usage of words that introduce a cause or effect, and rewriting based on peer feedback. Language focus: vocabulary and patterns used to introduce or list advantages & disadvantages; signal words for listing or adding points; words that introduce a cause or effect; punctuation: using commas with signal words.		assignments.
13	Unit 12 (cont.) Skills/Functions: freewriting; writing about advantages & disadvantages; organizing information; brainstorming using a list; writing topic sentences; writing an introduction; writing a conclusion; using a variety of forms to make your writing more interesting; revising: checking usage of words that introduce a cause or effect, and rewriting based on peer feedback. Language focus: vocabulary and patterns used to introduce or list advantages & disadvantages; signal words for listing or adding points; words that introduce a cause or effect; punctuation: using commas with signal words.	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.
14	Final writing composition and journal editing, rewriting, and submission.	Peer and teacher editing of final composition and journal submissions.	None.
15	Final writing composition and journal feedback. Discussion of common errors and how to overcome them.	Feedback session	None.

関連科目	グラマー，スキルズ　トレーニング、イングリッシュ　プレゼンテーション、ライティングなど

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Write Away Right Away (Second Edition)	Martin, D.	EFL Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	Writing assignment tasks・・・60% Textbook exercises and weekly journal・・・40%

学生への メッセージ	In order to pass this course, you must: - complete at least ten, full page journal entries (complete with evidence of prewriting/brainstorming) - show evidence of prewriting and editing for each assignment - not be absent for more than four lessons. Please use lined, B5 looseleaf writing paper (in a slim binder) for all notes and assignments. N.B.: Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. If you are more than 30 minutes late for a class, it will be counted as an absence.
担当者の 研究室等	Part-time faculty lounge, Bldg. 7, 2F
備考	予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	アメリカ文化論	科目名（英文）	American Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大原関　一浩
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	アメリカの歴史はヨーロッパ人が入植してから 400 年ほどですが、ダイナミックな変化を経験してきました。この授業では、アメリカという国の社会・文化を、歴史、地理、民族、精神、生活、人間関係、日米関係など、さまざまな視点から考察し理解を深めていきます。
到達目標	・アメリカ社会・文化を多角的な視点から理解する。 ・アメリカという国の理念とその実現の試みを批判的に理解する。 ・日本人としてアメリカ社会・文化を学ぶ意義を説明できる。
授業方法と留意点	各回のテーマに沿って、Power Point スライドを使い、統計・写真・地図などの資料を表示しながら、講義を進めていきます。スライドの文字を書き写すだけでなく、後で見返した時に要点がわかるように、自分の言葉でメモをとることがとても大切です。わからないこと、疑問に感じたことは、そのままにせず、教員に質問して理解すること。そうすれば、テストの出来もよくなります。
科目学習の効果（資格）	・アメリカに関する多くの情報のなかから、正しいものを選ぶ力をつける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容・方法説明	授業内容の復習
2	アメリカの歴史１	植民地時代から独立まで	授業内容の復習
3	アメリカの歴史２	領土拡張、奴隷制、南北戦争	授業内容の復習
4	アメリカの歴史３	金ぴか時代から第二次大戦まで	授業内容の復習
5	アメリカの歴史４	戦後のアメリカ、現在まで	授業内容の復習
6	アメリカの地理１	北部・南部	授業内容の復習
7	アメリカの地理２	中西部・西部	授業内容の復習
8	アメリカの民族１	ヨーロッパ系	授業内容の復習
9	アメリカの民族２	アジア系	授業内容の復習
10	アメリカの民族３	ラティーノ／ネイティブほか	授業内容の復習
11	アメリカの精神	ピューリタニズム、フロンティア精神、個人主義ほか	授業内容の復習
12	アメリカ人の生活	衣食住、祝祭	授業内容の復習
13	人間関係	子供、家族、LGBT など	授業内容の復習
14	日米関係	中浜万次郎から現在まで	授業内容の復習
15	まとめ	確認テストと解説	前期範囲の復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし。統計・写真・地図などの資料を配布／表示します。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点５０％（授業中の課題および宿題の正確さと精度を評価） 確認テスト５０％（授業内容の理解度を測るテストの成績）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	大原関研究室（７号館５階）
備考	授業スケジュール等に多少の変更の可能性があるので、初回の授業に必ず出席すること。 事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間。

科目名	ESP(English for Specific Purposes) a	科目名（英文）	ESP (English For Specific Purposes) a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	家口　美智子
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	本講義は英語のプロを目指す学生が本物の英語の実力を培うための、厳しい特訓授業とする。 特にリスニングとリーディングに特化してたくさんの英文にふれる。
到達目標	TOEIC に換算して 100 点あげることを目標とする。 英語を身に着けるためにはどんな方法があるかを身を持って体験する。
授業方法と留意点	リスニングの課題と教科書の予習は必ず行うこと
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業の紹介	授業の概要、目標、方法の説明	教科書を必ず購入して授業に臨むこと
2	Australia	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
3	Australia	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
4	China	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
5	China	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
6	India	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
7	India	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
8	Saudi Arabia	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
9	Saudi Arabia	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
10	Finland	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
11	Finland	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
12	United Kingdom	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
13	United Kingdom	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
14	Germany	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
15	まとめ	確認テスト	

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Steps to Success in TOEIC Listening 400	Bramley, 河合	松柏社
2	Stories from Around the World	染谷正一	南雲堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	課題(10%)＋小テスト(90%)
学生へのメッセージ	決めたらとことんやりましょう
担当者の研究室等	7 号館４F
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	ESP(English for Specific Purposes) a	科目名（英文）	ESP（English For Specific Purposes）a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ルディ　トート
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの６つのパッケージプログラムのうち、「国際ビジネス」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、グローバルな視点からビジネスに関する英語の語彙や表現を習得することを目的とします。
到達目標	英語を仕事のツールとととらえ、「国際ビジネス」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、書いたりできるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業は「グループワーク」形式で行い、特にビジネスの分野で必要とされる英語を中心に学習します。 国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによってESPのクラスが異なるので注意すること。
科目学習の効果（資格）	英語関連の資格（TOEICなど）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	英語による自己紹介、授業の進め方や評価方法の説明	なし
2	Chapter 1: Making Contact	聴解（DVD視聴）を中心に英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回のChapterに目を通しておくこと。
3	Chapter 1: Making Contact	読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回のChapterのリーディング文章を読んでみておいて、ライティング課題を提出すること。
4	Chapter 2: Getting to Know You	小テストを終えてから、聴解（DVD視聴）を中心に英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	小テストのための復習を行うこと。
5	Chapter 2: Getting to Know You	読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回のChapterのリーディング文章を読んでみておいて、ライティング課題を提出すること。
6	Chapter 3: Dining Out	小テストを終えてから、聴解（DVD視聴）を中心に英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	小テストのための復習を行うこと。
7	Chapter 3: Dining Out	読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回のChapterのリーディング文章を読んでみておいて、ライティング課題を提出すること。
8	Chapter 4: Can I Ask Who Is Calling, Please?	小テストを終えてから、聴解（DVD視聴）を中心に英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	小テストのための復習を行うこと。
9	Chapter 4: Can I Ask Who Is Calling, Please?	読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回のChapterのリーディング文章を読んでみておいて、ライティング課題を提出すること。
10	Chapter 5: Let's Stick to the Schedule	小テストを終えてから、聴解（DVD視聴）を中心に英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	小テストのための復習を行うこと。
11	Chapter 5: Let's Stick to the Schedule	読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回のChapterのリーディング文章を読んでみておいて、ライティング課題を提出すること。
12	Chapter 6: Tell Us about Yourself	小テストを終えてから、聴解（DVD視聴）を中心に英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	小テストのための復習を行うこと。
13	Chapter 6: Tell Us about Yourself	読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回のChapterのリーディング文章を読んでみておいて、ライティング課題を提出すること。
14	Chapter 7: Could We Meet Next Week?	小テストを終えてから、聴解（DVD視聴）を中心に英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	小テストのための復習を行うこと。
15	Chapter 7: Could We Meet Next Week?	読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回のChapterのリーディング文章を読んでみておいて、ライティング課題を提出すること。

関連科目：ESP（English for Specific Purposes）b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Interactive Business English on DVD	徳田 豊、他	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	（必要に応じて指示します）		
2			
3			

評価方法（基準）	作文課題　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生へのメッセージ	授業及び事前・事後学習における態度を重視し、宿題の量・難易度は学生のレベルを考慮するので、心配せずに楽しくがんばっていきましょう。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	ESP(English for Specific Purposes)a	科目名（英文）	ESP（English For Specific Purposes）a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西川　眞由美
ディプロマポリシー(DP)	DP7○,DP8◎		

授業概要・目的

授業概要：　本科目は、国際キャリアコースの６つのパッケージプログラムのうち、「観光ホスピタリティ」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です、よって、テキストを読みながら、さまざまなアクティビティを通じて、観光業・ホスピタリティ産業に必要な英語の語彙や表現、仕事への態度を学びます。

授業目的：
・観光とホスピタリティについての調べ学習：　基本的な知識を増やす。
・基礎英会話の練習：簡単な英語が口から出てくるようにする。
・英語を使ったアクティビティ：空港・機内・ホテル・レストラン、ショッピング、観光、乗り物、トラブル、観光地で役に立つ英　語の表現を学ぶ。
・ペアワークやグループワーク：コミュニケーション能力をつける。

到達目標

英語を仕事のツールととらえ、「観光ホスピタリティ」の分野における以下の項目について習得することを目指します。

・業界についての知識の習得。
・業界でよく用いられる英語の語彙・表現の習得。
・業界で働くのに必要な英語のコミュニケーションの習得。
・業界で必要とされるホスピタリティの精神の習得。

授業方法と留意点

特に観光業で必要とされる英語を中心に学習します。
テキストをしっかり読んで、授業に出席してください。
国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによってＥＳＰのクラスが異なるので注意すること。

科目学習の効果（資格）

英語関連の資格（ＴＯＥＩＣなど）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	評価方法、授業の進め方、基本会話	Students should study the content of the day's lesson
2	This is Janice speaking.	Introducing oneself and others	Students should study the content of the day's lesson
3	This is Janice speaking.	Greeting guests and customers	Students should study the content of the day's lesson
4	Where are you from?	Becoming familiar	Students should study the content of the day's lesson
5	Where are you from?	Making a small talk	Students should study the content of the day's lesson
6	"Sorry" seems to be...	Dealing with customers	Students should study the content of the day's lesson
7	"Sorry" seems to be...	Irritation and annoyance	Students should study the content of the day's lesson
8	Would you like to try that instead?	Avalilability	Students should study the content of the day's lesson
9	Would you like to try that instead?	Suggesting	Students should study the content of the day's lesson
10	They're both very nice rooms.	Similarities and differences	Students should study the content of the day's lesson
11	They're both very nice rooms.	Different opinions	Students should study the content of the day's lesson
12	You'll see a bank on the right?	Directions	Students should study the content of the day's lesson
13	You'll see a bank on the right	Directions	Students should study the content of the day's lesson
14	I highly recommned it.	Recommendations	Students should study the content of the day's lesson
15	まとめのテスト	English conversation in hospitality industry.	Students should study the content of the day's lesson

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Class Service 2	Stephen Hall/ Troy Blappert	Cengage Learning
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）

授業参加　４０％、課題　２０％、まとめのテスト　４０％

学生へのメッセージ

さまざまなアクティビティを通して、ホスピタリティ＆おもてなしの精神やツーリズム業界について楽しく学びましょう。

担当者の研究室等

７号館４階　西川研究室

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	ESP(English for Specific Purposes) a	科目名（英文）	ESP (English For Specific Purposes) a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	齋藤　安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの６つのパッケージプログラムのうち、「観光ホスピタリティー」を選択した学生を対象とした英語の授業です。このシラバスは　（２）　のクラス向けです。 日本と世界を観光の視点から見つめ、観光に関する情報をわかりやすく説明したり、表現したりする英語の学習を目的とします。
到達目標	分野によって必要とされる英語が異なることを理解する。自分にとって関心があるキャリアを決め、そこで要求される英語の基本を主体的に学習する。 「観光ホスピタリティー」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、離したり、書いたりできるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	特に観光ホスピタリティーの分野で必要とされる英語を中心に学習します。 国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによってESPのクラスが異なるので注意すること。
科目学習の効果（資格）	英語関連の資格（TOEICなど）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Japan: 湯布院	温泉のマナーを、初めての人に、英語でどう説明したらわかりやすいだろうか？ 読解・ディスカッション	観光ホスピタリティーに関する報道記事を探す テキスト復習
2	Japan: 湯布院	温泉のマナーを、初めての人に、英語でどう説明したらわかりやすいだろうか？ 発表	観光ホスピタリティーに関する報道記事を探す テキスト復習
3	Japan: 沖縄	名物料理をどうやっておいしそうに紹介しようか？ 読解・ディスカッション	観光ホスピタリティーに関する報道記事を探す テキスト復習
4	Japan: 沖縄	名物料理をどうやっておいしそうに紹介しようか？ 発表	観光ホスピタリティーに関する報道記事を探す テキスト復習
5	Asean: シンガポール	空港で迷子にならないように 読解・ディスカッション	観光ホスピタリティーに関する報道記事を探す テキスト復習
6	Asean: シンガポール	空港で迷子にならないように 発表	観光ホスピタリティーに関する報道記事を探す テキスト復習
7	Asean: バリ	バリ島ってどんなところ？異文化との出会いを楽しめるようにサポートするには 読解・ディスカッション	観光ホスピタリティーに関する報道記事を探す テキスト復習
8	Asean: バリ	バリ島ってどんなところ？異文化との出会いを楽しめるようにサポートするには 発表	観光ホスピタリティーに関する報道記事を探す テキスト復習
9	Oceania: シドニー	南半球って世界がさかさま？ 読解・ディスカッション	観光ホスピタリティーに関する報道記事を探す テキスト復習
10	Oceania: シドニー	南半球って世界がさかさま？ 発表	観光ホスピタリティーに関する報道記事を探す テキスト復習
11	The Pacific Rim: ハワイ	あなたの知っているハワイ、まだ知らないハワイ 読解・ディスカッション	観光ホスピタリティーに関する報道記事を探す テキスト復習
12	The Pacific Rim: ハワイ	あなたの知っているハワイ、まだ知らないハワイ 発表	観光ホスピタリティーに関する報道記事を探す テキスト復習
13	Europe: ロンドン	Ｌｏｎｄｏｎ　Ａ ｔｏ Ｚ 読解・ディスカッション	観光ホスピタリティーに関する報道記事を探す テキスト復習
14	Europe: ロンドン	Ｌｏｎｄｏｎ　Ａ ｔｏ Ｚ 発表	観光ホスピタリティーに関する報道記事を探す テキスト復習
15	まとめ	プログレステスト　等	ふりかえり

関連科目	ホスピタリティー論。ホテルビジネス論、エアラインビジネス論、エコツーリズム論、ホスピタリティ・インターンシップ　ほか
教科書	

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>English for Tourism 101　　一から学ぶ観光英語の基礎</td><td>津田晶子　他</td><td>南雲堂</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>ディスカッション・小テスト：５０％
発表：５０％</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>観光する側から、観光をサポートする側へ、視点を移すと、見えるものが変わってきます。自分が当たり前と思っていたことを、外国から来た人たちに、成り立ちや隠された意味がわかるように英語で伝えるには、どうしたらいいでしょう？　あなたの大切な友人をもてなすときにどうするか、試行錯誤していきましょう。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 4 階　齋藤研究室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。</td></tr>
</table>

科目名	ESP(English for Specific Purposes)a	科目名（英文）	ESP（English For Specific Purposes）a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	住吉　誠
ディプロマポリシー(DP)	DP7○,DP8◎		

授業概要・目的	パッケージプログラムが想定する分野に関連した英語を学習する。英語を仕事のツールととらえ、それぞれの職種における基本的な語彙や表現を用いて英語を話したり、書いたりできるようになることを目標にする。
到達目標	分野によって必要とされる英語が異なることを理解すること。たとえば、航空会社やホテルで必要な英語と外資系企業や日本企業の海外事業部門などで必要な英語は異なる。自分にとって関心があるキャリアを決め、そこで要求される英語の基本を主体的に学習すること。 この授業は、「国際貢献プログラム」を選択した学生のクラスであるので、国際貢献の場でどのような英語が使われているのか、国際貢献の場で日本人が英語や外国語を使用してどのような活動をしているのかを英語で理解し、その内容や活動について、英語で発信できるようになることを目標とする。また、自分がどのような国際貢献をなしたいのか、英語で発表できるようになる。
授業方法と留意点	国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによってESPのクラ スが異なるので注意すること。
科目学習の効果（資格）	英語関連の資格（TOEICなど）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	本 ESP と関連するパッケージプログラムについて英語で意見を交換する	配布プリントの予習
2	国際ビジネス・国際貢献に関するリーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
3	国際ビジネス・国際貢献に関するリーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
4	国際ビジネス・国際貢献に関するリーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
5	国際ビジネス・国際貢献に関するリーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
6	国際ビジネス・国際貢献に関するリーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
7	国際ビジネス・国際貢献に関するリーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
8	中間発表	与えられたテーマについて調査したことを英語で発表する。	配布プリントの予習・復習
9	中間発表	与えられたテーマについて調査したことを英語で発表する。	配布プリントの予習・復習
10	国際ビジネス・国際貢献に関するリーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
11	国際ビジネス・国際貢献に関するリーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
12	国際ビジネス・国際貢献に関するリーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
13	国際ビジネス・国際貢献に関するリーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
14	国際ビジネス・国際貢献に関するリーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
15	まとめ	確認のためのまとめのテスト	全体内容を復習し、後期のESPb に備える。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリントを使用する。		
2			
3			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
評価方法 （基準）	提出物など（20%） プレゼンテーション（20%） まとめの確認テスト（60%）
学生への メッセージ	ESP はパッケージプログラムと連動する英語科目です。自分の将来をしっかり見据えて英語学習に取り組みましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 4 階　住吉　誠　研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	ESP(English for Specific Purposes)a	科目名（英文）	ESP (English For Specific Purposes) a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久田　歩
ディプロマポリシー(DP)	DP7○,DP8◎		

授業概要・目的	パッケージプログラムが想定する分野に関連した英語を学習する。英語を仕事のツールととらえ、それぞれの職種における基本的な語彙や表現を用いて英語を話したり、書いたりできるようになることを目標にする。 特に「メディアビジネス」の分野で必要とされる英語を中心に学習します。２分野の教材に交互に取り組みます。 一つは「映画」というメディアを通じての学習、もう一つは「メールツール」を通じてのビジネス英語活用を学習します。
到達目標	パッケージプログラムが想定する分野に関連した英語を学習する。英語を仕事のツールととらえ、それぞれの職種における基本的な語彙や表現を用いて英語を話したり、書いたりできるようになることを目標にする。 メディアビジネスで使われる用語と日常用語、両方の語彙拡大を目指す。 ビジネス英語も日常英語の延長線上にあります。コミュニケーション力の高い表現を身につけます。 ネイティブのナチュラルスピードの英語を聞くことに慣れましょう。 口語表現と書き言葉の違いに注目して両方の解釈が取れるようにする。
授業方法と留意点	分野によって必要とされる英語が異なる事を理解する事。例えば、航空会社やホテルで必要な英語と外資系企業や日本企業の海外事業部門などで必要な英語は異なる。自分に取って感心があるキャリアを決め、そこで要求される英語の基本を主体的に学習すること。 テキストは両方購入しておくこと。 １．辞書を毎回持参すること。パソコン、アイパッドによるオンライン辞書使用は認めるがスマートフォンを辞書として活用することは認め、ません。 ２．欠席は４回に達すると単位取得できません。遅刻は３回で一回の欠席と勘定します。 ３．配布資料の読み込みなど、事前事後学習にかかる総時間数をおおよそ 15 時間程度とします。
科目学習の効果（資格）	英語関連の資格取得につながる語彙力、表現力、リーディング及びリスニング力。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 1 Email Mania NIght at the Museum	授業の進め方と評価方法等の説明 Addicted to email 映画前半	語彙暗記　読み直し　スクリプト確認 （1 時間）
2	Unit 1 Email Mania NIght at the Museum	単語テスト１ Volume explosion 映画１	語彙暗記　読み直し　スクリプト確認 （1 時間）
3	Unit2 Email Spam l NIght at the Museum	単語テスト２ Irritated by spam 映画２	語彙暗記　読み直し　スクリプト確認 （1 時間）
4	テスト Unit2 Email Spam NIght at the Museum	第一回チェックテスト Fighting spam 映画３	テスト勉強 語彙暗記　読み直し　スクリプト確認 （1 時間）
5	Unit 3 Email Fraud NIght at the Museum	単語テスト３ Scam spam 映画４	語彙暗記　読み直し　スクリプト確認 （1 時間）
6	Unit 3 Email Fraud NIght at the Museum	単語テスト４ Getting personal information 映画５	語彙暗記　読み直し　スクリプト確認 （1 時間）
7	Unit4 Email Lingo NIght at the Museum	単語テスト５ LOL and more 映画調整日	語彙暗記　読み直し　スクリプト確認 （1 時間）
8	テスト Unit4 Email Lingo NIght at the Museum	第二回チェックテスト Getting your point across 映画後半	テスト勉強 語彙暗記　読み直し　スクリプト確認 （1 時間）
9	Unit5 Email Breakups NIght at the Museum	単語テスト６ Ending it with a click of the mouse 映画６	語彙暗記　読み直し　スクリプト確認 （1 時間）
10	Unit5 Email Breakups NIght at the Museum	単語テスト７ Virtual goodbyes 映画７	語彙暗記　読み直し　スクリプト確認 （1 時間）
11	Unit6 Mobile Email NIght at the Museum	単語テスト８ Email on the go 映画８	語彙暗記　読み直し　スクリプト確認 （1 時間）
12	テスト Unit6 Mobile Email NIght at the Museum	第三回チェックテスト Youth Shun Email 映画９	テスト勉強 語彙暗記　読み直し　スクリプト確認 （1 時間）
13	Unit7 Email Efficiencies NIght at the Museum	単語テスト９ Faster communication 映画１０	語彙暗記　読み直し　スクリプト確認 （1 時間）
14	Unit7 Email Efficiencies NIght at the Museum	単語テスト１０ Businessman prefer Email 映画調整日	語彙暗記　読み直し　スクリプト確認 （1 時間）
15	テスト NIght at the Museum	第四回チェックテスト review	語彙暗記　テスト勉強 （1 時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1 English for the Digital World Mprma Reveler ほか 三修社 2 Night at the Museum ナイトミュージアム Robert B Grant 他 松柏社 3
参考書	番号 書籍名 著者名 出版社名 1 2 3
評価方法 （基準）	平常点（授業態度　小テスト　宿題　提出物等）の成績を総合的に評価する。 単語テスト　３点 X10 回 チェックテスト　１５点 X４回 参加点　10 点
学生への メッセージ	面白い内容で教材がそろえられたと思うので頑張りましょう。
担当者の 研究室等	非常勤控室　（7 号館 2 階）　木曜日
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	ESP(English for Specific Purposes) b	科目名（英文）	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	家口　美智子
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	本講義は英語のプロを目指す学生が本物の英語の実力を培うための、厳しい特訓授業とする。 特にリスニングとリーディングに特化してたくさんの英文にふれる。
到達目標	TOEIC に換算して 100 点あげることを目標とする。 英語を身に着けるためにはどんな方法があるかを身を持って体験する。
授業方法と留意点	リスニングの課題と教科書の予習は必ず行うこと
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業の紹介	授業の概要、目標、方法の説明	教科書を必ず購入して授業に臨むこと
2	France	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
3	France	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
4	Caribbean Islands	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
5	Caribbean Islands	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
6	Ecuador	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
7	Ecuador	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
8	Brazil	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
9	Brazil	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
10	Nigeria	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
11	Nigeria	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
12	South Africa	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
13	South Africa	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
14	Ethiopia	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
15	まとめ	確認テスト	

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Steps to Success in TOEIC 500	Bramley, 河合	松柏社
2	Stories from Aroung the World	染矢正一他	南雲堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	作文課題　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生へのメッセージ	決めたらとことんやりましょう
担当者の研究室等	7 号館 4F 家口研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	ESP(English for Specific Purposes) b	科目名（英文）	ESP（English For Specific Purposes）b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ルディ　トート
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの６つのパッケージプログラムのうち、「国際ビジネス」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、グローバルな視点からビジネスに関する英語の語彙や表現を習得することを目的とします。
到達目標	英語を仕事のツールとととらえ、「国際ビジネス」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、書いたりできるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業は「グループワーク」形式で行い、特にビジネスの分野で必要とされる英語を中心に学習します。 国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによってESPのクラスが異なるので注意すること。
科目学習の効果（資格）	英語関連の資格（TOEICなど）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Chapter 8: Can I Make a Point Here?	英語による自己紹介、授業の進め方や評価方法の説明、Chapter 8の導入	なし
2	Chapter 8: Can I Make a Point Here?	聴解（DVD視聴）と読解を中心に英語表現と語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回のChapterのリーディング文章を読んでおくこと。
3	Chapter 9: I'm Not Sure I Agree	小テストを終えてから、聴解（DVD視聴）を中心に英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	小テストのための復習を行うこと。
4	Chapter 9: I'm Not Sure I Agree	読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回のChapterのリーディング文章を読んでみておいて、ライティング課題を提出すること。
5	Chapter 10: Today's Topic Is	小テストを終えてから、聴解（DVD視聴）を中心に英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	小テストのための復習を行うこと。
6	Chapter 10: Today's Topic Is	読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回のChapterのリーディング文章を読んでみておいて、ライティング課題を提出すること。
7	Chapter 11: To Sum Up	小テストを終えてから、聴解（DVD視聴）を中心に英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	小テストのための復習を行うこと。
8	Chapter 11: To Sum Up	読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回のChapterのリーディング文章を読んでみておいて、ライティング課題を提出すること。
9	Chapter 12: Any Questions?	小テストを終えてから、聴解（DVD視聴）を中心に英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	小テストのための復習を行うこと。
10	Chapter 12: Any Questions?	読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回のChapterのリーディング文章を読んでみておいて、ライティング課題を提出すること。
11	Chapter 13: Making the Offer	小テストを終えてから、聴解（DVD視聴）を中心に英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	小テストのための復習を行うこと。
12	Chapter 13: Making the Offer	読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回のChapterのリーディング文章を読んでみておいて、ライティング課題を提出すること。
13	Chapter 14: That's My Final Offer	小テストを終えてから、聴解（DVD視聴）を中心に英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	小テストのための復習を行うこと。
14	Chapter 14: That's My Final Offer Chapter 15: Finalizing the Deal	読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。Chapter 15を導入する。	Chapter 14のリーディング文章を読んでみておいて、ライティング課題を提出すること。
15	Chapter 15: Finalizing the Deal	小テストを終えてから、聴解（DVD視聴）と読解を中心に英語表現と語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	小テストのための復習を行うこと。今回のChapterのリーディング文章を読んでみておいて、ライティング課題を提出すること。

関連科目：ESP（English for Specific Purposes）a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Interactive Business English on DVD	徳田 豊、他	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	（必要に応じて指示します）		
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト、グループワークの成果、授業に取り組む姿勢などを合わせて総合的に評価する。
学生へのメッセージ	授業及び事前・事後学習における態度を重視し、宿題の量・難易度は学生のレベルを考慮するので、心配せずに楽しくがんばっていきましょう。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	ESP(English for Specific Purposes) b	科目名（英文）	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西川　眞由美
ディプロマポリシー(DP)	DP7○,DP8◎		

授業概要・目的

授業概要：　本科目は、国際キャリアコースの６つのパッケージプログラムのうち、「観光ホスピタリティ」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です、よって、テキストを読みながら、さまざまなアクティビティを通じて、観光業・ホスピタリティ産業に必要な英語の語彙や表現、仕事への態度を学びます。

授業目的：
・観光とホスピタリティについての調べ学習：　基本的な知識を増やす。
・基礎英会話の練習：簡単な英語が口から出てくるようにする。
・英語を使ったアクティビティ：空港・機内・ホテル・レストラン、ショッピング、観光、乗り物、トラブル、観光地で役に立つ英　語の表現を学ぶ。
・ペアワークやグループワーク：コミュニケーション能力をつける。

到達目標

英語を仕事のツールととらえ、「観光ホスピタリティ」の分野における以下の項目について習得することを目指します。

・業界についての知識の習得。
・業界でよく用いられる英語の語彙・表現の習得。
・業界で働くのに必要な英語のコミュニケーションの習得。
・業界で必要とされるホスピタリティの精神の習得。

授業方法と留意点

特に観光業で必要とされる英語を中心に学習します。
テキストをしっかり読んで、授業に出席してください。
国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによってＥＳＰのクラスが異なるので注意すること。

科目学習の効果（資格）

英語関連の資格(TOEIC など)

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	It comes with a choice of soup or a salad.	Food an drinks	Students should study the content of the day's lesson
2	It comes with a choice of soup or a salad.	Suggesting	Students should study the content of the day's lesson
3	Sorry, all the window seats are taken.	How to deal with special requests	Students should study the content of the day's lesson
4	Sorry, all the window seats are taken.	How to deal with special requests	Students should study the content of the day's lesson
5	First, enter your weight into the machine.	Instructions	Students should study the content of the day's lesson
6	First, enter your weight into the machine.	Complicated instructions	Students should study the content of the day's lesson
7	Could you say that again, please?	Personal information	Students should study the content of the day's lesson
8	Could you say that again, please?	Checking information	Students should study the content of the day's lesson
9	Sorry for the inconvenience.	Customer complaints	Students should study the content of the day's lesson
10	Sorry for the inconvenience.	Apologizing	Students should study the content of the day's lesson
11	Hold the line, please?	Starting and ending the call	Students should study the content of the day's lesson
12	Hold the line, please?	Directing calls	Students should study the content of the day's lesson
13	This is a non-smoking area.	Rules and regulations	Students should study the content of the day's lesson
14	Are you enjoying your meal?	Serving in a restaurant	Students should study the content of the day's lesson
15	まとめのテスト	English conversation in hospitality industry	Students should study the content of the day's lesson

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Class Service　2	Stephen Hall/ Troy Blappert	Cengage Learning
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）

授業参加　４０％、課題　２０％、まとめのテスト　４０％

学生へのメッセージ

さまざまなアクティビティを通して、ホスピタリティ＆おもてなしの精神やツーリズム業界について楽しく学びましょう。

担当者の研究室等

７号館４階　西川研究室

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	ESP(English for Specific Purposes) b	科目名（英文）	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	齋藤　安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP7○,DP8◎		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの６つのパッケージ・プログラムのうち、「観光ホスピタリティ―」を選択した学生を対象とした英語の授業です。このシラバスは（２）のクラス向けです。 日本と世界を観光の視点から見つめ、観光に関する情報をわかりやすく説明したり、表現したりする英語の学習を目的とします。
到達目標	分野によって必要とされる英語が異なることを理解する。自分にとって関心があるキャリアを決め、そこで要求される英語の基本を主体的に学習する。 「観光ホスピタリティ―」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、話したり、書いたりできるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	特に観光ホスピタリティ―の分野で必要とされる英語を中心に学習します。 国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによってESPのクラスが異なるので注意すること。
科目学習の効果（資格）	英語関連の資格（TOEICなど）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業の進め方の説明	・授業内容の復習 ・プレゼンの準備
2	Unit 1. Japan: Hokkaido (1)	・ツアーパンフレットの読み方 ・プレゼンテーション	・授業内容の復習及び指定された箇所の予習 ・プレゼンテーションの準備
3	Unit 1. Japan: Hokkaido (2)	・ツアーパンフレットの読み方 ・プレゼンテーション	同上
4	Unit 2. Japan: Kyoto (1)	・Eメールの読み方 ・プレゼンテーション	同上
5	Unit 2. Japan: Kyoto (2)	・Eメールの読み方 ・プレゼンテーション	同上
6	Unit 10. Europe: France	・ツアーの広告文の読み方 ・プレゼンテーション	同上
7	Unit 11. Europe: Museums in Europe	・美術館案内のパンフレットの読み方 ・プレゼンテーション	同上
8	Unit 12. North America: New York, the USA (1)	・ミュージカルレビューの読み方 ・プレゼンテーション	同上
9	Unit 12. North America: New York, the USA (2) & Unit 13. North America: Boston, the USA (1)	・ミュージカルレビューの読み方 ・プレゼンテーション	同上
10	Unit 13. North America: Boston, the USA (2)	・Eメールの読み方 ・プレゼンテーション	同上
11	Unit 14. North America: Canada (1)	・ゲストハウスのハンドブックとガイドラインの読み方 ・プレゼンテーション	同上
12	Unit 14. North America: Canada (2)	・ゲストハウスのハンドブックとガイドラインの読み方 ・プレゼンテーション	同上
13	Unit 15. Latin America: Rio de Janeiro, Brazil (1)	・ツアーパンフレットの読み方 ・プレゼンテーション	同上
14	Unit 15. Latin America: Rio de Janeiro, Brazil (2)	・ツアーパンフレットの読み方 ・プレゼンテーション	同上
15	Review	今学期のまとめ	同上

関連科目	ホスピタリティ―論、ホテルビジネス論、エアラインビジネス論、エコツーリズム論、ホスピタリティ・インターンシップ　ほか

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English for Tourism 101　一から学ぶ観光英語の基礎	津田晶子　他	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ディスカッション・小テスト：５０％ プレゼンテーション：５０％
学生へのメッセージ	インターネットを通して簡単に中継ができるようになった時代でも、直接行ってみる、という体験を求める人が減ることはありません。以前は「観光地」だと思われていなかった場所にも、外国から・他の地方からのお客様がみえるようになりました。安全でありながらスリルがあってワクワクする冒険をサポートするために、私たちはどんなホスピタリティを英語を使って提供できるでしょう？
担当者の研究室等	7号館4階　齋藤研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	ESP(English for Specific Purposes)b	科目名（英文）	ESP（English For Specific Purposes）b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松田　早恵
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの６つのパッケージプログラムのうち、「国際貢献」および「国際ビ ジネス」およびプログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。グローバルな視点からボランティア、国際貢献やビジネスなどに関する英語の語彙や表現を習得したり、そのような内容を持った英語を理解したり、自分の意見を英語で発信できるようになることを目標とします。
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「国際貢献」や「国際ビジネス」の分野における基本的な語彙や 表現を習得しながら、英文を読んだり、書いたりできるようになること、簡単な語彙や英語の表現をつかって、国際貢献やビジネスについて意見を述べられるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによってESPのクラ スが異なるので注意すること。
科目学習の効果（資格）	英語関連の資格（TOEICなど）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	本 ESP と関連するパッケージプログラムについて英語で意見を交換する	配布プリントの予習
2	国際ビジネス・国際貢献に関する リーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
3	国際ビジネス・国際貢献に関する リーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
4	国際ビジネス・国際貢献に関する リーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
5	国際ビジネス・国際貢献に関する リーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
6	国際ビジネス・国際貢献に関する リーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
7	国際ビジネス・国際貢献に関する リーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
8	中間発表	与えられたテーマについて調査したことを英語で発表する。	配布プリントの予習・復習
9	中間発表	与えられたテーマについて調査したことを英語で発表する。	配布プリントの予習・復習
10	国際ビジネス・国際貢献に関する リーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
11	国際ビジネス・国際貢献に関する リーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
12	国際ビジネス・国際貢献に関する リーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
13	国際ビジネス・国際貢献に関する リーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
14	国際ビジネス・国際貢献に関する リーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
15	まとめ	確認のためのまとめのテスト	全体内容を復習する

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリントを使用する。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			
評価方法 （基準）	提出物など（20%） プレゼンテーション（20%） まとめの確認テスト（60%）			
学生への メッセージ	ESP はパッケージプログラムと連動する英語科目です。自分の将来をしっかり見据えて英語学習に取り組みましょう。			
担当者の 研究室等	7 号館 5 階　松田　研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。			

科目名	ESP(English for Specific Purposes) b	科目名（英文）	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久田　歩
ディプロマポリシー(DP)	DP7○,DP8◎		

授業概要・目的	パッケージプログラムが想定する分野に関連した英語を学習する。英語を仕事のツールととらえ、それぞれの職種における基本的な語彙や表現を用いて英語を話したり、書いたりできるようになることを目標にする。 特に「メディアビジネス」の分野で必要とされる英語を中心に学習します。２分野の教材に交互に取り組みます。 一つは「映画」というメディアを通じての学習、もう一つは「オンラインツール」を通じての英語活用を学習します。
到達目標	パッケージプログラムが想定する分野に関連した英語を学習する。英語を仕事のツールととらえ、それぞれの職種における基本的な語彙や表現を用いて英語を話したり、書いたりできるようになることを目標にする。 メディアビジネスで使われる用語と日常用語、両方の語彙拡大を目指す。 ビジネス英語も日常英語の延長線上にあります。コミュニケーション力の高い表現を身につけます。 ネイティブのナチュラルスピードの英語を聞くことに慣れましょう。 口語表現と書き言葉の違いに注目して両方の解釈が取れるようにする。
授業方法と留意点	分野によって必要とされる英語が異なる事を理解する事。例えば、航空会社やホテルで必要な英語と外資系企業や日本企業の海外事業部門などで必要な英語は異なる。自分に取って感心があるキャリアを決め、そこで要求される英語の基本を主体的に学習すること。 テキストは両方購入しておくこと。 １．辞書を毎回持参すること。パソコン、アイパッドによるオンライン辞書使用は認めるがスマートフォンを辞書として活用することは認め、ません。 ２．欠席は４回に達すると単位取得できません。遅刻は３回で一回の欠席と勘定します。
科目学習の効果（資格）	英語関連の資格取得につながる語彙力、表現力、リーディング及びリスニング力。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 8 Social Networking Sites The September Issue	授業の進め方と評価方法等の説明 The Facebook Phonomenon 映画前半	語彙暗記　読み直し　スクリプト確認 （1時間）
2	Unit 8 Social Networking Sites The September Issue	単語テスト１ Social Networking Trouble 映画１	語彙暗記　読み直し　スクリプト確認 （1時間）
3	Unit 9 Blogging The September Issue	単語テスト２ Telling the World 映画２	語彙暗記　読み直し　スクリプト確認 （1時間）
4	テスト Unit 9 Blogging The September Issue	第一回チェックテスト Popular Japan 映画３	テスト勉強 語彙暗記　読み直し　スクリプト確認 （1時間）
5	Unit 10 Information Superhighway The September Issue	単語テスト３ Knowledge Haven 映画４	語彙暗記　読み直し　スクリプト確認 （1時間）
6	Unit 10 Information Superhighway The September Issue	単語テスト４ Sharing What You Know 映画５	語彙暗記　読み直し　スクリプト確認 （1時間）
7	Unit 11 Online Gambling The September Issue	単語テスト５ Clicking, Chances and Control 映画調整日	語彙暗記　読み直し　スクリプト確認 （1時間）
8	テスト Unit 11 Online Gambling The September Issue	第二回チェックテスト Online Casinos and Japan 映画後半	テスト勉強 語彙暗記　読み直し　スクリプト確認 （1時間）
9	Unit12 Citizen Journalism The September Issue	単語テスト６ On-the-Scene Reporting 映画６	語彙暗記　読み直し　スクリプト確認 （1時間）
10	Unit12 Citizen Journalism The September Issue	単語テスト７ OHMYNEWS in Japan 映画７	語彙暗記　読み直し　スクリプト確認 （1時間）
11	Unit13 Online Shopping The September Issue	単語テスト８ E-Commerce Boom 映画８	語彙暗記　読み直し　スクリプト確認 （1時間）
12	テスト Unit13 Online Shopping The September Issue Mobile Email	第三回チェックテスト On line Shopong and Social Networks 映画９	テスト勉強 語彙暗記　読み直し　スクリプト確認 （1時間）
13	Unit14 Internet Advertising September Issue	単語テスト９ Cyberspace Sales 映画１０	語彙暗記　読み直し　スクリプト確認 （1時間）
14	Unit14 Internet Advertising September Issue	単語テスト１０ Japan connected to Advertising 映画調整日	語彙暗記　読み直し　スクリプト確認 （1時間）
15	テスト 復習	第四回チェックテスト review	語彙暗記　テスト勉強 （1時間）

関連科目	他の英語か目全般
教科書	

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>English for the Digital World</td><td>Mprma Reveler ほか</td><td>三修社</td></tr>
<tr><td>2</td><td>The September Issue ファッションが教えてくれる事</td><td>板倉厳一郎 他</td><td>松柏社</td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>平常点（授業態度　小テスト　宿題　提出物等）の成績を総合的に評価する。
単語テスト　３点X10回
チェックテスト　１５点X４回
参加点　10点</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>面白い内容で教材がそろえられたと思うので頑張りましょう。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>非常勤控室　（7号館2階）　木曜日</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。</td></tr>
</table>

科目名	異文化コミュニケーション論	科目名（英文）	Cross-Cultural Communication
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇　薫
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2△		

授業概要・目的	・この科目は、「外国語専門職プログラム」および「国際教養プログラム」対応科目です。 ・人間の使う言葉・行動・価値の置き方には、文化の違いが反映されています。この授業では、自文化を知り、他文化を尊重し、価値観を尊重しながら、異なる文化を持つ人々とどのようにつきあっていくかを考えること、文化の多様性を受け入れること、価値観の違いを乗り越えて意志疎通を図ることの意義や実践法を学びます。
到達目標	・異文化コミュニケーションに関する専門用語を理解し、基礎的な知識を得る。 ・異文化経験の具体的な事例について、観察・分析し、考察することができる。
授業方法と留意点	・講義 教科書の内容は熟読する。 ・タスク 異文化コミュニケーションについて考えるタスク・活動を行う。授業外の課題として行うものもある。グループワーク、発表も含まれる。 （授業の進行状況により、授業テーマの順番や内容が多少変更することがあります）
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の概要・進め方・評価について・学習にあたっての留意事項	プリント熟読
2	異文化コミュニケーションとは（1）	講義、タスク	プリント熟読 授業で出された課題
3	異文化コミュニケーションとは（1）	講義、タスク	プリント熟読 授業で出された課題
4	異文化適応	講義、タスク	プリント熟読 授業で出された課題
5	問題となる異文化コミュニケーション（1）	講義、タスク	プリント熟読 授業で出された課題
6	問題となる異文化コミュニケーション（2）	講義、タスク	プリント熟読 授業で出された課題
7	比較する	講義、タスク	プリント熟読 授業で出された課題
8	言語コミュニケーション（1）	講義、タスク	プリント熟読 授業で出された課題
9	言語コミュニケーション（2）	講義、タスク	プリント熟読 授業で出された課題
10	非言語コミュニケーション	講義、タスク	プリント熟読 授業で出された課題
11	外国語の学習	ゲストスピーカー（予定）・グループディスカッション	プリント熟読 授業で出された課題
12	異文化ビジネスコミュニケーション	講義、タスク	プリント熟読 授業で出された課題
13	異文化コミュニケーションスキル・トレーニング	講義、タスク	プリント熟読 授業で出された課題
14	多文化共生社会と日本語教育	講義、タスク	総復習
15	総復習・確認テスト	総復習・テスト	授業の振り返り

関連科目	外国語専門職プログラム・国際教養プログラム科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリントを配布する		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	異文化コミュニケーションの AtoZ　-理論と実践の両面からわかる-	小坂貴志	研究社
2	多文化共生のための異文化コミュニケーション	原澤伊都夫	明石書店
3	その他は授業で指示する		

評価方法（基準）	課題及びレポート（30%）・授業への参加度(10%)・テスト（60%)により総合的に評価する。
学生へのメッセージ	外国語を学習している皆さんにとって、「異文化コミュニケーション」について学ぶことは非常に大切なことです。 授業を通して多くの「気づき」が生じると思います。事前・事後学習が求められます（各 1.5H）
担当者の研究室等	7 号館 4 階（門脇研究室）
備考	

科目名	異文化接触論	科目名（英文）	Cultural Interactions
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	篠原　愛人
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的

小学校低学年用の偉人伝にもコロンブスは必ずと言ってよいほど入っている。また３年生くらいでも「コロンブスは１４９２年にアメリカを発見した」のは半ば常識化しており、「歴史的事実」ととらえられている。果たしてそうだろうか。

16 世紀はじめ、後に新大陸と呼ばれる土地に住んでいた人びとは、顔つきや言葉、服装も異なる人間と出会った。この異文化接触によってラテンアメリカには独特な文化が生み出されることになった。異文化と遭遇したとき、人びとは他者を、また異文化をどのように理解し、どのように自文化と関連付けるのだろうか。

本講義では、大航海時代にアメリカ大陸で遭遇した複数の文化がどのように相手を、またその文化を認識し、理解（誤解）したのかを資料を通してなぞっていく。

到達目標

歴史資料の読み方を身につける。異文化理解のさまざまなあり方を知る。

授業方法と留意点

授業では毎回プリントを配布するが、必要に応じてレポート等の課題を課す。
専用のファイルを用意して資料を管理する必要がある。資料を事前に配布する場合は、よく読んでおくこと。事前・事後学修に各１時間を要する。

科目学習の効果（資格）

異文化とは何か、他者とは何かについて考えることをとおして、自文化や自己を相対化する視点を養う。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに 文明の接触：「ラテンアメリカ」のあけぼの	講義の全体構想と授業の進め方の説明 「ラテン」という形容詞をともなうアメリカがいかにして生み出されたのか考える。	配布資料を読んでおくこと
2	中世･ルネサンス時代のヨーロッパと異文化理解	コロンブスはどのような世界に出会えると想像していたか	配布資料を読んでおくこと
3	コロンブスの異文化理解（1）	航海日誌などを読む	配布資料を読んでおくこと
4	コロンブスの異文化理解（2）	航海日誌などを読む	配布資料を読んでおくこと
5	アメリゴ･ヴェスプッチの異文化理解	アメリゴの書簡を読む	配布資料を読んでおくこと
6	その他の植民者の異文化理解	植民者らの書簡を読む	配布資料を読んでおくこと
7	メソアメリカの人々と文化	ヨーロッパ人到来前のアメリカ大陸に存在していた社会について考える。	配布資料を読んでおくこと
8	メソアメリカの征服	アステカ王国の征服プロセス	配布資料を読んでおくこと
9	征服者の視点（1）	エルナン・コルテスの書簡を読む	配布資料を読んでおくこと
10	征服者の視点（2）	一兵士の報告を読む	配布資料を読んでおくこと
11	精神的征服	カトリックの伝道事業	配布資料を読んでおくこと
12	修道士の視点（1）	修道士の書簡を読む	配布資料を読んでおくこと
13	修道士の視点（2）	修道士の書簡を読む	配布資料を読んでおくこと
14	先住民の視点	先住民文書を読む	配布資料を読んでおくこと
15	おわりに	講義全体のまとめと試験（レポート）に関する手引き	試験（レポート）に備えること

関連科目

スペイン語圏概論、エリアスタディーズ（ラテンアメリカ）など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ラテンアメリカの歴史	染田秀藤・篠原愛人	世界思想社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

（1）ときどき実施する中間テスト　２０％
（2）授業で指示するレポート　４０％
（3）期末テスト　４０％

学生へのメッセージ

異文化との接触を通して、相手を理解しようとするだけでなく、自分をよりよく知ることにつながればいいですね。

担当者の研究室等

７号館５階（篠原研究室）

備考

受講生の関心や予備知識によって授業内容を一部変更する可能性がある。

科目名	異文化ビジネス論	科目名（英文）	Cross-Cultural Business
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中島　直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	本授業は、国際キャリアコースの６つのパッケージプログラムのうち、「国際ビジネス」プログラムに対応する科目です。グローバルとローカルの両方の視点から、実際の企業ビジネスの事例に注目しなから、文化との関係について学ぶことを目的とします。
到達目標	国や地域によって異なる文化について、日本と比較しながら理解を深めるとともに、国際ビジネスの現状や今後の展開について考察することを目標とします。
授業方法と留意点	アクティブラーニングの手法に基づいて、グループワークを中心に行います。 全グループに、学外での調査活動と、それに基づく研究発表（プレゼンテーション）を義務づけます。よって、行動力や協調性が重視されるといえるでしょう。
科目学習の効果（資格）	文化演習（３ゼミ）などの研究にも役立つでしょう。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・オリエンテーション ・レポートの書き方について	・授業の内容や方法などについて詳しく説明する。 ・レポートの書き方について、ビジネス文書の書式と同じであることを意識しながら要点を整理する。	授業の内容・方法、レポートの書き方などをしっかりと確認する。
2	ビジネスを異文化の観点から考察する（1）	「雑貨・インテリア・家具」などの業界に焦点を当て、日本と外資系の企業のビジネスモデルの違いなどに注目しながら、具体的な事例とともに学ぶ。	授業の内容を整理し、さらに自分で調べたことと合わせてレポートを作成する。
3	ビジネスを異文化の観点から考察する（2）	「アパレル」の業界に焦点を当て、日本と外資系の企業のビジネスモデルの違いなどに注目しながら、具体的な事例とともに学ぶ。	授業の内容を整理し、さらに自分で調べたことと合わせてレポートを作成する。
4	ビジネスを異文化の観点から考察する（3）	文字や模様といった「デザイン」とビジネスの関係に注目し、日本と海外の違いなども含めて、企業の具体的な事例とともに学ぶ。	授業の内容を整理し、さらに自分で調べたことと合わせてレポートを作成する。
5	・プレゼンテーションのスキル ・研究発表の詳細について	・プレゼンのスキルについて、ビジネスの事例とともに要点を確認する。 ・研究発表のグループメンバー、テーマ、発表日等を決定する。	・研究発表のグループメンバーを事前に調整し、テーマについて考えておく。 ・グループごとに、今後の研究計画について検討する。
6	ビジネスを宗教の観点から考察する（1）	・３大宗教の基礎知識を確認する。 ・アメリカにおけるキリスト教やユダヤ教、インドにおけるカーストなどに着目し、ビジネスに対する影響力などを考察する。	・授業の内容を整理し、さらに自分で調べたことと合わせてレポートを作成する。 ・グループごとに研究活動を計画的に進めていく。
7	ビジネスを宗教の観点から考察する（2）	特にイスラム教に焦点を当て、ハラル認証やラマダン（断食月）などとビジネスの関係について、企業の具体的な事例とともに考察する。	・授業の内容を整理し、さらに自分で調べたことと合わせてレポートを作成する。 ・グループごとに研究活動を計画的に進めていく。
8	文化による違いに注目し、ビジネスに活かした成功例	日本のグローバル企業を中心に、文化による発想や習慣の違いをビジネスに活かした事例ついて考察する。	・授業の内容を整理し、さらに自分で調べたことと合わせてレポートを作成する。 ・グループごとに研究活動を計画的に進めていく。
9	グループディスカッション	グループごとに、与えられた課題（異文化ビジネスに関するテーマ）について議論し、結論を導き出す。	・これまでのレポートをまとめて提出する。 ・グループごとに研究活動を計画的に進めていく。
10	研究発表（プレゼンテーション）（1）	順番に、グループによる研究発表（プレゼンテーション）を行うとともに、フロアとの質疑応答により考察を深めていく。	・発表担当のグループは、しっかりとその準備を行う。 ・他のグループは、自分たちの研究活動の総仕上げをする。
11	研究発表（プレゼンテーション）（2）	順番に、グループによる研究発表（プレゼンテーション）を行うとともに、フロアとの質疑応答により考察を深めていく。	・発表担当のグループは、しっかりとその準備を行う。 ・他のグループは、自分たちの研究活動の総仕上げをする。
12	研究発表（プレゼンテーション）（3）	順番に、グループによる研究発表（プレゼンテーション）を行うとともに、フロアとの質疑応答により考察を深めていく。	・発表担当のグループは、しっかりとその準備を行う。 ・他のグループは、自分たちの研究活動の総仕上げをする。
13	研究発表（プレゼンテーション）（4）	順番に、グループによる研究発表（プレゼンテーション）を行うとともに、フロアとの質疑応答により考察を深めていく。	・発表担当のグループは、しっかりとその準備を行う。 ・他のグループは、自分たちの研究活動の総仕上げをする。
14	研究発表（プレゼンテーション）（5）	順番に、グループによる研究発表（プレゼンテーション）を行うとともに、フロアとの質疑応答により考察を深めていく。	・発表担当のグループは、しっかりとその準備を行う。 ・他のグループは、自分たちの研究活動の総仕上げをする。
15	まとめ（総括）	・研究発表（プレゼンテーション）の総評を行う。 ・レポートの総評を行う。	これまでに学んだ内容の要点を整理する。

関連科目	「地域と国際ビジネス」やその他の国際ビジネスプログラム科目など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	（必要に応じて指示します）		

	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	（必要に応じて指示します）		
2			
3			

評価方法 （基準）	研究発表（プレゼンテーション）（４０％）、 レポート（４０％）、 授業に取り組む姿勢など（２０％） を合わせて評価します。 ※ただし、原則として、出席率８０％以上の学生のみを成績評価の対象とします。
学生への メッセージ	・社会人の仕事でもチームワークが重要です。この授業でも積極的かつ協調的な姿勢を大切にしてほしいと思います。 ・また、英語プロフェッショナルコースの学生も履修できますので、将来、国際ビジネスの分野で活躍したい人は、ぜひ学んでみてください。
担当者の 研究室等	７号館４階　（中島研究室）
備考	事前・事後学習の総時間数は、２５～３０時間を目安としてください。

科目名	イベント企画論	科目名（英文）	Event Planning
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田浦　アマンダ
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	This course will be examine tourism events and experiences in the leisure industry around the world. An overview of the history, reasons for holding the events, planning, arrangements and organization of events will provide the focus of the course. ※なお、この科目は、「観光ホスピタリティ」および「メディアビジネス」プログラムの対応科目です。
到達目標	Students will demonstrate an understanding of the roles and significance of tourism events and experiences in past and present societies, and knowledge of the factors surrounding the process of organizing an event. Students will work collaboratively to research and attend a special event and demonstrate knowledge of the key concepts involved in the planning and staging of that special event.
授業方法と留意点	Background readings in English will be provided on the topic of the lectures about the events that the students will prepare for homework prior to the class. The class will be interactive including a lecture, note-taking to produce a portfolio of information about event tourism, group summaries, and a review quiz to confirm understanding of the key concepts in English.
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction to Leisure Behaviour and the Event Industry / Groups for Presentations / Note-taking and the Lecture Portfolio	An introduction to the course, and the creation of pairs for discussion and groups for the final presentation. This class is very important to attend.	Readings for the course will be provided for homework. reading 1: Music Festivals
2	Iconic Music Festivals	Review quiz on homework reading, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Content quiz, Visuals, Group discussion	Reading 2: Food festivals
3	Food Festivals	Review quiz on homework reading, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Content quiz, Visuals, Group discussion	Reading 3: Religion-based Events
4	Religion-based Events	Review quiz on homework reading, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Content quiz, Visuals, Group discussion	Reading 4: Political Events
5	Political Events	Review quiz on homework reading, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Content quiz, Visuals, Group discussion	Reading 5: Beer and Wine Festivals
6	Beer and Wine Festivals	Review quiz on homework reading, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Content quiz, Visuals, Group discussion	Reading 6: Flower Festivals
7	Flower Festivals	Review quiz on homework reading, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Content quiz, Visuals, Group discussion	Reading 7: Sporting Events
8	Sporting Events	Review quiz on homework reading, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Content quiz, Visuals, Group discussion	Reading 8: Comedy Festivals
9	Comedy Festivals	Review quiz on homework reading, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Content quiz, Visuals, Group discussion	Reading 9: Christmas Market Events
10	Christmas Market Events	Review quiz on homework reading, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Content quiz, Visuals, Group discussion	Reading 10: The Experience Industry - Walking Trails
11	The Experience Industry Walking Trails	Review quiz on homework reading, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Content quiz, Visuals, Group discussion	Reading 11: Different Dining Experiences
12	Different Dining Experiences	Review quiz on homework reading, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Content quiz, Visuals, Group discussion	Portfolio summaries
13	Review - Portfolio catch-up	Group discussion on the summaries in the lecture portfolio	Powerpoint preparation for group presentations - hand in today
14	Group Presentations on the Events attended	Evaluations	
15	Group Presentations on the Events attended	Evaluations	

関連科目	「観光ホスピタリティ」や「メディアビジネス」プログラムの他の科目など。
教科書	

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
評価方法 （基準）	Group-based Presentation on an event 20% In-lecture quizzes on class content 20% Homework Readings review quizzes 20% Portfolio of Lecture Notes 20% Class attitude 20%
学生への メッセージ	Enjoy finding out about events all over the world while using English in a meaningful way.
担当者の 研究室等	Building 7, 5th floor
備考	

科目名	English for Global Communication a	科目名（英文）	English for Global Communication a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	フーパー　トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	留学で身につけた英語力を発展させ、英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、主張したい点を順序良く提示しながら、自分に関連する事項・専門分野に関して、英語で流暢に紹介や説明ができるようになる。また、自分の経験したことについて、どのような感情を持ち、どのように反応したかということに触れながら詳細に説明できる。
授業方法と留意点	授業はすべて英語で行われる。学内外で行われる各種英語コンテストへの出場を前提とした発話訓練を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Psychology "Happiness"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
2	Psychology "Happiness"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
3	Linguistics "CPH"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
4	Linguistics "CPH"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
5	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
6	Public Health "Sleep"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
7	Public Health "Sleep"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
8	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
9	Business "Negotiating"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
10	Business "Negotiating"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
11	Art History "Modern Art"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
12	Art History "Modern Art"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
13	Engineering "Robots"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
14	Engineering "Robots"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
15	Flex Week	まとめのプレゼンテーション	総復習

関連科目：Comprehensive English a, English Writing Workshop a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	共通課題(プレゼンテーション)15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　85%
学生へのメッセージ	You will learn discussion strategies to talk about the topics that you learned about in Comprehensive English. The topics may be challenging, so please come with an open mind and be ready to challenge yourself. Don't be shy to express your ideas.
担当者の研究室等	７号館３階　フーパー研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	English for Global Communication a	科目名（英文）	English for Global Communication a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アイビス　ウイリアム
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	留学で身につけた英語力を発展させ、英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、主張したい点を順序良く提示しながら、自分に関連する事項・専門分野に関して、英語で流暢に紹介や説明ができるようになる。また、自分の経験したことについて、どのような感情を持ち、どのように反応したかということに触れながら詳細に説明できる。
授業方法と留意点	授業はすべて英語で行われる。学内外で行われる各種英語コンテストへの出場を前提とした発話訓練を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Psychology "Happiness"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
2	Psychology "Happiness"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
3	Linguistics "CPH"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
4	Linguistics "CPH"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
5	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
6	Public Health "Sleep"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
7	Public Health "Sleep"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
8	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
9	Business "Negotiating"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
10	Business "Negotiating"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
11	Art History "Modern Art"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
12	Art History "Modern Art"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
13	Engineering "Robots"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
14	Engineering "Robots"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
15	Flex Week	まとめのプレゼンテーション	総復習

関連科目：Comprehensive English a, English Writing Workshop a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	共通課題(プレゼンテーション)15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　85%
学生へのメッセージ	Learning a new language is different from learning other subjects you may be taking. To succeed you must continually learn new vocabulary, discover new communication strategies and speak whenever given the chance. For this reason it is very important to attend every class and try your best to actively speak and listen. If you do this, your communication skills will definitely improve.
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	English for Global Communication a	科目名（英文）	English for Global Communication a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ﾘﾁｬｰﾄﾞ ﾀﾞｨｱｰｽ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	留学で身につけた英語力を発展させ、英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、主張したい点を順序良く提示しながら、自分に関連する事項・専門分野に関して、英語で流暢に紹介や説明ができるようになる。また、自分の経験したことについて、どのような感情を持ち、どのように反応したかということに触れながら詳細に説明できる。
授業方法と留意点	授業はすべて英語で行われる。学内外で行われる各種英語コンテストへの出場を前提とした発話訓練を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Psychology "Happiness"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
2	Psychology "Happiness"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
3	Linguistics "CPH"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
4	Linguistics "CPH"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
5	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
6	Public Health "Sleep"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
7	Public Health "Sleep"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
8	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
9	Business "Negotiating"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
10	Business "Negotiating"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
11	Art History "Modern Art"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
12	Art History "Modern Art"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
13	Engineering "Robots"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
14	Engineering "Robots"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
15	Flex Week	まとめのプレゼンテーション	総復習

関連科目：Comprehensive English a, English Writing Workshop a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	共通課題(プレゼンテーション)15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　85%
学生へのメッセージ	Please bring a pen, pencil, paper and dictionary (or smart phone) to class. Please don`t be shy to speak and make mistakes.
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	English for Global Communication a	科目名（英文）	English for Global Communication a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田浦　アマンダ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	留学で身につけた英語力を発展させ、英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、主張したい点を順序良く提示しながら、自分に関連する事項・専門分野に関して、英語で流暢に紹介や説明ができるようになる。また、自分の経験したことについて、どのような感情を持ち、どのように反応したかということに触れながら詳細に説明できる。
授業方法と留意点	授業はすべて英語で行われる。学内外で行われる各種英語コンテストへの出場を前提とした発話訓練を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Psychology "Happiness"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
2	Psychology "Happiness"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
3	Linguistics "CPH"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
4	Linguistics "CPH"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
5	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
6	Public Health "Sleep"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
7	Public Health "Sleep"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
8	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
9	Business "Negotiating"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
10	Business "Negotiating"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
11	Art History "Modern Art"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
12	Art History "Modern Art"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
13	Engineering "Robots"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
14	Engineering "Robots"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
15	Flex Week	まとめのプレゼンテーション	総復習

関連科目：Comprehensive English a, English Writing Workshop a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

共通課題(プレゼンテーション)15%
Class attitude 30% (enthusiasm, willingness to participate, willingness to take leadership in discussion, on time attendance, preparation before and reviewing after the classes) 、
Quizzes 20%, Portfolio writing assignments 25%
Staying in the English Zone 10%

学生へのメッセージ

Talk - this is your chance to keep on improving your academic English skills.
Use a dictionary in class, always take notes while studying in class and stay in the English-only zone

担当者の研究室等：Building 7, 5th floor, Amanda Taura's office

備考：毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	English for Global Communication b	科目名（英文）	English for Global Communication b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	フーパー　トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	English for Global Communication(a)に引き続き、英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	CEFR-J [B1-2]を目標とし、社会生活上の問題に直面した時にそれを説明することができるようになる。その結果、正しい処置やサービス等を実現できるようになる。また、関心のある社会状況について、自分の意見を言うことができる。
授業方法と留意点	授業はすべて英語で行われる。学内外で行われる各種英語コンテストへの出場を前提とした発話訓練を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Media Studies "Interactive Games"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
2	Media Studies "Interactive Games"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
3	Biology "Genetically Modified Food"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
4	Biology "Genetically Modified Food"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
5	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
6	Business "Design Thinking"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
7	Business "Design Thinking"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
8	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
9	History "Shackleton"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
10	History "Shackleton"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
11	Philosophy "Ethics"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
12	Philosophy "Ethics"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
13	Information Technology "Big Data"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
14	Information Technology "Big Data"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
15	Flex Week	まとめのプレゼンテーション	総復習

関連科目：Comprehensive English b, English Writing Workshop b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	共通課題(プレゼンテーション)15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　85%
学生へのメッセージ	You will learn discussion strategies to talk about the topics that you learned about in Comprehensive English. The topics may be challenging, so please come with an open mind and be ready to challenge yourself. Don't be shy to express your ideas.
担当者の研究室等	７号館３階　フーパー研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	English for Global Communication b	科目名（英文）	English for Global Communication b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	アイビス　ウイリアム
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	English for Global Communication(a)に引き続き、英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	CEFR-J [B1-2]を目標とし、社会生活上の問題に直面した時にそれを説明することができるようになる。その結果、正しい処置やサービス等を実現できるようになる。また、関心のある社会状況について、自分の意見を言うことができる。
授業方法と留意点	授業はすべて英語で行われる。学内外で行われる各種英語コンテストへの出場を前提とした発話訓練を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Media Studies "Interactive Games"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
2	Media Studies "Interactive Games"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
3	Biology "Genetically Modified Food"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
4	Biology "Genetically Modified Food"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
5	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
6	Business "Design Thinking"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
7	Business "Design Thinking"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
8	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
9	History "Shackleton"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
10	History "Shackleton"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
11	Philosophy "Ethics"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
12	Philosophy "Ethics"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
13	Information Technology "Big Data"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
14	Information Technology "Big Data"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
15	Flex Week	まとめのプレゼンテーション	総復習

関連科目：Comprehensive English b, English Writing Workshop b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	共通課題(プレゼンテーション)15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　85%
学生へのメッセージ	Learning a new language is different from learning other subjects you may be taking. To succeed you must continually learn new vocabulary, discover new communication strategies and speak whenever given the chance. For this reason it is very important to attend every class and try your best to actively speak and listen. If you do this, your communication skills will definitely improve.
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	English for Global Communication b	科目名（英文）	English for Global Communication b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ﾘﾁｬｰﾄﾞ ﾀﾞｨｱｰｽ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	English for Global Communication(a)に引き続き、英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	CEFR-J [B1-2]を目標とし、社会生活上の問題に直面した時にそれを説明することができるようになる。その結果、正しい処置やサービス等を実現できるようになる。また、関心のある社会状況について、自分の意見を言うことができる。
授業方法と留意点	授業はすべて英語で行われる。学内外で行われる各種英語コンテストへの出場を前提とした発話訓練を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Media Studies "Interactive Games"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
2	Media Studies "Interactive Games"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
3	Biology "Genetically Modified Food"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
4	Biology "Genetically Modified Food"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
5	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
6	Business "Design Thinking"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
7	Business "Design Thinking"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
8	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
9	History "Shackleton"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
10	History "Shackleton"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
11	Philosophy "Ethics"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
12	Philosophy "Ethics"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
13	Information Technology "Big Data"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
14	Information Technology "Big Data"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
15	Flex Week	まとめのプレゼンテーション	総復習

関連科目：Comprehensive English b, English Writing Workshop b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	共通課題(プレゼンテーション)15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　85%
学生へのメッセージ	Please bring a pen, pencil, paper and dictionary (or smart phone) to class. Please don`t be shy to speak and make mistakes.
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	English for Global Communication b	科目名（英文）	English for Global Communication b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田浦　アマンダ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	English for Global Communication(a)に引き続き、英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	CEFR-J [B1-2]を目標とし、社会生活上の問題に直面した時にそれを説明することができるようになる。その結果、正しい処置やサービス等を実現できるようになる。また、関心のある社会状況について、自分の意見を言うことができる。
授業方法と留意点	授業はすべて英語で行われる。学内外で行われる各種英語コンテストへの出場を前提とした発話訓練を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Media Studies "Interactive Games"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
2	Media Studies "Interactive Games"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
3	Biology "Genetically Modified Food"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
4	Biology "Genetically Modified Food"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
5	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
6	Business "Design Thinking"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
7	Business "Design Thinking"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
8	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
9	History "Shackleton"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
10	History "Shackleton"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
11	Philosophy "Ethics"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
12	Philosophy "Ethics"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
13	Information Technology "Big Data"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
14	Information Technology "Big Data"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
15	Flex Week	まとめのプレゼンテーション	総復習

関連科目：Comprehensive English b, English Writing Workshop b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

Final Discussion Presentation（共通課題） 15%
Class attitude 30% (enthusiasm, willingness to participate, willingness to take leadership in discussion, on time attendance, preparation before and reviewing after the classes）、
Quizzes 20%, Portfolio writing assignments 25%
Staying in the English Zone 10%

学生へのメッセージ：Talk only in English- this is your chance to keep on improving your academic English skills.

担当者の研究室等：Building 7, 5th floor, Amanda Taura's office

備考：毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	English for TOEFL	科目名（英文）	English for TOEFL
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	ＡＢ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	皆本　智美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	TOEFL 受験に必要なボキャブラリー増強と、リスニング、リーディングのスキル向上をはかる。まず TOEFL の概要をつかみ、TOEFL に対応する幅広いトピックにふれると同時に、英語による正確な聞き取り・読み取り能力を身に付ける。
到達目標	TOEFL の問題形式や傾向を理解し、アカデミックな知識・関心を広げ、４技能をバランスよく伸ばすことを目標にする。
授業方法と留意点	TOEFL の対策授業を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEFL, TOEIC, 英検のスコア・アップ

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容と説明	授業内容の復習
2	Listening	Understanding agreement and disagreement (short dialogues)	第 2 回授業の予習
3	Listening	Understanding gist (extended conversations/academic mini-talks)	第 3 回授業の予習
4	Structure	Verb tenses (present simple, present progressive, past simple, past progressive)	第 4 回授業の予習
5	Structure	Verb tenses (present perfect, past perfect, future perfect)	第 5 回授業の予習
6	Reading	Understanding gist	第 6 回授業の予習
7	Reading	Understanding purpose	第 7 回授業の予習
8	Listening	Understanding negatives (short dialogues)	第 8 回授業の予習
9	Listening	Understanding specific information (extended conversations/academic mini-talks)	第 9 回授業の予習
10	Structure	Articles	第 10 回授業の予習
11	Structure	Comparatives and superlatives	第 11 回授業の予習
12	Reading	Understanding specific information	第 12 回授業の予習
13	Reading	Understanding pronoun reference	第 13 回授業の予習
14	弱点克服１	特に苦手とするセクション解答のポイントを学ぶ	第 14 回授業の予習
15	弱点克服２	特に苦手とするセクション解答のポイントを学ぶ	第 15 回授業の予習

関連科目：Academic Reading, Academic Writing, Integrated Skills Training, Practical English Conversation

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Boost Your English	Makoto Shishido etc.	SEIBIDO
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	TOEFL-ITP 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題等　70%
学生へのメッセージ	TOEFL の得点を上げるには、さまざまなアカデミック英語に慣れる必要があります。最初はわからなくてもあきらめず、少しずつ慣れていきましょう。
担当者の研究室等	７号館４階　皆本研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	English for TOEFL	科目名（英文）	English for TOEFL
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	ＣＤ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大原関　一浩
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	TOEFL 受験に必要なボキャブラリー増強と、リスニング、リーディングのスキル向上をはかる。まず TOEFL の概要をつかみ、TOEFL に対応する幅広いトピックにふれると同時に、英語による正確な聞き取り・読み取り能力を身に付ける。
到達目標	TOEFL の問題形式や傾向を理解し、アカデミックな知識・関心を広げ、４技能をバランスよく伸ばすことを目標にする。
授業方法と留意点	TOEFL の対策授業を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEFL, TOEIC, 英検のスコア・アップ

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容と説明	授業内容の復習
2	Module 1, Lesson 1 Listening	Understanding agreement and disagreement (short dialogues)	第 2 回授業の予習
3	Module 1, Lesson 2 Listening	Understanding gist (extended conversations/academic mini-talks)	第 3 回授業の予習
4	Module 1, Lesson 3 Structure	Verb tenses (present simple, present progressive, past simple, past progressive)	第 4 回授業の予習
5	Module 1, Lesson 4 Structure	Verb tenses (present perfect, past perfect, future perfect)	第 5 回授業の予習
6	Module 1, Lesson 5 Reading	Understanding gist	第 6 回授業の予習
7	Module 1, Lesson 6 Reading	Understanding purpose	第 7 回授業の予習
8	確認テスト１	Lesson 1 Module 1～6 の理解度を測るテスト	確認テスト 1 の準備
9	Module 2, Lesson 1 Listening	Understanding negatives (short dialogues)	第 9 回授業の予習
10	Module 2, Lesson 2 Listening	Understanding specific information (extended conversations/academic mini-talks)	第 10 回授業の予習
11	Module 2, Lesson 3 Structure	Articles	第 11 回授業の予習
12	Module 2, Lesson 4 Structure	Comparatives and superlatives	第 12 回授業の予習
13	Module 2, Lesson 5 Reading	Understanding pronoun reference	第 13 回授業の予習
14	Module 2, Lesson 6 Reading	Understanding pronoun reference	第 14 回授業の予習
15	確認テスト２	Lesson 2 Module 1～6 の理解度を測るテスト	確認テスト 2 の準備

関連科目：Academic Reading, Academic Writing, Integrated Skills Training, Practical English Conversation

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Boost Your English１（初級）	Makoto Shishido etc.	SEIBIDO
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	確認テスト１：２０％ 確認テスト２：２０％ TOEFL ITP の成績：３０％ 平常点（授業の態度、課題への取り組み）：３０％
学生へのメッセージ	TOEFL の得点を上げるには、さまざまなアカデミック英語に慣れる必要があります。最初はわからなくてもあきらめず、少しずつ慣れていきましょう。
担当者の研究室等	大原関研究室（７号館５階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	イングリッシュ　プレゼンテーションⅠb	科目名（英文）	English Presentation Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	マイケル　ハーキー
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル（身振り、姿勢、話し方など）や発表構成（導入・展開・結論）を修得する。
到達目標	CEFR-J [A1.1-3]を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報（自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること）を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	ハンドアウトや ICT を使って、1 人 5 分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
2	Exercises : Description and Layout	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
3	Exercises : Description and Layout	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
4	Exercises : Description and Layout	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
5	Exercises:Definition, Comparison and Contrast	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
6	Exercises:Definition, Comparison and Contrast	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
7	Exercises:Definition, Comparison and Contrast	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
8	Exercises:Visual　Support Materials	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
9	Exercises:Visual　Support Materials	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
10	Exercises:Visual　Support Materials	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
11	Exercises:Giving Presentations	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
12	Exercises:Giving Presentations	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
13	Exercises:Peer evaluation	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
14	Exercises:Peer evaluation	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	Review	Feedback session	・・・

関連科目	ドラマ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	プレゼンテーション　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	The quality of your voice and pronunciation is just as important as the content of your speech. Audiences listen to passionate speakers. Let's present from the heart.
担当者の研究室等	7 号館 3 階　Herke 研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

専門科目

科目名	イングリッシュ　プレゼンテーションⅠb	科目名（英文）	English Presentation Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	スコット　ライリー
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料やICTを用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル（身振り、姿勢、話し方など）や発表構成（導入・展開・結論）を修得する。
到達目標	CEFR-J [A1.1-3]を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報（自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること）を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	学期末に、ハンドアウトやICTを使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 1: A new club member. Giving a presentation on another person.	Orientation and self introductions	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
2	Unit 1: A new club member. Giving a presentation on another person.	Posture and Eye Contact	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
3	Class presentations	Gestures	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
4	Unit 2: A favourite place. Giving a presentation on a favourite location.	Voice Inflection	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
5	Unit 2: A favourite place. Giving a presentation on a favourite location.	Effective Visuals	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
6	Class presentations	Explaining Visuals	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
7	Unit 3: A prized possession. Giving a presentation on an object that is dear to you.	Preparing your presentation	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
8	Unit 3: A prized possession. Giving a presentation on an object that is dear to you.	Making your presentation in the class	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
9	Class presentations	The Introduction	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
10	Unit 4: A memorable experience. Giving a presentation on a memorable event in your life.	The Body	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
11	Unit 4: A memorable experience. Giving a presentation on a memorable event in your life.	The Conclusion	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
12	Class presentations	Designing a presentation outline	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
13	Unit 5: Show me how. Demonstrating how to do/make/operate something.	Effective use of palm cards	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
14	Unit 5: Show me how. Demonstrating how to do/make/operate something.	Rehearsing your presentation	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
15	Final class presentations	Making your presentation in the class	・・・

関連科目	ドラマ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Present Yourself 1: Experiences 2nd Edition	Gershon, S.	Cambridge University Press

		(ISBN: 9781107435636)		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	プレゼンテーション　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	You will be able to present in a small class, in a comfortable atmosphere, and enjoy improving your speaking skills with some valuable hints on making your presentation exciting. Those who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework will benefit most from this course. You will need a dictionary in this class.
担当者の 研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	イングリッシュ　プレゼンテーションⅠb	科目名（英文）	English Presentation Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	フーパー　トッド
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル（身振り、姿勢、話し方など）や発表構成（導入・展開・結論）を修得する。
到達目標	CEFR-J [A1.1-3]を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報（自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること）を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	学期末に、ハンドアウトや ICT を使って、1 人 5 分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Syllabus and Course Introduction and Unit 1	Write a presentation introduction.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson.
2	Unit 2	Write a presentation overview. Practice eye contact.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson.
3	Unit 3	Write a presentation body. Practice gestures for presentations.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson.
4	Unit 4	Write a presentation conclusion. Practice stage positioning.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson.
5	Presentation Planning 1	Prepare notes for the first presentation. Learn PowerPoint basics.	Students should prepare their ideas for their presentations.
6	Presentation 1	Present in front of the class.	Students should prepare their PowerPoint slides and practice for their presentations.
7	Unit 5	Learn new phrases for introducing ideas. Practice voice projection.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson.
8	Unit 6	Learn new phrases for paragraph transitions. Practice enunciation.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson.
9	Unit 7	Learn new phrases for introducing facts and opinions. Practice intonation.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson.
10	Unit 8	Write supporting evidence for your presentation. Practice pausing to make points clearer.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson.
11	Presentation Planning 2	Prepare notes for the second presentation. Learn advanced PowerPoint design.	Students should prepare their ideas for their presentations.
12	Presentation 2	Present in front of the class.	Students should prepare their PowerPoint slides and practice for their presentations.
13	"The Talk"	Learn how to give an interactive presentation. Practice asking the audience questions.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson.
14	Question and Answer Sessions	Practice answering questions from the audience.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson.
15	"The Talk" Presentation	Give a talk with a focus on on audience participation.	Students should prepare their visuals and practice for their talks.

関連科目	ドラマ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Successful Presentations: An Interactive Guide	Mark D. Stafford	Cengage Learning
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	プレゼンテーション　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	You will be able to present in a small class, in a comfortable atmosphere, and enjoy improving your speaking skills with some valuable hints on making your presentation exciting. Be prepared to share your ideas and opinions with everyone. You will need a dictionary in this class.
担当者の研究室等	7 号館 3 階フーパー研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	イングリッシュ　プレゼンテーションⅠb	科目名（英文）	English Presentation Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	ニ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル　マリンズ
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル（身振り、姿勢、話し方など）や発表構成（導入・展開・結論）を修得する。
到達目標	CEFR-J [A1.1-3]を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報（自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること）を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	学期末に、ハンドアウトや ICT を使って、1 人 5 分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 1: A new club member. Giving a presentation on another person.	Orientation and self introductions	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
2	Unit 1: A new club member. Giving a presentation on another person.	Posture and Eye Contact	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
3	Class presentations	Gestures	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
4	Unit 2: A favourite place. Giving a presentation on a favourite location.	Voice Inflection	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
5	Unit 2: A favourite place. Giving a presentation on a favourite location.	Effective Visuals	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
6	Class presentations	Explaining Visuals	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
7	Unit 3: A prized possession. Giving a presentation on an object that is dear to you.	Preparing your presentation	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
8	Unit 3: A prized possession. Giving a presentation on an object that is dear to you.	Making your presentation in the class	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
9	Class presentations	The Introduction	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
10	Unit 4: A memorable experience. Giving a presentation on a memorable event in your life.	The Body	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
11	Unit 4: A memorable experience. Giving a presentation on a memorable event in your life.	The Conclusion	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
12	Class presentations	Designing a presentation outline	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
13	Unit 5: Show me how. Demonstrating how to do/make/operate something.	Effective use of palm cards	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
14	Unit 5: Show me how. Demonstrating how to do/make/operate something.	Rehearsing your presentation	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
15	Final class presentations	Making your presentation in the class	・・・

関連科目	ドラマ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Present　Yourself　Level　1　Student's　Book	Gershon, S.	Cambridge University Press

		Experiences 2nd Edition (ISBN: 9781107435636)		
	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	プレゼンテーション　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	You will be able to present in a small class, in a comfortable atmosphere, and enjoy improving your speaking skills with some valuable hints on making your presentation exciting. Those who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework will benefit most from this course. Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. Do not be absent for more than four lessons or you will risk failing the course. If you are more than 30 minutes late for a class, it will be counted as an absence. You will need a dictionary in this class.
担当者の 研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	イングリッシュ　プレゼンテーションⅠｂ	科目名（英文）	English Presentation Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ニール　カー
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル（身振り、姿勢、話し方など）や発表構成（導入・展開・結論）を修得する。
到達目標	CEFR-J [A1.1-3]を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報（自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること）を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	学期末に、ハンドアウトや ICT を使って、1 人 5 分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
2	Unit 1	Posture and Eye Contact	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
3	Unit 2	Gestures	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
4	Unit 3	Voice Inflection	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
5	Unit 4	Effective Visuals	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
6	Unit 5	Explaining Visuals	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
7	Preparing for Presentation1	Preparing your presentation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
8	Presentation1	Making your presentation in the class	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
9	Unit 6	The Introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
10	Unit 7	The Body	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
11	Unit 8	The Conclusion	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
12	Preparing for Presentation2	Preparing your presentation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
13	Presentation2	Making your presentation in the class	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
14	Preparing for Final Presentation	Preparing your presentation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	Final Presentation	Making your presentation in the class	・・・

関連科目：ドラマ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Speaking of Speech: Basic Presentation Skills for Beginners	David Harrington and Charles LeBeau	Macmillan Education
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	プレゼンテーション　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	You will be able to present in a small class, in a comfortable atmosphere, and enjoy improving your speaking skills with some valuable hints on making your presentation exciting. Those who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework will benefit most from this course. You will need a dictionary in this class.
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	イングリッシュ　プレゼンテーションⅠb	科目名（英文）	English Presentation Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	マシュー　クーパー
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル（身振り、姿勢、話し方など）や発表構成（導入・展開・結論）を修得する。
到達目標	CEFR-J [A1.1-3]を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報（自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること）を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	学期末に、ハンドアウトや ICT を使って、1 人 5 分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
2	Exercises : Structure	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
3	Exercises : Structure	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
4	Exercises : Structure	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
5	Exercises:Audience Analysis	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
6	Exercises:Audience Analysis	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
7	Exercises:Audience Analysis	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
8	Exercises:Delivery	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
9	Exercises:Delivery	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
10	Exercises:Delivery	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
11	Exercises:Giving Presentations	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
12	Exercises:Giving Presentations	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
13	Exercises:Peer evaluation	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
14	Exercises:Peer evaluation	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	Review	Feedback session	・・・

関連科目	ドラマ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Present yourself 1 2nd edition	Steven Gershon	Cambridge
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	プレゼンテーション　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	英語での主張のために必要な証拠、事実について、それらの効果的な提示の方法について学びます。就職活動、仕事などに役立つ知識として身につけてほしいと思います。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	English Writing Workshop a	科目名（英文）	English Writing Workshop a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	ＡＢ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マイケル　ハーキー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	読解した英文の内容について、基本的な文法構造を用いて要約したり、自分の意見を含めたレポートやエッセイを書く演習を行う。
到達目標	CEFR-J [B1-2]を目標とし、複数のパラグラフでエッセイを書くことができるようになる。また、英文の引用方法など、アカデミックなエッセイ、レポートの書式に慣れる。
授業方法と留意点	・Comprehensive English a, English for Global Communication a と連動する。これらの授業で読解、議論しているテーマでレポートやエッセイを書く。 ・書式は、Setsunan Academic Essay Guideline に従う。 ・必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 1.1 Psychology Happiness	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
2	Unit 1.2 Psychology Happiness	Unit 1 Writing Task p. 11	Review unit language structures & watch the lecture.
3	Unit 2.1 Linguistics 'Critical Period Hypothesis'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
4	Unit 2.2 Linguistics 'Critical Period Hypothesis'	Unit 2 Writing Task p. 21	Review unit language structures & watch the lecture.
5	Review, consolidation.	Review, consolidation.	Review unit language structures & watch the lecture.
6	Unit 3.1 Public Health 'Sleep'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
7	Unit 3.1 Public Health 'Sleep'	Unit 3 Writing Task p. 31	Review unit language structures & watch the lecture.
8	Assessment	Midterm Test	Review unit language structures & watch the lecture.
9	Unit 4.1 Business 'Negotiating'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
10	Unit 4.2 Business 'Negotiating'	Unit 4 Unit Writing Task p. 41	Review unit language structures & watch the lecture.
11	Unit 5.1 Art History 'Modern Art'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
12	Unit 5.2 Art History 'Modern Art'	Unit 5 Writing Task p. 51	Review unit language structures & watch the lecture.
13	Unit 6.1 Engineering 'Robots'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
14	Unit 6.2 Engineering 'Robots'	Unit 6 Writing Task p.61	Review unit language structures & watch the lecture.
15	Assessment	Final Presentation	Review unit language structures & watch the lecture.

関連科目：Comprehensive English a, English for Global Communication a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）
共通課題(エッセイ課題) 20%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%

学生への メッセージ	The roots of education are bitter, but the fruit is sweet.
担当者の 研究室等	Building 7 3F Michael Herke
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	English Writing Workshop a	科目名（英文）	English Writing Workshop a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	ＣＤ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	杉浦　秀行
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	読解した英文の内容について、基本的な文法構造を用いて要約したり、自分の意見を含めたレポートやエッセイを書く演習を行う。
到達目標	CEFR-J [B1-2]を目標とし、複数のパラグラフでエッセイを書くことができるようになる。また、英文の引用方法など、アカデミックなエッセイ、レポートの書式に慣れる。
授業方法と留意点	・Comprehensive English a, English for Global Communication a と連動する。これらの授業で読解、議論しているテーマでレポートやエッセイを書く。 ・書式は、Setsunan Academic Essay Guideline に従う。 ・必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 1.1 Psychology Happiness	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
2	Unit 1.2 Psychology Happiness	Unit 1 Writing Task p. 11	Review unit language structures & watch the lecture.
3	Unit 2.1 Linguistics 'Critical Period Hypothesis'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
4	Unit 2.2 Linguistics 'Critical Period Hypothesis'	Unit 2 Writing Task p. 21	Review unit language structures & watch the lecture.
5	Review, consolidation.	Review, consolidation.	Review unit language structures & watch the lecture.
6	Unit 3.1 Public Health 'Sleep'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
7	Unit 3.1 Public Health 'Sleep'	Unit 3 Writing Task p. 31	Review unit language structures & watch the lecture.
8	Assessment	Midterm Test	Review unit language structures & watch the lecture.
9	Unit 4.1 Business 'Negotiating'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
10	Unit 4.2 Business 'Negotiating'	Unit 4 Unit Writing Task p. 41	Review unit language structures & watch the lecture.
11	Unit 5.1 Art History 'Modern Art'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
12	Unit 5.2 Art History 'Modern Art'	Unit 5 Writing Task p. 51	Review unit language structures & watch the lecture.
13	Unit 6.1 Engineering 'Robots'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
14	Unit 6.2 Engineering 'Robots'	Unit 6 Writing Task p.61	Review unit language structures & watch the lecture.
15	Assessment	Final Presentation	Review unit language structures & watch the lecture.

関連科目：Comprehensive English a, English for Global Communication a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）
共通課題(エッセイ課題) 20%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%

学生への メッセージ	ライティング・スキルをいっしょに磨きましょう！
担当者の 研究室等	７号館５階　杉浦研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	English Writing Workshop b	科目名（英文）	English Writing Workshop b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	ＡＢ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マイケル　ハーキー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	与えられたテーマと資料に基づき、ある程度の結束性のある英語エッセイや英語レポートを、幅広い語彙や文法構造を用いて書く演習を行う。
到達目標	CEFR-J [B2-1]を目標とし、読解した様々なトピックの情報とほかの情報源で得た情報を統合・整理し、それに対する自分の考えを根拠とともに示すことができるようになる。英文の引用方法など、アカデミックなエッセイ、レポートの書式に従った文書作成ができる。
授業方法と留意点	・Comprehensive English b, English for Global Communication b と連動する。これらの授業で読解、議論しているテーマでレポートやエッセイを書く。 ・書式は、Setsunan Academic Essay Guideline に従う。 ・必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 7.1 Media Studies 'Interactive Games'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 70	Review unit language structures & watch the lecture.
2	Unit 7.2 Media Studies 'Interactive Games'	Unit 7 Writing Task p. 71	Review unit language structures & watch the lecture.
3	Unit 8.1 Biology 'Genetically Modified Food'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 80	Review unit language structures & watch the lecture.
4	Unit 8.2 Biology 'Genetically Modified Food'	Unit 8 Writing Task p. 81	Review unit language structures & watch the lecture.
5	Review, consolidation.	Review, consolidation.	Review unit language structures & watch the lecture.
6	Unit 9.1 Business 'Design Thinking'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 90	Review unit language structures & watch the lecture.
7	Unit 9.2 Business 'Design Thinking'	Unit 3 Writing Task p. 91	Review unit language structures & watch the lecture.
8	Assessment	Midterm Test	Review unit language structures & watch the lecture.
9	Unit 10.1 History 'Shackleton'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 100	Review unit language structures & watch the lecture.
10	Unit 10.2 History 'Shackleton'	Unit 10 Writing Task p. 101	Review unit language structures & watch the lecture.
11	Unit 11.1 Philosophy 'Ethics'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 110	Review unit language structures & watch the lecture.
12	Unit 11.2 Philosophy 'Ethics'	Unit 11 Writing Task p. 111	Review unit language structures & watch the lecture.
13	Unit 12.1 Information Technology 'Big Data'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 120	Review unit language structures & watch the lecture.
14	Unit 12.2 Information Technology 'Big Data'	Unit 6 Writing Task p. 121	Review unit language structures & watch the lecture.
15	Assessment	Final Presentation	Review unit language structures & watch the lecture.

関連科目：Comprehensive English b, English for Global Communication b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	共通課題(エッセイ課題) 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	The roots of education are bitter, but the fruit is sweet.
担当者の研究室等	Building 7 3F Michael Herke
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	English Writing Workshop b	科目名（英文）	English Writing Workshop b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	ＣＤ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鈴木　大介
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	与えられたテーマと資料に基づき、ある程度の結束性のある英語エッセイや英語レポートを、幅広い語彙や文法構造を用いて書く演習を行う。
到達目標	CEFR-J [B2-1]を目標とし、読解した様々なトピックの情報とほかの情報源で得た情報を統合・整理し、それに対する自分の考えを根拠とともに示すことができるようになる。英文の引用方法など、アカデミックなエッセイ、レポートの書式に従った文書作成ができる。
授業方法と留意点	・Comprehensive English b, English for Global Communication b と連動する。これらの授業で読解、議論しているテーマでレポートやエッセイを書く。 ・書式は、Setsunan Academic Essay Guideline に従う。 ・必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 7.1 Media Studies 'Interactive Games'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 70	Review unit language structures & watch the lecture.
2	Unit 7.2 Media Studies 'Interactive Games'	Unit 7 Writing Task p. 71	Review unit language structures & watch the lecture.
3	Unit 8.1 Biology 'Genetically Modified Food'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 80	Review unit language structures & watch the lecture.
4	Unit 8.2 Biology 'Genetically Modified Food'	Unit 8 Writing Task p. 81	Review unit language structures & watch the lecture.
5	Review, consolidation.	Review, consolidation.	Review unit language structures & watch the lecture.
6	Unit 9.1 Business 'Design Thinking'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 90	Review unit language structures & watch the lecture.
7	Unit 9.2 Business 'Design Thinking'	Unit 3 Writing Task p. 91	Review unit language structures & watch the lecture.
8	Assessment	Midterm Test	Review unit language structures & watch the lecture.
9	Unit 10.1 History 'Shackleton'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 100	Review unit language structures & watch the lecture.
10	Unit 10.2 History 'Shackleton'	Unit 10 Writing Task p. 101	Review unit language structures & watch the lecture.
11	Unit 11.1 Philosophy 'Ethics'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 110	Review unit language structures & watch the lecture.
12	Unit 11.2 Philosophy 'Ethics'	Unit 11 Writing Task p. 111	Review unit language structures & watch the lecture.
13	Unit 12.1 Information Technology 'Big Data'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 120	Review unit language structures & watch the lecture.
14	Unit 12.2 Information Technology 'Big Data'	Unit 6 Writing Task p. 121	Review unit language structures & watch the lecture.
15	Assessment	Final Presentation	Review unit language structures & watch the lecture.

関連科目：Comprehensive English b, English for Global Communication b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	共通課題(エッセイ課題) 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館５階　鈴木研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	English Language Teaching	科目名（英文）	English Language Teaching
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	齋藤　安以子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	日本の小学生および中学生等の初級英語学習者を対象に、英語で英語を教える具体的な方法について学びます。「第一言語を介した外国語学習」以外の方法を、体験しながら理解するのが目的です。
到達目標	・外国語教育には学習者の第一言語を使っても、学習言語だけを使っても、どちらの方法にも長所や利点があるので、複数の教え方を使い分けできるようになりましょう。今の在学生のみなさんの多くは、第一言語を併用して学習言語を学んだ人たちが多いので、授業では主に「英語で英語を学ぶ」初級の授業の仕組みを扱います。
授業方法と留意点	講義・演習・ディスカッションを併用します。 小学校教員志望、または外国語教育の教職課程を履修中の学生に、特に勧めます。また、海外インターンシップで日本語教育や幼稚園実習などを希望している場合も役にたつでしょう。
科目学習の効果（資格）	・教員免許取得を目指す学生にとっては、教育実習で会う生徒を理解する助けとして。 ・教員志望以外の学生にとっては、年下の子供たちが、自分とは異なる外国語教育を受けて育っている、というジェネレーションギャップを理解し、卒業後の仕事に生かす。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	学習言語と学習者の第一言語	講義・ディスカッション	ディスカッション内容をふりかえり、文字でまとめる
2	教室で使う教員の言葉（1）	Classroom English　と　その目的・使い方を学ぶ演習：新出語彙の場合	自分が受けている言語科目を注意深く観察し、教員が使う言葉を記録する。
3	教室で使う教員の言葉（2）	Classroom English　と　その目的・使い方を学ぶ演習:既習語彙の復習の場合	自分が受けている言語科目を注意深く観察し、教員が使う言葉を記録する。
4	説明しない教え方（1）	言葉で説明しないで、見せて伝える方法を学ぶ演習：名詞	復習
5	説明しない教え方（2）	言葉で説明しないで、見せて伝える方法を学ぶ演習：動詞	復習
6	説明しない教え方（3）	言葉で説明しないで、見せて伝える方法を学ぶ演習：形容詞	復習
7	ゲームで「習った外国語を使う」機会を増やす（1）	少ない語彙でできるゲーム:ルール紹介から、ゲーム本番まで	復習
8	ゲームで「習った外国語を使う」機会を増やす（2）	少ない道具でできるゲーム:ルール紹介から、ゲーム本番まで	復習
9	ゲームで「習った外国語を使う」機会を増やす（3）	人数が定まらなくてもできるゲーム:ルール紹介から、ゲーム本番まで	復習
10	教材作り（1）	授業の目的と教材のデザインについて：講義とサンプル分析	復習・次回の材料集め
11	教材作り（2）	目的に合わせて、考えるべき色と形、材質について：講義とサンプル分析	作った教材の仕上げ
12	試作した教材を使ってみよう（1）	前回作った教材を使った授業を考える：演習	再考と試作品を扱う練習
13	試作した教材を使ってみよう（2）	作った教材での授業を披露する：発表	復習
14	実技の仕上げ	互いに学習者役と教員役をつとめ、これまでに学んだ実技を行う	復習
15	まとめ	これまでの授業の振り返りと、講義内容への質疑応答	復習

関連科目：すべての言語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	NHK プレキソ英語　（番組と NHK の HP 参照）	NHK	
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の学習活動への積極的な参加　５０％ 実技と筆記のテスト　５０％
学生へのメッセージ	人は、自分が体験してきた学び方を中心に物事を考えがちですが、同じ目的（ここでは言語学習）をちがう方法で叶えることもできます。実際に体験しながら、学んでいきましょう。
担当者の研究室等	７号館４階　齋藤研究室
備考	復習や教材作成のための材料収集などにかかる事前事後学習総時間を 15 時間程度とする。

科目名	English Lecture Ⅰ a	科目名（英文）	English Lecture Ⅰ a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	ＡＢ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	フーパー　トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	英語による講義を聞き、その内容を英語で要約したり、自分の意見を付与しながら、英語で話す・書く活動を実施することで、インプット・アウトプット連動型の授業を行う。今年度はビジネス系のテーマを扱う。
到達目標	英語による講義を聞き、その内容を英語で要約したり、自分の意見を付与しながら、英語で話す・書く活動を実施することで、インプット・アウトプット連動型の授業を行う。
授業方法と留意点	・授業はすべて英語で行われる。アカデミックレベルの内容の英文をインプットして、それを論理的にアウトプットする訓練を行う。 ・必ず辞書を持参すること。 ・作文（レポート）課題はSetsunan Academic Essay Guideline(SAEG)に従った書式で作成すること。 ・講義内容を学びながら、各自でTOEICでの高得点も目指すこと。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Course Introduction	Learn and practice note-taking skills.	Review your notes.
2	Emotional Intelligence	Discuss how emotional intelligence can affect working relationships.	Read the Week 2 Text. Review your notes.
3	Work Stress	Discuss sources of stress at work and how to manage stress.	Read the Week 3 Text. Review your notes.
4	Communication Styles	Discuss different styles of working and communicating in the office.	Read the Week 4 Text. Review your notes.
5	Business Ethics	Discuss case studies of business ethics.	Read the Week 5 Text. Review your notes.
6	Test 1	Test and review.	Review your notes.
7	Work Motivation	Discuss theories of motivation and how motivation can be improved at work.	Read the Week 7 Text. Review your notes.
8	Effective Business Meetings	Discuss how group work can be improved.	Read the Week 8 Text. Review your notes.
9	Decision Making	Discuss the decision making process at work.	Read the Week 9 Text. Review your notes.
10	Conflict and Negotiations	Discuss how to resolve conflicts at work and how to conduct better negotiations.	Read the Week 10 Text. Review your notes.
11	Management	Discuss methods of improving company management.	Read the Week 11 Text. Review your notes.
12	Academic Writing	Choose a topic, and use mind mapping to plan and organize a report.	Work on your report.
13	Academic Writing	Learn how to cite sources and complete the first draft of the report.	Work on your report.
14	Academic Writing	Work on the second draft of the report and learn formatting for academic papers.	Work on your report.
15	Test 2	Test and review.	Review your notes.

関連科目：Comprehensive English, English for Global Communication, English Writing Workshop

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	レポート　20% TOEICスコアによる評価 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
学生へのメッセージ	The aim of this course is to provide the opportunity to participate in a North American style lecture class. The content of the lectures and the skills you will learn in this class will be useful for study abroad and for business. Be prepared to challenge yourself!
担当者の研究室等	7号館3階フーパー研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	English Lecture Ⅰ a	科目名（英文）	English Lecture Ⅰ a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	ＣＤ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ　シウンシ
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	英語による講義を聞き、その内容を英語で要約したり、自分の意見を付与しながら、英語で話す・書く活動を実施することで、インプット・アウトプット連動型の授業を行う。今年度はビジネス系のテーマを扱う。
到達目標	英語による講義を聞き、その内容を英語で要約したり、自分の意見を付与しながら、英語で話す・書く活動を実施することで、インプット・アウトプット連動型の授業を行う。
授業方法と留意点	・授業はすべて英語で行われる。アカデミックレベルの内容の英文をインプットして、それを論理的にアウトプットする訓練を行う。 ・必ず辞書を持参すること。 ・作文（レポート）課題はSetsunan Academic Essay Guideline(SAEG)に従った書式で作成すること。 ・講義内容を学びながら、各自でTOEICでの高得点も目指すこと。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
15	Review	Feedback session	・・・

関連科目：Comprehensive English, English for Global Communication, English Writing Workshop

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

評価方法（基準）
レポート　20%
TOEICスコアによる評価 10%
Writing Assignments 50%
Note Taking 20%

学生へのメッセージ：You will need a notebook and writing materials for every class.

担当者の研究室等：7号館2階(非常勤講師室)

備考
If you have any questions, come see me anytime.

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	English Lecture Ⅰ b	科目名（英文）	English Lecture Ⅰ b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	ＡＢ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョセフ　シウンシ
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	英語による講義を聞き、その内容を英語で要約したり、自分の意見を付与しながら、英語で話す・書く活動を実施することで、インプット・アウトプット連動型の授業を行う。今年度はビジネス系のテーマを扱う。
到達目標	英語による講義を聞き、その内容を英語で要約したり、自分の意見を付与しながら、英語で話す・書く活動を実施することで、インプット・アウトプット連動型の授業を行う。
授業方法と留意点	・授業はすべて英語で行われる。アカデミックレベルの内容の英文をインプットして、それを論理的にアウトプットする訓練を行う。 ・必ず辞書を持参すること。 ・作文（レポート）課題はSetsunan Academic Essay Guideline(SAEG)に従った書式で作成すること。 ・講義内容を学びながら、各自でTOEICでの高得点も目指すこと。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
15	Review	Feedback session	・・・

関連科目：Comprehensive English, English for Global Communication, English Writing Workshop

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

評価方法（基準）
レポート　20%
TOEICスコアによる評価 10%
Writing Assignments 50%
Note Taking 20%

学生へのメッセージ：You will need a notebook and writing materials for every class.

担当者の研究室等：7号館2階(非常勤講師室)

備考
If you have any questions, come see me anytime.

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	English Lecture Ⅰ b	科目名（英文）	English Lecture Ⅰ b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	ＣＤ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	フーパー　トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	英語による講義を聞き、その内容を英語で要約したり、自分の意見を付与しながら、英語で話す・書く活動を実施することで、インプット・アウトプット連動型の授業を行う。今年度はビジネス系のテーマを扱う。
到達目標	英語による講義を聞き、その内容を英語で要約したり、自分の意見を付与しながら、英語で話す・書く活動を実施することで、インプット・アウトプット連動型の授業を行う。
授業方法と留意点	・授業はすべて英語で行われる。アカデミックレベルの内容の英文をインプットして、それを論理的にアウトプットする訓練を行う。 ・必ず辞書を持参すること。 ・作文（レポート）課題はSetsunan Academic Essay Guideline(SAEG)に従った書式で作成すること。 ・講義内容を学びながら、各自でTOEICでの高得点も目指すこと。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Course Introduction	Learn and practice note-taking skills.	Review your notes.
2	Emotional Intelligence	Discuss how emotional intelligence can affect working relationships.	Read the Week 2 Text. Review your notes.
3	Work Stress	Discuss sources of stress at work and how to manage stress.	Read the Week 3 Text. Review your notes.
4	Communication Styles	Discuss different styles of working and communicating in the office.	Read the Week 4 Text. Review your notes.
5	Business Ethics	Discuss case studies of business ethics.	Read the Week 5 Text. Review your notes.
6	Test 1	Test and review.	Review your notes.
7	Work Motivation	Discuss theories of motivation and how motivation can be improved at work.	Read the Week 7 Text. Review your notes.
8	Effective Business Meetings	Discuss how group work can be improved.	Read the Week 8 Text. Review your notes.
9	Decision Making	Discuss the decision making process at work.	Read the Week 9 Text. Review your notes.
10	Conflict and Negotiations	Discuss how to resolve conflicts at work and how to conduct better negotiations.	Read the Week 10 Text. Review your notes.
11	Management	Discuss methods of improving company management.	Read the Week 11 Text. Review your notes.
12	Academic Writing	Choose a topic, and use mind mapping to plan and organize a report.	Work on your report.
13	Academic Writing	Learn how to cite sources and complete the first draft of the report.	Work on your report.
14	Academic Writing	Work on the second draft of the report and learn formatting for academic papers.	Work on your report.
15	Test 2	Test and review.	Review your notes.

関連科目：Comprehensive English, English for Global Communication, English Writing Workshop

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	レポート　20% TOEICスコアによる評価 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
学生へのメッセージ	The aim of this course is to provide the opportunity to participate in a North American style lecture class. The content of the lectures and the skills you will learn in this class will be useful for study abroad and for business. Be prepared to challenge yourself!
担当者の研究室等	7号館3階フーパー研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	English LectureⅡa	科目名（英文）	English Lecture II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	神崎　舞
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	幅広い内容の講義を英語で理解し、自らの意見を英語で述べたり、クラスメイトと英語でディスカッションできるようになる。 今年度の講義テーマはブロードウェイ・ミュージカルである。
到達目標	あるトピックに関して自分の意見を交えながら、グループやクラスの前で発表したり、討論する。必ず辞書を持参すること。
授業方法と留意点	・授業はすべて英語で行われる。アカデミックレベルの内容の英文をインプットして、それを論理的にアウトプットする訓練を行う。 ・必ず辞書を持参すること。 ・作文（レポート）課題はSetsunan Academic Essay Guideline(SAEG)に従った書式で作成すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	West Side Story [1]	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
3	West Side Story [2]	Individual Task, Pair Work or Group Work	・Quiz ・Students should study the content of the day's lesson
4	Fiddler on the Roof [1]	.Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
5	Fiddler on the Roof [2]	Individual Task, Pair Work or Group Work	・Quiz ・Students should study the content of the day's lesson
6	A Chorus Line [1]	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
7	A Chorus Line [2]	Individual Task, Pair Work or Group Work	・Quiz ・Students should study the content of the day's lesson
8	Evita [1]	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
9	Evita [2]	Individual Task, Pair Work or Group Work	・Quiz ・Students should study the content of the day's lesson
10	Cats [1]	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
11	Cats [2]	Individual Task, Pair Work or Group Work	・Quiz ・Students should study the content of the day's lesson
12	Les Miserables [1]	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
13	Les Miserables [2]	Individual Task, Pair Work or Group Work	・Quiz ・Students should study the content of the day's lesson
14	The Lion King [1]	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
15	The Lion King [2]	Individual Task, Pair Work or Group Work	・Quiz ・Students should study the content of the day's lesson

関連科目：Comprehensive English, English for Global Communication, English Writing Workshop

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The Spirit of Broadway, the Spirit of America	Philip Zitowitz	Eihosha
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	レポート　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	Students will need a notebook and a dictionary.
担当者の研究室等	Building 7, 5th floor, Kanzaki's office.
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	English LectureⅡa	科目名（英文）	English Lecture II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	２
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田浦　アマンダ
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	幅広い内容の講義を英語で理解し、自らの意見を英語で述べたり、クラスメイトと英語でディスカッションできるようになる。 This is a content-based academic English course on an Australian drama show and the cultural themes discovered while watching the episodes. Australian English will also be examined and an attempt made to familiarise the students with everyday life in Australia and the implications.
到達目標	あるトピックに関して自分の意見を交えながら、グループやクラスの前で発表したり、討論する。 The course will focus on listening and speaking skills and building up the vocabulary necessary for confident for lively discussions about the drama series that we watch.
授業方法と留意点	・授業はすべて英語で行われる。アカデミックレベルの内容の英文をインプットして、それを論理的にアウトプットする訓練を行う。 ・必ず辞書を持参すること。 ・作文（レポート）課題はSetsunan Academic Essay Guideline(SAEG)に従った書式で作成すること。 The topics will be introduced in visual form in the drama series, with background readings given for study at home in preparation and discussion will follow the episode clips. Writing assignments will be given based on the current cultural topic.
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Overview	Information about grading and requirements. This is an important class to attend if you wish to take this course.
2	Notetaking, reading, and strategies for discussion. Final essay guidelines and topics.	The way to study to improve your Academic English skills.	Listening and speaking techniques.
3	Episode 1	Background mini-lecture, watching the clip, review of the content	Academic readings on culture & Writing assignments
4	Episode 1	Listening skills	Academic readings on culture & Writing assignments
5	Episode 1	Discussion on the cultural issues in Australia.	Academic readings on culture & Writing assignments
6	Episode 2	Background mini-lecture, watching the clip, review of the content	Academic readings on culture & Writing assignments
7	Episode 2	Listening skills	Academic readings on culture & Writing assignments
8	Episode 2	Discussion on the cultural issues in Australia.	Academic readings on culture & Writing assignments
9	Episode 3	Background mini-lecture, watching the clip, review of the content	Academic readings on culture & Writing assignments
10	Episode 3	Listening skills	Academic readings on culture & Writing assignments
11	Episode 3	Discussion on the cultural issues in Australia.	Academic readings on culture & Writing assignments
12	Episode 4	Background mini-lecture, watching the clip, review of the content	Academic readings on culture & Writing assignments
13	Episode 4	Listening skills	Final Essay
14	Episode 4	Discussion on the cultural issues in Australia.	Final Essay due for assessment
15	Final review	Discussion format	

関連科目：Comprehensive English, English for Global Communication, English Writing Workshop

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Class attitude 30% (Prepared, Enthusiastic, On time, Willing to learn)、Quizzes 20%、Writing Portfolio 20% (short weekly writing assignments), Final essay 20% , English zone maintained 10%
学生へのメッセージ	Study hard- this is your chance to keep on improving your academic English skills.
担当者の研究室等	Building 7, 5th floor, Amanda Taura's office
備考	Use a dictionary in class, always take notes while studying in class and stay in the English-only zone 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	English LectureⅡb	科目名（英文）	English Lecture II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	神崎　舞
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	幅広い内容の講義を英語で理解し、自らの意見を英語で述べたり、クラスメイトと英語でディスカッションできるようになる。 今年度の講義テーマはブロードウェイ・ミュージカルである。
到達目標	あるトピックに関して自分の意見を交えながら、グループやクラスの前で発表したり、討論する。必ず辞書を持参すること。
授業方法と留意点	・授業はすべて英語で行われる。アカデミックレベルの内容の英文をインプットして、それを論理的にアウトプットする訓練を行う。 ・必ず辞書を持参すること。 ・作文（レポート）課題はSetsunan Academic Essay Guideline(SAEG)に従った書式で作成すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	West Side Story [1]	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
3	West Side Story [2]	Individual Task, Pair Work or Group Work	・Quiz ・Students should study the content of the day's lesson
4	Fiddler on the Roof [1]	.Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
5	Fiddler on the Roof [2]	Individual Task, Pair Work or Group Work	・Quiz ・Students should study the content of the day's lesson
6	A Chorus Line [1]	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
7	A Chorus Line [2]	Individual Task, Pair Work or Group Work	・Quiz ・Students should study the content of the day's lesson
8	Evita [1]	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
9	Evita [2]	Individual Task, Pair Work or Group Work	・Quiz ・Students should study the content of the day's lesson
10	Cats [1]	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
11	Cats [2]	Individual Task, Pair Work or Group Work	・Quiz ・Students should study the content of the day's lesson
12	Les Miserables [1]	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
13	Les Miserables [2]	Individual Task, Pair Work or Group Work	・Quiz ・Students should study the content of the day's lesson
14	The Lion King [1]	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
15	The Lion King [2]	Individual Task, Pair Work or Group Work	・Quiz ・Students should study the content of the day's lesson

関連科目：Comprehensive English, English for Global Communication, English Writing Workshop

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The Spirit of Broadway, the Spirit of America	Philip Zitowitz	Eihosha
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	レポート　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	Students will need a notebook and a dictionary.
担当者の研究室等	Building 7, 5th floor, Kanzaki's office.
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	English LectureⅡb	科目名（英文）	English Lecture II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	２
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田浦　アマンダ
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	幅広い内容の講義を英語で理解し、自らの意見を英語で述べたり、クラスメイトと英語でディスカッションできるようになる。 This is a content-based academic English course on an Australian drama show and the cultural themes discovered while watching the episodes. Australian English will also be examined and an attempt made to familiarise the students with everyday life in Australia and the implications.
到達目標	あるトピックに関して自分の意見を交えながら、グループやクラスの前で発表したり、討論する。 The course will focus on listening and speaking skills and building up the vocabulary necessary for confident for lively discussions about the drama series that we watch.
授業方法と留意点	・授業はすべて英語で行われる。アカデミックレベルの内容の英文をインプットして、それを論理的にアウトプットする訓練を行う。 ・必ず辞書を持参すること。 ・作文（レポート）課題はSetsunan Academic Essay Guideline(SAEG)に従った書式で作成すること。 The topics will be introduced in visual form in the drama series, with background readings given for study at home in preparation and discussion will follow the episode clips. Writing assignments will be given based on the current cultural topic.
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Overview	Information about grading and requirements. This is an important class to attend if you wish to take this course.
2	Notetaking, reading, and strategies for discussion. Final essay guidelines and topics.	The way to study to improve your Academic English skills.	Listening and speaking techniques.
3	Episode 1	Background mini-lecture, watching the episode, review of the content	Academic readings on culture & Writing assignments
4	Episode 1	Listening skills - vocabulary	Academic readings on culture & Writing assignments
5	Episode 1	Discussion on the cultural issues in Australia.	Academic readings on culture & Writing assignments
6	Episode 2	Background mini-lecture, watching the episode, review of the content	Academic readings on culture & Writing assignments
7	Episode 2	Listening skills - vocabulary	Academic readings on culture & Writing assignments
8	Episode 2	Discussion on the cultural issues in Australia.	Academic readings on culture & Writing assignments
9	Episode 3	Background mini-lecture, watching the episode, review of the content	Academic readings on culture & Writing assignments
10	Episode 3	Listening skills - vocabulary	Academic readings on culture & Writing assignments
11	Episode 3	Discussion on the cultural issues in Australia.	Academic readings on culture & Writing assignments
12	Episode 4	Background mini-lecture, watching the episode, review of the content	Academic readings on culture & Writing assignments
13	Episode 4	Listening skills - vocabulary	Final Essay
14	Episode 4	Discussion on the cultural issues in Australia.	Final Essay due for assessment
15	Final Review	Discussion format	

関連科目	Comprehensive English, English for Global Communication, English Writing Workshop

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Class attitude 30% (Prepared, Enthusiastic, On time, Willing to learn)、Quizzes 20%、Writing Portfolio 20% (short weekly writing assignments), Final essay 20% , English zone maintained 10%
学生へのメッセージ	Study hard- this is your chance to keep on improving your academic English skills.
担当者の研究室等	Building 7, 5th floor, Amanda Taura's office
備考	Use a dictionary in class, always take notes while studying in class and stay in the English-only zone

科目名	Integrated Skills Training	科目名（英文）	Integrated Skills Training
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	ＡＢ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤　一章
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	1 年時で学習した英語のスタディスキルをさらに向上させる。ICT 等を用いて、リスニング能力向上に主眼を置きながら、4 技能をバランスよく伸ばす。
到達目標	CEFR-J[A2]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。
授業方法と留意点	ICT 教材を用いて、海外生活を行うための実践的なリスニング能力を養う。授業時間外にも、ICT を用いた所定の e-learning 課題が課される。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit　1	人やものが存在するという 行き先や目的を述べる	授業中に指示
2	Unit　2	いつ～するのか言う いつ開始するか言う	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。
3	Unit　2	いつ完了するか言う 頻度を言う	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。
4	Unit　3	習慣・事実・未来 進行・状態・継続	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。
5	Unit　3	過去・完了 経験	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。
6	Unit　4	他人の行動を見聞きする	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。
7	Unit　4	他人の行動を強制・依頼・許可する	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。
8	Unit　5	説明される名詞が動詞の「目的語」 説明される名詞が「所有者」	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。
9	Unit　5	説明される部分が「義務・用途」	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。
10	Unit　6	確実に起きること・もう起きたこと 起きるかどうか分からないこと	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。
11	Unit　6	起こりそうもないこと 願望	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。
12	Unit　7	意見・感想を述べる 時制の一致	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。
13	Unit　7	意見・感想の尋ね方 予想との違い	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。
14	Unit　8	好き嫌いの表し方 可能の表し方	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。
15	Unit　8	移動の方向 やりもらいと貸し借り	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。

関連科目：Practical English Conversation, Academic Reading, Academic Writing

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Useful Hints and Examples on Basic English Writing	鈴木卓	松柏社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 5 階　後藤研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	Integrated Skills Training	科目名（英文）	Integrated Skills Training
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	ＣＤ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉村　征洋
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	1 年時で学習した英語のスタディスキルをさらに向上させる。ICT 等を用いて、リスニング能力向上に主眼を置きながら、4 技能をバランスよく伸ばす。
到達目標	CEFR-J[A2]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。
授業方法と留意点	ICT 教材を用いて、海外生活を行うための実践的なリスニング能力を養う。授業時間外にも、ICT を用いた所定の e-learning 課題が課される。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELT

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の内容、方法、評価基準、課題について説明	予習・課題
2	英語のアクセント	音節と強勢、子音結合 小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題
3	英語のリズム	内容語と機能語について 小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題
4	紛らわしい母音（1）	ア、イ、ウと聞こえる音 小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題
5	紛らわしい母音（2）	エ、オと聞こえる音 小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題
6	紛らわしい子音（1）	ル、フ、ブと聞こえる音 小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題
7	紛らわしい子音（2）	ス、ズと聞こえる音 小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題
8	Midterm	これまで学習した内容の確認テスト	予習・課題
9	紛らわしい子音（3）	摩擦音、鼻音、閉鎖音 小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題
10	繋がって聞こえる音（連結）	子音＋母音 小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題
11	変化して聞こえる音（同化）	2 つの音が 1 つの音になる同化 小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題
12	聞こえなくなる音	閉鎖音の脱落 小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題
13	英語のイントネーション	イントネーションの基本パターン 小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題
14	数量表現	実数、少数、分数の読み方 小テスト、音読、リスニング等を行う	予習・課題
15	Final		

関連科目：Practical English Conversation, Academic Reading, Academic Writing

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Sounds, English Minds	杉森幹彦、他	金星堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	語学力を向上させるには、毎日の学習が不可欠です。コツコツと忍耐強く学習しましょう。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　吉村　征洋 研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	インドネシア・マレー語圏概論	科目名（英文）	A Survey of the Indonesian-Malay World
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	上田　達.大坪　紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	インドネシア・マレー語圏の文化、社会、歴史、経済、政治についての基礎的な知識を習得しする。インドネシアとマレーシアが話題の中心になるが、これらの国と結びつきの深いシンガポール、ブルネイ、東ティモールといった国々についても適宜言及する。あわせて他の東南アジア諸国についても基礎的な情報を紹介する。
到達目標	インドネシア語とマレー語が話されている地域に関する基礎的な知識を得ること、インドネシア・マレー語圏の人々の生活を、われわれの日常と地続きのものとして理解すること、の二点を到達目標とする。
授業方法と留意点	前半は大坪が行い、後半は上田が行う。授業の進め方の詳細は初回の授業時に指示するので、必ず出席すること。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について説明（大坪、上田担当）	関連する文献を紹介するので読むこと。
2	２人の候補と歌	冒頭で 2014 年インドネシア大統領選における２つのキャンペーン・ソングをとりあげる。続いて各時代大統領とポピュラー音楽との関係を概観する。（大坪担当）	復習として、ノートをまとめておくこと。簡単な年表を作ってくること(内容は授業で説明する)。
3	住民の反対運動とアート、ポピュラー音楽	近年インドネシア各地で開発に反対する住民運動がさかんである。それら各運動とミュージシャンたちや美術家、詩人たちの関係を概観する。（大坪担当）	事前に福岡アジア美術館公式ウェブ・サイトの各ページをできるだけ読んでおくこと。
4	Menolaklupa とアート、ポピュラー音楽	Superman Is Dead の楽曲 PV「Sunset Di Tanah Anarki」、Filastine の楽曲 PV とともに、9.30 事件をはじめとするさまざまな出来事や 98 年のリフォルマシの概要を学ぶ。（大坪担当）	事前に AKB48 の「必殺テレポート」を聞いていることが望ましい。 復習として、ノートをまとめておくこと。
5	傘	アクシ・カミサン、2016 年 12 月２日のジャカルタ・大デモをはじめ、ジャワ島やバリ島では傘が重要な意味を示していることがある。その意味について映像や画像を交えながら紹介する。（大坪担当）	復習として、ノートをまとめておくこと。
6	人びとと音楽	ダンドゥットをはじめ、クロンチョン、ポップ・ダエラ、レゲエ、パンク、ラップ、グランジなど、インドネシでは多種多様のポピュラー音楽が鳴り響いている。代表的なジャンルと歴史を概観する。（大坪担当）	復習としてノートをまとめておくこと。
7	人びとと芸能	一例としてバリ島の芸能をとりあげて、バリ・ヒンドゥ教を信仰する人びとと芸能の関係についてとりあげる。またバリ島の観光開発と政治の関係についてもとりあげる。（大坪担当）	事前にバリ島に対するイメージをいくつか挙げておくこと。 復習としてノートをまとめておくこと。
8	前半まとめ	授業前半の総括と到達度の確認をはかるテストを行う。（大坪担当）	復習としてノートをまとめておくこと。
9	マレーシア１	マレーシアに住む多様な民族集団について概説する。多民族社会という概念を説明する。（上田担当）	配布する資料や掲出するウェブサイトをよく読んでおくこと。
10	マレーシア２	マレーシアに住む多様な民族集団について説明する。マレー人の生活について映像資料を用いて説明する。(上田担当)	配布する資料や掲出するウェブサイトをよく読んでおくこと。
11	マレーシア３	マレーシアに住む多様な民族集団について説明する。中国系住民の生活について映像資料を用いて説明する。（上田担当）	配布する資料や掲出するウェブサイトをよく読んでおくこと。
12	マレーシア４	マレーシアに住む多様な民族集団について説明する。インド系住民やオランアスリ、サバやサラワクの人びとの生活について映像資料を用いて説明する。（上田担当）	配布する資料や掲出するウェブサイトをよく読んでおくこと。
13	ブルネイ	ブルネイという国やブルネイに住む人びとについて概説する。（上田担当）	配布する資料や掲出するウェブサイトをよく読んでおくこと。
14	シンガポール	シンガポールという国やブルネイに住む人びとについて概説する。(上田担当)	配布する資料や掲出するウェブサイトをよく読んでおくこと。
15	まとめ	授業の総括と到達度の確認をはかるテストを行う。（上田担当）	ノートやプリントを使って、授業で学んだ内容を整理しておくこと。

関連科目	インドネシア・マレー語関係科目および東南アジア関係の講義科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	東南アジアを知る事典		平凡社
2			
3			

評価方法 （基準）	前半（大坪担当）と後半（上田担当）のそれぞれについて次のような観点から評価したものを総合する。 前半：提出物や課題等の取り組み（30%）と、最終課題（70%）から総合的に判断する。 後半：提出物や課題等の取り組み（30%）と、最終課題（70%）から総合的に判断する。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）、７号館５階上田研究室
備考	提出物は評価を付した上で、原則として翌週に返却する。

科目名	インドネシア・マレー語圏近現代史	科目名（英文）	History of the Modern Indonesian-Malay World
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森田　良成
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	インドネシア・マレー語圏の近現代史を、特にインドネシアのナショナリズムを詳しく取り上げながら議論していく。これを通して、国民と国家の関係のあり方について考える。
到達目標	＊新興国にとって国民の創造がどのように政治的、社会的テーマになりうるのかを理解できる。 ＊インドネシア・マレー語圏について、自らの関心に従ってより専門的な研究を参照し、理解していくうえでの手がかりを得る。
授業方法と留意点	＊講義形式で行う。授業の理解を助けるために映像資料を使用する。 ＊受講者にはペーパー等で適宜コメントを求める。 ＊ノートを写し、話を聞くだけではなくて、自分で考え、考えたことを表現するよう努めること。 ＊インドネシア・マレーシア語圏について基礎的な知識を習得済みであることが望ましいが、初学者も大いに歓迎する。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について説明	関連する文献を紹介するので読むこと。
2	インドネシアの基礎知識	インドネシアの文化・経済・政治について概説	関連する文献を紹介するので読むこと。
3	オランダ領東インドの形成１	オランダ植民地支配の歴史	関連する文献を紹介するので読むこと。
4	オランダ領東インドの形成２	オランダ植民地支配の歴史	関連する文献を紹介するので読むこと。
5	インドネシア･ナショナリズムの形成１	「想像の共同体」の議論	関連する文献を紹介するので読むこと。
6	インドネシア･ナショナリズムの形成２	「想像の共同体」の議論	関連する文献を紹介するので読むこと。
7	英雄の歴史と国民の統合１	国家英雄制度の成立と展開	関連する文献を紹介するので読むこと。
8	英雄の歴史と国民の統合２	英雄に代表される地方の歴史と、それを束ねたものとしての国史	関連する文献を紹介するので読むこと。
9	英雄の歴史と国民の統合３	英雄に代表される地方の歴史と、それを束ねたものとしての国史	関連する文献を紹介するので読むこと。
10	東ティモールの併合と独立１	東ティモールはなぜ占領されたか、なぜ解放されたか	関連する文献を紹介するので読むこと。
11	東ティモールの併合と独立２	インドネシアのナショナリズムと、東ティモールのナショナリズム	関連する文献を紹介するので読むこと。
12	東ティモールの併合と独立３	インドネシアのナショナリズムと、東ティモールのナショナリズム	関連する文献を紹介するので読むこと。
13	インドネシアにおける政治と暴力１	民主化のパラドックス	関連する文献を紹介するので読むこと。
14	インドネシアにおける政治と暴力２	民主化のパラドックス	関連する文献を紹介するので読むこと。
15	まとめと試験	全体のまとめと試験	関連する文献を紹介するので読むこと。

関連科目：インドネシア語・マレー語関係科目および東南アジア関係の講義科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	＊平常点　40%　　（授業への参加・貢献度を、コメント・感想などから総合的に判断する） ＊試験　　60%　（授業期間中に行う）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	受講者数によっては評価方法を変更することがある。

科目名	インドネシア・マレー語圏の諸言語	科目名（英文）	Indonesian-Malay Linguistics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山口　真佐夫
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この講義の目的はインドネシア、マレーシアおよびその周辺に分布するオーストロネシア語族の言語についての知識を習得することにある。系統、言語分類、歴史、文字等について講義する。なお、東南アジア大陸部の言語についても言及する。
到達目標	インドネシア・マレー語圏、およびその周辺の諸言語についての知識を習得することができる。
授業方法と留意点	授業は講義を中心にすすめるが、受講者に意見を求めたり、課題を与えることがあるので、積極的に参加するように。
科目学習の効果（資格）	東南アジアの言語事情がわかる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	基礎知識１	・基本的用語の解説等	用語について復習しておくこと
2	インドネシア語、マレー語の音韻	・インドネシア語、マレー語の音韻を学ぶことを通して音韻論の基礎知識を得る。	内容について復習すること
3	世界の言語からみたインドネシア、マレー語圏の言語	・言語数、話者数	内容について復習すること
4	オーストロネシア語族言語のの実際	・フィリピン語、ジャワ語等がどのような構造を持った言語か概観する。	内容について復習すること
5	インドネシア、マレー語圏の言語の系統１	・比較言語学の基礎知識 ・音韻対応	内容について復習すること
6	インドネシア、マレー語圏の言語の系統２	・語族、語派、語群 ・比較形態論	内容について復習すること
7	オーストロネシア語族の研究史とその分布	・オーストロネシア語族の故地	内容について復習すること
8	インドネシア語、マレー語の歴史	・古代マレー語、古典マレー語について研究する	インドネシア語あるいはマレー語の辞書を持っている場合は持参すること 内容について復習すること
9	インドネシア、マレー語圏の言語の文字１	・インドネシア語、マレー語の文字使用の歴史	内容について復習すること
10	インドネシア、マレー語圏の言語の文字２	・ジャワ文字１	ジャワ文字について復習しておくこと
11	インドネシア、マレー語圏の言語の文字３	・ジャワ文字２ ・ブギス・マカッサル文字１	ジャワ文字、ブギス・マカッサル文字ついて復習しておくこと
12	インドネシア、マレー語圏の言語の文字４	・ブギス・マカッサル文字２	ブギス・マカッサル文字について復習しておくこと
13	国語、公用語	・国語、公用語 ・多言語国家	授業内容を復習すること
14	東南アジア大陸部の言語	・東南アジア大陸部の言語についての概説	内容について復習すること
15	・理解度確認テスト ・まとめ	・理解度確認テスト ・理解度確認テストの解説 ・授業全体についてのまとめを行う	内容について復習すること

関連科目	インドネシア語、マレー語関係の科目、音声学、言語学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリントを用意する。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜指示する。		
2			
3			

評価方法（基準）	参加度（発言等）、理解度確認テストの総合評価 参加度（発言等）60%、理解度確認テスト 40%
学生へのメッセージ	この授業では、受講者の意見発表を重視するので、積極的に意見を述べることを期待する。
担当者の研究室等	７号館５階　山口室
備考	指示された予習・復習には充分時間をかけ、学習効果を上げるようにすること。 臨時試験の内容に関しては、試験終了後の授業中に確認、説明を行う。

科目名	インドネシア・マレー社会論	科目名（英文）	Studies on Malay Societies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大坪　紀子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的

本授業ではおもにインドネシアのポピュラー音楽・芸能・映画・映像・アートを通して、社会という概念について考える。人口２億５千万人を有する島嶼国家インドネシアの東西の距離は約 5,150Km におよび(関西国際空港からシンガポールへの飛行距離は約 5,000Km)、国語としてのインドネシア語も含めて 500 以上の言語が使われ、慣習や宗教もさまざまな人びとが暮らしている。
そのように多様性に富んだインドネシアで、どのように人びとはかかわりあっているのだろうか。人びとのかかわりあいかたは、私たちが思い浮かべる社会と重なる部分がある一方で、多くの点で異なっている。
本授業ではインドネシアの人びとの結びつきの在り方を学び、「いま」のインドネシアをより深く理解できることを目指す。

到達目標

・インドネシアの社会のあり方について理解する。
・私たちが生きる社会について考える視角を得る。

授業方法と留意点

本授業は映像資料や画像も教材として使用するが鑑賞会ではない。事前の下調べは不可欠であり、随時小レポートや課題も課す。

科目学習の効果（資格）

・インドネシアの人びとの暮らしについて知見を深めることができる。
・異文化理解や多文化共生に必要な視野を養うことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方や概要について説明する。	事前に東南アジア地域の地図を見ておくこと。配付資料を熟読すること。 紹介する文献の該当箇所を読んでおくこと。
2	インドネシア	インドネシアの地理や歴史を概観する。	配付資料を熟読すること。 紹介する文献の該当箇所を読んでおくこと。
3	オランダ領東インド期　1	バリを事例に、「バリ化」と人びとの関係について学ぶ。	配付資料を熟読すること。 紹介する文献の該当箇所を読んでおくこと。
4	オランダ領東インド期　2	バリを事例に、「バリ化」と人びとの関係について学ぶ。	配付資料を熟読すること。 紹介する文献の該当箇所を読んでおくこと。
5	オランダ領東インド期と日本占領期	・ムーイ・インディ、Persagi、啓民文化指導所と社会の関係について学ぶ。 ・ナショナリズムの勃興を学ぶ。	配付資料を熟読すること。 紹介する文献の該当箇所を読んでおくこと。
6	スカルノ体制期１	人びとの国外への移動や、その人びとがインドネシアへ持ち帰った文化、および人びとの関係について学ぶ。	配付資料を熟読すること。 紹介する文献の該当箇所を読んでおくこと。
7	スカルノ体制期２	人びとの国外への移動や、その人びとがインドネシアへ持ち帰った文化、および人びとの関係や社会の変容について学ぶ。	配付資料を熟読すること。 紹介する文献の該当箇所を読んでおくこと。
8	各地の芸能と慣習、宗教	各地で継承されている芸能と慣習、宗教の関係、および社会との関係について学ぶ。	配付資料を熟読すること。 紹介する文献の該当箇所を読んでおくこと。
9	スハルト体制期１	展示される各地の「文化」「慣習」について学ぶ。	配付資料を熟読すること。 紹介する文献の該当箇所を読んでおくこと。
10	スハルト体制期２	バリを事例に、「観光政策」「文化観光」と社会との関係について学ぶ。	配付資料を熟読すること。 紹介する文献の該当箇所を読んでおくこと。
11	開発と災害	開発によって住環境や自然環境が蝕まれた事例を学ぶ。	配付資料を熟読すること。 紹介する文献の該当箇所を読んでおくこと。
12	地方メディアと「伝統」言説	バリを事例に、地方メディアの「伝統」言説と社会への影響について学ぶ。	配付資料を熟読すること。 紹介する文献の該当箇所を読んでおくこと。
13	「仮想世界」と社会	SNS に掲載された投稿に反応・呼応した人びとの事例、および法規制を概観する。	配付資料を熟読すること。 紹介する文献の該当箇所を読んでおくこと。
14	アートと社会	版画、ポスター、美術、ポピュラー音楽、T シャツ、グラフティを通じてアピールする人びとの活動を知る。	配付資料を熟読すること。 紹介する文献の該当箇所を読んでおくこと。 到達度を確認する課題に向けて、授業の内容全体を総復習すること。
15	まとめ	受講生が課題の成果を発表する。その成果に対し講評と授業全体のまとめをおこなう。	到達度を確認する課題に向けて、授業の内容全体を総復習すること。

関連科目

インドネシア・マレー語コースの開講する講義科目。人類学。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	東南アジアを知る事典		平凡社
2	民族大国インドネシア　文化継承とアイデンティティ	鏡味治也　編	木犀社
3	アジアのポピュラー音楽　グローバルとローカルの相克(双書音楽文化の現在４)	井上貴子　編	勁草書房

評価方法（基準）

1. 随時課す小レポート(20%)
2. 授業での発表(30%)
3. 到達度を確認するための課題と発表(50%)

	詳細は第１回目の授業で伝える。
学生への メッセージ	積極的な態度で授業に臨んでください。わからないことや不安があれば相談してください。
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	1. 随時課されるレポートや発表の終了後に解説をおこなう。 2. . 毎週の授業の下調べや復習に最低でも２時間以上が必要である。 したがってこの授業は総計で 30 時間以上の予習・復習を要する。 ３. 授業時間外での質問は、木曜と金曜に７号館２階非常勤講師室で受け付ける。

科目名	インドネシア語Ⅱa	科目名（英文）	Indonesian IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山口　玲子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本授業は、インドネシア語における基礎的な会話能力の修得を目的とする。日常生活のさまざまな場面において役に立つ表現を学ぶ。
到達目標	この授業では、基本的なインドネシア語運用能力の修得を目指し、インドネシアへ旅行に出かけたり、インドネシア人と話す機会において不自由のない実力をつけることができる。
授業方法と留意点	配布するプリントを用いて基礎会話を中心とした学習を行う。声に出して繰り返し練習することを重視する。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語技能検定試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方 インドネシア語の特徴	学んだことの復習
2	文字と発音	アルファベットの読み方	アルファベットをきちんと読めるようにしておくこと
3	発音	基本単語の発音練習	単語の読み方を理解しておくこと
4	挨拶（1）	挨拶表現	プリントの会話部分を練習し覚えること
5	挨拶（2）	感謝、謝罪	プリントの会話部分を練習し覚えること
6	紹介（1）	自己紹介、人称代名詞について	プリントの会話部分を練習し覚えること
7	紹介（2）	自己紹介、疑問詞を用いた表現	プリントの会話部分を練習し覚えること
8	紹介（3）	家族、友人を紹介、疑問詞を用いた表現	プリントの会話部分を練習し覚えること
9	8 回までのまとめ	これまでに学んだことの復習 中間テストおよび解説	これまでに学んだことの再確認
10	数詞（1）	数詞の仕組み	プリントの会話部分を練習し覚えること
11	数詞（2）	序数詞や分数	プリントの会話部分を練習し覚えること
12	数詞（3）	電話番号と数詞の練習問題	プリントの会話部分を練習し覚えること
13	数詞（4）	日付の言い表し方	プリントの会話部分を練習し覚えること
14	10 回から 13 回までのまとめ	数詞を使った表現の復習	10 回から 13 回までの再確認
15	総復習	これまでに学んだことの総復習 理解度確認テストおよび解説	総復習

関連科目	インドネシアⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への積極的な参加度合 20%、中間テスト 40%、理解度確認テスト 40%
学生へのメッセージ	授業へは積極的に参加しましょう。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	毎週の予習は基本的に必要ないが、復習については毎週少なくとも２時間以上は行うこと。半期中の事後学習総時間は 30 時間である。授業時間外での質問等は非常勤講師室にてお昼休みに対応する。なお、中間テストおよび理解度確認テスト終了後には解説を行う。

科目名	インドネシア語Ⅱa	科目名（英文）	Indonesian IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大坪　紀子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本授業は、インドネシア語における基礎的な会話能力の修得を目的とする。日常生活のさまざまな場面において役に立つ表現を学ぶ。
到達目標	この授業では、基本的なインドネシア語運用能力の修得を目指し、インドネシアへ旅行に出かけたり、インドネシア人と話す機会において不自由のない実力をつけることができる。
授業方法と留意点	配布するプリントを用いて基礎会話を中心とした学習を行う。声に出して繰り返し練習することを重視する。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語技能検定試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方 インドネシア語の特徴	学んだことの復習
2	文字と発音	アルファベットの読み方	アルファベットをきちんと読めるようにしておくこと
3	発音	基本単語の発音練習	単語の読み方を理解しておくこと
4	挨拶　①	挨拶表現	プリントの会話部分を練習し覚えること
5	挨拶　②	感謝・謝罪	プリントの会話部分を練習し覚えること
6	紹介　①	自己紹介、人称代名詞について	プリントの会話部分を練習し覚えること
7	紹介　②	自己紹介、疑問詞を用いた表現	プリントの会話部分を練習し覚えること
8	紹介　③	家族、友人を紹介、疑問詞用いた表現	プリントの会話部分を練習し覚えること
9	8回までのまとめ	これまでに学んだことの復習 中間テストおよび解説	これまでに学んだことの再確認
10	数詞　①	数詞の仕組み	プリントの会話部分を練習し覚えること
11	数詞　②	序数詞や分数	プリントの会話部分を練習し覚えること
12	数詞　③	電話番号と数詞の練習問題	プリントの会話部分を練習し覚えること
13	数詞　④	日付の言い表し方	プリントの会話部分を練習し覚えること
14	10回～13回までのまとめ	数詞を使った表現の復習	10回～13回までの再確認
15	総復習	これまでに学んだことの総復習理解度確認テストおよび解説	総復習

関連科目：インドネシア語　II

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への積極的な参加度合(20%) 中間テスト(40%) 理解度確認テスト(40%)
学生へのメッセージ	授業へは積極的に参加しましょう。
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	毎週の予習は基本的に必要ないが、復習については少なくとも1時間以上は行うこと。半期中の事後学習総時間は30時間である。授業時間以外での質問は非常勤講師室にてお昼休みに対応する。なお、中間テストおよび理解度確認テスト終了後には解説を行う。

科目名	インドネシア語Ⅱｂ	科目名（英文）	Indonesian IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	エニ　レスタリ
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本授業は、インドネシア語における基礎的な会話能力の修得を目的とする。日常生活のさまざまな場面において役に立つ表現を学ぶ。
到達目標	この授業では、前期の「インドネシア語Ⅰ」に引き続き、基本的なインドネシア語運用能力の修得を目指し、インドネシアへ旅行に出かけたり、インドネシア人と話す機会において不自由のない実力をつけることができる。
授業方法と留意点	配布するプリントを用いて基礎会話を中心とした学習を行う。声に出して繰り返し練習することを重視する。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語技能検定

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	復習	前期の「インドネシア語Ⅰ」で学んだことの復習	前期の項目を復讐してから授業に進むこと
2	曜日　(1)	曜日、月の言い表し方	プリントの会話部分を練習し覚えること
3	曜日　(2)	季節の表現方法	プリントの会話部分を練習し覚えること
4	時間　(1)	時間の言い表し方	プリントの会話部分を練習し覚えること
5	時間　(2)	時間を使った会話	プリントの会話部分を練習し覚えること
6	色　(1)	色および形容詞	プリントの会話部分を練習し覚えること
7	色　(2)	助数詞	プリントの会話部分を練習し覚えること
8	復習	これまでに学んだことの復習 中間テスト	中間テストに向けてこれまでに学んだことの再確認
9	ショッピング　(1)	値段の尋ね方	プリントの会話部分を練習し覚えること
10	ショッピング　(2)	店での会話	プリントの会話部分を練習し覚えること
11	ショッピング　(3)	その他役に立つ表現	プリントの会話部分を練習し覚えること
12	位置　(1)	位置の表し方	プリントの会話部分を練習し覚えること
13	位置　②	道を尋ねる	プリントの会話部分を練習し覚えること
14	9 回～13 回までのまとめ	ショッピングでの会話や位置に関する表現の復習	9 回～13 回までに学んできたことの再確認ｍｓ
15	総復習	これまでに学んだことの総復習 理解度確認テスト	これまでに学んだことの再確認

関連科目	インドネシア語Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への積極的な参加度合 20%、中間テスト 40%、理解度確認テスト 40%等に基づき総合的に評価する。
学生へのメッセージ	授業へは積極的に参加しましょう。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	毎週の予習は基本的に必要ないが復讐については毎週少なくとも 1 時間は行うこと。半期中の事後学習は 30 時間である。授業時間以外での質問は非常勤講師室にてお昼休みに対応する。

科目名	インドネシア語Ⅱｂ	科目名（英文）	Indonesian IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	２
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山口　玲子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本授業は、インドネシア語における基礎的な会話能力の修得を目的とする。日常生活のさまざまな場面において役に立つ表現を学ぶ。
到達目標	この授業では、前期の「インドネシア語Ⅰ」に引き続き、基本的なインドネシア語運用能力の修得を目指し、インドネシアへ旅行に出かけたり、インドネシア人と話す機会において不自由のない実力をつけることができる。
授業方法と留意点	配布するプリントを用いて基礎会話を中心とした学習を行う。声に出して繰り返し練習することを重視する。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語技能検定試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	復習	前期の「インドネシア語Ⅰ」で学んだことの復習	前期の項目を復習してから授業に臨むこと
2	曜日（1）	曜日、月の言い表し方	プリントの会話部分を練習し覚えること
3	曜日（2）	季節の表現方法	プリントの会話部分を練習し覚えること
4	時間（1）	時間の言い表し方	プリントの会話部分を練習し覚えること
5	時間（2）	時間を使った会話	プリントの会話部分を練習し覚えること
6	色（1）	色および形容詞	プリントの会話部分を練習し覚えること
7	色（2）	助数詞	プリントの会話部分を練習し覚えること
8	復習	これまでに学んだことの復習 中間テストおよび解説	中間テストに向けてこれまでに学んだことの再確認
9	ショッピング（1）	店での会話	プリントの会話部分を練習し覚えること
10	ショッピング（2）	店での会話	プリントの会話部分を練習し覚えること
11	ショッピング（3）	その他役に立つ表現	プリントの会話部分を練習し覚えること
12	位置（1）	位置の表し方	プリントの会話部分を練習し覚えること
13	位置（2）	道を尋ねる	プリントの会話部分を練習し覚えること
14	9 回から 13 回までのまとめ	ショッピングでの会話や位置にかんする表現の復習	９回から 13 回までに学んできたことの再確認
15	総復習	これまでに学んできたことの総復習 理解度確認テストおよび解説	総復習

関連科目	インドネシア語Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への積極的な参加度合 20%、中間テスト 40%、理解度確認テスト 40%
学生へのメッセージ	授業へは積極的に参加しましょう。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	毎週の予習は基本的に必要ないが、復習については毎週少なくとも２時間は行うこと。半期中の事後学習総時間は 30 時間である。授業時間外での質問等は非常勤講師室にてお昼休みに対応する。なお、中間テストおよび理解度確認テスト終了後には解説を行う。

科目名	インドネシア語Ⅲａ	科目名（英文）	Indonesian IIIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大坪　紀子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	インドネシア語の中級レベルの運用能力を育成する。文法説明および読解を中心に、短文の作成や会話の練習も随時おこなう。またインドネシアの文化や慣習も随時紹介する。
到達目標	中級レベルの運用能力をめざす。インドネシア語の短い文章が読め、インドネシアの人と話す時に不自由のない実力をつけることができる。
授業方法と留意点	テキストはプリントを配布する。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語の能力向上とともに、インドネシア語技能検定試験に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	1.授業の進め方を説明する。 2.インドネシア語の概要や、インドネシア語が話されている地域の概要を確認する。	前回の復習。
2	基本１	発音と語順。名詞・形容詞・副詞・否定詞・接続詞などの復習と応用練習	前回の復習。
3	基本２	前置詞、人称代名詞、呼びかけなどの復習と応用練習。接尾辞-nya。会話練習。	前回の復習。
4	基本３	挨拶。名詞文・否定文・疑問文・答え方などの復習と応用問題。 会話練習。	前回の復習。
5	数字や数の表現	数字、日付、数量などの表現と復習、応用問題。会話練習。	前回の復習。
6	動詞	基語動詞、beR-動詞、meN-動詞の復習と応用。時制。会話練習。	前回の復習。
7	短い文章の購読１	疑問詞・助動詞の復習と応用。	前回の復習。
8	・中間試験 ・短い文章の購読２	・第７回までに学んだことを確認するために中間試験をおこなう。 ・短文を読解する。	第７回までの総復習。
9	便利な表現１	・日常会話や旅行でよく使われる表現を学ぶ。 ・インドネシアの日常生活を知る。	前回の復習。
10	便利な表現２	・日常会話や旅行でよく使われる表現を学ぶ。 ・インドネシアの日常生活を知る。	前回の復習。
11	接頭辞 se-	接頭辞 se-の学習。読解。短文作成。会話練習。	前回の復習。
12	yang	yang を用いた表現の学習。読解。短文の作成。会話練習。	前回の復習。
13	受け身１	受け身表現の学習。読解。短文の作成。会話練習。	前回の復習。
14	受け身２	受け身表現の学習。読解。短文の作成。会話練習。	前回の復習。
15	まとめ	第 14 回までの理解度を確認する試験を実施する。試験のおこなったあと、理解の足りないところをとりあげて復習・解説する。	第１４回までの総復習。

関連科目：インドネシア語Ⅳ、人類学関係の授業

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への積極的な参加度合(20%) 第８回に実施される中間テスト(40%) 第１５回に実施される理解産確認テスト(40%)
学生へのメッセージ	文化・経済などインドネシアには非常に将来性があるものの、英語などに比べてインドネシア語は日本では学べる機会や機関の少ない言語です。積極的に授業に参加して、身につけましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	毎週の予習は必要ないが、復習は少なくとも 1 時間以上おこなうこと。すなわち事後学習総時間は 30 時間以上である。授業時間以外での質問は非常勤講師室にて昼休みに対応する。なお、中間テストおよび理解度確認テスト終了後には解説を行う。

科目名	インドネシア語Ⅲｂ	科目名（英文）	Indonesian IIIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大坪　紀子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	インドネシア語の中級レベルの運用能力を育成する。文法説明および読解を中心に、短文の作成や会話の練習も随時おこなう。またテキストを通じてインドネシアの歴史や地理も紹介する。
到達目標	中級レベルの運用能力をめざす。インドネシア語の短い文章が読め、インドネシアの人と話す時に不自由のない実力をより高める。
授業方法と留意点	積極的に参加すること。テキストはプリントを配布する。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語の能力向上とともに、インドネシア語技能検定試験に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	１.授業の進め方を説明する。 ２.これまでに習得したインドネシア語能力を確認する。	前回の復習。
2	重複、接尾辞-an、　接頭辞 peN-	重複、接尾辞-an、　接頭辞 peN-の学習。読解。短文作成。	前回の復習。
3	比較・最上表現、接頭辞 ter- 、前置詞	比較・最上表現、接頭辞 ter- 、前置詞の学習。読解。短文作成。	前回の復習。
4	接続詞、付加疑問文、感嘆文	接続詞、付加疑問文、感嘆文の学習。読解。短文作成。	前回の復習。
5	共接辞 peN--an、perN--an	共接辞 peN--an、perN--an の学習。読解。短文作成。	前回の復習。
6	従位接続詞、相関構文	従位接続詞、相関構文の学習。読解。短文作成。	前回の復習。
7	共接辞 keN--an、　命令・依頼・勧誘表現	共接辞 keN--an、　命令・依頼・勧誘表現の学習。読解。短文作成。	前回の復習。
8	共接辞 keN-an、　meN--kan 動詞、meN--i 動詞、memperN--動詞	共接辞 keN-an、　meN--kan 動詞、meN--i 動詞、memperN--動詞の学習。読解。短文作成。	前回の復習。
9	歴史、地理、交通をテーマとした文章の購読　１	講読に際して注意を要する文法の説明。 インドネシアの地理に関する説明。 場所を尋ねる会話練習。	前回の復習。
10	歴史、地理、交通をテーマとした文章の購読　２	講読に際して注意を要する文法の説明。 インドネシアの地理や交通に関する説明。数字の復習。	前回の復習。
11	歴史、地理、交通をテーマとした文章の購読　３	講読に際して注意を要する文法の説明。 インドネシアの歴史に関する説明。 時間を尋ねる会話練習。	前回の復習。
12	航空に関する記事の購読１	講読に際して注意を要する文法の説明。 インドネシアでの航空に関する説明。金額を尋ねる会話練習。	前回の復習。
13	航空に関する記事の購読２	講読に際して注意を要する文法の説明。 会話練習。方法を尋ねる会話練習。	前回の復習。
14	まとめ	第 13 回までに学習した項目をまとめて復習する。許可を求める会話練習。	第 13 回までの総復習。
15	理解度確認テスト。ふりかえりと今後の学習法について	いままでの理解度を確認するために理解度確認テストを実施する。テスト終了後に理解に足りないところを説明する。また今後１人で復習・学習していくために必要な事項を伝える。	第 14 回までの総復習。

関連科目	インドネシア語関連の授業、人類学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への積極的な参加度合(20%) 随時課すまとめレポート(40%) 理解産確認テスト(40%)
学生へのメッセージ	インドネシア語は人口２億５千万人のインドネシアの国語です。運用能力を身につけ将来に役立てましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	毎週の予習は比較的少なくて済むが、復習は少なくとも毎週 1 時間以上おこなうこと。 したがって、この授業での総復習時間は 15 時間以上を求める。 授業時間以外での質問は非常勤講師室にて昼休みに対応する。 なお、随時課す宿題やまとめレポートの返却時と、理解度確認テスト終了後には解説を行う。

科目名	インドネシア語コムニカシⅡa	科目名（英文）	Indonesian Communication II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	エニ　レスタリ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	１年間のインドネシア語学習を通じて、単語力や文法の理解が深まったかと思われます。 インドネシアに旅でも長期滞在でコミュニケーション出来る。
到達目標	相手の発言に対して自分が答えることも重要であるが、まずは過去１年間で得た単語力と文法理解力をもとに、自分が言いたいことや伝えたいことを即座に比較的短い文で発言できることを目標とする。
授業方法と留意点	会話がテーマです。 毎回のテーマに応じて、どのような内容を伝えなければならないのか、もしくはどのような状況であるのかを事前にいくつか想像しておくこと。 積極的な発言と態度で臨んでください。リスニング、シャドーイングで聞き取り会話練習。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語技能検定

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	プロローグ	授業の進め方と、受講にあたっての留意点に関する説明を行なう。	授業の進め方に対する質問や要望を事前に考えておくこと。
2	インドネシアに上陸する（1）	到着ビザを取得する聞き取り会話練習	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
3	インドネシアに上陸する（2）	入管と聞き取り会話練習	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
4	インドネシアに上陸する（3）	スーツケース紛失の聞き取り会話練習	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
5	インドネシアに上陸する（4）	税関についての聞き取り会話練習	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
6	小試験および第２回から第５回までの復習	第２回から第５回までに学習した項目をもとに、あるシチュエーションを想定した会話を課す。	授業内容の復習
7	電話をかける。　（1）	会う約束をするための知人に電話をかける。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
8	電話をかける。　（2）	安い航空券を探す。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
9	電話をかける。　（3）	でんわで料理を注文する。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
10	電話をかける。　（4）	警察署に電話をかける。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
11	小試験および第７回から第10回までの復習	第７回から第 10 回までに学習した項目をもとに、あるシチュエーションを想定した会話を課す。	授業内容の復習
12	インドネシアでの生活の準備。（1）	住居を探す。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
13	インドネシアでの生活の準備。　（2）	家具を買う。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
14	インドネシアでの生活の準備。（3）	乗り物を連タールする。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
15	総復習試験	全回で学習した項目をもとに、あるシチュエーションを想定した会話を課す。	全授業内容の復習。

関連科目：専攻言語インドネシア語科目のすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	インドネシア語スピーキング	ホラス由美子	三修社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	積極的な授業態度および平常点、小テスト、第 15 回の総復習試験の結果をあわせた総合評価。 詳細は、第１回目の授業で伝える。
学生へのメッセージ	間違いを恐れずに、学んだ単語を自発的に使ってみましょう。 日々の地道な学習と努力は「気づき」と大きな成果を必ずもたらします。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	

科目名	インドネシア語コムニカシⅡｂ	科目名（英文）	Indonesian Communication II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	エニ　レスタリ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	一年間インドネシア語学習を通じて、単語や文法の理解が深まったため、インドネシアに旅行でも長期滞在で現地の人とコミュニケーション出来る。
到達目標	相手の発言に対して自分も答えることも重要であるが、まずは前期までの得た単語や表現をもとに、自分が言いたいことや伝えたいことを即座に発言出来ることを目標とする。
授業方法と留意点	会話がテーマです。毎回のテーマに応じてどのような内容伝えなければならないのか、もしくはどのような状況であるのかを事前に想像しておくこと。積極的発言と態度で臨んでください。リスニング、シャドーイングで聞き取り会話練習。
科目学習の効果（資格）	インドネシアの生活習慣を含めて日常のコミュニケーションが出来るようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	インドネシアでの日常生活（1）	出会い。新しい友達と出会いの聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現や自己紹介をする際に役立つ表現を覚えましょう。
2	インドネシアでの日常生活（2）	手紙を送る。郵便局にて聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
3	インドネシアでの日常生活（3）	博物館を訪問する。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
4	インドネシアでの日常生活（4）	映画館で映画を観る。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
5	インドネシアでの日常生活（5）	手工芸品を見る。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
6	小テスト及び第１回目～５回目までの復習。	第１回目～５回目までに学習した項目をもとに、あるシチュエーションを想定した会話を課す。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
7	日々の出来事。　（1）	講義に遅刻する。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
8	日々の出来事。　（2）	運転免許証をうっかり置き忘れる。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
9	日々の出来事。　（3）	郊外で休暇を過ごす。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
10	日々の出来事。　（4）	病気。病院にて聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
11	小テスト及び第７回目～１０回目までの復習	第７回目～１０回目までに学習した項目をもとにあるシチュエーションを想定した会話を課す。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
12	ホテルに泊まる。　（1）	空港でホテルを予約する。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
13	ホテルに泊まる。　（2）	ホテルに到着する。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
14	ホテルに泊まる。　（3）	クリーニング、ルームサービスの聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
15	小テスト及び第１２回目～１４回目までの復習。	第１２回目～１４回目までに学習した項目をもとにあるシチュエーションを想定した会話を課す。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。

関連科目：専攻言語インドネシア語科目すべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	インドネシア語スピーキング	ホラス由美子	三修社
2	インドネシア語リスニング	ホラス由美子	三修社
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回の授業における参加度、および適宜行う小テストによって総合的に評価する。 授業参加 20% クラス活動 30% 小テスト 50%
学生へのメッセージ	口語表現の基本を身につければ、ネイティブの話が聞き取れるようになり、自然なやりとりができるようになります。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	

科目名	インドネシア語コムニカシⅠa	科目名（英文）	Indonesian Communication Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	エニ　レスタリ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	インドネシア語の発音をはじめ日常会話文を学ぶ。
到達目標	挨拶にはじまる基本会話を出来る能力をつける。
授業方法と留意点	会話文を学習。基本会話を聞く・文法確認・会話練習。
科目学習の効果（資格）	挨拶にはじまる基本的な日常会話が出来る。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	アルファベット文字と発音	母音と子音の発音	二重母音と子音の発音を確認して練習する。
2	挨拶	日常に使われる挨拶	日常の挨拶練習。
3	お礼とお詫び	お礼とお詫びの表現.	お礼と謝る場合の表現を練習する。
4	自己紹介	人の名前・人称代名詞・職業の単語を学習し、その文を発言する練習。	授業内容を復習すること。
5	自己紹介	疑問詞”誰”・家族に関する単語を学習・家族に付いての自己紹介。	前回の授業の内容を使って会話の練習をする。
6	第１～５までの復習	小テスト・聞き取り会話テスト	事前に全部の授業内容を復習すること。。
7	基本文・肯定文・否定文・疑問文	名詞・名詞の否定詞。動詞・形容詞とその単語の否定詞を学習し、聞き取り会話練習。	周りにあるものの名前を覚える。日常生活に使用されている動詞又は目に身近な形容詞を覚える。
8	呼びかけ	様々な人の呼びかけ方	授業内容復習する。
9	聞き直し	時間の言い方	授業内容を復習すること。
10	依頼	tolong～（～してください）を使って人に何かを頼んでみましょう。	授業内容を復習すること。
11	第６～１０までの復習	小テスト。聞き取りテストを行う。	前回の授業で学んだ単語を文書を作成。
12	許可表現	boleh を使って相手に許可を求めてみましょう。	授業内容を復習すること。
13	確認	bukan を使って「～ですね」と確認しましょう。	授業内容の復習。
14	願望表現	～が欲しい、～したいの表現	全部の授業内容の復習。
15	第１１～１４までの復讐	小テスト．聞き取り会話テスト。	学習した語彙・会話文テスト。

関連科目：専攻言語インドネシア語科目のすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	今すぐ話せるインドネシア語	ファリーダイドリスノ・好光智子	株式会社ナガセ◎東進ブックス
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	クラスの活動参加５０％ 聞き取り会話テスト５０％
学生へのメッセージ	授業で学んだ語彙を覚える為には、毎日インドネシア語の挨拶から学習した会話文を使用する。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	

科目名	インドネシア語コムニカシⅠb	科目名（英文）	Indonesian Communication Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	エニ　レスタリ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	前期に引きづづき生活の中の場面での会話に使われる表現やテーマに関連する単語を学習する。
到達目標	インドネシア語の会話につじて、現地の生活習慣やマナーなど知る事。
授業方法と留意点	会話を聞く・話す・覚える。毎回会話を練習して。復習確認テストを行う。
科目学習の効果（資格）	インドネシアの生活習慣を含めて日常コミュニケーションが能力を付ける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	前期の復習。	これまでに学んだことを思い出すために会話練習を行う。	前期の授業内容の事前に復習する。
2	機内にて	インドネシアへ向かう飛行機に乗ってすぐの、乗客と乗務員の会話です。聞き取り会話練習すること。	授業内容に関連単語を覚える。
3	入国	入国管理窓口での会話。聞き取り会話練習する。	授業内容に関連単語を覚える。
4	タクシーに乗る	運転手との会話。聞き取り会話練習すること。	授業内容に関連単語を覚える。
5	ホテルにて	ホテル従業員との会話。聞き取り会話練習すること。	授業内容に関連単語を覚える。
6	第1回目～5回目までの復習	日本語⇔インドネシア語翻訳や様々な場面の会話文を作成。	ペパーテストを行う。
7	観光案内所にて。	観光案内所の職員との会話。聞き取り会話練習すること。	授業内容に関連単語を覚える。
8	鉄道に乗る	窓口の人との会話。聞き取り会話練習。	授業内容に関連単語を覚える。
9	レストランにて	ウェイターとの会話。聞き取り会話練習。	授業内容に関連単語を覚える。
10	買い物	店員さんとの会話。聞き取り会話練習。	授業内容に関連単語を覚える。
11	第7回目～10回目の復習	日本語⇔インドネシア語翻訳や様々な場面の会話文を作成。	ペパーテストを行う。
12	道を尋ねる。	自分の行きたい場所までの道を尋ね、右や左といた単語や方向をマスターしましょう。聞き取り会話練習。	授業内容に関連単語を覚える。
13	薬局にて。	薬局の店員さんとの会話。聞き取り会話練習。	授業内容に関連単語を覚える。
14	電話をかける	インドネシアの友達に電話をかける。聞き取り会話練習。	授業内容に関連単語を覚える。
15	第12回目～14回目の復習	日本語⇔インドネシア語翻訳や様々な場面の会話文を作成。	ペパーテストを行う。

関連科目：専攻言語インドネシア語の科目のすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	今すぐ話せるインドネシア語	ファリーダイドリスノ・好光智子	株式会社ナガセ◎東進ブックス
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	クラス活動参加(会話練習) 50% 小テスト 50%
学生へのメッセージ	会話文だけではなく、インドネシアの文化や生活習慣などを理解し、コミュニケーション能力を上達する。出来る限りクラスメートと先生との会話をインドネシア語で。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	

科目名	インドネシア語コムニカシⅡａ（１）	科目名（英文）	Indonesian Communication IIa(1)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	エニ　レスタリ
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	１年間のインドネシア語学習を通じて、単語力や文法の理解が深まったかと思われます。 インドネシアに旅でも長期滞在でコミュニケーション出来る。
到達目標	相手の発言に対して自分が答えることも重要であるが、まずは過去１年間で得た単語力と文法理解力をもとに、自分が言いたいことや伝えたいことを即座に比較的短い文で発言できることを目標とする。
授業方法と留意点	会話がテーマです。 毎回のテーマに応じて、どのような内容を伝えなければならないのか、もしくはどのような状況であるのかを事前にいくつか想像しておくこと。 積極的な発言と態度で臨んでください。リスニング、シャドーイングで聞き取り会話練習。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語技能検定

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	プロローグ	授業の進め方と、受講にあたっての留意点に関する説明を行なう。	授業の進め方に対する質問や要望を事前に考えておくこと。
2	インドネシアに上陸する（1）	到着ビザを取得する聞き取り会話練習	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
3	インドネシアに上陸する（2）	入管と聞き取り会話練習	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
4	インドネシアに上陸する（3）	スーツケース紛失の聞き取り会話練習	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
5	インドネシアに上陸する（4）	税関についての聞き取り会話練習	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
6	小試験および第２回から第５回までの復習	第２回から第５回までに学習した項目をもとに、あるシチュエーションを想定した会話を課す。	授業内容の復習
7	電話をかける。　（1）	会う約束をするための知人に電話をかける。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
8	電話をかける。　（2）	安い航空券を探す。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
9	電話をかける。　（3）	でんわで料理を注文する。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
10	電話をかける。　（4）	警察署に電話をかける。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
11	小試験および第７回から第10回までの復習	第７回から第 10 回までに学習した項目をもとに、あるシチュエーションを想定した会話を課す。	授業内容の復習
12	インドネシアでの生活の準備。（1）	住居を探す。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
13	インドネシアでの生活の準備。　（2）	家具を買う。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
14	インドネシアでの生活の準備。（3）	乗り物を連タールする。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
15	総復習試験	全回で学習した項目をもとに、あるシチュエーションを想定した会話を課す。	全授業内容の復習。

関連科目：専攻言語インドネシア語科目のすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	インドネシア語スピーキング	ホラス由美子	三修社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	積極的な授業態度および平常点、小テスト、第 15 回の総復習試験の結果をあわせた総合評価。 詳細は、第１回目の授業で伝える。
学生へのメッセージ	間違いを恐れずに、学んだ単語を自発的に使ってみましょう。 日々の地道な学習と努力は「気づき」と大きな成果を必ずもたらします。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	

科目名	インドネシア語コムニカシⅡａ（２）	科目名（英文）	Indonesian Communication IIa(2)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	エニ　レスタリ
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	一年間インドネシア語学習を通じて、単語や文法の理解が深まったため、インドネシアに旅行でも長期滞在で現地の人とコミュニケーション出来る。
到達目標	相手の発言に対して自分も答えることも重要であるが、まずは前期までの得た単語や表現をもとに、自分が言いたいことや伝えたいことを即座に発言出来ることを目標とする。
授業方法と留意点	会話がテーマです。毎回のテーマに応じてどのような内容伝えなければならないのか、もしくはどのような状況であるのかを事前に想像しておくこと。積極的発言と態度で臨んでください。リスニング、シャドーイングで聞き取り会話練習。
科目学習の効果（資格）	インドネシアの生活習慣を含めて日常のコミュニケーションが出来るようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	インドネシアでの日常生活（1）	出会い。新しい友達と出会いの聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現や自己紹介をする際に役立つ表現を覚えましょう。
2	インドネシアでの日常生活（2）	手紙を送る。郵便局にて聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
3	インドネシアでの日常生活（3）	博物館を訪問する。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
4	インドネシアでの日常生活（4）	映画館で映画を観る。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
5	インドネシアでの日常生活（5）	手工芸品を見る。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
6	小テスト及び第１回目～５回目までの復習。	第１回目～５回目までに学習した項目をもとに、あるシチュエーションを想定した会話を課す。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
7	日々の出来事。　（1）	講義に遅刻する。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
8	日々の出来事。　（2）	運転免許証をうっかり置き忘れる。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
9	日々の出来事。　（3）	郊外で休暇を過ごす。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
10	日々の出来事。　（4）	病気。病院にて聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
11	小テスト及び第７回目～１０回目までの復習	第７回目～１０回目までに学習した項目をもとにあるシチュエーションを想定した会話を課す。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
12	ホテルに泊まる。　（1）	空港でホテルを予約する。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
13	ホテルに泊まる。　（2）	ホテルに到着する。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
14	ホテルに泊まる。　（3）	クリーニング、ルームサービスの聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
15	小テスト及び第１２回目～１４回目までの復習。	第１２回目～１４回目までに学習した項目をもとにあるシチュエーションを想定した会話を課す。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。

関連科目：専攻言語インドネシア語科目すべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	インドネシア語スピーキング	ホラス由美子	三修社
2	インドネシア語リスニング	ホラス由美子	三修社
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回の授業における参加度、および適宜行う小テストによって総合的に評価する。 授業参加 20% クラス活動 30% 小テスト 50%
学生へのメッセージ	口語表現の基本を身につければ、ネイティブの話が聞き取れるようになり、自然なやりとりができるようになります。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	

科目名	インドネシア語コムニカシⅢa	科目名（英文）	Indonesian Communication IIIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	エニ　レスタリ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	この授業ではインドネシアの人びととの会話をいっそう深めるために、インドネシアの新聞や雑誌、メディア、SNS 等から受講者がニュースや記事をとりあげて概要と意見を発表し、ディスカッションをおこなう。
到達目標	１．インドネシア語である程度の発表ができるようになること。 ２．．インドネシア語である程度の小レポートが書けるようになること。
授業方法と留意点	この授業では正確な作業を行う必要がある。そのため、授業に出席する前に十分な予習と準備をしておくこと。復習も欠かさないこと。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語検定。 実践的なインドネシア語能力の習得。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	プロローグ	授業の進め方や成績評価法、プレゼンテーションなど、留意点の説明を行なう。	・質問事項などを事前に考えておくこと。 ・予習
2	会話表現　1	会話で交わされる独特の単語を理解する。	準備と予習、復習の徹底
3	会話表現　2	会話で交わされる独特の単語を使って表現する。	準備と予習、復習の徹底
4	会話表現　3	会話で交わされる独特の単語をつかって、受講者たちで会話をおこなう。	準備と予習、復習の徹底
5	SNS における表現　1	ＳＮＳで使われる独特の単語を理解する。	準備と予習、復習の徹底
6	ＳＮＳにおける表現　2	SNS で使われる独特の表現を理解する。	準備と予習、復習の徹底
7	ＳＮＳにおける表現　3	SNS を想定し、模擬のやりとりをおこなう。	準備と予習、復習の徹底
8	新聞における表現　1	新聞のレイアウトや、読み方を知る。	準備と予習、復習の徹底
9	新聞における表現　2	長文の内容を把握して、概要をまとめる練習。	準備と予習、復習の徹底
10	新聞における表現　3	長文の内容を把握して、概要をまとめる練習。	準備と予習、復習の徹底
11	新聞における表現　4	新聞記事をもとにディスカッションをおこなう練習。	準備と予習、復習の徹底
12	インターネットで配信される記事の表現　1	配信される記事の前後関係を正確に把握する。	準備と予習、復習の徹底
13	インターネットで配信される記事の表現　2	続々と配信される記事から概要をつかむ練習。	準備と予習、復習の徹底
14	インターネットで配信される記事の表現　3	記事をもとにディスカッションをおこなう。	準備と予習、復習の徹底
15	総復習	陥りやすいミスと癖を改善するために、今後の学習の課題をみつける。	準備と予習、復習の徹底

関連科目：専攻言語インドネシア語科目のすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	1. 準備・予習・復習からなるホームワーク(50%) 2. 授業での発表とレポート(50%) 詳細は、第１回目の授業で伝える。
学生へのメッセージ	1. 予習ならびに準備として、インドネシアの記事をより理解するために自ら参考文献を調べて読んでおくこと。 2. 必ず復習をおこなうこと。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	授業時間外での質問や要望は、７号館２階非常勤講師室にて受け付ける。

科目名	インドネシア語コムニカシⅢｂ	科目名（英文）	Indonesian Communication IIIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	エニ　レスタリ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	1. ニュースや新聞等の情報を読んだり聴いたりし、その内容を理解できることを目標します。 2. 受講者は毎回インドネシア語で概要と意見を発表し、ディスカッションをおこなう。 3. 随時、レポートを課す。 4. 随時、暗唱を課す。 5. 高度なインドネシア語運用能力を身につけることを目指す。
到達目標	１．発表にふさわしいインドネシア語が運用できるようになること。 ２．．レポートにふさわしいインドネシア語の文章が書けるようになること。
授業方法と留意点	この授業では正確な作業を行う必要がある。そのため、授業に出席する前に十分な準備と予習をしておくこと。復習も欠かさないこと。扱う単語もやや難しいので、何度も繰り返し聞いてみましょう。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語検定。 実践的なインドネシア語能力の習得。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	１．プロローグ	１．授業の進め方や受講にあたっての留意点、準備・予習・復習の仕方、資料の探し方、発表の手順・発表資料の作成などについて説明を行なう。 ２．シャドーイング	授業内容の復習
2	短いニュース。　植物の効能	1. シャドーイング 2. ニュース内容を理解する	授業内容の復習
3	短いニュース。伝染病	1. シャドーイング 2. ニュース内容を理解する	授業内容の復習
4	短いニュース。　結婚式	1. シャドーイング 2. ニュース内容を理解する	授業内容の復習
5	短いニュース。出生率	1. シャドーイング 2. ニュース内容を理解する	授業内容の復習
6	短いニュース。災害	1. シャドーイング 2. ニュース内容を理解する	授業内容の復習
7	短いニュース。携帯電話	1. シャドーイング 2. ニュース内容を理解する	授業内容の復習
8	短いニュース。インターネット	1. シャドーイング 2. ニュース内容を理解する	授業内容の復習
9	短いニュース。経済	1. シャドーイング 2. ニュース内容を理解する	授業内容の復習
10	発表	第２回目～９回目の中から受講者一人一人関心がある内容に詳しく発表する。	授業内容の復習
11	短編小説を読む。Perempuan yang Melukis Wajah. 11 cerita pendek di hari hujan,　（1）	1.長文の内容を把握する練習。2.概要をその場で発表する練習。 3.質疑応答の練習。	授業内容の復習
12	短編小説を読む。Perempuan yang Melukis Wajah. 11 cerita pendek di hari hujan,　（2）	1.長文の内容を把握する練習。2.概要をその場で発表する練習。 3.質疑応答の練習。	授業内容の復習
13	短編小説を読む。Perempuan yang Melukis Wajah. 11 cerita pendek di hari hujan,　（3）	1. 長文の内容を把握する練習。2. 概要をその場で発表する練習。 3. 質疑応答の練習。	授業内容の復習
14	短編小説を読む。Perempuan yang Melukis Wajah. 11 cerita pendek di hari hujan,　（4）	1. 長文の内容を把握する練習。2. 概要をその場で発表する練習。 3. 質疑応答の練習。	授業内容の復習
15	発表　③	１．第 12 回、第 13 回、第 14 回の授業から、受講者めいめいが関心を持ったことをできるだけ詳しく調べ、インドネシア語で発表する。	授業内容の復習

関連科目	専攻言語インドネシア語科目のすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	インドネシア語リスニング	ホラス由美子	三修社
2	Perempuan Yang Melukis Wajah	Ainun Chomsun, dkk	PT Gramedia Pustaka Utama

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	1. 授業での発表とディスカッション（６０％） 2. 暗唱と レポート（４0％） 詳細は、第１回目の授業で伝える。
学生へのメッセージ	前期の『インドネシア語コムニカシⅢａ』でインドネシア語運用能力が高まったかと思います。 この授業ではいっそうの高みを目指しましょう。
担当者の研究室等	７号館２階(非常勤講師室)
備考	授業時間外での質問や要望は、毎週水曜に７号館２階非常勤講師室にて受け付ける。

科目名	インドネシア語コムニカシⅣa	科目名（英文）	Indonesian Communication IVa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	エニ　レスタリ
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	Mahasiswa mampu berdiskusi tentang hal-hal yang berkaitan dengan Jepang . Kemampuan ini akan berguna untuk menerangkan tentang Jepang kepada orang Indonesia dalam berbagai situasi yang akan dialami di Indonesia. 本授業は、日本における様々な社会的なことをインドネシア語でインドネシア人に伝えることが出来る。
到達目標	Tiap pertemuan mahasiswa mempersiapkan bahan diskusi tentang tema yang ditentukan. 各テーマについて事前に準備しておくこと。
授業方法と留意点	Dalam kuliah ini, mahasiswa melakukan presentasi sesuai tema yang ditentukan. 各テーマに発表に対してディスカッションを行うので、積極的な発言するを求める。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語検定試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientasi	Penjelasan tentang Kuliah Ini	Ulangan Kuliah Kali Ini
2	Tentang Kebudayaan Jepang 1	Presentasi Mahasiswa mengenai Geografi Jepang	Memperhatikan istilah khusus yang digunakan dalam bidang geografi.
3	Tentang Kebudayaan Jepang 2	Presentasi Mahasiswa mengenai tempat pariwisata terkenal dan budaya setempat	Memperhatikan istilah khusus yang digunakan dalam bidang Pariwisata.
4	Tentang Kebudayaan Jepang 3	Diskusi Tema tentang Kebudayaan Jepang	Memperhatikan istilah khusus yang digunakan dalam bidang kebudayaan.
5	Tentang Ekonomi Jepang 1	Presentasi Mahasiswa mengenai fluktuasi mata uang dan pengaruhnya terhadap perekonomian Jepang	Memperhatikan istilah khusus yang digunakan dalam bidang ekonomi.
6	Tentang Ekonomi Jepang 2	Presentasi Mahasiswa tentang hubungan ekonomi dan kerja sama luar negeri	Memperhatikan istilah khusus yang digunakan dalam bidang kerjasama luar negri.
7	Tentang yang sedang populer di Jepang & Indonesia	Presentasi mahasiswa sesuai tema	Memperhatikan istilah khusus yang populer di dalam masyarakat.
8	Ulangan：test mid semester tentang kata dan kalimat khusus.	Test Mid Semester	Mengulang dan mengingat kembali kata / kalimat khusus dalam bidang tertentu.
9	Sejarah Jepang 1	Presentasi Mahasiswa tempat bersejarah Kyoto	Memperhatikan istilah khusus yang digunakan dalam bidang sejarah
10	Tentang Sejarah Jepang 2	Presentasi Mahasiswa tempat bersejarah Nara	Memperhatikan istilah khusus yang digunakan dalam bidang sejarah
11	Tentang Sejarah Jepang 3	Diskusi Tema tentang Sejarah Jepang	Memperhatikan istilah khusus yang digunakan dalam bidang sejarah
12	Tentang Masalah Sosial Jepang 1	Presentasi Mahasiswa tentang kesenjangan usia	Memperhatikan istilah khusus yang digunakan dalam bidang sosial
13	Tentang Masalah Sosial Jepang 2	Presentasi Mahasiswa tentang bantuan pemerintah dalam berbagai masalah sosial	Memperhatikan istilah khusus yang digunakan dalam bidang sosial
14	Tentang Masalah Sosial Jepang 3	Diskusi Tema tentang Masalah Sosial Jepang	Memperhatikan istilah khusus yang digunakan dalam bidang sosial
15	Ulangan	Mengulang tentang sejarah dan sosial. Ujian akhir semester	Mempersiapkan ujian akhir semester.

関連科目：インドネシア語の全科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Persiapan naskah diskusi （準備と原稿）50% Keaktifan dalam diskusi （ディスカッションにての発表及び発言）50%
学生へのメッセージ	Mahasiswa harus berpartisipasi aktif dalam kegiatan kuliah.
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	

科目名	インドネシア語コムニカシⅣb	科目名（英文）	Indonesian Communication IVb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	エニ　レスタリ
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	Memberikan pengetahuan dan kemampuan memahami bahasa dan satra Indonesia. Mahasiswa mampu mempraktekkan bahasa Indonesia dalam dunia sastra. 本授業は、インドネシアの文学やメディアに通じてコミュニケーション出来る。
到達目標	Dalam kuliahini, mahasiswa selain membaca karya sastra juga praktek komunikasi melalui media TV, radio serta sandiwara. 本授業では文学を読むことに加えて、テレビ、ラジオ、劇を通してコミュニケーションを実践しています。詩を読むことスピーチコンテスト的な発表出来る。
授業方法と留意点	Menggunakan karya sastra , media dan sandiwara sebagai alat komunikasi. コミュニケーションの手段として、文学、メディアとドラマを使用します。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語検定試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientasi	Penjelasan tentang Kuliah Ini	Penjelasan tentang materi , jalannya perkulihan dan ujian praktek
2	Membaca karya sastra	Sastra lama (pantun)	Memahami isi dan mencoba membuat sesuai contoh.
3	Membaca karya sastra	Sastra lama (syair & puisi)	Memahami isi karya sastra.
4	Membuat karya sastra. puisi 1.	Diskusi Tema tentang Perbandingan Kebudayaan Indonesia dan Jepang	Memahami isi karya sastra.
5	Membuat - menghafal puisi	Presentasi karya puisi mahasiswa.	Membaca pusi hasil karya sendiri atau karya pengarang yang terkenal
6	Membaca puisi	Ujian membaca puisi di depan kelas.	Menghafal puisi.
7	Bahasa Media 1	Membaca berita di koran	Membaca berita melafalkan dengan benar dan memahami isi.
8	Bahasa Media 2	Menyimak berita di TV	Membaca berita melafalkan dengan benar dan memahami isi.
9	Bahasa Media 3	Mendengarkan siaran radio.	Membaca berita melafalkan dengan benar dan memahami isi.
10	Bahasa Media 4	Mempraktekkan siaran radio	Menyimak isi siaran radio, serta mengamati cara penyampaian siaran.
11	Sandiwara 1	Mendengarkan dialog..	Berlatih dialog.
12	Sandiwara 2	Praktek menghafal dialog	Berlatih menghafalkan dialog
13	Sandiwara 3	mempersiapkan setting , musik dan sebainya.	Berlatih memainkan peran.
14	Sandiwara 4	Gladi resik, pementasan sandiwara	Berlatih memainkan peran
15	Pementasan Sandiwara	Pentas Sandiwara	Ulangan penguasaan dialog dan peran.

関連科目：通訳・翻訳インドネシア語・マレー語

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Persiapan dan naskah（準備と原稿の作成）50% Praktek　（発表）50%
学生へのメッセージ	Mahasiswa harus berpartisipasi aktif dalam kegiatan kuliah.
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	

科目名	インドネシア語入門ａ（１）	科目名（英文）	Introduction to Indonesian a(1)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山口　真佐夫
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	人口２億人以上を擁するインドネシア共和国の国語であるインドネシア語（Bahasa Indonesia）の基礎的な運用能力の向上を目指す。本授業では、特に文法能力を高めることを目的としている。
到達目標	インドネシア語文法の基礎をマスターすることができる。
授業方法と留意点	本授業は、「インドネシア語入門　ａ（２）」と同じテキストを用い、リレー方式で行っていく。なお、定期試験についても「インドネシア語入門」統一試験を実施する。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語技能検定

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第１課	インドネシア語の綴りと発音の説明１	本課の復習を必ずすること
2	第２課	インドネシア語の綴りと発音の説明２	本課の復習を必ずすること
3	第３課	名詞の文法説明、講読	本課の予習・復習を必ずすること
4	第４課	形容詞文法説明、講読	本課の予習・復習を必ずすること
5	第５課	動詞の説明、講読	本課の予習・復習を必ずすること
6	第６課	数詞の説明、講読	本課の予習・復習を必ずすること
7	第７課	時の表現の説明、講読	本課の予習・復習を必ずすること
8	第８課	その他の品詞の文法１の説明、講読	本課の予習・復習を必ずすること
9	第９課	その他の品詞の文法２説明、講読	本課の予習・復習を必ずすること
10	第 10 課	修飾語、被修飾語の位置の説明、講読	本課の予習・復習を必ずすること
11	第 11 課	文形の説明、講読	本課の予習・復習を必ずすること
12	第 12 課	インドネシア語の接辞の説明	本課の予習・復習を必ずすること
13	第 13 課	接頭辞 ber- の役割、使い方の説明、講読	本課の予習・復習を必ずすること
14	第 14 課	接尾辞 -an の文法説明 人称接辞の説明、講読	本課の予習・復習を必ずすること
15	総復習	これまでに学習したことの総復習を行う	本課の復習を必ずすること

関連科目：専攻言語インドネシア語の科目すべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	インドネシア語入門（2,000 円程度）	浦野崇央、山口真佐夫	
2	インドネシア語辞典ポケット版（8,000 円＋税）	末永晃	大学書林
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験（「インドネシア語入門」統一試験）を実施する。 平常点と積極的な授業参加度の度合いなどを総合的に判断する。 詳細は、第１回目の授業で伝える。 定期試験 70%、授業への参加度 30%
学生へのメッセージ	１年次の基本となる授業なので、欠席せずにしっかり出席すること。
担当者の研究室等	７号館５階　山口室
備考	指示された予習・復習には充分時間をかけ、学習効果を上げるようにすること。

科目名	インドネシア語入門ａ（２）	科目名（英文）	Introduction to Indonesian a(2)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浦野　崇央
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	人口２億人以上を擁するインドネシア共和国の国語であるインドネシア語（Bahasa Indonesia）の基礎的な運用能力の向上を目指す。
到達目標	基本的なインドネシア語運用能力を高めることを目的とする。 本授業では、特に「読む」「書く」能力を高めることを目標とし、インドネシア語で表現する方法の基礎をマスターする。
授業方法と留意点	本授業は、「インドネシア語入門ａ(1)」と同じテキストを用い、リレー方式で行なっていく。なお、定期試験についても「インドネシア語入門」統一試験を実施する。 授業時には辞書を必ず携行すること。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語技能検定

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第１課	インドネシア共和国におけるインドネシア語の位置づけについての説明 インドネシア語の綴りと発音①	学んだことの再確認
2	第２課	インドネシア語の綴りと発音②	学んだことの再確認
3	第３課	名詞を使った文の講読・作文	学んだことの再確認
4	第４課	形容詞を使った文の講読・作文	学んだことの再確認
5	第５課	動詞を使った文の講読・作文	学んだことの再確認
6	第６課	数詞を使った文の講読・作文	学んだことの再確認
7	第７課	時の表現についての文の講読・作文	学んだことの再確認
8	第８課	その他の品詞を使った文の講読・作文①	学んだことの再確認
9	第９課	その他の品詞を使った文の講読・作文②	学んだことの再確認
10	第 10 課	語順①	学んだことの再確認
11	第 11 課	語順②	学んだことの再確認
12	中間テスト 復習	中間テスト これまでに学んだことの復習	学んだことの再確認
13	第 13 課	接頭辞 ber-を使った文の講読・作文	学んだことの再確認
14	第 14 課	接尾辞-an、人称接辞を使った文の講読・作文	学んだことの再確認
15	復習	これまでに学んだことの再確認	学んだことの再確認

関連科目	インドネシア語科目すべて （特に、「インドネシア語入門ａ(1)」）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	インドネシア語入門（第３版）	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部
2	インドネシア語辞典ポケット版	末永晃	大学書林
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験（「インドネシア語入門」統一試験）40%、中間テスト 40%、「積極的な授業参加」の度合い 20% 詳細は、第１回目の授業で伝える。
学生へのメッセージ	インドネシア語はとても学びやすい言語です。是非、楽しんで学んでいきましょう。 質問があれば、いつでも研究室に来てください。積極的な姿勢がとても大切です。
担当者の研究室等	７号館４階(浦野研究室)
備考	毎回の予習は基本的に必要ないが、少なくとも毎週 30 分程度以上の復習は欠かさず行うこと。

科目名	インドネシア語入門ｂ（１）	科目名（英文）	Introduction to Indonesian b(1)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山口　真佐夫
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	人口２億人以上を擁するインドネシア共和国の国語であるインドネシア語（Bahasa Indonesia）の基礎的な運用能力の向上を目指す。本授業では、特に文法能力を高めることを目的としている。
到達目標	インドネシア語文法の基礎をマスターすること。
授業方法と留意点	本授業は、「インドネシア語入門ｂ（２）」と同じテキストを用い、リレー方式で行っていく。なお、定期試験についても「インドネシア語入門」統一試験を実施する。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語技能検定

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第 15 課	綴りの規則の説明、講読	本課の復習を必ずすること
2	第 16 課	接頭辞 se-、共接辞 se- -nya、ke- -an、接尾辞 -nya の文法説明、講読	本課の復習を必ずすること
3	第１７課	接頭辞　me- 文法説明、講読	本課の復習を必ずすること
4	第 18 課	接頭辞の講読 接頭辞 di-の文法説明、講読	両課の復習を必ずすること
5	第 19 課	接頭辞 ter- の文法説明、講読	本課の復習を必ずすること
6	第 20 課	共接辞 ber- -an、per- -an の文法説明、講読	本課の復習を必ずすること
7	第 21 課	接頭辞 pe-、共接辞 pe- -an の文法説明、講読	本課の復習を必ずすること
8	中間テスト対策講座	中間テストのための準備を行う	復習をすること
9	第 22 課	接尾辞 -i、-kan の文法説明、講読	本課の復習を必ずすること
10	第 23 課	接頭辞 memper- の文法的説明、講読	本課の復習を必ずすること
11	インドネシア語でスピーチしてみよう	インドネシア語の暗唱練習	本課の復習を必ずすること
12	第 24 課	能動文と受動文の文法説明、講読	本課の復習を必ずすること
13	第 25 課	重複の文法説明、講読	本課の復習を必ずすること
14	第 26 課	接辞の例外的変化、不規則変化の文法説明、講読	本課の復習を必ずすること
15	第 27 課	接辞のまとめおよびその他の接辞	もう一度教科書全体を見ておくこと

関連科目：専攻言語インドネシア語の科目すべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	インドネシア語入門（前期に購入済み）	浦野崇央、山口真佐夫	
2	インドネシア語辞典ポケット版（前期に購入済み）	末永晃	大学書林
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験（「インドネシア語入門」統一試験）を実施する。 平常点と積極的な授業参加度の度合いなどを総合的に判断する。 詳細は、第１回目の授業で伝える。 定期試験 70%、授業への参加度 30%
学生へのメッセージ	１年次の基本となる授業なので、欠席せずにしっかり出席すること
担当者の研究室等	７号館５階　山口室
備考	指示された予習・復習には充分時間をかけ、学習効果を上げるようにすること。

科目名	インドネシア語入門ｂ（２）	科目名（英文）	Introduction to Indonesian b(2)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浦野　崇央
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	人口２億人以上を擁するインドネシア共和国の国語であるインドネシア語（Bahasa Indonesia）の基本的な運用能力の向上を目指す。
到達目標	前期開講の「インドネシア語入門ａ(2)」に引き続き、本授業では特に「読む」「書く」能力を高めることを目標とし、インドネシア語で表現する方法の基礎をマスターする。
授業方法と留意点	本授業は、「インドネシア語入門ｂ(1)」と同じテキストを用い、リレー方式で行なっていく。なお、定期試験についても「インドネシア語入門」統一試験を実施する。 授業時は辞書を必ず携行すること。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語技能検定

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第 15 課	綴りの規則に基づいた文の講読・作文	学んだことの再確認
2	第 16 課	接頭辞 se-、共接辞 se- -nya、ke- -an、接尾辞-nya を使った文の講読・作文	学んだことの再確認
3	第 17 課	接頭辞 me-を使った文の講読・作文	学んだことの再確認
4	第 18 課	接頭辞 di-を使った文の講読・作文	学んだことの再確認
5	第 19 課	接頭辞 ter-を使った文の講読・作文	学んだことの再確認
6	第 20 課	共接辞 ber- -an、per- -an を使った文の講読・作文	学んだことの再確認
7	第 21 課	接頭辞 pe-、共接辞 pe- -an を使った文の講読・作文	学んだことの再確認
8	中間テスト 復習	中間テスト これまでに学んだことの復習	学んだことの再確認
9	第 22 課	接尾辞-i、-kan を使った文の講読・作文	学んだことの再確認
10	第 23 課	接頭辞 memper-を使った文の講読・作文	学んだことの再確認
11	復習	インドネシア語暗唱コンテスト 中間テスト返却指導	学んだことの再確認
12	第 24 課	能動文と受動文の使い分け練習と講読	学んだことの再確認
13	第 25 課	重複の文の講読・作文	学んだことの再確認
14	第 26 課	接辞の例外的変化、不規則変化を使った文の講読・作文	学んだことの再確認
15	総復習(講読･作文実践練習)	これまでに学んだ構文の講読･作文練習	学んだことの再確認

関連科目	インドネシア語科目すべて （特に、「インドネシア語入門ｂ(1)」）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	インドネシア語入門第３版	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部
2	インドネシア語辞典ポケット版	末永晃	大学書林
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験（「インドネシア語入門」統一試験）40%、中間テスト 40%、「積極的な授業参加」の度合い 20% 詳細は、第１回目の授業で伝える。
学生へのメッセージ	インドネシア語はとても学びやすい言語です。是非、楽しんで学んでいきましょう。 質問があれば、いつでも研究室に来てください。積極的な姿勢がとても大切です。
担当者の研究室等	７号館４階(浦野研究室)
備考	毎週の予習は基本的に必要ないが、毎週少なくとも３０分程度以上の復習は欠かさないこと。

科目名	インドネシア語表現法	科目名（英文）	Indonesian Expression
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大坪　紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	日常会話レベルで用いる基本的な表現（フレーズや言い回し）について学ぶ。 日常生活で用いられる何気ない表現をできるだけ平易な言葉で言い表わすための文例をしっかりとマスターする。 平易な発信もできるように語学運用能力の向上を目指す。
到達目標	日常生活でよく用いられる基本的で平易な表現を習得すること。平易な発信もできるようになること。
授業方法と留意点	１．テキストはテーマに応じたプリントを配布する。 ２．毎回辞書を携帯すること。 ３．毎回、ある状況を設定した会話練習をおこなう。 ４．適宜、小テストを実施する。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語技能検定

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	今後の授業の進め方についての説明をおこなう。	事前に授業に対する質問事項などを考えておくこと。
2	文字と発音	文字と発音および簡単な文法説明をおこなう。	授業内容を復習し、習った表現を暗記する。
3	あいさつの表現①	・あいさつで用いる表現を習得する ・会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内でインドネシア語の教員に会った時には、恥ずかしがらずにインドネシア語を使ってあいさつをすること。
4	あいさつの表現②	・あいさつで用いる表現の幅をさらに増やす。 ・会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内でインドネシア語の教員や同級生に会った時には、恥ずかしがらずにインドネシア語であいさつをすること。
5	お礼の表現	・お礼をのべる際の表現を習得する。 ・会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内生活の状況に応じて、同専攻の同級生へインドネシア語でお礼をのべてみること。
6	謝罪の表現	・謝罪する際の表現を習得する。 ・ペアを組んで会話練習をおこなう。	・事前に、日常生活ではどういう場面でよく謝罪をしているのか考えておくこと。 ・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。
7	許可の表現	・許可を求めたり、受けたりする際の表現を習得する。 ・ペアを組んで会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内生活の状況に応じて、同専攻の同級生同士でインドネシア語の許可のやりとり表現を試してみること。
8	禁止・依頼の表現	・禁止する際や、依頼する際の表現・を習得する。 ・ペアを組んで会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内生活の状況に応じて、同専攻の同級生同士でインドネシア語の禁止表現や依頼のやりとり表現を試してみること。
9	誘いの表現	・誘う際の表現を習得する。 ・ペアを組んで会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内生活の状況に応じて、同専攻の同級生同士でインドネシア語の「誘う」表現を試してみること。
10	肯定・否定の表現	・肯定する際や否定する際の表現を習得する。 ・ペアを組んで会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内生活の状況に応じて、同専攻の同級生同士でインドネシア語の肯定表現や否定表現を試してみること。
11	命令の表現	・命令を下す際の表現を習得する。 ・ペアを組んで会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内生活の状況に応じて、同専攻の同級生同士でインドネシア語の命令表現を使い分けて試してみること。
12	希望・意志の表現	・希望や意志を伝える際の表現を習得する。 ・ペアを組んで会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内生活の状況に応じて、同専攻の同級生同士でインドネシア語の命令表現を使い分けて試してみること。
13	推量の表現	・推量する際の表現を習得する。 ・ペアを組んで会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内生活の状況に応じて、同専攻の同級生同士でインドネシア語の推量表現を使い分けて試してみること。
14	感情の表現	・種々の感情表現を習得する。 ・ペアを組んで会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内生活の状況に応じて、同専攻の同級生同士でインドネシア語の感情表現を使い分けて試してみること。
15	１．総まとめと理解度確認テスト 2. 陥りやすいミスの改善	1. 「インドネシア語表現法」で学んだことの総まとめを実施する。 2. 陥りやすいミスや癖、誤解を改善する。	1.理解度確認テストに向けての総復習。 2.事後学習の徹底

関連科目	インドネシア語科目すべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
評価方法 （基準）	授業での発表や積極性（４０％） 小テスト（２０％） 理解度確認テスト（４０％） 詳細は、第１回目の授業で伝える。
学生への メッセージ	インドネシア語は学習しやすく、親しみやすいのが特徴です。 しかし初心者レベルに留まらず、さらなる高みを目指して積極的に学びましょう。
担当者の 研究室等	７号館２階(非常勤講師室)
備考	１.毎回の予習は基本的に必要ではない。しかし授業以外での学内生活でも積極的に使ってみることも含め、復習には少なくとも毎週２時間以上を必要とする。したがって今期のこの授業に必要とされる復習時間の総計は 30 時間以上である。 ２..随時の小テストと第 15 回の理解度確認テストの終了後は、陥りやすいミスや癖、誤解を改善するための解説をおこなう。 ３.授業時間外での質問や要望は、毎週木曜と金曜の昼休みに７号館２階非常勤講師室にて受け付ける。

科目名	インドネシア語表現法ａ	科目名（英文）	Indonesian Expressions a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大坪　紀子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	日常会話レベルで用いる基本的な表現（フレーズや言い回し）について学ぶ。 日常生活で用いられる何気ない表現をできるだけ平易な言葉で言い表わすための文例をしっかりとマスターする。 平易な発信もできるように語学運用能力の向上を目指す。
到達目標	日常生活でよく用いられる基本的で平易な表現を習得すること。平易な発信もできるようになること。
授業方法と留意点	１．テキストはテーマに応じたプリントを配布する。 ２．毎回辞書を携帯すること。 ３．毎回、ある状況を設定した会話練習をおこなう。 ４．適宜、小テストを実施する。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語技能検定

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	今後の授業の進め方についての説明をおこなう。	事前に授業に対する質問事項などを考えておくこと。
2	文字と発音	文字と発音および簡単な文法説明をおこなう。	授業内容を復習し、習った表現を暗記する。
3	あいさつの表現①	・あいさつで用いる表現を習得する ・会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内でインドネシア語の教員に会った時には、恥ずかしがらずにインドネシア語を使ってあいさつをすること。
4	あいさつの表現②	・あいさつで用いる表現の幅をさらに増やす。 ・会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内でインドネシア語の教員や同級生に会った時には、恥ずかしがらずにインドネシア語であいさつをすること。
5	お礼の表現	・お礼をのべる際の表現を習得する。 ・会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内生活の状況に応じて、同専攻の同級生へインドネシア語でお礼をのべてみること。
6	謝罪の表現	・謝罪する際の表現を習得する。 ・ペアを組んで会話練習をおこなう。	・事前に、日常生活ではどういう場面でよく謝罪をしているのか考えておくこと。 ・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。
7	許可の表現	・許可を求めたり、受けたりする際の表現を習得する。 ・ペアを組んで会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内生活の状況に応じて、同専攻の同級生同士でインドネシア語の許可のやりとり表現を試してみること。
8	禁止・依頼の表現	・禁止する際や、依頼する際の表現・を習得する。 ・ペアを組んで会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内生活の状況に応じて、同専攻の同級生同士でインドネシア語の禁止表現や依頼のやりとり表現を試してみること。
9	誘いの表現	・誘う際の表現を習得する。 ・ペアを組んで会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内生活の状況に応じて、同専攻の同級生同士でインドネシア語の「誘う」表現を試してみること。
10	肯定・否定の表現	・肯定する際や否定する際の表現を習得する。 ・ペアを組んで会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内生活の状況に応じて、同専攻の同級生同士でインドネシア語の肯定表現や否定表現を試してみること。
11	命令の表現	・命令を下す際の表現を習得する。 ・ペアを組んで会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内生活の状況に応じて、同専攻の同級生同士でインドネシア語の命令表現を使い分けて試してみること。
12	希望・意志の表現	・希望や意志を伝える際の表現を習得する。 ・ペアを組んで会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内生活の状況に応じて、同専攻の同級生同士でインドネシア語の命令表現を使い分けて試してみること。
13	推量の表現	・推量する際の表現を習得する。 ・ペアを組んで会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内生活の状況に応じて、同専攻の同級生同士でインドネシア語の推量表現を使い分けて試してみること。
14	感情の表現	・種々の感情表現を習得する。 ・ペアを組んで会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内生活の状況に応じて、同専攻の同級生同士でインドネシア語の感情表現を使い分けて試してみること。
15	１．総まとめと理解度確認テスト 2. 陥りやすいミスの改善	1. 「インドネシア語表現法」で学んだことの総まとめを実施する。 2. 陥りやすいミスや癖、誤解を改善する。	1.理解度確認テストに向けての総復習。 2.事後学習の徹底

関連科目	インドネシア語科目すべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
評価方法 （基準）	授業での発表や積極性（４０％） 小テスト（２０％） 理解度確認テスト（４０％） 詳細は、第１回目の授業で伝える。
学生への メッセージ	インドネシア語は学習しやすく、親しみやすいのが特徴です。 しかし初心者レベルに留まらず、さらなる高みを目指して積極的に学びましょう。
担当者の 研究室等	７号館２階(非常勤講師室)
備考	１.毎回の予習は基本的に必要ではない。しかし授業以外での学内生活でも積極的に使ってみることも含め、復習には少なくとも毎週２時間以上を必要とする。したがって今期のこの授業に必要とされる復習時間の総計は 30 時間以上である。 ２..随時の小テストと第 15 回の理解度確認テストの終了後は、陥りやすいミスや癖、誤解を改善するための解説をおこなう。 ３.授業時間外での質問や要望は、毎週木曜と金曜の昼休みに７号館２階非常勤講師室にて受け付ける。

科目名	インドネシア語ボキャブラリーa	科目名（英文）	Indonesian Vocabulary a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山口　玲子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	語彙の強化をはかるとともに、日常生活に必要なインドネシア語の単語や表現を理解し、使えるようになることを目的とする。
到達目標	日常生活で必要な語彙を習得することができる。
授業方法と留意点	毎回、テーマに関連したプリントを配布する。授業で十分に練習を行って語彙の定着をはかる。必ず復習をすること。毎回、前週で学んだことの小テストを実施する。また、復習テストも実施する。
科目学習の効果（資格）	日常生活に欠かせない単語や表現が身に付く。 インドネシア語技能検定試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入、挨拶表現	授業の進め方の説明 インドネシア語の語彙の特徴と簡単な挨拶について	指示された復習項目には十分に時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
2	教室、道具	教室で使う基本的な表現と文房具の名称	指示された語彙の暗記と発音練習には十分に時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
3	基本的な親族名称、動物の名前	基本的な親族名称と身近な動物の名前	指示された語彙の暗記と発音練習には十分に時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
4	基本的な飲食物、味覚、色彩	基本的な飲食物の名前、調味料の名前、味覚表現・色彩表現について	指示された語彙の暗記と発音練習には十分に時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
5	基本的な形容詞	大きさ・広さ・重さ・高さ・長さなどを表す基本的な形容詞、数字の０～１０まで	指示された語彙の暗記と発音練習には十分に時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
6	基本的な基語動詞、場所（１）	接辞を使わない動詞と身近な場所を表す名詞や月の名前、数字の１１～９９まで	指示された語彙の暗記と発音練習には十分に時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
7	数、助数詞、時間、曜日と日付	数字の１０１～１０００００まで、助数詞、時間・曜日・日付を表す表現	指示された語彙の暗記と発音練習には十分に時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
8	助動詞、頻度・確実性・位置関係	助動詞、頻度や確実性を表す表現、位置関係を表す表現	指示された語彙の暗記と発音練習には十分に時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
9	方角、各種の商店、食材	方角、各種の商店、食材（野菜・加工食品・果物）の名称	指示された語彙の暗記と発音練習には十分に時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
10	場所（２）、服飾関係用語	山や海などの地形を表す表現、服飾関係の名詞と形容詞	指示された語彙の暗記と発音練習には十分に時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
11	乗り物、大陸・地域・国	乗り物の名称、陸・地域・国の名称	指示された語彙の暗記と発音練習には十分に時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
12	身体名称（１）	身体の各部分の名称	指示された語彙の暗記と発音練習には十分に時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
13	身体名称（２）、病気・けが・治療	内臓などの器官名称、病気・けが・治療に関する基本的な表現	指示された語彙の暗記と発音練習には十分に時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
14	インターネット関連用語やデジタル機器に関する用語 総まとめ（１）	日常よく使われるインターネット用語やデジタル機器に関する代表的な用語、前期の授業をふりかえる	これまでに習得した語彙やその用法を再確認し、復習テストに備えること
15	総まとめ（２）	前期の授業をふりかえり、学習項目の確認、復習テストおよび解説	復習テストで間違えた項目を再度学習し直すこと

関連科目	専攻言語インドネシア語の科目すべて、東南アジア関係の講義科目、文化人類学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎週の小テスト 40%、積極的な授業の参加の度合い 20%、復習テスト 40%
学生へのメッセージ	インドネシア語を使いこなすには、語彙を増やすことも欠かせません。どんどん単語を覚えて、使ってみましょう。
担当者の研究室等	７号館２階(非常勤講師室)
備考	予習は基本的に必要ないが、復習については毎週少なくとも２時間以上は行うこと。半期中の事後学習時間は 30 時間である。授業時間外での質問等は非常勤講師室にてお昼休みに対応する。なお、小テストおよび復習テスト終了後には解説を行う。

科目名	インドネシア語ボキャブラリーb	科目名（英文）	Indonesian Vocabulary b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大坪　紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	インドネシア語を学ぶにあたり、語彙数を増やし強化することはたいへん重要である。 本授業では、インドネシア語の語彙数を増やし、よりいっそう豊かな表現力と理解力を身に付けることを目的とする。
到達目標	インドネシア語の語彙数を増強し、よりいっそう豊かな表現力と理解力を身に付けること。 11 月 30 日(予定)の学内「インドネシア語ボキャブラリーコンテスト」で、高得点の獲得を目指す。
授業方法と留意点	1.テキストは毎回プリントを用意する。 2.毎回辞書を携帯すること。辞書を忘れた場合は図書館や研究室から事前に借りておくこと。 3.毎回その授業で取り上げた単語の確認小テストと、前回の授業でとりあげた単語の確認小テストを実施する。 4.授業時間内にも質疑応答時間を設ける。 5.受講者の単語習得状況に応じて、授業テーマおよび講義内容を変更する場合がある。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語技能検定

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	プロローグ	授業の進め方や受講にあたっての留意点の説明を行なう。	質疑の時間も設けるので、事前に質問事項や要望も考えておくこと。
2	人間	人間（個人）をめぐる単語を習得する。	前期「インドネシア語ボキャブラリーa」の関連項目を復習しておくこと。
3	家族・友人・親戚	自分との立場や関係をめぐる単語を習得する。	前回の復習
4	政治・経済	政治・経済分野にかかわる単語を習得する。	前回の復習
5	運輸・通信	運輸・通信にかかわる単語を習得する。	前回の復習
6	社会・生活	社会・生活にかかわる単語を習得する。	前回の復習
7	・中間試験 ・基本動詞の単語	・第６回までに学習した単語の習得度を確認する。 ・基本動詞の単語を習得する。	第６回までの総復習
8	形容詞の単語	形容詞の単語を習得する。	前期「インドネシア語ボキャブラリーa」の関連項目を復習しておくこと。
9	音楽・伝統芸能・映画・美術・スポーツ	音楽、伝統芸能、映画、美術、スポーツにかかわる単語を習得する。	前回の復習
10	世界の国ぐにとインドネシアの地域	世界の国ぐにやインドネシアの各地域などの名称を習得する。	前回の復習
11	文学・学問	文学や学問にかかわる単語を習得する。	前回の復習
12	自然	自然にかかわる単語を習得する。	前回の復習
13	テレビ、SNS、インターネット	テレビ、そして SNS や web サービスにかかわる単語を習得する。	前回の復習
14	流行語	流行語、若者言葉、頻繁に使われる略語の１部を紹介する。	前回の復習
15	まとめ	単語習得状況の確認およびまとめ（単語習得到達度テストを実施する）。	第 14 回までの総復習

関連科目：インドネシア語科目すべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	・毎回授業の開始に実施される「前回の授業で学んだ単語の確認小テスト」(10%) ・毎回授業の後半で実施される「その回で学んだ単語の確認小テスト(10%) ・第７回の中間試験（３０％） ・第 15 回の単語習得到達度テストと 11 月に実施されるボキャブラリーコンテスト(50%) 詳細は、第１回目の授業で伝える。
学生へのメッセージ	インドネシア語は印象的で親しみやすく、学びやすい言語であることから、その場ではマスターした気持ちになってしまいがちですが、運用能力の向上や語彙の増強のためには日々の地道な努力が欠かせません。 日頃から単語の暗記を心がけましょう。また間違いを恐れずに、学んだ単語を自発的に使ってみましょう。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	１.毎回の予習は基本的に必要ではないが、復習は少なくとも毎週３時間以上おこなうこと。 したがって今期の復習時間の総計は 45 時間以上である。 ２.ほぼ毎回、２つの確認テストを実施する。確認テストと中間試験の終了後は弱点克服のための解説をおこなう。 ３.授業時間外での質問や要望は、毎週木曜と金曜の昼休みに７号館２階非常勤講師室にて受け付ける。

科目名	エアラインビジネス論	科目名（英文）	Airline Business
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	塩﨑　裕司
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	社会インフラの一つである公共交通機関としての航空産業の役割を説明する。 航空産業の辿った歴史、現状を正確に理解し、その課題を把握することにより、将来展望について考察する。 また、航空機を運航するための多種多様な職種の役割や協力体制について講義することを通し、航空企業での業務実態を説明する。 ※この科目は、2015 年度以降の入学生を対象とした「観光ホスピタリテイ」プログラム対応科目の一つです。
到達目標	航空産業の企業活動を通し、企業の事業運営に貢献する意義を身につける。 また、企業の社会的貢献や責任、顧客満足、従業員満足について学習することを通し、将来の進路選択に際しての判断材料に資することを目標とする。 客室乗務員やグランドスタッフというイメージにはしりがちな航空会社の業務を正確に理解するとともに、航空機を運航するための様々な職種の存在を認識し、進路選択の幅を広げる。 将来、航空産業を目指すための知識や意識を修得する。
授業方法と留意点	主にパワーポイントを使用しての授業となる。 授業が理解できるように、授業内容に沿ったプリントを毎回配布する。 質問については随時受け付ける。また、毎回授業終了時に提出するレポートに質問を記載してもらい、次回授業時に解説する。 受講に当っては、日ごろから航空業界に関する報道（新聞、ＴＶニュース等）に関心を払う事。
科目学習の効果（資格）	航空産業の様々な業種を知る事により、将来の進路の判断材料に資する（特に公的資格取得には直接繋がるものではない）。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講師紹介。授業方法の説明。授業概要、到達点の説明。成績評価、履修上の注意点などの説明。	特になし。
2	航空の歴史	戦後の航空技術の発展、空の大衆化までの変遷を説明。また、戦後の我が国の民間航空の変遷、航空行政の規制緩和まで、民間航空の歴史について説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
3	航空自由化	米国に始まる自由化が欧州やその他の地域にどのような影響を及ぼしたのか、現在の航空事情を理解するために不可欠な OPEN SKY 政策について解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
4	我が国の航空自由化	45・47 体制といわれた護送船団政策がもたらした日本の航空業界の脆弱さ、最近の米国との航空自由化の意味などについて説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
5	格安航空の躍進	航空の自由化に伴い、現在航空業界で最も注目を集めている格安航空について、そのコスト削減戦略や実態、将来の展望までを解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
6	ハブ＆スポーク(自由化の産物)	格安航空の対極にあるフルサービスキャリア、その基本となるハブ&スポークについてメリット、デメリットをわかりやすく解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
7	グローバル・アライアンス(自由化の副産物)	単独では生き残れない厳しい競争の中、アライアンスの意義は何か。成功例と失敗例を具体的に挙げてメリット・デメリットについて解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
8	運賃と費用	運賃の自由化に伴い航空会社が実施している料金政策について解説。また、航空会社が如何にしてコスト削減に取り組んでいるのかを原油のヘッジや搭載重量の軽減化など具体的事例をあげながら説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
9	顧客満足と企業の社会的責任	顧客満足(CS)を満たすには、まず従業員満足(ES)を満たす必要がある。CS と ES の重要性について解説。また、昨今企業の不祥事が続く中、企業の社会的責任の重要性について説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
10	航空会社の仕事 営業・予約・販売	運賃設定と販売の流れ、第一印象が問われる予約案内業務、商品企画・販売方法について解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
11	航空会社の仕事 旅客取扱業務	この次も選んでいただくために、顧客満足を追求するグランドスタッフの業務についいて説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
12	航空会社の仕事 グランドハンドリング・航空機整備	飛行機が飛び立つまでの流れ、航空機整備のしくみについて説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
13	航空会社の仕事 コントロール・PILOT	運航方式、管制、飛行ルートについて説明。飛行機が飛ぶ原理についても解説。また、運航乗務員の職業意識や具体的業務・訓練について説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
14	航空会社の仕事 客室乗務員、機内サービス	客室乗務員が担う業務は多義に亘る。一見華やかに映る客室乗務員の業務の実態と、お客様に快適に過ごしていただく	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。

		機内サービスの努力と工夫について解説する。	
15	航空会社の仕事 航空貨物	沖縄ハブ構想をはじめ、今注目を集めている航空貨物について解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。

関連科目

エアライン・ホスピタリティプログラム科目（～2014 年度入学生）
観光ホスピタリティプログラム科目（2015 年度入学生）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	航空産業入門	ANA 総合研究所	東洋経済新報社
2	エアラインオペレーション入門	ＡＮＡ総合研究所	ぎょうせい
3	数字で見る航空(2015)	国土交通省航空局	航空振興財団

評価方法（基準）

最低１０回以上の出席がない場合、評価の対象とならない。
定期試験６０％、授業毎のレポート提出、講義参加姿勢４０％。

学生へのメッセージ

航空産業に携わる人はパイロットとＣＡだけと思ってませんか？実際には業務は多岐にわたり、パイロットやＣＡたちはほんの一部です。航空産業にはどのような仕事があってどのような人が向いているのかを実務者の観点から分り易く解説します。航空産業に関心を持っている学生には興味深い講義です。さらに、航空産業を将来の進路と考えている学生諸君にとっては大変参考になると思います。

担当者の研究室等

７号館４階（塩﨑・沖中研究室）

備考

毎回の授業でレポートを提出してもらいます。そこに記載された質問については、次回授業でフィードバックします。

科目名	エアラインビジネス論Ⅰ	科目名（英文）	Airline Industry Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	塩﨑　裕司
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	社会インフラの一つである公共交通機関としての航空産業の役割を説明する。 航空産業の辿った歴史、現状を正確に理解し、その課題を把握することにより、将来展望について考察する。 また、航空機を運航するための多種多様な職種の役割や協力体制について講義することを通し、航空企業での業務実態を説明する。 ※この科目は、2015 年度以降の入学生を対象とした「観光ホスピタリテイ」プログラム対応科目の一つです。
到達目標	航空産業の企業活動を通し、企業の事業運営に貢献する意義を身につける。 また、企業の社会的貢献や責任、顧客満足、従業員満足について学習することを通し、将来の進路選択に際しての判断材料に資することを目標とする。 客室乗務員やグランドスタッフというイメージにはしりがちな航空会社の業務を正確に理解するとともに、航空機を運航するための様々な職種の存在を認識し、進路選択の幅を広げる。 将来、航空産業を目指すための知識や意識を修得する。
授業方法と留意点	主にパワーポイントを使用しての授業となる。 授業が理解できるように、授業内容に沿ったプリントを毎回配布する。 質問については随時受け付ける。また、毎回授業終了時に提出するレポートに質問を記載してもらい、次回授業時に解説する。 受講に当っては、日ごろから航空業界に関する報道（新聞、ＴＶニュース等）に関心を払う事。
科目学習の効果（資格）	航空産業の様々な業種を知る事により、将来の進路の判断材料に資する（特に公的資格取得には直接繋がるものではない）。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講師紹介。授業方法の説明。授業概要、到達点の説明。成績評価、履修上の注意点などの説明。	特になし。
2	航空の歴史	戦後の航空技術の発展、空の大衆化までの変遷を説明。また、戦後の我が国の民間航空の変遷、航空行政の規制緩和まで、民間航空の歴史について説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
3	航空自由化	米国に始まる自由化が欧州やその他の地域にどのような影響を及ぼしたのか、現在の航空事情を理解するために不可欠な OPEN SKY 政策について解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
4	我が国の航空自由化	45・47 体制といわれた護送船団政策がもたらした日本の航空業界の脆弱さ、最近の米国との航空自由化の意味などについて説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
5	格安航空の躍進	航空の自由化に伴い、現在航空業界で最も注目を集めている格安航空について、そのコスト削減戦略や実態、将来の展望までを解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
6	ハブ＆スポーク(自由化の産物)	格安航空の対極にあるフルサービスキャリア、その基本となるハブ&スポークについてメリット、デメリットをわかりやすく解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
7	グローバル・アライアンス(自由化の副産物)	単独では生き残れない厳しい競争の中、アライアンスの意義は何か。成功例と失敗例を具体的に挙げてメリット・デメリットについて解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
8	運賃と費用	運賃の自由化に伴い航空会社が実施している料金政策について解説。また、航空会社が如何にしてコスト削減に取り組んでいるのかを原油のヘッジや搭載重量の軽減化など具体的事例をあげながら説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
9	顧客満足と企業の社会的責任	顧客満足(CS)を満たすには、まず従業員満足(ES)を満たす必要がある。CS と ES の重要性について解説。また、昨今企業の不祥事が続く中、企業の社会的責任の重要性について説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
10	航空会社の仕事 営業・予約・販売	運賃設定と販売の流れ、第一印象が問われる予約案内業務、商品企画・販売方法について解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
11	航空会社の仕事 旅客取扱業務	この次も選んでいただくために、顧客満足を追求するグランドスタッフの業務についいて説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
12	航空会社の仕事 グランドハンドリング・航空機整備	飛行機が飛び立つまでの流れ、航空機整備のしくみについて説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
13	航空会社の仕事 コントロール・PILOT	運航方式、管制、飛行ルートについて説明。飛行機が飛ぶ原理についても解説。また、運航乗務員の職業意識や具体的業務・訓練について説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
14	航空会社の仕事 客室乗務員、機内サービス	客室乗務員が担う業務は多義に亘る。一見華やかに映る客室乗務員の業務の実態と、お客様に快適に過ごしていただく	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。

			機内サービスの努力と工夫について解説する。	
	15	航空会社の仕事 航空貨物	沖縄ハブ構想をはじめ、今注目を集めている航空貨物について解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。

関連科目	エアライン・ホスピタリティプログラム科目（～2014 年度入学生） 観光ホスピタリティプログラム科目（2015 年度入学生）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	航空産業入門	ANA 総合研究所	東洋経済新報社
2	エアラインオペレーション入門	ＡＮＡ総合研究所	ぎょうせい
3	数字で見る航空(2015)	国土交通省航空局	航空振興財団

評価方法 （基準）	最低１０回以上の出席がない場合、評価の対象とならない。 定期試験６０％、授業毎のレポート提出、講義参加姿勢４０％。
学生への メッセージ	航空産業に携わる人はパイロットとＣＡだけと思ってませんか？実際には業務は多岐にわたり、パイロットやＣＡたちはほんの一部です。航空産業にはどのような仕事があってどのような人が向いているのかを実務者の観点から分り易く解説します。航空産業に関心を持っている学生には興味深い講義です。さらに、航空産業を将来の進路と考えている学生諸君にとっては大変参考になると思います。
担当者の 研究室等	７号館４階（塩﨑・沖中研究室）
備考	毎回の授業でレポートを提出してもらいます。そこに記載された質問については、次回授業でフィードバックします。

科目名	エアラインビジネス論Ⅱ	科目名（英文）	Airline Industry II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩﨑　裕司
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	航空会社の経営がどのような:経緯をたどり、今日どのような課題と展望を抱えているのかを解説する。 また、収益を改善するための努力や社会貢献など航空会社の経営をとおし、広く一般企業の経営活動や社会的責任について理解を深める。
到達目標	航空事業の経営環境や社会的貢献などを学ぶことにより、航空業界に働くための知識や感性を修得することを目標とする。また、航空会社の経営をとおして、戦略的思考やマーケティング的発想について身につける。
授業方法と留意点	主にパワーポイントを使用しての授業となる。 授業が理解できるように、授業内容に沿ったプリントを毎回配布する。 質問については都度受け付ける。また、毎回授業終了時に提出するレポートに質問を記入してもらい、次回授業時に解説する。 受講に当っては、日ごろから航空業界に関する報道（新聞、ＴＶニュース等）に関心を払う事。
科目学習の効果（資格）	航空業界が抱える課題や将来展望を学習することにより、将来の進路選択の判断材料に資する（特に公的資格取得には直接繋がるものではない）。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講師紹介。授業方法の説明。授業概要、到達点の説明。成績評価、履修上の注意点などの説明。	特になし。
2	航空の歴史	飛行機の歴史は即ち航空の歴史、戦後の航空技術の発展、空の大衆化までを説明する。	関連する新聞記事やニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
3	我が国の航空の歴史	戦後の我が国の民間航空の変遷、航空行政から規制緩和まで、民間航空の歴史について説明を行う。	関連する新聞記事やニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
4	航空の自由化	米国に始まる自由化が欧州やその他の地域にどのような影響をおよぼしたのか、現在の航空事情を理解するために不可欠なＯＰＥＮ　ＳＫＹ政策について説明する。	関連する新聞記事やニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
5	我が国の航空自由化	４５・４７体制といわれた護送船団政策がもたらした日本の航空業界の脆弱さ、最近の米国との航空自由化合意の意味などについて説明する。	関連する新聞記事やニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
6	格安航空の躍進	航空の自由化に伴い、現在最も航空業界で注目を集めている格安航空について、そのコスト削減戦略や実態、将来の展望までを解説する。	関連する新聞記事やニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
7	羽田自由化と関西３空港	自由化に伴い、国際線の新たなハブとなる羽田空港、伊丹空港と関西空港の経営統合など、現状と将来への課題について説明を行う。	関連する新聞記事やニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
8	ハブ＆スポーク （自由化の副産物）	格安航空の対極にあるフルサービスキャリア、その基本となるハブ＆スポークについてメリット、ディメリットを分り易く解説する。	関連する新聞記事やニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
9	グローバル・アライアンス （自由化の副産物）	単独では生き残れない厳しい競争の中、アライアンスの意義について、成功例と失敗例を具体的に挙げてメリット、ディメリットについて分り易く解説する。	関連する新聞記事やニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
10	収入を増やす努力（顧客管理）	顧客を囲い込む絶対条件となったマイレージプログラム、航空会社の利益向上への貢献度やユーザーとして得する情報等も含めて説明する。	関連する新聞記事やニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
11	収入を増やす努力（運賃設定）	何故、同じ区間、同じ日に搭乗するのに違う運賃が存在するのか。運賃設定の自由化に伴い、今、航空会社が実施している料金政策について解説する。	関連する新聞記事やニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
12	支出を減らす努力	航空会社が如何にしてコスト削減に取り組んでいるかを、原油価格のヘッジや重量の軽減化など航空会社の費用削減策等について説明する。	関連する新聞記事やニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
13	国際航空物流	沖縄ハブ構想をはじめ、今注目されている国際物流について基本的な航空貨物の仕組みや航空貨物代理店の仕事の紹介等、分り易く説明する。	関連する新聞記事やニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
14	企業の社会的責任	企業の社会的責任とは何か、企業の社会貢献などについて航空会社を例に具体的事例を挙げて説明する。	関連する新聞記事やニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
15	航空会社と顧客、従業員	企業ブランドとは? 顧客満足とは? 顧客満足を満たすためには、まず従業員満足を満たす必要がある。ES と CS の重要性について説明する。	関連する新聞記事やニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。

関連科目	エアラインビジネス論Ⅰ ツーリズム論Ⅰ・Ⅱ ホスピタリティー論Ⅰ・Ⅱ

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>航空産業入門</td><td>ANA 総合研究所</td><td>東洋経済新報社</td></tr>
<tr><td>2</td><td>数字で見る航空(2015)</td><td>国土交通省航空局</td><td>航空振興財団</td></tr>
<tr><td>3</td><td>あなたが創る顧客満足</td><td>佐藤知恭</td><td>日経ビジネス人文庫</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>最低１０回以上の出席がない場合、評価の対象とはならない。
定期試験６０％、授業毎のレポート提出、講義参加姿勢４０％。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>日々変動する航空産業を実務者の観点から分り易く解説します。航空関連産業を将来の進路と考えている学生諸君にとっては大変参考になると思います。また、そうでない方々にとっても社会インフラの一つである航空産業の状況が学べ、興味深い授業だと思います。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>７号館４階（エアライン・ホスピタルプログラムルーム）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>エアラインビジネス論Ｉとの直接の関連はありませんので、必ずしもエアラインビジネス論Ｉを受講している必要はありません。
毎回の授業でレポートを提出していただきます。そこに記載された質問については、次回授業でフィードバックします。</td></tr>
</table>

科目名	映画のスペイン語Ⅰ	科目名（英文）	Spanish through the Movies Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	篠原　愛人
ディプロマポリシー(DP)	DP7○,DP8◎		

授業概要・目的	映画・ドラマを利用して、スペイン語のヒアリング力を高める。
到達目標	ヒアリング力を高めつつ、スペイン語の基本語彙や表現を使いこなせるようになる。
授業方法と留意点	映画のいくつかの場面を見ながらディクテーションを行い、重要語彙や表現をチェックしながら各場面の内容を理解する。その後、習った語彙や表現を用いて、見た映画の要約あるいは感想をスペイン語で述べる。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定４級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Actividades con peliculas (1-1)	イントロダクション 作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
2	Actividades con peliculas (1-2)	ヒヤリングとディクテーション（2）	授業後に新出単語および表現を覚えること。
3	Actividades con peliculas (1-3)	ヒヤリングとディクテーション（3）	授業後に新出単語および表現を覚えること。
4	Actividades con peliculas (1-4)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
5	Actividades con peliculas (2-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
6	Actividades con peliculas (2-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
7	Actividades con peliculas (2-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
8	学習内容の確認	語彙・表現の確認テスト 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第７回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。
9	Actividades con peliculas (3-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
10	Actividades con peliculas (3-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
11	Actividades con peliculas (3-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
12	Actividades con peliculas (4-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
13	Actividades con peliculas (4-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
14	Actividades con peliculas (4-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
15	学習内容の確認	語彙・表現の確認テスト 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第 15 回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。

関連科目：スペイン語関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スクリプトのプリント		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業での発表、提出物４０％　＋　確認テストの成績６０％
学生へのメッセージ	語彙や表現の意味を覚えるだけでなく、どのような文脈で使えるのか辞書等で例文をチェックする習慣をつけましょう。
担当者の研究室等	７号館５階　篠原研究室
備考	辞書は必携 事前・事後学修に各１時間を要する。

科目名	映画のスペイン語Ⅱ	科目名（英文）	Spanish through the Movies II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	篠原　愛人
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	映画・ドラマを利用して、スペイン語のヒアリング力を高める。
到達目標	ヒアリング力を高めつつ、スペイン語の基本語彙や表現を使いこなせるようになる。
授業方法と留意点	映画のいくつかの場面を見ながらディクテーションを行い、重要語彙や表現をチェックしながら各場面の内容を理解する。その後、習った語彙や表現を用いて、見た映画の要約あるいは感想をスペイン語で述べる。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定４級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Actividades con peliculas (1-1)	イントロダクション 作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
2	Actividades con peliculas (1-2)	ヒヤリングとディクテーション（2）	授業後に新出単語および表現を覚えること。
3	Actividades con peliculas (1-3)	ヒヤリングとディクテーション（3）	授業後に新出単語および表現を覚えること。
4	Actividades con peliculas (1-4)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
5	Actividades con peliculas (2-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
6	Actividades con peliculas (2-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
7	Actividades con peliculas (2-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
8	学習内容の確認	語彙・表現の確認テスト 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第７回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。
9	Actividades con peliculas (3-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
10	Actividades con peliculas (3-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
11	Actividades con peliculas (3-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
12	Actividades con peliculas (4-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
13	Actividades con peliculas (4-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
14	Actividades con peliculas (4-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
15	学習内容の確認	語彙・表現の確認テスト 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第 15 回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。

関連科目：スペイン語関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スクリプトのプリント		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業での発表、提出物４０％　＋　確認テストの成績６０％
学生へのメッセージ	語彙や表現の意味を覚えるだけでなく、どのような文脈で使えるのか辞書等で例文をチェックする習慣をつけましょう。
担当者の研究室等	７号館５階　篠原研究室
備考	辞書は必携 事前・事後学修に各１時間を要する。

科目名	映画のスペイン語Ⅱ	科目名（英文）	Spanish through the Movies II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	オラシオ　ゴメス
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	スペイン語のヒアリング力を高めるために、映画を利用し、２回で１チャプタを終えるスピードで進む。ショットを見ながら、だいたいの内容を把握する。次に、そのチャプタで使われているスペイン語を和訳する。その後、スペイン語を聞いてのディクテーションをする。
到達目標	スペイン語のヒアリング力を高める。
授業方法と留意点	スペイン語圏で近年制作された作品の中から教材を選定する。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方の説明。ヒアリング、ディクテーションの練習。	授業内容を復習する。
2	Escena 1	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
3	Escena 1	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
4	Escena 2	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
5	Escena 2	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
6	Escena 3	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
7	Escena 3	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
8	Escena 4	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
9	Escena 4	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
10	Escena 5	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
11	Escena 5	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
12	Escena 6	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
13	Escena 6	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
14	Escena 6	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
15	まとめ	――――	――――

関連科目	スペイン語と関連のあるすべての科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回のディクテーションと小テストによって評価する（100%）。
学生へのメッセージ	間違いを恐れず、積極的にコミュニケーションを図ってください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。

科目名	映画のスペイン語Ⅱ	科目名（英文）	Spanish through the Movies II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	R
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ディアス　イバン
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	スペイン語のヒアリング力を高めるために、映画を利用し、２回で１チャプタを終えるスピードで進む。ショットを見ながら、だいたいの内容を把握する。次に、そのチャプタで使われているスペイン語を和訳する。その後、スペイン語を聞いてのディクテーションをする。
到達目標	スペイン語のヒアリング力を高める。
授業方法と留意点	スペインの映画監督ホセ・ルイス・クエルダ作品『蝶の舌」を用いる。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方の説明。ヒアリング、ディクテーションの練習。	授業内容を復習する。
2	Escena 1	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
3	Escena 1	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
4	Escena 2	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
5	Escena 2	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
6	Escena 3	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
7	Escena 3	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
8	Escena 4	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
9	Escena 4	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
10	Escena 5	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
11	Escena 5	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
12	Escena 6	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
13	Escena 6	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
14	Escena 6	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
15	まとめ	――――	――――

関連科目	スペイン語と関連のあるすべての科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回のディクテーションと小テスト（100%）
学生へのメッセージ	事前・事後学修に各１時間を要する。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	映画のスペイン語Ⅲ	科目名（英文）	Spanish through the Movies III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	Q
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	オラシオ　ゴメス
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	スペイン語のヒアリング力を高めるために、映画を利用し、２回で１チャプタを終えるスピードで進む。ショットを見ながら、だいたいの内容を把握する。次に、そのチャプタで使われているスペイン語を和訳する。その後、スペイン語を聞いてのディクテーションをする。
到達目標	スペイン語のヒアリング力を高める。
授業方法と留意点	スペイン語圏で近年制作された作品の中から教材を選定する。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方の説明。ヒアリング、ディクテーションの練習。	授業内容を復習する。
2	Escena 1	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
3	Escena 1	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
4	Escena 2	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
5	Escena 2	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
6	Escena 3	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
7	Escena 3	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
8	Escena 4	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
9	Escena 4	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
10	Escena 5	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
11	Escena 5	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
12	Escena 6	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
13	Escena 6	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
14	Escena 6	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
15	まとめ	――――	――――

関連科目	スペイン語と関連のあるすべての科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回のディクテーションと小テストによって評価する（100%）。
学生へのメッセージ	間違いを恐れず、積極的にコミュニケーションを図ってください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。

科目名	映画のスペイン語Ⅲ	科目名（英文）	Spanish through the Movies III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	R
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ディアス　イバン
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	スペイン語のヒアリング力を高めるために、映画を利用し、２回で１チャプタを終えるスピードで進む。ショットを見ながら、だいたいの内容を把握する。次に、そのチャプタで使われているスペイン語を和訳する。その後、スペイン語を聞いてのディクテーションをする。
到達目標	スペイン語のヒアリング力を高める。
授業方法と留意点	スペインの映画監督ホセ・ルイス・クエルダ作品『蝶の舌」を用いる。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方の説明。ヒアリング、ディクテーションの練習。	授業内容を復習する。
2	Escena 1	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
3	Escena 1	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
4	Escena 2	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
5	Escena 2	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
6	Escena 3	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
7	Escena 3	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
8	Escena 4	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
9	Escena 4	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
10	Escena 5	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
11	Escena 5	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
12	Escena 6	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
13	Escena 6	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
14	Escena 6	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
15	まとめ	――――	――――

関連科目	スペイン語と関連のあるすべての科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回のディクテーションと小テスト（100%）
学生へのメッセージ	事前・事後学修に各１時間を要する。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	映画のスペイン語Ⅳ	科目名（英文）	Spanish through the Movies Ⅳ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	オラシオ　ゴメス
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	スペイン語のヒアリング力を高めるために、映画を利用し、２回で１チャプタを終えるスピードで進む。ショットを見ながら、だいたいの内容を把握する。次に、そのチャプタで使われているスペイン語を和訳する。その後、スペイン語を聞いてのディクテーションをする。
到達目標	スペイン語のヒアリング力を高める。
授業方法と留意点	スペインの映画監督ホセ・ルイス・クエルダ作品『蝶の舌』を用いる。
科目学習の効果（資格）	.

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Repaso del argumento	Escena 6までの復習	授業内容を復習する。
2	Escena 7	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
3	Escena 7	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
4	Escena 8	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
5	Escena 8	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
6	Escena 9	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
7	Escena 9	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
8	Escena 10	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
9	Escena 10	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
10	Escena 11	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
11	Escena 11	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
12	Escena 12	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
13	Escena 12	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
14	Escena 12	ヒアリング、ディクテーション，　和訳	授業内容を復習する。
15	まとめ	――――――	――――――

関連科目：スペイン語と関連のあるすべての科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回のディクテーションによって評価する。
学生へのメッセージ	. 作品の聴解だけではなく、背景知識を補うよう心がけてください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。

科目名	英語意味論・語用論	科目名（英文）	English Semantics and Pragmatics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	住吉　誠
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2△		

授業概要・目的	言語を、「話者が何かを伝えるためのもの」としてとらえると、それぞれの単語や表現がどのような意味を持ち、それが実際の場面でどのように使われ、どのような意味や意図を伝えているかということを理解することが重要になります。本授業では、英語に焦点を当てながら、ことばの意味、語彙、使い方などのメカニズムについて学びます。英語が表す「意味」の側面に焦点をあてる意味論と、実際の場面でどのように使われ、どのような意味を伝えるのかといった「用い方」に焦点を当てる語用論を扱います。英語の意味や使い方について、今までどのようなことが明らかにされてきたのかを理解することが目的となります。単なる資格試験のための英語ではなく、人間が使う言語としての英語を眺めることで、言語についてのさまざまな不思議に興味を持ち、その不思議に対して「なぜか」ということを追求する深みのある内容を目指します。
到達目標	１．語彙の中の意味関係を理解できるようになる。 ２．意味とコンテクストの関係を理解できるようになる。 ３．意味変化についてのメカニズムを理解できるようになる。 ４．場面に応じた言葉の使われ方について理解できるようになる。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行われるが、受け身の姿勢にならず、積極的に参加すること。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の内容・進め方に関する説明。	予習
2	言語と語	「ことば」の多義性について学ぶ。	復習・予習
3	語義と指示物	語形と語義について学ぶ。	復習・予習
4	文構造と語彙構造	単語間の意味的関係について学ぶ。	復習・予習
5	類義語と反意語	同義語の定義や反意語について学ぶ。	復習・予習
6	同音語と多義語	同音語と多義語のまぎらわしさについて学ぶ。	復習・予習
7	文法と語法	動詞と構文の関係について学ぶ。	復習・予習
8	コンテクスト	文とテクスト、談話について学ぶ。	復習・予習
9	テクスト成立の基準	テキスト成立の基準と原則について学ぶ。	復習・予習
10	意味の変化	単語を巡る日英言語の変化について学ぶ。	復習・予習
11	意味変化の分類	類似性や近接性に基づいた意味変化について学ぶ。	復習・予習
12	メタファーとメトニミー	語義の類似性や近接性について学ぶ。	復習・予習
13	言語の普遍性	自然な表現・不自然な表現について学ぶ。	復習・予習
14	英日間の表現の差異	英語話者好みの表現と日本語話者好みの表現について学ぶ。	復習・予習
15	総まとめ	総まとめのテストを行う。	総復習

関連科目：スピーキング・リスニング・オーラルコミュニケーション・イングリッシュ・プレゼンテーション

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	英語の意味	池上嘉彦(編)	大修館書店
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回の授業で提出するミニッツペーパー　(50%) 定期テスト　(50%)
学生へのメッセージ	新しいことを知る楽しさを知って下さい。
担当者の研究室等	7 号館 4 階 住吉研究室
備考	配布資料の読み込みなど、事前事後学習にかける総時間数を 30 時間程度とする。

科目名	英語学Ⅰ	科目名（英文）	English Linguistics Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	家口　美智子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	英語学概論では、主に文法の誤用に焦点を当てながら、合わせて英語学周辺領域を学ぶ。文法を中心に英語の歴史や単語の歴史、文法理論などを学習するだけでなく、女性言葉・男性言葉の違いや日英比較などについても学習する。英語は単に受験のためでなく、長い歴史をつむいできた生きた人間の使う生き物であることを理解する。
到達目標	授業の到達目標及びテーマ １．文法は生きた人間が使う生きたものであることを認識する。 ２．英語のレジスターや男言葉・女言葉がどのようなものであるかを知る。 ３．日英比較と通じて、それぞれの言語に共通するものがあることを認識する。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行う。目的意識をもって内容の理解に努めること。また、教員免許のための認定科目としても指定されている。よってレベルの高い文法事項を勉強するので、要求されたことには真摯に取り組むこと。毎回の小テストで平均60%ない学生には単位を与えない。また欠席は2回までとする。これは病気欠席も含む。欠席した場合は、指定された時間帯に追試を受けにくること。
科目学習の効果（資格）	教員免許と関連する科目である。TOEIC対策にもなる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	英語学について：文法とは何か	授業の概要と進め方について・学習にあたっての留意事項 リンガフランカとしての英語を概観する。	
2	英語の歴史	英語の歴史に関して概略を知る。	教科書 p.1～p.6（1h）
3	名詞の誤り(1)　語形成	英語の名詞の性質について学習する 小テスト	教科書 p.7～p.12（1h）
4	名詞の誤り(2)　（不）加算名詞と(Un)boundedness という考え方	名詞について学習する 小テスト	教科書 p.13～p.18（1h）
5	冠詞の誤り	冠詞について学習する 小テスト	教科書 p.19～p.24（1h）
6	動詞の誤り(1) 構文とは何か	頻繁に使う動詞について学習する 小テスト	教科書 p.25～p.30（1h）
7	動詞の誤り(2)　意味と動詞の構文の関係	頻繁に使う動詞について学習する 小テスト	教科書 p.31～p.36（1h）
8	時制の誤り　日英比較	日・英時制のずれ 小テスト	教科書 p.37～p.42（1h）
9	英語の語順	英語の語順の規則を学習する 小テスト	復習（2h）
10	準動詞の誤り	準動詞について学ぶ 小テスト	教科書 p.43～p.48（1h）
11	英語の意味	語や文の意味について考える。 小テスト	教科書 p.49～p.54（1h）
12	形容詞の誤り（１）different from/to にみられる性別における言葉使いの違い	形容詞について学習する 小テスト	教科書 p.55～p.60（1h）
13	形容詞の誤り（２）　形容詞の構文と意味	形容詞について学習する 小テスト	教科書 p.61～p.66（1h）
14	前置詞と接続詞の誤り	前置詞と接続詞に関して学習する 小テスト	総復習（1h）
15	まとめ：人間が使用する言語としての英語	まとめを行う 小テスト	総復習（1h）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Common Errors in English Writing 6th edition	木塚 晴夫 ノースリッジ ロジャー	ネリーズ
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト(50%)＋確認テスト(50%)の成績を合わせて評価するものとする。
学生へのメッセージ	こつこつやりさえすれば英語はものにできます。学習の習慣をつけてください。No pain, no gain.
担当者の研究室等	7号館4階(家口研究室)
備考	小テストを遅刻・欠席に理由で受けなかった場合は、次回の授業までに必ず追試を受けにくること。 この授業を履修しなくても、英語意味論・語用論(英語学II)、英語構造論(英語学III)は履修可能である。 授業の事前・事後の学習時間は15時間程度とする。

科目名	英語学Ⅱ	科目名（英文）	English Linguistics II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	住吉　誠
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	言語を、「話者が何かを伝えるためのもの」としてとらえると、それぞれの単語や表現がどのような意味を持ち、それが実際の場面でどのように使われ、どのような意味や意図を伝えているかということを理解することが重要になります。本授業では、英語に焦点を当てながら、ことばの意味、語彙、使い方などのメカニズムについて学びます。英語が表す「意味」の側面に焦点をあてる意味論と、実際の場面でどのように使われ、どのような意味を伝えるのかといった「用い方」に焦点を当てる語用論を扱います。英語の意味や使い方について、今までどのようなことが明らかにされてきたのかを理解することが目的となります。単なる資格試験のための英語ではなく、人間が使う言語としての英語を眺めることで、言語についてのさまざまな不思議に興味を持ち、その不思議に対して「なぜか」ということを追求する深みのある内容を目指します。
到達目標	１．語彙の中の意味関係を理解できるようになる。 ２．意味とコンテクストの関係を理解できるようになる。 ３．意味変化についてのメカニズムを理解できるようになる。 ４．場面に応じた言葉の使われ方について理解できるようになる。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行われるが、受け身の姿勢にならず、積極的に参加すること。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の内容・進め方に関する説明。	予習
2	言語と語	「ことば」の多義性について学ぶ。	復習・予習
3	語義と指示物	語形と語義について学ぶ。	復習・予習
4	文構造と語彙構造	単語間の意味的関係について学ぶ。	復習・予習
5	類義語と反意語	同義語の定義や反意語について学ぶ。	復習・予習
6	同音語と多義語	同音語と多義語のまぎらわしさについて学ぶ。	復習・予習
7	文法と語法	動詞と構文の関係について学ぶ。	復習・予習
8	コンテクスト	文とテクスト、談話について学ぶ。	復習・予習
9	テクスト成立の基準	テキスト成立の基準と原則について学ぶ。	復習・予習
10	意味の変化	単語を巡る日英言語の変化について学ぶ。	復習・予習
11	意味変化の分類	類似性や近接性に基づいた意味変化について学ぶ。	復習・予習
12	メタファーとメトニミー	語義の類似性や近接性について学ぶ。	復習・予習
13	言語の普遍性	自然な表現・不自然な表現について学ぶ。	復習・予習
14	英日間の表現の差異	英語話者好みの表現と日本語話者好みの表現について学ぶ。	復習・予習
15	総まとめ	総まとめのテストを行う。	総復習

関連科目：スピーキング・リスニング・オーラルコミュニケーション・イングリッシュ・プレゼンテーション

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	英語の意味	池上嘉彦(編)	大修館書店
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回の授業で提出するミニッツペーパー　(50%) 定期テスト　(50%)
学生へのメッセージ	新しいことを知る楽しさを知って下さい。
担当者の研究室等	7 号館 4 階 住吉研究室
備考	配布資料の読み込みなど、事前事後学習にかける総時間数を 30 時間程度とする。

科目名	英語学Ⅲ	科目名（英文）	English Linguistics III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中　秀毅
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的

日本人が英語を見るときには、日本語との相違点にばかり目がいきがちである。日英語の相違点を見つけるのは容易だが、詳細に見てみると両言語には同じ人間言語であるがゆえの共通点も数多く存在する。本講義は、英語と日本語を比較分析することで両言語の相違点と共通点を理解し、それによって今よりも１段上のレベルから英語をとらえられるようになることを目標にする。

到達目標

１．英語を英語学・言語学の視点で観察できるようになる。
２．日本語の意味や構造を意識できるようになる。
３．英語と日本語を比較、相違点と共通点が見出せるようになる。

授業方法と留意点

講義内容の理解を深められるようにプリントを配布する。講義形式で進めるが、疑問・質問の時間を適宜とって受講生との対話も組み入れたい。

１．本講義は受講生として言語（特に、構造や意味）に興味がある学生を想定している。「英語学概論（英語学Ⅰ）」や「英語意味論・語用論（英語学Ⅱ）」を履修済みであることが望ましい。
２．授業用プリントは順次配布するので可能な範囲で予習を行うこと（例文の意味を調べたり、関連する文法事項の復習したりする）。プリントはファイルにとじて既習のものでも授業中に参照できるようにすること。
３．積み上げ式に学習するので復習には十分時間をかけ、わからないことは早めに質問すること（ほかの受講生にも有益なのでできるだけ授業中に設ける質問時間を活用してほしい）。

科目学習の効果（資格）

言語の構造・意味の理解、３年次以降のゼミ、教職や大学院進学

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 英語学入門（１）	授業の進め方と評価方法の説明 英語と日本語の比較①	プリントの復習と次回の予習
2	英語学入門（２）	英語と日本語の比較②	プリントの復習と次回の予習
3	英語学入門（３）	曖昧性（形と意味の対応関係）	プリントの復習と次回の予習
4	英語学入門（４）	日本語の地域差（方言分析）①	プリントの復習と次回の予習
5	英語学入門（５）	日本語の地域差（方言分析）②	プリントの復習と次回の予習
6	実例で比べる英語と日本語	ジブリアニメを用いた日英語の時間的発想の比較	プリントの復習と次回の予習
7	壁塗り構文（１）	壁塗り構文と日本語の対応表現	プリントの復習と次回の予習
8	壁塗り構文（２）	壁塗り構文の意味解釈	プリントの復習と次回の予習
9	壁塗り構文（３）	壁塗り構文の概念構造	プリントの復習と次回の予習
10	統語構造の表記法（１）	樹形図の書き方	プリントの復習と次回の予習
11	統語構造の表記法（２）	曖昧な語句や文の統語分析	プリントの復習と次回の予習
12	have 構文（１）	存在を表す have と経験を表す have	プリントの復習と次回の予習
13	have 構文（２）	have 構文の概念構造	プリントの復習と次回の予習
14	have 構文（３）	統語構造と意味解釈の対応	プリントの復習と次回の予習
15	まとめ	総復習	プリントの復習

関連科目

英語学概論（英語学Ⅰ）、英語意味論・語用論（英語学Ⅱ）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリントを配付する。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	コンサイス英文法辞典	安井　稔	三省堂
2	現代英文法講義	安藤　貞雄	開拓社
3			

評価方法（基準）

【定期試験を実施】
以下の各項目について、指定された割合で総合的に評価する。

・期末試験 90%
・授業態度（予習状況、質問への回答、積極性など） 10%

学生へのメッセージ

英語を理解のレベルを日本語の理解を含めた「言語の理解」にまで高めてみましょう。そうすれば、日英語の相違点や共通点が見えてきます。それと同時に、これまで意識にのぼりにくかった日本語の理解も深まるでしょう。

担当者の研究室等

田中（秀）研究室（７号館４階）　※スチューデント・アワー（後期）は月曜５時限です。

備考

１．英語の分析では英英辞典を使用することが強く推奨される。電子辞書については、学習用に適した辞書を内蔵している場合に限り使用を認める。液晶画面の小さいものや旅行用のポータブルタイプは不可。
２．欠席は授業に出席しなかった場合（公欠・忌引き・病欠を含む）のすべてを対象とする（ただし、やむを得ない事情と判断できる欠席については考慮するので申し出ること）。欠席回数の限度については初回授業で説明するので必ず確認すること。欠席した場合には、次回の授業の前日までに課題や配布物について確認し、自分の責任で補完しておくこと。
３．遅刻は本人の授業理解度を低下させ，ほかの受講者の集中力を阻害するので避けること。また，携帯電話が授業中に鳴ると授業の進行の妨げになるので電源は授業開始までに切っておくこと。
４．配付したプリントはフォルダにとじて毎回持参すること。欠席等でプリントを受け取られなかったときは、事前に田中研究室のプリント・ボックスから必要なプリントを入手し、ほかの受講者から内容を聞くなどして自分の責任で補完して授業に臨むこと。
５．配布資料の読み込みなどを含めて、事前・事後学習にかける総時間を 15 時間程度とする。

科目名	英語学概論	科目名（英文）	Introduction to English Linguistics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	家口　美智子
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2△		

授業概要・目的

英語学概論では、主に文法の誤用に焦点を当てながら、合わせて英語学周辺領域を学ぶ。文法を中心に英語の歴史や単語の歴史、文法理論などを学習するだけでなく、女性言葉・男性言葉の違いや日英比較などについても学習する。英語は単に受験のためでなく、長い歴史をつむいできた生きた人間の使う生き物であることを理解する。

到達目標

授業の到達目標及びテーマ
１．文法は生きた人間が使う生きたものであることを認識する。
２．英語のレジスターや男言葉・女言葉がどのようなものであるかを知る。
３．日英比較と通じて、それぞれの言語に共通するものがあることを認識する。

授業方法と留意点

授業は講義形式で行う。目的意識をもって内容の理解に努めること。また、教員免許のための認定科目としても指定されている。よってレベルの高い文法事項を勉強するので、要求されたことには真摯に取り組むこと。毎回の小テストで平均 60%ない学生には単位を与えない。また欠席は 2 回までとする。これは病気欠席も含む。欠席した場合は、指定された時間帯に追試を受けにくること。

科目学習の効果（資格）

教員免許と関連する科目である。TOEIC 対策にもなる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	英語学について:文法とは何か	授業の概要と進め方について・学習にあたっての留意事項 リンガフランカとしての英語を概観する。	
2	英語の歴史	英語の歴史に関して概略を知る。	教科書 p.1～p.6（1h）
3	名詞の誤り(1)　語形成	英語の名詞の性質について学習する 小テスト	教科書 p.7～p.12（1h）
4	名詞の誤り(2)　（不）加算名詞と(Un)boundedness という考え方	名詞について学習する 小テスト	教科書 p.13～p.18（1h）
5	冠詞の誤り	冠詞について学習する 小テスト	教科書 p.19～p.24（1h）
6	動詞の誤り(1) 構文とは何か	頻繁に使う動詞について学習する 小テスト	教科書 p.25～p.30（1h）
7	動詞の誤り(2)　意味と動詞の構文の関係	頻繁に使う動詞について学習する 小テスト	教科書 p.31～p.36（1h）
8	時制の誤り　日英比較	日・英時制のずれ 小テスト	教科書 p.37～p.42（1h）
9	英語の語順	英語の語順の規則を学習する 小テスト	復習（2h）
10	準動詞の誤り	準動詞について学ぶ 小テスト	教科書 p.43～p.48（1h）
11	英語の意味	語や文の意味について考える。 小テスト	教科書 p.49～p.54（1h）
12	形容詞の誤り（１）different from/to にみられる性別における言葉使いの違い	形容詞について学習する 小テスト	教科書 p.55～p.60（1h）
13	形容詞の誤り（２）　形容詞の構文と意味	形容詞について学習する 小テスト	教科書 p.61～p.66（1h）
14	前置詞と接続詞の誤り	前置詞と接続詞に関して学習する 小テスト	総復習（1h）
15	まとめ:人間が使用する言語としての英語	まとめを行う 小テスト	総復習（1h）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Common Errors in English Writing 6th edition	木塚 晴夫 ノースリッジ ロジャー	ネリーズ
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

小テスト(50%)＋確認テスト(50%)の成績を合わせて評価するものとする。

学生へのメッセージ

こつこつやりさえすれば英語はものにできます。学習の習慣をつけてください。No pain, no gain.

担当者の研究室等

7 号館 4 階(家口研究室)

備考

小テストを遅刻・欠席に理由で受けなかった場合は、次回の授業までに必ず追試を受けにくること。
この授業を履修しなくても、英語意味論・語用論(英語学 II)、英語構造論(英語学 III)は履修可能である。
授業の事前・事後の学習時間は 15 時間程度とする。

科目名	英語圏概論（北米・ヨーロッパ）	科目名（英文）	Introduction to Cultures of the English-Speaking World
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	神崎　舞
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本授業では、視聴覚資料を用いながら、北米（アメリカ・カナダ）文化について幅広く学ぶことが目的である。
到達目標	大衆文化に焦点を当てて、北米（アメリカ・カナダ）文化への理解を深める。
授業方法と留意点	・テーマに応じて、原作や映像を用いながら、授業を進める。 ・グループ・プレゼンテーションをしてもらう。
科目学習の効果（資格）	・教員 ・異文化理解 ・教養

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業計画、成績評価、受講上の注意などの説明	授業内容を復習する
2	アメリカ	アメリカに関する基本的知識	アメリカの基本的情報を収集する
3	アメリカのテーマ・パーク	ディズニーランド	ディズニーランドについて調べる
4	アメリカのアニメ	ディズニー・アニメと原作の比較	ディズニー・アニメと原作について調べる
5	アメリカの映画	ハリウッド映画	ハリウッド映画について調べる
6	アメリカの舞台芸術（ミュージカル）	ミュージカルの歴史	ミュージカルについて調べる
7	アメリカの舞台芸術（ダンス）	ダンスの歴史	ダンスについて調べる
8	カナダ	カナダに関する基本的知識	カナダの基本的情報を収集する
9	カナダの映画と音楽	『タイタニック』とセリーヌ・ディオン	『タイタニック』とセリーヌ・ディオンについて調べる
10	カナダの文学	『赤毛のアン』	『赤毛のアン』について調べる
11	カナダの舞台芸術（演劇）	カナダにおけるシェイクスピア	シェイクスピアについて調べる
12	カナダの舞台芸術（サーカス）	シルク・ドゥ・ソレイユ	シルク・ドゥ・ソレイユについて調べる
13	アメリカとカナダの食文化	ファストフード、プティンなど	ファストフード、プティンなどについて調べる
14	アメリカとカナダの祝祭日	ハロウィーンやクリスマスなど	ハロウィーンやクリスマスなどについて調べる
15	まとめ	確認テストと解説	前期の授業内容を復習する

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	・平常点（授業態度、課題への取り組み）：20% ・グループ・プレゼンテーション：40% ・確認テスト：40%
学生へのメッセージ	アメリカやカナダの文化を学ぶことで、異文化への理解を深めましょう。
担当者の研究室等	7号館5階　神崎研究室
備考	・毎回の授業のための資料の読み込み、担当者からの課題、発表の準備などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。 ・初回の授業でプレゼンテーションのグループを決めるので、受講予定の学生は必ず出席すること。 ・グループ・プレゼンテーションにおけるフィードバックはその都度行う。

科目名	英語圏概論（北米・ヨーロッパ）	科目名（英文）	Introduction to Cultures of the English-Speaking World
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	２
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	フーパー　トッド
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	This is an introduction to the culture of the United States. By learning about the culture of the United States, it will become easier to understand and communicate with Americans.
到達目標	1. You will be able to listen to and understand lectures in English. 2. You will improve your note taking skills. 3. You will get experience with presenting in front of a large audience
授業方法と留意点	You will listen to lectures in English and take notes. There will also be opportunities for discussions and presentations.
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, N検.

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction to the United States	Go over syllabus; Lecture and discussion on the geography of the United States	Prepare materials for note taking
2	History of the United States	Lecture and discussion on important historical events in America's history	Quiz
3	American Values and the American Dream	Lecture and discussion on American values	Quiz
4	Religion in America	Lecture and discussion on religion in America	Quiz
5	The Frontier Spirit	Lecture and discussion on the expansion of the United States	Quiz
6	Business and Consumerism	Lecture and discussion on American business practices	Quiz
7	Test 1	Take a test on the contents of weeks 1-6	Review the notes for weeks 1-6
8	Government and Politics	Lecture and discussion on the American political system	Quiz
9	Ethnic and Racial Diversity	Lecture and discussion on America's multiracial society	Quiz
10	Education in America	Lecture and discussion on the education system in America	Quiz
11	The American Family	Lecture and discussion on the role of family in American society	Quiz
12	Test 2	Take a test on the contents of weeks 8-11	Review the notes for weeks 8-11
13	Group Presentation Preparation	Work with a group to write a presentation to be given in front of the class	.Practice for your presentation
14	Group Presentations	Present in front of a large audience	.Practice for your presentation
15	Group Presentations	Present in front of a large audience	.Practice for your presentation

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Test 1: 35% Test 2: 35% Group Presentation: 30%
学生へのメッセージ	Lectures will be in English, so it may be challenging for you, but don't worry. Time will be given during the lectures for you to check unfamiliar words in your dictionary, so please bring a dictionary to class. Also, please be prepared to take notes. Your success in this class will depend on your note taking skills.
担当者の研究室等	７号館３階　フーパー研究室
備考	授業の事前・事後学習にかける総時間はおおよそ 15 時間である。

科目名	英語圏概論	科目名（英文）	Introduction to Cultures of the English-Speaking World
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	神崎　舞
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	本授業では、視聴覚資料を用いながら、北米（アメリカ・カナダ）文化について幅広く学ぶことが目的である。
到達目標	大衆文化に焦点を当てて、北米（アメリカ・カナダ）文化への理解を深める。
授業方法と留意点	・テーマに応じて、原作や映像を用いながら、授業を進める。 ・グループ・プレゼンテーションをしてもらう。
科目学習の効果（資格）	・教員 ・異文化理解 ・教養

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業計画、成績評価、受講上の注意などの説明	授業内容を復習する
2	アメリカ	アメリカに関する基本的知識	アメリカの基本的情報を収集する
3	アメリカのテーマ・パーク	ディズニーランド	ディズニーランドについて調べる
4	アメリカのアニメ	ディズニー・アニメと原作の比較	ディズニー・アニメと原作について調べる
5	アメリカの映画	ハリウッド映画	ハリウッド映画について調べる
6	アメリカの舞台芸術（ミュージカル）	ミュージカルの歴史	ミュージカルについて調べる
7	アメリカの舞台芸術（ダンス）	ダンスの歴史	ダンスについて調べる
8	カナダ	カナダに関する基本的知識	カナダの基本的情報を収集する
9	カナダの映画と音楽	『タイタニック』とセリーヌ・ディオン	『タイタニック』とセリーヌ・ディオンについて調べる
10	カナダの文学	『赤毛のアン』	『赤毛のアン』について調べる
11	カナダの舞台芸術（演劇）	カナダにおけるシェイクスピア	シェイクスピアについて調べる
12	カナダの舞台芸術（サーカス）	シルク・ドゥ・ソレイユ	シルク・ドゥ・ソレイユについて調べる
13	アメリカとカナダの食文化	ファストフード、プティンなど	ファストフード、プティンなどについて調べる
14	アメリカとカナダの祝祭日	ハロウィーンやクリスマスなど	ハロウィーンやクリスマスなどについて調べる
15	まとめ	確認テストと解説	前期の授業内容を復習する

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	・平常点（授業態度、課題への取り組み）：20% ・グループ・プレゼンテーション：40% ・確認テスト：40%
学生へのメッセージ	アメリカやカナダの文化を学ぶことで、異文化への理解を深めましょう。
担当者の研究室等	7 号館 5 階　神崎研究室
備考	・毎回の授業のための資料の読み込み、担当者からの課題、発表の準備などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。 ・初回の授業でプレゼンテーションのグループを決めるので、受講予定の学生は必ず出席すること。 ・グループ・プレゼンテーションにおけるフィードバックはその都度行う。

科目名	英語圏概論	科目名（英文）	Introduction to Cultures of the English-Speaking World
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	２
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	フーパー　トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	This is an introduction to the culture of the United States. By learning about the culture of the United States, it will become easier to understand and communicate with Americans.
到達目標	1. You will be able to listen to and understand lectures in English. 2. You will improve your note taking skills. 3. You will get experience with presenting in front of a large audience
授業方法と留意点	You will listen to lectures in English and take notes. There will also be opportunities for discussions and presentations.
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, N検.

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction to the United States	Go over syllabus; Lecture and discussion on the geography of the United States	Prepare materials for note taking
2	History of the United States	Lecture and discussion on important historical events in America's history	Quiz
3	American Values and the American Dream	Lecture and discussion on American values	Quiz
4	Religion in America	Lecture and discussion on religion in America	Quiz
5	The Frontier Spirit	Lecture and discussion on the expansion of the United States	Quiz
6	Business and Consumerism	Lecture and discussion on American business practices	Quiz
7	Test 1	Take a test on the contents of weeks 1-6	Review the notes for weeks 1-6
8	Government and Politics	Lecture and discussion on the American political system	Quiz
9	Ethnic and Racial Diversity	Lecture and discussion on America's multiracial society	Quiz
10	Education in America	Lecture and discussion on the education system in America	Quiz
11	The American Family	Lecture and discussion on the role of family in American society	Quiz
12	Test 2	Take a test on the contents of weeks 8-11	Review the notes for weeks 8-11
13	Group Presentation Preparation	Work with a group to write a presentation to be given in front of the class	.Practice for your presentation
14	Group Presentations	Present in front of a large audience	.Practice for your presentation
15	Group Presentations	Present in front of a large audience	.Practice for your presentation

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Test 1: 35% Test 2: 35% Group Presentation: 30%
学生へのメッセージ	Lectures will be in English, so it may be challenging for you, but don't worry. Time will be given during the lectures for you to check unfamiliar words in your dictionary, so please bring a dictionary to class. Also, please be prepared to take notes. Your success in this class will depend on your note taking skills.
担当者の研究室等	７号館３階　フーパー研究室
備考	授業の事前・事後学習にかける総時間はおおよそ 15 時間である。

科目名	英語構造論	科目名（英文）	English Syntax
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中　秀毅
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2△		

授業概要・目的

日本人が英語を見るときには、日本語との相違点にばかり目がいきがちである。日英語の相違点を見つけるのは容易だが、詳細に見てみると両言語には同じ人間言語であるがゆえの共通点も数多く存在する。本講義は、英語と日本語を比較分析することで両言語の相違点と共通点を理解し、それによって今よりも１段上のレベルから英語をとらえられるようになることを目標にする。

到達目標

１．英語を英語学・言語学の視点で観察できるようになる。
２．日本語の意味や構造を意識できるようになる。
３．英語と日本語を比較、相違点と共通点が見出せるようになる。

授業方法と留意点

講義内容の理解を深められるようにプリントを配布する。講義形式で進めるが、疑問・質問の時間を適宜とって受講生との対話も組み入れたい。

１．本講義は受講生として言語（特に、構造や意味）に興味がある学生を想定している。「英語学概論（英語学Ⅰ）」や「英語意味論・語用論（英語学Ⅱ）」を履修済みであることが望ましい。
２．授業用プリントは順次配布するので可能な範囲で予習を行うこと（例文の意味を調べたり、関連する文法事項の復習したりする）。プリントはファイルにとじて既習のものでも授業中に参照できるようにすること。
３．積み上げ式に学習するので復習には十分時間をかけ、わからないことは早めに質問すること（ほかの受講生にも有益なのでできるだけ授業中に設ける質問時間を活用してほしい）。

科目学習の効果（資格）

言語の構造・意味の理解、３年次以降のゼミ、教職や大学院進学

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 英語学入門（１）	授業の進め方と評価方法の説明 英語と日本語の比較①	プリントの復習と次回の予習
2	英語学入門（２）	英語と日本語の比較②	プリントの復習と次回の予習
3	英語学入門（３）	曖昧性（形と意味の対応関係）	プリントの復習と次回の予習
4	英語学入門（４）	日本語の地域差（方言分析）①	プリントの復習と次回の予習
5	英語学入門（５）	日本語の地域差（方言分析）②	プリントの復習と次回の予習
6	実例で比べる英語と日本語	ジブリアニメを用いた日英語の時間的発想の比較	プリントの復習と次回の予習
7	壁塗り構文（１）	壁塗り構文と日本語の対応表現	プリントの復習と次回の予習
8	壁塗り構文（２）	壁塗り構文の意味解釈	プリントの復習と次回の予習
9	壁塗り構文（３）	壁塗り構文の概念構造	プリントの復習と次回の予習
10	統語構造の表記法（１）	樹形図の書き方	プリントの復習と次回の予習
11	統語構造の表記法（２）	曖昧な語句や文の統語分析	プリントの復習と次回の予習
12	have 構文（１）	存在を表す have と経験を表す have	プリントの復習と次回の予習
13	have 構文（２）	have 構文の概念構造	プリントの復習と次回の予習
14	have 構文（３）	統語構造と意味解釈の対応	プリントの復習と次回の予習
15	まとめ	総復習	プリントの復習

関連科目

英語学概論（英語学Ⅰ）、英語意味論・語用論（英語学Ⅱ）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリントを配付する。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	コンサイス英文法辞典	安井　稔	三省堂
2	現代英文法講義	安藤　貞雄	開拓社
3			

評価方法（基準）

【定期試験を実施】
以下の各項目について、指定された割合で総合的に評価する。

・期末試験 90%
・授業態度（予習状況、質問への回答、積極性など） 10%

学生へのメッセージ

英語を理解のレベルを日本語の理解を含めた「言語の理解」にまで高めてみましょう。そうすれば、日英語の相違点や共通点が見えてきます。それと同時に、これまで意識にのぼりにくかった日本語の理解も深まるでしょう。

担当者の研究室等

田中（秀）研究室（７号館４階）　※スチューデント・アワー（後期）は月曜５時限です。

備考

１．英語の分析では英英辞典を使用することが強く推奨される。電子辞書については、学習用に適した辞書を内蔵している場合に限り使用を認める。液晶画面の小さいものや旅行用のポータブルタイプは不可。
２．欠席は授業に出席しなかった場合（公欠・忌引き・病欠を含む）のすべてを対象とする（ただし、やむを得ない事情と判断できる欠席については考慮するので申し出ること）。欠席回数の限度については初回授業で説明するので必ず確認すること。欠席した場合には、次回の授業の前日までに課題や配布物について確認し、自分の責任で補完しておくこと。
３．遅刻は本人の授業理解度を低下させ，ほかの受講者の集中力を阻害するので避けること。また，携帯電話が授業中に鳴ると授業の進行の妨げになるので電源は授業開始までに切っておくこと。
４．配付したプリントはフォルダにとじて毎回持参すること。欠席等でプリントを受け取られなかったときは、事前に田中研究室のプリント・ボックスから必要なプリントを入手し、ほかの受講者から内容を聞くなどして自分の責任で補完して授業に臨むこと。
５．配布資料の読み込みなどを含めて、事前・事後学習にかける総時間を 15 時間程度とする。

科目名	映像中国語 a	科目名（英文）	Film Chinese a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中西　正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP7○,DP8◎		

授業概要・目的	映像と音声を通じて，中国語を聞き取る能力を重点的に養成することを目的とする。授業ではパソコンやネットワーク，タッチパネルディスプレイなどを利用して，発音のチェックや他の学生との情報共有，シャドーイングなどの活動を行う。この課程は１年次の必修中国語各科目の内容と連動するもので，それらで学んだ事項を定着させることができる。
到達目標	中国語の音声を正確に判別し，既習の語彙やフレーズについて正しく発音したり漢字やピンインでディクテーションできることを目指す。中国語検定４級リスニング試験の形式やレベルの問題にも取り組み，同級合格レベルへの到達を具体的な目標とする。
授業方法と留意点	１．必修の中国語各科目で学んだ発音・語彙・文法を復習し，しっかりと理解できるようにする。 ２．さらにそれらを聞き取り理解できるようさまざまな訓練を行う。とくに１年次では発音の基礎と基本語彙の練習・運用に重点を置き、確実に聞き取れるように訓練する。
科目学習の効果（資格）	中国語聞き取り能力が向上し、前期終了時には中国語検定試験准４級の受験が可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	中国語知識（1）	地理・民族・人口	中国語を学ぶのに必要な中国に関する高等学校程度の知識を確認する。
2	第１課	四声と基本的な母音、子音 四択練習問題四声と基本的な母音、子音 四択練習問題	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
3	第２課	鼻母音と発音しにくい子音。 四択練習問題。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
4	第３課	声調パタンの反復練習。 練習問題。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
5	第４課	「是」構文 名前の言い方に関する置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
6	第５課	数量に関する表現と「有」構文に関する置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
7	第６課	動詞述語文と職業に関する表現の置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
8	第７課	形容詞述語文と比較表現を使った置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
9	第８課	前置詞と方位詞を使った表現の置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
10	第９課	「了」と結果補語を使った置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
11	第１０課	「了」と結果補語を使った置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
12	第１１課	動作の進行、完了の表現に関する置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
13	第１２課	「就」「才」を使った文および「在」のいくつかの用法。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
14	第１３課	程度補語の使い方。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
15	第１４課	復習	――――

関連科目：必修中国語科目（週４コマ）を必ず履修していること。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語Ⅰa	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	選択科目なので，目的意識をしっかり持って授業に臨んでほしい。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
担当者の研究室等	7 号館 3 階(中西研究室)
備考	教科書は中国語必修科目用のものと共通。 授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	映像中国語 b	科目名（英文）	Film Chinese b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中西　正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	映像と音声を通じて，中国語を聞き取る能力を重点的に養成することを目的とする。授業ではパソコンやネットワーク，タッチパネルディスプレイなどを利用して，発音のチェックや他の学生との情報共有，シャドーイングなどの活動を行う。この課程は１年次の必修中国語各科目の内容と連動するもので，それらで学んだ事項を定着させることができる。
到達目標	11 月下旬の中国語検定 4 級試験受験までに，そのリスニング試験問題で 6 割以上の正答率を達成することを目標とする。12 月以降は 4 級試験の長文読解問題レベルの文章を教材として，これを正しくディクテーションしたりシャドーイングすることを目指す。
授業方法と留意点	１．必修の中国語各科目で学んだ発音・語彙・文法を復習し，しっかりと理解できるようにする。 ２．さらにそれらを聞き取り理解できるようさまざまな訓練を行う。とくに１年次では発音の基礎と基本語彙の練習・運用に重点を置き、確実に聞き取れるように訓練する。
科目学習の効果（資格）	中国語聞き取り能力が向上し、11 月に実施される中国語検定試験 4 級に合格することを可能とする。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	時をかける少女(1/12) 検定 4 級レベルリスニング問題	機器とソフトウエアの操作および授業進行についての説明。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
2	時をかける少女(2/12) 検定 4 級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について 25 項目を取り上げ、Web ベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
3	時をかける少女(3/12) 検定 4 級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について 25 項目を取り上げ、Web ベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
4	時をかける少女(4/12) 検定 4 級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について 25 項目を取り上げ、Web ベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
5	時をかける少女(5/12) 検定 4 級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について 25 項目を取り上げ、Web ベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
6	時をかける少女(6/12) 検定 4 級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について 25 項目を取り上げ、Web ベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
7	時をかける少女(7/12) 検定 4 級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について 25 項目を取り上げ、Web ベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
8	時をかける少女(8/12) 検定 4 級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について 25 項目を取り上げ、Web ベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
9	時をかける少女(9/12) 検定 4 級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について 25 項目を取り上げ、Web ベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
10	時をかける少女(10/12) 検定 4 級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について 25 項目を取り上げ、Web ベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
11	時をかける少女(11,12/12)	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について 25 項目を取り上げ、Web ベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
12	サマーウォーズ(1/4) CALL システムを利用したタイピング訓練	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について 25 項目を取り上げ、Web ベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
13	サマーウォーズ(2/4) CALL システムを利用したタイピング訓練	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について 25 項目を取り上げ、Web ベースで作成された問題を考え	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。

		る。	
14	サマーウォーズ(3/4) CALL システムを利用したタイピング訓練	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について 25 項目を取り上げ、Web ベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
15	サマーウォーズ(4/4) 中国語検定 3 級模擬テスト	最新の試験問題を解きながら、6 月に受験する検定への対策を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。

関連科目	必修中国語科目（週 4 コマ）を必ず履修していること。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語Ⅰa	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生への メッセージ	選択科目なので，目的意識をしっかり持って授業に臨んでほしい。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階(中西研究室)
備考	教科書は中国語必修科目用のものと共通。 授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	英米文学史	科目名（英文）	History of English and American Literature
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	齋藤　安以子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	・英語で書かれた、主に英米の作家による文学作品の歴史を学ぶ。 ・人々が伝えてきた「物語」に反映された、時代と共に変わること、反対に時がたっても変わらないこと、を読みとる。 ・授業とは別に各自が選んだ作品を読み、個別の作品として味わいつつ、歴史の中でどのような存在であるのかも考える。
到達目標	・英語で書かれた文学作品を、原文または翻訳で読む。 ・個々の作品を、それが書かれた歴史と文化の観点からも理解する。 ・読んでよかったと思う作品を、まだ読んだことのない人が読みたくなるように、紹介できるようになる。
授業方法と留意点	講義と演習
科目学習の効果（資格）	・物語を読む楽しみが深くなる。 ・身の回りや社会で起きている出来事を、俯瞰的に見る視点を持つ。 ・言葉の使い方に注意を払うようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 古英語から中世の物語： 英雄の伝説	授業の進め方、目的、評価方法についての説明 『ベオウルフ』 『アーサー王の死』 　抜粋を読み、背景を学び、討論する。分析結果を書く。	復習 ブック　レポート準備
2	中英語の物語と「英語訳」の発達： 普通の人々のエネルギー	『カンタベリー物語』 『欽定訳聖書』 抜粋を読み、背景を学び、討論する。分析結果を書く。	復習 ブック　レポート準備
3	印刷技術と英語の爆発的拡大	シェイクスピアの劇作品と、後世の翻案作品① 『ハムレット』 『ローゼンクランツとギルデンスターンは死んだ』　ほか 　抜粋を読み、グループで声で演じてみる。	復習 ブック　レポート準備
4	現代に続く英語の文学作品	シェイクスピアの劇作品と、後世の翻案作品② 『ロミオとジュリエット』 『ウェストサイド物語』　ほか 抜粋を読み、背景を学び、討論する。分析結果を書く。	復習 ブック　レポート準備
5	詩①	『妖精の女王』 『失楽園』 ソネット　ほか 　抜粋を読み、グループで訳し、朗読してみる。	復習 ブック　レポート準備
6	海・旅と人間	『ロビンソン・クルーソー』 『ガリバー旅行記』 『白鯨』 『闇の奥』 ランサム・サーガ　ほか 抜粋を読み、背景を学び、討論する。分析結果を書く。	復習 ブック　レポート準備
7	感情： 時代が変わっても、変わらないもの	『嵐が丘』 『高慢と偏見』 『ウィンダミア夫人の扇』 『フランケンシュタイン』　ほか 　抜粋を読み、グループで声で演じてみる。	復習 ブック　レポート準備
8	新聞・雑誌連載と文学： 読者のフィードバックと作品執筆	チャールズ・ディケンズ アーサー・コナン・ドイル　ほか 抜粋を読み、背景を学び、討論する。分析結果を書く。	復習 ブック　レポート準備
9	ファンタジー	『ロード・オブ・ザ・リングズ』 『ナルニア国物語』 『黄金の羅針盤』　ほか 抜粋を読み、主人公を比較する	復習 ブック　レポート準備
10	子どもの視点から描かれた社会	『メアリー・ポピンズ』 『大草原の小さな家』	復習

		『トム・ソーヤ―の冒険』　ほか 抜粋を読み、背景を学び、討論する。分析結果を書く。	ブック　レポート準備
11	詩②： 物語を歌う	文学として読む歌詞 抜粋を音読し、自分たちで別バージョンを作詞してみる	復習 ブック　レポート準備
12	文学作品の「評価」： ベストセラーと文学賞	レイモンド・チャンドラー アガサ・クリスティー 抜粋を読み、背景を学び、討論する。分析結果を書く。	復習 ブック　レポート準備
13	未来を描く： 現実より文学が先行した「タイム・トラベル」「ロボット3原則」「生命倫理」	『タイム・マシーン』 『I, Robot』 『私を離さないで』　ほか 現代社会で問題になっている事柄と結びつけて論じる。	復習 「語り伝え」練習
14	自分が選んだ英米文学作品のどれかを、「語り伝え」てみよう	語り手として、物語を伝える 学期中に読んだ課題作品リストの中から、自分が読んだ作品を「話して」聴かせる。	ブック　レポート準備
15	「英米」文学から「世界」文学へ まとめ	英語で発表された最近の文学作品	総復習

関連科目

他の英語科目、英米文学、アメリカ文化論　ほか

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

授業中の発表　　３０％
レポート　　３０％
筆記試験　　４０％

学生へのメッセージ

物語は読んだ人の無形財産になります。
１人でいくつでも持てます。
税金はかかりません。
１０代のとき、２０代のとき、もっともっと後になってから、読むときの自分の成長に合わせて、見える世界が変わります。
悲しいときには支えとなり、
途方にくれたときにはきっかけをくれ、
大失敗したあなたを見捨てることなく、
成功して鼻高々のあなたに「図に乗るな」と知らせてくれ、
あなた自身が dark side に落ちる前に、悪の途に落ちたらどうなるかを教えてくれます。
行ったことのない国のずっと昔の人も同じことを考えてたんだと教えてくれます。
あなたが目を向ければ夜空の星のように、たくさんの物語が輝いています。

担当者の研究室等

７号館４階　齋藤研究室

備考

事前事後学習の総時間を 15 時間程度以上とする。

科目名	英米文学	科目名（英文）	English and American Literature
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	皆本　智美
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	「文学は社会を映す」と言われることがある。本講義では、英文学史を概観しながら、特にルネサンス期・ロマン主義時代・19 世紀に焦点をあて、アメリカ文学を適宜参照することによって、社会変化と文学との関係について考察を深めることを目的とする。
到達目標	英文学の歴史的流れをつかみ、英米文学・文化についての理解を深めることを目標とする。
授業方法と留意点	授業中に原文を読むことがある。必ず辞書と教科書を持参すること。 授業では資料を配布するので、配布資料を自己管理し、前回分を持参すること。
科目学習の効果（資格）	教職課程科目。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業オリエンテーション・イギリス社会と文学	授業方法・成績評価の説明、 イギリスについての概説、イギリス文学についての基礎知識、アメリカ文学との比較	――――
2	ルネサンスまでの文学	中世の英語と文学、ルネサンス期についての基礎知識、アメリカ大陸発見が文学に与えた影響	教科書の指定部分を読んでくること・配布資料を復習すること
3	シェイクスピア（1）	シェイクスピアの活躍した時代についての概説、 シェイクスピアの詩、歴史劇等	教科書の指定部分を読んでくること・配布資料を復習すること
4	シェイクスピア（2）	シェイクスピアの喜劇等	教科書の指定部分を読んでくること・配布資料を復習すること
5	シェイクスピア（3）	シェイクスピアの悲劇等	教科書の指定部分を読んでくること・配布資料を復習すること
6	17 世紀の文学	シェイクスピア以外の劇作家、詩の発展等	教科書の指定部分を読んでくること・配布資料を復習すること
7	18 世紀までの文学（1）	小説の誕生・同時代のアメリカにおける文学	教科書の指定部分を読んでくること・配布資料を復習すること
8	18 世紀までの文学（2）	小説ジャンルの発展	教科書の指定部分を読んでくること・配布資料を復習すること
9	ロマン主義（1）	ロマン主義の詩、同時代のアメリカの文学	教科書の指定部分を読んでくること・配布資料を復習すること
10	ロマン主義（2）	ロマン主義時代の小説（Jane Austen、ゴシック小説など）	教科書の指定部分を読んでくること・配布資料を復習すること
11	19 世紀の文学（1）	ヴィクトリア朝時代の小説家（1）	教科書の指定部分を読んでくること・配布資料を復習すること
12	19 世紀の文学（2）	ヴィクトリア朝時代の小説家（2）、同時代のアメリカの小説（1）	教科書の指定部分を読んでくること・配布資料を復習すること
13	19 世紀の文学（3）	ヴィクトリア朝時代の小説家（3）、ヴィクトリア朝時代の詩人、同時代のアメリカの小説（2）	教科書の指定部分を読んでくること・配布資料を復習すること
14	20 世紀の文学（1）	20 世紀の詩と劇、アイルランドや旧植民地の文学	教科書の指定部分を読んでくること・配布資料を復習すること
15	20 世紀の文学（2）、２１世紀の文学の可能性と授業のまとめ	20 世紀の小説（イギリスとアメリカ） 21 世紀以降の文学とまとめ	教科書の指定部分を読んでくること・配布資料を復習すること

関連科目	英米文学史

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	イギリス文学史入門	川崎寿彦	研究社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業に対する姿勢（私語や携帯使用は大幅に減点します）、レポート等の課題、定期試験で評価。
学生へのメッセージ	英米文学の作品を読みたくなる授業を目指しています。実際に英米文学の本を読まなければできない課題を課しますが、何よりもまず、文学の魅力を味わってもらいたいと思っています。主にアメリカ文学を扱う「英米文学史」の授業とあわせて受講することをおすすめします。
担当者の研究室等	７号館４階(皆本研究室)
備考	配布資料の読み込みなどにかかる事前事後学習の総時間を 15 時間程度とする。

科目名	エコツーリズム論	科目名（英文）	Ecotourism
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	手代木　功基
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的

エコツーリズムとは、地域の自然や文化、歴史などの魅力を活かしながら、それらの資源の持続的な利用を前提とする観光の形であり、今後の観光を考えていく上で重要な概念です。本講義では、エコツーリズムの背景や理念を学ぶとともに、国内外の様々な事例を通じて、エコツーリズムの現状と課題、今後の展望について考えます。
本授業では、自らエコツーリズムを企画するなど、能動的に授業に取り組むことを求めます。そして、受講者が持続可能な観光・地域のあり方について自ら考えることが出来るようになることを期待します。

なお、この科目は「観光ホスピタリティ」プログラム対応科目です。

到達目標

1. エコツーリズムの基本について理解し、説明できる
2. 持続可能な観光・地域のあり方について自ら考えることが出来る

授業方法と留意点

投影資料の利用とプリントの配布による講義形式を中心とするが、エコツーリズムを企画するためのグループワーク、資料収集等の個人作業、プレゼンテーションなども含む。

科目学習の効果（資格）

旅行業務取扱管理者等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、テキスト、採点方法等について把握する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
2	エコツーリズムの誕生と展開１	エコツーリズムの背景や理念を知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
3	エコツーリズムの誕生と展開２	エコツーリズムの背景や理念を知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
4	エコツーリズムとジオツーリズム１	エコツーリズムと関わりが深いジオツーリズムについて学ぶ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
5	エコツーリズムとジオツーリズム２	エコツーリズムと関わりが深いジオツーリズムについて学ぶ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
6	地域づくりとエコツーリズム１	エコツーリズムを考える上で不可欠な地域との関係を知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
7	地域づくりとエコツーリズム２	エコツーリズムを考える上で不可欠な地域との関係を知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
8	食をめぐるツーリズム	エコツーリズムに関わりが深い食を活かしたツーリズムを学ぶ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
9	エコツーリズムの事例:屋久島	屋久島の事例をもとにエコツーリズムを考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。興味があるエコツーリズムの事例地域を決め、情報を集める
10	エコツーリズムの事例:和歌山	和歌山の事例をもとにエコツーリズムを考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。興味があるエコツーリズムの事例地域を決め、情報を集める
11	エコツーリズムの事例:白山	白山の事例をもとにエコツーリズムを考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。興味があるエコツーリズムの事例地域を決め、情報を集める
12	エコツーリズムの事例:アフリカ	アフリカの事例をもとにエコツーリズムを考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。興味があるエコツーリズムの事例地域を決め、情報を集める
13	多様な地域資源	エコツーリズムを企画する上で活用すべき地域の多様な資源について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。興味があるエコツーリズムの事例地域を決め、情報を集める
14	エコツーリズムを企画する	グループに別れて、実際に特定の地域でエコツーリズムを企画する	エコツーリズム企画の発表に関わる準備を行う
15	総括・企画の発表	企画案を発表し、ディスカッションを行う	エコツーリズム企画の発表について準備を行うとともに、ディスカッションをふまえて内容を修正する

関連科目

観光ホスピタリティプログラム関連科目（ホスピタリティ論、アーバンツーリズム論等）、地域環境論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

授業への取り組み（リアクションペーパーの内容、受講態度、プレゼンテーションの内容、議論やグループワークへの参加状況等）（50%）とレポート（50%）で評価します。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等

７号館５階（手代木研究室）

備考

事前・事後の学習は、全体で 60 時間を目安とします。
リアクションペーパーやレポート等の提出物に対してはコメントや質問回答といったフィードバックを行います。

科目名	エリアスタディーズ（アフリカ）	科目名（英文）	Area Studies (Africa)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	早川　真悠
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	本講義では、アフリカの歴史、文化、生業、現代的課題などのトピックについて、そこに住む人びとがどのように暮らしているのかを紹介しながら具体的に学んでいきます。 日本で一般的に伝えられるアフリカについてのトピック（紛争問題や貧困、資源開発など）だけでなく、テレビや新聞だけではなかなか知りえない、同時代に生きるアフリカの人びとの日常生活（ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ、食事、仕事の仕方、助け合いの方法など）についても理解を深めることを目指します。
到達目標	アフリカの多様性、固有性、現代的「問題」につて理解する。 アフリカについての基本的知識を身につけ、アフリカについて具体的に、積極的に考えられるようにする。 ・「アフリカとは何か」 ・「アフリカで生きるとはどのようなことなのか」 ・「アフリカの問題とは何か」 ということを、少しでも自分なりに考えられるようにしてください。 また、「アフリカから（わたしたちの）世界を見ると、どのように見えるか」についても考えてみてください。
授業方法と留意点	・基本的に講義形式ですが、ディスカッションやグループ・ワークも交えながら進めていきます。能動的に授業に参加することが求められます。 ・必要に応じて適宜、補助資料プリントを配布します。板書などを記録する場合は、各自ノートやメモをとってください。教室での撮影・録音は不可とします。 ・授業前・授業後に、学習課題を課すことがあります。 ・履修者の人数、関心、理解度などに応じて、シラバスの内容を一部修正する場合があります。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	今後の授業内容の概要 履修者の興味関心の確認 講師の紹介	【事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。
2	アフリカへのアプローチ（1）	身の周りにあるアフリカの情報（ニュース、文化、モノなど）を紹介しながら、アフリカに対するイメージ、自分との距離などを考える。	【事前・事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。
3	アフリカの地域と社会（1）	西アフリカの歴史・言語・民族・政治・経済などについての講義	【事前・事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。
4	アフリカの地域と社会（2）	東アフリカの歴史・言語・民族・政治・経済などについての講義	【事前・事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。
5	アフリカの地域と社会（3）	南部アフリカの歴史・言語・民族・政治・経済などについての講義	【事前・事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。
6	アフリカの生業（1）	アフリカの狩猟採集民の暮らしについての講義	【事前・事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。
7	アフリカの生業（2）	アフリカの農耕民の暮らしについての講義	【事前・事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。
8	アフリカの生業（3）	アフリカの牧畜民の暮らしについての講義	【事前・事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。
9	アフリカの生業（4）	アフリカの都市化と都市部の暮らしについての講義	【事前・事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。
10	アフリカの現代的「問題」（1）	アフリカの紛争・難民問題についての講義	【事前・事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。
11	アフリカの現代的「問題」（2）	アフリカの貧困・開発問題についての講義	【事前・事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。
12	アフリカの現代的「問題」（3）	アフリカの土地問題・環境破壊についての講義	【事前・事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。
13	アフリカの現代的「問題」（4）	アフリカの感染症・保健衛生・医療問題	【事前・事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。
14	アフリカへのアプローチ（2）	これまでの講義をふまえ、アフリカとは何か、理解の仕方について考える	【事前・事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。
15	総合ディスカッション 学習の到達度を測る試験	これまでの講義をふまえて受講者でディスカッションをおこなう。臨時試験を実施する	【事前・事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	アフリカ社会を学ぶ人のために	松田素二 編	世界思想社
2	文化人類学を学ぶ人のために	米山俊直・谷泰編	世界思想社
3	アフリカの都市的世界	嶋田義仁・松田素二・和崎春日	世界思想社

評価方法（基準）	①平常点（授業でのディスカッションやグループワークへの積極的な参加、事前・事後学習の成果など。出席回数も参考にします。）・・・50% ②学習の到達度を測る試験（授業最終回に実施）の得点・・・50%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	エリアスタディーズ（オセアニア）	科目名（英文）	Area Studies (Oceania)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	杉浦　秀行
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	オセアニア地域の中でも、特にオーストラリアとニュージーランドについて、その歴史、文化、生活習慣、教育事情、先住民族、マイノリティ政策、多文化主義、移民政策など様々な観点から理解を深めることを目的とする
到達目標	・オセアニアという地域の特徴を把握できる ・オーストラリア、ニュージーランドについて幅広い知識を得る
授業方法と留意点	・この授業ではグループ活動（授業内容の下調べ、グループ・ディスカッション、グループ・プレゼンテーション）への積極的な参加が求められます ・自分の興味のある内容についてプロジェクトを企画し、その内容についての発表とレポート作成が求められます
科目学習の効果（資格）	・より発展的なオセアニア地域の研究につながる

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方についての説明	次回の授業内容についての下調べ
2	オセアニアという地域	講義、グループ活動	次回の授業内容についての下調べ
3	オセアニアの歴史と今	講義、グループ活動	次回の授業内容についての下調べ
4	オセアニアの歴史と今	講義、グループ活動	次回の授業内容についての下調べ
5	オーストラリア、ニュージーランドの文化、生活習慣	講義、グループ活動	次回の授業内容についての下調べ
6	オーストラリア、ニュージーランドの文化、生活習慣	講義、グループ活動	次回の授業内容についての下調べ
7	オーストラリア英語とニュージーランド英語	講義、グループ活動	次回の授業内容についての下調べ
8	オーストラリア、ニュージーランドの教育事情	講義、グループ活動	次回の授業内容についての下調べ
9	オーストラリア、ニュージーランドの教育事情	講義、グループ活動	次回の授業内容についての下調べ
10	オーストラリア、ニュージーランドの先住民族について	講義、グループ活動	次回の授業内容についての下調べ
11	オーストラリア、ニュージーランドのマイノリティ政策	講義、グループ活動	次回の授業内容についての下調べ
12	オーストラリア、ニュージーランドの多文化主義、移民政策について	講義、グループ活動	次回の授業内容についての下調べ
13	オーストラリア、ニュージーランドの多文化主義、移民政策について	講義、グループ活動	次回の授業内容についての下調べ
14	オセアニアと日本との係わり	講義、グループ活動	次回の授業内容についての下調べ
15	プロジェクト発表会	グループ活動	レポートの準備

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループ活動（授業内容の下調べ、プレゼンテーション）：20%、グループ・プロジェクトの発表：30%、レポート：50%
学生へのメッセージ	オセアニア、特に、オーストラリアとニュージーランドの魅力について、いっしょに学びましょう！
担当者の研究室等	７号館５階　杉浦研究室
備考	

科目名	エリアスタディーズ（北アメリカ）	科目名（英文）	Area Studies (North America)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大原関　一浩
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	アメリカの歴史はヨーロッパ人が入植してから 400 年ほどですが、ダイナミックな変化を経験してきました。この授業では、アメリカという国の社会・文化を、歴史、地理、民族、精神、生活、人間関係、日米関係など、さまざまな視点から考察し理解を深めていきます。
到達目標	・アメリカ社会・文化を多角的な視点から理解する。 ・アメリカという国の理念とその実現の試みを批判的に理解する。 ・日本人としてアメリカ社会・文化を学ぶ意義を説明できる。
授業方法と留意点	各回のテーマに沿って、Power Point スライドを使い、統計・写真・地図などの資料を表示しながら、講義を進めていきます。スライドの文字を書き写すだけでなく、後で見返した時に要点がわかるように、自分の言葉でメモをとることがとても大切です。わからないこと、疑問に感じたことは、そのままにせず、教員に質問して理解すること。そうすれば、テストの出来もよくなります。
科目学習の効果（資格）	・アメリカに関する多くの情報のなかから、正しいものを選ぶ力をつける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容・方法説明	授業内容の復習
2	アメリカの歴史１	植民地時代から独立まで	授業内容の復習
3	アメリカの歴史２	領土拡張、奴隷制、南北戦争	授業内容の復習
4	アメリカの歴史３	金ぴか時代から第二次大戦まで	授業内容の復習
5	アメリカの歴史４	戦後のアメリカ、現在まで	授業内容の復習
6	アメリカの地理１	北部・南部	授業内容の復習
7	アメリカの地理２	中西部・西部	授業内容の復習
8	アメリカの民族１	ヨーロッパ系	授業内容の復習
9	アメリカの民族２	アジア系	授業内容の復習
10	アメリカの民族３	ラティーノ／ネイティブほか	授業内容の復習
11	アメリカの精神	ピューリタニズム、フロンティア精神、個人主義ほか	授業内容の復習
12	アメリカ人の生活	衣食住、祝祭	授業内容の復習
13	人間関係	子供、家族、LGBT など	授業内容の復習
14	日米関係	中浜万次郎から現在まで	授業内容の復習
15	まとめ	確認テストと解説	前期範囲の復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし。統計・写真・地図などの資料を配布／表示します。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点５０％（授業中の課題および宿題の正確さと精度を評価） 確認テスト５０％（授業内容の理解度を測るテストの成績）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	大原関研究室（７号館５階）
備考	授業スケジュール等に多少の変更の可能性があるので、初回の授業に必ず出席すること。 事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間。

科目名	エリアスタディーズ（東南アジア）	科目名（英文）	Area Studies (Southeast Asia)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	森田　良成
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	東南アジア各国の文化、社会、歴史、経済、政治についての基礎的な知識を習得し、そのうえで各地域における人びとの生活の多様性と共通性について考える。あわせて、それらの話題と、日本で暮らすわれわれの現在とのつながりについて考える。
到達目標	＊東南アジアについての基礎的な知識を習得する。 ＊東南アジアに関する報道に対して、地理的・歴史的な背景を踏まえたうえでの深い考察ができるようになる。
授業方法と留意点	＊講義形式で行う。授業の理解を助けるために映像資料を使用する。参考資料として、東南アジアに関連する映画作品をできるだけ多く紹介する予定。 ＊受講者にはペーパーで毎回コメントや質問を求める。重要なものについては、次回授業冒頭で取り上げて解説する。 ＊ノートを写し、話を聞くだけではなくて、自分で考え、考えたことを表現するよう努めること。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の目的、内容、進め方について説明する。	紹介する資料を参照すること。
2	東南アジアの基礎知識１	東南アジアの地理的特徴を理解する。	紹介する資料を参照すること。
3	東南アジアの基礎知識２	ヨーロッパとの接触以降の東南アジアの歴史を理解する。	紹介する資料を参照すること。
4	東南アジアの基礎知識３	東南アジアの政治的、文化的、経済的特徴を理解する。	紹介する資料を参照すること。
5	インドネシア１：国民の想像	スカルノの時代、スハルトの時代	紹介する資料を参照すること。
6	インドネシア２：国民の想像	ポストスハルト時代の課題	紹介する資料を参照すること。
7	マレーシア１：国民の統合と近代化	マレーシアの成立	紹介する資料を参照すること。
8	マレーシア２：国民の統合と近代化	ブミプトラ政策の展開とこれから	紹介する資料を参照すること。
9	東ティモール１：新しい国家の誕生	インドネシアによる占領の経験、そこからの解放と独立	紹介する資料を参照すること。
10	東ティモール２：新しい国家の誕生	新しい国民と新しい国語の創造	紹介する資料を参照すること。
11	フィリピン１：植民地支配と独立運動	スペイン支配とアメリカ支配、独立運動の展開	紹介する資料を参照すること。
12	フィリピン２：植民地支配と独立運動	スペイン支配とアメリカ支配、独立運動の展開	紹介する資料を参照すること。
13	ミャンマー１：民政移管後の課題	民政移管が実現に至るまで	紹介する資料を参照すること。
14	ミャンマー２：民政移管後の課題	民政移管後の政治的、経済的変化とこれからの課題	紹介する資料を参照すること。
15	まとめと試験	全体のまとめと試験	紹介する資料を参照すること。

関連科目	東南アジアに関連するすべての講義科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	東南アジアを知る事典		平凡社
2			
3			

評価方法（基準）	＊平常点　40%　　（授業への参加・貢献度を、コメント・感想などから総合的に判断する） ＊試験　　60%　（授業期間中に行う）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	＊受講者数によって、評価方法等を変更することがある。 ＊質問は原則として授業中に受け付けるほか、適宜非常勤講師室でも応対する。

科目名	エリアスタディーズ（日本）	科目名（英文）	Area Studies (Japan)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	赤澤　春彦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	本講義では日本の文化について理解を深めることを目的とします。取り上げるテーマは「和食」「名前」といった身近なものです。また「宗教」も取り上げます。宗教は一見、距離がありそうに思えますが、私たちの日常生活や年中行事の至る所に見られます。本講義を通して日本の文化に対する理解を深め世界の国々と比較するさいに役立ててください。
到達目標	日本の歴史や文化の特質を理解し、他の国々との違いを比較しながら、自らの言葉で解説できる能力を習得できます。
授業方法と留意点	基本的に板書で講義を進めますが、プリント・スライドなどの資料も使用します。
科目学習の効果（資格）	異文化コミュニケーションの場では自分の国の文化を披露することがあるでしょう。そのさい、日本の文化の特徴について伝えることができます。また、他の国の文化に触れるときにも深く理解することができるでしょう。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の目的や進め方について説明します。歴史学とはどのような学問か解説します。	復習
2	和食の歴史（1）	和食に対するイメージや考えをみなで考え、整理します。	復習
3	和食の歴史（2）	和食の歴史のうち、神饌と直会など古代日本の食について考えます。	復習
4	和食の歴史（3）	中世以降の精進料理、本膳料理が和食の成立に与えた影響について考えます。	復習
5	和食の歴史（4）	現代における和食の実態や問題点について考えます。	復習
6	名前の歴史と文化（1）	日本における姓名の歴史について考えます。	復習
7	名前の歴史と文化（2）	日本における家族の歴史と文化について考えます。	復習
8	名前の歴史と文化（3）	日本における共同体と家について考えます。	復習
9	映画『もののけ姫』にみる日本文化（1）	エミシの世界 「日本」の枠組みについて考えます。	復習
10	映画『もののけ姫』にみる日本文化（2）	ヤマトの世界 モデルとなった室町時代の村、町場、戦争などについて考えます。	復習
11	映画『もののけ姫』にみる日本文化（3）	タタラ場の世界 タタラ製鉄や石火矢について考えます。	復習
12	映画『もののけ姫』にみる日本文化（4）	シシガミの世界 日本の地理的環境や日本人の信仰について考えます。	復習
13	映画『もののけ姫』にみる日本文化（5）	『もののけ姫』世界の構成 ４つの世界の関係について考えます。	復習
14	映画『もののけ姫』にみる日本文化（6）	『もののけ姫』とは何か？ この映画を通じてどのような事を語れるのか、講義参加者がそれぞれ考えます。	復習
15	まとめ	論述試験を行います（持ち込み可）	今までのノートをまとめておく

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義最終日に行う論述試験（持ち込み可）、講義中に課す小レポート、小テストなどによって評価します。 論述試験を８０％、課題などを２０％とする。
学生へのメッセージ	本講義で日本の文化や歴史がすべてわかるわけではありません。講義を通じて興味を持ったことがありましたら、Web や図書などで積極的に調べるとよいでしょう。
担当者の研究室等	７号館４階（赤澤研究室）
備考	事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とする。

科目名	エリアスタディーズ（東アジア）	科目名（英文）	Area Studies (East Asia)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	瀬戸　宏.北島　由紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	中国と韓国を中心とした東アジアの地域社会・文化の概要を学び、これらの地域への理解を深めます。
到達目標	中国と韓国を中心とした東アジアの歴史・文化の概要が理解できます。
授業方法と留意点	毎回の出席を重視します。
科目学習の効果（資格）	東アジアへの理解が深まります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	中国の現代社会①瀬戸	映画「きれいなお母さん」を鑑賞し、変化する中国社会を理解する。	二〇世紀末から２１世紀初めの中国社会について調べる。
2	中国の現代社会②瀬戸	映画「きれいなお母さん」の背景にある市場経済の浸透、学校教育のあり方について考える。	中国の障碍者教育、母子家庭の現状について調べる。
3	中国の現代社会③瀬戸	映画「生きる」を鑑賞し、中華民国期から文化大革命までの中国社会の歩みを理解する。	中華民国から中華人民共和国への社会変化について調べる。
4	中国の現代社会④瀬戸	映画「生きる」の背景にある現代中国人の生き方について考える。	大躍進、文化大革命など中華人民共和国の歴史について調べる。
5	中国の伝統社会①瀬戸	映画「紅夢」を鑑賞し、旧時代の家庭の有り様を理解する。	旧中国の家庭制度、結婚制度について調べる。
6	中国の伝統社会②瀬戸	映画「紅夢」の背景にある封建家庭の構造、そこでの人々の思考について考える。	中国旧家庭の構造について調べる。
7	中国の伝統社会③瀬戸	映画「ヒーロー」を鑑賞し、古代の人々の情況を理解する。	中国古代の歴史につて調べる。
8	中国の伝統社会④瀬戸	映画「ヒーロー」の背景にある中国古代社会の構造を考える。	中国古代の社会状況について調べる。
9	まとめ　瀬戸	これまでの授業で理解した中国社会と日本社会を比較し、その共通点と相違点を考える。	これまでの授業に関するレポートを書く。
10	新しい韓国文化①北島	韓流はどのように浸透したのか	近年の韓国文化の流れや日本への影響を知る
11	新しい韓国文化②北島	韓流の変化	韓流の変化を通して、日本における韓国文化について考える
12	古い伝承からみる朝鮮半島①北島	神話に登場する神々	朝鮮半島の説話を知る
13	古い伝承からみる朝鮮半島②北島	古代国家の建国神話	朝鮮半島の古代国家についてより深く知る
14	古い伝承からみる朝鮮半島③北島	昔話・動物説話	昔話にあらわれる文化的特徴をみる
15	伝承からみる日本との関わり　北島	日韓昔話比較の一例	日本との関連性を考える

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：40% 締めくくりテスト：60%
学生へのメッセージ	いっしょに中国、韓国について勉強しましょう。
担当者の研究室等	７号館３階瀬戸研究室、７号館２階非常勤講師室
備考	授業の進行状況をみて、取り上げる作品などを変更することがあります。 事前・事後に各 60 分の学修を要する。

科目名	エリアスタディーズ（ヨーロッパ）	科目名（英文）	Area Studies (Europe)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	林田　敏子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	20 世紀末以来、ヨーロッパは、ＥＵを中心に経済のみならず政治や文化の面でも結びつきを強化してきた。「国民国家の枠をこえ、一つのヨーロッパをつくる」というその目標は達成されたかに見えるが、移民や難民の流入とこれ対する排斥運動、域内の経済格差や失業問題、地域ナショナリズムの高揚など、ヨーロッパ諸国が抱える問題はいずれも深刻なものである。国境をこえ「ヨーロッパ」の再生・創造をめざすＥＵがわれわれに投げかける問題を、多文化、多民族の共生という観点から考える。
到達目標	EU (European Union)の歩みに関する基本的知識を習得し、現代の「ヨーロッパ」が抱えている問題の本質を理解する。
授業方法と留意点	毎回プリントを配布し、図像資料を活用しながら板書をまじえて授業をすすめる。
科目学習の効果（資格）	ＥＵの拡大と深化が社会に与えた影響を考察することで、現代の「ヨーロッパ」に対する多面的な理解が可能になる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	「ヨーロッパ」の境界はどこか	・地理的ヨーロッパ ・言語的ヨーロッパ ・宗教的ヨーロッパ ・民族的ヨーロッパ ・文化的ヨーロッパ	「ヨーロッパ世界」に含まれると思う国々を列挙し、その根拠を示す。
2	EU のあゆみ	・EU 誕生までの歴史 ・イギリスの EU 離脱がもたらした波紋	第二次世界大戦の終了から EU 誕生までの歴史を年表化する。
3	ＥＵの成り立ち	・従来の超国家連合との違い ・欧州議会が抱える問題	ＥＵの行政機構とその役割について調べてくる。
4	ＥＵに入らない国・入れない国	・永世中立国スイスとＥＵ ・トルコの加盟問題 ～非ヨーロッパ世界との防波堤～	トルコの加盟問題を、トルコ側、ＥＵ側双方から考察する。
5	「ヨーロッパの創造」	・欧州市民権の付与 ・国境をこえるヒト・モノ・カネ	欧州市民権の付与をめぐる問題を授業の内容に即してまとめる。
6	欧州共通教科書をめぐる問題	共通の「神話」？「記憶」？ ～「ヨーロッパ人」はいかにして創られるか～	ＥＵ加盟国間で歴史解釈が異なる例を一つ挙げ、「欧州共通教科書」がそれにどう対処したのかじっさいの記述をもとにまとめる。
7	「国境なきヨーロッパ」の虚実	制度上の壁 ～国籍取得と選挙権の付与～	国籍取得法を大きく二つに分類し、それぞれの特性を整理する。
8	「一つのヨーロッパ」が抱える問題	・排外主義の台頭 ～極右勢力とＥＵ～ ・中間テストの実施	・これまでの授業内容をふりかえる。 ・極右勢力の台頭に注目しながら、ＥＵ加盟国の政治状況を調べてくる。
9	新たな衝突 ～定住移民をめぐる問題①～	・「外国人労働者」という名の定住移民 ～ドイツにおけるトルコ人移民問題～ ・中間テストの解説	ＥＵ加盟国が抱える移民問題の全体像を調べてくる。
10	新たな衝突 ～定住移民をめぐる問題②～	フランスにおける移民問題 ～移民２世の社会統合をめぐって～	フランスにおける移民問題の特徴（他の国と違う点）についてまとめる。
11	映画『憎しみ』にみる移民問題	移民社会と暴力	映画の解釈をレポートとしてまとめる。
12	ＥＵと「地域」 ～国家の周辺地域からＥＵの中心地域へ～	・アルザスの可能性 ・スコットランド独立の「失敗」	スコットランド独立騒動の経緯について調べ、「独立失敗」の原因について考えてくる。
13	国境をこえるさまざまな試み	・ＥＵと脱ナショナル化 ・留学と言語教育の可能性	EU の言語教育、留学制度について調べてくる。
14	ボーダレス社会の到来	広域経済圏・多国籍企業・ＮＧＯ	国を越えた経済的、政治的、文化的パートナーシップのありかたについて自分の考えをまとめる。
15	まとめ	小テストの実施と解説	これまでの授業内容を復習しておく。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	第 15 回目に実施する小テスト（80%）、中間テスト（10%）、提出物（10%）の結果を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	歴史学とは過去に起こった事件の年号や偉人の名前を暗記する学問ではありません。過去の出来事を通して、現代社会や未来についての思考力を養うためのものです。積極的に関連文献を読み、講義内容を批判的に摂取するよう心がけてください。
担当者の研究室等	7 号館 4 階　林田研究室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間。 中間テストに関するフィードバックは第 9 回目、小テストに関するフィードバックは第 15 回目のなかで実施する。

科目名	エリアスタディーズ（ラテンアメリカ）	科目名（英文）	Area Studies (Latin America)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	北條　ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	ラテンアメリカは、古来先住民の文化的伝統を有しながらも、15 世紀末以降のヨーロッパによる征服と植民地支配を 3 世紀間以上にわたって経験した地域です。その後 19 世紀初頭にアジアやアフリカ諸国に比べてより早く植民地支配からの独立を遂げたこの地域がたどった歴史的独自性を知るだけではなく、隣接する北米のアングロアメリカとの歴史的関係と今後の共存のゆくえや日本とのより深い関係構築について展望できるようになることをめざします。同時に、6 つのサブ・リージョンに分け、視聴覚教材を適宜用いることで具体像を持てるよう、各回の授業テーマの中に織り込みます。 地理的に日本からは遠隔地に位置していますが、ラテンアメリカ諸国と日本との関係はますます緊密化しており、親日的な国々と人々のことをもっと知りましょう。ラテンアメリカで最も広く使われている言語はスペイン語です。
到達目標	広大なラテンアメリカという地域は、北米大陸から南米大陸にかけて、カリブ海地域を含めた 33 ヶ国から構成されています。この地域を多角的な視野から学際的かつ総合的に学ぶことで、異文化理解を深める一助となります。
授業方法と留意点	教材は授業で配布します。 毎回、質問票を書き提出してもらい、次の授業で解説を行います。
科目学習の効果（資格）	日本ではあまり知られていないラテンアメリカという地域の持つ固有の文化に親しむことで、グローバル社会の中で複眼的思考のできる観点を養う。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ラテンアメリカの地理（1）	地域名称の由来 域内諸国の名称と位置の学習	地域を構成する 33 ヶ国・13 非独立領を地図上で確認する
2	ラテンアメリカの地理（2）	地域の歴史的概要 産業と特産品	基礎統計資料一覧を読み解く ラテンアメリカ原産作物と資源について調べる
3	ラテンアメリカの地理（3）	世界文化遺産を通して見る多民族・多文化社会	ラテンアメリカの世界遺産について調べる
4	ラテンアメリカの歴史（1）	先住民古代文明	マヤ、アステカ、インカ文明のいずれかについて調べる
5	ラテンアメリカの歴史（2）	征服と植民地支配	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
6	ラテンアメリカの歴史（3）	独立とその後の近代化と従属化	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
7	ラテンアメリカの歴史（4）	20 世紀の革命と民主化過程	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
8	ラテンアメリカの文化（1）	美術・音楽	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
9	ラテンアメリカの文化（2）	文学・映画	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
10	ラテンアメリカの文化（3）	食文化	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
11	ラテンアメリカの社会	階層社会の構造、民族文化と国民社会	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
12	ラテンアメリカの政治経済	政治体制の変遷 ラテンアメリカ経済の歴史的変容、現状と課題、地域統合	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
13	現代世界の中のラテンアメリカ	国際政治・経済の中のラテンアメリカの位置づけ	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
14	ラテンアメリカと日本の関係	移住と日系社会、政治・外交関係におけるラテンアメリカと日本	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
15	総括	達成度確認テスト	総復習

関連科目	1 年次前期の「スペイン語圏概論」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内容に関する質問票、与えられたテーマに対する小論文等　５０％、達成度確認テストおよびレポート　５０％により総合的に評価する。
学生へのメッセージ	日本から遠く離れた地域ですが、不思議な魅力にあふれる混沌とした世界です。そこへと分け入ることで、自分自身のこれまでのものの見方を相対化するきっかけとなるでしょう。
担当者の研究室等	７号館５階 北條研究室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。

科目名	オーラル　コミュニケーションⅠa	科目名（英文）	Oral Communication Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	アレン　ニール
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
到達目標	身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・2年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introductions	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
2	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
3	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
4	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
5	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
6	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
7	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
8	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
9	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
10	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
11	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
12	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
13	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
14	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
15	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	

関連科目：スピーキング＆ライティング IIa, IIb

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Teacher Worksheets		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、発話活動等）　85% 共通課題　15%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	オーラル　コミュニケーションⅠb	科目名（英文）	Oral Communication Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	アレン　ニール
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
到達目標	身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・２年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Review Summer Plans	Pronunciation and comprehension practice, writing	Take home worksheets
2	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
3	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
4	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
5	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
6	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
7	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
8	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
9	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
10	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
11	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
12	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
13	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
14	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
15	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Hand in extra reports, if needed

関連科目：スピーキング＆ライティング IIa, IIb

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Teacher Worksheets		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、発話活動等）　85% 共通課題　15%
学生へのメッセージ	In this class, we will look for new discoveries in terms of words and grammar in style that is familiar with English. We will think about and write down English sentences about familiar themes. I hope that you will actively work together with teams. このクラスでは、英語に精通したスタイルの単語や文法の新しい発見を探します。 私たちは身近なテーマについて考え、英語の文章を書き留めます。 私はあなたが積極的にチームと一緒に働くことを願っています。
担当者の研究室等	非常勤講師室（７号館２階） Part time teacher room (Building No. 7, 2nd floor)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	オーラル　コミュニケーションⅡａ	科目名（英文）	Oral Communication IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ｽﾃｨｰﾌﾞ ﾄﾏｼｪﾌｽｷｰ
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	In this course the students will participate in exercises to improve the oral and aural competency of material already familiar to them. In addition advanced communicative tasks using grammar that may be unfamiliar will be introduced. This will be achieved through use of materials and activities that focus on the successful completion of communicative functions . Students will be expected to give oral presentations to small groups, exchange information with single partners, and perform reading and research activities designed to reinforce information dealt with in the class.
到達目標	Students will be able to express their needs smoothly in an English speaking environment.
授業方法と留意点	20% of the grade will be based upon the successful preparation for the class, 20% will be for active participation and involvement in the class and 60% will be based on the multiple presentations students will be expected to give in the class.
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Self introduction, checking information	Wh-questions, statements with be	Students should have prepared a self-protrait photograph 30mm. wide X 35mm. high
2	Asking about someone;exchanging personal information	Yes /no questions,short answers w/ be;	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous lesson before they come to class.
3	Describing work & school	Simple present Wh-questions and statements	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous lesson before they come to class.
4	Asking for and giving opinions; talking about daily schedules Review Quiz- Short Presentation / Discussion	time expressions; at, in, on, around, until, etc. Short presentation about daily life	Students should review the vocabulary and homework tasks of the 3 previous lessons before they come to class.
5	Talking about prices; giving opinions,preferences	Demonstratives; This , that, these, etc.	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous lesson before they come to class.
6	Comparisons; buying/ selling	Questions; How much, which adjective comparisons	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous lesson before they come to class.
7	Review quiz- Short Presentation Likes and dislikes	Simple present Yes / no, Wh questions	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous lesson before they come to class.
8	Giving opinions, invitations, excuses Review Quiz- Short Presentation / Discussion	Wh questions with do, what kind ; object pronouns; modal verb would Short role-play concerning an invitation and opinions of entertainment	Students should review the vocabulary and homework tasks of the 3 previous lessons before they come to class.
9	Family information	Present continuous yes /no and Wh-questions	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous lesson before they come to class.
10	Exchanging information about the present	Wh-questions /statements-short answers;determiners; all, nearly all, most, many, etc.	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous lesson before they come to class.
11	Describing routines & exercise	Adverbs of frequency; always, almost, usually, etc.	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous lesson before they come to class.
12	Describing frequency of activity, ability Review Quiz- Short Presentation / Discussion	Questions with How; How long, How often, etc. Short discourse concerning personal daily schedules	Students should review the vocabulary and homework tasks of the 3 previous lessons before they come to class.
13	Discussing past events	Past tense yes / no, Wh-questions	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous lesson before they come to class.
14	Discussing past experiences	Statements w/ short answers and regular and irregular verbs	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous lesson before they come to class.
15	Review Quiz- Short Presentation / Discussion	Asking about and describing locations.Use of There; There is, There are, etc. Short discourse concerning locations and places of interest	Students should review the vocabulary and homework tasks of the 2 previous lessons before they come to class.

関連科目　なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Interchange -Full Contact - Fourth Edition (Includes Text, Workbook & Video Exercises in one large book	Jack C. Richards	Cambridge
2			
3			

<table>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>An English to English Dictionary</td><td></td><td>Oxford, Cambridge or other respected publisher</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>20% of the grade will be based upon the successful preparation for the class, 20% will be for active participation and involvement in the class and 60% will be based on the multiple presentations and discussions students will be expected to execute in the class.</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>It is my hope that all of the students in this class will seriously work to improve their communication skills in English. I ask that students try to make their best efforts in completing and discussing the tasks assigned in this class. It will also be necessary for students to have access to a computer in which they can upload the Video and other DVD-ROM self-study materials that will be used in this course.</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7号館2階(非常勤講師室)</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。</td></tr>
</table>

科目名	オーラル　コミュニケーションⅡａ	科目名（英文）	Oral Communication IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	２
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	曽我　直隆
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	①　「聞く」「話す」力を伸ばすための様々な訓練を、ゲームを通して楽しく行う。 ②　短い英語プレゼンテーションを行う。
到達目標	①　複雑な内容でも、簡単な表現を組み合わせて表現できるようになる。 ②　自分とは異なる他者の話を聞き、自分の考えを深め、それを主張できるようになる。
授業方法と留意点	①　毎回、簡単なゲームを行う。ゲーム中に出てくる事柄を英語でどう表現したらよいか、皆で考える。複雑な内容を難しい語句を使って直訳しようと（して挫折）するのではなく、短く簡単な語句を組み合わせて表現する工夫の仕方を身につける。 ②　学期末に短いプレゼンテーションを行い、互いに講評しあう。
科目学習の効果（資格）	直訳思考から脱し、「言いたいこと」をおおまかに伝えられる力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・　授業概要の説明 ・　自己紹介 ・　実力チェック	個人･ペア･グループワークなど	授業内で指示
2	アイディアをすぐ口にする訓練	個人･ペア･グループワークなど	授業内で指示
3	アイディアをすぐ口にする訓練	個人･ペア･グループワークなど	授業内で指示
4	アイディアをすぐ口にする訓練	個人･ペア･グループワークなど	授業内で指示
5	難しい内容を簡単に表現する訓練	個人･ペア･グループワークなど	授業内で指示
6	難しい内容を簡単に表現する訓練	個人･ペア･グループワークなど	授業内で指示
7	難しい内容を簡単に表現する訓練	個人･ペア･グループワークなど	授業内で指示
8	プレゼンテーション準備	模範プレゼンを観る プレゼンの頻出語句を学ぶ	授業内で指示
9	プレゼンテーション準備	プレゼンの身体表現法を学ぶ	授業内で指示
10	プレゼンテーション準備	プレゼンの構成法を学ぶ トピックを決める	授業内で指示
11	プレゼンテーション準備	草稿を書く	授業内で指示
12	プレゼンテーション準備	原稿を仕上げる	授業内で指示
13	プレゼンテーション準備	音声訓練	授業内で指示
14	プレゼンテーション準備	音声訓練	授業内で指示
15	プレゼンテーション	プレゼンテーションを行い、互いに講評しあう。	授業内で指示

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内外での課題（宿題）　50% プレゼンテーション　50%
学生へのメッセージ	皆さんには、在学中にひとりで外国を旅してくることを勧めます。 旅行会社のツアーではなく、すべて自分で計画して手配する個人旅行です。 若者の旅行者が集まる安宿が、どこの国にもあります。 そこに泊まって、いろいろな国の人と話をしてみましょう。 今のあなたの英語力でも大丈夫。 インド英語、中国英語、ヒスパニック英語…　いろいろな英語に触れれば、自分のジャパニーズ イングリッシュでも臆せず使えるようになります。 海外一人旅は、自分のことや日本のことを見つめ直す機会にもなるでしょう。 帰国する頃には、ひとまわり大きくなった自分に気づくかもしれません。 時間と体力と柔軟な心のある学生時代こそ、旅をする絶好のチャンスです。 お金もそんなに要りません。アルバイトで十分貯められます。 自分の英語が通じるか心配？　大丈夫、なんとかなります。この授業をぜひ役立ててください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師控室
備考	

科目名	オーラル　コミュニケーションⅡｂ	科目名（英文）	Oral Communication IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ｽﾃｨｰﾌﾞ ﾄﾏｼｪﾌｽｷｰ
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	In this course the students will participate in exercises to improve the oral and aural competency of material already familiar to them. In addition advanced communicative tasks using grammar that may be unfamiliar will be introduced. This will be achieved through use of materials and activities that focus on the successful completion of communicative functions . Students will be expected to give oral presentations to small groups, exchange information with single partners, and perform reading and research activities designed to reinforce information dealt with in the class.
到達目標	Students will be able to express their needs smoothly in an English speaking environment.
授業方法と留意点	20% of the grade will be based upon the successful preparation for the class, 20% will be for active participation and involvement in the class and 60% will be based on the multiple presentations students will be expected to give in the class.
科目学習の効果（資格）	・・・

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Describing places	quantities prepositions of place, How-questions countable-uncountable nouns	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous lesson before they come to class.
2	Asking about and describing appearance	Questions about physical features What.....look like, how old etc.	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous lesson before they come to class.
3	Describing past experiences;	Present perfect yes/no questions,statements	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous lesson before they come to class.
4	Exchanging information about past experiences and events. Short discourse & Progress Evaluation	Regular and irregular past participles, already and yet	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous 3 lessons before they come to class.
5	Describing cities,asking/giving suggestions, discussing tourism	Adverbs/ adjectives; conjunctions conjunctions	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous lesson before they come to class.
6	Discussing health problems	infinitive complements, modal verbs can, could and may for requests	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous lesson before they come to class.
7	Expressing likes / dislikes ordering a meal	So, neither, too, and either; modal verbs would and will for requests	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous lesson before they come to class.
8	Describing countries, comparing Short discourse & Progress Evaluation	Comparative and superlative of adjectives	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous 3 lessons before they come to class.
9	Describing countries, expressing opinions	Questions w/ How. How big, How tall discussing distance and measurements	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous lesson before they come to class.
10	Short Presentation- A Country Profile	Self Evident	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous lesson before they come to class.
11	Discussing plans, invitations, refusals	Future with present continuous and be going to	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous lesson before they come to class.
12	Telephone messages Short discourse & Progress Evaluation	messages with tell and ask	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous 3 lessons before they come to class.
13	Exchanging Personal Information	Describing changes with present tense and comparatives	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous lesson before they come to class.
14	Future Plans	Discuss hopes and future activities	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous lesson before they come to class.
15	Short Presentation- Future Hopes Short discourse & Progress Evaluation	Self Evident	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous 2 lessons before they come to class.

関連科目　・・・

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Interchange Full Contact - Fourth Edition (Text, Workbook & Video exercises included in a single large text	Jack C. Richards	Cambridge
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	English to English Dictionary		Oxford, Cambridge or other respected publisher
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Grades will be based on student preparation, in-class performance and short speaking quizzes given periodically during the course.
学生への メッセージ	It is my hope that all of the students in this class will seriously work to improve their communication skills in English. I ask that students try to make their best efforts in completing and discussing the tasks assigned in this class. It will also be necessary for students to have access to a computer in which they can upload the Video and other DVD-ROM self-study materials that will be used in this course.
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	オーラル　コミュニケーションⅡｂ	科目名（英文）	Oral Communication IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	２
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	曽我　直隆
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	①　「聞く」「話す」力を伸ばすための様々な訓練を、ゲームを通して楽しく行う。 ②　英語プレゼンテーションを行う。
到達目標	①　複雑な内容でも、簡単な表現を組み合わせて表現できるようになる。 ②　自分とは異なる他者の話を聞き、自分の考えを深め、それを主張できるようになる。
授業方法と留意点	①　毎回、簡単なゲームを行う。ゲーム中に出てくる事柄を英語でどう表現したらよいか、皆で考える。複雑な内容を難しい語句を使って直訳しようと（して挫折）するのではなく、短く簡単な語句を組み合わせて表現する工夫の仕方を身につける。 ②　学期末にプレゼンテーションを行い、互いに講評しあう。
科目学習の効果（資格）	直訳思考から脱し、「言いたいこと」をおおまかに伝えられる力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・　授業概要の説明 ・　自己紹介 ・　実力チェック	個人･ペア･グループワークなど	授業内で指示
2	アイディアをすぐ口にする訓練	個人･ペア･グループワークなど	授業内で指示
3	アイディアをすぐ口にする訓練	個人･ペア･グループワークなど	授業内で指示
4	難しい内容を簡単に表現する訓練	個人･ペア･グループワークなど	授業内で指示
5	難しい内容を簡単に表現する訓練	個人･ペア･グループワークなど	授業内で指示
6	プレゼンテーション準備	模範プレゼンを観る プレゼンの頻出語句を学ぶ	授業内で指示
7	プレゼンテーション準備	プレゼンの身体表現法を学ぶ	授業内で指示
8	プレゼンテーション準備	プレゼンの構成法を学ぶ トピックを決める	授業内で指示
9	プレゼンテーション準備	草稿を書く	授業内で指示
10	プレゼンテーション準備	草稿を書く	授業内で指示
11	プレゼンテーション準備	草稿を書く	授業内で指示
12	プレゼンテーション準備	原稿を仕上げる	授業内で指示
13	プレゼンテーション準備	音声訓練	授業内で指示
14	プレゼンテーション準備	音声訓練	授業内で指示
15	プレゼンテーション	プレゼンテーションを行い、互いに講評しあう。	授業内で指示

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内外での課題（宿題）　50% プレゼンテーション　50%
学生へのメッセージ	皆さんには、在学中にひとりで外国を旅してくることを勧めます。 旅行会社のツアーではなく、すべて自分で計画して手配する個人旅行です。 若者の旅行者が集まる安宿が、どこの国にもあります。 そこに泊まって、いろいろな国の人と話をしてみましょう。 今のあなたの英語力でも大丈夫。 インド英語、中国英語、ヒスパニック英語…　いろいろな英語に触れれば、自分のジャパニーズ イングリッシュでも臆せず使えるようになります。 海外一人旅は、自分のことや日本のことを見つめ直す機会にもなるでしょう。 帰国する頃には、ひとまわり大きくなった自分に気づくかもしれません。 時間と体力と柔軟な心のある学生時代こそ、旅をする絶好のチャンスです。 お金もそんなに要りません。アルバイトで十分貯められます。 自分の英語が通じるか心配？　大丈夫、なんとかなります。この授業をぜひ役立ててください。
担当者の研究室等	7号館2階　非常勤講師控室
備考	

科目名	音声学	科目名（英文）	Phonetics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中島　直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2△		

授業概要・目的	・日本語や英語の事例を中心に、その音声（音韻）現象にみられる規則性や一般性について、科学的に考察していきます。 ・(調音）音声学に関する基本的な知識を習得することや、日本語や英語における音声の特徴（または音韻体系）を理解することを授業目的とします。
到達目標	音声学の基本となる発音記号の習得と、音声（音韻）に関する現象（データ）から規則性や一般性を導き出す科学的な研究の手法を理解することを目標とします。
授業方法と留意点	・講義が中心となりますが、演習（グループワーク）も織り交ぜながら行います。 ・(電子）辞書を必ず持参すること。 ・難易度の高い科目ですので、特に復習に力を入れることをお勧めします。
科目学習の効果（資格）	語学検定試験のリスニング対策など。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 音声学とは	授業の目的や方法、(調音）音声学とは何かについて説明する。	授業の内容について確認する。
2	母音と子音 有声音と無声音	音声学の基礎となる母音と子音、有声音と無声音の違いについて具体例とともに学ぶ。	音声学に関する基本的概念を確認する。
3	音声学の観点から日本語を観察する	西日本と東日本など、方言によって異なる日本語の現象などを音声学的に考察する。	授業内容に沿ったレポートを課すので、それに取り組む。
4	音連続による変化 ― 同化、脱落、連結などの現象について	同化、連結、脱落などの音変化について、英語の例を中心に具体的に考察する。	授業内容に沿ったレポートを課すので、それに取り組む。
5	日英語のアクセント（１）―音節とモーラ	音節とモーラの概念とその構造の観点から、アクセント（強勢）のメカニズムについて、日英語の例を用いて考察する。	授業内容に沿ったレポートを課すので、それに取り組む。
6	日英語のアクセント（２）―複合語と名詞句、動名詞と分詞	複合語と名詞句、動名詞と分詞の違いになどについて、アクセント（強勢）の観点から、日英語の例とともに考察する。	授業内容に沿ったレポートを課すので、それに取り組む。
7	音声学と言語学	語形成を中心とした言語学（形態論）の現象に着目し、音声学（音韻論）の観点からその特徴や制約などについて考察する。	授業内容に沿ったレポートを課すので、それに取り組む。
8	音素と異音について	特に音韻論において重要な概念である音素と異音の違いについて、日英語の例に基づいて考察する。	授業内容に沿ったレポートを課すので、それに取り組む。
9	音声学と文法の接点	内容語と機能語の違いや、機能語における強形と弱形の区別などについて、英語の例を中心に考察する。	授業で扱った内容について、具体例とともに、要点を整理する。
10	リズムとイントネーション	リズムとイントネーションについて日本語や英語の違いに注目しながら考察する。	授業で扱った内容について、具体例とともに、要点を整理する。
11	英語の母音について　（１）	英語の母音について、日本語と比較しながら、発音記号とともに体系的に学ぶ。	授業で扱った内容について、具体例とともに、要点を整理する。
12	英語の母音について　（２）	英語の母音について、日本語と比較しながら、発音記号とともに体系的に学ぶ。	授業で扱った内容について、具体例とともに、要点を整理する。
13	英語の子音について　（１）	英語の子音について、日本語と比較しながら、発音記号とともに体系的に学ぶ。	授業で扱った内容について、具体例とともに、要点を整理する。
14	英語の子音について　（２）	英語の子音について、日本語と比較しながら、発音記号とともに体系的に学ぶ。	授業で扱った内容について、具体例とともに、要点を整理する。
15	まとめ	・学習した内容の要点を整理する。 ・レポートの講評を行う。	これまでの授業で扱った内容について要点を整理しながら、定期試験の対策を行う。

関連科目：他の語学科目など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	(必要に応じてプリントを使用します)		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	(必要に応じて指示します)		

評価方法（基準）	期末（定期）試験（６０％）、レポート（４０％）の成績を合わせて評価します。
学生へのメッセージ	難易度の高い科目ですので、まずはしっかりとしたやる気が必要です。 知的好奇心を持った学生の受講を期待しています。
担当者の研究室等	７号館４階　(中島研究室)
備考	事前・事後学習の総時間数は、３０時間程度を目安としてください。

科目名	海外インターンシップ	科目名（英文）	Overseas Internship
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	杉浦　秀行
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP5△		

授業概要・目的	外国語学部では、次代の国際ビジネスで活躍する人材の育成を目指している。このプログラムでは、将来、語学力を生かして国際ビジネスに携わることを目標とする学生が、海外企業の現場を視察したり、実際に就業体験することによって、ビジネスで実際に使われている言葉遣い・マナーを学ぶとともに、そこで働く人たちの現状・意識を正しく認識することを目的としている。同時に、日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、それらを尊重できる態度を身に付けるとともに、自分の考えを明確に表現し、コミュニケーション能力を向上させることを目的とする。 なお、この科目は、パッケージプログラム実習・演習科目の一つである。
到達目標	(1) 海外インターンシップの体験を通して、海外で働くためにはどのような能力や知識が必要なのかを理解する。 (2) 日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、それを仕事に応用できるような力を身につける。 (3) 仕事の現場で必要とされる語学力を用いて、自分の考えを明確に表現し、他者とコミュニケーションできる基礎が身につく。 (4) インターンシップの現場で体験したことを自らの言葉で人に語れるようになる。 (5) 仕事に対する興味・関心が高まる
授業方法と留意点	海外インターンシップは、本学内での事前・事後授業と実習先での研修、事後報告会からなっている。すべてに必ず出席すること。摂南大学のみならず、日本の代表として海外で働いているという自覚を常に持つこと。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【2017 年度予定】 本海外インターンシップは、日本国内とグアムにて旅行業務に携わる。特に、旅行業界や観光業に興味のある学生にとっては有意義な体験ができるであろう。 ＜グアム・インターンシッププログラム＞ 日程： 2018 年 2 月 19 日（月）～2018 年 3 月 4 日（日） 内容： 2 月 19 日（月）～2 月 23 日（金）　近畿日本ツーリスト関西国際交流センター内にて国内インターンシップ 2 月 25 日（日）～3 月 4 日（日）　グアムの近畿日本ツーリスト支店にてインターンシップ 上記に加えて、事前授業や事後報告会など なお、詳しい内容を含め、参加費用などの情報は、後日説明会にて伝える。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	事前・事後授業、研修の取り組み：50% レポート：50%
学生へのメッセージ	将来、海外を生活の拠点に働いてみたいと考えている人も、まだ漠然としかイメージできない人も、国際ビジネスの現場の雰囲気を直に体感してもらいたい。そうすれば、海外で実際に働くうえで、今の自分に何が足りないのかを発見できるし、就職活動を開始するまでに対策を講じることができるだろう。
担当者の研究室等	7 号館 5 階　杉浦研究室
備考	定員は 10 名となっている。エントリー方法については、説明会にて詳細を説明する。

科目名	海外実習	科目名（英文）	Overseas Studies Programs
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉村　征洋
ディプロマポリシー(DP)	DP2○,DP5△,DP7○,DP8○		

授業概要・目的	外国語学部では、世界の中の日本を理解し、国際的な立場で活躍する人材の育成という教育理念を実行に移す最も有効な手段の一つとして、海外実習を実施している。実習先大学において独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言語表現を学び、語学力に磨きをかけることを目的としている。
到達目標	日本と実習先の国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付ける。同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。
授業方法と留意点	・本学内での事前授業と、実習先での研修（約３週間）によって構成される（※スペイン語コースは、春季　（２月初旬～３月初旬で４週間余りとなる）の実施となる予定）。 ・事前指導には必ず出席すること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	（１）事前授業 本学内での事前授業は７回程度行う。渡航に必要な手続きや所持品、安全面を中心とした注意事項（リスクマネジメント）や実習先の国・地域の社会の予備知識などをテーマに説明すると同時に、コミュニケーションに不可欠な会話能力を高めるため、毎回いくつかの課題に取り組んでいく。 （２）海外実習 実用会話を中心に学習する。教室での授業の他に、さまざまな課外アクティビティがある。また、中国語コース以外のコースはホームステイするので、ホストファミリーとの交流もその国の文化・生活習慣を学ぶ上で貴重な機会となる。 【実習先と実習時期（予定）】 ・英語コース（オーストラリア・サザンクロス大学[コフスハーバー校]）　（８月中旬～９月初旬） ・中国語コース（中国・上海外国語大学）　（８月上旬～８月下旬） ・スペイン語コース（スペイン・バレンシア州立アリカンテ大学）　（２月初旬～３月初旬） ・インドネシア語コース（ストモ博士大学）　（８月中旬～９月初旬）
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
評価方法（基準）	事前授業、研修での現地講師による授業評価、全体の受講態度に基づき、担当教員が総合的に評価を行う。また、事前授業に欠席した者、受講態度・マナーの悪い者には、実習への参加および単位を認めないことがあるので、真剣に取り組むこと。 ※２０１５年度以降入学学生については、専門科目・パッケージプログラム科目の中の実習・演習科目として認定する。 ※２０１２～２０１４年度入学学生については、主言語科目と同一のコースに参加する場合は主言語科目として、共通言語科目のコースに参加する場合は専門科目として認定する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館３階　兪研究室（中国語コース）、吉村研究室（英語コース） ７号館４階　浦野研究室（インドネシア語コース） ７号館５階　北條研究室（スペイン語コース）
備考	（１）参加人数が少ない場合は実施を取り止めたり、引率者をつけずに実施することがある。必ず授業担当者の指示に従うとともに、より一層、学生本人の主体性と危機管理意識が求められる。 （２）英語コースは参加者が多く、団体行動に特に規律を求められることから、申請時に書類審査・面接を行い、志望動機や一般常識が著しく欠如している者には参加を認めない。 ※スペイン語圏への短期研修として、夏期休業中にメキシコ・グアナフアト大学研修があり、これは国際交流センターが主催しています。

科目名	海外実習	科目名（英文）	Overseas Studies Programs
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	兪　鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP5△, DP7○, DP8○		

授業概要・目的	外国語学部では、世界の中の日本を理解し、国際的な立場で活躍する人材の育成という教育理念を実行に移す最も有効な手段の一つとして、海外実習を実施している。実習先大学において独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言語表現を学び、語学力に磨きをかけることを目的としている。
到達目標	日本と実習先の国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付ける。同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。
授業方法と留意点	・本学内での事前授業と、実習先での研修（約３週間）によって構成される（※スペイン語コースは、春季　（２月初旬～３月初旬で４週間余りとなる）の実施となる予定）。 ・事前指導には必ず出席すること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	（１）事前授業 本学内での事前授業は７回程度行う。渡航に必要な手続きや所持品、安全面を中心とした注意事項（リスクマネジメント）や実習先の国・地域の社会の予備知識などをテーマに説明すると同時に、コミュニケーションに不可欠な会話能力を高めるため、毎回いくつかの課題に取り組んでいく。 （２）海外実習 実用会話を中心に学習する。教室での授業の他に、さまざまな課外アクティビティがある。また、中国語コース以外のコースはホームステイするので、ホストファミリーとの交流もその国の文化・生活習慣を学ぶ上で貴重な機会となる。 【実習先と実習時期（予定）】 ・英語コース（オーストラリア・サザンクロス大学[コフスハーバー校]）　（８月中旬～９月初旬） ・中国語コース（中国・上海外国語大学）　（８月上旬～８月下旬） ・スペイン語コース（スペイン・バレンシア州立アリカンテ大学）　（２月初旬～３月初旬） ・インドネシア語コース（ストモ博士大学）　（８月中旬～９月初旬）
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
評価方法（基準）	事前授業、研修での現地講師による授業評価、全体の受講態度に基づき、担当教員が総合的に評価を行う。また、事前授業に欠席した者、受講態度・マナーの悪い者には、実習への参加および単位を認めないことがあるので、真剣に取り組むこと。 ※２０１５年度以降入学学生については、専門科目・パッケージプログラム科目の中の実習・演習科目として認定する。 ※２０１２～２０１４年度入学学生については、主言語科目と同一のコースに参加する場合は主言語科目として、共通言語科目のコースに参加する場合は専門科目として認定する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館３階　兪研究室（中国語コース）、吉村研究室（英語コース） ７号館４階　浦野研究室（インドネシア語コース） ７号館５階　北條研究室（スペイン語コース）
備考	（１）参加人数が少ない場合は実施を取り止めたり、引率者をつけずに実施することがある。必ず授業担当者の指示に従うとともに、より一層、学生本人の主体性と危機管理意識が求められる。 （２）英語コースは参加者が多く、団体行動に特に規律を求められることから、申請時に書類審査・面接を行い、志望動機や一般常識が著しく欠如している者には参加を認めない。 ※スペイン語圏への短期研修として、夏期休業中にメキシコ・グアナフアト大学研修があり、これは国際交流センターが主催しています。

科目名	海外実習	科目名（英文）	Overseas Studies Programs
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	
学期	通年集中	授業担当者	篠原　愛人
ディプロマポリシー(DP)	DP2○,DP5△,DP7○,DP8○		

授業概要・目的	外国語学部では、世界の中の日本を理解し、国際的な立場で活躍する人材の育成という教育理念を実行に移す最も有効な手段の一つとして、海外実習を実施している。実習先大学において独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言語表現を学び、語学力に磨きをかけることを目的としている。
到達目標	日本と実習先の国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付ける。同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。
授業方法と留意点	・本学内での事前授業と、実習先での研修（約３週間）によって構成される（※スペイン語コースは、春季　（２月初旬～３月初旬で４週間余りとなる）の実施となる予定）。 ・事前指導には必ず出席すること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	（１）事前授業 本学内での事前授業は７回程度行う。渡航に必要な手続きや所持品、安全面を中心とした注意事項（リスクマネジメント）や実習先の国・地域の社会の予備知識などをテーマに説明すると同時に、コミュニケーションに不可欠な会話能力を高めるため、毎回いくつかの課題に取り組んでいく。 （２）海外実習 実用会話を中心に学習する。教室での授業の他に、さまざまな課外アクティビティがある。また、中国語コース以外のコースはホームステイするので、ホストファミリーとの交流もその国の文化・生活習慣を学ぶ上で貴重な機会となる。 【実習先と実習時期（予定）】 ・英語コース（オーストラリア・サザンクロス大学[コフスハーバー校]）　（８月中旬～９月初旬） ・中国語コース（中国・上海外国語大学）　（８月上旬～８月下旬） ・スペイン語コース（スペイン・バレンシア州立アリカンテ大学）　（２月初旬～３月初旬） ・インドネシア語コース（ストモ博士大学）　（８月中旬～９月初旬）
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
評価方法（基準）	事前授業、研修での現地講師による授業評価、全体の受講態度に基づき、担当教員が総合的に評価を行う。また、事前授業に欠席した者、受講態度・マナーの悪い者には、実習への参加および単位を認めないことがあるので、真剣に取り組むこと。 ※２０１５年度以降入学学生については、専門科目・パッケージプログラム科目の中の実習・演習科目として認定する。 ※２０１２～２０１４年度入学学生については、主言語科目と同一のコースに参加する場合は主言語科目として、共通言語科目のコースに参加する場合は専門科目として認定する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館３階　兪研究室（中国語コース）、吉村研究室（英語コース） ７号館４階　浦野研究室（インドネシア語コース） ７号館５階　北條研究室（スペイン語コース）
備考	（１）参加人数が少ない場合は実施を取り止めたり、引率者をつけずに実施することがある。必ず授業担当者の指示に従うとともに、より一層、学生本人の主体性と危機管理意識が求められる。 （２）英語コースは参加者が多く、団体行動に特に規律を求められることから、申請時に書類審査・面接を行い、志望動機や一般常識が著しく欠如している者には参加を認めない。 ※スペイン語圏への短期研修として、夏期休業中にメキシコ・グアナフアト大学研修があり、これは国際交流センターが主催しています。

科目名	海外実習	科目名（英文）	Overseas Studies Programs
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	北條　ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP5△, DP7○, DP8○		

授業概要・目的	外国語学部では、世界の中の日本を理解し、国際的な立場で活躍する人材の育成という教育理念を実行に移す最も有効な手段の一つとして、海外実習を実施している。実習先大学において独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言語表現を学び、語学力に磨きをかけることを目的としている。
到達目標	日本と実習先の国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付ける。同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。
授業方法と留意点	・本学内での事前授業と、実習先での研修（約３週間）によって構成される（※スペイン語コースは、春季　（２月初旬～３月初旬で４週間余りとなる）の実施となる予定）。 ・事前指導には必ず出席すること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	（１）事前授業 本学内での事前授業は７回程度行う。渡航に必要な手続きや所持品、安全面を中心とした注意事項（リスクマネジメント）や実習先の国・地域の社会の予備知識などをテーマに説明すると同時に、コミュニケーションに不可欠な会話能力を高めるため、毎回いくつかの課題に取り組んでいく。 （２）海外実習 実用会話を中心に学習する。教室での授業の他に、さまざまな課外アクティビティがある。また、中国語コース以外のコースはホームステイするので、ホストファミリーとの交流もその国の文化・生活習慣を学ぶ上で貴重な機会となる。 【実習先と実習時期（予定）】 ・英語コース（オーストラリア・サザンクロス大学[コフスハーバー校]）　（８月中旬～９月初旬） ・中国語コース（中国・上海外国語大学）　（８月上旬～８月下旬） ・スペイン語コース（スペイン・バレンシア州立アリカンテ大学）　（２月初旬～３月初旬） ・インドネシア語コース（ストモ博士大学）　（８月中旬～９月初旬）
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
評価方法（基準）	事前授業、研修での現地講師による授業評価、全体の受講態度に基づき、担当教員が総合的に評価を行う。また、事前授業に欠席した者、受講態度・マナーの悪い者には、実習への参加および単位を認めないことがあるので、真剣に取り組むこと。 ※２０１５年度以降入学学生については、専門科目・パッケージプログラム科目の中の実習・演習科目として認定する。 ※２０１２～２０１４年度入学学生については、主言語科目と同一のコースに参加する場合は主言語科目として、共通言語科目のコースに参加する場合は専門科目として認定する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館３階　兪研究室（中国語コース）、吉村研究室（英語コース） ７号館４階　浦野研究室（インドネシア語コース） ７号館５階　北條研究室（スペイン語コース）
備考	（１）参加人数が少ない場合は実施を取り止めたり、引率者をつけずに実施することがある。必ず授業担当者の指示に従うとともに、より一層、学生本人の主体性と危機管理意識が求められる。 （２）英語コースは参加者が多く、団体行動に特に規律を求められることから、申請時に書類審査・面接を行い、志望動機や一般常識が著しく欠如している者には参加を認めない。 ※スペイン語圏への短期研修として、夏期休業中にメキシコ・グアナフアト大学研修があり、これは国際交流センターが主催しています。

科目名	海外実習	科目名（英文）	Overseas Studies Programs
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	浦野　崇央
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP5△, DP7○, DP8○		

授業概要・目的	外国語学部では、世界の中の日本を理解し、国際的な立場で活躍する人材の育成という教育理念を実行に移す最も有効な手段の一つとして、海外実習を実施している。実習先大学において独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言語表現を学び、語学力に磨きをかけることを目的としている。
到達目標	日本と実習先の国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付ける。同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。
授業方法と留意点	・本学内での事前授業と、実習先での研修（約３週間）によって構成される（※スペイン語コースは、春季　（２月初旬～３月初旬で４週間余りとなる）の実施となる予定）。 ・事前指導には必ず出席すること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	（１）事前授業 本学内での事前授業は７回程度行う。渡航に必要な手続きや所持品、安全面を中心とした注意事項（リスクマネジメント）や実習先の国・地域の社会の予備知識などをテーマに説明すると同時に、コミュニケーションに不可欠な会話能力を高めるため、毎回いくつかの課題に取り組んでいく。 （２）海外実習 実用会話を中心に学習する。教室での授業の他に、さまざまな課外アクティビティがある。また、中国語コース以外のコースはホームステイするので、ホストファミリーとの交流もその国の文化・生活習慣を学ぶ上で貴重な機会となる。 【実習先と実習時期（予定）】 ・英語コース（オーストラリア・サザンクロス大学[コフスハーバー校]）　（８月中旬～９月初旬） ・中国語コース（中国・上海外国語大学）　（８月上旬～８月下旬） ・スペイン語コース（スペイン・バレンシア州立アリカンテ大学）　（２月初旬～３月初旬） ・インドネシア語コース（ストモ博士大学）　（８月中旬～９月初旬）
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
評価方法（基準）	事前授業、研修での現地講師による授業評価、全体の受講態度に基づき、担当教員が総合的に評価を行う。また、事前授業に欠席した者、受講態度・マナーの悪い者には、実習への参加および単位を認めないことがあるので、真剣に取り組むこと。 ※２０１５年度以降入学学生については、専門科目・パッケージプログラム科目の中の実習・演習科目として認定する。 ※２０１２～２０１４年度入学学生については、主言語科目と同一のコースに参加する場合は主言語科目として、共通言語科目のコースに参加する場合は専門科目として認定する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館３階　兪研究室（中国語コース）、吉村研究室（英語コース） ７号館４階　浦野研究室（インドネシア語コース） ７号館５階　北條研究室（スペイン語コース）
備考	（１）参加人数が少ない場合は実施を取り止めたり、引率者をつけずに実施することがある。必ず授業担当者の指示に従うとともに、より一層、学生本人の主体性と危機管理意識が求められる。 （２）英語コースは参加者が多く、団体行動に特に規律を求められることから、申請時に書類審査・面接を行い、志望動機や一般常識が著しく欠如している者には参加を認めない。 ※スペイン語圏への短期研修として、夏期休業中にメキシコ・グアナフアト大学研修があり、これは国際交流センターが主催しています。

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	杉浦　秀行
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2△,DP5○,DP6○,DP7△,DP8△		

授業概要・目的	オセアニア（オーストラリア・ニュージーランド）留学に向けて、学生個々人の留学目的やプラニングを明確にし、充実した留学生活が送れるように導く。また、この授業では、グループ活動を通じて、オセアニアの文化や生活習慣、海外生活における危機管理、異文化適応などについて理解を深めたり、海外生活に必要な英語についても学んでいく。
到達目標	・留学アクション・プランを策定すること ・海外で生活する上での危機管理について十分な知識を得ること ・渡航先の国の国民性や文化、生活習慣について知識を得ること ・渡航先で出会う人々に日本の文化について英語で説明するための基礎的な表現力を修得する
授業方法と留意点	・授業では、グループ活動（グループで授業内容の下調べ、グループ・ディスカッション、グループ・プレゼンテーション）への積極的な参加が多く求められます。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	1. 留学手続き① 2. 留学手続き② 3. 自己紹介、留学アクション・プランについて考える 4. 情報収集①、英文メールの書き方、サバイバル英語 5. 情報収集②、サバイバル英語 6. オーストラリア、ニュージーランドの文化 7. 情報収集③ 8. 情報収集④ 9. 英語で自分や日本について紹介する② 10. 留学手続き③ 11. 危機管理について① 12. 留学アクション・プラン発表会 13. 危機管理について② 14、15. 渡航直前オリエンテーション 授業方法：講義＋グループ活動（グループ・ディスカッション） 事前、事後学習課題：次の回の授業内容について、下調べを徹底する。また、12 回目の留学アクション・プランの発表に向けて、下調べや発表の準備をする
関連科目	エリアスタディーズ（オセアニア）
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	授業貢献度（グループ・ワーク、発表等）：40% 留学アクション・プランの内容：60%
学生へのメッセージ	素晴らしい留学生活が実現できるように、みんなでいっしょに準備しましょう！
担当者の研究室等	７号館５階　杉浦研究室
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	神崎　舞
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2△,DP5○,DP6○,DP7△,DP8△		

授業概要・目的	北米（アメリカ・カナダ）留学に必要な準備をすることが目的である。
到達目標	・現地での学習及び生活を円滑に行えるようになる。
授業方法と留意点	・15 回の授業への参加を必須とする。 ・留学手続きを行う。 ・留学先で役立つ表現等を学ぶ。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	１．ガイダンス：本講義の目的や方針などの確認 ２．留学先の一般情報 ３．経費・送金・換金方法 ４～５．入学手続など・各種提出書類 ６．出入国・渡航手続き ７．英文メールの書き方 ８．　サバイバル・イングリッシュ ９．留学先事情(1)：医療・衣食・交通・余暇 10．留学先事情(2)：医療・衣食・交通・余暇 11．日本の社会・文化の理解と伝え方 12．情報通信機器の活用法 13．安全対策 14．最終確認と総括 15．帰国者報告会・出発予定者との質疑応答
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	事前授業の参加度や受講態度：50% 提出書類作成を含めた課題：30% プレゼンテーション：20%
学生へのメッセージ	実り多い留学生活を送るための準備をしましょう。
担当者の研究室等	7 号館 5 階　神崎研究室
備考	プレゼンテーション終了後にフィードバックを行う。

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	家口　美智子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2△,DP5○,DP6○,DP7△,DP8△		

授業概要・目的	海外語学留学は、提携大学での授業を受けるとともに、海外での暮らしを通して、語学力や人間力に磨きをかけることを目的とします。日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付けることが重要です。実りの多い留学にするよう、海外生活を送るうえで知っておくべきことを把握し、現地の人々と意思疎通を図るコミュニケーション能力を少しでも育成しておきます。また、渡航までのスケジュールの確認や大学提出書類の作成など、留学のための準備を万全に整えます。
到達目標	自信をもって留学に臨めるようになる。
授業方法と留意点	主体的に授業に参加すること。些細なことでも、きちんとメモを取ること。遅刻や欠席をしないこと。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	１．ガイダンス：本講義の目的や方針などの確認 (Orientation and introduction) 留学準備の重要性について 各校担当教員（留学委員）への挨拶メール 日本語メールの基本的な書き方指導 英語で自己紹介（日本の授業における自己紹介でなく、海外で自己紹介する場面を想定） ２．経費・送金・換金方法 (How to make a remittance to overseas counties/Exchange rates) クレジット・カードの注意点 外国為替・為替レートについて ３～４．入学手続など・各種提出書類 (How to fill in English application forms) 入学書類の書き込み方を示す見本を参照しながら作成 ５．出入国・渡航手続き (Student's visa, airport and flight information) ６．英文メールの書き方 (How to write an e-mail in English) 英文メールの構成 ホームステイ先と海外大学担当者宛てに英文メールを作成 ８．サバイバル・イングリッシュ (Survival English) 関連書籍を参考に、空港や機内、ホストファミリーとの顔合わせ、ホストファミリーとのトラブル、病院、危機的状況等の場面を想定して、最低限必要な英語表現を指導 ９．研修先事情(1)：医療・衣食・交通・余暇 (Medical system, clothes and food, traffic system, and leisure) 学生による下調べ、口頭発表 10. 研修先事情(2)：医療・衣食・交通・余暇 (Medical system, clothes and food, traffic system, and leisure) 学生による下調べ、口頭発表 11. 日本の社会・文化の理解と伝え方 (How to explain the Japanese society and culture) 学生による下調べ・英語での口頭発表 ・自分について（家族や自分の経験、自分の出身地の特徴など）：モノや写真を用いて説明 ・日本社会・文化について：モノや写真を用いて説明 土産選びのポイント 12. 留学先で受ける可能性のあるテストについて (On TOEFL and IELTS) ?英語の様々なテストの種類について解説 13. 安全対策 (Measures of safety) 浅野先生によるビデオを用いた解説・保険会社からの説明 レポート提出 14. 最終確認と総括 (Summing up final check before departure) 留学先での目標、目標達成のための計画、その他やってみたいことなどについて英語で口頭発表 15. 帰国者報告会・出発予定者との質疑応答 (Question and Answer：Talk with returnees)
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	受講態度（50%）+課題（50%）
学生への メッセージ	海外留学にトラブルは付きものですが、この授業を受けることでそのリスクを軽減することができます。充実した留学生活を送れるように、真剣に取り組んでください。
担当者の 研究室等	7号館4F　家口研究室
備考	

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	鈴木　大介
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2△,DP5○,DP6○,DP7△,DP8△		

授業概要・目的	To prepare students for study overseas, giving them the opportunitiy to learn how to apply for an overseas program, obtain a visa, request a plane ticket, understand the responsibilities of going to another country, get to know what problems to expect, give them coping strategies, and help them to have the underlying language to deal with the issues that may arise, and the confidence to seek people out to ask for help.
到達目標	Students should upon completion of the course, be ready to leave for their overseas experience with knowledge to help them enjoy their experience safely.
授業方法と留意点	100% attendance is required. Students must attend EVERAY class in order to be able to go overseas. This is necessary to allow enough time to prepare applications, visas, airplane travel, and the knowledge of what to expect.
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	１．ガイダンス:本講義の目的や方針などの確認 (Orientation and introduction) 留学準備の重要性について 担当教員（留学委員）への挨拶メイル 日本語メールの基本的な書き方指導 英語で自己紹介（日本の授業における自己紹介ではなく、海外で自己紹介する場面を想定） ２．経費・送金・換金方法 (How to make a remittance to oversesas countries/Exchange rates) ３～４．　入学手続きなど、各種提出書類 (How to fill in English application forms) ５．出入国・渡航手続き (Student's visa, airport and flight information) ６．英文メールの書き方 (How to write an e-mail in English) 英文メールの構成 海外大学担当者あてに英文メールを作成 ７．サバイバル・イングリッシュ(Suvival English) 配布資料を参考に、空港や機内、寮の仲間との顔合わせ、寮の友人とのトラブル、病院、危機的状況などの場面を想定して、最低限必要な英語表現を指導 ９～１０．研修先事情（1）:医療・衣食・交通・余暇 (Medical system, clothese and food, traffic system, and leisure) 学生による下調べ、口頭発表 １１．日本の社会・文化の理解と伝え方 (How to explain the Japanese society and culture) 学生による下調べ、口頭発表 ・自分について（家族や自分の経験、自分の出身地の特徴など）:物や写真を用いて説明 ・日本社会・文化について：物や写真を用いて説明 １２．帰国者報告会・出発予定者との質疑応答 (Questions and Answer: Talk with returnees) 留学先で受ける可能性のあるテストについて (On TOEFL nad IELTS) 英語の様々なテストの種類についての解説 １３．安全対策 (Measures of safety) 近畿日本ツーリストによるビデオを用いた解説・保険会社からの説明 レポート提出 １４～１５．最終確認と総括 (Summing up final check before departure) 留学先での目標、目標達成のための計画、その他やってみたいことなどについて英語で口頭発表)
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1
評価方法（基準）	Students will receive permission to go overseas once they have passed this preparatory course. Passing the class is based on on-time attendance at the class, 100% participation in doing everything that is necessary to prepare for their oersaeas deaprture, quickly, and efficiently, at-home assignments, and a presentation. This will be a steep learning curve before leaving, and students should approach everything with a positive attitude.
学生へのメッセージ	安全で充実した留学生活を送るために、しっかりと事前演習を受けてください。
担当者の研究室等	７号館５階　鈴木研究室
備考	

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	兪　鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2△,DP5○,DP6○,DP7△,DP8△		

授業概要・目的	海外語学留学は、提携大学の独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言葉づかいを学び、語学力に磨きをかけることを目的とし、日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付ける同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。 中国(北京あるいは上海）での留学はスムーズに行われ、実りあるものになるように、提携校の概要と環境、中国での生活上知っておくべきこと、日中文化の相違などを紹介しながら、渡航までのスケジュールの確認、大学提出書類作成など、留学のための万全な準備をしておくのを徹底して指導する。
到達目標	万全な留学準備を整える。
授業方法と留意点	メモを取るのが肝心であり、毎回要点を確認する。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	１回目：授業の目的を理解し、留学の意義を考える、提携校の概要と環境の紹介。 ２回目：留学手続きに関する留意点、留学願書の書類作成指導。 ３回目：留学願書の作成状況を確認、単位読み替えの仕組みの説明、履修上の注意事項、授業料、宿泊料、食費などの算出（日本円)、支払上の注意事項。 ４回目：ビザ申請の流れと海外旅行保険について説明。 ５回目：日中文化の相違について。 ６回目：留学先の歴史と最近の情勢について。 ７回目：留学先での生活上知っておくべきこと。 ８回目：留学経験者からのアドバイスを参考に、語学力向上やそれ以外の留学課題を考える。 ９回目：自己紹介のプレゼン、留学先での現金引き出しに使う銀行カードの入手方法。 １０回目：安全対策（外務省の事例集） １１回目：医療関連の用語の中国語指導。 １２回目：志願大学からの中国語版の入学通知書、入学手引きを読解し、注意事項を整理。 １３回目：大使館へのビザ取得について指導、航空券の入手方法と留意点について。 １４回目：渡航に持っていくべきもの、用意しておくべぎもの。 １５回目：日本文化についてのプレゼン、出発前の諸注意、諸準備の確認。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	提出物 70%、プレゼン 30%、。
学生へのメッセージ	中国事情や中国文化の知識をたくさん知っておきましょう。
担当者の研究室等	７号館３階（兪研究室）
備考	

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	兪　鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2△,DP5○,DP6○,DP7△,DP8△		

授業概要・目的	海外語学留学は、提携大学の独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言葉づかいを学び、語学力に磨きをかけることを目的とし、日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付ける同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。 中国(北京あるいは上海）での留学はスムーズに行われ、実りあるものになるように、提携校の概要と環境、中国での生活上知っておくべきこと、日中文化の相違などを紹介しながら、渡航までのスケジュールの確認、大学提出書類作成など、留学のための万全な準備をしておくのを徹底して指導する。
到達目標	万全な留学準備を整える。
授業方法と留意点	メモを取るのが肝心であり、毎回要点を確認する。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	１回目：授業の目的を理解し、留学の意義を考える、提携校の概要と環境の紹介。 ２回目：留学手続きに関する留意点、留学願書の書類作成指導。 ３回目：留学願書の作成状況を確認、単位読み替えの仕組みの説明、履修上の注意事項、授業料、宿泊料、食費などの算出（日本円)、支払上の注意事項。 ４回目：ビザ申請の流れと海外旅行保険について説明。 ５回目：日中文化の相違について。 ６回目：留学先の歴史と最近の情勢について。 ７回目：留学先での生活上知っておくべきこと。 ８回目：留学経験者からのアドバイスを参考に、語学力向上やそれ以外の留学課題を考える。 ９回目：自己紹介のプレゼン、留学先での現金引き出しに使う銀行カードの入手方法。 １０回目：安全対策（外務省の事例集） １１回目：医療関連の用語の中国語指導。 １２回目：志願大学からの中国語版の入学通知書、入学手引きを読解し、注意事項を整理。 １３回目：大使館へのビザ取得について指導、航空券の入手方法と留意点について。 １４回目：渡航に持っていくべきもの、用意しておくべぎもの。 １５回目：日本文化についてのプレゼン、出発前の諸注意、諸準備の確認。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	提出物 70%、プレゼン 30%、。
学生へのメッセージ	中国事情や中国文化の知識をたくさん知っておきましょう。
担当者の研究室等	７号館３階（兪研究室）
備考	

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	住吉　誠
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2△,DP5○,DP6○,DP7△,DP8△		

授業概要・目的	北米（アメリカ合衆国・カナダ）およびオセアニア（オーストラリア・ニュージーランド）留学に向けて、学生個々人の留学目的やプラニングを明確にし、充実した留学生活が送れるように導く。留学の事務手続きを進めながら、グループ活動を通じて、留学先の文化や生活習慣、海外生活における危機管理、異文化適応などについて理解を深めたり、海外生活に必要な英語についても学んでいく。
到達目標	１．留学アクション・プランを策定できるようになる。 ２．留学に必要な手続きを完了する。 ３．海外で生活する上での危機管理について十分な知識を得る。 ４．渡航先の国の国民性や文化、生活習慣について知識を得る。 ５．渡航先で出会う人々に日本について英語で説明するための基礎的な表現力を修得する。
授業方法と留意点	授業では、留学手続きも並行して進めていきます。提出するべき書類の準備を怠らず、設定された期日までにきちんと提出してください。全体で手続きを進めていくので、１人の遅れが全体の手続きの遅れになります。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	＜内容＞ 大きなテーマとして以下の４つが設定され、それぞれ数回の授業を割り当てます。 １．留学手続きに関すること 業者の方を交えて、留学手続きを進めていきます。願書を書く、ビザを取得する、保険に加入するなど、いろいろな手続きが進んでいきます。 ２．留学に関する事項を理解すること 留学先の情報、留学に際しての危機管理などを理解する。また、留学から帰国した先輩たちの報告会を行い、これから留学に出発するみなさんに必要な情報を共有します。 ３．留学に関係する英語を理解すること 留学の際に必要な英語を学びます。 ４．日本について英語で発信できるようになること 日本について英語で発信できるよう準備をします。 ＜方法＞ 講義＋グループ活動（グループ・ディスカッション、グループ・プレゼンテーション）など ＜事前、事後学習課題＞ １．留学の手続きを主体的に進めていく。申請に必要なことを調べる。 ２．次の回の授業内容について、グループで下調べをし、発表の準備をする。
関連科目	エリアスタディーズ（北アメリカ・オセアニア）
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中のプレゼンテーション（30%） 授業中の貢献度（20%） (提出書類を含めた)　課題（50%）
学生へのメッセージ	素晴らしい留学生活が実現できるように、みんなでいっしょに準備しましょう！
担当者の研究室等	７号館４階　住吉研究室
備考	

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	北條　ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2△,DP5○,DP6○,DP7△,DP8△		

授業概要・目的	メキシコ・グアナフアト大学への留学予定者を対象に、摂南大学外国語学部留学制度の適用を受けるに際する責任と義務を明確にし、受講可能なコース、入学手続き、学生ビザ申請方法等を詳しく解説する。ビザ申請、海外旅行保険加入、航空券入手等を自分自身で行えるよう導く。その他、出発前に必要な情報や知識を教授する。
到達目標	安全に責任感を持って有意義な留学生活を送れるよう、目的意識を明確化し、メキシコについての知識と理解を深める。同時に、日本の社会と文化についての知識を補い、スペイン語で説明できるよう準備する
授業方法と留意点	皆出席し、遅延なくビザ申請に必要な書類の取得に備えること。与えられた課題に主体的に取り組むこと。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	以下の点について講義する。 ・ガイダンス ・事前準備と諸手続きについての解説（受講可能な授業の説明、入学申請手続き、学生ビザ申請手続き） ・生活習慣や守るべきマナーについて ・留学先事情（メキシコ現代事情、グアナフアトの歴史・地理、グアナフアト大学について） ・ホスト・ファミリーへのメール連絡、スペイン語による自己紹介 ・メキシコの通史、地理、世界遺産、現代政治・経済、食文化、主な祝祭、日本との関係 ・留学帰国者を招いての質疑応答 ・日本の社会・文化についての知識と伝え方 ・スペイン語による勉学と日常生活に必要な語彙・表現 ・帰国後に果たすべき責任（留学報告会、出発予定者への助言、スペイン語科目の最大限受講、スペイン語技能検定３級以上合格、スピーチコンテスト参加等） 授業時間外の課題として、配布された文献を読みこなし、情報収集を行い、プレゼンの準備をすること。各種手続きに必要な書類の記入や取得はスケジュールを厳守すること。
関連科目	全スペイン語科目。スペイン語圏概論とエリア・スタディーズ（ラテンアメリカ）を１年次で履修すること。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	正当な理由による欠席・遅刻なしに、ビザ申請までの準備を指示通り遅延なく行えたか（４０％）、留学先国、大学所在都市の歴史と現況について主体的・積極的に学ぼうとしたか、そして日本文化の諸相についてスペイン語で説明ができるまでの準備ができたか（６０％）によって評価する。留学許可を失うこともありうる。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館５階　北條研究室
備考	

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	北條　ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2△,DP5○,DP6○,DP7△,DP8△		

授業概要・目的	メキシコ・グアナフアト大学への留学予定者を対象に、摂南大学外国語学部留学制度の適用を受けるに際する責任と義務を明確にし、受講可能なコース、入学手続き、学生ビザ申請方法等を詳しく解説する。ビザ申請、海外旅行保険加入、航空券入手等を自分自身で行えるよう導く。その他、出発前に必要な情報や知識を教授する。
到達目標	安全に責任感を持って有意義な留学生活を送れるよう、目的意識を明確化し、メキシコについての知識と理解を深める。同時に、日本の社会と文化についての知識を補い、スペイン語で説明できるよう準備する
授業方法と留意点	皆出席し、遅延なくビザ申請に必要な書類の取得に備えること。与えられた課題に主体的に取り組むこと。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	以下の点について講義する。 ・ガイダンス ・事前準備と諸手続きについての解説（受講可能な授業の説明、入学申請手続き、学生ビザ申請手続き） ・生活習慣や守るべきマナーについて ・留学先事情（メキシコ現代事情、グアナフアトの歴史・地理、グアナフアト大学について） ・ホスト・ファミリーへのメール連絡、スペイン語による自己紹介 ・メキシコの通史、地理、世界遺産、現代政治・経済、食文化、主な祝祭、日本との関係 ・留学帰国者を招いての質疑応答 ・日本の社会・文化についての知識と伝え方 ・スペイン語による勉学と日常生活に必要な語彙・表現 ・帰国後に果たすべき責任（留学報告会、出発予定者への助言、スペイン語科目の最大限受講、スペイン語技能検定３級以上合格、スピーチコンテスト参加等） 授業時間外の課題として、配布された文献を読みこなし、情報収集を行い、プレゼンの準備をすること。各種手続きに必要な書類の記入や取得はスケジュールを厳守すること。
関連科目	全スペイン語科目。スペイン語圏概論とエリア・スタディーズ（ラテンアメリカ）を１年次で履修すること。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	正当な理由による欠席・遅刻なしに、ビザ申請までの準備を指示通り遅延なく行えたか（４０％)、留学先国、大学所在都市の歴史と現況について主体的・積極的に学ぼうとしたか、そして日本文化の諸相についてスペイン語で説明ができるまでの準備ができたか（６０％）によって評価する。留学許可を失うこともありうる。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館５階　北條研究室
備考	

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	安達　直樹
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2△,DP5○,DP6○,DP7△,DP8△		

授業概要・目的	スペイン・サラゴサ大学およびアリカンテ大学への留学予定者が、摂南大学外国語学部留学制度の適用を受けるに際する責任と義務を明確にし記憶する。 各自、受講するコース、入学手続き、学生ビザ申請方法等を自分で確認する。ビザ申請、海外旅行保険加入、航空券入手等を自分自身で行う。
到達目標	安全に責任感を持って有意義な留学生活を送れるよう、目的意識を明確化し、スペインについての知識と理解を深める。同時に、日本の社会と文化についての知識を補い、スペイン語で説明できるよう準備しておく。 自律心と規範意識の涵養。
授業方法と留意点	皆出席し、遅延なくビザ申請に必要な書類の取得に備えること。与えられた課題に主体的に取り組むこと。注意されことを次の行動に反映させること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	以下の点を扱う。 ・ガイダンス ・動機の確認、主体性について ・事前準備と諸手続きについて（受講可能な授業の説明、入学申請手続き、学生ビザ申請手続き） ・生活習慣や守るべきマナーについて ・留学先事情（サラゴサ／アリカンテの歴史・地理、両大学について） ・ホスト・ファミリーへのメール連絡、スペイン語による自己紹介 ・スペインの通史、地理、世界遺産、現代政治・経済、食文化、主な祝祭、日本との関係 ・留学帰国者を招いての質疑応答 ・日本の社会・文化についての知識と伝え方 ・スペイン語による勉学と日常生活に必要な語彙・表現 ・帰国後に果たすべき責任（留学報告会、出発予定者への助言、スペイン語科目の受講継続、スペイン語技能検定３級以上合格、スピーチコンテスト参加等） 授業時間外の課題として、配布された文献を読みこなし、自ら情報収集を行い、プレゼンの準備をすること。各種手続きに必要な書類の記入や取得はスケジュールを厳守すること。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	欠席・遅刻なしに、各自が自分自身のこととして、自覚的に主体的に積極的に取り組めたかどうかによって評価する（留学のための準備・手続きに対する取り組み・姿勢、発表、提出物＝１００％） この出来によっては留学許可を取り消すこともある。
学生へのメッセージ	自分で考える、調べる、行動することが求められる。日本で自己管理（勉学においても）ができない者は、海外では生活ができない。甘えや思考のない言動は、許容されない。決して他人事のように丸投げにしたり、指示を待っているだけ、ということのないように。
担当者の研究室等	７号館５階　安達研究室
備考	留学希望者各自の自律と規範を前提とし、手取り足取り面倒をみたりはしない。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	安達　直樹
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2△,DP5○,DP6○,DP7△,DP8△		

授業概要・目的	スペイン・サラゴサ大学およびアリカンテ大学への留学予定者が、摂南大学外国語学部留学制度の適用を受けるに際する責任と義務を明確にし記憶する。 各自、受講するコース、入学手続き、学生ビザ申請方法等を自分で確認する。ビザ申請、海外旅行保険加入、航空券入手等を自分自身で行う。
到達目標	安全に責任感を持って有意義な留学生活を送れるよう、目的意識を明確化し、スペインについての知識と理解を深める。同時に、日本の社会と文化についての知識を補い、スペイン語で説明できるよう準備しておく。 自律心と規範意識の涵養。
授業方法と留意点	皆出席し、遅延なくビザ申請に必要な書類の取得に備えること。与えられた課題に主体的に取り組むこと。注意されことを次の行動に反映させること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	以下の点を扱う。 ・ガイダンス ・動機の確認、主体性について ・事前準備と諸手続きについて（受講可能な授業の説明、入学申請手続き、学生ビザ申請手続き） ・生活習慣や守るべきマナーについて ・留学先事情（サラゴサ／アリカンテの歴史・地理、両大学について） ・ホスト・ファミリーへのメール連絡、スペイン語による自己紹介 ・スペインの通史、地理、世界遺産、現代政治・経済、食文化、主な祝祭、日本との関係 ・留学帰国者を招いての質疑応答 ・日本の社会・文化についての知識と伝え方 ・スペイン語による勉学と日常生活に必要な語彙・表現 ・帰国後に果たすべき責任（留学報告会、出発予定者への助言、スペイン語科目の受講継続、スペイン語技能検定３級以上合格、スピーチコンテスト参加等） 授業時間外の課題として、配布された文献を読みこなし、自ら情報収集を行い、プレゼンの準備をすること。各種手続きに必要な書類の記入や取得はスケジュールを厳守すること。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	欠席・遅刻なしに、各自が自分自身のこととして、自覚的に主体的に積極的に取り組めたかどうかによって評価する（留学のための準備・手続きに対する取り組み・姿勢、発表、提出物＝１００％） この出来によっては留学許可を取り消すこともある。
学生へのメッセージ	自分で考える、調べる、行動することが求められる。日本で自己管理（勉学においても）ができない者は、海外では生活ができない。甘えや思考のない言動は、許容されない。決して他人事のように丸投げにしたり、指示を待っているだけ、ということのないように。
担当者の研究室等	７号館５階　安達研究室
備考	留学希望者各自の自律と規範を前提とし、手取り足取り面倒をみたりはしない。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	浦野　崇央
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2△,DP5○,DP6○,DP7△,DP8△		

授業概要・目的	海外留学は、提携大学の独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言葉づかいを学び、語学力に磨きをかけることを目的とし、日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付ける同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。 本授業は、インドネシア（ストモ博士大学）へ留学するに際して必要とされる知識、すなわち、同大学の概要と学習環境、インドネシアでの生活上知っておくべきこと、日本とインドネシアの文化の相違などを把握し、留学生活がより充実したものとなるよう展開される。また、渡航までのスケジュールの確認、大学提出書類作成など、留学のための万全なる準備を整え、留学出発へ備える。
到達目標	留学生活をより充実させるよう、万全な留学準備を整える。
授業方法と留意点	毎週、何らかの課題を出すので、それらすべてをそつなくこなすことが望まれる。また、言うまでもなく、出席は必須であり、１回でも欠席する、あるいは、こなすべき課題をしてこなかった場合など、準備が不十分であるとみなされた場合、留学許可が取り消されることになるので、十分に留意のこと。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各回の授業内容は基本的には以下の通りであるが、ビザ手続きの進捗状況如何によっては、一部内容が変更される場合がある。 第１回目：本授業の目的・意義を理解し、今後のスケジュールを確認する。 第２回目：ビザ手続きおよび留学に際して折衝が必要となる行政機関の概要を確認する。 第３回目：ビザ手続き書類の再確認を行う。 第４回目：「留学報告会」に参加し、留学で得られるものを確認する。 第５回目：留学先大学（ストモ博士大学）の概要を把握する。 第６回目：インドネシア語で自己紹介ができるようにすると同時に、留学先大学へ提出する個人データを作成する。 第７回目：インドネシア語運用能力の確認を行う。 第８回目：異文化理解を通じて獲得できる知見とは何なのか、について留学経験者を交えて討論する。 第９回目：留学地での生活について、特に費用面にかんする確認を行う。 第 10 回目：現代世界の趨勢についての理解（例えばイスラム主義に関する理解）を深める。 第 11 回目：留学先において「日本」を紹介できるようにする。 第 12 回目：危機管理ガイダンスを行う。 第 13 回目：留学先での生活（医療・衣食住・保険・交通・金銭管理など）について、再確認する。 第 14 回目：在大阪総領事館へ提出する書類の内容および留意点を再確認する。 第 15 回目：留学出発に際する最終確認を行う。
関連科目	インドネシア語科目およびインドネシアに関する講義科目（インドネシア・マレー語圏概論等）すべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎週の課題をこなすなどの積極的な学習姿勢 100%
学生へのメッセージ	留学生活を有意義なものとするために、本授業を前向きにしっかりと受講してください。
担当者の研究室等	浦野研究室（７号館４階）
備考	留学で得られることはとても多く、幅広いです。留学を成功させるために、この授業でイメージを膨らませていきましょう。

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	浦野　崇央
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2△,DP5○,DP6○,DP7△,DP8△		

授業概要・目的	海外留学は、提携大学の独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言葉づかいを学び、語学力に磨きをかけることを目的とし、日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付ける同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。 本授業は、インドネシア（ストモ博士大学）へ留学するに際して必要とされる知識、すなわち、同大学の概要と学習環境、インドネシアでの生活上知っておくべきこと、日本とインドネシアの文化の相違などを把握し、留学生活がより充実したものとなるよう展開される。また、渡航までのスケジュールの確認、大学提出書類作成など、留学のための万全なる準備を整え、留学出発へ備える。
到達目標	留学生活をより充実させるよう、万全な留学準備を整える。
授業方法と留意点	毎週、何らかの課題を出すので、それらすべてをそつなくこなすことが望まれる。また、言うまでもなく、出席は必須であり、１回でも欠席する、あるいは、こなすべき課題をしてこなかった場合など、準備が不十分であるとみなされた場合、留学許可が取り消されることになるので、十分に留意のこと。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各回の授業内容は基本的には以下の通りであるが、ビザ手続きの進捗状況如何によっては、一部内容が変更される場合がある。 第１回目：本授業の目的・意義を理解し、今後のスケジュールを確認する。 第２回目：ビザ手続きおよび留学に際して折衝が必要となる行政機関の概要を確認する。 第３回目：ビザ手続き書類の再確認を行う。 第４回目：「留学報告会」に参加し、留学で得られるものを確認する。 第５回目：留学先大学（ストモ博士大学）の概要を把握する。 第６回目：インドネシア語で自己紹介ができるようにすると同時に、留学先大学へ提出する個人データを作成する。 第７回目：インドネシア語運用能力の確認を行う。 第８回目：異文化理解を通じて獲得できる知見とは何なのか、について留学経験者を交えて討論する。 第９回目：留学地での生活について、特に費用面にかんする確認を行う。 第 10 回目：現代世界の趨勢についての理解（例えばイスラム主義に関する理解）を深める。 第 11 回目：留学先において「日本」を紹介できるようにする。 第 12 回目：危機管理ガイダンスを行う。 第 13 回目：留学先での生活（医療・衣食住・保険・交通・金銭管理など）について、再確認する。 第 14 回目：在大阪総領事館へ提出する書類の内容および留意点を再確認する。 第 15 回目：留学出発に際する最終確認を行う。
関連科目	インドネシア語科目およびインドネシアに関する講義科目（インドネシア・マレー語圏概論等）すべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎週の課題をこなすなどの積極的な学習姿勢 100%
学生へのメッセージ	留学生活を有意義なものとするために、本授業を前向きにしっかりと受講してください。
担当者の研究室等	浦野研究室（７号館４階）
備考	留学で得られることはとても多く、幅広いです。留学を成功させるために、この授業でイメージを膨らませていきましょう。

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	上田　達
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2△,DP5○,DP6○,DP7△,DP8△		

授業概要・目的	マレーシア国民大学への留学予定者を対象に、ビザ取得や入学手続など、出発前に必要な情報や知識を教授する。
到達目標	「留学準備という機会を通じて、マレーシア社会について理解を深めること」と「マレーシア留学をケーススタディとして異文化に暮らすことの意味について考えること」を目指す。
授業方法と留意点	適宜課題を出すので、主体的に取り組むこと。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	受講者の持っている知識や情報、渡航経験の有無を考慮しつつ、以下の各点について講義する。 ・ガイダンス ・事前準備と諸手続について（ATMA での授業内容、航空券・予防接種・ビザのスケジューリング etc.） ・マナーについて（誤解と理解） ・マレーシアを知る（マレーシア社会について解説した日本語、マレー語、英語で書かれた文章を読む） ・留学先事情①（マレーシアでの生活にかんする情報） ・留学先事情②（マレーシア国民大学について知る） ・マレー語の単語・表現について ・ホームを離れる事（各種トラブルへの応対について） 授業時間外の課題として、課題文献の講読や既習事項の復習、図書館やネット上での情報収集、各種手続きのための書類記入や各種書類の準備などを予定している。
関連科目	「基礎マレー語」
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への取り組み状況(100%)から判断する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 5 階上田研究室
備考	

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	上田　達
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2△,DP5○,DP6○,DP7△,DP8△		

授業概要・目的	マレーシア国民大学への留学予定者を対象に、ビザ取得や入学手続など、出発前に必要な情報や知識を教授する。
到達目標	「留学準備という機会を通じて、マレーシア社会について理解を深めること」と「マレーシア留学をケーススタディとして異文化に暮らすことの意味について考えること」を目指す。
授業方法と留意点	適宜課題を出すので、主体的に取り組むこと。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	受講者の持っている知識や情報、渡航経験の有無を考慮しつつ、以下の各点について講義する。 ・ガイダンス ・事前準備と諸手続について（ATMA での授業内容、航空券・予防接種・ビザのスケジューリング etc.） ・マナーについて（誤解と理解） ・マレーシアを知る（マレーシア社会について解説した日本語、マレー語、英語で書かれた文章を読む） ・留学先事情①（マレーシアでの生活にかんする情報） ・留学先事情②（マレーシア国民大学について知る） ・マレー語の単語・表現について ・ホームを離れる事（各種トラブルへの応対について） 授業時間外の課題として、課題文献の講読や既習事項の復習、図書館やネット上での情報収集、各種手続きのための書類記入や各種書類の準備などを予定している。
関連科目	「基礎マレー語」
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	授業への取り組み状況(100%)から判断する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 5 階上田研究室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	海外ワークキャンプ	科目名（英文）	Overseas Work Experience
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野　英一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP5△		

授業概要・目的	①フィリピン・ミンダナオにあるNGOハウスオブジョイ（HOJ）児童養護施設での実践型貢献実習と②ミンダナオ国際大学での英語実習を複合的に組み合わせた3週間の海外プログラムである。参加メンバー（履修生）との共同活動を通じ、開発途上国への理解を深め、実習先での経験との共通点、相違点を確認する。現地の人々との出会いの中から、見つけた新たな課題と、今後の関わり方について考える。 なお、この科目は、パッケージプログラム実習・演習科目の一つである。
到達目標	①使える語学力（英語）や、異文化コミュニケーション能力を身につける。 ②異なる社会・文化のなかで暮らし、働くための総合力を身につける。 ③フィールドでの実体験を通じて、国際知識を養い、多文化環境のもとプロジェクトを動かすスキルを修得する。 ④ボランティア、自立支援など、国内外の団体で活動ができる。
授業方法と留意点	履修登録学生は、オリエンテーションを行うので、必ず参加のこと。日時と教室は、ポータルにて連絡。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	事前教育　4回程度（生活環境・語学・習慣・ハートアクティビティプログラム*の習得） 現地活動　2017年2月中旬～3月上旬の3週間を予定している。 *ハートアクティビティ(Human Relation Training)プログラム：いろいろなゲームを通して、緊張をほぐし、お互いに尊重することを学び、コミュニケーションや協力関係、豊かな人間関係を築いていくためのプログラム。 履修登録時の注意事項： 受け入れ施設に宿泊制限があるため、上限は最大15名とする。履修希望者が15名を超えた場合、オリエンテーションの時に、履修希望調査レポートを提出し、履修理由とモチベーションを総合的に判断し15名を決定する。履修人数が5名に達しない場合は開講しない。履修希望者は、シラバス内容だけでなく、担当教員から、十分な説明を受けた上で履修申請を行うことが望ましい。説明を受けないで、履修申請した場合、履修を取り消すことがある。
関連科目	国際協力論、国際関係論、ボランティア論
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	事前活動・現地活動状況・帰国後レポートを合わせて(100%)評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7号館5階（浅野研究室）
備考	履修希望者は、事前に担当教員の研究室を訪問し、十分な説明を受けた上で履修申請を行うことが望ましい。

専門科目

科目名	外国語通訳法	科目名（英文）	Methods and Techniques for Interpretation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	湊　由妃子
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2△		

授業概要・目的	この科目は外国語専門職プログラム対応科目である。 今までにつちかった英文法や語彙などの英語の知識があることと、その知識を使い、実際のコミュニケーションができることは異なるものである。 この授業では、翻訳とオーラルコミュニケーションを含む実務的な英語能力を養成することを目的とする。
到達目標	翻訳や通訳に関する基礎的な訓練を行うことにより、英語のコミュニケーション能力が向上する。 また、日本語らしい日本語訳の訓練、日本語から英語、英語から日本語への変換の訓練を通して、英語能力の向上はもとより、外国語専門職につくためのモチベーションがあがる。
授業方法と留意点	教科書は身近なトピックを扱い、英語から日本語、日本語から英語の多様な練習問題がある。予習を前提として、教科書の課題をこなしていく。 教科書以外にも翻訳、通訳に関する様々な問題に取り組む。 翻訳、通訳のための学習訓練では、積極的に授業に関わることが重要である。
科目学習の効果（資格）	外国語専門職に関連する資格試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Intoroduction	授業の進め方と評価方法の説明 翻訳訓練入門	来週の予習
2	Unit 7: 日本の文化	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習
3	Unit 7: 日本の文化	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習
4	Unit 8: 海外の文化	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習
5	Unit 8: 海外の文化	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習
6	Unit 9: 社会事情１	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習
7	Unit 9: 社会事情１	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習
8	進度調整とテキスト以外の教材	実践的な学習訓練	予習と復習
9	Unit 10: 社会事情２	英語から日本語 日本から英語	予習と復習
10	Unit 10: 社会事情２	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習
11	Unit 11: 観光	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習
12	Unit 11: 観光	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習
13	Unit 12: コミュニケーション	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習
14	Unit 12: コミュニケーション	日本語から英語 複数文通訳	復習とテスト準備
15	後期まとめ	後期の学習習熟度をみるためのまとめのテスト	事前のテスト準備

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Developing Interpreting Skills for Communication	齋藤　彩子/皆川　治恵/Richard G. Potter	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・予習・提出等　70% まとめのテスト　30% 詳しくは第１回目の授業で説明する
学生へのメッセージ	集中力をもって、積極的に授業に参加すること
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	

科目名	外国語通訳法	科目名（英文）	Methods and Techniques for Interpretation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	段　飛虹
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2△		

授業概要・目的	この科目は、外国語専門職プログラム対応科目です。大阪やその周辺の面白いところを自分の手で調べて原稿を作成する。さらにそれを発表する活動を通してプレゼンのスキルを身につける。この目標を達成するため，日本の事物を中国語で表現するだけの語彙や文法の知識とともに，日本の地理や歴史に関する情報を集め，原稿を作成する技術を学ぶ。
到達目標	京都，大阪，奈良など関西のおもな観光地，テーマパークなどで中国語を使った簡単な観光ガイドができることを目指す。
授業方法と留意点	数名のグループにわかれ，与えられた課題に沿ったプレゼンを行ったり映像作品を作ることを各単元の目的とする。その準備として，取材地の選定や写真，情報の収集，原稿の作成，発表の練習を行う。授業以外の日時に撮影会を実施することもある。
科目学習の効果（資格）	通訳案内士 中国語検定２級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業の目的,方法などを理解する。	1. 教師によるプレゼンの実例を見ながら，取材地の選定や作業分担，素材や資料を集める手順を理解する。 2. 写真にアナウンスや BGM を付けた動画を作成する手順を理解する。 3. グループ分けをしたうえ次回の課題を出す。	写真撮影を担当する者は，次回の授業までにプレゼン用の写真を用意する。資料担当者は紙媒体の資料を調査しておく。
2	大阪（1）	前回授業ですでに選定してある取材地，取材施設について，写真，紙媒体および eb 上の記事をもとにプレゼンのための中国語原稿を作成する。原稿作成後は，プレゼンの分担を決めたうえ練習を行う。	家庭でもプレゼンのための練習を行う。
3	大阪（1）	1. グループ別にプレゼンを行う。 2. ビデオ作品の作成。 3. 次回の取材地について各グループで検討し，作業の分担を決める。	写真撮影を担当する者は，次回の授業までにプレゼン用の写真を用意する。資料担当者は紙媒体の資料を調査しておく。
4	大阪（2）	前回授業ですでに選定してある取材地，取材施設について，写真，紙媒体および eb 上の記事をもとにプレゼンのための中国語原稿を作成する。原稿作成後は，プレゼンの分担を決めたうえ練習を行う。	家庭でもプレゼンのための練習を行う。
5	大阪（2）	1. グループ別にプレゼンを行う。 2. ビデオ作品の作成。 3. 次回の取材地について各グループで検討し，作業の分担を決める。	写真撮影を担当する者は，次回の授業までにプレゼン用の写真を用意する。資料担当者は紙媒体の資料を調査しておく。
6	大阪（3）	前回授業ですでに選定してある取材地，取材施設について，写真，紙媒体および eb 上の記事をもとにプレゼンのための中国語原稿を作成する。原稿作成後は，プレゼンの分担を決めたうえ練習を行う。	家庭でもプレゼンのための練習を行う。
7	大阪（3）	1. グループ別にプレゼンを行う。 2. ビデオ作品の作成。 3. 次回の取材地について各グループで検討し，作業の分担を決める。	写真撮影を担当する者は，次回の授業までにプレゼン用の写真を用意する。資料担当者は紙媒体の資料を調査しておく。
8	近畿全域（1）	前回授業ですでに選定してある取材地，取材施設について，写真，紙媒体および eb 上の記事をもとにプレゼンのための中国語原稿を作成する。原稿作成後は，プレゼンの分担を決めたうえ練習を行う。	家庭でもプレゼンのための練習を行う。
9	近畿全域（1）	1. グループ別にプレゼンを行う。 2. ビデオ作品の作成。 3. 次回の取材地について各グループで検討し，作業の分担を決める。	写真撮影を担当する者は，次回の授業までにプレゼン用の写真を用意する。資料担当者は紙媒体の資料を調査しておく。
10	近畿全域（2）	前回授業ですでに選定してある取材地，取材施設について，写真，紙媒体および eb 上の記事をもとにプレゼンのための中国語原稿を作成する。原稿作成後は，プレゼンの分担を決めたうえ練習を行う。	家庭でもプレゼンのための練習を行う。
11	近畿全域（2）	1. グループ別にプレゼンを行う。 2. ビデオ作品の作成。 3. 次回の取材地について各グループで検討し，作業の分担を決める。	写真撮影を担当する者は，次回の授業までにプレゼン用の写真を用意する。資料担当者は紙媒体の資料を調査しておく。
12	近畿全域（3）	前回授業ですでに選定してある取材地，取材施設について，写真，紙媒体および eb 上の記事をもとにプレゼンのための中国語原稿を作成する。原稿作成後は，プレゼンの分担を決めたうえ練習を行う。	家庭でもプレゼンのための練習を行う。
13	近畿全域（3）	1. グループ別にプレゼンを行う。	写真撮影を担当する者は，次回の授業までにプレゼ

			2. ビデオ作品の作成。 3. 次回の取材地について各グループで検討し，作業の分担を決める。	ン用の写真を用意する。資料担当者は紙媒体の資料を調査しておく。
	14	中国北京・上海	前回授業ですでに選定してある取材地，取材施設について，写真，紙媒体およびeb 上の記事をもとにプレゼンのための中国語原稿を作成する。原稿作成後は，プレゼンの分担を決めたうえ練習を行う。	家庭でもプレゼンのための練習を行う。
	15	中国北京・上海（1）	1. グループ別にプレゼンを行う。 2. ビデオ作品の作成。 3. 次回の取材地について各グループで検討し，作業の分担を決める。	写真撮影を担当する者は，次回の授業までにプレゼン用の写真を用意する。資料担当者は紙媒体の資料を調査しておく。

関連科目	中国語主言語または共通言語 2 年生対象科目を修了していること。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	筆記試験は行わず、口頭発表の内容が 7 割、それへの貢献が 3 割を評価の材料とする。
学生への メッセージ	参加型，発信型の授業です。したがって，授業への取り組みや貢献度をもとに成績評価を行います
担当者の 研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	外国語通訳法	科目名（英文）	Methods and Techniques for Interpretation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北條　ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2△		

授業概要・目的	この科目は外国語専門職プログラム対応科目である。 通訳という専門的職業とはなにかを理解するために、その歴史、種類、求められる資質や能力、そのプロセス、翻訳との比較などの観点から、通訳という異言語間コミュニケーションの本質に迫る。その後、通訳トレーニングの紹介を通じて、言語コミュニケーションの本質を考える材料を提供し、導入的実践を行うことで、履修者は外国語学習の新しい方法を体験する。
到達目標	通訳という職業を理論的に理解するとともに、実践的トレーニングを通じて異言語間コミュニケーションの方法論を学ぶ。
授業方法と留意点	講義形式と実習の両方の要素があり、どちらにも積極的に参加し、チャレンジしてください。
科目学習の効果（資格）	履修者の専攻言語における通訳案内士の資格取得をめざす動機付けとなる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	通訳とはなにか	通訳の歴史	シラバスを読む
2	通訳とはなにか	通訳の種類（技術上の分類；分野別の分類）	参考文献を読む
3	通訳とはなにか	通訳者に求められるもの	参考文献を読む
4	通訳とはなにか	コミュニケーション・スペシャリストに必要な要素	参考文献を読む
5	通訳のプロセス	言語学、心理学の最新理論	参考文献を読む
6	通訳のプロセス	翻訳との比較	参考文献を読む
7	中間試験とこれまでのまとめ	通訳という職業の本質について	スペイン語または英語の通訳案内士過去問に当たる
8	通訳トレーニング	シャドウィング	参考文献を読む
9	通訳トレーニング	スラッシュ・リーディング	参考文献を読む
10	通訳トレーニング	サイト・トランスレーション	参考文献を読む
11	通訳トレーニング	同時通訳と逐次通訳	参考文献を読む
12	実践編	スペイン語または英語による通訳実践の試み（1）	参考文献を読む
13	実践編	スペイン語または英語による通訳実践の試み（2）	参考文献を読む
14	通訳案内士を迎えて	体験談を披露いただきます。	参考文献を読む
15	理解度確認試験と総まとめ	国家資格「通訳案内士」についての説明	資格取得に向けて、勉強を開始する

関連科目：外国語翻訳法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	不実な美女か貞淑な醜女か	米原万里	新潮文庫
2			
3			

評価方法（基準）	講義内容に対する質問や提案、実習への積極的参加等　５０％、学期中の小テスト、理解度確認試験　５０％
学生へのメッセージ	ドイツ語通訳案内士として活躍する人物をお招きする機会を作る予定です。お楽しみに。
担当者の研究室等	７号館５階　北條研究室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。

科目名	外国語翻訳法	科目名（英文）	Methods and Techniques for Translation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	湊　由妃子
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2△		

授業概要・目的	この科目は外国語専門職プログラム対応科目である。 今までにつちかった英文法や語彙などの英語の知識があることと、その知識を使い、実際のコミュニケーションができることは異なるものである。 この授業では、翻訳とオーラルコミュニケーションを含む実務的な英語能力を養成することを目的とする。
到達目標	翻訳や通訳に関する基礎的な訓練を行うことにより、英語のコミュニケーション能力が向上する。 また、日本語らしい日本語訳の訓練、日本語から英語、英語から日本語への変換の訓練を通して、英語能力の向上はもとより、外国語専門職につくためのモチベーションがあがる。
授業方法と留意点	教科書は身近なトピックを扱い、英語から日本語、日本語から英語の多様な練習問題がある。予習を前提として、教科書の課題をこなしていく。 教科書以外にも翻訳、通訳に関する様々な問題に取り組む。 翻訳、通訳のための学習訓練では、積極的に授業に関わることが重要である。
科目学習の効果（資格）	外国語専門職に関連する資格試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業の進め方と評価方法の説明 翻訳訓練入門	来週の予習
2	Unit 1: 家族	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習
3	Unit 1: 家族	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習
4	Unit 2: 大学生活	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習
5	Unit 2: 大学生活	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習
6	Unit 3: 趣味１	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習
7	Unit 3: 趣味１	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習
8	進度調整とテキスト以外の教材	実践的な学習訓練	予習と復習
9	Unit 4: 趣味２	英語から日本語 日本から英語	予習と復習
10	Unit 4: 趣味２	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習
11	Unit 5: 国際交流　実践演習１	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習
12	Unit 5: 国際交流　実践演習１	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習
13	Unit 6: 国際交流　実践演習２	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習
14	Unit 6: 国際交流　実践演習２	日本語から英語 複数文通訳	復習とテスト準備
15	前期まとめ	前期の学習習熟度をみるためのまとめのテスト	事前のテスト準備

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Developing Interpreting Skills for Communication	齋藤　彩子/皆川　治恵/Richard G. Potter	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・予習・提出等　70% まとめのテスト　30%
学生へのメッセージ	集中力をもって、積極的に授業に参加すること
担当者の研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	

科目名	外国語翻訳法	科目名（英文）	Methods and Techniques for Translation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	安達　直樹
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2△		

授業概要・目的	この科目は外国語専門職プログラム対応科目である。 スペイン語の文章を日本語にする練習。 翻訳とは、単純な語句の置き換えではなく、解釈と表現の両面で熟考を要する作業である。 まず、スペイン語の文章を文法的・論理的に正しくとらえること、次に、それを機械翻訳のような逐語的な訳ではなく日本語らしく表現することを心がける。
到達目標	スペイン語の様々なジャンル・スタイルの文章を、正確に読み解く力を養うこと。 新聞記事やエッセイ、小説や評論など、ジャンルや書き手による文体の相違（存在）に気づくこと。 日本語とスペイン語の違いを、文法や表現法のレベルで認識すること。 日本語について考えること（文法や言い回し、日本人の言語文化）。 言語が文化そのものであるという認識をもとに、文法的にも文化的にも適当な翻訳ができるようになること。
授業方法と留意点	予習・復習に相当の時間をかけること。 毎回、様々な文章を題材として与える。文脈や時系列、論理の筋、話の展開を意識して読む。
科目学習の効果（資格）	言語能力（文法および論理と表現の面）を鍛えること。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	どのように授業を行うか。 翻訳とはどういうものか。 辞書や参考書、アプリやツールについての説明。	シラバスを読む 課題に取り組む
2	読み物	教材になった文章を読む。 内容は、社会・文化について。	読みと訳に取り組む。
3	読み物	教材になった文章を読む。 内容は、社会・文化について。	読みと訳に取り組む。
4	読み物	教材になった文章を読む。 内容は、社会・文化について。	読みと訳に取り組む。
5	読み物	新聞記事や評論の文章を読む。	読みと訳に取り組む。
6	読み物	新聞記事や評論の文章を読む。	読みと訳に取り組む。
7	読み物	新聞記事や評論の文章を読む。	読みと訳に取り組む。
8	試験	前半の学習内容について問う。	まとめ。
9	読み物	エッセイや小説の文章を読む。	読みと訳に取り組む。
10	読み物	エッセイや小説の文章を読む。	読みと訳に取り組む。
11	読み物	エッセイや小説の文章を読む。	読みと訳に取り組む。
12	読み物	日本の文学作品のスペイン語訳を読む。	読みと訳に取り組む。
13	読み物	日本の文学作品のスペイン語訳を読む。	読みと訳に取り組む。
14	読み物	日本の文学作品のスペイン語訳を読む。	読みと訳に取り組む。
15	試験	学習内容のすべて。	まとめ。

関連科目	スペイン語通訳ガイド、外国語通訳法、その他スペイン語のすべての科目。 日本語に関する科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	中間および期末の試験７０％と平常の受講態度（予習や質問、応答、確認の小テスト等も含む）３０％、で評価する。
学生へのメッセージ	自分の普段の言語活動についてよく考えよう。いつどこでも誰に対しても同じような話し方・書き方をするだろうか。どんな時にどのような言い方を工夫するだろう。この科目はスペイン語の科目であっても、ほとんど、問題は日本語にあることに気づくだろう。 日ごろから、とにかく、文字（書かれた言語）に触れること、本を読むこと。 何も学ぶ気がない者にとっては苦痛でしかない時間になろう。
担当者の研究室等	7 号館 5 階個人研究室
備考	3 分の 1 以上の欠席は、最終評価が 0 点となる。遅刻は原則、欠席とカウントする。

科目名	カレント　イングリッシュ a	科目名（英文）	Current English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	あい
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	マーティン　オイクル
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱った、ある程度長くてまとまりのある教材を用い、精読や速読を行う。
到達目標	時事的な話題について書かれた英文を読み、読解力を高めると同時に多角的なものの考え方、教養を身につけることを狙いとする。
授業方法と留意点	必ず予習して出席すること。授業中の応答、学習活動への積極的な参加を重視する。また、毎日必ず新聞を読み、現代社会の動きに注意を払うようにすること。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction. Special topic.	Introduction. Special topic.	No preparation required.
2	Unit 1. What's for Lunch?	Lifestyle / Education. 海外から見た日本の給食。	Pages 6-10.
3	Unit 1. What's for Lunch? continued.	Lifestyle / Education. 海外から見た日本の給食。	Pages 10-11.
4	Unit 2. BYOB: California Bans Single-Use Plastic Bags.	Environment. カルフォルニアは BYOB。	Pages 12-16.
5	Unit 2. BYOB: California Bans Single-Use Plastic Bags continued.	Environment. カルフォルニアは BYOB。	Pages 16-17.
6	Unit 3. How a Dog Can Improve Your Health.	Health. 犬を飼うと健康になる？	Pages 18-21.
7	Unit 3. How a Dog Can Improve Your Health continued.	Health. 犬を飼うと健康になる？	Pages 22-23.
8	Unit 5. "Cat Library" Offers Purrfect Solution to Stress.	Lifestyle / Health. 猫で職場のストレス解消。	Pages 30-34.
9	Unit 5. "Cat Library" Offers Purrfect Solution to Stress continued.	Lifestyle / Health. 猫で職場のストレス解消。	Pages 34-35.
10	Unit 6. The Evolution of Comic Books in the Digital Age.	Media / Entertainment. デジタルコミックの隆盛。	Pages 36-40.
11	Unit 6. The Evolution of Comic Books in the Digital Age continued.	Media / Entertainment. デジタルコミックの隆盛。	Pages 40-41.
12	Unit 7. Can Drinking Soda Make You Age Faster?	Health. 炭酸飲料と老化の関係。	Pages 42-46.
13	Unit 7. Can Drinking Soda Make You Age Faster? continued.	Health. 炭酸飲料と老化の関係。	Pages 46-47.
14	Unit 8. What You Like on Facebook Could Affect Your Job Search.	Social Media / Job Search. 就活では Like ボタンに気をつけて。	Pages 48-52.
15	Unit 8. What You Like on Facebook Could Affect Your Job Search continued.	Social Media / Job Search. 就活では Like ボタンに気をつけて。	Pages 52-53.

関連科目：メディアイングリッシュ a, b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	CBS NewsBreak 3	Nobuhiro Kumai	Seibido ISBN: 9784791960330
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	辞書		
2			
3			

評価方法（基準）	期末テスト: 30% レポート: 20% 出席授業参加態度: 30% 作文課題 ： 20%
学生へのメッセージ	ベストを尽くすこと！出来る限り英語を話すこと！ あと、出席と授業参加態度も大切です。
担当者の研究室等	７号館２階 非常勤講師室.
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	カレント　イングリッシュ a	科目名（英文）	Current English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	うえ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ニール　カー
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱った、ある程度長くてまとまりのある教材を用い、精読や速読を行う。
到達目標	時事的な話題について書かれた英文を読み、読解力を高めると同時に多角的なものの考え方、教養を身につけることを狙いとする。
授業方法と留意点	必ず予習して出席すること。授業中の応答、学習活動への積極的な参加を重視する。また、毎日必ず新聞を読み、現代社会の動きに注意を払うようにすること。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
2	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
3	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
4	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
5	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
6	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
7	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
8	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
9	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
10	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
11	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
12	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
13	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
14	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	Review	Feedback session	・・・

関連科目	メディアイングリッシュ a, b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Provoke a Response! Critical Thinking though Data Analysis	Stuart Gale and Shunpei Fukuhara	NAN'UN-DO
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	作文課題　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	カレント　イングリッシュ a	科目名（英文）	Current English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	おか
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ルディ　トート
ディプロマポリシー(DP)	DP7○,DP8◎		

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱った、ある程度長くてまとまりのある教材を用い、精読や速読を行う。
到達目標	時事的な話題について書かれた英文を読み、読解力を高めると同時に多角的なものの考え方、教養を身につけることを狙いとする。
授業方法と留意点	必ず予習して出席すること。授業中の応答、学習活動への積極的な参加を重視する。また、毎日必ず新聞を読み、現代社会の動きに注意を払うようにすること。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 1: Doraemon to hit U.S. television this summer 現在完了、過去完了	英語による自己紹介、授業の進め方や評価方法の説明、Unit 1の導入	なし
2	Unit 1: Doraemon to hit U.S. television this summer 現在完了、過去完了	読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な聴解・会話活動を行う。	今回のUnitのリーディング文章を読んでおくこと。
3	Unit 2: Kids suggest hot springs, cuisine for foreigners 引用(発言者、情報源の明示)	小テストを終えてから、読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な聴解・会話活動を行う。	今回の Unit のリーディング文章を（場合によっては一部）読んでみておき、小テストのための復習を行うこと。
4	Unit 2: Kids suggest hot springs, cuisine for foreigners 引用(発言者、情報源の明示)	Unit のまとめ及び復習をしてから、2～3人の学生が関連するテーマについて短い発表をする。発表の後、クラスディスカッションを行う。	今回の Unit のライティング課題を提出すること。発表者は発表を準備すること。
5	Unit 3: Zoo makes wild fashion statement with lion-ripped jeans 受動態と「have＋人＋動詞原形」	小テストを終えてから、読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な聴解・会話活動を行う。	今回の Unit のリーディング文章を（場合によっては一部）読んでみておき、小テストのための復習を行うこと。
6	Unit 3: Zoo makes wild fashion statement with lion-ripped jeans 受動態と「have＋人＋動詞原形」	Unit のまとめ及び復習をしてから、2～3人の学生が関連するテーマについて短い発表をする。発表の後、クラスディスカッションを行う。	今回の Unit のライティング課題を提出すること。発表者は発表を準備すること。
7	Unit 4: German fans bring own sofas to watch World Cup 「with＋（代）名詞＋現在分詞／過去分詞」と「find＋人／物＋形容詞」	小テストを終えてから、読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な聴解・会話活動を行う。	今回の Unit のリーディング文章を（場合によっては一部）読んでみておき、小テストのための復習を行うこと。
8	Unit 4: German fans bring own sofas to watch World Cup 「with＋（代）名詞＋現在分詞／過去分詞」と「find＋人／物＋形容詞」	Unit のまとめ及び復習をしてから、2～3人の学生が関連するテーマについて短い発表をする。発表の後、クラスディスカッションを行う。	今回の Unit のライティング課題を提出すること。発表者は発表を準備すること。
9	Unit 5: Hand-rolled sushi gets Brazilian makeover 現在分詞、過去分詞の形容詞的用法	小テストを終えてから、読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な聴解・会話活動を行う。	今回の Unit のリーディング文章を（場合によっては一部）読んでみておき、小テストのための復習を行うこと。
10	Unit 5: Hand-rolled sushi gets Brazilian makeover 現在分詞、過去分詞の形容詞的用法	Unit のまとめ及び復習をしてから、2～3人の学生が関連するテーマについて短い発表をする。発表の後、クラスディスカッションを行う。	今回の Unit のライティング課題を提出すること。発表者は発表を準備すること。
11	Unit 6: Japanese Brazilian teacher a student favorite 「It is ... to 不定詞」	小テストを終えてから、読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な聴解・会話活動を行う。	今回の Unit のリーディング文章を（場合によっては一部）読んでみておき、小テストのための復習を行うこと。
12	Unit 6: Japanese Brazilian teacher a student favorite 「It is ... to 不定詞」	Unit のまとめ及び復習をしてから、2～3人の学生が関連するテーマについて短い発表をする。発表の後、クラスディスカッションを行う。	今回の Unit のライティング課題を提出すること。発表者は発表を準備すること。
13	Unit 7: Pritzker-winning architect Ban sticks to disaster areas 関係代名詞	小テストを終えてから、読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な聴解・会話活動を行う。	今回の Unit のリーディング文章を（場合によっては一部）読んでみておき、小テストのための復習を行うこと。
14	Unit 7: Pritzker-winning architect Ban sticks to disaster areas 関係代名詞	Unit のまとめ及び復習をしてから、2～3人の学生が関連するテーマについて短い発表をする。発表の後、クラスディスカッションを行う。	今回の Unit のライティング課題を提出すること。発表者は発表を準備すること。
15	まとめ、復習、発表	小テストを終えてから、必要に応じてまだ発表していない学生が短い発表をする。発表の後、クラスディスカッション	小テストのための復習を行うこと。発表者は発表を準備すること。

			を行う。最後に、これまで学んだことのまとめ及び復習をする。	

関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	News Matters 〈Revised Edition〉	兼頭 満里子、他	南雲堂
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	作文課題　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生への メッセージ	授業及び事前・事後学習における態度を重視し、宿題の量・難易度は学生のレベルを考慮するので、心配せずに楽しくがんばっていきましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	カレント　イングリッシュ a	科目名（英文）	Current English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	きく
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	住吉　誠
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱った、ある程度長くてまとまりのある教材を用い、精読や速読を行う。
到達目標	時事的な話題について書かれた英文を読み、読解力を高めると同時に多角的なものの考え方、教養を身につけることを狙いとする。
授業方法と留意点	必ず予習して出席すること。授業中の応答、学習活動への積極的な参加を重視する。また、毎日必ず新聞を読み、現代社会の動きに注意を払うようにすること。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
2	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
3	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
4	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
5	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
6	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
7	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
8	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
9	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
10	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
11	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
12	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
13	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
14	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	Review	Feedback session	・・・

関連科目	メディアイングリッシュ a, b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English for Mass Communication（『時事英語の総合演習』）	堀江　洋文　他	朝日出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	作文課題　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生へのメッセージ	時事的な話題に精通することは、社会に出るための一つのステップです。英語の勉強を通して、社会のさまざまな問題や課題に目をむけ、「大人」と呼ばれるにふさわしい人になりましょう。
担当者の研究室等	７号館４階　住吉研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	カレント　イングリッシュ b	科目名（英文）	Current English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	あい
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	マーティン　オイクル
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱った、ある程度長くてまとまりのある教材を用い、精読や速読を行う。
到達目標	時事的な話題について書かれた英文を読み、読解力を高めると同時に多角的なものの考え方、教養を身につけることを狙いとする。
授業方法と留意点	必ず予習して出席すること。授業中の応答、学習活動への積極的な参加を重視する。また、毎日必ず新聞を読み、現代社会の動きに注意を払うようにすること。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 9. Is Sitting the New Smoking?	Health / Work Environment. 座りっぱなしは体に毒？	Pages 54-58.
2	Unit 9. Is Sitting the New Smoking? continued.	Health / Work Environment. 座りっぱなしは体に毒？	Pages 59-60.
3	Unit 10. Matcha Madness Sparks New Tea Craze.	Food Trend. 抹茶が大人気　その理由は？	Pages 61-65.
4	Unit 10. Matcha Madness Sparks New Tea Craze continued.	Food Trend. 抹茶が大人気　その理由は？	Pages 66-67.
5	Unit 11. Daddy Duty: Stay-at-Home Dads Putting Kids Before Careers.	Gender / Lifestyle. アメリカのイクメン事情。	Pages 68-73.
6	Unit 11. Daddy Duty: Stay-at-Home Dads Putting Kids Before Careers continued.	Gender / Lifestyle. アメリカのイクメン事情。	Pages 74-75.
7	Unit 12. One Man's Journey to Help a Stranger Walk Again	Social Activism / Community. 神からの啓示で見しらぬ友を助ける。	Pages 76-80.
8	Unit 12. One Man's Journey to Help a Stranger Walk Again continued.	Social Activism / Community. 神からの啓示で見しらぬ友を助ける。	Pages 81-82.
9	Unit 13. Slurping to Success: A Look into the Growing American Ramen Culture.	Food / Trend. アメリカでラーメン人気急上昇中。	Pages 83-87.
10	Unit 13. Slurping to Success: A Look into the Growing American Ramen Culture continued.	Food / Trend. アメリカでラーメン人気急上昇中。	Pages 88-89.
11	Unit 14. Peddling Pedaling: Bike become the Latest Peer-to-Peer Success Story.	Business / Trend. 個人間で自転車の貸し借りを仲介するネットビジネス。	Pages 90-95.
12	Unit 14. Peddling Pedaling: Bike become the Latest Peer-to-Peer Success Story continued.	Business / Trend. 個人間で自転車の貸し借りを仲介するネットビジネス。	Pages 95-96.
13	Unit 15. How Companies Are Keeping Handwriting Alive in the Digital Age.	Technology. デジタル時代における手書きのパワー。	Pages 97-103.
14	Unit 15. How Companies Are Keeping Handwriting Alive in the Digital Age continued.	Technology. デジタル時代における手書きのパワー。	Pages 104-105.
15	Special Topic.	Special Topic.	No preparation required.

関連科目：メディアイングリッシュ a, b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	CBS NewsBreak 3	Nobuhiro Kumai	Seibido ISBN: 9784791960330
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	辞書		
2			
3			

評価方法（基準）
期末テスト: 30%
レポート: 20%
出席授業参加態度: 30%
作文課題 : 20%

学生への メッセージ	ベストを尽くすこと！出来る限り英語を話すこと！ あと、出席と授業参加態度も大切です。
担当者の 研究室等	７号館２階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	カレント　イングリッシュｂ	科目名（英文）	Current English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	うえ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ニール　カー
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱った、ある程度長くてまとまりのある教材を用い、精読や速読を行う。
到達目標	時事的な話題について書かれた英文を読み、読解力を高めると同時に多角的なものの考え方、教養を身につけることを狙いとする。
授業方法と留意点	必ず予習して出席すること。授業中の応答、学習活動への積極的な参加を重視する。また、毎日必ず新聞を読み、現代社会の動きに注意を払うようにすること。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
2	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
3	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
4	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
5	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
6	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
7	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
8	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
9	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
10	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
11	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
12	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
13	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
14	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	Review	Feedback session	・・・

関連科目	メディアイングリッシュａ，ｂ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Provoke a Response! Critical Thinking though Data Analysis	Stuart Gale and Shunpei Fukuhara	NAN'UN-DO
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	作文課題　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	カレント　イングリッシュ b	科目名（英文）	Current English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	おか
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ルディ　トート
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱った、ある程度長くてまとまりのある教材を用い、精読や速読を行う。
到達目標	時事的な話題について書かれた英文を読み、読解力を高めると同時に多角的なものの考え方、教養を身につけることを狙いとする。
授業方法と留意点	必ず予習して出席すること。授業中の応答、学習活動への積極的な参加を重視する。また、毎日必ず新聞を読み、現代社会の動きに注意を払うようにすること。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 8: Tokyo 'English Village' to offer language immersion 「be＋to＋動詞原形」	英語による自己紹介、授業の進め方や評価方法の説明、Unit 8 の導入	なし
2	Unit 8: Tokyo 'English Village' to offer language immersion 「be＋to＋動詞原形」	読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な聴解・会話活動を行う。	今回のUnitのリーディング文章を読んでおくこと。
3	Unit 9: Farmer's efforts bearing fruit in Bhutan 不定詞	小テストを終えてから、読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な聴解・会話活動を行う。	今回の Unit のリーディング文章を（場合によっては一部）読んでみておき、小テストのための復習を行うこと。
4	Unit 9: Farmer's efforts bearing fruit in Bhutan 不定詞	Unit のまとめ及び復習をしてから、2～3 人の学生が関連するテーマについて短い発表をする。発表の後、クラスディスカッションを行う。	今回の Unit のライティング課題を提出すること。発表者は発表を準備すること。
5	Unit 10: Simulation of texting at Shibuya crossing goes viral 仮定法	小テストを終えてから、読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な聴解・会話活動を行う。	今回の Unit のリーディング文章を（場合によっては一部）読んでみておき、小テストのための復習を行うこと。
6	Unit 10: Simulation of texting at Shibuya crossing goes viral 仮定法	Unit のまとめ及び復習をしてから、2～3 人の学生が関連するテーマについて短い発表をする。発表の後、クラスディスカッションを行う。	今回の Unit のライティング課題を提出すること。発表者は発表を準備すること。
7	Unit 11: From Swat Valley to Nobel Peace Prize, Pakistani girl moved mountains 動名詞	小テストを終えてから、読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な聴解・会話活動を行う。	今回の Unit のリーディング文章を（場合によっては一部）読んでみておき、小テストのための復習を行うこと。
8	Unit 11: From Swat Valley to Nobel Peace Prize, Pakistani girl moved mountains 動名詞	Unit のまとめ及び復習をしてから、2～3 人の学生が関連するテーマについて短い発表をする。発表の後、クラスディスカッションを行う。	今回の Unit のライティング課題を提出すること。発表者は発表を準備すること。
9	Unit 12: Sign language is 'cool' 分詞構文	小テストを終えてから、読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な聴解・会話活動を行う。	今回の Unit のリーディング文章を（場合によっては一部）読んでみておき、小テストのための復習を行うこと。
10	Unit 12: Sign language is 'cool' 分詞構文	Unit のまとめ及び復習をしてから、2～3 人の学生が関連するテーマについて短い発表をする。発表の後、クラスディスカッションを行う。	今回の Unit のライティング課題を提出すること。発表者は発表を準備すること。
11	Unit 13: App makers snap up 1st wave of Pepper robots ［復習］引用と受動態	小テストを終えてから、読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な聴解・会話活動を行う。	今回の Unit のリーディング文章を（場合によっては一部）読んでみておき、小テストのための復習を行うこと。
12	Unit 14: Learn truth behind ivory, wood: African activist 間接疑問文と強い願望表現「if only」	小テストを終えてから、読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な聴解・会話活動を行う。	今回の Unit のリーディング文章を（場合によっては一部）読んでみておき、小テストのための復習を行うこと。
13	Unit 14: Learn truth behind ivory, wood: African activist 間接疑問文と強い願望表現「if only」	Unit のまとめ及び復習をしてから、2～3 人の学生が関連するテーマについて短い発表をする。発表の後、クラスディスカッションを行う。	今回の Unit のライティング課題を提出すること。発表者は発表を準備すること。
14	Unit 15: U.S. ice bucket craze a hit with celebrities 挿入句	小テストを終えてから、読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な聴解・会話活動を行う。	今回の Unit のリーディング文章を（場合によっては一部）読んでみておき、小テストのための復習を行うこと。
15	Unit 15: U.S. ice bucket craze a hit with celebrities 挿入句	2～3 人の学生が関連するテーマについて短い発表をする。発表の後、クラスディスカッションを行う。最後に、これまで学んだことのまとめ及び復習をする。	今回の Unit のライティング課題を提出すること。発表者は発表を準備すること。

関連科目	メディアイングリッシュ a, b
教科書	

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / News Matters 〈Revised Edition〉 / 兼頭 満里子、他 / 南雲堂 2 / / / / 3 / / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / / 2 / / / / 3 / / / /
評価方法 （基準）	作文課題　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生への メッセージ	授業及び事前・事後学習における態度を重視し、宿題の量・難易度は学生のレベルを考慮するので、心配せずに楽しくがんばっていきましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	カレント　イングリッシュ b	科目名（英文）	Current English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	きく
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	住吉　誠
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱った、ある程度長くてまとまりのある教材を用い、精読や速読を行う。
到達目標	時事的な話題について書かれた英文を読み、読解力を高めると同時に多角的なものの考え方、教養を身につけることを狙いとする。
授業方法と留意点	必ず予習して出席すること。授業中の応答、学習活動への積極的な参加を重視する。また、毎日必ず新聞を読み、現代社会の動きに注意を払うようにすること。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
2	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
3	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
4	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
5	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
6	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
7	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
8	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
9	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
10	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
11	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
12	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
13	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
14	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	Review	Feedback session	・・・

関連科目	メディアイングリッシュ a, b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English for Mass Communication（『時事英語の総合演習』）	堀江　洋文　他	朝日出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	作文課題　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生へのメッセージ	時事的な話題に精通することは、社会に出るための一つのステップです。英語の勉強を通して、社会のさまざまな問題や課題に目をむけ、「大人」と呼ばれるにふさわしい人になりましょう。
担当者の研究室等	７号館４階　住吉研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	観光中国語 a	科目名（英文）	Tourism Chinese a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	孫　輝
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	最近、中国人観光客の増加により、日本観光市場が新しい段階を迎えようとしている。東京だけではなく、関西でも中国人観光客が増え、空港や商店などで中国語を話す声があちこちから聞こえて来る。乗務員や空港スタッフ、旅行案内、ホテルや商店の店員など、いま日本は中国語の話せる人材を大いに必要としている。観光やビジネスで中国語が話せたら、世界はもっと広がろう。 本講義は、中国一番の大都市ー上海をスポットとして、空港、地下鉄に乗る、ショッピング、道を尋ねるなどでよく使われている最新の観光中国語会話を学んでいくことを主眼にしている。また、中国の世界遺産も詳しく紹介する。
到達目標	観光中国語の会話能力を身に付ける。
授業方法と留意点	授業時に、積極的にペア練習と発表を行う。
科目学習の効果（資格）	中国人の観光客を案内する能力を身に付ける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業内容、履修方法、評価方法の紹介、復習課	LOVE！上海１の復習課	授業内容を復習、次の内容を予習する。
2	第１課　虹橋空港にて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
3	第２課　地下鉄に乗って	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
4	第３課　上海の交通は便利です	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
5	第４課　2週間上海にいます	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
6	第 5 課　豫園でショッピング	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
7	復習１、総合練習、小テスト	第５課までの内容を復習する	第５課までの内容を復習、次のの内容を予習する。
8	第６課　道を尋ねる	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
9	第 7 課　オールドジャズバンド	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
10	第 8 課　ジャズバーで飲みながら	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
11	第 9 課　上海人の友達の家で	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
12	第 10 課　朝食後は何をする？	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
13	第 11 課　市場にて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
14	復習２、総合練習、小テスト	第 6 課から第 11 課までの内容を復習する	第 6 課から第 11 課までの内容を復習、発表の内容を準備する。
15	発表会	発表の内容をチャックする	発表の内容を暗唱する

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	LOVE！上海２　初級～中級編	楊凱栄・張麗群	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト、発表、授業に取り組む姿勢などを総合して評価する。 授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	最近中国からの観光客が増えています、この授業で身に付ける観光中国語がいつかどこかで役に立つはずです。
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	事前・事後に各 60 分の学修を要する。 授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	観光中国語ｂ	科目名（英文）	Tourism Chinese b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	孫　輝
ディプロマポリシー(DP)	DP7○,DP8◎		

授業概要・目的	最近、中国人観光客の増加により、日本観光市場が新しい段階を迎えようとしている。東京だけではなく、関西でも中国人観光客が増え、空港や商店などで中国語を話す声があちこちから聞こえて来る。乗務員や空港スタッフ、旅行案内、ホテルや商店の店員など、いま日本は中国語の話せる人材を大いに必要としている。観光やビジネスで中国語が話せたら、世界はもっと広がろう。 本講義は、中国一番の大都市ー上海をスポットとして、空港、地下鉄に乗る、ショッピング、道を尋ねるなどでよく使われている最新の観光中国語会話を学んでいくことを主眼にしている。また、中国の世界遺産も詳しく紹介する。
到達目標	観光中国語の会話能力を身に付ける。
授業方法と留意点	授業時に、積極的にペア練習と発表を行う。
科目学習の効果（資格）	中国人の観光客を案内する能力を身に付ける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業内容、履修方法、評価方法の紹介、第 12 課　上海人も好きです	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
2	第 13 課　日本料理を食べてみたい	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
3	第 14 課　お寺に興味はありますか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
4	第 15 課　日本料理を食べて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
5	復習 3、総合練習、小テスト	第 12 課から第 15 課までの内容を復習する	授業内容を復習、次の内容を予習する。
6	第 16 課　散歩から帰って	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
7	第 17 課　列車のチケット	単語、本文、文法、練習	第 5 課までの内容を復習、次のの内容を予習する。
8	第 18 課　周庄は遠いですか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
9	第 19 課　帰国前のひととき	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
10	復習 4 、総合練習、小テスト	第 16 課から第 19 課までの内容を復習する	授業内容を復習、次の内容を予習する。
11	第 20 課　留学したいですか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
12	第 21 課　何時に出発しますか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
13	第 22 課　また来てください	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
14	復習 5、総合練習、小テスト	第 20 課から第 22 課までの内容を復習する	発表の内容を準備する。
15	発表会	発表の内容をチャックする	発表の内容を暗唱する

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	LOVE！上海２　初級～中級編	楊凱栄・張麗群	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト、発表、授業に取り組む姿勢などを総合して評価する。 授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	最近中国からの観光客が増えています、この授業で身に付ける観光中国語がいつかどこかで役に立つはずです。
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	韓国語Ⅱａ	科目名（英文）	Korean IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	千　英子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	韓国語は日本語と酷似しており、日本語を話す人には学習しやすい言語である。本授業は初めて韓国語を学ぶ人のために、初歩的な日常会話の能力を養成することを目指している。授業中に学んだ会話パターンや熟語などを用いて会話練習を行なうことで、学習者が主体になって会話できるように指導する。ネイティブ先生による指導によって、韓国語の会話能力を一歩一歩確実に養ってゆこうというねらいである。
到達目標	韓国語の文字、発音と基礎的な文法事項を習得する、
授業方法と留意点	教科書を中心に、ロールプレー（Role Play）も行なう。必要に応じてビデオ・CD も活用しながら、k-pop や韓国ドラマも紹介する。毎回の講義では日常生活における様々な場面を想定した会話を学習し、常に会話の内容と関わる文法や発音の説明を加えながら授業を行なう。
科目学習の効果（資格）	韓国語の勉強はもとより、韓国社会と文化への理解を深める良い機会になる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	韓国語とは	韓国語の歴史、文字構成	テキストｐ．１－２
2	ハングル文字について	基本母音	テキストＰ．３－４
3	ハングル文字について	複合母音	テキストｐ．５－６
4	ハングル文字について	子音（平音）	テキストｐ．７－８
5	ハングル文字について	子音（濃音、激音）	テキストｐ．９－１０
6	パッチム	文字と発音	テキストｐ．１１－１２
7	発音規則について	連音化、濃音化	プリント配布
8	発音規則について	激音化、鼻音化、流音化	プリント配布
9	まとめ	前半のまとめ、小テスト、韓国ドラマ鑑賞	テキストｐ．１４－１５
10	出会い	単語、文法	テキストｐ．１６－１７
11	出会い	文法、本文	テキストｐ．１８－１９
12	自己紹介	単語、文法	テキスト　Ｐ．２０－２１
13	自己紹介	文法、本文	プリント配布
14	前期のまとめ、交流会	韓国留学生と韓国語で会話の練習をしながら交流する。 前期の内容について、総合的な復習をする。	プリントの配布
15	韓国ドラマの鑑賞	韓国ドラマの鑑賞、質疑回答	後期試験の準備

関連科目：韓国語初級

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	みんなで学ぶ韓国語　会話編	金真　など	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業参加状況、講義時の対応、小テストの成績などを総合的に評価する。 定期試験６０％、小テスト２０％、授業への積極性 20%（予習・復習・出席状況など）を目安とする。
学生へのメッセージ	韓国語を多言語の一つとして選択し、就職活動への活用はもとより、日韓を中心とした東アジア経済圏の発展における主役になることを期待します。日ごろの学習の成果を発表するスピーチコンテストも開催し、韓国の留学生を招いて、日韓両国の文化について教えあう交流会も行います。安価で韓国へ渡航して、学んだ韓国語を直接体験したり、確認したりすれば、大学生活の最高の思い出になるでしょう！
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	授業中に指示する。

科目名	韓国語Ⅱａ	科目名（英文）	Korean IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	２
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	沈　明姫
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	不慣れな姿のハングルを知り韓国語を学ぶことで、日本語と韓国語のもつ類似点、そして同じ漢字文化圏なので、様々な言葉や表現の共通点を発見することが出来る。隣の国、韓国を真の意味で近い国として実感し、韓国の歴史や文化に興味を深めることと、両国がより近い関係に回復できるきっかけとなってほしいと望みます。外国語である日本語を習得する過程から得られた私の経験を踏まえ、初めて韓国語を学習する人でも楽しくやさしく学ぶことが出来るように心掛けます。
到達目標	１．韓国語の文字であるハングルの読み、書きが出来るようになる。 ２．ハングルで自分の名前を覚える。 ３．簡単な挨拶や自己紹介が出来るようになる。
授業方法と留意点	教科書とプリントを配布して授業を行う。必要に応じてビデオ・CD も活用しながら、k-pop や韓国映画、ドラマも紹介する。
科目学習の効果（資格）	韓国語の勉強はもとより、韓国社会と文化への理解を深める良い機会になる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	韓国語について	韓国語の歴史、文字構成を説明。 授業の進め方についてのガイダンス及び、 受講生の希望を伺うなど、韓国語をめぐる受講生とのコミュニケーション。	特になし
2	ハングル文字について	基本母音字	テキストP．１６－１９
3	ハングル文字について	基本子音字	テキスト．２０－２７
4	ハングル文字について	複合母音字	テキストｐ．２８－３２
5	ハングル文字について	激音、濃音について。 自分の名前と家族や友達の名３をハングルで書いてみる	テキストｐ．３０－３９
6	ハングル文字について	バッチムについて。	テキストｐ．４０－４７
7	ハングル文字総合まとめ	ハングルを覚える際に使っていた単語を覚える。 韓国で使われている外来語を読んで、意味を予測してみたり、日本語との発音の違い調べてみる。	テキストｐ．１６－４７
8	ハングル文字総合まとめ	中間単語テスト	中間単語テスト勉強
9	韓国の映画を見て、耳から聞こえる韓国語を感じる	「カンナさん大成功です！」	映画の中から聞き取れた韓国語を5つ以上ノートに書く。
10	韓国の映画を見て、耳から聞こえる韓国語を感じる	「カンナさん大成功です！」	映画の中から聞き取れた韓国語を5つ以上ノートに書く。
11	基本的な助詞をまなぶ。	文字を勉強する際に覚えた単語を使って、短い作文をしながら、助詞を勉強する。	宿題；各助詞を使った作文を書いて次回の授業時間に提出する。
12	第６課　こんにちは。	基本的な挨拶と簡単な自己紹介。	テキスト　P．５２－５４
13	第６課　こんにちは。	職業は何ですか？ 用言の終止形	テキスト　p．５５－５９
14	前期総合まとめ	ハングル文字の復習 前期授業の中で出てきた単語全てを整理して覚える。 前期定期試験の準備	テキスト　ｐ．１６－５９
15	まとめ	前期定期試験	前期定期試に備えての勉強

関連科目：韓国語基礎会話

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	美しい韓国語　１－１初級　教科書	韓国語教育開発研究院	EKO ランゲージセンター
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業参加状況、講義時の対応、小テスト 50% 総合試験 50%
学生へのメッセージ	楽しく韓国語を習いましょう。積み重ねが大切ですので遅刻・欠席しないでください。安価で韓国へ渡航して、授業で学んだ韓国語を直接体験したり、確認したりすれば、大学生活の最高の思い出になるでしょう！
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	simmh71@yahoo.co.jp

科目名	韓国語Ⅱｂ	科目名（英文）	Korean IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	千　英子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	日韓交流の発展に伴ない、韓国語ができる人材がたくさん必要になるだろう。本授業では前期に引き続き、日常会話の能力を養成することを目指している。授業中に学んだ会話パターンや熟語などを用いて会話練習を行ない、ネイティブ先生による指導によって、韓国語の会話能力を一歩一歩確実に養ってゆこうというねらいである。学期の終わりには韓国語で簡単な韓国ドラマを理解できるようになるだろう。
到達目標	韓国語の基礎的な文法を習得しつつ、初歩的な言語能力を育成する。
授業方法と留意点	教科書を中心に、ロールプレー（Role Play）も行なう。必要に応じてビデオ・CD も活用しながら、K-POP や韓国ドラマも紹介する。毎回の講義では日常生活における様々な場面を想定した会話を学習し、常に会話の内容と関わる文法や発音の説明を加えながら授業を行なう。
科目学習の効果（資格）	韓国語の勉強はもとより、韓国社会と文化への理解を深める良い機会になる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	日課	単語、文法	テキストｐ．２２－２５
2	日課	文法、本文	テキストｐ．２６－２８
3	道で	単語、本文	テキストｐ．２９
4	道で	単語、文法	テキストｐ．３０－３１
5	お店で	単語、文法	テキストｐ．３２－３３
6	お店で	文法、本文	テキストｐ、３４－３５
7	電話で約束	単語、文法	テキストｐ．３６－３７
8	電話で約束	文法、本文	テキストｐ．３８－３９
9	まとめ	前半のまとめ、小テスト、韓国ドラマの鑑賞	プリント配布
10	食堂で	単語、本文、練習	テキストｐ．４０－４３
11	食堂で、友達の紹介	文法、本文	テキストP.44-46
12	友達の紹介、冬休みの計画	文法、本文、練習	テキスト　Ｐ．４７－５０
13	冬休みの計画、休み中の出来事	単語、文法、本文	テキスト　P,52-53
14	前期・後期のまとめ	日韓における言語と文化の類似性と相違性に関して	小テストの準備
15	前期・後期のまとめ	韓国ドラマの鑑賞、まとめ	定期試験の準備

関連科目：韓国語初級

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	みんなで学ぶ韓国語　会話編	金真　など	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業参加状況、講義時の対応、小テストの成績などを総合的に評価する。 定期試験６０％、小テスト２０％、授業への積極性 20%（予習・復習・出席状況など）を目安とする。
学生へのメッセージ	韓国語を多言語の一つとして選択し、就職活動への活用はもとより、日韓を中心とした東アジア経済圏の発展における主役になることを期待します。日ごろの学習の成果を発表するスピーチコンテストも開催し、韓国の留学生を招いて、日韓両国の文化について教えあう交流会も行います。安価で韓国へ渡航して、授業で学んだ韓国語を直接体験したり、確認したりすれば、大学生活の最高の思い出になるでしょう！
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	授業中に指示する。

科目名	韓国語Ⅱｂ	科目名（英文）	Korean IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	２
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	沈　明姫
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	ハングル入門Ⅰを終了した程度の実力を持つ人を対象とします。ハングルの読み、書きが出来る能力を身につけたうえ、特に現代韓国社会で広く使われている表現や慣用句を、現代の韓流文化を交えて基本的な日常会話を導入し、即席で応用を広げ、ネイティブ講師ならではの長所を生かす実用的な韓国語の習得を心がけます。 一年間を通して基本的な韓国語を読んで、聞いて、話せるようになり、ハングル入門Ⅰ・Ⅱを履修後もさらに韓国語を続けたいという意欲を掻き立てることが出来ればと思います。
到達目標	１．韓国語の初級文法を理解し、旅行に役立つ程度の会話が出来るようになる。 ２．２００文字以上の自己紹介の作文が出来るようになる。
授業方法と留意点	教科書とプリントを配布して授業を行う。必要に応じてビデオ・CD も活用しながら、k-pop や韓国映画、ドラマも紹介する。
科目学習の効果（資格）	韓国語の勉強はもとより、韓国社会と文化への理解を深める良い機会になる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第７課　はじめまして。	国の名前、言語について学び、読み書きが出来るようにする。	テキスト　p．６３、プリント
2	第７課　はじめまして。	どの国の人ですか？ ーではありません。 助詞　ーは、ーがについて練習。	テキスト p．６２－６４
3	第７課　はじめまして。	前回の授業で新しく学んだ単語の小テスト。 初対面の人に挨拶と自己紹介する。 人を紹介する時の言い方を学ぶ。	単語の小テスト勉強 テキスト　p．６５－６８
4	第８課　これは何ですか？	前回の授業で新しく学んだ単語の小テスト。 これ、それ、あれの指示代名詞について学ぶ。 家族構成員について学ぶ。	単語の小テスト勉強 テキスト　p．７０－７２ 次回の授業中会話練習用の、日常で使う頻度の高い物を用意して来る。
5	第８課　これは何ですか？	前回の授業で新しく学んだ単語の小テスト。 日常で使う頻度の高い物を用意し、これは何ですか？の会話を練習する。 所有格助詞ーのについて学ぶ。	単語の小テスト勉強 テキスト　p．７３－７７
6	第８課　これは何ですか？ 第９課　週末に何をしますか？	前回の授業で新しく学んだ単語の小テスト。 テキストｐ．７９　私の家族を勉強し、「自分の家族」について韓国語で作文をし、提出する。	単語の小テスト勉強 テキスト　p．７９
7	韓国映画を見ながら言葉や文化になれる。	「カンナさん大成功」	映画を見ながら聞き取れた韓国語を5つノートに書き、意味を調べる。
8	韓国映画を見ながら言葉や文化になれる。	「カンナさん大成功」	映画を見ながら聞き取れた韓国語を5つノートに書き、意味を調べる。
9	第９課　週末に何をしますか？	助詞ーを、ーにを使って作文をする。 日常でよく使う動詞２０個を覚え、その終止形の活用について学ぶ。 “ーと一緒に”という言い方を練習する。	テキスト　p．８２－８７
10	第９課　週末に何をしますか？	前回の授業で新しく学んだ単語の小テスト。 いつ、誰と、何を、しますか？ について多数の例文を用いて練習をし、作文をする。	単語の小テスト勉強 テキスト　p．８８－９１
11	第１０課　ここはどこですか？どこに何がありますか？	前回の授業で新しく学んだ単語の小テスト。 漢数字について学び、漢数字を用いて数える単位を付けて練習する。 位置を表す名詞を学ぶ。	単語の小テスト勉強 テキスト　p．９４－１０１
12	第１０課　ここはどこですか？どこに何がありますか？	前回の授業で新しく学んだ単語の小テスト。 固有数字について学び、固有数字を用いて数える単位を付けて練習する。 時計の読み方を練習する。	単語の小テスト勉強 テキスト　p．９４－１０１
13	第１１課　電話番号は何番ですか？	時計の読み方のテストをする。 数字がスムーズに言えるように練習する。 助詞ーは、ーも、ーのみの使い方を練習する。	時計の読み方を練習する。 テキスト　p．１０４－１１１
14	後期総合まとめ	後期授業の中で勉強した全ての単語をテストする。 後期授業の内容整理し、復習をする。 後期定期試験の対策。	後期授業の中で勉強した単語を覚える。 テキスト　p．６２－１１１
15	まとめ	後期定期試験	後期定期試験の勉強

関連科目	韓国語基礎会話
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	美しい韓国語　１－１　初級　教科書	韓国語教育開発研究院	EKO ランゲージセンター
	2			
	3			
評価方法 （基準）	授業参加状況、講義時の対応、小テスト 50% 総合試験 50%			
学生への メッセージ	楽しく韓国語を学びましょう。語学がまじめに積み重ねる他方法がありませんので、遅刻・欠席しない用に頑張りましょう。 韓国旅行や韓国のテレビ番組などを通して、授業で学んだ韓国語が役立つという実感があれば、もしくは将来的に就職活動にまで生かすことが出来れば、最高でしょう！			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)			
備考	simmh71@yahoo.co.jp			

科目名	韓国語Ⅲａ	科目名（英文）	Korean IIIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北島　由紀子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	初級授業で習得した韓国語の知識を確認し、さらに日常会話でよく使う表現や文法を新たに学んでいく。 韓国語を運用する上で不可欠な基本的文法事項を確認しながら、特に読み書きに重点をおいて進めていく。 授業スケジュールは目安であり、学習進度、習熟度に合わせて調整する。
到達目標	日常会話で使える様々な韓国語の基本表現を身につける
授業方法と留意点	教科書に基づいて文法説明を加えつつ、講読、作文練習等を行う。欠席すると次回の受講に困難をきたすので、なるべく欠席しないこと。
科目学習の効果（資格）	韓国語の基礎的知識や様々な表現を習得しながら、語学を通して韓国への理解を深めることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	基礎構文の復習１	語尾表現の復習	教科書　６課、８課
2	基礎構文の復習２	過去形	教科書　１３課
3	「～してください」	依頼の表現	教科書　１７課
4	「～しても良いですか」	許可をする、許可を求める表現	教科書　１８課
5	「～しなければなりません」	義務の表現	教科書　１９課
6	文法確認	文法確認	既習文法の確認
7	「～しましょう」	勧誘	教科書　１４課
8	「～しています」	現在進行形	教科書　１５課
9	「～できます」・「～できません」	可能・不可能	教科書　１６課
10	「～したいです」	意志・感情を表す表現	教科書　１７課
11	「～しないでください」	禁止の表現	教科書　１８課
12	「～するつもりです」・「～と思います」	意志・推量の表現	教科書　１９課　、２０課
13	文の練習	簡単な作文・読解	――――
14	既習文法の総確認	既習文法の総確認	――――
15	韓国語の実際	韓国のドラマを見る	――――

関連科目：韓国語関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎から学ぶ韓国語講座　初級　改訂版	木内明	国書刊行会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点 40 パーセント、授業時の各種テスト 60 パーセントで評価
学生へのメッセージ	日常韓国語の運用能力を高めながら、授業を通じて語学を学ぶことの楽しさを感じてもらえれば良いと思います。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	連絡事項がある時は事務室を通して連絡

科目名	韓国語Ⅲｂ	科目名（英文）	Korean IIIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北島　由紀子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	前期に引き続き、韓国語の様々な表現、文法を学習する。様々な表現を含む、ある程度長いまとまった文の「読む・書く」能力を養う。授業スケジュールは目安であり、学習進度、習熟度に合わせて調整する。
到達目標	日常会話で使う様々な表現を学習し、活用できるように練習をしていく。
授業方法と留意点	文法説明を加えつつ、講読、作文練習等を行う。欠席すると次回の受講に困難をきたすので、なるべく欠席しないこと。辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	韓国語の様々な表現を学びながら、文章読解やある程度まとまった文を作れるようになることを目指す。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	復習１	前期の復習	既習の単語、文法の復習
2	復習２	前期の復習	既習の単語、文法の復習
3	用言文（変格活用）	変格活用の用言	教科書　ｐ１７４、１７５
4	用言文（変格活用）	変格活用の用言	教科書　ｐ１７６、１７７
5	連体形１	形容詞の連体形	教科書ｐ．１７８　およびプリントを使って、形容詞の連体形を学習
6	連体形２	動詞・存在詞の現在連体形	形容詞と動詞の連体形を区別できるようにしておくこと。
7	連体形３	動詞・存在詞の過去連体形	動詞の連体形を時制で区別できるようにしておくこと。
8	連体形４	動詞・存在詞の未来連体形	動詞の連体形を時制で区別できるようにしておくこと。
9	既習文法の確認	既習文法の確認	既習文法の確認
10	「～して」・「～なので」	文の接続（並列・理由）	接続詞の使い方を理解し、ある程度長い文を作れるように。
11	「～であるが」	文の接続（逆説）	接続詞の使い方を理解し、ある程度長い文を作れるように。
12	「～なので」	文の接続（理由）	接続詞の使い方を理解し、ある程度長い文を作れるように。
13	文の練習	ある程度まとまった文の購読・作文	ある程度の長さをもつ文章の読解
14	総合確認	総合確認	これまでの全ての既習文法、特に連体形、接続の文法を使った韓国語作文
15	韓国語の実際	韓国のドラマを見る。	韓国語の文法、フレーズを確認する

関連科目：韓国語関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎から学ぶ韓国語講座　初級　改訂版	木内明	国書刊行会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

評価方法（基準）	平常点 40 パーセント、授業時の各種テスト 60 パーセントで評価
学生へのメッセージ	これまでの韓国語の授業で培った能力を伸ばすため、より意欲的に学習してほしいと思います。韓国のドラマや歌なども使って、習得した知識を確認できる機会も持ちたいと思います。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	前半の数回は教科書も使うが、多くはプリントでの学習となる。 連絡事項がある時は事務室を通して連絡

科目名	歓待の哲学	科目名（英文）	Philosophy of Hospitality
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森本　誠一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	2020 年のオリンピック開催地を決める最終プレゼンテーションを機に「おもてなし」ということばが広く使われるようになりました。2013 年の新語・流行語大賞には「お・も・て・な・し」が選ばれました。なぜいまおもてなしが問題となるのか、15 回の授業を通じてさまざまな角度から考察します。また、グローバルな時代にあって私たちに求められる人間関係とはどのようなものなのか、そのあり方を考えます。
到達目標	物事を相手の立場に立って考えられるようになること。
授業方法と留意点	この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業を進めていきます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、毎回の授業に出席しなければ学修の効果は薄いでしょう。また、授業の終わりに毎回リフレクションシートを提出してもらい、第２回目以降の授業では冒頭でそれを取り上げます。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握する。授業の進め方、成績評価の方法・基準についても確認する。	シラバスをしっかり読んでから授業に出席しましょう。また授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態にしておきましょう。
2	巡礼と歓待	巡礼と歓待の関係について学修します。	授業中に指示します。
3	商業主義とホスピタリティー	歓待、ホスピタリティー、おもてなし。歓待と同じような意味で使われることばはいろいろありますが、近年、サービス業の世界では「ホスピタリティー」「おもてなし」が注目されています。この回では、企業の研修に用いられている資料などをもとに、ホスピタリティーについて考えます。	授業中に指示します。
4	歓待で成り立つ社会（1）	日本は超高齢社会にあって、資本主義、商業主義だけではとても社会がまわらない状況にあります。第４回は、超高齢社会を手がかりに、歓待があることではじめて成り立つ社会の構造について学修します。	授業中に指示します。
5	歓待で成り立つ社会（2）	超高齢社会の背景には、私たちの寿命が伸びてきたということもありますが、女性の社会進出や経済的な理由により子どもを産んで育てにくい社会になってきたということもあります。第５回は、少子化の問題に焦点を当て歓待について考えます。	授業中に指示します。
6	猜疑心と歓待（1）	世の中が猜疑心、不安、敵意に満ちたものになったらどうなるでしょうか。第６回と第７回の授業では、人狼というゲームを通じて猜疑心、不安、敵意に満ちた社会で過ごすことがどのようなものなのか、またそれがどのような結果へと通じるのかを体験し学修します。第６回の授業ではゲームのルールと授業の趣旨について確認します。	授業中に指示します。
7	猜疑心と歓待（2）	世の中が猜疑心、不安、敵意に満ちたものになったらどうなるでしょうか。第６回と第７回の授業では、人狼というゲームを通じて猜疑心、不安、敵意に満ちた社会で過ごすことがどのようなものなのか、またそれがどのような結果へと通じるのかを体験し学修します。第７回の授業では実際にゲームを体験します。	授業中に指示します。
8	中間のふり返り	前回までの内容をひと通り理解し、各回のテーマがどのようにつながっていたのかを再確認します。不明な点があれば質疑応答により解決します。	授業中に指示します。
9	想像の共同体	私たちは味方とそうでないものをどのようにして分けているのでしょうか。	授業中に指示します。
10	寛容と歓待	何ごとにつけても「グローバル」ということがしきりに言われるようになってきましたが「グローバルな視点」とはどのような視点なのでしょうか、また「グローバルな人間」とはどのような人間なのでしょうか。この回では、多様な価値観を認め受け入れる寛容さを手がかりに歓待について考えます。	授業中に指示します。
11	手仕事と歓待（1）	大量生産、大量消費の時代にあって、私たちの周りにはいつどこで誰がどのようにして作ったのかも分からない製品があふれかえっています。それは私たちが毎日口にする食べ物についても同様です。第 11 回と第 12 回の授業では手仕	授業中に指示します。

		事と歓待の関係について学修します。	
12	手仕事と歓待（２）	大量生産、大量消費の時代にあって、私たちの周りにはいつどこで誰がどのようにして作ったのかも分からない製品があふれかえっています。それは私たちが毎日口にする食べ物についても同様です。第 11 回と第 12 回の授業では手仕事と歓待の関係について学修します。	授業中に指示します。
13	歓待と報酬	第 3 回の授業ではサービス業における歓待がテーマでした。そもそも歓待、ホスピタリティー、おもてなしといったものは、見返りがあるから提供されたりその精神が発揮されたりするものなのでしょうか。この回では、動物行動学、進化経済学の知見などをもとに歓待と報酬の関係について学修します。	授業中に指示します。
14	無条件の命法としての歓待	目の前に困っている人がいたら、無条件に助けなければという感情を抱くことがあるでしょう。これまでの授業で学修したことを踏まえ、無条件の命法という観点から歓待について考えます。	授業中に指示します。
15	まとめ、全体のふり返り	これまでの授業をふり返りながら、各回の授業が全体としてどのようにつながっていたのかを確認します。成績評価の方法・基準についても再確認します。	これまでの授業で学修したことをしっかり復習して授業に参加しましょう。授業を受けたあとは改めて授業全体をふり返りながら期末試験に向けて準備をしましょう。

関連科目

基礎、教養科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

この授業は授業内課題（リフレクションシート）30%、期末試験 70%で評価します。

学生へのメッセージ

決して堅苦しい雰囲気の授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。

担当者の研究室等

この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメイルにて受け付けます。

7 号館 2 階 非常勤講師室

メールアドレス：xmorimse[*]edu.setsunan.ac.jp
（[*]を半角の@に置き換え）

備考

科目名	基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Second Year Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤　安以子.天野　貴史.門脇　薫
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	専攻言語別にクラスを設け、1 年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。
到達目標	・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話を聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】3 名の教員が 5 回ずつ授業を担当する（計 15 回）。 各教員は、3、４年次のゼミで行うような専門的な内容について、わかりやすく実践する。 具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 3 名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。 【事前事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 （合計 30h）
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	このグループの担当予定者は以下のとおりです。 1－　5 週目　Saito 6－10 週目　天野先生 11－15 週目　門脇先生
担当者の研究室等	各研究室（７号館３～５階）
備考	

科目名	基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Second Year Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	住吉　誠.後藤　一章.田中　悟
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	専攻言語別にクラスを設け、1 年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。
到達目標	・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話を聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】3 名の教員が 5 回ずつ授業を担当する（計 15 回）。 各教員は、3、４年次のゼミで行うような専門的な内容について、わかりやすく実践する。 具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 3 名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。 【事前事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 （合計 30h）
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 4 階　住吉　研究室 7 号館 4 階　田中悟　研究室 7 号館 5 階　後藤　研究室
備考	

科目名	基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Second Year Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西川　眞由美.赤澤　春彦.皆本　智美
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	専攻言語別にクラスを設け、1 年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。
到達目標	・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話を聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】3 名の教員が 5 回ずつ授業を担当する（計 15 回）。 各教員は、3、４年次のゼミで行うような専門的な内容について、わかりやすく実践する。 具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 3 名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。 【事前事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 （合計 30h）
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	各研究室（７号館３～５階）
備考	

科目名	基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Second Year Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤　一章.岩間　香.手代木　功基
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	専攻言語別にクラスを設け、1 年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。
到達目標	・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話を聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】3 名の教員が 5 回ずつ授業を担当する（計 15 回）。 各教員は、3、４年次のゼミで行うような専門的な内容について、わかりやすく実践する。 具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 3 名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。 【事前事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 （合計 30h）
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	各研究室（７号館３～５階）
備考	

科目名	基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Second Year Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中　秀毅.有馬　善一.門脇　薫
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	専攻言語別にクラスを設け、1 年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。
到達目標	・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話を聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】3 名の教員が 5 回ずつ授業を担当する（計 15 回）。 各教員は、3、４年次のゼミで行うような専門的な内容について、わかりやすく実践する。 具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 3 名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。 【事前事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 （合計 30h）
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	専門の入門的な内容を理解し、それについて自分で調べたり、発表したりできるようになりましょう。
担当者の研究室等	田中（秀）研究室（７号館４階） 門脇研究室（７号館４階） 有馬研究室（７号館４階）
備考	

科目名	基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Second Year Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	天野　貴史.鈴木　大介.橋本　正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	専攻言語別にクラスを設け、1 年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。
到達目標	・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話を聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】3 名の教員が 5 回ずつ授業を担当する（計 15 回）。 各教員は、3、４年次のゼミで行うような専門的な内容について、わかりやすく実践する。 具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 3 名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。 【事前事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 （合計 30h）
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	各研究室（７号館３～５階）
備考	

科目名	基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Second Year Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松田　早恵.小川　豊生.鳥居　祐介
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	専攻言語別にクラスを設け、1 年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。
到達目標	・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話を聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】3 名の教員が 5 回ずつ授業を担当する（計 15 回）。 各教員は、3、４年次のゼミで行うような専門的な内容について、わかりやすく実践する。 具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 3 名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。 【事前事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 （合計 30h）
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	1～5 回　松田研究室（７号館５階） 6～10 回　鳥居研究室（7 号館 3 階） １１～15 回　小川研究室（7 号館 4 階）
備考	

科目名	基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Second Year Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大原関　一浩.柴田　陽一.家口　美智子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	専攻言語別にクラスを設け、1 年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。
到達目標	・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話を聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】3 名の教員が 5 回ずつ授業を担当する（計 15 回）。 各教員は、3、４年次のゼミで行うような専門的な内容について、わかりやすく実践する。 具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 3 名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。 【事前事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 （合計 30h）
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	各教員研究室（７号館３～５階）
備考	

科目名	基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Second Year Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉村　征洋.中島　直嗣.林田　敏子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	専攻言語別にクラスを設け、1 年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。
到達目標	・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話を聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】3 名の教員が 5 回ずつ授業を担当する（計 15 回）。 各教員は、3、４年次のゼミで行うような専門的な内容について、わかりやすく実践する。 具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 3 名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。 【事前事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 （合計 30h）
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	各研究室（７号館３～５階）
備考	

科目名	基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Second Year Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林田　敏子.神崎　舞.杉浦　秀行
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	専攻言語別にクラスを設け、1 年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。
到達目標	・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話を聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】3 名の教員が 5 回ずつ授業を担当する（計 15 回）。 各教員は、3、４年次のゼミで行うような専門的な内容について、わかりやすく実践する。 具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 3 名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。 【事前事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 （合計 30h）
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	各研究室（７号館３～５階）
備考	

科目名	基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Second Year Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	門脇　薫.浅野　英一.田浦　アマンダ
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	1 年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。
到達目標	・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話を聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	5 回を 1 名の教員が担当する。したがって、全部で 3 名の教員が担当する。 各教員は、3、４年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。 具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	3 名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。 ＊事前事後学習課題 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 （合計 30h）
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、３年次に進級できない。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	門脇研究室（７号館４階）
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Second Year Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本　正俊.大原関　一浩.フーパー　トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	専攻言語別にクラスを設け、1 年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。
到達目標	・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話を聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】3 名の教員が 5 回ずつ授業を担当する（計 15 回）。 各教員は、3、４年次のゼミで行うような専門的な内容について、わかりやすく実践する。 具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 3 名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。 【事前事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 （合計 30h）
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	各研究室（７号館３～５階）
備考	

科目名	基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Second Year Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小川　豊生. マイケル　ハーキー. 松田　早恵
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	専攻言語別にクラスを設け、1 年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。
到達目標	・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話を聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】3 名の教員が 5 回ずつ授業を担当する（計 15 回）。 各教員は、3、４年次のゼミで行うような専門的な内容について、わかりやすく実践する。 具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 3 名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。 【事前事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 （合計 30h）
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館４階小川研究室
備考	

科目名	基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Second Year Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山口　真佐夫.上田　達.浦野　崇央
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	専攻言語別にクラスを設け、1 年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。
到達目標	・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話を聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】3 名の教員が 5 回ずつ授業を担当する（計 15 回）。 各教員は、3、４年次のゼミで行うような専門的な内容について、わかりやすく実践する。 具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 3 名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。 【事前事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 （合計 30h）
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館５階　山口室
備考	

科目名	基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Second Year Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中西　正樹.瀬戸　宏.兪　鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	専攻言語別にクラスを設け、1 年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。
到達目標	・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話を聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】3 名の教員が 5 回ずつ授業を担当する（計 15 回）。 各教員は、3、４年次のゼミで行うような専門的な内容について、わかりやすく実践する。 具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 3 名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。 【事前事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 （合計 30h）
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	中西研究室（７号館３階）
備考	

科目名	基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Second Year Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	兪　鳴蒙.瀬戸　宏.中西　正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	専攻言語別にクラスを設け、1 年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。
到達目標	・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話を聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】3 名の教員が 5 回ずつ授業を担当する（計 15 回）。 各教員は、3、４年次のゼミで行うような専門的な内容について、わかりやすく実践する。 具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 3 名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。 【事前事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 （合計 30h）
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館３階・兪研究室
備考	

科目名	基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Second Year Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	篠原　愛人.安達　直樹.北條　ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	1 年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。
到達目標	・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話を聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	5 回を 1 名の教員が担当する。したがって、全部で 3 名の教員が担当する。 各教員は、3、４年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。 具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	3 名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。 ＊事前事後学習課題 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 （合計 30h）
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、３年次に進級できない。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	各研究室（７号館５階）
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Second Year Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北條　ゆかり.安達　直樹.篠原　愛人
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	専攻言語別にクラスを設け、1 年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。
到達目標	・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話を聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】3 名の教員が 5 回ずつ授業を担当する（計 15 回）。 各教員は、3、４年次のゼミで行うような専門的な内容について、わかりやすく実践する。 具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 3 名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。 【事前事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 （合計 30h）
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	北條・篠原・安達研究室（７号館５階）
備考	

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	皆本　智美.小川　豊生.後藤　一章
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	1年次および2年次前期のゼミや授業で身に付けた「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語や文化に関する、より専門的な内容のゼミ（当科目）を通して、さらに向上させることを目的とする。
到達目標	・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話を聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また、文章で論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】 ・３名の教員が５回ずつ授業を担当する（計15回）。 ・各教員は、3、４年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。 ・具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 ・３名の教員が、それぞれのゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 ・受講生は教員の指示に従って、課題の発表や提出を行う。 【事前・事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した課題・発表等の準備をする。 （合計30h）
関連科目	基礎演習Ⅰなど

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	各研究室（７号館３～５階）
備考	

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鈴木　大介.柴田　陽一.田浦　アマンダ
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	1年次および2年次前期のゼミや授業で身に付けた「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語や文化に関する、より専門的な内容のゼミ（当科目）を通して、さらに向上させることを目的とする。
到達目標	・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話を聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また、文章で論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】 ・３名の教員が５回ずつ授業を担当する（計15回）。 ・各教員は、3、４年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。 ・具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 ・３名の教員が、それぞれのゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 ・受講生は教員の指示に従って、課題の発表や提出を行う。 【事前・事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した課題・発表等の準備をする。 （合計30h）
関連科目	基礎演習Ⅰなど
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	各研究室（７号館３～５階）
備考	

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	家口　美智子.赤澤　春彦.上田　達
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	1年次および2年次前期のゼミや授業で身に付けた「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語や文化に関する、より専門的な内容のゼミ（当科目）を通して、さらに向上させることを目的とする。
到達目標	・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話を聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また、文章で論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】 ・３名の教員が５回ずつ授業を担当する（計15回）。 ・各教員は、3、４年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。 ・具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 ・３名の教員が、それぞれのゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 ・受講生は教員の指示に従って、課題の発表や提出を行う。 【事前・事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した課題・発表等の準備をする。 （合計30h）
関連科目	基礎演習Ⅰなど
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館３～５階 各研究室
備考	

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	杉浦　秀行.田中　悟.鳥居　祐介
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	1年次および2年次前期のゼミや授業で身に付けた「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語や文化に関する、より専門的な内容のゼミ（当科目）を通して、さらに向上させることを目的とする。
到達目標	・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話を聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また、文章で論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】 ・３名の教員が５回ずつ授業を担当する（計15回）。 ・各教員は、3、４年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。 ・具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 ・３名の教員が、それぞれのゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 ・受講生は教員の指示に従って、課題の発表や提出を行う。 【事前・事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した課題・発表等の準備をする。 （合計30h）
関連科目	基礎演習Ⅰなど
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	各研究室（７号館３～５階）
備考	

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥居　祐介.有馬　善一.田中　秀毅
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	1年次および2年次前期のゼミや授業で身に付けた「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語や文化に関する、より専門的な内容のゼミ（当科目）を通して、さらに向上させることを目的とする。
到達目標	・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話を聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また、文章で論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】 ・３名の教員が５回ずつ授業を担当する（計15回）。 ・各教員は、3、４年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。 ・具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 ・３名の教員が、それぞれのゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 ・受講生は教員の指示に従って、課題の発表や提出を行う。 【事前・事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した課題・発表等の準備をする。 （合計30h）
関連科目	基礎演習Ⅰなど
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	各研究室（７号館３～５階）
備考	

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	神崎　舞.橋本　正俊.松田　早恵
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	1年次および2年次前期のゼミや授業で身に付けた「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語や文化に関する、より専門的な内容のゼミ（当科目）を通して、さらに向上させることを目的とする。
到達目標	・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話を聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また、文章で論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】 ・３名の教員が５回ずつ授業を担当する（計15回）。 ・各教員は、3、４年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。 ・具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 ・３名の教員が、それぞれのゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 ・受講生は教員の指示に従って、課題の発表や提出を行う。 【事前・事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した課題・発表等の準備をする。 （合計30h）
関連科目	基礎演習Ⅰなど
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館３～５階 各研究室
備考	

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中島　直嗣.岩間　香.林田　敏子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	1年次および2年次前期のゼミや授業で身に付けた「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語や文化に関する、より専門的な内容のゼミ（当科目）を通して、さらに向上させることを目的とする。
到達目標	・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話を聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また、文章で論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】 ・３名の教員が５回ずつ授業を担当する（計15回）。 ・各教員は、3、４年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。 ・具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 ・３名の教員が、それぞれのゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 ・受講生は教員の指示に従って、課題の発表や提出を行う。 【事前・事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した課題・発表等の準備をする。 （合計30h）
関連科目	基礎演習Ⅰなど
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館３～５階 各研究室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浅野　英一.大原関　一浩.マイケル　ハーキー
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	1年次および2年次前期のゼミや授業で身に付けた「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語や文化に関する、より専門的な内容のゼミ（当科目）を通して、さらに向上させることを目的とする。
到達目標	・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話を聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また、文章で論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】 ・３名の教員が５回ずつ授業を担当する（計15回）。 ・各教員は、3、４年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。 ・具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 ・３名の教員が、それぞれのゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 ・受講生は教員の指示に従って、課題の発表や提出を行う。 【事前・事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した課題・発表等の準備をする。 （合計30h）
関連科目	基礎演習Ⅰなど
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館３～５階 各研究室
備考	

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有馬　善一.皆本　智美.家口　美智子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	1年次および2年次前期のゼミや授業で身に付けた「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語や文化に関する、より専門的な内容のゼミ（当科目）を通して、さらに向上させることを目的とする。
到達目標	・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話を聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また、文章で論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】 ・３名の教員が５回ずつ授業を担当する（計15回）。 ・各教員は、3、４年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。 ・具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 ・３名の教員が、それぞれのゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 ・受講生は教員の指示に従って、課題の発表や提出を行う。 【事前・事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した課題・発表等の準備をする。 （合計30h）
関連科目	基礎演習Ⅰなど
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館３～５階 各研究室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	赤澤　春彦.住吉　誠.田浦　アマンダ
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	1年次および2年次前期のゼミや授業で身に付けた「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語や文化に関する、より専門的な内容のゼミ（当科目）を通して、さらに向上させることを目的とする。
到達目標	・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話を聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また、文章で論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】 ・３名の教員が５回ずつ授業を担当する（計15回）。 ・各教員は、3、４年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。 ・具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 ・３名の教員が、それぞれのゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 ・受講生は教員の指示に従って、課題の発表や提出を行う。 【事前・事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した課題・発表等の準備をする。 （合計30h）
関連科目	基礎演習Ⅰなど
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館３～５階 各研究室
備考	

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	岩間　香.天野　貴史.マイケル　ハーキー
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	1年次および2年次前期のゼミや授業で身に付けた「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語や文化に関する、より専門的な内容のゼミ（当科目）を通して、さらに向上させることを目的とする。
到達目標	・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話を聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また、文章で論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】 ・３名の教員が５回ずつ授業を担当する（計15回）。 ・各教員は、3、４年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。 ・具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 ・３名の教員が、それぞれのゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 ・受講生は教員の指示に従って、課題の発表や提出を行う。 【事前・事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した課題・発表等の準備をする。 （合計30h）
関連科目	基礎演習Ⅰなど
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館３～５階 各研究室
備考	

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中　悟.齋藤　安以子.中島　直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	1年次および2年次前期のゼミや授業で身に付けた「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語や文化に関する、より専門的な内容のゼミ（当科目）を通して、さらに向上させることを目的とする。
到達目標	・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話を聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また、文章で論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】 ・３名の教員が５回ずつ授業を担当する（計15回）。 ・各教員は、3、４年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。 ・具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 ・３名の教員が、それぞれのゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 ・受講生は教員の指示に従って、課題の発表や提出を行う。 【事前・事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した課題・発表等の準備をする。 （合計30h）
関連科目	基礎演習Ⅰなど
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館３～５階 各研究室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	手代木　功基.フーパー　トッド.吉村　征洋
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	1年次および2年次前期のゼミや授業で身に付けた「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語や文化に関する、より専門的な内容のゼミ（当科目）を通して、さらに向上させることを目的とする。
到達目標	・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話を聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また、文章で論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】 ・３名の教員が５回ずつ授業を担当する（計15回）。 ・各教員は、3、４年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。 ・具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 ・３名の教員が、それぞれのゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 ・受講生は教員の指示に従って、課題の発表や提出を行う。 【事前・事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した課題・発表等の準備をする。 （合計30h）
関連科目	基礎演習Ⅰなど
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館３～５階 各研究室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	柴田　陽一.西川　眞由美.吉村　征洋
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	1年次および2年次前期のゼミや授業で身に付けた「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語や文化に関する、より専門的な内容のゼミ（当科目）を通して、さらに向上させることを目的とする。
到達目標	・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話を聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また、文章で論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】 ・３名の教員が５回ずつ授業を担当する（計15回）。 ・各教員は、3、４年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。 ・具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 ・３名の教員が、それぞれのゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 ・受講生は教員の指示に従って、課題の発表や提出を行う。 【事前・事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した課題・発表等の準備をする。 （合計30h）
関連科目	基礎演習Ⅰなど
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館３～５階 各研究室
備考	

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浦野　崇央.神崎　舞.田中　秀毅
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	1年次および2年次前期のゼミや授業で身に付けた「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語や文化に関する、より専門的な内容のゼミ（当科目）を通して、さらに向上させることを目的とする。
到達目標	・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話を聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また、文章で論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】 ・３名の教員が５回ずつ授業を担当する（計15回）。 ・各教員は、3、４年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。 ・具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 ・３名の教員が、それぞれのゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 ・受講生は教員の指示に従って、課題の発表や提出を行う。 【事前・事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した課題・発表等の準備をする。 （合計30h）
関連科目	基礎演習Ⅰなど
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館３～５階　各研究室
備考	

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山口　真佐夫. 浅野　英一. 齋藤　安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	1年次および2年次前期のゼミや授業で身に付けた「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語や文化に関する、より専門的な内容のゼミ（当科目）を通して、さらに向上させることを目的とする。
到達目標	・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話を聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また、文章で論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】 ・３名の教員が５回ずつ授業を担当する（計 15 回）。 ・各教員は、3、４年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。 ・具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、３年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 ・３名の教員が、それぞれのゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 ・受講生は教員の指示に従って、課題の発表や提出を行う。 【事前・事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した課題・発表等の準備をする。 （合計 30h）
関連科目	基礎演習Ⅰなど

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館３～５階　各研究室
備考	

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	赤澤　春彦
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】 ・１クラス当たり１０数名の編成で、プレゼンテーションやレシテーションなども交えて進めていく。個人またはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 ・また、「日本語テスト」と「時事問題テスト」（共にプリントを配布）を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１回： 授業の目的、自己紹介 第２回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・環境マネジメントについて学ぶ 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 （合計 30ｈ）
関連科目	初年次ゼミナールなど
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館４階 赤澤研究室
備考	

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浅野　英一
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】 ・１クラス当たり１０数名の編成で、プレゼンテーションやレシテーションなども交えて進めていく。個人またはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 ・また、「日本語テスト」と「時事問題テスト」（共にプリントを配布）を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１回： 授業の目的、自己紹介 第２回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・環境マネジメントについて学ぶ 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 （合計 30ｈ）
関連科目	初年次ゼミナールなど
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 5 階 浅野研究室
備考	

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	安達　直樹
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】 ・1クラス当たり１０数名の編成で、プレゼンテーションやレシテーションなども交えて進めていく。個人またはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 ・また、「日本語テスト」と「時事問題テスト」（共にプリントを配布）を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１回： 授業の目的、自己紹介 第２回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・環境マネジメントについて学ぶ 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 （合計 30ｈ）
関連科目	初年次ゼミナールなど
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館５階 安達研究室
備考	

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	天野　貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】 ・１クラス当たり１０数名の編成で、プレゼンテーションやレシテーションなども交えて進めていく。個人またはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 ・また、「日本語テスト」と「時事問題テスト」（共にプリントを配布）を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１回： 授業の目的、自己紹介 第２回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・環境マネジメントについて学ぶ 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 （合計 30ｈ）
関連科目	初年次ゼミナールなど

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館３階　天野研究室
備考	

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有馬　善一
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】 ・１クラス当たり１０数名の編成で、プレゼンテーションやレシテーションなども交えて進めていく。個人またはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 ・また、「日本語テスト」と「時事問題テスト」（共にプリントを配布）を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１回： 授業の目的、自己紹介 第２回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・環境マネジメントについて学ぶ 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 （合計 30ｈ）
関連科目	初年次ゼミナールなど
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館４階 有馬研究室
備考	

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	岩間　香
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】 ・１クラス当たり１０数名の編成で、プレゼンテーションやレシテーションなども交えて進めていく。個人またはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 ・また、「日本語テスト」と「時事問題テスト」（共にプリントを配布）を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１回： 授業の目的、自己紹介 第２回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・環境マネジメントについて学ぶ 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 （合計 30ｈ）
関連科目	初年次ゼミナールなど
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館５階岩間研究室
備考	

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	上田　達
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】 ・１クラス当たり１０数名の編成で、プレゼンテーションやレシテーションなども交えて進めていく。個人またはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 ・また、「日本語テスト」と「時事問題テスト」（共にプリントを配布）を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１回： 授業の目的、自己紹介 第２回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・環境マネジメントについて学ぶ 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 （合計 30ｈ）
関連科目	初年次ゼミナールなど
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館５階 上田研究室
備考	

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小川　豊生
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】 ・１クラス当たり１０数名の編成で、プレゼンテーションやレシテーションなども交えて進めていく。個人またはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 ・また、「日本語テスト」と「時事問題テスト」（共にプリントを配布）を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１回： 授業の目的、自己紹介 第２回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・環境マネジメントについて学ぶ 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 （合計 30ｈ）
関連科目	初年次ゼミナールなど

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館４階 小川研究室
備考	

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	神崎　舞
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】 ・1クラス当たり１０数名の編成で、プレゼンテーションやレシテーションなども交えて進めていく。個人またはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 ・また、「日本語テスト」と「時事問題テスト」（共にプリントを配布）を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１回： 授業の目的、自己紹介 第２回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・環境マネジメントについて学ぶ 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 （合計 30ｈ）
関連科目	初年次ゼミナールなど
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 5 階 神崎研究室
備考	

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤　一章
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】 ・１クラス当たり１０数名の編成で、プレゼンテーションやレシテーションなども交えて進めていく。個人またはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 ・また、「日本語テスト」と「時事問題テスト」（共にプリントを配布）を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１回： 授業の目的、自己紹介 第２回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・環境マネジメントについて学ぶ 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 （合計 30ｈ）
関連科目	初年次ゼミナールなど
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館５階 後藤研究室
備考	

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	柴田　陽一
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】 ・１クラス当たり１０数名の編成で、プレゼンテーションやレシテーションなども交えて進めていく。個人またはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 ・また、「日本語テスト」と「時事問題テスト」（共にプリントを配布）を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１回： 授業の目的、自己紹介 第２回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・環境マネジメントについて学ぶ 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 （合計 30ｈ）
関連科目	初年次ゼミナールなど
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館５階 柴田研究室
備考	

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	杉浦　秀行
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】 ・１クラス当たり１０数名の編成で、プレゼンテーションやレシテーションなども交えて進めていく。個人またはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 ・また、「日本語テスト」と「時事問題テスト」（共にプリントを配布）を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１回： 授業の目的、自己紹介 第２回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・環境マネジメントについて学ぶ 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 （合計 30ｈ）
関連科目	初年次ゼミナールなど

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館５階　杉浦研究室
備考	

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	住吉　誠
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】 ・１クラス当たり１０数名の編成で、プレゼンテーションやレシテーションなども交えて進めていく。個人またはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 ・また、「日本語テスト」と「時事問題テスト」（共にプリントを配布）を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１回： 授業の目的、自己紹介 第２回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・環境マネジメントについて学ぶ 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 （合計 30ｈ）
関連科目	初年次ゼミナールなど
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館４階 住吉研究室
備考	

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	瀬戸　宏
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】 ・１クラス当たり１０数名の編成で、プレゼンテーションやレシテーションなども交えて進めていく。個人またはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 ・また、「日本語テスト」と「時事問題テスト」（共にプリントを配布）を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１回： 授業の目的、自己紹介 第２回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・環境マネジメントについて学ぶ 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 （合計 30ｈ）
関連科目	初年次ゼミナールなど
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	瀬戸研究室（７号館３階）
備考	

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中島　直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】 ・１クラス当たり１０数名の編成で、プレゼンテーションやレシテーションなども交えて進めていく。個人またはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 ・また、「日本語テスト」と「時事問題テスト」（共にプリントを配布）を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１回： 授業の目的、自己紹介 第２回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・環境マネジメントについて学ぶ 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 （合計 30ｈ）
関連科目	初年次ゼミナールなど
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館４階 中島研究室
備考	

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松田　早恵
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】 ・１クラス当たり１０数名の編成で、プレゼンテーションやレシテーションなども交えて進めていく。個人またはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 ・また、「日本語テスト」と「時事問題テスト」（共にプリントを配布）を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１回： 授業の目的、自己紹介 第２回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・環境マネジメントについて学ぶ 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 （合計 30ｈ）
関連科目	初年次ゼミナールなど

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館５階 松田研究室
備考	

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	皆本　智美
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】 ・１クラス当たり１０数名の編成で、プレゼンテーションやレシテーションなども交えて進めていく。個人またはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 ・また、「日本語テスト」と「時事問題テスト」（共にプリントを配布）を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１回： 授業の目的、自己紹介 第２回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・環境マネジメントについて学ぶ 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 （合計 30ｈ）
関連科目	初年次ゼミナールなど
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館４階 皆本研究室
備考	

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	家口　美智子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。
授業方法と留意点	【授業方法】 ・１クラス当たり１０数名の編成で、プレゼンテーションやレシテーションなども交えて進めていく。個人またはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 ・また、「日本語テスト」と「時事問題テスト」（共にプリントを配布）を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第１回： 授業の目的、自己紹介 第２回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・環境マネジメントについて学ぶ 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 （合計 30ｈ）
関連科目	初年次ゼミナールなど

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館４階 家口研究室
備考	

科目名	基礎マレー語ａ	科目名（英文）	Basic Malay a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	上田　達
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	本講義はマレーシアなどで話されるマレー語（Bahasa Melayu）の基礎的な運用能力の習得を目指す。インドネシア語との相違に適宜言及しつつ、実際にマレー語に触れる機会を多く持つことで、マレー語学習の礎を築くことを目指す。読む・書く・聞く・話す力のバランスに考慮しながら講義を進める。
到達目標	マレー語の運用能力の基礎を得る。
授業方法と留意点	確認テストの他にも課題を出すので、予習と復習をしっかり行うこと。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義概要および講義の進め方について説明する。マレー語がどのような国で話され、どのような歴史的背景をもつ言語であるのかを概説する。	練習問題に取り組むこと。
2	あいさつ、呼びかけ	マレー語の挨拶について学習する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
3	単語、綴り、発音１	語彙と発音に注目しながら、マレー語の特徴を概説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
4	単語、綴り、発音２	語彙と発音に注目しながら、マレー語の特徴を概説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
5	表現	マレー語独特の言い回しについて解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
6	復習１	既習事項（表現、語彙）について復習するとともに、理解力を問うための確認テストを行う。	既習事項の確認
7	文法１	マレー語の名詞について解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
8	文法２	マレー語の形容詞について解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
9	文法３	マレー語の動詞について解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
10	文法４	マレー語の動詞について解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
11	復習２	既習事項（表現、語彙）について復習するとともに、理解力を問うための確認テストを行う。	既習事項の確認
12	演習１	既習事項をふまえてマレー語で自己紹介文を作成する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
13	演習２	マレーシアの小学生程度を読者に想定した簡単なマレー語文を講読する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
14	復習３	既習事項（発音、文法、表現、語彙）について復習するとともに、理解力を問うための確認テストを行う。	既習事項の確認
15	総合復習	確認テストに対する講評と、既習事項についてのフォローアップを行う。	確認テストの復習と演習課題に取り組むこと。

関連科目：基礎マレー語ｂ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	マレーシア語辞典ポケット版	小野沢純 、本田智津絵	大学書林
2	基礎マレー語	上田達	
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	三回実施する確認テスト（70%）と提出物や課題等の授業への取り組み（30%）から評価する。詳細は一回目の授業時に指示する。
学生へのメッセージ	わからないことがあれば、いつでも質問に来てください。
担当者の研究室等	７号館５階（上田研究室）
備考	拙著の教科書は第一回目の授業時に頒布する。辞書は一回目の授業から使用するので購入しておくこと。 確認テストは時間内に講評するとともに、翌週に採点のうえ返却する。第三回のテストは授業時間終了後、採点のうえ一週間以内に返却する。

科目名	基礎マレー語ｂ	科目名（英文）	Basic Malay b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	上田　達
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	本講義はマレーシアなどで話されるマレー語（Bahasa Melayu）の基礎的な運用能力の習得を目指す。実際にマレー語に触れる機会を多く持つことで、マレー語学習の礎を築くことを目指す。読む・書く・聞く・話す力のバランスに考慮しながら講義を進める。
到達目標	マレー語の基礎的な運用能力を獲得する。
授業方法と留意点	確認テストの他にも課題を出すので、予習と復習をしっかり行うこと。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義概要および講義の進め方について説明するとともに、前期習得した事項について問題を課し、学習状況を把握する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。
2	文法１	マレー語の kata bantu について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。
3	文法２	マレー語の前置詞について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。
4	文法３	マレー語の前置詞と kata arah について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。
5	復習１	既習事項（文法、語彙）について復習するとともに、理解力を問うための確認テストを行う。	既習事項の復習に努めること。
6	文法４	マレー語の接続詞について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。
7	文法５	マレー語の接続詞について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。
8	表現１	簡単な地図をもとに、位置関係などを説明する文章を作成する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。
9	表現２	グラフや表を説明する文章を作成する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。
10	復習２	既習事項（文法、表現）について復習するとともに、理解力を問うための確認テストを行う。	既習事項の復習に務めること。
11	演習	マレーシアで実施されている中学生向けのマレー語試験に挑戦する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。
12	基礎講読１	新聞の投書など短い文章を講読する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。
13	基礎講読２	新聞の投書など短い文章を講読する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。
14	復習３	既習事項（文法、表現）について復習するとともに、理解力を問うための確認テストを行う。	既習事項の復習に務めること。
15	総合復習	確認テストについての講評と既習事項のフォローアップを行う。	既習事項の復習と演習課題にとりくむこと。

関連科目：基礎マレー語ｂ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	マレーシア語辞典ポケット版	小野沢純、本田智津絵	大学書林
2	基礎マレー語	上田達	
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	三回実施する確認テスト（70%）と課題や提出物等の授業への取り組み（30%）から総合的に判断する。
学生へのメッセージ	わからないことがあれば、いつでも質問に来てください。
担当者の研究室等	７号館５階（上田研究室）
備考	拙著の教科書は前期開講の「基礎マレー語」のものを継続して使用する。辞書は一回目の授業から使用するので持参すること。 確認テストは時間内に講評するとともに、翌週に採点のうえ返却する。第三回のテストは授業時間終了後、採点のうえ一週間以内に返却する。

科目名	共同体論	科目名（英文）	Theory of Community
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林田　敏子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	移民、障がい者、高齢者、LGBT（レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー）といった社会的マイノリティに対するイギリスのコミュニティ・ケアの実践を通して、共同体（コミュニティ）と国家・地域・家族・個人との関係性について考えていく。障がい者や高齢者に対する社会福祉制度の整備や充実は、病院や施設といった空間への隔離や排除とパラレルに進行した。また、移民や LGBT といった社会的マイノリティも 1970 年代以降、独自のコミュニティや文化を形成したが、それはマジョリティの「コミュニティ」とは一線を画すものであった。本講義では、法制度の整備を中心とする政府主導の改革だけでなく、民間の取り組みやマイノリティ側からの権利要求にも注目しながら、マイノリティ集団を社会統合していくうえでの諸問題を、グローバライゼーションと多文化主義をキーワードに考察する。 ※この科目は、「国際教養」プログラム対応科目である。
到達目標	共同体（コミュニティ）を、国家・地域・家族・個人とのかかわりのなかで多層的にとらえる視点を身に着ける。
授業方法と留意点	パワーポイントとプリントを用いる。イギリスの事例研究をもとに、日本の社会問題についても討論する機会をもうける。
科目学習の効果（資格）	グローバル社会のなかで共同体（コミュニティ）がもつ可能性について広く学ぶことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	共同体（コミュニティ）論の今	授業の概要説明をおこなった後、多文化主義の観点から共同体論について整理する。	Brexit がイギリス社会に与えた影響について調べてくる。
2	社会的マイノリティの共同体	マイノリティ集団が作り出す独自の共同体について考察する。	代表的なマイノリティ問題を整理し、イギリスと日本の具体例を調べてくる。
3	Brexit の衝撃	イギリスの EU 離脱（Brexit）が移民問題といかなるかかわりをもっているかについて考える。	Brexit がもたらした影響についてまとめる。
4	イギリスにおける移民の歴史	1960 年代から現代に至るまでの移民の歴史をたどり、移民問題の概要をおさえる。	イギリスにおける移民の歴史を年表の形で整理する。
5	移民コミュニティとイギリス社会	移民コミュニティが抱える問題を明らかにするとともに、社会統合に向けての課題を整理する。	移民コミュニティが抱える問題についてまとめる。
6	イギリスにおけるコミュニティ・ケア	イギリスにおける医療・福祉政策の歴史をたどり、特徴的なコミュニティ・ケアのあり方について学ぶ。	イギリスの社会福祉政策の起源について調べてくる。
7	障がい者とコミュニティ	公共の施設や設備の充実という観点から、障がい者のコミュニティ統合について考える。	イギリスと日本の障がい者福祉を比較する。
8	高齢者とコミュニティ	高齢者医療と介護に関するコミュニティ・ケアの実践から、高齢者のコミュニティ統合について考える。	イギリスと日本の介護福祉政策を比較する。
9	中間テストと解説	中間テスト（論述問題）を実施し、その解説を通して、前半の授業を振り返る。	前半の授業内容のポイントを整理する。
10	セクシュアル・マイノリティの歩み	LGBT という言葉が誕生するまでのセクシュアル・マイノリティの歩みを概観する。	LGBT という言葉が生まれた背景を調べてくる。
11	同性婚というゴール	セクシュアル・マイノリティによる権利要求運動について考える。	同性婚をめぐる世界の動きについて調べてくる。
12	LGBT コミュニティの形成と多数派社会との軋轢	LGBT 独自のコミュニティ形成と、多数派社会との衝突について考察する。	LGBT コミュニティの特徴を、日本とイギリスとで比較検討する。
13	LGBT の社会統合	多様な性のあり方を認める社会の実現に向けた取り組みについて考える。	LGBT を社会統合していく上での問題点をまとめる。
14	軍隊のなかのジェンダー問題	伝統的な男性コミュニティである軍隊のなかのジェンダーと LGBT をめぐる問題について考える。	軍隊のなかの LGBT をめぐる諸問題を整理する。
15	小テストと総括	・小テストの実施と解説 ・まとめ	これまでの授業を振り返り、論点をまとめる。

関連科目	多文化共生論、グローバル社会と日本

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への取り組み（20%）、中間テスト（20 点）、小テスト（80 点）で評価する。
学生へのメッセージ	現在、われわれが直面している深刻な社会問題を扱います。世界の動きにアンテナを張りながら、高い問題関心をもって授業にのぞんでください。
担当者の研究室等	７号館４階（林田研究室）
備考	事前・事後学習の総時間数は 60 時間。 中間テストに関するフィードバックは第 9 回目の授業で、小テストに関するフィードバックは第 15 回目の授業のなかで実施する。

科目名	暮らしの中の文化	科目名（英文）	Cultures in Daily Life
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩間　香
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	・この科目は、「国際教養」プログラム対応科目である。 ・日常生活の中には古い伝統と文化を受け継いだものがある。それらは生活の規範として、あるいは彩りとして、日本の文化を豊かなものにしてきた。これらの文化は、時代を超えて受け継がれる一方、社会構造やライフスタイル、そして価値観とともに刻々と変化している。本講義では、日本の暮らしに根付いた伝統行事や生活文化をとりあげ、日々の暮らしと文化との関わりについて考察する。
到達目標	日常的な暮らしの中で、どのような文化が育まれてきたのか、また、それがどのようにして伝えられていくのかを理解する。
授業方法と留意点	プリントを用いて授業を進める。適宜、パワーポイント・ビデオなどの視聴覚教材を使用する。
科目学習の効果（資格）	身近な生活における日本の伝統を知る。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 日本のくらしの中の伝統	授業のすすめ方や概要について説明する。	【事後】授業で紹介した内容について調べノートを整理しておく。(90 分)
2	家（1） 町家	町家の空間の意味を図面や写真で解説する。	【事前】教材ホルダからプリントをダウンロードしておく。【事後】授業で紹介した内容についてノートを整理しておく。(90 分)
3	家（2） 農家	農家の空間の意味を図面や写真で解説する。	【事前】教材ホルダからプリントをダウンロードしておく。【事後】授業で紹介した内容についてノートを整理しておく。(90 分)
4	町並み（1）	家の空間のもつ意味を知る。間取り図や写真で解説する。	【事前】教材ホルダからプリントをダウンロードしておく。【事後】授業で紹介した内容についてノートを整理しておく。(90 分)
5	町並み（2） 伝統的建造物群保存地区	伝統的建造物群保存地区が生まれるまでの経緯を解説する。	【事前】教材ホルダからプリントをダウンロードしておく。【事後】授業で紹介した内容についてノートを整理しておく。(90 分)
6	町並み（3） 伝統的建造物群保存地区	保存と修景について、祇園白川地区を例に解説する。	【事前】教材ホルダからプリントをダウンロードしておく。【事後】授業で紹介した内容についてノートを整理しておく。(90 分)
7	見学	授業内容に関連する展覧会・町並みなどを見学する。詳細は授業中に支持する。	【事前】見学先について事前に調べる。
8	祭（1） 自然崇拝と自然神道	磐座・神籬・巨石	【事前】教材ホルダからプリントをダウンロードしておく。【事後】授業で紹介した内容についてノートを整理しておく。(90 分)
9	祭（2） 御霊信仰	祇園祭・天神祭について歴史と変遷を解説する。	【事前】教材ホルダからプリントをダウンロードしておく。【事後】授業で紹介した内容についてノートを整理しておく。(90 分)
10	祭（3） 都市祭礼	見物桟敷と屏風祭について歴史と変遷を解説する。	【事前】教材ホルダからプリントをダウンロードしておく。【事後】授業で紹介した内容についてノートを整理しておく。(90 分)
11	祭（4） 祭の変化	祭りの担い手、運営についての問題を解説する。	【事前】教材ホルダからプリントをダウンロードしておく。【事後】授業で紹介した内容についてノートを整理しておく。(90 分)
12	年中行事（1） 五節句の歴史	古代の宮廷行事と近世の幕府行事について文献を用いて解説する。	【事前】教材ホルダからプリントをダウンロードしておく。【事後】授業で紹介した内容についてノートを整理しておく。(90 分)
13	年中行事（2） 雛祭りの歴史と変遷	中国の禊と日本の祓、ひいな遊びと守り人形について、文献と絵画資料を用いて解説する。	【事前】教材ホルダからプリントをダウンロードしておく。【事後】授業で紹介した内容についてノートを整理しておく。(90 分)
14	年中行事（3） 雛祭りの歴史と変遷	江戸時代における雛壇と雛人形の発達を文献と絵画資料を用いて解説する。	【事前】教材ホルダからプリントをダウンロードしておく。【事後】授業で紹介した内容についてノートを整理しておく。(90 分)
15	年中行事（4） 雛祭り・年中行事の現在	統計からみた年中行事のあり方、町おこしと雛祭りを解説する	【事前】教材ホルダからプリントをダウンロードしておく。【事後】授業で紹介した内容についてノートを整理しておく。(90 分)

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	レポート（20%）、定期試験（80%）で評価する。
学生へのメッセージ	実地に見学を行います。交通費・入場料などの実費が必要です。
担当者の研究室等	7 号館 5 階（岩間研究室）
備考	

科目名	グラマー	科目名（英文）	Grammar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	俣野　裕美
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この授業では、映画『タイタニック』を視聴しながら、英語の語彙力と文法力の向上を図る。 『タイタニック』には、日常会話でよく使う表現や発音が多く使われている。それらを学ぶと同時に、4技能（読む、書く、聞く、話す）の強化にもつなげる。 インプットだけでなく、アウトプットにも重点を置き、英語で積極的に情報を発信できる力を養う。
到達目標	語彙力、文法力を定着させ、様々な場面で応用がきくようになる。 英語での日常会話がスムーズにできるようになる。 4技能（読む、書く、聞く、話す）が向上し、英語で的確かつ積極的に情報が発信できるようになる。
授業方法と留意点	・毎回、単語テストを実施する。 ・小テストを数回実施する。 ・グループワークを通じてディスカッションやリーディングを行う。 ・毎回、必ず電子辞書か辞書を持ってくること（携帯電話やスマートフォンでの代用は不可）。 ・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価する。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをする。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼす。 ①私語など授業を妨害するような行為や許可のない途中退席、テキスト忘れは、欠席とみなす。 ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方の説明、映画の説明	事後学習課題：テキストの Vocabulary と Expressions を解く
2	Unit 1:（分詞１）	単語テスト Vocabulary, Expressions の確認 映画の視聴、リスニング 文法の解説・実践問題 ディスカッション リーディング	事後学習課題：テキストの Vocabulary と Expressions を解く
3	Unit 2:（受動態）	単語テスト Vocabulary, Expressions の確認 映画の視聴、リスニング 文法の解説・実践問題 ディスカッション リーディング	事後学習課題：テキストの Vocabulary と Expressions を解く
4	Unit 3:（助動詞）	単語テスト Vocabulary, Expressions の確認 映画の視聴、リスニング 文法の解説・実践問題 ディスカッション リーディング	事後学習課題：テキストの Vocabulary と Expressions を解く
5	Unit 4:（仮定法）	単語テスト Vocabulary, Expressions の確認 映画の視聴、リスニング 文法の解説・実践問題 ディスカッション リーディング	事後学習課題：テキストの Vocabulary と Expressions を解く
6	Unit 5:（進行形）	単語テスト Vocabulary, Expressions の確認 映画の視聴、リスニング 文法の解説・実践問題 ディスカッション リーディング	事後学習課題：テキストの Vocabulary と Expressions を解く
7	Unit 6:（関係詞 1）	単語テスト Vocabulary, Expressions の確認 映画の視聴、リスニング 文法の解説・実践問題 ディスカッション リーディング	事後学習課題：テキストの Vocabulary と Expressions を解く
8	Unit 7:（関係詞 2）	単語テスト Vocabulary, Expressions の確認 映画の視聴、リスニング 文法の解説・実践問題 ディスカッション リーディング	事後学習課題：テキストの Vocabulary と Expressions を解く
9	Unit 8:（完了形）	単語テスト Vocabulary, Expressions の確認 映画の視聴、リスニング 文法の解説・実践問題 ディスカッション リーディング	事後学習課題：テキストの Vocabulary と Expressions を解く
10	Unit 9:（分詞 2）	単語テスト Vocabulary, Expressions の確認 映画の視聴、リスニング 文法の解説・実践問題 ディスカッション リーディング	事後学習課題：テキストの Vocabulary と Expressions を解く

11	Unit 10: （未来形）	単語テスト Vocabulary, Expressions の確認 映画の視聴、リスニング 文法の解説・実践問題 ディスカッション リーディング	事後学習課題：テキストの Vocabulary と Expressions を解く
12	Unit 11: （代名詞）	単語テスト Vocabulary, Expressions の確認 映画の視聴、リスニング 文法の解説・実践問題 ディスカッション リーディング	事後学習課題：テキストの Vocabulary と Expressions を解く
13	Unit 12: （動名詞）	単語テスト Vocabulary, Expressions の確認 映画の視聴、リスニング 文法の解説・実践問題 ディスカッション リーディング	事後学習課題：テキストの Vocabulary と Expressions を解く
14	Unit 13: （不定詞）	単語テスト Vocabulary, Expressions の確認 映画の視聴、リスニング 文法の解説・実践問題 ディスカッション リーディング	事後学習課題：テキストの Vocabulary と Expressions を解く
15	Unit 14: （否定） まとめ	単語テスト Vocabulary, Expressions の確認 映画の視聴、リスニング 文法の解説・実践問題 ディスカッション リーディング	期末テストの準備

関連科目

スキルズトレーニング b、スピーキング＆ライティング Ib

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Learn English with TITANIC	Teruhiko Kadoyama, Simon Capper	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷　恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

平常点（授業態度、単語テスト、小テスト(数回実施予定)、宿題、提出物等）　50%
期末テスト　50%

学生へのメッセージ

映画やテレビドラマには、実際の日常会話で使われる興味深い表現がたくさん出てきます。
ストーリーを楽しみながら、英語の習得も目指しましょう。
TOEIC や TOEFL を積極的に受けてみましょう。ランゲージパートナーを作ることもおすすめです。

担当者の研究室等

7 号館 2 階非常勤講師控室

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	クリエイティブビジネス論	科目名（英文）	Creative Business
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	針尾　大嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	・この科目は、「メディアビジネス」プログラム対応科目である。 ・本講義では、ICT の急速な発展と普及により、めまぐるしく変貌する現代のメディア・コンテンツ業界（放送、映画、出版、音楽、ゲーム）の産業構造とビジネスモデル、および、メディア・コンテンツを自社のマーケティング政策に組み込む製造・サービス業界（食品、アルコール飲料、コスメ、外食等）の企業による取り組み事例について、産業論とマーケティング論の観点から解説する。 ・本講義の目的は、ICT というメディア技術の発展が、産業構造とビジネスのあり方にいかに影響を与え変化をもたらしているのか、産業論とマーケティング論による理論的な理解を行い、さらに製造・サービス業界の企業によるコンテンツビジネスの最新動向を学ぶことである。
到達目標	・ICT というメディア技術の発展が、産業構造とビジネスのあり方にいかに影響を与え変化をもたらしているのか、産業論とマーケティング論による理論的な論述ができる。 ・製造・サービス業界の企業によるコンテンツビジネスの最新事例をあげ、ビジネスモデルと ICT 利用の特徴を説明できる。
授業方法と留意点	講義は、プロジェクターを用いたプレゼン資料と配布資料を中心に解説を行なう。また一部のテーマについては学生による事前の文献調査とその発表をもとにすすめる予定である。なお講義で取り扱うテーマについては、受講生の理解状況や時の話題に応じて変更する場合もある。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	主に以下について解説する。 ・クリエイィブビジネス論について ・クリエイティブビジネスとは	初回講義のため特になし
2	メディア･コンテンツ業界の産業構造と市場概観	主に以下について解説する。 ・メディア・コンテンツ産業とは ・メディア・コンテンツ産業の市場規模 ・産業の情報化	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
3	メディア･コンテンツ業界の動向（１） 放送業界	主に以下について解説する。 ・テレビ放送の仕組み ・放送業界のビジネスモデル ・関連法など	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
4	メディア･コンテンツ業界の動向（２） 映画業界その１	主に以下について解説する。 ・映画の仕組み ・映画業界のビジネスモデル ・資金調達法など	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
5	メディア･コンテンツ業界の動向（３） 映画業界その２	主に以下について解説する。 ・ハリウッド映画と日本映画の違い ・ハリウッド映画のマーケティング戦略など	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
6	メディア･コンテンツ業界の動向（４） 出版業界	主に以下について解説する。 ・出版の仕組み ・出版業界のビジネスモデル ・関連法など	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
7	メディア･コンテンツ業界の動向（５） 音楽業界	主に以下について解説する。 ・楽曲販売の仕組み ・音楽業界のビジネスモデル ・関連法など	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
8	メディア･コンテンツ業界の動向（６） ゲーム業界	主に以下について解説する。 ・ゲーム開発と販売の仕組み ・ゲーム業界のビジネスモデル ・ハードとソフト ・スマホゲームなど	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
9	メディア･コンテンツ化する業界（１） 食品業界	主に以下について解説する。 ・食品メーカーの取り組み事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
10	メディア･コンテンツ化する業界（２） 飲料業界	主に以下について解説する。 ・飲料メーカーの取り組み事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
11	メディア･コンテンツ化する業界（３） 自動車業界	主に以下について解説する。 ・自動車メーカーの取り組み事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
12	メディア･コンテンツ化する業界（４） 外食サービス業界	主に以下について解説する。 ・外食サービス企業の取り組み事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
13	メディア･コンテンツ化する業界（５） ファッション・コスメ業界	主に以下について解説する。 ・アパレル販売メーカーの取り組み事例 ・化粧品メーカーの取り組み事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
14	コンテンツビジネスの課題	主に以下について解説する。 ・知的財産権等関連法 ・著作権管理技術 ・人材育成など	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
15	まとめ	主に以下について解説する。 ・第２回?１４回までのまとめ	これまで配布した講義資料およびノートをまとめておくこと。

関連科目	メディアビジネスプログラム科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	配布資料		
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	期末テスト（80%）、小テスト・レポート（20%）で評価する。 私語、携帯の使用、遅刻など講義の進行を妨げる者については厳しく評価するので注意すること。
学生への メッセージ	本講義では、メディア・コンテンツ業界に限らず、メーカーやサービス業界を対象に広く取り扱います。就職活動に向けた業界研究を行うつもりで受講するとよいでしょう。
担当者の 研究室等	１１号館７階（針尾准教授室）
備考	

科目名	Global Issues	科目名（英文）	Global Issues
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	ＡＢ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	抽冬　紘和
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	多様なメディア（新聞・雑誌・インターネット等）の英語に触れ、日本と国際社会についての情報を英語で入手できるようになる。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、入手した情報の要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日ごろから、日本語によるニュースや時事問題に習熟しておくことが必要になる。英語で書かれている内容と日本語で書かれている内容の比較等を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction Chapter1	講義 ディスカッション	リーディング
2	Chapter 1 社会：ペットと家族	講義 ディスカッション	リーディング 復習
3	Chapter 2 文化: クジラ料理	講義 ディスカッション	リーディング 復習
4	Chapter 3 文化　教育：ミュージアム	講義 ディスカッション	リーディング 復習 テスト勉強
5	確認テスト	テスト 解説	リーディング 復習
6	Chapter 4 社会　観光：第二の人生	講義 ディスカッション	リーディング 復習
7	Chapter 5 社会　技術:女性による女性のための製品	講義 ディスカッション	リーディング 復習
8	Chapter 6 文化　国際:特撮ヒーロー	講義 ディスカッション	リーディング 復習 テスト勉強
9	確認テスト	テスト 解説	リーディング 復習
10	Chapter 7 スポーツ:東京パラリンピック	講義 ディスカッション	リーディング 復習
11	Chapter 8 文化　教育：先生がM-1?	講義 ディスカッション	リーディング 復習
12	Chapter 9 情報:IOT	講義 ディスカッション	リーディング 復習 テスト勉強
13	確認テスト	テスト 解説	リーディング 復習
14	Chapter 10 文化　国際: 20 世紀の価値	講義 ディスカッション	リーディング 復習 テスト勉強
15	確認テスト 総復習	講義 ディスカッション	

関連科目：Academic Reading, Academic Writing

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Insights 2017	Junko Maruo etc.	金星堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	提出物　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題等 80%
学生へのメッセージ	おもに英字新聞の精読から授業でのアクティビティに入っていきます。時間をしっかりとかけて授業内で英字新聞リーディングのスキル、発信のスキルを学習しましょう。 外国語を使う、使えるようになるためには、何を発信、受信するかが大切です。この授業を通して、時事問題を学習し、英語で理解、解釈し、それを再発信できる力を身に着けます。
担当者の研究室等	７号館２階非常勤控室 連絡先:hirokazunukk@outlook.jp
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	Global Issues	科目名（英文）	Global Issues
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	ＣＤ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	内山　知美
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	多様なメディア（新聞・雑誌・インターネット等）の英語に触れ、日本と国際社会についての情報を英語で入手できるようになる。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、入手した情報の要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日ごろから、日本語によるニュースや時事問題に習熟しておくことが必要になる。英語で書かれている内容と日本語で書かれている内容の比較等を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction and course orientation	Self-introductions, grammar/vocabulary quiz, preview textbook and DVD intro.	Buy the textbooks
2	Introduction to reading and critical thinking	How to read effectively? Strategies	Prepare for next lesson
3	Unit 1: Staying Healthy in the Modern World	Listening, reading, speaking activities	Prepare for next lesson
4	Unit 2: Energy and Our Planet	Listening, reading, speaking activities	Prepare for next lesson
5	Unit 3: Culture and Tradition	Listening, reading, speaking activities	Prepare for next lesson
6	Unit 4: Thirsty World	Listening, reading, speaking activities	Prepare to discuss/ Language Note
7	Group Presentations		Prepare for next lesson
8	Unit 5: Inside the Brain	Listening, reading, speaking activities	Prepare for next lesson
9	Unit 6: What We Eat	Listening (TED Talk), reading, speaking activities	Prepare for next lesson
10	Unit 7: Our Active Earth	Listening, reading, speaking activities	Prepare for next lesson
11	Unit 8: Ancient Peoples and Places	Listening, reading, speaking activities	Prepare for next lesson
12	Unit 9: Species Survival	Listening, reading, speaking activities	Prepare for next lesson
13	Unit 10: Entrepreneurs and New Businesses	Listening, reading, speaking activities	Prepare to discuss/ Language Note
14	Group Presentations		
15	Final review of the course content		

関連科目：Academic Reading, Academic Writing, Practical English Conversation

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Pathways 2: Listening, Speaking, and Critical Thinking.		Cengage
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	提出物　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題等 80%
学生へのメッセージ	予習をこなし意欲的に授業に参加してください。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師控室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	グローバル企業研究	科目名（英文）	Studies on Multinational Corporations
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中島　直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	本授業は、６つのパッケージプログラムのうち、「国際ビジネス」プログラムに対応する科目です。 よって、グローバルな視点に基づいて、外資系企業と日系企業を比較しながら、国際ビジネスの特徴について学ぶことを目的とします。
到達目標	グローバル企業の例として、総合商社、メーカー、ｅコマース・物流、およびアパレル業界などに注目し、そのビジネス戦略や今後の展開について、多角的に考察することを目標とします。
授業方法と留意点	・グループワークによる演習や講義を織り交ぜながら行います。 全グループに、調査に基づく研究発表（プレゼンテーション）を義務づけます。 ※エスモードジャポン（ファッション専門学校）の講師による（公開）授業は、第７～９回の計３回です。
科目学習の効果（資格）	文化演習（３ゼミ）や卒業研究（4ゼミ）などの研究にも活かせるでしょう。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・オリエンテーション ・グローバル企業とは	・授業の内容や方法などについて詳しく説明する。 ・グローバル企業とは一体何か、globalization と localization の本質について考える。	・授業の内容・方法などについてしっかりと確認する。 ・授業の内容と、自分で調べたことと合わせてレポートを作成する。
2	外資系大手メーカーのビジネスモデルについて	P&G、ユニリーバ、ネスレ、ロレアルなどの世界を代表するグローバル企業の動向や戦略について考察する。	授業の内容と、自分で調べたことと合わせてレポートを作成する。
3	日系大手メーカーのビジネスモデルについて　（前回の外資系企業と比較しながら）	花王、資生堂、味の素、ユニ・チャームなど、日本の大手企業のグローバル戦略について考察する。	授業の内容と、自分で調べたことと合わせてレポートを作成する。
4	総合商社のビジネスモデルとその多様性について	日本特有の業態ともいえる総合商社のビジネスモデルについて、大手各社の戦略を比較しながら考察する。	授業の内容と、自分で調べたことと合わせてレポートを作成する。
5	・グループディスカッション ・研究発表の詳細について	・東京オリンピック開催で特需が期待できる企業について議論する。 ・研究発表（プレゼン）のテーマ、グループメンバー、発表日等を決める。	・授業の内容と、自分で調べたことと合わせてレポートを作成する。 ・グループごとに、今後の研究計画について検討する。
6	ｅコマースから物流に至るまでの新しい包括的ビジネスモデルについて	Amazon のグローバルビジネス戦略について分析し、それを踏まえて日系企業はどのように対応すべきかについて検討する。	・授業の内容と、自分で調べたことと合わせてレポートを作成する。 ・グループごとに研究活動を計画的に進めていく。
7	エスモードジャポン（ファッション専門学校）講師による講義（1）：ファッション産業の構造と歴史	オートクチュールからファストファッションまで、ファッション業界および商業施設の特徴について、具体例とともに学ぶ。	・授業の内容と、自分で調べたことと合わせてレポートを作成する。 ・グループごとに研究活動を計画的に進めていく。
8	エスモードジャポン（ファッション専門学校）講師による講義（2）：アパレル業界の実務	デザインの創出から、マーチャンダイザーやファッションアドバイザーに至るまで、アパレルの一連の業務について、具体例とともに学ぶ。	・授業の内容と、自分で調べたことと合わせてレポートを作成する。 ・グループごとに研究活動を計画的に進めていく。
9	エスモードジャポン（ファッション専門学校）講師による講義（3）：グローバル企業（アパレル）のブランド戦略	グローバルにビジネスを展開するアパレル企業などを事例として、ブランドおよびマーケティング戦略について学ぶ。	・授業の内容と、自分で調べたことと合わせてレポートを作成する。 ・グループごとに研究活動を計画的に進めていく。
10	研究発表（プレゼンテーション）（1）	順番に、グループによる研究発表（プレゼンテーション）を行うとともに、フロアとの質疑応答により考察を深めていく。	・これまでのレポートをまとめて提出する。 ・発表担当のグループは、しっかりとその準備を行う。
11	研究発表（プレゼンテーション）（2）	順番に、グループによる研究発表（プレゼンテーション）を行うとともに、フロアとの質疑応答により考察を深めていく。	・発表担当のグループは、しっかりとその準備を行う。 ・他のグループは、自分たちの研究活動の総仕上げをする。
12	研究発表（プレゼンテーション）（3）	順番に、グループによる研究発表（プレゼンテーション）を行うとともに、フロアとの質疑応答により考察を深めていく。	・発表担当のグループは、しっかりとその準備を行う。 ・他のグループは、自分たちの研究活動の総仕上げをする。
13	研究発表（プレゼンテーション）（4）	順番に、グループによる研究発表（プレゼンテーション）を行うとともに、フロアとの質疑応答により考察を深めていく。	・発表担当のグループは、しっかりとその準備を行う。 ・他のグループは、自分たちの研究活動の総仕上げをする。
14	研究発表（プレゼンテーション）（5）	順番に、グループによる研究発表（プレゼンテーション）を行うとともに、フロアとの質疑応答により考察を深めていく。	・発表担当のグループは、しっかりとその準備を行う。 ・他のグループは、自分たちの研究活動の総仕上げをする。
15	まとめ（総括）	・研究発表（プレゼンテーション）の総評を行う。 ・レポートの総評を行う。	これまでに学んだ内容の要点を整理する。

関連科目	その他の国際ビジネスプログラム科目など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	（必要に応じて指示します）		
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	（必要に応じて指示します）		
2			
3			

評価方法 （基準）	研究発表（プレゼンテーション）（４０％）、 レポート（４０％）、 授業に取り組む姿勢など（２０％） を合わせて評価します。 ※ただし、原則として、出席率８０％以上の学生のみを成績評価の対象とします。
学生への メッセージ	社会人の仕事でもチームワークが重要です。この授業でも積極的かつ協調的な姿勢を大切にしてほしいと思います。
担当者の 研究室等	７号館４階　（中島研究室）
備考	事前・事後学習の総時間数は、２５～３０時間を目安としてください。

科目名	グローバル経済論	科目名（英文）	Global Economy
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	野口　義直
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的

この科目は国際ビジネスプログラム及び国際貢献プログラム対象科目である。
経済のグローバル化は、日本経済および地域経済に様々な影響をもたらしている。円高が進むもとで、日本の輸出製造業の大企業が海外へと生産拠点を展開して多国籍化をすすめ、経済の空洞化が危惧されている。高度な技術力で日本のものづくりを支え、地域経済の担い手となってきた中小企業は、大企業の多国籍化のもとで、再編と淘汰を余儀なくされている。国際競争力の強化を求める日本企業は、賃金コストの圧縮のため、非正規雇用の拡大を進めたが、労働者の収入の低下をもたらして国内消費を制限し、日本経済の成長を制約する要因となっている。国内消費が停滞し、デフレが長期化するもとで、国内流通業の再編が進行し、大手小売業への集約化が進行する一方で、各地の駅前商店街が衰退した。日米間の農産物貿易の自由化交渉は TPP 交渉に引き継がれ、零細農家の淘汰と農村地域経済の衰弱をもたらしている。経済のグローバル化が進行するもとで、これからの日本の国民経済と地域経済をどう立て直すのか。このような問題意識のもとに、この授業では経済のグローバル化とその日本社会への影響について、多様な側面から講義する。

到達目標

経済グローバル化と日本経済の関わりについて、歴史的・具体的に分析する方法について学ぶ。

授業方法と留意点

教科書にしたがった講義形式で行う。

科目学習の効果（資格）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義ガイダンス	講義概要、教科書紹介	ー
2	日本の大企業のグローバル化と中小企業	教科書　第 1 章	事前・教科書予習
3	自動車産業のグローバル化とトヨタ生産システム	教科書　第 2 章	事前・教科書予習
4	アメリカ IT 企業のサービス化と国際分業体制	教科書　第 3 章	事前・教科書予習
5	アメリカ企業･政府によるグローバル化	教科書　第 4 章	事前・教科書予習
6	日本の流通の再編と寡占化	教科書　第 5 章	事前・教科書予習
7	地球環境問題	教科書　第 7 章	事前・教科書予習
8	グローバル化のもとでの日本の労働者の状態	教科書　第 8 章	事前・教科書予習
9	日本における外国人労働者	教科書　第 9 章	事前・教科書予習
10	労使関係の日本－スウェーデン比較	教科書　第 13 章	事前・教科書予習
11	不安定化する世界農産物市場と日本の農業・食料	教科書　第 10 章	事前・教科書予習
12	地域間格差の拡大と日本財政	教科書　第 11 章	事前・教科書予習
13	グローバル化と税制改革	教科書　第 12 章	事前・教科書予習
14	現代資本主義の特徴と日本社会	教科書　序章	事前・教科書予習
15	まとめ		

関連科目

国際ビジネスプログラム科目、国際貢献プログラム科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	資本主義の現在－資本蓄積の変容とその社会的影響	豊福裕二編	文理閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

期末レポート（100%）で評価する。

学生へのメッセージ

普段から新聞やテレビなどで、現実の経済の動きについて関心を持ってください。
積極的に質問をしてください。

担当者の研究室等

1 号館 7 階　野口准教授室（経済学部）

備考

科目名	グローバル社会と日本	科目名（英文）	Japan and Globalization
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	村上　司樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	この科目は国際教養プログラム対応科目であり、グローバル社会と日本のつながりを歴史的に考えることを目的とする。具体的には 16 世紀の、鉄砲伝来とキリスト教伝来に象徴されるヨーロッパとの出会いを検討する。日本と欧米、両文化のファーストコンタクトを学ぶことは、中国やイスラーム圏も含めたさらに広い世界の認識にもつながる。先行きの見えない現在だからこそ、グローバル化の原点にさかのぼって日本と世界の出会いを理解することが意味をもつ。
到達目標	学んだことを、結論・理由・具体例に分けて簡潔に説明できるようにする。
授業方法と留意点	暗記は必要ない。教科書も必要ない。こちらでプリントを用意し、参考書は各単元ごとに紹介する。また図や表を多く使って説明する。だから受講生の側でも、以下３点のことをしてほしい。①授業前には、プリントにあらかじめ目を通しておくこと。②授業後には、プリントを読み返すこと。③プリントを読む際は、線を引くなり印をつけるなり、必ず手を動かすこと。なぜなら授業は教員と受講生のキャッチボールであり、どちらか一方の努力だけでは内容理解につながらないからである。
科目学習の効果（資格）	世界との出会いを知ると同時に、日本についての理解も深まる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業のルール・方針・全体計画	必ず出席するよう予定を調整する。
2	それは 16 世紀に	日本が「世界」と出会ったのは 16 世紀	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
3	それは 16 世紀に	地球規模の東西交流が始まったのも 16 世紀	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
4	それは 16 世紀に	日本とヨーロッパは似ていた	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
5	それは 16 世紀に	接点は戦争と宗教	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
6	戦争と出会い	鉄砲伝来の交流史	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
7	戦争と出会い	「西洋は進んでいて東洋は遅れている」という思い込み	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
8	戦争と出会い	鉄砲に日本史を変えるほどの力はなかった	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
9	戦争と出会い	飛び道具を憎んだ西洋騎士、飛び道具を愛した日本武士	同上の課題に加えて小レポート。
10	戦争と出会い	鉄砲の起源は東洋	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
11	宗教と出会い	キリスト教伝来の交流史	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
12	宗教と出会い	ザビエルをアシストした日本人	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
13	宗教と出会い	西洋的教育機関に留学した最初の日本人	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
14	宗教と出会い	ザビエルを日本に運んだのは中国の船	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
15	宗教と出会い	布教は慈善事業やファッションとも結びついていた	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。

関連科目：世界の宗教

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ポイントは以下３点。　第１に暗記は必要ない。テストも論述１題で持ち込み可であり、この他にレポートとレスポンス・ペーパーで採点するから。第２に消極的姿勢でプラス評価になることはないが、積極的に受講してマイナス評価されることも絶対にない。例えば、出席点はない。しかし誤字や脱字のために減点、ということもない。つまり減点主義ではなく加点主義。また配点は、①テスト（40 点）、②レポート（30 点）、③レスポンスペーパー（30 点＋α）。第３に 60 点に達するなら、①②③すべてを提出する必要はない。その点では、各自のスタイルに合わせて受講してほしい。
学生へのメッセージ	日本と世界の出会いを歴史的に読み解いていくと、「すべては表裏一体」ということに気づきます。実は、このことは授業そのものにも当てはまります。テストにレポート、レスポンス・ペーパーと、3 つの論述課題がありますが、「やることが多い」とのみ考えるのは一面的。裏返せば「単位取得のチャンスが多い」とも言えるからです。またみなさんが「何かを分かっている」かどうかを判定するには、結局「それが何なのかを説明できる」かどうかを見る以外にありません。しかし、このように説明し、伝える力は、文系・理系に関係なく学問研究すべてに欠かせないだけでなく、大学卒業後の長い人生でも、あらゆる場面で必要とされる力です。テスト終了と同時に忘れてしまうような、「暗記科目としての歴史」を教えるつもりはありません。この授業で学ぶのは「具体的・論理的に考える歴史」であり、みなさんには、それを通して「単位以上のもの」を得てほしいと思います。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	コミュニケーションは基本的に毎回授業のレスポンス・ペーパーで行います。 緊急の場合は非常勤講師控室（7 号館 2 階）を訪ねてください。

科目名	グローバルマーケティング論	科目名（英文）	Global Marketing
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居　奈緒子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	この科目は、国際ビジネスプログラムおよびメディアビジネスプログラムの対象科目である。 マーケティング初心者対象ということで、まずマーケティングの基本的概念を説明した後に、グローバルマーケティングについて説明する。
到達目標	グローバルマーケティングについて理解を深める。
授業方法と留意点	講義形式を基本としますが、企業の具体的な事例についても言及します。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	グローバルマーケティングの全体像を示します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
2	マーケティング志向	マーケティングの原点であるマーケティング志向について説明します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
3	マーケティングの４P	製品、販売、流通、価格の基本的な知識について説明します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
4	マーケティングの STP	セグメンテーションやターゲティングについて説明します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
5	競争戦略	企業の競争関係について説明します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
6	マーケティングとグローバル化	グローバルな市場創造について説明します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
7	グローバル・マーケティングリサーチ	マーケティングリサーチのプロセスについて、説明します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
8	グローバル市場参入戦略	市場参入戦略について、説明します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
9	グローバル製品戦略	グローバルな製品の基本的な知識について説明します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
10	グローバル価格戦略	グローバルな価格の基本的な知識について説明します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
11	グローバル広告戦略	グローバルな販売促進の基本的な知識について説明します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
12	グローバル・ロジスティクス戦略	グローバルなロジスティクスの基本的な知識について説明します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
13	グローバルマーケティングの組織	グローバルな組織構築について説明します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
14	グローバルマーケティングの調整と統制	グローバルに展開するときの調整と統制について説明します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
15	まとめ	全体のまとめをします。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。

関連科目：国際ビジネスプログラム科目、メディアビジネスプログラム科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	グローバル・マーケティング	諸上茂登、藤沢武史	中央経済社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末テストの成績 70%、授業内課題 30%
学生へのメッセージ	授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましょう。
担当者の研究室等	１１号館８階（武居教授室）
備考	

科目名	芸能と文化	科目名（英文）	Performing Arts and Culture
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩間　香
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	芸能は演者、観客、庇護者により生み出される文化である。この講義では日本独特の文化として紹介されることの多い茶の湯、立花、能、狂言、歌舞伎、文楽、話芸を取り上げる。その源流、変遷、特徴を知り、作品鑑賞の方法を身につけることを目指す。実地体験を織り交ぜる。
到達目標	日本の古典芸能に関する基礎的な知識を身につける。すなわち古典芸能の歴史、用語、代表的な演目、演者、鑑賞の仕方などについて知る。
授業方法と留意点	毎回スライド・ビデオを使用する。
科目学習の効果（資格）	学芸員資格。日本の代表的な芸能に対する理解を深める。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	遊芸　茶の湯（1）	茶の湯の源流 室町文化	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、室町文化について調べておく（90 分） 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。（90 分）
2	遊芸　茶の湯（2）	侘び茶 千利休	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、千利休について調べておく（90 分） 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。（90 分）
3	遊芸　茶の湯（3）	千宗旦 家元制度	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、内容について調べておく（90 分） 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。（90 分）
4	遊芸　立花（1）	立花 池坊専好	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、立花について調べておく（90 分） 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。（90 分）
5	遊芸　立花（2）	大名の立花 家元制度	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、内容について調べておく（90 分） 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。（90 分）
6	舞台芸　能（1）	散楽 猿楽四座	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、能楽を見ておく（90 分） 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。（90 分）
7	舞台芸　能（2）	世阿弥 夢幻能	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、世阿弥について調べておく（90 分） 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。（90 分）
8	舞台芸　能（3）	桃山時代の能 江戸時代の流派	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、関連する能楽を見ておく（90 分） 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。（90 分）
9	舞台芸　狂言	歴史 流派	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、狂言を見ておく（90 分） 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。（90 分）
10	舞台芸　文楽	人形劇の歴史 近松門左衛門	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、文楽を見ておく（90 分） 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。（90 分）
11	舞台芸　歌舞伎（1）	江戸の荒事 市川団十郎の系譜	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、歌舞伎について調べておく（90 分） 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。（90 分）
12	歌舞伎（2）	上方の和事 坂田藤十郎の系譜	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、内容を調べておく（90 分） 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。（90 分）
13	舞台芸　歌舞伎（3）	舞台・演出の革新 幕末の歌舞伎	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、歌舞伎を見ておく（90 分） 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。（90 分）
14	語り芸	平家琵琶	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、平家琵琶について調べておく（90 分） 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。（90 分）
15	話芸	落語 講談	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、落語・講談について調べておく（90 分） 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。（90 分）

関連科目	日本の歴史・美術のあゆみ・文化と表現

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	レポート（15%）・定期試験（85%） 受講態度を加味する。
学生への メッセージ	実際の舞台や芸能を見たり、茶の湯などを体験することを勧めます。
担当者の 研究室等	７号館５階（岩間研究室）
備考	

科目名	芸能文化論	科目名（英文）	Studies in Performing Arts
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩間　香
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	芸能は演者、観客、庇護者により生み出される文化である。この講義では日本独特の文化として紹介されることの多い茶の湯、立花、能、狂言、歌舞伎、文楽、話芸を取り上げる。その源流、変遷、特徴を知り、作品鑑賞の方法を身につけることを目指す。実地体験を織り交ぜる。
到達目標	日本の古典芸能に関する基礎的な知識を身につける。すなわち古典芸能の歴史、用語、代表的な演目、演者、鑑賞の仕方などについて知る。
授業方法と留意点	毎回スライド・ビデオを使用する。
科目学習の効果（資格）	学芸員資格。日本の代表的な芸能に対する理解を深める。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	遊芸　茶の湯（1）	茶の湯の源流 室町文化	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、室町文化について調べておく（90 分） 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。（90 分）
2	遊芸　茶の湯（2）	侘び茶 千利休	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、千利休について調べておく（90 分） 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。（90 分）
3	遊芸　茶の湯（3）	千宗旦 家元制度	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、内容について調べておく（90 分） 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。（90 分）
4	遊芸　立花（1）	立花 池坊専好	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、立花について調べておく（90 分） 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。（90 分）
5	遊芸　立花（2）	大名の立花 家元制度	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、内容について調べておく（90 分） 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。（90 分）
6	舞台芸　能（1）	散楽 猿楽四座	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、能楽を見ておく（90 分） 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。（90 分）
7	舞台芸　能（2）	世阿弥 夢幻能	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、世阿弥について調べておく（90 分） 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。（90 分）
8	舞台芸　能（3）	桃山時代の能 江戸時代の流派	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、関連する能楽を見ておく（90 分） 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。（90 分）
9	舞台芸　狂言	歴史 流派	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、狂言を見ておく（90 分） 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。（90 分）
10	舞台芸　文楽	人形劇の歴史 近松門左衛門	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、文楽を見ておく（90 分） 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。（90 分）
11	舞台芸　歌舞伎（1）	江戸の荒事 市川団十郎の系譜	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、歌舞伎について調べておく（90 分） 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。（90 分）
12	歌舞伎（2）	上方の和事 坂田藤十郎の系譜	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、内容を調べておく（90 分） 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。（90 分）
13	舞台芸　歌舞伎（3）	舞台・演出の革新 幕末の歌舞伎	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、歌舞伎を見ておく（90 分） 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。（90 分）
14	語り芸	平家琵琶	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、平家琵琶について調べておく（90 分） 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。（90 分）
15	話芸	落語 講談	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、落語・講談について調べておく（90 分） 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。（90 分）

関連科目	日本の歴史・美術のあゆみ・文化と表現

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	レポート（15%）・定期試験（85%） 受講態度を加味する。
学生への メッセージ	実際の舞台や芸能を見たり、茶の湯などを体験することを勧めます。
担当者の 研究室等	７号館５階（岩間研究室）
備考	

科目名	言語学	科目名（英文）	Linguistics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山口　真佐夫
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2△		

授業概要・目的	この授業の目的は「言語」とは何かを理解し、また「言語」に対する知識を深めることにある。より深く言語を理解し、言語の多様性と共通性を理解することは、外国語学習のためにも必要な知識である。
到達目標	「言語学」という学問分野を理解し、外国語学習に役立てることができる。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行われるが、受講生ができるだけ参加できるようにする。 必要に応じてプリントを配布する。
科目学習の効果（資格）	言語の多様なしくみを深く知ることができる。音声学と合わせて３・４年次のゼミや教職関連や大学院進学にも役立つ。また、現在学んでいる主言語、共通言語に対する学習効果の向上も期待できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	本授業の目的、授業の進め方等について説明する。	充分時間をかけ、事前にシラバスを読んでくること。
2	言語と言語学	言語とは何か。どのような役割を持っているのか理解する。また、「言語学」と「言語」についても説明する。	指示された事前・事後学習課題には充分時間をかけること。
3	日本語と外国語	なぜ外国語を学ぶのか。 日本語の中の借用語（語源）	指示された事前・事後学習課題には充分時間をかけること。
4	世界の言語１	世界にはいくつくらい言語が存在するのか、そして自分たちが学んでいる言語はどのような位置づけにあるのかを理解する。	指示された事前・事後学習課題には充分時間をかけること。
5	世界の言語２（比較言語学）	次回までに、言語はどのように分類されるのか。そして自分たちが学んでいる言語はどのように分類されるのかを理解する。	指示された事前・事後学習課題には充分時間をかけること。
6	言語と国、社会とのかかわり（社会言語学）	国語、公用語の社会における言語の役割を考える。（社会言語学）	指示された事前・事後学習課題には充分時間をかけること。
7	言語の構造	言語はどのような構造を持っているのかを理解する。	指示された事前・事後学習課題には充分時間をかけること。
8	音素（音韻論）	外国語を学ぶための「発音」とは何かを理解する。様々な言語における音素を理解する。どのような要素がどのような役割を持っているのか学ぶ。	指示された事前・事後学習課題には充分時間をかけること。
9	アクセント、声調、呼気段落	アクセント、声調、呼気段落等の役割を説明する。	指示された事前・事後学習課題には充分時間をかけること。
10	文字１	文字の歴史、系統について、例を挙げ説明する。	指示された事前・事後学習課題には充分時間をかけること。
11	文字２	世界で現在使われている文字について説明する。	指示された事前・事後学習課題には充分時間をかけること。
12	形態素１（形態論）	単語はどのように出来上がっているのか。	指示された事前・事後学習課題には充分時間をかけること。
13	形態素２（形態論）	単語はどのように変化するのか。	指示された事前・事後学習課題には充分時間をかけること。
14	語彙、単語の意味（意味論）	外国語の意味をどうとらえるか。	指示された事前・事後学習課題には充分時間をかけること。
15	総復習	臨時試験 臨時試験の内容の確認。	指示された事前・事後学習課題には充分時間をかけること。

関連科目	音声学・各言語科目等。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点と臨時試験によって評価する。 参加度（発言等）40%、臨時試験 60%
学生へのメッセージ	この授業は、外国語学部で外国語を学ぶための基礎知識を身につけるための授業です。そして、「言語学」という学問分野についての入門もできます。
担当者の研究室等	７号館５階　山口室
備考	臨時試験の内容に関しては、試験終了後の授業中に確認、説明を行う。

科目名	現代学術論	科目名（英文）	Contemporary Scientific Thought
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小川　豊生
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	現代のさまざまな文化（サブカルチャー）が、どのような歴史的な厚みをもっているのか、具体的な事例にそってみていく。身近な生活のなかで出会った文化の問題を、たんに生活のなかだけで終わらせず、歴史的な文脈のなかに置きなおして考えてみる訓練、ささいな日常のなかから、「学問」「学術」という厚みのある世界へとつないでいく方法の獲得――これがこの講義の目的です。
到達目標	現代文化を「学術」へと深化させる手述を具体的に体得し、各自のテーマに即して研究する方法を身につける。
授業方法と留意点	講義が中心となる。厳正な姿勢でのぞむこと。座席は指定する場合がある。
科目学習の効果（資格）	資格試験のベースとなる、教養・語彙力・文章読解力・思考力の養成。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入：現代学術の諸問題	この講義全体の目的について概説する。	――――――
2	サブカルチャー論（現代学術と神話学）１	現代学術におけるサブカルチャーの意義について考察する。	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
3	サブカルチャー論（現代学術と神話学）２	現代学術におけるサブカルチャーの意義について考察する。	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
4	サブカルチャー論（現代学術と神話学）３	現代学術におけるサブカルチャーの意義について考察する。	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
5	民俗学と民話学１	日本の民俗学とヨーロッパの伝承研究を比較しつつ、サブカルチャーと民俗伝承のかかわりについて考察する。	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
6	民俗学と民話学２	日本の民俗学とヨーロッパの伝承研究を比較しつつ、サブカルチャーと民俗伝承のかかわりについて考察する。	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
7	民俗学と民話学３	日本の民俗学とヨーロッパの伝承研究を比較しつつ、サブカルチャーと民俗伝承のかかわりについて考察する。	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
8	映像文化の誕生と現代学術論１	現代文化の代表である映画の誕生と展開についてその歴史的経緯を解説し、現代学術とのかかわりを考察する。	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
9	映像文化の誕生と現代学術論２	現代文化の代表である映画の誕生と展開についてその歴史的経緯を解説し、現代学術とのかかわりを考察する。	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
10	映像文化の誕生と現代学術論３	アニメ「アトム」の誕生と思想的な背景について現代学術論の視点から考察する。	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
11	漫画を学問する１	漫画文化の源流と展開を追いながら、その現代学術としての可能性を考察する。	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
12	漫画を学問する２	漫画文化の源流と展開を追いながら、その現代学術としての可能性を考察する。	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
13	祭りとスポーツ１	サッカーの起源を探究し、現代文化のなかで有するスポーツの意義について認識を深める。	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
14	祭りとスポーツ２	サッカーの起源を探究し、現代文化のなかで有するスポーツの意義について認識を深める。	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
15	総合評価授業	授業全体をまとめ、総合問題を解く。	ノートの総整理と講義内容の要点整理

関連科目：文化科目全般。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	総合評価授業での総合問題、中間テスト 60%、授業時に回収したコメントや課題レポート等 40%で評価する。
学生へのメッセージ	現代文化が、とおい時代から蓄積された文化の厚みのうえに成り立っていることを発見し、それらが現代学術のなかでどのように議論されているかを認識する機会にしてほしい。
担当者の研究室等	7 号館 4 階(小川研究室)
備考	事前・事後の学習は、それぞれ２時間ずつ、総時間 60 時間を目安とする。

科目名	現代社会論	科目名（英文）	Modern Society
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	浦野　崇央
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	昨今、私たちの日常において、「ヘイトスピーチ」や「婚活」、「パリピ」、「パワハラ」、「ペットロス」、「コンパニオンアニマル」といった新しい概念をもった言葉が頻繁に使われ、それをめぐる言説が展開されている。これらの言葉や言説はまさに、現代社会を象徴しているものであるといえよう。本講義においては、こういった言葉や言説をめぐる現象について、さまざまなレンズを使って見直してみることを通じて、私たちの住むこの社会の構造がいかなるものであるのかを明らかにする。なお、本講義では特に、社会と人との関わり合いの観点に焦点を絞ることとしたい。
到達目標	本講義を通じて、現代社会の姿を明らかとできると同時に、自身のふるまい方あるいは立ち位置を再確認することが可能となろう。
授業方法と留意点	本授業は、一方的な講義形式に終わらせること無く、出来るかぎり、学生諸君の生の声を取り入れていきたい。なお、本授業においては、遅刻は厳禁であるので、その点を留意されたい。
科目学習の効果（資格）	現代の社会現象を改めて見直すことを通じて、社会人としての基礎教養の獲得につながるであろう。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	「現代社会論」の目指すこと	「現代社会」の概念を把握し、今後へのステップとする。	新聞から「現代社会」を象徴していると思われる事柄を抜き出してみましょう。
2	社会のなかの「人」	「人」をテーマに、現代社会を捉えることの意義を考える。	現代社会のキーワードを考えてみましょう。
3	人間関係の社会学	現代社会における人間関係を客観的なまなざしをもって捉えなおす。	自身のアイデンティティは何なのかを考えてみましょう。
4	血液型性格判断からみえるもの	血液型性格判断を通じて、先入観の作られ方を探る。	配布プリントをよく読んでおきましょう。
5	占いからみえるもの	現代社会における各種占いの存在意義を探る。	いろいろな「占い」の結果で使われている表現を抜き出してみましょう。
6	人口減少社会の構造	日本における少子化現象を題材に、人口減少社会の構造について考察する。	「少子化」を説明できるようにしましょう。
7	人口減少社会の問題点	日本における少子化現象を題材に、人口減少社会の問題点について考察する。	配布プリントをよく読んでおきましょう。
8	各国の人口問題（人口減少社会と人口過剰社会の仕組み）	各国の人口問題を把握するとともに、各国が取り組んでいる施策について検討する。	日本以外の国の人口構造を把握しましょう。
9	セックスとジェンダー	男と女をめぐる固定観念について考える。	配布プリントをよく読んでおきましょう。
10	男と女の関係性	男と女を題材に、人が人を区別し、ひいてはそれが差別にいたることについての意味と構造を考える。	男の立場および女の立場でメリット・デメリットを考えてみましょう。
11	ハラスメントの構造	男と女、男と男、女と女の場面をめぐるセクシュアル/アカデミック/アルコール・ハラスメントにみられる権力構造についての考察を行なう。	配布プリントをよく読んでおきましょう。
12	個人と集団	自殺や犯罪という行為を事例に取り上げ、個人主義と集団主義について考える。	「社会規範」の意味について考えてみましょう。
13	家族の役割	現代社会における家族の意味と役割について考える。	自身の家族間での位置づけについて客観的に捉え直してみましょう。
14	「モノ」に翻弄される人びと	現代におけるコミュニケーション・ツール（たとえば、電話、携帯メール、インターネット、Facebook、LINE 等）の意味と役割を考える。	自身のコミュニケーション・ツールの使い方を見つめ直してみましょう。
15	まとめ	「人」・「モノ」・「コト」のかかわり合いの意味について考え、「現代社会」の意味づけおよびそれにあたって必要とされる眼差しについて総括する。	これまでに何を学んだのかをまとめてみましょう。

関連科目	時事問題Ⅰ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学期末の定期試験(80%)、レポートおよび授業時における発言等積極的な取り組み姿勢（20%） 詳細は、第１回目の授業で伝える。
学生へのメッセージ	本講義を通じて、わたしが期待することは、受講生諸君に先入観や固定観念といったものを打ち崩してもらうことです。そのためには、積極的に発言をし、議論を交わしていく必要があります。ともに切磋琢磨していきましょう。
担当者の研究室等	７号館４階(浦野研究室)
備考	本授業は、現代社会の事象を題材に進めていく。よって、突発的な事件や事故が発生した際は、シラバスの進行にかかわらず、題材として取り上げることがあることを留意されたい。 本授業における事前・事後学習課題は、総時間６０時間を目安とする。

科目名	現代中国論	科目名（英文）	Contemporary China
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大西　紀
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	今日地球レベルで国際化、情報化、開放化が進んでいる。この流れの中で世界最大の発展途上国の中国も凄まじい発展を遂げながら、さまざまな問題を抱えている。いまの中国のもつ魅力と問題点を歴史的、総合的な視点から明らかにしていくことが本授業の目標である。具体的には現代中国社会に関して、政治、経済、教育、文化、人口問題などを中心に議論をしながら、中国の全体像を正しく捉えてその社会の理解を深めたい。
到達目標	現代中国についての自分なりの見方を獲得できる。
授業方法と留意点	授業にはプリントを使用し、現代中国に関わる幾つかのトピックについて講義を行う。単方向の授業となりがちなので、受講生からの質問は随時受け付ける。
科目学習の効果（資格）	常識力の向上。就職、面接試験に有効。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ユニットⅠ　現代中国の概況	国土、自然、地域区分、人口	次回用のプリント・地図等配布。学習課題：人口分布の不均衡、地域差
2	ユニットⅠ　現代中国の概況	民族、宗教、行政	学習課題：多民族、与野党、地方自治
3	ユニットⅠ　現代中国の概況	人口問題、一人っ子政策	インドと中国の人口増加を比較し、今後の世界の人口問題を考察する。
4	ユニットⅠ　現代中国の概況	教育問題	学習課題：教育産業化、貧困学生、
5	ユニットⅡ　歴史と現状	毛沢東の時代	学習課題：建国初期の課題と政策
6	ユニットⅡ　歴史と現状	鄧小平と改革解放	学習課題：なぜ改革解放政策をとるか
7	ユニットⅡ　歴史と現状	農村改革と民工問題	改革の成果と問題点を考察する。
8	ユニットⅡ　歴史と現状	都市化の進展	学習課題：都市化に伴って城郷格差の拡大
9	ユニットⅢ　経済	計画経済体制から市場経済体制への転換	学習課題：計画経済と市場経済は何か
10	ユニットⅢ　経済	現代経済と若者文化	学習課題：中国特色の市場経済、若者の価値観
11	ユニットⅢ　経済	老齢社会と貧富格差の拡大	学習課題：中国の養老問題、社会福祉の利弊。
12	ユニットⅣ　生活	生活観の新動向	学習課題：貯蓄型から消費型への変化
13	ユニットⅣ　生活	消費間の変化	学習問題：都市市場の消費事情と農村市場の開拓
14	ユニットⅣ　生活	中国時事問題（台湾問題、チベット問題）	学習課題：台湾と大陸の現状、少数民族問題の現状と展望
15	結び	中国社会の光と影	学習課題：改革解放以来の成果と問題点。現代中国のイメージについて考察する。

関連科目：日中関係論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験は実施しない。 授業期間中随時行う復習チェックテスト、授業に臨む積極性等により総合的に評価する。 評価基準 チェックテスト 60%　平常評価 40%
学生へのメッセージ	授業中の私語は他の受講生の迷惑となるので慎んでほしい。随時チェックテストを行い知識の定着を図るので、授業後も復習を心がけること。事前・事後に各 60 分の学修を要する。 チェックテストの平均点が六割に満たない者、出席率が三分の二を越えないものは、如何なる理由があれ、単位は認定できません。履修の際はこの点をふまえて慎重に履修するようにしてください。 新聞を読むことを勧める。特に現代中国にかかわる記事には注目すること。
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師控室
備考	授業外で連絡の必要な場合は月 4 限、水 3 限に講師控室までお越しください。

科目名	現代ラテンアメリカ論	科目名（英文）	Contemporary Latin American Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北條　ゆかり
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	現在のラテンアメリカ社会の基本的な構造を作ったのは、欧米による植民地支配であり、それは現在も、開発や援助あるいはグローバリゼーションの名のもとに形を変えて継続している。ラテンアメリカ社会の本質を近代世界システムの中で歴史的に理解できるようにするとともに、ラテンアメリカの今日的課題と対外関係について学ぶ。
到達目標	欧米中心のものの見方や価値観に囚われず、より均衡のとれた複眼的思考を見につける。
授業方法と留意点	ラテンアメリカをサブリージョンに分類し、視聴覚教材を用いながら、社会・文化・政治・経済などの角度から多面的な当該地域の理解を図る。毎回資料を配布し、関連する映画・ドキュメンタリー作品等を例示したり、報道記事を紹介する。できるかぎり観たり読んだりしたうえで授業に臨むとより効果的な学習となる。
科目学習の効果（資格）	英語圏とくに米国発の情報のみに拠らず、異なる言語文化圏の視点に立った世界観をも知る。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	地域の概要	ラテンアメリカの地理・自然環境・言語文化	地図を思い浮かべられる程度までじっくりと見ておく
2	社会・文化の起源と形成過程	先住民文化：先コロンブス時代の諸文明（メソアメリカ／アンデス）、植民地支配の影響、イベリア文化の「伝統」とメスティサへ、現代の多文化状況	先住民文明（マヤ、アステカ、インカなど）についての何らかの文献を読んでおく
3	メキシコ	現代メキシコをみる二つの視座 メキシコの自然環境と社会	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
4	メキシコ	近現代史を貫く三つの革命 現代メキシコ	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
5	中米地域	現代中米諸国をみる視点 中米地峡の自然環境と文化	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
6	中米地域	軍事政権の系譜と民主化の進展 米国との関係 政治統合の破綻と経済統合の進展	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
7	カリブ海地域	カリブ海地域の自然環境と文化 近代世界史とカリブ海地域	配布資料を読み、文学・映画作品を読み鑑賞しておく。
8	カリブ海地域	植民地支配の遺産と自立への道	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。 中間レポートへの取組み
9	アンデス諸国	アンデス世界の多様性 ベネズエラ、コロンビア、エクアドル	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
10	アンデス諸国	ペルー、ボリビア、チリ	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
11	ラプラタ地域	ラプラタ地域を捉える視点 アルゼンチン	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
12	ラプラタ地域	ウルグアイ、パラグアイ	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
13	ブラジル	植民地時代のブラジル 大陸国家の統合と近代化、開発と環境問題	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
14	ラテンアメリカと日本の関係	移住の歴史と現代の経済協力・文化交流関係	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
15	講義内容のまとめ 到達目標確認テストと解説	現代ラテンアメリカの課題とその取組み、NGO（日本も含めた）の可能性	総復習と期末レポートへの取組み

関連科目：「ラテンアメリカ史学」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内容に関する質問票、与えられたテーマについての小論文等　５０％、レポートおよび到達目標確認テスト　５０％
学生へのメッセージ	日本からは遠い国ぐにであるだけに、具体像を抱いてもらえるようテーマに直結する取材映像を駆使しつつ、いつでも何でも質問しやすい雰囲気の双方向性の授業をめざします。なぜだろうと考えること、もっと知りたい気持ちに駆られて本を読むこと、それを続けてください。
担当者の研究室等	７号館５階　北條研究室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。

科目名	語学教育工学	科目名（英文）	Technology in Language Teaching
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	後藤　一章
ディプロマポリシー(DP)	DP1〇,DP2△		

授業概要・目的	語学教育を行う上で有用となる ICT スキルの養成を目指す。 また、グループ課題を通して、協調性やコミュニケーション力を身につける。 なお、この科目は「外国語専門職プログラム」対応科目である。
到達目標	自分の関心のあるテーマについて ICT スキルを用いて取り組み、 その成果を効果的に発表することができるようになる。
授業方法と留意点	グループでデジタル教材などの作成を目指す。 様々なコンピュータ操作が必須となるため、ファイルやフォルダ、拡張子などの概念は最低限理解しておいてほしい。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の詳細と評価方法の具体的な説明。	指示された演習課題に取り組む
2	デジタル教材の現状	デジタル教材の種類やその利用方法について理解する。	指示された演習課題に取り組む
3	デジタル教材作成のための ICT 技術	画像、音声、動画ファイルの構造について理解する。	指示された演習課題に取り組む
4	デジタル教材作成のための ICT 技術	画像、音声、動画ファイルの編集方法について理解する。	指示された演習課題に取り組む
5	課題作成	テーマに従ってデジタル教材を作成する。	指示された演習課題に取り組む
6	課題作成	テーマに従ってデジタル教材を作成する。	指示された演習課題に取り組む
7	課題作成	テーマに従ってデジタル教材を作成する。	指示された演習課題に取り組む
8	発表	作成した教材を発表する。	指示された演習課題に取り組む
9	課題作成	テーマに従ってデジタル教材を作成する。	指示された演習課題に取り組む
10	課題作成	テーマに従ってデジタル教材を作成する。	指示された演習課題に取り組む
11	課題作成	テーマに従ってデジタル教材を作成する。	指示された演習課題に取り組む
12	課題作成	テーマに従ってデジタル教材を作成する。	指示された演習課題に取り組む
13	課題作成	テーマに従ってデジタル教材を作成する。	指示された演習課題に取り組む
14	発表	作成した教材を発表する。	指示された演習課題に取り組む
15	総括	授業で学んだ内容の復習と、作成した課題の評価を互いに行う	指示された演習課題に取り組む

関連科目：外国語専門職プログラム対応科目など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）
積極性 30%
授業時の発言内容 20%
課題の達成度 30%
ICT スキルの習熟度 20%

学生へのメッセージ：

担当者の研究室等：７号館５階（後藤研究室）

備考：

科目名	国際関係の基礎理解	科目名（英文）	Introduction to International Relations
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中　悟
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この科目は、国際貢献プログラムおよび国際教養プログラムの対応科目である。 本講義は、国際政治経済学の基礎的な概念や議論に触れるとともに、グローバル化した現代世界における経済（市場主義）と政治（国民国家）との間の相互作用に注目するものである。
到達目標	国際政治経済学の基礎的な概念や議論に親しむことで、それらの観点から「現代社会の国際関係」に関する諸議論の意味するところを理解した上で、自らの思考を組み立てることができるようになること。 本講義を、自らが暮らす現代社会の諸問題を政治や経済の視点から受講者自身が考えていくための一つのきっかけ、手がかりとすることが目指される。
授業方法と留意点	原則として講義形式をとり、教科書の内容に即したレジュメを配布する。 教科書の章立てに沿って各回１章完結方式で進めていく予定であるが、進行状況等によって多少の調整がありうる。
科目学習の効果（資格）	現代社会をめぐる社会科学的な議論についての基礎的な理解力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	序章　「経済」の論理と「政治」の論理	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	国際政治経済学の理論的枠組み	第１章　国際政治経済の見方	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
3	国際経済体制の歴史（１）	第２章　力の構造と国際経済体制 ブレトンウッズ体制の成立までの経緯を概観する。	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
4	国際経済体制の歴史（２）	第３章　冷戦とブレトンウッズ体制 冷戦期におけるブレトンウッズ体制の変容について概観する。	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
5	国際政治経済体制の動態（１）	第４章　安全保障と経済 「経済安全保障」とは何か。	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
6	国際政治経済体制の動態（２）	第５章　保護貿易をめぐる政治と経済 保護貿易と自由貿易との関係について考えていく。	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
7	国際政治経済体制の動態（３）	第６章　金融グローバル化の構図 金融のグローバル化は、ブレトンウッズ体制崩壊後の世界に何をもたらしたか。市場と国家との関係に注目しつつ考えていく。	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
8	国際政治経済体制の動態（４）	第７章　科学技術と現代国際関係 テクノロジーの発展と政治・経済との関係について考える。	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
9	国際政治経済体制の動態（５）	第８章　移民をめぐる政治と経済 グローバル化するヒトの移動は、国家に何をもたらすのか。	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
10	国際政治経済体制の動態（６）	第９章　経済発展と人権・民主化 経済発展と政治体制との関係について、人権保障や民主化・人間の安全保障といった観点から考える。	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
11	国際政治経済体制の動態（７）	第 10 章　地球環境をめぐる政治経済 国際政治の争点としての地球環境問題は、何故に困難な問題であるのか。	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
12	国際政治経済秩序の模索（１）	第 11 章　グローバルレベルの国際秩序の模索 通貨金融秩序・貿易秩序をめぐる新しい国際政治経済秩序の模索について論じる。	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
13	国際政治経済秩序の模索（２）	第 12 章　リージョナルレベルの国際秩序の模索 地域統合・地域協力のための枠組みについて、具体的なケースを通じて概観する。	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
14	国際政治経済秩序の模索（３）	第 13 章　ナショナルレベルからの国際秩序の模索 貿易問題を通して、国際秩序をめぐる国家の役割について考える。	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
15	まとめと補遺	終章　国際政治経済学の未来像 「グローバル」と、それに対する「ローカル」「ナショナル」「反グローバル」との関係について、私たちは今度どのよう	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）

			に考え、何を目指すべきか。	

関連科目	国際貢献プログラムおよび国際教養プログラムの各科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際政治経済学・入門 第３版	野林健ほか	有斐閣
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	■定期試験　80% ■平常点　20%（ミニレポートを講義内で課す予定） ただし、履修者数や進行状況等によって、多少の調整がありうる。
学生へのメッセージ	教科書は定期試験でも使用する。受講者は必ず購入すること。
担当者の研究室等	7 号館 4 階（田中悟研究室）
備考	この科目は外国語学部パッケージプログラム（国際貢献・国際教養）の対応科目ですが、他のプログラムや英語プロフェッショナルコースの学生も受講可能です。

科目名	国際関係論	科目名（英文）	International Relations
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中　悟
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	この科目は、国際貢献プログラムおよび国際教養プログラムの対応科目である。 本講義は、国際政治経済学の基礎的な概念や議論に触れるとともに、グローバル化した現代世界における経済（市場主義）と政治（国民国家）との間の相互作用に注目するものである。
到達目標	国際政治経済学の基礎的な概念や議論に親しむことで、それらの観点から「現代社会の国際関係」に関する諸議論の意味するところを理解した上で、自らの思考を組み立てることができるようになること。 本講義を、自らが暮らす現代社会の諸問題を政治や経済の視点から受講者自身が考えていくための一つのきっかけ、手がかりとすることが目指される。
授業方法と留意点	原則として講義形式をとり、教科書の内容に即したレジュメを配布する。 教科書の章立てに沿って各回１章完結方式で進めていく予定であるが、進行状況等によって多少の調整がありうる。
科目学習の効果（資格）	現代社会をめぐる社会科学的な議論についての基礎的な理解力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	序章　「経済」の論理と「政治」の論理	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	国際政治経済学の理論的枠組み	第１章　国際政治経済の見方	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
3	国際経済体制の歴史（１）	第２章　力の構造と国際経済体制 ブレトンウッズ体制の成立までの経緯を概観する。	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
4	国際経済体制の歴史（２）	第３章　冷戦とブレトンウッズ体制 冷戦期におけるブレトンウッズ体制の変容について概観する。	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
5	国際政治経済体制の動態（１）	第４章　安全保障と経済 「経済安全保障」とは何か。	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
6	国際政治経済体制の動態（２）	第５章　保護貿易をめぐる政治と経済 保護貿易と自由貿易との関係について考えていく。	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
7	国際政治経済体制の動態（３）	第６章　金融グローバル化の構図 金融のグローバル化は、ブレトンウッズ体制崩壊後の世界に何をもたらしたか。市場と国家との関係に注目しつつ考えていく。	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
8	国際政治経済体制の動態（４）	第７章　科学技術と現代国際関係 テクノロジーの発展と政治・経済との関係について考える。	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
9	国際政治経済体制の動態（５）	第８章　移民をめぐる政治と経済 グローバル化するヒトの移動は、国家に何をもたらすのか。	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
10	国際政治経済体制の動態（６）	第９章　経済発展と人権・民主化 経済発展と政治体制との関係について、人権保障や民主化・人間の安全保障といった観点から考える。	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
11	国際政治経済体制の動態（７）	第 10 章　地球環境をめぐる政治経済 国際政治の争点としての地球環境問題は、何故に困難な問題であるのか。	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
12	国際政治経済秩序の模索（１）	第 11 章　グローバルレベルの国際秩序の模索 通貨金融秩序・貿易秩序をめぐる新しい国際政治経済秩序の模索について論じる。	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
13	国際政治経済秩序の模索（２）	第 12 章　リージョナルレベルの国際秩序の模索 地域統合・地域協力のための枠組みについて、具体的なケースを通じて概観する。	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
14	国際政治経済秩序の模索（３）	第 13 章　ナショナルレベルからの国際秩序の模索 貿易問題を通して、国際秩序をめぐる国家の役割について考える。	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
15	まとめと補遺	終章　国際政治経済学の未来像 「グローバル」と、それに対する「ローカル」「ナショナル」「反グローバル」との関係について、私たちは今度どのよう	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）

			に考え、何を目指すべきか。	

関連科目	国際貢献プログラムおよび国際教養プログラムの各科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際政治経済学・入門 第３版	野林健ほか	有斐閣
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	■定期試験　80% ■平常点　20%（ミニレポートを講義内で課す予定） ただし、履修者数や進行状況等によって、多少の調整がありうる。
学生へのメッセージ	教科書は定期試験でも使用する。受講者は必ず購入すること。
担当者の研究室等	7 号館 4 階（田中悟研究室）
備考	この科目は外国語学部パッケージプログラム（国際貢献・国際教養）の対応科目ですが、他のプログラムや英語プロフェッショナルコースの学生も受講可能です。

科目名	国際機構論	科目名（英文）	International Organizations
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	浅野　英一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	この科目は、国際貢献プログラム対応科目である。 国連機関は一体どんな働きをしているのだろうか。この講義は、国際機関の基礎的知識を学ぶことを目的としている。
到達目標	国際機構との関わりにおいて、過去の歴史から見た国際関係と現在について原理・概念がもつ重要性や課題を理解する。
授業方法と留意点	各講義は、起承転結で構成する。起：テーマのイントロダクション、承：デオ・スライドを多様してビジュアルに国際機関の現状を知る、転：テーマ内容を深く掘り下げる、結：まとめ。各講義の最後 20～30 分間は、質疑応答の時間とする。
科目学習の効果（資格）	国際機関で働くために知っておくべき基礎的な教養

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクションと授業内容概要	国際機構論ではどんなことを、どのように学ぶのか	＿＿＿＿＿
2	国際機構とは何か	国際機構の働きについて	前回の復習と、次回への展開
3	日本と国際機構との関係	日本が行ってきた国際機構との協力関係について	前回の復習と、次回への展開
4	国際機関で働くには	国際機関でグローバルに生きる方法	前回の復習と、次回への展開
5	国際援助	国際機構が行う国際援助について	前回の復習と、次回への展開
6	国際法	国際機関と国際法との関係	前回の復習と、次回への展開
7	地域紛争	国際機関と地域紛争や危機管理との関係について	前回の復習と、次回への展開
8	核の不拡散と輸出管理	大量破壊兵器と国際機関との関係について	前回の復習と、次回への展開
9	テロリズム	９・１１事件以降のテロリズム対策について	前回の復習と、次回への展開
10	国際難民	国際的に拡大する難民問題と国際機構との関係について	前回の復習と、次回への展開
11	人・物・金	国際協力にまつわるキイワード	前回の復習と、次回への展開
12	貧困問題	開発途上国が持つ大きな問題が、貧困でありこの問題に国際機構がどう対応するかについて	前回の復習と、次回への展開
13	持続可能な発展	「持続可能な発展」とは何か、どうして必要なのかを紐解く	前回の復習と、次回への展開
14	国際機構の課題	今後、国際機構はどうあるべきかを考える	前回の復習と、次回への展開
15	記述式総括確認（必ず出席すること）	これまでに学んできたことについて記述式の総合的判断を行う	＿＿＿＿＿

関連科目	国際協力論、国際ボランティア論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	記述式小テストや記述式小レポートを合わせて(100%)評価する。
学生へのメッセージ	国際協力機関・国際ボランティア・青年海外協力隊など、将来この方面に進みたい学生には入門講座的として役割を果たします。
担当者の研究室等	７号館５階(浅野研究室)
備考	

科目名	国際協力論	科目名（英文）	International Cooperation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	浅野　英一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	この科目は、2015 年度以降の入学生を対象する国際貢献プログラム科目である。 国際協力は、開発途上国に対する援助供与という観点で捉えられがちだが、開発途上国、開発援助国を問わず、互いが抱える問題にパートナーとして協力していくことが国際協力の本来のあり方である。本講座では国際協力や国際援助の歴史、意義、効果と限界、南北問題、日本外交と対外援助、日本のＯＤＡやＮＧＯの現状と課題について、開発援助国と開発途上国との間で起こった事実を踏まえて学ぶ。
到達目標	国際協力の必要性・重要性、開発途上国の実情・現状や課題について理解を深め、国際協力のありかたについて自らの考えを持つ。
授業方法と留意点	摂南大学を休学・卒業して青年海外協力隊に参加している学生からの現地報告や、ビデオ・スライドを多様してビジュアルに国際協力の現状を知る。各講義の最後 15～20 分間は、質疑応答の時間とする。
科目学習の効果（資格）	将来的に、国際分野に進むために学んでおかなければならない国際協力の基礎

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクションと授業内容概要	国際協力論ではどんなことを、どのように学ぶのか	＿＿＿＿＿
2	国際協力とは何か	国際協力の意味	前回の復習と、次回への展開
3	日本の国際協力	日本が行ってきた国際協力について	前回の復習と、次回への展開
4	非政府組織（NGO）	NGO の得意な分野と苦手な分野	前回の復習と、次回への展開
5	草の根組織・地方自治体	普通の人が出来る国際協力	前回の復習と、次回への展開
6	国際連合	様々な組織とその役割	前回の復習と、次回への展開
7	国際協力を受ける国々（１）	開発途上国（アジア）について（過去・現在・将来）	前回の復習と、次回への展開
8	国際協力を受ける国々（２）	開発途上国（アフリカ）について（過去・現在・将来）	前回の復習と、次回への展開
9	国際協力を受ける国々（３）	開発途上国（アジア・アフリカ以外の国）について（過去・現在・将来）	前回の復習と、次回への展開
10	国際協力の仕組み	国際協力の仕組みを解明する	前回の復習と、次回への展開
11	人・物・金	国際協力にまつわるキイワード	前回の復習と、次回への展開
12	国際協力の課題	主要援助国が抱える国際協力問題について	前回の復習と、次回への展開
13	開発教育	開発教育とはなにか、どうして必要なのかを紐解く	前回の復習と、次回への展開
14	国際協力の課題	今後、国際協力はどうあるべきかを考える	前回の復習と、次回への展開
15	総括的確認（必ず出席すること）	これまでに学んできたことについて総合的判断を行う	＿＿＿＿＿

関連科目：国際貢献プログラム科目（2015 年度入学生）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際協力国際交流ハンドブック　基礎から実践へ	浅野英一	実教出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	記述式小テストの総計(100%)により評価する。
学生へのメッセージ	国際協力機関・国際ボランティア・青年海外協力隊など、将来この方面に進みたい学生には入門講座的として役割を果たします。この講義を受けて国際協力に興味を持った摂南大学の現役学生が青年海外協力隊員として、世界の国際協力現場の最前線で活躍しています。
担当者の研究室等	７号館５階(浅野研究室)
備考	

科目名	国際貢献実習演習	科目名（英文）	International Service Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野　英一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	①フィリピン・ミンダナオにある NGO ハウスオブジョイ（HOJ）児童養護施設での実践型貢献実習と②ミンダナオ国際大学での英語実習を複合的に組み合わせた 3 週間の海外プログラムである。参加メンバー（履修生）との共同活動を通じ、開発途上国への理解を深め、実習先での経験との共通点、相違点を確認する。現地の人々との出会いの中から、見つけた新たな課題と、今後の関わり方について考える。 なお、この科目は、パッケージプログラム実習・演習科目の一つである。
到達目標	①使える語学力（英語）や、異文化コミュニケーション能力を身につける。 ②異なる社会・文化のなかで暮らし、働くための総合力を身につける。 ③フィールドでの実体験を通じて、国際知識を養い、多文化環境のもとプロジェクトを動かすスキルを修得する。 ④ボランティア、自立支援など、国内外の団体で活動ができる。
授業方法と留意点	履修登録学生は、オリエンテーションを行うので、必ず参加のこと。日時と教室は、ポータルにて連絡。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	事前教育　4 回程度（生活環境・語学・習慣・ハートアクティビティプログラム*の習得） 現地活動　2017 年 2 月中旬～3 月上旬の 3 週間を予定している。 *ハートアクティビティ(Human Relation Training)プログラム：いろいろなゲームを通して、緊張をほぐし、お互いに尊重することを学び、コミュニケーションや協力関係、豊かな人間関係を築いていくためのプログラム。 履修登録時の注意事項： 受け入れ施設に宿泊制限があるため、上限は最大 15 名とする。履修希望者が 15 名を超えた場合、オリエンテーションの時に、履修希望調査レポートを提出し、履修理由とモチベーションを総合的に判断し 15 名を決定する。履修人数が 5 名に達しない場合は開講しない。履修希望者は、シラバス内容だけでなく、担当教員から、十分な説明を受けた上で履修申請を行うことが望ましい。説明を受けないで、履修申請した場合、履修を取り消すことがある。
関連科目	国際協力論、国際関係論、ボランティア論
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	事前活動・現地活動状況・帰国後レポートを合わせて(100%)評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 5 階（浅野研究室）
備考	履修希望者は、事前に担当教員の研究室を訪問し、十分な説明を受けた上で履修申請を行うことが望ましい。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	国際社会論	科目名（英文）	International Sociology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中　悟
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	国際社会を構成する基本的な単位であるにもかかわらず、「国家」は必ずしも身近に感じられるものではない。 本講義は、「そのような国家とはどのような集団であり、なぜ存在し、どのような活動をおこなってきたのか」また「国家はこれからどこに向かおうとしているのか」といった問いに対して答えようとするテキストを通じて、現代の国際社会について理解を深めることを目的とする。
到達目標	国家の統治と私たちの社会生活との関係についての分析的な考察に触れ、現代社会に対する理解を深める。
授業方法と留意点	原則として講義形式をとり、教科書の内容に即したレジュメを配布する。 教科書の章立てに沿って各回完結方式で進めていく予定であるが、進行状況等によって多少の調整がありうる。
科目学習の効果（資格）	現代社会における「国家」をめぐる諸問題についての基礎的な理解を深めることが期待される。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 「国家」について考えるための枠組み	はじめに 第１章　国家とは何か	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	国家についての各論考察（1）	第２章　国家と暴力	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
3	国家についての各論考察（2）	第３章　国家と官僚制	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
4	国家についての各論考察（3）	第４章　国家と戦争	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
5	国家についての各論考察（4）	第５章　国家と正当性	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
6	国家についての各論考察（5）	第６章　国家と社会	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
7	国家についての各論考察（6）	第７章　国家と統計（学）	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
8	国家についての各論考察（7）	第８章　国家とナショナリズム	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
9	国家についての各論考察（8）	第９章　国家と資本主義経済	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
10	国家についての各論考察（9）	第 10 章　国家と民主主義	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
11	国家についての各論考察（１０）	第 11 章　国家と社会福祉	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
12	国家とグローバル化（1）	第 12 章　国家のグローバル化	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
13	国家とグローバル化（2）	第 13 章　脱植民地化と「崩壊国家」	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
14	国家とグローバル化（3）	第 14 章　グローバル化のなかの国家	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
15	まとめと補遺	第 15 章　国家の現在、国家の将来 おわりに	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国家の社会学	佐藤成基	青弓社

	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	■定期試験　80% ■平常点　20%（ミニレポートを講義内で課す予定） ただし、履修者数や進行状況等によって、多少の調整がありうる。
学生への メッセージ	教科書は定期試験でも使用する。受講者は必ず購入すること。
担当者の 研究室等	7 号館 4 階
備考	

科目名	国際文化概論Ⅰ	科目名（英文）	Introduction to Foreign Cultures I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中　悟
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	国際社会を構成する基本的な単位であるにもかかわらず、「国家」は必ずしも身近に感じられるものではない。 本講義は、「そのような国家とはどのような集団であり、なぜ存在し、どのような活動をおこなってきたのか」また「国家はこれからどこに向かおうとしているのか」といった問いに対して答えようとするテキストを通じて、現代の国際社会について理解を深めることを目的とする。
到達目標	国家の統治と私たちの社会生活との関係についての分析的な考察に触れ、現代社会に対する理解を深める。
授業方法と留意点	原則として講義形式をとり、教科書の内容に即したレジュメを配布する。 教科書の章立てに沿って各回完結方式で進めていく予定であるが、進行状況等によって多少の調整がありうる。
科目学習の効果（資格）	現代社会における「国家」をめぐる諸問題についての基礎的な理解を深めることが期待される。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 「国家」について考えるための枠組み	はじめに 第１章　国家とは何か	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	国家についての各論考察（1）	第２章　国家と暴力	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
3	国家についての各論考察（2）	第３章　国家と官僚制	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
4	国家についての各論考察（3）	第４章　国家と戦争	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
5	国家についての各論考察（4）	第５章　国家と正当性	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
6	国家についての各論考察（5）	第６章　国家と社会	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
7	国家についての各論考察（6）	第７章　国家と統計（学）	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
8	国家についての各論考察（7）	第８章　国家とナショナリズム	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
9	国家についての各論考察（8）	第９章　国家と資本主義経済	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
10	国家についての各論考察（9）	第 10 章　国家と民主主義	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
11	国家についての各論考察（１０）	第 11 章　国家と社会福祉	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
12	国家とグローバル化（1）	第 12 章　国家のグローバル化	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
13	国家とグローバル化（2）	第 13 章　脱植民地化と「崩壊国家」	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
14	国家とグローバル化（3）	第 14 章　グローバル化のなかの国家	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
15	まとめと補遺	第 15 章　国家の現在、国家の将来 おわりに	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国家の社会学	佐藤成基	青弓社

	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	■定期試験　80% ■平常点　20%（ミニレポートを講義内で課す予定） ただし、履修者数や進行状況等によって、多少の調整がありうる。
学生への メッセージ	教科書は定期試験でも使用する。受講者は必ず購入すること。
担当者の 研究室等	7 号館 4 階
備考	

科目名	国際文化概論Ⅱ	科目名（英文）	Introduction to Foreign Cultures II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	赤澤　春彦
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本講義では日本の文化について理解を深めることを目的とします。取り上げるテーマは「和食」「名前」といった身近なものです。また「宗教」も取り上げます。宗教は一見、距離がありそうに思えますが、私たちの日常生活や年中行事の至る所に見られます。本講義を通して日本の文化に対する理解を深め世界の国々と比較するさいに役立ててください。
到達目標	日本の歴史や文化の特質を理解し、他の国々との違いを比較しながら、自らの言葉で解説できる能力を習得できます。
授業方法と留意点	基本的に板書で講義を進めますが、プリント・スライドなどの資料も使用します。
科目学習の効果（資格）	異文化コミュニケーションの場では自分の国の文化を披露することがあるでしょう。そのさい、日本の文化の特徴について伝えることができます。また、他の国の文化に触れるときにも深く理解することができるでしょう。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の目的や進め方について説明します。歴史学とはどのような学問か解説します。	復習
2	和食の歴史（1）	和食に対するイメージや考えをみなで考え、整理します。	復習
3	和食の歴史（2）	和食の歴史のうち、神饌と直会など古代日本の食について考えます。	復習
4	和食の歴史（3）	中世以降の精進料理、本膳料理が和食の成立に与えた影響について考えます。	復習
5	和食の歴史（4）	現代における和食の実態や問題点について考えます。	復習
6	名前の歴史と文化（1）	日本における姓名の歴史について考えます。	復習
7	名前の歴史と文化（2）	日本における家族の歴史と文化について考えます。	復習
8	名前の歴史と文化（3）	日本における共同体と家について考えます。	復習
9	映画『もののけ姫』にみる日本文化（1）	エミシの世界 「日本」の枠組みについて考えます。	復習
10	映画『もののけ姫』にみる日本文化（2）	ヤマトの世界 モデルとなった室町時代の村、町場、戦争などについて考えます。	復習
11	映画『もののけ姫』にみる日本文化（3）	タタラ場の世界 タタラ製鉄や石火矢について考えます。	復習
12	映画『もののけ姫』にみる日本文化（4）	シシガミの世界 日本の地理的環境や日本人の信仰について考えます。	復習
13	映画『もののけ姫』にみる日本文化（5）	『もののけ姫』世界の構成 ４つの世界の関係について考えます。	復習
14	映画『もののけ姫』にみる日本文化（6）	『もののけ姫』とは何か？ この映画を通じてどのような事を語れるのか、講義参加者がそれぞれ考えます。	復習
15	まとめ	論述試験を行います（持ち込み可）	今までのノートをまとめておく

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義最終日に行う論述試験（持ち込み可）、講義中に課す小レポート、小テストなどによって評価します。 論述試験を８０％、課題などを２０％とする。
学生へのメッセージ	本講義で日本の文化や歴史がすべてわかるわけではありません。講義を通じて興味を持ったことがありましたら、Web や図書などで積極的に調べるとよいでしょう。
担当者の研究室等	７号館４階（赤澤研究室）
備考	事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とする。

科目名	国際平和論	科目名（英文）	International Peace Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中　悟
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	この科目は、国際貢献プログラムの対応科目である。 本講義は、「国際平和」をめぐる現代世界の諸問題について、基本的には国際政治学の立場からアプローチし、問題の包括的な理解を通じて、その現実的な解決策を模索していくことを目指すものである。
到達目標	「国際平和」をめぐって取り上げられる様々な問題や議論に触れ、現代社会に対する理解を深める。
授業方法と留意点	原則として講義形式をとり、教科書の内容に即したレジュメを配布する。 教科書の章立てに沿って各回１章完結方式で進めていく予定であるが、進行状況等によって多少の調整がありうる。
科目学習の効果（資格）	現代社会における「国際平和」をめぐる諸問題についての基礎的な理解を深めることが期待される。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義内容およびテキストについて導入を行なう。	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	現代社会の前史―国際社会の誕生	第 1 章　国際社会の誕生とナショナリズム	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
3	国際社会の分析視角（1）	第 2 章　覇権と国際政治	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
4	国際社会の分析視角（2）	第 3 章　理想と国際政治	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
5	国際社会の分析視角（3）	第 4 章　規範と国際政治	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
6	国際社会の分析視角（4）	第 5 章　構造と国際政治	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
7	冷戦の終結とは何だったのか	第 6 章　ソヴィエト崩壊と歴史の終わり	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
8	現代の紛争（1）	第 7 章　紛争と宗教・文化	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
9	現代の紛争（2）	第 8 章　紛争と民族・領土	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
10	現代の紛争（3）	第 9 章　紛争と資源	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
11	破綻国家への介入と紛争後の秩序構築（1）	第 10 章　軍事介入と国際連合	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
12	破綻国家への介入と紛争後の秩序構築（2）	第 11 章　軍事介入の論理	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
13	破綻国家への介入と紛争後の秩序構築（3）	第 12 章　平和構築と権力分有	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
14	人間の安全保障とは何か	第 13 章　人間の安全保障	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
15	まとめと補遺―地球社会の課題	第 14 章　Gゼロ世界と地球社会の課題	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）

関連科目	国際貢献プログラムの各科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際平和論	福富満久	岩波書店
2			

	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	■定期試験　80% ■平常点　20%（ミニレポートを講義内で課す予定） ただし、履修者数や進行状況等によって、多少の調整がありうる。
学生への メッセージ	教科書は定期試験でも使用する。受講者は必ず購入すること。
担当者の 研究室等	7 号館 4 階（田中悟研究室）
備考	この科目は外国語学部パッケージプログラム（国際貢献）の対応科目ですが、他のプログラムや英語プロフェッショナルコースの学生も受講可能です。

科目名	国際ボランティア論	科目名（英文）	International Volunteerism
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浅野　英一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この科目は、国際貢献プログラム対応科目である。 本講義では国際ボランティアを、一過性のイベントとしてとらえるのではなく、自分自身を見つけるチャンスとし、それを将来的に活用する。国際NGO、NPO、JICAボランティア青年海外協力隊や民間ボランティア等の現場を素材にケーススタディを行い、国際的社会常識と知識を深める。
到達目標	ボランティアの定義・理念、ボランティア活動に関する基礎的知識を習得する。
授業方法と留意点	ビデオ・スライドを多様してビジュアルに国際ボランティアの現状を知る。各講義の最後15～20分間は、質疑応答の時間とする。
科目学習の効果（資格）	日本の立場を国際的な視野から見る。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクションと授業内容概要	授業の目的や方針を確認し、全体の流れ（起承転結）を知る	＿＿＿＿＿
2	（起-１）ボランティア	ボランティアとは何か、活動の内容とボランティアとしての自覚を学ぶ	前回の復習と、次回への展開
3	（起-2）国際理解	なぜ貧困に悩まされているのかを知る	前回の復習と、次回への展開
4	（起-3）国際協力	国際協力とは何かを知る	前回の復習と、次回への展開
5	（承-１）貧困の現状把握	貧困で悩んでいる国々の現状を知る	前回の復習と、次回への展開
6	（承-２）国際協力の現状把握	どういった国際協力が行われてきたのか、現在、何が行われているのかを知る	前回の復習と、次回への展開
7	（転-１）国際ボランティア・NGOボランティア	国際ボランティア・NGOボランティアとは何かを知る	前回の復習と、次回への展開
8	（転-2）国際ボランティア（青年海外協力隊）	国際ボランティア（青年海外協力隊）になるにはどうしたら良いのかを知る	前回の復習と、次回への展開
9	（転-3）国際ボランティア（国連ボランティア）	国際ボランティア（国連ボランティア）になるにはどうしたら良いのかを知る	前回の復習と、次回への展開
10	（転-4）国際ボランティア（NGOボランティア）	国際ボランティア（NGOボランティア）になるにはどうしたら良いのかを知る	前回の復習と、次回への展開
11	（結-１）国際ボランティアの活動にあたって	国際ボランティアとしての自覚と次へのステップ	前回の復習と、次回への展開
12	（結-2）自分に何ができるのか	ボランティア活動をするために、自分ができる事を明確にする	前回の復習と、次回への展開
13	（結-3）更なる発展に向けて	ボランティア活動を一過性のイベントとして終わらせない	前回の復習と、次回への展開
14	今後の課題	ボランティア活動の諸問題と克服について知る	前回の復習と、次回への展開
15	総括的確認（必ず出席すること）	これまでに学んできたことについて総合的判断を行う	＿＿＿＿＿

関連科目：国際貢献プログラム科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際協力国際交流ハンドブック　基礎から実践へ	浅野英一	実教出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	記述式小テストや小レポートを合わせて(100%)評価する。
学生へのメッセージ	前期の国際協力論を履修することでこの講義内容が理解しやすくなる。
担当者の研究室等	７号館５階（浅野研究室）
備考	

科目名	ことばと意味	科目名（英文）	Languages and Meanings
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西川　眞由美
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2△		

授業概要・目的

この科目は、「外国語専門職」プログラムに対応する科目です。
ことばが持つ意味というのは、突き詰めていけば非常に難しく、その分興味深いテーマです。　ことばの意味について知るということは、私たちがどのようにことばで伝達を行っているかについて知ることでもあります。　そして、何気なく使っている日本語や英語に対する考え方がさらに広がり深まることでしょう。
本授業は、ことばの「意味」について、体系的かつ総合的に学習し、ことばが持つ意味の複雑さや素晴らしさ、それらを理解して使っている人の賢さや優しさを改めて考えることを目指します。

到達目標

言語学の様々な理論、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、社会学的アプローチ、認知言語学、などを通して、ことばが持つ「意味」とは、どのようなものか、人はそれをどのように理解するのかについて学ぶことを目標とします。

授業方法と留意点

講義形式なので、授業内容をよく聞いて、しっかりノートを取ってください。
配布資料と辞書は忘れないで持参してください。

科目学習の効果（資格）

教職課程科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方	復習
2	言語学について	音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、など	復習
3	２種類の意味	自然的意味と恣意的意味	復習
4	形態論による意味	意味の最小単位	復習
5	音韻論による意味	イントネーション	復習
6	意味論による意味	単語について 外延的意味と内包的意味	復習
7	意味論による意味	文について	復習
8	統語論による意味	形が表す意味	復習
9	発話の意味	文脈に基づいた意味 明示的意味と含意	復習
10	明示的意味	飽和、曖昧性除去、自由拡充、アドホック概念構築	復習
11	発話行為、命題態度	高次の意味	復習
12	含意	明示的意味から含意へ	復習
13	レトリック	メタファー、メトニミー、アイロニー	復習
14	社会語用論的意味	ジェンダー、レジスター	復習
15	まとめのテスト	授業の復習	

関連科目

その他の外国語専門職プログラム科目など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

授業態度　３０％、　小テスト　３０％、　まとめのテスト　４０％

学生へのメッセージ

普段何気なく使っていることばが持っている意味について、興味を持って授業に参加してほしいと思います。

担当者の研究室等

７号館４階　西川研究室

備考

科目名	Comprehensive English a	科目名（英文）	Comprehensive English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	ＡＢ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥居　祐介
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	アカデミックなものを中心に、様々なジャンルの英文を読解する。
到達目標	CEFR-J [B1-2]を目標とし、インターネットや参考図書などを調べて、自分に必要な英語の情報を入手し、その内容を英語あるいは日本語で要約したり、報告できるようになる。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。English for Global Communication a および English Writing Workshop a と連動した授業となる。この授業で理解した内容について English for Global Communication a で討議し、English Writing Workshop a で自分の意見などを盛り込んで作文を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Psychology "Happiness"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
2	Psychology "Happiness"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
3	Linguistics "CPH"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
4	Linguistics "CPH"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
5	Flex Week	進度調整	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
6	Public Health "Sleep"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
7	Public Health "Sleep"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
8	Flex Week	進度調整	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
9	Business "Negotiating"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
10	Business "Negotiating"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
11	Art History "Modern Art"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
12	Art History "Modern Art"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
13	Engineering "Robots"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
14	Engineering "Robots"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
15	Flex Week	まとめ＋オンラインテストの実施を予定	総復習

関連科目	English for Global Communication a, English Writing Workshop a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	共通課題(オンラインテストを予定) 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生へのメッセージ	スケジュールの都合上、初回授業の前から予習をしてもらい、初回からいきなり進みます。また、授業中の指示も英語でやります。覚悟してついてきてください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　鳥居研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	Comprehensive English a	科目名（英文）	Comprehensive English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	ＣＤ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松田　早恵
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	アカデミックなものを中心に、様々なジャンルの英文を読解する。
到達目標	CEFR-J [B1-2]を目標とし、インターネットや参考図書などを調べて、自分に必要な英語の情報を入手し、その内容を英語あるいは日本語で要約したり、報告できるようになる。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。English for Global Communication a および English Writing Workshop a と連動した授業となる。この授業で理解した内容について English for Global Communication a で討議し、English Writing Workshop a で自分の意見などを盛り込んで作文を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Psychology "Happiness"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
2	Psychology "Happiness"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
3	Linguistics "CPH"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
4	Linguistics "CPH"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
5	Flex Week	進度調整	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
6	Public Health "Sleep"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
7	Public Health "Sleep"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
8	Flex Week	進度調整	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
9	Business "Negotiating"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
10	Business "Negotiating"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
11	Art History "Modern Art"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
12	Art History "Modern Art"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
13	Engineering "Robots"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
14	Engineering "Robots"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
15	Flex Week	まとめ＋オンラインテストの実施を予定	総復習

関連科目	English for Global Communication a, English Writing Workshop a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	共通課題(オンラインテストを予定) 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生へのメッセージ	初日からすぐ授業に入りますので、テキストを買って持参してください。
担当者の研究室等	7 号館 5 階松田研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	Comprehensive English b	科目名（英文）	Comprehensive English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	ＡＢ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥居　祐介
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	アカデミックなものを中心に、様々なジャンルの英文を読解する。
到達目標	CEFR-J [B2-1]を目標とし、現代の問題など一般的関心の高いトピックを扱った文章を読み、相違点や共通点を比較しながら読むことができるようになる。また、自分の専門分野の論文や資料を読んで理解することができるようになる。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。English for Global Communication b および English Writing Workshop b と連動した授業となる。この授業で理解した内容について English for Global Communication b で討議し、English Writing Workshop b で自分の意見などを盛り込んで作文を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Media Studies "Interactive Games"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
2	Media Studies "Interactive Games"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
3	Biology "Genetically Modified Food"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
4	Biology "Genetically Modified Food"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
5	Flex Week	進度調整	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
6	Business "Design Thinking"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
7	Business "Design Thinking"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
8	Flex Week	進度調整	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
9	History "Shackleton"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
10	History "Shackleton"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
11	Philosophy "Ethics"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
12	Philosophy "Ethics"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
13	Information Technology "Big Data"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
14	Information Technology "Big Data"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
15	Flex Week	まとめ	総復習

関連科目：English for Global Communication b, English Writing Workshop b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	共通課題(オンライン課題を予定) 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生へのメッセージ	前期同様、初回から前もって予習してきてもらい、いきなり進みます。後期から合流の学生は特に注意です。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　鳥居研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	Comprehensive English b	科目名（英文）	Comprehensive English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	ＣＤ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松田　早恵
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	アカデミックなものを中心に、様々なジャンルの英文を読解する。
到達目標	CEFR-J [B2-1]を目標とし、現代の問題など一般的関心の高いトピックを扱った文章を読み、相違点や共通点を比較しながら読むことができるようになる。また、自分の専門分野の論文や資料を読んで理解することができるようになる。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。English for Global Communication bおよびEnglish Writing Workshop bと連動した授業となる。この授業で理解した内容についてEnglish for Global Communication bで討議し、English Writing Workshop bで自分の意見などを盛り込んで作文を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Media Studies "Interactive Games"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
2	Media Studies "Interactive Games"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
3	Biology "Genetically Modified Food"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
4	Biology "Genetically Modified Food"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
5	Flex Week	進度調整	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
6	Business "Design Thinking"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
7	Business "Design Thinking"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
8	Flex Week	進度調整	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
9	History "Shackleton"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
10	History "Shackleton"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
11	Philosophy "Ethics"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
12	Philosophy "Ethics"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
13	Information Technology "Big Data"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
14	Information Technology "Big Data"	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習＋教員による解説＋問題演習＋質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解＋疑問点をウェブ検索等で調査＋Common Vocabulary リストの予習・復習
15	Flex Week	まとめ	総復習

関連科目：English for Global Communication b, English Writing Workshop b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	共通課題(オンライン課題を予定) 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生へのメッセージ	教養ある英語の使い手になるために、日ごろから情報のアンテナを張ってインプットを増やし、アウトプットのスキルも磨きましょう。
担当者の研究室等	7号館5階松田研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	時事インドネシア・マレー語	科目名（英文）	Media Indonesian-Malay
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	上田　達
ディプロマポリシー(DP)	DP7○,DP8◎		

授業概要・目的	新聞に掲載されたマレー語で書かれた時事問題に関する文に触れて、マレー語の実践的な運用能力の向上を目指す。あわせて、マレーシア・ブルネイ・シンガポールといった国々における政治・経済・社会・文化・芸能などのニュースに触れることを通じて、当該地域の社会情勢についての知識を得る。
到達目標	マレー語能力の向上。マレー語が話される国々に関する理解の深化。
授業方法と留意点	マレー語で書かれた新聞記事等の講読と、記事が書かれた背景について解説を行う。映像資料を用いて理解の一助とする。適宜課題を出すので、受講者には積極的な姿勢が望まれる。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	マレー語圏の国々について既習事項の確認を行う。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
2	表現	新聞の見出しや記事で使われる表現について学習する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
3	政治①	マレーシアの政治に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているマレーシアの政治情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
4	政治②	マレーシアの政治に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているマレーシアの政治情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
5	政治③	ブルネイとシンガポールの政治に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているブルネイとシンガポールにおける政治情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
6	確認テスト	既習の文法的な事柄と政治情勢に関して小括するとともに、達成度を確認するためのテストを行う。	確認テストのための事前準備
7	経済①	マレーシアの経済に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているマレーシア経済情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
8	経済②	ブルネイとシンガポールの経済に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているブルネイとシンガポールにおける経済情勢について解説する	既習事項の確認と練習問題への取り組み
9	社会①	マレーシアの社会問題に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているマレーシアの社会情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
10	社会②	ブルネイとシンガポールの社会問題に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているブルネイとシンガポールにおける社会情勢について解説する	既習事項の確認と練習問題への取り組み
11	確認テスト	既習の文法的な事柄と経済・社会情勢に関して小括するとともに、達成度を確認するためのテストを行う。	確認テストのための事前準備
12	文化①	マレーシアにおけるマレー語やマレー文化について書かれた新聞記事を講読するとともに、記事の背景について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
13	文化②	ブルネイやシンガポールにおけるマレー語やマレー文化に関わる新聞記事を講読するとともに、記事の背景について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
14	確認テスト	既習の文法的な事柄とマレー語が話されている地域の文化に関して小括するとともに、達成度を確認するためのテストを行う。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
15	総合演習	確認テストについて講評を行うとともに、受講者それぞれが新聞記事を選んできて内容について報告する。	興味・関心を持った領域についての新聞記事を探して講読する。内容に関する文法的な理解と社会的な背景についての理解を深めて、発表の準備を行う。

関連科目：総合マレー語ａ＆ｂ、マレー語圏トピックスⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Kamus Dewan		Dewan Bahasa dan Pustaka
2			
3			

評価方法 （基準）	確認テスト（70%）、発表や提出物等の授業への取り組み（30%）から総合的に評価する。詳細は第一回目の授業で指示する。
学生への メッセージ	日本や他国の時事問題にも関心を持つようにしてください。
担当者の 研究室等	7 号館 5 階(上田研究室)
備考	提出物は原則として翌週に返却する。最終回の課題は授業期間終了後一週間以内に評価を記して返却する。『マレーシア語辞典ポケット版』で調べてもわからない単語や表現は、参考書に指定したマレー語の辞典（本学図書館所蔵）で調べること。

科目名	時事インドネシア･マレー語ａ	科目名（英文）	Media Indonesian-Malay a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上田　達
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	新聞に掲載されたマレー語で書かれた時事問題に関する文に触れて、マレー語の実践的な運用能力の向上を目指す。あわせて、マレーシア・ブルネイ・シンガポールといった国々における政治・経済・社会・文化・芸能などのニュースに触れることを通じて、当該地域の社会情勢についての知識を得る。
到達目標	マレー語能力の向上。マレー語が話される国々に関する理解の深化。
授業方法と留意点	マレー語で書かれた新聞記事等の講読と、記事が書かれた背景について解説を行う。映像資料を用いて理解の一助とする。適宜課題を出すので、受講者には積極的な姿勢が望まれる。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	マレー語圏の国々について既習事項の確認を行う。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
2	表現	新聞の見出しや記事で使われる表現について学習する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
3	政治①	マレーシアの政治に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているマレーシアの政治情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
4	政治②	マレーシアの政治に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているマレーシアの政治情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
5	政治③	ブルネイとシンガポールの政治に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているブルネイとシンガポールにおける政治情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
6	確認テスト	既習の文法的な事柄と政治情勢に関して小括するとともに、達成度を確認するためのテストを行う。	確認テストのための事前準備
7	経済①	マレーシアの経済に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているマレーシア経済情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
8	経済②	ブルネイとシンガポールの経済に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているブルネイとシンガポールにおける経済情勢について解説する	既習事項の確認と練習問題への取り組み
9	社会①	マレーシアの社会問題に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているマレーシアの社会情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
10	社会②	ブルネイとシンガポールの社会問題に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているブルネイとシンガポールにおける社会情勢について解説する	既習事項の確認と練習問題への取り組み
11	確認テスト	既習の文法的な事柄と経済･社会情勢に関して小括するとともに、達成度を確認するためのテストを行う。	確認テストのための事前準備
12	文化①	マレーシアにおけるマレー語やマレー文化について書かれた新聞記事を講読するとともに、記事の背景について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
13	文化②	ブルネイやシンガポールにおけるマレー語やマレー文化に関わる新聞記事を講読するとともに、記事の背景について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
14	確認テスト	既習の文法的な事柄とマレー語が話されている地域の文化に関して小括するとともに、達成度を確認するためのテストを行う。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
15	総合演習	確認テストについて講評を行うとともに、受講者それぞれが新聞記事を選んできて内容について報告する。	興味･関心を持った領域についての新聞記事を探して講読する。内容に関する文法的な理解と社会的な背景についての理解を深めて、発表の準備を行う。

関連科目	総合マレー語ａ＆ｂ、マレー語圏トピックスⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Kamus Dewan		Dewan Bahasa dan Pustaka
2			
3			

評価方法 （基準）	確認テスト（70%）、発表や提出物等の授業への取り組み（30%）から総合的に評価する。詳細は第一回目の授業で指示する。
学生への メッセージ	日本や他国の時事問題にも関心を持つようにしてください。
担当者の 研究室等	7 号館 5 階(上田研究室)
備考	提出物は原則として翌週に返却する。最終回の課題は授業期間終了後一週間以内に評価を記して返却する。『マレーシア語辞典ポケット版』で調べてもわからない単語や表現は、参考書に指定したマレー語の辞典（本学図書館所蔵）で調べること。

科目名	時事インドネシア･マレー語ｂ	科目名（英文）	Media Indonesian-Malay b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浦野　崇央
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この授業では、これまでに獲得したインドネシア語運用能力を存分に発揮し、新聞や雑誌に掲載されるニュース記事を読み込み、現代インドネシア社会の理解を深める。
到達目標	インドネシア語のニュース読解を通じて、インドネシア社会の構造はもちろんのこと、日本社会あるいは世界の社会についての理解力を高めることを目標とする。
授業方法と留意点	各回毎に次回の授業で使用するニュース記事プリントを配布するので、予習をしておくこと。 時事ニュース記事を読解する際、インドネシア語の基本的な運用能力だけでは理解が難しい。予習にあたっては、インドネシア共和国の諸制度、社会事情および専門用語についても理解を深めるよう留意すること。参考図書等は随時紹介する。 授業時には、辞書を必ず携行すること。 また、インドネシアのニュースを理解するためには日本のニュースにも関心を向ける必要がある。よって、「ニュース時事能力検定試験」を受検してもらうことになるので、その点、留意のこと。
科目学習の効果（資格）	時事インドネシア語文の読解を通じて、日本をはじめとした世界各国における社会制度の理解がしやすくなる。さらに、インドネシア語技能検定の上位級取得が可能となる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	この授業の進め方の説明および時事インドネシア語文の特徴にかんする解説を行う。	学んだことの再確認
2	日本をめぐる報道①	日本関連記事の講読を行い、インドネシア人による日本理解の一端を探る。	ニュース記事プリントの予習 学んだことの再確認
3	日本をめぐる報道②	日本関連記事の講読を行い、インドネシア人による日本理解の一端を探る。	ニュース記事プリントの予習 学んだことの再確認
4	日本をめぐる報道③	日本関連記事の講読を行い、インドネシア人による日本理解の一端を探る。	ニュース記事プリントの予習 学んだことの再確認
5	日本をめぐる報道④	日本関連記事の講読を行い、インドネシア人による日本理解の一端を探る。	ニュース記事プリントの予習 学んだことの再確認
6	国際ニュース①	インドネシアで報道される国際ニュースの読解を通じて、国際関係についての理解を深める。	ニュース記事プリントの予習 学んだことの再確認
7	国際ニュース②	インドネシアで報道される国際ニュースの読解を通じて、国際関係についての理解を深める。	ニュース記事プリントの予習 学んだことの再確認
8	国際ニュース③	インドネシアで報道される国際ニュースの読解を通じて、国際関係についての理解を深める。	ニュース記事プリントの予習 学んだことの再確認
9	総まとめと中間テスト	これまでに学んだことの総復習を行い、中間テストを実施する。	中間テストに向けての事前学習
10	インドネシア国内ニュース①	国内ニュースの読解を通じて、インドネシア社会についての理解を深める。	ニュース記事プリントの予習 学んだことの再確認
11	インドネシア国内ニュース②	国内ニュースの読解を通じて、インドネシア社会についての理解を深める。	ニュース記事プリントの予習 学んだことの再確認
12	インドネシア国内ニュース③	国内ニュースの読解を通じて、インドネシア社会についての理解を深める。	ニュース記事プリントの予習 学んだことの再確認
13	最新インドネシア事情①	インドネシアの若者事情や社会状況をめぐる最新ニュースの読解を通じて、今のインドネシアについての理解を深める。	ニュース記事プリントの予習 学んだことの再確認
14	最新インドネシア事情②	インドネシアの若者事情や社会状況をめぐる最新ニュースの読解を通じて、今のインドネシアについての理解を深める。	ニュース記事プリントの予習 学んだことの再確認
15	総まとめと理解度確認テスト	これまでに学んだことの再確認を行う。	理解度確認テストに向けての事前学習

関連科目	インドネシア語科目すべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	最新インドネシア語小辞典第1.4版	佐々木重次編	Grup Sanggar

評価方法（基準）	中間テスト50%、理解度確認テスト50%
学生へのメッセージ	時事問題について語り合い、知的関心を大いに深めてゆきましょう。
担当者の研究室等	7号館4階(浦野研究室)
備考	本授業では、できるだけ最新の時事ニュースを題材として進めていく。よって、突発的な事件や事故が発生した際は、シラバスの進行にかかわらず、題材として取り上げることがあることを留意されたい。 毎回の予習および学んだことの確認（復習）をするため、毎週少なくとも1時間程度は時間の確保をすること。 中間テストおよび理解度確認テストの際は、テスト終了後に復習授業を実施する。

科目名	思想と文化	科目名（英文）	Ideas and Cultures
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小川　豊生
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	太古のときより人類が生みだしてきた神話というジャンルを入り口に、現代社会・文化の諸問題について考える方法を身につける。神話は古代のものという見方は誤りである。その証拠に、映画・アニメ・ゲーム・マンガといったサブカルチャーと呼ばれる大衆文化のなかで、神話モチーフは新しい復活を遂げている。神話とは何か、なぜ神話が生き続けるのか、日本と世界各地の神話にどのような違いがあるのかなど、さまざまな角度から神話に光をあて、マクロな視点から人類文明のあり方について考察を深める。
到達目標	・神話というジャンルについて豊富な知識を獲得する。 ・現代文化にどのようなかたちで神話が生きているかについて認識する。 ・日本や世界の文化と思想の流れについて、基礎的な知識を身につけ、その全体像を的確に把握できるようにする。
授業方法と留意点	プリントによる講義が中心となる。 ただし、授業の２回分は、各自のリサーチをもとにした発表会にあてたい。その具体的方法については授業中に改めて指示する。
科目学習の効果（資格）	広い教養の獲得と思考力・記述力の深化。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	神話とは何か	講義内容全体への導入。神話とは何か、入門的に解説する。	プリント・ノートの復習
2	人類最古の神話	人類最古の神話をとりあげ、神話の役割を考察し、今後の講義へ向けての動機づけとする。	プリント・ノートの予習・復習
3	英雄神話の誕生１	英雄神話を具体的にとりあげ、その人類史的意義について考察する。	プリント・ノートの予習・復習
4	英雄神話の誕生２	英雄神話を具体的にとりあげ、その人類史的意義について考察する。	プリント・ノートの予習・復習
5	オイディプス神話とは何か	ギリシア神話のなかからオイディプスをとりあげ、その内容と意義について考察する。	プリント・ノートの予習・復習
6	シンデレラの謎	世界中にひろがるシンデレラをめぐる伝承をとりあげ、そこに潜む人類史的な謎をめぐって考察する。	プリント・ノートの予習・復習
7	調査発表会	各自の調査結果を発表し、全体で質疑応答を行う。	プリント・ノートの予習・復習
8	日本の神話１(出雲)	出雲神話とは何か、その内容と特質について探求する。	プリント・ノートの予習・復習
9	日本の神話２(伊勢)	代表的な聖地である伊勢をとりあげ、その神話世界の内容と特質について探求する。	プリント・ノートの予習・復習
10	日本の神話３(熊野)	代表的な聖地である熊野をとりあげ、その神話世界の内容と特質について探求する。	プリント・ノートの予習・復習
11	図像と神話１	具体的な図像をとりあげ、その制作背景となった神話世界を探求する。	プリント・ノートの予習・復習
12	図像と神話２	具体的な図像をとりあげ、その制作背景となった神話世界を探求する。	プリント・ノートの予習・復習
13	現代と神話(聖地巡礼)	現代の聖地をとりあげ、「聖地巡礼」という社会現象について考察する。	プリント・ノートの予習・復習
14	調査発表会	各自の調査結果を発表し、全体で質疑応答を行う。	プリント・ノートの予習・復習
15	総合確認テスト	講義内容全体に関する確認テストを行う	ノートの総合整理

関連科目：文化科目全般。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト・総合テスト 60%、課題レポート等 40%で評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館４階（小川研究室）
備考	事前・事後の学習は、それぞれ２時間ずつ、総時間 60 時間を目安とする。

科目名	実践インドネシア・マレー語 a	科目名（英文）	Practical Indonesian-Malay a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大坪　紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	この授業では、特定分野のインドネシア語の講読を行う。状況にふさわしい作文も行う。この授業を通じて高度なインドネシア語能力や専門的なインドネシア語能力を養うことを目的とする。
到達目標	1.特定の専門的な分野のインドネシア語を読み書きする技術を得ること。 2.特定の専門的な分野の知識を養うこと。
授業方法と留意点	1. テキストはテーマに応じたプリントを配布する。 2. この授業では正確で精密な作業を行う必要がある。したがって授業に出席する前には十分な予習と準備をしておくこと。 3. ほぼ毎回、レポートや発表が課される。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語検定。 実践的かつ専門的なインドネシア語能力の習得。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	1.プロローグ. 2.新聞記事の講読１	1.授業の進め方や受講にあたっての留意点の説明を行なう。 2.新聞記事の文体に慣れる。	1.事前に授業のすすめ方などに対する質問などを考えておくこと。 2.事前にインドネシアでどのような新聞が発行されているのか調べておくこと。また新聞以外の報道機関も調べておくこと。
2	新聞記事の講読２	新聞記事中に現れる略語、専門用語の調べ方。	図書館で各種の辞書や文献を調べて読み、予習をしてくること。
3	新聞記事の講読３	長文の内容を把握する練習。	予習と復習の徹底。
4	1. 新聞記事の内容把握試験 2. 陥りやすいミスの克服	1. 新聞記事を読み、大意を把握する能力の試験。 2. ミスの克服をめざす。	これまでの授業を徹底して復習すること。
5	学術雑誌の講読１	学術雑誌の文体に慣れる。	予習として、日本語で書かれた学術雑誌を1つ読み、小説とは異なる学術論文のスタイルを知っておくこと。
6	学術雑誌の講読２	学術文を正確に読む。	図書館へ行き、さまざまな辞書や事典を使い、文献を読んで予習をすること。
7	学術雑誌の講読３	文の前後関係を正確に把握する。	図書館で各種の辞書や辞典、文献を調べて読み、予習をしてくること。
8	学術的な文章の書き方１	学術文の文体に慣れる。	第５回から第８回までの復習。
9	学術的な文章の書き方２	的確な文を書く練習。	前回の復習。
10	1. 学術文の書き方試験 2. 陥りやすいミスや癖の改善	1. 学術文を書く能力の試験。 2. 陥りやすいミスや癖を見つけて改善する。	第８回、第９回の復習。
11	エッセイの講読１	エッセイの文体に慣れる。	第 10 回の復習。 第 11 回の予習。
12	エッセイの講読２	エッセイを読む。	予習と復習の徹底。
13	エッセイの講読３	エッセイを理解する。	予習と復習の徹底。
14	1. エッセイの翻訳試験 2. 陥りやすいミスや癖の改善	1. エッセイの内容を把握して翻訳する能力の試験 2. 陥りやすいミスや癖を改善する。	第 11 回から第 13 回までの復習。
15	短い詩の購読	短い詩を読む。	インドネシアの代表的な詩人について、事前に調べてくること。

関連科目	主言語インドネシア語の科目すべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	1. 予習・復習・準備からなるホームワーク(40%) 2. 授業での発表(20%) 3. 授業期間中に３回行われる試験(40%) 詳細は、第１回目の授業で伝える。
学生へのメッセージ	1. 予習ならびに準備として、関連分野の日本語文献・インドネシア語文献を調べて読んでおくこと。 2. 必ず復習をおこなうこと。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	1.ほぼ毎回課されるレポートや発表の終了後に弱点克服のための解説をおこなう。 2.授業期間中に３回行われる試験の終了後に解説をおこなう。 3.毎週の予習・復習に必要な時間は最低でも３時間である。したがってこの授業は総計で 45 時間以上の予習・復習が必要である。 4.授業時間外での質問や要望は、月曜・木曜・金曜に７号館２階非常勤講師室にて受け付ける。

科目名	実践インドネシア・マレー語b	科目名（英文）	Practical Indonesian-Malay b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大坪　紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	１．今期もインドネシア語をテーマとする。 ２．　前半はインドネシア国内で放送されている短いニュースと短編のドキュメンタリーを、 　　中半と後半はインドネシアの作家が執筆した短いエッセイや短編の小説をとりあげる。 ３．受講者は毎回インドネシア語で概要と意見を発表し、ディスカッションをおこなう。 ４．随時、レポートを課す。 ５．随時、暗唱を課す。 ６．高度なインドネシア語運用能力を身につけることを目指す。
到達目標	１．発表にふさわしいインドネシア語が運用できるようになること。 ２．．レポートにふさわしいインドネシア語の文章が書けるようになること。
授業方法と留意点	１．使用する教材(映像、音声、プリント)は当方が用意する。 2. この授業では正確で精密な作業を行う必要がある。授業に出席する前に十分な準備と予習をしておくこと。 3. 復習も欠かさないこと。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語検定。 実践的なインドネシア語能力の習得。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	１．プロローグ ２．短いニュース　①	１．授業の進め方や受講にあたっての留意点、準備・予習・復習の仕方、資料の探し方、発表の手順・発表資料の作成などについて説明を行なう。 ２．シャドーイング	授業の復習
2	短いニュース映像　②	1.ヒアリング 2. シャドーイング 3. ニュース内容を理解する 4.短いフレーズの暗唱。	授業の復習
3	短いニュース映像　③	1.ヒアリング 2. シャドーイング 3. ニュース内容を理解する 4.短いフレーズの暗唱。	授業の復習
4	短編ドキュメンタリー映像	1. ヒアリング 2. ドキュメンタリーの内容を理解する 3. 概要をその場で発表する練習。	授業の復習
5	Eka Kurniawan の短いエッセイを読む　①	1. 長文の内容を把握する練習。2. 概要をその場で発表する練習。	授業内容の復習
6	Eka Kurniawan の短いエッセイを読む　②	1. 長文の内容を把握する練習。2. 概要をその場で発表する練習。	授業内容の復習
7	発表とディスカッション　①	第５回、第６回の授業から、受講者めいめいが関心を持ったことをできるだけ詳しく調べ、インドネシア語で発表する。	授業内容の復習
8	Laksmi Pamuntjak の短いエッセイを読む　①	1. 長文の内容を把握する練習。2. 概要を発表する練習。 3. 質疑応答の練習。	授業内容の予習と復習
9	Laksmi Pamuntjak の短いエッセイを読む　②	1. 長文の内容を把握する練習。2. 概要を発表する練習。 3. 質疑応答の練習。	授業内容の予習と復習
10	Laksmi Pamuntjak の短いエッセイを読む　③	1. 長文の内容を把握する練習。2. 概要を発表する練習。 3. 質疑応答の練習。	授業内容の予習と復習
11	発表　②	第８回、第９回、第 10 回の授業から、受講者めいめいが関心を持ったことをできるだけ詳しく調べ、インドネシア語で発表する。	授業内容の復習
12	Supardi Djoko Damono の短編小説を読む ①	1.長文の内容を把握する練習。2.概要を発表する練習。 3.質疑応答の練習。	授業の予習と復習
13	Supardi Djoko Damono の短編小説を読む ②	1. 長文の内容を把握する練習。2. 概要を発表する練習。 3. 質疑応答の練習。	授業の予習と復習
14	Supardi Djoko Damono の短編小説を読む　③	1. 長文の内容を把握する練習。2. 概要を発表する練習。 3. 質疑応答の練習。	授業の予習と復習
15	発表　③	１．第 12 回、第 13 回、第 14 回の授業から、受講者めいめいが関心を持ったことをできるだけ詳しく調べ、インドネシア語で発表する。	第１４回までの授業内容の総復習

関連科目	主言語インドネシア語の科目すべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

<table>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>1. 発表(40%)
2. 暗唱(20%)
３. 随時課すレポート(４0%)
詳細は第１回目の授業で伝える。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>いっそうの高みを目指して、粘り強くがんばりましょう。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>７号館２階(非常勤講師室)</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>1.随時課されるレポートや発表の終了後に弱点克服のための解説をおこなう。
2..毎週の授業の下調べや復習に最低でも３時間は必要である。
したがってこの授業は総計で 45 時間以上の予習・復習を要する。
３.授業時間外での質問は、月曜・木曜・金曜に７号館２階非常勤講師室にて受け付ける。</td></tr>
</table>

科目名	社会開発論	科目名（英文）	Social Development
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	手代木　功基
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	この科目は、国際貢献プログラム対応科目となっています。 経済のグローバル化が進み、途上国への企業進出も盛んになる現代においては、それぞれの国や地域社会に対する理解力や思考力が重要です。特に、グローバルに展開される国際協力の場においては、開発援助の持つ理念やインパクト（メリット・デメリット）を理解することが必要になります。 本講義では、近年の経済成長により注目されているアフリカ・アジア諸国に関する開発に関わる基礎知識を学ぶとともに、開発の現代性や必要性、外部者の役割について検討していきます。また、社会開発のプロジェクトにおいて対象社会を理解するためのひとつの手段として、社会調査（フィールドワーク）を取り上げ、その方法論についても解説します。
到達目標	1. 開発援助の対象であるアジア・アフリカ地域の歴史と現状を理解する。 2. 開発に関わる諸概念・方法論の変遷と現状を理解し、社会開発の位置づけを説明することができる。 3. 社会開発の可能性と限界、対象社会に与える影響、対象社会の主体的な営み、を認識した上で、私たちに何ができるのか、どのように関わっていくべきなのかについて主体的・論理的に考えることができる。
授業方法と留意点	プリントの配布および投影資料を利用した講義形式を基本とするが、講義中にグループワークやディスカッション、簡単な作業などを通して受講者の意見を求める機会を多数設ける。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、テキスト、採点方法等について把握する	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
2	アフリカを知る１	開発援助の対象であるアフリカ地域の歴史と現状を学ぶ	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
3	アフリカを知る２	開発援助の対象であるアフリカ地域の歴史と現状を学ぶ	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
4	アフリカを知る３	開発援助の対象であるアフリカ地域の歴史と現状を学ぶ	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
5	アジアを知る１	開発援助の対象であるアジア地域の歴史と現状を学ぶ	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
6	アジアを知る２	開発援助の対象であるアジア地域の歴史と現状を学ぶ	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
7	開発政策と地域社会	国家や先住民といったキーワードをもとに開発政策と地域社会への影響を検討	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
8	開発と文化・価値・エンパワーメント	文化やエンパワーメントといった観点から開発を考える	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
9	社会開発の現状と課題１：教育	教育に関わる社会開発の現状と課題を知る	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
10	社会開発の現状と課題２：農村開発	農村開発に関わる社会開発の現状と課題を知る	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
11	社会開発の現状と課題３：環境問題	環境問題に関わる社会開発の現状と課題を知る	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
12	社会開発と社会調査：対象社会を理解するための視点と方法１	社会調査の方法論について理解する	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
13	社会開発と社会調査：対象社会を理解するための視点と方法２	社会調査の方法論について理解する	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
14	開発における外部者の役割	地域の人びとと関わり合う難しさを知るとともに、外部者の役割を考える	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
15	総括	全体のまとめ	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める

関連科目：国際貢献プログラム関連科目（国際協力論、国際関係論、国際平和論、国際機構論等）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			
評価方法 （基準）	授業への取り組み（リアクションペーパーの内容、受講態度、議論やグループワークへの参加状況等）（50%）とレポート（50%）で評価します。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7 号館 5 階（手代木研究室）			
備考	事前・事後の学習は、全体で 60 時間を目安とします。 リアクションペーパーやレポート等の提出物に対してはコメントや質問回答といったフィードバックを行います。			

科目名	社会文化史	科目名（英文）	History of Society and Cultures
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林田　敏子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	イギリスの歴史と文化を、現代社会とのつながりを重視しながら概観する。「サッカー発祥の地」、「紅茶とアンティークの国」など、われわれがイギリスに対して抱いているイメージには、歴史的根拠が存在する。「イギリス料理はなぜまずいのか」、「イギリス人はなぜ傘をささないのか」といった身近な問いを出発点にしながら、政治・経済・文化、あらゆる角度からイギリス社会を読み解いていく。
到達目標	ヨーロッパ、大英帝国など、複数の次元でイギリスをとらえたときの特徴を理解する。一国の歴史にとどまらない、広がりのある歴史解釈をするにはどうすればよいか、その方法論を身につける。
授業方法と留意点	毎回プリントを配布し、図像史料を活用しながら、板書をまじえて授業をすすめる。
科目学習の効果（資格）	歴史学に関する基本的知識を身につけるとともに、「過去」を通して「現代」を見つめる視座を獲得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イギリスとは何か	国のなりたちと地理	「イギリス」の正式名称を調べてくる。
2	イギリス人のナショナル・アイデンティティ	連合王国、帝国としてのイギリス	ユニオン・ジャックの由来について調べてくる。
3	イギリスの歴史概観	古代から現代にいたるまでのイギリスの歴史を世界史のなかに位置づける。	年表づくりをおこなう。
4	イギリスの社会構造	階級からみたイギリス史	貴族制の歴史についてまとめる。
5	イギリス人はなぜ傘をささないのか？	ステイタス・シンボルとしての傘	傘以外のステイタス・シンボルについて調べる。
6	イギリス料理はなぜまずいのか？	・食文化からみたイギリスの歴史 ・中間テストの実施	イギリスの国民性を歴史的に考察する。
7	イギリス人は家が好き？	住宅とアンティークからみたイギリスの歴史	イギリスにおける文化財保護活動について調べてくる。
8	ナショナル・トラストの歴史（中間テスト）	歴史的建造物の保護運動	イギリスの王室と日本の皇室を比較してみる。
9	イギリスの王室と政治（中間テスト解説）	王室の果たす役割	王室の歴史についてまとめる。
10	子ども・老人・女性	社会的マイノリティの歴史	ほかのマリノリティ集団について調べてくる。
11	動物愛護の国「イギリス」？～アニマル・スポーツの世界～	ウィリアム・ホガースの『残酷の４段階』を読む	事前に配布したプリントを予習してくる。
12	イギリスとヨーロッパ	対立と協調のはざまで	イギリスとＥＵの関係の歴史を整理する。
13	世界のなかのイギリス（1）	ひらかれた島国「イギリス」	「帝国」の遺産についてまとめる。
14	世界のなかのイギリス（2）	多民族国家イギリスの歴史	イギリスにおける移民問題についてまとめる。
15	総括	小テストの実施と解説	全授業内容を復習してくる。

関連科目：ヨーロッパ史学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	第 15 回目に実施する小テスト（８０％）、中間テストおよび提出物（２０％）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	歴史学とは過去に起こった事件の年号や偉人の名前を暗記する学問ではありません。過去の出来事を通して、現代社会や未来についての思考力を養うためのものです。積極的に関連文献を読み、講義内容を批判的に摂取するよう心がけてください。
担当者の研究室等	７号館４階（林田研究室）
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間。 中間テストに関するフィードバックは第９回目、小テストに関するフィードバックは第 15 回目の授業のなかでおこなう。

科目名	生涯学習概論	科目名（英文）	Lifelong Learning
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本　孝成
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	高齢化社会の現代日本では、生涯にわたる学習の必要性が指摘され続けています。ここでは「生涯学習」の基本的な理論とその実践例を紹介し、これからの「生涯学習」のあり方を考えていきます。特に担当教官の専門とする歴史学習を取り上げ、市民への文化の提供の方法やその効果、問題点を挙げていき、学芸員や各自治体の生涯学習担当としての知識と意識を身につけることを目的とします。また、各個人が「学ぶ」ことの意味を考えていくことも併せて講義します。
到達目標	生涯学習に関する基礎的な知識と意識を身につけること。また、受講生自身も生涯学習の心構えを持つこと。
授業方法と留意点	配布プリントと板書による講義中心で授業を行います。一回は展示施設の見学を行う予定です。
科目学習の効果（資格）	学芸員資格などの必要単位となっていますが、自治体など市民に接する職業に就いた場合に対応の心構えの助けになるでしょう。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	生涯学習論とはなにか	本講義のねらいとその位置づけなど、講義を受けるための姿勢についてお話しします。	授業の前提の話ですので、できるだけ受けてください。
2	社会教育と生涯学習の歴史①	現在の生涯学習の前提となる、社会教育の歴史と、生涯学習論の登場についてお話しします。	次回の授業に続きますので、見直しを推奨します。
3	社会教育と生涯学習の歴史②	社会教育の歴史と、生涯学習論の登場について現状に繋げてお話しします。	前回の内容の見直しを推奨します。
4	日本の生涯学習と方法、内容	日本の生涯学習とその形態、内容と問題点の現状についてお話しします。	授業後、機会があれば近隣自治体などで実状を見ることを推奨します。
5	生涯学習と行政の仕組み	生涯学習における社会教育行政の役割とあり方についてお話しします。	授業後、新聞やネットで行政の対応の確認を推奨します。
6	生涯各期の学習課題	人の各年代による学習・教育の特徴と課題についてお話しします。	授業後、自身やご両親、周囲の人の生涯学習状況を考えてください。
7	生涯学習と社会教育施設・公民館と図書館	社会教育施設の実態、特に公民館と図書館について概要をお話しします。	授業後、周りの社会教育施設や大学はもちろん周辺の図書館をを再確認することを推奨します。
8	なんのために学ぶのか	緒方洪庵と適塾を通じて「学ぶこと」の意味を考えます。（この講義は見学の日程の直前に行われます）	直後に適塾の見学を予定していますので、ある程度の復習を推奨します。
9	学外見学	重要文化財・適塾の見学。日程については授業の中で決定します。	直前の授業内容の復習を推奨します。
10	生涯学習と社会教育施設・博物館	博物館の役割と組織、問題点とその実態についてお話しします。	授業後、近隣の博物館の見学を推奨します。
11	生涯学習と文化財事業	生涯学習における歴史学習の実状と問題点、位置づけについてお話しします。	授業後、周辺の自治体主催事業について再確認を推奨します。
12	人と「歴史」の関係	身近な「歴史」に関わることの効果とその特徴についてお話しします。	授業後、周囲の歴史についてもう一度考え直してください。
13	それぞれの「生涯学習」	「学ぶ」ことの意味や「知」との向き合い方をお話しします。	授業後、各自の「学び」について考えてください。
14	反・反知性主義	ネットを中心に蔓延する「反知性主義」がいかに生涯学習にとってマイナスになるのかをお話しします。	授業後、社会にある意見について見直してください。
15	これからの生涯学習と地域	講義内容を振り返りながら、生涯学習のあり方とその支えについてお話しし、受講生各自にとっての生涯学習を考えます。	事前に、これまでの授業内容を大枠で復習しておくことを推奨します。

関連科目：教育系科目群

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	生涯学習概論	佐藤晴雄	学陽書房
2	司書・学芸員をめざす人への生涯学習概論	大堀哲監修	樹村房
3	ことば・ロジック・デザイン	妻木宣嗣	清文堂

評価方法（基準）	定期試験　１００％ 配布プリントと自筆のノートのみ持ち込み可です。ただし、配布プリントのコピーは許可します。 また、授業ごとに質問カードを配布します。提出は必須ではありませんが、次回授業の回答に採用された場合は平常点（１点ないし２点）を付与します。
学生へのメッセージ	「生涯学習論」ですが、これは学習を与えるだけの意味ではなく、相互に「学習」していくことも意味します。すべての人が生涯、なにを「学習」するのか、「学習」の意味は何か、を少しでも考えて知っていただくことを願います。また、臨時試験は論述が中心となります。担当者にもわかるように論述してください。相手になにかを伝えるという訓練にもなります。
担当者の研究室等	７号館２階非常勤講師室
備考	

科目名	生涯学習論	科目名（英文）	Lifelong Learning
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本　孝成
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	高齢化社会の現代日本では、生涯にわたる学習の必要性が指摘され続けています。ここでは「生涯学習」の基本的な理論とその実践例を紹介し、これからの「生涯学習」のあり方を考えていきます。特に担当教官の専門とする歴史学習を取り上げ、市民への文化の提供の方法やその効果、問題点を挙げていき、学芸員や各自治体の生涯学習担当としての知識と意識を身につけることを目的とします。また、各個人が「学ぶ」ことの意味を考えていくことも併せて講義します。
到達目標	生涯学習に関する基礎的な知識と意識を身につけること。また、受講生自身も生涯学習の心構えを持つこと。
授業方法と留意点	配布プリントと板書による講義中心で授業を行います。一回は展示施設の見学を行う予定です。
科目学習の効果（資格）	学芸員資格などの必要単位となっていますが、自治体など市民に接する職業に就いた場合に対応の心構えの助けになるでしょう。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	生涯学習論とはなにか	本講義のねらいとその位置づけなど、講義を受けるための姿勢についてお話しします。	授業の前提の話ですので、できるだけ受けてください。
2	社会教育と生涯学習の歴史①	現在の生涯学習の前提となる、社会教育の歴史と、生涯学習論の登場についてお話しします。	次回の授業に続きますので、見直しを推奨します。
3	社会教育と生涯学習の歴史②	社会教育の歴史と、生涯学習論の登場について現状に繋げてお話しします。	前回の内容の見直しを推奨します。
4	日本の生涯学習と方法、内容	日本の生涯学習とその形態、内容と問題点の現状についてお話しします。	授業後、機会があれば近隣自治体などで実状を見ることを推奨します。
5	生涯学習と行政の仕組み	生涯学習における社会教育行政の役割とあり方についてお話しします。	授業後、新聞やネットで行政の対応の確認を推奨します。
6	生涯各期の学習課題	人の各年代による学習・教育の特徴と課題についてお話しします。	授業後、自身やご両親、周囲の人の生涯学習状況を考えてください。
7	生涯学習と社会教育施設・公民館と図書館	社会教育施設の実態、特に公民館と図書館について概要をお話しします。	授業後、周りの社会教育施設や大学はもちろん周辺の図書館をを再確認することを推奨します。
8	なんのために学ぶのか	緒方洪庵と適塾を通じて「学ぶこと」の意味を考えます。（この講義は見学の日程の直前に行われます）	直後に適塾の見学を予定していますので、ある程度の復習を推奨します。
9	学外見学	重要文化財・適塾の見学。日程については授業の中で決定します。	直前の授業内容の復習を推奨します。
10	生涯学習と社会教育施設・博物館	博物館の役割と組織、問題点とその実態についてお話しします。	授業後、近隣の博物館の見学を推奨します。
11	生涯学習と文化財事業	生涯学習における歴史学習の実状と問題点、位置づけについてお話しします。	授業後、周辺の自治体主催事業について再確認を推奨します。
12	人と「歴史」の関係	身近な「歴史」に関わることの効果とその特徴についてお話しします。	授業後、周囲の歴史についてもう一度考え直してください。
13	それぞれの「生涯学習」	「学ぶ」ことの意味や「知」との向き合い方をお話しします。	授業後、各自の「学び」について考えてください。
14	反・反知性主義	ネットを中心に蔓延する「反知性主義」がいかに生涯学習にとってマイナスになるのかをお話しします。	授業後、社会にある意見について見直してください。
15	これからの生涯学習と地域	講義内容を振り返りながら、生涯学習のあり方とその支えについてお話しし、受講生各自にとっての生涯学習を考えます。	事前に、これまでの授業内容を大枠で復習しておくことを推奨します。

関連科目：教育系科目群

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	生涯学習概論	佐藤晴雄	学陽書房
2	司書・学芸員をめざす人への生涯学習概論	大堀哲監修	樹村房
3	ことば・ロジック・デザイン	妻木宣嗣	清文堂

評価方法（基準）	定期試験　１００％ 配布プリントと自筆のノートのみ持ち込み可です。ただし、配布プリントのコピーは許可します。 また、授業ごとに質問カードを配布します。提出は必須ではありませんが、次回授業の回答に採用された場合は平常点（１点ないし２点）を付与します。
学生へのメッセージ	「生涯学習論」ですが、これは学習を与えるだけの意味ではなく、相互に「学習」していくことも意味します。すべての人が生涯、なにを「学習」するのか、「学習」の意味は何か、を少しでも考えて知っていただくことを願います。また、臨時試験は論述が中心となります。担当者にもわかるように論述してください。相手になにかを伝えるという訓練にもなります。
担当者の研究室等	７号館２階非常勤講師室
備考	

科目名	上級検定インドネシア語	科目名（英文）	Practice for Advanced Test for Indonesian Proficiency
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山口　玲子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	インドネシア語技能検定試験Ｃ級の過去問題に取り組み、Ｃ級レベルの語彙や文法を学習する。
到達目標	インドネシア語技能検定試験Ｃ級レベルの語彙や文法事項の知識を得ることができる。
授業方法と留意点	本授業では、これまでに行われてきたインドネシア語技能検定試験の過去問題を中心に、特に語彙と文法に重点をおき、授業を進める。また、適宜小テストを行う。辞書は必ず携行すること。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語技能検定試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	練習問題(1)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直す
2	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
3	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
4	練習問題(2)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直し、次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
5	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
6	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
7	練習問題(3)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直し、次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
8	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
9	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
10	練習問題(4)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直し、次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
11	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
12	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
13	練習問題(5)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直し、次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
14	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
15	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること

関連科目：主言語インドネシア語科目のすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への積極的参加度合 30%、小テスト 50%、インドネシア語技能検定試験の結果 20%
学生へのメッセージ	検定試験合格を目指して、授業には積極的に参加しましょう。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	授業内容を確実に理解するためにも、事前・事後学習課題はそれぞれ少なくとも 1 時間以上かけること。半期中の事前・事後の学習は 30 時間である。授業時間外での質問等は非常勤講師室にてお昼休みに対応する。なお、適宜行う小テスト終了後には解説を行う。

科目名	初級検定インドネシア語	科目名（英文）	Practice for Elementary Test for Indonesian Proficiency
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山口　玲子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	インドネシア語技能検定試験Ｅ級の過去問題に取り組み、Ｅ級レベルの語彙や文法を学習する。
到達目標	インドネシア語技能検定試験Ｅ級レベルの語彙や文法事項の知識を得ることができる。
授業方法と留意点	本授業では、これまでに行われてきたインドネシア語技能検定試験の過去問題を中心に、特に語彙と文法に重点をおき、授業を進める。また、適宜小テストを行う。辞書は必ず携行すること。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語技能検定試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	練習問題(1)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直す
2	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
3	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
4	練習問題(2)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直し、次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
5	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
6	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
7	練習問題(3)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直し、次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
8	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
9	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
10	練習問題(4)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直し、次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
11	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
12	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
13	練習問題(5)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直し、次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
14	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
15	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること

関連科目	専攻言語インドネシア語科目のすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への積極的参加度合 30%、小テスト 50%、インドネシア語技能検定試験の結果 20%
学生へのメッセージ	検定試験合格を目指して、授業には積極的に参加しましょう。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	授業内容を確実に理解するためにも、事前・事後学習課題にはそれぞれ少なくとも１時間以上かけること。半期中の事前・事後学習は 30 時間である。授業時間外での質問等は非常勤講師室にてお昼休みに対応する。なお、適宜行う小テスト終了後には解説を行う。

科目名	初年次ゼミナール	科目名（英文）	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浅野　英一
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。
授業方法と留意点	【授業方法】1ゼミ当たり十数名のクラスで、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。 また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」（プリントを配布する）を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 第１回目：授業の目的、自己紹介 第２回目：履修登録・単位取得・ＧＰＡについて、試験について、シラバスについて 第３回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー （本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） レポートの書き方 （タイピング、パソコン等による文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 その他 【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 漢字・時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する （合計30ｈ）
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Year Study Guide		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	各研究室（７号館３～５階）
備考	

科目名	初年次ゼミナール	科目名（英文）	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	天野　貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。
授業方法と留意点	【授業方法】1ゼミ当たり十数名のクラスで、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。 また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」（プリントを配布する）を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 第１回目：授業の目的、自己紹介 第２回目：履修登録・単位取得・ＧＰＡについて、試験について、シラバスについて 第３回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー （本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） レポートの書き方 （タイピング、パソコン等による文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 その他 【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 漢字・時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する （合計30ｈ）
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Year Study Guide		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7号館3階　天野研究室
備考	

科目名	初年次ゼミナール	科目名（英文）	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有馬　善一
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	概要：大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 目的：①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。
授業方法と留意点	1ゼミ当たり十数名のクラスで、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。 また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」（プリントを配布する）を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容、方法】 第１回目：授業の目的、自己紹介 第２回目：履修登録・単位取得・ＧＰＡについて、試験について、シラバスについて 第３回目以降：内容は前後することがある。 　大学生活・大学生の守るべきルールについて 　摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 　ノートの取り方 　図書館の活用 　メディア・リテラシー 　（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） 　レポートの書き方 　（タイピング、パソコン等による文章作成） 　キャリアデザイン、キャリアプランニング 　大学生活の目標 　その他 【事前、事後学習課題】 出された課題に取り組む 漢字・時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する （合計 30ｈ）
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、２年次に進級できない。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	有馬研究室（7 号館 4 階）
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Year Study Guide		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	初年次ゼミナール	科目名（英文）	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浦野　崇央
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。
授業方法と留意点	【授業方法】1ゼミ当たり十数名のクラスで、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。 また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」（プリントを配布する）を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 第１回目：授業の目的、自己紹介 第２回目：履修登録・単位取得・ＧＰＡについて、試験について、シラバスについて 第３回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー （本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） レポートの書き方 （タイピング、パソコン等による文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 その他 【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 漢字・時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する （合計30ｈ）
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Year Study Guide		
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	大学生活を充実させましょう。そのためには最初が肝心です。
担当者の研究室等	浦野研究室（７号館４階）
備考	

科目名	初年次ゼミナール	科目名（英文）	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大原関　一浩
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。
授業方法と留意点	【授業方法】1ゼミ当たり十数名のクラスで、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。 また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」（プリントを配布する）を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 第１回目：授業の目的、自己紹介 第２回目：履修登録・単位取得・ＧＰＡについて、試験について、シラバスについて 第３回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー （本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） レポートの書き方 （タイピング、パソコン等による文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 その他 【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 漢字・時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する （合計30ｈ）
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Year Study Guide		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	大原関研究室（７号館５階）
備考	

科目名	初年次ゼミナール	科目名（英文）	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	門脇　薫
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	概要：大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 目的：①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。
授業方法と留意点	1ゼミ当たり十数名のクラスで、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。 また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」（プリントを配布する）を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容、方法】 第１回目：授業の目的、自己紹介 第２回目：履修登録・単位取得・ＧＰＡについて、試験について、シラバスについて 第３回目以降：内容は前後することがある。 　大学生活・大学生の守るべきルールについて 　摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 　ノートの取り方 　図書館の活用 　メディア・リテラシー 　（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） 　レポートの書き方 　（タイピング、パソコン等による文章作成） 　キャリアデザイン、キャリアプランニング 　大学生活の目標 　その他 【事前、事後学習課題】 出された課題に取り組む 漢字・時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する （合計 30ｈ）
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Year Study Guide		
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、２年次に進級できない。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	門脇研究室（７号館４階）
備考	

科目名	初年次ゼミナール	科目名（英文）	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	柴田　陽一
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。
授業方法と留意点	【授業方法】1ゼミ当たり十数名のクラスで、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。 また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」（プリントを配布する）を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 第１回目：授業の目的、自己紹介 第２回目：履修登録・単位取得・ＧＰＡについて、試験について、シラバスについて 第３回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー （本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） レポートの書き方 （タイピング、パソコン等による文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 その他 【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 漢字・時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する （合計30ｈ）
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Year Study Guide		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	各研究室（７号館３～５階）
備考	

科目名	初年次ゼミナール	科目名（英文）	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	篠原　愛人
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。
授業方法と留意点	【授業方法】1ゼミ当たり十数名のクラスで、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。 また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」（プリントを配布する）を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 第１回目：授業の目的、自己紹介 第２回目：履修登録・単位取得・ＧＰＡについて、試験について、シラバスについて 第３回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー （本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） レポートの書き方 （タイピング、パソコン等による文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 その他 【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 漢字・時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する （合計30ｈ）
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Year Study Guide		
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	篠原研究室（７号館５階）
備考	

科目名	初年次ゼミナール	科目名（英文）	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鈴木　大介
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。
授業方法と留意点	【授業方法】1ゼミ当たり十数名のクラスで、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。 また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」（プリントを配布する）を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 第１回目：授業の目的、自己紹介 第２回目：履修登録・単位取得・ＧＰＡについて、試験について、シラバスについて 第３回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー （本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） レポートの書き方 （タイピング、パソコン等による文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 その他 【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 漢字・時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する （合計30ｈ）
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Year Study Guide		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館５階　鈴木研究室
備考	

科目名	初年次ゼミナール	科目名（英文）	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中　悟
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。
授業方法と留意点	【授業方法】1ゼミ当たり十数名のクラスで、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。 また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」（プリントを配布する）を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 第１回目：授業の目的、自己紹介 第２回目：履修登録・単位取得・ＧＰＡについて、試験について、シラバスについて 第３回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー （本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） レポートの書き方 （タイピング、パソコン等による文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 その他 【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 漢字・時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する （合計30ｈ）
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Year Study Guide		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	各研究室（７号館３～５階）
備考	

科目名	初年次ゼミナール	科目名（英文）	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中　秀毅
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。
授業方法と留意点	【授業方法】1ゼミ当たり十数名のクラスで、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。 また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」（プリントを配布する）を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 第１回目：授業の目的、自己紹介 第２回目：履修登録・単位取得・ＧＰＡについて、試験について、シラバスについて 第３回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー （本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） レポートの書き方 （タイピング、パソコン等による文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 その他 【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 漢字・時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する （合計30ｈ）
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Year Study Guide		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	大学生になるための知識・技能・態度を身につけましょう。
担当者の研究室等	田中（秀）研究室（７号館４階）　※スチューデント・アワー（前期）は水曜5時限です。
備考	

科目名	初年次ゼミナール	科目名（英文）	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	手代木　功基
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。
授業方法と留意点	【授業方法】1ゼミ当たり十数名のクラスで、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。 また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」（プリントを配布する）を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 第１回目：授業の目的、自己紹介 第２回目：履修登録・単位取得・ＧＰＡについて、試験について、シラバスについて 第３回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー （本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） レポートの書き方 （タイピング、パソコン等による文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 その他 【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 漢字・時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する （合計30ｈ）
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Year Study Guide		
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	各研究室（７号館３～５階）
備考	

科目名	初年次ゼミナール	科目名（英文）	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥居　祐介
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。
授業方法と留意点	【授業方法】1ゼミ当たり十数名のクラスで、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。 また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」（プリントを配布する）を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 第１回目：授業の目的、自己紹介 第２回目：履修登録・単位取得・ＧＰＡについて、試験について、シラバスについて 第３回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー （本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） レポートの書き方 （タイピング、パソコン等による文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 その他 【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 漢字・時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する （合計30ｈ）
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Year Study Guide		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館３階　鳥居研究室
備考	

科目名	初年次ゼミナール	科目名（英文）	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中西　正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。
授業方法と留意点	【授業方法】1ゼミ当たり十数名のクラスで、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。 また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」（プリントを配布する）を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 第１回目：授業の目的、自己紹介 第２回目：履修登録・単位取得・ＧＰＡについて、試験について、シラバスについて 第３回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー （本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） レポートの書き方 （タイピング、パソコン等による文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 その他 【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 漢字・時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する （合計30ｈ）
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Year Study Guide		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	中西研究室（７号館３階）
備考	

科目名	初年次ゼミナール	科目名（英文）	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本　正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。
授業方法と留意点	【授業方法】1ゼミ当たり十数名のクラスで、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。 また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」（プリントを配布する）を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 第１回目：授業の目的、自己紹介 第２回目：履修登録・単位取得・ＧＰＡについて、試験について、シラバスについて 第３回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー （本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） レポートの書き方 （タイピング、パソコン等による文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 その他 【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 漢字・時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する （合計30ｈ）
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Year Study Guide		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	各研究室（７号館３～５階）
備考	

科目名	初年次ゼミナール	科目名（英文）	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林田　敏子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。
授業方法と留意点	【授業方法】1ゼミ当たり十数名のクラスで、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。 また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」（プリントを配布する）を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 第１回目：授業の目的、自己紹介 第２回目：履修登録・単位取得・ＧＰＡについて、試験について、シラバスについて 第３回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー （本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） レポートの書き方 （タイピング、パソコン等による文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 その他 【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 漢字・時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する （合計30ｈ）
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	４年間の学生生活、いいスタートが切れるようにがんばりましょう。
担当者の研究室等	林田研究室（７号館４階）
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Year Study Guide		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	初年次ゼミナール	科目名（英文）	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山口　真佐夫
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。
授業方法と留意点	【授業方法】1ゼミ当たり十数名のクラスで、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。 また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」（プリントを配布する）を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 第１回目：授業の目的、自己紹介 第２回目：履修登録・単位取得・ＧＰＡについて、試験について、シラバスについて 第３回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー （本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） レポートの書き方 （タイピング、パソコン等による文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 その他 【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 漢字・時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する （合計30ｈ）
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Year Study Guide		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館５階　山口室
備考	

科目名	初年次ゼミナール	科目名（英文）	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉村　征洋
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。
授業方法と留意点	【授業方法】1ゼミ当たり十数名のクラスで、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。 また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」（プリントを配布する）を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、２年次に進級できない。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 第１回目：授業の目的、自己紹介 第２回目：履修登録・単位取得・ＧＰＡについて、試験について、シラバスについて 第３回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー （本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） レポートの書き方 （タイピング、パソコン等による文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 その他 【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 漢字・時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する （合計30ｈ）
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Year Study Guide		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7号館3階　吉村征洋研究室
備考	

科目名	神話論	科目名（英文）	Mythology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小川　豊生
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	太古のときより人類が生みだしてきた神話というジャンルを入り口に、現代社会・文化の諸問題について考える方法を身につける。神話は古代のものという見方は誤りである。その証拠に、映画・アニメ・ゲーム・マンガといったサブカルチャーと呼ばれる大衆文化のなかで、神話モチーフは新しい復活を遂げている。神話とは何か、なぜ神話が生き続けるのか、日本と世界各地の神話にどのような違いがあるのかなど、さまざまな角度から神話に光をあて、マクロな視点から人類文明のあり方について考察を深める。
到達目標	・神話というジャンルについて豊富な知識を獲得する。 ・現代文化にどのようなかたちで神話が生きているかについて認識する。 ・日本や世界の文化と思想の流れについて、基礎的な知識を身につけ、その全体像を的確に把握できるようにする。
授業方法と留意点	プリントによる講義が中心となる。 ただし、授業の２回分は、各自のリサーチをもとにした発表会にあてたい。その具体的方法については授業中に改めて指示する。
科目学習の効果（資格）	広い教養の獲得と思考力・記述力の深化。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	神話とは何か	講義内容全体への導入。神話とは何か、入門的に解説する。	プリント・ノートの復習
2	人類最古の神話	人類最古の神話をとりあげ、神話の役割を考察し、今後の講義へ向けての動機づけとする。	プリント・ノートの予習・復習
3	英雄神話の誕生１	英雄神話を具体的にとりあげ、その人類史的意義について考察する。	プリント・ノートの予習・復習
4	英雄神話の誕生２	英雄神話を具体的にとりあげ、その人類史的意義について考察する。	プリント・ノートの予習・復習
5	オイディプス神話とは何か	ギリシア神話のなかからオイディプスをとりあげ、その内容と意義について考察する。	プリント・ノートの予習・復習
6	シンデレラの謎	世界中にひろがるシンデレラをめぐる伝承をとりあげ、そこに潜む人類史的な謎をめぐって考察する。	プリント・ノートの予習・復習
7	調査発表会	各自の調査結果を発表し、全体で質疑応答を行う。	プリント・ノートの予習・復習
8	日本の神話１(出雲)	出雲神話とは何か、その内容と特質について探求する。	プリント・ノートの予習・復習
9	日本の神話２(伊勢)	代表的な聖地である伊勢をとりあげ、その神話世界の内容と特質について探求する。	プリント・ノートの予習・復習
10	日本の神話３(熊野)	代表的な聖地である熊野をとりあげ、その神話世界の内容と特質について探求する。	プリント・ノートの予習・復習
11	図像と神話１	具体的な図像をとりあげ、その制作背景となった神話世界を探求する。	プリント・ノートの予習・復習
12	図像と神話２	具体的な図像をとりあげ、その制作背景となった神話世界を探求する。	プリント・ノートの予習・復習
13	現代と神話(聖地巡礼)	現代の聖地をとりあげ、「聖地巡礼」という社会現象について考察する。	プリント・ノートの予習・復習
14	調査発表会	各自の調査結果を発表し、全体で質疑応答を行う。	プリント・ノートの予習・復習
15	総合確認テスト	講義内容全体に関する確認テストを行う	ノートの総合整理

関連科目：文化科目全般。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト・総合テスト 60%、課題レポート等 40%で評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館４階（小川研究室）
備考	事前・事後の学習は、それぞれ２時間ずつ、総時間 60 時間を目安とする。

科目名	スキルズ　トレーニングⅠa	科目名（英文）	Skills Training Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大原関　一浩
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	英語学習の基盤となるスキルを習得する。
到達目標	辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICT を用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
授業方法と留意点	・共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS 暗唱テスト」を実施する。 ・必ず辞書を持参すること
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 『暗唱英文 100』1-5 を暗唱する	Orientation and Self-Introduction 5 文型について	Students should study the content of the day's lesson
2	『暗唱英文 100』6-10 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 肯定文と否定文	Students should study the content of the day's lesson
3	『暗唱英文 100』11-15 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work Yes/No 疑問文	Students should study the content of the day's lesson
4	『暗唱英文 100』1-15 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（1）	Students should study the content of the day's lesson
5	『暗唱英文 100』16-20 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 疑問詞	Students should study the content of the day's lesson
6	『暗唱英文 100』21-25 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work there + be 動詞	Students should study the content of the day's lesson
7	『暗唱英文 100』26-30 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work it の用法	Students should study the content of the day's lesson
8	『暗唱英文 100』16-30 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（2）	Students should study the content of the day's lesson
9	『暗唱英文 100』31-35 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work Let's の用法	Students should study the content of the day's lesson
10	『暗唱英文 100』36-40 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 過去形	Students should study the content of the day's lesson
11	『暗唱英文 100』41-45 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 助動詞 can, could	Students should study the content of the day's lesson
12	『暗唱英文 100』46-50 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work have＋to 不定詞	Students should study the content of the day's lesson
13	『暗唱英文 100』1-25 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（3）	Students should study the content of the day's lesson
14	『暗唱英文 100』26-50 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法の総まとめ	Students should study the content of the day's lesson
15	まとめ	総復習	総復習

関連科目	ボキャブラリー&グラマー a、スピーキング＆ライティング Ia

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷　恒志	成美堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80% 100SS 暗唱テスト　20%
学生へのメッセージ	語学力を向上させるには、毎日の学習が不可欠です。コツコツと忍耐強く学習しましょう。
担当者の研究室等	大原関研究室（７号館５階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スキルズ　トレーニングＩｂ	科目名（英文）	Skills Training Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉村　征洋
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	英語学習の基盤となるスキルを習得する。
到達目標	発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICT を用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文暗唱を行い、口頭テストを実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 『暗唱英文 100』51-55 を暗唱する	Orientation and Self-Introduction some と any	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises 『暗唱英文 100』56-60 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 時間の前置詞 for	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文 100』61-65 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 時間の前置詞 during	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文 100』51-65 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（1）	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文 100』66-70 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 手段の前置詞 by	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文 100』71-75 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 形容詞の比較級	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文 100』76-80 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 現在完了	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文 100』66-80 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（2）	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文 100』81-85 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 助動詞 + 受動態	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文 100』86-90 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group wor 現在分詞 k	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文 100』91-95 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 関係代名詞	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文 100』96-100 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 仮定法	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文 100』51-75 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（3）	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文 100』76-100 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法の総まとめ	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises まとめ、および共通テスト―「口頭」を実施する	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	ボキャブラリー&グラマー b、スピーキング＆ライティング Ib

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	授業中の小テスト、宿題、提出物等　７５％ 口頭テスト　２５％
学生へのメッセージ	語学力を向上させるには、毎日の学習が不可欠です。コツコツと忍耐強く学習しましょう。
担当者の研究室等	７号館３階　吉村　征洋研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スキルズ　トレーニング a	科目名（英文）	Skills Training a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤　一章
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	英語学習の基盤となるスキルを習得する。
到達目標	辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICT を用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
授業方法と留意点	・共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS 暗唱テスト」を実施する。 ・学期末に 4 技能オンラインテストを行う。 ・必ず辞書を持参すること
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 『暗唱英文 100』1-5 を暗唱する	Orientation and Self-Introduction 5 文型について	Students should study the content of the day's lesson
2	『暗唱英文 100』6-10 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 肯定文と否定文	Students should study the content of the day's lesson
3	『暗唱英文 100』11-15 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work Yes/No 疑問文	Students should study the content of the day's lesson
4	『暗唱英文 100』1-15 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（1）	Students should study the content of the day's lesson
5	『暗唱英文 100』16-20 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 疑問詞	Students should study the content of the day's lesson
6	『暗唱英文 100』21-25 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work there + be 動詞	Students should study the content of the day's lesson
7	『暗唱英文 100』26-30 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work it の用法	Students should study the content of the day's lesson
8	『暗唱英文 100』16-30 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（2）	Students should study the content of the day's lesson
9	『暗唱英文 100』31-35 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work Let's の用法	Students should study the content of the day's lesson
10	『暗唱英文 100』36-40 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 過去形	Students should study the content of the day's lesson
11	『暗唱英文 100』41-45 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 助動詞 can, could	Students should study the content of the day's lesson
12	『暗唱英文 100』46-50 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work have＋to 不定詞	Students should study the content of the day's lesson
13	『暗唱英文 100』1-25 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（3）	Students should study the content of the day's lesson
14	『暗唱英文 100』26-50 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法の総まとめ	Students should study the content of the day's lesson
15	まとめ	4 技能オンラインテスト実施	総復習

関連科目：ボキャブラリー&グラマー a、スピーキング＆ライティング Ia

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷　恒志	成美堂
3	Bottom Up Listening for the TOEIC Test	湯舟　英一	成美堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80% 100SS 暗唱テスト　20% ※100SS 暗唱テストが合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生への	入学おめでとうございます。目標を高く持って頑張ってください。

メッセージ	
担当者の 研究室等	７号館５階　後藤研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スキルズ　トレーニング a	科目名（英文）	Skills Training a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	ロハ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	杉浦　秀行
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	英語学習の基盤となるスキルを習得する。
到達目標	辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICT を用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
授業方法と留意点	・共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS 暗唱テスト」を実施する。 ・学期末に 4 技能オンラインテストを行う。 ・必ず辞書を持参すること
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 『暗唱英文 100』1-5 を暗唱する	Orientation and Self-Introduction 5 文型について	Students should study the content of the day's lesson
2	『暗唱英文 100』6-10 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 肯定文と否定文	Students should study the content of the day's lesson
3	『暗唱英文 100』11-15 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work Yes/No 疑問文	Students should study the content of the day's lesson
4	『暗唱英文 100』1-15 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（1）	Students should study the content of the day's lesson
5	『暗唱英文 100』16-20 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 疑問詞	Students should study the content of the day's lesson
6	『暗唱英文 100』21-25 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work there + be 動詞	Students should study the content of the day's lesson
7	『暗唱英文 100』26-30 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work it の用法	Students should study the content of the day's lesson
8	『暗唱英文 100』16-30 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（2）	Students should study the content of the day's lesson
9	『暗唱英文 100』31-35 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work Let's の用法	Students should study the content of the day's lesson
10	『暗唱英文 100』36-40 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 過去形	Students should study the content of the day's lesson
11	『暗唱英文 100』41-45 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 助動詞 can, could	Students should study the content of the day's lesson
12	『暗唱英文 100』46-50 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work have＋to 不定詞	Students should study the content of the day's lesson
13	『暗唱英文 100』1-25 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（3）	Students should study the content of the day's lesson
14	『暗唱英文 100』26-50 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法の総まとめ	Students should study the content of the day's lesson
15	まとめ	4 技能オンラインテスト実施	総復習

関連科目：ボキャブラリー&グラマー a、スピーキング＆ライティング Ia

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷　恒志	成美堂
3	Simply 500: Acting the TOEIC	Terry O'Brien 他	南雲堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80% 100SS 暗唱テスト　20% ※100SS 暗唱テストが合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生への	使える英語のスキルをいっしょに身に付けましょう！

メッセージ	
担当者の 研究室等	７号館５階　杉浦研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スキルズ　トレーニング a	科目名（英文）	Skills Training a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	ニホ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中　秀毅
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	英語学習の基盤となるスキルを習得する。
到達目標	辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICT を用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
授業方法と留意点	・共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS 暗唱テスト」を実施する。 ・学期末に 4 技能オンラインテストを行う。 ・必ず辞書を持参すること
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 『暗唱英文 100』1-5 を暗唱する	Orientation and Self-Introduction 5 文型について	Students should study the content of the day's lesson
2	『暗唱英文 100』6-10 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 肯定文と否定文	Students should study the content of the day's lesson
3	『暗唱英文 100』11-15 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work Yes/No 疑問文	Students should study the content of the day's lesson
4	『暗唱英文 100』1-15 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（1）	Students should study the content of the day's lesson
5	『暗唱英文 100』16-20 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 疑問詞	Students should study the content of the day's lesson
6	『暗唱英文 100』21-25 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work there + be 動詞	Students should study the content of the day's lesson
7	『暗唱英文 100』26-30 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work it の用法	Students should study the content of the day's lesson
8	『暗唱英文 100』16-30 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（2）	Students should study the content of the day's lesson
9	『暗唱英文 100』31-35 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work Let's の用法	Students should study the content of the day's lesson
10	『暗唱英文 100』36-40 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 過去形	Students should study the content of the day's lesson
11	『暗唱英文 100』41-45 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 助動詞 can, could	Students should study the content of the day's lesson
12	『暗唱英文 100』46-50 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work have＋to 不定詞	Students should study the content of the day's lesson
13	『暗唱英文 100』1-25 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（3）	Students should study the content of the day's lesson
14	『暗唱英文 100』26-50 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法の総まとめ	Students should study the content of the day's lesson
15	まとめ	4 技能オンラインテスト実施	総復習

関連科目：ボキャブラリー&グラマー a、スピーキング＆ライティング Ia

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷　恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ロングマン現代英英辞典（Longman Dictionary of Contemporary English）		
2	オックスフォード現代英英辞典（Oxford Advanced Learner's Dictionary）		
3			

評価方法（基準）：授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
100SS 暗唱テスト　20%

	※100SS 暗唱テストが合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生への メッセージ	英語学習の基礎を固める科目ですから真剣に取り組んでください。
担当者の 研究室等	田中（秀）研究室（７号館４階）　※スチューデント・アワー（前期）は水曜５時限です。
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スキルズ　トレーニング a	科目名（英文）	Skills Training a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	ヘト
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	皆本　智美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	英語学習の基盤となるスキルを習得する。
到達目標	辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICT を用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
授業方法と留意点	・共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS 暗唱テスト」を実施する。 ・学期末に 4 技能オンラインテストを行う。 ・必ず辞書を持参すること
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 『暗唱英文 100』1-5 を暗唱する	Orientation and Self-Introduction 5 文型について	Students should study the content of the day's lesson
2	『暗唱英文 100』6-10 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 肯定文と否定文	Students should study the content of the day's lesson
3	『暗唱英文 100』11-15 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work Yes/No 疑問文	Students should study the content of the day's lesson
4	『暗唱英文 100』1-15 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（1）	Students should study the content of the day's lesson
5	『暗唱英文 100』16-20 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 疑問詞	Students should study the content of the day's lesson
6	『暗唱英文 100』21-25 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work there + be 動詞	Students should study the content of the day's lesson
7	『暗唱英文 100』26-30 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work it の用法	Students should study the content of the day's lesson
8	『暗唱英文 100』16-30 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（2）	Students should study the content of the day's lesson
9	『暗唱英文 100』31-35 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work Let's の用法	Students should study the content of the day's lesson
10	『暗唱英文 100』36-40 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 過去形	Students should study the content of the day's lesson
11	『暗唱英文 100』41-45 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 助動詞 can, could	Students should study the content of the day's lesson
12	『暗唱英文 100』46-50 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work have＋to 不定詞	Students should study the content of the day's lesson
13	『暗唱英文 100』1-25 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（3）	Students should study the content of the day's lesson
14	『暗唱英文 100』26-50 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法の総まとめ	Students should study the content of the day's lesson
15	まとめ	4 技能オンラインテスト実施	総復習

関連科目：ボキャブラリー&グラマー a、スピーキング＆ライティング Ia

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷　恒志	成美堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80% 100SS 暗唱テスト　20% ※100SS 暗唱テストが合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	予習・復習を怠らず、根気よく英語の学習に取り組んで下さい。
担当者の研究室等	7 号館 4 階　皆本研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スキルズ　トレーニング a	科目名（英文）	Skills Training a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	チリ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鈴木　大介
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	英語学習の基盤となるスキルを習得する。
到達目標	辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICT を用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
授業方法と留意点	・共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS 暗唱テスト」を実施する。 ・学期末に 4 技能オンラインテストを行う。 ・必ず辞書を持参すること
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 『暗唱英文 100』1-5 を暗唱する	Orientation and Self-Introduction 5 文型について	Students should study the content of the day's lesson
2	『暗唱英文 100』6-10 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 肯定文と否定文	Students should study the content of the day's lesson
3	『暗唱英文 100』11-15 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work Yes/No 疑問文	Students should study the content of the day's lesson
4	『暗唱英文 100』1-15 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（1）	Students should study the content of the day's lesson
5	『暗唱英文 100』16-20 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 疑問詞	Students should study the content of the day's lesson
6	『暗唱英文 100』21-25 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work there + be 動詞	Students should study the content of the day's lesson
7	『暗唱英文 100』26-30 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work it の用法	Students should study the content of the day's lesson
8	『暗唱英文 100』16-30 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（2）	Students should study the content of the day's lesson
9	『暗唱英文 100』31-35 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work Let's の用法	Students should study the content of the day's lesson
10	『暗唱英文 100』36-40 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 過去形	Students should study the content of the day's lesson
11	『暗唱英文 100』41-45 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 助動詞 can, could	Students should study the content of the day's lesson
12	『暗唱英文 100』46-50 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work have＋to 不定詞	Students should study the content of the day's lesson
13	『暗唱英文 100』1-25 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（3）	Students should study the content of the day's lesson
14	『暗唱英文 100』26-50 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法の総まとめ	Students should study the content of the day's lesson
15	まとめ	4 技能オンラインテスト実施	総復習

関連科目：ボキャブラリー&グラマー a、スピーキング＆ライティング Ia

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷　恒志	成美堂
3	5 分間 ポイントで解く語法・語彙問題 - A Shorter Course in Usage and Vocabulary	小中　秀彦	南雲堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
100SS 暗唱テスト　20%
※100SS 暗唱テストが合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。

学生への メッセージ	語彙・文法は英語力の基本です。毎日、継続することで、しっかり力をつけていきましょう。
担当者の 研究室等	７号館５階　鈴木研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スキルズ　トレーニング a	科目名（英文）	Skills Training a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大原関　一浩
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	英語学習の基盤となるスキルを習得する。
到達目標	辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICT を用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
授業方法と留意点	・共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS 暗唱テスト」を実施する。 ・必ず辞書を持参すること
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 『暗唱英文 100』1-5 を暗唱する	Orientation and Self-Introduction 5 文型について	Students should study the content of the day's lesson
2	『暗唱英文 100』6-10 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 肯定文と否定文	Students should study the content of the day's lesson
3	『暗唱英文 100』11-15 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work Yes/No 疑問文	Students should study the content of the day's lesson
4	『暗唱英文 100』1-15 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（1）	Students should study the content of the day's lesson
5	『暗唱英文 100』16-20 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 疑問詞	Students should study the content of the day's lesson
6	『暗唱英文 100』21-25 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work there + be 動詞	Students should study the content of the day's lesson
7	『暗唱英文 100』26-30 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work it の用法	Students should study the content of the day's lesson
8	『暗唱英文 100』16-30 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（2）	Students should study the content of the day's lesson
9	『暗唱英文 100』31-35 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work Let's の用法	Students should study the content of the day's lesson
10	『暗唱英文 100』36-40 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 過去形	Students should study the content of the day's lesson
11	『暗唱英文 100』41-45 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 助動詞 can, could	Students should study the content of the day's lesson
12	『暗唱英文 100』46-50 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work have＋to 不定詞	Students should study the content of the day's lesson
13	『暗唱英文 100』1-25 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（3）	Students should study the content of the day's lesson
14	『暗唱英文 100』26-50 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法の総まとめ	Students should study the content of the day's lesson
15	まとめ	総復習	総復習

関連科目：ボキャブラリー&グラマー a、スピーキング＆ライティング Ia

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷　恒志	成美堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80% 100SS 暗唱テスト　20%
学生へのメッセージ	語学力を向上させるには、毎日の学習が不可欠です。コツコツと忍耐強く学習しましょう。
担当者の研究室等	大原関研究室（７号館５階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スキルズ　トレーニングｂ	科目名（英文）	Skills Training b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中　秀毅
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	英語学習の基盤となるスキルを習得する。
到達目標	辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICT を用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
授業方法と留意点	・共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS 暗唱テスト」を実施する。 ・学期末に 4 技能オンラインテストを行う。 ・必ず辞書を持参すること
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 『暗唱英文 100』51-55 を暗唱する	Orientation and Self-Introduction some と any	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises 『暗唱英文 100』56-60 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 時間の前置詞 for	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文 100』61-65 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 時間の前置詞 during	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文 100』51-65 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（1）	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文 100』66-70 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 手段の前置詞 by	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文 100』71-75 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 形容詞の比較級	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文 100』76-80 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 現在完了	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文 100』66-80 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（2）	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文 100』81-85 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 助動詞 + 受動態	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文 100』86-90 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group wor 現在分詞	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文 100』91-95 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 関係代名詞	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文 100』96-100 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 仮定法	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文 100』51-75 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（3）	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文 100』76-100 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法の総まとめ	Students should study the content of the day's lesson
15	まとめ	4 技能オンラインテスト実施	総復習

関連科目：ボキャブラリー&グラマー b、スピーキング＆ライティング Ib

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷　恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ロングマン現代英英辞典（Longman Dictionary of Contemporary English）		ロングマン
2	オックスフォード現代英英辞典（Oxford Advanced Learner's Dictionary）		オックスフォード
3			

評価方法（基準）：授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
100SS 暗唱テスト　20%

	※100SS 暗唱テストが合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生への メッセージ	英語学習の基礎を固める科目ですから真剣に取り組んでください。
担当者の 研究室等	田中（秀）研究室（７号館４階）　※スチューデント・アワー（後期）は月曜５時限です。
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スキルズ　トレーニングｂ	科目名（英文）	Skills Training b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	ＣＤ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉村　征洋
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	英語学習の基盤となるスキルを習得する。
到達目標	辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICT を用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
授業方法と留意点	・共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS 暗唱テスト」を実施する。 ・学期末に 4 技能オンラインテストを行う。 ・必ず辞書を持参すること
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 『暗唱英文 100』51-55 を暗唱する	Orientation and Self-Introduction some と any	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises 『暗唱英文 100』56-60 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 時間の前置詞 for	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文 100』61-65 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 時間の前置詞 during	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文 100』51-65 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（1）	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文 100』66-70 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 手段の前置詞 by	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文 100』71-75 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 形容詞の比較級	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文 100』76-80 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 現在完了	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文 100』66-80 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（2）	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文 100』81-85 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 助動詞 + 受動態	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文 100』86-90 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group wor 現在分詞	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文 100』91-95 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 関係代名詞	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文 100』96-100 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 仮定法	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文 100』51-75 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（3）	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文 100』76-100 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法の総まとめ	Students should study the content of the day's lesson
15	まとめ	4 技能オンラインテスト実施	総復習

関連科目：ボキャブラリー&グラマー b、スピーキング＆ライティング Ib

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷　恒志	成美堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80% 100SS 暗唱テスト　20% ※100SS 暗唱テストが合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	たくさん英語を話して、様々な表現を覚えましょう。
担当者の研究室等	７号館３階　吉村　征洋研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スキルズ　トレーニングｂ	科目名（英文）	Skills Training b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鈴木　大介
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	英語学習の基盤となるスキルを習得する。
到達目標	辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICT を用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
授業方法と留意点	・共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS 暗唱テスト」を実施する。 ・学期末に 4 技能オンラインテストを行う。 ・必ず辞書を持参すること
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 『暗唱英文 100』51-55 を暗唱する	Orientation and Self-Introduction some と any	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises 『暗唱英文 100』56-60 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 時間の前置詞 for	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文 100』61-65 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 時間の前置詞 during	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文 100』51-65 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（1）	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文 100』66-70 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 手段の前置詞 by	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文 100』71-75 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 形容詞の比較級	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文 100』76-80 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 現在完了	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文 100』66-80 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（2）	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文 100』81-85 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 助動詞 + 受動態	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文 100』86-90 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group wor 現在分詞	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文 100』91-95 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 関係代名詞	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文 100』96-100 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 仮定法	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文 100』51-75 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（3）	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文 100』76-100 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法の総まとめ	Students should study the content of the day's lesson
15	まとめ	4 技能オンラインテスト実施	総復習

関連科目：ボキャブラリー&グラマー b、スピーキング＆ライティング Ib

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷　恒志	成美堂
3	5 分間 ポイントで解く語法・語彙問題 - A Shorter Course in Usage and Vocabulary	小中　秀彦	南雲堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
100SS 暗唱テスト　20%
※100SS 暗唱テストが合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。

学生への メッセージ	語彙・文法は英語力の基本です。毎日、継続することで、しっかり力をつけていきましょう。
担当者の 研究室等	７号館５階　鈴木研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スキルズ　トレーニングｂ	科目名（英文）	Skills Training b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	いう
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤　一章
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	英語学習の基盤となるスキルを習得する。
到達目標	辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICT を用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
授業方法と留意点	・共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS 暗唱テスト」を実施する。 ・学期末に 4 技能オンラインテストを行う。 ・必ず辞書を持参すること
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 『暗唱英文 100』51-55 を暗唱する	Orientation and Self-Introduction some と any	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises 『暗唱英文 100』56-60 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 時間の前置詞 for	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文 100』61-65 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 時間の前置詞 during	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文 100』51-65 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（1）	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文 100』66-70 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 手段の前置詞 by	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文 100』71-75 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 形容詞の比較級	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文 100』76-80 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 現在完了	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文 100』66-80 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（2）	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文 100』81-85 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 助動詞 + 受動態	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文 100』86-90 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group wor 現在分詞	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文 100』91-95 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 関係代名詞	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文 100』96-100 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 仮定法	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文 100』51-75 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（3）	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文 100』76-100 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法の総まとめ	Students should study the content of the day's lesson
15	まとめ	4 技能オンラインテスト実施	総復習

関連科目：ボキャブラリー&グラマー b、スピーキング＆ライティング Ib

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷　恒志	成美堂
3	Strike Up the TOEIC Test Listening	塚田幸光	金星堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ロングマン現代英英辞典（Longman Dictionary of Contemporary English）		ロングマン
2	オックスフォード現代英英辞典（Oxford Advanced Learner's Dictionary）		オックスフォード
3			

評価方法（基準）
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
100SS 暗唱テスト　20%

	※100SS 暗唱テストが合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生への メッセージ	目標を高く持って頑張ってください。
担当者の 研究室等	後藤研究室（7 号館 5 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スキルズ　トレーニングｂ	科目名（英文）	Skills Training b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	えお
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大原関　一浩
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	英語学習の基盤となるスキルを習得する。
到達目標	辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICT を用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
授業方法と留意点	・共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS 暗唱テスト」を実施する。 ・学期末に 4 技能オンラインテストを行う。 ・必ず辞書を持参すること
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 『暗唱英文 100』51-55 を暗唱する	Orientation and Self-Introduction some と any	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises 『暗唱英文 100』56-60 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 時間の前置詞 for	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文 100』61-65 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 時間の前置詞 during	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文 100』51-65 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（1）	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文 100』66-70 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 手段の前置詞 by	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文 100』71-75 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 形容詞の比較級	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文 100』76-80 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 現在完了	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文 100』66-80 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（2）	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文 100』81-85 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 助動詞 + 受動態	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文 100』86-90 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group wor 現在分詞	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文 100』91-95 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 関係代名詞	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文 100』96-100 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 仮定法	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文 100』51-75 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（3）	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文 100』76-100 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法の総まとめ	Students should study the content of the day's lesson
15	まとめ	4 技能オンラインテスト実施	総復習

関連科目：ボキャブラリー&グラマー b、スピーキング＆ライティング Ib

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷　恒志	成美堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80% 100SS 暗唱テスト　20% ※100SS 暗唱テストが合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	予習・復習を怠らず、根気よく英語の学習に取り組んで下さい。
担当者の研究室等	大原関研究室（７号館５階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スキルズ　トレーニングｂ	科目名（英文）	Skills Training b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	かき
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥居　祐介
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	英語学習の基盤となるスキルを習得する。
到達目標	辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICT を用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
授業方法と留意点	・共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS 暗唱テスト」を実施する。 ・学期末に 4 技能オンラインテストを行う。 ・必ず辞書を持参すること
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 『暗唱英文 100』51-55 を暗唱する	Orientation and Self-Introduction some と any	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises 『暗唱英文 100』56-60 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 時間の前置詞 for	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文 100』61-65 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 時間の前置詞 during	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文 100』51-65 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（1）	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文 100』66-70 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 手段の前置詞 by	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文 100』71-75 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 形容詞の比較級	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文 100』76-80 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 現在完了	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文 100』66-80 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（2）	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文 100』81-85 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 助動詞 + 受動態	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文 100』86-90 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group wor 現在分詞	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文 100』91-95 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 関係代名詞	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文 100』96-100 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 仮定法	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文 100』51-75 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（3）	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文 100』76-100 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法の総まとめ	Students should study the content of the day's lesson
15	まとめ	4 技能オンラインテスト実施	総復習

関連科目：ボキャブラリー&グラマー b、スピーキング＆ライティング Ib

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷　恒志	成美堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80% 100SS 暗唱テスト　20% ※100SS 暗唱テストが合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	1 年次のうちに基礎力を少しでも高めておきましょう。
担当者の研究室等	７号館３階　鳥居研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スキルズ　トレーニングｂ	科目名（英文）	Skills Training b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉村　征洋
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	英語学習の基盤となるスキルを習得する。
到達目標	発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICT を用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文暗唱を行い、口頭テストを実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 『暗唱英文 100』51-55 を暗唱する	Orientation and Self-Introduction some と any	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises 『暗唱英文 100』56-60 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 時間の前置詞 for	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文 100』61-65 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 時間の前置詞 during	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文 100』51-65 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（1）	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文 100』66-70 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 手段の前置詞 by	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文 100』71-75 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 形容詞の比較級	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文 100』76-80 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 現在完了	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文 100』66-80 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（2）	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文 100』81-85 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 助動詞 + 受動態	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文 100』86-90 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group wor 現在分詞 k	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文 100』91-95 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 関係代名詞	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文 100』96-100 を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 仮定法	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文 100』51-75 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（3）	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文 100』76-100 を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法の総まとめ	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises まとめ、および共通テスト―「口頭」を実施する	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目：ボキャブラリー&グラマー b、スピーキング＆ライティング Ib

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	授業中の小テスト、宿題、提出物等　７５％ 口頭テスト　２５％
学生へのメッセージ	語学力を向上させるには、毎日の学習が不可欠です。コツコツと忍耐強く学習しましょう。
担当者の研究室等	７号館３階　吉村　征洋研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スピーキングⅠa	科目名（英文）	Speaking Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ニール　カー
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEIC S&W, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 『暗唱英文 100』1-5 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	基本文型	Students should study the content of the day's lesson
2	『暗唱英文 100』6-10 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	否定文	Students should study the content of the day's lesson
3	『暗唱英文 100』11-15 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Yes/No の疑問文	Students should study the content of the day's lesson
4	『暗唱英文 100』1-15 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
5	『暗唱英文 100』16-20 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Wh 疑問文	Students should study the content of the day's lesson
6	『暗唱英文 100』21-25 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	How 疑問文	Students should study the content of the day's lesson
7	『暗唱英文 100』26-30 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	It の用法	Students should study the content of the day's lesson
8	『暗唱英文 100』16-30 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
9	『暗唱英文 100』31-35 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Let's の文	Students should study the content of the day's lesson
10	『暗唱英文 100』36-40 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	進行形	Students should study the content of the day's lesson
11	『暗唱英文 100』41-45 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	予定・未来	Students should study the content of the day's lesson
12	『暗唱英文 100』46-50 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	義務	Students should study the content of the day's lesson
13	『暗唱英文 100』31-50 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
14	『暗唱英文 100』1-50 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
15	まとめ	総合演習	Students should study the content of the day's lesson

関連科目：スキルズトレーニング a、ボキャブラリー＆グラマー a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文１００	摂南大学外国語学部	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　90% 「100SS 発音テスト」　10%
学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スピーキングＩｂ	科目名（英文）	Speaking Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ｸﾞﾗﾝﾄ ﾊﾞｰﾐﾝﾊﾑ
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信、情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEIC S&W, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 『暗唱英文 100』51-55 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Orientation and Self-Introduction 数量を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
2	『暗唱英文 100』56-60 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	時間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
3	『暗唱英文 100』61-65 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	空間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
4	『暗唱英文 100』51-65 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
5	『暗唱英文 100』66-70 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	手段を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
6	『暗唱英文 100』71-75 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	完了を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
7	『暗唱英文 100』76-80 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	受動を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
8	『暗唱英文 100』66-80 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
9	『暗唱英文 100』81-85 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	過去の経験を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
10	『暗唱英文 100』86-90 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	知覚の表現	Students should study the content of the day's lesson
11	『暗唱英文 100』91-95 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	関係詞の表現	Students should study the content of the day's lesson
12	『暗唱英文 100』96-100 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	仮定の表現	Students should study the content of the day's lesson
13	『暗唱英文 100』81-100 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
14	『暗唱英文 100』51-100 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
15	まとめ	総合演習	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング b、ボキャブラリー&グラマー b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文１００	摂南大学外国語学部	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	Writing (Form, clarity, choice of vocabulary and grammar, content.) 30%. Spoken English in class (quality quantity and how appropriate it is to the class tasks.) 40%. Being on time and prepared for class,15%. Follow instruction and contribution to pair or groups work,15%.
学生へのメッセージ	A notebook and writing materials are needed for this course. See me before class if you have any questions or need any help.
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

専門科目

科目名	スピーキングⅡa	科目名（英文）	Speaking IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ﾌﾞﾗｲｱﾝ ｽﾚｰﾀｰ
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	This is an intermediate level English communication class with the goal of developing speaking and conversation skills skills to enable them to use English with greater confidence and fluency.
到達目標	The objective of the course is to provide students with the practical skills needed to communicate effectively in a wide range of situations. After taking this course, students should be able to feel confident in discussing issues, debating both sides, discussing related issues in other countries, and be confident to speak up and give their own opinion with the necessary vocabulary to do so.
授業方法と留意点	As this is a communication class, students are expected to actively participate in communication activities such as pair work, small group work, as well as to try to use English as much as possible.
科目学習の効果（資格）	The content of this course is concerned with the language to express a variety of situations in daily life, such as: student life, hometowns, shopping, leisure time, travel, etc. Upon the completion of the course, students should have the basic knowledge or ability to talk about the above topics in basic daily conversation.

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction　オリエンテーション	Introductions, explaining the class, overview.	Have your text book and bring it to class.
2	Unit 1　Lifestyles.	Asking people about yourselves. Telling about yourself. Your likes and dislikes. Individual Task, Pair work, and group work 予定を表す時のパタン	Review vocabulary on p3 Preview and Learn vocabulary on p13
3	Unit 2 Friendship	Exchanging personal information. Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Unit 3　"Special" Friends	Describing your student life. Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Describing photographs.	Individual Task, Pair work, and group work	Find 3 photographs. Make 5 good questions for each and take them to class 6
6	Asking and answering questions about photographs	Individual Task, Pair work, and group work	Bring your photos and questions to class. (don't forget them)
7	Unit 4 Shopping and money.	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Narration	Individual Task, Pair work, and group work	Find a simple picture book story. Bring its to the next class. (don't forget it)
9	Narration	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Role Play	Individual Task, Pair work, and group work	Learn your lines for a simple act of a play.
11	Conduct a role play	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Solving a mystery through communication.	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Review	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Unit 5. Summer Plans	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Reinforcement	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目：なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Smart Choice 1 (2nd Edition)	Ken Wilson	Oxfprd
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	Quantity and quality of speaking, conversation activities done in class each week. Following instruction, preparation for class and listening to others. Common class tasks - 15% Teacher tasks - 85%
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・・教科書、出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	スピーキングⅡb	科目名（英文）	Speaking IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ﾌﾞﾗｲｱﾝ ｽﾚｰﾀｰ
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	This is an intermediate level English communication class with the goal of developing students listening, reading and speaking skills to enable them to use English with greater confidence and fluency.
到達目標	The objective of the course is to provide students with the practical skills needed to communicate effectively in a wide range of situations. After taking this course, students should be able to feel confident in discussing issues, debating both sides, discussing related issues in other countries, and be confident to speak up and give their own opinion with the necessary vocabulary to do so.
授業方法と留意点	As this is a communication class, students are expected to actively participate in communication activities such as pair work, small group work, as well as to try to use English as much as possible.
科目学習の効果（資格）	The content of this course is concerned with the language to express a variety of situations in daily life, such as: student life, hometowns, shopping, leisure time, travel, etc. Upon the completion of the course, students should have the basic knowledge or ability to talk about the above topics in basic daily conversation.

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 7　Giving Opinions	Describing daily routines.	Students should study the content of the day's lesson
2	Unit 7　Giving Reasons and support for Opinions.	Talking about what you do. Asking what others do.	Students should study the content of the day's lesson.
3	Unit 8　Music	Words and expressions for describing people.	Students should study the content of the day's lesson.
4	Unit 8　Recording Artists.	Asking others about people in their lives.	Students should study the content of the day's lesson.
5	Unit 9　Character	Talking about what you will do in the future.	Students should study the content of the day's lesson
6	Unit 9　Personality Traites.	How you spend your free time.	Students should study the content of the day's lesson.
7	Unit 10　Vacations.	Words to describe travel.	Students should study the content of the day's lesson.
8	Unit 10　Vacations continued.	Where you like to go on vacation and what you like to do.	Students should study the content of the day's lesson.
9	Unit 11　Prices and Numbers	Describing events in your life.	Students should study the content of the day's lesson.
10	Unit 11 Incomes and Budgets	Asking about people's lives.	Students should study the content of the day's lesson.
11	Unit 12　Personal Responsibilities.	What you would like to do in the future.	Students should study the content of the day's lesson.
12	Unit 12　Personal Experiences.	Asking others about their dreams.	Students should study the content of the day's lesson.
13	Sequencing a story.	Review of units 10 - 12.	Students should study the content of the day's lesson.
14	Story Telling	To be announced.	Students should study the content of the day's lesson.
15	Facing The Future.	Test of units 9 - 12.	Students should study the content of the day's lesson.

関連科目：なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『Smart Choice 1 (2nd Edition)』	Ken Wilson	Oxfprd
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

Quantity and quality of speaking, conversation activities done in class each week. Following instruction, preparation for class and listening to others.

Common class tasks - 15%
Teacher tasks - 85%

学生へのメッセージ：毎回の授業に必ず必要な物・・教科書、出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する

担当者の研究室等：７号館２階 非常勤講師室

備考：毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングⅠa	科目名（英文）	Speaking and Writing Ⅰ a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マイケル　ハーキー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEIC S&W, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 『暗唱英文 100』1-5 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	基本文型	Students should study the content of the day's lesson
2	『暗唱英文 100』6-10 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	否定文	Students should study the content of the day's lesson
3	『暗唱英文 100』11-15 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Yes/No の疑問文	Students should study the content of the day's lesson
4	『暗唱英文 100』1-15 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
5	『暗唱英文 100』16-20 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Wh 疑問文	Students should study the content of the day's lesson
6	『暗唱英文 100』21-25 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	How 疑問文	Students should study the content of the day's lesson
7	『暗唱英文 100』26-30 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	It の用法	Students should study the content of the day's lesson
8	『暗唱英文 100』16-30 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
9	『暗唱英文 100』31-35 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Let's の文	Students should study the content of the day's lesson
10	『暗唱英文 100』36-40 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	進行形	Students should study the content of the day's lesson
11	『暗唱英文 100』41-45 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	予定・未来	Students should study the content of the day's lesson
12	『暗唱英文 100』46-50 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	義務	Students should study the content of the day's lesson
13	『暗唱英文 100』31-50 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
14	『暗唱英文 100』1-50 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
15	まとめ	総合演習	Students should study the content of the day's lesson

関連科目：スキルズトレーニング a、ボキャブラリー＆グラマー a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文１００	摂南大学外国語学部	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　90% 「100SS 発音テスト」　10% ※学期末までに規定数以上の英文についての「100SS 発音テスト」に合格していない学生には、原則として単位が認定されない。
学生へのメッセージ	Students will need a notebook, dictionary and word cards.
担当者の研究室等	７号館３階　ハーキー研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングⅠa	科目名（英文）	Speaking and Writing Ⅰ a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ﾘﾁｬｰﾄﾞ ﾀﾞｨｱｰｽ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEIC S&W, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 『暗唱英文 100』1-5 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	基本文型	Students should study the content of the day's lesson
2	『暗唱英文 100』6-10 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	否定文	Students should study the content of the day's lesson
3	『暗唱英文 100』11-15 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Yes/No の疑問文	Students should study the content of the day's lesson
4	『暗唱英文 100』1-15 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
5	『暗唱英文 100』16-20 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Wh 疑問文	Students should study the content of the day's lesson
6	『暗唱英文 100』21-25 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	How 疑問文	Students should study the content of the day's lesson
7	『暗唱英文 100』26-30 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	It の用法	Students should study the content of the day's lesson
8	『暗唱英文 100』16-30 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
9	『暗唱英文 100』31-35 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Let's の文	Students should study the content of the day's lesson
10	『暗唱英文 100』36-40 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	進行形	Students should study the content of the day's lesson
11	『暗唱英文 100』41-45 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	予定・未来	Students should study the content of the day's lesson
12	『暗唱英文 100』46-50 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	義務	Students should study the content of the day's lesson
13	『暗唱英文 100』31-50 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
14	『暗唱英文 100』1-50 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
15	まとめ	総合演習	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、ボキャブラリー＆グラマー a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文１００	摂南大学外国語学部	
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　90% 「100SS 発音テスト」　10% ※学期末までに規定数以上の英文についての「100SS 発音テスト」に合格していない学生には、原則として単位が認定されない。
学生へのメッセージ	In this class, we will be doing a lot of speaking and writing. To do well, you need to actively participate in class. Don't be afraid to make mistakes.
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングⅠa	科目名（英文）	Speaking and Writing Ⅰ a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル　マリンズ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEIC S&W, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 『暗唱英文 100』1-5 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	基本文型	Students should study the content of the day's lesson
2	『暗唱英文 100』6-10 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	否定文	Students should study the content of the day's lesson
3	『暗唱英文 100』11-15 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Yes/No の疑問文	Students should study the content of the day's lesson
4	『暗唱英文 100』1-15 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
5	『暗唱英文 100』16-20 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Wh 疑問文	Students should study the content of the day's lesson
6	『暗唱英文 100』21-25 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	How 疑問文	Students should study the content of the day's lesson
7	『暗唱英文 100』26-30 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	It の用法	Students should study the content of the day's lesson
8	『暗唱英文 100』16-30 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
9	『暗唱英文 100』31-35 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Let's の文	Students should study the content of the day's lesson
10	『暗唱英文 100』36-40 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	進行形	Students should study the content of the day's lesson
11	『暗唱英文 100』41-45 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	予定・未来	Students should study the content of the day's lesson
12	『暗唱英文 100』46-50 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	義務	Students should study the content of the day's lesson
13	『暗唱英文 100』31-50 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
14	『暗唱英文 100』1-50 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
15	まとめ	総合演習	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、ボキャブラリー＆グラマー a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文１００	摂南大学外国語学部	
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　90% 「100SS 発音テスト」　10% ※学期末までに規定数以上の英文についての「100SS 発音テスト」に合格していない学生には、原則として単位が認定されない。
学生へのメッセージ	Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. Do not be absent for more than four lessons or you will risk failing the course. If you are more than 30 minutes late for a class, it will be counted as an absence.
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングⅠa	科目名（英文）	Speaking and Writing Ⅰ a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	ニ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マーティン　オイクル
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEIC S&W, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 『暗唱英文 100』1-5 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	基本文型	Students should study the content of the day's lesson
2	『暗唱英文 100』6-10 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	否定文	Students should study the content of the day's lesson
3	『暗唱英文 100』11-15 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Yes/No の疑問文	Students should study the content of the day's lesson
4	『暗唱英文 100』1-15 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
5	『暗唱英文 100』16-20 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Wh 疑問文	Students should study the content of the day's lesson
6	『暗唱英文 100』21-25 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	How 疑問文	Students should study the content of the day's lesson
7	『暗唱英文 100』26-30 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	It の用法	Students should study the content of the day's lesson
8	『暗唱英文 100』16-30 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
9	『暗唱英文 100』31-35 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Let's の文	Students should study the content of the day's lesson
10	『暗唱英文 100』36-40 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	進行形	Students should study the content of the day's lesson
11	『暗唱英文 100』41-45 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	予定・未来	Students should study the content of the day's lesson
12	『暗唱英文 100』46-50 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	義務	Students should study the content of the day's lesson
13	『暗唱英文 100』31-50 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
14	『暗唱英文 100』1-50 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
15	まとめ	総合演習	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、ボキャブラリー＆グラマー a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文１００	摂南大学外国語学部	

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　90% 「100SS 発音テスト」　10% ※学期末までに規定数以上の英文についての「100SS 発音テスト」に合格していない学生には、原則として単位が認定されない。
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物：教科書、辞書（本でも電子辞書でも構わない） 出席率、そして積極的な授業参加、発言、態度等を重要視します。 授業中に教材用のプリントを配布します。 「授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　90%」の内訳は中間テスト: 30%, 期末テスト: 30%, 出席授業参加態度: 30%
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングⅠa	科目名（英文）	Speaking and Writing Ⅰ a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ｸﾞﾗﾝﾄ ﾊﾞｰﾐﾝﾊﾑ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEIC S&W, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 『暗唱英文 100』1-5 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	基本文型	Students should study the content of the day's lesson
2	『暗唱英文 100』6-10 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	否定文	Students should study the content of the day's lesson
3	『暗唱英文 100』11-15 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Yes/No の疑問文	Students should study the content of the day's lesson
4	『暗唱英文 100』1-15 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
5	『暗唱英文 100』16-20 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Wh 疑問文	Students should study the content of the day's lesson
6	『暗唱英文 100』21-25 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	How 疑問文	Students should study the content of the day's lesson
7	『暗唱英文 100』26-30 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	It の用法	Students should study the content of the day's lesson
8	『暗唱英文 100』16-30 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
9	『暗唱英文 100』31-35 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Let's の文	Students should study the content of the day's lesson
10	『暗唱英文 100』36-40 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	進行形	Students should study the content of the day's lesson
11	『暗唱英文 100』41-45 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	予定・未来	Students should study the content of the day's lesson
12	『暗唱英文 100』46-50 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	義務	Students should study the content of the day's lesson
13	『暗唱英文 100』31-50 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
14	『暗唱英文 100』1-50 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
15	まとめ	総合演習	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、ボキャブラリー＆グラマー a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文１００	摂南大学外国語学部	

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　90% 「100SS 発音テスト」　10% ※学期末までに規定数以上の英文についての「100SS 発音テスト」に合格していない学生には、原則として単位が認定されない。
学生へのメッセージ	Writing (Form, clarity, choice of vocabulary and grammar, content.) 30%. Spoken English in class (quality quantity and how appropriate it is to the class tasks.) 40%. Being on time and prepared for class,15%. Follow instruction and contribution to pair or groups work,15%. Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングⅠa	科目名（英文）	Speaking and Writing Ⅰ a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マシュー　クーパー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEIC S&W, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 『暗唱英文 100』1-5 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	基本文型	Students should study the content of the day's lesson
2	『暗唱英文 100』6-10 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	否定文	Students should study the content of the day's lesson
3	『暗唱英文 100』11-15 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Yes/No の疑問文	Students should study the content of the day's lesson
4	『暗唱英文 100』1-15 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
5	『暗唱英文 100』16-20 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Wh 疑問文	Students should study the content of the day's lesson
6	『暗唱英文 100』21-25 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	How 疑問文	Students should study the content of the day's lesson
7	『暗唱英文 100』26-30 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	It の用法	Students should study the content of the day's lesson
8	『暗唱英文 100』16-30 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
9	『暗唱英文 100』31-35 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Let's の文	Students should study the content of the day's lesson
10	『暗唱英文 100』36-40 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	進行形	Students should study the content of the day's lesson
11	『暗唱英文 100』41-45 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	予定・未来	Students should study the content of the day's lesson
12	『暗唱英文 100』46-50 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	義務	Students should study the content of the day's lesson
13	『暗唱英文 100』31-50 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
14	『暗唱英文 100』1-50 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
15	まとめ	総合演習	Students should study the content of the day's lesson

関連科目：スキルズトレーニング a、ボキャブラリー＆グラマー a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文１００	摂南大学外国語学部	
2	English File third edition Elementary MultiPACK A	Clive Oxenden	OUP 978-0-19-451790-4

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　90% 「100SS 発音テスト」　10% ※学期末までに規定数以上の英文についての「100SS 発音テスト」に合格していない学生には、原則として単位が認定されない。
学生へのメッセージ	Please complete the online homework units as we complete the corresponding units in class. Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. Do not be absent for more than four lessons or you will risk failing the course.
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

専門科目

科目名	スピーキング＆ライティングⅠa	科目名（英文）	Speaking and Writing Ⅰ a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	ト
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	フーパー　トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEIC S&W, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 『暗唱英文 100』1-5 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	基本文型	Students should study the content of the day's lesson
2	『暗唱英文 100』6-10 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	否定文	Students should study the content of the day's lesson
3	『暗唱英文 100』11-15 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Yes/No の疑問文	Students should study the content of the day's lesson
4	『暗唱英文 100』1-15 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
5	『暗唱英文 100』16-20 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Wh 疑問文	Students should study the content of the day's lesson
6	『暗唱英文 100』21-25 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	How 疑問文	Students should study the content of the day's lesson
7	『暗唱英文 100』26-30 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	It の用法	Students should study the content of the day's lesson
8	『暗唱英文 100』16-30 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
9	『暗唱英文 100』31-35 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Let's の文	Students should study the content of the day's lesson
10	『暗唱英文 100』36-40 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	進行形	Students should study the content of the day's lesson
11	『暗唱英文 100』41-45 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	予定・未来	Students should study the content of the day's lesson
12	『暗唱英文 100』46-50 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	義務	Students should study the content of the day's lesson
13	『暗唱英文 100』31-50 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
14	『暗唱英文 100』1-50 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
15	まとめ	総合演習	Students should study the content of the day's lesson

関連科目：スキルズトレーニング a、ボキャブラリー＆グラマー a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文１００	摂南大学外国語学部	
2	Active Skills for Communication: Intro	Chuck Sandy, Curtis Kelly	Cengage

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　90% 「100SS 発音テスト」　10% ※学期末までに規定数以上の英文についての「100SS 発音テスト」に合格していない学生には、原則として単位が認定されない。
学生へのメッセージ	Don't be shy. I'm looking forward to hearing and reading your ideas in class. You will improve your speaking ability and your writing stamina in this class.
担当者の研究室等	７号館３階　フーパー研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングⅠa	科目名（英文）	Speaking and Writing Ⅰ a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	チ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ｼﾞｪｰﾝ ﾊﾟｰﾒﾝﾀｰ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEIC S&W, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 『暗唱英文 100』1-5 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	基本文型	Students should study the content of the day's lesson
2	『暗唱英文 100』6-10 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	否定文	Students should study the content of the day's lesson
3	『暗唱英文 100』11-15 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Yes/No の疑問文	Students should study the content of the day's lesson
4	『暗唱英文 100』1-15 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
5	『暗唱英文 100』16-20 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Wh 疑問文	Students should study the content of the day's lesson
6	『暗唱英文 100』21-25 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	How 疑問文	Students should study the content of the day's lesson
7	『暗唱英文 100』26-30 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	It の用法	Students should study the content of the day's lesson
8	『暗唱英文 100』16-30 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
9	『暗唱英文 100』31-35 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Let's の文	Students should study the content of the day's lesson
10	『暗唱英文 100』36-40 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	進行形	Students should study the content of the day's lesson
11	『暗唱英文 100』41-45 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	予定・未来	Students should study the content of the day's lesson
12	『暗唱英文 100』46-50 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	義務	Students should study the content of the day's lesson
13	『暗唱英文 100』31-50 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
14	『暗唱英文 100』1-50 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
15	まとめ	総合演習	Students should study the content of the day's lesson

関連科目：スキルズトレーニング a、ボキャブラリー＆グラマー a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文１００	摂南大学外国語学部	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　90% 「100SS 発音テスト」　10% ※学期末までに規定数以上の英文についての「100SS 発音テスト」に合格していない学生には、原則として単位が認定されない。
学生へのメッセージ	Welcome to Speaking and Writing 1a. We will focus on building speaking and writing skills plus confidence! I will prepare the materials for the class. Please don't be afraid to speak and most importantly relax and have fun!
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングⅠa	科目名（英文）	Speaking and Writing Ⅰ a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	リ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	スコット　ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEIC S&W, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 『暗唱英文 100』1-5 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	基本文型	Students should study the content of the day's lesson
2	『暗唱英文 100』6-10 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	否定文	Students should study the content of the day's lesson
3	『暗唱英文 100』11-15 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Yes/No の疑問文	Students should study the content of the day's lesson
4	『暗唱英文 100』1-15 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
5	『暗唱英文 100』16-20 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Wh 疑問文	Students should study the content of the day's lesson
6	『暗唱英文 100』21-25 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	How 疑問文	Students should study the content of the day's lesson
7	『暗唱英文 100』26-30 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	It の用法	Students should study the content of the day's lesson
8	『暗唱英文 100』16-30 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
9	『暗唱英文 100』31-35 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Let's の文	Students should study the content of the day's lesson
10	『暗唱英文 100』36-40 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	進行形	Students should study the content of the day's lesson
11	『暗唱英文 100』41-45 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	予定・未来	Students should study the content of the day's lesson
12	『暗唱英文 100』46-50 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	義務	Students should study the content of the day's lesson
13	『暗唱英文 100』31-50 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
14	『暗唱英文 100』1-50 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
15	まとめ	総合演習	Students should study the content of the day's lesson

関連科目：スキルズトレーニング a、ボキャブラリー＆グラマー a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文１００	摂南大学外国語学部	
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　90% 「100SS 発音テスト」　10% ※学期末までに規定数以上の英文についての「100SS 発音テスト」に合格していない学生には、原則として単位が認定されない。
学生へのメッセージ	I look forward to our classes. Please relax and have a positive attitude! There will be weekly assessment so it's important to do your homework and participate in the class activities. This lesson will be taught in English.
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングⅠa	科目名（英文）	Speaking and Writing Ⅰ a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ニール　カー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEIC S&W, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 『暗唱英文 100』1-5 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	基本文型	Students should study the content of the day's lesson
2	『暗唱英文 100』6-10 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	否定文	Students should study the content of the day's lesson
3	『暗唱英文 100』11-15 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Yes/No の疑問文	Students should study the content of the day's lesson
4	『暗唱英文 100』1-15 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
5	『暗唱英文 100』16-20 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Wh 疑問文	Students should study the content of the day's lesson
6	『暗唱英文 100』21-25 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	How 疑問文	Students should study the content of the day's lesson
7	『暗唱英文 100』26-30 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	It の用法	Students should study the content of the day's lesson
8	『暗唱英文 100』16-30 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
9	『暗唱英文 100』31-35 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Let's の文	Students should study the content of the day's lesson
10	『暗唱英文 100』36-40 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	進行形	Students should study the content of the day's lesson
11	『暗唱英文 100』41-45 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	予定・未来	Students should study the content of the day's lesson
12	『暗唱英文 100』46-50 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	義務	Students should study the content of the day's lesson
13	『暗唱英文 100』31-50 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
14	『暗唱英文 100』1-50 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
15	まとめ	総合演習	Students should study the content of the day's lesson

関連科目：スキルズトレーニング a、ボキャブラリー＆グラマー a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文１００	摂南大学外国語学部	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　90% 「100SS 発音テスト」　10%
学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングＩｂ	科目名（英文）	Speaking and Writing Ｉｂ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	Ａ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	フーパー　トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信、情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEIC S&W, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 『暗唱英文 100』51-55 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Orientation and Self-Introduction 数量を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
2	『暗唱英文 100』56-60 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	時間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
3	『暗唱英文 100』61-65 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	空間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
4	『暗唱英文 100』51-65 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
5	『暗唱英文 100』66-70 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	手段を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
6	『暗唱英文 100』71-75 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	完了を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
7	『暗唱英文 100』76-80 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	受動を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
8	『暗唱英文 100』66-80 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
9	『暗唱英文 100』81-85 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	過去の経験を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
10	『暗唱英文 100』86-90 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	知覚の表現	Students should study the content of the day's lesson
11	『暗唱英文 100』91-95 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	関係詞の表現	Students should study the content of the day's lesson
12	『暗唱英文 100』96-100 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	仮定の表現	Students should study the content of the day's lesson
13	『暗唱英文 100』81-100 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
14	『暗唱英文 100』51-100 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
15	まとめ	総合演習	Students should study the content of the day's lesson

関連科目：スキルズトレーニング b、ボキャブラリー&グラマー b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文１００	摂南大学外国語学部	
2	Active Skills for Communication: Book 1	Chuck Sandy, Curtis Kelly	Cengage

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　90% 「100SS 発音テスト」　10% ※学期末までに規定数以上の英文についての「100SS 発音テスト」に合格していない学生には、原則として単位が認定されない。
学生へのメッセージ	Don't be shy!　I'm looking forward to hearing and reading your ideas in class. You will improve your speaking and writing stamina in this class.
担当者の研究室等	７号館３階　フーパー研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングＩｂ	科目名（英文）	Speaking and Writing Ｉｂ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マシュー　クーパー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信、情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEIC S&W, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 『暗唱英文 100』51-55 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Orientation and Self-Introduction 数量を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
2	『暗唱英文 100』56-60 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	時間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
3	『暗唱英文 100』61-65 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	空間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
4	『暗唱英文 100』51-65 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
5	『暗唱英文 100』66-70 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	手段を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
6	『暗唱英文 100』71-75 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	完了を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
7	『暗唱英文 100』76-80 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	受動を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
8	『暗唱英文 100』66-80 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
9	『暗唱英文 100』81-85 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	過去の経験を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
10	『暗唱英文 100』86-90 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	知覚の表現	Students should study the content of the day's lesson
11	『暗唱英文 100』91-95 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	関係詞の表現	Students should study the content of the day's lesson
12	『暗唱英文 100』96-100 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	仮定の表現	Students should study the content of the day's lesson
13	『暗唱英文 100』81-100 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
14	『暗唱英文 100』51-100 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
15	まとめ	総合演習	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング b、ボキャブラリー&グラマー b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文１００	摂南大学外国語学部	
2	English File third edition Elementary MultiPACK B	Clive Oxenden	OUP 978-0-19-451792-8

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　90% 「100SS 発音テスト」　10% ※学期末までに規定数以上の英文についての「100SS 発音テスト」に合格していない学生には、原則として単位が認定されない。
学生へのメッセージ	Please complete the online homework units as we complete the corresponding units in class. Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. Do not be absent for more than four lessons or you will risk failing the course.
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングＩｂ	科目名（英文）	Speaking and Writing Ｉｂ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ｼﾞｪｰﾝ ﾊﾟｰﾒﾝﾀｰ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信、情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEIC S&W, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 『暗唱英文 100』51-55 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Orientation and Self-Introduction 数量を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
2	『暗唱英文 100』56-60 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	時間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
3	『暗唱英文 100』61-65 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	空間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
4	『暗唱英文 100』51-65 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
5	『暗唱英文 100』66-70 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	手段を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
6	『暗唱英文 100』71-75 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	完了を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
7	『暗唱英文 100』76-80 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	受動を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
8	『暗唱英文 100』66-80 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
9	『暗唱英文 100』81-85 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	過去の経験を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
10	『暗唱英文 100』86-90 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	知覚の表現	Students should study the content of the day's lesson
11	『暗唱英文 100』91-95 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	関係詞の表現	Students should study the content of the day's lesson
12	『暗唱英文 100』96-100 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	仮定の表現	Students should study the content of the day's lesson
13	『暗唱英文 100』81-100 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
14	『暗唱英文 100』51-100 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
15	まとめ	総合演習	Students should study the content of the day's lesson

関連科目：スキルズトレーニング b、ボキャブラリー&グラマー b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文１００	摂南大学外国語学部	
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　90% 「100SS 発音テスト」　10% ※学期末までに規定数以上の英文についての「100SS 発音テスト」に合格していない学生には、原則として単位が認定されない。
学生へのメッセージ	Welcome to Speaking and Writing 1b. We will focus on building speaking and writing skills plus confidence! I will prepare the materials for the class. Please don't be afraid to speak and most importantly relax and have fun!
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングＩｂ	科目名（英文）	Speaking and Writing Ｉｂ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マイケル　ハーキー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信、情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEIC S&W, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 『暗唱英文 100』51-55 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Orientation and Self-Introduction 数量を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
2	『暗唱英文 100』56-60 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	時間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
3	『暗唱英文 100』61-65 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	空間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
4	『暗唱英文 100』51-65 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
5	『暗唱英文 100』66-70 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	手段を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
6	『暗唱英文 100』71-75 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	完了を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
7	『暗唱英文 100』76-80 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	受動を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
8	『暗唱英文 100』66-80 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
9	『暗唱英文 100』81-85 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	過去の経験を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
10	『暗唱英文 100』86-90 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	知覚の表現	Students should study the content of the day's lesson
11	『暗唱英文 100』91-95 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	関係詞の表現	Students should study the content of the day's lesson
12	『暗唱英文 100』96-100 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	仮定の表現	Students should study the content of the day's lesson
13	『暗唱英文 100』81-100 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
14	『暗唱英文 100』51-100 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
15	まとめ	総合演習	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング b、ボキャブラリー&グラマー b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文１００	摂南大学外国語学部	

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　90% 「100SS 発音テスト」　10% ※学期末までに規定数以上の英文についての「100SS 発音テスト」に合格していない学生には、原則として単位が認定されない。
学生へのメッセージ	The roots of education are bitter, but the fruit is sweet. 辞書を持参すること。
担当者の研究室等	７号館３階　ハーキー研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

専門科目

科目名	スピーキング＆ライティングＩｂ	科目名（英文）	Speaking and Writing Ｉｂ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ニール　カー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信、情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEIC S&W, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 『暗唱英文 100』51-55 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Orientation and Self-Introduction 数量を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
2	『暗唱英文 100』56-60 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	時間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
3	『暗唱英文 100』61-65 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	空間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
4	『暗唱英文 100』51-65 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
5	『暗唱英文 100』66-70 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	手段を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
6	『暗唱英文 100』71-75 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	完了を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
7	『暗唱英文 100』76-80 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	受動を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
8	『暗唱英文 100』66-80 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
9	『暗唱英文 100』81-85 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	過去の経験を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
10	『暗唱英文 100』86-90 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	知覚の表現	Students should study the content of the day's lesson
11	『暗唱英文 100』91-95 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	関係詞の表現	Students should study the content of the day's lesson
12	『暗唱英文 100』96-100 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	仮定の表現	Students should study the content of the day's lesson
13	『暗唱英文 100』81-100 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
14	『暗唱英文 100』51-100 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
15	まとめ	総合演習	Students should study the content of the day's lesson

関連科目：スキルズトレーニング b、ボキャブラリー&グラマー b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文１００	摂南大学外国語学部	
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　90% 「100SS 発音テスト」　10% ※学期末までに規定数以上の英文についての「100SS 発音テスト」に合格していない学生には、原則として単位が認定されない。
学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングＩｂ	科目名（英文）	Speaking and Writing Ｉｂ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	い
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル　マリンズ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信、情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEIC S&W, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 『暗唱英文 100』51-55 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Orientation and Self-Introduction 数量を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
2	『暗唱英文 100』56-60 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	時間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
3	『暗唱英文 100』61-65 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	空間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
4	『暗唱英文 100』51-65 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
5	『暗唱英文 100』66-70 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	手段を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
6	『暗唱英文 100』71-75 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	完了を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
7	『暗唱英文 100』76-80 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	受動を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
8	『暗唱英文 100』66-80 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
9	『暗唱英文 100』81-85 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	過去の経験を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
10	『暗唱英文 100』86-90 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	知覚の表現	Students should study the content of the day's lesson
11	『暗唱英文 100』91-95 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	関係詞の表現	Students should study the content of the day's lesson
12	『暗唱英文 100』96-100 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	仮定の表現	Students should study the content of the day's lesson
13	『暗唱英文 100』81-100 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
14	『暗唱英文 100』51-100 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
15	まとめ	総合演習	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング b、ボキャブラリー&グラマー b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文１００	摂南大学外国語学部	

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　90% 「100SS 発音テスト」　10% ※学期末までに規定数以上の英文についての「100SS 発音テスト」に合格していない学生には、原則として単位が認定されない。
学生へのメッセージ	Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. Do not be absent for more than four lessons or you will risk failing the course. If you are more than 30 minutes late for a class, it will be counted as an absence.
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングＩｂ	科目名（英文）	Speaking and Writing Ｉｂ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	う
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	スコット　ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信、情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEIC S&W, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 『暗唱英文 100』51-55 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Orientation and Self-Introduction 数量を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
2	『暗唱英文 100』56-60 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	時間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
3	『暗唱英文 100』61-65 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	空間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
4	『暗唱英文 100』51-65 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
5	『暗唱英文 100』66-70 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	手段を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
6	『暗唱英文 100』71-75 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	完了を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
7	『暗唱英文 100』76-80 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	受動を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
8	『暗唱英文 100』66-80 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
9	『暗唱英文 100』81-85 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	過去の経験を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
10	『暗唱英文 100』86-90 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	知覚の表現	Students should study the content of the day's lesson
11	『暗唱英文 100』91-95 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	関係詞の表現	Students should study the content of the day's lesson
12	『暗唱英文 100』96-100 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	仮定の表現	Students should study the content of the day's lesson
13	『暗唱英文 100』81-100 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
14	『暗唱英文 100』51-100 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
15	まとめ	総合演習	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング b、ボキャブラリー&グラマー b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文１００	摂南大学外国語学部	
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　90% 「100SS 発音テスト」　10% ※学期末までに規定数以上の英文についての「100SS 発音テスト」に合格していない学生には、原則として単位が認定されない。
学生へのメッセージ	I look forward to our classes. Please relax and have a positive attitude! There will be weekly assessment so it's important to do your homework and participate in the class activities. This lesson will be taught in English.
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングＩｂ	科目名（英文）	Speaking and Writing Ｉｂ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	え
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー　ベル
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信、情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEIC S&W, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 『暗唱英文 100』51-55 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Orientation and Self-Introduction 数量を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
2	『暗唱英文 100』56-60 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	時間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
3	『暗唱英文 100』61-65 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	空間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
4	『暗唱英文 100』51-65 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
5	『暗唱英文 100』66-70 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	手段を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
6	『暗唱英文 100』71-75 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	完了を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
7	『暗唱英文 100』76-80 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	受動を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
8	『暗唱英文 100』66-80 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
9	『暗唱英文 100』81-85 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	過去の経験を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
10	『暗唱英文 100』86-90 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	知覚の表現	Students should study the content of the day's lesson
11	『暗唱英文 100』91-95 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	関係詞の表現	Students should study the content of the day's lesson
12	『暗唱英文 100』96-100 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	仮定の表現	Students should study the content of the day's lesson
13	『暗唱英文 100』81-100 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
14	『暗唱英文 100』51-100 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
15	まとめ	総合演習	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング b、ボキャブラリー&グラマー b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文１００	摂南大学外国語学部	

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　90% 「100SS 発音テスト」　10% ※学期末までに規定数以上の英文についての「100SS 発音テスト」に合格していない学生には、原則として単位が認定されない。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

専門科目

科目名	スピーキング＆ライティングＩｂ	科目名（英文）	Speaking and Writing Ｉｂ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	お
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	アレン　ニール
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信、情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEIC S&W, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 『暗唱英文 100』51-55 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Orientation and Self-Introduction 数量を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
2	『暗唱英文 100』56-60 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	時間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
3	『暗唱英文 100』61-65 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	空間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
4	『暗唱英文 100』51-65 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
5	『暗唱英文 100』66-70 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	手段を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
6	『暗唱英文 100』71-75 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	完了を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
7	『暗唱英文 100』76-80 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	受動を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
8	『暗唱英文 100』66-80 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
9	『暗唱英文 100』81-85 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	過去の経験を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
10	『暗唱英文 100』86-90 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	知覚の表現	Students should study the content of the day's lesson
11	『暗唱英文 100』91-95 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	関係詞の表現	Students should study the content of the day's lesson
12	『暗唱英文 100』96-100 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	仮定の表現	Students should study the content of the day's lesson
13	『暗唱英文 100』81-100 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
14	『暗唱英文 100』51-100 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
15	まとめ	総合演習	Students should study the content of the day's lesson

関連科目：スキルズトレーニング b、ボキャブラリー&グラマー b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文１００	摂南大学外国語学部	

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　90% 「100SS 発音テスト」　10% ※学期末までに規定数以上の英文についての「100SS 発音テスト」に合格していない学生には、原則として単位が認定されない。
学生へのメッセージ	All the coursework in this class will be in English.
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングＩｂ	科目名（英文）	Speaking and Writing Ｉｂ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	か
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マーティン　オイクル
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信、情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEIC S&W, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 『暗唱英文 100』51-55 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Orientation and Self-Introduction 数量を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
2	『暗唱英文 100』56-60 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	時間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
3	『暗唱英文 100』61-65 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	空間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
4	『暗唱英文 100』51-65 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
5	『暗唱英文 100』66-70 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	手段を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
6	『暗唱英文 100』71-75 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	完了を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
7	『暗唱英文 100』76-80 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	受動を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
8	『暗唱英文 100』66-80 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
9	『暗唱英文 100』81-85 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	過去の経験を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
10	『暗唱英文 100』86-90 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	知覚の表現	Students should study the content of the day's lesson
11	『暗唱英文 100』91-95 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	関係詞の表現	Students should study the content of the day's lesson
12	『暗唱英文 100』96-100 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	仮定の表現	Students should study the content of the day's lesson
13	『暗唱英文 100』81-100 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
14	『暗唱英文 100』51-100 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
15	まとめ	総合演習	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング b、ボキャブラリー&グラマー b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文１００	摂南大学外国語学部	
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　90% 「100SS 発音テスト」　10% ※学期末までに規定数以上の英文についての「100SS 発音テスト」に合格していない学生には、原則として単位が認定されない。
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物：教科書、辞書（本でも電子辞書でも構わない） 出席率、そして積極的な授業参加、発言、態度等を重要視します。 授業中に教材用のプリントを配布します。 「授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　90%」の内訳は中間テスト: 30%, 期末テスト: 30%, 出席授業参加態度: 30%
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングⅠb	科目名（英文）	Speaking and Writing Ⅰ b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	き
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ﾘﾁｬｰﾄﾞ ﾀﾞｨｱｰｽ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信、情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEIC S&W, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 『暗唱英文 100』51-55 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Orientation and Self-Introduction 数量を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
2	『暗唱英文 100』56-60 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	時間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
3	『暗唱英文 100』61-65 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	空間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
4	『暗唱英文 100』51-65 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
5	『暗唱英文 100』66-70 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	手段を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
6	『暗唱英文 100』71-75 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	完了を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
7	『暗唱英文 100』76-80 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	受動を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
8	『暗唱英文 100』66-80 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
9	『暗唱英文 100』81-85 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	過去の経験を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
10	『暗唱英文 100』86-90 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	知覚の表現	Students should study the content of the day's lesson
11	『暗唱英文 100』91-95 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	関係詞の表現	Students should study the content of the day's lesson
12	『暗唱英文 100』96-100 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	仮定の表現	Students should study the content of the day's lesson
13	『暗唱英文 100』81-100 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
14	『暗唱英文 100』51-100 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
15	まとめ	総合演習	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング b、ボキャブラリー&グラマー b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文１００	摂南大学外国語学部	
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　90% 「100SS 発音テスト」　10% ※学期末までに規定数以上の英文についての「100SS 発音テスト」に合格していない学生には、原則として単位が認定されない。
学生へのメッセージ	Please bring a pen, pencil and dictionary (or smart phone) to class. Please don`t be shy to speak and make mistakes.
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングＩｂ	科目名（英文）	Speaking and Writing Ⅰ b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ｸﾞﾗﾝﾄ ﾊﾞｰﾐﾝﾊﾑ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信、情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEIC S&W, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction 『暗唱英文 100』51-55 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Orientation and Self-Introduction 数量を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
2	『暗唱英文 100』56-60 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	時間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
3	『暗唱英文 100』61-65 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	空間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
4	『暗唱英文 100』51-65 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
5	『暗唱英文 100』66-70 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	手段を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
6	『暗唱英文 100』71-75 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	完了を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
7	『暗唱英文 100』76-80 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	受動を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
8	『暗唱英文 100』66-80 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
9	『暗唱英文 100』81-85 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	過去の経験を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
10	『暗唱英文 100』86-90 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	知覚の表現	Students should study the content of the day's lesson
11	『暗唱英文 100』91-95 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	関係詞の表現	Students should study the content of the day's lesson
12	『暗唱英文 100』96-100 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	仮定の表現	Students should study the content of the day's lesson
13	『暗唱英文 100』81-100 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
14	『暗唱英文 100』51-100 の復習	パターン演習	Students should study the content of the day's lesson
15	まとめ	総合演習	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング b、ボキャブラリー&グラマー b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文１００	摂南大学外国語学部	
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	Writing (Form, clarity, choice of vocabulary and grammar, content.) 30%. Spoken English in class (quality quantity and how appropriate it is to the class tasks.) 40%. Being on time and prepared for class,15%. Follow instruction and contribution to pair or groups work,15%.
学生へのメッセージ	A notebook and writing materials are needed for this course. See me before class if you have any questions or need any help.
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングⅡa	科目名（英文）	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田浦　アマンダ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	１年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	1年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
2	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
3	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
4	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
5	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
6	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
7	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
8	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
9	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
10	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
11	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
12	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
13	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
14	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	Review	Feedback session	・・・

関連科目	リーディング IIa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュ a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Moving on With English	Bray	Nan'Undo
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Final Presentation 15%（共通課題 15%） Class attitude 20% Quizzes 10% Reading for Pleasure 20% Portfolio Writing 20%, Mini-presentations 15%
学生へのメッセージ	Come to class prepared to use English 100% to achieve the best results.
担当者の研究室等	Building 7, 5th Floor, Amanda Taura's office
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングⅡa	科目名（英文）	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	い
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	マイケル　ハーキー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	１年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	1年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
2	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
3	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
4	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
5	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
6	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
7	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
8	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
9	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
10	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
11	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
12	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
13	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
14	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	Review	Feedback session	・・・

関連科目	リーディング IIa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュ a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	Students who read up on lessons before class and do workbook homework exercises will achieve most from this course - at least 30 minutes should be spent before each class pre-reading the unit to be covered that day.
担当者の研究室等	７号館３階　ハーキー研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングⅡa	科目名（英文）	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	う
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	アイビス　ウイリアム
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	１年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	1 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introductions	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Unit 1 Day 1 That's What Friends Are For	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
3	Unit 1 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
4	Unit 2 Day 1 Career Moves	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
5	Unit 2 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
6	Unit 3 Day 1 Could You Do Me a Favor?	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
7	Unit 3 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
8	Midterm Test	Test	...
9	Unit 4 Day 1 What a Story	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
10	Unit 4 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
11	Unit 5 Day 1 Crossing Cultures	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
12	Unit 5 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
13	Unit 6 Day 1 What's Wrong With It? (Describing problems)	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
14	Unit 6 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
15	Test	Test	・・・

関連科目	リーディング IIa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュ a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Ready to Write 2	Karen Blanchard	Pearson
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	Learning a new language is different from learning other subjects you may be taking.　To succeed you must continually learn new vocabulary, discover new communication strategies and speak whenever given the chance.　For this reason it is very important to attend every class and try your best to actively speak and listen.　If you do this, your communication skills will definitely improve.
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングⅡa	科目名（英文）	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	え
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ｸﾞﾗﾝﾄ ﾊﾞｰﾐﾝﾊﾑ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	１年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	1 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction. About the course and ourselves.		Get the text book and bring it to class.
2	About the "real" you.	Preparation. Thinking questions. Vocabulary. Pair work. Group Work.	Review the vocabulary.
3	About the "real" you.	Writing.	Re-write and review.
4	About the "real" you.	Discussion.	Preview the vocabulary for the next unit.
5	Close Friends.	Preparation. Thinking questions. Vocabulary. Pair work. Group Work.	Review the vocabulary.
6	Close Friends.	Writing.	Re-write and review. Preview the vocabulary for the next unit.
7	Finding a "Special" Friend	Preparation. Thinking questions. Vocabulary. Pair work. Group Work.	Review the vocabulary.
8	Finding a "Special" Friend	Writing.	Re-write and review. Preview the vocabulary for the next unit.
9	Shopping	Preparation. Thinking questions. Vocabulary. Pair work. Group Work.	Review the vocabulary.
10	Shopping	Writing.	Re-write and review. Find 3 interesting photographs and bring them to class. (Don't Forget)
11	Using Photo prompts.	Speaking and Writing.	Preview the vocabulary for the next unit.
12	Dreaming about the Summer.	Preparation. Thinking questions. Vocabulary. Pair work. Group Work.	Review.
13	Dreaming about the Summer.	Writing.	Re-write and review.
14	Review.	Speaking and Writing.	Review.
15	Issues	Dealing with any issues.	Make sure all your work is up to date and has been seen by the teacher.

関連科目：リーディング IIa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュ a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Face To Face	Dale Fuller/Corey Fuller	MACMILLAN Languagehouse
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・教科書、出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングⅡa	科目名（英文）	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	お
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル　マリンズ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	１年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	1年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 0: Essential English Orientation, meeting someone for the first time, introductions and 'small-talk', then greeting people you know, using role-plays. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
2	Unit 0: Essential English Orientation, meeting someone for the first time, introductions and 'small-talk', then greeting people you know, using role-plays. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
3	Unit 1: Describing hobbies (using present perfect continuous tense). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
4	Unit 1: Describing hobbies (using present perfect continuous tense). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
5	Unit 2: Describing TV shows (using indirect questions). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks. Units 1 & 2 Test.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
6	Unit 2: Describing TV shows (using indirect questions). / Units 1& 2 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
7	Unit 3: Talking about art (using passive tense). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.

8	Unit 3: Talking about art (using passive tense). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
9	Unit 4: Describing people (using relative clauses). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
10	Unit 4: Describing people (using relative clauses). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups. Units 3 & 4 test.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks. Units 3 & 4 test.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
11	Unit 5: Discussing technology (using infinitives and gerunds). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
12	Unit 5: Discussing technology (using infinitives and gerunds). Describing daily activities using the present continuous. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
13	Unit 6: Describing events (using the past perfect tense). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
14	Unit 6: Describing events (using the past perfect tense) / Units 5 & 6 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks. Units 5 & 6 test	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
15	Course Review and Holiday Plans. Information session on group test performance and suggested methods to maintain English levels during the holidays. Holiday plans discussion using 'will' and 'going to'.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Practice English 'maintenance' methods.

関連科目：リーディング IIa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュ a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Smart Choice: 3rd Edition Level 2 Student Book with Online Practice, ISBN-13: 9780194602730)	Wilson, K.	Oxford University Press
2			
3			

参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
評価方法 （基準）	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生への メッセージ	If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. I may also be able to answer your questions regarding overseas travel or 'homestays'?particularly in Australia?should you have any. Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. Do not be absent for more than four lessons or you will risk failing the course. If you are more than 30 minutes late for a class, it will be counted as an absence.
担当者の 研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングⅡa	科目名（英文）	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	か
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ブルース　ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	１年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	1 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation	Orientation	Follow orientation instructions
2	Unit 1	Text and pair activities	Follow class instructions
3	Unit 1	Text and pair activities	Follow class instructions
4	Review and writing evaluation	Peer review and evaluation of written material	Follow class instructions
5	Unit 2	Text and pair activities	Follow class instructions
6	Unit 2	Text and pair activities	Follow class instructions
7	Review and writing evaluation	Peer review and evaluation of written material	Follow class instructions
8	Unit 3	Text and pair activities	Follow class instructions
9	Unit 3	Text and pair activities	Follow class instructions
10	Review and writing evaluation	Peer review and evaluation of written material	Follow class instructions
11	Unit 4	Text and pair activities	Follow class instructions
12	Unit 4	Text and pair activities	Follow class instructions
13	Review and writing evaluation	Peer review and evaluation of written material	Follow class instructions
14	Unit 5	Text and pair activities	Follow class instructions
15	Test	Test	Follow class instructions

関連科目：リーディング IIa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュ a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Writing from Within 1	Kelly, Gargagliano	Cambridge
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	Please participate fully and enjoy the class.
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングⅡａ	科目名（英文）	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	き
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ジョン　カール
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	１年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	1年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	1 Getting to Know You	Interview	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
2	Unit 0 & 1: Welcome. / Have you two met?	Relationships	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
3	Unit 2: You must be excited!	Emotions	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
4	Unit 3: Where should I go?	Places and Travel	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
5	9 Shopping	Interview	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
6	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
7	Conversation Test　I	会話テスト１	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
8	Unit 4: I love that! / Speech Advice & Video	Opinion Adjectives / Speech Samples	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
9	Unit 5: What's your excuse? / Speech Group 1	Problems and Reasons	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
10	Unit 6: What's it like there? / Speech Group 2	Cultural symbols and traditions	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
11	15 Marriage & Family Life / Speech Group 3	Interview	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
12	19 Big Issues / Speech Group 4	Interview	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
13	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
14	Conversation Test　I I	会話テスト２	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Achievement Test, Units 1-6	学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目：リーディングIIa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュａ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand 2 (4th edition) Student Book	Marc Helgesen	Pearson Longman
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

15% Conversation Test I
15% Conversation Test II
20% Homework Reading / Writing Units 1 to 6 Part ①, ②
5% Presentation (Power Point 3 to 10 Slides)
15% 共通課題 Common Scores (Speech on Travel)
15% Participation
15% Achievement Test

学生へのメッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Ｌｕｃｋ！
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングⅡa	科目名（英文）	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	く
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	スコット　ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	１年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	1年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introductions	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Unit 1 Day 1 Hobbies	Individual Task, Pair Work or Group Work Journal Writing	Students should study the content of the day's lesson
3	Unit 1 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work Journal Writing	Students should study the content of the day's lesson
4	Unit 3 Day 1 An Active Life	Individual Task, Pair Work or Group Work Journal Writing	Students should study the content of the day's lesson
5	Unit 3 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work Journal Writing	Students should study the content of the day's lesson
6	Unit 4 Day 1 Getting Around	Individual Task, Pair Work or Group Work Journal Writing	Students should study the content of the day's lesson
7	Unit 4 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work Journal Writing	Students should study the content of the day's lesson
8	Midterm Writing Assessment	Students will do a short written assignment to demonstrate their understanding of the material presented in class.	Students should study the content of the day's lesson
9	Midterm Speaking Assessment	Students will work with a partner to complete a short speaking activity to demonstrate their understanding of speaking strategies and vocabulary studied in class.	Students should study the content of the day's lesson
10	Unit 5 Day 1 Personalities	Individual Task, Pair Work or Group Work Journal Writing	Students should study the content of the day's lesson
11	Unit 5 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work Journal Writing	Students should study the content of the day's lesson
12	Unit 6 Day 1 Cooking	Individual Task, Pair Work or Group Work Journal Writing	Students should study the content of the day's lesson
13	Unit 6 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work Journal Writing	Students should study the content of the day's lesson
14	Final Writing Assessment	Students will do a short written assignment to demonstrate their understanding of the material presented in class.	Students should study the content of the day's lesson
15	Final Speaking Assessment	Students will work with a partner to complete a short speaking activity to demonstrate their understanding of speaking strategies and vocabulary studied in class.	Students should study the content of the day's lesson

関連科目：リーディング IIa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュ a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Stretch 2　ISBN: 978-0194603133	Susan Stempleski	Oxford
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			
評価方法 （基準）	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%			
学生への メッセージ	Learning a new language is different from learning other subjects you may be taking. To succeed you must continually learn new vocabulary, discover new communication strategies and speak whenever given the chance. For this reason it is very important to attend every class and try your best to actively speak and listen. If you do this, your communication skills will definitely improve.			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。			

科目名	スピーキング＆ライティングⅡa	科目名（英文）	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ﾌﾞﾗｲｱﾝ ｽﾚｰﾀｰ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	This is an intermediate level English communication class with the goal of developing speaking and conversation skills skills to enable them to use English with greater confidence and fluency.
到達目標	The objective of the course is to provide students with the practical skills needed to communicate effectively in a wide range of situations. After taking this course, students should be able to feel confident in discussing issues, debating both sides, discussing related issues in other countries, and be confident to speak up and give their own opinion with the necessary vocabulary to do so.
授業方法と留意点	As this is a communication class, students are expected to actively participate in communication activities such as pair work, small group work, as well as to try to use English as much as possible.
科目学習の効果（資格）	The content of this course is concerned with the language to express a variety of situations in daily life, such as: student life, hometowns, shopping, leisure time, travel, etc. Upon the completion of the course, students should have the basic knowledge or ability to talk about the above topics in basic daily conversation.

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction　オリエンテーション	Introductions, explaining the class, overview.	Have your text book and bring it to class.
2	Unit 1　Lifestyles.	Asking people about yourselves. Telling about yourself. Your likes and dislikes. Individual Task, Pair work, and group work 予定を表す時のパタン	Review vocabulary on p3 Preview and Learn vocabulary on p13
3	Unit 2 Friendship	Exchanging personal information. Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Unit 3　"Special" Friends	Describing your student life. Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Describing photographs.	Individual Task, Pair work, and group work	Find 3 photographs. Make 5 good questions for each and take them to class 6
6	Asking and answering questions about photographs	Individual Task, Pair work, and group work	Bring your photos and questions to class. (don't forget them)
7	Unit 4 Shopping and money.	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Narration	Individual Task, Pair work, and group work	Find a simple picture book story. Bring its to the next class. (don't forget it)
9	Narration	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Role Play	Individual Task, Pair work, and group work	Learn your lines for a simple act of a play.
11	Conduct a role play	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Solving a mystery through communication.	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Review	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Unit 5. Summer Plans	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Reinforcement	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目：なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Smart Choice 1 (2nd Edition)	Ken Wilson	Oxfprd
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）

Quantity and quality of speaking, conversation activities done in class each week. Following instruction, preparation for class and listening to others.

Common class tasks - 15%
Teacher tasks - 85%

学生へのメッセージ：毎回の授業に必ず必要な物・・教科書、出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する

担当者の研究室等：７号館２階 非常勤講師室

備考：毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングⅡｂ	科目名（英文）	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田浦　アマンダ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	「スピーキング＆ライティング IIａ」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
到達目標	CEFR-J[A2.２]を目標とし、より長く、論理的な構成をもった英文を発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	写真や絵を見て、制限時間内にその内容を口頭または作文で表現するなどの応用トレーニングをとりいれる。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
2	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
3	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
4	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
5	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
6	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
7	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
8	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
9	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
10	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
11	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
12	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
13	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
14	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	Review	Feedback session	・・・

関連科目	リーディングⅡｂ, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュｂ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Moving On With English	Bray	Nan'Undo
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Final Presentation 15%（共通課題 15%） Class attitude 20% Quizzes 10% Reading for Pleasure 20% Portfolio Writing 20%, Mini-presentations 15%
学生へのメッセージ	Final Presentation 15% Class attitude 20% Quizzes 10% Reading for Pleasure 20% Portfolio Writing 20%, Mini-presentations 15%
担当者の研究室等	Building 7, 5th Floor, Amanda Taura's office
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングⅡｂ	科目名（英文）	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	い
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	マイケル　ハーキー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	「スピーキング＆ライティング IIａ」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
到達目標	CEFR-J[A2.２]を目標とし、より長く、論理的な構成をもった英文を発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	写真や絵を見て、制限時間内にその内容を口頭または作文で表現するなどの応用トレーニングをとりいれる。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
2	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
3	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
4	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
5	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
6	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
7	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
8	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
9	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
10	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
11	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
12	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
13	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
14	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	Review	Feedback session	・・・

関連科目	リーディングⅡｂ, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュｂ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	Students who read up on lessons before class and do workbook homework exercises will achieve most from this course - at least 30 minutes should be spent before each class pre-reading the unit to be covered that day.
担当者の研究室等	７号館３階　ハーキー研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングⅡｂ	科目名（英文）	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	う
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	アイビス　ウイリアム
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	「スピーキング＆ライティング IIａ」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
到達目標	CEFR-J[A2.２]を目標とし、より長く、論理的な構成をもった英文を発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	写真や絵を見て、制限時間内にその内容を口頭または作文で表現するなどの応用トレーニングをとりいれる。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introductions	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Unit 1 Day 1 That's What Friends Are For	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
3	Unit 1 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
4	Unit 2 Day 1 Career Moves	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
5	Unit 2 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
6	Unit 3 Day 1 Could You Do Me a Favor?	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
7	Unit 3 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
8	Midterm Test	Test	...
9	Unit 4 Day 1 What a Story	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
10	Unit 4 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
11	Unit 5 Day 1 Crossing Cultures	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
12	Unit 5 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
13	Unit 6 Day 1 What's Wrong With It? (Describing problems)	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
14	Unit 6 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
15	Test	Test	・・・

関連科目	リーディングⅡｂ, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュｂ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Ready to Write ２	Karen Blachard	Pearson
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	Learning a new language is different from learning other subjects you may be taking. To succeed you must continually learn new vocabulary, discover new communication strategies and speak whenever given the chance. For this reason it is very important to attend every class and try your best to actively speak and listen. If you do this, your communication skills will definitely improve.
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングⅡｂ	科目名（英文）	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	え
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ｸﾞﾗﾝﾄ ﾊﾞｰﾐﾝﾊﾑ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	「スピーキング＆ライティング IIａ」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
到達目標	CEFR-J[A2.２]を目標とし、より長く、論理的な構成をもった英文を発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	写真や絵を見て、制限時間内にその内容を口頭または作文で表現するなどの応用トレーニングをとりいれる。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	About you summer.	Speaking.	
2	Part-time jobs.	Preparation. Thinking questions. Vocabulary. Pair work. Group Work.	
3	Part-time jobs	Writing.	
4	Expressing opioions.	Preparation. Thinking questions. Vocabulary. Pair work. Group Work.	
5	Expressing opioions.	Writing.	
6	Using Photo Prompts	Speaking and writing.	
7	Music and expressing preferences.	Preparation. Thinking questions. Vocabulary. Pair work. Group Work.	
8	Music and expressing preferences	Writing.	Find the lyrics of a song you like and bring them to class.
9	Lyrics	Speaking and writing.	
10	Character	Preparation. Thinking questions. Vocabulary. Pair work. Group Work.	
11	Character	Writing.	
12	Money	Preparation. Thinking questions. Vocabulary. Pair work. Group Work.	
13	Money	Writing.	
14	Situations in Life.	Preparation. Thinking questions. Vocabulary. Pair work. Group Work.	
15	The Future.	Preparation. Thinking questions. Vocabulary. Pair work. Group Work.	

関連科目：リーディングⅡｂ, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュｂ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Face to Face	Dale Fuller/Corey Fuller	MaCMILLAN Languagehouse
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・・教科書、出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングⅡｂ	科目名（英文）	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	お
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル　マリンズ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	「スピーキング＆ライティング IIａ」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
到達目標	CEFR-J[A2.２]を目標とし、より長く、論理的な構成をもった英文を発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	写真や絵を見て、制限時間内にその内容を口頭または作文で表現するなどの応用トレーニングをとりいれる。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 0: Essential English Orientation, meeting someone Units 7-12 objectives preview. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
2	Unit 7 Describing appearance (using have/get something done). Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
3	Unit 7 Describing appearance (using have/get something done). Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
4	Unit 8 Describing places (using second conditional). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
5	Unit 8 Describing places (using second conditional). Units 7 & 8 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks. Units 1 & 2 Test.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
6	Unit 9 Talking about regrets and solutions (using should/would have). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
7	Unit 9 Talking about regrets and solutions (using should/would have). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
8	Unit 10 Speculating on the past (using may, might, could couldn't, and must have). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.

	groups.		
9	Unit 10 Speculating on the past (using may, might, could couldn't, and must have). Units 9 & 10 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
10	Unit 11 Describing inventions (using the third conditional). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups. Units 3 & 4 test.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks. Units 3 & 4 test.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
11	Unit 11 Describing inventions (using the third conditional). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
12	Unit 12 Discussing the news (using reported speech). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
13	Unit 12 Discussing the news (using reported speech).. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
14	Unit 12 review. Units 11 & 12 Test.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks. Units 5 & 6 test	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
15	Course Review and Holiday Plans. Information session on group test performance and suggested methods to maintain English levels during the holidays. Holiday plans discussion using 'will' and 'going to'.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Practice English 'maintenance' methods.

関連科目	リーディング IIa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュ a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Smart Choice: 3rd Edition Level 2 Student Book with Online Practice, ISBN-13: 9780194602730)	Wilson, K.	Oxford University Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生への メッセージ	If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. I may also be able to answer your questions regarding overseas travel or 'homestays'?particularly in Australia?should you have any.

	Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. Do not be absent for more than four lessons or you will risk failing the course. If you are more than 30 minutes late for a class, it will be counted as an absence.
担当者の 研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングⅡｂ	科目名（英文）	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	か
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ブルース　ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	「スピーキング＆ライティング IIａ」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
到達目標	CEFR-J[A2.２]を目標とし、より長く、論理的な構成をもった英文を発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	写真や絵を見て、制限時間内にその内容を口頭または作文で表現するなどの応用トレーニングをとりいれる。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation	Orientation	Follow orientation instructions
2	Unit 6	Text and pair activities	Follow class instructions
3	Unit 6	Text and pair activities	Follow class instructions
4	Review and writing evaluation	Peer review and evaluation of written material	Follow class instructions
5	Unit 7	Text and pair activities	Follow class instructions
6	Unit 7	Text and pair activities	Follow class instructions
7	Review and writing evaluation	Peer review and evaluation of written material	Follow class instructions
8	Unit 8	Text and pari activities	Follow class instructions
9	Unit 8	Text and pari activities	Follow class instructions
10	Review and writing evaluation	Peer review and evaluation of written material	Follow class instructions
11	Unit 9	Text and pair activities	Follow class instructions
12	Unit 9	Text and pair activities	Follow class instructions
13	Review and writing evaluation	Peer review and evaluation of written material	Follow class instructions
14	Unit 10	Text and pair activities	Follow class instructions
15	Test	Test	Follow test instructions

関連科目：リーディングⅡｂ, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュｂ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Writing from Within 1	Kelly, Gargagliano	Cambridge
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	Please participate and enjoy the class.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングⅡｂ	科目名（英文）	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	き
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ジョン　カール
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	「スピーキング＆ライティング IIａ」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
到達目標	CEFR-J[A2.２]を目標とし、より長く、論理的な構成をもった英文を発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	写真や絵を見て、制限時間内にその内容を口頭または作文で表現するなどの応用トレーニングをとりいれる。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	11 Summer Vacation	Interview	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
2	Unit 7: Do you remember when...?	Experiences and past events.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
3	Unit 8: Let's have a party!	Leisure time activities	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
4	Unit 9: What should I do?	Personal Problems	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
5	7 Fashion & Style	Interview	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
6	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
7	Conversation Test　I	会話テスト１	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
8	Unit 10: Tell me a story! / Speech Advice & Video	Traditional and Modern Story Elements / Speech Samples	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
9	Unit 11: In my opinion... / Speech Group 1	World Issues Agreement / Disagreement Language	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
10	Unit 12: It's My Dream! / Speech Group 2	Dreams and Goals	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
11	18 Holidays & Special Days / Speech Group 3	Interview	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
12	20 End of the Semester & After Graduation / Speech Group 4	Interview	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
13	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
14	Conversation Test　ＩＩ	会話テスト２	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Achievement Test, Units 7-12	学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	リーディング IIa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュ a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand 2 (4th edition) Student Book	Marc Helgesen	Pearson Longman
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	15% Conversation Test I 15% Conversation Test II 20% Homework Reading / Writing Units 7 to 12 Part ①, ② 5% Presentation (Power Point 3 to 10 Slides) 15% 共通課題 Common Scores (Speech / Personal Story) 15% Participation 15% Achievement Test
学生へのメッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Ｌｕｃｋ！
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングⅡｂ	科目名（英文）	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	く
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	スコット　ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	「スピーキング＆ライティング IIａ」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
到達目標	CEFR-J[A2.２]を目標とし、より長く、論理的な構成をもった英文を発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	写真や絵を見て、制限時間内にその内容を口頭または作文で表現するなどの応用トレーニングをとりいれる。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introductions	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Unit 7 Day 1 Weather	Individual Task, Pair Work or Group Work Journal Writing	Students should study the content of the day's lesson
3	Unit 7 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work Journal Writing	Students should study the content of the day's lesson
4	Unit 8 Day 1 Everyday Activities	Individual Task, Pair Work or Group Work Journal Writing	Students should study the content of the day's lesson
5	Unit 8 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work Journal Writing	Students should study the content of the day's lesson
6	Unit 10 Day 1 A Busy Semester	Individual Task, Pair Work or Group Work Journal Writing	Students should study the content of the day's lesson
7	Unit 10 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work Journal Writing	Students should study the content of the day's lesson
8	Midterm Written Assessment	Students will complete a short written assignment to demonstrate their understanding of the material presented in class.	Students should study the content of the day's lesson
9	Midterm Speaking Assessment	Students will work with a partner and perform a short speaking activity to demonstrate their ability to use communication strategies and vocabulary taught in class.	Students should study the content of the day's lesson
10	Unit 11 Day 1 Favors and Requests	Individual Task, Pair Work or Group Work Journal Writing	Students should study the content of the day's lesson
11	Unit 11 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work Journal Writing	Students should study the content of the day's lesson
12	Unit 12 Day 1 Before You Travel	Individual Task, Pair Work or Group Work Journal Writing	Students should study the content of the day's lesson
13	Unit 12 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work Journal Writing	Students should study the content of the day's lesson
14	Final Written Assessment	Students will complete a short written assignment to demonstrate their understanding of the material presented in class.	Students should study the content of the day's lesson
15	Final Speaking Assessment	Students will work with a partner and perform a short speaking activity to demonstrate their ability to use communication strategies and vocabulary taught in class.	Students should study the content of the day's lesson

関連科目：リーディングⅡｂ, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュｂ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Stretch 2　ISBN: 978-0-19-460313-3	Susan Stempleski	Oxford
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生への メッセージ	Learning a new language is different from learning other subjects you may be taking. To succeed you must continually learn new vocabulary, discover new communication strategies and speak whenever given the chance. For this reason it is very important to attend every class and try your best to actively speak and listen. If you do this, your communication skills will definitely improve.
担当者の 研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングⅡb	科目名（英文）	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ﾌﾞﾗｲｱﾝ ｽﾚｰﾀｰ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	This is an intermediate level English communication class with the goal of developing students listening, reading and speaking skills to enable them to use English with greater confidence and fluency.
到達目標	The objective of the course is to provide students with the practical skills needed to communicate effectively in a wide range of situations. After taking this course, students should be able to feel confident in discussing issues, debating both sides, discussing related issues in other countries, and be confident to speak up and give their own opinion with the necessary vocabulary to do so.
授業方法と留意点	As this is a communication class, students are expected to actively participate in communication activities such as pair work, small group work, as well as to try to use English as much as possible.
科目学習の効果（資格）	The content of this course is concerned with the language to express a variety of situations in daily life, such as: student life, hometowns, shopping, leisure time, travel, etc. Upon the completion of the course, students should have the basic knowledge or ability to talk about the above topics in basic daily conversation.

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 7　Giving Opinions	Describing daily routines.	Students should study the content of the day's lesson
2	Unit 7　Giving Reasons and support for Opinions.	Talking about what you do. Asking what others do.	Students should study the content of the day's lesson.
3	Unit 8　Music	Words and expressions for describing people.	Students should study the content of the day's lesson.
4	Unit 8　Recording Artists.	Asking others about people in their lives.	Students should study the content of the day's lesson.
5	Unit 9　Character	Talking about what you will do in the future.	Students should study the content of the day's lesson
6	Unit 9　Personality Traites.	How you spend your free time.	Students should study the content of the day's lesson.
7	Unit 10　Vacations.	Words to describe travel.	Students should study the content of the day's lesson.
8	Unit 10　Vacations continued.	Where you like to go on vacation and what you like to do.	Students should study the content of the day's lesson.
9	Unit 11　Prices and Numbers	Describing events in your life.	Students should study the content of the day's lesson.
10	Unit 11 Incomes and Budgets	Asking about people's lives.	Students should study the content of the day's lesson.
11	Unit 12　Personal Responsibilities.	What you would like to do in the future.	Students should study the content of the day's lesson.
12	Unit 12　Personal Experiences.	Asking others about their dreams.	Students should study the content of the day's lesson.
13	Sequencing a story.	Review of units 10 - 12.	Students should study the content of the day's lesson.
14	Story Telling	To be announced.	Students should study the content of the day's lesson.
15	Facing The Future.	Test of units 9 - 12.	Students should study the content of the day's lesson.

関連科目：なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『Smart Choice 1 (2nd Edition)』	Ken Wilson	Oxfprd
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Quantity and quality of speaking, conversation activities done in class each week. Following instruction, preparation for class and listening to others. Common class tasks - 15% Teacher tasks - 85%
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・・教科書、出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングⅢａ	科目名（英文）	Speaking and Writing III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ　シウンシ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
到達目標	身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・2年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
15	Review	Feedback sessionk	・・・

関連科目：スピーキング＆ライティング IIa, IIb

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	SCD Carnaval	Richard Rowat	Weissman Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、発話活動等）　85% 共通課題　15%
学生へのメッセージ	You will need to bring the textbook to every class along with a notebook, writing materials, and a highlighting marker.
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室) If you have any questions, come see me anytime.
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングⅢa	科目名（英文）	Speaking and Writing III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	い
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ｱｰｻｰ ﾛﾘﾝｸﾞｽﾝ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
到達目標	身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・２年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	Introduction, overview.	No preparation required. 準備は必要ありません。
2	Unit 1 Identity.	How characteristics, feelings, or beliefs that distinguish you from others form your personal identity.	Preview vocabulary for pages 2-5.
3	Unit 2 Values.	Values which help us decide right and wrong, and guide us through difficult choices.	Preview vocabulary for pages 6-9.
4	Unit 3 Culture Shock.	The stress people experience when they move to another culture.	Preview vocabulary for pages 10-13.
5	Unit 4 Culture in Language.	Language reflects the culture of the people who speak it.	Preview vocabulary for pages 14-17.
6	Unit 5 Body Language and Customs.	Body language and non-verbal communication as a reflection of culture.	Preview vocabulary for pages 18-21.
7	Unit 6 Indivualism.	The value of individualism and why it's important for some people. Vocabulary quiz units 1-6.	Preview vocabulary for pages 22-25. Study for vocabulary quiz.
8	Unit 7 Politeness.	The way people treat each other in order to show courtesy and respect.	Preview vocabulary for pages 26-29.
9	Unit 8 Communication Styles.	The different ways in which people express themselves.	Preview vocabulary for pages 30-33.
10	Unit 9 Gender and Culture.	Gender roles and communication styles for men and women in different cultures.	Preview vocabulary for pages 34-37.
11	Unit 10 Diversity.	The different cultures that exist both within a country or region, and between cultures.	Preview vocabulary for pages 39-41.
12	Unit 11 Social Change.	Change that makes society and the world a better place.	Preview vocabulary for pages 42-45.
13	Unit 12 Global Community.	The relationships between people of different cultures and how these relationship form a global community.	Preview vocabulary for pages 46-49.
14	Special Topic.	To be announced.	No preparation required.
15	Final test. Vocabulary quiz units 7-12	Term test. Vocabulary quiz units 7-12.	Study for final test and vocabulary quiz.

関連科目：スピーキング＆ライティング IIa, IIb

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	辞書		
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、発話活動等）　85% 共通課題　15%
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・・教科書、辞書です。出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する。 Attitude, participation and attendance are considered important in this class for getting a good grade. Please bring your textbook and a dictionary to each class. If you forget your text one day, please make a copy before the class.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室.
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングⅢa	科目名（英文）	Speaking and Writing III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	う
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	杉浦　秀行
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
到達目標	身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・2年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	オリエンテーション、自己紹介	プレゼンテーションの準備
2	パラグラフとは何か プレゼンテーションについて①	ペア・ワーク、グループ・ワーク	プレゼンテーションの準備
3	パラグラフとは何か プレゼンテーションについて②	ペア・ワーク、グループ・ワーク	プレゼンテーションの準備
4	出来事を語る プレゼンテーションについて③	ペア・ワーク、グループ・ワーク	プレゼンテーションの準備
5	出来事を語る プレゼンテーションについて④	ペア・ワーク、グループ・ワーク	プレゼンテーションの準備
6	手続き・手順を説明する プレゼンターションについて⑤	ペア・ワーク、グループ・ワーク	プレゼンテーションの準備
7	手続き・手順を説明する プレゼンターションについて⑥	ペア・ワーク、グループ・ワーク	プレゼンテーションの準備
8	感情を描写する プレゼンテーションについて⑦	ペア・ワーク、グループ・ワーク	プレゼンテーションの準備
9	感情を描写する プレゼンテーションについて⑧	ペア・ワーク、グループ・ワーク	プレゼンテーションの準備
10	人を描写する プレゼンテーションについて⑨	ペア・ワーク、グループ・ワーク	プレゼンテーションの準備
11	人を描写する プレゼンテーションについて⑩	ペア・ワーク、グループ・ワーク	プレゼンテーションの準備
12	場所を描写する プレゼンテーションについて⑪	ペア・ワーク、グループ・ワーク	プレゼンテーションの準備
13	場所を描写する プレゼンテーションについて⑫	ペア・ワーク、グループ・ワーク	プレゼンテーションの準備
14	プレゼンテーションについて⑬	ペア・ワーク、グループ・ワーク	プレゼンテーションの準備
15	プレゼンテーション	プレゼンテーションを行う	プレゼンテーションの振り返り

関連科目：スピーキング＆ライティング IIa, IIb

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Smart Writing	Miyako Nakaya 他	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、発話活動等）　85% 共通課題　15%
学生へのメッセージ	英語で話す・書く活動をいっしょに楽しみましょう！
担当者の研究室等	７号館５階　杉浦研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングⅢa	科目名（英文）	Speaking and Writing III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	え
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松下　乃亜
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
到達目標	身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・2年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介、発表の担当決め	
2	Unit 1 Job Interview 過去完了形 Choose Topic for Presentation	リスニング、語句学習、サマリー ペアワーク、ライティング	フレーズの復習、暗記
3	Unit 1 Job Interview 過去完了形 Choose Topic for Presentation	リスニング、語句学習、サマリー ペアワーク、ライティング	フレーズの復習、暗記
4	Unit 2 First Day on the Job 助動詞① Discuss Main Idea of Topic and Examples to Support Idea	リスニング、語句学習、サマリー ペアワーク、ライティング	フレーズの復習、暗記 要約へのフィードバック
5	Unit 2 First Day on the Job 助動詞① Discuss Main Idea of Topic and Examples to Support Idea	リスニング、語句学習、サマリー ペアワーク、ライティング	フレーズの復習、暗記 発表のプリントの提出
6	Unit 3 Hurricane on the Weekend 関係代名詞① Revise Idea and Examples for Presentation	リスニング、語句学習、サマリー ペアワーク、ライティング	フレーズの復習、暗記
7	Unit 3 Hurricane on the Weekend 関係代名詞① Revise Idea and Examples for Presentation	リスニング、語句学習、サマリー ペアワーク、ライティング	フレーズの復習、暗記
8	Unit 4 Andy's Makeover 現在進行形 Presentation of Outline	リスニング、語句学習、サマリー ペアワーク、ライティング	フレーズの復習、暗記
9	Unit 4 Andy's Makeover 現在進行形 Presentation of Outline	リスニング、語句学習、サマリー ペアワーク、ライティング	フレーズの復習、暗記
10	Unit 5 Andy Meets Christian 助動詞② Write First Draft	リスニング、語句学習、サマリー ペアワーク、ライティング	フレーズの復習、暗記
11	Unit 5 Andy Meets Christian 助動詞② Write First Draft	リスニング、語句学習、サマリーペアワーク、ライティング	フレーズの復習、暗記
12	Unit 6 Miranda's Request 分詞 Revise the First Draft and Write Final Draft	リスニング、語句学習、サマリー ペアワーク、ライティング	フレーズの復習、暗記
13	Unit 6 Miranda's Request 分詞 Write Final Draft	リスニング、語句学習、サマリー ペアワーク、ライティング	フレーズの復習、暗記
14	発表	発表	発表
15	発表	発表	発表のフィードバックの提出

関連科目	スピーキング＆ライティング IIa, IIb
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	Communicate in English with The Devil Wears Prada	Aline Brosh McKenna	松柏社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント		
	2	辞書		
	3			

評価方法 （基準）	平常点（授業態度、宿題、発話活動等）８５％ 共通課題（プレゼンテーション）１５％
学生への メッセージ	当然ですが、日常生活で英語に触れる機会が増えれば、会話力が向上します。興味のあるニュースや音楽を見たり、聴いたりする機会を増やして下さい。日記やスケジュール帳などを英語で書いてみて下さい。 楽しみながら学習しましょう。 間違っても構わないのでどんどん積極的に話す機会や書く機会を作って下さい。それが上達への鍵です。
担当者の 研究室等	７号館２階 非常勤講師室 非常勤講師室における相談可能時間　水曜日１３時～１４時
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングⅢａ	科目名（英文）	Speaking and Writing III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	お
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中野　阿佐子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
到達目標	身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・２年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション		テキスト持参
2	Unit1　予定の提案、お願い、勧誘に関する表現	Unit1の表現の暗記と応用	予習・復習 小テストの準備
3	Unit2　疑問詞を含む表現	Unit2の表現の暗記と応用	予習・復習 小テストの準備
4	Unit 1,2の復習	表現のアウトプット練習	予習・復習 小テストの準備
5	Unit３　内緒の話	Unit３の表現の暗記と応用	予習・復習 小テストの準備
6	Unit４　新聞記事に関連する表現	Unit４の表現の暗記と応用	予習・復習 小テストの準備
7	Unit3,4の復習	表現のアウトプット練習	予習・復習 小テストの準備
8	確認テスト① テスト解説	Unit1～４でここまでに学んだ表現の定着度を測る	予習・復習 小テストの準備
9	Unit５　主語の省略	Unit５の表現の暗記と応用	予習・復習 小テストの準備
10	Unit６　質疑応答①	Unit６の表現の暗記と応用	予習・復習 小テストの準備
11	Unit５，６の復習	表現のアウトプット練習	予習・復習 小テストの準備
12	Unit７　質疑応答②	Unit７の表現の暗記と応用	予習・復習 小テストの準備
13	Unit8　日本文化を説明する	Unit８の表現の暗記と応用	予習・復習 小テストの準備
14	Unit７，８の復習	表現のアウトプット練習	予習・復習 小テストの準備
15	確認テスト② テスト解説	前期でここまでに学んだ表現の定着度を測る	復習

関連科目	スピーキング＆ライティング IIa, IIb

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Email Talks	Hideo Takemura and Tamaki Otani	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、発話活動等）　85% 共通課題　15%
学生へのメッセージ	積極的な授業参加を期待します。 授業中の携帯の使用は認めません。辞書を持参するようにしてください。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師控室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングⅢａ	科目名（英文）	Speaking and Writing III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	か
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	抽冬　紘和
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
到達目標	身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・２年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction Unit1 Speaking	個人ワーク グループワーク 講義 討論	リーディング予習 単語調べ
2	Unit1 Writing	個人ワーク グループワーク 講義 討論	リーディング予習 単語調べ
3	Unit 2 Speaking	個人ワーク グループワーク 講義 討論	リーディング予習 単語調べ
4	Unit 2 Writing	個人ワーク グループワーク 講義 討論	リーディング予習 単語調べ
5	Unit 3 Speaking	個人ワーク グループワーク 講義 討論	リーディング予習 単語調べ
6	Unit 3 Writing	個人ワーク グループワーク 講義 討論	リーディング予習 単語調べ
7	Unit 4 Speaking	個人ワーク グループワーク 講義 討論	リーディング予習 単語調べ
8	Unit 4 Writing	個人ワーク グループワーク 講義 討論	リーディング予習 単語調べ
9	Unit 5 Speaking	個人ワーク グループワーク 講義 討論	リーディング予習 単語調べ
10	Unit 5 Writing	個人ワーク グループワーク 講義 討論	リーディング予習 単語調べ
11	Unit 6 Speaking	個人ワーク グループワーク 講義 討論	リーディング予習 単語調べ
12	Unit 6 Writing	個人ワーク グループワーク 講義 討論	リーディング予習 単語調べ
13	Unit 7 Speaking	個人ワーク グループワーク 講義 討論	リーディング予習 単語調べ
14	Unit 7 Writing	個人ワーク グループワーク 講義 討論	リーディング予習 単語調べ
15	前期の総復習	個人ワーク グループワーク 講義 討論	リーディング予習 単語調べ

関連科目	スピーキング＆ライティング IIa, IIb

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	For and Against:Epressing opinions and exchanging ideas	Gillian Flaherty	成美堂
	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、発話活動等）　85% 共通課題　15%
学生への メッセージ	スピーキングとライティングに重点を置いた授業ですが、異文化コミュニケーションでも有効な能力を養うような授業にします。 あせらず、ゆっくりと毎週頑張っていきましょう。
担当者の 研究室等	７号館２階非常勤控室 連絡先:hirokazunukk@outlook.jp
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングⅢa	科目名（英文）	Speaking and Writing III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	き
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中道　英美子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
到達目標	身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・２年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 自分の住んでいる市町村を紹介する	リスニング、　ライティング	スピーチ作成のための語彙を確認、 サンプルスピーチを聞く スピーチ原稿作成
2	市町村を紹介するスピーチをする	スピーチ 学生どうしのアセスメント	スピーチ原稿を暗記して発表練習を行う。
3	身近な人を紹介する	リスニング、　ライティング	スピーチ作成のための語彙を確認、 サンプルスピーチを聞く スピーチ原稿作成
4	身近な人を紹介するスピーチをする	スピーチ 学生どうしのアセスメント	スピーチ原稿を暗記して発表練習を行う。
5	好きな食べ物を紹介する	リスニング、　ライティング	スピーチ作成のための語彙を確認、 サンプルスピーチを聞く スピーチ原稿作成
6	好きな食べ物を紹介するスピーチをする	スピーチ 学生どうしのアセスメント	スピーチ原稿を暗記して発表練習を行う。
7	好きな食べ物を紹介する	リスニング、　ライティング	スピーチ作成のための語彙を確認、 サンプルスピーチを聞く スピーチ原稿作成
8	好きな食べ物を紹介するスピーチをする	スピーチ 学生どうしのアセスメント	スピーチ原稿を暗記して発表練習を行う。
9	好きな音楽を紹介する	リスニング、　ライティング	スピーチ作成のための語彙を確認、 サンプルスピーチを聞く スピーチ原稿作成
10	好きな音楽を紹介するスピーチをする	スピーチ 学生どうしのアセスメント	スピーチ原稿を暗記して発表練習を行う。
11	好きな映画、本を紹介する	リスニング、　ライティング	スピーチ作成のための語彙を確認、 サンプルスピーチを聞く スピーチ原稿作成
12	好きな映画、本を紹介するスピーチをする	スピーチ 学生どうしのアセスメント	スピーチ原稿を暗記して発表練習を行う。
13	旅の思い出を語る	リスニング、　ライティング	スピーチ作成のための語彙を確認、 サンプルスピーチを聞く スピーチ原稿作成
14	旅の思い出についてスピーチする	スピーチ 学生どうしのアセスメント	スピーチ原稿を暗記して発表練習を行う。
15	まとめと復習		

関連科目：スピーキング＆ライティング IIa, IIb

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Speech Navigator 2	松下惠子	mpi 松香フォニックス
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、発話活動等）　85% 共通課題　15%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングⅢa	科目名（英文）	Speaking and Writing III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	く
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アレン　ニール
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
到達目標	身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・2年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introductions	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
2	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
3	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
4	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
5	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
6	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
7	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
8	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
9	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
10	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
11	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
12	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
13	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
14	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
15	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	

関連科目：スピーキング＆ライティング IIa, IIb

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Teacher Worksheets		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、発話活動等）　85% 共通課題　15%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングⅢｂ	科目名（英文）	Speaking and Writing III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョセフ　シウンシ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
到達目標	身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・2年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
15	Review	Feedback sessionk	・・・

関連科目：スピーキング＆ライティング IIa, IIb

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	SCD Carnaval	Richard Rowat	Weissman Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、発話活動等）　85% 共通課題　15%
学生へのメッセージ	You will need to bring the textbook to every class along with a notebook, writing materials, and a highlighting marker.
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室) If you have any questions, come see me anytime.
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングⅢｂ	科目名（英文）	Speaking and Writing III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	い
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ｱｰｻｰ ﾛﾘﾝｸﾞｽﾝ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
到達目標	身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・２年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	Introduction, overview.	No preparation required. 準備は必要ありません。
2	Unit 1 Identity.	How characteristics, feelings, or beliefs that distinguish you from others form your personal identity.	Preview vocabulary for pages 2-5.
3	Unit 2 Values.	Values which help us decide right and wrong, and guide us through difficult choices.	Preview vocabulary for pages 6-9.
4	Unit 3 Culture Shock.	The stress people experience when they move to another culture.	Preview vocabulary for pages 10-13.
5	Unit 4 Culture in Language.	Language reflects the culture of the people who speak it.	Preview vocabulary for pages 14-17.
6	Unit 5 Body Language and Customs.	Body language and non-verbal communication as a reflection of culture.	Preview vocabulary for pages 18-21.
7	Unit 6 Indivualism.	The value of individualism and why it's important for some people. Vocabulary quiz units 1-6.	Preview vocabulary for pages 22-25. Study for vocabulary quiz.
8	Unit 7 Politeness.	The way people treat each other in order to show courtesy and respect.	Preview vocabulary for pages 26-29.
9	Unit 8 Communication Styles.	The different ways in which people express themselves.	Preview vocabulary for pages 30-33.
10	Unit 9 Gender and Culture.	Gender roles and communication styles for men and women in different cultures.	Preview vocabulary for pages 34-37.
11	Unit 10 Diversity.	The different cultures that exist both within a country or region, and between cultures.	Preview vocabulary for pages 39-41.
12	Unit 11 Social Change.	Change that makes society and the world a better place.	Preview vocabulary for pages 42-45.
13	Unit 12 Global Community.	The relationships between people of different cultures and how these relationship form a global community.	Preview vocabulary for pages 46-49.
14	Special Topic.	To be announced.	No preparation required.
15	Final test. Vocabulary quiz units 7-12	Term test. Vocabulary quiz units 7-12.	Study for final test and vocabulary quiz.

関連科目	スピーキング＆ライティング IIa, IIb

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	辞書		
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、発話活動等）　85% 共通課題　15%
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・・教科書、辞書です。出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する。 Attitude, participation and attendance are considered important in this class for getting a good grade. Please bring your textbook and a dictionary to each class. If you forget your text one day, please make a copy before the class.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室.
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングⅢｂ	科目名（英文）	Speaking and Writing III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	う
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	杉浦　秀行
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
到達目標	身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・2年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	オリエンテーション、自己紹介	プレゼンテーションの準備
2	人物や物事を定義するプレゼンテーションについて①	ペア・ワーク、グループ・ワーク	プレゼンテーションの準備
3	人物や物事を定義するプレゼンテーションについて②	ペア・ワーク、グループ・ワーク	プレゼンテーションの準備
4	比較と対照プレゼンテーションについて③	ペア・ワーク、グループ・ワーク	プレゼンテーションの準備
5	比較と対照プレゼンテーションについて④	ペア・ワーク、グループ・ワーク	プレゼンテーションの準備
6	原因と結果プレゼンターションについて⑤	ペア・ワーク、グループ・ワーク	プレゼンテーションの準備
7	原因と結果プレゼンターションについて⑥	ペア・ワーク、グループ・ワーク	プレゼンテーションの準備
8	問題と解決策プレゼンテーションについて⑦	ペア・ワーク、グループ・ワーク	プレゼンテーションの準備
9	問題と解決策プレゼンテーションについて⑧	ペア・ワーク、グループ・ワーク	プレゼンテーションの準備
10	賛成意見を述べるプレゼンテーションについて⑨	ペア・ワーク、グループ・ワーク	プレゼンテーションの準備
11	賛成意見を述べるプレゼンテーションについて⑩	ペア・ワーク、グループ・ワーク	プレゼンテーションの準備
12	反対意見を述べるプレゼンテーションについて⑪	ペア・ワーク、グループ・ワーク	プレゼンテーションの準備
13	反対意見を述べるプレゼンテーションについて⑫	ペア・ワーク、グループ・ワーク	プレゼンテーションの準備
14	プレゼンテーションについて⑬	ペア・ワーク、グループ・ワーク	プレゼンテーションの準備
15	プレゼンテーション	プレゼンテーションを行う	プレゼンテーションの振り返り

関連科目	スピーキング＆ライティング IIa, IIb

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Smart Writing	Miyako Nakaya 他	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、発話活動等）　85% 共通課題　15%
学生へのメッセージ	英語で話す・書く活動をいっしょに楽しみましょう！
担当者の研究室等	７号館５階　杉浦研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングⅢｂ	科目名（英文）	Speaking and Writing III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	え
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松下　乃亜
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
到達目標	身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・2年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介、発表の担当決め	
2	Unit 7 Nate's Birthday 仮定法 Choose Topic for Presentation	リスニング、語句学習、サマリー ペアワーク、ライティング	フレーズの復習、暗記
3	Unit 7 Nate's Birthday 仮定法 Choose Topic for Presentation	リスニング、語句学習、サマリー ペアワーク、ライティング	フレーズの復習、暗記
4	Unit 8 Andy's Decision 現在完了形 Discuss Main Idea of Topic and Examples to Support Idea	リスニング、語句学習、サマリー ペアワーク、ライティング	フレーズの復習、暗記 要約へのフィードバック
5	Unit 8 Andy's Decision 現在完了形 Discuss Main Idea of Topic and Examples to Support Idea	リスニング、語句学習、サマリー ペアワーク、ライティング	フレーズの復習、暗記 発表のプリントの提出
6	Unit 9 Breakup with Nate 動名詞 Revise Idea and Examples for Presentation	リスニング、語句学習、サマリー ペアワーク、ライティング	フレーズの復習、暗記
7	Unit 9 Breakup with Nate 動名詞 Revise Idea and Examples for Presentation	リスニング、語句学習、サマリー ペアワーク、ライティング	フレーズの復習、暗記
8	Unit 10 The Dream Job can と can't の発音、受動態 Presentation of Outline	リスニング、語句学習、サマリー ペアワーク、ライティング	フレーズの復習、暗記
9	Unit 10 The Dream Job can と can't の発音、受動態 Presentation of Outline	リスニング、語句学習、サマリー ペアワーク、ライティング	フレーズの復習、暗記
10	Unit 11 Announcement at the Party 関係代名詞② Write First Draft	リスニング、語句学習、サマリー ペアワーク、ライティング	フレーズの復習、暗記
11	Unit 11 Announcement at the Party 関係代名詞② Write First Draft	リスニング、語句学習、サマリーペアワーク、ライティング	フレーズの復習、暗記
12	Unit 12 Andy's Final Choice 使役動詞 Revise the First Draft	リスニング、語句学習、サマリー ペアワーク、ライティング	フレーズの復習、暗記
13	Unit 12 Andy's Final Choice 使役動詞 Write Final Draft	リスニング、語句学習、サマリー ペアワーク、ライティング	フレーズの復習、暗記
14	発表	発表	発表
15	発表	発表	発表のフィードバックの提出

関連科目	スピーキング＆ライティング IIa, IIb

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Communicate in English with The Devil Wears Prada	Aline Brosh McKenna	松柏社

	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリント		
2	辞書		
3			

評価方法 （基準）	平常点（授業態度、宿題、発話活動等）８５％ 共通課題（プレゼンテーション）１５％
学生への メッセージ	当然ですが、日常生活で英語に触れる機会が増えれば、会話力が向上します。興味のあるニュースや音楽を見たり、聴いたりする機会を増やして下さい。日記やスケジュール帳などを英語で書いてみて下さい。 楽しみながら学習しましょう。 間違っても構わないのでどんどん積極的に話す機会や書く機会を作って下さい。それが上達への鍵です。
担当者の 研究室等	７号館２階 非常勤講師室 非常勤講師室における相談可能時間　水曜日１３時～１４時
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込、担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングⅢｂ	科目名（英文）	Speaking and Writing III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	お
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中野　阿佐子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
到達目標	身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・２年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の内容、進行に関する説明 Unit９の導入	テキスト持参
2	Unit９　感想を述べる	Unit９の表現の暗記と応用	予習・復習 小テストの準備
3	Unit１０　感謝の言葉	Unit１０の表現の暗記と応用	予習・復習 小テストの準備
4	Unit ９，１０の復習	表現のアウトプット練習	予習・復習 小テストの準備
5	Unit１１　恋愛の表現	Unit１１の表現の暗記と応用	予習・復習 小テストの準備
6	Unit１２　うわさ話をする	Unit１２の表現の暗記と応用	予習・復習 小テストの準備
7	Unit１１，１２の復習	表現のアウトプット練習	予習・復習 小テストの準備
8	確認テスト① テスト解説	Unit９～１２でここまでに学んだ表現の定着度を測る	予習・復習 小テストの準備
9	Unit１３　自然災害を報告する	Unit１３の表現の暗記と応用	予習・復習 小テストの準備
10	Unit１４　複数の文の活用	Unit１４の表現の暗記と応用	予習・復習 小テストの準備
11	Unit１３，１４の復習	表現のアウトプット練習	予習・復習 小テストの準備
12	Unit１５　病気に関連する表現	Unit１５の表現の暗記と応用	予習・復習 小テストの準備
13	複数の表現方法を学ぶ	用例の暗唱と応用	予習・復習 小テストの準備
14	Unit15の復習	表現のアウトプット練習	予習・復習 小テストの準備
15	確認テスト② テスト解説	ここまでに学んだ表現の定着度を測る	復習

関連科目：スピーキング＆ライティング IIa, IIb

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Email Talks	Hideo Takemura and Tamaki Otani	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、発話活動等）　85% 共通課題　15%
学生へのメッセージ	積極的な授業参加を期待します。 授業中の携帯の使用は認めません。辞書を持参するようにしてください。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師控室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングⅢｂ	科目名（英文）	Speaking and Writing III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	か
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	抽冬　紘和
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
到達目標	身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・2年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction Unit8 Speaking	個人ワーク グループワーク 講義 討論	リーディング予習 単語調べ
2	Unit8 Writing	個人ワーク グループワーク 講義 討論	リーディング予習 単語調べ
3	Unit 9 Speaking	個人ワーク グループワーク 講義 討論	リーディング予習 単語調べ
4	Unit 9 Writing	個人ワーク グループワーク 講義 討論	リーディング予習 単語調べ
5	Unit 10 Speaking	個人ワーク グループワーク 講義 討論	リーディング予習 単語調べ
6	Unit 10 Writing	個人ワーク グループワーク 講義 討論	リーディング予習 単語調べ
7	Unit 11 Speaking	個人ワーク グループワーク 講義 討論	リーディング予習 単語調べ
8	Unit 11 Writing	個人ワーク グループワーク 講義 討論	リーディング予習 単語調べ
9	Unit 12 Speaking	個人ワーク グループワーク 講義 討論	リーディング予習 単語調べ
10	Unit 12 Writing	個人ワーク グループワーク 講義 討論	リーディング予習 単語調べ
11	Unit 13 Speaking	個人ワーク グループワーク 講義 討論	リーディング予習 単語調べ
12	Unit 13 Writing	個人ワーク グループワーク 講義 討論	リーディング予習 単語調べ
13	Unit 14 Speaking	個人ワーク グループワーク 講義 討論	リーディング予習 単語調べ
14	Unit 14 Writing	個人ワーク グループワーク 講義 討論	リーディング予習 単語調べ
15	Unit 15 前期の総復習	個人ワーク グループワーク 講義 討論	リーディング予習 単語調べ

関連科目	スピーキング＆ライティング IIa, IIb

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	For and Against:Epressing opinions and exchanging ideas	Gillian Flaherty	成美堂
	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、発話活動等）　85% 共通課題　15%
学生への メッセージ	スピーキングとライティングに重点を置いた授業ですが、異文化コミュニケーションでも有効な能力を養うような授業にします。 あせらず、ゆっくりと毎週頑張っていきましょう。
担当者の 研究室等	７号館２階非常勤控室 連絡先:hirokazunukk@outlook.jp
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングⅢｂ	科目名（英文）	Speaking and Writing III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	き
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中道　英美子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
到達目標	身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・2年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション お花見、季節の行事	リスニング、　ライティング	スピーチ作成のための語彙を確認、 サンプルスピーチを聞く スピーチ原稿作成
2	お花見、季節の行事について スピーチをする	スピーチ 学生どうしのアセスメント	スピーチ原稿を暗記して発表練習を行う。
3	寿司、和食	リスニング、　ライティング	スピーチ作成のための語彙を確認、 サンプルスピーチを聞く スピーチ原稿作成
4	寿司、和食についてスピーチ をする	スピーチ 学生どうしのアセスメント	スピーチ原稿を暗記して発表練習を行う。
5	奈良の大仏、史跡	リスニング、　ライティング	スピーチ作成のための語彙を確認、 サンプルスピーチを聞く スピーチ原稿作成
6	奈良の大仏、史跡についてス ピーチをする	スピーチ 学生どうしのアセスメント	スピーチ原稿を暗記して発表練習を行う。
7	新幹線、交通機関を紹介する	リスニング、　ライティング	スピーチ作成のための語彙を確認、 サンプルスピーチを聞く スピーチ原稿作成
8	新幹線、交通機関についてス ピーチをする	スピーチ 学生どうしのアセスメント	スピーチ原稿を暗記して発表練習を行う。
9	コンビニ	リスニング、　ライティング	スピーチ作成のための語彙を確認、 サンプルスピーチを聞く スピーチ原稿作成
10	コンビニについてスピーチ をする	スピーチ 学生どうしのアセスメント	スピーチ原稿を暗記して発表練習を行う。
11	折り紙	リスニング、　ライティング	スピーチ作成のための語彙を確認、 サンプルスピーチを聞く スピーチ原稿作成
12	折り紙についてスピーチを する	スピーチ 学生どうしのアセスメント	スピーチ原稿を暗記して発表練習を行う。
13	日本の祭り	リスニング、　ライティング	スピーチ作成のための語彙を確認、 サンプルスピーチを聞く スピーチ原稿作成
14	日本の祭りについてスピー チする	スピーチ 学生どうしのアセスメント	スピーチ原稿を暗記して発表練習を行う。
15	まとめと復習		

関連科目：スピーキング＆ライティング IIa, IIb

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Speech Navigator 3	松下惠子	mpi 松香フォニックス
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、発話活動等）　85% 共通課題　15%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	スピーキング＆ライティングⅢｂ	科目名（英文）	Speaking and Writing III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	く
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	アレン　ニール
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
到達目標	身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・２年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Review Summer Plans	Pronunciation and comprehension practice, writing	Take home worksheets
2	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
3	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
4	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
5	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
6	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
7	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
8	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
9	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
10	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
11	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
12	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
13	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
14	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Pre-read the material for next class
15	Exercises	Pronunciation and comprehension practice, writing	Hand in extra reports, if needed

関連科目：スピーキング＆ライティング IIa, IIb

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Teacher Worksheets		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、発話活動等）　85% 共通課題　15%
学生へのメッセージ	In this class, we will look for new discoveries in terms of words and grammar in style that is familiar with English. We will think about and write down English sentences about familiar themes. I hope that you will actively work together with teams. このクラスでは、英語に精通したスタイルの単語や文法の新しい発見を探します。 私たちは身近なテーマについて考え、英語の文章を書き留めます。 私はあなたが積極的にチームと一緒に働くことを願っています。
担当者の研究室等	非常勤講師室（７号館２階） Part time teacher room (Building No. 7, 2nd floor)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	スペイン語Ⅱa	科目名（英文）	Spanish IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西村　初美
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この授業ではスペイン語の文法の基礎を学び、基本的な単語を覚え、聴く・話すことに重点をおいて授業を進めます。
到達目標	スペイン語で日常の簡単な会話ができるようになる。
授業方法と留意点	前期ではアルファベットと発音から始め，第７課まで学習する予定です。 受講にあたっては教科書、配布されたプリント等を持参すること。 ただし、以下の授業計画は目安であり、受講生の理解度により進度を調整することがあります。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定６級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	スペイン語とスペイン語圏についての概要の説明。 アルファベットと発音の解説。	授業後、スペイン語の発音の法則を確認し、声に出して練習する。
2	前回の復習 第１課	名詞、冠詞の解説。 動詞 hay の使い方。 「スペイン行きの飛行機の中」の会話。	授業後、名詞の性・数の法則を確認して覚える。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
3	前回の復習 第２課	人称代名詞の解説。 動詞 ser の使い方。 国や国籍、職業に関する語彙。 「はじめまして」の会話。	授業後、動詞 ser の使い方を確認する。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
4	前回の復習 第３課（前半）	動詞 estar の使い方。 スペインやスペイン語圏の学生についての話題。 「スペイン語を話しますか」の会話。	授業後、動詞 estar の使い方を確認する。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
5	前回の復習 第３課（後半）	直説法現在規則活用と使用頻度の高い語彙の解説。 スペインやスペイン語圏の学生についての話題。 「スペイン語を話しますか」の会話。	授業後、規則活用形を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
6	前回の復習 第４課（前半）	形容詞の解説。 直接目的語の解説。 食材や料理に関する語彙を説明。 「パエリャを作ろう」の会話。	授業後、形容詞の確認と語彙を覚えること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
7	前回の復習 第４課（後半）	動詞 ir と venir の解説。 スペイン料理の紹介。 「パエリャを作ろう」の会話。	授業後、各動詞の活用を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
8	学習内容の確認	文法および語彙・基本表現の確認テスト	授業前に第７回までに学習した文法および語彙、会話文での表現を総確認しておくこと。
9	第５課（前半）	動詞 saber と conocer の解説。 感嘆文の作り方。 交通手段に関する語彙の説明。 「アベはスペインの新幹線だ」の会話。	授業後、各動詞の活用と使い方を確認すること。語彙を覚えること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
10	前回の復習 第５課（後半）	動詞 hacer 型の解説。 指示形容詞、指示代名詞の解説。 「アベはスペインの新幹線だ」の会話。	授業後、hacer 型動詞の活用を確認をする。語彙を覚えること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
11	前回の復習 第６課(前半)	動詞 tener 型の解説。 スペインの代表的な祭りについての紹介。 「セビージャの春祭り」の会話。	授業後、tener 型動詞の活用を確認する。 基数を覚えること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
12	前回の復習 第６課（後半）	基数の説明。 副詞の使い方と作り方。 「セビージャの春祭り」の会話。	授業後、基数の確認し暗記すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
13	前回の復習 第７課（前半）	動詞 dar 型の解説。 目的格人称代名詞の解説。 「授業では課題が多い」の会話。	授業後、dar 型動詞の活用を確認し使えるようにすること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
14	前回の復習 第７課（後半）	動詞 gustar の解説。 不定語と否定語の使い方。 「授業では課題が多い」の会話。	授業後、gustar 動詞の用法を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
15	学習内容の確認	前期に学習した文法および語彙・基本表現の確認テスト。	授業前に前期に学習した文法や語彙・表現を総確認しておくこと。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スペイン語パスポート	西川　喬	弘学社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	西和中辞典	高垣ほか	小学館
2			
3			

評価方法 （基準）	一定程度進んだ段階で理解度確認テスト(30%)をする。 最終週に既習範囲を対象とする到達度確認テスト(60%)をする。 平常点(10%)と合わせて総合的に評価する。
学生への メッセージ	初めて学ぶ外国語は覚えることが多いですが、スペイン語は母音が日本語と同じなので発音は難しくありません。文法をマスターし語彙を増やすことで会話力を高めることができます。
担当者の 研究室等	7号館2階　非常勤講師控室
備考	事前・事後学修に各1時間を要する。

科目名	スペイン語Ⅱb	科目名（英文）	Spanish IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西村　初美
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この授業ではスペイン語の文法の基礎を学び、基本的な単語を覚え、聴く・話すことに重点をおいて授業を進めます。
到達目標	スペイン語で日常の簡単な会話ができるようになる。 スペイン語圏の文化に親しむ。
授業方法と留意点	後期では第８課から第１５課まで学習する予定です。 受講にあたっては教科書、配布されたプリント等を持参すること。 ただし、以下の授業計画は目安であり、受講生の理解度により進度を調整することがあります。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定６級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	前期の学習内容の確認 第８課（前半）	前期で学習したことの確認。 語幹母音変化動詞の活用。 基数。 「夏休み地中海ツアー」の会話。	授業前に前期で学習したことを総復習しておくこと。 授業後は動詞の活用の確認。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
2	前回の復習 第８課（後半） 第９課（前半）	時間の表現。 従属節についての解説。 「夏休み地中海ツアー」の会話。 月名、曜日と日付の表現。	授業後、時間の表現についての確認をすること。月名・曜日・日付に関する語彙を覚えること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
3	前回の復習 第９課（後半）	過去分詞の形と用法の解説。 直説法現在完了についての解説。 「風景のある村」の会話。	授業後、過去分詞と直説法現在完了の用法を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
4	前回の復習 第１０課（前半）	再帰動詞の用法の解説。 「タブラオでフラメンンコを見る」の会話。	授業後、再帰動詞の用法を確認する。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
5	前回の復習 第 10 課（後半）	非人称表現の解説。 estar 受動態の解説。 「タブラオでフラメンンコを見る」の会話。	授業後、非人称表現と estar 受動態の確認をすること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
6	前回の復習 第１１課	点過去規則活用と用法の解説。 現在分詞の用法の解説。 「スーパーでたくさん買ったけど」の会話。	授業後、点過去規則形の確認をすること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
7	前回の復習 第１２課	点過去不規則活用の解説。 天候の表現。 「スーパーでたくさん買ったけど」の会話。	授業後、動詞の活用を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
8	学習内容の確認	文法および語彙・基本表現の確認テスト	授業前に第７回までに学習した文法および語彙、会話文での表現を総確認しておくこと。
9	第１３課（前半）	線過去の活用と用法の解説。 点過去との相違点の説明。 「闘牛はスペインの伝統だ」の会話。	授業後、動詞の活用と用法を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
10	前回の復習 第１３課（後半）	形容詞・副詞の比較級についての解説。 「闘牛はスペインの伝統だ」の会話。	授業後、比較級の確認をすること。語彙を覚えること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
11	前回の復習 第１４課(前半)	直説法過去完了の用法についての解説。 スペインのバル事情。 「バルで一杯やろう」の会話。	授業後、過去完了の用法を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
12	前回の復習 第１４課（後半）	形容詞・副詞の最上級についての解説。 不定語と否定語。 「バルで一杯やろう」の会話。	授業後、形容詞・副詞の最上級を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
13	前回の復習 第１５課（前半）	直説法未来の活用と用法についての解説。 知覚動詞についての解説。 「バルセローナに行くつもり」の会話。	授業後、未来形の活用と知覚動詞の用法をを確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
14	前回の復習 第１５課（後半）	関係代名詞の解説。 「バルセローナに行くつもり」の会話。	授業後、関係代名詞の使い方を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
15	学習内容の確認	後期に学習した文法および語彙・基本表現の確認テスト。	授業前に後期に学習した文法や語彙・表現を総確認しておくこと。

関連科目：エリア・スタディーズ（ラテンアメリカ）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スペイン語パスポート』	西川　喬	弘学社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	西和中辞典	高垣ほか	小学館
2			
3			

評価方法 （基準）	一定程度進んだ段階で理解度確認テスト（３０％）をする。 最終週に既習範囲を対象とする到達度確認テスト（６０％）をする。 平常点（１０％）と合わせて総合的に評価する。
学生への メッセージ	今学期では、前期で学習したことをさらに進めて多くの表現ができるようになります。間違いを怖れず積極的に会話をしましょう。
担当者の 研究室等	7号館２階　非常勤講師控室
備考	事前・事後学修に各１時間を要する。

科目名	スペイン語Ⅲａ	科目名（英文）	Spanish IIIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	酒井　真梨奈
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	スペイン語は母音が日本語と同じで、日本人にとって発音は簡単です。あとは単語と文法をマスターするだけ。 この授業では文法の基礎を学び、基本的な単語を覚え、聴解力と会話力の増強を目指します。 なお、受講にあたっては、スペイン語Ⅰ、Ⅱの履修経験者がのぞましい。
到達目標	スペイン語の基本的な文法を学ぶことで、日常の簡単なやりとりができるようになる。
授業方法と留意点	受講に当たっては、教科書に加えて授業中に配布されたプリント等も持参すること。 前期では前年度のスペイン語Ⅱで使用したテキスト(『ディアロゴス 対話で学ぶスペイン語』)の第８課から始め、終わり次第新しいテキスト(『スペインの宝』)に入る予定です。なお、この新しいテキストはスペイン語Ⅳでも引き続き使います。 以下に記す授業計画は目安であり、受講生の理解度によって進度を調整することがあります。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定６級または５級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	これまでの学習内容の確認	スペイン語Ⅰ、Ⅱで習った文法事項や表現を復習する	授業後、復習した動詞の意味と活用の種類（規則・不規則・語幹母音変化等）を確認しておくこと。
2	テキスト『ディアロゴス 対話で学ぶスペイン語』 第８課（前半）	動詞 estar と hay（復習）、位置関係を示す前置詞 部屋の中にあるものを描写する	授業後、学習した前置詞の種類と用法を確認して、位置関係を示す語彙を覚えておくこと。
3	第８課（後半）	数詞（100 以上）、目的、手段、原因等を示す前置詞 住まいについて尋ねる・答える	授業後、数詞（100 以上）とよく使う前置詞の種類および用法を覚えておくこと。
4	第８課小テスト 第９課（前半）	第８課での学習事項の確認テスト 疑問詞、動詞 ser（復習） 時刻や日付を尋ねる、答える	授業後、月や曜日等、日付に関わる語彙と表現を覚えておくこと。
5	第９課（後半）	再帰動詞の基本的用法 日課について尋ねる、答える	授業後、再帰動詞の活用と用法を確認し、日課に関わるその他の動詞とともに覚えておくこと。
6	第９課小テスト 第１０課（前半）	第９課での学習事項の確認テスト 再帰動詞の派生的用法、無人称の se、序数 大学生活について話す	授業後、再帰動詞の様々な用法について確認し、序数を覚えておくこと。
7	第１０課（後半）	肯定命令文 公共施設でのマナーについて話す	授業後、肯定命令文のつくり方を確認し、10 課で習った動詞を覚えておくこと。
8	第１０課小テスト 第１１課（前半）	第１０課での学習事項の確認テスト 過去分詞、現在完了 娯楽について話す	授業後、現在完了形の活用と用法を確認し、趣味や娯楽に関わる語彙を覚えておくこと。
9	第１１課（後半）	動詞 gustar や再帰動詞の現在完了 旅行について話す	授業後、様々な動詞の現在完了の形を確認し、旅行に関連する語彙を覚えておくこと。
10	第１１課小テスト 第１２課（前半）	第１１課での学習事項の確認テスト 動詞 ir の様々な用法、不定詞の用法 休暇中の予定について話す	授業後、不定詞の使い方に関するルールを確認し、自分の休暇の予定についてスペイン語で書いてみること。
11	第１２課（後半）	前置詞句、よく使う動詞の復習 手紙やメールを書く	授業後、よく使う動詞の意味と活用および前置詞句を覚えておくこと。
12	第１２課小テスト 新テキスト『スペインの宝』 第１課～第４課	第１２課での学習事項の確認テスト 会話文の内容を確認し、単語を入れ替えるなどして、オリジナルの会話文をつくって発表する	授業前、『スペインの宝』の第１課～第４課までの会話文に目を通し、音読練習をする。
13	第５課～第８課	会話文の内容を確認し、単語を入れ替えるなどして、オリジナルの会話文をつくって発表する	授業前、第５課～第８課までの会話文に目を通し、音読練習をする。
14	第９課～１２課	会話文の内容を確認し、単語を入れ替えるなどして、オリジナルの会話文をつくって発表する	授業前、第９課～第１２課までの会話文に目を通し、音読練習をする。
15	学習内容の確認	前期に学習した文法および語彙・表現の確認テスト	授業前に、これまでに学習した文法や語彙・表現を総確認しておくこと。

関連科目：スペイン語Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ディアロゴス 対話で学ぶスペイン語	坂東省次 他	三修社
2	スペインの宝	福嶌教隆	同学社
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法：小テスト(35%)＋発表(15%)＋理解度確認テスト(50%)

（基準）	
学生への メッセージ	レアル vs バルサを現地で応援したい人、フラメンコを習いたい人、チリやスペインのワインに興味のある人、マヤの遺跡やマチュピチュ、ナスカを見てみたい人、将来リーガ・エスパニョーラでプレーしたい人、ぜひスペイン語をやりましょう。 2016 年度スペイン語Ⅰ・Ⅱの履修者は教科書『ディアロゴス』を改めて購入する必要はありません。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	事前・事後に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。

専門科目

科目名	スペイン語Ⅲｂ	科目名（英文）	Spanish IIIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西村　初美
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	テキスト『El tesoro de Espa?a 』 は、主人公である日本の若者がスペインを旅するストーリー性のある内容となっている。空港やホテル、各地での観光やお祭・食べ物等のエピソードを通して実際に現地で使えるスペイン語を学習する。
到達目標	スペイン語で基本的な会話ができるようになる。 スペイン語圏の文化に親しむ。
授業方法と留意点	後期では第１３課から第２４課まで学習する予定です。 受講にあたっては教科書、配布されたプリント等を持参すること。 ただし、以下の授業計画は目安であり、受講生の理解度により進度を調整することがある。
科目学習の効果（資格）	.

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	前期の確認と復習	第１課から第１２課までの内容を確認し復習する。	予習として、第１課から第１２課までの復習をしておくこと。
2	第１３課 第１４課	再帰動詞を使って。 「バスで」の会話。 「ホテルと探して」の会話。	予習として既習した再帰動詞の活用を確認しておくこと。 授業後、語彙を覚えること。会話文を声に出して繰り返し練習すること。
3	前回の確認 第１５課 第１６課	天候の表現。 動詞原形のはたらき。 過去分詞。現在完了形。 「牛追い」の会話。 「朝食をとりながら」の会話。	予習して既習した動詞原形・現在完了形を確認しておくこと。 授業後、語彙を覚えること。会話文を声に出して繰り返し練習すること。
4	前回の確認 第１７課	現在分詞についての解説。 比較級・最上級の解説。 「一郎の夢」の会話。	予習として、既習した現在分詞を比較級・最上級について確認しておくこと。 授業後、語彙を覚えること。会話文を声に出して繰り返し練習すること。
5	前回の確認 第１８課	点過去形規則動詞の活用と用法の解説。 「謎の老婦人は何者?」の会話。	予習として、点過去規則形の活用を確認すること。 授業後、語彙を覚えること。会話文を声に出して繰り返し練習すること。
6	前回の確認 第１９課	点過去形不規則動詞の活用。 「ゴンザレス氏も加わる」の会話。	予習として、既習した点過去不規則形の活用を確認すること。 授業後、語彙を覚えること。会話文を声に出して繰り返し練習すること。
7	前回の確認 第２０課	線過去形の活用と用法の解説。 「ラ・コンチャ海岸で」の会話。	予習として、既習した線過去形の活用を確認しておくこと。 授業後、語彙を覚えること。会話文を声に出して繰り返し練習すること。
8	学習内容の確認	第２１課までの理解度確認テスト。	第２０課までの文法・語彙を総確認しておくこと。
9	前回の確認 第２１課	未来形の活用と用法の解説。 「サンティアゴ・デ・コンポステラ」の会話。	予習として、既習した未来形の活用を確認しておくこと。 授業後、語彙を覚えること。会話文を声に出して繰り返し練習すること。
10	前の確認 第２２課（前半）	接続法現在形の規則動詞の活用と用法の解説。 接続法の単文。 「レンタカーで」の会話。	授業後、接続法現在形の活用を確認し、語彙を覚えること。会話文を声に出して繰り返し練習すること。
11	前回の確認 第２２課（後半） 第２３課（前半）	接続法現在形の不規則動詞と名詞節の解説。 「ガラスの街を通って」の会話。	授業後、接続法現在形の不規則の活用をを確認し、語彙を覚えること。会話文を声に出して繰り返し練習すること。
12	前回の確認 第２３課（後半） 第２４課（前半）	能動文と受動文についての解説。 接続法の副詞節・関係節の解説。 「ヘラクレスの塔の下で」の会話。	授業後、能動文と受動文を確認しておくこと。語彙を覚え、会話文を声に出して繰り返い練習すること
13	前回の確認 第２４課（後半）	接続法のまとめ。 動詞の時制のまとめ。	授業後、語彙を覚えること。会話文を声に出して繰り返し練習すること。
14	前回の確認 第１３課から第２４課までの確認と復習		
15	学習内容の確認	後期の理解度確認テスト	後期に学習した内容を総確認しておくこと。

関連科目：エリア・スタディーズ（ラテンアメリカ）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	El tesoro de Espana（スペインの宝）	福嶋　教隆	同学社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	西和中辞典	高垣ほか	小学館
2			
3			

評価方法 （基準）	一定程度進んだ段階で理解度確認テスト（３０％）をする。 最終週に既修範囲を対象とする到達度確認テスト（６０％）をする。 平常点（１０％）と合わせて総合的に評価する。
学生への メッセージ	新しい語彙や表現が増えてきますが、授業はゆっくり進めます。スペインの語だけではなく、スペインの風景や文化に触れながらコツコツ学習しましょう。
担当者の 研究室等	７号館２階　非常勤講師控室
備考	. 事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。

科目名	スペイン語応用Ｉ	科目名（英文）	Applied Spanish I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	磯野　吉美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	初めて習う外国語は覚えることが多く、暗記と理解に時間をかけてもなかなか定着しにくい。この授業では、「スペイン語入門 A、B、C」で学んだ文法知識を確認し、スペイン語文読解と練習問題をこなすことで理解を深め、記憶に定着させることを目指す。
到達目標	「スペイン語入門Ａ、Ｂ、Ｃ」で学んだばかりの内容に対応する豊富な練習問題に取組むことで、文法の基礎を着実に習得する。
授業方法と留意点	日本人学習者にはすぐに理解しにくい箇所を集中的に学習し、文法科目を補っていく。分からなかったことを恥ずかしいと思わず、理解が完全でないと思えば、どんどん疑問をぶつけてほしい。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定６級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション アルファベット 発音と文字の読み方	この授業の目指すところ 日本人の苦手な音	スペイン語圏の国 アルファベットを覚える
2	発音 音節分け 名詞の性と数	日本人の苦手な音 音節分けの練習 名詞の性の区別 複数形から単数形へ	発音練習 新出語彙の整理
3	冠詞 動詞 hay	不定冠詞と定冠詞 所在と存在の違い	名詞の性と数 新出語彙の整理と発音練習
4	主格人称代名詞 形容詞	人称とは何か 形容詞の語尾変化	新出語彙の整理と発音練習
5	estar, ser 動詞の直説法現在 基数１～２０	動詞活用とは何か 活用形の徹底 estar 動詞と ser 動詞の違い	活用形を覚える
6	直説法現在：規則活用	活用形から主語を知る 活用形の徹底	活用形を覚える
7	指示詞 直説法現在:一人称単数だけが不規則になる動詞	指示形容詞と指示代名詞の種類と使い方	名詞の性と数の復習
8	直説法現在：動詞 ir	動詞 ir の活用と用法	活用形を覚える
9	直説法現在:語幹母音変化動詞	活用形の徹底	活用形を覚える
10	不定詞 基数２０～１００	不定詞の用法	基数１～２０
11	直説法現在：動詞 tener 型 従属節	動詞 tener 型の活用と用法 従属節とは何か	活用形を覚える
12	時刻表現 前置詞格人称代名詞	時刻の尋ね方と答え方 前置詞	基数１～３０の復習 主格人称代名詞の復習
13	目的格人称代名詞 不定語と否定語	目的格代名詞の種類と使い方 不定語と否定語の種類と使い方	名詞の性・数の復習 形容詞の語尾変化の復習
14	疑問詞 曜日、月、日付の表現	疑問詞の種類と用法 名詞：曜日、月	基数１～３０の復習
15	まとめと復習 確認	理解度確認テスト	学習事項の総点検

関連科目	スペイン語入門Ａ、Ｂ、Ｃ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スペイン語圏への旅（El viaje al mundo hispanico）	大原志麻、花方寿行	同学社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	適宜、小テストを実施する。 小テスト 50% ＋理解度確認テスト 50%
学生へのメッセージ	初めての外国語の勉強は大変です。毎日、少しずつでも勉強しましょう。予習と復習は不可欠です。
担当者の研究室等	７号館２階 非常勤講師室
備考	事前・事後に各１時間の学修時間を要する。

科目名	スペイン語応用Ｉ	科目名（英文）	Applied Spanish I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林　安紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	初めて習う外国語は覚えることが多く、暗記と理解に時間をかけてもなかなか定着しにくい。この授業では、「スペイン語入門 A、B、C」で学んだ文法知識を確認し、スペイン語文読解と練習問題をこなすことで理解を深め、記憶に定着させることを目指す。
到達目標	「スペイン語入門Ａ、Ｂ、Ｃ」で学んだばかりの内容に対応する豊富な練習問題に取組むことで、文法の基礎を着実に習得する。
授業方法と留意点	日本人学習者にはすぐに理解しにくい箇所を集中的に学習し、文法科目を補っていく。分からなかったことを恥ずかしいと思わず、理解が完全でないと思えば、どんどん疑問をぶつけてほしい。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定６級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション アルファベット 発音と文字の読み方	この授業の目指すところ 日本人の苦手な音	スペイン語圏の国 アルファベットを覚える
2	発音 音節分け 名詞の性と数	日本人の苦手な音 音節分けの練習 名詞の性の区別 複数形から単数形へ	発音練習 新出語彙の整理
3	冠詞 動詞 hay	不定冠詞と定冠詞 所在と存在の違い	名詞の性と数 新出語彙の整理と発音練習
4	主格人称代名詞 形容詞	人称とは何か 形容詞の語尾変化	新出語彙の整理と発音練習
5	estar, ser 動詞の直説法現在 基数１～２０	動詞活用とは何か 活用形の徹底 estar 動詞と ser 動詞の違い	活用形を覚える
6	直説法現在：規則活用	活用形から主語を知る 活用形の徹底	活用形を覚える
7	指示詞 直説法現在:一人称単数だけが不規則になる動詞	指示形容詞と指示代名詞の種類と使い方	名詞の性と数の復習
8	直説法現在：動詞 ir	動詞 ir の活用と用法	活用形を覚える
9	直説法現在:語幹母音変化動詞	活用形の徹底	活用形を覚える
10	不定詞 基数２０～１００	不定詞の用法	基数１～２０
11	直説法現在：動詞 tener 型 従属節	動詞 tener 型の活用と用法 従属節とは何か	活用形を覚える
12	時刻表現 前置詞格人称代名詞	時刻の尋ね方と答え方 前置詞	基数１～３０の復習 主格人称代名詞の復習
13	目的格人称代名詞 不定語と否定語	目的格代名詞の種類と使い方 不定語と否定語の種類と使い方	名詞の性・数の復習 形容詞の語尾変化の復習
14	疑問詞 曜日、月、日付の表現	疑問詞の種類と用法 名詞：曜日、月	基数１～３０の復習
15	まとめと復習 確認	理解度確認テスト	学習事項の総点検

関連科目	スペイン語入門Ａ、Ｂ、Ｃ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スペイン語圏への旅（El viaje al mundo hispanico）	大原志麻、花方寿行	同学社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	適宜、小テストを実施する。 小テスト 50% ＋理解度確認テスト 50%
学生へのメッセージ	初めての外国語の勉強は大変です。毎日、少しずつでも勉強しましょう。予習と復習は不可欠です。
担当者の研究室等	７号館２階 非常勤講師室
備考	事前・事後に各１時間の学修時間を要する。

科目名	スペイン語応用Ⅱ	科目名（英文）	Applied Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	磯野　吉美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	前期と同じように、スペイン語文読解と文法の練習問題をとおして理解を深めるとともに、語彙力の増強をめざす。 習熟度別のクラス編成にする場合もある。
到達目標	「スペイン語基礎Ａ、Ｂ、Ｃ」で学んだばかりの内容に対応する豊富な練習問題に取組むことで、文法の基礎を着実に習得する。
授業方法と留意点	日本人学習者にはすぐに理解しにくい箇所を集中的に学習し、文法科目を補っていく。分からなかったことを恥ずかしいと思わず、理解が完全でないと思えば、どんどん疑問をぶつけてほしい。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定５級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	復習 gustar 型動詞	前期の復習	直説法現在の規則活用と不規則活用の確認 目的格代名詞の復習
2	天候表現 序数	天候状況の尋ね方と答え方	動詞 hacer, estar の活用の復習 形容詞の語尾変化
3	再帰動詞	自動詞と他動詞 さまざまな用法をとおして、ニュアンスをつかむ	形と用法
4	非人称表現 se の受身 基数１００以上	非人称表現の種類	基数１～１００の復習
5	直説法点過去（1） 関係代名詞（1）	直説法点過去の規則活用	活用形を覚える
6	関係代名詞（1）	先行詞とは 詞・句・節の違い	定冠詞 名詞の性・数
7	直説法点過去（2）	直説法点過去の不規則活用	活用形を覚える
8	関係詞代名詞（2） 直説法線過去	直説法線過去の規則活用と不規則活用 直説法点過去と直説法線過去の違い	活用形を覚える 点過去と線過去の使い分け
9	知覚・使役・放任の動詞 現在分詞	現在分詞の作り方と用法	目的格代名詞と再帰代名詞の復習
10	過去分詞 直説法現在完了	過去分詞の作り方と用法 直説法現在完了の用法	形容詞の語尾変化
11	直説法過去完了	直説法過去完了の用法	過去分詞 直説法過去完了、現在完了、点過去、線過去の使い分け
12	比較級	優等比較、劣等比較、同等比較	既出形容詞の意味と語尾変化の復習
13	最上級 直説法未来	最上級 比較級を用いない程度の表現 直説法未来の活用と用法	既出形容詞の意味と語尾変化の復習 活用形を覚える
14	直説法過去未来	直説法過去未来の活用と用法 直説法未来と直説法過去未来の違い	過去分詞 未来、過去未来、未来完了、過去未来完了の使い分け
15	まとめと復習 確認	理解度確認テスト	学習事項の総点検

関連科目：スペイン語基礎Ａ、Ｂ、Ｃ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スペイン語圏への旅　(El viaje al mundo hispanico)	大原志麻、花方寿行	同学社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	適宜、小テストを実施する。 小テスト　50% ＋ 理解度確認テスト 50%
学生へのメッセージ	夏休みの間のさびを落として、心機一転、がんばりましょう。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	事前・事後に各 60 分の学習を要する

科目名	スペイン語応用Ⅱ	科目名（英文）	Applied Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林　安紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	前期と同じように、スペイン語文読解と文法の練習問題をとおして理解を深めるとともに、語彙力の増強をめざす。 習熟度別のクラス編成にする場合もある。
到達目標	「スペイン語基礎Ａ、Ｂ、Ｃ」で学んだばかりの内容に対応する豊富な練習問題に取組むことで、文法の基礎を着実に習得する。
授業方法と留意点	日本人学習者にはすぐに理解しにくい箇所を集中的に学習し、文法科目を補っていく。分からなかったことを恥ずかしいと思わず、理解が完全でないと思えば、どんどん疑問をぶつけてほしい。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定５級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	復習 gustar 型動詞	前期の復習	直説法現在の規則活用と不規則活用の確認 目的格代名詞の復習
2	天候表現 序数	天候状況の尋ね方と答え方	動詞 hacer, estar の活用の復習 形容詞の語尾変化
3	再帰動詞	自動詞と他動詞 さまざまな用法をとおして、ニュアンスをつかむ	形と用法
4	非人称表現 se の受身 基数１００以上	非人称表現の種類	基数１～１００の復習
5	直説法点過去（1） 関係代名詞（1）	直説法点過去の規則活用	活用形を覚える
6	関係代名詞（1）	先行詞とは 詞・句・節の違い	定冠詞 名詞の性・数
7	直説法点過去（2）	直説法点過去の不規則活用	活用形を覚える
8	関係詞代名詞（2） 直説法線過去	直説法線過去の規則活用と不規則活用 直説法点過去と直説法線過去の違い	活用形を覚える 点過去と線過去の使い分け
9	知覚・使役・放任の動詞 現在分詞	現在分詞の作り方と用法	目的格代名詞と再帰代名詞の復習
10	過去分詞 直説法現在完了	過去分詞の作り方と用法 直説法現在完了の用法	形容詞の語尾変化
11	直説法過去完了	直説法過去完了の用法	過去分詞 直説法過去完了、現在完了、点過去、線過去の使い分け
12	比較級	優等比較、劣等比較、同等比較	既出形容詞の意味と語尾変化の復習
13	最上級 直説法未来	最上級 比較級を用いない程度の表現 直説法未来の活用と用法	既出形容詞の意味と語尾変化の復習 活用形を覚える
14	直説法過去未来	直説法過去未来の活用と用法 直説法未来と直説法過去未来の違い	過去分詞 未来、過去未来、未来完了、過去未来完了の使い分け
15	まとめと復習 確認	理解度確認テスト	学習事項の総点検

関連科目：スペイン語基礎Ａ、Ｂ、Ｃ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スペイン語圏への旅　(El viaje al mundo hispanico)	大原志麻、花方寿行	同学社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	適宜、小テストを実施する。 小テスト　50% ＋ 理解度確認テスト 50%
学生へのメッセージ	夏休みの間のさびを落として、心機一転、がんばりましょう。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	事前・事後に各 60 分の学習を要する

科目名	スペイン語オラルⅡA	科目名（英文）	Spanish Conversation IIA
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	アラセリ　コラール
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸に位置する広域かつ多様な一大文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語入門」で学んだばかりの文法の知識を活かしながら、時には「入門」より先回りすることもあるが、それは日常的によく使う表現をまずは身につけるためである。スペイン語を聞きとり、自分から積極的に話しかけることを楽しく感じてもらいたい。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な応答ができるようになることをめざす。 語彙力を着実に高めることが重要である。
授業方法と留意点	２グループに分けていずれもネイティブ教員が少人数指導を行う。 オラルⅠで使用した教科書を継続使用する。復習を交えながら３回で１課というペースで進めるが、受講生の理解度に応じ、授業計画の進度より前後することもある。 各課は日本の日常生活、そのスペイン語圏との類似点と相違点、動作を交えた表現、理解度確認からなっている。教員からの補足説明をもとに、スペイン語圏への関心を高めよう。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定５級 秋の暗唱大会に向けた詩の朗詠練習

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	スペイン語オラルⅠで学習したことの復習	既修の語彙と表現を用いた復習	スペイン語オラルⅠでの学習事項を総復習しておく。
2	Unidad 7 色々な習慣	再帰動詞の用法（現在）	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
3	Unidad 7 色々な習慣	再帰動詞の用法（現在完了）	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
4	Unidad 7 色々な習慣	スペイン語圏と他言語圏の習慣を比較する。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
5	Unidad 8 買い物に行く	形容詞の比較級	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
6	Unidad 8 買い物に行く	動詞 gustar を用いた表現 2 桁以上、大きな数字	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
7	Unidad 8 買い物に行く	店舗や品物の語彙、色や品質形容詞	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
8	理解度確認中間テスト 詩の朗詠練習	これまでの要点復習 詩の朗詠	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
9	Unidad 9 家族と友人	家族関係を表す語彙 動詞 tener を用いた年齢表現	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
10	Unidad 9 家族と友人	自分の家族を紹介する。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
11	Unidad 9 家族と友人	動詞 ser，estar の使い分け	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
12	Unidad 10 行事・お祭りとわたし	日本の年中行事 日本の若者と fiesta	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
13	Unidad 10 行事・お祭りとわたし	スペイン語諸国の祝祭	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
14	Unidad 10 行事・お祭りとわたし	自分が体験したい、人に見せたい祝祭について紹介しあう。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
15	これまでの総復習と目標達成度確認	理解度確認テストと総復習	これまでに学習した事項や表現の復習

関連科目：スペイン語基礎、スペイン語応用Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スペイン語とわたし－日本とスペイン語圏、くらべてコミュニケーション！－	Concha Moreno, Juan Carlos Moyano, Josefa Vivencos y Yoshimi Hiroyasu	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業への参加状況（３０％）、課題や小テスト（３０％）、理解度確認テスト（４０％）などから評価する。
学生への メッセージ	辞書をつねに携行すること。授業は欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的にコミュニケーションに取り組むこと。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。

科目名	スペイン語オラルⅡA	科目名（英文）	Spanish Conversation IIA
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	R
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	モンセラート　ロイデ
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸に位置する広域かつ多様な一大文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語入門」で学んだばかりの文法の知識を活かしながら、時には「入門」より先回りすることもあるが、それは日常的によく使う表現をまずは身につけるためである。スペイン語を聞きとり、自分から積極的に話しかけることを楽しく感じてもらいたい。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な応答ができるようになることをめざす。 語彙力を着実に高めることが重要である。
授業方法と留意点	２グループに分けていずれもネイティブ教員が少人数指導を行う。 オラルⅠで使用した教科書を継続使用する。復習を交えながら３回で１課というペースで進めるが、受講生の理解度に応じ、授業計画の進度より前後することもある。 各課は日本の日常生活、そのスペイン語圏との類似点と相違点、動作を交えた表現、理解度確認からなっている。教員からの補足説明をもとに、スペイン語圏への関心を高めよう。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定５級 秋の暗唱大会に向けた詩の朗詠練習

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	スペイン語オラルⅠで学習したことの復習	既修の語彙と表現を用いた復習	スペイン語オラルⅠでの学習事項を総復習しておく。
2	Unidad 7 色々な習慣	再帰動詞の用法（現在）	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
3	Unidad 7 色々な習慣	再帰動詞の用法（現在完了）	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
4	Unidad 7 色々な習慣	スペイン語圏と他言語圏の習慣を比較する。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
5	Unidad 8 買い物に行く	形容詞の比較級	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
6	Unidad 8 買い物に行く	動詞 gustar を用いた表現 2 桁以上、大きな数字	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
7	Unidad 8 買い物に行く	店舗や品物の語彙、色や品質形容詞	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
8	理解度確認中間テスト 詩の朗詠練習	これまでの要点復習 詩の朗詠	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
9	Unidad 9 家族と友人	家族関係を表す語彙 動詞 tener を用いた年齢表現	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
10	Unidad 9 家族と友人	自分の家族を紹介する。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
11	Unidad 9 家族と友人	動詞 ser，estar の使い分け	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
12	Unidad 10 行事・お祭りとわたし	日本の年中行事 日本の若者と fiesta	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
13	Unidad 10 行事・お祭りとわたし	スペイン語諸国の祝祭	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
14	Unidad 10 行事・お祭りとわたし	自分が体験したい、人に見せたい祝祭について紹介しあう。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
15	これまでの総復習と目標達成度確認	理解度確認テストと総復習	これまでに学習した事項や表現の復習

関連科目：スペイン語基礎、スペイン語応用Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スペイン語とわたし－日本とスペイン語圏、くらべてコミュニケーション！－	Concha Moreno, Juan Carlos Moyano, Josefa Vivencos y Yoshimi Hiroyasu	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業への参加状況（３０％）、課題や小テスト（３０％）、理解度確認テスト（４０％）などから評価する。
学生への メッセージ	辞書をつねに携行すること。授業は欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的にコミュニケーションに取り組むこと。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。

科目名	スペイン語オラルⅠ	科目名（英文）	Spanish Conversation Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	モンセラート　ロイデ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸に位置する広域かつ多様な一大文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語入門」で学んだばかりの文法の知識を活かしながら、時には「入門」より先回りすることもあるが、それは日常的によく使う表現をまずは身につけるためである。スペイン語を聞きとり、自分から積極的に話しかけることを楽しく感じてもらいたい。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な応答ができるようになることをめざす。
授業方法と留意点	２グループに分けていずれもネイティブ教員が少人数指導を行う。 教科書は各課６ページから成り、２回で１課というペースで進めるが、受講生の理解度に応じ、授業計画の進度より前後することもある。 各課は日本の日常生活、そのスペイン語圏との類似点と相違点、動作を交えた表現、理解度確認からなっている。教員からの補足説明をもとに、スペイン語圏への関心を高めよう。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定６級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unidad preliminar すでに知っているスペイン語のことば	授業の進め方についての説明 アルファベットと文字の発音 単語の発音練習 あいさつ表現	名詞の性と数について、入門の教科書でその説明部分を読んでおく。
2	Unidad preliminar スペイン語圏諸国の名前と位置、スペイン語圏に属する場所（遺跡や都市）の確認	教室で使うことば 級友とあいさつを交わす。 数字 1～10	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
3	Unidad 1 スポーツとわたし	主語代名詞 国名と国籍に関する語彙 その語尾変化に慣れる。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
4	Unidad 1 スポーツとわたし	つなぎの動詞 estar, ser の活用 名前や出身地を互いに紹介しあう。職業に関する語彙	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
5	Unidad 2 食べ物とわたし	食事に関する規則動詞と現在形の活用(-ar, -er, -ir) 定冠詞と不定冠詞 時刻の表現 食べ物についての語彙	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
6	Unidad 2 食べ物とわたし	レストラン、バル、カフェでのやりとりを練習する。 料理について説明する。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
7	Unidad 3 旅行とわたし	動詞 tener を用いて、日本の大学の学事日程、休暇の過ごし方、アルバイトについて説明する。日本の名所旧跡がどこにあるか解説する。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
8	Unidad 3 旅行とわたし 理解度確認中間テスト	頻用する重要動詞 haber, ir の不規則変化を覚える。 季節、方角を表す語彙	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
9	Unidad 4 音楽とわたし	動詞 gustar を用いて好きな音楽について語る。 様々な疑問詞を用いて尋ねる。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
10	Unidad 4 音楽とわたし	実際にスペイン語圏の音楽を聴き、説明を受ける。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
11	Unidad 5 趣味対仕事	職業を表す語彙、頻度を表す表現 スペイン語圏と日本の生活習慣の比較	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
12	Unidad 5 趣味対仕事	趣味について語り合う。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
13	Unidad 6 映画・演劇等とわたし	現在完了の時制を用いて、作品の鑑賞経験について尋ねたり答えたりする。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
14	Unidad 6 映画・演劇等とわたし	演劇や映画作品の一部を鑑賞する。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
15	これまでの総復習と目標達成度確認	理解度確認テストと総復習	これまでに学習した事項や表現の復習

関連科目：スペイン語入門、スペイン語応用Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スペイン語とわたし－日本とスペイン語圏、くらべてコミュニケーション！－	Concha Moreno,Juan Carlos Moyano, Josefa Vivencos y Yoshimi Hiroyasu	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			

評価方法 （基準）	授業への参加状況（３０％）、課題や小テスト（３０％）、理解度確認テスト（４０％）などから評価する。
学生への メッセージ	辞書をつねに携行すること。授業は欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的にコミュニケーションに取り組むこと。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。

科目名	スペイン語オラルⅠ	科目名（英文）	Spanish Conversation Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アラセリ　コラール
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸に位置する広域かつ多様な一大文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語入門」で学んだばかりの文法の知識を活かしながら、時には「入門」より先回りすることもあるが、それは日常的によく使う表現をまずは身につけるためである。スペイン語を聞きとり、自分から積極的に話しかけることを楽しく感じてもらいたい。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な応答ができるようになることをめざす。
授業方法と留意点	２グループに分けていずれもネイティブ教員が少人数指導を行う。 教科書は各課６ページから成り、２回で１課というペースで進めるが、受講生の理解度に応じ、授業計画の進度より前後することもある。 各課は日本の日常生活、そのスペイン語圏との類似点と相違点、動作を交えた表現、理解度確認からなっている。教員からの補足説明をもとに、スペイン語圏への関心を高めよう。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定６級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unidad preliminar すでに知っているスペイン語のことば	授業の進め方についての説明 アルファベットと文字の発音 単語の発音練習 あいさつ表現	名詞の性と数について、入門の教科書でその説明部分を読んでおく。
2	Unidad preliminar スペイン語圏諸国の名前と位置、スペイン語圏に属する場所（遺跡や都市）の確認	教室で使うことば 級友とあいさつを交わす。 数字 1～10	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
3	Unidad 1 スポーツとわたし	主語代名詞 国名と国籍に関する語彙 その語尾変化に慣れる。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
4	Unidad 1 スポーツとわたし	つなぎの動詞 estar, ser の活用 名前や出身地を互いに紹介しあう。職業に関する語彙	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
5	Unidad 2 食べ物とわたし	食事に関する規則動詞と現在形の活用(-ar, -er, -ir) 定冠詞と不定冠詞 時刻の表現 食べ物についての語彙	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
6	Unidad 2 食べ物とわたし	レストラン、バル、カフェでのやりとりを練習する。 料理について説明する。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
7	Unidad 3 旅行とわたし	動詞 tener を用いて、日本の大学の学事日程、休暇の過ごし方、アルバイトについて説明する。日本の名所旧跡がどこにあるか解説する。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
8	Unidad 3 旅行とわたし 理解度確認中間テスト	頻用する重要動詞 haber, ir の不規則変化を覚える。 季節、方角を表す語彙	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
9	Unidad 4 音楽とわたし	動詞 gustar を用いて好きな音楽について語る。 様々な疑問詞を用いて尋ねる。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
10	Unidad 4 音楽とわたし	実際にスペイン語圏の音楽を聴き、説明を受ける。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
11	Unidad 5 趣味対仕事	職業を表す語彙、頻度を表す表現 スペイン語圏と日本の生活習慣の比較	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
12	Unidad 5 趣味対仕事	趣味について語り合う。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
13	Unidad 6 映画・演劇等とわたし	現在完了の時制を用いて、作品の鑑賞経験について尋ねたり答えたりする。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
14	Unidad 6 映画・演劇等とわたし	演劇や映画作品の一部を鑑賞する。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
15	これまでの総復習と目標達成度確認	理解度確認テストと総復習	これまでに学習した事項や表現の復習

関連科目：スペイン語入門、スペイン語応用Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スペイン語とわたし－日本とスペイン語圏、くらべてコミュニケーション！－	Concha Moreno,Juan Carlos Moyano, Josefa Vivencos y Yoshimi Hiroyasu	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			

評価方法 （基準）	授業への参加状況（３０％）、課題や小テスト（３０％）、理解度確認テスト（４０％）などから評価する。
学生への メッセージ	辞書をつねに携行すること。授業は欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的にコミュニケーションに取り組むこと。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	授業の前に 1 時間、後に 1 時間の学習時間を要する。

科目名	スペイン語オラルⅡ	科目名（英文）	Spanish Conversation II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	アラセリ　コラール
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸に位置する広域かつ多様な一大文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語入門」で学んだばかりの文法の知識を活かしながら、時には「入門」より先回りすることもあるが、それは日常的によく使う表現をまずは身につけるためである。スペイン語を聞きとり、自分から積極的に話しかけることを楽しく感じてもらいたい。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な応答ができるようになることをめざす。 語彙力を着実に高めることが重要である。
授業方法と留意点	２グループに分けていずれもネイティブ教員が少人数指導を行う。 オラルⅠで使用した教科書を継続使用する。復習を交えながら３回で１課というペースで進めるが、受講生の理解度に応じ、授業計画の進度より前後することもある。 各課は日本の日常生活、そのスペイン語圏との類似点と相違点、動作を交えた表現、理解度確認からなっている。教員からの補足説明をもとに、スペイン語圏への関心を高めよう。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定５級 秋の暗唱大会に向けた詩の朗詠練習

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	スペイン語オラルⅠで学習したことの復習	既修の語彙と表現を用いた復習	スペイン語オラルⅠでの学習事項を総復習しておく。
2	Unidad 7 色々な習慣	再帰動詞の用法（現在）	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
3	Unidad 7 色々な習慣	再帰動詞の用法（現在完了）	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
4	Unidad 7 色々な習慣	スペイン語圏と他言語圏の習慣を比較する。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
5	Unidad 8 買い物に行く	形容詞の比較級	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
6	Unidad 8 買い物に行く	動詞 gustar を用いた表現 2 桁以上、大きな数字	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
7	Unidad 8 買い物に行く	店舗や品物の語彙、色や品質形容詞	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
8	理解度確認中間テスト 詩の朗詠練習	これまでの要点復習 詩の朗詠	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
9	Unidad 9 家族と友人	家族関係を表す語彙 動詞 tener を用いた年齢表現	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
10	Unidad 9 家族と友人	自分の家族を紹介する。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
11	Unidad 9 家族と友人	動詞 ser, estar の使い分け	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
12	Unidad 10 行事・お祭りとわたし	日本の年中行事 日本の若者と fiesta	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
13	Unidad 10 行事・お祭りとわたし	スペイン語諸国の祝祭	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
14	Unidad 10 行事・お祭りとわたし	自分が体験したい、人に見せたい祝祭について紹介しあう。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
15	これまでの総復習と目標達成度確認	理解度確認テストと総復習	これまでに学習した事項や表現の復習

関連科目：スペイン語基礎、スペイン語応用Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スペイン語とわたし－日本とスペイン語圏、くらべてコミュニケーション！－	Concha Moreno,Juan Carlos Moyano, Josefa Vivencos y Yoshimi Hiroyasu	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業への参加状況（３０％）、課題や小テスト（３０％）、理解度確認テスト（４０％）などから評価する。
学生への メッセージ	辞書をつねに携行すること。授業は欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的にコミュニケーションに取り組むこと。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。

科目名	スペイン語オラルⅡ	科目名（英文）	Spanish Conversation II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	モンセラート　ロイデ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸に位置する広域かつ多様な一大文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語入門」で学んだばかりの文法の知識を活かしながら、時には「入門」より先回りすることもあるが、それは日常的によく使う表現をまずは身につけるためである。スペイン語を聞きとり、自分から積極的に話しかけることを楽しく感じてもらいたい。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な応答ができるようになることをめざす。 語彙力を着実に高めることが重要である。
授業方法と留意点	２グループに分けていずれもネイティブ教員が少人数指導を行う。 オラルⅠで使用した教科書を継続使用する。復習を交えながら３回で１課というペースで進めるが、受講生の理解度に応じ、授業計画の進度より前後することもある。 各課は日本の日常生活、そのスペイン語圏との類似点と相違点、動作を交えた表現、理解度確認からなっている。教員からの補足説明をもとに、スペイン語圏への関心を高めよう。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定５級 秋の暗唱大会に向けた詩の朗詠練習

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	スペイン語オラルⅠで学習したことの復習	既修の語彙と表現を用いた復習	スペイン語オラルⅠでの学習事項を総復習しておく。
2	Unidad 7 色々な習慣	再帰動詞の用法（現在）	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
3	Unidad 7 色々な習慣	再帰動詞の用法（現在完了）	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
4	Unidad 7 色々な習慣	スペイン語圏と他言語圏の習慣を比較する。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
5	Unidad 8 買い物に行く	形容詞の比較級	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
6	Unidad 8 買い物に行く	動詞 gustar を用いた表現 2 桁以上、大きな数字	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
7	Unidad 8 買い物に行く	店舗や品物の語彙、色や品質形容詞	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
8	理解度確認中間テスト 詩の朗詠練習	これまでの要点復習 詩の朗詠	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
9	Unidad 9 家族と友人	家族関係を表す語彙 動詞 tener を用いた年齢表現	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
10	Unidad 9 家族と友人	自分の家族を紹介する。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
11	Unidad 9 家族と友人	動詞 ser, estar の使い分け	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
12	Unidad 10 行事・お祭りとわたし	日本の年中行事 日本の若者と fiesta	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
13	Unidad 10 行事・お祭りとわたし	スペイン語諸国の祝祭	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
14	Unidad 10 行事・お祭りとわたし	自分が体験したい、人に見せたい祝祭について紹介しあう。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
15	これまでの総復習と目標達成度確認	理解度確認テストと総復習	これまでに学習した事項や表現の復習

関連科目：スペイン語基礎、スペイン語応用Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スペイン語とわたし－日本とスペイン語圏、くらべてコミュニケーション！－	Concha Moreno,Juan Carlos Moyano, Josefa Vivencos y Yoshimi Hiroyasu	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業への参加状況（３０％）、課題や小テスト（３０％）、理解度確認テスト（４０％）などから評価する。
学生への メッセージ	辞書をつねに携行すること。授業は欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的にコミュニケーションに取り組むこと。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。

科目名	スペイン語オラルⅢ	科目名（英文）	Spanish Conversation III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	オラシオ　ゴメス
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	この授業で用いる教科書は、実践的会話力を養うための場面設定、言語運用能力を培うためのまとまりのある語彙と文法説明、文化社会的知識を深めるために読ませる文章という３つの局面から各課が構成されている。その都度、何を目的に学んでいるのか認識しながら学習を進めると効果的である。
到達目標	1年次に習得したスペイン語の基礎をもとに、いっそう複雑な会話表現ができるだけ正確にできるようにする。
授業方法と留意点	前半では、１年次に使用した教科書「Imaginatelo イラストで楽しもう、スペイン語！」を用いるため、必ず持参すること。 なお、受講生の理解度に応じ、授業計画の進度より早まったり、遅くなることもありうる。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定５級または４級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 前年度の復習	授業の進め方について Imaginatelo の Leccion 9 までの復習	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
2	Imaginatelo の Leccion 10	現在完了形を用いて、行ったことがある、食べたことがある等、経験を話す。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
3	Imaginatelo の Leccion 10	再帰受身、無人称文 南米の国々や地域について話す。 料理に使う動詞、食材、道順を聞くための語彙	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
4	Imaginatelo の Leccion 11	点過去を用いて、過去にしたことや旅行したこと等を話す。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
5	Imaginatelo の Leccion 11	点過去不規則動詞 ser/ir, venir, hacer, poder, ver を用いて、ラテンアメリカ原産の食材について話す。 過去の時を示す表現	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
6	Imaginatelo の Leccion 12	線過去を用いて、子どもの頃のことや旅行の思い出を話す。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
7	Imaginatelo の Leccion 12	点過去と線過去の使い分けを理解しつつ、スペインやラテンアメリカの祝祭・行事について話す。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
8	復習と確認	これまで習った範囲の復習テスト	復習
9	Entre amigos 2 の Unidad　1	現在進行形、現在分詞のその他の用法 学生生活、生活習慣について話す	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
10	Entre amigos 2 の Unidad　2	直説法点過去、関係詞 1 家族について話す	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
11	Entre amigos 2 の Unidad　3	直説法線過去 昔と今の比較について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
12	Entre amigos 2 の Unidad　4	直説法点過去と線過去 旅行報告について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
13	Entre amigos 2 の Unidad　5	過去分詞、直説法現在完了 余暇について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
14	Entre amigos 2 の Unidad　5	直説法現在完了、過去分詞のその他の用法 買い物、ファッションについて	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
15	総復習	理解度確認テスト	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。

関連科目：スペイン語の全科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Entre amigos 2 （総合スペイン語コース中級－改訂版－）	スペイン語教材研究会	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加状況、課題や小テスト ５０％、臨時試験の成績 ５０％から総合的に評価する。
学生へのメッセージ	辞書をつねに携行すること。授業に欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的に臨むこと。
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	.事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。

科目名	スペイン語オラルⅢ	科目名（英文）	Spanish Conversation III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ディアス　イバン
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	この授業で用いる教科書は、実践的会話力を養うための場面設定、言語運用能力を培うためのまとまりのある語彙と文法説明、文化社会的知識を深めるために読ませる文章という３つの局面から各課が構成されている。その都度、何を目的に学んでいるのか認識しながら学習を進めると効果的である。
到達目標	1年次に習得したスペイン語の基礎をもとに、いっそう複雑な会話表現ができるだけ正確にできるようにする。
授業方法と留意点	前半では、１年次に使用した教科書「Imaginatelo イラストで楽しもう、スペイン語！」を用いるため、必ず持参すること。 なお、受講生の理解度に応じ、授業計画の進度より早まったり、遅くなることもありうる。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定５級または４級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 前年度の復習	授業の進め方について Imaginatelo の Liccion 9 までの復習	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
2	Imaginatelo の Leccion 10	現在完了形を用いて、行ったことがある、食べたことがある等 、経験を話す。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
3	Imaginatelo の Leccion 10	再帰受身、無人称文 南米の国々や地域について話す。 料理に使う動詞、食材、道順を聞くための語彙	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
4	Imaginatelo の Leccion 11	点過去を用いて、過去にしたことや旅行したこと等を話す。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
5	Imaginatelo の Leccion 11	点過去不規則動詞 ser/ir, venir, hacer, poder, ver を用いて、ラテンアメリカ原産の食材について話す。 過去の時を表す表現	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
6	Imaginatelo の Leccion 12	線過去を用いて、子どもの頃のことや旅行の思い出を話す。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
7	Imaginatelo の Leccion 12	点過去と線過去の使い分けを理解しつつ、スペインやラテンアメリカの祝祭・行事について話す。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
8	復習と確認	これまで習った範囲の復習テスト	復習
9	Entre amigos 2 の Unidad　1	現在進行形、現在分詞のその他の用法 学生生活、生活習慣について話す	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
10	Entre amigos 2 の Unidad　2	直説法点過去、関係詞 1 家族について話す	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
11	Entre amigos 2 の Unidad　3	直説法線過去 昔と今の比較について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
12	Entre amigos 2 の Unidad　4	直説法点過去と線過去 旅行報告について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
13	Entre amigos 2 の Unidad　5	過去分詞、直説法現在完了 余暇について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
14	Entre amigos 2 の Unidad　5	直説法現在完了、過去分詞のその他の用法 買い物、ファッションについて	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
15	総復習	理解度確認テスト	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。

関連科目：スペイン語の全科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Entre amigos 2	スペイン語教材研究会	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加状況、課題や小テスト　５０％、臨時試験の成績　５０％から評価する。
学生へのメッセージ	辞書をつねに携行すること。授業に欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的に臨むこと。
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	.事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。

科目名	スペイン語オラルⅣ	科目名（英文）	Spanish Conversation Ⅳ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ディアス　イバン
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	前期と同し?教科書の後半をもとにして、この段階て?はより長い文章や文学作品、報道文なと?を読解し、自分なりの意見を述へ?る機会を多く設ける。 スヒ?ーチ・コンテストの準備にも時間を割く。
到達目標	1年次に習得したスペイン語の基礎とオラルで積み上げてきた会話表現力をもとに、いっそう複雑な内容をできるだけ正確に話したり理解したりできるようにする。
授業方法と留意点	受講生の理解度に応じ、授業計画の進度より早まったり、遅くなることもありうる。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定３級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	前期の学習内容の復習	前期の復習	前期に学習した文法事項や表現を見直す
2	Entre amigos 2 の Unidad　6	直説法未来、直説法未来完了 推測、求人について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
3	Entre amigos 2 の Unidad　6	直説法過去未来 確実性を示す表現について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
4	Entre amigos 2 の Unidad　7	直説法過去完了 家具と調度品について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
5	Entre amigos 2 の Unidad　7	直説法時制のまとめ １０年前のわが家について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
6	Entre amigos 2 の Unidad　8	命令形の用法１ 食べ物や単位について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
7	Entre amigos 2 の Unidad　8	無人称表現 体の動きについて	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
8	復習と確認	これまで学習した範囲の復習テスト?	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
9	Entre amigos 2 の Unidad　9	接続法現在の用法１ 政治や社会問題について?	スピーチコンテストの原稿を仕上げる。
10	Entre amigos 2 の Unidad　9	命令形の用法２、命令形の用法３ 依頼や命令を表す表現について	スピーチコンテストの原稿を暗記し、正しく発音する。
11	Entre amigos 2 の Unidad １０	接続法現在の用法２ 大きな数や地理について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
12	Entre amigos 2 の Unidad １０	接続法現在の用法３ 環境問題について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
13	Entre amigos 2 の Unidad １１	接続法現在の用法４ 事実と異なる仮定について?	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
14	Entre amigos 2 の Unidad １１	接続法過去 願望実現について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
15	学習内容の確認	理解度確認テスト	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。

関連科目	スペイン語の全科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Entre amigos 2	スペイン語教材研究会	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加状況・課題や小テスト（５０％）、臨時試験の成績（５０％）から評価する。
学生へのメッセージ	辞書をつねに携行すること。授業に欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的に臨むこと。語彙をどんどん豊かにする努力を重ねましょう。
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	.事前・事後学修に各1時間を要する。

科目名	スペイン語オラルⅣ	科目名（英文）	Spanish Conversation Ⅳ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	オラシオ　ゴメス
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	前期と同じ教科書の後半をもとにして、この段階ではより長い文章や文学作品、報道文などを読解し、自分なりの意見を述べる機会を多く設ける。スピーチ・コンテストの準備にも時間を割く。
到達目標	1年次に習得したスペイン語の基礎とオラルで積み上げてきた会話表現力をもとに、いっそう複雑な内容をできるだけ正確に話したり理解したりできるようにする。
授業方法と留意点	受講生の理解度に応じ、授業計画の進度より早まったり、遅くなることもありうる。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定４級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	前期の学習内容の復習	前期の復習	前期に学習した文法事項や表現を見直す
2	Entre amigos 2 の Unidad　6	直説法未来、直説法未来完了 推測、求人について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
3	Entre amigos 2 の Unidad　6	直説法過去未来 確実性を示す表現について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
4	Entre amigos 2 の Unidad　7	直説法過去完了 家具と調度品について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
5	Entre amigos 2 の Unidad　7	直説法時制のまとめ １０年前のわが家について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
6	Entre amigos 2 の Unidad　8	命令形の用法１ 食べ物や単位について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
7	Entre amigos 2 の Unidad　8	無人称表現 体の動きについて	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
8	復習と確認	これまで学習した範囲の復習テスト	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
9	Entre amigos 2 の Unidad　9	接続法現在の用法１ 政治や社会問題について	スピーチコンテストの原稿を仕上げる。
10	Entre amigos 2 の Unidad　9	命令形の用法２、命令形の用法３ 依頼や命令を表す表現について	スピーチコンテストの原稿を暗記し、正しく発音する。
11	Entre amigos 2 の Unidad １０	接続法現在の用法２ 大きな数や地理について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
12	Entre amigos 2 の Unidad １０	接続法現在の用法３ 環境問題について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
13	Entre amigos 2 の Unidad １１	接続法現在の用法４ 事実と異なる仮定について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
14	Entre amigos 2 の Unidad １１	接続法過去 願望実現について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
15	学習内容の確認	理解度確認テスト	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。

関連科目：スペイン語の全科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Entre amigos 2	スペイン語教材研究会	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加状況、課題や小テスト　５０％、臨時試験の成績　５０％から総合的に評価する。
学生へのメッセージ	辞書をつねに携行すること。授業に欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的に臨むこと。語彙をどんどん豊かにする努力を重ねましょう。
担当者の研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	.事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。

科目名	スペイン語オラルＩＡ	科目名（英文）	Spanish Conversation IA
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	Ｑ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	モンセラート　ロイデ
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸に位置する広域かつ多様な一大文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語入門」で学んだばかりの文法の知識を活かしながら、時には「入門」より先回りすることもあるが、それは日常的によく使う表現をまずは身につけるためである。スペイン語を聞きとり、自分から積極的に話しかけることを楽しく感じてもらいたい。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な応答ができるようになることをめざす。
授業方法と留意点	２グループに分けていずれもネイティブ教員が少人数指導を行う。 教科書は各課６ページから成り、２回で１課というペースで進めるが、受講生の理解度に応じ、授業計画の進度より前後することもある。 各課は日本の日常生活、そのスペイン語圏との類似点と相違点、動作を交えた表現、理解度確認からなっている。教員からの補足説明をもとに、スペイン語圏への関心を高めよう。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定６級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unidad preliminar すでに知っているスペイン語のことば	授業の進め方についての説明 アルファベットと文字の発音 単語の発音練習 あいさつ表現	名詞の性と数について、入門の教科書でその説明部分を読んでおく。
2	Unidad preliminar スペイン語圏諸国の名前と位置、スペイン語圏に属する場所（遺跡や都市）の確認	教室で使うことば 級友とあいさつを交わす。 数字 1～10	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
3	Unidad 1 スポーツとわたし	主語代名詞 国名と国籍に関する語彙 その語尾変化に慣れる。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
4	Unidad 1 スポーツとわたし	つなぎの動詞 estar, ser の活用 名前や出身地を互いに紹介しあう。職業に関する語彙	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
5	Unidad 2 食べ物とわたし	食事に関する規則動詞と現在形の活用(-ar, -er, -ir) 定冠詞と不定冠詞 時刻の表現 食べ物についての語彙	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
6	Unidad 2 食べ物とわたし	レストラン、バル、カフェでのやりとりを練習する。 料理について説明する。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
7	Unidad 3 旅行とわたし	動詞 tener を用いて、日本の大学の学事日程、休暇の過ごし方、アルバイトについて説明する。日本の名所旧跡がどこにあるか解説する。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
8	Unidad 3 旅行とわたし 理解度確認中間テスト	頻用する重要動詞 haber, ir の不規則変化を覚える。 季節、方角を表す語彙	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
9	Unidad 4 音楽とわたし	動詞 gustar を用いて好きな音楽について語る。 様々な疑問詞を用いて尋ねる。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
10	Unidad 4 音楽とわたし	実際にスペイン語圏の音楽を聴き、説明を受ける。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
11	Unidad 5 趣味対仕事	職業を表す語彙、頻度を表す表現 スペイン語圏と日本の生活習慣の比較	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
12	Unidad 5 趣味対仕事	趣味について語り合う。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
13	Unidad 6 映画・演劇等とわたし	現在完了の時制を用いて、作品の鑑賞経験について尋ねたり答えたりする。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
14	Unidad 6 映画・演劇等とわたし	演劇や映画作品の一部を鑑賞する。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
15	これまでの総復習と目標達成度確認	理解度確認テストと総復習	これまでに学習した事項や表現の復習

関連科目：スペイン語入門、スペイン語応用Ｉ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スペイン語とわたし－日本とスペイン語圏、くらべてコミュニケーション！－	Concha Moreno,Juan Carlos Moyano, Josefa Vivencos y Yoshimi Hiroyasu	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			

評価方法 （基準）	授業への参加状況（３０％）、課題や小テスト（３０％）、理解度確認テスト（４０％）などから評価する。
学生への メッセージ	辞書をつねに携行すること。授業は欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的にコミュニケーションに取り組むこと。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。

科目名	スペイン語オラルＩＡ	科目名（英文）	Spanish Conversation IA
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	R
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	アラセリ　コラール
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸に位置する広域かつ多様な一大文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語入門」で学んだばかりの文法の知識を活かしながら、時には「入門」より先回りすることもあるが、それは日常的によく使う表現をまずは身につけるためである。スペイン語を聞きとり、自分から積極的に話しかけることを楽しく感じてもらいたい。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な応答ができるようになることをめざす。
授業方法と留意点	２グループに分けていずれもネイティブ教員が少人数指導を行う。 教科書は各課６ページから成り、２回で１課というペースで進めるが、受講生の理解度に応じ、授業計画の進度より前後することもある。 各課は日本の日常生活、そのスペイン語圏との類似点と相違点、動作を交えた表現、理解度確認からなっている。教員からの補足説明をもとに、スペイン語圏への関心を高めよう。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定６級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unidad preliminar すでに知っているスペイン語のことば	授業の進め方についての説明 アルファベットと文字の発音 単語の発音練習 あいさつ表現	名詞の性と数について、入門の教科書でその説明部分を読んでおく。
2	Unidad preliminar スペイン語圏諸国の名前と位置、スペイン語圏に属する場所（遺跡や都市）の確認	教室で使うことば 級友とあいさつを交わす。 数字 1～10	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
3	Unidad 1 スポーツとわたし	主語代名詞 国名と国籍に関する語彙 その語尾変化に慣れる。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
4	Unidad 1 スポーツとわたし	つなぎの動詞 estar, ser の活用 名前や出身地を互いに紹介しあう。職業に関する語彙	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
5	Unidad 2 食べ物とわたし	食事に関する規則動詞と現在形の活用(-ar, -er, -ir) 定冠詞と不定冠詞 時刻の表現 食べ物についての語彙	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
6	Unidad 2 食べ物とわたし	レストラン、バル、カフェでのやりとりを練習する。 料理について説明する。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
7	Unidad 3 旅行とわたし	動詞 tener を用いて、日本の大学の学事日程、休暇の過ごし方、アルバイトについて説明する。日本の名所旧跡がどこにあるか解説する。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
8	Unidad 3 旅行とわたし 理解度確認中間テスト	頻用する重要動詞 haber, ir の不規則変化を覚える。 季節、方角を表す語彙	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
9	Unidad 4 音楽とわたし	動詞 gustar を用いて好きな音楽について語る。 様々な疑問詞を用いて尋ねる。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
10	Unidad 4 音楽とわたし	実際にスペイン語圏の音楽を聴き、説明を受ける。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
11	Unidad 5 趣味対仕事	職業を表す語彙、頻度を表す表現 スペイン語圏と日本の生活習慣の比較	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
12	Unidad 5 趣味対仕事	趣味について語り合う。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
13	Unidad 6 映画・演劇等とわたし	現在完了の時制を用いて、作品の鑑賞経験について尋ねたり答えたりする。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
14	Unidad 6 映画・演劇等とわたし	演劇や映画作品の一部を鑑賞する。	学習する部分３ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
15	これまでの総復習と目標達成度確認	理解度確認テストと総復習	これまでに学習した事項や表現の復習

関連科目：スペイン語入門、スペイン語応用Ｉ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スペイン語とわたし－日本とスペイン語圏、くらべてコミュニケーション！－	Concha Moreno,Juan Carlos Moyano, Josefa Vivencos y Yoshimi Hiroyasu	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			

評価方法 （基準）	授業への参加状況（３０％）、課題や小テスト（３０％）、理解度確認テスト（４０％）などから評価する。
学生への メッセージ	辞書をつねに携行すること。授業は欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的にコミュニケーションに取り組むこと。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	授業の前に 1 時間、後に 1 時間の学習時間を要する。

科目名	スペイン語オラルⅢA	科目名（英文）	Spanish Conversation IIIA
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	オラシオ　ゴメス
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この授業で用いる教科書は、実践的会話力を養うための場面設定、言語運用能力を培うためのまとまりのある語彙と文法説明、文化社会的知識を深めるために読ませる文章という３つの局面から各課が構成されている。その都度、何を目的に学んでいるのか認識しながら学習を進めると効果的である。
到達目標	1年次に習得したスペイン語の基礎をもとに、いっそう複雑な会話表現ができるだけ正確にできるようにする。
授業方法と留意点	前半では、１年次に使用した教科書「Imaginatelo イラストで楽しもう、スペイン語！」を用いるため、必ず持参すること。 なお、受講生の理解度に応じ、授業計画の進度より早まったり、遅くなることもありうる。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定５級または４級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 前年度の復習	授業の進め方について Imaginatelo の Leccion 9 までの復習	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
2	Imaginatelo の Leccion 10	現在完了形を用いて、行ったことがある、食べたことがある等、経験を話す。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
3	Imaginatelo の Leccion 10	再帰受身、無人称文 南米の国々や地域について話す。 料理に使う動詞、食材、道順を聞くための語彙	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
4	Imaginatelo の Leccion 11	点過去を用いて、過去にしたことや旅行したこと等を話す。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
5	Imaginatelo の Leccion 11	点過去不規則動詞 ser/ir, venir, hacer, poder, ver を用いて、ラテンアメリカ原産の食材について話す。 過去の時を示す表現	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
6	Imaginatelo の Leccion 12	線過去を用いて、子どもの頃のことや旅行の思い出を話す。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
7	Imaginatelo の Leccion 12	点過去と線過去の使い分けを理解しつつ、スペインやラテンアメリカの祝祭・行事について話す。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
8	復習と確認	これまで習った範囲の復習テスト	復習
9	Entre amigos 2 の Unidad　1	現在進行形、現在分詞のその他の用法 学生生活、生活習慣について話す	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
10	Entre amigos 2 の Unidad　2	直説法点過去、関係詞 1 家族について話す	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
11	Entre amigos 2 の Unidad　3	直説法線過去 昔と今の比較について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
12	Entre amigos 2 の Unidad　4	直説法点過去と線過去 旅行報告について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
13	Entre amigos 2 の Unidad　5	過去分詞、直説法現在完了 余暇について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
14	Entre amigos 2 の Unidad　5	直説法現在完了、過去分詞のその他の用法 買い物、ファッションについて	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
15	総復習	理解度確認テスト	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。

関連科目：スペイン語の全科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Entre amigos 2 （総合スペイン語コース中級－改訂版－）	スペイン語教材研究会	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加状況、課題や小テスト ５０％、臨時試験の成績 ５０％から総合的に評価する。
学生へのメッセージ	辞書をつねに携行すること。授業に欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的に臨むこと。
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	.事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。

科目名	スペイン語オラルⅢA	科目名（英文）	Spanish Conversation IIIA
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	R
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ディアス　イバン
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この授業で用いる教科書は、実践的会話力を養うための場面設定、言語運用能力を培うためのまとまりのある語彙と文法説明、文化社会的知識を深めるために読ませる文章という３つの局面から各課が構成されている。その都度、何を目的に学んでいるのか認識しながら学習を進めると効果的である。
到達目標	1年次に習得したスペイン語の基礎をもとに、いっそう複雑な会話表現ができるだけ正確にできるようにする。
授業方法と留意点	前半では、１年次に使用した教科書「Imaginatelo イラストで楽しもう、スペイン語！」を用いるため、必ず持参すること。 なお、受講生の理解度に応じ、授業計画の進度より早まったり、遅くなることもありうる。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定５級または４級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 前年度の復習	授業の進め方について Imaginatelo の Liccion 9 までの復習	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
2	Imaginatelo の Leccion 10	現在完了形を用いて、行ったことがある、食べたことがある等 、経験を話す。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
3	Imaginatelo の Leccion 10	再帰受身、無人称文 南米の国々や地域について話す。 料理に使う動詞、食材、道順を聞くための語彙	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
4	Imaginatelo の Leccion 11	点過去を用いて、過去にしたことや旅行したこと等を話す。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
5	Imaginatelo の Leccion 11	点過去不規則動詞 ser/ir, venir, hacer, poder, ver を用いて、ラテンアメリカ原産の食材について話す。 過去の時を表す表現	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
6	Imaginatelo の Leccion 12	線過去を用いて、子どもの頃のことや旅行の思い出を話す。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
7	Imaginatelo の Leccion 12	点過去と線過去の使い分けを理解しつつ、スペインやラテンアメリカの祝祭・行事について話す。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
8	復習と確認	これまで習った範囲の復習テスト	復習
9	Entre amigos 2 の Unidad　1	現在進行形、現在分詞のその他の用法 学生生活、生活習慣について話す	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
10	Entre amigos 2 の Unidad　2	直説法点過去、関係詞 1 家族について話す	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
11	Entre amigos 2 の Unidad　3	直説法線過去 昔と今の比較について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
12	Entre amigos 2 の Unidad　4	直説法点過去と線過去 旅行報告について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
13	Entre amigos 2 の Unidad　5	過去分詞、直説法現在完了 余暇について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
14	Entre amigos 2 の Unidad　5	直説法現在完了、過去分詞のその他の用法 買い物、ファッションについて	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
15	総復習	理解度確認テスト	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。

関連科目：スペイン語の全科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Entre amigos 2	スペイン語教材研究会	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加状況、課題や小テスト　５０％、臨時試験の成績　５０％から評価する。
学生へのメッセージ	辞書をつねに携行すること。授業に欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的に臨むこと。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	. 事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。

科目名	スペイン語オラルⅣＡ	科目名（英文）	Spanish Conversation IVA
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	Ｑ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ディアス　イバン
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	前期と同し?教科書の後半をもとにして、この段階て?はより長い文章や文学作品、報道文なと?を読解し、自分なりの意見を述へ?る機会を多く設ける。 スヒ?ーチ・コンテストの準備にも時間を割く。
到達目標	1年次に習得したスペイン語の基礎とオラルで積み上げてきた会話表現力をもとに、いっそう複雑な内容をできるだけ正確に話したり理解したりできるようにする。
授業方法と留意点	受講生の理解度に応じ、授業計画の進度より早まったり、遅くなることもありうる。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定３級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	前期の学習内容の復習	前期の復習	前期に学習した文法事項や表現を見直す
2	Entre amigos 2 の Unidad　6	直説法未来、直説法未来完了 推測、求人について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
3	Entre amigos 2 の Unidad　6	直説法過去未来 確実性を示す表現について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
4	Entre amigos 2 の Unidad　7	直説法過去完了 家具と調度品について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
5	Entre amigos 2 の Unidad　7	直説法時制のまとめ １０年前のわが家について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
6	Entre amigos 2 の Unidad　8	命令形の用法１ 食べ物や単位について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
7	Entre amigos 2 の Unidad　8	無人称表現 体の動きについて	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
8	復習と確認	これまで学習した範囲の復習テスト?	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
9	Entre amigos 2 の Unidad　9	接続法現在の用法１ 政治や社会問題について?	スピーチコンテストの原稿を仕上げる。
10	Entre amigos 2 の Unidad　9	命令形の用法２、命令形の用法３ 依頼や命令を表す表現について	スピーチコンテストの原稿を暗記し、正しく発音する。
11	Entre amigos 2 の Unidad １０	接続法現在の用法２ 大きな数や地理について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
12	Entre amigos 2 の Unidad １０	接続法現在の用法３ 環境問題について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
13	Entre amigos 2 の Unidad １１	接続法現在の用法４ 事実と異なる仮定について?	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
14	Entre amigos 2 の Unidad １１	接続法過去 願望実現について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
15	学習内容の確認	理解度確認テスト	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。

関連科目	スペイン語の全科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Entre amigos 2	スペイン語教材研究会	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加状況・課題や小テスト（５０％）、臨時試験の成績（５０％）から評価する。
学生へのメッセージ	辞書をつねに携行すること。授業に欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的に臨むこと。語彙をどんどん豊かにする努力を重ねましょう。
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	.事前・事後学修に各1時間を要する。

科目名	スペイン語オラルⅣA	科目名（英文）	Spanish Conversation IVA
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	R
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	オラシオ　ゴメス
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	前期と同じ教科書の後半をもとにして、この段階ではより長い文章や文学作品、報道文などを読解し、自分なりの意見を述べる機会を多く設ける。スピーチ・コンテストの準備にも時間を割く。
到達目標	1年次に習得したスペイン語の基礎とオラルで積み上げてきた会話表現力をもとに、いっそう複雑な内容をできるだけ正確に話したり理解したりできるようにする。
授業方法と留意点	受講生の理解度に応じ、授業計画の進度より早まったり、遅くなることもありうる。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定４級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	前期の学習内容の復習	前期の復習	前期に学習した文法事項や表現を見直す
2	Entre amigos 2 の Unidad　6	直説法未来、直説法未来完了 推測、求人について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
3	Entre amigos 2 の Unidad　6	直説法過去未来 確実性を示す表現について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
4	Entre amigos 2 の Unidad　7	直説法過去完了 家具と調度品について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
5	Entre amigos 2 の Unidad　7	直説法時制のまとめ １０年前のわが家について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
6	Entre amigos 2 の Unidad　8	命令形の用法１ 食べ物や単位について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
7	Entre amigos 2 の Unidad　8	無人称表現 体の動きについて	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
8	復習と確認	これまで学習した範囲の復習テスト	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
9	Entre amigos 2 の Unidad　9	接続法現在の用法１ 政治や社会問題について	スピーチコンテストの原稿を仕上げる。
10	Entre amigos 2 の Unidad　9	命令形の用法２、命令形の用法３ 依頼や命令を表す表現について	スピーチコンテストの原稿を暗記し、正しく発音する。
11	Entre amigos 2 の Unidad １０	接続法現在の用法２ 大きな数や地理について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
12	Entre amigos 2 の Unidad １０	接続法現在の用法３ 環境問題について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
13	Entre amigos 2 の Unidad １１	接続法現在の用法４ 事実と異なる仮定について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
14	Entre amigos 2 の Unidad １１	接続法過去 願望実現について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
15	学習内容の確認	理解度確認テスト	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。

関連科目：スペイン語の全科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Entre amigos 2	スペイン語教材研究会	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加状況、課題や小テスト　５０％、臨時試験の成績　５０％から総合的に評価する。
学生へのメッセージ	辞書をつねに携行すること。授業に欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的に臨むこと。語彙をどんどん豊かにする努力を重ねましょう。
担当者の研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	. 事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。

科目名	スペイン語オラルⅤ	科目名（英文）	Spanish Conversation Ⅴ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	Ｑ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	モンセラート　ロイデ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	２年次までに習得したスペイン語力を基礎として、意思疎通はもちろんのこと、多様な視点から基本的知識を養い、議論ができる会話能力を身につけることをめざす。スペイン語圏以外で用いられているスペイン語について知り、外国語としてのスペイン語教育の現状、世界におけるスペイン語の現状と展望について理解を深める。接続法の理解と正確な運用をも目標とする。
到達目標	日常会話よりも深い内容の対話ができるようになる。そのために、テーマについて予め調べ、新しい知識についてスペイン語で説明したり、質問したりすることをめざす。
授業方法と留意点	積極的な授業参加、発言を期待する。 扱うテーマは学生の興味関心に応じて変更することもあり得る。
科目学習の効果（資格）	スペイン語での詩の暗誦やスピーチを滑らかに行えること。 スペイン語検定４級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	El espanol fuera del mundo hispanico (1)	El espanol en Brasil	公用語圏以外でスペイン語が使用される地域について調べておくこと
2	El espanol fuera del mundo hispanico (2)	El espanol en la historia de los Estados Unidos	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
3	El espanol fuera del mundo hispanico (3)	Los hispanos de los Estados Unidos	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
4	El espanol fuera del mundo hispanico (4)	La convivencia del espanol y el ingles en los Estados Unidos	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
5	El espanol fuera del mundo hispanico (5)	La lengua de la diaspora	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
6	El espanol fuera del mundo hispanico (6)	Hablantes de espanol en la Union Europea	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
7	Geografia de la ensenanza del espanol	El espanol como lengua extranjera	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
8	Geografia de la ensenanza del espanol	El Hispanismo en el mundo	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
9	Geoeconomia del espanol	Fundamentos demograficos del espanol	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
10	Geoeconomia del espanol	Tendencias del espanol	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
11	Geoeconomia del espanol	La economia del espanol	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
12	Geoeconomia del espanol	El espanol y la sociedad del conocimiento	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
13	Politicas linguisticas	Las lenguas indigenas de America Latina y la educacion intercultural	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
14	Politicas linguisticas	El catalan, el gallego y el vascuense (euskera) en relacion con el castellano	発表の準備
15	Repaso y presentacion individual	発表と批評、理解度確認テスト	――――

関連科目	スペイン語通訳ガイドⅠ、映画のスペイン語Ⅱ、スペイン語文章構成Ⅲ、スペイン語通訳Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業における参加状況・発表（５０％）、課題や理解度確認テストの成績（５０％）から総合的に評価する。
学生へのメッセージ	資料を必ず読みこなし、基本的語彙を調べた上で授業に臨むこと。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。

科目名	スペイン語オラルⅤ	科目名（英文）	Spanish Conversation Ⅴ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アラセリ　コラール
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	2年次までに習得したスペイン語力を基礎として、意思疎通はもちろんのこと、多様な視点から基本的知識を養い、議論ができる会話能力を身につけることをめざす。スペイン語圏以外で用いられているスペイン語について知り、外国語としてのスペイン語教育の現状、世界におけるスペイン語の現状と展望について理解を深める。接続法の理解と正確な運用をも目標とする。
到達目標	日常会話よりも深い内容の対話ができるようになる。そのために、テーマについて予め調べ、新しい知識についてスペイン語で説明したり、質問したりすることをめざす。
授業方法と留意点	積極的な授業参加、発言を期待する。 扱うテーマは学生の興味関心に応じて変更することもあり得る。
科目学習の効果（資格）	スペイン語での詩の暗誦やスピーチを滑らかに行えること。 スペイン語検定４級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	El espanol fuera del mundo hispanico (1)	El espanol en Brasil	公用語圏以外でスペイン語が使用される地域について調べておくこと
2	El espanol fuera del mundo hispanico (2)	El espanol en la historia de los Estados Unidos	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
3	El espanol fuera del mundo hispanico (3)	Los hispanos de los Estados Unidos	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
4	El espanol fuera del mundo hispanico (4)	La convivencia del espanol y el ingles en los Estados Unidos	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
5	El espanol fuera del mundo hispanico (5)	La lengua de la diaspora	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
6	El espanol fuera del mundo hispanico (6)	Hablantes de espanol en la Union Europea	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
7	Geografia de la ensenanza del espanol	El espanol como lengua extranjera	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
8	Geografia de la ensenanza del espanol	El Hispanismo en el mundo	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
9	Geoeconomia del espanol	Fundamentos demograficos del espanol	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
10	Geoeconomia del espanol	Tendencias del espanol	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
11	Geoeconomia del espanol	La economia del espanol	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
12	Geoeconomia del espanol	El espanol y la sociedad del conocimiento	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
13	Politicas linguisticas	Las lenguas indigenas de America Latina y la educacion intercultural	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
14	Politicas linguisticas	El catalan, el gallego y el vascuense (euskera) en relacion con el castellano	発表の準備
15	Repaso y presentacion individual	発表と批評、理解度確認テスト	――――

関連科目	スペイン語通訳ガイドⅠ、映画のスペイン語Ⅱ、スペイン語文章構成Ⅲ、スペイン語通訳Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業における参加状況・発表、課題（５０％）や理解度確認テストの成績（５０％）から総合的に評価する。
学生へのメッセージ	資料を必ず読みこなし、基本的語彙を調べた上で授業に臨むこと。事前・事後学修に各１時間を要する。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。

科目名	スペイン語オラルVI	科目名（英文）	Spanish Conversation VI
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	アラセリ　コラール
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	スペイン語圏以外で用いられているスペイン語について知り、外国語としてのスペイン語教育の現状、世界におけるスペイン語の現状と展望について理解を深める。接続法の理解と正確な運用をも目標とする。
到達目標	2年次までに習得したスペイン語力を基礎として、意思疎通はもちろんのこと、多様な視点から基本的知識を養い、議論ができる会話能力を身につけることをめざす。
授業方法と留意点	積極的な授業参加、発言を期待する。 扱うテーマは学生の興味関心に応じて変更することもあり得る。
科目学習の効果（資格）	スペイン語での詩の暗誦やスピーチを滑らかに行えること。 スペイン語検定３級（とりわけ留学帰国者）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	El espanol fuera del mundo hispanico (1)	El espanol en Brasil	公用語圏以外でスペイン語が使用される地域について調べておくこと
2	El espanol fuera del mundo hispanico (2)	El espanol en la historia de los Estados Unidos	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
3	El espanol fuera del mundo hispanico (3)	Los hispanos de los Estados Unidos	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
4	El espanol fuera del mundo hispanico (4)	La convivencia del espanol y el ingles en los Estados Unidos	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
5	El espanol fuera del mundo hispanico (5)	La lengua de la diaspora	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
6	El espanol fuera del mundo hispanico (6)	Hablantes de espanol en la Union Europea	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
7	Geografia de la ensenanza del espanol	El espanol como lengua extranjera	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
8	Geografia de la ensenanza del espanol	El Hispanismo en el mundo	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
9	Geoeconomia del espanol	Fundamentos demograficos del espanol	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
10	Geoeconomia del espanol	Tendencias del espanol	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
11	Geoeconomia del espanol	La economia del espanol	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
12	Geoeconomia del espanol	El espanol y la sociedad del conocimiento	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
13	Politicas linguisticas	Las lenguas indigenas de America Latina y la educacion intercultural	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
14	Politicas linguisticas	El catalan, el gallego y el vascuense (euskera) en relacion con el castellano	発表の準備
15	Repaso y presentacion individual	発表と批評、理解度確認テスト	――――――

関連科目	スペイン語通訳Ⅱ、スペイン語文章構成Ⅳ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業における参加状況・発表、課題（５０％）や理解度確認テストの成績（５０％）から総合的に評価する。
学生へのメッセージ	資料を必ず読みこなし、基本的語彙を調べた上で授業に臨むこと。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	事前・事後学修に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。

科目名	スペイン語オラルVI	科目名（英文）	Spanish Conversation VI
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	R
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	モンセラート　ロイデ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	スペイン語圏以外で用いられているスペイン語について知り、外国語としてのスペイン語教育の現状、世界におけるスペイン語の現状と展望について理解を深める。接続法の理解と正確な運用をも目標とする。
到達目標	2年次までに習得したスペイン語力を基礎として、意思疎通はもちろんのこと、多様な視点から基本的知識を養い、議論ができる会話能力を身につけることをめざす。
授業方法と留意点	積極的な授業参加、発言を期待する。 扱うテーマは学生の興味関心に応じて変更することもあり得る。
科目学習の効果（資格）	スペイン語での詩の暗誦やスピーチを滑らかに行えること。 スペイン語検定３級（とりわけ留学帰国者）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	El espanol fuera del mundo hispanico (1)	El espanol en Brasil	公用語圏以外でスペイン語が使用される地域について調べておくこと
2	El espanol fuera del mundo hispanico (2)	El espanol en la historia de los Estados Unidos	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
3	El espanol fuera del mundo hispanico (3)	Los hispanos de los Estados Unidos	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
4	El espanol fuera del mundo hispanico (4)	La convivencia del espanol y el ingles en los Estados Unidos	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
5	El espanol fuera del mundo hispanico (5)	La lengua de la diaspora	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
6	El espanol fuera del mundo hispanico (6)	Hablantes de espanol en la Union Europea	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
7	Geografia de la ensenanza del espanol	El espanol como lengua extranjera	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
8	Geografia de la ensenanza del espanol	El Hispanismo en el mundo	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
9	Geoeconomia del espanol	Fundamentos demograficos del espanol	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
10	Geoeconomia del espanol	Tendencias del espanol	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
11	Geoeconomia del espanol	La economia del espanol	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
12	Geoeconomia del espanol	El espanol y la sociedad del conocimiento	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
13	Politicas linguisticas	Las lenguas indigenas de America Latina y la educacion intercultural	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
14	Politicas linguisticas	El catalan, el gallego y el vascuense (euskera) en relacion con el castellano	発表の準備
15	Repaso y presentacion individual	発表と批評、理解度確認テスト	――――――

関連科目	スペイン語通訳Ⅱ、スペイン語文章構成Ⅳ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業における参加状況・発表、課題（５０％）や理解度確認テストの成績（５０％）から総合的に評価する。
学生へのメッセージ	資料を必ず読みこなし、基本的語彙を調べた上で授業に臨むこと。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	事前・事後学修に各１時間を要する。

科目名	スペイン語オラルⅦ	科目名（英文）	Spanish Conversation VII
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	オラシオ　ゴメス
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	3年次までに習得したスペイン語力をもとに、多様な視点からスペイン語圏についての基本的知識を養い、意見交換のできるコミュニケーション力を培うことをめざす。スペイン語圏世界の成立を歴史的に理解できるよう導くことから始め、スペインとイスパノアメリカ双方の歴史、文化、政治を主なテーマとする。
到達目標	スペイン語で意思疎通を抵抗なく図れるようになるとともに、スペイン語圏についての関心を高く持ち、日本の歴史や文化についてもスペイン語で説明できるようになる。
授業方法と留意点	理解度に合わせて進度や内容を調節するが、スペインとイスパノアメリカとの関係を歴史的に眺めることから始める。広くスペイン語圏の政治社会、文化、映画、音楽といったテーマを取り上げる。
科目学習の効果（資格）	スペイン語での詩の暗誦やスピーチを滑らかに行えること。 スペイン語検定３級（とりわけ留学帰国者）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Espana conquistada y colonizada por Roma y el Islam	古代・中世スペインの歴史	スペイン史の古代と中世の部分を日本語で読んでおく
2	Sefarad y Al Andalus	イスラム文化の影響	事前に配布された資料の熟読
3	America en 1492	「抵抗の 500 年」の始まりと先住民文明	事前に配布された資料の熟読
4	Espana conquistadora	征服の時代	事前に配布された資料の熟読
5	Afroindoiberoamerica	メスティサヘ	事前に配布された資料の熟読
6	El maiz y el trigo	主食穀物の交流	事前に配布された資料の熟読
7	La papa y el cacao	アメリカからせ階に伝播した作物	事前に配布された資料の熟読
8	Bernardino de Sahagun y la evangelizaci?n de Am?rica	魂の征服	事前に配布された資料の熟読
9	Geografia economica: mineria y petroleo	アメリカにおける資源開発	事前に配布された資料の熟読
10	Bolivar y la independencia de America	ラテンアメリカ諸国の独立	事前に配布された資料の熟読
11	El largo siglo barroco. 1898. 1936. Otras separaciones de Espana	スペインの近現代史	事前に配布された資料の熟読
12	America para los USamericanos?	米州における米国の覇権	事前に配布された資料の熟読
13	Nuevos gobiernos latinoamericanos	ラテンアメリカの政治改革	事前に配布された資料の熟読
14	Nuevos gobiernos latinoamericanos	ラテンアメリカの政治改革	発表の準備
15	Repaso	総復習と個人発表、理解度確認テスト	総復習

関連科目	スペイン語通訳ガイド(留学期間中に３年生で受講できなかった者は４年生の前･後期に受講することを推奨します)、メディアのスペイン語Ⅰ（旧カリ）、現代ラテンアメリカ論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業における参加状況・発表、課題提出　５０％、理解度確認テスト　５０％をもとに総合的に評価する。
学生へのメッセージ	教材は事前に配布します。資料に必ず目を通し、基本的語彙を調べた上で授業に出席すること。事前・事後学修に各１時間を要する。 扱うテーマには履修者の関心も取り入れます。
担当者の研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。

科目名	スペイン語オラルⅧ	科目名（英文）	Spanish Conversation VIII
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	オラシオ　ゴメス
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	4年次前期までに習得したスペイン語力をもとに、多様な視点からスペイン語圏についての基本的知識を養い、意見交換のできるコミュニケーション力を培うことをめざす。主にイスパノアメリカ各国の現状を題材とする。
到達目標	スペイン語で意思疎通を抵抗なく図れるようになるとともに、スペイン語圏についての関心を高く持ち、日本の歴史や文化についてもスペイン語で発信できるようになる。
授業方法と留意点	スペイン語圏のもつ現代的課題と可能性について、授業を通じて理解を深めてもらいたい。いかなる質問も大歓迎です。
科目学習の効果（資格）	スペイン語による詩の暗誦やスピーチを滑らかに行えること。 スペイン語検定３級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Caribe: el Mediterraneo americano	カリブ世界	カリブ海地域について日本語で読んでおく
2	Cuba: sobrevivira el castrismo?	キューバ・カストロ政治の行方	事前に配布された資料の熟読
3	Los paises de NAFTA. El espanol en los EE.UU. Mexico y migracion	北米自由貿易協定	事前に配布された資料の熟読
4	Los paises de CAFTA	中米自由貿易協定	事前に配布された資料の熟読
5	Guatemala: larga guerra sucia contra el pueblo maya	グアテマラにおけるマヤ先住民族の虐殺	事前に配布された資料の熟読
6	La Bolivia de Evo Morales	モラレス政権下のボリビア	事前に配布された資料の熟読
7	Paises del Mercosur	南米南部共同市場諸国	事前に配布された資料の熟読
8	La Venezuela y el chavismo	マドゥロ政権下のベネズエラ	事前に配布された資料の熟読
9	Primeras mujeres presidentas en America Latina	ラテンアメリカ初の女性大統領	事前に配布された資料の熟読
10	Colombia luego de la guerra contra el narcotrafico	麻薬戦争後のコロンビア	事前に配布された資料の熟読
11	La Argentina peronista	アルゼンチン政治とペロン党	事前に配布された資料の熟読
12	La Raza Cosmica: el mestizaje de America	「宇宙的人種」、アメリカのメスティサへ	事前に配布された資料の熟読
13	Espana y America Latina	スペインとラテンアメリカの関係	事前に配布された資料の熟読
14	Espana y la Union Europea	欧州連合の中のスペイン	発表の準備
15	Repaso	総復習と個人発表または達成度確認テスト	総復習

関連科目	スペイン語通訳ガイド（留学期間中に３年生で受講できなかった者は今学期に積極的に受講することを推奨します。日本文化についての知識を深め、それをスペイン語で説明できることをめざしてください）、メディアのスペイン語Ⅲ、現代ラテンアメリカ論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業における参加状況、課題への取組み　５０％、達成度確認テスト５０％から総合的に評価する。
学生へのメッセージ	教材を事前に配布します。資料に必ず目を通し、基本的語彙を調べた上で授業に臨むこと。 扱うテーマには履修者の関心も取り入れます。
担当者の研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。

科目名	スペイン語学	科目名（英文）	Spanish Language Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	安達　直樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	スペイン語を言語学的に考える。 講義内容は、言語の内面の分析（音声・音韻、形態、統語）を中心とするが、外面の分析（言語と社会との関わり：教育や政策など）にも及びうる。また、スペイン語の歴史や言語の類縁性（ロマンス諸語等）についても随時言及する。
到達目標	言語学という研究領域の存在を知ること。 スペイン語という言語を（実践としての語学ではなく）科学的にとらえること。 具体的な文法事項（発音や、動詞の法や時制）を復習し、その理解を深めること。
授業方法と留意点	配布・配信する資料に予め目を通した上で受講すること。
科目学習の効果（資格）	実用的語学とは異なる視点から言語をとらえること。 口頭の説明をノートにまとめる練習（聴覚情報を整理し、文書化すること）。 情報の収集と選択、それらの要約。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	科目概要説明 スペイン語学とは	授業の進め方と注意点 参考図書の提示 言語学とは何か	参考図書、資料を読む
2	音声・音韻	音素	参考図書、資料を読む 講義内容をまとめる
3	音声・音韻	音節、強勢	参考図書、資料を読む 講義内容をまとめる
4	音声・音韻	音声変化	参考図書、資料を読む 講義内容をまとめる
5	形態	形態素 派生と屈折	参考図書、資料を読む 講義内容をまとめる
6	形態	語形成 接辞	参考図書、資料を読む 講義内容をまとめる
7	形態	複合語、略語	参考図書、資料を読む 講義内容をまとめる
8	統語	品詞	参考図書、資料を読む 講義内容をまとめる
9	統語	文の成り立ち 句、節、文	参考図書、資料を読む 講義内容をまとめる
10	統語	文の成り立ち	参考図書、資料を読む 講義内容をまとめる
11	スペイン語の歴史	ローマ以前（ケルト語、イベリア語）ローマ（ラテン語）、ゲルマン（西ゴート語）、イスラム（アラビア語）のこと	参考図書、資料を読む 講義内容をまとめる
12	スペイン語の歴史	カスティーリャ語（スペイン語）の位置	参考図書、資料を読む 講義内容をまとめる
13	スペインの言語と社会	スペインの諸言語	参考図書、資料を読む 講義内容をまとめる
14	スペインの言語と社会	スペイン語とスペイン語圏	参考図書、資料を読む 講義内容をまとめる
15	まとめとテスト	14 回の講義内容の総括	参考図書、資料を読む 講義内容をまとめる 自らの学習総括

関連科目：スペイン語に関する科目すべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	試験（複数回になりうる）７０％と平常の受講態度（レポートを含みうる）３０％を総合して評価する。 授業の３分の２以上の出席を期末試験の受験条件とする（3 分の 1 以上の欠席で落第とする）。 遅刻は欠席としてカウントする。内職・居眠り等は欠席扱いとする。
学生へのメッセージ	・講義ノートを作ること。黒板に書かれたことだけでなく、話を聞いて要約し文字化する練習をこの授業を通して行うこと。 ・自己管理の出来・不出来が成績の良し悪しに直結するので、勉強時間の確保および毎度の予習・復習のみならず、むやみに欠席しないことも心掛けること。事前・事後学修に各 1 時間を要する。
担当者の研究室等	7 号館 5 階（安達研究室）
備考	授業計画はあくまで目安であり、集団の性質・傾向を考慮し、大幅に修正・変更することがある。

科目名	スペイン語基礎Ａ	科目名（英文）	Basic Spanish A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	Ｑ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西村　初美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	・「スペイン語基礎Ｂ、Ｃ」と同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理（文法）を学ぶ。そのため、必ず「基礎Ｂ、Ｃ」と合わせて受講すること。 ・初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、毎回、範囲を決めて単語テストを課す。
到達目標	スペイン語の文法事項のうち、動詞の各時制の用法を中心に学ぶ。 基本語彙（あらたな 500 語）を覚える。
授業方法と留意点	必ず予習をして授業に臨むこと。漫然と座っているだけでは授業に出席する意味はない。 予習段階で不明なところを自分で把握しておくこと。そのために、教科書の練習問題も自力で可能な限り解いておくこと。
科目学習の効果（資格）	スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を身に着ける。 日本語とも英語とも異なる言語の存在とその相違や類似に気づく。 スペイン語検定５級。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	復習	前期の学習内容	前期内容の復習および後期の予習
2	復習	前期の学習内容	前期内容の復習および後期の予習
3	第 13 課	比較表現・最上級・感嘆文	予習と復習
4	第 14 課	直説法点過去・接続詞・縮小辞	予習と復習
5	第 15 課	直説法点過去不規則・受動文・知覚／使役／放任／命令／許可の表現	予習と復習
6	第 16 課	直説法線過去・過去完了・関係詞	予習と復習
7	復習	後期前半の総復習。点過去／線過去／現在完了など時制を中心に。	予習と復習
8	復習	後期前半の総復習。不定詞／分詞による表現・比較表現・関係詞を中心に。	予習と復習
9	中間的試験 これまでの総復習	後期前半の学習内容。	予習と復習
10	試験解説 第１７課	直説法未来／未来完了・関係詞	予習と復習
11	第 18 課	直説法過去未来／過去未来完了・間接話法	予習と復習
12	復習	17・18 課の内容	予習と復習
13	復習	17・18 課の内容	予習と復習
14	試験	後期の内容	予習と復習
15	試験解説 まとめ	これまでの復習	予習と復習

関連科目　スペイン語基礎Ｂ、Ｃ　　スペイン語応用Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	西和中辞典	高垣ほか	小学館
2			
3			

評価方法（基準）	スペイン語基礎Ｂ、Ｃと合わせて評価する。ある程度の単元を終えると、A,B,C のいずれかで理解度確認テストを行う。 最終週あるいは 14 週目に全既習範囲を対象とした到達度確認テストを行う。 平常点と合わせて評価する。その比重については初回授業時に説明する。 配布する「基本単語集」をもとに、毎回、単語テストを行う。また、ボキャブラリ・コンテストも実施（10 月の予定）。 「期末試験＋それ以外の小規模・中規模の試験＋ボキャコン　９０％　＋単語テスト１０％」
学生へのメッセージ	最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまずき失敗から学びながら地道にマスターしていきましょう。 予習・復習・自習（教科書や授業以外での取り組み）が必須になるので、自己管理をきちんと行うように。 「覚える」ということに、中高生の時以上に時間と神経、労力を費やすこと。単元ごとに学習内容を省みること。 自分で理解できない部分がどこかを把握し、授業内で解決できるよう（質問するなど）になろう。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師控室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。教科書以外に、参考書やドリルを用いて勉強すること。授業は学びのきっかけであり、それだけで学習は完結しない。

科目名	スペイン語基礎A	科目名（英文）	Basic Spanish A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	北條　ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	・「スペイン語基礎B、C」と同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理（文法）を学ぶ。そのため、必ず「基礎B、C」と合わせて受講すること。 ・初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、毎回、範囲を決めて単語テストを課す。
到達目標	スペイン語の文法事項のうち、動詞の各時制の用法を中心に学ぶ。 基本語彙（あらたな 500 語）を覚える。
授業方法と留意点	必ず予習をして授業に臨むこと。漫然と座っているだけでは授業に出席する意味はない。 予習段階で不明なところを自分で把握しておくこと。そのために、教科書の練習問題も自力で可能な限り解いておくこと。
科目学習の効果（資格）	スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を身に着ける。 日本語とも英語とも異なる言語の存在とその相違や類似に気づく。 スペイン語検定５級。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	復習	前期の学習内容	前期内容の復習および後期の予習
2	復習	前期の学習内容	前期内容の復習および後期の予習
3	第 13 課	比較表現・最上級・感嘆文	予習と復習
4	第 14 課	直説法点過去・接続詞・縮小辞	予習と復習
5	第 15 課	直説法点過去不規則・受動文・知覚／使役／放任／命令／許可の表現	予習と復習
6	第 16 課	直説法線過去・過去完了・関係詞	予習と復習
7	復習	後期前半の総復習。点過去／線過去／現在完了など時制を中心に。	予習と復習
8	復習	後期前半の総復習。不定詞／分詞による表現・比較表現・関係詞を中心に。	予習と復習
9	中間的試験 これまでの総復習	後期前半の学習内容。	予習と復習
10	試験解説 第１７課	直説法未来／未来完了・関係詞	予習と復習
11	第 18 課	直説法過去未来／過去未来完了・間接話法	予習と復習
12	復習	17・18 課の内容	予習と復習
13	復習	17・18 課の内容	予習と復習
14	試験	後期の内容	予習と復習
15	試験解説 まとめ	これまでの復習	予習と復習

関連科目：スペイン語基礎B、C　　スペイン語応用Ⅱ、その他スペイン語科目すべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	西和中辞典	高垣ほか	小学館
2			
3			

評価方法（基準）	スペイン語基礎B、Cと合わせて評価する。ある程度の単元を終えると、A,B,Cのいずれかで理解度確認テストを行う。 最終週あるいは 14 週目に全既習範囲を対象とした到達度確認テストを行う。 平常点と合わせて評価する。その比重については初回授業時に説明する。 配布する「基本単語集」をもとに、毎回、単語テストを行う。また、ボキャブラリ・コンテストも実施（10 月の予定）。 「期末試験＋それ以外の小規模・中規模の試験＋ボキャコン　９０％　＋　単語テスト　１０％」
学生へのメッセージ	最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまずき失敗から学びながら地道にマスターしていきましょう。 予習・復習・自習（教科書や授業以外での取り組み）が必須になるので、自己管理をきちんと行うように。 「覚える」ということに、中高生の時以上に時間と神経、労力を費やすこと。単元ごとに学習内容を省みること。 自分で理解できない部分がどこかを把握し、授業内で解決できるよう（質問するなど）になろう。
担当者の研究室等	７号館５階　北條研究室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。教科書以外に、参考書やドリルを用いて勉強すること。授業は学びのきっかけであり、それだけで学習は完結しない。

科目名	スペイン語基礎B	科目名（英文）	Basic Spanish B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	三浦　知佐子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的

・「スペイン語基礎Ａ、C」と同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理（文法）を学ぶ。そのため、必ず「基礎Ａ、C」と合わせて受講すること。
・初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、毎回、範囲を決めて単語テストを課す。

到達目標

スペイン語の文法事項のうち、動詞の各時制の用法を中心に学ぶ。
基本語彙（あらたな 500 語）を覚える。

授業方法と留意点

必ず予習をして授業に臨むこと。漫然と座っているだけでは授業に出席する意味はない。
予習段階で不明なところを自分で把握しておくこと。そのために、教科書の練習問題も自力で可能な限り解いておくこと。

科目学習の効果（資格）

スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を身に着ける。
日本語とも英語とも異なる言語の存在とその相違や類似に気づく。
スペイン語検定５級。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	復習	前期の学習内容	前期内容の復習および後期の予習
2	復習	前期の学習内容	前期内容の復習および後期の予習
3	第 13 課	比較表現・最上級・感嘆文	予習と復習
4	第 14 課	直説法点過去・接続詞・縮小辞	予習と復習
5	第 15 課	直説法点過去不規則・受動文・知覚／使役／放任／命令／許可の表現	予習と復習
6	第 16 課	直説法線過去・過去完了・関係詞	予習と復習
7	復習	後期前半の総復習。点過去／線過去／現在完了など時制を中心に。	予習と復習
8	復習	後期前半の総復習。不定詞／分詞による表現・比較表現・関係詞を中心に。	予習と復習
9	中間的試験 これまでの総復習	後期前半の学習内容。	予習と復習
10	試験解説 第１７課	直説法未来／未来完了・関係詞	予習と復習
11	第 18 課	直説法過去未来／過去未来完了・間接話法	予習と復習
12	復習	17・18 課の内容	予習と復習
13	復習	17・18 課の内容	予習と復習
14	試験	後期の内容	予習と復習
15	試験解説 まとめ	これまでの復習	予習と復習

関連科目

スペイン語基礎Ａ、C　　総合スペイン語、その他専攻科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	西和中辞典	高垣ほか	小学館
2			
3			

評価方法（基準）

スペイン語基礎 A、C と合わせて評価する。ある程度の単元を終えると、A,B,C のいずれかで理解度確認テストをする。
最終週あるいは 14 週目に全既習範囲を対象とした到達度確認テストをする。
平常点と合わせて評価する。その比重については初回授業時に説明する。
配布する「基本単語集」をもとに、毎回、単語テストを行う。また、ボキャブラリ・コンテストも実施（10 月の予定）。
「期末試験＋それ以外の小規模・中規模の試験＋ボキャコン　９０％＋単語テスト１０％」

学生へのメッセージ

最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまずき失敗から学びながら地道にマスターしていきましょう。
予習・復習・自習（教科書や授業以外での取り組み）が必須になるので、自己管理をきちんと行うように。
「覚える」ということに、中高生の時以上に時間と神経、労力を費やすこと。単元ごとに学習内容を省みること。
自分で理解できない部分がどこかを把握し、授業内で解決できるよう（質問するなど）になろう。

担当者の研究室等

７号館２階　非常勤講師控室

備考

事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。教科書以外に、参考書やドリルを用いて勉強すること。授業は学びのきっかけであり、それだけで学習は完結しない。

科目名	スペイン語基礎B	科目名（英文）	Basic Spanish B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	篠原　愛人
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的

・「スペイン語基礎Ａ、C」と同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理（文法）を学ぶ。そのため、必ず「基礎Ａ、C」と合わせて受講すること。
・初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、毎回、範囲を決めて単語テストを課す。

到達目標

スペイン語の文法事項のうち、動詞の各時制の用法を中心に学ぶ。
基本語彙（あらたな 500 語）を覚える。

授業方法と留意点

必ず予習をして授業に臨むこと。漫然と座っているだけでは授業に出席する意味はない。
予習段階で不明なところを自分で把握しておくこと。そのために、教科書の練習問題も自力で可能な限り解いておくこと。

科目学習の効果（資格）

スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を身に着ける。
日本語とも英語とも異なる言語の存在とその相違や類似に気づく。
スペイン語検定５級。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	復習	前期の学習内容	前期内容の復習および後期の予習
2	復習	前期の学習内容	前期内容の復習および後期の予習
3	第 13 課	比較表現・最上級・感嘆文	予習と復習
4	第 14 課	直説法点過去・接続詞・縮小辞	予習と復習
5	第 15 課	直説法点過去不規則・受動文・知覚／使役／放任／命令／許可の表現	予習と復習
6	第 16 課	直説法線過去・過去完了・関係詞	予習と復習
7	復習	後期前半の総復習。点過去／線過去／現在完了など時制を中心に。	予習と復習
8	復習	後期前半の総復習。不定詞／分詞による表現・比較表現・関係詞を中心に。	予習と復習
9	中間的試験 これまでの総復習	後期前半の学習内容。	予習と復習
10	試験解説 第１７課	直説法未来／未来完了・関係詞	予習と復習
11	第 18 課	直説法過去未来／過去未来完了・間接話法	予習と復習
12	復習	17・18 課の内容	予習と復習
13	復習	17・18 課の内容	予習と復習
14	試験	後期の内容	予習と復習
15	試験解説 まとめ	これまでの復習	予習と復習

関連科目

スペイン語基礎Ａ、C　　スペイン語応用Ⅱ、その他スペイン語科目すべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	西和中辞典	高垣ほか	小学館
2			
3			

評価方法（基準）

スペイン語基礎 A、C と合わせて評価する。ある程度の単元を終えると、A,B,C のいずれかで理解度確認テストを行う。
最終週あるいは 14 週目に全既習範囲を対象とした到達度確認テストを行う。
平常点と合わせて評価する。その比重については初回授業時に説明する。
配布する「基本単語集」をもとに、毎回、単語テストを行う。また、ボキャブラリ・コンテストも実施（10 月の予定）。
「期末試験＋それ以外の小規模・中規模の試験＋ボキャコン　９０％　＋　単語テスト１０％」

学生へのメッセージ

最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまずき失敗から学びながら地道にマスターしていきましょう。
予習・復習・自習（教科書や授業以外での取り組み）が必須になるので、自己管理をきちんと行うように。
「覚える」ということに、中高生の時以上に時間と神経、労力を費やすこと。単元ごとに学習内容を省みること。
自分で理解できない部分がどこかを把握し、授業内で解決できるよう（質問するなど）になろう。

担当者の研究室等

７号館５階　篠原研究室

備考

事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。教科書以外に、参考書やドリルを用いて勉強すること。授業は学びのきっかけであり、それだけで学習は完結しない。

科目名	スペイン語基礎C	科目名（英文）	Basic Spanish C
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西村　初美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	・「スペイン語基礎Ａ、B」と同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理（文法）を学ぶ。そのため、必ず「入門Ａ、B」と合わせて受講すること。 ・初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、毎回、範囲を決めて単語テストを課す。
到達目標	スペイン語の文法事項のうち、動詞の各時制の用法を中心に学ぶ。 基本語彙（あらたな 500 語）を覚える。
授業方法と留意点	必ず予習をして授業に臨むこと。漫然と座っているだけでは授業に出席する意味はない。 予習段階で不明なところを自分で把握しておくこと。そのために、教科書の練習問題も自力で可能な限り解いておくこと。
科目学習の効果（資格）	スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を身に着ける。 日本語とも英語とも異なる言語の存在とその相違や類似に気づく。 スペイン語検定５級。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	復習	前期の学習内容	前期内容の復習および後期の予習
2	復習	前期の学習内容	前期内容の復習および後期の予習
3	第 13 課	比較表現・最上級・感嘆文	予習と復習
4	第 14 課	直説法点過去・接続詞・縮小辞	予習と復習
5	第 15 課	直説法点過去不規則・受動文・知覚／使役／放任／命令／許可の表現	予習と復習
6	第 16 課	直説法線過去・過去完了・関係詞	予習と復習
7	復習	後期前半の総復習。点過去／線過去／現在完了など時制を中心に。	予習と復習
8	復習	後期前半の総復習。不定詞／分詞による表現・比較表現・関係詞を中心に。	予習と復習
9	中間的試験 これまでの総復習	後期前半の学習内容。	予習と復習
10	試験解説 第１７課	直説法未来／未来完了・関係詞	予習と復習
11	第 18 課	直説法過去未来／過去未来完了・間接話法	予習と復習
12	復習	17・18 課の内容	予習と復習
13	復習	17・18 課の内容	予習と復習
14	試験	後期の内容	予習と復習
15	試験解説 まとめ	これまでの復習	予習と復習

関連科目　スペイン語基礎Ａ、B　　スペイン語応用Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	西和中辞典	高垣ほか	小学館
2			
3			

評価方法（基準）	スペイン語基礎 A、B と合わせて評価する。ある程度の単元を終えると、A,B,C のいずれかで理解度確認テストを行う。 最終週あるいは 14 週目に全既習範囲を対象とした到達度確認テストを行う。 平常点と合わせて評価する。その比重については初回授業時に説明する。 配布する「基本単語集」をもとに、毎回、単語テストを行う。また、ボキャブラリ・コンテストも実施（10 月の予定）。 「期末試験＋それ以外の小規模・中規模の試験＋ボキャコン　９０％　＋単語テスト１０％」
学生へのメッセージ	最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまずき失敗から学びながら地道にマスターしていきましょう。 予習・復習・自習（教科書や授業以外での取り組み）が必須になるので、自己管理をきちんと行うように。 「覚える」ということに、中高生の時以上に時間と神経、労力を費やすこと。単元ごとに学習内容を省みること。 自分で理解できない部分がどこかを把握し、授業内で解決できるよう（質問するなど）になろう。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師控室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。教科書以外に、参考書やドリルを用いて勉強すること。授業は学びのきっかけであり、それだけで学習は完結しない。

科目名	スペイン語基礎C	科目名（英文）	Basic Spanish C
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	安達　直樹
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的

・「スペイン語入門Ａ、B」と同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理（文法）を学ぶ。そのため、必ず「入門Ａ、B」と合わせて受講すること。
・初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、毎回、範囲を決めて単語テストを課す。

到達目標

スペイン語の文法事項のうち、動詞の各時制の用法を中心に学ぶ。
基本語彙（あらたな 500 語）を覚える。

授業方法と留意点

必ず予習をして授業に臨むこと。漫然と座っているだけでは授業に出席する意味はない。
予習段階で不明なところを自分で把握しておくこと。そのために、教科書の練習問題も自力で可能な限り解いておくこと。

科目学習の効果（資格）

スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を身に着ける。
日本語とも英語とも異なる言語の存在とその相違や類似に気づく。
スペイン語検定５級。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	復習	前期の学習内容	前期内容の復習および後期の予習
2	復習	前期の学習内容	前期内容の復習および後期の予習
3	第 13 課	比較表現・最上級・感嘆文	予習と復習
4	第 14 課	直説法点過去・接続詞・縮小辞	予習と復習
5	第 15 課	直説法点過去不規則・受動文・知覚／使役／放任／命令／許可の表現	予習と復習
6	第 16 課	直説法線過去・過去完了・関係詞	予習と復習
7	復習	後期前半の総復習。点過去／線過去／現在完了など時制を中心に。	予習と復習
8	復習	後期前半の総復習。不定詞／分詞による表現・比較表現・関係詞を中心に。	予習と復習
9	中間的試験 これまでの総復習	後期前半の学習内容。	予習と復習
10	試験解説 第１７課	直説法未来／未来完了・関係詞	予習と復習
11	第 18 課	直説法過去未来／過去未来完了・間接話法	予習と復習
12	復習	17・18 課の内容	予習と復習
13	復習	17・18 課の内容	予習と復習
14	試験	後期の内容	予習と復習
15	試験解説 まとめ	これまでの復習	予習と復習

関連科目

スペイン語入門Ａ、B　　スペイン語応用Ⅱ、その他スペイン語科目すべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	西和中辞典	高垣ほか	小学館
2			
3			

評価方法（基準）

スペイン語入門 A、B と合わせて評価する。ある程度の単元を終えると、A,B,C のいずれかで理解度確認テストを行う。
最終週あるいは 14 週目に全既習範囲を対象とした到達度確認テストを行う。
平常点と合わせて評価する。その比重については初回授業時に説明する。
配布する「基本単語集」をもとに、毎回、単語テストを行う。また、ボキャブラリ・コンテストも実施（時期未定）。
「期末試験＋それ以外の小規模・中規模の試験＋ボキャコン　９０％　＋　単語テスト１０％」

学生へのメッセージ

最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまずき失敗から学びながら地道にマスターしていきましょう。
予習・復習・自習（教科書や授業以外での取り組み）が必須になるので、自己管理をきちんと行うように。
「覚える」ということに、中高生の時以上に時間と神経、労力を費やすこと。単元ごとに学習内容を省みること。
自分で理解できない部分がどこかを把握し、授業内で解決できるよう（質問するなど）になろう。

担当者の研究室等

７号館５階　安達研究室

備考

事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。教科書以外に、参考書やドリルを用いて勉強すること。授業は学びのきっかけであり、それだけで学習は完結しない。

科目名	スペイン語圏概論	科目名（英文）	Introduction to Spanish-speaking Area Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	篠原　愛人
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的

大西洋の両岸にまたがり、太平洋にも面した広大なスペイン語圏の国々（ヨーロッパのスペインとラテンアメリカ）に関する基礎知識をもち、関心を高めることを目的とする。ただし、ラテンアメリカに関しては１年後期のエリア・スタディーズで学習するので、この授業では主にスペインを対象とする。

「スペインは違う！」はかつて欧米各地からスペインに観光客を呼び込むのに使われたキャッチフレーズであった。このうたい文句は功を奏し、他の西欧諸国とは違う雰囲気、突き抜けるような青空、白壁の家、闘牛、美しいビーチを求めて観光客が殺到し、太陽の国スペインは世界有数の観光国となった。ユネスコの世界遺産の数もイタリア、中国について第３位。この授業ではその世界遺産を通して、スペインの地理と歴史を学んでいく。また、ベラスケス、ゴヤ、エル・グレコ、ピカソ、ダリなど天才的芸術家を生んだ国でもある。それらの作品も教材として利用する。

到達目標

スペイン語圏の地図を自分で描け、その姿が頭の中で思い浮かべられるとともに、個々の国について地理的・歴史的な基本的知識を身につける。

授業方法と留意点

講義形式だが、視聴覚教材も適宜、利用する。プリントを配布するので、ファイルを用意すること。

科目学習の効果（資格）

外国語のマスターは、「ことば」だけでなく、その言葉が使われている地域の「こと」や使う人たちの「こころ」を知らないと、十分ではない。この講義で、「こと」と「こころ」を知るための基礎が身につくはずである。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション スペイン語圏とは	この授業の進め方 スペイン語とスペイン語圏 ラテンアメリカとは	スペイン語の特徴 スペイン語圏の広がり
2	スペインの地理（1）	スペインの地形・地勢・気候（「アフリカはピレネーから始まる」？） スペインの自然遺産	配布プリント・ノートの整理 地図に親しむ スペインの地方
3	スペインの地理（2）	スペインの経済地理 「原産地呼称」とは？	地形、気候と産物
4	スペインの地理（3）	スペインは一つの国か？ 伝統的区分	スペインの地域区分 １７の自治州
5	スペインの地理（4）	リーガ・エスパニョーラ	スペインの主要都市
6	中間テスト（1）	スペインの地理に関する確認テスト	
7	スペインの歴史（1）	文化遺産（古代１）	配布プリント・ノートの整理
8	スペインの歴史（2）	文化遺産（古代２）	配布プリント・ノートの整理
9	スペインの歴史（3）	文化遺産（中世）	配布プリント・ノートの整理
10	スペインの歴史（4）	文化遺産（近代・現代）	配布プリント・ノートの整理
11	スペインの歴史（5）	文化遺産（地域別）	それぞれの遺産の歴史的意味、場所の確認
12	中間テスト（2）	スペインの歴史と文化遺産に関する確認テスト	
13	スペインの芸術（1）	１９世紀まで	配布プリント・ノートの整理
14	スペインの芸術（2）	２０世紀	配布プリント・ノートの整理
15	総括	これまでの総まとめ	配布プリント・ノートの整理

関連科目

１年次後期の「エリア・スタディーズ（ラテンアメリカ）」、２年次の「スペインの社会と文化」「ラテンアメリカ史学」「ラテンアメリカ文学」、3年次の「現代ラテンアメリカ論」「スペイン語圏の芸術」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリント		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

毎回の質問表１０％＋提出物(レポートなど) ３０％＋中間テスト３０％＋定期試験３０％

学生へのメッセージ

初めて聞くようなことが多く、戸惑うことでしょう。でもそれは知識の幅が広がったということです。

担当者の研究室等

7号館5階（篠原研究室）

備考

大学での講義のノートの取り方、まとめ方を学びましょう。事前・事後学修に各１時間を要する。

科目名	スペイン語圏トピックスⅣ	科目名（英文）	Topics in the Spanish-speaking World Ⅳ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北條　ゆかり
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	スペイン語圏の歴史や文化などに関する文章の読解を通して、スペイン語の実践的な語彙や表現を習得する。また、DVD などの視覚教材を用いて、広大なスペイン語圏の特質や今日的な問題についての理解を深める。
到達目標	スペイン語の読解力を養う。スペイン語圏についての理解を深める。
授業方法と留意点	履修生の読解力と関心に応じて、取り組む授業テーマを変更することがある。 レポートや発表を課す予定である。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定４級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方や評価基準について	--------
2	ラテンアメリカについて	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
3	メキシコ（1）	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
4	メキシコ（2）	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
5	ペルー	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
6	キューバ	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
7	前半のまとめ	前半の復習と中間テスト	---------
8	コスタリカ	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
9	映画のなかのラテンアメリカ（1）	訳読、聞き取り	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
10	映画のなかのラテンアメリカ（2）	訳読、聞き取り	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
11	アルゼンチン	履修生によるグループ発表（1）	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
12	チリ	履修生によるグループ発表（2）	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
13	ベネズエラ	履修生によるグループ発表（3）	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
14	コロンビア	履修生によるグループ発表（4）	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
15	まとめ	後半のまとめと確認テスト	————

関連科目	スペイン語の全科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業参加度・レポート・発表など 40%、臨時試験（中間・確認テスト） 60%
学生へのメッセージ	授業への積極的な参加を望む。プレゼンの準備を工夫して行ってほしい。 事前に配布したプリントを必ず熟読し、授業に臨むこと。
担当者の研究室等	７号館５階 北條研究室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。

科目名	スペイン語圏の芸術	科目名（英文）	Art of Spain and Hispanic America
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	オラシオ　ゴメス
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	スペイン語圏の芸術を美術・音楽・建築・文学・映画の５つの側面から概説し、具体的に多くの作品に触れながら、その特質を理解する。
到達目標	広大なスペイン語圏の、起源の異なる多様な芸術の特質を、具体的作品をもとに見聞きしながら学び、関心と理解を深める。
授業方法と留意点	毎回プリントを配布し、図像資料も交えながら授業を進める。 事前に配布された文献資料をあらかじめ読んで授業に臨み、授業後は毎回のテーマに即した作品群を読み、聴き、観賞することが重要である。事前・事後学修に各１時間を要する。
科目学習の効果（資格）	芸術を通じてスペイン語圏で歴史的に生じてきた文化運動や政治的潮流への相互的影響をも理解できるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	講義の全体構想と授業の進め方	シラバスを読んで、これから学ぶことについて概観しておく
2	セルバンテス	スペイン語圏の文化におけるキホーテの影響	作品を読む
3	ベラスケスとゴヤ	スペイン絵画伝統の創造	作品観賞と時代背景学習
4	バロック建築	スペインおよびイスパノアメリカのバロック様式	建築作品について調べる
5	ピカソと 20 世紀	20 世紀の芸術運動に対するピカソの作品と生	配布文献資料を読む
6	ファリャと“エル･システマ”	ファリャの音楽とベネズエラにおける“エル・システマ”の誕生	配布文献資料を読む
7	ブニュエル	ブニュエルとシュルレアリズム運動	配布文献資料を読む
8	ボルヘス	ボルヘスとメタファー	配布文献資料を読む
9	主要な建築家	バラガン、レゴレッタ他	配布文献資料を読む
10	フラメンコ	フラメンコの世界的波及、パコ・デ・ルシア	配布文献資料を読む
11	壁画運動とフリーダ・カロ	壁画運動とその米国における影響	配布文献資料を読む
12	オクタビオ・パス	パスとコスモポリティスモ	配布文献資料を読む
13	アルモドバル	スペインとラテンアメリカの映画	配布文献資料を読む
14	メソアメリカの美術	征服以前の先住民文明の芸術様式	配布文献資料を読む
15	おわりに	講義全体のまとめと達成度確認テストまたはレポート	総合的復習

関連科目：ラテンアメリカの社会と文化、スペインの社会と文化、現代ラテンアメリカ論、ラテンアメリカ史学、ラテンアメリカ文学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加状況（出席・発表等）、レポートへの取り組み ５０％、達成度確認テスト ５０％により総合的に評価する。
学生へのメッセージ	さまざまな意味で作品に触れることが大切です。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。

科目名	スペイン語講読Ⅰ	科目名（英文）	Spanish Reading Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	篠原　愛人
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	辞書と習得した文法知識、そしてスペイン語圏に関する知識を余すところなく駆使して、スペイン語の長文を読みこなす力を身につけていくことを目指す。授業では主にスペイン語圏に関する文章を読み進めていくが、スペイン語の文章を正しく理解するために必要な文法事項を復習するだけでなく、スペイン語圏の国々に関する知識を修得することも併せて行う。
到達目標	スペイン語の文法知識の更なる習得と、単文のみならず複文を含めた長文の読解力を身に付ける。
授業方法と留意点	文章の読解をしていく。授業では、一文一文詳しく見ていく。また、指示語や代名詞、動詞の時制などの文法事項をひとつひとつ尋ねるので、答えられるように予習の段階で確認しておくこと。事前・事後学修に各１時間を要する。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定４級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方や評価基準について	授業で指示
2	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
3	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
4	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
5	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
6	中間テスト	既習範囲の確認	単語と表現
7	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
8	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
9	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
10	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	単語と表現
11	中間テスト（２）	既習範囲の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
12	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
13	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
14	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
15	理解度確認テスト	これまでの総括	総復習

関連科目：スペイン語の科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリント		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	予習・復習の完成度２０％　＋　中間テスト　３０％　＋　理解度確認テスト５０％
学生へのメッセージ	必ず予習の段階で自分なりに訳してみること。必ず予習をして授業に出席すること。 また、辞書を持参すること。
担当者の研究室等	７号館５階（篠原研究室）
備考	

科目名	スペイン語講読Ⅱ	科目名（英文）	Spanish Reading II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	三浦　知佐子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	辞書と習得した文法知識、そしてスペイン語圏に関する知識を余すところなく駆使して、スペイン語の長文を読みこなす力を身につけていくことを目指す。授業では主にスペイン語圏に関する文章を読み進めていくが、スペイン語の文章を正しく理解するために必要な文法事項を復習するだけでなく、スペイン語圏の国々に関する知識を修得することも併せて行う。
到達目標	スペイン語の文法知識の更なる習得と、単文のみならず複文を含めた長文の読解力を身に付ける。
授業方法と留意点	文章の読解をしていく。授業では、一文一文詳しく見ていく。また、指示語や代名詞、動詞の時制などの文法事項をひとつひとつ尋ねるので、答えられるように予習の段階で確認しておくこと。事前・事後学修に各１時間を要する。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定４級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方や評価基準について	授業で指示
2	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
3	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
4	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
5	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
6	中間テスト	既習範囲の確認	単語と表現
7	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
8	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
9	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
10	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	単語と表現
11	中間テスト（２）	既習範囲の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
12	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
13	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
14	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
15	理解度確認テスト	これまでの総括	総復習

関連科目：スペイン語の科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリント		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	予習・復習の完成度２０％　＋　中間テスト　３０％　＋　理解度確認テスト５０％
学生へのメッセージ	必ず予習の段階で自分なりに訳してみること。必ず予習をして授業に出席すること。 また、辞書を持参すること。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師控室）
備考	

科目名	スペイン語総合Ａ	科目名（英文）	Integrated Spanish Skills A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	Ｑ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北條　ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	・１年次の「スペイン語入門・基礎」の続編。１年次に積み残した文法項目を扱う。 ・「総合Ａ」と「総合Ｂ」はリレー形式で進めていくので、必ず両方を履修すること。 ・毎回単語テスト、ときどき中間テスト（文法確認テスト）を実施する。
到達目標	命令形と接続法のマスター
授業方法と留意点	文法解説の後、様々な練習問題をこなし、知識の定着を目指す。 総合ＡとＢはリレー形式で進むので、必ずどちらとも履修すること。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定５級～４級
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	１年次の復習	教科書第１課～第３課	直説法現在の活用形の復習
2	１年次の復習	教科書第１課～第３課	点過去、線過去など
3	接続法の活用	教科書第４課	接続法現在の活用
4	接続法の用法（１）	名詞節で使う接続法	接続法を要求する動詞など
5	接続法の用法（２）	関係詞節、副詞節と接続法	接続法を求める接続詞など
6	接続法現在完了	教科書第５課	接続法現在完了と現在の違い
7	中間テスト（１）	接続法現在、現在完了の活用と用法	これまでの復習
8	肯定命令	中間テストの総括 教科書第６課	２人称と３人称
9	否定命令	教科書第７課	肯定命令と否定命令の違い
10	ボキャコン	基礎１５００語	既習語彙の総復習
11	接続法過去	教科書第８課	点過去の活用形の総復習 接続法過去の活用
12	接続法過去完了	教科書第９課	接続法過去完了
13	仮定表現など	教科書第９課ほか	現実と仮想の差
14	中間テスト（２）	教科書第６課～９課	これまでの復習
15	総括	これまでのテストの見直し	学習事項の総点検

関連科目	スペイン語の全科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	エスペランサ	栗林ゆき絵	同学社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験も実施する。中間テスト３０％　：　単語テストとボキャブラリコンテスト３０％　：　定期試験４０％
学生へのメッセージ	いよいよ、スペイン語文法の仕上げ。しんどいけど、あと少しです。頑張りましょう。
担当者の研究室等	７号館５階　北條研究室
備考	ボキャコンの日程は前後することがある。事前・事後学修に各１時間を要する。

科目名	スペイン語総合Ａ	科目名（英文）	Integrated Spanish Skills A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	酒井　真梨奈
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	・１年次の「スペイン語入門・基礎」の続編。１年次に積み残した文法項目を扱う。 ・「総合Ａ」と「総合Ｂ」はリレー形式で進めていくので、必ず両方を履修すること。 ・毎回単語テスト、ときどき中間テスト（文法確認テスト）を実施する。
到達目標	命令形と接続法のマスター
授業方法と留意点	文法解説の後、様々な練習問題をこなし、知識の定着を目指す。 総合ＡとＢはリレー形式で進むので、必ずどちらとも履修すること。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定５級～４級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	１年次の復習	教科書第１課～第３課	直説法現在の活用形の復習
2	１年次の復習	教科書第１課～第３課	点過去、線過去など
3	接続法の活用	教科書第４課	接続法現在の活用
4	接続法の用法（１）	名詞節で使う接続法	接続法を要求する動詞など
5	接続法の用法（２）	関係詞節、副詞節と接続法	接続法を求める接続詞など
6	接続法現在完了	教科書第５課	接続法現在完了と現在の違い
7	中間テスト（１）	接続法現在、現在完了の活用と用法	これまでの復習
8	肯定命令	中間テストの総括 教科書第６課	２人称と３人称
9	否定命令	教科書第７課	肯定命令と否定命令の違い
10	ボキャコン	基礎１５００語	既習語彙の総復習
11	接続法過去	教科書第８課	点過去の活用形の総復習 接続法過去の活用
12	接続法過去完了	教科書第９課	接続法過去完了
13	仮定表現など	教科書第９課ほか	現実と仮想の差
14	中間テスト（２）	教科書第６課～９課	これまでの復習
15	総括	これまでのテストの見直し	学習事項の総点検

関連科目：スペイン語の全科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	エスペランサ	栗林ゆき絵	同学社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験も実施する。中間テスト３０％　：　単語テストとボキャブラリコンテスト３０％　：　定期試験４０％
学生へのメッセージ	いよいよ、スペイン語文法の仕上げ。しんどいけど、あと少しです。頑張りましょう。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師控室
備考	ボキャコンの日程は前後することがある。事前・事後学修に各１時間を要する。

科目名	スペイン語総合Ｂ	科目名（英文）	Integrated Spanish Skills B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	Ｑ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	篠原　愛人
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	・１年次の「スペイン語入門・基礎」の続編。１年次に積み残した文法項目を扱う。 ・「総合Ａ」と「総合Ｂ」はリレー形式で進めていくので、必ず両方を履修すること。 ・毎回単語テスト、ときどき中間テスト（文法確認テスト）を実施する。
到達目標	命令形と接続法のマスター
授業方法と留意点	文法解説の後、様々な練習問題をこなし、知識の定着を目指す。 総合ＡとＢはリレー形式で進むので、必ずどちらとも履修すること。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定５級～４級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	１年次の復習	教科書第１課～第３課	直説法現在の活用形の復習
2	１年次の復習	教科書第１課～第３課	点過去、線過去など
3	接続法の活用	教科書第４課	接続法現在の活用
4	接続法の用法（１）	名詞節で使う接続法	接続法を要求する動詞など
5	接続法の用法（２）	関係詞節、副詞節と接続法	接続法を求める接続詞など
6	接続法現在完了	教科書第５課	接続法現在完了と現在の違い
7	中間テスト（１）	接続法現在、現在完了の活用と用法	これまでの復習
8	肯定命令	中間テストの総括 教科書第６課	２人称と３人称
9	否定命令	教科書第７課	肯定命令と否定命令の違い
10	ボキャコン	基礎１５００語	既習語彙の総復習
11	接続法過去	教科書第８課	点過去の活用形の総復習 接続法過去の活用
12	接続法過去完了	教科書第９課	接続法過去完了
13	仮定表現など	教科書第９課ほか	現実と仮想の差
14	中間テスト（２）	教科書第６課～９課	これまでの復習
15	総括	これまでのテストの見直し	学習事項の総点検

関連科目：スペイン語の全科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	エスペランサ	栗林ゆき絵	同学社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験も実施する。中間テスト３０％　：　単語テストとボキャブラリコンテスト３０％　：　定期試験４０％
学生へのメッセージ	いよいよ、スペイン語文法の仕上げ。しんどいけど、あと少しです。頑張りましょう。
担当者の研究室等	７号館５階(篠原研究室)
備考	ボキャコンの日程は前後することがある。事前・事後学修に各１時間を要する。

科目名	スペイン語総合Ｂ	科目名（英文）	Integrated Spanish Skills B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	三浦　知佐子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	・１年次の「スペイン語入門・基礎」の続編。１年次に積み残した文法項目を扱う。 ・「総合Ａ」と「総合Ｂ」はリレー形式で進めていくので、必ず両方を履修すること。 ・毎回単語テスト、ときどき中間テスト（文法確認テスト）を実施する。
到達目標	命令形と接続法のマスター
授業方法と留意点	文法解説の後、様々な練習問題をこなし、知識の定着を目指す。 総合ＡとＢはリレー形式で進むので、必ずどちらとも履修すること。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定５級～４級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	１年次の復習	教科書第１課～第３課	直説法現在の活用形の復習
2	１年次の復習	教科書第１課～第３課	点過去、線過去など
3	接続法の活用	教科書第４課	接続法現在の活用
4	接続法の用法（１）	名詞節で使う接続法	接続法を要求する動詞など
5	接続法の用法（２）	関係詞節、副詞節と接続法	接続法を求める接続詞など
6	接続法現在完了	教科書第５課	接続法現在完了と現在の違い
7	中間テスト（１）	接続法現在、現在完了の活用と用法	これまでの復習
8	肯定命令	中間テストの総括 教科書第６課	２人称と３人称
9	否定命令	教科書第７課	肯定命令と否定命令の違い
10	ボキャコン	基礎１５００語	既習語彙の総復習
11	接続法過去	教科書第８課	点過去の活用形の総復習 接続法過去の活用
12	接続法過去完了	教科書第９課	接続法過去完了
13	仮定表現など	教科書第９課ほか	現実と仮想の差
14	中間テスト（２）	教科書第６課～９課	これまでの復習
15	総括	これまでのテストの見直し	学習事項の総点検

関連科目：スペイン語の全科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	エスペランサ	栗林ゆき絵	同学社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験も実施する。中間テスト３０％　：　単語テストとボキャブラリコンテスト３０％　：　定期試験４０％
学生へのメッセージ	いよいよ、スペイン語文法の仕上げ。しんどいけど、あと少しです。頑張りましょう。
担当者の研究室等	７号館２階 非常勤講師控室
備考	ボキャコンの日程は前後することがある。事前・事後学修に各１時間を要する。

科目名	スペイン語通訳Ⅰ	科目名（英文）	Spanish for Interpreters and Tour Guides I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	Ｑ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	篠原　愛人
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的

この期は日本のことについて説明できるよう、日本に関する知識を深めるとともに、外国人が日本のことをどう理解しているかを知ることに主眼を置く。日本の地理、歴史、文化、風習に関する基礎知識を深め、スペイン語で説明・紹介するために必要な語彙力と表現力の向上を目指す。

毎回、単語テストを行う。

到達目標

日本の地理、歴史、社会についてスペイン語で説明できるようになる。

授業方法と留意点

スペイン語で書かれた日本紹介文献や旅行ガイドを参考に、日本についての知識とスペイン語の基本的語彙を身につける。

科目学習の効果（資格）

スペイン語検定３級、通訳案内士（スペイン語）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	「通訳案内士」とは：通訳案内には何が必要か	通訳案内上の国家試験について
2	日本の自然	日本の地理的特徴、四季と気候について、スペイン語で書かれた日本案内のガイドブックを参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
3	日本の地理	日本の世界自然遺産について、スペイン語で書かれた日本案内のガイドブックを参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
4	日本の文化（１）	身の回りの事柄をスペイン語で説明する。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
5	日本の文化（２）	身の回りの事柄をスペイン語で説明する。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
6	日本の文化（３）	身の回りの事柄をスペイン語で説明する。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
7	到達度確認テスト	既習範囲の総点検	これまでに習った表現・語彙の復習
8	神社仏閣の案内（１）	日本の宗教（仏教と神道、禅）、相撲など武芸について、スペイン語で書かれた文章を参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
9	神社仏閣の案内（２）	日本の宗教（仏教と神道、禅）、相撲など武芸について、スペイン語で書かれた文章を参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
10	神社仏閣の案内（３）	日本の宗教（仏教と神道、禅）、相撲など武芸について、スペイン語で書かれた文章を参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
11	ボキャコン	基本的語彙力の検証	語彙力の大切さの再認識
12	神社仏閣の案内（３）	特定の神社仏閣を案内する対話文の作成	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
13	神社仏閣の案内（３）	特定の神社仏閣を案内する対話文の作成	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
14	神社仏閣の案内（３）	特定の神社仏閣を案内する対話文の作成	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
15	到達度確認テスト	特定の神社仏閣を案内する対話を実践（エアー・ガイド）	自分が調べた、日本文化の側面について３分間でスピーチ

関連科目

スペイン語オラル、映画のスペイン語

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリント		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

単語テスト（３０％）、ボキャブラリ・コンテスト（２０％）、到達度確認テスト（５０％）を総合的に評価する。

学生へのメッセージ

予習を欠かさず積極的に授業に臨んでください。事前・事後学修に各１時間を要する。

担当者の研究室等

７号館５階（篠原研究室）

備考

ボキャコンはスペイン語検定の日程との関係で前後することがある。

科目名	スペイン語通訳Ⅰ	科目名（英文）	Spanish for Interpreters and Tour Guides Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	R
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	安達　直樹
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	この期は日本のことについて説明できるよう、日本に関する知識を深めるとともに、外国人が日本のことをどう理解しているかを知ることに主眼を置く。日本の地理、歴史、文化、風習に関する基礎知識を深め、スペイン語で説明・紹介するために必要な語彙力と表現力の向上を目指す。 毎回、単語テストを行う。
到達目標	日本の地理、歴史、社会についてスペイン語で説明できるようになる。
授業方法と留意点	スペイン語で書かれた日本紹介文献や旅行ガイドを参考に、日本についての知識とスペイン語の基本的語彙を身につける。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定３級、通訳案内士（スペイン語）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	「通訳案内士」とは：通訳案内には何が必要か	通訳案内上の国家試験について
2	日本の自然	日本の地理的特徴、四季と気候について、スペイン語で書かれた日本案内のガイドブックを参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
3	日本の地理	日本の世界自然遺産について、スペイン語で書かれた日本案内のガイドブックを参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
4	日本の文化（1）	身の回りの事柄をスペイン語で説明する。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
5	日本の文化（2）	身の回りの事柄をスペイン語で説明する。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
6	日本の文化（3）	身の回りの事柄をスペイン語で説明する。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
7	到達度確認テスト	既習範囲の総点検	これまでに習った表現・語彙の復習
8	神社仏閣の案内（1）	日本の宗教（仏教と神道、禅）、相撲など武芸について、スペイン語で書かれた文章を参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
9	神社仏閣の案内（2）	日本の宗教（仏教と神道、禅）、相撲など武芸について、スペイン語で書かれた文章を参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
10	神社仏閣の案内（3）	日本の宗教（仏教と神道、禅）、相撲など武芸について、スペイン語で書かれた文章を参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
11	ボキャコン	基本的語彙力の検証	語彙力の大切さの再認識
12	神社仏閣の案内（3）	特定の神社仏閣を案内する対話文の作成	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
13	神社仏閣の案内（3）	特定の神社仏閣を案内する対話文の作成	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
14	神社仏閣の案内（3）	特定の神社仏閣を案内する対話文の作成	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
15	到達度確認テスト	特定の神社仏閣を案内する対話を実践（エアー・ガイド）	自分が調べた、日本文化の側面について３分間でスピーチ

関連科目	スペイン語オラル、映画のスペイン語

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリント		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	単語テスト（３０％）、ボキャブラリ・コンテスト（２０％）、到達度確認テスト（５０％）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	予習を欠かさず積極的に授業に臨んでください。事前・事後学修に各１時間を要する。
担当者の研究室等	７号館５階（安達研究室）
備考	ボキャコンはスペイン語検定の日程との関係で前後することがある。

科目名	スペイン語通訳Ⅱ	科目名（英文）	Spanish for Interpreters and Tour Guides II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	安達　直樹
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	日本の地理、歴史、文化、風習に関する基礎知識を深め、スペイン語で説明・紹介するために必要な語彙力と表現力の向上を目指す。
到達目標	京阪神の名所についてガイドできる知識とスペイン語力を身につける。
授業方法と留意点	日本の歴史文化を理解し、現代社会の特質をスペイン語で説明できるよう基礎知識を習得し、スペイン語での質問に口頭で応答する実践を行う。希望者には通訳案内士の資格試験に対応できる指導も行う。 毎回、単語テストを行う。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定３級、通訳案内士（スペイン語）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	前期の内容の復習	もう一度、単語テスト	語彙の確認
2	日本の歴史（1）	古代（奈良を中心に）	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
3	日本の歴史（2）	中世（京都を中心に）	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
4	日本の歴史（3）	武士の時代（鎌倉～江戸）	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
5	日本の歴史（4）	近代（明治～昭和）	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
6	到達度確認テスト	これまでの総括	語彙力の再点検
7	近畿地方の観光スポット（1）	大阪の観光スポット	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
8	近畿地方の観光スポット（2）	大阪の観光スポット（2）	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
9	ボキャコン	基本語彙の点検	語彙力の重要性を再認識
10	近畿地方の観光スポット（3）	奈良の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。（1）	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
11	近畿地方の観光スポット（4）	奈良の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。（2）	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
12	近畿地方の観光スポット（5）	京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。（1）	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
13	近畿地方の観光スポット（6）	京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。（2）	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
14	近畿地方の観光スポット（7）	京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。（3）	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
15	到達度確認テスト	エアーガイド	

関連科目：スペイン語文章構成、オラル、映画のスペイン語

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリント		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	単語テスト（３０％）、ボキャブラリ・コンテスト（２０％）、到達度確認テスト（５０％）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	目標は高く掲げ、それに向かって地道に学習を積み重ねましょう。
担当者の研究室等	７号館５階（安達研究室）
備考	ボキャコンの日程はスペイン語検定との関係で前後することがある。事前・事後に各 60 分の学修を要する。

科目名	スペイン語通訳Ⅱ	科目名（英文）	Spanish for Interpreters and Tour Guides II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	R
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	篠原　愛人
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	日本の地理、歴史、文化、風習に関する基礎知識を深め、スペイン語で説明・紹介するために必要な語彙力と表現力の向上を目指す。
到達目標	京阪神の名所についてガイドできる知識とスペイン語力を身につける。
授業方法と留意点	日本の歴史文化を理解し、現代社会の特質をスペイン語で説明できるよう基礎知識を習得し、スペイン語での質問に口頭で応答する実践を行う。希望者には通訳案内士の資格試験に対応できる指導も行う。 毎回、単語テストを行う。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定３級、通訳案内士（スペイン語）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	前期の内容の復習	もう一度、単語テスト	語彙の確認
2	日本の歴史（1）	古代（奈良を中心に）	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
3	日本の歴史（2）	中世（京都を中心に）	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
4	日本の歴史（3）	武士の時代（鎌倉～江戸）	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
5	日本の歴史（4）	近代（明治～昭和）	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
6	到達度確認テスト	これまでの総括	語彙力の再点検
7	近畿地方の観光スポット（1）	大阪の観光スポット	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
8	近畿地方の観光スポット（2）	大阪の観光スポット（2）	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
9	ボキャコン	基本語彙の点検	語彙力の重要性を再認識
10	近畿地方の観光スポット（3）	奈良の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。（1）	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
11	近畿地方の観光スポット（4）	奈良の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。（2）	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
12	近畿地方の観光スポット（5）	京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。（1）	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
13	近畿地方の観光スポット（6）	京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。（2）	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
14	近畿地方の観光スポット（7）	京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。（3）	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
15	到達度確認テスト	エアーガイド	

関連科目：スペイン語文章構成、オラル、映画のスペイン語

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリント		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	単語テスト（３０％）、ボキャブラリ・コンテスト（２０％）、到達度確認テスト（５０％）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	目標は高く掲げ、それに向かって地道に学習を積み重ねましょう。
担当者の研究室等	７号館５階（篠原研究室）
備考	ボキャコンの日程はスペイン語検定との関係で前後することがある。事前・事後に各 60 分の学修を要する。

科目名	スペイン語通訳ガイドⅠ	科目名（英文）	Tour Guiding in Spanish Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	Ｑ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	篠原　愛人
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この期は日本のことについて説明できるよう、日本に関する知識を深めるとともに、外国人が日本のことをどう理解しているかを知ることに主眼を置く。日本の地理、歴史、文化、風習に関する基礎知識を深め、スペイン語で説明・紹介するために必要な語彙力と表現力の向上を目指す。 毎回、単語テストを行う。
到達目標	日本の地理、歴史、社会についてスペイン語で説明できるようになる。
授業方法と留意点	スペイン語で書かれた日本紹介文献や旅行ガイドを参考に、日本についての知識とスペイン語の基本的語彙を身につける。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定３級、通訳案内士（スペイン語）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	「通訳案内士」とは：通訳案内には何が必要か	通訳案内上の国家試験について
2	日本の自然	日本の地理的特徴、四季と気候について、スペイン語で書かれた日本案内のガイドブックを参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
3	日本の地理	日本の世界自然遺産について、スペイン語で書かれた日本案内のガイドブックを参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
4	日本の文化（１）	身の回りの事柄をスペイン語で説明する。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
5	日本の文化（２）	身の回りの事柄をスペイン語で説明する。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
6	日本の文化（３）	身の回りの事柄をスペイン語で説明する。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
7	到達度確認テスト	既習範囲の総点検	これまでに習った表現・語彙の復習
8	神社仏閣の案内（１）	日本の宗教（仏教と神道、禅）、相撲など武芸について、スペイン語で書かれた文章を参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
9	神社仏閣の案内（２）	日本の宗教（仏教と神道、禅）、相撲など武芸について、スペイン語で書かれた文章を参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
10	神社仏閣の案内（３）	日本の宗教（仏教と神道、禅）、相撲など武芸について、スペイン語で書かれた文章を参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
11	ボキャコン	基本的語彙力の検証	語彙力の大切さの再認識
12	神社仏閣の案内（３）	特定の神社仏閣を案内する対話文の作成	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
13	神社仏閣の案内（３）	特定の神社仏閣を案内する対話文の作成	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
14	神社仏閣の案内（３）	特定の神社仏閣を案内する対話文の作成	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
15	到達度確認テスト	特定の神社仏閣を案内する対話を実践（エアー・ガイド）	自分が調べた、日本文化の側面について３分間でスピーチ

関連科目	スペイン語オラル、映画のスペイン語

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリント		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	単語テスト（３０％）、ボキャブラリ・コンテスト（２０％）、到達度確認テスト（５０％）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	予習を欠かさず積極的に授業に臨んでください。事前・事後学修に各１時間を要する。
担当者の研究室等	７号館５階（篠原研究室）
備考	ボキャコンはスペイン語検定の日程との関係で前後することがある。

科目名	スペイン語通訳ガイドⅠ	科目名（英文）	Tour Guiding in Spanish Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	R
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	安達　直樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この期は日本のことについて説明できるよう、日本に関する知識を深めるとともに、外国人が日本のことをどう理解しているかを知ることに主眼を置く。日本の地理、歴史、文化、風習に関する基礎知識を深め、スペイン語で説明・紹介するために必要な語彙力と表現力の向上を目指す。 毎回、単語テストを行う。
到達目標	日本の地理、歴史、社会についてスペイン語で説明できるようになる。
授業方法と留意点	スペイン語で書かれた日本紹介文献や旅行ガイドを参考に、日本についての知識とスペイン語の基本的語彙を身につける。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定３級、通訳案内士（スペイン語）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	「通訳案内士」とは：通訳案内には何が必要か	通訳案内上の国家試験について
2	日本の自然	日本の地理的特徴、四季と気候について、スペイン語で書かれた日本案内のガイドブックを参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
3	日本の地理	日本の世界自然遺産について、スペイン語で書かれた日本案内のガイドブックを参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
4	日本の文化（１）	身の回りの事柄をスペイン語で説明する。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
5	日本の文化（２）	身の回りの事柄をスペイン語で説明する。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
6	日本の文化（３）	身の回りの事柄をスペイン語で説明する。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
7	到達度確認テスト	既習範囲の総点検	これまでに習った表現・語彙の復習
8	神社仏閣の案内（１）	日本の宗教（仏教と神道、禅）、相撲など武芸について、スペイン語で書かれた文章を参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
9	神社仏閣の案内（２）	日本の宗教（仏教と神道、禅）、相撲など武芸について、スペイン語で書かれた文章を参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
10	神社仏閣の案内（３）	日本の宗教（仏教と神道、禅）、相撲など武芸について、スペイン語で書かれた文章を参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
11	ボキャコン	基本的語彙力の検証	語彙力の大切さの再認識
12	神社仏閣の案内（３）	特定の神社仏閣を案内する対話文の作成	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
13	神社仏閣の案内（３）	特定の神社仏閣を案内する対話文の作成	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
14	神社仏閣の案内（３）	特定の神社仏閣を案内する対話文の作成	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
15	到達度確認テスト	特定の神社仏閣を案内する対話を実践（エアー・ガイド）	自分が調べた、日本文化の側面について３分間でスピーチ

関連科目	スペイン語オラル、映画のスペイン語

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリント		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	単語テスト（３０％）、ボキャブラリ・コンテスト（２０％）、到達度確認テスト（５０％）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	予習を欠かさず積極的に授業に臨んでください。事前・事後学修に各１時間を要する。
担当者の研究室等	７号館５階（安達研究室）
備考	ボキャコンはスペイン語検定の日程との関係で前後することがある。

科目名	スペイン語通訳ガイドⅡ	科目名（英文）	Tour Guiding in Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	Q
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	安達　直樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	日本の地理、歴史、文化、風習に関する基礎知識を深め、スペイン語で説明・紹介するために必要な語彙力と表現力の向上を目指す。
到達目標	京阪神の名所についてガイドできる知識とスペイン語力を身につける。
授業方法と留意点	日本の歴史文化を理解し、現代社会の特質をスペイン語で説明できるよう基礎知識を習得し、スペイン語での質問に口頭で応答する実践を行う。希望者には通訳案内士の資格試験に対応できる指導も行う。 毎回、単語テストを行う。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定３級、通訳案内士（スペイン語）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	前期の内容の復習	もう一度、単語テスト	語彙の確認
2	日本の歴史（1）	古代（奈良を中心に）	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
3	日本の歴史（2）	中世（京都を中心に）	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
4	日本の歴史（3）	武士の時代（鎌倉～江戸）	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
5	日本の歴史（4）	近代（明治～昭和）	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
6	到達度確認テスト	これまでの総括	語彙力の再点検
7	近畿地方の観光スポット（1）	大阪の観光スポット	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
8	近畿地方の観光スポット（2）	大阪の観光スポット（2）	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
9	ボキャコン	基本語彙の点検	語彙力の重要性を再認識
10	近畿地方の観光スポット（3）	奈良の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。（1）	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
11	近畿地方の観光スポット（4）	奈良の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。（2）	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
12	近畿地方の観光スポット（5）	京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。（1）	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
13	近畿地方の観光スポット（6）	京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。（2）	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
14	近畿地方の観光スポット（7）	京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。（3）	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
15	到達度確認テスト	エアーガイド	

関連科目：スペイン語文章構成、オラル、映画のスペイン語

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリント		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	単語テスト（３０％）、ボキャブラリ・コンテスト（２０％）、到達度確認テスト（５０％）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	目標は高く掲げ、それに向かって地道に学習を積み重ねましょう。
担当者の研究室等	７号館５階（安達研究室）
備考	ボキャコンの日程はスペイン語検定との関係で前後することがある。事前・事後に各 60 分の学修を要する。

科目名	スペイン語通訳ガイドⅡ	科目名（英文）	Tour Guiding in Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	R
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	篠原　愛人
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	日本の地理、歴史、文化、風習に関する基礎知識を深め、スペイン語で説明・紹介するために必要な語彙力と表現力の向上を目指す。
到達目標	京阪神の名所についてガイドできる知識とスペイン語力を身につける。
授業方法と留意点	日本の歴史文化を理解し、現代社会の特質をスペイン語で説明できるよう基礎知識を習得し、スペイン語での質問に口頭で応答する実践を行う。希望者には通訳案内士の資格試験に対応できる指導も行う。 毎回、単語テストを行う。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定３級、通訳案内士（スペイン語）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	前期の内容の復習	もう一度、単語テスト	語彙の確認
2	日本の歴史（1）	古代（奈良を中心に）	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
3	日本の歴史（2）	中世（京都を中心に）	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
4	日本の歴史（3）	武士の時代（鎌倉～江戸）	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
5	日本の歴史（4）	近代（明治～昭和）	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
6	到達度確認テスト	これまでの総括	語彙力の再点検
7	近畿地方の観光スポット（1）	大阪の観光スポット	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
8	近畿地方の観光スポット（2）	大阪の観光スポット（2）	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
9	ボキャコン	基本語彙の点検	語彙力の重要性を再認識
10	近畿地方の観光スポット（3）	奈良の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。（1）	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
11	近畿地方の観光スポット（4）	奈良の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。（2）	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
12	近畿地方の観光スポット（5）	京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。（1）	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
13	近畿地方の観光スポット（6）	京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。（2）	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
14	近畿地方の観光スポット（7）	京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。（3）	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
15	到達度確認テスト	エアーガイド	

関連科目：スペイン語文章構成、オラル、映画のスペイン語

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリント		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	単語テスト（３０％）、ボキャブラリ・コンテスト（２０％）、到達度確認テスト（５０％）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	目標は高く掲げ、それに向かって地道に学習を積み重ねましょう。
担当者の研究室等	７号館５階（篠原研究室）
備考	ボキャコンの日程はスペイン語検定との関係で前後することがある。事前・事後に各 60 分の学修を要する。

科目名	スペイン語トピックス	科目名（英文）	Topics in the Spanish Language
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北條　ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	DP7○,DP8◎		

授業概要・目的	スペイン語圏の歴史や文化などに関する文章の読解を通して、スペイン語の実践的な語彙や表現を習得する。また、DVD などの視覚教材を用いて、広大なスペイン語圏の特質や今日的な問題についての理解を深める。
到達目標	スペイン語の読解力を養う。スペイン語圏についての理解を深める。
授業方法と留意点	履修生の読解力と関心に応じて、取り組む授業テーマを変更することがある。 レポートや発表を課す予定である。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定４級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方や評価基準について	--------
2	ラテンアメリカについて	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
3	メキシコ（1）	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
4	メキシコ（2）	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
5	ペルー	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
6	キューバ	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
7	前半のまとめ	前半の復習と中間テスト	---------
8	コスタリカ	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
9	映画のなかのラテンアメリカ（1）	訳読、聞き取り	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
10	映画のなかのラテンアメリカ（2）	訳読、聞き取り	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
11	アルゼンチン	履修生によるグループ発表（1）	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
12	チリ	履修生によるグループ発表（2）	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
13	ベネズエラ	履修生によるグループ発表（3）	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
14	コロンビア	履修生によるグループ発表（4）	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
15	まとめ	後半のまとめと確認テスト	――――――

関連科目：スペイン語の全科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業参加度・レポート・発表など 40%、臨時試験（中間・確認テスト） 60%
学生へのメッセージ	授業への積極的な参加を望む。プレゼンの準備を工夫して行ってほしい。 事前に配布したプリントを必ず熟読し、授業に臨むこと。
担当者の研究室等	７号館５階 北條研究室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。

科目名	スペイン語入門Ａ	科目名（英文）	Introduction to Spanish Grammar A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	Ｑ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北條　ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	・「スペイン語入門Ｂ、Ｃ」と同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理（文法）を学ぶ。そのため、必ず「入門Ｂ、Ｃ」と合わせて受講すること。 ・初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、毎回、範囲を決めて単語テストを課す。
到達目標	スペイン語の文法事項のうち、名詞とそれを修飾する冠詞・形容詞、および動詞の現在形・現在完了形の活用と用法をマスターする。 基本語彙（約 500 語）を覚える。
授業方法と留意点	必ず予習をして授業に臨むこと。漫然と座っているだけでは授業に出席する意味はない。 予習段階で不明なところを自分で把握しておくこと。そのために、教科書の練習問題も自力で可能な限り解いておくこと。
科目学習の効果（資格）	スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を身に着ける。 日本語とも英語とも異なる言語の存在とその相違や類似に気づく。 スペイン語検定６級。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第１課	アルファベットと発音	予習と復習　単語暗記
2	第２課	名詞と冠詞・基数詞	予習と復習　単語暗記
3	第３課	形容詞・主格人称代名詞・SER 直説法現在・否定文・疑問文	予習と復習　単語暗記
4	第４課	規則動詞直説法現在・目的語と前置詞 a・前置詞＋冠詞・疑問詞・接続詞	予習と復習　単語暗記
5	第５課	ESTAR/HAY・基数詞・助数詞・時刻／日時の表現	予習と復習　単語暗記
6	第６課	一般動詞の不規則活用（１）・指示詞・所有詞（１）	予習と復習　単語暗記
7	第７課	一般動詞の不規則活用２）・目的格人称代名詞・所有詞（２）	予習と復習　単語暗記
8	中間的試験 これまでの総復習	中間的試験	予習と復習　単語暗記
9	試験解説 第８課	一般動詞の不規則活用（３）・副詞・理由／目的／結果の表現	予習と復習　単語暗記
10	第９課	gustar 型動詞・前置詞・前置詞格代名詞	予習と復習　単語暗記
11	第 10 課	再帰動詞・無人称文・基数詞	予習と復習　単語暗記
12	第１１課	命令文・不定詞・現在分詞	予習と復習　単語暗記
13	第 12 課	過去分詞・直説法現在完了・不定語／否定語	予習と復習　単語暗記
14	特に後半の総復習	これまでの復習	予習と復習　単語暗記
15	まとめ	これまでの復習・確認テスト	予習と復習　単語暗記

関連科目　スペイン語入門Ａ、Ｂ　　総合スペイン語

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	西和中辞典	高垣ほか	小学館
2			
3			

評価方法（基準）	スペイン語入門Ｂ、Ｃと合わせて評価する。ある程度の単元を終えると、A,B,C のいずれかで理解度確認テストを行う。 中間で少なくとも一度はテストを実施する。最終週または第 14 週に全既習範囲を対象とした到達度確認テストを行う。 配布する「基本単語集」をもとに、毎回、単語テストを行う。また、ボキャブラリ・コンテストも実施（6 月の予定）。 「期末試験＋それ以外の小規模・中規模の試験＋ボキャコン　９０％＋単語テスト　１０％」
学生へのメッセージ	最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまずき失敗から学びながら地道にマスターしていきましょう。 予習・復習・自習（教科書や授業以外での取り組み）が必須になるので、自己管理をきちんと行うように。 「覚える」ということに、中高生の時以上に時間と神経、労力を費やすこと。単元ごとに学習内容を省みること。
担当者の研究室等	７号館５階　北條研究室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。

科目名	スペイン語入門Ａ	科目名（英文）	Introduction to Spanish Grammar A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	酒井　真梨奈
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的

・「スペイン語入門Ｂ、C」と同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理（文法）を学ぶ。そのため、必ず「入門Ｂ、C」と合わせて受講すること。
・初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、毎回、範囲を決めて単語テストを課す。

到達目標

スペイン語の文法事項のうち、名詞とそれを修飾する冠詞・形容詞、および動詞の現在形・現在完了形の活用と用法をマスターする。
基本語彙（約 500 語）を覚える。

授業方法と留意点

必ず予習をして授業に臨むこと。漫然と座っているだけでは授業に出席する意味はない。
予習段階で不明なところを自分で把握しておくこと。そのために、教科書の練習問題も自力で可能な限り解いておくこと。

科目学習の効果（資格）

スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を身に着ける。
日本語とも英語とも異なる言語の存在とその相違や類似に気づく。
スペイン語検定６級。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第１課	アルファベットと発音	予習と復習　単語暗記
2	第２課	名詞と冠詞・基数詞	予習と復習　単語暗記
3	第３課	形容詞・主格人称代名詞・SER 直説法現在・否定文・疑問文	予習と復習　単語暗記
4	第４課	規則動詞直説法現在・目的語と前置詞 a・前置詞＋冠詞・疑問詞・接続詞	予習と復習　単語暗記
5	第５課	ESTAR/HAY・基数詞・助数詞・時刻／日時の表現	予習と復習　単語暗記
6	第６課	一般動詞の不規則活用（１）・指示詞・所有詞（１）	予習と復習　単語暗記
7	第７課	一般動詞の不規則活用２）・目的格人称代名詞・所有詞（２）	予習と復習　単語暗記
8	中間的試験 これまでの総復習	中間的試験	予習と復習　単語暗記
9	試験解説 第８課	一般動詞の不規則活用（３）・副詞・理由／目的／結果の表現	予習と復習　単語暗記
10	第９課	gustar 型動詞・前置詞・前置詞格代名詞	予習と復習　単語暗記
11	第 10 課	再帰動詞・無人称文・基数詞	予習と復習　単語暗記
12	第１１課	命令文・不定詞・現在分詞	予習と復習　単語暗記
13	第 12 課	過去分詞・直説法現在完了・不定語／否定語	予習と復習　単語暗記
14	特に後半の総復習	これまでの復習	予習と復習　単語暗記
15	まとめ	これまでの復習・確認テスト	予習と復習　単語暗記

関連科目

スペイン語入門Ｂ、C　　スペイン語応用Ｉ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	西和中辞典	高垣ほか	小学館
2			
3			

評価方法（基準）

スペイン語入門Ｂ、C と合わせて評価する。ある程度の単元を終えると、A,B,C のいずれかで理解度確認テストをする。
中間的に少なくとも一度はテストを実施する。最終週または第 14 週に全既習範囲を対象とした到達度確認テストをする。
配布する「基本単語集」をもとに、毎回、単語テストを行う。また、ボキャブラリ・コンテストも実施（6 月の予定）。
「期末試験＋それ以外の小規模・中規模の試験＋ボキャコン　９０％＋単語テスト１０％」

学生へのメッセージ

最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまずき失敗から学びながら地道にマスターしていきましょう。
予習・復習・自習（教科書や授業以外での取り組み）が必須になるので、自己管理をきちんと行うように。
「覚える」ということに、中高生の時以上に時間と神経、労力を費やすこと。単元ごとに学習内容を省みること。

担当者の研究室等

７号館２階　非常勤講師控室

備考

事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。

科目名	スペイン語入門Ｂ	科目名（英文）	Introduction to Spanish Grammar B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	Ｑ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	篠原　愛人
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	・「スペイン語入門 A、C」と同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理（文法）を学ぶ。そのため、必ず「入門Ａ、C」と合わせて受講すること。 ・初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、毎回、範囲を決めて単語テストを課す。
到達目標	スペイン語の文法事項のうち、名詞とそれを修飾する冠詞・形容詞、および動詞の現在形・現在完了形の活用と用法をマスターする。 基本語彙（約 500 語）を覚える。
授業方法と留意点	必ず予習をして授業に臨むこと。漫然と座っているだけでは授業に出席する意味はない。 予習段階で不明なところを自分で把握しておくこと。そのために、教科書の練習問題も自力で可能な限り解いておくこと。
科目学習の効果（資格）	スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を身に着ける。 日本語とも英語とも異なる言語の存在とその相違や類似に気づく。 スペイン語検定６級。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第１課	アルファベットと発音	予習と復習　単語暗記
2	第２課	名詞と冠詞・基数詞	予習と復習　単語暗記
3	第３課	形容詞・主格人称代名詞・SER 直説法現在・否定文・疑問文	予習と復習　単語暗記
4	第４課	規則動詞直説法現在・目的語と前置詞 a・前置詞＋冠詞・疑問詞・接続詞	予習と復習　単語暗記
5	第５課	ESTAR/HAY・基数詞・助数詞・時刻／日時の表現	予習と復習　単語暗記
6	第６課	一般動詞の不規則活用（１）・指示詞・所有詞（１）	予習と復習　単語暗記
7	第７課	一般動詞の不規則活用２）・目的格人称代名詞・所有詞（２）	予習と復習　単語暗記
8	中間的試験 これまでの総復習	中間的試験	予習と復習　単語暗記
9	試験解説 第８課	一般動詞の不規則活用（３）・副詞・理由／目的／結果の表現	予習と復習　単語暗記
10	第９課	gustar 型動詞・前置詞・前置詞格代名詞	予習と復習　単語暗記
11	第 10 課	再帰動詞・無人称文・基数詞	予習と復習　単語暗記
12	第１１課	命令文・不定詞・現在分詞	予習と復習　単語暗記
13	第 12 課	過去分詞・直説法現在完了・不定語／否定語	予習と復習　単語暗記
14	特に後半の総復習	これまでの復習	予習と復習　単語暗記
15	まとめ	これまでの復習・確認テスト	予習と復習　単語暗記

関連科目　スペイン語入門Ａ、C　　総合スペイン語

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	西和中辞典	高垣ほか	小学館
2			
3			

評価方法（基準）	スペイン語入門 A、C と合わせて評価する。ある程度の単元を終えると、A,B,C のいずれかで理解度確認テストを行う。 中間的に少なくとも一度はテストを実施する。最終週または第 14 週に全既習範囲を対象とした到達度確認テストを行う。 配布する「基本単語集」をもとに、毎回、単語テストを行う。また、ボキャブラリ・コンテストも実施（時期未定）。 「期末試験＋それ以外の小規模・中規模の試験＋ボキャコン　９０％　＋　単語テスト１０％」
学生へのメッセージ	最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまずき失敗から学びながら地道にマスターしていきましょう。 予習・復習・自習（教科書や授業以外での取り組み）が必須になるので、自己管理をきちんと行うように。 「覚える」ということに、中高生の時以上に時間と神経、労力を費やすこと。単元ごとに学習内容を省みること。
担当者の研究室等	７号館５階　篠原研究室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。

科目名	スペイン語入門Ｂ	科目名（英文）	Introduction to Spanish Grammar B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	三浦　知佐子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	・「スペイン語入門 A、C」と同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理（文法）を学ぶ。そのため、必ず「入門Ａ、C」と合わせて受講すること。 ・初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、毎回、範囲を決めて単語テストを課す。
到達目標	スペイン語の文法事項のうち、名詞とそれを修飾する冠詞・形容詞、および動詞の現在形・現在完了形の活用と用法をマスターする。 基本語彙（約 500 語）を覚える。
授業方法と留意点	必ず予習をして授業に臨むこと。漫然と座っているだけでは授業に出席する意味はない。 予習段階で不明なところを自分で把握しておくこと。そのために、教科書の練習問題も自力で可能な限り解いておくこと。
科目学習の効果（資格）	スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を身に着ける。 日本語とも英語とも異なる言語の存在とその相違や類似に気づく。 スペイン語検定６級。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第１課	アルファベットと発音	予習と復習　単語暗記
2	第２課	名詞と冠詞・基数詞	予習と復習　単語暗記
3	第３課	形容詞・主格人称代名詞・SER 直説法現在・否定文・疑問文	予習と復習　単語暗記
4	第４課	規則動詞直説法現在・目的語と前置詞 a・前置詞＋冠詞・疑問詞・接続詞	予習と復習　単語暗記
5	第５課	ESTAR/HAY・基数詞・助数詞・時刻／日時の表現	予習と復習　単語暗記
6	第６課	一般動詞の不規則活用（１）・指示詞・所有詞（１）	予習と復習　単語暗記
7	第７課	一般動詞の不規則活用２）・目的格人称代名詞・所有詞（２）	予習と復習　単語暗記
8	中間的試験 これまでの総復習	中間的試験	予習と復習　単語暗記
9	試験解説 第８課	一般動詞の不規則活用（３）・副詞・理由／目的／結果の表現	予習と復習　単語暗記
10	第９課	gustar 型動詞・前置詞・前置詞格代名詞	予習と復習　単語暗記
11	第 10 課	再帰動詞・無人称文・基数詞	予習と復習　単語暗記
12	第１１課	命令文・不定詞・現在分詞	予習と復習　単語暗記
13	第 12 課	過去分詞・直説法現在完了・不定語／否定語	予習と復習　単語暗記
14	特に後半の総復習	これまでの復習	予習と復習　単語暗記
15	まとめ	これまでの復習・確認テスト	予習と復習　単語暗記

関連科目　スペイン語入門Ａ、C　　総合スペイン語

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	西和中辞典	高垣ほか	小学館
2			
3			

評価方法（基準）	スペイン語入門 A、C と合わせて評価する。ある程度の単元を終えると、A,B,C のいずれかで理解度確認テストを行う。 中間的に少なくとも一度はテストを実施する。最終週または第 14 週に全既習範囲を対象とした到達度確認テストを行う。 配布する「基本単語集」をもとに、毎回、単語テストを行う。また、ボキャブラリ・コンテストも実施（6 月の予定）。 「期末試験＋それ以外の小規模・中規模の試験＋ボキャコン　９０％　＋　単語テスト１０％」
学生へのメッセージ	最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまずき失敗から学びながら地道にマスターしていきましょう。 予習・復習・自習（教科書や授業以外での取り組み）が必須になるので、自己管理をきちんと行うように。 「覚える」ということに、中高生の時以上に時間と神経、労力を費やすこと。単元ごとに学習内容を省みること。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師控室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。

科目名	スペイン語入門Ｃ	科目名（英文）	Introduction to Spanish Grammar C
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	Ｑ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安達　直樹
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	・「スペイン語入門Ａ、B」と同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理（文法）を学ぶ。そのため、必ず「入門Ａ、B」と合わせて受講すること。 ・初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、毎回、範囲を決めて単語テストを課す。
到達目標	スペイン語の文法事項のうち、名詞とそれを修飾する冠詞・形容詞、および動詞の現在形・現在完了形の活用と用法をマスターする。 基本語彙（約 500 語）を覚える。
授業方法と留意点	必ず予習をして授業に臨むこと。漫然と座っているだけでは授業に出席する意味はない。 予習段階で不明なところを自分で把握しておくこと。そのために、教科書の練習問題も自力で可能な限り解いておくこと。
科目学習の効果（資格）	スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を身に着ける。 日本語とも英語とも異なる言語の存在とその相違や類似に気づく。 スペイン語検定６級。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第１課	アルファベットと発音	予習と復習　単語暗記
2	第２課	名詞と冠詞・基数詞	予習と復習　単語暗記
3	第３課	形容詞・主格人称代名詞・SER 直説法現在・否定文・疑問文	予習と復習　単語暗記
4	第４課	規則動詞直説法現在・目的語と前置詞 a・前置詞＋冠詞・疑問詞・接続詞	予習と復習　単語暗記
5	第５課	ESTAR/HAY・基数詞・助数詞・時刻／日時の表現	予習と復習　単語暗記
6	第６課	一般動詞の不規則活用（１）・指示詞・所有詞（１）	予習と復習　単語暗記
7	第７課	一般動詞の不規則活用２）・目的格人称代名詞・所有詞（２）	予習と復習　単語暗記
8	中間的試験 これまでの総復習	中間的試験	予習と復習　単語暗記
9	試験解説 第８課	一般動詞の不規則活用（３）・副詞・理由／目的／結果の表現	予習と復習　単語暗記
10	第９課	gustar 型動詞・前置詞・前置詞格代名詞	予習と復習　単語暗記
11	第 10 課	再帰動詞・無人称文・基数詞	予習と復習　単語暗記
12	第１１課	命令文・不定詞・現在分詞	予習と復習　単語暗記
13	第 12 課	過去分詞・直説法現在完了・不定語／否定語	予習と復習　単語暗記
14	特に後半の総復習	これまでの復習	予習と復習　単語暗記
15	まとめ	これまでの復習・確認テスト	予習と復習　単語暗記

関連科目　スペイン語入門Ａ、B　スペイン語応用Ｉ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	西和中辞典	高垣ほか	小学館
2			
3			

評価方法（基準）	スペイン語入門 A、B と合わせて評価する。ある程度の単元を終えると、A,B,C のいずれかで理解度確認テストをする。 中間的に少なくとも一度はテストを実施する。最終週または第 14 週に全既習範囲を対象とした到達度確認テストをする。 配布する「基本単語集」をもとに、毎回、単語テストを行う。また、ボキャブラリ・コンテストも実施（6 月の予定）。 「期末試験＋それ以外の小規模・中規模の試験＋ボキャコン　９０％＋単語テスト１０％」
学生へのメッセージ	最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまずき失敗から学びながら地道にマスターしていきましょう。 予習・復習・自習（教科書や授業以外での取り組み）が必須になるので、自己管理をきちんと行うように。 「覚える」ということに、中高生の時以上に時間と神経、労力を費やすこと。単元ごとに学習内容を省みること。
担当者の研究室等	７号館５階　個人（安達）研究室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。

科目名	スペイン語入門C	科目名（英文）	Introduction to Spanish Grammar C
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西村　初美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的

・「スペイン語入門Ａ、B」と同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理（文法）を学ぶ。そのため、必ず「入門Ａ、B」と合わせて受講すること。
・初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、毎回、範囲を決めて単語テストを課す。

到達目標

スペイン語の文法事項のうち、名詞とそれを修飾する冠詞・形容詞、および動詞の現在形・現在完了形の活用と用法をマスターする。
基本語彙（約 500 語）を覚える。

授業方法と留意点

必ず予習をして授業に臨むこと。漫然と座っているだけでは授業に出席する意味はない。
予習段階で不明なところを自分で把握しておくこと。そのために、教科書の練習問題も自力で可能な限り解いておくこと。

科目学習の効果（資格）

スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を身に着ける。
日本語とも英語とも異なる言語の存在とその相違や類似に気づく。
スペイン語検定６級。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第１課	アルファベットと発音	予習と復習　単語暗記
2	第２課	名詞と冠詞・基数詞	予習と復習　単語暗記
3	第３課	形容詞・主格人称代名詞・SER 直説法現在・否定文・疑問文	予習と復習　単語暗記
4	第４課	規則動詞直説法現在・目的語と前置詞 a・前置詞＋冠詞・疑問詞・接続詞	予習と復習　単語暗記
5	第５課	ESTAR/HAY・基数詞・助数詞・時刻／日時の表現	予習と復習　単語暗記
6	第６課	一般動詞の不規則活用（１）・指示詞・所有詞（１）	予習と復習　単語暗記
7	第７課	一般動詞の不規則活用２）・目的格人称代名詞・所有詞（２）	予習と復習　単語暗記
8	中間的試験 これまでの総復習	中間的試験	予習と復習　単語暗記
9	試験解説 第８課	一般動詞の不規則活用（３）・副詞・理由／目的／結果の表現	予習と復習　単語暗記
10	第９課	gustar 型動詞・前置詞・前置詞格代名詞	予習と復習　単語暗記
11	第 10 課	再帰動詞・無人称文・基数詞	予習と復習　単語暗記
12	第１１課	命令文・不定詞・現在分詞	予習と復習　単語暗記
13	第 12 課	過去分詞・直説法現在完了・不定語／否定語	予習と復習　単語暗記
14	特に後半の総復習	これまでの復習	予習と復習　単語暗記
15	まとめ	これまでの復習・確認テスト	予習と復習　単語暗記

関連科目

スペイン語入門Ａ、B　　スペイン語応用Ｉ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	西和中辞典	高垣ほか	小学館
2			
3			

評価方法（基準）

スペイン語入門 A、B と合わせて評価する。ある程度の単元を終えると、A,B,C のいずれかで理解度確認テストを行う。
中間的に少なくとも一度はテストを実施する。最終週または第 14 週に全既習範囲を対象とした到達度確認テストを行う。
配布する「基本単語集」をもとに、毎回、単語テストを行う。また、ボキャブラリ・コンテストも実施（6 月の予定）。
「期末試験＋それ以外の小規模・中規模の試験＋ボキャコン　９０％＋単語テスト１０％」

学生へのメッセージ

最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまずき失敗から学びながら地道にマスターしていきましょう。
予習・復習・自習（教科書や授業以外での取り組み）が必須になるので、自己管理をきちんと行うように。
「覚える」ということに、中高生の時以上に時間と神経、労力を費やすこと。単元ごとに学習内容を省みること。

担当者の研究室等

７号館２階　非常勤講師控室

備考

事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。

科目名	スペイン語文章構成Ⅰ	科目名（英文）	Spanish Composition Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北條　ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	文の要素と構造による種類をきちんと理解することを通して、スペイン語での文構築が正確にできる力を養う。 後半はそれと並行して、身近なテーマで短いスピーチ原稿を作文し、それをスペイン語に訳す。その自作スピーチの添削を受けた後、暗唱し発表する。これを後期に行うスピーチ・コンテストの試行体験と位置づける。
到達目標	語彙力を着実に広げ、正確なスペイン語での文章表現ができるようになる。
授業方法と留意点	与えられた練習問題を必ず解いたうえで授業に臨み、受講生の板書に対する添削と説明を聴き、和文西訳に慣れる。 「総合Ａ」と「総合Ｂ」で学ぶ接続法はスペイン語で頻繁に用いられるため、本科目と密接に関連している。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定５級～4 級（4 級合格には接続法の理解が必要です。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	文の要素：主部・述部、句・節、単文・複文・重文、目的語、補語の理解と判別	文法用語の確認と品詞ごとの特徴の整理
2	第１課	ser, estar, haber の使い分け	和文西訳、語彙の整理
3	第１課	冠詞の用い方	和文西訳、語彙の整理
4	第２課	一般動詞の正しい用法	和文西訳、語彙の整理
5	第２課	動詞の語彙を増やす	和文西訳、語彙の整理
6	第３課	形容詞	和文西訳、語彙の整理
7	第３課	副詞	和文西訳、語彙の整理 「総合スペイン語 A･B」で学んでいる接続法 4 時制の確認 スピーチ原稿を日本語で準備する
8	前半のまとめ	既修項目の復習と中間テスト	和文西訳、語彙の整理 「総合スペイン語 A･B」で学んでいる接続法 4 時制の確認
9	第４課	正しい品詞の使い方	和文西訳、語彙の整理 スペイン語技能検定 4 級過去問を解く。 スピーチ原稿のスペイン語訳を行う。
10	第４課	正しい品詞の使い方	和文西訳、語彙の整理 スペイン語技能検定 4 級過去問を解く。 スピーチ原稿のスペイン語訳を
11	第５課	目的格人称代名詞	和文西訳、語彙の整理 スピーチ原稿の添削指導を受け、理解した上で完成原稿を作成する。
12	第５課	指示代名詞中性形、前置格代名詞	和文西訳、語彙の整理 スピーチ完成原稿を暗誦し、発表の練習をする。
13	既修項目の総復習	理解不足の項目に関する補足練習問題	和文西訳、語彙の整理 スピーチ完成原稿を暗誦し、発表の練習をする。
14	スピーチの発表	同級生のスピーチを理解しようと努めると同時に、未知の語彙を聞きとり書きとめる。	事前に、スピーチ発表のための発音、イントネーション、表現力などの指導を行う。「オラル」のネイティブ教員からも必ずアドバイスを受けておくこと。
15	これまでの学習内容の確認	既修項目の復習と理解度判定テスト	総復習

関連科目：スペイン語オラルⅢ、総合スペイン語 A・B、メディアのスペイン語Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『スペイン語作文初級コース』	木村琢也　中西智恵美	同学社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	練習問題の予習・提出物・スピーチの作成過程など ３０％、複数回の中間テスト・目標到達度判定テスト ７０％
学生へのメッセージ	スペイン語で正しく文章が書けるようになるために、数多く作文練習を積み重ねましょう。毎回必ず、配布された練習問題を解く予習を欠かさないこと。 自作原稿をスペイン語に訳し、暗唱し発表する、初めてのスピーチに挑みます。
担当者の研究室等	７号館５階 北條研究室
備考	語彙力を養うために、ボキャブラリ・コンテストのための単語リストを最大限活用すること。 事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。

科目名	スペイン語文章構成Ⅱ	科目名（英文）	Spanish Composition II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林　安紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	文の要素と構造による種類をきちんと理解することを通して、スペイン語での文構築が正確にできる力を養う。 前半は構文習得のための文章作法を、後半はテーマ・場面別の作文練習を行うことで系統立った語彙力養成を中心に学習する。 11 月末頃に行うスペイン語スピーチコンテストの原稿作成に重点を置く。日本語原稿を夏休み前までに完成し、夏休み中にスペイン語訳に取り組み、後期初回の授業で提出する。10 月半ばまでに添削を受け、音読と暗唱の練習を行う。
到達目標	語彙力をより豊かにしつつ、正確なスペイン語での文章表現ができるようになる。
授業方法と留意点	与えられた練習問題を必ず解いたうえで授業に臨み、受講生の板書に対する添削と説明を聴き、和文西訳に慣れる。 理解度やスピーチ・コンテストの日程により、授業内容の順番が入れ替わることもある。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定４級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	５課　代名詞	和文西訳 スピーチ原稿指導	学習事項の確認と予習
2	５課　代名詞	和文西訳 スピーチ原稿指導	学習事項の確認と予習
3	６課　代名詞 se、再帰動詞、gustar 型動詞	和文西訳 スピーチ原稿指導	学習事項の確認と予習
4	６課　代名詞 se、再帰動詞、gustar 型動詞	和文西訳 スピーチ原稿指導	学習事項の確認と予習
5	７課　前置詞、関係詞、接続詞	和文西訳 スピーチ原稿指導	学習事項の確認と予習
6	７課　前置詞、関係詞、接続詞	和文西訳 スピーチ原稿指導	学習事項の確認と予習
7	８課　時制	和文西訳 スピーチ原稿指導	学習事項の確認と予習
8	８課　時制	和文西訳 スピーチ原稿指導	学習事項の確認と予習
9	９課　直説法、接続法、命令法	和文西訳 スピーチ原稿指導	学習事項の確認と予習
10	９課　直説法、接続法、命令法	和文西訳 コンテスト直前スピーチ原稿指導	学習事項の確認と予習
11	１０課　その他	和文西訳	学習事項の確認と予習
12	１０課　その他	和文西訳	学習事項の確認と予習
13	テーマ別作文１	和文西訳	学習事項の確認と予習
14	テーマ別作文２	和文西訳	学習事項の確認
15	学習事項の確認	目標到達度達成判定テスト	総復習

関連科目：スペイン語関連の科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スペイン語作文初級コース	木村琢也 / 中西智恵美	同学社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（練習問題の予習・提出物・小テスト・スピーチの作成過程など）および目標到達度判定テスト　７０％ ただし、スピーチ原稿は３０％分の評価とする。
学生へのメッセージ	スペイン語で正しく文章が書けるようになるために、数多く作文練習を積み重ねましょう。毎回必ず、配布された練習問題を解く予習を欠かさないこと。 自分の主張や固有の体験を短くとも「聞かせる」日本語で書き、スペイン語に訳した原稿を暗唱し発表する、初めてのスピーチに挑みます。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師控室
備考	語彙力を養うために、ボキャブラリ・コンテストのための単語リストを最大限活用してください。 事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。

科目名	スペイン語文章構成Ⅲ	科目名（英文）	Spanish Composition III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安達　直樹
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	前半は２年次の教科書（購入すること）を引き続き使用し、時間に余裕があればプリントでスペイン語の作文練習を行う。 語彙と表現の幅を広げる。文法の正確な知識を身につける。
到達目標	文法の基礎を確認し、正確な文章を作成すること。 語彙は、日常の私的領域に関わるものから、学術的、社会的な領域のものにまで広げる。 知識として蓄積されたものを正確に表出する練習。
授業方法と留意点	文法事項を復習しながら、和文西訳の練習を行う。授業は作文の添削から始めるので、必ず予習をし問題を解いたうえで授業に臨むこと。日本語との対照の視点を持つこと。日本語の文章を、文法的にも論理的にも正確に把握し、また表現することを常に心がけること。 文構造の把握と暗記が作文の基本であるので、知識として定着するまで何度も反復練習すること。 前期末に、スピーチの原稿を提出する。
科目学習の効果（資格）	スペイン語の表現力を身につけること。日本語の理解を深めること。 応用の前提となる、暗記・暗唱（スピーチ）の力を養う。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の概要、評価基準について 既習文法事項の復習	1，2 回生の学習事項の中で、特に難しいと感じた点を挙げること。
2	第６課　不定主語・相互	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
3	第６課　　不定主語･相互	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
4	第７課　動詞１	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
5	第７課　動詞１	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
6	第８課　動詞２	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
7	第８課　動詞２	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
8	前半のまとめ	既習項目の復習と中間テスト	和文西訳、新出語彙の整理
9	第９課　前置詞	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
10	第９課　前置詞	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
11	第 10 課　形容詞・副詞	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
12	第 10 課　形容詞・副詞	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
13	第 11 課　疑問詞・関係詞・冠詞	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
14	第 11 課　疑問詞・関係詞・冠詞	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
15	後半のまとめ	既習項目の復習と期末テスト	和文西訳、新出語彙の整理

関連科目：スペイン語の科目、スピーチコンテスト

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スペイン語作文中級コース	木村琢也　中西智恵美	同学社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席、授業態度、提出物、臨時試験（中間・期末）などを総合的に評価する。 おおよそ、試験（2 回以上行う）７０％、受講態度・課題・提出物３０％。
学生へのメッセージ	言語習得には、予習と復習が欠かせない。授業を、黒板の“模範解答”を写すだけの時間にしてしまわないこと。 語彙はもちろん、文型や構文、慣用表現を覚えることが第一である。1，2 回生で学んだことを自分で整理して、基礎知識として定着させておくこと。 スピーチ原稿作成に関しては、年頭に配布する実施要領に従って準備を怠らないこと。 自己管理をきちんとして、主体的に勉学に取り組むこと。事前・事後学修に各１時間を要する。
担当者の研究室等	７号館５階（個人研究室）
備考	15 回の授業スケジュールはあくまでも一応の目安であり、状況に応じて大小の変更が生じうる。 前年度文章構成 II のようにプリント配布を行わないので、必ず教科書を購入すること。

科目名	スペイン語文章構成Ⅲ	科目名（英文）	Spanish Composition III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林　安紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	前半は２年次の教科書（購入すること）を引き続き使用し、時間に余裕があればプリントでスペイン語の作文練習を行う。 語彙と表現の幅を広げる。文法の正確な知識を身につける。
到達目標	文法の基礎を確認し、正確な文章を作成すること。 語彙は、日常の私的領域に関わるものから、学術的、社会的な領域のものにまで広げる。 知識として蓄積されたものを正確に表出する練習。
授業方法と留意点	文法事項を復習しながら、和文西訳の練習を行う。授業は作文の添削から始めるので、必ず予習をし問題を解いたうえで授業に臨むこと。日本語との対照の視点を持つこと。日本語の文章を、文法的にも論理的にも正確に把握し、また表現することを常に心がけること。 文構造の把握と暗記が作文の基本であるので、知識として定着するまで何度も反復練習すること。 前期末に、スピーチの原稿を提出する。
科目学習の効果（資格）	スペイン語の表現力を身につけること。日本語の理解を深めること。 応用の前提となる、暗記・暗唱（スピーチ）の力を養う。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の概要、評価基準について 既習文法事項の復習	1，2回生の学習事項の中で、特に難しいと感じた点を挙げること。
2	第６課　不定主語・相互	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
3	第６課　　不定主語･相互	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
4	第７課　動詞１	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
5	第７課　動詞１	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
6	第８課　動詞２	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
7	第８課　動詞２	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
8	前半のまとめ	既習項目の復習と中間テスト	和文西訳、新出語彙の整理
9	第９課　前置詞	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
10	第９課　前置詞	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
11	第10課　形容詞・副詞	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
12	第10課　形容詞・副詞	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
13	第11課　疑問詞・関係詞・冠詞	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
14	第11課　疑問詞・関係詞・冠詞	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
15	後半のまとめ	既習項目の復習と期末テスト	和文西訳、新出語彙の整理

関連科目：スペイン語の科目、スピーチコンテスト

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スペイン語作文中級コース	木村琢也　中西智恵美	同学社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席、授業態度、提出物、臨時試験（中間・期末）などを総合的に評価する。 おおよそ、試験（2回以上行う）７０％、受講態度・課題・提出物３０％。
学生へのメッセージ	言語習得には、予習と復習が欠かせない。授業を、黒板の“模範解答”を写すだけの時間にしてしまわないこと。 語彙はもちろん、文型や構文、慣用表現を覚えることが第一である。1，2 回生で学んだことを自分で整理して、基礎知識として定着させておくこと。 スピーチ原稿作成に関しては、年頭に配布する実施要領に従って準備を怠らないこと。 自己管理をきちんとして、主体的に勉学に取り組むこと。事前・事後学修に各１時間を要する。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師控室
備考	15回の授業スケジュールはあくまでも一応の目安であり、状況に応じて大小の変更が生じうる。 前年度文章構成 II のようにプリント配布を行わないので、必ず教科書を購入すること。

科目名	スペイン語文章構成Ⅳ	科目名（英文）	Spanish Composition Ⅳ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	Ｑ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林　安紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	前期に引き続き、テーマごとにプリントを用いてスペイン語の作文練習を行う。 語彙と表現の幅を広げる。文法の正確な知識を身につける。 各自それぞれのテーマでも作文、推敲し、暗唱する（スピーチコンテストに全員参加）。 後期後半は、授業内でスピーチ原稿の手直しも行うが、その際、自分のものだけでなく、他者の文章のチェック、修正を行う。この取り組みに積極的に参加すること。
到達目標	文法の基礎を確認し、正確な文章を作成すること。 語彙は、日常の私的領域に関わるものから、学術的、社会的な領域のものにまで広げる。 知識として蓄積されたものを正確に表出する練習。 他者の考え、文章についてさまざまな気づきを得、それらと比較することで自らの関心や意見を相対化すること。
授業方法と留意点	文法事項を復習しながら、和文西訳の練習を行う。日本語との対照の視点を持つこと。日本語の文章を、文法的にも論理的にも正確に把握し、また表現することを常に心がけること。 文構造の把握と暗記が作文の基本であるので、知識として定着するまで何度も反復練習すること。 スピーチ原稿は早くから取り組み、
科目学習の効果（資格）	スペイン語の表現力を身につけること。日本語の理解を深めること。 応用の前提となる、暗記・暗唱（スピーチ）の力を養う。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の概要、評価基準について 既習文法事項の復習（無人称文など）	
2	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
3	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
4	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
5	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
6	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
7	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
8	前半のまとめ	既習項目の復習と中間テスト	和文西訳、新出語彙の整理
9	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
10	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
11	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
12	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
13	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
14	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
15	後半のまとめ	既習項目の復習と期末テスト	和文西訳、新出語彙の整理

関連科目：スペイン語の科目、スピーチコンテスト

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	提出物（スピーチ原稿等）、臨時試験（中間・期末）、取り組みへの姿勢を総合的に評価する。 おおよそ、受講態度１０％、スピーチへの取り組みと出来４０％、試験５０％とする。
学生へのメッセージ	言語習得には、予習と復習が欠かせない。授業を、黒板の“模範解答”を写すだけの時間にしてしまわないこと。 語彙はもちろん、文型や構文、慣用表現を覚えることが第一である。 1，2回生で学んだことを自分で整理して、基礎知識として定着させておくこと。 スピーチ原稿作成に関しては、年頭に配布する実施要領に従って準備を怠らないこと。事前・事後学修に各１時間を要する。自己管理をきちんとして、主体的に、授業外でも勉学に取り組むこと。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師控室
備考	15回の授業スケジュールはあくまでも一応の目安であり、状況に応じて大小の変更が生じうる。

科目名	スペイン語文章構成Ⅳ	科目名（英文）	Spanish Composition Ⅳ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	R
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	安達　直樹
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	前期に引き続き、テーマごとにプリントを用いてスペイン語の作文練習を行う。 語彙と表現の幅を広げる。文法の正確な知識を身につける。 各自それぞれのテーマでも作文、推敲し、暗唱する（スピーチコンテストに全員参加）。 後期後半は、授業内でスピーチ原稿の手直しも行うが、その際、自分のものだけでなく、他者の文章のチェック、修正を行う。この取り組みに積極的に参加すること。
到達目標	文法の基礎を確認し、正確な文章を作成すること。 語彙は、日常の私的領域に関わるものから、学術的、社会的な領域のものにまで広げる。 知識として蓄積されたものを正確に表出する練習。 他者の考え、文章についてさまざまな気づきを得、それらと比較することで自らの関心や意見を相対化すること。
授業方法と留意点	文法事項を復習しながら、和文西訳の練習を行う。日本語との対照の視点を持つこと。日本語の文章を、文法的にも論理的にも正確に把握し、また表現することを常に心がけること。 文構造の把握と暗記が作文の基本であるので、知識として定着するまで何度も反復練習すること。 スピーチ原稿は早くから取り組み、
科目学習の効果（資格）	スペイン語の表現力を身につけること。日本語の理解を深めること。 応用の前提となる、暗記・暗唱（スピーチ）の力を養う。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の概要、評価基準について 既習文法事項の復習（無人称文など）	
2	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
3	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
4	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
5	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
6	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
7	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
8	前半のまとめ	既習項目の復習と中間テスト	和文西訳、新出語彙の整理
9	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
10	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
11	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
12	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
13	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
14	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
15	後半のまとめ	既習項目の復習と期末テスト	和文西訳、新出語彙の整理

関連科目：スペイン語の科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	提出物（スピーチ原稿等）、臨時試験（中間・期末）、取り組みへの姿勢を総合的に評価する。 おおよそ、受講態度１０％、スピーチへの取り組みと出来４０％、試験５０％とする。
学生へのメッセージ	言語習得には、予習と復習が欠かせない。授業を、黒板の“模範解答”を写すだけの時間にしてしまわないこと。 語彙はもちろん、文型や構文、慣用表現を覚えることが第一である。 1，2回生で学んだことを自分で整理して、基礎知識として定着させておくこと。 スピーチ原稿作成に関しては、年頭に配布する実施要領に従って準備を怠らないこと。事前・事後学修に各１時間を要する。自己管理をきちんとして、主体的に、授業外でも勉学に取り組むこと。
担当者の研究室等	７号館５階（個人研究室）
備考	15回の授業スケジュールはあくまでも一応の目安であり、状況に応じて大小の変更が生じうる。

科目名	スペイン語翻訳	科目名（英文）	Spanish-Japanese Translation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北條　ゆかり
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	スペイン語で書かれた文章を筋の通った日本語に翻訳する力を培いながら、同時に翻訳とはなにかについて考える。
到達目標	スペイン語の読解力を強化するとともに、正しい日本語に翻訳する能力を身につける。スペイン語の発想と日本語の発想の違いに気づく。
授業方法と留意点	視聴覚教材も随時利用し、受講者に問いかけながら進める。
科目学習の効果（資格）	スペイン語圏の社会、文化、歴史に関する理解が深まり、論理的かつリズム感のよい日本語の文章を書けるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方について。翻訳について。課題とするテキストのコピーの配布。	配布されたコピーのスペイン語文の翻訳
2	日本語を考える	文学作品の原作と翻訳の対比	各自、翻訳（日本語）文の検討、言葉遣いのチェック
3	日本語を考える	文学作品の原作と翻訳の対比	各自、翻訳（日本語）文の検討、言葉遣いのチェック
4	日本語を考える	エッセイの翻訳	各自、翻訳（日本語）文の検討、言葉遣いのチェック
5	日本語を考える	エッセイの翻訳	各自、翻訳（日本語）文の検討、言葉遣いのチェック
6	日本語を考える	短編小説の部分訳	各自、翻訳（日本語）文の検討、言葉遣いのチェック
7	日本語を考える	短編小説の部分訳	各自、翻訳（日本語）文の検討、言葉遣いのチェック
8	これまでのまとめと中間試験	初見のテキストの翻訳	各自、翻訳（日本語）文の検討、言葉遣いのチェック
9	スペイン語から日本語への翻訳	報道文の翻訳	各自、翻訳（日本語）文の検討、言葉遣いのチェック
10	スペイン語から日本語への翻訳	論説文の翻訳	各自、翻訳（日本語）文の検討、言葉遣いのチェック
11	スペイン語から日本語への翻訳	実用文（広告等）の翻訳	各自、翻訳（日本語）文の検討、言葉遣いのチェック
12	日本語からスペイン語への翻訳	古典文学の日西翻訳から学ぶ	各自、翻訳（日本語）文の検討、言葉遣いのチェック
13	日本語からスペイン語への翻訳	近代小説の日西翻訳から学ぶ	各自、翻訳（日本語）文の検討、言葉遣いのチェック
14	日本語からスペイン語への翻訳	現代小説の日西翻訳から学ぶ	各自、翻訳（日本語）文の検討、言葉遣いのチェック
15	初見のテキストの日本語訳	短時間で正確な日本語に訳せるかどうかを確認する。	まとめ

関連科目：「翻訳文化論」、「スペイン語」と冠した科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現代ラテンアメリカ文学併走	安藤哲行	松籟社
2	ラテンアメリカ十大小説	木村榮一	岩波新書
3	翻訳家の仕事	岩波書店編集部編	岩波新書

評価方法（基準）	予習・復習、提出物等　５０％、８回目と 15 回目に行う初見テキストの翻訳および語彙テスト等　５０％を総合的に判断する。
学生へのメッセージ	日本語文をたくさん読んで語彙力を高めてください。 文学作品のみならず重要な時事問題の論説を取り上げることもあります。
担当者の研究室等	７号館５階 北條研究室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。

科目名	スペシャリストインドネシア・マレー語	科目名（英文）	Indonesian-Malay for Specific Purposes
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	上田　達.山口　玲子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	これまで学習してきたインドネシア語、マレー語の運用能力をさらに高める。そのために上級レベルの講読、論文の執筆、聞きとり及び内容に対する討論、プレゼンテーションを行う。
到達目標	インドネシア語、マレー語について高度な運用能力を獲得することができる。
授業方法と留意点	授業に積極的に参加することが望まれる。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語､マレー語運用能力の向上。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容、授業の進め方、授業全体の構成等について説明する。（上田・山口担当）	シラバスを読んでおくこと。
2	講読１	高度な内容の講読を行う。(山口担当)	予習をしておくこと。
3	講読２	高度な内容の講読を行う。(山口担当)	予習をしておくこと。
4	講読３	高度な内容の講読を行い、内容をまとめる。(山口担当)	予習を行った上、講読した文献の内容をまとめておくこと。
5	論文の執筆１	論文の執筆を行うための基礎知識を学習する。論文の執筆を行う。(山口担当)	学習した知識をもとに、予習をしておくこと。
6	論文の執筆２	論文の執筆を行う。(山口担当)	予習をしておくこと。
7	講読、論文の内容をまとめる。	論文を完成させる。(山口担当)	まとめ終わった内容をもとにプレゼンテーションの準備を完了しておく。
8	プレゼンテーション	プレゼンテーションを行う。(山口担当)	プレゼンテーションの練習をしておくこと
9	文献講読１	マレー語で書かれた文学作品を精読する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。
10	文献講読２	マレー語で書かれた文学作品を精読する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。
11	文献講読３	マレー語で書かれた文学作品を精読する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。
12	資料読解１	受講者の関心に基づいて選んだトピックについて、マレー語で書かれた研究論文を読解する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。
13	資料読解２	受講者の関心に基づいて選んだトピックについて、マレー語で書かれた研究論文を読解する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。
14	資料読解３	受講者の関心に基づいて選んだトピックについて、マレー語で書かれた研究論文を読解する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。
15	プレゼンテーション	受講者が選択した論文の内容について要約を行う。(上田担当)	図書館やウエブから課題文献を選択して、配付資料等の発表準備を十分に行うこと。

関連科目：インドネシア語・マレー語の全科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	必要に応じてプリントを用意する。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜指示する。		
2			
3			

評価方法（基準）	前半（山口担当）と後半（上田担当）のそれぞれについて、提出物や課題等の取り組み（30%）と、最終課題（70%）から総合的に判断する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館２階非常勤講師控室 ７号館５階（上田研究室）
備考	提出物は原則として翌週に返却する。最終回の課題は授業期間終了後一週間以内に評価を記して返却する。

科目名	世界の宗教	科目名（英文）	World Religions
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	村上　司樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この授業では宗教について学ぶが、「信じられるか信じられないか」という問いの立て方はしない。つまり宗教をそのような「選択問題」として扱うのではなく、世界の人びとの生活と行動をかたちづくってきた「文化現象」として考える。例えば、日曜日は休みなのか、サンタクロースとは何者なのか、日本人は本当に「無宗教」なのか、あるいは日本人はなぜ自分たちを「無宗教」だと信じるのか、祭りとは何か、神話と聖典の違いとは何か、など。その際、とくにキリスト教に焦点を合わせる。なぜならキリスト教は、その信者が世界人口の３割を占めるだけでなく、西洋文化のバックボーンとして現代日本にも深い影響を及ぼしているからである。キリスト教を手がかりに、他の世界宗教（イスラームや仏教など）や日本固有の宗教である神道と比較することで、宗教という「文化現象」について具体的・論理的に考えたい。
到達目標	学んだことを、結論・理由・具体例に分けて簡潔に説明できるようにする。
授業方法と留意点	暗記は必要ない。教科書も必要ない。こちらでプリントを用意し、参考書は各単元ごとに紹介する。また図や表を多く使って説明する。だから受講生の側でも、以下３点のことをしてほしい。①授業前には、プリントにあらかじめ目を通しておくこと。②授業後には、プリントを読み返すこと。③プリントを読む際は、線を引くなり印をつけるなり、必ず手を動かすこと。なぜなら授業は教員と受講生のキャッチボールであり、どちらか一方の努力だけでは内容理解につながらないからである。
科目学習の効果（資格）	欧米文化の土台であり、それゆえ現代日本にも深く影響を与えているキリスト教を知り、またそこから他の宗教を比較文化的に理解する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業のルール・方針・全体計画	必ず出席するよう予定を調整する。
2	時間の区切り方	江戸時代までの日本人は日曜日を休日とは思っていなかった	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
3	時間の区切り方	週の休日は宗教によって違う	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
4	時間の区切り方	「クリスマスとバレンタインを祝うこと＝キリスト教を信仰すること」ではない	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
5	時間の区切り方	「今年は 2015 年」に客観的根拠はない	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
6	恋愛の考え方	江戸時代までの日本人に「同性愛＝アブノーマル」という発想はなかった	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
7	恋愛の考え方	性や愛に対する考え方は宗教によって決まる	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
8	恋愛の考え方	私たちが常識だと思っている恋愛観はキリスト教が生み出したもの	同上の課題に加えて小レポート。
9	恋愛の考え方	「欧米は性や愛に関して寛容」という思い込み	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
10	恋愛の考え方	寛容だったのは、むしろ日本の宗教	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
11	神話か聖典か	現代日本人が「宗教」になじめない理由	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
12	神話か聖典か	神話の宗教と聖典の宗教、この２つを区別することが必要	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
13	神話か聖典か	祭りも芸能も宗教から始まった	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
14	神話か聖典か	日本人は一般に「空気を読む宗教」を信じてきた	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
15	修行と説教（結）	日本人が理解しづらいのは「ルールを明文化する宗教」	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。

関連科目：日本と世界の出会い

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ポイントは以下３点。　第１に暗記は必要ない。テストも論述１題で持ち込み可であり、この他にレポートとレスポンス・ペーパーで採点するから。第２に消極的姿勢でプラス評価になることはないが、積極的に受講してマイナス評価されることも絶対にない。例えば、出席点はない。しかし誤字や脱字のために減点、ということもない。つまり減点主義ではなく加点主義。また配点は、①テスト（40 点）、②レポート（30 点）、③レスポンスペーパー（30 点＋α）。第３に 60 点に達するなら、①②③すべてを提出する必要はない。その点では、各自のスタイルに合わせて受講してほしい。
学生へのメッセージ	宗教をふくめ、人間の営みでは「すべてが表裏一体」です。この授業も例外ではありません。テストにレポート、レスポンス・ペーパーと、３つの論述課題がありますが、「やることが多い」とのみ考えるのは一面的。裏返せば「単位取得のチャンスが多い」とも言えるからです。またみなさんが「何かを分かっている」かどうかを判定するには、結局「それが何なのかを説明できる」かどうかを見る以外にありません。しかし、このように説明し、伝える力は、文系・理系に関係なく学問研究すべてに欠かせないだけでなく、大学卒業後の長い人生でも、あらゆる場面で必要とされる力です。テスト終了と同時に忘れてしまうような、「暗記事項としての宗教」を教えるつもりはありません。この授業で学ぶのは「具体的・論理的に考える宗教」であり、みなさんには、それを通して「単位以上のもの」を得てほしいと思います。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	コミュニケーションは基本的に毎回授業のレスポンス・ペーパーで行います。

	緊急の場合は非常勤講師控室（7 号館 2 階）を訪ねてください。

科目名	世界の地理	科目名（英文）	World Geography
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中山　穂孝
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本講義は、まず、地理学とその下位分野である都市地理学と歴史地理学、観光地理学を取り上げ、これらの概要と特徴を把握することによって、地理学的(空間的)な視点を身に付ける。そして、観光を具体例に、世界各地の観光現象を地理学的(空間的)な視点を用いながら、考察する能力を養うことを目的としている。
到達目標	・地理学とその諸分野の特徴を把握することによって、地理学的(空間的)な視点を理解する。 ・世界各地の観光現象を地理学的(空間的)な視点から考えることによって、現代社会の諸問題への空間的なアプローチの考え方などを習得する。
授業方法と留意点	授業はパワーポイントで行う。また、必要に応じて、資料を配布する。映像資料の活用も行なう。
科目学習の効果（資格）	中学社会・高校地理歴史教育職員免許関係科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義ガイダンス	講義の目的・方法・進め方	講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと
2	地理学とはなにか？	地理学の概要と特徴	講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと
3	都市地理学	都市地理学の概要と特徴	講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと
4	歴史地理学	歴史地理学の概要と特徴	講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと
5	観光地理学	観光地理学の概要と特徴	講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと
6	観光とは何か？	観光の歴史、観光の定義、余暇と観光	講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと
7	観光発達史(1)	日本の観光発達史	講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
8	観光発達史(2)	ヨーロッパの観光発達史、レポート課題の説明	講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと
9	自然環境と観光	自然環境を生かした観光形態の特徴、国立公園の歴史と観光との関係性など	講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと
10	温泉資源と観光	温泉資源を活用した観光地の発展、温泉観光地の衰退と再生など	講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと
11	交通網と観光	観光地の発展と交通網整備の関係性、モータリゼーションと大衆観光など	講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと
12	まちづくりと観光	観光によるまちおこしやまちづくりの特徴と問題点など	講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと
13	聖地と観光	宗教的な聖地巡礼と観光、アニメーションと観光など	講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと
14	新しい観光形態と地域	新しい観光形態の特徴、新しい観光形態を活用した地域活性化など	講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと
15	講義まとめ	講義の総括、および定期試験に関する説明。	全講義の内容を復習しておくこと

関連科目：地誌学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	人文地理学	竹中克行・山村亜希・大城直樹・梶田　真編著	ミネルヴァ書房
2	観光学キーワード	山下晋司編	有斐閣
3	観光学ガイドブック	大橋昭一・橋本和也・遠藤英樹・神田孝治編	ナカニシヤ出版

評価方法（基準）	定期試験 70%、レポート課題 30%(第 8 回授業で説明予定) 教職科目であるため、評価は厳しくなる
学生へのメッセージ	皆さんにとって身近な観光について具体例を出しながら、授業を進めて行きます。 地理的な現象には、必ず背景とプロセスがあります。 この背景とプロセスを頭のなかで考えながら、授業を受けるようにしてください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	

科目名	世界の文化の比較	科目名（英文）	Comparative Study of Cultures
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村上　司樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的

グローバル化が進む現在、私たちは好き嫌いに関係なく、多文化社会のなかで生きていかなくてはならない。多様な文化を理解し、柔軟に対処できる感覚が必要である。理解は考察から始まり、考察は比較から始まる。日常生活の基礎を成す衣・食・住の３つの視点から、私たちの文化、他国・他地域の文化について理解を深めよう。

到達目標

学んだことを、結論・理由・具体例に分けて簡潔に説明できるようにする。

授業方法と留意点

暗記は必要ない。教科書も必要ない。こちらでプリントを用意し、参考書は各単元ごとに紹介する。また図や表を多く使って説明する。だから受講生の側でも、以下３点のことをしてほしい。①授業前には、プリントにあらかじめ目を通しておくこと。②授業後には、プリントを読み返すこと。③プリントを読む際は、線を引くなり印をつけるなり、必ず手を動かすこと。なぜなら授業は教員と受講生のキャッチボールであり、どちらか一方の努力だけでは内容理解につながらないからである。

科目学習の効果（資格）

他国・他地域の文化を具体的に知ると同時に、日本文化についても理解を深める。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業のルール・方針・全体計画	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
2	食べる	食の国際化が特徴	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
3	食べる	和食とは洋食の反対語	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
4	食べる	肉を食べるか魚を食べるか	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
5	食べる	日本のオリジナル調味料とは	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
6	食べる	世界一危うい食卓	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
7	食べる	「洋食＝肉食」ではない	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
8	食べる	便利と危険は表裏一体	同上の課題に加えて小レポート。
9	着る	洋服の反対語は何か	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
10	着る	恰好よくて快適だから洋服を着たわけではない	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
11	着る	「洋服は気楽だが着物は窮屈」というウソ	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
12	着る	日本人はどうして洋服を着るようになったか　―男性の場合―	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
13	着る	日本人はどうして洋服を着るようになったか　―女性の場合―	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
14	住む	東洋の家・西洋の家	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
15	住む	現代的な家は 50 年前から	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。

関連科目

特になし。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

ポイントは以下３点。　第１に暗記は必要ない。テストも論述１題で持ち込み可であり、この他にレポートとレスポンス・ペーパーで採点するから。第２に消極的姿勢でプラス評価になることはないが、積極的に受講してマイナス評価されることも絶対にない。例えば、出席点はない。しかし誤字や脱字のために減点、ということもない。つまり減点主義ではなく加点主義。また配点は、①テスト（40 点）、②レポート（30 点）、③レスポンスペーパー（30 点＋α）。第３に 60 点に達するなら、①②③すべてを提出する必要はない。その点では、各自のスタイルに合わせて受講してほしい。

学生へのメッセージ

人間の文化では「すべては表裏一体」です。この授業も例外ではありません。テストにレポート、レスポンス・ペーパーと、3 つの論述課題がありますが、「やることが多い」とのみ考えるのは一面的。裏返せば「単位取得のチャンスが多い」とも言えるからです。またみなさんが「何かを分かっている」かどうかを判定するには、結局「それが何なのかを説明できる」かどうかを見る以外にありません。しかし、このように説明し、伝える力は、文系・理系に関係なく学問研究すべてに欠かせないだけでなく、大学卒業後の長い人生でも、あらゆる場面で必要とされる力です。テスト終了と同時に忘れてしまうような、「暗記事項としての文化」を教えるつもりはありません。この授業で学ぶのは「具体的・論理的に考える文化」であり、みなさんには、それを通して「単位以上のもの」を得てほしいと思います。

担当者の研究室等

7 号館 2 階（非常勤講師室）

備考

コミュニケーションは基本的に毎回授業のレスポンス・ペーパーで行います。
緊急の場合は非常勤講師控室（7 号館 2 階）を訪ねてください。

科目名	世界の歴史	科目名（英文）	World History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林田　敏子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	イギリスの歴史と文化を、現代社会とのつながりを重視しながら概観する。「サッカー発祥の地」、「紅茶とアンティークの国」など、われわれがイギリスに対して抱いているイメージには、歴史的根拠が存在する。「イギリス料理はなぜまずいのか」、「イギリス人はなぜ傘をささないのか」といった身近な問いを出発点にしながら、政治・経済・文化、あらゆる角度からイギリス社会を読み解いていく。
到達目標	ヨーロッパ、大英帝国など、複数の次元でイギリスをとらえたときの特徴を理解する。一国の歴史にとどまらない、広がりのある歴史解釈をするにはどうすればよいか、その方法論を身につける。
授業方法と留意点	毎回プリントを配布し、図像史料を活用しながら、板書をまじえて授業をすすめる。
科目学習の効果（資格）	歴史学に関する基本的知識を身につけるとともに、「過去」を通して「現代」を見つめる視座を獲得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イギリスとは何か	国のなりたちと地理	「イギリス」の正式名称を調べてくる。
2	イギリス人のナショナル・アイデンティティ	連合王国、帝国としてのイギリス	ユニオン・ジャックの由来について調べてくる。
3	イギリスの歴史概観	古代から現代にいたるまでのイギリスの歴史を世界史のなかに位置づける。	年表づくりをおこなう。
4	イギリスの社会構造	階級からみたイギリス史	貴族制の歴史についてまとめる。
5	イギリス人はなぜ傘をささないのか？	ステイタス・シンボルとしての傘	傘以外のステイタス・シンボルについて調べる。
6	イギリス料理はなぜまずいのか？	・食文化からみたイギリスの歴史 ・中間テストの実施	イギリスの国民性を歴史的に考察する。
7	イギリス人は家が好き？	住宅とアンティークからみたイギリスの歴史	イギリスにおける文化財保護活動について調べてくる。
8	ナショナル・トラストの歴史（中間テスト）	歴史的建造物の保護運動	イギリスの王室と日本の皇室を比較してみる。
9	イギリスの王室と政治（中間テスト解説）	王室の果たす役割	王室の歴史についてまとめる。
10	子ども・老人・女性	社会的マイノリティの歴史	ほかのマリノリティ集団について調べてくる。
11	動物愛護の国「イギリス」？～アニマル・スポーツの世界～	ウィリアム・ホガースの『残酷の４段階』を読む	事前に配布したプリントを予習してくる。
12	イギリスとヨーロッパ	対立と協調のはざまで	イギリスとＥＵの関係の歴史を整理する。
13	世界のなかのイギリス（1）	ひらかれた島国「イギリス」	「帝国」の遺産についてまとめる。
14	世界のなかのイギリス（2）	多民族国家イギリスの歴史	イギリスにおける移民問題についてまとめる。
15	総括	小テストの実施と解説	全授業内容を復習してくる。

関連科目：ヨーロッパ史学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	第 15 回目に実施する小テスト（８０％）、中間テストおよび提出物（２０％）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	歴史学とは過去に起こった事件の年号や偉人の名前を暗記する学問ではありません。過去の出来事を通して、現代社会や未来についての思考力を養うためのものです。積極的に関連文献を読み、講義内容を批判的に摂取するよう心がけてください。
担当者の研究室等	７号館４階（林田研究室）
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間。 中間テストに関するフィードバックは第９回目、小テストに関するフィードバックは第 15 回目の授業のなかでおこなう。

科目名	総合インドネシア語ａ（１）	科目名（英文）	Integrated Indonesian Skills a(1)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浦野　崇央
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	１年次に学んだ基礎を踏まえ、インドネシア語（Bahasa Indonesia）の総合的な運用能力の一層の向上を目指す。
到達目標	本授業では、特に「読む」「書く」の能力を高めることを目的とし、インドネシア語で表現する能力のレベルアップを行う。
授業方法と留意点	本授業は、「総合インドネシア語ａ（２）」と同じテキストを用い、リレー方式で行っていく。なお、定期試験についても「総合インドネシア語」統一試験を実施する。授業時には辞書を必ず携行すること。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語検定

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第２課	授業の進め方の説明 基礎力確認演習（講読）	学んだことの再確認
2	第４課	基礎力確認演習（能動文と受動文）	学んだことの再確認
3	第６課	文の種類２　単文（講読）	学んだことの再確認
4	第７課	文の種類３　重文と複文（講読①）	学んだことの再確認
5	第７課	文の種類３　重文と複文（講読②）	学んだことの再確認
6	第８課	基礎力確認演習（総合①）	学んだことの再確認
7	第８課	基礎力確認演習（総合②）	学んだことの再確認
8	第 10 課	インドネシアの教科書の講読①	予習 学んだことの再確認
9	第 10 課	インドネシアの教科書の講読③	予習 学んだことの再確認
10	第 10 課	インドネシアの教科書の講読⑤	予習 学んだことの再確認
11	第 11 課	雑誌に親しんでみよう	学んだことの再確認
12	第 12 課	会話文の講読②	予習 学んだことの再確認
13	第 12 課	会話文の講読④	予習 学んだことの再確認
14	第 14 課	エッセイの講読①	予習 学んだことの再確認
15	第 14 課	エッセイの講読③	予習 学んだことの再確認

関連科目

インドネシア語科目すべて
（特に「総合インドネシア語ａ（２）」）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	総合インドネシア語　第４版	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部
2	インドネシア語辞典ポケット版	末永晃	大学書林
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験（「総合インドネシア語」統一試験）８０％、「積極的な授業参加」の度合い２０％ 詳細は、第１回目の授業で伝える。
学生へのメッセージ	インドネシア語をモノにするために一生懸命取り組みましょう。 質問があれば、いつでも研究室に来て下さい。積極的な姿勢が大切です。
担当者の研究室等	７号館４階(浦野研究室)
備考	事前・事後学習課題欄を参考にして、毎週少なくとも 30 分程度以上の復習は欠かさず、指示がある時は予習もこなすこと。

科目名	総合インドネシア語ａ（２）	科目名（英文）	Integrated Indonesian Skills a(2)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山口　真佐夫
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	インドネシア語（Bahasa Indonesia）の総合的な運用能力の一層の向上を目指す。本授業では、特に「読む」「書く」「話す」の能力を高めることを目的とし、インドネシア語で表現する能力のレベルアップを行なう。
到達目標	あらゆる文体のインドネシア語をマスターすること。
授業方法と留意点	本授業は、「総合インドネシア語ａ(1)」と同じテキストを用い、リレー方式で行なっていく。なお、定期試験についても「総合インドネシア語」統一試験を実施する。 授業時には辞書を必ず携行すること。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語技能検定

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第１課	辞書の種類および使い方についての解説	次週の予習および学んだことの再確認
2	第３課	基礎力確認演習（作文）	次週の予習および学んだことの再確認
3	第５課	文の種類１　疑問文（講読）	次週の予習および学んだことの再確認
4	第５課	文の種類１　疑問文（作文）	次週の予習および学んだことの再確認
5	第６課	文の種類２　単文（作文）	次週の予習および学んだことの再確認
6	第７課	文の種類３　（作文）	次週の予習および学んだことの再確認
7	第９課	新聞に親しんでみよう	次週の予習および学んだことの再確認
8	第 10 課	インドネシアの教科書の講読②	次週の予習および学んだことの再確認
9	第 10 課	インドネシアの教科書の講読④	次週の予習および学んだことの再確認
10	第 10 課	インドネシアの教科書の講読⑥	次週の予習および学んだことの再確認
11	第 12 課	会話文の講読①	次週の予習および学んだことの再確認
12	第 12 課	会話文の講読③	次週の予習および学んだことの再確認
13	第 13 課	広告に親しんでみよう	次週の予習および学んだことの再確認
14	第 14 課	エッセイの講読②	次週の予習および学んだことの再確認
15	第 14 課	エッセイの講読④	学んだことの再確認

関連科目

インドネシア語科目すべて
（特に「総合インドネシア語ａ(1)」）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	総合インドネシア語		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験（「総合インドネシア語」統一試験）、「積極的な授業参加」の度合いなどをもとに総合的に判断する。 定期試験 70%、授業への参加度 30%
学生へのメッセージ	インドネシア語をモノにするために一生懸命取り組みましょう。
担当者の研究室等	７号館５階　山口室
備考	授業内容を確実に理解するためにも、事前・事後学習課題には十分な時間をかけること。

科目名	総合インドネシア語ｂ（１）	科目名（英文）	Integrated Indonesian Skills b(1)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浦野　崇央
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	１年次に学んだ基礎を踏まえ、インドネシア語（Bahasa Indonesia）運用能力の一層の向上を目指す。
到達目標	前期開講の「総合インドネシア語ａ（１）」に引き続き、本授業では特に「読む」能力を高めることを目的とし、インドネシア語で表現する能力のレベルアップを行う。
授業方法と留意点	本授業は、「総合インドネシア語ｂ（２）」と同じテキストを用い、リレー方式で行っていく。なお、定期試験についても「総合インドネシア語」統一試験を実施する。授業時には辞書を必ず携行すること。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語技能検定

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第 15 課	手紙を書いてみよう①	学んだことの再確認
2	第 15 課	手紙を書いてみよう②	学んだことの再確認
3	第 16 課	ことわざの表現③④	予習 学んだことの再確認
4	第 17 課	映画を観てみよう	学んだことの再確認
5	第 18 課	文学作品の講読①	予習 学んだことの再確認
6	第 18 課	文学作品の講読③	予習 学んだことの再確認
7	第 18 課	文学作品の講読④	予習 学んだことの再確認
8	第 18 課	文学作品の講読⑥	予習 学んだことの再確認
9	第 18 課	文学作品の講読⑧	予習 学んだことの再確認
10	第 19 課	スピーチをしてみよう② 単語力確認テスト	学んだことの再確認
11	第 20 課	bahasa baku と bahasa sehari-hari②	予習 学んだことの再確認
12	第 20 課	bahasa baku と bahasa sehari-hari③	予習 学んだことの再確認
13	第 21 課	テレビを観てみよう	学んだことの再確認
14	第 23 課	新聞記事の講読②	予習 学んだことの再確認
15	第 23 課	新聞記事の購読④	予習 学んだことの再確認

関連科目	インドネシア語科目すべて （特に「総合インドネシア語ｂ（２）」）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	総合インドネシア語　第４版	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部
2	インドネシア語辞典ポケット版	末永晃	大学書林
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験（「総合インドネシア語」統一試験）８０％、「積極的な授業参加」の度合い２０％ 詳細は、第１回目の授業で伝える。
学生へのメッセージ	インドネシア語をモノにするために一生懸命に取り組みましょう。 質問があれば、いつでも研究室に来て下さい。積極的な姿勢が大切です。
担当者の研究室等	７号館４階(浦野研究室)
備考	「事前・事後学習課題」欄を参考に、毎週少なくとも 30 分程度以上の復習は欠かさず、指示のある時は予習をこなすこと。

科目名	総合インドネシア語ｂ（２）	科目名（英文）	Integrated Indonesian Skills b(2)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山口　真佐夫
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	インドネシア語（Bahasa Indonesia）の運用能力の一層の向上を目指す。前期開講の「総合インドネシア語ａ(2)」に引き続き、本授業では特に「読む」「書く」の能力を高めることを目的とし、インドネシア語で表現する能力のレベルアップを行なう。
到達目標	あらゆる文体のインドネシア語をマスターすること。
授業方法と留意点	本授業は、「総合インドネシア語ｂ(1)」と同じテキストを用い、リレー方式で行なっていく。なお、定期試験についても「総合インドネシア語」統一試験を実施する。 授業時には辞書を必ず携行すること。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語技能検定

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第 15 課	手紙を書いてみよう	次週の予習および学んだことの再確認
2	第 16 課	ことわざの表現①②	次週の予習および学んだことの再確認
3	第 15 課	手紙を書いてみよう	次週の予習および学んだことの再確認
4	第 16 課	ことわざの表現⑤⑥	次週の予習および学んだことの再確認
5	第 15 課	手紙を書いてみよう	次週の予習および学んだことの再確認
6	第 18 課	文学作品の講読②	次週の予習および学んだことの再確認
7	第 18 課	文学作品の講読⑤	次週の予習および学んだことの再確認
8	第 18 課	文学作品の講読⑦	次週の予習および学んだことの再確認
9	第 19 課	スピーチをしてみよう①	次週の予習および学んだことの再確認
10	第 20 課	bahasa baku と bahasa sehari-hari①	次週の予習および学んだことの再確認
11	第 19 課	スピーチをしてみよう③	次週の予習および学んだことの再確認
12	第 20 課	bahasa baku と bahasa sehari-hari④	次週の予習および学んだことの再確認
13	第 22 課	略語と借用語	次週の予習および学んだことの再確認
14	第 23 課	新聞記事の講読①	次週の予習および学んだことの再確認
15	第 23 課	新聞記事の講読③	学んだことの再確認

関連科目	インドネシア語科目すべて （特に「総合インドネシア語ｂ(1)」）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	総合インドネシア語（前期に購入済み）		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験（「総合インドネシア語」統一試験）、「積極的な授業参加」の度合いなどをもとに総合的に判断する。 定期試験 70%、授業への参加度 30%
学生へのメッセージ	インドネシア語をモノにするために一生懸命に取り組みましょう。
担当者の研究室等	７号館５階　山口室
備考	授業内容を確実に理解するためにも、事前・事後学習課題には十分な時間をかけること。

科目名	総合スペイン語Ⅰ	科目名（英文）	Integrated Spanish Skills Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	磯野　吉美
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	初めて習う外国語は覚えることが多く、暗記と理解に時間をかけてもなかなか定着しにくい。この授業では、「スペイン語入門 A、B、C」で学んだ文法知識を確認し、スペイン語文読解と練習問題をこなすことで理解を深め、記憶に定着させることを目指す。
到達目標	「スペイン語入門Ａ、Ｂ、Ｃ」で学んだばかりの内容に対応する豊富な練習問題に取組むことで、文法の基礎を着実に習得する。
授業方法と留意点	日本人学習者にはすぐに理解しにくい箇所を集中的に学習し、文法科目を補っていく。分からなかったことを恥ずかしいと思わず、理解が完全でないと思えば、どんどん疑問をぶつけてほしい。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定６級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション アルファベット 発音と文字の読み方	この授業の目指すところ 日本人の苦手な音	スペイン語圏の国 アルファベットを覚える
2	発音 音節分け 名詞の性と数	日本人の苦手な音 音節分けの練習 名詞の性の区別 複数形から単数形へ	発音練習 新出語彙の整理
3	冠詞 動詞 hay	不定冠詞と定冠詞 所在と存在の違い	名詞の性と数 新出語彙の整理と発音練習
4	主格人称代名詞 形容詞	人称とは何か 形容詞の語尾変化	新出語彙の整理と発音練習
5	estar, ser 動詞の直説法現在 基数１～２０	動詞活用とは何か 活用形の徹底 estar 動詞と ser 動詞の違い	活用形を覚える
6	直説法現在：規則活用	活用形から主語を知る 活用形の徹底	活用形を覚える
7	指示詞 直説法現在:一人称単数だけが不規則になる動詞	指示形容詞と指示代名詞の種類と使い方	名詞の性と数の復習
8	直説法現在：動詞 ir	動詞 ir の活用と用法	活用形を覚える
9	直説法現在:語幹母音変化動詞	活用形の徹底	活用形を覚える
10	不定詞 基数２０～１００	不定詞の用法	基数１～２０
11	直説法現在：動詞 tener 型 従属節	動詞 tener 型の活用と用法 従属節とは何か	活用形を覚える
12	時刻表現 前置詞格人称代名詞	時刻の尋ね方と答え方 前置詞	基数１～３０の復習 主格人称代名詞の復習
13	目的格人称代名詞 不定語と否定語	目的格代名詞の種類と使い方 不定語と否定語の種類と使い方	名詞の性・数の復習 形容詞の語尾変化の復習
14	疑問詞 曜日、月、日付の表現	疑問詞の種類と用法 名詞：曜日、月	基数１～３０の復習
15	まとめと復習 確認	理解度確認テスト	学習事項の総点検

関連科目	スペイン語入門Ａ、Ｂ、Ｃ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スペイン語圏への旅（El viaje al mundo hispanico）	大原志麻、花方寿行	同学社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	適宜、小テストを実施する。 小テスト 50% ＋理解度確認テスト 50%
学生へのメッセージ	初めての外国語の勉強は大変です。毎日、少しずつでも勉強しましょう。予習と復習は不可欠です。
担当者の研究室等	７号館２階 非常勤講師室
備考	事前・事後に各１時間の学修時間を要する。

科目名	総合スペイン語Ⅰ	科目名（英文）	Integrated Spanish Skills Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林　安紀子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	初めて習う外国語は覚えることが多く、暗記と理解に時間をかけてもなかなか定着しにくい。この授業では、「スペイン語入門 A、B、C」で学んだ文法知識を確認し、スペイン語文読解と練習問題をこなすことで理解を深め、記憶に定着させることを目指す。
到達目標	「スペイン語入門Ａ、Ｂ、Ｃ」で学んだばかりの内容に対応する豊富な練習問題に取組むことで、文法の基礎を着実に習得する。
授業方法と留意点	日本人学習者にはすぐに理解しにくい箇所を集中的に学習し、文法科目を補っていく。分からなかったことを恥ずかしいと思わず、理解が完全でないと思えば、どんどん疑問をぶつけてほしい。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定６級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション アルファベット 発音と文字の読み方	この授業の目指すところ 日本人の苦手な音	スペイン語圏の国 アルファベットを覚える
2	発音 音節分け 名詞の性と数	日本人の苦手な音 音節分けの練習 名詞の性の区別 複数形から単数形へ	発音練習 新出語彙の整理
3	冠詞 動詞 hay	不定冠詞と定冠詞 所在と存在の違い	名詞の性と数 新出語彙の整理と発音練習
4	主格人称代名詞 形容詞	人称とは何か 形容詞の語尾変化	新出語彙の整理と発音練習
5	estar, ser 動詞の直説法現在 基数１～２０	動詞活用とは何か 活用形の徹底 estar 動詞と ser 動詞の違い	活用形を覚える
6	直説法現在：規則活用	活用形から主語を知る 活用形の徹底	活用形を覚える
7	指示詞 直説法現在:一人称単数だけが不規則になる動詞	指示形容詞と指示代名詞の種類と使い方	名詞の性と数の復習
8	直説法現在：動詞 ir	動詞 ir の活用と用法	活用形を覚える
9	直説法現在:語幹母音変化動詞	活用形の徹底	活用形を覚える
10	不定詞 基数２０～１００	不定詞の用法	基数１～２０
11	直説法現在：動詞 tener 型 従属節	動詞 tener 型の活用と用法 従属節とは何か	活用形を覚える
12	時刻表現 前置詞格人称代名詞	時刻の尋ね方と答え方 前置詞	基数１～３０の復習 主格人称代名詞の復習
13	目的格人称代名詞 不定語と否定語	目的格代名詞の種類と使い方 不定語と否定語の種類と使い方	名詞の性・数の復習 形容詞の語尾変化の復習
14	疑問詞 曜日、月、日付の表現	疑問詞の種類と用法 名詞：曜日、月	基数１～３０の復習
15	まとめと復習 確認	理解度確認テスト	学習事項の総点検

関連科目	スペイン語入門Ａ、Ｂ、Ｃ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スペイン語圏への旅（El viaje al mundo hispanico）	大原志麻、花方寿行	同学社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	適宜、小テストを実施する。 小テスト 50% ＋理解度確認テスト 50%
学生へのメッセージ	初めての外国語の勉強は大変です。毎日、少しずつでも勉強しましょう。予習と復習は不可欠です。
担当者の研究室等	７号館２階 非常勤講師室
備考	事前・事後に各１時間の学修時間を要する。

科目名	総合スペイン語Ⅱ	科目名（英文）	Integrated Spanish Skills II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	磯野　吉美
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	前期と同じように、スペイン語文読解と文法の練習問題をとおして理解を深めるとともに、語彙力の増強をめざす。 習熟度別のクラス編成にする場合もある。
到達目標	「スペイン語基礎Ａ、Ｂ、Ｃ」で学んだばかりの内容に対応する豊富な練習問題に取組むことで、文法の基礎を着実に習得する。
授業方法と留意点	日本人学習者にはすぐに理解しにくい箇所を集中的に学習し、文法科目を補っていく。分からなかったことを恥ずかしいと思わず、理解が完全でないと思えば、どんどん疑問をぶつけてほしい。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定５級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	復習 gustar 型動詞	前期の復習	直説法現在の規則活用と不規則活用の確認 目的格代名詞の復習
2	天候表現 序数	天候状況の尋ね方と答え方	動詞 hacer, estar の活用の復習 形容詞の語尾変化
3	再帰動詞	自動詞と他動詞 さまざまな用法をとおして、ニュアンスをつかむ	形と用法
4	非人称表現 se の受身 基数１００以上	非人称表現の種類	基数１～１００の復習
5	直説法点過去（1） 関係代名詞（1）	直説法点過去の規則活用	活用形を覚える
6	関係代名詞（1）	先行詞とは 詞・句・節の違い	定冠詞 名詞の性・数
7	直説法点過去（2）	直説法点過去の不規則活用	活用形を覚える
8	関係詞代名詞（2） 直説法線過去	直説法線過去の規則活用と不規則活用 直説法点過去と直説法線過去の違い	活用形を覚える 点過去と線過去の使い分け
9	知覚・使役・放任の動詞 現在分詞	現在分詞の作り方と用法	目的格代名詞と再帰代名詞の復習
10	過去分詞 直説法現在完了	過去分詞の作り方と用法 直説法現在完了の用法	形容詞の語尾変化
11	直説法過去完了	直説法過去完了の用法	過去分詞 直説法過去完了、現在完了、点過去、線過去の使い分け
12	比較級	優等比較、劣等比較、同等比較	既出形容詞の意味と語尾変化の復習
13	最上級 直説法未来	最上級 比較級を用いない程度の表現 直説法未来の活用と用法	既出形容詞の意味と語尾変化の復習 活用形を覚える
14	直説法過去未来	直説法過去未来の活用と用法 直説法未来と直説法過去未来の違い	過去分詞 未来、過去未来、未来完了、過去未来完了の使い分け
15	まとめと復習 確認	理解度確認テスト	学習事項の総点検

関連科目：スペイン語基礎Ａ、Ｂ、Ｃ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スペイン語圏への旅　(El viaje al mundo hispanico)	大原志麻、花方寿行	同学社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	適宜、小テストを実施する。 小テスト　50% ＋ 理解度確認テスト 50%
学生へのメッセージ	夏休みの間のさびを落として、心機一転、がんばりましょう。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	事前・事後に各 60 分の学習を要する

科目名	総合スペイン語Ⅱ	科目名（英文）	Integrated Spanish Skills II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林　安紀子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	前期と同じように、スペイン語文読解と文法の練習問題をとおして理解を深めるとともに、語彙力の増強をめざす。 習熟度別のクラス編成にする場合もある。
到達目標	「スペイン語基礎Ａ、Ｂ、Ｃ」で学んだばかりの内容に対応する豊富な練習問題に取組むことで、文法の基礎を着実に習得する。
授業方法と留意点	日本人学習者にはすぐに理解しにくい箇所を集中的に学習し、文法科目を補っていく。分からなかったことを恥ずかしいと思わず、理解が完全でないと思えば、どんどん疑問をぶつけてほしい。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定５級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	復習 gustar 型動詞	前期の復習	直説法現在の規則活用と不規則活用の確認 目的格代名詞の復習
2	天候表現 序数	天候状況の尋ね方と答え方	動詞 hacer, estar の活用の復習 形容詞の語尾変化
3	再帰動詞	自動詞と他動詞 さまざまな用法をとおして、ニュアンスをつかむ	形と用法
4	非人称表現 se の受身 基数１００以上	非人称表現の種類	基数１～１００の復習
5	直説法点過去（1） 関係代名詞（1）	直説法点過去の規則活用	活用形を覚える
6	関係代名詞（1）	先行詞とは 詞・句・節の違い	定冠詞 名詞の性・数
7	直説法点過去（2）	直説法点過去の不規則活用	活用形を覚える
8	関係詞代名詞（2） 直説法線過去	直説法線過去の規則活用と不規則活用 直説法点過去と直説法線過去の違い	活用形を覚える 点過去と線過去の使い分け
9	知覚・使役・放任の動詞 現在分詞	現在分詞の作り方と用法	目的格代名詞と再帰代名詞の復習
10	過去分詞 直説法現在完了	過去分詞の作り方と用法 直説法現在完了の用法	形容詞の語尾変化
11	直説法過去完了	直説法過去完了の用法	過去分詞 直説法過去完了、現在完了、点過去、線過去の使い分け
12	比較級	優等比較、劣等比較、同等比較	既出形容詞の意味と語尾変化の復習
13	最上級 直説法未来	最上級 比較級を用いない程度の表現 直説法未来の活用と用法	既出形容詞の意味と語尾変化の復習 活用形を覚える
14	直説法過去未来	直説法過去未来の活用と用法 直説法未来と直説法過去未来の違い	過去分詞 未来、過去未来、未来完了、過去未来完了の使い分け
15	まとめと復習 確認	理解度確認テスト	学習事項の総点検

関連科目：スペイン語基礎Ａ、Ｂ、Ｃ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スペイン語圏への旅　(El viaje al mundo hispanico)	大原志麻、花方寿行	同学社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	適宜、小テストを実施する。 小テスト　50% ＋ 理解度確認テスト 50%
学生へのメッセージ	夏休みの間のさびを落として、心機一転、がんばりましょう。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	事前・事後に各 60 分の学習を要する

科目名	総合スペイン語ⅢＡ	科目名（英文）	Advanced Spanish Grammar IIIA
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	Ｑ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北條　ゆかり
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	・１年次の「スペイン語入門・基礎」の続編。１年次に積み残した文法項目を扱う。 ・「総合Ａ」と「総合Ｂ」はリレー形式で進めていくので、必ず両方を履修すること。 ・毎回単語テスト、ときどき中間テスト（文法確認テスト）を実施する。
到達目標	命令形と接続法のマスター
授業方法と留意点	文法解説の後、様々な練習問題をこなし、知識の定着を目指す。 総合ＡとＢはリレー形式で進むので、必ずどちらとも履修すること。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定５級～４級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	１年次の復習	教科書第１課～第３課	直説法現在の活用形の復習
2	１年次の復習	教科書第１課～第３課	点過去、線過去など
3	接続法の活用	教科書第４課	接続法現在の活用
4	接続法の用法（１）	名詞節で使う接続法	接続法を要求する動詞など
5	接続法の用法（２）	関係詞節、副詞節と接続法	接続法を求める接続詞など
6	接続法現在完了	教科書第５課	接続法現在完了と現在の違い
7	中間テスト（１）	接続法現在、現在完了の活用と用法	これまでの復習
8	肯定命令	中間テストの総括 教科書第６課	２人称と３人称
9	否定命令	教科書第７課	肯定命令と否定命令の違い
10	ボキャコン	基礎１５００語	既習語彙の総復習
11	接続法過去	教科書第８課	点過去の活用形の総復習 接続法過去の活用
12	接続法過去完了	教科書第９課	接続法過去完了
13	仮定表現など	教科書第９課ほか	現実と仮想の差
14	中間テスト（２）	教科書第６課～９課	これまでの復習
15	総括	これまでのテストの見直し	学習事項の総点検

関連科目：スペイン語の全科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	エスペランサ	栗林ゆき絵	同学社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験も実施する。中間テスト３０％　：　単語テストとボキャブラリコンテスト３０％　：　定期試験４０％
学生へのメッセージ	いよいよ、スペイン語文法の仕上げ。しんどいけど、あと少しです。頑張りましょう。
担当者の研究室等	７号館５階　北條研究室
備考	ボキャコンの日程は前後することがある。事前・事後学修に各１時間を要する。

科目名	総合スペイン語ⅢＡ	科目名（英文）	Advanced Spanish Grammar IIIA
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	酒井　真梨奈
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	・１年次の「スペイン語入門・基礎」の続編。１年次に積み残した文法項目を扱う。 ・「総合Ａ」と「総合Ｂ」はリレー形式で進めていくので、必ず両方を履修すること。 ・毎回単語テスト、ときどき中間テスト（文法確認テスト）を実施する。
到達目標	命令形と接続法のマスター
授業方法と留意点	文法解説の後、様々な練習問題をこなし、知識の定着を目指す。 総合ＡとＢはリレー形式で進むので、必ずどちらとも履修すること。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定５級～４級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	１年次の復習	教科書第１課～第３課	直説法現在の活用形の復習
2	１年次の復習	教科書第１課～第３課	点過去、線過去など
3	接続法の活用	教科書第４課	接続法現在の活用
4	接続法の用法（１）	名詞節で使う接続法	接続法を要求する動詞など
5	接続法の用法（２）	関係詞節、副詞節と接続法	接続法を求める接続詞など
6	接続法現在完了	教科書第５課	接続法現在完了と現在の違い
7	中間テスト（１）	接続法現在、現在完了の活用と用法	これまでの復習
8	肯定命令	中間テストの総括 教科書第６課	２人称と３人称
9	否定命令	教科書第７課	肯定命令と否定命令の違い
10	ボキャコン	基礎１５００語	既習語彙の総復習
11	接続法過去	教科書第８課	点過去の活用形の総復習 接続法過去の活用
12	接続法過去完了	教科書第９課	接続法過去完了
13	仮定表現など	教科書第９課ほか	現実と仮想の差
14	中間テスト（２）	教科書第６課～９課	これまでの復習
15	総括	これまでのテストの見直し	学習事項の総点検

関連科目：スペイン語の全科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	エスペランサ	栗林ゆき絵	同学社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験も実施する。中間テスト３０％　：　単語テストとボキャブラリコンテスト３０％　：　定期試験４０％
学生へのメッセージ	いよいよ、スペイン語文法の仕上げ。しんどいけど、あと少しです。頑張りましょう。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師控室
備考	ボキャコンの日程は前後することがある。事前・事後学修に各１時間を要する。

科目名	総合スペイン語ⅢＢ	科目名（英文）	Advanced Spanish Grammar IIIB
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	Ｑ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	篠原　愛人
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	・１年次の「スペイン語入門・基礎」の続編。１年次に積み残した文法項目を扱う。 ・「総合Ａ」と「総合Ｂ」はリレー形式で進めていくので、必ず両方を履修すること。 ・毎回単語テスト、ときどき中間テスト（文法確認テスト）を実施する。
到達目標	命令形と接続法のマスター
授業方法と留意点	文法解説の後、様々な練習問題をこなし、知識の定着を目指す。 総合ＡとＢはリレー形式で進むので、必ずどちらとも履修すること。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定５級～４級
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	１年次の復習	教科書第１課～第３課	直説法現在の活用形の復習
2	１年次の復習	教科書第１課～第３課	点過去、線過去など
3	接続法の活用	教科書第４課	接続法現在の活用
4	接続法の用法（１）	名詞節で使う接続法	接続法を要求する動詞など
5	接続法の用法（２）	関係詞節、副詞節と接続法	接続法を求める接続詞など
6	接続法現在完了	教科書第５課	接続法現在完了と現在の違い
7	中間テスト（１）	接続法現在、現在完了の活用と用法	これまでの復習
8	肯定命令	中間テストの総括 教科書第６課	２人称と３人称
9	否定命令	教科書第７課	肯定命令と否定命令の違い
10	ボキャコン	基礎１５００語	既習語彙の総復習
11	接続法過去	教科書第８課	点過去の活用形の総復習 接続法過去の活用
12	接続法過去完了	教科書第９課	接続法過去完了
13	仮定表現など	教科書第９課ほか	現実と仮想の差
14	中間テスト（２）	教科書第６課～９課	これまでの復習
15	総括	これまでのテストの見直し	学習事項の総点検

関連科目	スペイン語の全科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	エスペランサ	栗林ゆき絵	同学社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験も実施する。中間テスト３０％　：　単語テストとボキャブラリコンテスト３０％　：　定期試験４０％
学生へのメッセージ	いよいよ、スペイン語文法の仕上げ。しんどいけど、あと少しです。頑張りましょう。
担当者の研究室等	７号館５階(篠原研究室)
備考	ボキャコンの日程は前後することがある。事前・事後学修に各１時間を要する。

科目名	総合スペイン語ⅢＢ	科目名（英文）	Advanced Spanish Grammar IIIB
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	三浦　知佐子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	・１年次の「スペイン語入門・基礎」の続編。１年次に積み残した文法項目を扱う。 ・「総合Ａ」と「総合Ｂ」はリレー形式で進めていくので、必ず両方を履修すること。 ・毎回単語テスト、ときどき中間テスト（文法確認テスト）を実施する。
到達目標	命令形と接続法のマスター
授業方法と留意点	文法解説の後、様々な練習問題をこなし、知識の定着を目指す。 総合ＡとＢはリレー形式で進むので、必ずどちらとも履修すること。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定５級～４級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	１年次の復習	教科書第１課～第３課	直説法現在の活用形の復習
2	１年次の復習	教科書第１課～第３課	点過去、線過去など
3	接続法の活用	教科書第４課	接続法現在の活用
4	接続法の用法（１）	名詞節で使う接続法	接続法を要求する動詞など
5	接続法の用法（２）	関係詞節、副詞節と接続法	接続法を求める接続詞など
6	接続法現在完了	教科書第５課	接続法現在完了と現在の違い
7	中間テスト（１）	接続法現在、現在完了の活用と用法	これまでの復習
8	肯定命令	中間テストの総括 教科書第６課	２人称と３人称
9	否定命令	教科書第７課	肯定命令と否定命令の違い
10	ボキャコン	基礎１５００語	既習語彙の総復習
11	接続法過去	教科書第８課	点過去の活用形の総復習 接続法過去の活用
12	接続法過去完了	教科書第９課	接続法過去完了
13	仮定表現など	教科書第９課ほか	現実と仮想の差
14	中間テスト（２）	教科書第６課～９課	これまでの復習
15	総括	これまでのテストの見直し	学習事項の総点検

関連科目：スペイン語の全科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	エスペランサ	栗林ゆき絵	同学社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験も実施する。中間テスト３０％　：　単語テストとボキャブラリコンテスト３０％　：　定期試験４０％
学生へのメッセージ	いよいよ、スペイン語文法の仕上げ。しんどいけど、あと少しです。頑張りましょう。
担当者の研究室等	７号館２階 非常勤講師控室
備考	ボキャコンの日程は前後することがある。事前・事後学修に各１時間を要する。

科目名	総合中国語 a	科目名（英文）	Integrated Chinese Skills a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	瀬戸　宏
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	中国経済の発展に伴い、日中の経済的結びつきはますます強くなっている。このような状況の下、中国語を駆使するビジネスマンの役割はますます重要になっている。本学ではそのようなビジネス中国語の習得をを目指す学生のために、ビジネスに特化した中国語の講座を準備した。前期の授業は基礎知識、簡単な単語でのコミュニケーション、挨拶から質問のし方・答え方などビジネス場面で必要な会話を学ぶ。
到達目標	ビジネスシーンで使われる表現を通して，関連する語彙や初歩的な構文を習得する。
授業方法と留意点	この科目が必修科目であることに注意。また，授業の内容は１年生中国語専攻クラスの他の必修科目を履修していることを前提としている。ただし，他学部，他大学，社会人による単科目の受講は可能である。
科目学習の効果（資格）	ビジネス中国語検定試験受験など

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	中国経済の概況	改革開放前の計画経済体制から今日の市場経済体制への転換軌跡を解明し、中国の特色ある経済システムについて講義する。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第１課・第２課	発音（１）（２）ビジネス時に使う中国語の単語を材料にして発音や声調を学習する。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第３課前半	(1) 判断文　(2) 疑問文(１)「～?」 (3) 副詞「也」　(4) 姓名の表現	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第３課後半	関連表現　練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第４課前半	(1) 動詞述語文　(2) 疑問詞による疑問文 (3) 語気助詞「?」　(4) 副詞「好好儿」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第４課後半	関連表現　練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第５課前半	(1) 形容詞述語文　(2) 反復疑問文 (3) 介詞「?」　(4) 比較の表現「A 比 B～」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第５課後半	関連表現　練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第６課前半	(1) 動詞「有」(～に～がある・いる) (2) 動詞「在」　(3) 助動詞「要」 (4) 助動詞「想」　(5) 介詞「从」と「到」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第６課後半	関連表現　練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第７課前半	(1) 年月日の言い方　(2) 動詞＋「一下儿」 (3) 介詞「和」　(4) 動詞「有」(～が～を持っている)	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第７課後半	関連表現　練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第８課前半	総合復習チェックシート	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第８課後半	教養としての中国語の基礎語の学習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	総復習	第３課から第８課までの総復習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目：主言語・共通言語１年次中国語

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジネス中国語	摂南大学外国語学部編	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	単元ごとの小テストを行う。平常点（授業に取り組む姿勢、小テスト、発音など）50 パーセント　単元テスト 50 パーセント
学生へのメッセージ	必修科目ですからしっかり自覚をもって講義に臨んでください。テストの平均点が６割以上、出席回数が三分の二を越えて、はじめて単位が認定されます。 一時限開講科目ですが、30 分を越えた遅刻は欠席扱いとなりますので、いつも時間に余裕を持って出席するようにお願いします。 また、随時、始業と同時に復習テスト行います。遅刻、欠席の場合は受験できないのでご注意ください。
担当者の研究室等	７号館３階
備考	事前事後の学修に各１時間要する。 授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	総合中国語ｂ	科目名（英文）	Integrated Chinese Skills b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	瀬戸　宏
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	後期の授業は、基礎となる文法、会社・組織についての表現、アポイントのとり方、社交の場での会話、商談など、ビジネス現場ですぐに活用できる表現や語彙力を学ぶ。
到達目標	前期に引き続き、ビジネスシーンで使われる表現を通して、関連する語彙や初歩的な構文を習得する。
授業方法と留意点	この科目が必修科目であることに注意。また、授業の内容は１年生中国語専攻クラスの他の必修科目を履修していることを前提としている。ただし、他学部、他大学、社会人による単科目の受講は可能である。
科目学習の効果（資格）	スコア式ビジネス中国語検定試験受験など

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第８課前半	１「是不是」の用法　　２「このように」の用法 ３ 助動詞「会」の用法（～するのが上手だ）	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第８課後半	関連表現　練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第９課前半	１助詞「之」の用法　　２介詞「根据」 ３文型「只有～才～」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第９課後半	関連表現　練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第１０課前半	１助詞「&000083f7;」の用法　　２可能補語「～不了 ３文型「既…又…」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第１０課後半	関連表現　練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第１１課前半	１「記下来」（動詞＋下来）　２「写進去」（動詞＋進去）　３代詞「本」　４介詞「	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第１１課後半	関連表現　練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第１２課前半	１文型　「Ａ是Ａ」　２「為…起見」 ３接続詞「再説」の用法　４「做个市場調査」：助数詞前の「一」の省略	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第１２課後半	関連表現　練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第１３課前半	１過意不去　　２介詞「本着」 ３一定，一定　４助動詞「該」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第１３課後半	関連表現　練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第１４課前半	復習チェックシート	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第１４課後半	教養としての中国語の基礎語の学習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	総復習	第８課から第13課までを総復習する	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目：主言語・共通言語１年次中国語

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジネス中国語	摂南大学外国語学部編	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	単元ごとの小テストを行う。平常点５割　単元テスト５割を基準とします。 出席は10回以上していないと単位は認定されません。
学生へのメッセージ	必修科目ですからしっかり自覚をもって講義に臨んでください。 ビジネス中国語ａと同じく、遅刻、欠席は語学の授業では大きなロスとなりますから、慎んでください。 必ず教科書は購入してください。 事前・事後に各60分の学修を要する。
担当者の研究室等	７号館３階
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	総合マレー語 a	科目名（英文）	Integrated Malay Skills a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上田　達
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	マレー語の基礎的な事項を学習した者を対象として、マレー語運用能力の向上を目指す。配付資料に依拠しながら文法事項について説明する。また、新聞、雑誌、論文、映像資料など多様な媒体におけるマレー語に触れ、理解に努める。学習事項を踏まえて、表現能力を高めるため、受講者にはまとまった量の文章作成等を随時課す。
到達目標	マレー語能力の向上。
授業方法と留意点	課題を出すので、自分の到達度を鑑みて自主的に取り組むこと。特に、リスニングの課題は次回授業までに確実に取り組んでおくこと。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	既習事項について復習する。	既習事項の確認問題
2	文法 1（強勢語）	juga, pun, pula などの強勢語の意味や使用例について学習する。	既習事項の確認と演習課題
3	文法 2（語尾の表現）	lah, kah などの文末・語末に使われる語について学習する。	既習事項の確認と演習課題
4	文法 3（ialah, adalah）	マレー語でよく使用される kata pemeri(ialah と adalah)について学習する。	既習事項の確認と演習課題
5	復習 1	第 4 講義までに学んだ内容について復習を行うとともに、理解度を問う確認テストを行う。	テストのために既習事項を確認する。
6	文法 4（感嘆語）	amboi, aduh などの感嘆語の使用について学習する。	既習事項の確認と演習課題
7	表現 1(ことわざと慣用句)	マレー語で使用されることわざと慣用句について、その文化的背景を踏まえて学習する。	既習事項の確認と演習課題（ことわざと慣用句についてのサイトにアクセスして、課題に取り組む）
8	表現 2（聞き取り）	マレー語教材を用いて聞き取りを行う。	既習事項の確認と演習課題（指定した動画ファイルを視聴して課題に取り組む）
9	表現 3(聞き取り)	マレー語放送を視聴して聞き取りを行う。 中高生向けに書かれた文章を取り上げて講読する。	練習問題と課題文にあるわからない単語について調べてくる。
10	復習 2	第 9 講義までに学んだ内容について復習を行うとともに、理解度を問う筆記と聞き取りの確認テストを行う。	テストのために既習事項を確認確認する。
11	講読 1	中高生向けに書かれた文章を取り上げて講読する。	既習事項の確認と演習課題。練習問題と課題文にあるわからない単語について調べてくる。
12	講読 2	マレー語で書かれた雑誌の小記事を取り上げて講読する。	既習事項の確認と演習課題。練習問題と課題文にあるわからない単語について調べてくる。
13	表現 1	地図、図表、写真などを見て、作文を完成させる。	作文のための資料収集と、文章の推敲。
14	復習 3	第 13 講義までに学んだ諸表現について復習を行うとともに、理解度を問う確認テストを行う。	テストのために既習事項を確認する。
15	総合復習	確認テストについての講評を行うとともに、地図や図表等に関する受講者の作文を発表する。	作文の完成と既習事項の確認。

関連科目	総合マレー語など、インドネシア・マレー語関係の授業

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	総合マレー語	上田達	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Kamus Dewan		Dewan Bahasa dan Pustaka
2	マレーシア語学習辞典	川上雄作	アジアのことばと辞書の会
3			

評価方法（基準）	確認テスト（60%）と発表や提出物等の授業への取り組み（40%）と併せて成績を判断する。詳細は第一回目の授業で指示する。
学生へのメッセージ	日々の研鑽を怠らないようにしてください。
担当者の研究室等	7 号館 5 階(上田研究室)
備考	拙著の教科書は第一回目の授業時に頒布する。辞書は二年次に購入したものを継続して使用するので、一回目の授業から持参すること。 確認テストは時間内に講評するとともに、翌週に採点のうえ返却する。第三回のテストは授業時間終了後、採点のうえ一週間以内に返却する。

科目名	総合マレー語b	科目名（英文）	Integrated Malay Skills b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	上田　達
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	基礎的な事項を学習した者を対象として、マレー語運用能力の向上を目指す。新聞、雑誌、論文、映像資料など多様な媒体におけるマレー語に触れ、理解に努める。学習事項を踏まえて、表現能力を高めるため、受講者にはまとまった量の文章作成やスピーチを随時課す。
到達目標	マレー語能力の向上。
授業方法と留意点	課題を出すので、自分の到達度を鑑みて自主的に取り組むこと。特に、リスニングの課題は次回授業までに確実に取り組んでおくこと。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	前期学習事項の確認を行う。	既習事項の確認と課題文のわからない単語について調べてくる。
2	文法 1	接続詞の用法について学ぶ。	既習事項の確認と演習問題
3	文法 2	接辞の多様な使用法について学ぶ。	既習事項の確認と演習問題
4	講読 1	マレー文化についてマレー語で書かれた雑誌記事を講読する。あわせて、関連するトピックスに関連した映像資料を視聴する。	既習事項の確認と演習課題（図書館やウエブからマレー語資料を収集してくる）
5	復習 1	第 4 講義までに学んだ内容について復習を行うとともに、理解度を問う確認テストを行う。	既習事項の復習
6	表現 1	マレー語ニュースを視聴して、内容を要約する。	既習事項の確認と演習課題（マレー語ニュースにアクセスして、わからない表現や単語をピックアップしてくる）
7	表現 2	マレー語ニュースを視聴して、内容を要約する。	既習事項の確認と演習課題（興味のあるトピックについて書かれたサイトを探して、わからない表現や単語をピックアップしてくる）
8	講読 2	インターネット上にある口語混じりの文章に触れる。	既習事項の確認と演習課題（興味のあるトピックについて書かれたサイトを探して、わからない表現や単語をピックアップしてくる）
9	講読 3	マレー語で書かれた平易な本の一部を読む	既習事項の確認と演習課題（本の該当箇所にあるわからない表現や単語を調べてくる）
10	復習 2	第 9 講義までに学んだ内容について復習を行うとともに、理解度を問う筆記と聞き取りの確認テストを行う。	既習事項の復習。
11	講読 4	マレー語で書かれた平易な本の一部を講読する。	既習事項の確認と演習課題（本の該当箇所にあるわからない表現や単語を調べてくる）
12	表現 3	マレーシアのラジオ放送について概観を得た上で、口語表現を学修する。	既習事項の確認と演習課題（マレーシアのラジオ放送を視聴する。わかった内容について報告する準備を行う）
13	演習	マレーシアの学生向けに作られた「国語（マレー語）」問題に取り組む。	既習事項の確認と演習課題（該当箇所にあるわからない表現や単語を調べてくる）
14	復習 3	第 13 講義までに学んだ諸表現について復習を行うとともに、理解度を問う確認テストを行う。	練習問題
15	総合復習	確認テストについての講評を行うとともに、学力試験の作文問題を発表する。	学習事項の復習

関連科目	基礎マレー語などインドネシア・マレー語関係の授業。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Kamus Dewan		Dewan Bahasa dan Pustaka
2			
3			

評価方法（基準）	確認テスト（70%）と発表や提出物等の授業への取り組み（30%）と併せて評価する。詳細は第一回目の授業で指示する。
学生へのメッセージ	日々の研鑽を怠らないようにしてください。
担当者の研究室等	7 号館 5 階(上田研究室)
備考	参考書に挙げたマレー語辞書は、課題に取り組む際に大いに参考にすること。 提出物は原則として翌週に返却する。最終回の課題は授業期間終了後一週間以内に評価を記して返却する。

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation Thesis Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	赤澤　春彦
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	研究テーマ・課題を設定し、論文を作成する。これを通じ、学術的な調査・資料分析の方法、論理的な思考、文章の技術を習得する。
到達目標	論理的な思考に基づく分析と考察、ディスカッション、文章表現などの能力が身につく。
授業方法と留意点	研究計画書に沿って、論文作成を進める。研究内容や論文作成の進展状況について、演習で報告し、全員で討議する。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	・研究計画書を作成する（卒業研究のテーマに関する文献のレビューおよび調査方法の説明を含む)。 ・調査に着手する。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	演習への出席、発言、口頭発表、調査への取り組み姿勢に基づいて行う。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation Thesis Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浅野　英一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	国際文化演習で行った課題を自らの研究テーマにあわせて資料収集し、それを調査しながら研究報告にまとめる。グループ・ゼミと個人ゼミを組み合わせながら指導を卒業研究レポートを完成させる。
到達目標	下記の３つの能力を到達目標とする ①課題解決能力：与えられた課題を期限内に解決できる。 ②論理的記述能力：内容を論理的かつ簡潔に記述し、卒業研究レポートを完成させる。 ③社会的理解力：研究テーマの社会的意味や影響力を理解する。
授業方法と留意点	（前期） １回目：オリエンテーション ２回目以降：執筆までの各自のスケジュールを計画しそれを実行する
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】国際協調・国際理解の展望 【事前事後学習課題】文献・インターネット等で内容を調べてくる。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	授業に取り組む姿勢（50%）と、卒業研究の進捗状況（50%）に基づいて評価
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館５階　浅野研究室
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation Thesis Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	天野　貴史
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	３年次の文化演習における議論をさらに発展させ、その成果を卒業研究レポートでまとめる。
到達目標	英文で３０００語以上の卒業研究レポートを作成する。
授業方法と留意点	卒業研究レポートと就活を両立させる。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	卒業研究レポートについて共通の理解を図る。 前期・・・個別指導（金３）、個別指導（金４）、月に１回読書会をおこなう。 後期・・・３ゼミとの合同授業（火３）、個別指導（金３・４）
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	卒業研究への取り組み・・・100％
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館３F　天野研究室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation Thesis Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有馬　善一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	3年次に決定したテーマに基づいて卒業研究レポートの執筆を進める。
到達目標	テーマに基づいた資料の収集・読解。 卒業研究のアウトラインの完成。
授業方法と留意点	昨年度中に決定した「テーマ」の確認、発表、卒論の執筆、草稿段階での指導、最終的な完成という手順で進める。 序章、第1章の原稿は、早い時期に一度発表を行う。
授業テーマ・内容･方法･事前、事後学習課題	卒業研究を進めるための個別指導を中心とする。 昨年度に引き続き、卒業論文の作成を進める。 全体のプランについて、中間発表を行う。 卒業論文の作成に当って配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加態度・課題の達成（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7号館4階　有馬研究室
備考	事前事後学習時間　計60時間

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation Thesis Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	岩間　香
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	卒業研究レポートを作成する。前期は研究テーマに関する文献を収集し、読み、基礎的な知識を身につける。またレポートの章立てを作る。 ものの調べ方や文章を読み解く力をつける。
到達目標	専門的な文献や資料の探索方法や論文を分析し批判する力を身につける。インターネットへの注意や論文の引用の仕方を学び研究倫理を身につける。論理の組み立てを学び実践する。的確な日本語の文章を書く。
授業方法と留意点	教員の指示にしたがい個々に必要な作業を進める。発表を行う。毎回進捗状況をたがいに報告する。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	主として美術や文化に関する問題から卒業研究レポートテーマを決める。 関連の論文・文献を収集する。 それらを読み、レポートにまとめる問題点を引き出す。 実地調査・アンケートなど必要な作業を行い、分析考察する。 章立てをまとめる。 ＜事前事後学習課題＞自分で図書館やインターネットを利用して、必要な文献を集める。 文献を読んで分からないことは自分で調べる。 論文執筆は各自で行い、大学には家で書いてきたものを印刷して持ってくる。（必要な時間は週に６時間以上）
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	参加の態度 50% レポートの内容 50%
学生へのメッセージ	卒業研究レポートは１年かけて行う大変な作業です。苦しいことも多々ありますが、大学で「これを学んだ」という自覚をもつことができます。充実した１年間になるよう、がんばりましょう。
担当者の研究室等	７号館５階岩間研究室
備考	

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation Thesis Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	上田　達
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	卒業研究レポートの作成を指導する。文化人類学という広い枠を設けるものの、受講者の関心からテーマを設定して、その研究を指導する。文献の調べ方、データの収集、文章表現など、卒業研究レポート作成のために必要な知識や能力を涵養する。各自の主題に関連する文献講読と、各自の調査主題の報告が授業の中心となる。
到達目標	卒業研究レポートの作成。
授業方法と留意点	卒業研究完成のために計画的に取り組むことができるよう、時期にあった指導を行う。前半は完成のための礎作りのための時期とし、後半は論文作成を意識する時期とする。 卒業研究を有意義なものにするためには、受講者の主体性が必要である。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	まず、受講者の関心に基づいて、調査主題を設定する。そのうえで、関連するトピックについて書かれた文化人類学や社会学の文献の講読を進める。毎回報告者を指名するので、報告者は配付資料を用意して 30 分程度で内容について報告する。コメンテイターは 5 分程度のコメントをする。報告者とコメンテイターと聴衆のいずれの役割においても発言することが求められるので、指定された文献を精読してくること。各自の調査成果報告においても、同様の役割分担を行う。時間を有効に活用するため、授業時間外の作業の質と量とが問われる。報告とディスカッションを経て、期末レポートを作成するための指導を行う。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回の授業への取り組み（20%）と発表内容（30%）、および期末レポート（50%）から総合的に判断する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation Thesis Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浦野　崇央
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	現代の日本や東南アジア世界をめぐる社会事象および社会現象がいかなる意味をもち、周りにどれほどの影響を与えているのか。３年次の「文化演習」で得た知見をベースにしつつ、各受講生が個別に選択したテーマについて、ディシプリンの見方を怠らずに、より深い考察を行っていく。
到達目標	研究作業を通じて、客観的な眼差しがもてるようになる。また、日頃のゼミ活動を通じて、「目くばり」「気くばり」「心くばり」のできる人間になることを目標とする。
授業方法と留意点	基本的には個人個人での取り組みとなるため、研究計画をきっちりと立て、積極的姿勢で進めていくこと。 なお、７月に卒論中間発表会を開催するので、留意のこと。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 各自が卒業研究レポート完成へ向けて、それぞれのテーマを設定し、取り組んでいく。 【事前事後学習課題】 文献資料・インターネット等を活用し、取り組んでいる研究を深化させること。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	毎月のレポート（５０％）および積極的に研究を進めていくという受講態度（５０％）で評価します。
学生へのメッセージ	学生生活の集大成を立派な形として残すことができるように、一生懸命取り組んでいきましょう。
担当者の研究室等	７号館４階（浦野研究室）
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ
2	「研究」を進めるために―研究資料ガイド 2017―	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ
3			

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation Thesis Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小川　豊生
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	３年次の文化演習で設定したテーマ（修正・変更可）にもとづき、各自の個別研究を深めていく。調査や整理、発表や討論、さらにレポート・原稿作成という一連の作業のプロセスを通じて、知識や思考を深め、内容を洗練させたうえで、卒業研究レポートに取り組んでほしい。
到達目標	・自ら問題を設定し、文献を探求し、論点を論理的に整理し、まとまったレポートを制作する力を養成する。 ・発表力、聞く力、質問力、コメント力など社会人としての基礎的な力を涵養する。
授業方法と留意点	（前期） まず、卒業研究レポート提出までの作業について簡単なガイダンスをおこなう。次に各自、執筆までのスケジュールを立てる。必要な文献を多く読むことで問題意識を高め、先行研究をふまえて、独自の「結論」を導き出すための問題を設定する。 （後期） 各自の発表をふまえて執筆にとりかかる。論理的展開と明快な文章を心がけ、４年間の集大成をおこなう。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【テーマ】　日本文学・日本文化・日本語をめぐる諸問題（海外との比較研究を含む） 【内容】　各自が三ゼミにおいて設定したテーマを深め、発表する力、聴く力、書く力を養成する。また文献探索の方法や、論文の書き方について学ぶ。 ?　テーマの再確認または変更 ?　参考文献の収集 ?　文献の読解・分析 ?　先行研究の分析 ?　論の構想 ?　論文の作成 ?　共同討議 などを柱としてすすめる。 【方法】　発表・討議をくりかえし、また個別指導を通じて、卒研レポートの完成をめざす。 【事後・事前学習】自己のテーマの深化・錬成、発表の準備とまとめ
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	口頭発表（討論含む）・卒業研究レポートを総合的に評価する。発表 50%、卒研レポート 50%。
学生へのメッセージ	卒業研究への取り組みは、一つのテーマを徹底的に掘り下げる貴重な機会です。社会へ出るための最も重要な総合力を養成することをめざしましょう。
担当者の研究室等	７号館４階（小川研究室）
備考	

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation Thesis Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	門脇　薫
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	【テーマ】 日本語・日本語教育 【 授業概要・目的・到達目標 】 ３年次の文化演習で学んだことを基に、広い意味の「日本語教育」-------日本語学・第二言語習得・異文化コミュニケーション・教授法・多文化共生等-----に関して、各自が設定したテーマについて考察し、卒業研究レポートを完成する。
到達目標	＊スケジュールにしたがって、執筆作業を進めていくことができる。 ＊自分が設定したテーマに関して、自分なりに調査・分析・考察し、論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	各自が関心を持ったテーマについて、文献及び資料を収集する。資料収集・調査・分析等の研究方法や論文執筆の指導は個別に行うが、ゼミの学生同士の意見交換を通してよりよい研究論文を執筆する。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 各自の研究テーマについてのディスカッション、論文執筆、論文添削 【事前事後学習課題】 資料、文献収集、論文執筆、推敲
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	卒業研究に取り組む意欲・態度（20%）,論文の内容(80%）により総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 4 階（門脇研究室）
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation Thesis Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤　一章
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	言語や文化に関して興味のあるテーマを選択し、それについて卒業研究を作成していく。
到達目標	卒業研究を執筆し、それについて発表することが出来るようになる。
授業方法と留意点	４月：研究テーマの決め方、資料の集め方などを学ぶ。 ５月～６月：資料を収集し、整理する。研究テーマを決定し、予備調査などを行う。 ７月：中間報告を行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】言語と文化 【事前事後学習課題】文献・インターネット等で内容を調べてくる。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	卒業研究への取り組み姿勢　20% 卒業研究の完成度　80%
学生へのメッセージ	大学生活も残りあとわずかです。悔いのないように頑張って下さい。
担当者の研究室等	後藤研究室（７号館５階）
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation Thesis Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤　安以子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	【テーマ】 英語圏および英語圏と関わりを持つ言語と文化 【 授業概要・目的・到達目標 】 ３年次の文化演習で学んだことを生かして、学生各自がテーマを設定し、卒業研究レポートを作成する。
到達目標	・１つの話題に関して複数の立場で判断する姿勢を身に着ける。 ・情報の精度や公平性を気に掛けるようになる。 ・社会人になってからも通用する、責任をもった調査やレポートの書き方を身に着ける。
授業方法と留意点	各自のテーマに基づいて資料を収集し、資料の調査・分析など情報のインプットの方法を学ぶ。さらに、論文の構成や発表方法など情報のアウトプットの方法を学び、最終的に卒業研究レポートを完成させる。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	英語圏の歴史・文化・文学や英語教育をテーマとするが、学生が個々に関心をもつテーマを選んでかまわない。 ゼミの学生各自の発表と、リサーチや研究のルールの学習を、並行して行う。社会人として卒業後も活かせる知識や技術となるので、授業はもれなく全力で参加しよう。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	・授業中の討論・発表　５０％ ・卒業研究レポートの中間報告　　５０％
学生へのメッセージ	・大学生の間にしておきたいことを、１つでもたくさんやってしまいましょう。 ・一生記憶に残るような良いレポートを仕上げましょう。
担当者の研究室等	7 号館 4 階　齋藤研究室
備考	

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation Thesis Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	篠原　愛人
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	他の人に自信をもって見てもらえる卒業研究レポートに仕上げるために必要な文献探し、資料読み、まとめ方（カードやノートの取り方）、論文の構成、文章作法などを身につける。
到達目標	共通のテーマのもとで論文執筆作法を学んだ後、各自のテーマに沿った卒業研究に着手する。
授業方法と留意点	最初はゼミ生全員で共通のテーマについて、問題設定、資料読み、まとめ方を確認する。 それぞれが卒業研究の主題を決めれば、文献探し、読書計画、読み、まとめなどを個別に指導する。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 文化史的な内容の文献を課題図書として選び、読み合わせていく。 【事前事後学習課題】 担当する個所についてレジュメを作り、発表する。レジュメの適不適について話し合い、より良い状態に仕上げる。
関連科目	スペイン語、スペイン語圏に関する科目全般。歴史系科目。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	あらかじめ示した段階に応じて評価する。 第１段階（テーマ設定、文献探し）　20% 第２段階（中間発表と下書き提出）　20% 第３段階（卒業研究レポート）60%
学生へのメッセージ	４年間の大学生活の集大成となる卒業研究レポートです。先輩たちのよい所を見習い、後輩たちの見本となるようなレポートを作成しましょう。
担当者の研究室等	７号館５階（篠原研究室）
備考	

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation Thesis Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大原関　一浩
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	卒業研究を各自進める。具体的には、設定したリサーチクエスチョンに基づき、資料の収集と分析、論文の執筆を行う。ゼミにおけるプレゼンテーション、教員との個人面談を通じて、研究の方向性や進捗状況をしっかり把握し、完成に向けて作業を着実に進める。
到達目標	① 問題を設定し、それに答える方法を考え、実行し、分析する力を養う。 ② 証拠を提示しながら筋道の通った文章を書く力をつける。
授業方法と留意点	担当教員との面談に際し、きちんと準備して望むこと。卒業研究を完成させるには時間がかかることを自覚し、定期的に着実に進めていくこと。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業研究レポート指導 / 文献の読み込み、担当者との討論、データの収集などを行う
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	授業への参加点　５０％　（進捗状況の発表、コメント・質問など） 教員との面談の内容　５０％　（きちんと準備してきたかどうか、自分で考えて発言できたかどうか）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	大原関研究室（7 号館 5 階）
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation Thesis Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	住吉　誠
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	3 年次で学習した、研究資料の収集方法や、研究方法をつかって、学生それぞれのテーマや関心をもとに、ひとつのテーマを選び、文献の渉猟・読み込み、データ収集、考察などを進める。自らの意見を論理だてて述べ、それを自らの言葉に落とし込み、卒業研究を完成させる。
到達目標	１．テーマに関連するデータを主体的に収集できるようになる。 ２．自ら収集したデータをもとに、客観的な議論をできるようになる。 ３．先行研究を批判的に読み、自らの意見を代替案として提示できるようになる。 ４．卒業研究の全体構想をもとに、内容を書き進めていく。
授業方法と留意点	前期は特に文献の渉猟、読み込み、データ収集に力点を置く。きちんと毎回の授業で指定された作業をこなしてくることが望まれる。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	テーマ：現代英語の語法文法研究 内容：文献の読み込み、データの収集などをもとに、指導教員との討議から、できるだけオリジナリティのある考えに到達できることを目指す。 事前・事後学習課題：文献の渉猟・読み込み、データ収集などを含めて、卒業論文を少しずつ書き進める。事前・事後学習の総時間を 30 時間とする。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の討論や議論（30%） プレゼンテーション（20%） 期末レポート（50%）
学生へのメッセージ	文献探しは卒業研究を作成するにあたって基本中の基本です。めんどうがらずに関係のないテーマの本でも読みこみましょう。違った分野のものでも、自分のテーマとの思わぬ関連性やヒントを得ることがあります。
担当者の研究室等	7 号館 4 階　住吉　誠　研究室
備考	

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation Thesis Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	瀬戸　宏
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	卒業研究のテーマの決定と参考文献の収集を行う。
到達目標	卒業研究の方向性を決定し、草稿を書く。
授業方法と留意点	これまでの文化演習での学習の蓄積を考慮して、研究テーマを考える。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	授業の最初に卒業研究のテーマを決めて、内容を詳細に検討する。 さらに参考文献の存在を確かめて、入手をどのようにするかを考える。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	まだ卒研作成過程なので、次の基準で評価する。学習態度６０％、課題提出２０％、卒研面談内容２０％
学生へのメッセージ	一生記憶に残る卒業研究ができればいいなと思います。
担当者の研究室等	７号館３階 瀬戸研究室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation Thesis Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田浦　アマンダ
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	In this course, students will continue to research and learn about the topics introduced in 3rd year on tourism and hospitality in English. Cross cultural issues will be discussed to create an awareness of customer service in both Japan and overseas. Students will write further on their graduation thesis in English. Reading for pleasure will be encouraged, to expand vocabulary and improve all four skills - speaking, listening, reading and writing. Oral presentations of thesis material and discussions will take place to encourage confidence in English. Job skills - interviewing techniques and answers will be reviewed.″
到達目標	Students should improve their four skills of reading, writing listening and speaking in this double period class where only English is used.
授業方法と留意点	Regular on-time attendance, a willingness to participate in all organised tutorial events, reading outside class for the reading marathon are the key to a good grade.
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	(First term) Thesis topics which have already been decided upon will be researched at length, typed out and a Part 1 copy handed in by the end of the term. Students will attend an English play during the year. Academic writing skills will continue to be studied to help in the process. (Second term) Students will continue to write their thesis papers (Part 2). Oral presentations on thesis topics will take place and hospitality related excursions will be organized with students researching locations. Students will participate in the speech and recitation contest. Second term will be the time for more intensive study in English.
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson
2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Attendance, oral presentations, reading and thesis will form the basis for grading along with enthusiastic 100% participation in events organized by the teacher. Be ready to join in the reading marathon, speech/recitation contest, and drama events.
学生へのメッセージ	Reading is the core of your English improvement, so be prepared to read lots. English only will be used in class. Please come ready to use English, read in English, write in English, and help others to stay in English for every class. Don't be afraid of making mistakes in English. It is part of the learning process. Just keep on trying, and studying outside class on a daily basis.
担当者の研究室等	田浦研究室７号館５階
備考	

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation Thesis Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中　秀毅
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	卒業研究レポートを作成するために、適切な研究テーマを選定し、参考文献の検索や言語データの収集の仕方、説得力のある議論の展開方法、読み手に親切な書き方などを修得する。英語の文献を正確に読めるように、文化演習Ⅰ・Ⅱで取り組んだ学校英文法の洗い直しと英単語の成り立ちの学習を続ける。
到達目標	１．卒業研究の研究テーマを決定する。 ２．参考文献や資料を検索し、その内容を分かりやすく要約する。 ３．説得力のある論証方法を身につける。 ４．言語学的な視点で学校文法をとらえ直す。(継続) ５．英語語彙力を強化する。(継続)
授業方法と留意点	本科目は、研究テーマを問わず必要となる、研究レポートの構成や書式、MS ワードの操作法などの共通事項について学ぶ。詳しいスケジュールは別紙の「卒業研究指導計画」を参照のこと。 留意点は以下のとおり。 １.「卒業研究指導計画」に従って卒業研究を計画的に進めること。 ２．個人面接の有無にかかわらず、授業時間内に取り組みの“積み上げ”を残すこと（時間を無駄にしない)。 ３．考察の範囲は欲張らず、一定の成果がでてから広げるようにすること。 ４．欠席はやむを得ない場合を除き極力避けること（本科目は授業であって、自由参加型の勉強会ではない)。就活などで欠席した場は、次の授業の前日までに課題や配付物について確認し、自分の責任で補完すること。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	１．研究テーマの決定と関連する概念の理解 ２．参考文献の調査と要約 ３．先行研究の評価（問題点や未解決の課題など） ４．研究論文の作法の理解 ５．MS ワードの活用法の習得（コンピューター・リテラシー) ６．学校英文法の洗い直し（継続) ７．英単語の成り立ちの理解（継続) 【事前事後学習課題】 １．研究テーマに関する概念を調べ、理解する。 ２．参考文献の調査し、要約する。(プレゼン、中間レポート) ３．先行研究を評価し、自分の研究の方向性を定める。(同上) ４.「チェックリスト」を通読し、参考文献を APA スタイルでリストする。 ５．卒業研究レポートの様式を MS ワードで作成し、例文や図表をきれいにレイアウトする。 ６．指定箇所の予習 ７．同上
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜プリントを配付する。		
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	論文の教室	戸田山　和久	NHK ブックス
2	語彙力養成の総合英語	Joe McKim	英潮社
3			

評価方法（基準）	以下の各項目について、指定された割合で総合的に評価する。 ・卒業研究中間レポート 60% ・プレゼン 20% ・授業態度（研究や英語学習への取り組み姿勢、積極性など）20%
学生へのメッセージ	卒業研究は、単なる専門知識の修得ではなく、論理的思考力を磨くための最大にして、最後の取り組みです。知識は分野によって変わりますが、思考力はさまざまな分野に応用でき、卒業後の人生を支えてくれるでしょう。そんな思考力を確実に会得できるように真剣に取り組みましょう。
担当者の研究室等	田中（秀）研究室（７号館４階）　※スチューデント・アワー（前期）は水曜５時限です。
備考	１．英語の分析では英英辞典を使用することが強く推奨される。電子辞書については、学習用に適した辞書を内蔵している場合に限り使用を認める。液晶画面の小さいものや旅行用のポータブルタイプは不可。 ２．欠席は授業に出席しなかった場合（公欠・忌引き・病欠を含む）のすべてを対象とする（ただし、やむを得ない事情と判断できる欠席については考慮するので申し出ること)。欠席回数の限度については初回授業で説明するので必ず確認すること。 ３．遅刻は本人の授業理解度を低下させ、ほかの受講者の集中力を阻害するので避けること。また、携帯電話が授業中に鳴ると授業の進行の妨げになるので電源は授業開始までに切っておくこと。

科目名	卒業研究Ｉ	科目名（英文）	Graduation Thesis Ｉ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥居　祐介
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	３年次文化演習での蓄積をもとに各自の研究を進め、アメリカ合衆国の文化、歴史、社会についての卒業論文（研究レポート）を完成に近づけます。
到達目標	前期のうちに卒研の全体像が見えてくるところまで進める。例えば４章構成の卒研であれば、２つの章の下書きを書き終え、残りの２章にどのような資料を使って何を書くかという目途が立っている状態にする。
授業方法と留意点	・週２回の授業時間を分割し、各ゼミ生について隔週で３０分程度のアポイントを取り、研究室で原稿の添削を受けたり、次のアポイントまでの進め方についての個別指導を受けてもらいます。個人面談とは違いますので、アポイントを取っている学生以外にも研究室を開放します。ゼミ仲間が受けている添削やアドバイスを聞いて自分の作業への参考にしたり、研究室の PC と資料を使って自由に作業することができます。 ・ゼミ生全員が集合し、各自の進行状況について報告し合う全体ミーティングも毎週３０分程度行います。 ・PC の基本操作には３年次のうちに完全に習熟している必要があります。経済的に困難でなければ、自分のノート PC を所有して下さい。 ・就職活動と並行して進めなければなりませんので、覚悟してください。「内定が出るまでは何もできなくても仕方がない」という姿勢では、就職活動も卒論もどちらも上手く行きません。両方、しっかりやりましょう。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 これまでのゼミ生の研究テーマには次のようなものがあります。 「ディズニーアニメを巡る人種差別論争：『ポカホンタス』『アラジン』を中心に」「ハリウッド映画が描く公民権運動：『ロング・ウォーク・ホーム』を例に」「映画『インデペンデンス・デイ』(1996)と多文化主義」「ラテンポップの舞台裏：1990 年代のサルサ音楽ブームについて」「アメリカ独自のモータースポーツ NASCAR の歴史」「アメリカにおけるラグビーの歴史」「ジャズ・トランペッター、ルイ・アームストロングとマイルス・デイビス」「初期ハリウッドの日本人スター早川雪洲」「『白雪姫』　―　グリム童話からディズニーアニメへ」「黒人メジャーリーガー、ジャッキー・ロビンソンとアメリカ社会」「チャーリー・チャップリンと赤狩りの時代」「マイケル・ジャクソンと人種問題」「黒人だけのプロ野球、ニグロ・リーグの歴史とその遺産」「黒人ブルースと白人ロックミュージシャンたち」 【事前事後学習課題】 資料を読み、文章を書くことを日々の習慣にすること。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ゼミ活動全体への貢献(50%)+卒業論文・研究レポートの進行状況(50%)
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 3 階鳥居研究室
備考	

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation Thesis Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中島　直嗣
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	・異文化（国際）ビジネス論の分野を中心に、各自がテーマを設定し、その研究を進めていきます。 ・(1)文献や資料の収集とその活用法、(2)論文の書式や引用・参考文献等の表記法、(3)客観的なデータ分析に基づく論文の展開法、などの習得を主な授業目的とします。
到達目標	研究テーマの決定と、その卒業研究レポートの骨子を作成することを目標とします。
授業方法と留意点	各自の研究テーマおよびその進行状況に応じて、指導を行っていきます。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 ・異文化（国際）ビジネスなどの分野に関する研究を、演習形式で進めていきます。 ・まず、４～５月に、３年次末の第１回中間研究発表を踏まえて、それぞれの研究テーマを再確認します。 ・次に、論文の基本的な書式や展開について学びながら、参考文献や資料の収集を行っていきます。 ・さらに、論文の骨子を作成し、後期の研究作業につなげます。 【事前事後学習課題】　参考文献・資料等で研究テーマについて調べ、要点を整理していきましょう。
関連科目	文化演習Ⅰ・Ⅱなど
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業に取り組む姿勢と、卒業研究の進捗状況（１００％）に基づいて評価します。
学生へのメッセージ	就職活動との両立を心がけてほしいと願っています。
担当者の研究室等	７号館４階　中島研究室
備考	

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation Thesis Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中西　正樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	文化演習で研究したテーマをもとにそれをより深く掘り下げるとともに，関連する問題を幅広く取り上げながら独自の見解を展開する。授業で調べた内容を逐次発表しながら，最終的には論文の形式にまとめる。
到達目標	収集した資料から必要なものを選び出し，それを効果的に利用しながら議論を展開する能力を身につける。また，論文を作成する作業を通して，論理的に思考しそれを分かりやすい文章にまとめる力をやしなう。
授業方法と留意点	授業では発表を重視する。レポート作成の過程では，章立てとそれを作成するスケジュールを自ら決め，その進捗状況をつねに指導教員に報告する。また，利用する可能性のある資料はすべて引用元を明らかにした状態で整理，管理する。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	研究テーマは自由に選択してよい。ただ，基本のテーマは「アニメ作品中国語版にみる翻訳技術について」とし，これに沿ったテーマを選ぶ場合は下のような内容となる。 ディズニーやスタジオジブリ作品の多くには複数の中国語版が存在する。この研究では，英語や日本語による原語セリフと 2 種の中国語セリフを比較対照し，2 人の翻訳者の技術や表現における工夫がどのように違うかについて検討する。また，こうした作業を通して，「よい翻訳とは何か」について考える。
関連科目	日中観光文化と通訳法
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ゼミへの取り組み，発表：50% 卒業研究レポートの内容：50%
学生へのメッセージ	就職活動で忙しい時期です。あわてることなく，でも着実に研究を進めましょう。
担当者の研究室等	中西研究室(7 号館 3 階)
備考	

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation Thesis Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西川　眞由美
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	３年次の文化演習で設定したテーマ（修正・変更可）にもとづき、各自、個別研究を深めていく。調査・整理→発表・討論→レポート・原稿作成という一連の作業を繰り返すなかで、知識・思考を深め、内容を洗練させたうえで、卒業研究レポートに取り組んでほしい。
到達目標	テーマに関して、何を調べたいのかを常に確認しながら、自分の考えをまとめつつ少しずつ書き進めること。何度も読み返し、修正を加えながら、一つのまとまった論を作る努力を重ねてください。
授業方法と留意点	まず、卒業研究レポート提出までの作業について簡単なガイダンスをおこなった後、各自、執筆までのスケジュールを立てる。できるだけ多くの文献を読むことで問題意識を高め、先行研究をふまえながら、無理のない（「結論」の導き出せる）問い（問題）を設定すること。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 各自が決めた内容に関し、それに関する本や文献に当たり、しっかり読み込んでまとめながら書き進めること。 【事前事後学習課題】 文献・インターネット等で内容を調べてくる。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点　３０％、　課題・発表　２０％、卒業研究レポート　５０％
学生へのメッセージ	卒業研究レポートの作成は大変な作業ですが、頑張ってよいレポートを書いてください。
担当者の研究室等	７号館４階西川研究室
備考	【学生へのメッセージ】 卒業研究への取り組みは、一つのテーマを徹底的に掘り下げる最後の機会です。最後の１年をどう過ごすかで、卒業後の人生も大きく変わってきます。がんばりましょう。

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation Thesis Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本　正俊
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	3年次文化演習Ⅰ・Ⅱで各自設定したテーマ及び研究の方向性に基づいて、卒業研究を進める。
到達目標	卒業研究を進める。
授業方法と留意点	各自のテーマに基づいて、資料収集・調査及び分析等を行い、卒業研究を進める。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	卒業研究を作成する。 テーマに基づいて文献収集を行い、毎週報告する。 それにより、卒業研究のアウトラインを完成させる。 毎回、事前の文献収集とまとめ、事後の整理が必要である。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	平常点（卒論に取り組む姿勢）100%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館４階　橋本研究室
備考	事前事後学習時間　計６０時間

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation Thesis Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林田　敏子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	３年次の文化演習で設定したテーマ（修正・変更可）にもとづき、各自、個別研究を深めていく。調査・整理→発表・討論→レポート・原稿作成という一連の作業を繰り返すなかで、知識・思考を深め、内容を洗練させたうえで、卒業研究レポートに取り組んでほしい。
到達目標	卒業研究レポートの作成に必要な知識およびデータをすべて取得し、独創性のある章立てを考える。
授業方法と留意点	まず、卒業研究レポート提出までの作業について簡単なガイダンスをおこなった後、各自、執筆までのスケジュールを立てる。できるだけ多くの文献を読むことで問題意識を高め、先行研究をふまえながら、無理のない（「結論」の導き出せる）問い（問題）を設定すること。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 西洋社会史の総合研究 【事前事後学習課題】 授業中に適宜指示する。事前事後学習の総時間数は約 60 時間。
関連科目	卒業研究Ⅱ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	口頭発表・ディスカッション（30%）・レポート（70%）で評価する。
学生へのメッセージ	卒業研究への取り組みは、一つのテーマを徹底的に掘り下げる最後の機会です。最後の１年をどう過ごすかで、卒業後の人生も大きく変わってきます。がんばりましょう。
担当者の研究室等	7 号館 4 階　林田研究室
備考	口頭発表に関するフィードバックは発表時に、レポートに関するフィードバックは、執筆過程でそのつどおこなう。

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation Thesis Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	神崎　舞
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	・文化演習Ⅰ、Ⅱで学んだことをもとに、舞台芸術を中心としたテーマで研究を進める。 ・資料収集やその活用の仕方、さらに論文の書き方などの習得を目指す。
到達目標	研究テーマに関する文献を収集し、読み込んだ上で、卒業研究レポートの構成を考える。
授業方法と留意点	それぞれのテーマに合わせて指導を行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ】 舞台芸術を中心とした芸術・文化研究 【内容・方法】 ・論文の書き方について学ぶ。 ・文化演習Ⅰ、Ⅱの成果をもとに、各自の研究テーマに応じた資料収集を行う。 ・論文の構成を考え、それに基づいた研究発表を行う。 【事前・事後学習課題】 参考資料の収集・読み込み、研究発表準備、及び卒業研究レポートの作成など
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜紹介する。		
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（授業に取り組む姿勢など）、及び卒業研究の進捗状況：100％
学生へのメッセージ	毎回の授業では、積極的に議論に参加すること。
担当者の研究室等	7 号館 5 階　神崎研究室
備考	卒業研究レポートの作成過程でフィードバックを行う。

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation Thesis Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北條　ゆかり
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	文化演習で学んだ知識をもとに、卒業研究のテーマを決定する。アンケートや聞き取り調査などを要する場合は、その準備・実施・分析を行い、それに基づき主体的に考察し、論理的な文章が書けるようになることをめざす。論文の構成と論旨についてゼミ生間で互いに建設的な批判や示唆を与えあうことが重要である。
到達目標	研究テーマを決め、必要な文献・資料を収集し、先行研究を整理した上で、自分なりの視点と執筆目的を明らかにし、執筆に取り組む。
授業方法と留意点	今日の多文化状況をめぐり、具体的な地域や国を対象として調べたことを発表する。その社会がグローバリゼーションのなかで直面している諸相に着目し、ひとつのテーマに絞り込んで、必要かつ的確な資料の収集と分析を進め、ゼミを報告の場とする。テーマによってはフィールドワークや聞き取り調査を積極的に実施してほしい。夏休み前に卒業研究レポートのアウトラインを作り、発表しあう。意見交換を重視する。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・・方法】人の移動における「包摂と自律」 【事前事後学習課題】段階に応じた研究報告を毎回準備する。
関連科目	専攻語科目、専攻言語圏に関する文化科目、マイノリティ論、社会学・政治哲学系科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	問題意識を深める取り組み（５０％）と研究報告（５０％）によって評価する。
学生へのメッセージ	思考の過程をしっかりと刻んだ卒業研究レポートを計画性をもって書き上げてください。 必ず読むべき文献は、各自のテーマと研究対象地域に応じて指示します。
担当者の研究室等	７号館５階 北條研究室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation Thesis Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マイケル　ハーキー
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	Students will continue to develop their ideas started in 3rd year and compose a final thesis.
到達目標	Students will be able to analyze and synthesize a diverse collection of information, identify a research question, formulate a hypothesis and determine possible solutions.
授業方法と留意点	Students will collect documents on their topics, evaluate and analyze the information, and together with feedback from the instructor, compose their final research paper.
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	Individualized for each student.
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Students will be evaluated on the content, cohesion and clarity of thought in their graduation theses. Draft 1: 40%, Final Draft 60%.
学生へのメッセージ	The roots of education are bitter, but the fruit is sweet.
担当者の研究室等	７号館３F　ハーキー研究室
備考	

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation Thesis Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松田　早恵
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	3 年次には英語圏に共通する「知っておくべき事柄」（文化知識）に焦点を当て、情報収集・発表を行ってきました。また新聞記事を使って、時事情報にも触れました。さらに、後期は、A Boy in the Striped Pajamas という本を輪読し、フィクションからのメッセージとその背景にる重い歴史も読み取りました。 4 年次は、3 年次に築いた「英語圏の基礎知識」の土台の上に、「最近の」あるいは「今の」情報を加えていきます。また、A Long Way Gone というシエラレオネの元少年兵の回顧録を読み、内戦が繰り返される国とはどういうものなのかを考えます。 最終的には、英語、日本語、文学、映画、教育、文化の中から２つ以上を結びつけた卒業研究テーマを掘り下げ、新たな視点を加えながら論文の作成にあたります。
到達目標	卒業研究レポートとして扱うテーマを選び、資料収集、文献の読み込みを始めます。夏休みまでにはレポートの論理的なアウトラインができていること、最終的に完成度の高い論文を仕上げることを目標とします。
授業方法と留意点	卒業研究レポート執筆の手順、構成、テーマなどを確認します。文献・資料の収集を続ける傍ら、それを整理し、論文の大まかな構成を考えます。調査が必要ならその準備をし、実行します。指導を受けながら、情報の追加、削除、論理の修正など推敲を重ねます。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・・方法】ライフストーリーで知る世界／卒業研究 【事前事後学習課題】輪読本に関しては、該当箇所を読み、ワークシートを作成します。卒業研究レポートは、それぞれが教員の指導とアドバイスを受けながら執筆を進めます。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	毎週の課題　30% 中間発表　20% 卒業研究レポート　50%
学生へのメッセージ	調べた情報は、信ぴょう性を疑ってかかり、必ず信頼できる出典を明らかにしてください。 卒研レポートは、提出までにどれまで推敲を重ねたかで完成度とそれに伴う評価も変わります。
担当者の研究室等	7 号館 5 階　松田研究室
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation Thesis Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	皆本　智美
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	卒業研究レポート執筆を行う。 論文を書くための方法を学ぶ。
到達目標	卒業研究レポートを仕上げるにあたり、問題理解力と調査・表現技能を身につける。
授業方法と留意点	論文をたくさん読んで論文の書き方を学習する。 時間に余裕を持つために、早めに執筆に取りかかること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	ゼミの全体指導と個人指導を組み合わせる。 毎回、課題を指示し、前回の課題の添削を行う。 適宜、学生間で研究内容の発表を行う。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	卒業研究レポートへの取り組み方（５０％)、卒業研究レポートの独創性（２０％)・使用言語の習熟度・論理性（３０％）により総合的に評価する。
学生へのメッセージ	大学生活の総括として、卒業研究に取り組んでください。前学習時間：２時間、事後学習時間：２時間を要する。
担当者の研究室等	７号館４階　皆本研究室
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜、指示する。		
2			
3			

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation Thesis Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	家口　美智子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	3 年間で培った論理的思考を、研究テーマを選びリサーチし自分の論点を書くことで主張するという作業として完成させる。英語で書いても日本語で書いても、全力を尽くして何かを創造する喜びを味わってほしい。
到達目標	＊論理的な文章を書く ＊オリジナリティのある研究を行う ＊日頃の疑問をはらす ＊じっくり考えて、実証して、自分の結論に責任を持つ ＊引用の仕方を学ぶ
授業方法と留意点	個人指導を行う。ぎりぎりで書き上げるのではなく、時間に余裕を持つと推敲することができるので、より良いものが書ける。
授業テーマ・内容･方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 3 年次に選んだテーマを掘り下げて、トピックを選ぶ。どんなリサーチが可能かを担当教員と話し合って探る。 個人指導で文献を紹介したり、トピックについてディスカッションする。 冬休み前に卒論発表会を実施する。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	卒業研究への取り組み、卒業研究の内容を総合的に評価する。 平常点(30%)+卒業研究レポート(70%)
学生へのメッセージ	計画を立てて根気よく頑張りましょう。
担当者の研究室等	７号館４F　家口研究室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation Thesis Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	兪　鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	３年次の演習で習得した知識をベース、担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査等を行い、研究手法や学問的思考を向上させる。
到達目標	ことわざと慣用句などを中心に比較研究を行うことによって、広い視野から国際理解を深め、言葉の感受性を豊かにし、中国語力を高めるのを目指す同時に、卒業研究レポート作成を指導し、研究能力を育成する。
授業方法と留意点	各自テーマを決め、収集した資料と検討を行った文章をパソコンディスプレイで提示しながら説明するとともに討議を行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【テーマ】 ・日英中のことわざの比較 ・日英のことわざの比較 【事前事後学習課題】 指示に従って、文献等で内容を調べたうえ、レポート草稿を作成して来る。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	毎回の提出物 50%、レポート 50%。
学生へのメッセージ	努力を惜しまなければ、成功につながります。
担当者の研究室等	７号館３階（兪研究室）
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	英語ことわざ用法辞典	曾根田憲三　他	大学書林
2	中国語ことわざ用法辞典	金丸邦三・孫玄齡	大学書林
3	新明解 故事ことわざ辞典 第２版	三省堂編修所	三省堂

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation Thesis Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉村　征洋
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	各自が設定したテーマについて研究を行い、卒業研究レポートを作成する。
到達目標	各自が設定するテーマについて、論理的に表現できるようになる。 質の高い卒業研究レポートを作成する。
授業方法と留意点	各自が設定したテーマについて、教員による指導および他のゼミ受講生からのアドバイスを受けながら、卒業研究レポートの作成を進める。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	先行研究を入念に行い、教員による指導を受けて、卒業研究レポートを作成する。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	プレゼンテーション　20% 卒業研究レポート　80%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7号館3階　吉村　征洋 研究室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation Thesis Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山口　真佐夫
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	３年次の文化演習で研究したテーマが、卒業研究のテーマとしてふさわしいか、再考する。そして、卒業研究としてのレベルを上げるためにさらに研究を行う。
到達目標	後期の卒業研究Ⅱにおいて卒業研究レポートが完成できるようにする。
授業方法と留意点	各自が指示された作業をしっかり行うこと。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	各自のテーマを確定した上で、計画に沿って研究を進めていく。なお、この授業では最終目的の卒業研究レポート執筆までのロードマップを指導教員とともに作成する。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	ロードマップ通り研究が進行しているか、研究の内容の総合評価。 進行状況 30%、研究内容 70%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館５階　山口室
備考	研究内容については授業中に質問し評価する。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	赤澤　春彦
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	研究テーマ・課題を設定し、論文を作成する。これを通じ、学術的な調査・資料分析の方法、論理的な思考、文章の技術を習得する。
到達目標	論理的な思考に基づく分析と考察、ディスカッション、文章表現などの能力が身につく。
授業方法と留意点	研究計画書に沿って、論文作成を進める。研究内容や論文作成の進展状況について、演習で報告し、全員で討議する。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	調査を完了し、調査結果についての分析を進め、論文を完成させる。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	卒論への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	赤澤研究室（７号館４階）
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浅野　英一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	国際文化演習で行った課題を自らの研究テーマにあわせて資料収集し、それを調査しながら研究報告にまとめる。グループ・ゼミと個人ゼミを組み合わせながら指導を卒業研究レポートを完成させる。
到達目標	下記の３つの能力を到達目標とする ①課題解決能力：与えられた課題を期限内に解決できる。 ②論理的記述能力：内容を論理的かつ簡潔に記述し、卒業研究レポートを完成させる。 ③社会的理解力：研究テーマの社会的意味や影響力を理解する。
授業方法と留意点	（後期） １回目：中間報告 ２回目以降：執筆開始
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】国際協調・国際理解の展望 【事前事後学習課題】文献・インターネット等で内容を調べてくる。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	授業に取り組む姿勢（50%）と、卒業研究の進捗状況（50%）に基づいて評価
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館５階　浅野研究室
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	天野　貴史
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	３年次の文化演習における議論をさらに発展させ、その成果を卒業研究レポートでまとめる。
到達目標	英文で３０００語以上の卒業研究レポートを作成する。
授業方法と留意点	卒業研究レポートと就活を両立させる。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	卒業研究レポートについて共通の理解を図る。 前期・・・個別指導（金３）、個別指導（金４）、月に１回読書会をおこなう。 後期・・・３ゼミとの合同授業（火３）、個別指導（金３・４）
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	卒業研究への取り組み・・・100％
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館３F　天野研究室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有馬　善一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	卒業研究Ⅰの続き。 各自が決めたテーマに基づいて、卒業研究を完成させる。
到達目標	卒業研究を完成させる。
授業方法と留意点	卒業研究についての個別指導を中心とする。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	原稿の完成とチェック。最終的なOKが出るまで。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加態度（30%）、卒業研究レポート（70%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7号館4階　有馬研究室
備考	事前事後学習　計60時間。

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	岩間　香
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	卒業研究レポートを仕上げる。章立てに沿って、文章を書く。正しい日本語で論理的な文章を書く力をつける。また図版や表・グラフを適切に使用し、読み手に分かりやすいレポートの作成法を学ぶ。
到達目標	適切な言葉を選び、論理的な文章が書けるようになる。図版や表・グラフを適切に使用できる。テーマに関して説明ができる。
授業方法と留意点	文献検索、読み込み、発表、文章作成を連続して行う。文章は教員が添削指導する。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	美術・文化に関する卒業研究レポートを執筆する。 前期にひきつづき本・論文などで幅広い知識を蓄える。 執筆は各自で行い、ゼミではその進捗状況を報告する。文章は印刷して持参する。 図・表・グラフを作り読む者に分かりやすく効果的なレポートの作成をめざす。 事前・事後にテーマについて論文を収集し、独自に読み進め、不明な点を調べる。（週に６時間以上）
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	卒業研究レポートの内容（50%） 参加態度（50%）
学生へのメッセージ	1 年間をかけてひとつのレポートを書きます。大変な仕事ですが、自分が何を学んだのか、何を知っているのか、何ができるのか、ということが社会に向かって堂々といえるようになります。がんばりましょう。
担当者の研究室等	岩間研究室（７号館５階）
備考	

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	上田　達
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	卒業研究レポートの作成を指導する。文化人類学という枠を設けるものの、受講者の関心に基づいく研究を指導する。文献の調べ方、データの収集、文章表現など、卒業研究レポート作成のために必要な知識や能力を涵養する。各自の主題に関連する文献講読と、各自の調査主題の報告が授業の中心となる。
到達目標	卒業研究レポートの作成。
授業方法と留意点	卒業研究完成のために計画的に取り組むことができるよう、時期にあった指導を行う。前半は完成のための礎作りのための時期とし、後半は論文を完成させる時期とする。 卒業研究を有意義なものにするためには、受講者の主体性が必要である。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	まず、受講者の関心に基づいて、調査主題を設定する。そのうえで、関連するトピックについて書かれた文化人類学や社会学の文献の講読を進める。毎回報告者を指名するので、報告者は配付資料を用意して 30 分程度で内容について報告する。コメンテイターは 5 分程度のコメントをする。報告者とコメンテイターと聴衆のいずれの役割においても発言することが求められるので、指定された文献を精読してくること。各自の調査成果報告においても、同様の役割分担を行う。時間を有効に活用するため、授業時間外の作業の質と量とが問われる。 報告とディスカッションを経て、主題についての知見を深めていき、卒業研究レポートの執筆ができるよう指導する。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	毎回の授業への取り組み（20%）と、発表内容（30%）、完成した卒業研究レポート（50%）から総合的に判断する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 5 階上田研究室
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浦野　崇央
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	現代の日本や東南アジア世界をめぐる社会事象および社会現象がいかなる意味をもち、周りにどれほどの影響を与えているのか。３年次の「文化演習」で得た知見をベースにしつつ、各受講生が個別に選択したテーマについて、ディシプリンの見方を怠らずに、より深い考察を行っていく。
到達目標	研究作業を通じて、客観的な眼差しがもてるようになる。また、日頃のゼミ活動を通じて、「目くばり」「気くばり」「心くばり」のできる人間になることを目標とする。
授業方法と留意点	基本的には個人個人での取り組みとなるため、研究計画をきっちりと立て、積極的姿勢で進めていくこと。 なお、秋には３年ゼミと合同でのゼミ旅行を実施し、１月には卒論最終発表会を開催するので、留意のこと。 また、「卒業研究レポート」提出後に、『浦野ゼミ卒業論文集』としてまとめるので、その点も留意のこと。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 各自が卒業研究レポート完成へ向けて、それぞれのテーマを設定し、取り組んでいく。 ちなみに、２０１６年度生が取り組んだテーマ（卒業研究レポート題目）は次の通りである。 「特撮ヒーロー番組の物語性―スーパー戦隊シリーズを題材として―」「会話表現の言語的特徴―インドネシア映画"Ada apa dengan Cinta"の字幕における文体分析―」「名づけの構造―ペットの名前の役割―」「韓国社会が生んだ格差―人生の分岐点となる大学入試の実態―」「笑いのツボを探る――『新語・流行語大賞』にみる言葉の分析研究―」「歌詞にみる『愛』のかたち」「漫画における男女描写―スポーツ漫画にみる女性の立場――」 【事前事後学習課題】 文献資料・インターネット等を活用し、取り組んでいる研究を深化させること。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	浦野ゼミ卒業論文集各年版		摂南大学外国語学部・浦野ゼミ
2	浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ
3	「研究」を進めるために―研究資料ガイド 2017―	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ

評価方法（基準）	積極的に研究を進めていくという受講態度（５０％）および卒業研究レポートの内容：完成度（５０％）で評価します。なお、卒研レポートの完成度の判断については、審査段階における副査の先生のご意見も参考にします。
学生へのメッセージ	学生生活の集大成を立派な形として残すことができるように、一生懸命取り組んでいきましょう。
担当者の研究室等	７号館４階（浦野研究室）
備考	

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小川　豊生
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	３年次の文化演習で設定したテーマ（修正・変更可）にもとづき、各自の個別研究を深めていく。調査や整理、発表や討論、さらにレポート・原稿作成という一連の作業のプロセスを通じて、知識や思考を深め、内容を洗練させたうえで、卒業研究レポートに取り組んでほしい。
到達目標	・自ら問題を設定し、文献を探求し、論点を論理的に整理し、まとまったレポートを制作する力を養成する。 ・発表力、聞く力、質問力、コメント力など社会人としての基礎的な力を涵養する。
授業方法と留意点	（前期） まず、卒業研究レポート提出までの作業について簡単なガイダンスをおこなう。次に各自、執筆までのスケジュールを立てる。必要な文献を多く読むことで問題意識を高め、先行研究をふまえて、独自の「結論」を導き出すための問題を設定する。 （後期） 各自の発表をふまえて執筆にとりかかる。論理的展開と明快な文章を心がけ、４年間の集大成をおこなう。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【テーマ】　日本文学・日本文化・日本語をめぐる諸問題（海外との比較研究を含む） 【内容】　各自が三ゼミにおいて設定したテーマを深め、発表する力、聴く力、書く力を養成する。また文献探索の方法や、論文の書き方について学ぶ。 １　テーマの再確認または変更 ２　参考文献の収集 ３　文献の読解・分析 ４　先行研究の分析 ５　論の構想 ６　論文の作成・完成 ７　共同討議 などを柱としてすすめる。 【方法】　発表・討議をくりかえし、また個別指導を通じて、卒研レポートの完成をめざす。 【事後・事前学習】自己のテーマの深化・錬成、発表の準備とまとめ
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	口卒業研究レポートの完成度（８０％）と、授業に取り組む姿勢（２０％） に基づいて評価します。
学生へのメッセージ	卒業研究への取り組みは、一つのテーマを徹底的に掘り下げる貴重な機会です。社会へ出るための最も重要な総合力を養成することをめざしましょう。
担当者の研究室等	７号館４階（小川研究室）
備考	

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	門脇　薫
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	【テーマ】 日本語・日本語教育 【 授業概要・目的・到達目標 】 ３年次の文化演習で学んだことを基に、広い意味の「日本語教育」-------日本語学・第二言語習得・異文化コミュニケーション・教授法・多文化共生等-----に関して、各自が設定したテーマについて考察し、卒業研究レポートを完成する。
到達目標	＊スケジュールにしたがって、執筆作業を進めていくことができる。 ＊自分が設定したテーマに関して、自分なりに調査・分析・考察し、論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	各自が関心を持ったテーマについて、文献及び資料を収集する。資料収集・調査・分析等の研究方法や論文執筆の指導は個別に行うが、ゼミの学生同士の意見交換を通してよりよい研究論文を執筆する。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 各自の研究テーマについてのディスカッション、論文執筆、論文添削 【事前事後学習課題】 資料、文献収集、論文執筆、推敲
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	卒業研究に取り組む意欲・態度（20%）、論文の内容（80%）により総合的に評価する。
学生へのメッセージ	スケジュールをしっかり立てて進めていってください。
担当者の研究室等	7 号館 4 階
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかる卒論の書き方		ミネルヴァ書房
2			
3			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤　一章
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	言語や文化に関して興味のあるテーマを選択し、それについて卒業研究を作成していく。
到達目標	卒業研究を執筆し、それについて発表することが出来るようになる。
授業方法と留意点	９月～１２月：卒業研究を執筆する。 １月：卒業研究の最終発表を行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】言語と文化 【事前事後学習課題】文献・インターネット等で内容を調べてくる。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	卒業研究への取り組み姿勢　20% 卒業研究の完成度　80%
学生へのメッセージ	大学生活も残りあとわずかです。悔いのないように頑張って下さい。
担当者の研究室等	後藤研究室（７号館５階）
備考	

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤　安以子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	【テーマ】 英語圏および英語圏と関わりを持つ言語と文化 【 授業概要・目的・到達目標 】 学生各自がテーマを設定し、卒業研究レポートを作成する。
到達目標	・１つの話題に関して複数の立場で判断する姿勢を身に着ける。 ・情報の精度や公平性を気に掛けるようになる。 ・社会人になってからも通用する、責任をもった調査やレポートの書き方を身に着ける。
授業方法と留意点	各自のテーマに基づいて資料を収集し、資料の調査・分析など情報のインプットの方法を学ぶ。さらに、論文の構成や発表方法など情報のアウトプットの方法を学び、最終的に卒業研究レポートを完成させる。
授業テーマ・内容･方法･事前、事後学習課題	英語圏の歴史・文化・文学や英語教育をテーマとするが、学生が個々に関心をもつテーマを選んでかまわない。 ゼミの学生各自の発表と、リサーチや研究のルールの学習を、並行して行う。社会人として卒業後も活かせる知識や技術となるので、授業はもれなく全力で参加しよう。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	・同級生とのディスカッション　　２０％ ・卒業研究レポート　　８０％
学生へのメッセージ	・大学生の間にしておきたいことを、１つでもたくさんやってしまいましょう。 ・一生記憶に残るような良いレポートを仕上げましょう。
担当者の研究室等	7 号館 4 階　齋藤研究室
備考	

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	篠原　愛人
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	他の人に自信をもって見てもらえる卒業研究レポートに仕上げるために必要な文献探し、資料読み、まとめ方（カードやノートの取り方）、論文の構成、文章作法などを身につける。
到達目標	共通のテーマのもとで論文執筆作法を学んだ後、各自のテーマに沿った卒業研究に着手する。
授業方法と留意点	最初はゼミ生全員で共通のテーマについて、問題設定、資料読み、まとめ方を確認する。 それぞれが卒業研究の主題を決めれば、文献探し、読書計画、読み、まとめなどを個別に指導する。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 文化史的な内容の文献を課題図書として選び、読み合わせていく。 【事前事後学習課題】 担当する個所についてレジュメを作り、発表する。レジュメの適不適について話し合い、より良い状態に仕上げる。
関連科目	スペイン語、スペイン語圏に関する科目全般。歴史系科目。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	あらかじめ示した段階に応じて評価する。 第１段階（テーマ設定、文献探し）　20% 第２段階（中間発表と下書き提出）　20% 第３段階（卒業研究レポート）60%
学生へのメッセージ	４年間の大学生活の集大成となる卒業研究レポートです。先輩たちのよい所を見習い、後輩たちの見本となるようなレポートを作成しましょう。
担当者の研究室等	７号館５階（篠原研究室）
備考	

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大原関　一浩
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	前期を通じてとりくんできた卒業研究を完成させる。ゼミにおける研究報告とディスカッション、教員との面談を通じ、論文の分析・構成・ライティングの質を高めていく。
到達目標	① 証拠を提示しながら筋道の通った文章を書く力をつける。 ② 研究成果を効果的にプレゼンテーションするスキルを身につける。
授業方法と留意点	卒業研究レポートの完成にむけたスケジュールをしっかり把握し、やるべきことを１つ１つこなしていくことが必要になる。文章を書くことは思ったよりも時間がかかることを自覚し、早め早めに進めていることが大切になる。
授業テーマ・内容･方法･事前、事後学習課題	卒業研究レポート指導 / 文献の読み込み、担当者との討論、データの収集などを行う。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加点　３０％　（進捗状況の発表、コメント・質問など） 教員との面談の内容　２０％　（きちんと準備してきたかどうか、自分で考えて発言できたかどうか） 卒業研究レポートの内容　５０％（分析、証拠、構成、文章などを総合して評価）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	大原関研究室（７号館５階）
備考	

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	住吉　誠
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	前期で書いた卒業研究をさらに書き進めていく。前期に引き続き、関係する文献の渉猟・読み込み、データ収集、考察などを進める。自らの意見を論理だてて述べ、それを自らの言葉に落とし込み、最終的に卒業研究を完成させる。
到達目標	１．テーマに関連するデータを主体的に収集できるようになる。 ２．自ら収集したデータをもとに、客観的な議論をできるようになる。 ３．先行研究を批判的に読み、自らの意見を代替案として提示できるようになる。 ４．卒業研究の全体構想をもとに、ひとつの卒業研究を完成させる。
授業方法と留意点	後期は、データをもとに自分の意見を客観的に文章で表現できるようになることをめざす。きちんと毎回の授業で指定された作業をこなしてくることが望まれる。
授業テーマ・内容･方法･事前、事後学習課題	テーマ：現代英語の語法文法研究 内容：文献の読み込み、データの収集などをもとに、指導教員との討議から、できるだけオリジナリティのある考えに到達できることを目指す。 事前・事後学習課題：文献の渉猟・読み込み、データ収集などを含めて、卒業論文を少しずつ書き進める。事前・事後学習の総時間を 30 時間とする。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	中間発表（50%） 卒業研究（50%）
学生へのメッセージ	文献探しは卒業研究を作成するにあたって基本中の基本です。めんどうがらずに関係のないテーマの本でも読みこみましょう。違った分野のものでも、自分のテーマとの思わぬ関連性やヒントを得ることがあります。
担当者の研究室等	7 号館 4 階　住吉　誠　研究室
備考	

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	瀬戸　宏
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	すでに決定した研究テーマに従い、執筆に入る。参考文献の取り入れ方にも注意しながら、書き進めてゆく。そして推敲を重ねて卒業研究を完成させる。
到達目標	卒業研究の完成
授業方法と留意点	執筆内容と研究テーマの矛盾がないか点検をしながら、卒業研究を完成させてゆく。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	学生とともに研究テーマ、内容、形式を整えてゆく。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	完成した卒業研究の内容６０％、学習態度２０％、研究の過程２０％
学生へのメッセージ	一生記憶に残る卒業研究になればいいなと思います。
担当者の研究室等	７号館３階　瀬戸研究室
備考	

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田浦　アマンダ
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	In this course, students will continue to research and learn about the topics introduced in 3rd year on tourism and hospitality in English. Cross cultural issues will be discussed to create an awareness of customer service in both Japan and overseas. Students will write further on their graduation thesis in English. Reading for pleasure will be encouraged, to expand vocabulary and improve all four skills - speaking, listening, reading and writing. Oral presentations of thesis material and discussions will take place to encourage confidence in English. Job skills - interviewing techniques and answers will be reviewed.
到達目標	Students should improve their four skills of reading, writing listening and speaking in this double period class where only English is used.
授業方法と留意点	Regular on-time attendance, a willingness to participate in all organised tutorial events, reading outside class for the reading marathon are the key to a good grade.
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	(First term) Thesis topics which have already been decided upon will be researched at length, typed out and a Part 1 copy handed in by the end of the term. Students will attend an English play during the year. Academic writing skills will continue to be studied to help in the process. (Second term) Students will continue to write their thesis papers (Part 2). Oral presentations on thesis topics will take place and hospitality related excursions will be organized with students researching locations. Students will participate in the speech and recitation contest. Second term will be the time for more intensive study in English.
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson
2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Attendance, oral presentations, reading and thesis will form the basis for grading along with enthusiastic 100% participation in events organized by the teacher. Be ready to join in the reading marathon, speech/recitation contest, and drama events.
学生へのメッセージ	Reading is the core of your English improvement, so be prepared to read lots. English only will be used in class. Please come ready to use English, read in English, write in English, and help others to stay in English for every class. Don't be afraid of making mistakes in English. It is part of the learning process. Just keep on trying, and studying outside class on a daily basis.
担当者の研究室等	田浦研究室７号館５階
備考	

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中　秀毅
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	卒業研究レポートを作成するために、適切な研究テーマを選定し、参考文献の検索や言語データの収集の仕方、説得力のある議論の展開方法、読み手に親切な書き方などを修得する。英語の文献を正確に読めるように、文化演習Ⅰ・Ⅱで取り組んだ学校英文法の洗い直しと英単語の成り立ちの学習を続ける。
到達目標	１．先行研究を踏まえ、自論（主張と論証）を作成する。 ２．序論と結論を作成する。 ３．卒業研究レポートの体裁を整える。 ４．言語学的な視点で学校文法をとらえ直す。(継続) ５．英語語彙力を強化する。(継続)
授業方法と留意点	本科目は、受講生の研究テーマに応じて個別指導を中心に進める。詳しいスケジュールは別紙の「卒業研究指導計画」を参照のこと。 留意点は以下のとおり。 １.「卒業研究指導計画」に従って卒業研究を計画的に進めること。 ２．個人面接の有無にかかわらず、授業時間内に取り組みの“積み上げ”を残すこと（時間を無駄にしない)。 ３．考察の範囲は欲張らず、一定の成果がでてから広げるようにすること。 ４．欠席はやむを得ない場合を除き極力避けること（本科目は授業であって、自由参加型の勉強会ではない)。就活などで欠席した場は、次の授業の前日までに課題や配付物について確認し、自分の責任で補完すること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	１．自論（主張と論証）の作成 ２．結論と序論の作成 ３．卒業研究レポートの校正 ４．卒業研究の発表 ４．学校英文法の洗い直し（継続） ５．英単語の成り立ちの理解（継続） 【事前事後学習課題】 １．ドラフトの作成 ２．同上 ３．指導教員による添削をふまえた加筆・修正（卒業研究レポート） ４．卒業研究発表会（プレゼン） ５．指定箇所の予習・復習 ６．同上
関連科目	文化演習Ⅰ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜プリントを配付する。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	論文の教室	戸田山　和久	NHK ブックス
2	語彙力養成の総合英語	Joe McKim	英潮社
3			

評価方法（基準）	以下の各項目について、指定された割合で総合的に評価する。 ・卒業研究報告レポート 60% ・プレゼン 20% ・授業態度（研究や英語学習への取り組み姿勢、積極性など） 20%
学生へのメッセージ	卒業研究は、単なる専門知識の修得ではなく、論理的思考力を磨くための最大にして、最後の取り組みです。知識は分野によって変わりますが、思考力はさまざまな分野に応用でき、卒業後の人生を支えてくれるでしょう。そんな思考力を確実に会得できるように真剣に取り組みましょう。
担当者の研究室等	田中（秀）研究室（７号館４階）　※スチューデント・アワー（後期）は月曜５時限です。
備考	１．英語の分析では英英辞典を使用することが強く推奨される。電子辞書については、学習用に適した辞書を内蔵している場合に限り使用を認める。液晶画面の小さいものや旅行用のポータブルタイプは不可。 ２．欠席は授業に出席しなかった場合（公欠・忌引き・病欠を含む）のすべてを対象とする（ただし、やむを得ない事情と判断できる欠席については考慮するので申し出ること)。欠席回数の限度については初回授業で説明するので必ず確認すること。 ３．遅刻は本人の授業理解度を低下させ、ほかの受講者の集中力を阻害するので避けること。また、携帯電話が授業中に鳴ると授業の進行の妨げになるので電源は授業開始までに切っておくこと。

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥居　祐介
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	前期までの蓄積をもとに各自の研究を進め、アメリカ合衆国の文化、歴史、社会についての卒業論文（研究レポート）を完成させます。
到達目標	自分自身、指導教員、査読して下さる副査の先生の全員が満足できる卒業研究レポートを期限通りに提出し、外国語学部生としてのプライドと達成感を持って本学を卒業すること。
授業方法と留意点	・前期同様、週２回の授業時間を分割し、各ゼミ生について隔週で３０分程度のアポイントを取り、研究室で原稿の添削を受けたり、次のアポイントまでの進め方についての個別指導を受けてもらいます。個人面談とは違いますので、アポイントを取っている学生以外にも研究室を開放します。ゼミ仲間が受けている添削やアドバイスを聞いて自分の作業への参考にしたり、研究室の PC と資料を使って自由に作業することができます。 ・ゼミ生全員が集合し、各自の進行状況について報告し合う全体ミーティングも毎週３０分程度行います。 ・PC の基本操作には３年次のうちに完全に習熟している必要があります。経済的に困難でなければ、自分のノート PC を所有して下さい。 ・卒論、卒業研究レポートは、大学での学業の締めくくりです。とにかく期限を守ること、連絡を欠かさないことが大事です。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 これまでのゼミ生の研究テーマには次のようなものがあります。 「ディズニーアニメを巡る人種差別論争：『ポカホンタス』『アラジン』を中心に」「ハリウッド映画が描く公民権運動：『ロング・ウォーク・ホーム』を例に」「映画『インデペンデンス・デイ』(1996)と多文化主義」「ラテンポップの舞台裏：1990 年代のサルサ音楽ブームについて」「アメリカ独自のモータースポーツ NASCAR の歴史」「アメリカにおけるラグビーの歴史」「ジャズ・トランペッター、ルイ・アームストロングとマイルス・デイビス」「初期ハリウッドの日本人スター早川雪洲」「『白雪姫』　―　グリム童話からディズニーアニメへ」「黒人メジャーリーガー、ジャッキー・ロビンソンとアメリカ社会」「チャーリー・チャップリンと赤狩りの時代」「マイケル・ジャクソンと人種問題」「黒人だけのプロ野球、ニグロ・リーグの歴史とその遺産」「黒人ブルースと白人ロックミュージシャンたち」 【事前事後学習課題】 資料を読み、文章を書くことを日々の習慣にすること。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ゼミ活動全体への貢献(50%)+卒業論文・研究レポート(50%)
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館３階　鳥居研究室
備考	

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中島　直嗣
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	・４年次前期の卒業研究Ｉで学んだことを踏まえて、異文化（国際）ビジネスの分野を中心に研究を進めていきます。 ・資料やデータの客観的かつ多角的な分析力や、それに基づく論理的な思考力の養成を主な授業目的とします。
到達目標	各自で選んだテーマについて、しっかりとした卒業研究レポートを完成させることを目標とします。
授業方法と留意点	各自の研究テーマおよびその進行状況に応じて、指導を行っていきます。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 ・異文化（国際）ビジネスなどの分野に関する研究を、演習形式で進めていきます。 ・まず、前期の研究成果に基づいて、論文の概要をまとめ、後期開始直後に第２回中間研究発表を行います。 ・さらに、論旨の整合性を高めながら、文体上の不備を修正していきます。 ・その後、12 月下旬までに、卒業研究レポートの完成を目指します。 【事前事後学習課題】　卒業研究レポートの作成を計画的に進めていきましょう。
関連科目	卒業研究Ｉなど
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	卒業研究レポートの完成度（８０％）と、授業に取り組む姿勢（２０％）に基づいて評価します。
学生へのメッセージ	計画的な研究活動を心がけてほしいと思います。
担当者の研究室等	７号館４階　中島研究室
備考	

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中西　正樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	文化演習で研究したテーマをもとにそれをより深く掘り下げるとともに，関連する問題を幅広く取り上げながら独自の見解を展開する。授業で調べた内容を逐次発表しながら，最終的には論文の形式にまとめる。
到達目標	収集した資料から必要なものを選び出し，それを効果的に利用しながら議論を展開する能力を身につける。また，論文を作成する作業を通して，論理的に思考しそれを分かりやすい文章にまとめる力をやしなう。
授業方法と留意点	授業では発表を重視する。レポート作成の過程では，章立てとそれを作成するスケジュールを自ら決め，その進捗状況をつねに指導教員に報告する。また，利用する可能性のある資料はすべて引用元を明らかにした状態で整理，管理する。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	研究テーマは自由に選択してよい。ただ，基本のテーマは「アニメ作品中国語版にみる翻訳技術について」とし，これに沿ったテーマを選ぶ場合は下のような内容となる。 ディズニーやスタジオジブリ作品の多くには複数の中国語版が存在する。この研究では，英語や日本語による原語セリフと 2 種の中国語セリフを比較対照し，2 人の翻訳者の技術や表現における工夫がどのように違うかについて検討する。また，こうした作業を通して，「よい翻訳とは何か」について考える。
関連科目	日中観光文化と通訳法
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ゼミへの取り組み，発表：50% 卒業研究レポートの内容 50%
学生へのメッセージ	有終の美を飾ってください。
担当者の研究室等	中西研究室(7 号館 3 階)
備考	

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西川　眞由美
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	３年次の文化演習で設定したテーマ（修正・変更可）にもとづき、各自、個別研究を深めていく。調査・整理→発表・討論→レポート・原稿作成という一連の作業を繰り返すなかで、知識・思考を深め、内容を洗練させたうえで、卒業研究レポートに取り組んでほしい。
到達目標	テーマに関して、何を調べたいのかを常に確認しながら、自分の考えをまとめつつ少しずつ書き進めること。何度も読み返し、修正を加えながら、一つのまとまった論を作る努力を重ねてください。
授業方法と留意点	まず、卒業研究レポート提出までの作業について簡単なガイダンスをおこなった後、各自、執筆までのスケジュールを立てる。できるだけ多くの文献を読むことで問題意識を高め、先行研究をふまえながら、無理のない（「結論」の導き出せる）問い（問題）を設定すること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 各自が決めた内容に関し、それに関する本や文献に当たり、しっかり読み込んでまとめながら書き進めること。 【事前事後学習課題】 文献・インターネット等で内容を調べてくる。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点　３０％、　課題・発表　２０％、卒業研究レポート　５０％
学生へのメッセージ	卒業研究レポートの作成は大変な作業ですが、頑張ってよいレポートを書いてください。
担当者の研究室等	７号館４階西川研究室
備考	【学生へのメッセージ】 卒業研究への取り組みは、一つのテーマを徹底的に掘り下げる最後の機会です。最後の１年をどう過ごすかで、卒業後の人生も大きく変わってきます。がんばりましょう。

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本　正俊
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	卒業研究Ⅰの成果を継続し、各自設定したテーマ及び研究の方向性に基づいて、卒業研究を完成させる。
到達目標	卒業研究を完成させる。
授業方法と留意点	各自のテーマに基づいて、資料収集・調査及び分析等を行い、卒業研究を完成させる。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	卒業研究を完成させる。 テーマに基づいて文献収集、卒業研究執筆を行い、毎週報告する。 毎回、事前の文献収集とまとめ、事後の整理が必要である。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（卒論に取り組む姿勢）100%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館４階
備考	事前事後学習時間　計６０時間

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林田　敏子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	３年次の文化演習で設定したテーマ（修正・変更可）にもとづき、各自、個別研究を深めていく。調査・整理→発表・討論→レポート・原稿作成という一連の作業を繰り返すなかで、知識・思考を深め、内容を洗練させたうえで、卒業研究レポートに取り組んでほしい。
到達目標	4年間の集大成として、卒業研究レポートを書き上げる。
授業方法と留意点	中間報告をまじえながら各自執筆にとりかかる。論理的展開と明快な文章を心がけ、４年間の集大成をおこなってほしい。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 西洋社会史の総合研究 【事前事後学習課題】 授業中に適宜指示する。事前事後学習の総時間数は約 60 時間。
関連科目	卒業研究Ⅰ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	口頭発表・ディスカッション（30%）・卒業研究レポート（70%）で評価する。
学生へのメッセージ	卒業研究への取り組みは、一つのテーマを徹底的に掘り下げる最後の機会です。最後の１年をどう過ごすかで、卒業後の人生も大きく変わってきます。がんばりましょう。
担当者の研究室等	7号館４階　林田研究室
備考	口頭発表に関するフィードバックは発表時に、卒業研究レポートに関するフィードバックは、執筆過程でそのつどおこなう。

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	神崎　舞
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	・卒業研究Ⅰで学んだことを土台に、舞台芸術を中心としたテーマで研究を進める。 ・研究テーマに関連した資料を読み込むことで読解力を、そして論文作成を通して論理的思考力を身につける。
到達目標	卒業研究レポートを完成させる。
授業方法と留意点	各自の研究テーマ、及び進行状況に合わせて指導を行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ】 舞台芸術を中心とした芸術・文化研究 【内容・方法】 ・卒業研究Ⅰの成果をもとに、論文の概要に関する研究発表を行う。 ・論旨の展開・文体・書式などを中心に推敲を重ね、卒業研究レポートの完成を目指す。 【事前・事後学習課題】 研究発表準備、及び卒業研究レポートの作成
関連科目	卒業研究Ⅰなど
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	卒業研究レポートの完成度：70% 平常点（授業に取り組む姿勢など）：30%
学生へのメッセージ	卒業研究レポートの作成を通して、研究テーマに対する理解を深め、論理的な思考力を養いましょう。
担当者の研究室等	7号館5階　神崎研究室
備考	卒業研究レポートの作成過程でフィードバックを行う。

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	北條　ゆかり
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	卒業研究レポートを執筆する過程で論理的思考力と文章力を養い、テーマを決めるに至った問題意識をつねに念頭におき、それへの答えを導き出す論文を書き上げる。
到達目標	邦語文献だけに頼らず、専攻言語で培った力を十分に生かし、自分が選んだテーマに関する先行研究を押さえたうえで、オリジナリティのある論文を作成する。
授業方法と留意点	夏期休業中の成果を後期の始めに報告しあい、論文の構成を明確に組み立てる。以後、各自が章・節ごとの発表を少しずつ行い、質疑応答を交わし合うなかで推敲を加え、論文を完成させる。ゼミ生間で建設的な批判や示唆を与え合うことが重要である。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・・方法】人の移動における「包摂と自律」 【事前事後学習課題】段階に応じた研究報告を毎回準備する。
関連科目	専攻語科目、専攻言語圏に関する科目全般、マイノリティ論、社会学・政治哲学系科目。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	研究報告の積み重ね(50%)とそれらを自己の問題意識に沿っていかに論理的にまとめあげることができたか(50%)を評価する。
学生へのメッセージ	思考の過程をしっかりと刻んだ卒業研究レポートを計画性をもって書き上げてください。 各自の研究課題に応じて必要かつ重要と思われる文献を指示しますので、英語やスペイン語のものも読みこなしましょう。
担当者の研究室等	７号館５階 北條研究室
備考	

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マイケル　ハーキー
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	Students will continue to develop their ideas started in 3rd year and compose a final thesis.
到達目標	Students will be able to analyze and synthesize a diverse collection of information, identify a research question, formulate a hypothesis and determine possible solutions.
授業方法と留意点	Students will collect documents on their topics, evaluate and analyze the information, and together with feedback from the instructor, compose their final research paper.
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	Individualized for each student.
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	Students will be evaluated on the content, cohesion and clarity of thought in their graduation theses.
学生へのメッセージ	The roots of education are bitter, but the fruit is sweet.
担当者の研究室等	７号館３F　ハーキー研究室
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松田　早恵
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	3 年次には英語圏に共通する「知っておくべき事柄」（文化知識）に焦点を当て、情報収集・発表を行ってきました。また新聞記事を使って、時事情報にも触れました。さらに、後期は、A Boy in the Striped Pajamas という本を輪読し、フィクションからのメッセージとその背景にる重い歴史も読み取りました。 4 年次は、3 年次に築いた「英語圏の基礎知識」の土台の上に、「最近の」あるいは「今の」情報を加えていきます。また、A Long Way Gone というシエラレオネの元少年兵の回顧録を読み、内戦が繰り返される国とはどういうものなのかを考えます。 最終的には、英語、日本語、文学、映画、教育、文化の中から２つ以上を結びつけた卒業研究テーマを掘り下げ、新たな視点を加えながら論文の作成にあたります。
到達目標	卒業研究レポートとして扱うテーマを選び、資料収集、文献の読み込みを始めます。遅くとも夏休みには本格的に執筆をは始め、最終的に完成度の高い論文を仕上げることを目標とします。
授業方法と留意点	卒業研究レポート執筆の手順、構成、テーマなどを確認します。文献・資料の収集を続ける傍ら、それを整理し、論文の大まかな構成を考えます。調査が必要ならその準備をし、実行します。指導を受けながら、情報の追加、削除、論理の修正など推敲を重ねます。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・・方法】ライフストーリーで知る世界／卒業研究 【事前事後学習課題】輪読本に関しては、該当箇所を読み、ワークシートを作成します。卒業研究レポートは、それぞれが教員の指導とアドバイスを受けながら執筆を進めます。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎週の課題　30% 中間発表　20% 卒業研究レポート　50%
学生へのメッセージ	調べた情報は、信ぴょう性を疑ってかかり、必ず信頼できる出典を明らかにしてください。 卒研レポートは、提出までにどれまで推敲を重ねたかで完成度とそれに伴う評価も変わります。
担当者の研究室等	7 号館 5 階　松田研究室
備考	

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	皆本　智美
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	卒業研究レポート執筆を行う。 論文を書くための方法を学ぶ。
到達目標	卒業研究レポートを仕上げるにあたり、問題理解力と調査・表現技能を身につける。
授業方法と留意点	他者の執筆した書籍や論文を多数読み、論文の書き方を学習する。 学習した論文の書き方に沿って、実際に執筆する。 執筆した原稿の修正・校正を経て、卒業研究レポートを完成させる。 時間に余裕を持つために、早めに執筆に取りかかること。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	個人指導とする。 毎回、課題を指示し、前回の課題の添削を行う。 適宜、学生間で研究内容の発表を行う。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜、指示する。		
2			
3			

評価方法（基準）	卒業研究レポートへの取り組み方（５０％）、卒業研究レポートの独創性（２０％）・使用言語の習熟度・論理性（３０％）により総合的に評価する。
学生へのメッセージ	大学生活の総括として、卒業研究に取り組んでください。
担当者の研究室等	７号館４階　皆本研究室
備考	

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	家口　美智子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	3 年間で培った論理的思考を、研究テーマを選びリサーチし自分の論点を書くことで主張するという作業として完成させる。英語で書いても日本語で書いても、全力を尽くして何かを創造する喜びを味わってほしい。
到達目標	＊論理的な文章を書く ＊オリジナリティのある研究を行う ＊日頃の疑問をはらす ＊じっくり考えて、実証して、自分の結論に責任を持つ ＊引用の仕方を学ぶ
授業方法と留意点	個人指導を行う。ぎりぎりで書き上げるのではなく、時間に余裕を持つと推敲することができるので、より良いものが書ける。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 3 年次に選んだテーマを掘り下げて、トピックを選ぶ。どんなリサーチが可能かを担当教員と話し合って探る。 個人指導で文献を紹介したり、トピックについてディスカッションする。 冬休み前に卒論発表会を実施する。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	卒業研究への取り組み、卒業研究の内容を総合的に評価する。 平常点(30%)+卒業研究レポート(70%)
学生へのメッセージ	計画を立てて根気よく頑張りましょう。
担当者の研究室等	７号館４F　家口研究室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	兪　鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	３年次の演習で習得した知識をベース、担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査等を行い、研究手法や学問的思考を向上させる。
到達目標	ことわざと慣用句などを中心に比較研究を行うことによって、広い視野から国際理解を深め、言葉の感受性を豊かにし、中国語力を高めるのを目指す同時に、卒業研究レポート作成を指導し、研究能力を育成する。
授業方法と留意点	各自テーマを決め、収集した資料と検討を行った文章をパソコンディスプレイで提示しながら説明するとともに討議を行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【テーマ】 ・日英中のことわざの比較 ・日英のことわざの比較 【事前事後学習課題】 指示に従って、文献等で内容を調べたうえ、レポート草稿を作成して来る。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	毎回の提出物 50%、レポート 50%。
学生へのメッセージ	努力を惜しまなければ、成功につながります。
担当者の研究室等	７号館３階（兪研究室）
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	英語ことわざ用法辞典	曾根田憲三　他	大学書林
2	中国語ことわざ用法辞典	金丸邦三・孫玄齡	大学書林
3	新明解 故事ことわざ辞典 第２版	三省堂編修所	三省堂

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉村　征洋
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	各自が設定したテーマについて研究を行い、卒業研究レポートを作成する。
到達目標	各自が設定するテーマについて、論理的に表現できるようになる。 質の高い卒業研究レポートを作成する。
授業方法と留意点	各自が設定したテーマについて、教員による指導および他のゼミ受講生からのアドバイスを受けながら、卒業研究レポートの作成を進める。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	先行研究を入念に行い、教員による指導を受けて、卒業研究レポートを作成する。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	プレゼンテーション　20% 卒業研究レポート　80%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7号館3階　吉村　征洋 研究室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山口　真佐夫
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	卒業研究レポートの執筆を始める。指導教員による添削を繰り返して、卒業研究レポートを完成させる。
到達目標	卒業研究レポートの完成。
授業方法と留意点	各自が指示された作業をしっかり行うこと。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	前期の卒業研究Ｉで作成したロードマップに従い、卒業研究レポートを完成させる。順調に卒業研究レポートを完成させるために、事前・事後の作業をしっかり行うこと。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	卒業研究レポートの内容 100%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館５階　山口室
備考	

科目名	体験型特別実習Ａ	科目名（英文）	Experience-based Practicum A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	沖中　美喜
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP5△		

授業概要・目的	観光立国を目指す日本において、エアラインの役割はますます重要となってきている。 まず、交通インフラの拠点である空港の役割を把握する。そして、航空機を運航するための機能と多様な職種の役割、協力を理解し、さらに、お客様満足「安全」「安心」「定時制」「快適性」「顧客満足」を得るための努力を理解する。 その後の空港研修により、授業で得た知識を実際の目で確認するとともに、将来の就業意識を高める。 なお、この科目は、パッケージプログラム実習・演習科目の一つです。
到達目標	・エアラインの仕事の多様性を理解する。 ・空港見学により、１機の飛行機を飛ばすために各部門がどのように連携し、どのような想いを持っているのか感じ取る。 ・自らの将来像を描く。
授業方法と留意点	・本学内での事前・事後授業と中部空港研修（２泊３日）及びテストによる。 ・空港見学の際は、細かい身だしなみ基準に従うこと。 ※実習に参加可能な人数に制限がありますので、注意してください。(詳細は事前の説明会にて)
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	事前事後授業と空港研修３９時間から成る。 ・説明会 ・事前授業　２日間 ①オリエンテーションとマナー ②エアラインの現状 ③空港の役割 ④GS の仕事 ⑤グランドハンドリングとオペレーション ⑥CA の仕事 ・神戸・関空・伊丹の３空港について自主学習 ・中部空港研修　（２泊３日で GS の仕事を体験） ・研修報告会
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小レポート 20%，　自主学習レポート 30%，　授業への参加態度 30%，　プレゼン 20%
学生へのメッセージ	空港の裏側は普段見ることができません。グランドスタッフが、CA がどのように働いているのか見てみませんか。ホスピタリティ産業の最前線の現場を知るいい機会です。
担当者の研究室等	７号館４階（エアライン・ホスピタルプログラムルーム）
備考	

科目名	体験型特別実習Ｂ	科目名（英文）	Experience-based Practicum B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	中西　正樹.浅野　英一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3○		

授業概要・目的	本学部のパッケージプログラムは，学生の主体性・自主性を喚起し，将来のキャリアについて体系的に学ぶことを目的としている。この「体験型特別演習 B」科目では，学生自身が主体的に計画，参加した社会的活動についてその活動内容や成果を日誌やプレゼン，レポートの形式（授業内容の項目で詳述）で事後に報告し，審査を経て単位を取得するが認定される。ここでいう社会的活動とは，上で述べたパッケージプログラムの趣旨に合致する授業外の研究活動やインターンシップ，ボランティア活動などを指す。事後申請型の科目なので事前に履修登録は行わない。
到達目標	事前授業によってこの科目の趣旨と評価基準を十分理解したうえで，自ら立てた活動計画に基づいて活動できる自主性，積極性の獲得を目指す。さらにその活動内容とそこで得られたものについて詳細かつ分かりやすく表現できる力をつける。
授業方法と留意点	学内で行われる事前授業や事後授業（実施日は追ってポータル等で案内する）には必ず出席すること。無断で欠席した場合には単位を与えない。単位申請の対象となるのは申請時から遡って 2 年以内の活動（ただし、本学在学中のものに限る）とする。また，事前授業や事後授業，単位申請の受け付け，審査，認定はすべて外国語学部が行うが，活動そのものには関与しないので，活動への申し込みや先方への問い合わせも学生自身が行い，主催団体等の規定やスケジュールに従いながら行動すること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	授業は以下の順に進める。単位申請は事前，事後すべての授業への参加を条件とする。 1. 事前授業（4 月～5 月） 本科目の申請対象となる活動について，必要時間数や安全面での注意事項などについて理解する。科目の趣旨や到達目標，申請方法，評価の方法や基準，事後授業のスケジュール，さらに日誌ノートの書き方などについて学ぶ。 2. 活動への参加（時期は活動によって異なる） 主催団体等の広報資料を集めるなどして，自分で活動計画を立てたうえで、活動に必要な手続きを進める。主催団体等によるガイダンスや審査を経て活動に参加することになれば，現地での滞在期間に日誌を書く。 3. 事後授業（11 月上旬予定） 審査のスケジュールや方法について学び，プレゼンテーションやレポート作成作業に備える。また，日誌など単位申請に必要な文書について確認し，不備があれば指導を受ける。 4. 事後授業 2（11 月下旬予定） 申請者が現地で活動した内容やその成果を示す写真や映像を用いながら報告を行う。中西および数名の学部教員が審査に当たる。このあと，参加した活動の内容やそこで得られた成果をテーマとして 2,000 字程度のレポートを指定された締め切り日までに提出する。なお，ここでのプレゼンテーションやレポートが活動を主催する団体が求めるとは別のものであることに注意。 5. 事後授業 3（2 月上旬予定） プレゼンテーションやレポートの審査にあたった教員が講評を行う。
関連科目	体験型特別実習 A，海外実習，海外インターンシップなど
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	事前事後授業での取り組み，日誌（60%），プレゼンテーション，レポート（40%）をもとに総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館３階（中西研究室）
備考	

科目名	大衆文化論	科目名（英文）	Popular Culture
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森本　誠一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	私たちの身の回りにはさまざまなメディアがあふれかえっています。みなさんはそうしたメディアをどれだけ理解し、使いこなせているでしょうか。この授業では、ワークショップを通じてさまざまなメディア技法を習得しつつ、これからの社会を生きていく上で求められるメディアリテラシーを涵養します。 なお、この科目はメディアビジネスプログラム科目です。
到達目標	この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。 （1）メディアリテラシーが身につく （2）さまざまなメディアの特性について理解している （3）メディアを通じて情報を獲得したり発信したりするためのスキル（メディア技法）を身につけている
授業方法と留意点	この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業を進めていきます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、毎回の授業に出席しなければ学修の効果は薄いでしょう。また、授業の終わりに毎回リアクションペーパーを提出してもらい、第２回目以降の授業では冒頭でそれを取り上げます。
科目学習の効果（資格）	
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の方法・基準についても確認します。	シラバスをしっかり読んでから授業に出席しましょう。また授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態にしておきましょう。
2	メディアリテラシー	インターネットの登場により、私たちの生活は劇的に変化してきました。LineやFacebook、twitterといったSNSは私たちの人間関係にも大きな影響を及ぼしています。 私たちはこうした技術をどれだけ使いこなせているでしょうか。今回の授業では、情報社会にあって必須の能力であるメディアリテラシーを涵養します。	授業中に指示します。
3	まわしよみ新聞を作る	インターネットの普及にともなって、活字文化の衰退が危惧されます。新聞の発行部数も年々減り続ける一方です。 今回の授業では、ワークショップにより「まわしよみ新聞」を作ります。そのなかで、新聞や活字文化について学修します。	まわしよみ新聞について調べておきましょう。 まわしよみ新聞を作るために、1週間以内の新聞を持ってきましょう。
4	SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）	SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）がどのようなものなのか学修します。	授業中に指示します。
5	SNSを使いこなす	SNSの特性を理解したうえで、SNSを使って情報を獲得したり発信したりする技術を身につけます。	授業中に指示します。
6	チラシを作る――広告デザインの作法	インターネット、SNSの普及にともなって、新聞、雑誌など紙媒体のメディアが発行部数を減らす一方で、チラシやポスターは依然として身の回りにあふれています。 今回の授業では、ワークショップを通じてチラシを作ります。そのなかで、広告、デザインの作法について学修します。	あなたの好きなチラシを探して授業に持ってきましょう。
7	名刺を作る――自己をブランディングする	今回の授業では、ブランディングの基本について学修します。その上で、自分自身を効果的にアピールするための手段として、ワークショップにより名刺を作ります。	授業中に指示します。
8	中間のふり返り	前半の授業をふり返ります。不明な点があれば質疑応答により解決します。	授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習しましょう。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査しましょう。
9	メディア文化史	メディア文化の歴史について学修します。	授業中に指示します。
10	映像を撮る――世界を切り取るということ	誰もが手軽に写真や動画を撮影できるようになりました。今回の授業では、動画の撮影を通じて、世界を切り取るということの意味について学修します。	授業中に指示します。
11	映像を編集する――切り取った世界を加工するということ	動画を撮影することが世界を切り取ることであるとするならば、その編集は切り取った世界を加工することだと言えるでしょう。	授業中に指示します。

		今回の授業では、映像の編集を通じて、世界を加工することの意味について学修します。	
12	映像制作論	今回の授業では、テレビ放送のドキュメンタリー番組がどのようにして作られるのかを確認しながら、映像制作の基本を学修します。	授業中に指示します。
13	大衆文化と政治	テレビ、映画、アニメといったメディアは、これまで幾度となくプロパガンダとして政治的な宣伝に利用されてきました。 今回の授業では、映像資料を交えながら大衆文化と政治の関係について学修します。	授業中に指示します。
14	メディアと権力	権力はしばしばメディアを利用します。メディアも権力におもねることが少なくありません。メディアと権力は、たいへん結びつきやすいものなのです。民主主義の社会にあって、私たちはこのことを十分に理解し、メディアと権力の両方を監視していく必要があります。 今回の授業では、メディアと権力の関係について学修します。	授業中に指示します。
15	まとめ、全体のふり返り	これまでの授業をふり返りながら、各回の授業が全体としてどのようにつながっていたのかを確認します。成績評価の方法・基準についても再確認します。	これまでの授業で学修したことをしっかり復習して授業に参加しましょう。授業を受けたあとは改めて授業全体をふり返りながら期末試験に向けて準備をしましょう。

関連科目

メディアビジネスプログラム科目(2015 年度入学生)

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	たったひとつの「真実」なんてない――メディアは何を伝えているのか?	森達也	ちくまプリマー新書
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

この授業は、授業内課題（リフレクションシート）15%、ワークショップ 30%、講義内容に関連する課題調査 10%、期末試験 45%で評価します。

学生へのメッセージ

決して堅苦しい雰囲気の授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。

担当者の研究室等

この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメイルにて受け付けます。

7 号館 2 階 非常勤講師室

メールアドレス：xmorimse[*]edu.setsunan.ac.jp
（[*]を半角の@に置き換え）

備考

科目名	旅と観光の地理	科目名（英文）	Travel and Tourism Geography
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	柴田　陽一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	現代ほど多くの人びとが移動し，さまざまな場所を観光している時代はいまだかつてない。なぜこんなに観光が盛んになったのだろうか。その背景には何があるのだろうか。本講義では，観光の歴史について学んだ後，形態別の観光とさまざまな観光地の特色を明らかにしていく。事例は日本を中心とするが，必要に応じて海外や旧植民地も取り上げる。観光は交通やメディアの発達はもちろん，広く言えば，それぞれの時代と地域の政治・経済・社会・文化と密接にかかわる現象である。したがって，観光という現象を通して，近代と現代の日本を考えてみたい。その過程で，日本という風土の特色も明らかとなろう。
到達目標	観光の歴史や形態，さまざまな観光地の特色について理解し，それをもとに，特定の観光／観光地の形成・現状・課題について説明することができる。
授業方法と留意点	配布資料とパワーポイントを用いて授業を進める。毎回授業の終わりに課題を出すので，それに取り組むことで復習・予習をしてほしい（一部は要提出）。日ごろから観光に関する報道（ＴＶニュース，新聞，ネット等）に関心を払うこと。
科目学習の効果（資格）	観光の歴史や形態，観光地の特色を学習・理解することにより，将来の進路決定をする際の一つの判断材料として役立てることができる（特に公的資格には直接つながらない）。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	旅と観光とは？	旅・観光とは何か，その定義について	課題による復習・予習
2	観光の歴史①	近代ツーリズム誕生の背景と，その後の発展について	課題による復習・予習
3	観光の歴史②	交通やメディアの発達と観光との関連，近年の観光目的の多様化について	課題による復習・予習
4	団体旅行	団体旅行の歴史とその特色について	課題による復習・予習
5	修学旅行	修学旅行の歴史とその特色について	課題による復習・予習
6	新婚旅行	新婚旅行の歴史とその特色について	課題による復習・予習
7	海外旅行	海外旅行の歴史とその特色について	課題による復習・予習
8	山	山岳観光地とその特色，登山やスキーの歴史について	課題による復習・予習
9	海	海岸観光地とその特色，海水浴，サーフィン，ダイビングなどの歴史について	課題による復習・予習
10	温泉	温泉観光地とその特色，温泉浴の歴史について	課題による復習・予習
11	まち	宗教・都市観光地とその特色について	課題による復習・予習
12	テーマパーク	テーマパークの歴史とその特色について	課題による復習・予習
13	アート，フィルム，アニメ	アートツーリズム，フィルムツーリズム，アニメツーリズムの歴史とその特色について	課題による復習・予習
14	エスニック	旧植民地などで行われているエスニックツーリズムの歴史とその特色について	課題による復習・予習
15	ダーク，まとめ	戦争や災害の跡など見るダークツーリズムの歴史とその特色について，授業全体のまとめ	期末レポートの準備

関連科目：「アーバンツーリズム論」「エコツーリズム論」等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	観光の空間：視点とアプローチ	神田孝治編	ナカニシヤ出版
2	レジャーの空間：諸相とアプローチ	神田孝治編	ナカニシヤ出版
3	観光学ガイドブック	大橋昭一ほか編	ナカニシヤ出版

評価方法（基準）	期末レポート６０％，授業中課題４０％
学生へのメッセージ	訪日外国人の増加や２０２０年の東京オリンピック・パラリンピックに向け，観光産業はますます重要性を増している。観光の歴史と形態，さまざまな観光地の特色を明らかにする本授業は，観光関連産業を将来の進路として考えている学生はもちろん，そうでない学生も興味をもって学習できる内容であろう。
担当者の研究室等	７号館５階（柴田研究室）
備考	事前・事後学習は総時間６０時間を目安とする。

科目名	旅の文学	科目名（英文）	Travel Literature
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小川　豊生
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	古代から現代にいたる日本文学の流れを具体的にたどり、自らの属する社会・文化の特質についての理解を深めることを目的とする。同時に、近代以降の作品の読解を通じて、作品を読む力、批評する力、論理的に書く力など、基礎的なリテラシーの養成に力点をおきたい。また、世界の文学との比較を通じて、国際社会において日本文化の特質を自らの言葉で明快に表現する力を養成することも目的の一つである。
到達目標	・さまざまなテキストを読解し、その内容を論理的に把握する基本的な力を身につける。 ・古代から現代にいたる日本文学史の流れを説明する力を身につける。 ・日本文化についてその特質を自分なりに説明する力を養う。
授業方法と留意点	プリントにもとづく講義中心の授業。
科目学習の効果（資格）	各資格試験に臨むための前提となるリテラシーの基礎的養成。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	古代文学と神話の世界１	『古事記』の神話をもとに、古代の人々の想像力の特質を探求する。	・扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
2	古代文学と神話の世界２	引き続き『古事記』の神話世界を探求する。	・扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
3	平安文学とモノガタリ１	『竹取物語』や『源氏物語』をもとに、モノガタリとは何かについて考察する。	・扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
4	平安文学とモノガタリ２	引き続き、『竹取物語』や『源氏物語』をもとに、モノガタリとは何かについて考察する。	・扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
5	説話文学の世界	『今昔物語集』について解説する。	・扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
6	軍記物語の世界	『平家物語』について解説する。	・扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
7	中世の伝承文学１	御伽草子「鉢かずき姫」について解説する。	・扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
8	中世の伝承文学２	大阪に伝わる中世の伝承をとりあげ、信仰と文学との関わりについて考察する。	・扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
9	江戸小説の世界１	近松門左衛門の作品をとりあげ、大阪の文学について認識を深める。	・扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
10	江戸小説の世界２	江戸のユートピア小説とヨーロッパのそれとの比較考察	・扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
11	近代の文学１太宰治	太宰治の短編作品を読む。	・扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
12	近代の文学２宮沢賢治	宮沢賢治の短編作品を読む。	・扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
13	近代の文学３江戸川乱歩	江戸川乱歩の短編作品を読む。	・扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
14	現代の文学（吉本ばなな）	吉本ばなな の短編作品を読む。	・扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
15	総合確認テスト	授業内テストおよび解説	・ノート全体の整理と講義要点の総まとめ

関連科目	日本文化にかかわる諸科目。日本語教育にかかわる諸科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	中間テストと最終日に実施する総合確認テストを中心として、他に授業時に回収したコメント、課題レポートなどを加え、総合的に評価する。中間・総合テスト 70%、提出物 30%。
学生へのメッセージ	モノガタリや小説を読む楽しさを味わいつつ、日本語を適切に駆使する基本的な力を身に着けてほしいと思います。
担当者の研究室等	７号館４階（小川研究室）
備考	事前・事後の学習は、それぞれ２時間ずつ、総時間 60 時間を目安とする。

科目名	多文化共生論	科目名（英文）	Multiculturalism
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	柴田　陽一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	グローバル社会に生きるわたしたちにとって，多文化共生は最重要課題の一つであろう。多文化共生は，マジョリティとは異なる背景や特性をもつマイノリティの文化を，最大限尊重することで実現される。その理念は広く浸透しているとはいえ，差異を認めつつ共生することの困難性は容易に克服できるものではない。そもそもマジョリティとマイノリティの「違い」は何なのだろうか。その「違い」は絶対的なものなのだろうか。本講義では，わたしたちの身の回りに存在しているさまざまな「違い」を認識し，それに関する知識を学ぶことを通じて，多文化共生の可能性と問題点を考える。 ※この科目は、「国際教養」プログラム対応科目である。
到達目標	多文化共生に関する概念と知識を理解・習得し，それを用いて，多文化共生の可能性と問題点について事例に即した形で考えることができる。
授業方法と留意点	配布資料とパワーポイントを用いて授業を進める。毎回の授業の終わりに課題をだすので，それに取り組むことで復習・予習をしてほしい。普段の授業ではグループディスカッションを取り入れる。期末にはグループ発表を行ってもらう。
科目学習の効果（資格）	多文化共生に関する基礎的知識をもとに，さまざまな観点から社会問題をとらえる視座を獲得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方，「文化」と「共生」という授業のキーワードについて	課題による復習・予習
2	マジョリティとマイノリティ？	マジョリティとマイノリティ，自己と他者の「違い」，身の回りに存在するさまざまな「違い」について	課題による復習・予習
3	「単一民族」という神話	日本が「大和民族」という「単一民族」であるという神話やナショナリズムについて	課題による復習・予習
4	在日韓国・朝鮮人	在日韓国・朝鮮人の歴史と文化について	課題による復習・予習
5	在日中国人	在日中国人の歴史と文化について	課題による復習・予習
6	在日ブラジル人	在日ブラジル人の歴史と文化について	課題による復習・予習
7	在日フィリピン人	在日フィリピン人の歴史と文化について	課題による復習・予習
8	アイヌ	アイヌの歴史と文化について	課題による復習・予習
9	琉球・沖縄	琉球・沖縄の歴史と文化について	課題による復習・予習
10	宗教	さまざまな宗教の歴史と文化について	課題による復習・予習
11	ジェンダーとセクシュアリティ	ジェンダーとセクシュアリティという概念と，それぞれの「違い」について	課題による復習・予習
12	障害	障害者と健常者という概念と，それらの「違い」について	課題による復習・予習
13	外国の事例からみた多文化共生	マレーシアやシンガポールなど外国の事例からみた多文化共生の可能性と問題点について	グループ発表の準備
14	グループ発表①	「多文化共生」の事例についてのグループ発表	グループ発表の準備
15	グループ発表②，まとめ	「多文化共生」の事例についてのグループ発表，講義のまとめ	期末レポートの準備

関連科目	「暮らしの中の文化」「グリーバル社会と日本」「共同体論」等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末レポート４０％，グループ発表・グループディスカッション４０％，授業中課題２０％
学生へのメッセージ	答えは一つではない。多様な立場や考え方に触れながら，柔軟に考えてみよう。
担当者の研究室等	７号館５階（柴田研究室）
備考	事前・事後学習は総時間６０時間を目安とする。

科目名	多文化の共生	科目名（英文）	Multiculturalism
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	柴田　陽一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	グローバル社会に生きるわたしたちにとって，多文化共生は最重要課題の一つであろう。多文化共生は，マジョリティとは異なる背景や特性をもつマイノリティの文化を，最大限尊重することで実現される。その理念は広く浸透しているとはいえ，差異を認めつつ共生することの困難性は容易に克服できるものではない。そもそもマジョリティとマイノリティの「違い」は何なのだろうか。その「違い」は絶対的なものなのだろうか。本講義では，わたしたちの身の回りに存在しているさまざまな「違い」を認識し，それに関する知識を学ぶことを通じて，多文化共生の可能性と問題点を考える。 ※この科目は、「国際教養」プログラム対応科目である。
到達目標	多文化共生に関する概念と知識を理解・習得し，それを用いて，多文化共生の可能性と問題点について事例に即した形で考えることができる。
授業方法と留意点	配布資料とパワーポイントを用いて授業を進める。毎回の授業の終わりに課題をだすので，それに取り組むことで復習・予習をしてほしい。普段の授業ではグループディスカッションを取り入れる。期末にはグループ発表を行ってもらう。
科目学習の効果（資格）	多文化共生に関する基礎的知識をもとに，さまざまな観点から社会問題をとらえる視座を獲得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方，「文化」と「共生」という授業のキーワードについて	課題による復習・予習
2	マジョリティとマイノリティ？	マジョリティとマイノリティ，自己と他者の「違い」，身の回りに存在するさまざまな「違い」について	課題による復習・予習
3	「単一民族」という神話	日本が「大和民族」という「単一民族」であるという神話やナショナリズムについて	課題による復習・予習
4	在日韓国・朝鮮人	在日韓国・朝鮮人の歴史と文化について	課題による復習・予習
5	在日中国人	在日中国人の歴史と文化について	課題による復習・予習
6	在日ブラジル人	在日ブラジル人の歴史と文化について	課題による復習・予習
7	在日フィリピン人	在日フィリピン人の歴史と文化について	課題による復習・予習
8	アイヌ	アイヌの歴史と文化について	課題による復習・予習
9	琉球・沖縄	琉球・沖縄の歴史と文化について	課題による復習・予習
10	宗教	さまざまな宗教の歴史と文化について	課題による復習・予習
11	ジェンダーとセクシュアリティ	ジェンダーとセクシュアリティという概念と，それぞれの「違い」について	課題による復習・予習
12	障害	障害者と健常者という概念と，それらの「違い」について	課題による復習・予習
13	外国の事例からみた多文化共生	マレーシアやシンガポールなど外国の事例からみた多文化共生の可能性と問題点について	グループ発表の準備
14	グループ発表①	「多文化共生」の事例についてのグループ発表	グループ発表の準備
15	グループ発表②，まとめ	「多文化共生」の事例についてのグループ発表，講義のまとめ	期末レポートの準備

関連科目	「暮らしの中の文化」「グリーバル社会と日本」「共同体論」等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末レポート４０％，グループ発表・グループディスカッション４０％，授業中課題２０％
学生へのメッセージ	答えは一つではない。多様な立場や考え方に触れながら，柔軟に考えてみよう。
担当者の研究室等	７号館５階（柴田研究室）
備考	事前・事後学習は総時間６０時間を目安とする。

科目名	地域環境論	科目名（英文）	Regional Environment
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	手代木　功基
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	環境問題はしばしばグローバルな問題として着目されますが、実際に私たちに影響を与える環境に関わる「問題」は、地域単位で現出します。そのため、環境問題を解決に向かわせるためには、何よりも地域を知り、地域固有の文脈に沿った解決策を考えていくことが重要なステップとなります。 本講義では、国内外のさまざまな地域の環境・環境問題について学ぶことを通して、幅広い教養を身につけ、多角的な視野を獲得することを目指します。 ※なお、この科目は「国際教養」プログラム対応科目です。
到達目標	1. 環境とは何か、環境問題とは何かについて具体例をもとに説明できる幅広い知識を身につける 2. 私達が暮らしている大阪・関西の特徴を理解する 3. 多角的な視野で国内外の多様な環境や環境問題を把握することができる
授業方法と留意点	プリントの配布および投影資料を利用した講義形式。理解を深めるため、映像資料やバーチャル地球儀等を利用する。また、講義中にグループワークやディスカッション、簡単な作業などを通して受講者の意見を求めることもある。受講人数によっては屋外での巡検も計画する。
科目学習の効果（資格）	環境問題への意識向上、情報リテラシーの向上

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の概要、目的、授業の進め方、テキスト、採点方法等について理解する	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
2	環境を学ぶための基礎知識1	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
3	環境を学ぶための基礎知識2	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
4	河川がつくる地形，河川により変化する地形	河川による地形形成作用を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
5	日本の森はどうなっているのか？	河川の源流域における森林の現状と役割を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
6	淀川水系源流域の自然と文化１	淀川源流域・滋賀県における自然環境と人びとの生活を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
7	淀川水系源流域の自然と文化２	淀川源流域の滋賀県における自然環境と人びとの生活を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
8	大阪の自然と文化１	淀川水系中・下流域に位置する大阪の自然環境と人びとの生活を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
9	大阪の自然と文化２	淀川水系中・下流域に位置する大阪の自然環境と人びとの生活を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
10	大阪における自然災害	大阪において発生する自然災害の要因と被害について学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
11	京都の環境学	京都市の環境史と環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わりについて学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
12	神戸の環境学	神戸市の環境史と環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わりについて学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
13	和歌山・奈良の環境学	和歌山・奈良の環境史と環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わりについて学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
14	世界の環境問題１	地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
15	世界の環境問題２・授業のまとめ	地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題と全体のまとめ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む

関連科目：国際教養プログラム関連科目（暮らしの中の文化、多文化共生論等）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への取り組み（リアクションペーパーの内容、受講態度、議論やグループワークへの参加状況等）（50%）とレポート（50%）で評価します。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館５階（手代木研究室）
備考	事前・事後の学習は、全体で 60 時間を目安とします。 リアクションペーパーやレポート等の提出物に対してはコメントや質問回答といったフィードバックを行います。

科目名	地域研究論	科目名（英文）	Regional Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森田　良成
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	歴史や文化が異なる様々な地域の、経済に関する事例を取り上げる。ここでの経済とは、広く人々の間で行われる物のやりとり全般を意味する。さまざまな地域の事例の比較・検討を通して、それぞれの社会に埋め込まれた独特の経済の合理性が、どのように変容していくのか・いかないのかを考える。
到達目標	物事の真偽や可否を判断する際に私たちがふだん用いている論理や価値を相対化して、日常を新しくとらえ直し、現代世界を見る新たな視座を獲得する。
授業方法と留意点	＊講義形式で行う。授業の理解を助けるために映像資料を使用する。 ＊受講者にはペーパー等で適宜コメントを求める。 ＊ノートを写し、話を聞くだけではなくて、自分で考え、考えたことを表現するよう努めること。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について説明	関連する文献を紹介するので読むこと。
2	「食べる」1	食べものの生産、消費、廃棄の多様なあり方	関連する文献を紹介するので読むこと。
3	「食べる」2	食べものの生産、消費、廃棄の多様なあり方	関連する文献を紹介するので読むこと。
4	「贈る」1	社会に埋め込まれた経済	関連する文献を紹介するので読むこと。
5	「贈る」2	浪費の力	関連する文献を紹介するので読むこと。
6	「正しい」1	異なる経済的な正しさと、両者の関係	関連する文献を紹介するので読むこと。
7	「正しい」2	異なる経済的な正しさと、両者の関係	関連する文献を紹介するので読むこと。
8	「価値」1	物の価値はどのように決まるのか	関連する文献を紹介するので読むこと。
9	「貧しい」1	「貧困」とはなにか	関連する文献を紹介するので読むこと。
10	「貧しい」2	「貧困」とはなにか	関連する文献を紹介するので読むこと。
11	「自由」1	市場主義と自由の拡大	関連する文献を紹介するので読むこと。
12	「自由」2	市場主義と自由の拡大	関連する文献を紹介するので読むこと。
13	グローバル化 1	包摂と接合	関連する文献を紹介するので読むこと。
14	グローバル化 2	包摂と接合	関連する文献を紹介するので読むこと。
15	まとめ　＋テスト	授業全体のまとめとテスト	関連する文献を紹介するので読むこと。

関連科目：文化人類学など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	＊平常点　40%　（授業への参加・貢献度を、コメント・感想などから総合的に判断する） ＊試験　60%　（授業期間中に行う）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	受講者数によっては評価方法を変更することがある。

科目名	地域と国際ビジネス	科目名（英文）	Regional and International Business
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中島　直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	本授業は、６つのパッケージプログラムのうち、「国際ビジネス」プログラムに対応する科目です。 文化・地理・歴史・政治・経済などの学際的な観点から、注目すべき国や地域における企業ビジネスについて、事例とともに学ぶことを目的とします。
到達目標	国や地域の様々な特徴について、日本と比較しながら理解を深めるとともに、国際ビジネスの現状や今後の展開について多角的に考察することを目標とします。
授業方法と留意点	アクティブラーニングの手法に基づいて、グループワークを中心に行います。 全グループに、調査に基づく研究発表（プレゼンテーション）を義務づけます。よって、行動力や協調性が重視されるといえるでしょう。
科目学習の効果（資格）	文化演習（３ゼミ）や卒業研究（4ゼミ）などの研究にも活かせることでしょう。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・オリエンテーション ・レポートの書き方について	・授業の内容や方法などについて詳しく説明する。 ・レポートの書き方について、ビジネス文書の書式と同じであることを意識しながら要点を整理する。	授業の内容・方法、レポートの書き方などをしっかりと確認する。
2	メディア教材を活用した授業（1） 東南アジア諸国について	東南アジア諸国に焦点を当て、学際的な観点から、ビジネスモデルの特徴について、具体的な事例とともに考察する。	授業の内容を整理し、さらに自分で調べたことと合わせてレポートを作成する。
3	メディア教材を活用した授業（2） アメリカについて	経済大国アメリカに焦点を当て、学際的な観点から、ビジネスモデルの特徴について、具体的な事例とともに考察する。	授業の内容を整理し、さらに自分で調べたことと合わせてレポートを作成する。
4	メディア教材を活用した授業（3） EU 諸国について	１つの経済圏をなす EU 諸国に焦点を当て、学際的な観点から、ビジネスモデルの特徴について、具体的な事例とともに考察する。	授業の内容を整理し、さらに自分で調べたことと合わせてレポートを作成する。
5	・プレゼンテーションのスキル ・研究発表の詳細について	・プレゼンのスキルについて、ビジネスの事例とともに要点を確認する。 ・研究発表のグループメンバー、テーマ、発表日等を決定する。	・研究発表のグループメンバーを事前に調整し、テーマについて考えておく。 ・グループごとに、今後の研究計画について検討する。
6	プレゼンの対象になった国・地域とビジネスの特徴について（1）	選定した国・地域への日系企業の進出例などを調査するとともに、新たなビジネスモデルの構築についても検討してみたい。	・授業の内容を整理し、さらに自分で調べたことと合わせてレポートを作成する。 ・グループごとに研究活動を計画的に進めていく。
7	プレゼンの対象になった国・地域とビジネスの特徴について（2）	選定した国・地域への日系企業の進出例などを調査するとともに、新たなビジネスモデルの構築についても検討してみたい。	・授業の内容を整理し、さらに自分で調べたことと合わせてレポートを作成する。 ・グループごとに研究活動を計画的に進めていく。
8	プレゼンの対象になった国・地域とビジネスの特徴について（3）	選定した国・地域への日系企業の進出例などを調査するとともに、新たなビジネスモデルの構築についても検討してみたい。	・授業の内容を整理し、さらに自分で調べたことと合わせてレポートを作成する。 ・グループごとに研究活動を計画的に進めていく。
9	グループディスカッション	グループごとに、与えられた課題について議論し、結論を導き出す。	・これまでのレポートをまとめて提出する。 ・グループごとに研究活動を計画的に進めていく。
10	研究発表（プレゼンテーション）（1）	順番に、グループによる研究発表（プレゼンテーション）を行うとともに、フロアとの質疑応答により考察を深めていく。	・発表担当のグループは、しっかりとその準備を行う。 ・他のグループは、自分たちの研究活動の総仕上げをする。
11	研究発表（プレゼンテーション）（2）	順番に、グループによる研究発表（プレゼンテーション）を行うとともに、フロアとの質疑応答により考察を深めていく。	・発表担当のグループは、しっかりとその準備を行う。 ・他のグループは、自分たちの研究活動の総仕上げをする。
12	研究発表（プレゼンテーション）（3）	順番に、グループによる研究発表（プレゼンテーション）を行うとともに、フロアとの質疑応答により考察を深めていく。	・発表担当のグループは、しっかりとその準備を行う。 ・他のグループは、自分たちの研究活動の総仕上げをする。
13	研究発表（プレゼンテーション）（4）	順番に、グループによる研究発表（プレゼンテーション）を行うとともに、フロアとの質疑応答により考察を深めていく。	・発表担当のグループは、しっかりとその準備を行う。 ・他のグループは、自分たちの研究活動の総仕上げをする。
14	研究発表（プレゼンテーション）（5）	順番に、グループによる研究発表（プレゼンテーション）を行うとともに、フロアとの質疑応答により考察を深めていく。	・発表担当のグループは、しっかりとその準備を行う。 ・他のグループは、自分たちの研究活動の総仕上げをする。
15	まとめ（総括）	・研究発表（プレゼンテーション）の総評を行う。 ・レポートの総評を行う。	これまでに学んだ内容の要点を整理する。

関連科目	その他の国際ビジネスプログラム科目など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	（必要に応じて指示します）		
2			
3			

<table>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr>
<tr><td>1</td><td>（必要に応じて指示します）</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>研究発表（プレゼンテーション）（４０％）、 レポート（４０％）、 授業に取り組む姿勢など（２０％）
を合わせて評価します。
※ただし、原則として、出席率８０％以上の学生のみを成績評価の対象とします。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>社会人の仕事でもチームワークが重要です。この授業でも積極的かつ協調的な姿勢を大切にしてほしいと思います。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>７号館４階　（中島研究室）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>事前・事後学習の総時間数は、２５～３０時間を目安としてください。</td></tr>
</table>

科目名	中級検定インドネシア語	科目名（英文）	Practice for Intermediate Test for Indonesian Proficiency
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山口　玲子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	インドネシア語技能検定試験Ｄ級の過去問題に取り組み、Ｄ級レベルの語彙や文法を学習する。
到達目標	インドネシア語技能検定試験Ｄ級レベルの語彙や文法事項の知識を得ることができる。
授業方法と留意点	本授業では、これまでに行われてきたインドネシア語技能検定試験の過去問題を中心に、特に語彙と文法に重点をおき、授業を進める。また、適宜小テストを行う。辞書は必ず携行すること。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語技能検定試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	練習問題(1)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直す
2	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
3	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
4	練習問題(2)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直し、次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
5	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
6	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
7	練習問題(3)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直し、次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
8	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
9	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
10	練習問題(4)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直し、次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
11	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
12	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
13	練習問題(5)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直し、次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
14	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
15	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること

関連科目	専攻言語インドネシア語科目のすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への積極的参加度合 30%、小テスト 50%、インドネシア語技能検定試験の結果 20%
学生へのメッセージ	検定試験合格を目指して、授業には積極的に参加しましょう。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	授業内容を確実に理解するためにも、事前・事後学習課題はそれぞれ少なくとも 1 時間以上かけること。半期中の事前・事後学習は 30 時間である。授業時間外での質問等は非常勤講師室にてお昼休みに対応する。なお、適宜行う小テスト終了後には解説を行う。

科目名	中国語Ⅱａ	科目名（英文）	Chinese IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	兪　鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	発音編 第１課　発音１	ピンインと四声，単母音，子音①，複母音①。	練習問題を解答する。
2	第２課　発音２	複母音②，鼻母音，子音②。	練習問題を解答する。
3	第３課　発音３	複母音③④，子音③。	練習問題を解答する。
4	第４課　発音４	子音④⑤。	練習問題を解答する。
5	本文編 第１課　お名前は？	☆単元テスト１ 形容詞述語文，疑問文，副詞「很」。	練習問題を解答する。
6	第１課　お名前は？	副詞「不」，疑問詞疑問文，名前の言い方。	練習問題を解答する。
7	第２課　僕は日本人だ	「是」構文，副詞「都」。	練習問題を解答する。
8	第２課　僕は日本人だ	助詞「的」，反復疑問文。	練習問題を解答する。
9	第３課　君は大阪人だよね？	☆単元テスト２ 動詞述語文，終助詞「?」，副詞「也」。	練習問題を解答する。
10	第３課　君は大阪人だよね？	命令文，同時進行の表現。	練習問題を解答する。
11	第４課　おいくら？	動詞の重ね型，お金の言い方。	練習問題を解答する。
12	第４課　おいくら？	こそあどの言い方，単位の言葉「張」「個」。	練習問題を解答する。
13	第５課　どの先生が好き？	前置詞「和」，名詞述語文。	練習問題を解答する。
14	第５課　どの先生が好き？	時間の言い方。	練習問題を解答する。
15	おさらい	☆単元テスト３	練習問題を解答する。

関連科目：中国語Ⅱｂ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	摂南大学　中国語入門	摂南大学外国語学部編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日辞典		
2	日中辞典		
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してたくさん読みましょう。事前・事後学習に1.5時間ずつ要します。
担当者の研究室等	非常勤講師室（７号館２階）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語Ⅱa	科目名（英文）	Chinese IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	２
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	今中　崇文
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	発音編 第１課　発音１	ピンインと四声，単母音，子音①，複母音①。	練習問題を解答する。
2	第２課　発音２	複母音②，鼻母音，子音②。	練習問題を解答する。
3	第３課　発音３	複母音③④，子音③。	練習問題を解答する。
4	第４課　発音４	子音④⑤。	練習問題を解答する。
5	本文編 第１課　お名前は？	☆単元テスト１ 形容詞述語文，疑問文，副詞「很」。	練習問題を解答する。
6	第１課　お名前は？	副詞「不」，疑問詞疑問文，名前の言い方。	練習問題を解答する。
7	第２課　僕は日本人だ	「是」構文，副詞「都」。	練習問題を解答する。
8	第２課　僕は日本人だ	助詞「的」，反復疑問文。	練習問題を解答する。
9	第３課　君は大阪人だよね？	☆単元テスト２ 動詞述語文，終助詞「?」，副詞「也」。	練習問題を解答する。
10	第３課　君は大阪人だよね？	命令文，同時進行の表現。	練習問題を解答する。
11	第４課　おいくら？	動詞の重ね型，お金の言い方。	練習問題を解答する。
12	第４課　おいくら？	こそあどの言い方，単位の言葉「張」「個」。	練習問題を解答する。
13	第５課　どの先生が好き？	前置詞「和」，名詞述語文。	練習問題を解答する。
14	第５課　どの先生が好き？	時間の言い方。	練習問題を解答する。
15	おさらい	☆単元テスト３	練習問題を解答する。

関連科目	中国語Ⅱb

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	摂南大学　中国語入門	摂南大学外国語学部編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日辞典		
2	日中辞典		
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してたくさん読みましょう。事前事後の学修に各１時間要する。
担当者の研究室等	非常勤講師室（7号館２階）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語Ⅱｂ	科目名（英文）	Chinese IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	兪　鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	口語練習を重視し、中国語の発音に慣れてもらう。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準4級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第６課　今は３時５分前だ	「有」と「在」，疑問詞の使い方。	練習問題を解答する。
2	第６課　今は３時５分前だ	意見を求める言い方。	練習問題を解答する。
3	第７課　この前の土曜日映画を見に行った	副詞「経常」，例示の言い方。	練習問題を解答する。
4	第７課　この前の土曜日映画を見に行った	文型「是・・・還是・・・」。	練習問題を解答する。
5	第８課　小説は好きなの？	☆単元テスト１ 前置詞「従」と「到」，副詞「太」と「不太」。	練習問題を解答する。
6	第８課　小説は好きなの？	前置詞「離」，前置詞「跟」、副詞「又」。	練習問題を解答する。
7	第９課　ファーストフード店は家から近い	副詞「就」，副詞「才」。	練習問題を解答する。
8	第９課　ファーストフード店は家から近い	結果補語「完」，文型「一・・・就・・・」。	練習問題を解答する。
9	第10課　北京ダックを食べたことある？	☆単元テスト２ 助詞「過」，助動詞「要」。	練習問題を解答する。
10	第10課　北京ダックを食べたことある？	副詞「再」，副詞「別」。	練習問題を解答する。
11	第11課　一緒に中国語を勉強した方がいいね	「把」構文，助動詞「会」，構造助詞「得」，副詞「只」。	練習問題を解答する。
12	第11課　一緒に中国語を勉強した方がいいね	助動詞「可以」，比較の「没有」，禁止表現「不要」。	練習問題を解答する。
13	第12課　もし彼と知り合いになりたいなら	助動詞「想」，仮定表現「要是」。	練習問題を解答する。
14	第12課　もし彼と知り合いになりたいなら	方向補語「来」。	練習問題を解答する。
15	おさらい	☆単元テスト３	練習問題を解答する。

関連科目	中国語Ⅱａ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	摂南大学　中国語入門	摂南大学外国語学部編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日辞典		
2	日中辞典		
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してよく読みましょう。事前・事後に各60分の学修を要する。
担当者の研究室等	非常勤講師室（７号館２階）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語Ⅱｂ	科目名（英文）	Chinese IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	２
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	今中　崇文
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	口語練習を重視し、中国語の発音に慣れてもらう。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第６課　今は３時５分前だ	「有」と「在」，疑問詞の使い方。	練習問題を解答する。
2	第６課　今は３時５分前だ	意見を求める言い方。	練習問題を解答する。
3	第７課　この前の土曜日映画を見に行った	副詞「経常」，例示の言い方。	練習問題を解答する。
4	第７課　この前の土曜日映画を見に行った	文型「是・・・還是・・・」。	練習問題を解答する。
5	第８課　小説は好きなの？	☆単元テスト１ 前置詞「従」と「到」，副詞「太」と「不太」。	練習問題を解答する。
6	第８課　小説は好きなの？	前置詞「離」，前置詞「跟」、副詞「又」。	練習問題を解答する。
7	第９課　ファーストフード店は家から近い	副詞「就」，副詞「才」。	練習問題を解答する。
8	第９課　ファーストフード店は家から近い	結果補語「完」，文型「一・・・就・・・」。	練習問題を解答する。
9	第 10 課　北京ダックを食べたことある？	☆単元テスト２ 助詞「過」，助動詞「要」。	練習問題を解答する。
10	第 10 課　北京ダックを食べたことある？	副詞「再」，副詞「別」。	練習問題を解答する。
11	第 11 課　一緒に中国語を勉強した方がいいね	「把」構文，助動詞「会」，構造助詞「得」，副詞「只」。	練習問題を解答する。
12	第 11 課　一緒に中国語を勉強した方がいいね	助動詞「可以」，比較の「没有」，禁止表現「不要」。	練習問題を解答する。
13	第 12 課　もし彼と知り合いになりたいなら	助動詞「想」，仮定表現「要是」。	練習問題を解答する。
14	第 12 課　もし彼と知り合いになりたいなら	方向補語「来」。	練習問題を解答する。
15	おさらい	☆単元テスト３	練習問題を解答する。

関連科目	中国語Ⅱａ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	摂南大学　中国語入門	摂南大学外国語学部編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日辞典		
2	日中辞典		
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してよく読みましょう。
担当者の研究室等	非常勤講師室（7号館２階）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語Ⅲａ	科目名（英文）	Chinese IIIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	欒　玉璽
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	前年度に学んだ中国語を基礎に，読む・聴く・話す・書くの四つの力をさらに総合的にバランスよく学習する。1年間で中国語の運用能力の中級レベル，中国語検定試験４級レベルに達することを目指す。
到達目標	中国での買い物や移動に困らないレベルの聞く力，話す力を目指す。
授業方法と留意点	音読や教材の会話文を使ったロールプレイなど音声面のタスクを重視します。毎回予習と復習を必ず行ってください。
科目学習の効果（資格）	前期終了時に中国語検定試験４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第一課 自我介紹（1） 本文・文法	1. 念書 2. 専業 3. 愛好 4. 対～感興趣	課文，会話本文をノートに書き写しておく。
2	第一課 自我介紹（2） 会話・練習問題	5. 為什麽 6. 因為～所以～ 7. 看来	授業までに練習問題を解答しておく。
3	第二課 我的家庭（1） 本文・文法	1. 在～長大的 2. 考大学/考上大学 3. 才 4. 除了～以外	課文，会話本文をノートに書き写しておく。
4	第二課我的家庭（2） 会話・練習問題	5. 当（老師） 6. 忙得要命 7. 很少＋動詞フレーズ 8. 発短信	授業までに練習問題を解答しておく。
5	第１回単元テスト	第一課・第二課復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙，文法項目を確認しておく。
6	第三課 我的一天（1） 本文・文法	1. 上（厠所） 2.「一節」と「第一節」 3.「分」と「分鐘」 4. 我家離学校比較遠。 5. 一个多小時	課文，会話本文をノートに書き写しておく。
7	第三課 我的一天（2） 会話・練習問題	6. 我在減肥。 7. 看看電視，聴聴音楽。 8. 我起得很早，睡得不太晩。 9. 雖然～，但是～	授業までに練習問題を解答しておく。
8	第四課 請假（1） 本文・文法	1. 如果～的話 2. 請假 3. 前置詞「向」 4. 請	課文，会話本文をノートに書き写しておく。
9	第四課 請假（2） 会話・練習問題	5. 別 6. 前置詞「対」 7. 替	授業までに練習問題を解答しておく。
10	第２回単元テスト	第三課・第四課復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙，文法項目を確認しておく。
11	第五課 約会（1） 本文・文法	1. 叫/你久等了 2. 星期六還是星期天？ 3. /你看几点合適？	課文，会話本文をノートに書き写しておく。
12	第五課 約会（2） 会話・練習問題	4. 那就星期天。 5. 反正我没什麽事儿。	授業までに練習問題を解答しておく。
13	第六課 快要考試了（1） 本文・文法	1. 今年夏天比往年来得早 2. 熱起来	課文，会話本文をノートに書き写しておく。
14	第六課 快要考試了（2） 会話・練習問題	3. 一放假，就身 4. 趁	授業までに練習問題を解答しておく。
15	第３回単元テスト	第五課・第六課復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙，文法項目を確認しておく。

関連科目	中国語Ⅰ，中国語Ⅱ，中国語Ⅳ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語中級	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので，欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。また休講があれば，その都度進度は順次繰り延べられるので注意すること。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
担当者の研究室等	７号館２階 非常勤講師室
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問

	い合わせることもできる。

科目名	中国語Ⅲｂ	科目名（英文）	Chinese IIIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	欒　玉璽
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	前年度に学んだ中国語を基礎に，読む・聴く・話す・書くの四つの力をさらに総合的にバランスよく学習する。1年間で中国語の運用能力の中級レベル，中国語検定試験４級レベルに達することを目指す。
到達目標	中国語 IIIa で学んだ事項を定着させるとともに発展させ，比較的優しい新聞記事などを辞書を使って読めるレベルを目指す。
授業方法と留意点	予習と復習を必ず行ってください。事前・事後に各 60 分の学修を要する。音読や教材の会話文を使ったロールプレイなど音声面のタスクを重視します。毎回予習と復習を必ず行ってください。
科目学習の効果（資格）	後期終了時に中国語検定試験４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第七課 中国的大学生活 (1) 本文・文法	1 無論～，都～ 2 有利于～ 3 上万元 4 為了	課文，会話本文をノートに書き写しておく。
2	第七課 中国的大学生活 (2) 会話・練習問題	5 一邊～，一邊～ 6 当家教 7 由 8 面臨着	授業までに練習問題を解答しておく。
3	第八課 中国菜　(1) 本文・文法	1 根据～不同，～也不一様 2 以～為主 3 雖然～，但是～	課文，会話本文をノートに書き写しておく。
4	第八課 中国菜　(2) 会話・練習問題	4 愛＋動詞 5 一提到～，就～ 6 即	授業までに練習問題を解答しておく。
5	第１回単元テスト	第七課・第八課復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙，文法項目を確認しておく。
6	第九課 中国的人口　(1) 本文・文法	1 也就是説 2 使 3 毎＋数量詞	課文，会話本文をノートに書き写しておく。
7	第九課 中国的人口　(2) 会話・練習問題	4 動詞＋起来 5 可是～，却～ 6 尽管～，但是～	授業までに練習問題を解答しておく。
8	第十課 中国的家庭　(1) 本文・文法	1 誰～誰～ 2 帰 3 在～上	課文，会話本文をノートに書き写しておく。
9	第十課 中国的家庭　(2) 会話・練習問題	4 把 5 看来	授業までに練習問題を解答しておく。
10	第２回単元テスト	第九課・第十課復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙，文法項目を確認しておく。
11	第十一課 中国人的交際 (1) 本文・文法	1 可見 2 誰也不白吃 3 被	課文，会話本文をノートに書き写しておく。
12	第十一課 中国人的交際 (2) 会話・練習問題	4 即使～，也～ 5 等 6 該我了	授業までに練習問題を解答しておく。
13	第十二課 漢語的外来語 (1) 本文・文法	1 譯自 2 動詞＋到	課文，会話本文をノートに書き写しておく。
14	第十二課 漢語的外来語 (2) 会話・練習問題	3 動詞＋成 4 対～来説	授業までに練習問題を解答しておく。
15	第３回単元テスト	第十一課・第十二課と習熟度確認	テスト範囲の語彙，文法項目を確認しておく。

関連科目	中国語Ⅰ，中国語Ⅱ，中国語 III

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語中級	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので，欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。また休講があれば，その都度進度は順次繰り延べられるので注意すること。
担当者の研究室等	７号館２階 非常勤講師室
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることも

科目名	中国語ＬＬＩａ	科目名（英文）	Chinese LL Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	馮　艶
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し，読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに，後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に，中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80%を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで，『摂南大学中国語Ｉa』を使用して，週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって，授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準 4 級または 4 級を受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	子音(4)，子音(5)	発音編 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	会話 1	第 1 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	会話 2	第 2 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	会話 3	第 3 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第 1 課～第 3 課まとめ	第 1 回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	会話 4	第 4 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	会話 5	第 5 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	会話 6	第 6 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	連動文	第 7 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	了 1，了 2	第 8 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	結果補語，介詞 6	第 9 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第 7 課～第 9 課まとめ	第 3 回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	会話 10	第 10 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	会話 11	第 11 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	会話 12	第 12 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を書く Ia」 「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語Ｉa	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	リレーの授業なので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
担当者の研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語ＬＬＩａ	科目名（英文）	Chinese LL Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	瀬戸　宏
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し，読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに，後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に，中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80%を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで，『摂南大学中国語Ｉa』を使用して，週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって，授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準 4 級または 4 級を受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	子音(4)，子音(5)	発音編 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	会話 1	第 1 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	会話 2	第 2 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	会話 3	第 3 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第 1 課～第 3 課まとめ	第 1 回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	会話 4	第 4 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	会話 5	第 5 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	会話 6	第 6 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	連動文	第 7 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	了 1，了 2	第 8 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	結果補語，介詞 6	第 9 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第 7 課～第 9 課まとめ	第 3 回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	会話 10	第 10 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	会話 11	第 11 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	会話 12	第 12 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を書く Ia」 「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語Ｉａ	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	リレーの授業なので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
担当者の研究室等	瀬戸研究室（7 号館３階）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語ＬＬＩｂ	科目名（英文）	Chinese LL Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	馮　艶
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し，読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに，この学期中に受験する中国語検定試験 4 級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末までに，中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで，『摂南大学中国語Ｉa』を使用して，週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって，授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験 4 級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	疑問代名詞「為什麼」，接続詞「因為」，「所以」，可能補語	第 13 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	使役文，被動文，複合方向補語	第 14 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	検定 4 級準備（1）リスニング	第 15 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	検定 4 級準備（2）長文読解	第 16 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	検定 4 級準備（3）長文読解	第 17 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第 15 課～17 課到達度確認	復習＋第 15 課～17 単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	検定 4 級準備（4）日文中訳	第 18 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	検定 4 級準備（5）日文中訳	第 19 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	検定 4 級準備（6）日文中訳	第 20 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	長文読解と既習事項確認 (1) 教材音読	第 21 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	長文読解と既習事項確認 (2) 日文中訳	第 22 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	長文読解と既習事項確認 (3) 語彙と発音	第 23 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第 21 課～23 課到達度確認	復習＋第 21 課～第 23 課単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	長文読解と既習事項確認 (4) 中文日訳	第 24 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	長文読解と既習事項確認 (5) 教材音読	第 25 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を話す Ib」「中国語を読む Ib」「中国語を書く Ib」 「ビジネス中国語 b」「映像中国語 b」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語Ｉｂ	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	リレーの授業なので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語ＬＬＩｂ	科目名（英文）	Chinese LL Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	瀬戸　宏
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し，読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに，この学期中に受験する中国語検定試験 4 級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末までに，中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで，『摂南大学中国語Ｉa』を使用して，週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって，授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験 4 級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	疑問代名詞「為什麼」，接続詞「因為」，「所以」，可能補語	第 13 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	使役文，被動文，複合方向補語	第 14 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	検定 4 級準備（1）リスニング	第 15 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	検定 4 級準備（2）長文読解	第 16 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	検定 4 級準備（3）長文読解	第 17 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第 15 課～17 課到達度確認	復習＋第 15 課～17 単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	検定 4 級準備（4）日文中訳	第 18 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	検定 4 級準備（5）日文中訳	第 19 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	検定 4 級準備（6）日文中訳	第 20 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	長文読解と既習事項確認 (1) 教材音読	第 21 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	長文読解と既習事項確認 (2) 日文中訳	第 22 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	長文読解と既習事項確認 (3) 語彙と発音	第 23 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第 21 課～23 課到達度確認	復習＋第 21 課～第 23 課単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	長文読解と既習事項確認 (4) 中文日訳	第 24 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	長文読解と既習事項確認 (5) 教材音読	第 25 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を話す Ib」「中国語を読む Ib」「中国語を書く Ib」 「ビジネス中国語 b」「映像中国語 b」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語Ｉｂ	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	リレーの授業なので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
担当者の研究室等	7 号館 3 階(瀬戸研究室)
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語ＬＬⅡａ	科目名（英文）	Chinese LL IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中西　正樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに，それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物や Web サイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験 3 級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 6 月末をめどに，中国語検定試験 3 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	これは中国語専攻クラスで統一教材『摂南大学中国語 IIa』を使う必修科目「中国語を話す IIa」「中国語を読む IIa」「中国語を聞く IIa」「中国語を書く IIa」のひとつである。授業はこの 4 科目がリレー式に行われるので，4 科目を履修していることを前提に進行する。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験 3 級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第 3 回	第 2 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第 7 回	第 4 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第 11 回	第 6 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第 15 回	第 8 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第 18 回	第 9 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第 22 回	第 11 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第 26 回	第 13 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第 30 回	第 11 話～第 15 話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第 34 回	第 17 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第 38 回	第 19 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第 42 回	第 21 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第 46 回	第 23 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第 50 回	第 21 話～第 25 話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第 54 回	第 27 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第 58 回	第 29 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目

「中国語会話 IIa」「中国語講読 IIa」「中国語作文 IIa」
「ビジネス中国語 IIa」「日中翻訳法 Ia」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 IIa	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。原則として事前・事後に各 60 時間の学修を要する.。
担当者の研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語ＬＬⅡａ	科目名（英文）	Chinese LL IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	兪　鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに，それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物や Web サイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験 3 級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 6 月末をめどに，中国語検定試験 3 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	これは中国語専攻クラスで統一教材『摂南大学中国語 IIa』を使う必修科目「中国語を話す IIa」「中国語を読む IIa」「中国語を聞く IIa」「中国語を書く IIa」のひとつである。授業はこの 4 科目がリレー式に行われるので，4 科目を履修していることを前提に進行する。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験 3 級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第 3 回	第 2 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第 7 回	第 4 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第 11 回	第 6 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第 15 回	第 8 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第 18 回	第 9 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第 22 回	第 11 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第 26 回	第 13 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第 30 回	第 11 話～第 15 話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第 34 回	第 17 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第 38 回	第 19 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第 42 回	第 21 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第 46 回	第 23 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第 50 回	第 21 話～第 25 話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第 54 回	第 27 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第 58 回	第 29 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語会話 IIa」「中国語講読 IIa」「中国語作文 IIa」 「ビジネス中国語 IIa」「日中翻訳法 Ia」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 IIa	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日辞典		
2	日中辞典		
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。原則として事前・事後に各 60 時間の学修を要する.。
担当者の研究室等	兪研究室（7 号館 3 階）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語ＬＬⅡｂ	科目名（英文）	Chinese LL IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	瀬戸　宏.中西　正樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるて，それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物やWebサイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験3級および2級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる11月末をめどに，中国語検定試験3級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも7割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻クラスの必修科目「中国語を話す IIb」「中国語を読む IIb」「中国語を聞く IIb」「中国語を書く IIb」のひとつで，これらの授業では共通教材『摂南大学中国語 IIb』をリレー式に使う。4 科目をすべて履修していることを前提として授業が進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験3級・2級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第2回	第1話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第6回	第3話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第10回	第5話後半・第1回～第10回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第13回	第7話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	2年生暗唱コンテスト	狐假虎威	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第17回	第9話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第24回	第12話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第28回	第14話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第32回	第16話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第36回	第18話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第40回	第20話後半・第31回～第40回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第44回	第22話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第48回	第24話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第53回	第27話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第56回	第28話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語会話 IIb」「中国語講読 IIb」「中国語作文 IIb」 「ビジネス中国語 IIb」「日中翻訳法 Ia」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 IIb	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。原則として事前・事後に各 60 時間の学修を要する.。
担当者の研究室等	瀬戸研究室（7号館3階）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語ＬＬⅡｂ	科目名（英文）	Chinese LL IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	兪　鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるて，それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物やWebサイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験３級および２級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末をめどに，中国語検定試験３級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも７割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻クラスの必修科目「中国語を話す IIb」「中国語を読む IIb」「中国語を聞く IIb」「中国語を書く IIb」のひとつで，これらの授業では共通教材『摂南大学中国語 IIb』をリレー式に使う。4 科目をすべて履修していることを前提として授業が進行することに注意。業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。 中
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験３級・２級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第２回	第１話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第６回	第３話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第 10 回	第５話後半・第１回～第 10 回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第 13 回	第７話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	２年生暗唱コンテスト	狐假虎威	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第 17 回	第９話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第 24 回	第 12 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第 28 回	第 14 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第 32 回	第 16 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第 36 回	第 18 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第 40 回	第 20 話後半・第 31 回～第 40 回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第 44 回	第 22 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第 48 回	第 24 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第 53 回	第 27 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第 56 回	第 28 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語会話 IIb」「中国語講読 IIb」「中国語作文 IIb」 「ビジネス中国語 IIb」「日中翻訳法 Ia」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 IIb	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日辞典		
2	日中辞典		
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。原則として事前・事後に各 60 時間の学修を要する.。
担当者の研究室等	兪研究室（7 号館３階）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語圏概論	科目名（英文）	Introduction to Cultures of the Chinese-Speaking World
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	今中　崇文
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	本授業では、映像を通じ、中国の社会や文化について広い視野で学ぶことが目的である。
到達目標	中国の社会や文化に関する事項は、中国語を学ぶ際に必ず出会うことであり、中国の人々と交流する際にも避けては通ることのできないものである。これらについて理解を深め、中国をめぐるさまざまな問題について意見を交わせるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	テーマに応じて毎回１本の中国映画を取り上げ、その鑑賞と解説を通じて授業を進める。
科目学習の効果（資格）	日本と関係の深い中国の社会を知ることにより、国際的な視野を広げ、今後の大学での学習における基礎力をつける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等についての説明	関連する文献を紹介するので読むこと。
2	中国の基礎知識１	中国の地理的特徴	関連する文献を紹介するので読むこと。
3	中国の基礎知識２	中国の歴史的概要	関連する文献を紹介するので読むこと。
4	新中国成立までの道のり１	中華人民共和国成立以前の政治と社会	関連する文献を紹介するので読むこと。
5	新中国成立までの道のり２	中華人民共和国成立以前の政治と社会	関連する文献を紹介するので読むこと。
6	中華人民共和国の成立１	中華人民共和国成立前後の政治と社会	関連する文献を紹介するので読むこと。
7	中華人民共和国の成立２	中華人民共和国成立前後の政治と社会	関連する文献を紹介するので読むこと。
8	中華人民共和国と台湾	中華人民共和国と台湾の関係、台湾の政治と社会	関連する文献を紹介するので読むこと。
9	中華人民共和国初期の諸政策１	大躍進政策、文化大革命などの諸政策と社会	関連する文献を紹介するので読むこと。
10	中華人民共和国初期の諸政策２	大躍進政策、文化大革命などの諸政策と社会	関連する文献を紹介するので読むこと。
11	現代中国の諸問題１	改革開放後の諸政策と社会問題	関連する文献を紹介するので読むこと。
12	現代中国の諸問題２	改革開放後の諸政策と社会問題	関連する文献を紹介するので読むこと。
13	現代中国の諸問題３	改革開放後の諸政策と社会問題	関連する文献を紹介するので読むこと。
14	映画からみえる中国社会	中国の社会と人びとの暮らし	関連する文献を紹介するので読むこと。
15	まとめ	授業全体のまとめとレポート	前期の授業内容を復習する。

関連科目	１年次必修の中国語各課目・中国関連の講義科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリント配布		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	レポート 70%、毎回の提出物 30%
学生へのメッセージ	授業中は私語などを慎み、集中して内容の理解に努めてください。事前・事後に各 60 分の学習が必要です。授業で取り上げた映画は、可能な限り、各自で再見するようにしてください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	連絡事項や質問のある場合は、授業当日（金曜日）、授業前後の休み時間か昼休みに非常勤講師室にお越しください。

科目名	中国語会話Ⅰa	科目名（英文）	Chinese Conversation Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大西　紀
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し，読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに，後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に，中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80%を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで，『摂南大学中国語Ⅰa』を使用して，週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって，授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。事前・事後に各 60 分の学修を要する。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	複母音(2)，鼻母音(1)	発音編 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	文末助詞，主述述語文	第 1 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	指示代名詞，反復疑問文，構造助詞 2	第 2 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	文末助詞 2，副詞 3	第 3 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	数詞 2，副詞 5	第 4 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	時間詞，名詞述語文	第 5 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	動詞「在」，副詞 6	第 6 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第 4 課～第 6 課まとめ	第 2 回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	会話 7	第 7 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	会話 8	第 8 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	会話 9	第 9 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	動量詞 2，副詞 11	第 10 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	疑問代名詞 4，能願動詞 3	第 11 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	進行文，接続詞 1	第 12 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第 10 課～第 12 課まとめ	第 4 回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」 「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語Ⅰa	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。
担当者の研究室等	７号館２階(非常勤講師室)
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語会話Ⅰa	科目名（英文）	Chinese Conversation Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	曹　櫻
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し，読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに，後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に，中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80%を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで，『摂南大学中国語Ⅰa』を使用して，週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって，授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。事前・事後に各 60 分の学修を要する。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	複母音(2)，鼻母音(1)	発音編 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	文末助詞，主述述語文	第 1 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	指示代名詞，反復疑問文，構造助詞 2	第 2 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	文末助詞 2，副詞 3	第 3 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	数詞 2，副詞 5	第 4 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	時間詞，名詞述語文	第 5 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	動詞「在」，副詞 6	第 6 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第 4 課～第 6 課まとめ	第 2 回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	会話 7	第 7 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	会話 8	第 8 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	会話 9	第 9 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	動量詞 2，副詞 11	第 10 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	疑問代名詞 4，能願動詞 3	第 11 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	進行文，接続詞 1	第 12 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第 10 課～第 12 課まとめ	第 4 回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目

「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」
「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語Ⅰa	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。
担当者の研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語会話Ⅰb	科目名（英文）	Chinese Conversation Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大西　紀
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し，読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに，この学期中に受験する中国語検定試験4級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる11月末までに，中国語検定試験4級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも6割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話すIa」「中国語を読むIa」「中国語を聞くIa」「中国語を書くIa」のひとつで，『摂南大学中国語Ⅰa』を使用して，週4回の授業をリレー式に連携して進める。したがって，授業はこの4科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験4級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	是～的構文	第13課1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	動態助詞「着」，気象現象	第14課1＋第13課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第13，14課文法と語彙の復習	第13課～14復習課	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	検定4級準備（1）文法	第15課3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	検定4級準備（2）日文中訳	第16課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	検定4級準備（3）日文中訳	第17課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	検定4級準備（4）長文読解	第18課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	検定4級準備（5）長文読解	第19課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	検定4級準備（6）長文読解	第20課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	長文読解と既習事項確認(1)語彙と発音	第21課1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第21課到達度確認	復習＋第21課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	長文読解と既習事項確認(2)中文日訳	第22課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	長文読解と既習事項確認(3)教材音読	第23課3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	長文読解と既習事項確認(4)日文中訳	第24課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第24課～25課到達度確認	復習＋第24課～第25課単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を読むIb」「中国語を聞くIb」「中国語を書くIb」 「ビジネス中国語b」「映像中国語b」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語Ⅰb	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各60分の学修を要する。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語会話Ⅰb	科目名（英文）	Chinese Conversation Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	曹　櫻
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し，読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに，この学期中に受験する中国語検定試験4級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる11月末までに，中国語検定試験4級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも6割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話すIa」「中国語を読むIa」「中国語を聞くIa」「中国語を書くIa」のひとつで，『摂南大学中国語Ⅰa』を使用して，週4回の授業をリレー式に連携して進める。したがって，授業はこの4科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験4級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	是～的構文	第13課1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	動態助詞「着」，気象現象	第14課1＋第13課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第13，14課文法と語彙の復習	第13課～14復習課	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	検定4級準備（1）文法	第15課3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	検定4級準備（2）日文中訳	第16課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	検定4級準備（3）日文中訳	第17課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	検定4級準備（4）長文読解	第18課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	検定4級準備（5）長文読解	第19課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	検定4級準備（6）長文読解	第20課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	長文読解と既習事項確認(1)語彙と発音	第21課1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第21課到達度確認	復習＋第21課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	長文読解と既習事項確認(2)中文日訳	第22課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	長文読解と既習事項確認(3)教材音読	第23課3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	長文読解と既習事項確認(4)日文中訳	第24課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第24課～25課到達度確認	復習＋第24課～第25課単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を読むIb」「中国語を聞くIb」「中国語を書くIb」 「ビジネス中国語b」「映像中国語b」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語Ⅰb	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各60分の学修を要する。
担当者の研究室等	非常勤講師室（7号館2階）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることも

科目名	中国語会話Ⅱa	科目名（英文）	Chinese Conversation IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	段　飛虹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに，それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物やWebサイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験３級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる６月末をめどに，中国語検定試験３級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも６割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	これは中国語専攻クラスで統一教材『摂南大学中国語 IIa』を使う必修科目「中国語を話す IIa」「中国語を読む IIa」「中国語を聞く IIa」「中国語を書く IIa」のひとつである。授業はこの４科目がリレー式に行われるので，４科目を履修していることを前提に進行する。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験３級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第１回	第１話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第５回	第３話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第９回	第５話	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第 13 回	第７話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第 20 回	第６話～第 10 話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第 24 回	第 12 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第 28 回	第 14 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第 32 回	第 16 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第 36 回	第 18 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第 40 回	第 16 話～第 20 話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第 44 回	第 22 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第 48 回	第 24 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第 52 回	第 26 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第 56 回	第 28 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第 60 回	第 26 話～第 30 話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語講読 IIa」「中国語 LLIIa」「中国語作文 IIa」 「ビジネス中国語 IIa」「日中翻訳法 Ia」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 IIa	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
担当者の研究室等	７号館２階(非常勤講師室)
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語会話Ⅱa	科目名（英文）	Chinese Conversation IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	曹　櫻
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに，それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物や Web サイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験 3 級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 6 月末をめどに，中国語検定試験 3 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	これは中国語専攻クラスで統一教材『摂南大学中国語 IIa』を使う必修科目「中国語を話す IIa」「中国語を読む IIa」「中国語を聞く IIa」「中国語を書く IIa」のひとつである。授業はこの 4 科目がリレー式に行われるので，4 科目を履修していることを前提に進行する。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験 3 級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第 1 回	第 1 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第 5 回	第 3 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第 9 回	第 5 話	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第 13 回	第 7 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第 20 回	第 6 話～第 10 話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第 24 回	第 12 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第 28 回	第 14 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第 32 回	第 16 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第 36 回	第 18 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第 40 回	第 16 話～第 20 話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第 44 回	第 22 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第 48 回	第 24 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第 52 回	第 26 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第 56 回	第 28 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第 60 回	第 26 話～第 30 話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目

「中国語講読 IIa」「中国語 LLIIa」「中国語作文 IIa」
「ビジネス中国語 IIa」「日中翻訳法 Ia」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 IIa	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
担当者の研究室等	７号館２階(非常勤講師室)
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語会話Ⅱb	科目名（英文）	Chinese Conversation IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	段　飛虹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるて，それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物やWebサイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験３級および２級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末をめどに，中国語検定試験３級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも７割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻クラスの必修科目「中国語を話す IIb」「中国語を読む IIb」「中国語を聞く IIb」「中国語を書く IIb」のひとつで，これらの授業では共通教材『摂南大学中国語 IIb』をリレー式に使う。4 科目をすべて履修していることを前提として授業が進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験３級・２級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第４回	第２話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第８回	第４話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第 15 回	第８話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第 19 回	第 10 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第 22 回	第 11 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第 26 回	第 13 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第 30 回	第 15 話後半・第 21 回～第 30 回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第 34 回	第 17 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第 38 回	第 19 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第 42 回	第 21 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第 46 回	第 23 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第 50 回	第 25 話後半・第 41 回～第 50 回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第 51 回	第 26 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第 58 回	第 29 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第 59 回	第 30 話前半・第 51 回～第 59 回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語講読 IIb」「中国語 LLIIb」「中国語作文 IIb」 「ビジネス中国語 IIb」「日中翻訳法 Ia」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 IIb	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
担当者の研究室等	７号館２階(非常勤講師室)
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語会話Ⅱb	科目名（英文）	Chinese Conversation IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	曹　櫻
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるて，それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物やWebサイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験３級および２級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末をめどに，中国語検定試験３級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも７割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻クラスの必修科目「中国語を話す IIb」「中国語を読む IIb」「中国語を聞く IIb」「中国語を書く IIb」のひとつで，これらの授業では共通教材『摂南大学中国語 IIb』をリレー式に使う。4 科目をすべて履修していることを前提として授業が進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験３級・２級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第４回	第２話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第８回	第４話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第 15 回	第８話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第 19 回	第 10 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第 22 回	第 11 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第 26 回	第 13 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第 30 回	第 15 話後半・第 21 回～第 30 回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第 34 回	第 17 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第 38 回	第 19 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第 42 回	第 21 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第 46 回	第 23 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第 50 回	第 25 話後半・第 41 回～第 50 回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第 51 回	第 26 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第 58 回	第 29 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第 59 回	第 30 話前半・第 51 回～第 59 回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目

「中国語講読 IIb」「中国語 LLIIb」「中国語作文 IIb」
「ビジネス中国語 IIb」「日中翻訳法 Ia」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 IIb	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
担当者の研究室等	７号館２階(非常勤講師室)
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語会話表現法Ⅰa	科目名（英文）	Chinese Speaking Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	馮　艶
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この授業は習得した基礎文法を応用できるようにする中国語会話授業です。中国の「社会事情」「文化風習」といった身近な話題で、楽しく文法事項や表現を学習し、文法練習、会話練習とリスニング練習によって、中国語のコミニュケーション能力の向上を目指します。
到達目標	文法練習、会話練習とリスニング練習によって、会話力を高める。
授業方法と留意点	授業に積極的に参加する態度が望まれる。
科目学習の効果（資格）	中国人とのコミュニケーションに必要な会話力をつけること。自らの表現能力を高めることも可能である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第一課　外国の祭日を祝う１	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第一課　外国の祭日を祝う２	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第二課　ストレート１	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第二課　ストレート２	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	会話	会話文を作成する。 会話を練習する。	会話発表を準備する。
6	第三課　軍事訓練１	文法説明・本文読み練習・翻訳 会話発表	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第三課　軍事訓練２	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第四課　レストラン１	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第四課　レストラン２	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	会話	会話文を作成する。 会話を練習する。	会話発表を準備する。
11	第五課　母親と息子１	文法説明・本文読み練習・翻訳 会話発表	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第五課　母親と息子２	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第六課　病人の付き添い１	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第六課　病人の付き添い２	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	総復習	全体の総括。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目：特になし。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現代中国 12 話	黄漢青/杉野元子	白帝社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	口頭および筆記による小テストを数回に分けて実施し，これらをもとに成績を評価する。 授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	中国語で自分の考えを表現できるようになることを最大の目的とするので、授業では自ら進んで発表したり意見を述べたりするなど積極的な参与を望みたい。事前・事後に各 60 分の学修を要する.。
担当者の研究室等	７号館２階(非常勤講師室)
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語会話表現法Ｉｂ	科目名（英文）	Chinese Speaking Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	馮　艶
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この授業は習得した基礎文法を応用できるようにする中国語会話授業です。中国の「社会事情」「文化風習」といった身近な話題で、楽しく文法事項や表現を学習し、文法練習、会話練習とリスニング練習によって、中国語のコミニュケーション能力の向上を目指します。
到達目標	文法練習、会話練習とリスニング練習によって、会話力を高める。
授業方法と留意点	授業に積極的に参加する態度が望まれる。
科目学習の効果（資格）	中国人とコミュニケーションするのに必要な会話力をつけること。自らの表現能力を高めることも可能である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第七課　ビザ１	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第七課　ビザ２	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第八課　待遇１	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第八課　待遇２	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	会話	会話文を作成する。 会話を練習する。	会話発表を準備する。
6	第九課　北京の空１	文法説明・本文読み練習・翻訳 会話発表	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第九課　北京の空２	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第十課　ボ-イフレンド１	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第十課　ボ-イフレンド２	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	会話	会話文を作成する。 会話を練習する。	会話発表を準備する。
11	第十一課　思いもよらなかった１	文法説明・本文読み練習・翻訳 会話発表	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第十一課　思いもよらなかった２	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第十二課　ベ-ト-ヴェンと模範劇１	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第十二課　ベ-ト-ヴェンと模範劇２	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	総復習	全体の総括	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	特になし。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現代中国 12 話	黄漢青／杉野元子	白帝社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%ト
学生へのメッセージ	中国語で自分の考えを表現できるようになることを最大な目的とするので、授業では自ら進んで発表したり意見を述べたりするなど積極的な参与を望みたい。原則として事前・事後に各 60 分の学修を要する.。
担当者の研究室等	７号館２階(非常勤講師室)
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語会話表現法Ⅱa	科目名（英文）	Chinese Speaking IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	孫　輝
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本講義は日本と中国、二つの国の人々の力を結び付けて成功したドラマ「大地の子」を教材にすることにより、出場人物の感情のこもった生の中国語に接し、その言葉遣い、口調、息遣いを肌で感じ取りながら、中国語表現能力、会話能力の向上を図る。また、ドラマのストーリーと出場人物の運命や喜怒哀楽を通じて、中国の文化や風土人情、中国人の価値観などを知ることができる。〞
到達目標	生きた中国語会話を身に付け、中国文化への理解を深める。
授業方法と留意点	ドラマを数回に分けて授業をするので、継続して授業に出ることが望ましい。
科目学習の効果（資格）	中国人との交流に必要な会話能力を身に付ける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業の内容、履修方法、評価方法の紹介	ドラマを観賞１	
2	第１部　苦難の歳月 1　「父」と呼ぶ	CDを聞きながら、セリフを聞き取る。 セリフの発音、意味の確認。 重要単語、文法、文型を解説する。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰返し朗読。
3	2　初恋	CDを聞きながら、セリフを聞き取る。 セリフの発音、意味の確認。 重要単語、文法、文型を解説する。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰返し朗読。
4	まとめ１、総合練習、小テスト１	ドラマを観賞２	第１部の授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰返し朗読。
5	第２部　労働改造農場 3　日本語を学ぶ	CDを聞きながら、セリフを聞き取る。 セリフの発音、意味の確認。 重要単語、文法、文型を解説する。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰返し朗読。
6	4　病気になる	CDを聞きながら、セリフを聞き取る。 セリフの発音、意味の確認。 重要単語、文法、文型を解説する。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰返し朗読。
7	5　直訴	CDを聞きながら、セリフを聞き取る。 セリフの発音、意味の確認。 重要単語、文法、文型を解説する。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰返し朗読。
8	6　父と子の再会	CDを聞きながら、セリフを聞き取る。 セリフの発音、意味の確認。 重要単語、文法、文型を解説する。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰返し朗読。
9	まとめ2、総合練習、小テスト２	ドラマを観賞３	第２部の授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰返し朗読。
10	第３部　一家を成す 7　出会い	CDを聞きながら、セリフを聞き取る。 セリフの発音、意味の確認。 重要単語、文法、文型を解説する。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰返し朗読。
11	8　父と娘	CDを聞きながら、セリフを聞き取る。 セリフの発音、意味の確認。 重要単語、文法、文型を解説する。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰返し朗読。
12	9　長城に登る	CDを聞きながら、セリフを聞き取る。 セリフの発音、意味の確認。 重要単語、文法、文型を解説する。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰返し朗読。
13	10　出国の準備	CDを聞きながら、セリフを聞き取る。 セリフの発音、意味の確認。 重要単語、文法、文型を解説する。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰返し朗読。
14	まとめ３、総合練習、小テスト	ドラマを観賞４	第３部の授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰返し朗読。
15	発表会	前期学ぶ内容を中心にして発表を行う。	発表内容を事前に準備する。

関連科目：中国語原書講読Ⅰab

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリント配布		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	中国語で自分の考えを表現できるようになることを最大な目的とするので、授業では自ら進んで発表したり意見を述べたりするなど積極的な参加を望みたい。事前・事後に各60時間の学修を要する.。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語会話表現法Ⅱb	科目名（英文）	Chinese Speaking IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	孫　輝
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	前期同様本講義は日本と中国、二つの国の人々の力を結び付けて成功したドラマ「大地の子」を教材にすることにより、出場人物の感情のこもった生の中国語に接し、その言葉遣い、口調、息遣いを肌で感じ取りながら、中国語表現能力、会話能力の向上を図る。また、ドラマのストーリーと出場人物の運命や喜怒哀楽を通じて、中国の文化や風土人情、中国人の価値観などを知ることができる。〞
到達目標	生きた中国語会話を身に付け、中国文化への理解を深める。
授業方法と留意点	ドラマを数回に分けて授業をするので、継続して授業に出ることが望ましい。
科目学習の効果（資格）	中国人との交流に必要な会話能力を身に付ける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第４部　親子の再会 11　兄と妹	前期の内容を復習してから、CD を聞きながら、セリフを聞き取る。 セリフの発音、意味の確認。 重要単語、文法、文型を解説する。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰返し朗読。
2	12　追憶	CD を聞きながら、セリフを聞き取る。 セリフの発音、意味の確認。 重要単語、文法、文型を解説する。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰返し朗読。
3	13　訪問	CD を聞きながら、セリフを聞き取る。 セリフの発音、意味の確認。 重要単語、文法、文型を解説する。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰返し朗読。
4	14　心配	CD を聞きながら、セリフを聞き取る。 セリフの発音、意味の確認。 重要単語、文法、文型を解説する。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰返し朗読。
5	まとめ４　総合練習、小テスト	ドラマを観賞	第４部の授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰返し朗読。
6	第５部　降りってわいた災難 15　焼香	CD を聞きながら、セリフを聞き取る。 セリフの発音、意味の確認。 重要単語、文法、文型を解説する。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰返し朗読。
7	16　書類紛失	CD を聞きながら、セリフを聞き取る。 セリフの発音、意味の確認。 重要単語、文法、文型を解説する。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰返し朗読。
8	17　冤罪	CD を聞きながら、セリフを聞き取る。 セリフの発音、意味の確認。 重要単語、文法、文型を解説する。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰返し朗読。
9	18　別れ	CD を聞きながら、セリフを聞き取る。 セリフの発音、意味の確認。 重要単語、文法、文型を解説する。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰返し朗読。
10	19　丹青との再会	CD を聞きながら、セリフを聞き取る。 セリフの発音、意味の確認。 重要単語、文法、文型を解説する。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰返し朗読。
11	まとめ５、総合練習、小テスト	ドラマを観賞	第５部の授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰返し朗読。
12	第６部　大地に帰る 20　長江に遊ぶ	CD を聞きながら、セリフを聞き取る。 セリフの発音、意味の確認。 重要単語、文法、文型を解説する。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰返し朗読。
13	21　西蒙古に帰る	CD を聞きながら、セリフを聞き取る。 セリフの発音、意味の確認。 重要単語、文法、文型を解説する。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰返し朗読。
14	まとめ６、総合練習、小テスト	ドラマを観賞	第６部の授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰返し朗読。
15	発表会	後期学ぶ内容を中心にして発表を行う。	発表内容を事前に準備する。

関連科目：中国語原書講読Ⅰab

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリント配布		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	中国語で自分の考えを表現できるようになることを最大な目的とするので、授業では自ら進んで発表したり意見を述べたりするなど積極的な参加を望みたい。原則として事前・事後に各 60 時間の学修を要する.。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語学Ⅰ	科目名（英文）	Chinese Linguistics Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中西　正樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	中国語は地域的な広がり、及び歴史的な広がりにおいてきわめて多様な言語である。その多様性をつなぐのが漢字であるが、漢字は基本的には表意文字であるため、文字に含まれるそれぞれの部品の意味を知ることで、文字全体の意味を解釈できる。 本講義では藤堂明保著『漢字語源辞典』の単語家族に関する記述を参考にしながら、上古（周代）漢語の音韻体系と甲骨文字や金文を手がかりに、形と意味の関係を探り、古代人のものの見方や発想法について考える。
到達目標	日常使用する漢字について，それを構成する部品が何の象形なのか，どのような意味を担っているのか，それらを組み合わすことで何を表現しているのかを説明できるようになることを目指す。また，未知の漢字に接した時もその意味や読音を推測できるようにする。
授業方法と留意点	一回の授業で４～５の漢字家族をとりあげ、その本来の意味や漢字の構成を考えていく。受講生にも意見を求める。
科目学習の効果（資格）	中国語教職科目（中国語の分野）。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	人体・姿勢	人・女・子・鬼・兄…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
2	身体部位 1	頭・毛・目・耳・口…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
3	身体部位 2	手・足…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
4	動物 1	牛・馬・羊…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
5	動物 2	犬・鹿・豚…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
6	動物 3	鳥・虫・蛇…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
7	天体・気象	日・月・水…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
8	鉱物	土・火・金…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
9	人工物	高・示…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
10	器具 1	方・網・工…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
11	器具 2	玉・父・車…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
12	器具 3	刀・辛・戈…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
13	動作	又・口・之…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
14	状態	束・阜・変…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
15	形状	宇・王・弗…	――――

関連科目：中国語の語学科目を履修しておくこと。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリント配布		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	常用漢字コアイメージ辞典	加納喜光	中央公論社
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト及び単元テスト 80% 授業参加度や提出物 20%
学生へのメッセージ	講義の内容をノートする必要は言うまでもないが、試験では複数の語から１つの共通性を帰納する能力を評価する。語の音と意味がいかに密接に結びついているかを授業を通して理解してほしい。事前・事後学習に 1.5 時間ずつ要する。
担当者の研究室等	7 号館 3 階(中西研究室)
備考	

科目名	中国語学Ⅱ	科目名（英文）	Chinese Linguistics II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	兪　鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	中国語学習において、混同しやすい類義語を使い分けることが非常に大切なことである。本講義は、日常での類義語、つまり中級段階でよく使われ、誤用が生じやすく、質問が多いものを取り上げて、中国語の語彙力（分析力、理解力、運用力）を高めることを目的とする。
到達目標	中国語検定試験２級合格を目指す。
授業方法と留意点	授業では、２つ～３つのテーマについて口述解説とドリルを中心に行う。
科目学習の効果（資格）	中国語の能力の向上、中国語検定試験の合格などに役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	「一点、有点、一下」「次、遍」	混同しやすい中国語のニュアンスや使い方の違いを解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 212－224
2	「也許、可能、大概、恐怕」「一定、肯定」	混同しやすい中国語のニュアンスや使い方の違いを解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 196－210
3	「給、替、爲」「大概、一般、差不多」「像、好像」	混同しやすい中国語のニュアンスや使い方の違いを解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 178―195
4	「又、再」「往、朝」「対、跟」	混同しやすい中国語のニュアンスや使い方の違いを解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 160－177 指定した範囲を復習する。
5	「時間、時候、時」「男性、男人、男的、男」	混同しやすい中国語のニュアンスや使い方の違いを解説。ドリルで攻略。 ☆単元テスト１	テキスト p. 146―158
6	「送、寄、発」「去、走」	混同しやすい中国語のニュアンスや使い方の違いを解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 8－19
7	「会、能」「看、看見、看得見」	混同しやすい中国語のニュアンスや使い方の違いを解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 20－31
8	「在、有」「説、講、告訴」「幇、幇助、幇忙」	混同しやすい中国語のニュアンスや使い方の違いを解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 32－49
9	「做、干」「見面、見、見到」	混同しやすい中国語のニュアンスや使い方の違いを解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 50－61 指定した範囲を復習する。
10	「合格、及格、考上、考取」「変、変成、改変」	混同しやすい中国語のニュアンスや使い方の違いを解説。ドリルで攻略。 ☆単元テスト２	テキスト p. 62－76
11	「知道、明白」「想、覚得、以爲」	混同しやすい中国語のニュアンスや使い方の違いを解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 78－8 9
12	「覚得、感覚、感得」「愛、喜歓」	混同しやすい中国語のニュアンスや使い方の違いを解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 90－104
13	「好看、漂亮、美」「暖和、温暖、温和」「可怕、害怕、怕」	混同しやすい中国語のニュアンスや使い方の違いを解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 106－123
14	「放松、軽松」「必要、需要」「高興、開心、愉快」	混同しやすい中国語のニュアンスや使い方の違いを解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 124－144 指定した範囲を復習する。
15	まとめ	重要な部分をおさらいする。 ☆単元テスト３	おさらいドリル p. 74, p. 102, p. 142, p. 158, p. 208

関連科目	「中国語学Ⅰ」など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語　類義語使い分けドリル	柴　森	NHK 出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	例文で覚える中国語類義語 1000	日本語版監修：平山邦彦	ASK
2			
3			

評価方法（基準）	提出物 30%、単元テスト 70%。
学生へのメッセージ	授業中は私語などを慎み、集中して授業内容の理解に努めましょう。
担当者の研究室等	7 号館 3 階(兪研究室)
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語原書講読Ⅰa	科目名（英文）	Reading Contemporary Chinese Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	孫　輝
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	最近、中国人観光客の増加により、日本観光市場が新しい段階を迎えようとしている。東京だけではなく、関西でも中国人観光客が増え、空港や商店などで中国語を話す声があちこちから聞こえて来る。乗務員や空港スタッフ、旅行案内、ホテルや商店の店員など、いま日本は中国語の話せる人材を大いに必要としている。観光やビジネスで中国語が話せたら、世界はもっと広がろう。 本講義は、中国一番の大都市ー上海をスポットとして、空港、地下鉄に乗る、ショッピング、道を尋ねるなどでよく使われている最新の観光中国語会話を学んでいくことを主眼にしている。また、中国の世界遺産も詳しく紹介する。
到達目標	観光中国語の会話能力を身に付ける。
授業方法と留意点	授業時に、積極的にペア練習と発表を行う。
科目学習の効果（資格）	中国人の観光客を案内する能力を身に付ける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業内容、履修方法、評価方法の紹介、復習課	LOVE！上海１の復習課	授業内容を復習、次の内容を予習する。
2	第１課　虹橋空港にて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
3	第２課　地下鉄に乗って	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
4	第３課　上海の交通は便利です	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
5	第４課　2週間上海にいます	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
6	第 5 課　豫園でショッピング	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
7	復習１、総合練習、小テスト	第５課までの内容を復習する	第５課までの内容を復習、次のの内容を予習する。
8	第６課　道を尋ねる	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
9	第 7 課　オールドジャズバンド	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
10	第 8 課　ジャズバーで飲みながら	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
11	第 9 課　上海人の友達の家で	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
12	第 10 課　朝食後は何をする？	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
13	第 11 課　市場にて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
14	復習２、総合練習、小テスト	第６課から第 11 課までの内容を復習する	第６課から第 11 課までの内容を復習、発表の内容を準備する。
15	発表会	発表の内容をチャックする	発表の内容を暗唱する

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	LOVE！上海２　初級～中級編	楊凱栄・張麗群	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト、発表、授業に取り組む姿勢などを総合して評価する。 授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	最近中国からの観光客が増えています、この授業で身に付ける観光中国語がいつかどこかで役に立つはずです。
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	事前・事後に各 60 分の学修を要する。 授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語原書講読Ⅰb	科目名（英文）	Reading Contemporary Chinese Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	孫　輝
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	最近、中国人観光客の増加により、日本観光市場が新しい段階を迎えようとしている。東京だけではなく、関西でも中国人観光客が増え、空港や商店などで中国語を話す声があちこちから聞こえて来る。乗務員や空港スタッフ、旅行案内、ホテルや商店の店員など、いま日本は中国語の話せる人材を大いに必要としている。観光やビジネスで中国語が話せたら、世界はもっと広がろう。 本講義は、中国一番の大都市ー上海をスポットとして、空港、地下鉄に乗る、ショッピング、道を尋ねるなどでよく使われている最新の観光中国語会話を学んでいくことを主眼にしている。また、中国の世界遺産も詳しく紹介する。
到達目標	観光中国語の会話能力を身に付ける。
授業方法と留意点	授業時に、積極的にペア練習と発表を行う。
科目学習の効果（資格）	中国人の観光客を案内する能力を身に付ける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業内容、履修方法、評価方法の紹介、第 12 課　上海人も好きです	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
2	第 13 課　日本料理を食べてみたい	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
3	第 14 課　お寺に興味はありますか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
4	第 15 課　日本料理を食べて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
5	復習 3、総合練習、小テスト	第 12 課から第 15 課までの内容を復習する	授業内容を復習、次の内容を予習する。
6	第 16 課　散歩から帰って	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
7	第 17 課　列車のチケット	単語、本文、文法、練習	第 5 課までの内容を復習、次のの内容を予習する。
8	第 18 課　周庄は遠いですか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
9	第 19 課　帰国前のひととき	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
10	復習 4 、総合練習、小テスト	第 16 課から第 19 課までの内容を復習する	授業内容を復習、次の内容を予習する。
11	第 20 課　留学したいですか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
12	第 21 課　何時に出発しますか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
13	第 22 課　また来てください	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
14	復習 5、総合練習、小テスト	第 20 課から第 22 課までの内容を復習する	発表の内容を準備する。
15	発表会	発表の内容をチャックする	発表の内容を暗唱する

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	LOVE！上海２　初級～中級編	楊凱栄・張麗群	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト、発表、授業に取り組む姿勢などを総合して評価する。 授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	最近中国からの観光客が増えています、この授業で身に付ける観光中国語がいつかどこかで役に立つはずです。
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語原書講読Ⅱａ	科目名（英文）	Reading Contemporary Chinese IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中西　正樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本授業はビジネス現場のいろんな場面に合わせて、実用性のある表現と中国の商習慣や文化を勉強し、将来ビジネス現場で役立つ知識を習得する。
到達目標	中国語検定２級、準１級合格を目指す。
授業方法と留意点	単語の習得を重視し、語彙力を高める。新しい言葉を辞書で調べておくこと。
科目学習の効果（資格）	通訳案内士試験の受験。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第１課　上班途中	単語と会話文の勉強、会話文の翻訳	単語と会話文の暗記
2	第１課　上班途中	前回の内容の確認、自由会話の作成	中国と日本の会社における役職名を覚える
3	第２課　早晨?始工作	単語と会話文の勉強、会話文の翻訳	単語と会話文の暗記
4	第２課　早晨?始工作	前回の内容の確認、自由会話の作成	中国語の敬語表現ベスト 20 を覚える
5	第３課　早晨的工作会?	単語と会話文の勉強、会話文の翻訳	単語と会話文の暗記
6	第３課　早晨的工作会?	前回の内容の確認、自由会話の作成	中国と日本の企業文化の内容確認
7	第４課　接??	単語と会話文の勉強、会話文の翻訳	単語と会話文の暗記
8	第４課　接??	前回の内容の確認、自由会話の作成	電話の応対でよく使うフレーズを覚える
9	第５課　安排拜?客?	単語と会話文の勉強、会話文の翻訳	単語と会話文の暗記
10	第５課　安排拜?客?	前回の内容の確認、自由会話の作成	中国の経済発展の軌跡の内容確認
11	第６課　接待客人	単語と会話文の勉強、会話文の翻訳	単語と会話文の暗記
12	第６課　接待客人	前回の内容の確認、自由会話の作成	縁起の良くない贈答品と無難なお土産の確認
13	第７課　公司面?	単語と会話文の勉強、会話文の翻訳	単語と会話文の暗記
14	第７課　公司面?	前回の内容の確認、自由会話の作成	中国人の苗字の由来の確認
15	復習（第１～７課）	第１～７課の復習 ☆単元テスト３	

関連科目	「中国語原書講読Ⅱｂ」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジネス現場の中国語	北原　恵　　韓軍	東方書店
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	最新の時事用語を覚えましょう。事前・事後に各 60 分の学修を要する.。
担当者の研究室等	7 号館２階（非常勤講師室）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語原書講読Ⅱb	科目名（英文）	Reading Contemporary Chinese IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	今中　崇文
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本授業は経済・法律・政治・産業から科学技術・文学・スポーツ・芸能まで、中国の現状を語る中国語文章を講読し、中国語を日本語に翻訳する技術を習得する。
到達目標	中国語検定２級、準１級合格を目指す。
授業方法と留意点	単語の習得を重視し、語彙力を高める。新しい言葉は辞書で調べておくこと。
科目学習の効果（資格）	通訳案内士試験の受験。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第８課　北京，想説愛?不容易	講読と中文日訳。	声を出して読んでおく。単語の練習帳を作る。
2	第８課　北京，想説愛 ni 不容易	講読（元の新聞記事）。	練習問題 p. 100 声を出して読んでおく。単語を覚える。
3	第９課　用麻将，築起新的和平長城	講読と中文日訳。	声を出して読んでおく。単語の練習帳を作る。
4	第９課　用麻将，築起新的和平長城	講読（元の新聞記事）。	練習問題 p. 101 練声を出して読んでおく。単語を覚える。
5	第 10 課　中国老人生存之現状	講読と中文日訳。 ☆単元テスト１	声を出して読んでおく。単語の練習帳を作る。
6	第 10 課　中国老人生存之現状	講読（元の新聞記事）。	練習問題 p. 102 声を出して読んでおく。単語を覚える。
7	第 11 課　景美魚肥俊巴村	講読と中文日訳。	声を出して読んでおく。単語の練習帳を作る。
8	第 11 課　景美魚肥俊巴村	講読（元の解説文）。	練習問題 p. 103 声を出して読んでおく。単語を覚える。
9	第 12 課　中国将無人 ti 球	講読と中文日訳。	声を出して読んでおく。単語の練習帳を作る。
10	第 12 課　中国将無人球	講読（元の新聞記事）。 ☆単元テスト２	練習問題 p. 104 声を出して読んでおく。単語を覚える。
11	第 13 課　譲大運河再活両千年	講読と中文日訳。	声を出して読んでおく。単語の練習帳を作る。
12	第 13 課　譲大運河再活両千年	講読（元の新聞記事）。	練習問題 p. 105 声を出して読んでおく。単語を覚える。
13	第 14 課　制服話題二則	講読と中文日訳。	声を出して読んでおく。単語の練習帳を作る。
14	第 14 課　制服話題二則	講読（元の新聞記事）。	練習問題 p. 106 声を出して読んでおく。単語を覚える。
15	復習（第８～14 課）	第８～14 課の復習 ☆単元テスト３	

関連科目：「中国語原書講読Ⅱa」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	2015 年度　時事中国語の教科書　中国夢	三潴正道・陳祖 pei	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	最新の時事用語を覚えましょう。原則として事前・事後に各 60 分の学修を要する.。
担当者の研究室等	7 号館３階（兪研究室）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語語彙論	科目名（英文）	Chinese Lexicology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	兪　鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2△		

授業概要・目的	中国語学習において、混同しやすい類義語を使い分けることが非常に大切なことである。本講義は、日常での類義語、つまり中級段階でよく使われ、誤用が生じやすく、質問が多いものを取り上げて、中国語の語彙力（分析力、理解力、運用力）を高めることを目的とする。
到達目標	中国語検定試験２級合格を目指す。
授業方法と留意点	授業では、２つ～３つのテーマについて口述解説とドリルを中心に行う。
科目学習の効果（資格）	中国語の能力の向上、中国語検定試験の合格などに役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	「一点、有点、一下」「次、遍」	混同しやすい中国語のニュアンスや使い方の違いを解説。ドリルで攻略。	テキスト p.212－224
2	「也許、可能、大概、恐怕」「一定、肯定」	混同しやすい中国語のニュアンスや使い方の違いを解説。ドリルで攻略。	テキスト p.196－210
3	「給、替、爲」「大概、一般、差不多」「像、好像」	混同しやすい中国語のニュアンスや使い方の違いを解説。ドリルで攻略。	テキスト p.178―195
4	「又、再」「往、朝」「対、跟」	混同しやすい中国語のニュアンスや使い方の違いを解説。ドリルで攻略。	テキスト p.160－177 指定した範囲を復習する。
5	「時間、時候、時」「男性、男人、男的、男」	混同しやすい中国語のニュアンスや使い方の違いを解説。ドリルで攻略。 ☆単元テスト１	テキスト p.146―158
6	「送、寄、発」「去、走」	混同しやすい中国語のニュアンスや使い方の違いを解説。ドリルで攻略。	テキスト p.8－19
7	「会、能」「看、看見、看得見」	混同しやすい中国語のニュアンスや使い方の違いを解説。ドリルで攻略。	テキスト p.20－31
8	「在、有」「説、講、告訴」「幇、幇助、幇忙」	混同しやすい中国語のニュアンスや使い方の違いを解説。ドリルで攻略。	テキスト p.32－49
9	「做、干」「見面、見、見到」	混同しやすい中国語のニュアンスや使い方の違いを解説。ドリルで攻略。	テキスト p.50－61 指定した範囲を復習する。
10	「合格、及格、考上、考取」「変、変成、改変」	混同しやすい中国語のニュアンスや使い方の違いを解説。ドリルで攻略。 ☆単元テスト２	テキスト p.62－76
11	「知道、明白」「想、覚得、以爲」	混同しやすい中国語のニュアンスや使い方の違いを解説。ドリルで攻略。	テキスト p.78－8９
12	「覚得、感覚、感得」「愛、喜歓」	混同しやすい中国語のニュアンスや使い方の違いを解説。ドリルで攻略。	テキスト p.90－104
13	「好看、漂亮、美」「暖和、温暖、温和」「可怕、害怕、怕」	混同しやすい中国語のニュアンスや使い方の違いを解説。ドリルで攻略。	テキスト p.106－123
14	「放松、軽松」「必要、需要」「高興、開心、愉快」	混同しやすい中国語のニュアンスや使い方の違いを解説。ドリルで攻略。	テキスト p.124－144 指定した範囲を復習する。
15	まとめ	重要な部分をおさらいする。 ☆単元テスト３	おさらいドリル p.74, p.102, p.142, p.158, p.208

関連科目	「中国語学Ｉ」など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語　類義語使い分けドリル	柴　森	NHK 出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	例文で覚える中国語類義語 1000	日本語版監修：平山邦彦	ASK
2			
3			

評価方法（基準）	提出物 30%、単元テスト 70%。
学生へのメッセージ	授業中は私語などを慎み、集中して授業内容の理解に努めましょう。
担当者の研究室等	7 号館 3 階(兪研究室)
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語講読Ⅰa	科目名（英文）	Chinese Reading Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	欒　玉璽
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し，読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに，後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に，中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80%を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで，『摂南大学中国語Ⅰa』を使用して，週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって，授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	複母音(3)，鼻母音(4)，子音(3)	発音編 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	自己紹介，疑問詞疑問文	第 1 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	副詞語順, 全否定, 部分否定, 疑問視疑問文	第 2 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	二重目的語，副詞 4	第 3 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第 1 課～第 3 課会話文から出題	復習 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	所有，存在，疑問代名詞 2	第 4 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	疑問代名詞 3，介詞 1	第 5 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	指示代名詞 2	第 6 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	介詞 3，量詞 3	第 7 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	7 課小テスト，介詞 4，動量詞	第 8 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	8 課小テスト，状態補語，介詞 5	第 9 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第 7 課～第 9 課会話文から出題	復習 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	能願動詞 1	第 10 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	比較文，能願動詞 4	第 11 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	疑問代名詞 5，副詞 12	第 12 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目

「中国語を話す Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」
「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語Ⅰa	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
担当者の研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語講読Ⅰb	科目名（英文）	Chinese Reading Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	欒　玉璽
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し，読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに，この学期中に受験する中国語検定試験4級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる11月末までに，中国語検定試験4級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも6割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話すIa」「中国語を読むIa」「中国語を聞くIa」「中国語を書くIa」のひとつで，『摂南大学中国語Ⅰa』を使用して，週4回の授業をリレー式に連携して進める。したがって，授業はこの4科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験4級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	助動詞「打算」「准備」，前置詞「為了」「除了」	第13課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	存現文，兼語文	第14課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第13，14課文法と語彙の到達度確認	第13課～14単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	検定4級準備（1）日文中訳	第15課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	検定4級準備（2）リスニング	第16課1＋第15課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	検定4級準備（3）リスニング	第17課1＋第16課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	検定4級準備（4）文法	第18課3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	検定4級準備（5）文法	第19課3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	検定4級準備（6）文法	第20課3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	長文読解と既習事項確認(1)日文中訳	第21課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	長文読解と既習事項確認(2)語彙と発音	第22課1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第22課到達度確認	復習＋第22課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	長文読解と既習事項確認(3)中文日訳	第23課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	長文読解と既習事項確認(4)教材音読	第24課3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	長文読解と既習事項確認(5)日文中訳	第25課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を話すIb」「中国語を聞くIb」「中国語を書くIb」 「ビジネス中国語b」「映像中国語b」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語Ⅰb	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各60分の学修を要する。
担当者の研究室等	非常勤講師室（7号館2階）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語講読Ⅱa	科目名（英文）	Chinese Reading IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中西　正樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに，それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物や Web サイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験 3 級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 6 月末をめどに，中国語検定試験 3 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	これは中国語専攻クラスで統一教材『摂南大学中国語 IIa』を使う必修科目「中国語を話す IIa」「中国語を読む IIa」「中国語を聞く IIa」「中国語を書く IIa」のひとつである。授業はこの 4 科目がリレー式に行われるので，4 科目を履修していることを前提に進行する。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験 3 級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第 4 回	第 2 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第 8 回	第 4 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第 12 回	第 6 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第 16 回	第 8 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第 19 回	第 10 話	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第 23 回	第 12 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第 27 回	第 14 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第 31 回	第 16 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第 35 回	第 18 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第 39 回	第 20 話	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第 43 回	第 22 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第 47 回	第 24 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第 51 回	第 26 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第 55 回	第 28 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第 59 回	第 30 話	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語会話 IIa」「中国語 LLIIa」「中国語作文 IIa」 「ビジネス中国語 IIa」「日中翻訳法 Ia」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 IIa	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する
担当者の研究室等	中西研究室（7 号館 3 階）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語講読Ⅱb	科目名（英文）	Chinese Reading IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中西　正樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるて，それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物やWebサイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験3級および2級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる11月末をめどに，中国語検定試験3級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも7割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻クラスの必修科目「中国語を話す IIb」「中国語を読む IIb」「中国語を聞く IIb」「中国語を書く IIb」のひとつで，これらの授業では共通教材『摂南大学中国語 IIb』をリレー式に使う。4科目をすべて履修していることを前提として授業が進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験3級・2級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第3回	第2話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第7回	第4話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第11回	第6話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第14回	第7話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第18回	第9話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第21回	第11話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第25回	第13話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第29回	第15話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第33回	第17話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第37回	第19話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第41回	第21話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第45回	第23話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第49回	第25話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第54回	第27話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第57回	第29話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語会話 IIb」「中国語 LLIIb」「中国語作文 IIb」 「ビジネス中国語 IIb」「日中翻訳法 Ia」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 IIb	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各60分の学修を要する
担当者の研究室等	中西研究室（7号館3階）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語コミュニケーションa	科目名（英文）	Chinese Communication a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	曹　櫻
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この授業は生の中国語を体感することにより、中国語表現能力を身に付けることが目的である。過去二年間習った中国語の基礎をかためながら、音読、聴き取り、繰り返しなどの口頭練習を重ね、やや高度なコミュニケーションの手段としての中国語能力、ことに発信型の中国語能力の強化を目指す。
到達目標	中国検定試験２級のリスリング問題に対応。
授業方法と留意点	会話とリスリングを重視する。 授業には積極的な態度で臨むこと。
科目学習の効果（資格）	基礎会話力を更に一歩向上させることで、コミュニケーション能力を養う。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第一課　過“洋節”（1）	聞き取り、基本文型、会話文の日訳、短文の聞き取り、応答練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
2	第一課　過“洋節”（2）	練習問題の解説。 会話、短文の聞き取り、意味確認、基本文型。	練習問題を解答してくる。 短文の熟読。
3	第二課　直率（1）	前回短文の暗唱。 会話文の聞き取り、基本文型、会話文の日訳。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
4	第二課　直率（2）	練習問題の解説。 会話、短文の聞き取り、意味確認、基本文型。	練習問題を解答してくる。 短文の熟読。
5	第三課　軍訓（1）	前回短文の暗唱。 会話文の聞き取り、基本文型 会話文の日訳。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
6	第三課　軍訓（2）	練習問題の解説。 会話、短文の聞き取り、意味確認、基本文型。	練習問題を解答してくる。 短文の熟読
7	会話練習	会話文の作成 発音練習	会話発表の準備
8	会話発表 文法復習	暗唱 1～3 課の文法復習	予習 短文の熟読。
9	第四課　餐庁（1）	会話文の聞き取り、基本文型、 会話文の日訳。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
10	第四課　餐庁（2）	練習問題の解説。 会話、短文の聞き取り、意味確認、基本文型。	練習問題を解答してくる 短文の熟読。
11	第五課　媽媽和儿子（1）	前回短文の暗唱。 会話文の聞き取り、基本文型、 会話文の日訳。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
12	第五課　媽媽和儿子（2）	短文練習問題の解説。 会話、短文の聞き取り、意味確認。	練習問題を解答してくる。 短文の熟読。
13	第六課　陪床（1）	前回短文の暗唱。 会話文の聞き取り、基本文型、 会話文の日訳。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
14	第六課　陪床（2）	短文練習問題の解説。 会話、短文の聞き取り、意味確認。	練習問題を解答してくる。 短文の熟読。
15	総復習	全体の復習	練習問題を解答する。

関連科目	特になし。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現代中国 12 話　④	黄漢青・杉野元子	白帝社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	目標を持って、積極的に授業に参加してもらいたい。
担当者の研究室等	７号館２階(非常勤講師室)
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語コミュニケーションb	科目名（英文）	Chinese Communication b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	曹　櫻
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	前期同様、この授業は生の中国語に体感することにより、中国語の口頭表現能力のさらなる向上を目標とする。音読、聞き取り、繰り返し、暗唱などの口頭練習を重ね、やや高度なコミュニケーションの手段としての中国語能力の強化を目指す。
到達目標	中国検定試験２級のリスリング問題に対応。
授業方法と留意点	会話とリスリングを重視する。 授業には積極的な態度で臨むこと。
科目学習の効果（資格）	基礎会話力を更に一歩向上させることで、コミュニケーション能力を養う。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第七課　簽証（1）	会話文の学習。 朗読、意味確認、日訳、文法、文型。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
2	第七課 簽証（2）	練習問題の解説。 会話練習 短文の学習、聞き取り、発音と意味確認、訳、朗読。	練習問題を解答してくる。 短文の熟読、暗記。
3	第八課　待遇（1）	会話文の学習 朗読、意味確認、日訳、文法、文型。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
4	第八課　待遇（2）	練習問題の解説 会話練習 短文の学習、聞き取り、発音と意味確認、訳、朗読。	練習問題を解答してくる。 短文の熟読、暗唱。
5	第九課 北京的天空（1）	会話文の学習。 朗読、意味確認、日訳、文法、文型。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
6	第九課　北京的天空（2）	練習問題の解説。 会話練習 短文の学習　聞き取り、意味確認、訳、朗読。	練習問題を解答してくる。 短文の熟読、暗唱。
7	会話練習 文法復習（7～９）	会話文の作成 発音練習	会話発表の準備
8	第十課　男朋友（1）	会話文の学習 朗読、意味確認、日訳、文法、文型。	練習問題を解答してくる。 短文の熟読、暗唱。
9	第十課　男朋友（2）	練習問題の解説。 会話練習 短文の学習　聞き取り、朗読、意味確認。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
10	第十一課　没想到（1）	会話文の学習 朗読、意味確認、日訳、文法、文型。	練習問題を解答してくる。 短文の熟読、暗唱。
11	第十一課　没想到（2）	練習問題の解説。 会話練習 短文の学習　聞き取り、朗読、意味確認。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
12	第十二課　貝多芬和様板戯（1）	会話文の学習 朗読、意味確認、日訳、文法、文型。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
13	第十二課　貝多芬和様板戯（2）	練習問題の解説。 会話練習 短文の学習　聞き取り、朗読、意味確認。	練習問題を解答してくる。 解答後の練習問題を復習する
14	会話練習 文法復習（10～12）	会話文の作成 発音練習	会話発表の準備
15	総合復習	総合まとめ	練習問題を解答してくる。 解答後の練習問題を復習する。

関連科目	特になし。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現代中国 12 話　④	黄漢青・杉野元子	白帝社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	目標を持って、積極的に授業に参加してもらいたい。
担当者の研究室等	７号館２階(非常勤講師室)
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語作文Ⅰa	科目名（英文）	Chinese Composition Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	兪　鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し，読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに，後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に，中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80%を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで，『摂南大学中国語Ⅰa』を使用して，週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって，授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	四声，単母音，子音(1)，複母音(1)	発音編 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	形容詞述語文，副詞 1，変調	第 1 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	1 課小テスト，是構文，副詞 2，構造助詞 1	第 2 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	2 課小テスト，動目構造，動詞重畳	第 3 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	数詞，量詞 1	第 4 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	4 課小テスト，数詞 3，曜日	第 5 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	5 課小テスト，方位詞，不定代名詞，量詞 2	第 6 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第 4 課～第 6 課会話文から出題	復習 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	選択疑問文，副詞 7	第 7 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	了 1 了 2，副詞 8	第 8 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	副詞 9，把字句	第 9 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	動態助詞「過」副詞 10	第 10 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	10 課小テスト，能願動詞 2，動量詞 3	第 11 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	11 課小テスト，方向補語	第 12 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第 10 課～第 12 課会話文から出題	復習 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」 「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語Ⅰa	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日辞典		
2	日中辞典		
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
担当者の研究室等	７号館３階（兪研究室）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語作文Ⅰb	科目名（英文）	Chinese Composition Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	兪　鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し，読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに，この学期中に受験する中国語検定試験4級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる11月末までに，中国語検定試験4級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも6割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話すIa」「中国語を読むIa」「中国語を聞くIa」「中国語を書くIa」のひとつで，『摂南大学中国語Ⅰa』を使用して，週4回の授業をリレー式に連携して進める。したがって，授業はこの4科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験4級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	会話	第13課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	会話	第14課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	検定4級準備（1）長文読解	第15課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	検定4級準備（2）文法	第16課3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	検定4級準備（3）文法	第17課3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	検定4級準備（4）リスニング	第18課1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	検定4級準備（5）リスニング	第19課1＋第18課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	検定4級準備（6）リスニング	第20課1＋第19課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第18課～20課到達度確認	復習＋第18課～20単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	長文読解と既習事項確認(1)中文日訳	第21課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	長文読解と既習事項確認(2)教材音読	第22課3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	長文読解と既習事項確認(3)日文中訳	第23課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	長文読解と既習事項確認(4)語彙と発音	第24課1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	長文読解と既習事項確認(5)語彙と発音	第25課1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	長文読解と既習事項確認(5)中文日訳	第25課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目

「中国語を話すIb」「中国語を読むIb」「中国語を聞くIb」
「ビジネス中国語b」「映像中国語b」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語Ⅰb	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日辞典		
2	日中辞典		
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各60分の学修を要する。
担当者の研究室等	7号館3階（兪研究室）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語作文Ⅱa	科目名（英文）	Chinese Composition IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	今中　崇文
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに，それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物や Web サイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験 3 級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 6 月末をめどに，中国語検定試験 3 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	これは中国語専攻クラスで統一教材『摂南大学中国語 IIa』を使う必修科目「中国語を話す IIa」「中国語を読む IIa」「中国語を聞く IIa」「中国語を書く IIa」のひとつである。授業はこの 4 科目がリレー式に行われるので，4 科目を履修していることを前提に進行する。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験 3 級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第 2 回	第 1 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第 6 回	第 3 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第 10 回	第 1 話～第 5 話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第 14 回	第 7 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第 17 回	第 9 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第 21 回	第 11 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第 25 回	第 13 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第 29 回	第 15 話	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第 33 回	第 17 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第 37 回	第 19 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第 41 回	第 21 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第 45 回	第 23 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第 49 回	第 25 話	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第 53 回	第 27 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第 57 回	第 29 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語会話 IIa」「中国語講読 IIa」「中国語 LLIIa」 「ビジネス中国語 IIa」「日中翻訳法 Ia」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 IIa	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する
担当者の研究室等	７号館２階(非常勤講師室)
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語作文Ⅱb	科目名（英文）	Chinese Composition IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	今中　崇文
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるて，それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物やWebサイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験３級および２級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末をめどに，中国語検定試験３級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも７割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻クラスの必修科目「中国語を話す IIb」「中国語を読む IIb」「中国語を聞く IIb」「中国語を書く IIb」のひとつで，これらの授業では共通教材『摂南大学中国語 IIb』をリレー式に使う。4 科目をすべて履修していることを前提として授業が進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験３級・２級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第 1 回	第 1 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第 5 回	第 3 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第 9 回	第 5 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第 12 回	第 6 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第 16 回	第 8 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第 20 回	第 10 話後半・第 11 回～第 20 回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第 23 回	第 12 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第 27 回	第 14 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第 31 回	第 16 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第 35 回	第 18 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第 39 回	第 20 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第 43 回	第 22 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第 47 回	第 24 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第 52 回	第 26 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第 55 回	第 28 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語会話 IIb」「中国語講読 IIb」「中国語 LLIIb」 「ビジネス中国語 IIb」「日中翻訳法 Ia」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 IIb	摂南大学外国語学	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
担当者の研究室等	７号館２階(非常勤講師室)
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語視聴専科 a	科目名（英文）	Practical Chinese a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中西　正樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	映像と音声を通じて，中国語を聞き取る能力を重点的に養成することを目的とする。授業ではパソコンやネットワーク，タッチパネルディスプレイなどを利用して，発音のチェックや他の学生との情報共有，シャドーイングなどの活動を行う。この課程は１年次の必修中国語各科目の内容と連動するもので，それらで学んだ事項を定着させることができる。
到達目標	中国語の音声を正確に判別し，既習の語彙やフレーズについて正しく発音したり漢字やピンインでディクテーションできることを目指す。中国語検定４級リスニング試験の形式やレベルの問題にも取り組み，同級合格レベルへの到達を具体的な目標とする。
授業方法と留意点	１．必修の中国語各科目で学んだ発音・語彙・文法を復習し，しっかりと理解できるようにする。 ２．さらにそれらを聞き取り理解できるようさまざまな訓練を行う。とくに１年次では発音の基礎と基本語彙の練習・運用に重点を置き、確実に聞き取れるように訓練する。
科目学習の効果（資格）	中国語聞き取り能力が向上し、前期終了時には中国語検定試験准４級の受験が可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	中国語知識（1）	地理・民族・人口	中国語を学ぶのに必要な中国に関する高等学校程度の知識を確認する。
2	第１課	四声と基本的な母音、子音 四択練習問題四声と基本的な母音、子音 四択練習問題	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
3	第２課	鼻母音と発音しにくい子音。 四択練習問題。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
4	第３課	声調パタンの反復練習。 練習問題。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
5	第４課	「是」構文 名前の言い方に関する置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
6	第５課	数量に関する表現と「有」構文に関する置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
7	第６課	動詞述語文と職業に関する表現の置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
8	第７課	形容詞述語文と比較表現を使った置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
9	第８課	前置詞と方位詞を使った表現の置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
10	第９課	「了」と結果補語を使った置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
11	第１０課	「了」と結果補語を使った置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
12	第１１課	動作の進行、完了の表現に関する置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
13	第１２課	「就」「才」を使った文および「在」のいくつかの用法。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
14	第１３課	程度補語の使い方。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
15	第１４課	復習	――――

関連科目：必修中国語科目（週４コマ）を必ず履修していること。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語Ⅰa	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	選択科目なので，目的意識をしっかり持って授業に臨んでほしい。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
担当者の研究室等	7 号館 3 階(中西研究室)
備考	教科書は中国語必修科目用のものと共通。 授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語視聴専科 b	科目名（英文）	Practical Chinese b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中西　正樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	映像と音声を通じて，中国語を聞き取る能力を重点的に養成することを目的とする。授業ではパソコンやネットワーク，タッチパネルディスプレイなどを利用して，発音のチェックや他の学生との情報共有，シャドーイングなどの活動を行う。この課程は１年次の必修中国語各科目の内容と連動するもので，それらで学んだ事項を定着させることができる。
到達目標	11 月下旬の中国語検定 4 級試験受験までに，そのリスニング試験問題で 6 割以上の正答率を達成することを目標とする。12 月以降は 4 級試験の長文読解問題レベルの文章を教材として，これを正しくディクテーションしたりシャドーイングすることを目指す。
授業方法と留意点	１．必修の中国語各科目で学んだ発音・語彙・文法を復習し，しっかりと理解できるようにする。 ２．さらにそれらを聞き取り理解できるようさまざまな訓練を行う。とくに１年次では発音の基礎と基本語彙の練習・運用に重点を置き、確実に聞き取れるように訓練する。
科目学習の効果（資格）	中国語聞き取り能力が向上し、11 月に実施される中国語検定試験 4 級に合格することを可能とする。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	時をかける少女(1/12) 検定 4 級レベルリスニング問題	機器とソフトウエアの操作および授業進行についての説明。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
2	時をかける少女(2/12) 検定 4 級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について 25 項目を取り上げ、Web ベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
3	時をかける少女(3/12) 検定 4 級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について 25 項目を取り上げ、Web ベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
4	時をかける少女(4/12) 検定 4 級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について 25 項目を取り上げ、Web ベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
5	時をかける少女(5/12) 検定 4 級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について 25 項目を取り上げ、Web ベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
6	時をかける少女(6/12) 検定 4 級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について 25 項目を取り上げ、Web ベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
7	時をかける少女(7/12) 検定 4 級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について 25 項目を取り上げ、Web ベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
8	時をかける少女(8/12) 検定 4 級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について 25 項目を取り上げ、Web ベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
9	時をかける少女(9/12) 検定 4 級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について 25 項目を取り上げ、Web ベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
10	時をかける少女(10/12) 検定 4 級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について 25 項目を取り上げ、Web ベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
11	時をかける少女(11,12/12)	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について 25 項目を取り上げ、Web ベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
12	サマーウォーズ(1/4) CALL システムを利用したタイピング訓練	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について 25 項目を取り上げ、Web ベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
13	サマーウォーズ(2/4) CALL システムを利用したタイピング訓練	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について 25 項目を取り上げ、Web ベースで作成された問題を考え	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。

		る。	
14	サマーウォーズ(3/4) CALL システムを利用したタイピング訓練	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について 25 項目を取り上げ、Web ベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
15	サマーウォーズ(4/4) 中国語検定 3 級模擬テスト	最新の試験問題を解きながら、6 月に受験する検定への対策を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。

関連科目

必修中国語科目（週 4 コマ）を必ず履修していること。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語Ⅰa	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

授業への参加度と小テスト：30%
単元テスト：70%

学生へのメッセージ

選択科目なので，目的意識をしっかり持って授業に臨んでほしい。事前・事後に各 60 分の学修を要する。

担当者の研究室等

7 号館 3 階(中西研究室)

備考

教科書は中国語必修科目用のものと共通。
授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語トピックス a	科目名（英文）	Chinese Topics a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大西　紀
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	様々なトピックを通じ、現代中国の現況を理解することに努めます。
到達目標	中国語を読み、聞き、書くことで総合力を養成したいと思います。検定 3 級レベルから 2 級レベルに焦点を合わせます。
授業方法と留意点	既習事項を確認しながら授業をすすめる。辞書も必須である。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
科目学習の効果（資格）	中国語検定 3 級合格

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	就活の経験 1/2	文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
2	就活の経験 2/2	音読練習　練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
3	就活の経験小テスト 僕の恋人 1/2	第 1-2 回復習テスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
4	僕の恋人 2/2	音読練習　練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
5	僕の恋人小テスト メディアの時代 1/2	第 3-4 回復習テスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
6	メディアの時代 2/2	音読練習　練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
7	メディアの時代小テスト 祝祭日の過ごし方 1/2	第 5-6 回復習テスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
8	祝祭日の過ごし方 2/2	音読練習　練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
9	祝祭日の過ごし方小テスト 日々の憩い　1/2	第 7-8 回復習テスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
10	日々の憩い　2/2	音読練習　練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
11	日々の憩い　小テスト 結婚すべきか　1/2	第 9-10 回　復習テスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
12	結婚すべきか　2/2	音読練習　練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
13	結婚すべきか　小テスト 一人っ子の是非 1/2	第 11-12 回復習テスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
14	一人っ子の是非 2/2	音読練習　練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
15	総復習	第 13-14 回復習テスト	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。

関連科目：「中国語を読む IIa」「中国語を聞く IIa」「中国語を話す IIa」「中国語を書く IIa」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	焦点中国	植屋・谷川　等	白帝社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学期中に 7 回実施する小テストおよび授業に取り組む姿勢をもとに評価する。 授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	語学の習得には地道な努力が必要です。最後まであきらめず、頑張りぬきましょう。
担当者の研究室等	非常勤講師控室（7 号館 2 階）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語トピックスｂ	科目名（英文）	Chinese Topics b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大西　紀
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	前期と同じく、様々なトピックを通じ、中国の現況に迫ります。
到達目標	中国語の総合力を養います。検定３級から２級合格を目指します。
授業方法と留意点	既習事項を確認しながら授業をすすめる。辞書も必須である。
科目学習の効果（資格）	中国語検定３級～2 級合格

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	財布の紐を握るのは　1/2	文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
2	財布の紐を握るのは　2/2	音読練習　練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
3	財布の紐を握るのは　小テスト 調和社会の悩み　1/2	第 1-2 回小テスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
4	調和社会の悩み　2/2	音読練習　練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
5	調和社会の悩み　小テスト 新興自動車王国　1/2	第 3-4 回小テスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
6	新興自動車王国　2/2	音読練習　練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
7	新興自動車王国　小テスト 少数民族の魅力　1/2	第 5-6 回小テスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
8	少数民族の魅力　2/2	音読練習　練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
9	少数民族の魅力　小テスト 明日のために省エネ　1/2	第 7-8 回小テスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
10	明日のために省エネ　2/2	音読練習　練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
11	明日のために省エネ　小テスト エコバッグ持参　1/2	第 9-10 回小テスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
12	エコバッグ持参　2/2	音読練習　練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
13	エコバッグ持参　小テスト 中国食べ歩き　1/2	第 11-12 回小テスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
14	中国食べ歩き　2/2	音読練習　練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
15	総復習	第 13-14 回小テスト	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。

関連科目：「中国語を読む IIb」「中国語を聞く IIb」「中国語を話す IIb」「中国語を書く IIb」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	焦点中国語	植屋　谷川　等	白帝社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学期中に７回実施する小テストおよび授業に取り組む姿勢をもとに評価する。 授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	教科書は前期購入したものを引き続き使用します。ご注意ください。 前期に引き続き、地道に着実にレベルアップしていきましょう。
担当者の研究室等	講師控室（7 号館 2 階）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語プレゼンテーションａ	科目名（英文）	Chinese Presentation a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	馮　艶
ディプロマポリシー(DP)	DP7○,DP8◎		

授業概要・目的	この授業は習得した基礎文法を応用できるようにする中国語会話授業です。中国の「社会事情」「文化風習」といった身近な話題で、楽しく文法事項や表現を学習し、文法練習、会話練習とリスニング練習によって、中国語のコミニュケーション能力の向上を目指します。
到達目標	文法練習、会話練習とリスニング練習によって、会話力を高める。
授業方法と留意点	授業に積極的に参加する態度が望まれる。
科目学習の効果（資格）	中国人とのコミュニケーションに必要な会話力をつけること。自らの表現能力を高めることも可能である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第一課　外国の祭日を祝う１	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第一課　外国の祭日を祝う２	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第二課　ストレート１	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第二課　ストレート２	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	会話	会話文を作成する。 会話を練習する。	会話発表を準備する。
6	第三課　軍事訓練１	文法説明・本文読み練習・翻訳 会話発表	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第三課　軍事訓練２	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第四課　レストラン１	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第四課　レストラン２	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	会話	会話文を作成する。 会話を練習する。	会話発表を準備する。
11	第五課　母親と息子１	文法説明・本文読み練習・翻訳 会話発表	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第五課　母親と息子２	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第六課　病人の付き添い１	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第六課　病人の付き添い２	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	総復習	全体の総括。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	特になし。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現代中国 12 話	黄漢青/杉野元子	白帝社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	口頭および筆記による小テストを数回に分けて実施し，これらをもとに成績を評価する。 授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	中国語で自分の考えを表現できるようになることを最大の目的とするので、授業では自ら進んで発表したり意見を述べたりするなど積極的な参与を望みたい。事前・事後に各 60 分の学修を要する.。
担当者の研究室等	７号館２階(非常勤講師室)
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語プレゼンテーションb	科目名（英文）	Chinese Presentation b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	馮　艶
ディプロマポリシー(DP)	DP7○,DP8◎		

授業概要・目的	この授業は習得した基礎文法を応用できるようにする中国語会話授業です。中国の「社会事情」「文化風習」といった身近な話題で、楽しく文法事項や表現を学習し、文法練習、会話練習とリスニング練習によって、中国語のコミニュケーション能力の向上を目指します。
到達目標	文法練習、会話練習とリスニング練習によって、会話力を高める。
授業方法と留意点	授業に積極的に参加する態度が望まれる。
科目学習の効果（資格）	中国人とコミュニケーションするのに必要な会話力をつけること。自らの表現能力を高めることも可能である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第七課　ビザ１	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第七課　ビザ２	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第八課　待遇１	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第八課　待遇２	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	会話	会話文を作成する。 会話を練習する。	会話発表を準備する。
6	第九課　北京の空１	文法説明・本文読み練習・翻訳 会話発表	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第九課　北京の空２	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第十課　ボ-イフレンド１	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第十課　ボ-イフレンド２	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	会話	会話文を作成する。 会話を練習する。	会話発表を準備する。
11	第十一課　思いもよらなかった１	文法説明・本文読み練習・翻訳 会話発表	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第十一課　思いもよらなかった２	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第十二課　ベ-ト-ヴェンと模範劇１	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第十二課　ベ-ト-ヴェンと模範劇２	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	総復習	全体の総括	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目：特になし。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現代中国 12 話	黄漢青／杉野元子	白帝社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%ト
学生へのメッセージ	中国語で自分の考えを表現できるようになることを最大な目的とするので、授業では自ら進んで発表したり意見を述べたりするなど積極的な参与を望みたい。原則として事前・事後に各 60 分の学修を要する.。
担当者の研究室等	７号館２階(非常勤講師室)
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語文字論	科目名（英文）	Chinese Writing System
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中西　正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2△		

授業概要・目的	中国語は地域的な広がり、及び歴史的な広がりにおいてきわめて多様な言語である。その多様性をつなぐのが漢字であるが、漢字は基本的には表意文字であるため、文字に含まれるそれぞれの部品の意味を知ることで、文字全体の意味を解釈できる。 本講義では藤堂明保著『漢字語源辞典』の単語家族に関する記述を参考にしながら、上古（周代）漢語の音韻体系と甲骨文字や金文を手がかりに、形と意味の関係を探り、古代人のものの見方や発想法について考える。
到達目標	日常使用する漢字について，それを構成する部品が何の象形なのか，どのような意味を担っているのか，それらを組み合わすことで何を表現しているのかを説明できるようになることを目指す。また，未知の漢字に接した時もその意味や読音を推測できるようにする。
授業方法と留意点	一回の授業で４～５の漢字家族をとりあげ、その本来の意味や漢字の構成を考えていく。受講生にも意見を求める。
科目学習の効果（資格）	中国語教職科目（中国語の分野）。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	人体・姿勢	人・女・子・鬼・兄…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
2	身体部位 1	頭・毛・目・耳・口…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
3	身体部位 2	手・足…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
4	動物 1	牛・馬・羊…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
5	動物 2	犬・鹿・豚…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
6	動物 3	鳥・虫・蛇…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
7	天体・気象	日・月・水…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
8	鉱物	土・火・金…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
9	人工物	高・示…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
10	器具 1	方・網・工…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
11	器具 2	玉・父・車…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
12	器具 3	刀・辛・戈…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
13	動作	又・口・之…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
14	状態	束・阜・変…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
15	形状	宇・王・弗…	――――

関連科目：中国語の語学科目を履修しておくこと。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリント配布		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	常用漢字コアイメージ辞典	加納喜光	中央公論社
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト及び単元テスト 80% 授業参加度や提出物 20%
学生へのメッセージ	講義の内容をノートする必要は言うまでもないが、試験では複数の語から１つの共通性を帰納する能力を評価する。語の音と意味がいかに密接に結びついているかを授業を通して理解してほしい。事前・事後学習に 1.5 時間ずつ要する。
担当者の研究室等	7 号館 3 階(中西研究室)
備考	

科目名	中国語を書くⅠa	科目名（英文）	Chinese Writing Ⅰa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	兪　鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し，読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに，後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に，中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80%を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで，『摂南大学中国語Ⅰa』を使用して，週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって，授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	四声，単母音，子音(1)，複母音(1)	発音編 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	形容詞述語文，副詞 1，変調	第 1 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	1 課小テスト，是構文，副詞 2，構造助詞 1	第 2 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	2 課小テスト，動目構造，動詞重畳	第 3 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	数詞，量詞 1	第 4 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	4 課小テスト，数詞 3，曜日	第 5 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	5 課小テスト，方位詞，不定代名詞，量詞 2	第 6 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第 4 課～第 6 課会話文から出題	復習 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	選択疑問文，副詞 7	第 7 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	了 1 了 2，副詞 8	第 8 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	副詞 9，把字句	第 9 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	動態助詞「過」副詞 10	第 10 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	10 課小テスト，能願動詞 2，動量詞 3	第 11 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	11 課小テスト，方向補語	第 12 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第 10 課～第 12 課会話文から出題	復習 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目

「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」
「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語Ⅰa	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日辞典		
2	日中辞典		
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
担当者の研究室等	７号館３階（兪研究室）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語を書くⅠb	科目名（英文）	Chinese Writing Ⅰ b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	兪　鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し，読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに，この学期中に受験する中国語検定試験4級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる11月末までに，中国語検定試験4級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも6割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話すIa」「中国語を読むIa」「中国語を聞くIa」「中国語を書くIa」のひとつで，『摂南大学中国語Ⅰa』を使用して，週4回の授業をリレー式に連携して進める。したがって，授業はこの4科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験4級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	会話	第13課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	会話	第14課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	検定4級準備（1）長文読解	第15課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	検定4級準備（2）文法	第16課3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	検定4級準備（3）文法	第17課3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	検定4級準備（4）リスニング	第18課1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	検定4級準備（5）リスニング	第19課1＋第18課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	検定4級準備（6）リスニング	第20課1＋第19課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第18課～20課到達度確認	復習＋第18課～20単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	長文読解と既習事項確認(1)中文日訳	第21課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	長文読解と既習事項確認(2)教材音読	第22課3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	長文読解と既習事項確認(3)日文中訳	第23課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	長文読解と既習事項確認(4)語彙と発音	第24課1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	長文読解と既習事項確認(5)語彙と発音	第25課1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	長文読解と既習事項確認(5)中文日訳	第25課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を話すIb」「中国語を読むIb」「中国語を聞くIb」 「ビジネス中国語b」「映像中国語b」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語Ⅰb	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日辞典		
2	日中辞典		
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各60分の学修を要する。
担当者の研究室等	7号館3階（兪研究室）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語を書くⅡa	科目名（英文）	Chinese Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	今中　崇文
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに，それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物やWebサイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験３級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる６月末をめどに，中国語検定試験３級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも６割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	これは中国語専攻クラスで統一教材『摂南大学中国語 IIa』を使う必修科目「中国語を話す IIa」「中国語を読む IIa」「中国語を聞く IIa」「中国語を書く IIa」のひとつである。授業はこの４科目がリレー式に行われるので，４科目を履修していることを前提に進行する。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験３級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第２回	第１話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第６回	第３話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第10回	第１話～第５話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第14回	第７話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第17回	第９話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第21回	第11話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第25回	第13話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第29回	第15話	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第33回	第17話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第37回	第19話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第41回	第21話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第45回	第23話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第49回	第25話	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第53回	第27話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第57回	第29話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語会話 IIa」「中国語講読 IIa」「中国語 LLIIa」 「ビジネス中国語 IIa」「日中翻訳法 Ia」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 IIa	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各60分の学修を要する
担当者の研究室等	７号館２階(非常勤講師室)
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語を書くⅡb	科目名（英文）	Chinese Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	今中　崇文
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるて，それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物やWebサイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験３級および２級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末をめどに，中国語検定試験３級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも７割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻クラスの必修科目「中国語を話す IIb」「中国語を読む IIb」「中国語を聞く IIb」「中国語を書く IIb」のひとつで，これらの授業では共通教材『摂南大学中国語 IIb』をリレー式に使う。4 科目をすべて履修していることを前提として授業が進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験３級・２級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第 1 回	第 1 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第 5 回	第 3 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第 9 回	第 5 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第 12 回	第 6 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第 16 回	第 8 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第 20 回	第 10 話後半・第 11 回～第 20 回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第 23 回	第 12 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第 27 回	第 14 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第 31 回	第 16 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第 35 回	第 18 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第 39 回	第 20 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第 43 回	第 22 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第 47 回	第 24 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第 52 回	第 26 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第 55 回	第 28 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語会話 IIb」「中国語講読 IIb」「中国語 LLIIb」 「ビジネス中国語 IIb」「日中翻訳法 Ia」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 IIb	摂南大学外国語学	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
担当者の研究室等	７号館２階(非常勤講師室)
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語を聞くⅠa	科目名（英文）	Chinese Listening Ⅰ a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	馮　艶
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し，読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに，後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に，中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80%を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで，『摂南大学中国語Ⅰa』を使用して，週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって，授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準 4 級または 4 級を受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	子音(4)，子音(5)	発音編 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	会話 1	第 1 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	会話 2	第 2 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	会話 3	第 3 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第 1 課～第 3 課まとめ	第 1 回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	会話 4	第 4 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	会話 5	第 5 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	会話 6	第 6 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	連動文	第 7 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	了 1，了 2	第 8 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	結果補語，介詞 6	第 9 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第 7 課～第 9 課まとめ	第 3 回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	会話 10	第 10 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	会話 11	第 11 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	会話 12	第 12 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を書く Ia」 「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語Ⅰa	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	リレーの授業なので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
担当者の研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語を聞くⅠa	科目名（英文）	Chinese Listening Ⅰ a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	瀬戸　宏
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し，読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに，後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に，中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80%を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで，『摂南大学中国語Ⅰa』を使用して，週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって，授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準 4 級または 4 級を受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	子音(4)，子音(5)	発音編 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	会話 1	第 1 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	会話 2	第 2 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	会話 3	第 3 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第 1 課～第 3 課まとめ	第 1 回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	会話 4	第 4 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	会話 5	第 5 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	会話 6	第 6 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	連動文	第 7 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	了 1，了 2	第 8 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	結果補語，介詞 6	第 9 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第 7 課～第 9 課まとめ	第 3 回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	会話 10	第 10 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	会話 11	第 11 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	会話 12	第 12 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目

「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を書く Ia」
「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語Ⅰa	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	リレーの授業なので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
担当者の研究室等	瀬戸研究室（7 号館 3 階）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語を聞くⅠb	科目名（英文）	Chinese Listening Ⅰ b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	馮　艶
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し，読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに，この学期中に受験する中国語検定試験4級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる11月末までに，中国語検定試験4級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも6割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話すIa」「中国語を読むIa」「中国語を聞くIa」「中国語を書くIa」のひとつで，『摂南大学中国語Ⅰa』を使用して，週4回の授業をリレー式に連携して進める。したがって，授業はこの4科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験4級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	疑問代名詞「為什麼」，接続詞「因為」，「所以」，可能補語	第13課3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	使役文，被動文，複合方向補語	第14課3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	検定4級準備（1）リスニング	第15課1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	検定4級準備（2）長文読解	第16課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	検定4級準備（3）長文読解	第17課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第15課～17課到達度確認	復習＋第15課～17単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	検定4級準備（4）日文中訳	第18課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	検定4級準備（5）日文中訳	第19課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	検定4級準備（6）日文中訳	第20課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	長文読解と既習事項確認(1)教材音読	第21課3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	長文読解と既習事項確認(2)日文中訳	第22課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	長文読解と既習事項確認(3)語彙と発音	第23課1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第21課～23課到達度確認	復習＋第21課～第23課単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	長文読解と既習事項確認(4)中文日訳	第24課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	長文読解と既習事項確認(5)教材音読	第25課3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目

「中国語を話すIb」「中国語を読むIb」「中国語を書くIb」
「ビジネス中国語b」「映像中国語b」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語Ⅰb	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	リレーの授業なので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各60分の学修を要する。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語を聞くⅠb	科目名（英文）	Chinese Listening Ⅰ b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	瀬戸　宏
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し，読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに，この学期中に受験する中国語検定試験4級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる11月末までに，中国語検定試験4級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも6割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話すIa」「中国語を読むIa」「中国語を聞くIa」「中国語を書くIa」のひとつで，『摂南大学中国語Ⅰa』を使用して，週4回の授業をリレー式に連携して進める。したがって，授業はこの4科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験4級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	疑問代名詞「為什麼」，接続詞「因為」，「所以」，可能補語	第13課3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	使役文，被動文，複合方向補語	第14課3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	検定4級準備（1）リスニング	第15課1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	検定4級準備（2）長文読解	第16課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	検定4級準備（3）長文読解	第17課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第15課～17課到達度確認	復習＋第15課～17単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	検定4級準備（4）日文中訳	第18課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	検定4級準備（5）日文中訳	第19課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	検定4級準備（6）日文中訳	第20課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	長文読解と既習事項確認(1)教材音読	第21課3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	長文読解と既習事項確認(2)日文中訳	第22課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	長文読解と既習事項確認(3)語彙と発音	第23課1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第21課～23課到達度確認	復習＋第21課～第23課単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	長文読解と既習事項確認(4)中文日訳	第24課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	長文読解と既習事項確認(5)教材音読	第25課3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目

「中国語を話すIb」「中国語を読むIb」「中国語を書くIb」
「ビジネス中国語b」「映像中国語b」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語Ⅰb	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	リレーの授業なので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各60分の学修を要する。
担当者の研究室等	7号館3階(瀬戸研究室)
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語を聞くⅡa	科目名（英文）	Chinese Listening II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中西　正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに，それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物やWebサイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験３級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる６月末をめどに，中国語検定試験３級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも６割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	これは中国語専攻クラスで統一教材『摂南大学中国語 IIa』を使う必修科目「中国語を話す IIa」「中国語を読む IIa」「中国語を聞く IIa」「中国語を書く IIa」のひとつである。授業はこの４科目がリレー式に行われるので，４科目を履修していることを前提に進行する。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験３級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第３回	第２話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第７回	第４話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第 11 回	第６話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第 15 回	第８話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第 18 回	第９話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第 22 回	第 11 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第 26 回	第 13 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第 30 回	第 11 話～第 15 話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第 34 回	第 17 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第 38 回	第 19 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第 42 回	第 21 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第 46 回	第 23 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第 50 回	第 21 話～第 25 話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第 54 回	第 27 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第 58 回	第 29 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目

「中国語会話 IIa」「中国語講読 IIa」「中国語作文 IIa」
「ビジネス中国語 IIa」「日中翻訳法 Ia」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 IIa	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。原則として事前・事後に各 60 時間の学修を要する.。
担当者の研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語を聞くⅡa	科目名（英文）	Chinese Listening II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	兪　鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに，それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物や Web サイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験 3 級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 6 月末をめどに，中国語検定試験 3 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	これは中国語専攻クラスで統一教材『摂南大学中国語 IIa』を使う必修科目「中国語を話す IIa」「中国語を読む IIa」「中国語を聞く IIa」「中国語を書く IIa」のひとつである。授業はこの 4 科目がリレー式に行われるので，4 科目を履修していることを前提に進行する。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験 3 級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第 3 回	第 2 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第 7 回	第 4 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第 11 回	第 6 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第 15 回	第 8 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第 18 回	第 9 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第 22 回	第 11 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第 26 回	第 13 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第 30 回	第 11 話～第 15 話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第 34 回	第 17 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第 38 回	第 19 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第 42 回	第 21 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第 46 回	第 23 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第 50 回	第 21 話～第 25 話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第 54 回	第 27 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第 58 回	第 29 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語会話 IIa」「中国語講読 IIa」「中国語作文 IIa」 「ビジネス中国語 IIa」「日中翻訳法 Ia」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 IIa	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日辞典		
2	日中辞典		
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。原則として事前・事後に各 60 時間の学修を要する.。
担当者の研究室等	兪研究室（7 号館 3 階）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語を聞くⅡb	科目名（英文）	Chinese Listening II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	瀬戸　宏
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるて，それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物やWebサイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験3級および2級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる11月末をめどに，中国語検定試験3級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも7割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻クラスの必修科目「中国語を話す IIb」「中国語を読む IIb」「中国語を聞く IIb」「中国語を書く IIb」のひとつで，これらの授業では共通教材『摂南大学中国語 IIb』をリレー式に使う。4科目をすべて履修していることを前提として授業が進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験3級・2級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第2回	第1話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第6回	第3話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第10回	第5話後半・第1回～第10回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第13回	第7話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	2年生暗唱コンテスト	狐假虎威	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第17回	第9話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第24回	第12話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第28回	第14話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第32回	第16話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第36回	第18話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第40回	第20話後半・第31回～第40回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第44回	第22話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第48回	第24話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第53回	第27話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第56回	第28話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語会話 IIb」「中国語講読 IIb」「中国語作文 IIb」 「ビジネス中国語 IIb」「日中翻訳法 Ia」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 IIb	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。原則として事前・事後に各60時間の学修を要する.。
担当者の研究室等	瀬戸研究室（7号館3階）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語を聞くⅡb	科目名（英文）	Chinese Listening II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	兪　鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるて，それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物やWebサイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験3級および2級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる11月末をめどに，中国語検定試験3級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも7割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻クラスの必修科目「中国語を話すIIb」「中国語を読むIIb」「中国語を聞くIIb」「中国語を書くIIb」のひとつで，これらの授業では共通教材『摂南大学中国語IIb』をリレー式に使う。4科目をすべて履修していることを前提として授業が進行することに注意。業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。 中
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験3級・2級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第2回	第1話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第6回	第3話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第10回	第5話後半・第1回～第10回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第13回	第7話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	2年生暗唱コンテスト	狐假虎威	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第17回	第9話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第24回	第12話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第28回	第14話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第32回	第16話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第36回	第18話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第40回	第20話後半・第31回～第40回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第44回	第22話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第48回	第24話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第53回	第27話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第56回	第28話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語会話IIb」「中国語講読IIb」「中国語作文IIb」 「ビジネス中国語IIb」「日中翻訳法Ia」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語IIb	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日辞典		
2	日中辞典		
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。原則として事前・事後に各60時間の学修を要する.。
担当者の研究室等	兪研究室（7号館3階）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語を話すⅠa	科目名（英文）	Chinese Speaking Ⅰ a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大西　紀
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し，読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに，後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に，中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80%を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで，『摂南大学中国語Ⅰa』を使用して，週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって，授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。事前・事後に各 60 分の学修を要する。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	複母音(2)，鼻母音(1)	発音編 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	文末助詞，主述述語文	第 1 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	指示代名詞，反復疑問文，構造助詞 2	第 2 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	文末助詞 2，副詞 3	第 3 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	数詞 2，副詞 5	第 4 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	時間詞，名詞述語文	第 5 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	動詞「在」，副詞 6	第 6 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第 4 課～第 6 課まとめ	第 2 回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	会話 7	第 7 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	会話 8	第 8 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	会話 9	第 9 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	動量詞 2，副詞 11	第 10 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	疑問代名詞 4，能願動詞 3	第 11 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	進行文，接続詞 1	第 12 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第 10 課～第 12 課まとめ	第 4 回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目

「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」
「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語Ⅰa	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。
担当者の研究室等	７号館２階(非常勤講師室)
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語を話すⅠa	科目名（英文）	Chinese Speaking Ⅰ a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	曹　櫻
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し，読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに，後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に，中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80%を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで，『摂南大学中国語Ⅰa』を使用して，週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって，授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。事前・事後に各 60 分の学修を要する。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	複母音(2)，鼻母音(1)	発音編 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	文末助詞，主述述語文	第 1 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	指示代名詞，反復疑問文，構造助詞 2	第 2 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	文末助詞 2，副詞 3	第 3 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	数詞 2，副詞 5	第 4 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	時間詞，名詞述語文	第 5 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	動詞「在」，副詞 6	第 6 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第 4 課～第 6 課まとめ	第 2 回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	会話 7	第 7 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	会話 8	第 8 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	会話 9	第 9 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	動量詞 2，副詞 11	第 10 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	疑問代名詞 4，能願動詞 3	第 11 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	進行文，接続詞 1	第 12 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第 10 課～第 12 課まとめ	第 4 回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目

「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」
「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語Ⅰa	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。
担当者の研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語を話すⅠb	科目名（英文）	Chinese Speaking Ⅰ b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大西　紀
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し，読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに，この学期中に受験する中国語検定試験4級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる11月末までに，中国語検定試験4級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも6割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話すIa」「中国語を読むIa」「中国語を聞くIa」「中国語を書くIa」のひとつで，『摂南大学中国語Ⅰa』を使用して，週4回の授業をリレー式に連携して進める。したがって，授業はこの4科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験4級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	是～的構文	第13課1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	動態助詞「着」，気象現象	第14課1＋第13課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第13，14課文法と語彙の復習	第13課～14復習課	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	検定4級準備（1）文法	第15課3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	検定4級準備（2）日文中訳	第16課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	検定4級準備（3）日文中訳	第17課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	検定4級準備（4）長文読解	第18課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	検定4級準備（5）長文読解	第19課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	検定4級準備（6）長文読解	第20課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	長文読解と既習事項確認(1)語彙と発音	第21課1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第21課到達度確認	復習＋第21課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	長文読解と既習事項確認(2)中文日訳	第22課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	長文読解と既習事項確認(3)教材音読	第23課3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	長文読解と既習事項確認(4)日文中訳	第24課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第24課～25課到達度確認	復習＋第24課～第25課単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を読むIb」「中国語を聞くIb」「中国語を書くIb」 「ビジネス中国語b」「映像中国語b」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語Ⅰb	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各60分の学修を要する。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語を話すⅠb	科目名（英文）	Chinese Speaking Ⅰ b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	曹　櫻
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し，読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに，この学期中に受験する中国語検定試験4級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる11月末までに，中国語検定試験4級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも6割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話すIa」「中国語を読むIa」「中国語を聞くIa」「中国語を書くIa」のひとつで，『摂南大学中国語Ⅰa』を使用して，週4回の授業をリレー式に連携して進める。したがって，授業はこの4科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験4級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	是～的構文	第13課1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	動態助詞「着」，気象現象	第14課1＋第13課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第13，14課文法と語彙の復習	第13課～14復習課	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	検定4級準備（1）文法	第15課3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	検定4級準備（2）日文中訳	第16課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	検定4級準備（3）日文中訳	第17課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	検定4級準備（4）長文読解	第18課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	検定4級準備（5）長文読解	第19課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	検定4級準備（6）長文読解	第20課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	長文読解と既習事項確認(1)語彙と発音	第21課1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第21課到達度確認	復習＋第21課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	長文読解と既習事項確認(2)中文日訳	第22課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	長文読解と既習事項確認(3)教材音読	第23課3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	長文読解と既習事項確認(4)日文中訳	第24課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第24課～25課到達度確認	復習＋第24課～第25課単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を読むIb」「中国語を聞くIb」「中国語を書くIb」 「ビジネス中国語b」「映像中国語b」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語Ⅰb	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各60分の学修を要する。
担当者の研究室等	非常勤講師室（7号館2階）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることも

科目名	中国語を話すⅡa	科目名（英文）	Chinese Speaking II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	段　飛虹
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに，それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物やWebサイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験３級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる６月末をめどに，中国語検定試験３級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも６割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	これは中国語専攻クラスで統一教材『摂南大学中国語 IIa』を使う必修科目「中国語を話す IIa」「中国語を読む IIa」「中国語を聞く IIa」「中国語を書く IIa」のひとつである。授業はこの４科目がリレー式に行われるので，４科目を履修していることを前提に進行する。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験３級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第１回	第１話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第５回	第３話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第９回	第５話	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第 13 回	第７話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第 20 回	第６話～第 10 話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第 24 回	第 12 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第 28 回	第 14 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第 32 回	第 16 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第 36 回	第 18 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第 40 回	第 16 話～第 20 話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第 44 回	第 22 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第 48 回	第 24 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第 52 回	第 26 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第 56 回	第 28 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第 60 回	第 26 話～第 30 話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語講読 IIa」「中国語 LLIIa」「中国語作文 IIa」 「ビジネス中国語 IIa」「日中翻訳法 Ia」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 IIa	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
担当者の研究室等	７号館２階(非常勤講師室)
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語を話すⅡa	科目名（英文）	Chinese Speaking II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	曹　櫻
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに，それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物や Web サイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験 3 級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 6 月末をめどに，中国語検定試験 3 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	これは中国語専攻クラスで統一教材『摂南大学中国語 IIa』を使う必修科目「中国語を話す IIa」「中国語を読む IIa」「中国語を聞く IIa」「中国語を書く IIa」のひとつである。授業はこの 4 科目がリレー式に行われるので，4 科目を履修していることを前提に進行する。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験 3 級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第 1 回	第 1 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第 5 回	第 3 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第 9 回	第 5 話	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第 13 回	第 7 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第 20 回	第 6 話～第 10 話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第 24 回	第 12 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第 28 回	第 14 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第 32 回	第 16 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第 36 回	第 18 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第 40 回	第 16 話～第 20 話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第 44 回	第 22 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第 48 回	第 24 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第 52 回	第 26 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第 56 回	第 28 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第 60 回	第 26 話～第 30 話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目

「中国語講読 IIa」「中国語 LLIIa」「中国語作文 IIa」
「ビジネス中国語 IIa」「日中翻訳法 Ia」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 IIa	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
担当者の研究室等	７号館２階(非常勤講師室)
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語を話すⅡb	科目名（英文）	Chinese Speaking II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	段　飛虹
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるて，それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物やWebサイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験3級および2級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる11月末をめどに，中国語検定試験3級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも7割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻クラスの必修科目「中国語を話すIIb」「中国語を読むIIb」「中国語を聞くIIb」「中国語を書くIIb」のひとつで，これらの授業では共通教材『摂南大学中国語IIb』をリレー式に使う。4科目をすべて履修していることを前提として授業が進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験3級・2級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第4回	第2話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第8回	第4話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第15回	第8話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第19回	第10話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第22回	第11話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第26回	第13話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第30回	第15話後半・第21回～第30回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第34回	第17話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第38回	第19話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第42回	第21話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第46回	第23話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第50回	第25話後半・第41回～第50回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第51回	第26話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第58回	第29話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第59回	第30話前半・第51回～第59回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目

「中国語講読IIb」「中国語LLIIb」「中国語作文IIb」
「ビジネス中国語IIb」「日中翻訳法Ia」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語IIb	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各60分の学修を要する。
担当者の研究室等	７号館２階(非常勤講師室)
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語を話すⅡb	科目名（英文）	Chinese Speaking II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	曹　櫻
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるて，それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物やWebサイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験３級および２級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末をめどに，中国語検定試験３級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも７割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻クラスの必修科目「中国語を話す IIb」「中国語を読む IIb」「中国語を聞く IIb」「中国語を書く IIb」のひとつで，これらの授業では共通教材『摂南大学中国語 IIb』をリレー式に使う。4 科目をすべて履修していることを前提として授業が進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験３級・２級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第４回	第２話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第８回	第４話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第 15 回	第８話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第 19 回	第 10 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第 22 回	第 11 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第 26 回	第 13 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第 30 回	第 15 話後半・第 21 回～第 30 回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第 34 回	第 17 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第 38 回	第 19 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第 42 回	第 21 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第 46 回	第 23 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第 50 回	第 25 話後半・第 41 回～第 50 回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第 51 回	第 26 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第 58 回	第 29 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第 59 回	第 30 話前半・第 51 回～第 59 回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語講読 IIb」「中国語 LLIIb」「中国語作文 IIb」 「ビジネス中国語 IIb」「日中翻訳法 Ia」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 IIb	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
担当者の研究室等	７号館２階(非常勤講師室)
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語を読むⅠa	科目名（英文）	Chinese Reading Ⅰa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	欒　玉璽
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し，読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに，後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に，中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80%を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで，『摂南大学中国語Ⅰa』を使用して，週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって，授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	複母音(3)，鼻母音(4)，子音(3)	発音編 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	自己紹介，疑問詞疑問文	第 1 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	副詞語順，全否定，部分否定，疑問視疑問文	第 2 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	二重目的語，副詞 4	第 3 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第 1 課～第 3 課会話文から出題	復習 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	所有，存在，疑問代名詞 2	第 4 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	疑問代名詞 3，介詞 1	第 5 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	指示代名詞 2	第 6 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	介詞 3，量詞 3	第 7 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	7 課小テスト，介詞 4，動量詞	第 8 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	8 課小テスト，状態補語，介詞 5	第 9 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第 7 課～第 9 課会話文から出題	復習 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	能願動詞 1	第 10 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	比較文，能願動詞 4	第 11 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	疑問代名詞 5，副詞 12	第 12 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目

「中国語を話す Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」
「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語Ⅰa	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
担当者の研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語を読むⅠb	科目名（英文）	Chinese Reading Ⅰ b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	欒　玉璽
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し，読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに，この学期中に受験する中国語検定試験4級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる11月末までに，中国語検定試験4級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも6割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話すIa」「中国語を読むIa」「中国語を聞くIa」「中国語を書くIa」のひとつで，『摂南大学中国語Ⅰa』を使用して，週4回の授業をリレー式に連携して進める。したがって，授業はこの4科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験4級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	助動詞「打算」「准備」，前置詞「為了」「除了」	第13課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	存現文，兼語文	第14課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第13，14課文法と語彙の到達度確認	第13課～14単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	検定4級準備（1）日文中訳	第15課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	検定4級準備（2）リスニング	第16課1＋第15課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	検定4級準備（3）リスニング	第17課1＋第16課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	検定4級準備（4）文法	第18課3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	検定4級準備（5）文法	第19課3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	検定4級準備（6）文法	第20課3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	長文読解と既習事項確認(1)日文中訳	第21課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	長文読解と既習事項確認(2)語彙と発音	第22課1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第22課到達度確認	復習＋第22課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	長文読解と既習事項確認(3)中文日訳	第23課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	長文読解と既習事項確認(4)教材音読	第24課3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	長文読解と既習事項確認(5)日文中訳	第25課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を話すIb」「中国語を聞くIb」「中国語を書くIb」 「ビジネス中国語b」「映像中国語b」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語Ⅰb	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各60分の学修を要する。
担当者の研究室等	非常勤講師室（7号館2階）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語を読むⅡa	科目名（英文）	Chinese Reading II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中西　正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに，それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物やWebサイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験3級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる6月末をめどに，中国語検定試験3級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも6割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	これは中国語専攻クラスで統一教材『摂南大学中国語 IIa』を使う必修科目「中国語を話す IIa」「中国語を読む IIa」「中国語を聞く IIa」「中国語を書く IIa」のひとつである。授業はこの4科目がリレー式に行われるので，4科目を履修していることを前提に進行する。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験3級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第4回	第2話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第8回	第4話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第12回	第6話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第16回	第8話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第19回	第10話	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第23回	第12話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第27回	第14話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第31回	第16話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第35回	第18話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第39回	第20話	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第43回	第22話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第47回	第24話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第51回	第26話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第55回	第28話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第59回	第30話	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語会話 IIa」「中国語 LLIIa」「中国語作文 IIa」 「ビジネス中国語 IIa」「日中翻訳法 Ia」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 IIa	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各60分の学修を要する
担当者の研究室等	中西研究室（7号館3階）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語を読むⅡb	科目名（英文）	Chinese Reading II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中西　正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるて，それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物やWebサイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験３級および２級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末をめどに，中国語検定試験３級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも７割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻クラスの必修科目「中国語を話す IIb」「中国語を読む IIb」「中国語を聞く IIb」「中国語を書く IIb」のひとつで，これらの授業では共通教材『摂南大学中国語 IIb』をリレー式に使う。4 科目をすべて履修していることを前提として授業が進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験３級・２級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第３回	第２話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第７回	第４話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第 11 回	第６話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第 14 回	第７話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第 18 回	第９話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第 21 回	第 11 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第 25 回	第 13 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第 29 回	第 15 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第 33 回	第 17 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第 37 回	第 19 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第 41 回	第 21 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第 45 回	第 23 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第 49 回	第 25 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第 54 回	第 27 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第 57 回	第 29 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語会話 IIb」「中国語 LLIIb」「中国語作文 IIb」 「ビジネス中国語 IIb」「日中翻訳法 Ia」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 IIb	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する
担当者の研究室等	中西研究室（7 号館 3 階）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国史学	科目名（英文）	Chinese History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森川　裕貫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	近年否定的側面が強調されることの多い日中関係だが、私たちの身の回りには中国製品があふれており、中国から日本を訪れる人々もかつてに比べて格段に増加している。日本と中国は切っても切り離せない関係に立っているのであり、中国について単に好きか嫌いかで語るのではなく、客観的に理解を深める必要性が高まっている。だがそのためには、近年の中国の状況について知るだけでは不十分であり、時間をさかのぼって考えることが求められる。この講義では、今日そして今後の中国について理解を深める上で大きな意味を持っている中国の近現代の歴史に着目する。具体的には、まず清代から中華人民共和国までの中国の歩みを確認し、その上で今日のわれわれにも関わりのある身近な問題を手がかりに、中国の特色について考えていくこととしたい。
到達目標	中国近現代史に関する基本的知識を身につける。 それに基づき、自分の考えを明確かつ論理的に表現できるようにする。
授業方法と留意点	毎回レジュメを配布し、解説を加える。必要に応じて、スライドなども用いる。歴史上の中国のことだけではなく、今日の中国の状況についても適宜紹介・説明する。
科目学習の効果（資格）	中国近現代史、そしてこれからの中国を理解するための手がかりを得る。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	講義の目的と、進行・評価方法についての説明	中国近現代史について、関心を持っている事柄を整理する
2	日本と中国の違い	日本と中国の政治や社会の差異	講義内容の復習と整理
3	清朝の性格	清朝の基本的性格とその興隆	講義内容の復習と整理
4	清朝の衰退	清朝を衰退させた内外の諸要因（アヘン戦争・太平天国の乱など）	講義内容の復習と整理
5	北京政府時期の中華民国	1920 年代半ばまでの中華民国の政治と社会（袁世凱の政治とその後）	講義内容の復習と整理
6	南京国民政府時期の中華民国	1920 年代半ば以降の中華民国の政治と社会（蒋介石の台頭）	講義内容の復習と整理
7	中国共産党の成立	中国共産党成立の経緯とその特色	講義内容の復習と整理
8	中華人民共和国の建国とその展開	中華人民共和国の成立とその統治の性格（毛沢東による政治）	講義内容の復習と整理
9	改革開放にいたる道	文化大革命から改革開放までの中華人民共和国	講義内容の復習と整理
10	中国近現代の留学	中国近現代に日本留学が盛んとなった背景とその特徴	講義内容の復習と整理
11	中国近現代の男女関係	中国の男女関係とその近現代における変容	講義内容の復習と整理
12	中国近現代の親子関係	中国の親子関係とその近現代における変容	講義内容の復習と整理
13	中国近現代の身体をめぐる議論（1）	纏足を取り巻く問題	講義内容の復習と整理
14	中国近現代の身体をめぐる議論（2）	辮髪・断髪を取り巻く問題	講義内容の復習と整理
15	講義のまとめと確認テスト	講義内容の総括・確認テスト	講義から学んだことを整理する

関連科目：そのほかの中国関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義への継続的参加を前提に、リアクションペーパー・小テスト（50%）、確認テスト（50%）により評価する。
学生へのメッセージ	今日の日本や中国と、歴史上の中国との類似や差異についても言及しながら講義を進める。中国や歴史全般に関心のある学生の受講を歓迎する。 教科書は使用しないが、参考となる書籍を適宜紹介するので、実際に手に取ってみることを強く勧める。
担当者の研究室等	７号館２階(非常勤講師室)
備考	毎回の講義終了後を、講義に関する質問に対応する時間とするので、質問のある場合はこの時間に提示すること。

科目名	中国地誌学	科目名（英文）	Chinese Geography
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	瀬戸　宏.北島　由紀子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	中国と韓国を中心とした東アジアの地域社会・文化の概要を学び、これらの地域への理解を深めます。
到達目標	中国と韓国を中心とした東アジアの歴史・文化の概要が理解できます。
授業方法と留意点	毎回の出席を重視します。
科目学習の効果（資格）	東アジアへの理解が深まります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	中国の現代社会①瀬戸	映画「きれいなお母さん」を鑑賞し、変化する中国社会を理解する。	二〇世紀末から２１世紀初めの中国社会について調べる。
2	中国の現代社会②瀬戸	映画「きれいなお母さん」の背景にある市場経済の浸透、学校教育のあり方について考える。	中国の障碍者教育、母子家庭の現状について調べる。
3	中国の現代社会③瀬戸	映画「生きる」を鑑賞し、中華民国期から文化大革命までの中国社会の歩みを理解する。	中華民国から中華人民共和国への社会変化について調べる。
4	中国の現代社会④瀬戸	映画「生きる」の背景にある現代中国人の生き方について考える。	大躍進、文化大革命など中華人民共和国の歴史について調べる。
5	中国の伝統社会①瀬戸	映画「紅夢」を鑑賞し、旧時代の家庭の有り様を理解する。	旧中国の家庭制度、結婚制度について調べる。
6	中国の伝統社会②瀬戸	映画「紅夢」の背景にある封建家庭の構造、そこでの人々の思考について考える。	中国旧家庭の構造について調べる。
7	中国の伝統社会③瀬戸	映画「ヒーロー」を鑑賞し、古代の人々の情況を理解する。	中国古代の歴史につて調べる。
8	中国の伝統社会④瀬戸	映画「ヒーロー」の背景にある中国古代社会の構造を考える。	中国古代の社会状況について調べる。
9	まとめ　瀬戸	これまでの授業で理解した中国社会と日本社会を比較し、その共通点と相違点を考える。	これまでの授業に関するレポートを書く。
10	新しい韓国文化①北島	韓流はどのように浸透したのか	近年の韓国文化の流れや日本への影響を知る
11	新しい韓国文化②北島	韓流の変化	韓流の変化を通して、日本における韓国文化について考える
12	古い伝承からみる朝鮮半島①北島	神話に登場する神々	朝鮮半島の説話を知る
13	古い伝承からみる朝鮮半島②北島	古代国家の建国神話	朝鮮半島の古代国家についてより深く知る
14	古い伝承からみる朝鮮半島③北島	昔話・動物説話	昔話にあらわれる文化的特徴をみる
15	伝承からみる日本との関わり　北島	日韓昔話比較の一例	日本との関連性を考える

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：40% 締めくくりテスト：60%
学生へのメッセージ	いっしょに中国、韓国について勉強しましょう。
担当者の研究室等	７号館３階瀬戸研究室、７号館２階非常勤講師室
備考	授業の進行状況をみて、取り上げる作品などを変更することがあります。 事前・事後に各 60 分の学修を要する。

科目名	中国文学	科目名（英文）	Chinese Literature
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	瀬戸　宏
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	中国文学の中で、中国現代文学・演劇・映画を中心とする中国現代文化を中心に講義する。清末から現在までの代表的な作家・作品や特徴的な文化事象をとりあげその背後にあるものを探る。
到達目標	中国現代文学・演劇の流れと主要作品の概要が理解できる。また、作品の背景にある現代中国の人々の思想・感情も理解できる。
授業方法と留意点	教室での講義を中心とするが、ビデオなど映像資料も随時使用する。
科目学習の効果（資格）	中国の現代文化の概況や現代中国の生きた姿が文学作品やビデオなどを通して楽しく理解できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	中国現代文化の内容およびそれ以前の中国伝統文化の特徴について概説する。	中国現代文学の流れをまとめる。
2	清末・民初の文学・演劇運動	五四新文学に先立つ清末・民初の文学・演劇について考える。	辛亥革命前後の文学・演劇改良運動はな不徹底に終わったか考える。
3	五四運動と魯迅	『吶喊』序を読みながら、魯迅の文学的生涯について考える。	魯迅はなぜ文学を志したか、考える。
4	五四時期のその他の文学	五四時期のその他の作家について考える。	五四時期の特徴を考えてみる。
5	曹禺 1	曹禺の生涯を概観した後、「雷雨」について映画を観ながらその内容について考える。	曹禺の生涯についてまとめてみる。
6	曹禺 2	引き続き「雷雨」について考える。	「雷雨」の内容をまとめる。
7	曹禺 3	「日の出」「原野」「北京人」など曹禺の主要作品について考える。	曹禺の戯曲を読んでみる。
8	毛沢東と文芸講話	毛沢東『文芸講話』がその後の中国文学に与えた影響について考える。	「文芸講話」の内容をまとめてみる。
9	老舎１	「茶館」について上演ビデオを鑑賞しながらその内容とその作品が書かれた時代背景について考えていく。	「茶館」を読んでみる。
10	老舎２	引き続き「茶館」を鑑賞しながら、その意味について考えていく。	「茶館」の内容を読んでみる。
11	文化大革命期の文学・演劇	革命模範劇など文革期の作品を鑑賞し、その特質を探る	文化大革命について調べてみる
12	高行健	中国語で創作する作家として最初にノーベル文学賞を受賞した高行健の作品について考える。	高行健の戯曲「バス停」の内容をまとめてみる。
13	改革開放後の文学（１）	文化大革命終結後 1989 年までの中国文学の流れをふりかえる。	天安門事件について調べてみる。
14	改革開放後の文学（２）	六四天安門事件以後の中国文学の流れを振り返る	北京オリンピック、上海万博の文化的意義について考えてみる。
15	まとめ	中国現代文学の流れをもう一度振り返る	中国現代文学の流れをもう一度まとめてみる。

関連科目：特になし。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国のシェイクスピア	瀬戸　宏	松本工房
2			
3			

評価方法（基準）	平常点 40%、定期試験 60%
学生へのメッセージ	激動する現代中国の背景にある中国現代文化の状況を知りたい学生の参加を歓迎します。中国語を受講していない学生の受講も歓迎します。
担当者の研究室等	７号館３階(瀬戸研究室)
備考	

科目名	通訳･翻訳インドネシア・マレー語	科目名（英文）	Indonesian-Malay Interpretation and Translation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山口　真佐夫
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	インドネシア語における専門的知識と能力を持った人材になるための授業を行う。需要が多いが、使える人が少ないインドネシア語の専門的人材になるための通訳、翻訳の技術を養う。この授業を通してインドネシア語能力の充実を目指す。
到達目標	インドネシア語の通訳、翻訳を専門的に行うことができる能力の習得。
授業方法と留意点	すでに３年間インドネシア語を学んできた上で、さらなる能力の向上を目指すのであれば、各受講生は自分で十分準備をしてから授業に望んでほしい。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語検定。 実践的なインドネシア語能力の習得。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価についての説明。	シラバスを読んでおくこと。
2	翻訳１	翻訳に関する基本的な知識の説明。	翻訳に必要なものは何か、考えておくこと。
3	翻訳２	翻訳の練習１ インドネシア語から日本語への翻訳練習１。	翻訳内容の予習をしておくこと。
4	翻訳３	翻訳の練習２ インドネシア語から日本語への翻訳練習２。	翻訳内容の予習をしておくこと。
5	翻訳４	翻訳の練習３ インドネシア語から日本語への翻訳練習３。	翻訳内容の予習をしておくこと。
6	翻訳５	翻訳の練習４ 日本語からインドネシア語への翻訳練習１。	翻訳内容の予習をしておくこと。
7	翻訳６	翻訳の練習５ 日本語からインドネシア語への翻訳練習２。	翻訳内容の予習をしておくこと。
8	翻訳７	翻訳の練習６ 日本語からインドネシア語への翻訳練習３。	翻訳内容の予習をしておくこと。
9	翻訳力の確認	臨時試験１ 臨時試験の内容の確認。	第１回から第８回の復習をしておくこと。
10	時事文の速読１	日本語からインドネシア語。	内容の復習。
11	時事文の速読２	インドネシア語から日本語。	内容の復習。
12	時事文の速読力の確認	臨時試験２ 臨時試験の内容の確認。	第 10 回から第 11 回の復習をしておくこと。
13	通訳１	通訳に関する基本的な知識の説明。	内容の復習。
14	通訳２	通訳の練習	内容の復習。
15	通訳力の確認	臨時試験３ 臨時試験の内容の確認。	第 13 回から第 14 回の復習をしておくこと。

関連科目	主言語インドネシア語の科目すべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	臨時試験１　40%、臨時試験２　30%、臨時試験３　30%
学生へのメッセージ	４年間のインドネシア語学習の完成を目指して、努力をしてほしい。
担当者の研究室等	７号館５階　山口室
備考	指示された予習・復習には充分時間をかけ、学習効果を上げるようにすること。 臨時試験の内容に関しては、各試験終了後の授業中に確認、説明を行う。

科目名	ツーリズム論Ⅰ	科目名（英文）	Tourism Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	手代木　功基
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的

エコツーリズムとは、地域の自然や文化、歴史などの魅力を活かしながら、それらの資源の持続的な利用を前提とする観光の形であり、今後の観光を考えていく上で重要な概念です。本講義では、エコツーリズムの背景や理念を学ぶとともに、国内外の様々な事例を通じて、エコツーリズムの現状と課題、今後の展望について考えます。
本授業では、自らエコツーリズムを企画するなど、能動的に授業に取り組むことを求めます。そして、受講者が持続可能な観光・地域のあり方について自ら考えることが出来るようになることを期待します。

なお、この科目は「観光ホスピタリティ」プログラム対応科目です。

到達目標

1. エコツーリズムの基本について理解し、説明できる
2. 持続可能な観光・地域のあり方について自ら考えることが出来る

授業方法と留意点

投影資料の利用とプリントの配布による講義形式を中心とするが、エコツーリズムを企画するためのグループワーク、資料収集等の個人作業、プレゼンテーションなども含む。

科目学習の効果（資格）

旅行業務取扱管理者等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、テキスト、採点方法等について把握する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
2	エコツーリズムの誕生と展開１	エコツーリズムの背景や理念を知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
3	エコツーリズムの誕生と展開２	エコツーリズムの背景や理念を知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
4	エコツーリズムとジオツーリズム１	エコツーリズムと関わりが深いジオツーリズムについて学ぶ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
5	エコツーリズムとジオツーリズム２	エコツーリズムと関わりが深いジオツーリズムについて学ぶ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
6	地域づくりとエコツーリズム１	エコツーリズムを考える上で不可欠な地域との関係を知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
7	地域づくりとエコツーリズム２	エコツーリズムを考える上で不可欠な地域との関係を知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
8	食をめぐるツーリズム	エコツーリズムに関わりが深い食を活かしたツーリズムを学ぶ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
9	エコツーリズムの事例:屋久島	屋久島の事例をもとにエコツーリズムを考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。興味があるエコツーリズムの事例地域を決め、情報を集める
10	エコツーリズムの事例:和歌山	和歌山の事例をもとにエコツーリズムを考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。興味があるエコツーリズムの事例地域を決め、情報を集める
11	エコツーリズムの事例:白山	白山の事例をもとにエコツーリズムを考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。興味があるエコツーリズムの事例地域を決め、情報を集める
12	エコツーリズムの事例:アフリカ	アフリカの事例をもとにエコツーリズムを考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。興味があるエコツーリズムの事例地域を決め、情報を集める
13	多様な地域資源	エコツーリズムを企画する上で活用すべき地域の多様な資源について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。興味があるエコツーリズムの事例地域を決め、情報を集める
14	エコツーリズムを企画する	グループに別れて、実際に特定の地域でエコツーリズムを企画する	エコツーリズム企画の発表に関わる準備を行う
15	総括・企画の発表	企画案を発表し、ディスカッションを行う	エコツーリズム企画の発表について準備を行うとともに、ディスカッションをふまえて内容を修正する

関連科目

観光ホスピタリティプログラム関連科目（ホスピタリティ論、アーバンツーリズム論等）、地域環境論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

授業への取り組み（リアクションペーパーの内容、受講態度、プレゼンテーションの内容、議論やグループワークへの参加状況等）（50%）とレポート（50%）で評価します。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等

７号館５階（手代木研究室）

備考

事前・事後の学習は、全体で 60 時間を目安とします。
リアクションペーパーやレポート等の提出物に対してはコメントや質問回答といったフィードバックを行います。

科目名	ツーリズム論Ⅱ	科目名（英文）	Tourism II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	柴田　陽一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	アーバンツーリズムとは，都市が有する歴史的・文化的遺産を活かしながら，都市経済および都市環境の再生を目指す，比較的新しい観光の形である。芸術，娯楽，ショッピングを楽しんだり，その都市の町並みや市民の暮らしに触れたりすることも含まれている。本講義では，都市観光に関する基礎知識を学び，具体例からその現状と課題，今後の展望について考える。受講者が観光まちづくりへの理解を深め，関心を高めることを目的とする。 ※この科目は「観光ホスピタリティ」プログラム対応科目である。
到達目標	アーバンツーリズムに関する基礎知識を習得し，それを用いて，ゲストとホストの立場から都市観光プランと観光まちづくりプランを考案することができる。
授業方法と留意点	配布資料とパワーポイントを用いて授業を進める。毎回の授業の終わりに課題を出すので，それに取り組むことで復習・予習をしてほしい。普段の授業ではグループディスカッションを取り入れる。期末にはグループ発表を行ってもらう。日ごろから観光に関する報道（ＴＶニュース，新聞，ネット等）に関心を払うこと。
科目学習の効果（資格）	アーバンツーリズムについて学習・理解することにより，将来の進路決定をする際の一つの判断材料として役立てることができる（特に公的資格には直接つながらない）。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方，参考書の紹介など	特になし
2	都市の形成と衰退	都市が形成と衰退について，交通との関連から考える	課題による復習・予習
3	都市の類型	都市がもつ機能から類型を考える	課題による復習・予習
4	観光目的の変化	観光の歴史を簡単に振り返りながら，近年の観光目的の変化を確認する	課題による復習・予習
5	都市観光の意義	都市観光が生まれた背景とそれがもつ意義を考える	課題による復習・予習
6	都市観光プランと観光まちづくりプラン	ゲストとホストの視点から見た都市観光について考える	課題による復習・予習
7	京都①	京都の事例から都市観光について考える	課題による復習・予習
8	京都②	京都の事例から都市観光について考える	課題による復習・予習
9	大阪①	大阪の事例から都市観光について考える	課題による復習・予習
10	大阪②	大阪の事例から都市観光について考える	課題による復習・予習
11	神戸①	神戸の事例から都市観光について考える	課題による復習・予習
12	神戸②	神戸の事例から都市観光について考える	課題による復習・予習
13	その他の都市	その他の都市の事例から都市観光について考える	グループ発表の準備
14	グループ発表①	都市観光プランに関するグループ発表	グループ発表の準備
15	グループ発表②	観光まちづくりプランに関するグループ発表	期末レポートの準備

関連科目	「エコツーリズム論」等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	都市観光：まちの観光	須田寛	交通新聞社
2	アーバンツーリズム	淡野明彦	古今書院
3	アーバン・ツーリズム	クリストファー・ロー	近代文芸社

評価方法（基準）	期末レポート４０％，グループ発表３０％，授業中課題３０％
学生へのメッセージ	訪日外国人の増加や２０２０年の東京オリンピック・パラリンピックに向け，観光産業はますます重要性を増している。加えて都市観光は，わたしたちが日常的に接している場所で行われていることである。したがって，観光関連産業を将来の進路として考えている学生はもちろん，そうでない学生も興味をもって学習できる内容であろう。
担当者の研究室等	7 号館 5 階（柴田研究室）
備考	事前・事後学習は総時間６０時間を目安とする。

科目名	ディスプレイ論	科目名（英文）	Museum Display Planning
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松浦　清
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	博物館施設における展示とは何か。展示の意義と役割について理解し、効果的な展示の手法を理論の裏付けと実践に基づいて身につけることをめざす。博物館施設の展示に関する基礎的知識の習得と実践的作業の演習。
到達目標	博物館施設における展示とは何かを説明することができる。また、具体的な展示物に即した効果的な展示を自ら考え、実施することが出来る。博物館施設の展示に関する基礎的な知識と技術の習得。
授業方法と留意点	博物館施設における展示の概要を講義形式で学び、具体的な展示の形態や手法については、実践的な演習を通して理解できるようにする。展示は単なる知識ではなく、実際の作業そのものである。その作業には、作業全体に関わる展示計画の策定が必要であるが、その策定の基礎となるのは、展示対象物や展示補助具等についての正しい知識とそれらを適切に取り扱う技術である。展示パネルの製作を通して、展示に必要な技術の基本を習得する。授業の中で各種博物館施設や展覧会について紹介するので、日頃から博物館施設を訪れ、さまざまな展示に接する機会を設けること。
科目学習の効果（資格）	学芸員資格認定のため必修の科目。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	全体ガイダンス	授業のねらいと受講上の諸注意について理解する。	事前：博物館施設の活動と役割について調べておくこと（1時間）。 事後：授業を振り返り、授業のねらいと受講上の諸注意について確認すること（1時間）。
2	博物館施設の役割と展示	博物館施設の役割と展示の意義について理解する。	事前：博物館施設における展示の意義について調べておくこと（1.5時間）。 事後：授業を振り返り、展示の意義について確認すること（2時間）。
3	展示の形態と手法	展示における各種の形態と手法について理解する。	事前：博物館施設における展示の形態と手法について調べておくこと（1.5時間）。 事後：授業を振り返り、展示の形態と手法について確認すること（2時間）。
4	展示の環境と設備	展示における各種の環境と設備について理解する。	事前：博物館施設における展示の環境と設備について調べておくこと（1.5時間）。 事後：授業を振り返り、展示の環境と設備について確認すること（2時間）。
5	資料の取り扱い	展示の基礎である展示物の取り扱いについて理解する。	事前：博物館施設における資料の取り扱いについて調べておくこと（1.5時間）。 事後：授業を振り返り、資料の取り扱いについて確認すること（2時間）。
6	展示のための補助具	展示作業に必要な補助具について理解する。	事前：博物館施設における展示のための補助具について調べておくこと（1.5時間）。 事後：授業を振り返り、展示のための設備と補助具について確認すること（2時間）。
7	陳列と撤収	陳列と撤収の関係について理解する。	事前：博物館施設における陳列と撤収について調べておくこと（1.5時間）。 事後：授業を振り返り、陳列と撤収について確認すること（2時間）。
8	前半のまとめ	前半の授業内容について理解度を確認する。	事前：博物館施設における展示の全体について確認しておくこと（5時間）。 事後：授業を振り返り、展示の重要事項について整理すること（3時間）。
9	企画展の計画	ミニ企画展を計画する。	事前：博物館施設における企画展について調べておくこと（1.5時間）。 事後：授業を振り返り、企画展の計画について確認すること（2時間）。
10	展示物の選定	ミニ企画展に出品する展示物を選定する。	事前：企画展における展示物の選定について調べておくこと（1.5時間）。 事後：授業を振り返り、展示物の選定について確認すること（2時間）。
11	展示補助具の確認	展示資料を陳列するための補助具を確認する。	事前：企画展における展示補助具について調べておくこと（1.5時間）。 事後：授業を振り返り、展示補助具について確認すること（2時間）。
12	展示パネルの製作	展示資料の展示パネルを製作する。	事前：企画展における展示パネルについて調べておくこと（1.5時間）。 事後：授業を振り返り、展示パネルについて確認すること（2時間）。
13	展示作業	展示資料の陳列とパネルの設置をおこない、作業完了後に展示状況を記録し、撤収作業をおこなう。	事前：企画展における展示作業について調べておくこと（1.5時間）。 事後：授業を振り返り、展示作業について確認すること（2時間）。
14	展示の評価	展示全体を評価する。	事前：企画展の展示を評価する基準について調べておくこと（1.5時間）。 事後：授業を振り返り、展示の基準について確認すること（2時間）。
15	後半のまとめ	後半の授業内容について理解度を確認する。	事前：企画展の全体について確認しておくこと（5時間）。 事後：授業を振り返り、展示の重要事項について整理すること（3時間）。

関連科目	学芸員資格に必要な各科目。

教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	博物館展示論（放送大学教材）	佐々木利和、松原茂、原田一敏	放送大学教育振興会
2	博物館展示論	黒沢浩	講談社
3	博物館展示・教育論（博物館シリーズ３）	小原巌	樹村房

評価方法 （基準）	質疑応答等に関する積極的な受講態度（20%）、課題としての制作物の提出（30%）、レポートの提出（50%）によって評価する。
学生への メッセージ	第１回の授業で受講心得と成績評価について説明するので必ず出席すること。 各種博物館施設に足を運び、実際の展示に接するとともに、展示の形態や手法について理解に努めること。
担当者の 研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	授業時間外での質問等に対しては、月曜日の 15 時～16 時に上記の非常勤講師室で対応する。

科目名	ディスプレー論	科目名（英文）	Concepts in Display
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松浦　清
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	博物館施設における展示とは何か。展示の意義と役割について理解し、効果的な展示の手法を理論の裏付けと実践に基づいて身につけることをめざす。博物館施設の展示に関する基礎的知識の習得と実践的作業の演習。
到達目標	博物館施設における展示とは何かを説明することができる。また、具体的な展示物に即した効果的な展示を自ら考え、実施することが出来る。博物館施設の展示に関する基礎的な知識と技術の習得。
授業方法と留意点	博物館施設における展示の概要を講義形式で学び、具体的な展示の形態や手法については、実践的な演習を通して理解できるようにする。展示は単なる知識ではなく、実際の作業そのものである。その作業には、作業全体に関わる展示計画の策定が必要であるが、その策定の基礎となるのは、展示対象物や展示補助具等についての正しい知識とそれらを適切に取り扱う技術である。展示パネルの製作を通して、展示に必要な技術の基本を習得する。授業の中で各種博物館施設や展覧会について紹介するので、日頃から博物館施設を訪れ、さまざまな展示に接する機会を設けること。
科目学習の効果（資格）	学芸員資格認定のため必修の科目。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	全体ガイダンス	授業のねらいと受講上の諸注意について理解する。	事前：博物館施設の活動と役割について調べておくこと（1時間）。 事後：授業を振り返り、授業のねらいと受講上の諸注意について確認すること（1時間）。
2	博物館施設の役割と展示	博物館施設の役割と展示の意義について理解する。	事前：博物館施設における展示の意義について調べておくこと（1.5時間）。 事後：授業を振り返り、展示の意義について確認すること（2時間）。
3	展示の形態と手法	展示における各種の形態と手法について理解する。	事前：博物館施設における展示の形態と手法について調べておくこと（1.5時間）。 事後：授業を振り返り、展示の形態と手法について確認すること（2時間）。
4	展示の環境と設備	展示における各種の環境と設備について理解する。	事前：博物館施設における展示の環境と設備について調べておくこと（1.5時間）。 事後：授業を振り返り、展示の環境と設備について確認すること（2時間）。
5	資料の取り扱い	展示の基礎である展示物の取り扱いについて理解する。	事前：博物館施設における資料の取り扱いについて調べておくこと（1.5時間）。 事後：授業を振り返り、資料の取り扱いについて確認すること（2時間）。
6	展示のための補助具	展示作業に必要な補助具について理解する。	事前：博物館施設における展示のための補助具について調べておくこと（1.5時間）。 事後：授業を振り返り、展示のための設備と補助具について確認すること（2時間）。
7	陳列と撤収	陳列と撤収の関係について理解する。	事前：博物館施設における陳列と撤収について調べておくこと（1.5時間）。 事後：授業を振り返り、陳列と撤収について確認すること（2時間）。
8	前半のまとめ	前半の授業内容について理解度を確認する。	事前：博物館施設における展示の全体について確認しておくこと（5時間）。 事後：授業を振り返り、展示の重要事項について整理すること（3時間）。
9	企画展の計画	ミニ企画展を計画する。	事前：博物館施設における企画展について調べておくこと（1.5時間）。 事後：授業を振り返り、企画展の計画について確認すること（2時間）。
10	展示物の選定	ミニ企画展に出品する展示物を選定する。	事前：企画展における展示物の選定について調べておくこと（1.5時間）。 事後：授業を振り返り、展示物の選定について確認すること（2時間）。
11	展示補助具の確認	展示資料を陳列するための補助具を確認する。	事前：企画展における展示補助具について調べておくこと（1.5時間）。 事後：授業を振り返り、展示補助具について確認すること（2時間）。
12	展示パネルの製作	展示資料の展示パネルを製作する。	事前：企画展における展示パネルについて調べておくこと（1.5時間）。 事後：授業を振り返り、展示パネルについて確認すること（2時間）。
13	展示作業	展示資料の陳列とパネルの設置をおこない、作業完了後に展示状況を記録し、撤収作業をおこなう。	事前：企画展における展示作業について調べておくこと（1.5時間）。 事後：授業を振り返り、展示作業について確認すること（2時間）。
14	展示の評価	展示全体を評価する。	事前：企画展の展示を評価する基準について調べておくこと（1.5時間）。 事後：授業を振り返り、展示の基準について確認すること（2時間）。
15	後半のまとめ	後半の授業内容について理解度を確認する。	事前：企画展の全体について確認しておくこと（5時間）。 事後：授業を振り返り、展示の重要事項について整理すること（3時間）。

関連科目	学芸員資格に必要な各科目。

教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	博物館展示論（放送大学教材）	佐々木利和、松原茂、原田一敏	放送大学教育振興会
2	博物館展示論	黒沢浩	講談社
3	博物館展示・教育論（博物館シリーズ３）	小原巌	樹村房

評価方法 （基準）	質疑応答等に関する積極的な受講態度（20%）、課題としての制作物の提出（30%）、レポートの提出（50%）によって評価する。
学生への メッセージ	第１回の授業で受講心得と成績評価について説明するので必ず出席すること。 各種博物館施設に足を運び、実際の展示に接するとともに、展示の形態や手法について理解に努めること。
担当者の 研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	授業時間外での質問等に対しては、月曜日の 15 時～16 時に上記の非常勤講師室で対応する。

科目名	Debate & Presentation a	科目名（英文）	Debate and Presentation a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	ＡＢ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	齋藤　安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP7○,DP8◎		

授業概要・目的	テーマに基づいたプレゼンテーション、およびディベートを英語で実施し、意思伝達能力を含めた英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	英語によるプレゼンテーションやディベートに必要な情報収集方法とスキルを理解し、実践を通して身に着ける。意見の不一致が起こりやすい状況設定で、自分の意見を根拠を挙げながら相手に分かりやすく主張できるようになる。
授業方法と留意点	授業は基本的に英語で行われる。ICT を用いながら、英語プレゼンテーションをして、それをもとに英語でディベートを行うことが求められる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション テスト	これまでの発表経験や、モデルとしてめざしたい発表などについて話し合う。 同じ文章を使って、より効果的な伝え方を考え、実際にやってみる。	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成（1時間）
2	描写（1）	Unit 11 Naomi's Dilemma リスニング・リーディング・ディスカッション	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成（1時間）
3	描写（2）	Unit 11 Naomi's Dilemma チームでプレゼンテーション	語彙の復習　音読　プレゼン原稿暗記（1時間）
4	比較（1）	Unit　5 Plagiarism リスニング・リーディング・ディスカッション	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成（1時間）
5	比較（2）	Unit 5 Plagiarism チームでプレゼンテーション	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成（1時間）
6	プロセスを伝える（1）	新製品の製造法・使い方について リスニング・リーディング・ディスカッション	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成（1時間）
7	プロセスを伝える（2）	新製品の製造法・使い方について チームでプレゼンテーション	語彙の復習　音読　プレゼン原稿暗記（1時間）
8	プレゼンテーション大会	チーム対抗で発表	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成（1時間）
9	メリットとデメリットを述べる(1)	Unit 13 Career Choice リスニング・リーディング・ディスカッション	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成（1時間）
10	メリットとデメリットを述べる(2)	Unit 13 Career Choice チームでディベート	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成（1時間）
11	相手の意見を引き出す質問(1)	Unit 15　High-Tech Toys リスニング・リーディング・ディスカッション	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成（1時間）
12	相手の意見を引き出す質問(2)	Unit 15　High-Tech Toys チームでプレゼンテーション	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成（1時間）
13	異なる立場で考える（1）	Unit 19 One-Sided Love リスニング・リーディング・ディスカッション	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成（1時間）
14	異なる立場で考える（2）	Unit 19 One-Sided Love チームでディベート	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成（1時間）
15	ディベート大会	チーム対抗でディベート	語彙の復習　　プレゼン原稿暗記（1時間）

関連科目：プレゼンテーション

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Impact Issues 3	Richard R Day	Longman
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	プレゼンテーション 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生への メッセージ	効果的にアイディアやメッセージを伝えられるように、たくさん練習しましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 4F　齋藤研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	Debate & Presentation a	科目名（英文）	Debate and Presentation a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	ＣＤ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久田　歩
ディプロマポリシー(DP)	DP7○,DP8◎		

授業概要・目的	テーマに基づいたプレゼンテーション、およびディベートを英語で実施し、意思伝達能力を含めた英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	英語によるプレゼンテーションやディベートに必要な情報収集方法とスキルを理解し、実践を通して身に着ける。意見の不一致が起こりやすい状況設定で、自分の意見を根拠を挙げながら相手に分かりやすく主張できるようになる。
授業方法と留意点	授業は基本的に英語で行われる、ITC を用いながら英語プレゼンテーションをして、それをもとに英語でディベートを行う事が求められる。必ず辞書を用意する事。 ・授業初めに単語テストを行います。 ・教科書は前後期共通で２冊使います。必ず両方購入すること。 ・遅刻は３回で１回欠席扱いとなります。４回欠席で単位取得資格を失います。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション プレゼンテーション導入 リスニング　リピーティング 語彙	プレゼンテーション自己（他人）紹介 導入 UNIT12 No place like home 1	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成 （1時間）
2	プレゼンテーション発展 リスニング　リピーティング 語彙	プレゼンテーション自己（他人）紹介 仕上げ UNIT12 No place like home 2	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成 （1時間）
3	プレゼンテーション発表 題材を元にして意見を述べる	単語テスト１ プレゼンテーション自己（他人）紹介 発表 UNIT 10 Adult Children 1	語彙の復習　音読　プレゼン原稿暗記 （1時間）
4	プレゼンテーション導入 リスニング　リピーティング	プレゼンテーション問題解決　導入 UNIT 10 Adult Children 2	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成 （1時間）
5	内容チェックテスト１ リスニング　リピーティング 語彙	テスト１回目 UNIT14 High Tech Toys 1	テスト勉強　語彙の復習　音読 プレゼン原稿作成 （1時間）
6	プレゼンテーション発展 題材を元にして意見を述べる	プレゼンテーション問題解決仕上げ UNIT14 High Tech Toys 2	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成 （1時間）
7	プレゼンテーション発表 リスニング　リピーティング 語彙	単語テスト２ プレゼンテーション問題解決 発表 UNIT4 Rules1	語彙の復習　音読　プレゼン原稿暗記 （1時間）
8	プレゼンテーション導入 リスニング　リピーティング 語彙	単語テスト プレゼンテーション　日本紹介　導入 グループ分け UNIT4 Rules2	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成 （1時間）
9	プレゼンテーション発展 題材を元にして意見を述べる	単語テスト３ プレゼンテーション日本紹介　調査 UNIT3 I don't care 1	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成 （1時間）
10	内容チェックテスト２ プレゼンテーション発展 リスニング　リピーティング 語彙	テスト２回目 UNIT3 I don't care 2	テスト勉強　語彙の復習　音読 プレゼン原稿作成 （1時間）
11	プレゼンテーション発表 リスニング　リピーティング 語彙	プレゼンテーション日本紹介　発表１ UNIT1 Cosmetic Surgery	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成 （1時間）
12	プレゼンテーション 発表題材を元にして意見を述べる	単語テスト４ プレゼンテーション日本紹介　発表 ２UNIT19 One-sided love	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成 （1時間）
13	プレゼンテーション導入 リスニング　リピーティング 語彙	プレゼンテーション　夏休み　導入 UNIT17 The compromise 1	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成 （1時間）
14	プレゼンテーション発展 題材を元にして意見を述べる	単語テスト５ プレゼンテーション夏休み　仕上げ UNIT17 The compromise 2	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成 （1時間）
15	内容チェックテスト３ プレゼンテーション発表	テスト３回目 プレゼンテーション　夏休み 発表	テスト勉強　語彙の復習 プレゼン原稿暗記 （1時間）

関連科目	プレゼンテーション

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	Impact Issues 3	Richard R Day	Longman
	2	One-minute Presentation in English	松岡 昇／傍島一夫	松柏社
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	単語テスト　３点Ｘ５回　　（１５％） プレゼン　　５点Ｘ４回　（２０％） テスト　　１５点Ｘ４回　（６０％） 参加点　　５点　（５％）
学生への メッセージ	身近な話題で英語プレゼンテーションをします。人前で分かりやすくプレゼンテーションができるようにしましょう。例に倣って情報を埋めていくことによってある一定のフォーマットでの発表ができます。ある程度パターン化することによって徐々に自分で文が作れるようになっていきます。会話独特の和訳しづらい表現に接して、よりネイティブライクな表現に慣れましょう。
担当者の 研究室等	7 号館２F　非常勤講師控室　木曜日
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	Debate & Presentation b	科目名（英文）	Debate and Presentation b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	ＡＢ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久田　歩
ディプロマポリシー(DP)	DP7○,DP8◎		

授業概要・目的	テーマに基づいたプレゼンテーション、およびディベートを英語で実施し、意思伝達能力を含めた英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	英語によるプレゼンテーションやディベートに必要な情報収集方法とスキルを理解し、実践を通して身に着ける。意見の不一致が起こりやすい状況設定で、自分の意見を根拠を挙げながら相手に分かりやすく主張できるようになる。
授業方法と留意点	授業は基本的に英語で行われる、ITC を用いながら英語プレゼンテーションをして、それをもとに英語でディベートを行う事が求められる。必ず辞書を用意する事。 ・授業初めに単語テストを行います。 ・教科書は前後期共通で２冊使います。必ず両方購入すること。 ・遅刻は３回で１回欠席扱いとなります。４回欠席で単位取得資格を失います。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション プレゼンテーション導入 リスニング　リピーティング 語彙	プレゼンテーション自己（他人）紹介 導入 UNIT12 No place like home 1	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成 （1時間）
2	プレゼンテーション発展 リスニング　リピーティング 語彙	プレゼンテーション自己（他人）紹介 仕上げ UNIT12 No place like home 2	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成 （1時間）
3	プレゼンテーション発表 題材を元にして意見を述べる	単語テスト１ プレゼンテーション自己（他人）紹介 発表 UNIT 10 Adult Children 1	語彙の復習　音読　プレゼン原稿暗記 （1時間）
4	プレゼンテーション導入 リスニング　リピーティング	プレゼンテーション問題解決　導入 UNIT 10 Adult Children 2	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成 （1時間）
5	内容チェックテスト１ リスニング　リピーティング 語彙	テスト１回目 UNIT14 High Tech Toys 1	テスト勉強　語彙の復習　音読 プレゼン原稿作成 （1時間）
6	プレゼンテーション発展 題材を元にして意見を述べる	プレゼンテーション問題解決仕上げ UNIT14 High Tech Toys 2	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成 （1時間）
7	プレゼンテーション発表 リスニング　リピーティング 語彙	単語テスト２ プレゼンテーション問題解決 発表 UNIT4 Rules1	語彙の復習　音読　プレゼン原稿暗記 （1時間）
8	プレゼンテーション導入 リスニング　リピーティング 語彙	単語テスト プレゼンテーション　日本紹介　導入 グループ分け UNIT4 Rules2	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成 （1時間）
9	プレゼンテーション発展 題材を元にして意見を述べる	単語テスト３ プレゼンテーション日本紹介　調査 UNIT3 I don't care 1	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成 （1時間）
10	内容チェックテスト２ プレゼンテーション発展 リスニング　リピーティング 語彙	テスト２回目 UNIT3 I don't care 2	テスト勉強　語彙の復習　音読 プレゼン原稿作成 （1時間）
11	プレゼンテーション発表 リスニング　リピーティング 語彙	プレゼンテーション日本紹介　発表１ UNIT1 Cosmetic Surgery	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成 （1時間）
12	プレゼンテーション 発表題材を元にして意見を述べる	単語テスト４ プレゼンテーション日本紹介　発表 ２UNIT19 One-sided love	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成 （1時間）
13	プレゼンテーション導入 リスニング　リピーティング 語彙	プレゼンテーション　夏休み　導入 UNIT17 The compromise 1	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成 （1時間）
14	プレゼンテーション発展 題材を元にして意見を述べる	単語テスト５ プレゼンテーション夏休み　仕上げ UNIT17 The compromise 2	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成 （1時間）
15	内容チェックテスト３ プレゼンテーション発表	テスト３回目 プレゼンテーション　夏休み 発表	テスト勉強　語彙の復習 プレゼン原稿暗記 （1時間）

関連科目	プレゼンテーション

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	Impact Issues 3	Richard R Day	Longman
	2	One-minute Presentation in English	松岡 昇／傍島一夫	松柏社
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	単語テスト　３点Ｘ５回　　（１５％） プレゼン　　５点Ｘ４回　（２０％） テスト　　１５点Ｘ４回　（６０％） 参加点　　５点　（５％）
学生への メッセージ	身近な話題で英語プレゼンテーションをします。人前で分かりやすくプレゼンテーションができるようにしましょう。例に倣って情報を埋めていくことによってある一定のフォーマットでの発表ができます。ある程度パターン化することによって徐々に自分で文が作れるようになっていきます。会話独特の和訳しづらい表現に接して、よりネイティブライクな表現に慣れましょう。
担当者の 研究室等	7 号館２F　非常勤講師控室　木曜日
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	Debate & Presentation b	科目名（英文）	Debate and Presentation b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	ＣＤ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	齋藤　安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	テーマに基づいたプレゼンテーション、およびディベートを英語で実施し、意思伝達能力を含めた英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	英語によるプレゼンテーションやディベートに必要な情報収集方法とスキルを理解し、実践を通して身に着ける。意見の不一致が起こりやすい状況設定で、自分の意見を根拠を挙げながら相手に分かりやすく主張できるようになる。
授業方法と留意点	授業は基本的に英語で行われる。ICT を用いながら、英語プレゼンテーションをして、それをもとに英語でディベートを行うことが求められる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション テスト	これまでの発表経験や、モデルとしてめざしたい発表などについて話し合う。 同じ文章を使って、より効果的な伝え方を考え、実際にやってみる。	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成 （1時間）
2	描写（1）	Unit 11 Naomi's Dilemma リスニング・リーディング・ディスカッション	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成 （1時間）
3	描写（2）	Unit 11 Naomi's Dilemma チームでプレゼンテーション	語彙の復習　音読　プレゼン原稿暗記 （1時間）
4	比較（1）	Unit　5 Plagiarism リスニング・リーディング・ディスカッション	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成 （1時間）
5	比較（2）	Unit 5 Plagiarism チームでプレゼンテーション	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成 （1時間）
6	プロセスを伝える（1）	新製品の製造法・使い方について リスニング・リーディング・ディスカッション	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成 （1時間）
7	プロセスを伝える（2）	新製品の製造法・使い方について チームでプレゼンテーション	語彙の復習　音読　プレゼン原稿暗記 （1時間）
8	プレゼンテーション大会	チーム対抗で発表	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成 （1時間）
9	メリットとデメリットを述べる(1)	Unit 13 Career Choice リスニング・リーディング・ディスカッション	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成 （1時間）
10	メリットとデメリットを述べる(2)	Unit 13 Career Choice チームでディベート	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成 （1時間）
11	相手の意見を引き出す質問(1)	Unit 15　High-Tech Toys リスニング・リーディング・ディスカッション	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成 （1時間）
12	相手の意見を引き出す質問(2)	Unit 15　High-Tech Toys チームでプレゼンテーション	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成 （1時間）
13	異なる立場で考える（1）	Unit 19 One-Sided Love リスニング・リーディング・ディスカッション	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成 （1時間）
14	異なる立場で考える（2）	Unit 19 One-Sided Love チームでディベート	語彙の復習　音読　プレゼン原稿作成 （1時間）
15	ディベート大会	チーム対抗でディベート	語彙の復習　　プレゼン原稿暗記 （1時間）

関連科目：プレゼンテーション

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Impact Issues 3	Richard R Day	Longman
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	プレゼンテーション 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生への メッセージ	効果的にアイディアやメッセージを伝えられるように、たくさん練習しましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 4F　齋藤研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	哲学と倫理	科目名（英文）	Philosophy and Ethics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	有馬　善一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	哲学的な知の営みは、他の学問と比較してどのような独自性、特徴を持つであろうか。本講義では哲学的に問うことの本質を明らかにしながら、いくつかの哲学的・倫理学的問題を取り上げ、受講生と共に考えていく。「人間の心と動物の心」、「悪」、「人生と時間」といったテーマを中心に論じる。
到達目標	哲学的に考えるとはどういうことであるかを理解する。 授業で取り上げる個々の哲学・倫理学のテーマに関して、自分なりによく考える。さらに、それを論理的に文章にまとめる力をつける。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行うが、受講者同士のディスカッションの時間も組み込む予定。また、必要に応じて資料を配付する。
科目学習の効果（資格）	哲学的に考えることとはどういうことであるかを理解し、これを実践することは、学問的に必要であるばかりではなく、人生の様々な局面においても求められるものである。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義へのイントロダクション	哲学とは何かについて解説をする。 古代ギリシアにおける哲学 近代哲学における精神と物質の二元論 現代哲学の諸課題	哲学に対する自分なりのイメージをまとめておく。
2	知識について（1）	どうやって私たちは何かを知るのだろうか。 経験論と合理論	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
3	知識について（2）	科学と哲学との対立と対話	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
4	知識について（3）	言葉が意味を持つとはどういうことか。 どうしてコミュニケーションが可能になるのか。 言葉の意味と音としての言葉	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
5	心の問題（1）	心の中というものはあるのだろうか。 現象学と行動主義	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
6	心の問題（2）	他人の心を知ることはできるのだろうか。 独我論と共同主観性	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
7	心の問題（3）	心と身体の関係はどうなっているのだろうか。 身心問題の難しさ。 観念論と実在論を越えた身体のあり方	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
8	自由と因果性（1）	私たちの行為は自由に基づいているのか、それとも、何らかの法則に決定されてるのか。 カントの倫理思想	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
9	自由と因果性（2）	実存哲学の自由に対する捉え方 因果性と関係性	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
10	悪について	正しいことと悪いこととの区別はどのような根拠があるのか。 悪とは何か。	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
11	生と死（1）	生きることの意味。死ぬこととはどういうことか	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
12	生と死（2）	ハイデガーの死に関する思想 仏教の死に関する思想	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
13	神について	神は存在するのか。 魂の不死の問題	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
14	世界について	我々の生きる世界とはいかなるものか。 人間の世界における位置。	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
15	まとめ	講義を通じて明らかになった哲学的な考え方の特徴を改めてまとめてみる。	授業全体をまとめておくこと。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	〈子ども〉のための哲学	永井均	講談社現代新書
2	ダンゴムシに心はあるのか	森山徹	PHP サイエンス・ワールド新書
3	哲学ってどんなこと？	ネーゲル	昭和堂

評価方法（基準）	授業内でのレポート・平常点（40%）と授業後のレポート課題（60%）
学生へのメッセージ	大学までは、哲学的なものの考え方を訓練する機会がなかなかなかったと思いますが、これからの困難な時代を生き抜くためには、自分でものを考えることが一番大事です。
担当者の研究室等	7 号館 4 階
備考	適宜参考資料を紹介する。

	事前事後学習に 60 時間必要。

科目名	東南アジア史学	科目名（英文）	Southeast Asian History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森田　良成
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	本講義では、大陸部から島嶼部に及ぶ広大な東南アジア地域の歴史を、先史時代から現代に至るまで通時的に概観する。
到達目標	複雑に展開してきた東南アジアの歴史を知ることで、現在の東南アジア社会を理解するための基本的な視座を獲得する。
授業方法と留意点	プリントを配布する。映像資料を適宜用いる。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について説明	関連する文献を紹介するので読むこと。
2	東南アジアの基礎知識	東南アジアの地理的特徴、東南アジア諸国の政治・経済・文化的特徴	関連する文献を紹介するので読むこと。
3	先史時代と初期の国家形成	交易国家の形成	関連する文献を紹介するので読むこと。
4	諸王朝の盛衰１	大陸部における諸王朝の盛衰	関連する文献を紹介するので読むこと。
5	諸王朝の盛衰２	島嶼部における諸王朝の盛衰	関連する文献を紹介するので読むこと。
6	ヨーロッパ勢力の到来１	新しい交易の時代１	関連する文献を紹介するので読むこと。
7	ヨーロッパ勢力の到来２	新しい交易の時代２	関連する文献を紹介するので読むこと。
8	植民地支配の進行１	オランダ植民地支配の拡大	関連する文献を紹介するので読むこと。
9	植民地支配の進行２	イギリス植民地支配の拡大	関連する文献を紹介するので読むこと。
10	植民地支配の進行３	反植民地主義運動の展開	関連する文献を紹介するので読むこと。
11	ナショナリズムの台頭と脱植民地化１	独立と国家統合	関連する文献を紹介するので読むこと。
12	ナショナリズムの台頭と脱植民地化２	国民国家の誕生	関連する文献を紹介するので読むこと。
13	東南アジアの現在１	東南アジアの政治・経済・社会の現在と課題	関連する文献を紹介するので読むこと。
14	東南アジアの現在２	東南アジアの政治・経済・社会の現在と課題	関連する文献を紹介するので読むこと。
15	まとめ　＋テスト	授業全体のまとめとテスト	関連する文献を紹介するので読むこと。

関連科目：国際文化概論（アジア）、現代東南アジア論、アジア文化論など、東南アジアの社会・文化・歴史に関係するすべての科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『東南アジア史Ⅰ　大陸部』		山川出版社
2	『東南アジア史Ⅱ　島嶼部』		山川出版社
3			

評価方法（基準）	＊平常点　30%　（授業への参加・貢献度を、コメント・感想などから総合的に判断する） ＊試験　70%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	受講者多数の場合は、評価方法などを一部変更することがある。

科目名	東南アジア人類学	科目名（英文）	Anthropology in Southeast Asia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森田　良成
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	私たちの日常は、文化という意味の網の目に支えられてはじめて意味をもち、生きられるものとなっている。それゆえに、ある場所では疑う必要すら感じられない当たり前のことが、異なる文化を生きる人びとには驚きに満ちたものでありうる。文化人類学とは、このような立場から文化について研究してきた学問である。この講義では、東南アジアを舞台とした人類学的研究の成果を紹介していく。これらの議論を理解することで、東南アジアの生きた現実を新しくとらえなおすこと、さらに自分がこれまで慣れ親しんできたものの見方や考え方からいったん離れて、自らの文化と日常を新しくとらえなおすことを目指す。
到達目標	＊現代東南アジアにおける文化や社会の動態について理解する。 ＊文化人類学が提示してきた見方を実例の中で理解する。
授業方法と留意点	講義形式で行う。授業の理解を助けるために映像資料を使用する。 受講者にはペーパー等で適宜コメントを求める。 ノートを写し、話を聞くだけではなくて、自分の考えたことを表現するよう努めること。
科目学習の効果（資格）	＊異文化に対する眼差しを育てる。 ＊東南アジア地域の文化的な多様性についての知識を得ることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義概要を説明する。	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
2	文化人類学入門　1	文化人類学の考え方と研究方法を説明する。	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
3	文化人類学入門　2	文化人類学の考え方と研究方法を説明する。	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
4	政治---その１	主にインドネシアを事例として取り上げて、同国における政治の諸相を概観する。	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
5	政治---その２	主にインドネシアを事例として取り上げて、同国における政治の諸相を概観する。	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
6	経済---その１	主に東ティモールを事例として取り上げて、同国における経済の諸相を概観する。	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
7	経済---その２	主に東ティモールを事例として取り上げて、同国における経済の諸相を概観する。	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
8	復習---その１	ここまで取り上げた諸事例と文化人類学的なものの見方との関連を示すとともに、理解度を確かめる。	既習事項の確認
9	信仰--その１	主にタイを事例として取り上げて、同国における宗教文化の諸相を概観する。	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
10	信仰---その２	主にタイを事例として取り上げて、同国における宗教文化の諸相を概観する。	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
11	民族---その１	東南アジア地域の諸民族集団の概観を得る。	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
12	民族---その２	民族という概念を検討する。	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
13	伝統と近代---その１	東南アジア地域の人々の「いま」について、いくつかの民族誌的事例から考える。	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
14	伝統と近代---その２	東南アジア地域の人々の「いま」について、いくつかの民族誌的事例から考える。	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
15	復習---その２	第 14 講義までに取り上げた諸事例と文化人類学的なものの見方との関連を示すとともに、理解度を確かめる。	既習事項の復習。

関連科目：「文化人類学」「地域研究論」など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加の度合い（40%。毎回提出してもらうコメント、質問に対する回答などから判断する）と、授業期間中に行うテスト（60%）から総合的に判断する。詳細は初回授業で指示する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	受講者の人数によって、評価方法等を変更することがある。

科目名	東南アジア地誌学	科目名（英文）	Southeast Asian Geography
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森田　良成
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	東南アジア各国の文化、社会、歴史、経済、政治についての基礎的な知識を習得し、そのうえで各地域における人びとの生活の多様性と共通性について考える。あわせて、それらの話題と、日本で暮らすわれわれの現在とのつながりについて考える。
到達目標	＊東南アジアについての基礎的な知識を習得する。 ＊東南アジアに関する報道に対して、地理的・歴史的な背景を踏まえたうえでの深い考察ができるようになる。
授業方法と留意点	＊講義形式で行う。授業の理解を助けるために映像資料を使用する。参考資料として、東南アジアに関連する映画作品をできるだけ多く紹介する予定。 ＊受講者にはペーパーで毎回コメントや質問を求める。重要なものについては、次回授業冒頭で取り上げて解説する。 ＊ノートを写し、話を聞くだけではなくて、自分で考え、考えたことを表現するよう努めること。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の目的、内容、進め方について説明する。	紹介する資料を参照すること。
2	東南アジアの基礎知識１	東南アジアの地理的特徴を理解する。	紹介する資料を参照すること。
3	東南アジアの基礎知識２	ヨーロッパとの接触以降の東南アジアの歴史を理解する。	紹介する資料を参照すること。
4	東南アジアの基礎知識３	東南アジアの政治的、文化的、経済的特徴を理解する。	紹介する資料を参照すること。
5	インドネシア１：国民の想像	スカルノの時代、スハルトの時代	紹介する資料を参照すること。
6	インドネシア２：国民の想像	ポストスハルト時代の課題	紹介する資料を参照すること。
7	マレーシア１：国民の統合と近代化	マレーシアの成立	紹介する資料を参照すること。
8	マレーシア２：国民の統合と近代化	ブミプトラ政策の展開とこれから	紹介する資料を参照すること。
9	東ティモール１：新しい国家の誕生	インドネシアによる占領の経験、そこからの解放と独立	紹介する資料を参照すること。
10	東ティモール２：新しい国家の誕生	新しい国民と新しい国語の創造	紹介する資料を参照すること。
11	フィリピン１：植民地支配と独立運動	スペイン支配とアメリカ支配、独立運動の展開	紹介する資料を参照すること。
12	フィリピン２：植民地支配と独立運動	スペイン支配とアメリカ支配、独立運動の展開	紹介する資料を参照すること。
13	ミャンマー１：民政移管後の課題	民政移管が実現に至るまで	紹介する資料を参照すること。
14	ミャンマー２：民政移管後の課題	民政移管後の政治的、経済的変化とこれからの課題	紹介する資料を参照すること。
15	まとめと試験	全体のまとめと試験	紹介する資料を参照すること。

関連科目：東南アジアに関連するすべての講義科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	東南アジアを知る事典		平凡社
2			
3			

評価方法（基準）	＊平常点　40%　（授業への参加・貢献度を、コメント・感想などから総合的に判断する） ＊試験　60%　（授業期間中に行う）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	＊受講者数によって、評価方法等を変更することがある。 ＊質問は原則として授業中に受け付けるほか、適宜非常勤講師室でも応対する。

科目名	トピック　スタディーズⅠ	科目名（英文）	Topic Studies Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	マーティン　オイクル
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	This course introduces a variety of topics for students to learn about and discuss. Students will think about and give their opinion on things like: families, jobs, friendship, dating, technology, environment, etc.
到達目標	The purpose of the course is to promote English fluency by having students think about and give their opinions in English.
授業方法と留意点	Students will do pair work, small group work, practice conversations and do listening exercises.
科目学習の効果（資格）	The objective of the course is for students improve their fluency by considering topics and discussing their opinions about them with others in class.

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction, class overview. Special topic.	Introduction, class overview. Special topic.	No preparation required.
2	Unit 1. The Guy with the Green Hair.	Being an individual or looking like everyone else.	Pages 10-13.
3	Unit 3. I'm Not Addicted	Internet addiction.	Pages 18-21.
4	Unit 4. Beauty Contest.	Are beauty contests good for women?	Pages 22-25.
5	Unit 5. Who Pays?	Who should pay on a date?	Pages 26-29.
6	Unit 8. Cyber Love.	Meeting people on the Internet.	Pages 38-41.
7	Unit 9. A Letter from Grandma.	Communicating with friends and family	Pages 42-45.
8	Unit 6. Saying "I Love You". Mid-term test.	Expressing felling openly and directly. Mid-term test.	Pages 30-33.
9	Unit 10. Fan Worship.	Is there a limit to being a fan?	Pages 46-49.
10	Unit 11. Pet Peeve.	Dealing with rude behavior.	Pages 50-53.
11	Unit 14. Get a Job!	Young people starting a career.	Pages 62-65.
12	Unit 17. To Have or Have Not.	Should all couples have children?	Pages 74-77.
13	Unit 20. Why Learn English?	Is learning English important?	Pages 86-89.
14	Unit 18. Are Humans Smart?	Are we smart enough to save ourselves?	Pages 78-81.
15	Final Test.	Final Test.	Study for test.

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Impact Issues 1	Richard R. Day	Pearson Longman ISBN: 9789620199301
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	辞書　Dictionary		
2			
3			

評価方法（基準）	中間テスト: 30% 期末テスト: 30% 出席授業参加態度: 40%
学生へのメッセージ	To get a good grade active participation, a positive attitude towards learning and regular attendance is important..
担当者の研究室等	非常勤講師室 7号館2階
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	トピック　スタディーズⅠ	科目名（英文）	Topic Studies Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ﾌﾞﾗｲｱﾝ ｽﾚｰﾀｰ
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	This course is designed to help students express their opinions individually and collectively in a group context. The focus will be on current topics and using critical thinking for self expression.
到達目標	The goal of this course is for students to improve their opinon forming and expressing abilities. This includes speaking English with more confidence and learing how to back-up opinins and beliefs with more passion.
授業方法と留意点	The course will be divided into coverage of specific units as outlined in the textbook "Solutions". Since there are many topics to choose from, students and teacher will choose the topics as a group and decide the best ones for detailed coverage in class.
科目学習の効果（資格）	Students will learn to learn to express their own opinions through critical thinking.

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introductions about the class and course.	Student and teacher self and group introductions.	Students should preview vocabulary for the unit.
2	Lesson 1 'Should the university academic year begin in September?'	Unit coverage including backgroung reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
3	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including backgroung reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
4	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including backgroung reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
5	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including backgroung reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
6	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including backgroung reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
7	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including backgroung reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
8	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including backgroung reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
9	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including backgroung reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
10	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including backgroung reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
11	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including backgroung reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
12	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including backgroung reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
13	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including backgroung reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
14	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook	Unit coverage including backgroung reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.

	parameters.		
15	Final Test	Students will select several topics and write about the advantages or disadvantages of each while supporting their opinions.	

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

Grading will be based on regular attendance, class participation and a final test (100%).

学生へのメッセージ

We will learn to express our ideas about interesting topics such as cyber money, drinking and driving, etc. and learn strategies in forming original opinions.

担当者の研究室等

非常勤講師室　7号館2階

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	トピック　スタディーズⅠ	科目名（英文）	Topic Studies Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ニール　カー
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	This is a topic-based course, focusing on the development of critical thinking skills. Through problem-solving activities, students will be encouraged to form and exchange their own opinions.
到達目標	Participation in this course will lead to an improvement in analytical and debating skills.
授業方法と留意点	Students will analyse and debate a wide range of important social issues, taken from areas such as crime, sport, food, smoking, bullying, driving and so on.
科目学習の効果（資格）	An improvement in analytical and debating skills.

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should read up on the unit for the next class.
2	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
3	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
4	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
5	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
6	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
7	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
8	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
9	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
10	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
11	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
12	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should rehearse their presentations and prepare for the follow up debate.
13	Presentations and follow up debates.	self/peer/teacher evaluation	Students should rehearse their presentations and prepare for the follow up debate.
14	Presentations and follow up debates.	self/peer/teacher evaluation	Students should reflect on the course for the course review and feedback session.
15	Course review.	Feedback session	N/A

関連科目	N/A

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Provoke a Response! Critical Thinking though Data Analysis	Stuart Gale and Shunpei Fukuhara	NAN'UN-DO
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Evaluation will be based on homework assignments, class participation and quizzes (100%).
学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework will achieve most from this course.
担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	トピック　スタディーズⅠ	科目名（英文）	Topic Studies Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	サトラー　トニー
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	四技能（リーディング，リスニング、スピーキング、ライティング）　を総合的に伸ばすことで英語運用能力の基礎を身につけます。
到達目標	日常、アカデミックなコミュニケーション活動に対応できる四技能の習得をめざします。
授業方法と留意点	Individually as well as in pairs/small groups, students will practice English listening, speaking, reading and writing skills. Students will also develop the skills needed in order to take greater responsibility for their own learning.
科目学習の効果（資格）	This is a beginner-low intermediate level class that will help students develop and improve their English listening, speaking, reading, writing, and thinking skills

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Course orientation, textbook preview, class photo, write about summer vacation	Students should buy the textbook
2	Unit 1 Food	Talk about food. Kinds of food in other countries.	Review/preview
3	Unit 1 continue	Agreeing and disagreeing with other's opinions.	Review/preview
4	Unit 2　Festivals	Talk about festivals. Make/respond to suggestions. Review U1-2.	Review/preview
5	Unit 3　Cities	Good/bad points of cities. U1/2 spell/vocab quiz	Review/preview
6	Unit 3　continue	Presentations (topic: Introducing my home town)	Review/preview
7	Unit 4　Jobs	Talk about jobs now and in future. Presentations (continue)	Review/preview
8	Unit 4　continue	Presentations (continue). Review for mid-term exam U1~4	Review. Review U1~4 for exam.
9	Mid-term exam U1~4	Mid-term exam U1~4	Review for exam
10	Unit 5　Music	Talk about music around the world. Review mid-term exam results.	Review/preview
11	Unit 5　continue	Expressing likes and dislikes, giving reasons.	Review/preview
12	Unit 6　Journeys	Talk about travel/dream holidays. Pros/cons of places.	Review/preview
13	Unit 7　Family	Talk about families and how they are changing.	Review/preview
14	Unit 7　continue	Preview final exam.	Review U5~7 for final exam
15	Final exam U5~7	Final exam U5~7	Review U5~7 final exam

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Inspire Level 2 ISBN 978-1-133-96368-4	Pamela Hartmann, Nancy Douglas, Andrew Boon	Cengage Learning
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Dictionary (Electronic or book)		
2			
3			

評価方法（基準）	Attendance/attitude/effort (20%), Mid-semester test (20%), End of semester test (30%), Small tests/quizzes (20%), Short presentation (10%)
学生へのメッセージ	To get a good grade for this class, students should keep in mind the following: try to use English as much as possible, be courteous to one another and to the teacher and demonstrate a co-operative attitude to learning. Habitual lateness, sleeping in class, forgetting to bring the textbook, using cell phones other than as a learning aid, are examples of unacceptable behaviour and repeat offenders will receive a lower grade or may find it difficult to pass this course. If a student forgets to bring his/her textbook to class, the student should make a copy from someone else`s textbook. Students are expected to do assigned homework at home, by themselves. Failure to submit homework when it is due will result in a lower grade. If a student is absent, it is their responsibility to find out whether there was any homework given that lesson, and to catch up what they missed. Before the lesson, students should prepare by previewing the textbook, using a dictionary to check unknown vocabulary. After each lesson, students are expected to review the material which they have studied, do any homework which they have been given, and use language learning strategies to improve their English language skills. This could include watching English language movies, reading different kinds of English language reading materials, keeping a diary, speaking English with their friends. Attendance is a very important part of assessment and students whose attendance is poor may find it difficult to pass the course.
担当者の研究室等	７号館２階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする

科目名	トピック　スタディーズⅠa	科目名（英文）	Topic Studies Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ニール　カー
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	This is a topic-based course, focusing on the development of critical thinking skills. Through problem-solving activities, students will be encouraged to form and exchange their own opinions.
到達目標	Participation in this course will lead to an improvement in analytical and debating skills.
授業方法と留意点	Students will analyse and debate a wide range of important social issues, taken from areas such as crime, sport, food, smoking, bullying, driving and so on.
科目学習の効果（資格）	An improvement in analytical and debating skills.

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should read up on the unit for the next class.
2	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
3	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
4	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
5	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
6	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
7	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
8	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
9	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
10	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
11	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
12	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should rehearse their presentations and prepare for the follow up debate.
13	Presentations and follow up debates.	self/peer/teacher evaluation	Students should rehearse their presentations and prepare for the follow up debate.
14	Presentations and follow up debates.	self/peer/teacher evaluation	Students should reflect on the course for the course review and feedback session.
15	Course review.	Feedback session	

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Provoke a Response! Critical Thinking though Data Analysis	Stuart Gale and Shunpei Fukuhara	NAN'UN-DO
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Evaluation will be based on homework assignments, class participation and quizzes (100%).
学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework will achieve most from this course.
担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	トピック　スタディーズⅠa	科目名（英文）	Topic Studies Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ﾌﾞﾗｲｱﾝ ｽﾚｰﾀｰ
ディプロマポリシー(DP)	DP7○,DP8◎		

授業概要・目的	This course is designed to help students express their opinions individually and collectively in a group context. The focus will be on current topics and using critical thinking for self expression.
到達目標	The goal of this course is for students to improve their opinon forming and expressing abilities. This includes speaking English with more confidence and learing how to back-up opinins and beliefs with more passion.
授業方法と留意点	The course will be divided into coverage of specific units as outlined in the textbook "Solutions". Since there are many topics to choose from, students and teacher will choose the topics as a group and decide the best ones for detailed coverage in class.
科目学習の効果（資格）	Students will learn to learn to express their own opinions through critical thinking.

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introductions about the class and course.	Student and teacher self and group introductions.	Students should preview vocabulary for the unit.
2	Lesson 1 'Should the university academic year begin in September?'	Unit coverage including backgroung reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
3	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including backgroung reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
4	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including backgroung reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
5	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including backgroung reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
6	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including backgroung reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
7	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including backgroung reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
8	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including backgroung reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
9	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including backgroung reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
10	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including backgroung reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
11	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including backgroung reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
12	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including backgroung reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
13	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including backgroung reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
14	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook	Unit coverage including backgroung reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.

	parameters.		
15	Final Test	Students will select several topics and write about the advantages or disadvantages of each while supporting their opinions.	

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

Grading will be based on regular attendance, class participation and a final test (100%).

学生へのメッセージ

We will learn to express our ideas about interesting topics such as cyber money, drinking and driving, etc. and learn strategies in forming original opinions.

担当者の研究室等

非常勤講師室　7号館2階

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	トピック　スタディーズⅠa	科目名（英文）	Topic Studies Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	サトラー　トニー
ディプロマポリシー(DP)	DP7○,DP8◎		

授業概要・目的	四技能（リーディング，リスニング、スピーキング、ライティング）　を総合的に伸ばすことで英語運用能力の基礎を身につけます。
到達目標	日常、アカデミックなコミュニケーション活動に対応できる四技能の習得をめざします。
授業方法と留意点	Each lesson students will read high-interest, authentic reading passages such as newspaper and magazine articles, personal essays, textbook chapters, book excerpts, and on-line discussions. Comprehension questions will check how well students understood the information in a reading. There are also discussion questions where students, either in pairs or small groups, will be asked to think about and discuss with each other the issues raised by the passage. In addition to the two exams, there will be quizzes/tests throughout the course to measure students reading skills, and vocabulary/grammar knowledge and a short presentation.
科目学習の効果（資格）	To improve students English reading, thinking, and speaking skills.

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Course overview, textbook preview, class photo, self-intro and write about winter/spring vacation.	Students should buy the textbook and preview U1
2	Chapter 1	Scanning, taking notes, synonyms. Quiz	Review/preview
3	Chapter 2	Previewing, taking notes, suffixes (-ly). Quiz	Review/preview
4	Chapter 3	Scanning, taking notes, learning word forms. Quiz	Review/preview
5	Chapter 4	Previewing, using adjectives and adverbs, using direct and indirect objects. Quiz	Review/preview
6	Chapter 5	Predicting, identifying cause and effect, using prefixes (re-). Quiz	Review/preview
7	Chapter 6	Previewing, understanding the order of events, learn word forms, indefinite pronouns. Quiz	Review/preview
8	Chapter 7	Predicting, using context clues, prefixes (un-), review for mid-term exam. Quiz	Review/preview.
9	Mid-term exam	Mid-term exam	Review for exam
10	Chapter 8	Review exam results. Identifying main ideas and details, learn word forms and signal words. Quiz	Review/preview
11	Chapter 9	Previewing, understanding the order of events, learn word forms, time expressions. Quiz	Review/preview
12	Chapter 10	Scanning, inferencing, using (ing) form of verbs. Presentation (topic: My Travel experiences) Quiz	Review/preview
13	Chapter 11	Recognizing context clues, event order, signal words, inferencing. Presentation (continue) Quiz	Review/preview
14	Chapter 12	Previewing, event order, suffixes (-al, -ful, -ive) Presentation (continue), preview final exam	Review/preview
15	Final exam	Final exam	Review for exam

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Select Readings Elementary 2nd Edition ISBN 978-0-19-433223-1	Linda Lee	Oxford Uni Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Dictionary (Electronic or book)		
2			
3			

評価方法（基準）	Attendance/attitude/effort (20%), Mid-semester test (20%), End of semester test (30%), Small tests/quizzes (20%), Short presentation (10%)
学生へのメッセージ	To get a good grade for this class, students should keep in mind the following: try to use English as much as possible, be courteous to one another and to the teacher and demonstrate a co-operative attitude to learning. Habitual lateness, sleeping in class, forgetting to bring the textbook, using cell phones other than as a learning aid, are unacceptable behaviour and repeat offenders will receive a lower grade or may find it difficult to pass this course. If a student forgets to bring his/her textbook to class, the student should make a copy from someone else`s textbook. Students are expected to do assigned homework at home, by themselves. Failure to submit homework when it is due will result in a lower grade. If a student is absent, it is their responsibility to find out whether there was any homework given that lesson, and to catch up what they missed. Before the lesson, students should prepare by previewing the textbook, using a

	dictionary to check unknown vocabulary. After each lesson, students are expected to review the material which they have studied, do any homework which they have been given, and use language learning strategies to improve their English language skills. This could include watching English language movies, reading different kinds of English language reading materials, keeping a diary, speaking English with their friends.
担当者の 研究室等	７号館２階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする

科目名	トピック　スタディーズⅠa	科目名（英文）	Topic Studies Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	マーティン　オイクル
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	This course introduces a variety of topics for students to learn about and discuss. Students will think about and give their opinion on things like: families, jobs, friendship, dating, technology, environment, etc.
到達目標	The purpose of the course is to promote English fluency by having students think about and give their opinions in English.
授業方法と留意点	Students will do pair work, small group work, practice conversations and do listening exercises.
科目学習の効果（資格）	The objective of the course is for students improve their fluency by considering topics and discussing their opinions about them with others in class.

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction, class overview. Special topic.	Introduction, class overview. Special topic.	No preparation required.
2	Unit 1. The Guy with the Green Hair.	Being an individual or looking like everyone else.	Pages 10-13.
3	Unit 3. I'm Not Addicted	Internet addiction.	Pages 18-21.
4	Unit 4. Beauty Contest.	Are beauty contests good for women?	Pages 22-25.
5	Unit 5. Who Pays?	Who should pay on a date?	Pages 26-29.
6	Unit 8. Cyber Love.	Meeting people on the Internet.	Pages 38-41.
7	Unit 9. A Letter from Grandma.	Communicating with friends and family	Pages 42-45.
8	Unit 6. Saying "I Love You". Mid-term test.	Expressing felling openly and directly. Mid-term test.	Pages 30-33.
9	Unit 10. Fan Worship.	Is there a limit to being a fan?	Pages 46-49.
10	Unit 11. Pet Peeve.	Dealing with rude behavior.	Pages 50-53.
11	Unit 14. Get a Job!	Young people starting a career.	Pages 62-65.
12	Unit 17. To Have or Have Not.	Should all couples have children?	Pages 74-77.
13	Unit 20. Why Learn English?	Is learning English important?	Pages 86-89.
14	Unit 18. Are Humans Smart?	Are we smart enough to save ourselves?	Pages 78-81.
15	Final Test.	Final Test.	Study for test.

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Impact Issues 1	Richard R. Day	Pearson Longman ISBN: 9789620199301
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	辞書　Dictionary		
2			
3			

評価方法（基準）	中間テスト: 30% 期末テスト: 30% 出席授業参加態度: 40%
学生へのメッセージ	To get a good grade active participation, a positive attitude towards learning and regular attendance is important..
担当者の研究室等	非常勤講師室 7号館2階
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	トピック　スタディーズⅠb	科目名（英文）	Topic Studies Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	マーティン　オイクル
ディプロマポリシー(DP)	DP7○,DP8◎		

授業概要・目的	This course introduces a variety of topics for students to learn about and discuss. Students will think about and give their opinion on things like: families, jobs, friendship, dating, technology, environment, etc.
到達目標	The purpose of the course is to promote English fluency by having students think about and give their opinions in English.
授業方法と留意点	Students will do pair work, small group work, practice conversations and do listening exercises.
科目学習の効果（資格）	The objective of the course is for students improve their fluency by considering topics and discussing their opinions about them with others in class.

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction, class overview. Special topic.	Introduction, class overview. Special topic.	No preparation required.
2	Unit 1. The Guy with the Green Hair.	Being an individual or looking like everyone else.	Pages 10-13.
3	Unit 3. I'm Not Addicted	Internet addiction.	Pages 18-21.
4	Unit 4. Beauty Contest.	Are beauty contests good for women?	Pages 22-25.
5	Unit 5. Who Pays?	Who should pay on a date?	Pages 26-29.
6	Unit 8. Cyber Love.	Meeting people on the Internet.	Pages 38-41.
7	Unit 9. A Letter from Grandma.	Communicating with friends and family	Pages 42-45.
8	Unit 6. Saying "I Love You". Mid-term test.	Expressing felling openly and directly. Mid-term test.	Pages 30-33.
9	Unit 10. Fan Worship.	Is there a limit to being a fan?	Pages 46-49.
10	Unit 11. Pet Peeve.	Dealing with rude behavior.	Pages 50-53.
11	Unit 14. Get a Job!	Young people starting a career.	Pages 62-65.
12	Unit 17. To Have or Have Not.	Should all couples have children?	Pages 74-77.
13	Unit 20. Why Learn English?	Is learning English important?	Pages 86-89.
14	Unit 18. Are Humans Smart?	Are we smart enough to save ourselves?	Pages 78-81.
15	Final Test.	Final Test.	Study for test.

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Impact Issues 1	Richard R. Day	Pearson Longman ISBN: 9789620199301
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	辞書　Dictionary		
2			
3			

評価方法（基準）	中間テスト: 30% 期末テスト: 30% 出席授業参加態度: 40%
学生へのメッセージ	To get a good grade active participation, a positive attitude towards learning and regular attendance is important..
担当者の研究室等	非常勤講師室 7号館2階
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	トピック　スタディーズⅠb	科目名（英文）	Topic Studies Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ﾌﾞﾗｲｱﾝ ｽﾚｰﾀｰ
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	This course is designed to help students express their opinions individually and collectively in a group context. The focus will be on current topics and using critical thinking for self expression.
到達目標	The goal of this course is for students to improve their opinon forming and expressing abilities. This includes speaking English with more confidence and learing how to back-up opinins and beliefs with more passion.
授業方法と留意点	The course will be divided into coverage of specific units as outlined in the textbook "Solutions". Since there are many topics to choose from, students and teacher will choose the topics as a group and decide the best ones for detailed coverage in class.
科目学習の効果（資格）	Students will learn to learn to express their own opinions through critical thinking.

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introductions about the class and course.	Student and teacher self and group introductions.	Students should preview vocabulary for the unit.
2	Lesson 1 'Should the university academic year begin in September?'	Unit coverage including backgroung reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
3	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including backgroung reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
4	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including backgroung reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
5	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including backgroung reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
6	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including backgroung reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
7	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including backgroung reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
8	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including backgroung reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
9	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including backgroung reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
10	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including backgroung reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
11	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including backgroung reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
12	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including backgroung reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
13	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including backgroung reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
14	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook	Unit coverage including backgroung reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.

	parameters.		
15	Final Test	Students will select several topics and write about the advantages or disadvantages of each while supporting their opinions.	

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

Grading will be based on regular attendance, class participation and a final test (100%).

学生へのメッセージ

We will learn to express our ideas about interesting topics such as cyber money, drinking and driving, etc. and learn strategies in forming original opinions.

担当者の研究室等

非常勤講師室　7号館2階

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	トピック　スタディーズⅠb	科目名（英文）	Topic Studies Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ニール　カー
ディプロマポリシー(DP)	DP7○,DP8◎		

授業概要・目的	This is a topic-based course, focusing on the development of critical thinking skills. Through problem-solving activities, students will be encouraged to form and exchange their own opinions.
到達目標	Participation in this course will lead to an improvement in analytical and debating skills.
授業方法と留意点	Students will analyse and debate a wide range of important social issues, taken from areas such as crime, sport, food, smoking, bullying, driving and so on.
科目学習の効果（資格）	An improvement in analytical and debating skills.

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should read up on the unit for the next class.
2	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
3	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
4	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
5	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
6	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
7	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
8	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
9	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
10	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
11	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
12	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should rehearse their presentations and prepare for the follow up debate.
13	Presentations and follow up debates.	self/peer/teacher evaluation	Students should rehearse their presentations and prepare for the follow up debate.
14	Presentations and follow up debates.	self/peer/teacher evaluation	Students should reflect on the course for the course review and feedback session.
15	Course review.	Feedback session	

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Provoke a Response! Critical Thinking though Data Analysis	Stuart Gale and Shunpei Fukuhara	NAN'UN-DO
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Evaluation will be based on homework assignments, class participation and quizzes (100%).
学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework will achieve most from this course.
担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	トピック　スタディーズⅠb	科目名（英文）	Topic Studies Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	サトラー　トニー
ディプロマポリシー(DP)	DP7○,DP8◎		

授業概要・目的	四技能（リーディング，リスニング、スピーキング、ライティング）　を総合的に伸ばすことで英語運用能力の基礎を身につけます。
到達目標	日常、アカデミックなコミュニケーション活動に対応できる四技能の習得をめざします。
授業方法と留意点	Individually as well as in pairs/small groups, students will practice English listening, speaking, reading and writing skills. Students will also develop the skills needed in order to take greater responsibility for their own learning.
科目学習の効果（資格）	This is a beginner-low intermediate level class that will help students develop and improve their English listening, speaking, reading, writing, and thinking skills

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Course orientation, textbook preview, class photo, write about summer vacation	Students should buy the textbook
2	Unit 1 Food	Talk about food. Kinds of food in other countries.	Review/preview
3	Unit 1 continue	Agreeing and disagreeing with other's opinions.	Review/preview
4	Unit 2　Festivals	Talk about festivals. Make/respond to suggestions. Review U1-2.	Review/preview
5	Unit 3　Cities	Good/bad points of cities. U1/2 spell/vocab quiz	Review/preview
6	Unit 3　continue	Presentations (topic: Introducing my home town)	Review/preview
7	Unit 4　Jobs	Talk about jobs now and in future. Presentations (continue)	Review/preview
8	Unit 4　continue	Presentations (continue). Review for mid-term exam U1~4	Review. Review U1~4 for exam.
9	Mid-term exam U1~4	Mid-term exam U1~4	Review for exam
10	Unit 5　Music	Talk about music around the world. Review mid-term exam results.	Review/preview
11	Unit 5　continue	Expressing likes and dislikes, giving reasons.	Review/preview
12	Unit 6　Journeys	Talk about travel/dream holidays. Pros/cons of places.	Review/preview
13	Unit 7　Family	Talk about families and how they are changing.	Review/preview
14	Unit 7　continue	Preview final exam.	Review U5~7 for final exam
15	Final exam U5~7	Final exam U5~7	Review U5~7 final exam

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Inspire Level 2 ISBN 978-1-133-96368-4	Pamela Hartmann, Nancy Douglas, Andrew Boon	Cengage Learning
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Dictionary (Electronic or book)		
2			
3			

評価方法（基準）	Attendance/attitude/effort (20%), Mid-semester test (20%), End of semester test (30%), Small tests/quizzes (20%), Short presentation (10%)
学生へのメッセージ	To get a good grade for this class, students should keep in mind the following: try to use English as much as possible, be courteous to one another and to the teacher and demonstrate a co-operative attitude to learning. Habitual lateness, sleeping in class, forgetting to bring the textbook, using cell phones other than as a learning aid, are examples of unacceptable behaviour and repeat offenders will receive a lower grade or may find it difficult to pass this course. If a student forgets to bring his/her textbook to class, the student should make a copy from someone else`s textbook. Students are expected to do assigned homework at home, by themselves. Failure to submit homework when it is due will result in a lower grade. If a student is absent, it is their responsibility to find out whether there was any homework given that lesson, and to catch up what they missed. Before the lesson, students should prepare by previewing the textbook, using a dictionary to check unknown vocabulary. After each lesson, students are expected to review the material which they have studied, do any homework which they have been given, and use language learning strategies to improve their English language skills. This could include watching English language movies, reading different kinds of English language reading materials, keeping a diary, speaking English with their friends. Attendance is a very important part of assessment and students whose attendance is poor may find it difficult to pass the course.
担当者の研究室等	７号館２階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする

科目名	トピック　スタディーズⅡ	科目名（英文）	Topic Studies II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	家口　美智子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本授業は TOIEC の得点を 50 点アップさせることを目標とし、その目標に向かって①単語を増やす、②文を覚える、③文章を覚える、④英文法の復習を行う。またリスニング力をつけることも目標とする。 ①小テスト ②リスニングの宿題チェック ③教科書を読む ④英文法の復習 というやり方で行う。覚えることが中心となるので文や文章を覚えるのが苦手な人は履修しない方が良いと思われる。
到達目標	TOEIC の得点を 50 点アップさせる。 「50 点くらいあげる」ことは簡単に聞こえるかもしれないが、かなりな時間を割いて学習しないと上がらないのがこの 50 点である。しかしながら、逆に、時間をめいっぱい割いてがんばれば 50 点上がるのも英語である。つまり全ては自分次第である。 覚えることが苦にならないキャパを脳に作っていく作業の一環だと考えてほしい。
授業方法と留意点	課題も多く出すし、覚えるために割かなければならない時間も多い。よって、バイト等に追われている人にはお勧めしない授業である。 客観的に評価をするので、しっかり覚えこむこと。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業の紹介		Unit 1 予習
2	Unit 1 Studying Abroad	小テスト Listening 教科書講読	Unit 1 予習
3	Unit 1 Studying Abroad	小テスト Listening 教科書講読	Unit 2 予習
4	Unit 2 International Conference	小テスト Listening 教科書講読	Unit 2 予習
5	Unit 2 International Conference	小テスト Listening 教科書講読	Unit 3 予習
6	Unit 3 Holidays	小テスト Listening 教科書講読	Unit 3 予習
7	Unit 3 Holidays	小テスト Listening 教科書講読	Unit 4 予習
8	Unit 4 Leisure	小テスト Listening 教科書講読	Unit 4 予習
9	Unit 4 Leisure	小テスト Listening 教科書講読	Unit 5 予習
10	Unit 5 Restaurant	小テスト Listening 教科書講読	Unit 5 予習
11	Unit 5 Restaurant	小テスト Listening 教科書講読	Unit 6 予習
12	Unit 6 Online Shopping	小テスト Listening 教科書講読	Unit 6 予習
13	Unit 6 Online Shopping	小テスト Listening 教科書講読	Unit 7 予習
14	Unit 7 Global Warming	小テスト Listening 教科書講読	Unit 7 予習
15	Unit 7 Global Warming	まとめ	

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Perfect Practice for the TOEIC Test	Ishii et al	SEIBIDO
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	小テスト(80%)+課題や積極度(20%)
学生への メッセージ	がんばった自分へのご褒美はTOEICの得点アップです。 がんばりましょう！No pain, no gain.
担当者の 研究室等	7号館4階　家口研究室
備考	予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	トピック　スタディーズⅡ	科目名（英文）	Topic Studies II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	金原　真由美
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	与えられたテーマについてのエッセイが書ける技術を養う。
到達目標	エッセイを書く際によく使われる構文や表現を繰り返し練習することで、より長い文を書けるようにする。教科書は、アカデミックな文章でよく使われる構文を基本にして、様々な接続詞、逆説的な言い方、原因・理由などの表現を組み入れることによって単純ではない文章が書けるように工夫されている。かつ同時に１つのモデルエッセイ(Introduction--Body--Conclusion)が仕上がるようにもなっている。この練習を繰り返すことでエッセイの書き方を学び、最後には自分なりのエッセイを仕上げられようになることを目指す。
授業方法と留意点	教科書に沿って進む。一つのテーマについてまず自分の持っている考えを挙げて整理しておくこと。その上で日本文を読み、サンプルとなる構文を基本にして英作文してくること。受講生は必ずすべての日本文を英語にしておくこと。授業では主に構文や表現の解説、課題のチェックを行う。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、 簡単な小テスト(前期に学習した構文、文法など)	授業の進め方、出欠の扱い、評価方法などの説 8 Racism　構文、エッセイについての説明	予習（構文を意識した英作文）
2	8　Racism	構文、エッセイについての説明 課題提出とチェック	予習（構文を意識した英作文）
3	8　Racism	構文、エッセイについての説明 課題提出とチェック	予習（構文を意識した英作文）
4	9　The Seniority System	構文、エッセイについての説明 課題提出とチェック	予習（構文を意識した英作文）
5	9　The Seniority System10	構文、エッセイについての説明 課題提出とチェック	予習（構文を意識した英作文）
6	10 Euthanasia	構文、エッセイについての説明 課題提出とチェック	予習（構文を意識した英作文）
7	10 Euthanasia	構文、エッセイについての説明 課題提出とチェック	予習（構文を意識した英作文）
8	11 Univerwsity Education	構文、エッセイについての説明 課題提出とチェック	予習（構文を意識した英作文）
9	11 Univerwsity Education	構文、エッセイについての説明 課題提出とチェック	予習（構文を意識した英作文）
10	12　Freeters (Freelancers)	構文、エッセイについての説明 課題提出とチェック	予習（構文を意識した英作文）
11	12　Freeters (Freelancers)	構文、エッセイについての説明 課題提出とチェック	予習（構文を意識した英作文）
12	12　Freeters (Freelancers)	構文、エッセイについての説明 課題提出とチェック	予習（構文を意識した英作文）
13	13　Mobile Phones and E-mail	構文、エッセイについての説明 課題提出とチェック	予習（構文を意識した英作文）
14	13　Mobile Phones and E-mail	構文、エッセイについての説明 課題提出とチェック	予習（構文を意識した英作文）
15	13　Mobile Phones and E-mail	構文、エッセイについての説明 課題提出とチェック	予習（構文を意識した英作文）

関連科目：トピックスタディーズⅡｂ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Point by Point(トピック別エッセイの書き方)	石谷由美子	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　　10% 発表（板書も含む)、積極的姿勢　60% 課題提出 30%
学生へのメッセージ	辞書または電子辞書必携。 英作文の提出方法は追って指示します。 分らない単語、表現については辞書を引いて例文で確認しましょう。 自分にあった文法解説書を持ち常に利用するようにしましょう。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師控室
備考	毎回予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総合時間を１５時間以上とする。

専門科目

科目名	トピック　スタディーズⅡ	科目名（英文）	Topic Studies II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ｱｰｻｰ ﾛﾘﾝｸﾞｽﾝ
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	This is a course in cross cultural studies and how our identity is expressed through different cultural behaviors. Students will learn about and discuss different behavior which form people's identity.
到達目標	Students will learn to express themselves in English concerning a variety of topics which make up people's identity.
授業方法と留意点	As this is a communication class, students are expected to actively participate in communication activities such as pair work, small group work, as well as to try to use English as much as possible.
科目学習の効果（資格）	Students will learn to express themselves in English concerning a variety of topics which make up people's identity.

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	Introduction, overview.	No preparation required. 準備は必要ありません。
2	Unit 1 Identity.	How characteristics, feelings, or beliefs that distinguish you from others form your personal identity.	Preview vocabulary for pages 2-5.
3	Unit 2 Values.	Values which help us decide right and wrong, and guide us through difficult choices.	Preview vocabulary for pages 6-9.
4	Unit 3 Culture Shock.	The stress people experience when they move to another culture.	Preview vocabulary for pages 10-13.
5	Unit 4 Culture in Language.	Language reflects the culture of the people who speak it.	Preview vocabulary for pages 14-17.
6	Unit 5 Body Language and Customs.	Body language and non-verbal communication as a reflection of culture.	Preview vocabulary for pages 18-21.
7	Unit 6 Indivualism.	The value of individualism and why it's important for some people. Vocabulary quiz units 1-6.	Preview vocabulary for pages 22-25. Study for vocabulary quiz.
8	Unit 7 Politeness.	The way people treat each other in order to show courtesy and respect.	Preview vocabulary for pages 26-29.
9	Unit 8 Communication Styles.	The different ways in which people express themselves.	Preview vocabulary for pages 30-33.
10	Unit 9 Gender and Culture.	Gender roles and communication styles for men and women in different cultures.	Preview vocabulary for pages 34-37.
11	Unit 10 Diversity.	The different cultures that exist both within a country or region, and between cultures.	Preview vocabulary for pages 39-41.
12	Unit 11 Social Change.	Change that makes society and the world a better place.	Preview vocabulary for pages 42-45.
13	Unit 12 Global Community.	The relationships between people of different cultures and how these relationship form a global community.	Preview vocabulary for pages 46-49.
14	Special Topic.	To be announced.	No preparation required.
15	Final test. Vocabulary quiz units 7-12	Term test. Vocabulary quiz units 7-12.	Study for final test and vocabulary quiz.

関連科目：なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	辞書		
2			
3			

評価方法（基準）	Active participation, attitude and attendance 40%. Vocabulary tests 25%. Final test 35%.
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・・教科書、辞書です。出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する。 Attitude, participation and attendance are considered important in this class for getting a good grade. Please bring your textbook and a dictionary to each class. If you forget your text one day, please make a copy before the class.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室.
備考	学生は予習・復習のために約15時間確保すること。

科目名	トピック　スタディーズⅡ	科目名（英文）	Topic Studies II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	アイビス　ウイリアム
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	This course introduces a range of topics from around the world?including food, festivals, music and journeys?that provoke interest, inspire discussion, and ultimately broaden one's view of our diverse, global society. Knowledge and understanding of the world can not only inspire you to improve your home region, but they also make you more appreciative of it.
到達目標	Students will learn about topics from around the world, improving their English skills.
授業方法と留意点	This is a listening and speaking course with a little reading designed to create a richer speaking experience. A mixture of scripted and authentic audio provides opportunities for listening practice. Students' communicative competence is developed through guided pair and group discussion activities. Activity types include interviews, surveys, class presentations and projects, and encourage students to take their learning beyond the classroom. National Geographic video offers additional opportunities for developing listening comprehension and inspires discussion about the wondrous diversity of our planet.
科目学習の効果（資格）	To improve reading, writing and speaking skills in English. To gain a better understanding, appreciation and enjoyment of the world we live in.

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Talking about food	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Plan a restaurant!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
2	Talking about festivals	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Organise a festival!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
3	Review 1 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
4	Talking about your city	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Finding city solutions.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
5	Talking about jobs	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Interview someone about their job.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
6	Review 2 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
7	Talking about music	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Write a song!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
8	Talking about travel	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Plan an expedition!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
9	Review 3 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
10	Talking about famous families	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Family debate!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
11	Talking about adventure travel	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Make a public Service Announcement.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
12	Review 4 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
13	Talking about happiness	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. How to be happy!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
14	Talking about endangered species	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Give a persuasive presentation.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
15	Review 5 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	None

関連科目：Completion of Topics Studies I is not a necessary requirement for this course.

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Top Notch TV	Joan Saslow	Pearson
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Class participation - 10% 3-5 Short presentations - 90%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館２F　非常勤講師室

備考	学生は予習・復習で約 15 時間を確保すること。

科目名	トピック　スタディーズⅡａ	科目名（英文）	Topic Studies IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ﾘﾁｬｰﾄﾞ ﾀﾞｨｱｰｽ
ディプロマポリシー(DP)	DP7○,DP8◎		

授業概要・目的	To listen to and learn about Western classical music from the baroque, classical and romantic periods. To practice reading comprehension and creative writing in English.
到達目標	Students will have listened to and learned about pieces of music from the baroque, classical and romantic periods of Western classical music. Students will haver practiced reading and writing English skills.
授業方法と留意点	Reading comprehension and creative writing as a response to classical music.
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction to Western classical music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
2	Romantic Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
3	Romantic Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
4	Romantic Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
5	Romantic Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
6	Romantic Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
7	Romantic Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
8	Romantic Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
9	Romantic Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
10	Classical Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
11	Classical Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
12	Classical Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
13	Barqoue Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
14	Baroque Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
15	Baroque Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Prints provided by teacher		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Attendance 40%, Classwork 60%
学生へのメッセージ	Please bring a dictionary.

担当者の研究室等	７号館２Ｆ　非常勤講師室
備考	予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	トピック　スタディーズⅡａ	科目名（英文）	Topic Studies IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	金原　真由美
ディプロマポリシー(DP)	DP7○,DP8◎		

授業概要・目的	与えられたテーマについてのエッセイが書ける技術を養う。
到達目標	エッセイを書く際によく使われる構文や表現を繰り返し練習することで、より長い文を書けるようにする。教科書は、アカデミックな文章でよく使われる構文を基本にして、様々な接続詞、逆説的な言い方、原因・理由などの表現を組み入れることによって単純ではない文章が書けるように工夫されている。かつ同時に１つのモデルエッセイ(Introduction--Body--Conclusion)が仕上がるようにもなっている。この練習を繰り返すことでエッセイの書き方を学び、最後には自分なりのエッセイを仕上げられようになることを目指す。
授業方法と留意点	教科書に沿って進む。一つのテーマについてまず自分の持っている考えを挙げて整理しておくこと。その上で日本文を読み、サンプルとなる構文を基本にして英作文してくること。受講生は必ずすべての日本文を英語にしておくこと。授業では主に構文や表現の解説、課題のチェックを行う。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、 自己紹介	授業の進め方、出欠の扱い、評価方法などの説 1 Computer Society　構文、エッセイについての説明	予習（構文を意識した英作文）
2	1 Computer Society	構文、エッセイについての説明 課題提出とチェック	予習（構文を意識した英作文）
3	1 Computer Society	構文、エッセイについての説明 課題提出とチェック	予習（構文を意識した英作文）
4	2　Deforestation	構文、エッセイについての説明 課題提出とチェック	予習（構文を意識した英作文）
5	2　Deforestation	構文、エッセイについての説明 課題提出とチェック	予習（構文を意識した英作文）
6	3　Biotechnology	構文、エッセイについての説明 課題提出とチェック	予習（構文を意識した英作文）
7	3　Biotechnology	構文、エッセイについての説明 課題提出とチェック	予習（構文を意識した英作文）
8	4　English and Internationalization	構文、エッセイについての説明 課題提出とチェック	予習（構文を意識した英作文）
9	4　English and Internationalization	構文、エッセイについての説明 課題提出とチェック	予習（構文を意識した英作文）
10	5　Global Warming	構文、エッセイについての説明 課題提出とチェック	予習（構文を意識した英作文）
11	5　Global Warming	構文、エッセイについての説明 課題提出とチェック	予習（構文を意識した英作文）
12	6　Bullying	構文、エッセイについての説明 課題提出とチェック	予習（構文を意識した英作文）
13	6　Bullying	構文、エッセイについての説明 課題提出とチェック	予習（構文を意識した英作文）
14	7　Aging Society	構文、エッセイについての説明 課題提出とチェック	予習（構文を意識した英作文）
15	7　Aging Society	構文、エッセイについての説明 課題提出とチェック	予習（構文を意識した英作文）

関連科目：トピックスタディーズⅡｂ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Point by Point(トピック別エッセイの書き方)	石谷由美子	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　　10% 発表（板書も含む）、積極的姿勢　60% 課題提出 30%
学生へのメッセージ	辞書または電子辞書必携。 英作文の提出方法は追って指示します。 分らない単語、表現については辞書を引いて例文で確認しましょう。 自分にあった文法解説書を持ち常に利用するようにしましょう。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師控室
備考	毎回予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総合時間を１５時間以上とする。

科目名	トピック　スタディーズⅡａ	科目名（英文）	Topic Studies IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	抽冬　紘和
ディプロマポリシー(DP)	DP7○,DP8◎		

授業概要・目的	外国語学部で外国語を学ぶうえで、大切な、「言語」に関するトピックを学習します。我々が一所懸命に学んで習得しようと目標にしている言語を、言語学習とは違った、言語学（英語学・社会言語学）の視点から学びます。
到達目標	「言語（英語)」に関する知識、諸問題を学ぶとともに、英語の４技能、グループプレゼンテーションといったアカデミックスキルを身に着けます。
授業方法と留意点	基本的に、毎週各章のリーディングを宿題とし、内容確認クイズをして、担当者が解説講義します。そのあと、グループディスカッションを行い、興味のあるトピックに関しての調べ学習を行い、グループプレゼンネーションを数週間に１度行います。 まずは、積極的な参加をし、トピックに興味を持てるように頑張りましょう。
科目学習の効果（資格）	英語４技能だけではなく、アカデミックスキルを身に付けることができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	グループ作り 概要説明	無し
2	Chapter1 Discovering Grammar Lecture	講義	リーディング 復習 Quiz 勉強
3	Chapter 2 Grammar Rules and Variations Quiz Lecture	講義 ミニテスト 意見交換	リーディング 復習 Quiz 勉強
4	Chapter 3 Accents and Dialects Quiz Lecture	講義 ミニテスト 意見交換	発表準備
5	Group Presentations	Q&A	リーディング 復習 Quiz 勉強
6	Chapter 4 Begin Bilingualism Quiz Lecture	講義 ミニテスト 意見交換	リーディング 復習 Quiz 勉強
7	Chapter 5 The Language of the World Quiz Lecture	講義 ミニテスト 意見交換	リーディング 復習 Quiz 勉強
8	Chapter 6 Sign Language Quiz Lecture	講義 ミニテスト 意見交換	発表準備
9	Group Presentations	Q&A	リーディング 復習 Quiz 勉強
10	Chapter 7 Dying Languages Quiz Lecture	講義 ミニテスト 意見交換	リーディング 復習 Quiz 勉強
11	Chapter 8 Language Change Chapter9 Language Variation Quiz Lecture	講義 ミニテスト 意見交換	発表準備
12	Group Presentation	Q&A	リーディング 復習 Quiz 勉強
13	Chapter 10 Language for Feelings Quiz Lecture	講義 ミニテスト 意見交換	リーディング 復習 Quiz 勉強
14	Chapter 11 Political Correctness Quiz Lecture	講義 ミニテスト 意見交換	発表準備
15	Group presentations	Q&A	

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The Wonderful World of Languages	David Crystal	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	参加態度 30 プレゼンテーション・感想文 50% クイズ 20%
学生への メッセージ	リーディング、グループプレゼンテーション、個人感想文とアクティビティを行っていきますが、まずは授業に参加して皆さんで学んでいきましょう。　どのような分野にも応用できる、アカデミックスキルを学びます。頑張っていきましょう。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室 連絡先:hirokazunukk@outlook.jp
備考	

科目名	トピック　スタディーズⅡａ	科目名（英文）	Topic Studies IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	杉浦　秀行
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	異文化コミュニケーションについて、社会心理学、言語学、文化人類学、異文化コミュニケーション学といった異なる研究分野の視点から論述された英文を読んだり、関連するテーマについて英語でディスカッションしていく。これらの作業を通じて、異文化コミュニケーションについて様々な視点があることを理解し、異文化コミュニケーションについて複眼的に自分の考えを述べることができるようになることを目指す。
到達目標	・異文化コミュニケーションについて様々な視点・考えがあることを理解する ・異文化コミュニケーションについて、様々な視点・考えがあることを踏まえたうえで、自分の考えを英語で述べることができる ・異文化コミュニケーションについて、今まで以上に興味・関心を深める
授業方法と留意点	授業は原則 All English で行います。また、授業の中ではペアーやグループで議論したり、発表したりする機会をたくさん設けますので、積極的にそういった活動への参加が求められます。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Read the passage in Unit 1 and prepare for discussion
2	Unit 1: Intercultural Communication in Today's World	Individual Task, Pair Work and Group Work	Read the passage in Unit 1 and prepare for discussion
3	Unit 1: Intercultural Communication in Today's World	Individual Task, Pair Work and Group Work	Read the passage in Unit 2 and prepare for discussion
4	Unit 2: English for Intercultural Communication	Individual Task, Pair Work and Group Work	Read the passage in Unit 2 and prepare for discussion
5	Unit 2: English for Intercultural Communication	Individual Task, Pair Work and Group Work	Read the passage in Unit 3 and prepare for discussion
6	Unit 3: Important Features of Human Communication	Individual Task, Pair Work and Group Work	Read the passage in Unit 3 and prepare for discussion
7	Unit 3: Important Features of Human Communication	Individual Task, Pair Work and Group Work	Read the passage in Unit 4 and prepare for discussion
8	Unit 4: The Concept of Culture	Individual Task, Pair Work and Group Work	Read the passage in Unit 4 and prepare for discussion
9	Unit 4: The Concept of Culture	Individual Task, Pair Work and Group Work	Read the passage in Unit 5 and prepare for discussion
10	Unit 5: Language and Thought	Individual Task, Pair Work and Group Work	Read the passage in Unit 5 and prepare for discussion
11	Unit 5: Language and Thought	Individual Task, Pair Work and Group Wo	Read the passage in Unit 6 and prepare for discussion
12	Unit 6: Communication Styles	Individual Task, Pair Work and Group Work	Read the passage in Unit 6 and prepare for discussion
13	Unit 6: Communication Styles	Individual Task, Pair Work and Group Work	Read the passage in Unit 7 and prepare for discussion
14	Unit 7: Human Psychology and Communication	Individual Task, Pair Work and Group Work	Read the passage in Unit 7 and prepare for discussion
15	Unit 7: Human Psychology and Communication	Individual Task, Pair Work and Group Work	Prepare for the final exam

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Intercultural Communication for English Language Learners in Japan	Troy McConachy 他	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Vocabulary quizzes： 20%、In-class presentations： 20%、Final exam： 60%
学生へのメッセージ	Enjoy discussing intercultural communication!
担当者の研究室等	７号館５階　杉浦研究室
備考	授業の事前事後学習の総時間数をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	トピック　スタディーズⅡｂ	科目名（英文）	Topic Studies IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	家口　美智子
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的

本授業はTOIECの得点を50点アップさせることを目標とし、その目標に向かって①単語を増やす、②文を覚える、③文章を覚える、④英文法の復習を行う。またリスニング力をつけることも目標とする。

①小テスト
②リスニングの宿題チェック
③教科書を読む
④英文法の復習

というやり方で行う。覚えることが中心となるので文や文章を覚えるのが苦手な人は履修しない方が良いと思われる。

到達目標

TOEICの得点を50点アップさせる。

「50点くらいあげる」ことは簡単に聞こえるかもしれないが、かなりな時間を割いて学習しないと上がらないのがこの50点である。しかしながら、逆に、時間をめいっぱい割いてがんばれば50点上がるのも英語である。つまり全ては自分次第である。
覚えることが苦にならないキャパを脳に作っていく作業の一環だと考えてほしい。

授業方法と留意点

課題も多く出すし、覚えるために割かなければならない時間も多い。よって、バイト等に追われている人にはお勧めしない授業である。
客観的に評価をするので、しっかり覚えこむこと。

科目学習の効果（資格）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業の紹介		Unit 1 予習
2	Unit 1 Studying Abroad	小テスト Listening 教科書講読	Unit 1 予習
3	Unit 1 Studying Abroad	小テスト Listening 教科書講読	Unit 2 予習
4	Unit 2 International Conference	小テスト Listening 教科書講読	Unit 2 予習
5	Unit 2 International Conference	小テスト Listening 教科書講読	Unit 3 予習
6	Unit 3 Holidays	小テスト Listening 教科書講読	Unit 3 予習
7	Unit 3 Holidays	小テスト Listening 教科書講読	Unit 4 予習
8	Unit 4 Leisure	小テスト Listening 教科書講読	Unit 4 予習
9	Unit 4 Leisure	小テスト Listening 教科書講読	Unit 5 予習
10	Unit 5 Restaurant	小テスト Listening 教科書講読	Unit 5 予習
11	Unit 5 Restaurant	小テスト Listening 教科書講読	Unit 6 予習
12	Unit 6 Online Shopping	小テスト Listening 教科書講読	Unit 6 予習
13	Unit 6 Online Shopping	小テスト Listening 教科書講読	Unit 7 予習
14	Unit 7 Global Warming	小テスト Listening 教科書講読	Unit 7 予習
15	Unit 7 Global Warming	まとめ	

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Perfect Practice for the TOEIC Test	Ishii et al	SEIBIDO
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	小テスト(80%)+課題や積極度(20%)
学生への メッセージ	がんばった自分へのご褒美はTOEICの得点アップです。 がんばりましょう！No pain, no gain.
担当者の 研究室等	7号館4階　家口研究室
備考	予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	トピック　スタディーズⅡｂ	科目名（英文）	Topic Studies IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	金原　真由美
ディプロマポリシー(DP)	DP7○,DP8◎		

授業概要・目的	与えられたテーマについてのエッセイが書ける技術を養う。
到達目標	エッセイを書く際によく使われる構文や表現を繰り返し練習することで、より長い文を書けるようにする。教科書は、アカデミックな文章でよく使われる構文を基本にして、様々な接続詞、逆説的な言い方、原因・理由などの表現を組み入れることによって単純ではない文章が書けるように工夫されている。かつ同時に１つのモデルエッセイ(Introduction--Body--Conclusion)が仕上がるようにもなっている。この練習を繰り返すことでエッセイの書き方を学び、最後には自分なりのエッセイを仕上げられようになることを目指す。
授業方法と留意点	教科書に沿って進む。一つのテーマについてまず自分の持っている考えを挙げて整理しておくこと。その上で日本文を読み、サンプルとなる構文を基本にして英作文してくること。受講生は必ずすべての日本文を英語にしておくこと。授業では主に構文や表現の解説、課題のチェックを行う。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、 簡単な小テスト(前期に学習した構文、文法など)	授業の進め方、出欠の扱い、評価方法などの説 8 Racism　構文、エッセイについての説明	予習（構文を意識した英作文）
2	8　Racism	構文、エッセイについての説明 課題提出とチェック	予習（構文を意識した英作文）
3	8　Racism	構文、エッセイについての説明 課題提出とチェック	予習（構文を意識した英作文）
4	9　The Seniority System	構文、エッセイについての説明 課題提出とチェック	予習（構文を意識した英作文）
5	9　The Seniority System10	構文、エッセイについての説明 課題提出とチェック	予習（構文を意識した英作文）
6	10 Euthanasia	構文、エッセイについての説明 課題提出とチェック	予習（構文を意識した英作文）
7	10 Euthanasia	構文、エッセイについての説明 課題提出とチェック	予習（構文を意識した英作文）
8	11 Univerwsity Education	構文、エッセイについての説明 課題提出とチェック	予習（構文を意識した英作文）
9	11 Univerwsity Education	構文、エッセイについての説明 課題提出とチェック	予習（構文を意識した英作文）
10	12　Freeters (Freelancers)	構文、エッセイについての説明 課題提出とチェック	予習（構文を意識した英作文）
11	12　Freeters (Freelancers)	構文、エッセイについての説明 課題提出とチェック	予習（構文を意識した英作文）
12	12　Freeters (Freelancers)	構文、エッセイについての説明 課題提出とチェック	予習（構文を意識した英作文）
13	13　Mobile Phones and E-mail	構文、エッセイについての説明 課題提出とチェック	予習（構文を意識した英作文）
14	13　Mobile Phones and E-mail	構文、エッセイについての説明 課題提出とチェック	予習（構文を意識した英作文）
15	13　Mobile Phones and E-mail	構文、エッセイについての説明 課題提出とチェック	予習（構文を意識した英作文）

関連科目：トピックスタディーズⅡｂ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Point by Point(トピック別エッセイの書き方)	石谷由美子	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　　10% 発表（板書も含む)、積極的姿勢　60% 課題提出 30%
学生へのメッセージ	辞書または電子辞書必携。 英作文の提出方法は追って指示します。 分らない単語、表現については辞書を引いて例文で確認しましょう。 自分にあった文法解説書を持ち常に利用するようにしましょう。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師控室
備考	毎回予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総合時間を１５時間以上とする。

専門科目

科目名	トピック　スタディーズⅡｂ	科目名（英文）	Topic Studies IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ｱｰｻｰ ﾛﾘﾝｸﾞｽﾝ
ディプロマポリシー(DP)	DP7○,DP8◎		

授業概要・目的	This is a course in cross cultural studies and how our identity is expressed through different cultural behaviors. Students will learn about and discuss different behavior which form people's identity.
到達目標	Students will learn to express themselves in English concerning a variety of topics which make up people's identity.
授業方法と留意点	As this is a communication class, students are expected to actively participate in communication activities such as pair work, small group work, as well as to try to use English as much as possible.
科目学習の効果（資格）	Students will learn to express themselves in English concerning a variety of topics which make up people's identity.

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	Introduction, overview.	No preparation required. 準備は必要ありません。
2	Unit 1 Identity.	How characteristics, feelings, or beliefs that distinguish you from others form your personal identity.	Preview vocabulary for pages 2-5.
3	Unit 2 Values.	Values which help us decide right and wrong, and guide us through difficult choices.	Preview vocabulary for pages 6-9.
4	Unit 3 Culture Shock.	The stress people experience when they move to another culture.	Preview vocabulary for pages 10-13.
5	Unit 4 Culture in Language.	Language reflects the culture of the people who speak it.	Preview vocabulary for pages 14-17.
6	Unit 5 Body Language and Customs.	Body language and non-verbal communication as a reflection of culture.	Preview vocabulary for pages 18-21.
7	Unit 6 Indivualism.	The value of individualism and why it's important for some people. Vocabulary quiz units 1-6.	Preview vocabulary for pages 22-25. Study for vocabulary quiz.
8	Unit 7 Politeness.	The way people treat each other in order to show courtesy and respect.	Preview vocabulary for pages 26-29.
9	Unit 8 Communication Styles.	The different ways in which people express themselves.	Preview vocabulary for pages 30-33.
10	Unit 9 Gender and Culture.	Gender roles and communication styles for men and women in different cultures.	Preview vocabulary for pages 34-37.
11	Unit 10 Diversity.	The different cultures that exist both within a country or region, and between cultures.	Preview vocabulary for pages 39-41.
12	Unit 11 Social Change.	Change that makes society and the world a better place.	Preview vocabulary for pages 42-45.
13	Unit 12 Global Community.	The relationships between people of different cultures and how these relationship form a global community.	Preview vocabulary for pages 46-49.
14	Special Topic.	To be announced.	No preparation required.
15	Final test. Vocabulary quiz units 7-12	Term test. Vocabulary quiz units 7-12.	Study for final test and vocabulary quiz.

関連科目：なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	辞書		
2			
3			

評価方法（基準）	Active participation, attitude and attendance 40%. Vocabulary tests 25%. Final test 35%.
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・・教科書、辞書です。出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する。 Attitude, participation and attendance are considered important in this class for getting a good grade. Please bring your textbook and a dictionary to each class. If you forget your text one day, please make a copy before the class.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室.
備考	学生は予習・復習のために約15時間確保すること。

科目名	トピック　スタディーズⅡｂ	科目名（英文）	Topic Studies IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	アイビス　ウイリアム
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	This course introduces a range of topics from around the world?including food, festivals, music and journeys?that provoke interest, inspire discussion, and ultimately broaden one's view of our diverse, global society. Knowledge and understanding of the world can not only inspire you to improve your home region, but they also make you more appreciative of it.
到達目標	Students will learn about topics from around the world, improving their English skills.
授業方法と留意点	This is a listening and speaking course with a little reading designed to create a richer speaking experience. A mixture of scripted and authentic audio provides opportunities for listening practice. Students' communicative competence is developed through guided pair and group discussion activities. Activity types include interviews, surveys, class presentations and projects, and encourage students to take their learning beyond the classroom. National Geographic video offers additional opportunities for developing listening comprehension and inspires discussion about the wondrous diversity of our planet.
科目学習の効果（資格）	To improve reading, writing and speaking skills in English. To gain a better understanding, appreciation and enjoyment of the world we live in.

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Talking about food	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Plan a restaurant!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
2	Talking about festivals	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Organise a festival!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
3	Review 1 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
4	Talking about your city	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Finding city solutions.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
5	Talking about jobs	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Interview someone about their job.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
6	Review 2 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
7	Talking about music	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Write a song!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
8	Talking about travel	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Plan an expedition!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
9	Review 3 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
10	Talking about famous families	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Family debate!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
11	Talking about adventure travel	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Make a public Service Announcement.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
12	Review 4 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
13	Talking about happiness	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. How to be happy!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
14	Talking about endangered species	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Give a persuasive presentation.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
15	Review 5 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	None

関連科目	Completion of Topics Studies I is not a necessary requirement for this course.

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Top Notch TV	Joan Saslow	Pearson
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Class participation - 10% 3-5 Short presentations - 90%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館２F　非常勤講師室

備考	学生は予習・復習で約 15 時間を確保すること。

科目名	トピック　スタディーズⅢ	科目名（英文）	Topic Studies III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大神　雄一郎
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	当授業では、身近な問題について賛成の立場を示す文章と反対の立場を示す文章の両方を読解しながら、ある問題に対して多角的な見方が成立し得ることを学びつつ、賛成および反対の意見を述べる英語表現や文章構成について習得することを目指す。単に英語の文章を機械的に「解読」することにとどまらず、読解した内容に基づいて考え、論じる力を養うことを目的とする。
到達目標	・事実に対する見方の多様性について理解する。 ・賛成と反対の英語表現と文章構成について理解する。 ・読解した内容に基づき、自分なりに考え、意見を述べられるようになる。
授業方法と留意点	各回の題材となるテキストについて理解内容の確認を行ったうえで、読解した内容に基づいてグループワークの形式で各自の考えを論じる時間をとる。理解内容の確認に当たっては、予習を前提に受講者に本文の内容を答えてもらいながら解説を加える形をとる。授業までに各自で課題テキストの予習を行っておくことが求められる。辞書（電子辞書も可）を持参することが望ましい。
科目学習の効果（資格）	ある問題に対する自身の意見について、賛成・反対の立場から明確に論じる方略を理解する。テキストを通じて取り込んだ知識や発想をもとに、自身の考えを他者に伝え、議論を行う機会が得られる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の内容、目標、方法の確認	
2	読解とディスカッション	Unit 1	予習、課題取組
3	読解とディスカッション	Unit 2	予習、課題取組
4	読解とディスカッション	Unit 3	予習、課題取組
5	読解とディスカッション	Unit 4	予習、課題取組
6	読解とディスカッション	Unit 5	予習、課題取組
7	読解とディスカッション	Unit 6	予習、課題取組
8	読解とディスカッション	Unit 7	予習、課題取組
9	読解とディスカッション	Unit 8	予習、課題取組
10	読解とディスカッション	Unit 9	予習、課題取組
11	読解とディスカッション	Unit 10	予習、課題取組
12	読解とディスカッション	Unit 11	予習、課題取組
13	読解とディスカッション	Unit 12	予習、課題取組
14	総復習と習得内容の確認１	学習内容の総合的な確認	予習、課題取組
15	総復習と習得内容の確認２	学習内容の総合的な確認	予習、課題取組

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Taking Sides: Opinions For and Against	Jewel　Mark	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	予習と課題への取り組み、受講状況、グループワークでの活動状況を総合的に判断する。
学生へのメッセージ	英語の的確な読解を土台に、読み取った内容を活用して自分なりに考え、他者と強調的に議論を行うところまでを目標に授業を進めたいと考えています。座って解説を聞くのみ、というのではなく、周囲とコミュニケーションを図りながら、ポジティブに活動を進められればと思っています。
担当者の研究室等	7号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業の事前事後学習の時間を合わせて 15 時間程度とする。

科目名	ドラマ	科目名（英文）	Drama
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	神崎　舞
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。
到達目標	ドラマ上演を通じて、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	学期末にドラマ作品の上演会を行う。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation	No preparation required.
2	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
3	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
4	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
5	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
6	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
7	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
8	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
9	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
10	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
11	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
12	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
13	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
14	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
15	Final performance.	Final performance.	Prepare for final performance.

関連科目：プレゼンテーション

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ドラマ上演：20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生へのメッセージ	ドラマを通して、英語での表現力を磨きましょう。 辞書を毎回用意すること。
担当者の研究室等	7号館5階　神崎研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表の準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。リハーサル等に対するフィードバックはその都度行う。

科目名	ドラマ	科目名（英文）	Drama
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	ロハ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	マシュー　クーパー
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。
到達目標	ドラマ上演を通じて、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	学期末にドラマ作品の上演会を行う。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction: Clear Delivery	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
2	Exercises:Speech Recitation and Delivery (1)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
3	Exercises:Speech Recitation and Delivery (2)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
4	Exercises:Speech Recitation and Delivery (3)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
5	Exercises:Supportive Peer Evaluation (1)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
6	Exercises:Supportive Peer Evaluation (2)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
7	Exercises:Supportive Peer Evaluation (3)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
8	Exercises:Skits and Peer Evaluation (1)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
9	Exercises:Skits and Peer Evaluation (2)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
10	Exercises:Skits and Peer Evaluation (3)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
11	Exercises:Plays and Peer Evaluation (1)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
12	Exercises:Plays and Peer Evaluation (2)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
13	Exercises:Plays and Peer Evaluation (3)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
14	Exercises:Plays and Peer Evaluation (4)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	Review	Individual task, pair work, and group work	・・・

関連科目：プレゼンテーション

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ドラマ上演：20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生へのメッセージ	話し方、動き、表情などを動員して、メッセージを豊かに伝えられるようになりましょう。 Anything goes on stage. Let's have fun!
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	ドラマ	科目名（英文）	Drama
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ニホ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ニール　カー
ディプロマポリシー(DP)	DP7○,DP8◎		

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。
到達目標	ドラマ上演を通じて、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	学期末にドラマ作品の上演会を行う。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation	No preparation required.
2	Activity 1: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
3	Activity 1 continued: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
4	Activity 2: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
5	Activity 2 continued: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
6	Activity 3: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
7	Activity 3 continued: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
8	Activity 4: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
9	Activity 4 continued: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
10	Activity 5: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
11	Activity 5 continued: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
12	Activity 6: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
13	Activity 6 continued: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
14	Activity 7: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
15	Activity 7: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.

関連科目：プレゼンテーション

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ドラマ上演：20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生へのメッセージ	Students will study and perform various drama activities in this class. Active participation is expected, as well as good attendance.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	ドラマ	科目名（英文）	Drama
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	ヘト
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	スコット　ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。
到達目標	ドラマ上演を通じて、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	学期末にドラマ作品の上演会を行う。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation	No preparation required.
2	Improvisation Techniques	Pair work, group work will be used to help students learn how to improvise.	Students should study the content of the day's lesson.
3	Using Body Language to Convey Meaning	Students will work in pairs and groups as they learn and practice using body language to express meaning.	Students should study the content of the day's lesson.
4	Expressing Emotion	Students will work in pairs and groups as they learn and practice creating emotion facially, physically and verbally.	Students should study the content of the day's lesson.
5	Story Writing	Students will work in pairs and groups as they begin to create their own play.	Students should study the content of the day's lesson.
6	Adding Emotion and Body Language to Stories	Students will continue to develop their play, and begin adding elements of emotion and body language to it.	Students should study the content of the day's lesson.
7	Practice and Performance	Students will perform their play and be assessed on their performance.	.Students should study the content of the day's lesson.
8	My Favorite Movie Scenes	Students will work in pairs and groups as they examine famous movie scenes in more detail.	Students should study the content of the day's lesson.
9	What Did They Say?	Students will work in pairs and groups as they examine famous movie scenes without sound and create their own interpretation of the scene.	Students should study the content of the day's lesson.
10	Projection and Voice	Pair work, group work will be used as students practice voice projection techniques.	Students should study the content of the day's lesson.
11	Contentless Dialogue	Review of dramatic elements.	Students should study the content of the day's lesson.
12	Using Props	Students will create props and incorporate them into their stories.	Students should study the content of the day's lesson.
13	Re-Creating a Movie Scene	Students will work in small groups and re-create a famous movie scene, displaying emotion, body language and proper voice projection.	Students should study the content of the day's lesson.
14	Practice	Students will rehearse their performances and critique each other.	Students should study the content of the day's lesson.
15	Performance	Students will perform their skits and be assessed on their performance.	Students should study the content of the day's lesson.

関連科目	プレゼンテーション

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ドラマ上演：20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生へのメッセージ	Students will study and perform various drama activities in this class. Active participation is expected, as well as good attendance. Materials will be provided by the teacher.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	ドラマ	科目名（英文）	Drama
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	チリ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル　マリンズ
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。
到達目標	ドラマ上演を通じて、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	学期末にドラマ作品の上演会を行う。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Course introduction and explanation of assessment tasks.	Orientation and self introduction.	Decide upon a video for which you will write a voiceover track.
2	Drama medium: Video voiceovers. Drama skill focus: Voiceovers.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
3	Drama medium: Video voiceovers. Drama skill focus: Expressing emotion through tone of voice.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
4	Drama medium: Video voiceovers. Drama skill focus: Sound effects.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
5	Drama medium: Video voiceover performances.	Peer evaluation of performances.	Reflect on individual peer performance evaluations.
6	Drama medium: Short skits. Drama skill focus: Voice projection.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
7	Drama medium: Short skits. Drama skill focus: Timing and overlapping.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
8	Drama medium: Short skits. Drama skill focus: Gestures.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
9	Drama medium: Short skits. Drama skill focus: Facial expression.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
10	Drama medium: Short skit performances.	Peer evaluation of performances.	Reflect on individual peer performance evaluations.
11	Drama medium: Large group/whole class play. Drama skill focus: Facing the audience.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
12	Drama medium: Large group/whole class play. Drama skill focus: Acting when not speaking.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
13	Drama medium: Large group/whole class play. Drama skill focus: Use of props.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
14	Drama medium: Large group/whole class play. Drama skill focus: Creating props.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
15	Drama medium: Large group/whole class play performances.	Combined classes performances, and peer performance evaluation.	Reflect on individual peer performance evaluations.

関連科目	プレゼンテーション
教科書	

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
評価方法 （基準）	ドラマ上演：20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生への メッセージ	Please try to come to every class. Missing classes will result in a low grade and possible failure of this class as it hinders other students' preparations for their performances. If you need help with anything, please contact me. N.B.: Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. If you are more than 30 minutes late for a class, it will be counted as an absence.
担当者の 研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	ドラマⅠ	科目名（英文）	Drama Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	Ｓイあい
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	神崎　舞
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。
到達目標	ドラマ上演を通じて、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	学期末にドラマ作品の上演会を行う。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation	No preparation required.
2	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
3	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
4	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
5	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
6	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
7	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
8	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
9	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
10	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
11	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
12	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
13	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
14	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
15	Final performance.	Final performance.	Prepare for final performance.

関連科目：プレゼンテーション

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ドラマ上演：20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生へのメッセージ	ドラマを通して、英語での表現力を磨きましょう。 辞書を毎回用意すること。
担当者の研究室等	7号館5階　神崎研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表の準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。リハーサル等に対するフィードバックはその都度行う。

科目名	ドラマⅠ	科目名（英文）	Drama Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	ロうえ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	マシュー　クーパー
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。
到達目標	ドラマ上演を通じて、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	学期末にドラマ作品の上演会を行う。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction: Clear Delivery	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
2	Exercises:Speech Recitation and Delivery (1)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
3	Exercises:Speech Recitation and Delivery (2)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
4	Exercises:Speech Recitation and Delivery (3)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
5	Exercises:Supportive Peer Evaluation (1)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
6	Exercises:Supportive Peer Evaluation (2)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
7	Exercises:Supportive Peer Evaluation (3)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
8	Exercises:Skits and Peer Evaluation (1)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
9	Exercises:Skits and Peer Evaluation (2)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
10	Exercises:Skits and Peer Evaluation (3)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
11	Exercises:Plays and Peer Evaluation (1)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
12	Exercises:Plays and Peer Evaluation (2)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
13	Exercises:Plays and Peer Evaluation (3)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
14	Exercises:Plays and Peer Evaluation (4)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	Review	Individual task, pair work, and group work	・・・

関連科目：プレゼンテーション

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ドラマ上演：20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生へのメッセージ	話し方、動き、表情などを動員して、メッセージを豊かに伝えられるようになりましょう。 Anything goes on stage. Let's have fun!
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	ドラマⅠ	科目名（英文）	Drama Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ハおか
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ニール　カー
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。
到達目標	ドラマ上演を通じて、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	学期末にドラマ作品の上演会を行う。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation	No preparation required.
2	Activity 1: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
3	Activity 1 continued: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
4	Activity 2: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
5	Activity 2 continued: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
6	Activity 3: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
7	Activity 3 continued: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
8	Activity 4: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
9	Activity 4 continued: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
10	Activity 5: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
11	Activity 5 continued: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
12	Activity 6: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
13	Activity 6 continued: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
14	Activity 7: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
15	Activity 7: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.

関連科目	プレゼンテーション

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ドラマ上演：20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生へのメッセージ	Students will study and perform various drama activities in this class. Active participation is expected, as well as good attendance.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	ドラマⅠ	科目名（英文）	Drama Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	ニきく
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	スコット　ライリー
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。
到達目標	ドラマ上演を通じて、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	学期末にドラマ作品の上演会を行う。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation	No preparation required.
2	Improvisation Techniques	Pair work, group work will be used to help students learn how to improvise.	Students should study the content of the day's lesson.
3	Using Body Language to Convey Meaning	Students will work in pairs and groups as they learn and practice using body language to express meaning.	Students should study the content of the day's lesson.
4	Expressing Emotion	Students will work in pairs and groups as they learn and practice creating emotion facially, physically and verbally.	Students should study the content of the day's lesson.
5	Story Writing	Students will work in pairs and groups as they begin to create their own play.	Students should study the content of the day's lesson.
6	Adding Emotion and Body Language to Stories	Students will continue to develop their play, and begin adding elements of emotion and body language to it.	Students should study the content of the day's lesson.
7	Practice and Performance	Students will perform their play and be assessed on their performance.	.Students should study the content of the day's lesson.
8	My Favorite Movie Scenes	Students will work in pairs and groups as they examine famous movie scenes in more detail.	Students should study the content of the day's lesson.
9	What Did They Say?	Students will work in pairs and groups as they examine famous movie scenes without sound and create their own interpretation of the scene.	Students should study the content of the day's lesson.
10	Projection and Voice	Pair work, group work will be used as students practice voice projection techniques.	Students should study the content of the day's lesson.
11	Contentless Dialogue	Review of dramatic elements.	Students should study the content of the day's lesson.
12	Using Props	Students will create props and incorporate them into their stories.	Students should study the content of the day's lesson.
13	Re-Creating a Movie Scene	Students will work in small groups and re-create a famous movie scene, displaying emotion, body language and proper voice projection.	Students should study the content of the day's lesson.
14	Practice	Students will rehearse their performances and critique each other.	Students should study the content of the day's lesson.
15	Performance	Students will perform their skits and be assessed on their performance.	Students should study the content of the day's lesson.

関連科目	プレゼンテーション

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ドラマ上演：20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生へのメッセージ	Students will study and perform various drama activities in this class. Active participation is expected, as well as good attendance. Materials will be provided by the teacher.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	ドラマⅠ	科目名（英文）	Drama Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	ホへけさし
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル　マリンズ
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。
到達目標	ドラマ上演を通じて、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	学期末にドラマ作品の上演会を行う。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Course introduction and explanation of assessment tasks.	Orientation and self introduction.	Decide upon a video for which you will write a voiceover track.
2	Drama medium: Video voiceovers. Drama skill focus: Voiceovers.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
3	Drama medium: Video voiceovers. Drama skill focus: Expressing emotion through tone of voice.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
4	Drama medium: Video voiceovers. Drama skill focus: Sound effects.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
5	Drama medium: Video voiceover performances.	Peer evaluation of performances.	Reflect on individual peer performance evaluations.
6	Drama medium: Short skits. Drama skill focus: Voice projection.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
7	Drama medium: Short skits. Drama skill focus: Timing and overlapping.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
8	Drama medium: Short skits. Drama skill focus: Gestures.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
9	Drama medium: Short skits. Drama skill focus: Facial expression.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
10	Drama medium: Short skit performances.	Peer evaluation of performances.	Reflect on individual peer performance evaluations.
11	Drama medium: Large group/whole class play. Drama skill focus: Facing the audience.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
12	Drama medium: Large group/whole class play. Drama skill focus: Acting when not speaking.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
13	Drama medium: Large group/whole class play. Drama skill focus: Use of props.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
14	Drama medium: Large group/whole class play. Drama skill focus: Creating props.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
15	Drama medium: Large group/whole class play performances.	Combined classes performances, and peer performance evaluation.	Reflect on individual peer performance evaluations.

関連科目	プレゼンテーション
教科書	

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
評価方法 （基準）	ドラマ上演：20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生への メッセージ	Please try to come to every class. Missing classes will result in a low grade and possible failure of this class as it hinders other students' preparations for their performances. If you need help with anything, please contact me. N.B.: Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. If you are more than 30 minutes late for a class, it will be counted as an absence.
担当者の 研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	トランスレーション　トレーニングａ	科目名（英文）	Translational Training a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中野　阿佐子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	Email 上でのやりとりに関連する多様な表現を学び、自然な英語表現を使いこなせるようにする。
到達目標	英語の表現の理解はもちろん、日本語から英語へのアウトプットの力の向上を目指す。
授業方法と留意点	ペアワーク、グループワークなどの活動を交えた授業を展開する。 毎回の授業で小テストを実施し、表現の定着を図る。 なお４回以上の欠席者は単位を認めないものとする。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検など

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方等について Unit１の導入	テキスト持参
2	Unit1　予定の提案、お願い、勧誘に関する表現	Unit1 の表現の暗記と応用	予習・復習 小テストの準備
3	Unit2　疑問詞を含む表現	Unit2 の表現の暗記と応用	予習・復習 小テストの準備
4	Unit 1,2 の復習	表現のアウトプット練習	予習・復習 小テストの準備
5	Unit３　内緒の話	Unit３の表現の暗記と応用	予習・復習 小テストの準備
6	Unit４　新聞記事に関連する表現	Unit４の表現の暗記と応用	予習・復習 小テストの準備
7	Unit3,4 の復習	表現のアウトプット練習	予習・復習 小テストの準備
8	確認テスト① テスト解説	Unit1～４でここまでに学んだ表現の定着度を測る	予習・復習 小テストの準備
9	Unit５　主語の省略	Unit５の表現の暗記と応用	予習・復習 小テストの準備
10	Unit６　質疑応答①	Unit６の表現の暗記と応用	予習・復習 小テストの準備
11	Unit５，６の復習	表現のアウトプット練習	予習・復習 小テストの準備
12	Unit７　質疑応答②	Unit７の表現の暗記と応用	予習・復習 小テストの準備
13	Unit8　日本文化を説明する	Unit８の表現の暗記と応用	予習・復習 小テストの準備
14	Unit７，８の復習	表現のアウトプット練習	予習・復習 小テストの準備
15	確認テスト② テスト解説	前期でここまでに学んだ表現の定着度を測る	復習

関連科目	トランスレーション・トレーニングｂ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Email Talks	Hideo Takemura and Tamaki Otani	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	確認テスト(①&②)　60%、 平常成績　40%(小テスト、その他の課題、提出物、授業態度など、総合的に判断します。)
学生へのメッセージ	積極的な授業参加を期待します。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師控室
備考	授業中の携帯の使用は認めません。辞書を持参するようにしてください。

科目名	トランスレーション　トレーニングｂ	科目名（英文）	Translational Training b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中野　阿佐子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	Email 上でのやり取りに関連する多様な表現を学び、自然な英語表現を使いこなせるようにする。
到達目標	英語の表現の理解はもちろん、日本語から英語へのアウトプットの力の向上を目指す。
授業方法と留意点	ペアワーク、グループワークなどの活動を交えた授業を展開する。 毎回の授業で小テストを実施し、表現の定着を図る。 なお４回以上の欠席者は原則単位を認めないものとする。
科目学習の効果（資格）	TOEIC,英検など

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の内容、進行に関する説明 Unit９の導入	テキスト持参
2	Unit９　感想を述べる	Unit９の表現の暗記と応用	予習・復習 小テストの準備
3	Unit１０　感謝の言葉	Unit１０の表現の暗記と応用	予習・復習 小テストの準備
4	Unit ９，１０の復習	表現のアウトプット練習	予習・復習 小テストの準備
5	Unit１１　恋愛の表現	Unit１１の表現の暗記と応用	予習・復習 小テストの準備
6	Unit１２　うわさ話をする	Unit１２の表現の暗記と応用	予習・復習 小テストの準備
7	Unit１１，１２の復習	表現のアウトプット練習	予習・復習 小テストの準備
8	確認テスト① テスト解説	Unit９～１２でここまでに学んだ表現の定着度を測る	予習・復習 小テストの準備
9	Unit１３　自然災害を報告する	Unit１３の表現の暗記と応用	予習・復習 小テストの準備
10	Unit１４　複数の文の活用	Unit１４の表現の暗記と応用	予習・復習 小テストの準備
11	Unit１３，１４の復習	表現のアウトプット練習	予習・復習 小テストの準備
12	Unit１５　病気に関連する表現	Unit１５の表現の暗記と応用	予習・復習 小テストの準備
13	複数の表現方法を学ぶ	用例の暗唱と応用	予習・復習 小テストの準備
14	Unit15 の復習	表現のアウトプット練習	予習・復習 小テストの準備
15	確認テスト② テスト解説	ここまでに学んだ表現の定着度を測る	復習

関連科目：トランスレーション・トレーニングａ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Email Talks	Hideo Takemura and Tamaki Otani	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	確認テスト(①&②)　60%、 平常成績　40%(小テスト、その他の課題、提出物、授業態度など、総合的に判断します。)
学生へのメッセージ	積極的な授業参加を期待します。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師控室
備考	授業中の携帯の使用は認めません。辞書を持参するようにしてください。

科目名	日米関係論	科目名（英文）	Japan-US Relations
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	有馬　善一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	開国から冷戦後までの 140 年にわたる日米関係の歴史を振り返る。
到達目標	日本とアメリカの関係がどのような経緯を辿って、現在の日米同盟に至ったのかを理解する。 近代国家の国際関係を動かす力学とはいかなるものであるのかという点に関する理解を深める。 日本の今後進むべき道についての自分なりの考えを持つ。
授業方法と留意点	教科書を併用しながら、資料を配布して、解説を行う。教科書をあらかじめよく読んでくること。第一次大戦後以降の歴史を中心に扱う。現在の日米関係の問題まで扱いたい。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに、講義へのイントロダクション	講義の概要と進め方	なし
2	日本の歴史と地政学的位置	日本の歴史的な国家形成とアジアにおける地政学的な位置について 明治時代より以前と以後の日本の相違	講義内容を復習すること
3	アメリカ合衆国の歴史と外交政策	移民、アメリカ革命、デモクラシー モンロー主義と太平洋国家	紹介する資料を読んでくる 講義内容を復習すること
4	日米の遭遇と世界史への登場	日本の開国から明治期の日米関係について	教科書（第 1 章）を読んでくる 講義内容を復習すること
5	帝国主義時代の日本とアメリカの植民地政策（1）	日本の韓国併合、アメリカのハワイ、フィリピンへの進出 日露戦争後の日米の台頭	教科書（第 2 章）を読んでくる 講義内容を復習すること
6	帝国主義時代の日本とアメリカの植民地政策（2）	第一次世界大戦後の国際情勢 国際連盟の盟主としてのアメリカと日本	教科書（第 3 章）を読んでくる 講義内容を復習すること
7	日本の中国大陸侵出とアメリカの不承認	満州事変と日中戦争における日米関係の変化	教科書（第 4 章）を読んでくる 講義内容を復習すること
8	日本人のアメリカ移民の歴史	ハワイとアメリカ西海岸への日本人移民の歴史 第二次大戦中の日系人収容所 第二次大戦後の日系人社会	教科書（第 5 章）と資料を読んでくる 講義内容を復習すること
9	日米戦争と日本占領	ヨーロッパ戦線と日米戦争 真珠湾攻撃から沖縄戦・原爆投下に至るまで	教科書（第 6 章）を読んでくる 講義内容を復習すること
10	サンフランシスコ講和条約と戦後日本	朝鮮戦争と日本の安全保障	教科書（第 7 章）を読んでくる 講義内容を復習すること
11	日米安保条約と安保改定反対闘争	日米安保条約を巡る様々な動きについて学ぶ	講義内容を復習すること
12	東西冷戦下の日米同盟と沖縄返還	ベトナム戦争と基地沖縄問題と日米同盟について	教科書（第 8 章）を読んでくる 講義内容を復習すること
13	米中接近、日中国交回復の時代の日米関係	中ソの衝突と日米の対中戦略のズレ	教科書（第 9 章）を読んでくる 講義内容を復習すること
14	冷戦終結とグローバル時代の日米関係	湾岸戦争・イラク戦争と日米同盟の強化	教科書（第 10 章）を参考のこと 講義内容を復習すること
15	講義のまとめ	これまでの講義をまとめた上で、日米関係の将来を展望する	教科書（第 11 章）を参考にすること 講義内容を復習すること

関連科目：国際文化概論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日米関係史	五十旗頭真編著	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日本の外交	入江昭	中公新書
2	新・日本の外交	入江昭	中公新書
3	戦後入門	加藤典洋	筑摩新書

評価方法（基準）	授業内のレポート・平常点（40%）と授業後のレポート・記述試験（60%）により評価。受講生の多寡によっては評価方法を変更することもある。その場合は授業の中で指示する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 4 階
備考	事前事後学習におよそ 60 時間必要。

科目名	日米比較文化	科目名（英文）	Comparative Cultures: America and Japan
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鳥居　祐介
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的

　この授業では、19 世紀から現在までのアメリカ人の日本人観、日本人のアメリカ人観が表れた両国の様々な文化表現を、映画と音楽を中心に見ていきます。両国の人々が互いに抱いてきたイメージと、その歴史的な変遷に注目し、背景にある国際政治、国内政治との関わりを考えます。日米間に限らず、現代世界の人種問題、民族問題について、またメディアを通じた異文化理解について、当事者意識を持って考えるきっかけにしましょう。

　受講生の皆さんには、ただ教室に来て講義を聞くのではなく、スケジュール通りに資料を読んでから講義を聴き、講義の後には教材フォルダにアップされた講義ノートを読み返すことが要求されます。また、毎回の授業時間の終盤には、その日に理解できた内容を作文して提出してもらいます。ある程度高度な日本語を読む、書く、という文系の学生に必須の学習方法を習慣づけ、就職活動や卒論作成に対応可能な日本語力も身につけましょう。

到達目標

・日本とアメリカ合衆国における人種問題、民族問題の歴史と現状についての基礎知識、基礎的理解を身につける。
・就職活動や卒論作成に向けて日本語力、作文力を向上させる。
・テーマに基づいて読解と作文を繰り返す学習技法を習得する。

授業方法と留意点

・教材の配布方法をはじめ、授業方法についての重要な説明を初回の授業で詳細に行います。履修を検討している人は、初回の授業に必ず出席して下さい。やむを得ない事情で欠席する（した）場合は、一両日中に教員に連絡して欠席の事由を説明し、必要な指示を受けてから二回目の授業に臨んで下さい。連絡のあった受講生についてはできるだけの配慮をしますが、二回目以降の授業に何の準備もなく突然出席されても、他の受講生の迷惑になりますのでサポートはできません。単位をとれる可能性は著しく低くなります。
・高度で難解なものも含む大量のプリント教材を、自分でスケジュールを確認しながら読んでもらい、授業時間内にコメントを作文してもらいます。コメントが書けなければその日の成績は 0 点です。最終課題も論述（レポート形式の試験）です。毎回出席する意思のない人や、文章を読みたくない人、書きたくない人は、この授業を選択してはいけません。
・座席は指定席制です。視力等の事情がある場合は配慮します。
・教材の多くは教材フォルダを通じて電子配布されますので、定期的な PC 操作が必要です。
・このシラバスに載っている 15 回のスケジュールは例年の標準的なスケジュールです。年度によって少しずつ変更があります。初回の授業でより詳しいスケジュールを配布し、さらに変更があれば随時授業で告知します。

科目学習の効果（資格）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	受講に関する諸注意	受講に関する重要な説明と指示を初回授業でまとめて行います。	配付した資料の予習
2	相撲とミンストレルショー―　近代国民国家と「国民文化」	ペリー提督の日本来航時(1853-54)に描かれた絵図などを読み解く	配布プリントおよび教科書を予習の上、授業に持参。授業後は資料を整理し、保管する。
3	「黄禍」としての日本人／日系人　その１	最初にして唯一の「日本人ハリウッドスター」早川雪洲の主演映画 Cheat(1915)を読み解く	配布プリントおよび教科書を予習の上、授業に持参。授業後は資料を整理し、保管する。
4	「黄禍」としての日本人／日系人　その２	最初にして唯一の「日本人ハリウッドスター」早川雪洲の主演映画 Cheat(1915)を読み解く	配布プリントおよび教科書を予習の上、授業に持参。授業後は資料を整理し、保管する。
5	日本人から見た「先進文明国」としてのアメリカ　その１	1928 年～1930 年代の日本製「ジャズ」音楽を検証	配布プリントおよび教科書を予習の上、授業に持参。授業後は資料を整理し、保管する。
6	日本人から見た「先進文明国」としてのアメリカ　その２	池崎忠孝『世界を脅威するアメリカニズム』(1937) など検証	配布プリントおよび教科書を予習の上、授業に持参。授業後は資料を整理し、保管する。
7	「人種戦争」としての第二次世界大戦その１	日米両国の人種プロパガンダイメージ・セレクションを検証	配布プリントおよび教科書を予習の上、授業に持参。授業後は資料を整理し、保管する。
8	「人種戦争」としての第二次世界大戦その２	日米両国の人種プロパガンダイメージ・セレクションを検証	配布プリントおよび教科書を予習の上、授業に持参。授業後は資料を整理し、保管する。
9	東西冷戦とアメリカの人種リベラリズム　その１	映画『サヨナラ』(1957) を検証	配布プリントおよび教科書を予習の上、授業に持参。授業後は資料を整理し、保管する。
10	東西冷戦とアメリカの人種リベラリズム　その２	映画『サヨナラ』(1957) を検証	配布プリントおよび教科書を予習の上、授業に持参。授業後は資料を整理し、保管する。
11	近代西洋文明批判としての対抗文化運動とその日本版その１	ウッドストック (1969) と 1970 年代の日本のロック／フォークフェス等を例に考える。	配布プリントおよび教科書を予習の上、授業に持参。授業後は資料を整理し、保管する。
12	近代西洋文明批判としての対抗文化運動とその日本版その２	ウッドストック (1969) と 1970 年代の日本のロック／フォークフェス等を例に考える。	配布プリントおよび教科書を予習の上、授業に持参。授業後は資料を整理し、保管する。
13	現代日本社会における人種差別告発と、戦後日本の「黒人」音楽　その１	戦後日本の「黒人音楽」の歴史的・現代的意義を検証	配布プリントおよび教科書を予習の上、授業に持参。授業後は資料を整理し、保管する。
14	現代日本社会における人種差別告発と、戦後日本の「黒人」音楽　その２	戦後日本の「黒人音楽」の歴史的・現代的意義を検証	配布プリントおよび教科書を予習の上、授業に持参。授業後は資料を整理し、保管する。
15	まとめ	期末レポートに向けて、学習内容を総括する。	自分がレポートに使う可能性のある全ての配布資料および教科書に目を通し、持参。

関連科目

日米文化交流史など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
評価方法 （基準）	平常の作文および質疑への貢献の評価　70% 最終授業終了後に提出の最終レポート　30%
学生への メッセージ	最初から全部分からなくてもかまいません。まずは「よく分からないが何だか面白い！」と感じるところを探しましょう。今の自分にとって難しく感じるものを、敢えて背伸びをして読み、また書くことを楽しめるようになって下さい。
担当者の 研究室等	７号館３階　鳥居研究室
備考	

科目名	日米文化交流史	科目名（英文）	History of Japan-US Intercultural Communication
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	天野　貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	移民・映画・文学・武士道・民主主義――日本人とアメリカ人に共通の経験を通して、両者の交流を歴史的に観察する。
到達目標	・　日米交流の歴史を観察することで、多民族国家アメリカへの理解だけでなく、日本文化への理解も深める。 ・　授業で学んだことを基にして、みずからの意見を述べることができる。
授業方法と留意点	毎回小テストあり。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・　受講説明	・　受講説明	配布テキストを読む
2	日本人移民（1）	『99 年の愛』	配布テキストを読む
3	日本人移民（2）	マーク・トウェイン「黄色い恐怖の寓話」	配布テキストを読む
4	映画（1）	『ガン・ホー』	配布テキストを読む
5	映画（2）	『ジャパン・アズ・ナンバーワン』	配布テキストを読む
6	映画（3）	『ライジング・サン』	配布テキストを読む
7	文学（1）	エドガー・アラン・ポー『黒猫』 ハーマン・メルヴィル『白鯨』	配布テキストを読む
8	文学（2）	『雪国』『帰郷』	配布テキストを読む
9	文学（3）	ドナルド･キーン、サイデンステッカー、村上春樹	配布テキストを読む
10	武士道（1）	新渡戸稲造	配布テキストを読む
11	武士道（2）	『ラスト・サムライ』	配布テキストを読む
12	民主主義（1）	トクヴィル	配布テキストを読む
13	民主主義（2）	永井荷風	第 6 章を読む
14	民主主義（3）	司馬遼太郎	配布テキストを読む
15	まとめ	学期末試験に向けて	配布テキストを読む

関連科目：日米比較文化

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト・・・３０％ 学期末テスト・・・４０％ 学期末レポート・・・３０％
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館３階（天野研究室）
備考	

科目名	日中関係論	科目名（英文）	Sino-Japanese Relations
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大西　紀
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	日本と中国は、東アジアにおいて「一衣帯水」の隣国であり、両国の交流の歴史は悠久で多彩である。本授業では、２０００年以上の歴史がある日中関係史を概観し、古代、近代、現代という三つの大きな時期に分けて講義する。日中関係は古くから政治、経済および文化などの多方面において深い交流がある一方、戦争、植民地支配という不幸の歴史もあった。その意味では、日中関係を考える際に、経済・文化の交流を見るだけではなく、歴史問題も正しく認識する必要がある。また、近年ますます拡大している日中の経済関係についても解説し、経済関係およびアジアの将来を中心に未来志向の新しい日中関係の構築を考えてみたい。
到達目標	日本と中国が歴史上どのような関係があったのか正しい知識を習得、今後の日中関係に生かす。
授業方法と留意点	プリントを利用した講義なので、単一方向の授業形式となりがちだが、受講生からの質問は随時受け付け、双方向の授業となるように努めたい。
科目学習の効果（資格）	日本と中国の関係史を知り、今後の日中関係について自分なりの視角を持ち、思考することができる。就職試験に有効。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	古代の日中関係史Ⅰ	徐福の伝説	参考書とプリント資料を読んでください
2	古代の日中関係史Ⅱ	金印の謎	参考書とプリント資料を読んでください
3	古代の日中関係史Ⅲ	遣唐使	参考書とプリント資料を読んでください
4	古代の日中関係史Ⅳ	鑑真、空海	参考書とプリント資料を読んでください
5	古代の日中関係史Ⅴ	宋・元・明代の日中関係	参考書とプリント資料を読んでください
6	近代の日中関係史Ⅰ	アヘン戦争、幕末期の日中関係	参考書とプリント資料を読んでください
7	近代の日中関係史Ⅱ	日清戦争、日露戦争、台湾の殖民地支配	参考書とプリント資料を読んでください
8	近代の日中関係史Ⅲ	辛亥革命と日中関係	参考書とプリント資料を読んでください
9	現代の日中関係史Ⅰ	満州事変	参考書とプリント資料を読んでください
10	現代の日中関係史Ⅱ	日中戦争	参考書とプリント資料を読んでください
11	現代の日中関係史Ⅲ	中華人民共和国の成立と日中関係	参考書とプリント資料を読んでください
12	現代の日中関係史Ⅳ	日中の国交回復	参考書とプリント資料を読んでください
13	現代の日中関係Ⅴ	靖国参拝からみた日中関係	参考書とプリント資料を読んでください
14	現代の日中関係Ⅵ	日中の経済関係	参考書とプリント資料を読んでください
15	現代の日中関係Ⅶ	日中関係の総括	参考書とプリント資料を読んでください

関連科目：講義中に指示する。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリント配布		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

定期試験は実施しない。
授業期間中複数回行うチェックテストおよび授業に取り組む姿勢等により総合評価する。
チェックテストの平均点が６割を超えていること；出席回数が 10 回を超えていることを最低条件とします。
チェックテスト 80%　平常評価（授業への取り組み方、出欠状況等）20%

学生へのメッセージ

新聞を読むこと。特に日中関係に関わる記事には注目して欲しい。
授業中の私語は他の受講生の迷惑となるので慎んで欲しい。
チェックテストの平均点が６割を越えないもの、出席率が２/３を越えないものは、如何なる理由があれ単位は認定できない。履修の際はよく考慮して履修してください。特に卒業年次生は気を付けて履修しましょう。
事前・事後に各 60 分の学修を要する。

担当者の研究室等：７号館２階講師控室

備考：

科目名	日中観光文化と通訳法	科目名（英文）	Japan-China Tourism and Interpretation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	段　飛虹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	日本の地理と文化を中国語で表現するの語彙や文法の知識とともに，観光文化に関する情報を通訳する技術を学ぶ。さらにそれを発表する活動を通してプレゼンのスキルを身につける。
到達目標	日本の自然文化、観光地，テーマパークなどで中国語を使った簡単な観光ガイドができることを目指す。
授業方法と留意点	日本の観光文化の基本知識を翻訳し、プレゼンの練習によって、通訳の能力をアップする
科目学習の効果（資格）	通訳案内士 中国語検定２級
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	日本の自然・気候・風土	日本の面積、人口、地形的な特徴、気候の特徴 生徒がよく知っている資料に基づいて、中国語で表現する、翻訳しながら問題点を見つかる	資料を調査しておく。翻訳練習を終わって、?プレゼンの練習を行う。 。
2	日本の自然・気候・風土	なぜ日本地震と温泉が多い 生徒がよく知っている資料に基づいて、中国語で表現する、翻訳しながら問題点を見つかる	資料を調査しておく。翻訳練習を終わって、?プレゼンの練習を行う。
3	日本の自然・気候・風土	日本での桜と桜の名所 生徒がよく知っている資料に基づいて、中国語で表現する、翻訳しながら問題点を見つかる	資料を調査しておく。翻訳練習を終わって、?プレゼンの練習を行う。
4	観光名所	金閣寺と清水寺 生徒がよく知っている資料に基づいて、中国語で表現する、翻訳しながら問題点を見つかる	資料を調査しておく。翻訳練習を終わって、?プレゼンの練習を行う。
5	観光名所	銀座と渋谷 生徒がよく知っている資料に基づいて、中国語で表現する、翻訳しながら問題点を見つかる	資料を調査しておく。翻訳練習を終わって、?プレゼンの練習を行う。 。
6	観光名所	北海道と箱根 生徒がよく知っている資料に基づいて、中国語で表現する、翻訳しながら問題点を見つかる	資料を調査しておく。翻訳練習を終わって、?プレゼンの練習を行う。
7	観光名所	有名な城と人気なテーマパーク 生徒がよく知っている資料に基づいて、中国語で表現する、翻訳しながら問題点を見つかる	資料を調査しておく。翻訳練習を終わって、?プレゼンの練習を行う。
8	日本文化	日本の国旗と国歌 生徒がよく知っている資料に基づいて、中国語で表現する、翻訳しながら問題点を見つかる	資料を調査しておく。翻訳練習を終わって、?プレゼンの練習を行う。
9	日本文化	寺と神社どんな時に行く 生徒がよく知っている資料に基づいて、中国語で表現する、翻訳しながら問題点を見つかる	資料を調査しておく。翻訳練習を終わって、?プレゼンの練習を行う。 。
10	日本文化	日本庭園の特徴 生徒がよく知っている資料に基づいて、中国語で表現する、翻訳しながら問題点を見つかる	資料を調査しておく。翻訳練習を終わって、?プレゼンの練習を行う。
11	日本文化	日本の芸者 生徒がよく知っている資料に基づいて、中国語で表現する、翻訳しながら問題点を見つかる	資料を調査しておく。翻訳練習を終わって、?プレゼンの練習を行う。 。
12	日本文化	日本のお正月 生徒がよく知っている資料に基づいて、中国語で表現する、翻訳しながら問題点を見つかる	資料を調査しておく。翻訳練習を終わって、?プレゼンの練習を行う。
13	日本文化	日本で神の使者カラス 生徒がよく知っている資料に基づいて、中国語で表現する、翻訳しながら問題点を見つかる	資料を調査しておく。翻訳練習を終わって、?プレゼンの練習を行う。 。
14	日本文化	日本人なぜお風呂が好き 生徒がよく知っている資料に基づいて、中国語で表現する、翻訳しながら問題点を見つかる	資料を調査しておく。翻訳練習を終わって、?プレゼンの練習を行う。
15	日本文化	日本人はどんな時に着物を着る 生徒がよく知っている資料に基づいて、中国語で表現する、翻訳しながら問題点を見つかる	資料を調査しておく。翻訳練習を終わって、?プレゼンの練習を行う。

関連科目	中国語主言語または共通言語２年生対象科目を修了していること。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語で日本のことを話してみる	秦燕・芳沢ひろ子	中経出版社
2			
3			

評価方法（基準）	筆記試験は行わず，口頭発表の内容（70%）やそれへの貢献（30%）を評価の材料とする。
学生へのメッセージ	参加型，発信型の授業です。したがって，授業への取り組みや貢献度をもとに成績評価を行います。
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	日中翻訳法Ⅱa	科目名（英文）	Academic Writing in Chinese IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	孫　輝
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	中級レベルの中国語作文を中心に文章技術のレベルアップを図ることが目的である。本講義では中国語表現の基本文型や関連語句を覚え、翻訳方法を学習する。実用的な文章が書けることを最終目標とする。
到達目標	中国語中級作文に欠かせない文法・文型・語彙を覚え、中文日訳・日文中訳の実力を高める。
授業方法と留意点	この科目が必修科目であることに注意が必要である。選択科目「総合中国語 a」「総合中国語 b」が中国語検定試験２級受験のための総合的内容であるのに対して，この科目は日文中訳に的を絞った内容である。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験３～２受験可能

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第一課　大学生の週末１	短文の日訳中 中文の聞き取り 基本文型、関連語句	短文の熟読 関連語句や文型の復習
2	第一課　大学生の週末２	基本文型と関連語句を使った練習。 例文の中訳日。 練習問題日訳中。 基本文型を使った文作り。	短文の暗記。 練習問題を解答してくる。
3	第二課　北京の交通事情１	短文の日訳中 中文の聞き取り 基本文型、関連語句	短文の熟読 関連語句や文型の復習
4	第二課　北京の交通事情２	基本文型と関連語句を使った練習。 例文の中訳日。 練習問題日訳中。 基本文型を使った文作り。	短文の暗記。 練習問題を解答してくる。
5	第一、二課復習・練習	短文の日訳中 中文の聞き取り 基本文型、関連語句	短文の熟読 関連語句や文型の復習
6	第三課　中国人の主食１	基本文型と関連語句を使った練習。 例文の中訳日。 練習問題日訳中。 基本文型を使った文作り。	短文の暗記。 練習問題を解答してくる。
7	第三課　中国人の主食２	短文の日訳中 中文の聞き取り 基本文型、関連語句	短文の熟読 関連語句や文型の復習
8	第四課　数字についての好み１	基本文型と関連語句を使った練習。 例文の中訳日。 練習問題日訳中。 基本文型を使った文作り。	短文の暗記。 練習問題を解答してくる。
9	第四課　数字についての好み２	短文の日訳中 中文の聞き取り 基本文型、関連語句	短文の熟読 関連語句や文型の復習
10	第三、四課復習・練習	基本文型と関連語句を使った練習。 例文の中訳日。 練習問題日訳中。 基本文型を使った文作り。	短文の暗記。 練習問題を解答してくる。
11	第五課　大学生のアルバイト　事情１	短文の日訳中 中文の聞き取り 基本文型、関連語句	短文の熟読 関連語句や文型の復習
12	第五課　大学生のアルバイト　事情２	基本文型と関連語句を使った練習。 例文の中訳日。 練習問題日訳中。 基本文型を使った文作り。	短文の暗記。 練習問題を解答してくる。
13	第六課　集団生活のメリット１	短文の日訳中 中文の聞き取り 基本文型、関連語句	短文の熟読 関連語句や文型の復習
14	第六課　集団生活のメリット２	基本文型と関連語句を使った練習。 例文の中訳日。 練習問題日訳中。 基本文型を使った文作り。	短文の暗記。 練習問題を解答してくる。
15	総復習	前期内容の復習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目：３年次の中国語科目：「総合中国語」「中国語コミュニケーション」「中国語原書講読Ⅰ」「中国語会話表現法Ⅰ」「ビジネス中国語Ⅲ」「中国語トピックス」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	知っておきたい中国事情	吉田泰謙／相原里美	白水社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生への メッセージ	翻訳、作文の実力を高めるために、中国語表現の基本文型を正確に理解することが大事です。事前・事後に各 60 分の学修を要する.。
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	日中翻訳法Ⅱb	科目名（英文）	Academic Writing in Chinese IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	孫　輝
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	前期と同様、中級レベルの中国語作文を中心に文章技術のレベルアップを図ることが目的である。本講義では中国語表現の基本文型や関連語句を覚え、翻訳方法を学習する。実用的な文章が書けることを最終目標とする。
到達目標	中国語中級作文に欠かせない文法・文型・語彙を覚え、中文日訳・日文中訳の実力を高める。
授業方法と留意点	この科目が必修科目であることに注意が必要である。選択科目「総合中国語 a」「総合中国語 b」が中国語検定試験２級受験のための総合的内容であるのに対して，この科目は日文中訳に的を絞った内容である。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験２級受験可能

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第七課　北京での買い物１	短文の日訳中 中文の聞き取り 基本文型、関連語句	短文の熟読 関連語句や文型の復習
2	第七課　北京での買い物２	基本文型と関連語句を使った練習。 例文の中訳日。 練習問題日訳中。 基本文型を使った文作り。	短文の暗記。 練習問題を解答してくる。
3	第八課　贈り物で気を付けること１	短文の日訳中 中文の聞き取り 基本文型、関連語句	短文の熟読 関連語句や文型の復習
4	第八課　贈り物で気を付けること２	基本文型と関連語句を使った練習。 例文の中訳日。 練習問題日訳中。 基本文型を使った文作り。	短文の暗記。 練習問題を解答してくる。
5	第七、八課の復習・練習	短文の日訳中 中文の聞き取り 基本文型、関連語句	短文の熟読 関連語句や文型の復習
6	第九課　中国式結婚１	基本文型と関連語句を使った練習。 例文の中訳日。 練習問題日訳中。 基本文型を使った文作り。	短文の暗記。 練習問題を解答してくる。
7	第九課　中国式結婚２	短文の日訳中 中文の聞き取り 基本文型、関連語句	短文の熟読 関連語句や文型の復習
8	第十課　共働き家庭１	基本文型と関連語句を使った練習。 例文の中訳日。 練習問題日訳中。 基本文型を使った文作り。	短文の暗記。 練習問題を解答してくる。 ユニット５　内容の予習
9	第十課　共働き家庭２	短文の日訳中 中文の聞き取り 基本文型、関連語句	短文の熟読 関連語句や文型の復習
10	第九、十課の復習・練習	基本文型と関連語句を使った練習。 例文の中訳日。 練習問題日訳中。 基本文型を使った文作り。	短文の暗記。 練習問題を解答してくる。
11	第十一課　中国人の呼称１	短文の日訳中 中文の聞き取り 基本文型、関連語句	短文の熟読 関連語句や文型の復習
12	第十一課　中国人の呼称２	基本文型と関連語句を使った練習。 例文の中訳日。 練習問題日訳中。 基本文型を使った文作り。	短文の暗記。 練習問題を解答してくる。
13	第十二課　大学生が憧れる職業１	短文の日訳中 中文の聞き取り 基本文型、関連語句	短文の熟読 関連語句や文型の復習
14	第十二課　大学生が憧れる職業２	基本文型と関連語句を使った練習。 例文の中訳日。 練習問題日訳中。 基本文型を使った文作り。	短文の暗記。 練習問題を解答してくる。
15	総復習	後期内容の総復習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目

３年次の中国語科目：「総合中国語」「中国語コミュニケーション」「中国語原書講読Ⅰ」「中国語会話表現法Ⅰ」「ビジネス中国語Ⅲ」「中国語トピックス」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	知っておきたい中国事情	吉田泰謙／相原里美	白水社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生への メッセージ	翻訳、作文の実力を高めるために、中国語表現の基礎文型を正確に理解することが大事です。事前・事後に各 60 分の学修を要する.。
担当者の 研究室等	７号館２階(非常勤講師室)
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	日本語音韻論	科目名（英文）	Japanese Phonology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本　正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2△		

授業概要・目的	全部で四科目開設している日本語学関係の授業では日本語の体系を考える。 「日本語音韻論（日本語学Ⅱ)」では日本語の音韻について学ぶ。 音韻というのは、日本語の「音」に関すること。発音やアクセントなどについて、具体的に考える。 外国語を学ぶ上でも重要な、日本語の音について正しく理解する。
到達目標	日本語の発音やアクセントの特徴について、正確な知識をもとに説明することができる。
授業方法と留意点	板書と配布するプリントに基づいて講義する。講義後、コメントや課題を求める。 授業中には、はっきりと声に出して発音をすること。
科目学習の効果（資格）	日本語に対する理解を深める。日本語を相対的に観察し、外国語と比較する視点が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方 日本語の「音」について、考えてみる	――――
2	言語体系の諸単位 調音器官	言語の要素について 調音器官について知る	日本語の音について各自考えておく
3	母音	母音をどのように発音しているか考える	日本語の音韻史について復習しておく
4	子音１	子音をどのように発音しているか考える	母音の調音を整理しておく
5	子音２	子音をどのように発音しているか考える	授業で取り上げた子音の発音を確認しておく
6	清音・濁音	清音・濁音をどのように発音しているか考える	授業で取り上げた子音の発音を確認しておく
7	前半のまとめ 《確認小テスト》	ここまでのまとめ 子音の発音の復習問題	子音・母音の調音について復習しておく
8	撥音・促音・長音 日本語の発音の諸問題	撥音・促音・長音について 日本語の発音の諸問題を取り上げる	拍の表を作成しておく
9	拍、音節 五十音図	日本語の拍と音節について考える 日本語の拍の一覧表を作成する	撥音・促音・長音について復習しておく
10	日本語のリズム	日本語が持つリズムの特徴について考える	拍の表に追加をしておく
11	アクセント１	高低アクセントと強弱アクセント アクセントの東西比較	日本語のリズムについての課題を作成しておく
12	アクセント２	アクセントの高低配分	関西と関東のアクセントの違いをまとめておく
13	アクセント３	活用語のアクセント イントネーションとアクセント	アクセントの法則をまとめておく
14	音の交替	母音交替・連濁	アクセントとイントネーションについて復習しておく
15	《最終確認テスト》 まとめ	復習テストを行う	これまでの復習

関連科目	音声学 2015 年～入学生　日本語史概論、日本語語彙論、日本語文法論 ～2014 年入学生　日本語学Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	確認小テストと最終確認テスト（７５％)、講義時の課題等（２５％)。 単位認定には最終確認テストの受験を条件とする。
学生へのメッセージ	日頃何気なく発している日本語は、どのようにして発音されているのか。 実際に発音しながら、発音やアクセントについて考えてみましょう。
担当者の研究室等	７号館４階（橋本研究室）
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間。

科目名	日本語学Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Linguistics Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本　正俊
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	全部で四教科開設している日本語学関係の授業では日本語の体系を考える。 「日本語史概説」では日本語の諸問題について歴史的に学ぶ。 日本語の歴史を知ることは、現在の日本語を考察することにつながる。日本語は、文献が残されている時代からでも、発音も文字も文法も、ずいぶんと変化している。どう変化したのか、なぜ変化したのか、という視点で、古代を中心に各時代の日本語の変化を考察する。
到達目標	日本語の文字、語彙、言葉遣いなどの特徴について、歴史的背景をもとに正確に説明することができる。
授業方法と留意点	配布するプリントに沿って講義する。講義の後、コメントを求めたり、課題を出したりする。
科目学習の効果（資格）	日本語の歴史の理解を通して、言葉に対する関心、理解が深まる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業の進め方、概説 日本の時代区分	――――
2	山・やま・ヤマはどう違う？	漢字・ひらがな・カタカナの歴史１ 漢字の受容	時代区分を覚える
3	山・やま・ヤマはどう違う？	漢字・ひらがな・カタカナの歴史２ ひらがなの成立	万葉仮名について整理する
4	山・やま・ヤマはどう違う？	漢字・ひらがな・カタカナの歴史３ カタカナの成立	ひらがなの成立について整理する
5	山・やま・ヤマはどう違う？	漢字・ひらがな・カタカナの歴史４ 様々な文体 縦書き横書き混用の背景	カタカナの成立について整理する
6	《確認小テスト》 行列と行進	音読みについて学ぶ	文体についてまとめる
7	生きる・生まれる・生える	訓読みについて学ぶ	音読みについて整理する
8	たかが方言　されど方言	標準語と方言１ 標準語の成立	訓読みについて整理する
9	たかが方言　されど方言	標準語と方言２ 方言の分布・文法	標準語についてまとめる
10	たかが方言　されど方言	標準語と方言３ 方言の拡大と現代語	方言の分布について整理する
11	わたしだ・わしじゃ・わたくしですわ	様々な言葉遣いについて	方言の特徴を調べる
12	《確認小テスト》 「はひふへほ」と「ぱぴぷぺぽ」	発音の変化１ 古代の発音	言葉遣いについて考察する
13	「はひふへほ」と「ぱぴぷぺぽ」	発音の変化２ 変化の様子	古代の発音を整理する
14	恋・愛・恋愛	翻訳語について考える	発音の変化を整理する
15	《最終確認テスト》 まとめ	これまでの復習テストを行う	これまでの復習

関連科目	日本語音韻論（日本語学Ⅱ）、日本語語彙論（日本語学Ⅲ）、日本語文法論（日本語学Ⅳ）、ことばに関する授業すべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	確認小テスト・確認テスト（７５％）と講義時の課題（２５％）から総合的に評価する。 最終週の《最終確認テスト》の受験を条件とする。
学生へのメッセージ	日本語の歴史を知ることで、現代の日本語の新たな一面が見えてくるはずです。
担当者の研究室等	７号館４階（橋本研究室）
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間。

科目名	日本語学Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Linguistics II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本　正俊
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	全部で四科目開設している日本語学関係の授業では日本語の体系を考える。 「日本語音韻論（日本語学Ⅱ)」では日本語の音韻について学ぶ。 音韻というのは、日本語の「音」に関すること。発音やアクセントなどについて、具体的に考える。 外国語を学ぶ上でも重要な、日本語の音について正しく理解する。
到達目標	日本語の発音やアクセントの特徴について、正確な知識をもとに説明することができる。
授業方法と留意点	板書と配布するプリントに基づいて講義する。講義後、コメントや課題を求める。 授業中には、はっきりと声に出して発音をすること。
科目学習の効果（資格）	日本語に対する理解を深める。日本語を相対的に観察し、外国語と比較する視点が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方 日本語の「音」について、考えてみる	――――
2	言語体系の諸単位 調音器官	言語の要素について 調音器官について知る	日本語の音について各自考えておく
3	母音	母音をどのように発音しているか考える	日本語の音韻史について復習しておく
4	子音１	子音をどのように発音しているか考える	母音の調音を整理しておく
5	子音２	子音をどのように発音しているか考える	授業で取り上げた子音の発音を確認しておく
6	清音・濁音	清音・濁音をどのように発音しているか考える	授業で取り上げた子音の発音を確認しておく
7	前半のまとめ 《確認小テスト》	ここまでのまとめ 子音の発音の復習問題	子音・母音の調音について復習しておく
8	撥音・促音・長音 日本語の発音の諸問題	撥音・促音・長音について 日本語の発音の諸問題を取り上げる	拍の表を作成しておく
9	拍、音節 五十音図	日本語の拍と音節について考える 日本語の拍の一覧表を作成する	撥音・促音・長音について復習しておく
10	日本語のリズム	日本語が持つリズムの特徴について考える	拍の表に追加をしておく
11	アクセント１	高低アクセントと強弱アクセント アクセントの東西比較	日本語のリズムについての課題を作成しておく
12	アクセント２	アクセントの高低配分	関西と関東のアクセントの違いをまとめておく
13	アクセント３	活用語のアクセント イントネーションとアクセント	アクセントの法則をまとめておく
14	音の交替	母音交替・連濁	アクセントとイントネーションについて復習しておく
15	《最終確認テスト》 まとめ	復習テストを行う	これまでの復習

関連科目	音声学 2015 年～入学生　日本語史概論、日本語語彙論、日本語文法論 ～2014 年入学生　日本語学Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	確認小テストと最終確認テスト（７５％)、講義時の課題等（２５％)。 単位認定には最終確認テストの受験を条件とする。
学生へのメッセージ	日頃何気なく発している日本語は、どのようにして発音されているのか。 実際に発音しながら、発音やアクセントについて考えてみましょう。
担当者の研究室等	７号館４階（橋本研究室）
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間。

科目名	日本語学Ⅲ	科目名（英文）	Japanese Linguistics III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小川　豊生
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	一連の日本語学関連の科目のうち、ここではとくに日本語の語彙の成り立ちを中心に、その他、語法や文章表現なども含めて、幅広く日本語についての知識や運用力を高めることを目標とする。
到達目標	・語彙を中心とした日本語にかかわる基礎的知識を身につける。 ・頻出する語彙の正確な理解、語彙の成りたちに関する知識、その文章への応用などについての実力を養成する。 ・就職試験や社会活動に利する、実践的な語彙力を養う。 ・検定試験に臨むための基本的力を養成する。 ・日本語教師を目指す人にとっても役立つよう心掛ける。
授業方法と留意点	プリント・講義ノートに基づいてすすめる。就職試験や日本語検定試験にも対応できる力を養成することを目指して、講義以外に、多くの練習問題を実施していく。その訓練に耐えられるよう、心がけてほしい。
科目学習の効果（資格）	日本語検定試験を積極的に受験することを薦めます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	語彙と文法・単語の性質①	語彙と文法とが文の中でどうかかわり合っていくかについて考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
2	語彙と文法・単語の性質②	単語のもつ性質について様々な角度から考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
3	単語の種類①	単語のもつ意味や機能について分析する。	配布した練習問題の回答とまとめ
4	単語の種類②	単語のもつ意味や機能について分析する。	配布した練習問題の回答とまとめ
5	語構成①	単純語・合成語・複合語・造語法について考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
6	語構成②	単純語・合成語・複合語・造語法について考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
7	語彙の体系	類義語・対義語・語根について考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
8	日本的語彙①	日本的語彙の特質について考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
9	日本的語彙②	日本的語彙の特質について考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
10	意味の変化	時代とともに変化する語彙の歴史について考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
11	比喩	比喩的意味の種々相について考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
12	慣用句	慣用句の成り立ちについて分析する。	配布した練習問題の回答とまとめ
13	文体的特徴	文体とは何か、日本文の構造から分析を加える。	配布した練習問題の回答とまとめ
14	表記	送り仮名・仮名遣いなどの日本語表記について分析する。	配布した練習問題の回答とまとめ
15	総合評価授業	授業全体のまとめをおこない、総合問題を解く。	総まとめ

関連科目	国際教養論（言語）・日本語学Ⅰ～Ⅲ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	総合評価授業での総合問題 60%、練習問題・レポート等 40%で評価する。
学生へのメッセージ	ここで学んだことを実際に使ってみることを心がけてください。またそれが可能となる講義を目指します。
担当者の研究室等	7 号館４階（小川研究室）
備考	事前・事後の学習は、それぞれ２時間ずつ、総時間 60 時間を目安とする。

科目名	日本語学Ⅳ	科目名（英文）	Japanese Linguistics Ⅳ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小川　豊生
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	一連の日本語学関連の科目のうち、ここではとくに日本語の文法を中心に、その他文章表現技術や語彙力なども含めて、幅広く日本語についての知識や運用力を高めることを目的とする。 日本語力に自信がもてない大きな理由の一つには、「文法」に対する苦手意識があるものと思われる。語法や表現を正しく運用する基本に文法的知識は不可欠であり、逆に文法に強くなることによって日本語運用能力を一段と高めることができる。ここでは、長いあいだの「苦手意識」を払しょくし、これまでにない表現意欲を獲得することを目標に、わかりやすい講義と訓練をこころがけたいと思う。
到達目標	・日本語の文法を中心とした基礎的知識を身につける。 ・就職試験や検定試験に臨むための基本的力を養成する。 ・日本語教師を目指す人にも役立つことを目指す。
授業方法と留意点	プリント・講義ノートに基づいてすすめます。就職試験や日本語検定試験にも対応できる力を養成することを目指して、講義以外に、多くの練習問題を実施していきます。その訓練に耐えられるよう、心がけてください。
科目学習の効果（資格）	日本語検定試験を積極的に受験することを薦めます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	文法とは何か	文法を学ぶことの意義について、具体的な事例を挙げて解説する。	配布した練習問題の回答とまとめ
2	文法の歴史	文法はどのようにして見出されたのか、その歴史を解説する。	配布した練習問題の回答とまとめ
3	品詞とは何か	品詞についての実践的知識を得る。	配布した練習問題の回答とまとめ
4	活用とは何か	活用についての知識を確認し、活用語の正しい運用を身につける。	配布した練習問題の回答とまとめ
5	体言の種類と特質	体言についての知識を確認し、その正しい運用を身につける。	配布した練習問題の回答とまとめ
6	日本語と主語	「は」と「が」の違いや、日本語の主語の特質について総合的に解説する。	配布した練習問題の回答とまとめ
7	用言の特質と運用	動詞・形容詞・助動詞など、用言の特質とその運用について習得する。	配布した練習問題の回答とまとめ
8	助詞について	助詞の種類と特質、その運用について習得する。	配布した練習問題の回答とまとめ
9	自動詞と他動詞	自動詞と他動詞の違いについて明確に把握する。	配布した練習問題の回答とまとめ
10	陳述（呼応）について	陳述の種類と特質について習得する。	配布した練習問題の回答とまとめ
11	敬語の運用１	敬語の種類と特質、その運用について習得する。	配布した練習問題の回答とまとめ
12	敬語の運用２	敬語の種類と特質、その運用について習得する。	配布した練習問題の回答とまとめ
13	「ら」ぬき言葉と「さ」入れ言葉	「ら」ぬき言葉と「さ」入れ言葉について認識する。	配布した練習問題の回答とまとめ
14	送り仮名・仮名遣いについて	送り仮名・仮名遣いなどの日本語表記について習得する。	配布した練習問題の回答とまとめ
15	総合評価授業	授業全体のまとめをおこない、総合問題を解く。	総まとめ

関連科目	日本語語彙論をはじめとする一連の日本語学関連の講義。および、日本語教育に関連する科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	総合評価授業での総合問題、および練習問題・レポート等を総合して評価する。テスト 70%、その他 30%。
学生へのメッセージ	ここで学んだことを実際に使ってみることを心がけてください。またそれが可能となる講義を目指します。
担当者の研究室等	7 号館４階（小川研究室）
備考	事前・事後の学習は、それぞれ２時間ずつ、総時間 60 時間を目安とする。

科目名	日本語教育実習演習	科目名（英文）	Japanese Teaching Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	3	履修区分	選択科目
学期	通年	授業担当者	門脇　薫.藤原　京佳
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	外国人日本語学習者に実際に日本語を教えるために、具体的な日本語教授法について講義と実習を行います。初級・中級・上級の各コースにおいて、目的や対象などによって指導案及び教材を作成する方法を学び、教育実習期間には本学の外国人留学生を対象に受講者全員が日本語の授業を試みます。
到達目標	＊日本語授業を行うための教案および教材作成ができる。 ＊外国人留学生を対象にした教育実習で日本語の指導ができる。
授業方法と留意点	授業では、講義に加えディスカッション、テキスト・教材分析、教案・教材作成等の作業、授業観察、模擬授業など、日本語を教えるために、より実践的に授業を行います。この科目を受講するには、必要単位数を取得しておかなければならないので、受講前に各自確認しておいてください。
科目学習の効果（資格）	本学の日本語教師養成課程の修了証

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	外国人学習者の学習段階（初級・中級・上級レベル）について、実習運営について	配布資料　熟読
2	日本語教師の役割	日本語教師に求められるもの	日本語教育関連資料収集
3	コースデザイン	コースデザインの方法、学習者別のコースデザイン	日本語教育関連資料収集
4	テキスト・教材分析①	初級のテキスト・教材分析	担当のテキスト分析
5	テキスト・教材分析②	中上級のテキスト・教材分析	レジュメ作成、発表準備
6	発表	各自レジュメに沿って発表	教科書　熟読
7	初級レベルの指導①	指導の実際、教案の書き方	教科書　熟読
8	初級レベルの指導②	指導の実際	教科書　熟読
9	初級レベルの指導③	指導の実際	教科書　熟読
10	初級レベルの指導④	日本語の授業観察	初級のテキスト分析、発表準備
11	初級レベルの指導⑤	日本語の授業観察	課題レポート作成
12	初級レベルの指導⑥	教室活動例、副教材、指導方法の考察	教材、教案作成
13	初級レベルの指導⑦	教室活動例、副教材、指導方法の考察	教材、教案作成、発表準備
14	模擬授業	グループ発表、ディスカッション	発表準備
15	模擬授業	グループ発表、ディスカッション	課題レポート作成
16	中級レベルの指導①	中級レベルの教室活動例・副教材・指導方法の考察	中級レベルの教材作成、発表準備
17	中級レベルの指導②	中級レベルの教室活動例・副教材・指導方法の考察	中級レベルの教材作成、発表準備
18	上級レベルの指導①	上級レベルの教室活動例・副教材・指導方法の考察	上級レベルの教材作成、発表準備、
19	上級レベルの指導②	上級レベルの教室活動例・副教材・指導方法の考察	上級レベルの教材作成、発表準備、
20	指導方法について発表	発表、ディスカッション	配布資料　熟読
21	日本語授業の実際（１）	授業観察	授業観察レポート作成
22	日本語授業の実際（２）	授業観察	授業観察レポート作成
23	日本語授業の実際（３）	授業観察	授業観察レポート作成
24	日本語授業の実際（４）	授業観察	授業観察レポート作成
25	実習準備（１）	日本語教育実習実施概要と留意点、	グループごとに課題
26	実習準備（２）	実習生及び外国人留学生とのグループディスカッション	グループごとに課題
27	教育実習（実習週）	教案作成、教材作成、授業準備、グループディスカッション、指導教員による個別指導	教案作成、教材作成、授業準備、グループディスカッション、
28	教育実習（実習週）	教案作成、教材作成、授業準備、グループディスカッション、指導教員による個別指導	教案作成、教材作成、授業準備、グループディスカッション、
29	実習の反省　自己評価	ディスカッション、発表	実習ノート作成、発表準備
30	作成教材発表、実習のまとめ	発表	実習ノート完成

関連科目	日本語教授法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、日本語学全般、英語科教育法、その他の「日本語教員養成課程」配当の科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	みんなの日本語初級Ⅰ　教え方の手引き		スリーエーネットワーク

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	はじめての日本語教育２		アスク

評価方法（基準）	授業におけるタスク達成度・討論・発表(30%)、作成した教案・教材や実習ノート(60%)、実習中の取り組み（10%）から総合的に評価します。
学生へのメッセージ	外国人留学生に実際に日本語を教えることは貴重な経験になります。 特に本学では、学内で教育実習ができる恵まれた環境で日本語教育について学べます。このチャンスを最大限生かして、多くのことを学んでください。(事前・事後学習 1.5 時間ずつ)
担当者の研究室等	7 号館 4 階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本語教授法Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Teaching Methodology Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇　薫
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2△		

授業概要・目的	「日本語教授法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の中で、本授業では、外国語教授法、教科書・教材論、コースデザイン、日本語の文字・語彙・文法とその指導方法など、外国語としての日本語教育について広く概観する。
到達目標	教科書の前半内容に関する知識を習得する。
授業方法と留意点	授業は、講義の他にグループディスカッション、DVD 視聴、課題、発表も含まれる。
科目学習の効果（資格）	「日本語教員養成課程」必修科目の一つ。「日本語教授法Ⅱ・Ⅲ」の先行科目。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の概要・進め方・評価について・学習にあたっての留意事項	教科書第１章第１節
2	日本語教育と外国語教育	日本語教育と国語教育、日本語教育と英語教育	教科書第１章第２節
3	日本語教育の歴史	時代区分別の日本語教育史	教科書第２章第１節
4	外国語教授法（１）	外国語教授法の理論と実践	DVD を視聴し、授業観察、教授法理論のレポート作成
5	外国語教授法（２）	外国語教授法の理論と実践	DVD を視聴し、授業観察、教授法理論のレポート作成
6	外国語教授法（３）	外国語教授法の理論と実践	教授法理論のレポート作成、教科書第２章第２節
7	コースデザイン	コースデザイン、シラバスデザイン、ニーズアナリシス、評価	教科書及びその他資料による課題
8	日本語教育の目標	レベル別目標、日本語能力試験の目標	教科書及びその他資料の課題
9	教材・教具（１）	日本語教育の教科書	課題（教科書分析）
10	教材・教具（２）	日本語教育の教材・教具	課題（教材分析）、教科書第３章第１節
11	日本語学の基礎知識：文法	日本語教育のための日本語文法とその指導方法	教科書第３章第２節
12	日本語学の基礎知識：語彙	日本語の語彙の特徴、語彙の指導方法	教科書第３章第３節
13	日本語学の基礎知識：文字	文字の種類と指導方法	教科書第３章第４節
14	外国人学習者の日本語	外国人学習者との接触場面における学習者の日本語観察	教科書及びその他資料の課題
15	総復習・確認テスト	教科書の内容についての理解度確認	総復習

関連科目：日本語教授法Ⅱ・Ⅲ、日本語学全般、日本語教育実習、その他の「日本語教員養成課程（副専攻相当）」配当の選択科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日本語教育法概論	東海大学留学生教育センター編	東海大学出版会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	テスト（60%）、課題及びレポート（30%）、授業への参加度(10%）により総合的に評価する。
学生へのメッセージ	外国人を対象に外国語として日本語を教える面白さを皆で共有したいと思います。(事前・事後学習 1.5 時間ずつ)
担当者の研究室等	7 号館 4 階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本語教授法Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Teaching Methodology II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	後藤　多恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2△		

授業概要・目的	日本語を教える上で基礎となる「視点」と「分析力」を身に付けることを目的としている。 授業前半では、講義とディスカッションを通して日本語学習者への理解を深め、非母語話者が使う日本語を客観的に捉える訓練を行う。そして授業後半では、日本語の初級段階の学習項目を取り上げ、基礎知識を増やしつつ主体的に分析できるような講義・活動を行う。
到達目標	＊日本語学習者の視点で、客観的に日本語を捉えられるようになる。 ＊非母語話者が使う多様な日本語に慣れ、それらに柔軟に対応できるようになる。 ＊日本語の基礎文法の知識と分析力を身に付ける。 ＊他者との対話を通して思考を深め、自分なりの答えを見出すことができるようになる。
授業方法と留意点	本授業は講義のほか、議論や発表など学生主体の活動もある。学生はそれらの活動を通して、思考を深めたり自分の考えを表現したりすることが求められる。授業への積極的な参加を期待する。
科目学習の効果（資格）	日本語教員養成副専攻必須科目の一つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方を説明する。 日本語教育への関心について話す。	シラバスを読んでおく。 自分の日本語教育への関心について他の人に話せるように考えておく。
2	「ことばを教える」ということ 非母語話者にとっての日本語	「ことばを教える」とはどういうことか、ディスカッションを通して考える。 非母語話者にとって日本語はどのような言語かについて理解を深める。	授業内容について、自分の考えをまとめておく
3	「日本語学習者」を知る 「わかりやすい日本語」とは	「日本語学習者」への理解を深める。 「わかりやすい日本語」とは何か、講義とディスカッションを通して考える。	「わかりやすい日本語」について課題を通して振り返る。
4	日本語学習者の日本語１	特に発音に注目する。	自分の日本語の音声について予習する。
5	日本語学習者の日本語２	特に語彙に注目する。	日本語の語彙の品詞分類とその機能について予習する。
6	日本語学習者の日本語３	特に文構造に注目する。	日本語の文構造について予習する。
7	日本語学習者の日本語４	特に文体・談話に注目する。	日本語の文体について予習する。 第１～７回の授業を振り返り、自分の学んだことをレポートにまとめる。
8	「日本語ができるようになる」とは 日本語教育における学習項目	中間レポート提出 日本語の初級・中級の教科書をもとに、学習項目とその配列の関係について考える。	日本語の初級教科書をよく読んで復習する。
9	日本語の基礎文法１	名詞に関係すること	「日本語の基礎文法１」の発表者はその準備をする。 復習プリントをする。
10	日本語の基礎文法２	形容詞に関係すること	「日本語の基礎文法２」の発表者はその準備をする。 復習プリントをする。
11	日本語の基礎文法３	動詞に関係すること	「日本語の基礎文法３」の発表者はその準備をする。 復習プリントをする。
12	日本語の基礎文法４	他者との関わりに関係すること	「日本語の基礎文法４」の発表者はその準備をする。 復習プリントをする。
13	日本語の基礎文法５	視点に関係すること	「日本語の基礎文法５」の発表者はその準備をする。 復習プリントをする。
14	日本語の基礎文法６	待遇に関係すること	「日本語の基礎文法６」の発表者はその準備をする。 復習プリントをする。
15	総括・確認	自分の学びを振り返る。 学習事項の確認として試験を行う。	この授業を通して学んだことについて振り返る。 復習プリントを中心にこれまでの学習した内容を復習する。

関連科目：日本語教授法Ⅰ&Ⅱ、日本語学、日本語教育実習等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日本語教育法概論	東海大学留学生教育センター	東海大学出版会
2	新装版 基礎日本語文法教本　英語版	西口光一	アルク
3	みんなの日本語Ⅰ・Ⅱ　翻訳・文法解説書	スリーエーネットワーク	スリーエーネットワーク

評価方法（基準）	授業への参加態度、課題達成度、中間レポート、期末試験などを総合的に評価する。 参加態度１０％、課題提出２０％、発表２０％　中間レポート２０％、期末試験３０％
学生へのメッセージ	この授業では、日本語を母語としない人の様々な日本語を紹介します。多様な言語・文化背景をもった人の日本語に触れ、今までとは違った視点から日本語をとらえられるようになってほしいと思います。また、この授業を通して、人と対話することの楽しさを味わってもらいたいと思いま

	す。
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	質問・相談は授業前または授業後に対応する。メールでも可。 授業の内容に関する課題は必ず行うこと。

科目名	日本語教授法Ⅲ	科目名（英文）	Japanese Teaching Methodology III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	宮﨑　玲子
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2△		

授業概要・目的	日本語を教えるときに必要となる基礎的知識・技能を身につける。
到達目標	日本語教員資格取得のための基礎的な知識を得ることができる。
授業方法と留意点	授業は、講義の他にグループディスカッション、課題、発表も含まれる。事前に教科書を読んでくることが求められる。
科目学習の効果（資格）	日本語教員資格取得のための実力養成

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	オリエンテーション	第３章第４節「音声」を読む。
2	第３章第４節「音声」	日本語の音声の指導、学習について考える。	授業内容を復習する。 教科書の第４章第１節を読む。
3	第４章第１節「読むことに焦点を当てた指導の理論と実践」1	「読む」ことの指導方法について考える。	授業内容を復習する。
4	第４章第１節「読むことに焦点を当てた指導の理論と実践」2	「読む」ことの指導方法について考える。	授業内容を復習する。 教科書の第４章第２節を読む。
5	第４章第２節「聞くことに焦点を当てた指導の理論と実践」1	「聞く」ことの指導方法について考える。	授業内容を復習する。
6	第４章第２節「聞くことに焦点を当てた指導の理論と実践」2	「聞く」ことの指導方法について考える。	授業内容を復習する。 教科書の第４章第３節を読む。
7	第４章第３節「話すことに焦点を当てた指導の理論と実践」1	「話す」ことの指導方法について考える。	授業内容を復習する。
8	第４章第３節「話すことに焦点を当てた指導の理論と実践」2	「話す」ことの指導方法について考える。	授業内容を復習する。 教科書の第４章第４節を読む。
9	第４章第４節「書くことに焦点を当てた指導の理論と実践」1	「書く」ことの指導方法について考える。	授業内容を復習する。
10	第４章第４節「書くことに焦点を当てた指導の理論と実践」2	「書く」ことの指導方法について考える。	授業内容を復習する。 教科書の第４章第５節を読む。
11	第４章第５節「日本事情に焦点を当てた指導の理論と実践」	「日本事情」の指導方法について考える。	授業内容を復習する。 教科書の第５章第１節を読む。
12	第５章第１節「学習者の異文化体験」	異文化コミュニケーションについて考える。	授業内容を復習する。 教科書の第５章第２節を読む。
13	第５章第２節「留学生が経験する現実の接触場面」	現実の接触場面で必要な能力について考える。	授業内容を復習する。 教科書の第５章第３節を読む。
14	第５章第３節「日本語学習者の情意要因」	学習動機などの学習者の情意面について考える。	授業内容を復習する。
15	期末試験	筆記試験の実施	教科書・プリントを復習しておくこと。

関連科目	日本語教授法Ⅰ、日本語教授法Ⅱ、日本語学、日本語教育実習、その他の選択科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日本語教育法概論	東海大学留学生教育センター	東海大学出版会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末試験６０％、課題２０％、授業への参加態度２０％
学生へのメッセージ	前期に学んだ日本語教育や日本語に関する知識をもとに、自分自身の外国語学習経験も振り返りながら、外国人にとって分かりやすく楽しい日本語の教え方について共に考えましょう。また、今後日本語教育に関わるにあたり、大切なことは何か考えましょう。
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	

科目名	日本語語彙論	科目名（英文）	Japanese Lexicology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小川　豊生
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2△		

授業概要・目的	一連の日本語学関連の科目のうち、ここではとくに日本語の語彙の成り立ちを中心に、その他、語法や文章表現なども含めて、幅広く日本語についての知識や運用力を高めることを目標とする。
到達目標	・語彙を中心とした日本語にかかわる基礎的知識を身につける。 ・頻出する語彙の正確な理解、語彙の成りたちに関する知識、その文章への応用などについての実力を養成する。 ・就職試験や社会活動に利する、実践的な語彙力を養う。 ・検定試験に臨むための基本的力を養成する。 ・日本語教師を目指す人にとっても役立つよう心掛ける。
授業方法と留意点	プリント・講義ノートに基づいてすすめる。就職試験や日本語検定試験にも対応できる力を養成することを目指して、講義以外に、多くの練習問題を実施していく。その訓練に耐えられるよう、心がけてほしい。
科目学習の効果（資格）	日本語検定試験を積極的に受験することを薦めます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	語彙と文法・単語の性質①	語彙と文法とが文の中でどうかかわり合っていくかについて考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
2	語彙と文法・単語の性質②	単語のもつ性質について様々な角度から考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
3	単語の種類①	単語のもつ意味や機能について分析する。	配布した練習問題の回答とまとめ
4	単語の種類②	単語のもつ意味や機能について分析する。	配布した練習問題の回答とまとめ
5	語構成①	単純語・合成語・複合語・造語法について考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
6	語構成②	単純語・合成語・複合語・造語法について考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
7	語彙の体系	類義語・対義語・語根について考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
8	日本的語彙①	日本的語彙の特質について考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
9	日本的語彙②	日本的語彙の特質について考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
10	意味の変化	時代とともに変化する語彙の歴史について考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
11	比喩	比喩的意味の種々相について考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
12	慣用句	慣用句の成り立ちについて分析する。	配布した練習問題の回答とまとめ
13	文体的特徴	文体とは何か、日本文の構造から分析を加える。	配布した練習問題の回答とまとめ
14	表記	送り仮名・仮名遣いなどの日本語表記について分析する。	配布した練習問題の回答とまとめ
15	総合評価授業	授業全体のまとめをおこない、総合問題を解く。	総まとめ

関連科目	国際教養論（言語）・日本語学Ⅰ～Ⅲ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	総合評価授業での総合問題 60%、練習問題・レポート等 40%で評価する。
学生へのメッセージ	ここで学んだことを実際に使ってみることを心がけてください。またそれが可能となる講義を目指します。
担当者の研究室等	7 号館４階（小川研究室）
備考	事前・事後の学習は、それぞれ２時間ずつ、総時間 60 時間を目安とする。

科目名	日本語史概説	科目名（英文）	History of Japanese Language
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本　正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2△		

授業概要・目的	全部で四教科開設している日本語学関係の授業では日本語の体系を考える。 「日本語史概説」では日本語の諸問題について歴史的に学ぶ。 日本語の歴史を知ることは、現在の日本語を考察することにつながる。日本語は、文献が残されている時代からでも、発音も文字も文法も、ずいぶんと変化している。どう変化したのか、なぜ変化したのか、という視点で、古代を中心に各時代の日本語の変化を考察する。
到達目標	日本語の文字、語彙、言葉遣いなどの特徴について、歴史的背景をもとに正確に説明することができる。
授業方法と留意点	配布するプリントに沿って講義する。講義の後、コメントを求めたり、課題を出したりする。
科目学習の効果（資格）	日本語の歴史の理解を通して、言葉に対する関心、理解が深まる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業の進め方、概説 日本の時代区分	――――――
2	山・やま・ヤマはどう違う？	漢字・ひらがな・カタカナの歴史１ 漢字の受容	時代区分を覚える
3	山・やま・ヤマはどう違う？	漢字・ひらがな・カタカナの歴史２ ひらがなの成立	万葉仮名について整理する
4	山・やま・ヤマはどう違う？	漢字・ひらがな・カタカナの歴史３ カタカナの成立	ひらがなの成立について整理する
5	山・やま・ヤマはどう違う？	漢字・ひらがな・カタカナの歴史４ 様々な文体 縦書き横書き混用の背景	カタカナの成立について整理する
6	《確認小テスト》 行列と行進	音読みについて学ぶ	文体についてまとめる
7	生きる・生まれる・生える	訓読みについて学ぶ	音読みについて整理する
8	たかが方言　されど方言	標準語と方言１ 標準語の成立	訓読みについて整理する
9	たかが方言　されど方言	標準語と方言２ 方言の分布・文法	標準語についてまとめる
10	たかが方言　されど方言	標準語と方言３ 方言の拡大と現代語	方言の分布について整理する
11	わたしだ・わしじゃ・わたくしですわ	様々な言葉遣いについて	方言の特徴を調べる
12	《確認小テスト》 「はひふへほ」と「ぱぴぷぺぽ」	発音の変化１ 古代の発音	言葉遣いについて考察する
13	「はひふへほ」と「ぱぴぷぺぽ」	発音の変化２ 変化の様子	古代の発音を整理する
14	恋・愛・恋愛	翻訳語について考える	発音の変化を整理する
15	《最終確認テスト》 まとめ	これまでの復習テストを行う	これまでの復習

関連科目	日本語音韻論（日本語学Ⅱ）、日本語語彙論（日本語学Ⅲ）、日本語文法論（日本語学Ⅳ）、ことばに関する授業すべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	確認小テスト・確認テスト（７５％）と講義時の課題（２５％）から総合的に評価する。 最終週の《最終確認テスト》の受験を条件とする。
学生へのメッセージ	日本語の歴史を知ることで、現代の日本語の新たな一面が見えてくるはずです。
担当者の研究室等	７号館４階（橋本研究室）
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間。

科目名	日本語表現論	科目名（英文）	Japanese Phraseology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本　正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2△		

授業概要・目的

※2015 年以降入学生には、この科目は、外国語専門職プログラム対応科目です。
我々は日本語を用いて、何をどのように表現しているのだろうか、そして表現できるのだろうか。
この授業では、日本人が日本語を用いて、どのように表現してきたのか、そしてどのような表現が可能なのかを、様々な事例を通して考える。
それによって、言語に対する感覚を研ぎ澄まし、言葉にこだわる人間になることを目指す。

この授業は、レポートなどに必要な「正しい」日本語を書く技能を身につける授業ではありません。日本語と格闘する授業です。

到達目標

日本語表現の特徴について、具体的に説明できる。
日本語表現を客観的にとらえ、他の言語とも比較しつつ、多様な視点から考えることができる。

授業方法と留意点

皆さんの意見も聞きながら講義を進行します。
毎回、コメントや課題が出ます。
全部で３節からなります。各節の最後にまとめのテストをします。

科目学習の効果（資格）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	日本語はどのような言語か 多様な視点から考える	授業の内容を整理する
2	世界の中の日本語	日本語は特殊な言語なのか考える	授業の内容を整理する
3	1. 言葉にこだわる 1-1. 辞書の比較	複数の辞書を用いて、日常使用する言葉について考える	指示する課題に取り組む
4	1-2. 助詞にこだわる	助詞の使い方から日本語の特徴について考える	指示する課題に取り組む
5	1-3. 日本語のレトリック	様々なレトリックを学ぶ	指示する課題に取り組む
6	1-4. 日本語のオノマトペ	日本語におけるオノマトペの果たす役割を考える	指示する課題に取り組む
7	1-5. まとめ	第１節の内容をまとめる確認テスト	第１節の内容を整理する
8	2. 詩文の日本語 2-1. 和歌に見る語感	和歌を例に、日本語の表現法を知る	指示する課題に取り組む
9	2-2. 俳句に見る語感	俳句を例に、日本語の表現法を知る	指示する課題に取り組む
10	2-3. 様々な種類の文体	詩や法律など、多様な文体について考える	指示する課題に取り組む
11	2-4. まとめ	第２節の内容をまとめる確認テスト	第２節の内容を整理する
12	3. 日本語表現を見直す 3-1. 一人称と三人称	小説を例に、人称表現について考える	指示する課題に取り組む
13	3-2. 現在形と過去形	小説を例に、現在と過去の表現について考える	指示する課題に取り組む
14	3-3. 多様な表現方法	小説を例に、日本語表現の可能性・多様性について考える	指示する課題に取り組む
15	3-4. まとめ	第３節の内容をまとめる確認テスト	第３節の内容を整理する

関連科目

外国語専門職プログラム対応科目
日本語史概論、日本語音韻論、日本語語彙論、日本語文法論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

課題（８０％）　３回以上の提出を単位認定の条件とする。
まとめテスト（１０％）
授業参加度（コメントなど）（１０％）

学生へのメッセージ

言葉に敏感になろう

担当者の研究室等

７号館４階（橋本研究室）

備考

科目名	日本語文法論	科目名（英文）	Japanese Grammar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小川　豊生
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2△		

授業概要・目的

一連の日本語学関連の科目のうち、ここではとくに日本語の文法を中心に、その他文章表現技術や語彙力なども含めて、幅広く日本語についての知識や運用力を高めることを目的とする。
日本語力に自信がもてない大きな理由の一つには、「文法」に対する苦手意識があるものと思われる。語法や表現を正しく運用する基本に文法的知識は不可欠であり、逆に文法に強くなることによって日本語運用能力を一段と高めることができる。ここでは、長いあいだの「苦手意識」を払しょくし、これまでにない表現意欲を獲得することを目標に、わかりやすい講義と訓練をこころがけたいと思う。

到達目標

・日本語の文法を中心とした基礎的知識を身につける。
・就職試験や検定試験に臨むための基本的力を養成する。
・日本語教師を目指す人にも役立つことを目指す。

授業方法と留意点

プリント・講義ノートに基づいてすすめます。就職試験や日本語検定試験にも対応できる力を養成することを目指して、講義以外に、多くの練習問題を実施していきます。その訓練に耐えられるよう、心がけてください。

科目学習の効果（資格）

日本語検定試験を積極的に受験することを薦めます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	文法とは何か	文法を学ぶことの意義について、具体的な事例を挙げて解説する。	配布した練習問題の回答とまとめ
2	文法の歴史	文法はどのようにして見出されたのか、その歴史を解説する。	配布した練習問題の回答とまとめ
3	品詞とは何か	品詞についての実践的知識を得る。	配布した練習問題の回答とまとめ
4	活用とは何か	活用についての知識を確認し、活用語の正しい運用を身につける。	配布した練習問題の回答とまとめ
5	体言の種類と特質	体言についての知識を確認し、その正しい運用を身につける。	配布した練習問題の回答とまとめ
6	日本語と主語	「は」と「が」の違いや、日本語の主語の特質について総合的に解説する。	配布した練習問題の回答とまとめ
7	用言の特質と運用	動詞・形容詞・助動詞など、用言の特質とその運用について習得する。	配布した練習問題の回答とまとめ
8	助詞について	助詞の種類と特質、その運用について習得する。	配布した練習問題の回答とまとめ
9	自動詞と他動詞	自動詞と他動詞の違いについて明確に把握する。	配布した練習問題の回答とまとめ
10	陳述（呼応）について	陳述の種類と特質について習得する。	配布した練習問題の回答とまとめ
11	敬語の運用１	敬語の種類と特質、その運用について習得する。	配布した練習問題の回答とまとめ
12	敬語の運用２	敬語の種類と特質、その運用について習得する。	配布した練習問題の回答とまとめ
13	「ら」ぬき言葉と「さ」入れ言葉	「ら」ぬき言葉と「さ」入れ言葉について認識する。	配布した練習問題の回答とまとめ
14	送り仮名・仮名遣いについて	送り仮名・仮名遣いなどの日本語表記について習得する。	配布した練習問題の回答とまとめ
15	総合評価授業	授業全体のまとめをおこない、総合問題を解く。	総まとめ

関連科目

日本語語彙論をはじめとする一連の日本語学関連の講義。および、日本語教育に関連する科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

総合評価授業での総合問題、および練習問題・レポート等を総合して評価する。テスト 70%、その他 30%。

学生へのメッセージ

ここで学んだことを実際に使ってみることを心がけてください。またそれが可能となる講義を目指します。

担当者の研究室等

７号館４階（小川研究室）

備考

事前・事後の学習は、それぞれ２時間ずつ、総時間 60 時間を目安とする。

科目名	日本史学	科目名（英文）	Japanese History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	赤澤　春彦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	歴史学は人々の営為を様々な角度から検証する学問です。その中でも「時間」と「空間」という視点は歴史学の大きな特徴といえるでしょう。政治、経済、宗教、生活、文化など様々な要素が、「時間」の流れの中で、互いに関係を持ちながらどう変化してゆくのか。ここに歴史学のおもしろさがあります。本講義では日本の歴史を「流れ」にそって理解することを目的とします。
到達目標	日本の歴史にかかる基本的な知識を習得し、政治、経済、宗教、文化など多角的な要素を複合的に叙述できる能力を養えます。
授業方法と留意点	板書により講義を進めますが、プリント・スライドも用います。
科目学習の効果（資格）	今後の講義や演習で一つの事象を様々な視角から考察、叙述できるようになります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の進め方、評価方法などについて説明します。日本史の時代区分について考えます。	復習
2	古代国家の形成	ヤマト国家から律令国家形成までの歴史を学びます。	復習
3	摂関政治と貴族社会	平安時代の政治と社会について学びます。	復習
4	武士の登場と成長	中世以降の日本の歴史を考える上で鍵となる武士の登場、成長について学びます。	復習
5	鎌倉幕府	鎌倉幕府とは何か。成立にかかる歴史と特質について学びます。	復習
6	室町時代の政治と文化	室町時代の政治・文化の特質について学びます。	復習
7	戦国時代と天下統一	戦国時代から織豊期までの動向と統一政権誕生の歴史的意義を学びます。	復習
8	古代・中世の宗教	神祇・仏教・道教などを素材に宗教と政治・社会の関係について学びます。	復習
9	幕藩体制の成立	江戸時代の国家や地域社会の枠組みについて学びます。	復習
10	近世社会と民衆	江戸時代の民衆の生活や文化について学びます。	復習
11	近代国家への道	幕末から明治政府樹立までの歴史を学びます。	復習
12	近代の思想と文化	明治から昭和初期の文化や思想について学びます。	復習
13	戦争と国家	日清戦争、日露戦争、第一次大戦、第二次大戦が与えた影響について考えます。	復習
14	戦後から現代へ	敗戦と戦後の日本の歴史について学び、私たちの「今」について考えます。	復習
15	まとめ	論述試験を行います。	今までの講義ノートをまとめておくこと。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義最終日に行う論述試験（持ち込み可）、講義中に課す小レポートなどをもとに総合的に評価します。 論述試験を８０％、課題などを２０％とする。 詳しくは講義第１回目に説明します。
学生へのメッセージ	年号や用語を暗記する必要はまったくありません。「これとあれは実はつながっていたんだ」とか「この布石があったからこういう事件が起きたんだ」といった「つながり」の面白さを発見してください。
担当者の研究室等	７号館４階（赤澤研究室）
備考	事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とする。

科目名	日本と世界の出会い	科目名（英文）	Encounters between Japan and Foreign Cultures
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	村上　司樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この科目は国際教養プログラム対応科目であり、グローバル社会と日本のつながりを歴史的に考えることを目的とする。具体的には 16 世紀の、鉄砲伝来とキリスト教伝来に象徴されるヨーロッパとの出会いを検討する。日本と欧米、両文化のファーストコンタクトを学ぶことは、中国やイスラーム圏も含めたさらに広い世界の認識にもつながる。先行きの見えない現在だからこそ、グローバル化の原点にさかのぼって日本と世界の出会いを理解することが意味をもつ。
到達目標	学んだことを、結論・理由・具体例に分けて簡潔に説明できるようにする。
授業方法と留意点	暗記は必要ない。教科書も必要ない。こちらでプリントを用意し、参考書は各単元ごとに紹介する。また図や表を多く使って説明する。だから受講生の側でも、以下３点のことをしてほしい。①授業前には、プリントにあらかじめ目を通しておくこと。②授業後には、プリントを読み返すこと。③プリントを読む際は、線を引くなり印をつけるなり、必ず手を動かすこと。なぜなら授業は教員と受講生のキャッチボールであり、どちらか一方の努力だけでは内容理解につながらないからである。
科目学習の効果（資格）	世界との出会いを知ると同時に、日本についての理解も深まる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業のルール・方針・全体計画	必ず出席するよう予定を調整する。
2	それは 16 世紀に	日本が「世界」と出会ったのは 16 世紀	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
3	それは 16 世紀に	地球規模の東西交流が始まったのも 16 世紀	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
4	それは 16 世紀に	日本とヨーロッパは似ていた	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
5	それは 16 世紀に	接点は戦争と宗教	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
6	戦争と出会い	鉄砲伝来の交流史	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
7	戦争と出会い	「西洋は進んでいて東洋は遅れている」という思い込み	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
8	戦争と出会い	鉄砲に日本史を変えるほどの力はなかった	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
9	戦争と出会い	飛び道具を憎んだ西洋騎士、飛び道具を愛した日本武士	同上の課題に加えて小レポート。
10	戦争と出会い	鉄砲の起源は東洋	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
11	宗教と出会い	キリスト教伝来の交流史	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
12	宗教と出会い	ザビエルをアシストした日本人	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
13	宗教と出会い	西洋的教育機関に留学した最初の日本人	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
14	宗教と出会い	ザビエルを日本に運んだのは中国の船	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
15	宗教と出会い	布教は慈善事業やファッションとも結びついていた	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。

関連科目：世界の宗教

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ポイントは以下３点。　第１に暗記は必要ない。テストも論述１題で持ち込み可であり、この他にレポートとレスポンス・ペーパーで採点するから。第２に消極的姿勢でプラス評価になることはないが、積極的に受講してマイナス評価されることも絶対にない。例えば、出席点はない。しかし誤字や脱字のために減点、ということもない。つまり減点主義ではなく加点主義。また配点は、①テスト（40 点）、②レポート（30 点）、③レスポンスペーパー（30 点＋α）。第３に 60 点に達するなら、①②③すべてを提出する必要はない。その点では、各自のスタイルに合わせて受講してほしい。
学生へのメッセージ	日本と世界の出会いを歴史的に読み解いていくと、「すべては表裏一体」ということに気づきます。実は、このことは授業そのものにも当てはまります。テストにレポート、レスポンス・ペーパーと、3 つの論述課題がありますが、「やることが多い」とのみ考えるのは一面的。裏返せば「単位取得のチャンスが多い」とも言えるからです。またみなさんが「何かを分かっている」かどうかを判定するには、結局「それが何なのかを説明できる」かどうかを見る以外にありません。しかし、このように説明し、伝える力は、文系・理系に関係なく学問研究すべてに欠かせないだけでなく、大学卒業後の長い人生でも、あらゆる場面で必要とされる力です。テスト終了と同時に忘れてしまうような、「暗記科目としての歴史」を教えるつもりはありません。この授業で学ぶのは「具体的・論理的に考える歴史」であり、みなさんには、それを通して「単位以上のもの」を得てほしいと思います。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	コミュニケーションは基本的に毎回授業のレスポンス・ペーパーで行います。 緊急の場合は非常勤講師控室（7 号館 2 階）を訪ねてください。

科目名	日本の思想	科目名（英文）	Japanese Thought
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中村　翼
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本講義では、日本の思想の流れについて、「神」に対する意識を中心に考えていきます。 具体的には、自然界の様々なものに神をみいだしてきた日本列島の人々が、アジアとの交流の中で仏教と、ヨーロッパとの交流によってキリスト教とであうなかで、どのような思想をつくりあげていったのかを紹介していきます。
到達目標	同じ日本でも、時代が異なると、ものの考え方や社会の仕組みが全く違っていきます。現代とは異なる論理で動いている社会の考え方を理解しようとする試みは、外国語を学ぶこととはまた違った意味で、「異文化理解」の格好の訓練になるはずです。 その訓練を通じて、日本の思想を多面的にとらえる力を身につけることを目標とします。
授業方法と留意点	毎回、講師が準備したプリントを中心に講義を進めます。特定の教材は定めませんので、テキスト等を購入する必要はありません。 ただし、末木文美士『日本宗教史』（岩波新書、2006 年）を読めば、理解が深まるはずです。 また、毎時間後に「振り返りシート」を記入してもらい、次回の授業時にそれを添削して返却します。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業内容、授業の進め方、評価基準等について説明します。	次回の講義に関する配布資料を読んでおいてください。
2	古代の神々と古事記・日本書紀	素朴な神への信仰と、『古事記』の編纂の関係を考えてみます。	前回の授業で書いてもらった「振り返りシート」を返却するので、それを見直して復習に活用して下さい。
3	仏教の広がりと日本の神々	日本に伝来した仏教はどのようなものと考えられていたのか、考えていきます。	前回の授業で書いてもらった「振り返りシート」を返却するので、それを見直して復習に活用して下さい。
4	中世人の宇宙観・世界観と仏教	仏教が浸透した時代に、日本では「世界」がどのようなものと考えられていたのかを紹介します。	前回の授業で書いてもらった「振り返りシート」を返却するので、それを見直して復習に活用して下さい。
5	中世社会と仏教	中世社会において仏教が果たしていた役割について解説します。	前回の授業で書いてもらった「振り返りシート」を返却するので、それを見直して復習に活用して下さい。
6	中世仏教と法然の挑戦	「鎌倉新仏教」の代表者・法然の思想とは何であったか。法然の時代に定着していた仏教との対比のなかで考えていきます。	前回の授業で書いてもらった「振り返りシート」を返却するので、それを見直して復習に活用して下さい。
7	理解度確認テスト①	中間テストです。テストの結果は次回の授業で返却し、解説を行います。	振り返りシートを中心に、これまでの授業内容を復習しておいてください。
8	室町時代の社会と人々の生存	15 世紀後半から 16 世紀を飢饉・疫病の時代とみる近年の研究をふまえ、そのなかでの人々の生存への努力を紹介します。	次回の講義に関する配布資料を読んでおいてください。
9	戦国時代と宗教	戦国時代におけるサバイバルが人々の信仰におよぼした影響について、考えてみます。	前回の授業で書いてもらった「振り返りシート」を返却するので、それを見直して復習に活用して下さい。
10	キリスト教と「天下人」	ヨーロッパから伝来したキリスト教はなぜ、急速に広がったのか、そしてなぜ弾圧されたのかを考えていきます。	前回の授業で書いてもらった「振り返りシート」を返却するので、それを見直して復習に活用して下さい。
11	近世社会と儒教	戦国の世から、泰平の世へ。その時、武士に求められたものとは何か。このことを念頭に、近世社会の特質についても考えていきます。	前回の授業で書いてもらった「振り返りシート」を返却するので、それを見直して復習に活用して下さい。
12	近世の世俗倫理と宗教	生活の規範としての質素・倹約・親孝行から、体育会のルールまで、その根源を探ります。	前回の授業で書いてもらった「振り返りシート」を返却するので、それを見直して復習に活用して下さい。
13	神々の明治維新	明治新政権の神仏分離政策と、全国的に起こった熱狂的な廃仏運動から、思想史の転換点として明治維新をとらえ直します。	前回の授業で書いてもらった「振り返りシート」を返却するので、それを見直して復習に活用して下さい。
14	理解度確認テスト②	期末試験です。テストの結果は次回の授業で返却し、解説を行います。	振り返りシートを中心に、これまでの授業内容を復習しておいてください。
15	理解度確認テスト②の解説	理解度確認テストを返却し、解説を行います。	テスト問題を復習しておくようにして下さい。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日本宗教史（岩波新書）	末木文美士	岩波書店
2			
3			

評価方法　定期試験期間内の試験は行いませんが、講義の途中で２度の、「理解度確認テスト」を行います。

（基準）	このテスト（60%）と平常点（40%）で評価を決定しますが、出席が２／３に満たない場合は、成績をつけることができません。
学生への メッセージ	神・自然への認識を主題に、日本史の大きな流れがつかめるような講義を目指しています。 振り返りシートへのコメントなど、皆さんの積極的な参加を歓迎します。
担当者の 研究室等	７号館２階外国語学部非常勤講師室
備考	講師連絡先は、以下の通りです。 n.tubasa283@gmail.com メールの際には、タイトルを「要件（摂南大学・お名前)」として下さい。 また、授業開始45分前には非常勤講師室に来ております。

科目名	日本の歴史	科目名（英文）	Japanese History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	赤澤　春彦
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	歴史学は人々の営為を様々な角度から検証する学問です。その中でも「時間」と「空間」という視点は歴史学の大きな特徴といえるでしょう。政治、経済、宗教、生活、文化など様々な要素が、「時間」の流れの中で、互いに関係を持ちながらどう変化してゆくのか。ここに歴史学のおもしろさがあります。本講義では日本の歴史を「流れ」にそって理解することを目的とします。
到達目標	日本の歴史にかかる基本的な知識を習得し、政治、経済、宗教、文化など多角的な要素を複合的に叙述できる能力を養えます。
授業方法と留意点	板書により講義を進めますが、プリント・スライドも用います。
科目学習の効果（資格）	今後の講義や演習で一つの事象を様々な視角から考察、叙述できるようになります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の進め方、評価方法などについて説明します。日本史の時代区分について考えます。	復習
2	古代国家の形成	ヤマト国家から律令国家形成までの歴史を学びます。	復習
3	摂関政治と貴族社会	平安時代の政治と社会について学びます。	復習
4	武士の登場と成長	中世以降の日本の歴史を考える上で鍵となる武士の登場、成長について学びます。	復習
5	鎌倉幕府	鎌倉幕府とは何か。成立にかかる歴史と特質について学びます。	復習
6	室町時代の政治と文化	室町時代の政治・文化の特質について学びます。	復習
7	戦国時代と天下統一	戦国時代から織豊期までの動向と統一政権誕生の歴史的意義を学びます。	復習
8	古代・中世の宗教	神祇・仏教・道教などを素材に宗教と政治・社会の関係について学びます。	復習
9	幕藩体制の成立	江戸時代の国家や地域社会の枠組みについて学びます。	復習
10	近世社会と民衆	江戸時代の民衆の生活や文化について学びます。	復習
11	近代国家への道	幕末から明治政府樹立までの歴史を学びます。	復習
12	近代の思想と文化	明治から昭和初期の文化や思想について学びます。	復習
13	戦争と国家	日清戦争、日露戦争、第一次大戦、第二次大戦が与えた影響について考えます。	復習
14	戦後から現代へ	敗戦と戦後の日本の歴史について学び、私たちの「今」について考えます。	復習
15	まとめ	論述試験を行います。	今までの講義ノートをまとめておくこと。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義最終日に行う論述試験（持ち込み可）、講義中に課す小レポートなどをもとに総合的に評価します。 論述試験を８０％、課題などを２０％とする。 詳しくは講義第１回目に説明します。
学生へのメッセージ	年号や用語を暗記する必要はまったくありません。「これとあれは実はつながっていたんだ」とか「この布石があったからこういう事件が起きたんだ」といった「つながり」の面白さを発見してください。
担当者の研究室等	７号館４階（赤澤研究室）
備考	事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とする。

科目名	日本文学	科目名（英文）	Japanese Literature
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小川　豊生
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	古代から現代にいたる日本文学の流れを具体的にたどり、自らの属する社会・文化の特質についての理解を深めることを目的とする。同時に、近代以降の作品の読解を通じて、作品を読む力、批評する力、論理的に書く力など、基礎的なリテラシーの養成に力点をおきたい。また、世界の文学との比較を通じて、国際社会において日本文化の特質を自らの言葉で明快に表現する力を養成することも目的の一つである。
到達目標	・さまざまなテキストを読解し、その内容を論理的に把握する基本的な力を身につける。 ・古代から現代にいたる日本文学史の流れを説明する力を身につける。 ・日本文化についてその特質を自分なりに説明する力を養う。
授業方法と留意点	プリントにもとづく講義中心の授業。
科目学習の効果（資格）	各資格試験に臨むための前提となるリテラシーの基礎的養成。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	古代文学と神話の世界１	『古事記』の神話をもとに、古代の人々の想像力の特質を探求する。	・扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
2	古代文学と神話の世界２	引き続き『古事記』の神話世界を探求する。	・扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
3	平安文学とモノガタリ１	『竹取物語』や『源氏物語』をもとに、モノガタリとは何かについて考察する。	・扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
4	平安文学とモノガタリ２	引き続き、『竹取物語』や『源氏物語』をもとに、モノガタリとは何かについて考察する。	・扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
5	説話文学の世界	『今昔物語集』について解説する。	・扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
6	軍記物語の世界	『平家物語』について解説する。	・扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
7	中世の伝承文学１	御伽草子「鉢かずき姫」について解説する。	・扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
8	中世の伝承文学２	大阪に伝わる中世の伝承をとりあげ、信仰と文学との関わりについて考察する。	・扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
9	江戸小説の世界１	近松門左衛門の作品をとりあげ、大阪の文学について認識を深める。	・扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
10	江戸小説の世界２	江戸のユートピア小説とヨーロッパのそれとの比較考察	・扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
11	近代の文学１太宰治	太宰治の短編作品を読む。	・扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
12	近代の文学２宮沢賢治	宮沢賢治の短編作品を読む。	・扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
13	近代の文学３江戸川乱歩	江戸川乱歩の短編作品を読む。	・扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
14	現代の文学（吉本ばなな）	吉本ばなな の短編作品を読む。	・扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
15	総合確認テスト	授業内テストおよび解説	・ノート全体の整理と講義要点の総まとめ

関連科目	日本文化にかかわる諸科目。日本語教育にかかわる諸科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	中間テストと最終日に実施する総合確認テストを中心として、他に授業時に回収したコメント、課題レポートなどを加え、総合的に評価する。中間・総合テスト 70%、提出物 30%。
学生へのメッセージ	モノガタリや小説を読む楽しさを味わいつつ、日本語を適切に駆使する基本的な力を身に着けてほしいと思います。
担当者の研究室等	７号館４階（小川研究室）
備考	事前・事後の学習は、それぞれ２時間ずつ、総時間 60 時間を目安とする。

科目名	博物館概論	科目名（英文）	Introduction to Museology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	谷　直樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	ミュージアムは、日本では歴史博物館・美術館・文学館・記念館・動物園・水族館などの施設で、全国でおよそ 5700 館を数えることができます。かつて「博物館行き」という言葉は古くさいものの代名詞でしたが、今日、ミュージアム・博物館はその姿を大きく変えています。カラフルなシンボル展示、IT 技術を駆使した映像展示、実物大の家を再現した体感型展示、様々な参加型プログラムなど、おしゃれで楽しめる施設へと変化しつつあります。またミュージアムグッズも図録だけでなく、Tシャツ・ぬいぐるみ・菓子などオリジナル商品を豊富に揃えている館が少なくありません。ミュージアム・博物館とは何か、これからどう変化していくのかを、その歴史や現状を学びながら考えていきましょう。
到達目標	美術館・博物館の種類・機能・社会的な役割を理解し、学芸員に必要な基礎的な知識を修得します。
授業方法と留意点	パワーポイント・ビデオなどを随時使用して、臨場感にあふれたビジュアルな講義にします。また教室内だけではなく、実際に新しい魅力的なミュージアム・博物館を見学します。現地見学の交通費や入館料は受講者負担になります。
科目学習の効果（資格）	学芸員資格

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ミューアジアム・博物館とは何か	話題のミューアジアム・博物館紹介。記憶に残る展覧会。資格取得の条件・諸注意。	旅先などで博物館や美術館の見学をする習慣をつけてください。
2	日本のミューアジアム・博物館（1）	動物園ランキング（旭山動物園と天王寺動物園）、水族館ランキング（美ら海水族館と海遊館）	子どものころに行った動物園・水族館と、最近の動物園・水族館を比較してください。
3	日本のミューアジアム・博物館（2）	美術館（近代美術館と現代美術館）、自然史系博物館（琵琶湖博物館と大阪市立自然史博物館）、歴史系博物館（大阪歴史博物館と大阪くらしの今昔館）	美術館の特別展をのぞいてみてください。
4	日本のミューアジアム・博物館（3）	野外博物館（明治村、北海道開拓の村、四国村、おきなわ郷土村、まちぐるみ博物館）	町並み保存やまちおこしも野外博物館のヒントになります。
5	日本のミューアジアム・博物館（4）	企業ミュージアム（月桂冠大倉記念館、横浜ラーメン博物館、インスタントラーメン発明記念館、くすりのまち道修町資料館、大学博物館など）。実際の博物館を見学します。詳細は講義の中で指示します。	近くにある企業ミュージアムを訪ねてください。
6	「博物館法」を読む	博物館の定義と種類。博物館法、博物館法施行規則、公立博物館に関する法律。博物館の機能、展示資料による分類、設置者による分類、制度による分類	「博物館法」は事前事後によく読んでください。
7	ミューアジアム・博物館をつくる（1）	博物館構想の策定、資料の収集と保管、調査と研究、展示と学習	ミューアジアム・博物館に行ったら、展覧会を見るだけでなく、どんな仕事をしているのかよく観察してください。
8	ミューアジアム・博物館をつくる（2）	ミュージアム・博物館の設計、博物館の空間（エントランス、展示室、収蔵庫、学習室、ミュージアムショップ、レストラン、学芸員室、事務室、駐車場、動線計画、設備計画）。博物館のバックヤード見学は講義の中で指示します。	ミューアジアム・博物館に行ったら、どんな部屋があるのか、案内図を確認してください。
9	ミューアジアム・博物館の展示	常設展示の概要	ミューアジアム・博物館の展示（とくに常設展示）を時間かけて見学してください。
10	博物館の展示	企画展示とは何か	最近話題になった特別展示を紹介しあい、一度は見学してください。
11	ミューアジアム・博物館と生涯学習	こどもとミュージアム、高齢者とミュージアム、大学生とミュージアム、観光・まちづくりとミュージアム	地域社会におけるミューアジアムの役割を考えてください。
12	ミューアジアム・博物館の歴史	日本と世界のミューアジアム・博物館ランキング。	友達どうしで、これまでに見学した博物館の中で、面白かったミューアジアムや展覧会を紹介しよう。
13	現地見学	講義の中で指示	大阪で話題の博物館を見学する。3 コマ分なので欠席しないこと。日程は初回の講義で決めます。入館料は別途徴収。
14	現地見学	講義の中で指示	大阪で話題の博物館を見学する。3 コマ分なので欠席しないこと。日程は初回の講義で決めます。入館料は別途徴収。
15	現地見学	講義の中で指示	大阪で話題の博物館を見学する。3 コマ分なので欠席しないこと。日程は初回の講義で決めます。入館料は別途徴収。

関連科目：学芸員資格の必修科目とその他の関連科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			
評価方法 （基準）	定期試験（筆記）の成績(100%）で評価します。			
学生への メッセージ	ミューアジアム・博物館に行ったことがないという人がいますが、それは間違いです。歴史資料館や美術館に行ったことがなくても、動物園や水族館には行ったことがあるはずです。実は、動物園も水族館も博物館なのです。これからのミューアジアム・博物館は、知的な好奇心を満足させてくれる楽しいところを目指しています。このミューアジアム・博物館を企画・運営している専門職員が学芸員です。少しでもミューアジアムに興味があるなら、受講してください。学芸員資格を取るには、４年生で博物館実習を行う必要があります。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)			
備考	事前・事後に 1 時間の学修時間を要する。			

科目名	博物館教育論	科目名（英文）	Museum as Learning Resources
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松永　和浩
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	この授業では博物館において実施される教育活動について、様々な具体例を通じて体系的に学びます。それにより社会における博物館の意義・役割についての理解を深め、学芸員として、あるいは博物館と社会をつなぐサイエンス・インタープリターとして活動するために必要な知識を身につけることを目的としています。
到達目標	①学芸員として必要な博物館教育に関する基礎的知識を身につける。 ②博物館教育のプログラムの実践例について具体的に学ぶ。 ③実在の展示施設を素材として教育プログラムを企画する。
授業方法と留意点	まず、現代社会において博物館に期待される教育について概説します。次に、博物館で実際に行われている教育プログラムの具体例を紹介します。最後に、実在の展示施設を見学し、サイエンス・インタープリターの立場でその施設を素材にした教育プログラムを企画して発表し、相互に議論を深めます。様々な博物館が取り組んでいる教育プログラムについて、受講者は見学・参加・情報収集に努めてください。
科目学習の効果（資格）	学芸員資格認定のための必修科目となります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション―博物館から何を学んだか？―	これまでの博物館に対する認識・イメージを振り返り、現代の博物館に期待される役割について考えるきっかけとします。	これまで博物館を訪れた経験や抱いていたイメージを整理しておいてください。
2	博物館の使命	設置主体や社会から期待される博物館の使命について説明します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
3	常設展の意義と活用	博物館の基本となる常設展の意義とその活用方法について実例に基づき説明します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
4	特別展・企画展	博物館が開催する特別展・企画展の目的・運営・役割について実例に基づき説明します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
5	博物館と社会教育①―イベントを通じて―	博物館が開催するイベントにどのようなものがあるか実例に基づき紹介します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れるようにしてください。ワークシートなどを見つけたら集めるようにしておいてください。
6	博物館と社会教育②―収蔵資料を通じて―	博物館の基本となる資料の収集・保存・活用のあり方について実例に基づき紹介します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れるようにしてください。ワークシートなどを見つけたら集めるようにしておいてください。
7	大学博物館の教育	学生を抱える大学博物館ならではの教育活動について実例に基づき紹介します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
8	学芸員養成	大学・博物館が担う学芸員養成の概要と実例について紹介します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
9	サイエンス・インタープリターの役割	博物館と社会をつなぎ役として近年注目されているサイエンス・インタープリターの活動について、ゲストスピーカーを招いて紹介します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
10	社会教育の実践例	担当者が所属する大阪大学適塾記念センターが取り組む社会教育の実例について紹介します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
11	外部施設見学①	担当者が携わる適塾を見学し、現状と課題を探ります。	適塾の現状と課題と、これまで学習した各教育プログラムの特徴を整理してください。
12	外部施設見学②	担当者が携わる適塾を見学し、現状と課題を探ります。	適塾の現状と課題と、これまで学習した各教育プログラムの特徴を整理してください。
13	教育プログラムの企画①	適塾を素材とした教育プログラムを各自で企画します。	教育プログラムの企画のために、これまでの学習内容を復習してください。
14	教育プログラムの企画②	適塾を素材とした教育プログラムを各自で企画します。	教育プログラムの企画のために、これまでの学習内容を復習してください。
15	プレゼンと質疑応答	各自が企画した教育プログラムについて発表し、意見を交換します。	発表用の資料を作成してください。発表に対して出された意見を参考に、自身の企画を練り直してください。

関連科目：学芸員資格に必要な各科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）：プレゼン・質疑 60%、レポート 30%、提出物 10%

学生への：各博物館は近年、様々な教育プログラムに熱心に取り組んでいます。しかもそのプログラムには、マニュアルも正解もない場合がほとんどで、学

メッセージ	芸員をはじめとする博物館スタッフ、サイエンス・インタープリターやボランティアの方々の創意工夫と努力によって支えられています。受講者は教育プログラムについて積極的に参加・見学・情報収集し、現状を知るようにしてください。そして将来的には、何らかの形で博物館を支える一員となってもらえたら幸いです。
担当者の 研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	外部施設見学は大阪市内で、12 月中の土日いずれか 1 日、180 分間（2 コマ分）の予定で行います。

科目名	博物館実習	科目名（英文）	Museum Management Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	3	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	谷　直樹.赤澤　春彦.岩間　香
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	博物館は展示物（歴史・美術・文学ほか）、設置母体（公立・民間）、目的（教育が主・研究が主・保存が主など）により、まざまな種類のものがある。学芸員の仕事も館の性格により、多様で一概には規定できない。この授業では博物館・美術館の実際を知り、学芸員の仕事を理解するために、博物館を実地見学に出かける。また学内においては、博物館についての知識を深め、学芸員の作業の一部を体験する。
到達目標	博物館における作業の内容と意味を理解する。博物館において学芸員の仕事の一部を体験し理解する。
授業方法と留意点	本授業は(1)大学が課する実習、(2)実習館が課する館内実習の２種に分かれ、(1)はさらに①学内での前期の講義と作業、②学外での見学の２種に分かれる。（下記 15 回）また（２）の館内実習は、夏休みあるいは後期に行われる。いずれが欠けても単位取得は不可である。なお見学・実習には交通費や実費が必要である。
科目学習の効果（資格）	学芸員資格

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション（谷・岩間・赤澤）	年間スケジュールの確認 博物館実習の取り組み方実習館の配属	事前：出身地にある博物館を見ておく（90 分） 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる（90 分）
2	拓本１（谷・岩間）	拓本の道具を作り、小さなもので練習する	事前：拓本について調べておく（90 分） 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる（90 分）
3	拓本２（谷・岩間）	近隣の神社や野外の石碑で拓本をとる練習をする。	事前：拓本の道具を作っておく（90 分） 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる（90 分）
4	博物館の見学（岩間・谷・赤澤）	見学及びレクチャー	事前：見学する館について調べておく（90 分） 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる（90 分）
5	美術品の扱い方１（岩間）	掛け軸、陶磁器の扱い方、箱の納入の仕方を、実物を用いて学ぶ。	事前：掛け軸陶磁器の扱い方を調べておく（90 分） 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる（90 分）
6	美術品の扱い方２（岩間）	絵巻物、額縁の扱い方、箱の納入の仕方を、実物を用いて学ぶ。	事前：絵巻物などの扱い方を調べておく（90 分） 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる（90 分）
7	美術館の見学（岩間）	見学及びレクチャー	事前：見学館について調べておく（90 分） 事後：レポートをまとめる（90 分）
8	美術品の調査・整理（岩間）	美術品の計測、撮影、資料カードの作成を実物を用いて行なう。	事前：美術品の計測について調べておく（90 分） 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる（90 分）
9	歴史資料の調査・整理（谷）	調査の方法、資料カードの様々な様式、資料の整理法を学ぶ。	事前：歴史資料について調べておく（90 分） 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる（90 分）
10	写真撮影の方法（谷）	美術写真･建築写真･記録写真の方法を、実例を見ながら学ぶ。	事前：建築写真について調べておく（90 分） 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる（90 分）
11	博物館の見学（谷・岩間・赤澤）	見学及びレクチャー	事前：見学館について調べておく（90 分） 事後：レポートをまとめる（90 分）
12	博物館の教育･普及活動（谷）	各自でワークショップ、イベントの実例を収集し発表。パンフレット、ホームページの効果についても考える。	事前：博物かんお活動についてＷＥＢで調べておく（90 分） 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる（90 分）
13	展覧会の企画１（岩間）	各自が具体的にテーマと場所を決めて展覧会を企画する。	事前：展覧会のテーマについて調べておく（90 分） 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる（90 分）
14	展覧会の企画２（谷）	各自が具体的にテーマと場所を決めて展覧会を企画する。	事前：指摘された点を改善して企画書を作っておく（90 分） 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる（90 分）
15	プレゼンテーションと講評 博物館・館内実習の指導（岩間・谷・赤澤）	各自が企画した展覧会について発表し、講評を行なう。博物館ノートの配布と書き方の指導・諸注意	事前：レジメを作り発表の練習をしておく（90 分） 事後：指摘された点を改善してレポートを作る（90 分）

関連科目：学芸員資格の必修科目およびその他の関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	レポート（見学２回、展覧会企画）30% 実習博物館による評価 50% 受講への参加態度 20%
学生へのメッセージ	各地の博物館に赴いて行なう実習は３～８日間程度です。期間中は実習に集中し、摂南大学の学生として恥ずかしくない行動をとってください。
担当者の研究室等	岩間・・・７号館５階(岩間研究室) 谷　・・・７号館２階(非常勤講師室) 赤澤・・・７号館４階（赤澤研究室）
備考	

科目名	博物館情報・メディア論	科目名（英文）	Museum Media Management
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中川　馨
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	現代社会では様々なかたちで映像メディアと接しているが、写真の歴史と表現を学ぶことにより、映像メディア登場以後の社会環境の変化について考察する。また写真をはじめとする視覚情報によって、人間の視覚認識はどのように変化したのか、現代の膨大な映像メディアによる情報との向き合い方についても考える。
到達目標	映像メディアと社会の関係を理解する。 映像メディアによる情報との向き合い方を身につける。 博物館における映像メディアの役割を理解する。
授業方法と留意点	講義中はスライドを使用する。提示する図は必要に応じてノートに描きとどめてもらいたい。
科目学習の効果（資格）	学芸員資格

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ものを見る行為について	映像情報との関わりについて 博物館と映像メディアについて	視覚について本やＷＥＢで調べる
2	映像イメージの発見	光の像の投影について カメラオブスキュラの誕生	カメラオブスキュラについて本やＷＥＢで調べる
3	カメラオブスキュラの活用	カメラオブスキュラによる近世絵画表現の変化について	カメラオブスキュラについて本やＷＥＢで調べる
4	写真のはじまり	写真技術の誕生について	初期の写真技術について本やＷＥＢで調べる
5	肖像写真の時代	肖像写真の役割と社会への影響について	歴史上の人物の肖像写真について本やＷＥＢで調べる
6	初期の写真表現	写真黎明期の芸術写真表現について	19 世紀の写真表現について本やＷＥＢで調べる
7	都市の記録	写真による都市表象について	19 世紀の写真について本やＷＥＢで調べる
8	写真と絵画の交わり１	写真と西洋絵画における写実表現の関係 映像による視覚がどのように表現の変化をもたらしたかについて	近代絵画について本やＷＥＢで調べる
9	写真と絵画の交わり２	日本の近代絵画への写真の影響について 主に花鳥画における表現の考察	日本の近代絵画について本やＷＥＢで調べる
10	近代写真の確立	ストレートフォトグラフィを中心に近代写真表現について	ストレートフォトグラフィについて本やＷＥＢで調べる
11	時代の記録	報道写真について 報道写真の社会的な影響を考える	報道写真について本やＷＥＢで調べる
12	カラー写真の登場	カラー写真による表現の変化について	カラー写真について本やＷＥＢで調べる
13	現代写真表現１	アメリカの現代写真を中心に表現を考察	現代写真表現について本やＷＥＢで調べる
14	現代写真表現２	日本の現代写真を中心に表現を考察	現代写真表現について本やＷＥＢで調べる
15	まとめ	写真の歴史や表現から、２１世紀の写真メディアの在り方を考える 博物館における映像の役割を考える	写真について復習する

関連科目	博物館科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業参加度４０％、期末レポート６０％で評価する
学生へのメッセージ	板書を写すだけでなく、講義の内容をノートすること。
担当者の研究室等	７号館２階(非常勤講師室)　水曜１０時～１５時
備考	

科目名	博物館資料保存論	科目名（英文）	Preservation of Museum Collections
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	赤澤　春彦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	博物館にとって資料はなくてはならないものです。資料がなければ博物館は成り立たないと言っても過言ではありません。したがって資料の収集、管理、保存は学芸員にとって最も重要な仕事の１つとなります。また、一口に「資料」といっても例えば考古、歴史、民俗など様々な種類があります。
到達目標	資料の種類、取り扱い方、整理・管理・保存・修復の方法などの基礎的な知識と技能を習得できる。
授業方法と留意点	基本的に座学ですが、教室での講義だけでなく、基礎的な技術を身につけたり、博物館を見学することも予定しています。 学芸員資格を取得するための大事な講義です。したがって原則欠席は認めません。なお、初回の講義には必ず出席してください。
科目学習の効果（資格）	学芸員資格の取得（必修科目）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	資料とは何か、資料保存とは何か	講義の進め方、自己紹介、博物館に関する話などをします。 資料の定義、種類について解説し、資料保存の基本的な考えについて講義します。	復習
2	考古資料の保存（１）	埋蔵文化財、考古資料の保存方法について講義します。	復習
3	考古資料の保存（２）	遺物の接合実習をします。	復習
4	考古資料の保存（３）	遺物の接合の続きと実測をします。	復習。実測図を完成させ、次週までに提出する。
5	民俗資料の保存	民俗資料の保存の方法について講義します。	復習
6	石造物の保存（１）	石造物の保存方法について講義し、実測とスケッチをします。	復習
7	石造物の保存（２）	石造物の実測、スケッチの続きをします。	復習。実測図、スケッチを完成させ、次週までに提出する。
8	歴史資料の保存（１）	歴史資料の整理方法、保存方法について講義します。	復習
9	歴史資料の保存（２）	古文書修復の実習をします。	復習
10	歴史資料の保存（３）	和本の装丁の実習をします。	復習
11	燻蒸とＩＰＭ	虫損から資料を守る燻蒸とＩＰＭ（総合的有害生物管理）という２つの方法を比較検討します。	復習
12	資料保存の現実	博物館見学	３コマ分です。 日程は講義中に決めます。
13	資料保存の現実	博物館見学	３コマ分です。 日程は講義中に決めます。
14	資料保存の現実	博物館見学	３コマ分です。 日程は講義中に決めます。
15	まとめ	筆記試験を行います（持ち込み不可）	今までのノートをまとめておく。

関連科目	他の学芸員課程の講義。日本史学、日本美術史、日本文化史。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義最終日に行う筆記試験（持ち込み不可）、受講中に課すレポート、実技試験をもとに評価します。 筆記試験（70%）、レポートと実技試験（30%）とします。
学生へのメッセージ	学芸員を目指す方にとって必須の科目です。単に知識を得るだけでなく、私の経験をもとに資料保存の現実について一緒に考えたり、また保存に関わる基礎的な技能を身につけましょう。積極的な姿勢を望みます。
担当者の研究室等	７号館４階（赤澤研究室）
備考	事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とする。 課外学習の日程は天候などの用件によって変更する場合があります。

科目名	博物館資料論	科目名（英文）	Museum Collection Management
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩間　香
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	博物館資料は博物館になくてはならないものである。本講義では、博物館資料の種類や特質、及び、その収集・整理・保管の理論や方法を具体的に講義する。美術、歴史、民俗、考古など博物館の多様な資料について、基礎的な知識を身に着けることが目的である。この授業では博物館資料が専門的な知識やデータの裏付けにより収蔵され展示されていることを学ぶことになる。これらの知識は博物館における仕事に不可欠であるほか、日本の文化を学んだり、美術品を鑑賞する上でも大変に役に立つ。
到達目標	多様な博物館資料に関する基礎的な知識を身につける。それらの特性を知り、保存上の注意についての基礎的な知識を身につける。博物館・美術館で実物に接して、その種類や特性が分かるようになる。
授業方法と留意点	毎回レジメを配布して、スライドを用いながら講義を進める。博物館・美術館における臨地講義も実施する。
科目学習の効果（資格）	学芸員資格の取得（必修科目）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	博物館資料の種類	博物館資料にはどのような種類があるかを概説する。	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。(90 分) 事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90 分)
2	絵画資料について	油絵、日本画、水彩画、パステル画などの絵画資料の種類と特性を解説する。	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。(90 分) 事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90 分)
3	彫刻資料について	仏像、近代彫刻、インスタレーションなどの彫刻資料の素材、特性を解説する。	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。(90 分) 事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90 分)
4	工芸資料について	陶磁、漆芸、染織、金工、ガラスなどの工芸資料の種類と特性を解説する。	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。(90 分) 事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90 分)
5	民俗・民族資料について	民具、記録など民俗・民族資料のの種類と特性を解説する。	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。(90 分) 事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90 分)
6	歴史資料について	古文書、遺跡、遺物などの歴史資料を解説する。	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。(90 分) 事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90 分)
7	考古資料について	発掘品、遺跡などの考古資料について解説する。	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。(90 分) 事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90 分)
8	模型について	博物館における模型の種類と活用について解説する。	事前：ＷＥＢで博物館の模型の実例を調べる。(90 分) 事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90 分)
9	映像について	博物館における映像資料の種類と活用について解説する。	事前：ＷＥＢで博物館の映像資料の実例を調べる。(90 分) 事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90 分)
10	資料の収蔵	博物館のコレクションの成り立ちについて解説する。	事前：ＷＥＢで博物館の収蔵方法について調べる。(90 分) 事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90 分)
11	資料の分類・整理	博物館における資料の分類と整理の方法を解説する。	事前：ＷＥＢで博物館の資料の分類について調べる。(90 分) 事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90 分)
12	資料の活用	目録の作成、資料の貸出し、特別利用など多様な資料活用について解説する。	事前：ＷＥＢで博物館の資料活用について調べる。(90 分) 事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90 分)
13	資料の公開	出版やインターネットを介しての資料公開について解説する。	事前：ＷＥＢで博物館の資料公開について調べる。(90 分) 事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90 分)
14	博物館見学	博物館資料の展示・収蔵について実地に見学する。	事前:ＷＥＢで見学先の博物館について調べる。(90 分) 事後：レポートをまとめる。(90 分)
15	博物館見学	博物館資料の展示・収蔵について実地に見学する。	事前:ＷＥＢで見学先の博物館について調べる。(90 分) 事後：レポートをまとめる。(90 分)

関連科目	博物館科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小レポート３０％ 定期試験７０％

	受講態度を加味する。
学生への メッセージ	各地にさまざまな博物館があります。できるだけ多くの博物館に行き、実際に展示された資料を見てください。
担当者の 研究室等	7号館5階（岩間研究室）
備考	

科目名	パッケージプログラム演習	科目名（英文）	Package Program Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中島　直嗣.天野　貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP5△		

授業概要・目的	本演習は、各パッケージプログラムにおけるこれまでの学びを総括し、将来のキャリア形成につながる実践力を養うことを目的とします。また、本演習で設定されるテーマに沿った調査・分析を通して、パッケージプログラム科目で身につけてきた知識の体系化を目指します。 ※なお、この科目（クラス）は、「国際ビジネス」プログラム対応科目です。
到達目標	キャリア形成に関するビジョンを明確化・具体化するとともに、プレゼンテーションやレポート作成を通して、問題発見・解決能力、高度な情報受発信能力を身につけることを目標とします。
授業方法と留意点	・アクティブ・ラーニングの手法に基づいて、調査、分析、発表、議論などを自発的かつ協調的に行っていきます。 ・前半の第１～８回は、中島が担当し、調査・分析やレポートの作成を中心に行います。 ・後半の第９～１５回は、天野が担当し、プレゼンテーション（研究発表）を中心に行います。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 各自が設定したテーマに基づいて、調査や分析を行い、その研究成果をレポートにまとめるとともに、教室内での討論やプレゼンテーションで議論を深めていきます。 【事前学習課題】 研究テーマに関する調査、文献・資料の収集などを行います。 【事後学習課題】 プレゼンテーションやレポートのフィードバックを踏まえて、修正・改善策について考えてください。 ※なお、事前・事後学習の総時間数は３０時間程度を目安とします。
関連科目	海外インターンシップ、体験型特別実習Ｂ、卒業研究Ⅰ・Ⅱなど。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	（必要に応じて指示します）		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	（必要に応じて指示します）		
2			
3			

評価方法（基準）	レポート（４０％）， プレゼンテーション（４０％）， 授業への取り組み（２０％）を合わせて評価します。
学生へのメッセージ	パッケージプログラムの総仕上げです。主体的かつ積極的に取り組んでください。
担当者の研究室等	７号館４階　（中島研究室）、７号館３階　（天野研究室）
備考	レポートに関するフィードバックは第８回の授業時に、プレゼンテーションに関するフィードバックは発表後に、それぞれ行います。

科目名	パッケージプログラム演習	科目名（英文）	Package Program Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田中　悟.手代木　功基
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP5△		

授業概要・目的	本演習は、各パッケージプログラムでの学びを総括し、将来のキャリア形成につながる実践力を養うことを目的としている。各演習で設定されるテーマに沿った調査・分析を通して、パッケージプログラム科目で身につけてきた知識の体系化を目指す。 ※なお、この科目（クラス）は、「国際貢献」プログラム対応科目である。
到達目標	キャリア形成に関するビジョンを明確化・具体化するとともに、プレゼンテーションやレポート作成を通して、問題発見・解決能力、高度な情報受発信能力を身につける。
授業方法と留意点	演習のテーマおよび授業方法の詳細は各プログラムで設定される。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 教室内での調査、分析、発表（討論・プレゼン・レポート作成等）が中心となるが、校外実習が含まれる場合もある。 【事前、事後学習課題】 調査・プレゼンテーション・レポート作成等。各演習担当者の指示に従うこと。(総時間数 30h)
関連科目	海外実習、体験型特別実習 A、体験型特別実習 B など。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への取り組み（40%）、プレゼンテーションもしくはレポート（60 %）をもとに総合的に評価する。
学生へのメッセージ	パッケージプログラムの総仕上げです。主体的・積極的に取り組んでください。
担当者の研究室等	7 号館 4 階（田中悟研究室）
備考	プレゼンテーションに関するフィードバックは発表時に、レポートに関するフィードバックは第 15 回目の授業のなかで実施する。

科目名	パッケージプログラム演習	科目名（英文）	Package Program Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	住吉　誠.橋本　正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP5△		

授業概要・目的	本演習は、これまでのパッケージプログラムでの学びを総括し、将来のキャリア形成につながる実践力を養うことを目的としている。各演習で設定されるテーマに沿った調査・分析を通して、パッケージプログラム科目で身につけてきた知識の体系化を目指す。 ※この科目（クラス）は、「外国語専門職」プログラム対応科目である。
到達目標	キャリア形成に関するビジョンを明確化・具体化するとともに、プレゼンテーションやレポート作成を通して、問題発見・解決能力、高度な情報受発信能力を身につける。
授業方法と留意点	演習のテーマおよび授業方法の詳細は各プログラムで設定される。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 教室内での調査、分析、発表（討論・プレゼン・レポート作成等）が中心となるが、校外実習が含まれる場合もある。 【事前、事後学習課題】 調査・プレゼンテーション・レポート作成等。各演習担当者の指示に従うこと。(総時間数 30h)
関連科目	海外実習、体験型特別実習 A、体験型特別実習 B など。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への取り組み（40%）、プレゼンテーションもしくはレポート（60 %）をもとに総合的に評価する。
学生へのメッセージ	パッケージプログラムの総仕上げです。主体的・積極的に取り組んでください。
担当者の研究室等	７号館４階（住吉研究室）
備考	プレゼンテーションに関するフィードバックは発表時に、レポートに関するフィードバックは第 15 回目の授業のなかで実施する。

科目名	パッケージプログラム演習	科目名（英文）	Package Program Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	塩﨑　裕司.沖中　美喜
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP5△		

授業概要・目的	本演習は、各パッケージプログラムでの学びを総括し、将来のキャリア形成につながる実践力を養うことを目的としている。各演習で設定されるテーマに沿った調査・分析を通して、パッケージプログラム科目で身につけてきた知識の体系化を目指す。 ※なお、この科目は、「観光ホスピタリティ」プログラムの対応科目である。
到達目標	・キャリア形成に関するビジョンを明確化・具体化するとともに、プレゼンテーションやレポート作成を通して、問題発見・解決能力、高度な情報受発信能力を身につける。 ・課題のポイントをつかみ、分担する担当業務を果たす責任感、担当者間のチームワークや課題発表能力の向上を図ることで、企業説明会で主流となっているグループ面談で主導的役割を果たす力を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	・観光ホスピタリティ演習では、参加者を少人数のチームに分け、選ばれたテーマについて議論、報告資料作成を経て発表する。ひとつのテーマに３時間程度をかけて実施、１セメスターで４つ程度のテーマを選定する。 ・１つのテーマについて、１回目は持ち寄った資料について議論、発表の方向性を決める。２回目は発表資料の作成。３回目はチーム毎の発表。テーマごとに役割分担を代え、履修者各々が能力を伸ばせるようにする。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 観光ホスピタリティ演習ではこれまで学んできた観光、航空、旅行、宿泊産業等にかかわるテーマを選定し、演習参加者で議論して報告資料を作成し発表する。 前年度のテーマ選定例（下記から４つ選定、本年度は別途提示） ①航空は新幹線にどう対抗すべきか。北陸新幹線を例に考える。 ②関空・伊丹は運営権売却で将来どう変貌するか。 ③魅力ある旅行計画の作成。 ④民泊の是非、日本に民泊は根付くのだろうか。 ⑤国際航空貨物の将来性は。 ⑥ホテルの成功例、失敗例などを調査して、集客力のあるホテルにするための条件を考察する。 ⑦ホスピタリティーって何、ホスピタリテイーを考える。 【事前、事後学習課題】 調査・プレゼンテーション・レポート作成等。各演習担当者の指示に従うこと。 【事前、事後学習時間】 総時間数は 30h
関連科目	海外実習、体験型特別実習 A、体験型特別実習 B など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への取り組み(40%)、プレゼンテーション(60%)をもとに評価する。 特にグループ討論や作業が中心のため、授業参加意欲を重視する。 議論の積極性、チームのまとまりや発表能力等も考慮して評価する。
学生へのメッセージ	興味ある課題について、知りたいことや疑問点などを自分で調べて研究し、答えを見つけ出すのも大きな喜びです。 常に問題意識を持って新聞やテレビニュースなどに接してください。本演習でのグループディスカッションやプレゼンテーションなどは就職活動にも役立ちます。 パーケージプログラムの総仕上げとして、主体的、積極的に取組んでください。
担当者の研究室等	７号館４階（エアライン・ホスピタリティールーム）
備考	プレゼンテーションに関するフィード・バックは発表時に実施します。

科目名	パッケージプログラム演習	科目名（英文）	Package Program Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中西　正樹.岩間　香
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP5△		

授業概要・目的	本演習は、各パッケージプログラムでの学びを総括し、将来のキャリア形成につながる実践力を養うことを目的としている。各演習で設定されるテーマに沿った調査・分析を通して、パッケージプログラム科目で身につけてきた知識の体系化を目指す。 ※なお、この科目は、「メディアビジネス」プログラム対応科目である。
到達目標	キャリア形成に関するビジョンを明確化・具体化するとともに、プレゼンテーションやレポート作成を通して、問題発見・解決能力、高度な情報受発信能力を身につける。
授業方法と留意点	演習のテーマおよび授業方法の詳細は各プログラムで設定される。授業日時以外に校外実習を実施する場合，実習日を授業日に振り替えることがある。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 教室内での調査、分析、発表（討論・プレゼン・レポート作成等）が中心となるが、校外実習が含まれる場合もある。 【事前、事後学習課題】 調査・プレゼンテーション・レポート作成等。各演習担当者の指示に従うこと。(総時間数 30h)
関連科目	海外実習、体験型特別実習 A、体験型特別実習 B など。
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	授業への取り組み（40%）、プレゼンテーションもしくはレポート（60 %）をもとに総合的に評価する。
学生へのメッセージ	パッケージプログラムの総仕上げです。主体的・積極的に取り組んでください。
担当者の研究室等	７号館４階（中西研究室）
備考	プレゼンテーションに関するフィードバックは発表時に、レポートに関するフィードバックは第 15 回目の授業のなかで実施する。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	パッケージプログラム演習	科目名（英文）	Package Program Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	林田　敏子.赤澤　春彦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP5△		

授業概要・目的	本演習は、各パッケージプログラムでの学びを総括し、将来のキャリア形成につながる実践力を養うことを目的としている。各演習で設定されるテーマに沿った調査・分析を通して、パッケージプログラム科目で身につけてきた知識の体系化を目指す。 ※なお、この科目（クラス）は、「国際教養」プログラム対応科目である。
到達目標	キャリア形成に関するビジョンを明確化・具体化するとともに、プレゼンテーションやレポート作成を通して、問題発見・解決能力、高度な情報受発信能力を身につける。
授業方法と留意点	演習のテーマおよび授業方法の詳細は各プログラムで設定される。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 教室内での調査、分析、発表（討論・プレゼン・レポート作成等）が中心となるが、校外実習が含まれる場合もある。 【事前、事後学習課題】 調査・プレゼンテーション・レポート作成等。各演習担当者の指示に従うこと。(総時間数 30h)
関連科目	海外実習、体験型特別実習 A、体験型特別実習 B など。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への取り組み（40%）、プレゼンテーションもしくはレポート（60 %）をもとに総合的に評価する。
学生へのメッセージ	パッケージプログラムの総仕上げです。主体的・積極的に取り組んでください。
担当者の研究室等	７号館４階（林田研究室）
備考	プレゼンテーションに関するフィードバックは発表時に、レポートに関するフィードバックは第 15 回目の授業のなかで実施する。

科目名	パブリック　スピーキングａ	科目名（英文）	Public Speaking a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ｼﾞｮﾝｽﾄﾝ
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	The course will focus on the necessary skills of public speaking in English . This will be achieved through use of materials and activities that hone skills of public oral presentation of ideas in a public English environment. Students will be expected to research various topics via print and electronic media and report the results in short presentations to fellow students using outlines and visual aids. Recitations will not be a part of this course. The activities are designed to reinforce and practice the specific skills introduced in the course.
到達目標	The students will be able to organize and present information in a clear and acceptable manner to an English speaking audience.
授業方法と留意点	In-class performance 50%, Spoken presentations 50%
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introductions	Course objectives, Outline construction, Self Introduction- Preparation / Discussion	Students should study the vocabulary and grammer for the lesson before they come to class.
2	Discourse Organization	Weekly News Summary. Outlines Construction / Definition	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
3	Research / Outlining	Weekly News Summary. Informative Speech- Hometown / Area	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
4	Evaluation	Presentation - Informative Speech Hometown / Area	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
5	Research / Outlining layout	An Institution- History & physical Focus- Body Organization	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
6	Research / Outlining	Outline Production / Practice	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
7	Evaluation	Presentation - Informative Speech Institution - History & physical layout	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
8	Research / Outlining	Weekly News Summary. Informative Speech- Biography- Contemporary Person Focus - Conclusions	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
9	Research / Outlining	Weekly News Summary.Outline Production / Practice	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
10	Research / Outlining	Weekly News Summary.Outline Production / Practice	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
11	Presentation / Evaluation	Informative Speech- Biography- Contemporary Person	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
12	Research / Outlining	Weekly News Summary. Informative Speech- Geography- World Cities Focus - Integration of Outline Components	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
13	Research / Outlining	Weekly News Summary.Outline Production / Practice	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
14	Research / Outlining	Weekly News Summary.Outline Production / Practice	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
15	Presentation / Evaluation	Informative Speech- Geography- World Cities	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.

関連科目　・・・

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	PASSPORT 2　ISBN 978-0-19-471822-6	Angela Buckingham, Lewis Lansford	Oxford University Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法　Grades will be based on student preparation, in-class performance and spoken presentations given during the course.

（基準）	In-class performance 50%, Spoken presentations 50%
学生への メッセージ	・・・
担当者の 研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	配布資料の読み込みなど、事前事後学習にかかる総時間数をおおよそ 15 時間程度とする。

専門科目

科目名	パブリック　スピーキング a	科目名（英文）	Public Speaking a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	２
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ｽﾃｨｰﾌﾞ ﾄﾏｼｪﾌｽｷｰ
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	In this course you will learn and practice the set of skills needed for speaking to an audience.
到達目標	The speaking part of the course will focus on pronunciation, intonation as well as effective posture, the use of gestures and eye-contact. The rhetorical and organizational part of the course will include learning how to research topics; how to include visual information; and extensive practice in writing and revising your presentation transcripts.
授業方法と留意点	Classwork will include taking lecture notes, preparing and revising speaking transcripts and delivering a series of fluent presentations.
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Course overview	Be on time for class. Be prepared to actively participate in all the course activities.
2	Organizing a presentation	Writing activities	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
3	Preparing speaking transcripts	Writing activities	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
4	Pronunciation and intonation	Speaking activities	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
5	Presentations	Memorized delivery	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
6	Researching a topic	Reading, writing and speaking preparation	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
7	Presentation preparation	Reading, research and writing with partners	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
8	Written presentation preparation	Reading, research and writing	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
9	Revising transcripts	Writing activities	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
10	Non-verbal communication	Presentation activities	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
11	Presentations	Outlined delivery	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
12	Using visuals	Principles of visual design	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
13	Presentation preparations	Reading, research and writing with partners	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
14	Presentation preparations	Interacting with partners and the audience	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
15	Pair presentations	Speaking and active listening	Finish up the work for the Spring term.

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Speaking of Speech (Latest Edition)	Harrington, LeBeau	Macmillian
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English to English Dictionary		Oxford, Cambridge or other reputable publisher.
2			
3			

評価方法（基準）	Grades for this class will be based on regular attendance, that includes active class participation, 50% written presentation transcripts, 10%; and oral presentations, 40%.
学生へのメッセージ	All the coursework will be done in English.?Attend class every week and be on time. Be sure that you come to class prepared to actively participate in all the course activities.
担当者の研究室等	７号館５F
備考	予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	パブリック　スピーキングｂ	科目名（英文）	Public Speaking b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ｼﾞｮﾝｽﾄﾝ
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	The course will focus on the necessary skills of public speaking in English . This will be achieved through use of materials and activities that hone skills of public oral presentation of ideas in a public English environment. Students will be expected to research various topics via print and electronic media and report the results in short presentations to fellow students using outlines and visual aids. Recitations will not be a part of this course. The activities are designed to reinforce and practice the specific skills introduced in the course.
到達目標	The students will be able to organize and present information in a clear and acceptable manner to an English speaking audience.
授業方法と留意点	In-class performance 50%, Spoken presentations 50%
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introductions	Course objectives, Outline construction,Self Introduction- Preparation / Discussion	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
2	Discourse Organization	Weekly News Summary. Review- Outlines - Construction / Definition	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
3	Research / Outlining	Weekly News Summary. Persuasive Speech- Comparison of 2 Electronic Products Focus- Topic Introductions / Visual Aids	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
4	Evaluation	Presentation - Persuasive Speech Comparison of 2 Electronic Products	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
5	Research / Outlining	Weekly News Summary. Ecology-Problems / Solutions Focus- Comparing Data	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
6	Research / Outlining	Weekly News Summary. Outline Production / Practice	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
7	Evaluation	Presentation - Persuasive Speech Ecology-Problems / Solutions	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
8	Research / Outlining	Weekly News Summary. Persuasive Speech- Biography- Historical Persons Focus - Compare /Contrast Accomplishments	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
9	Research / Outlining	Weekly News Summary.Outline Production / Practice	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
10	Research / Outlining	Weekly News Summary.Outline Production / Practice	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
11	Presentation / Evaluation	Persuasive Speech- Biography- Historical Persons Accomplishments	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
12	Research / Outlining	Weekly News Summary. Persuasive Speech- Topic - Product Comparison Focus - Providing Evidence	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
13	Research / Outlining	Weekly News Summary.Outline Production / Establishing Evidence	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
14	Research / Outlining	Weekly News Summary.Outline Production / Establishing Evidence	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
15	Presentation / Evaluation	Persuasive Speech - Product Comparison	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.

関連科目　・・・

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	PASSPORT 2　ISBN 978-0-19-471822-6	Angela Buckingham, Lewis Lansford	Oxford University Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	Grades will be based on student preparation, in-class performance and spoken presentations given during the course. In-class performance 50%, Spoken presentations 50%
学生への メッセージ	It is my hope that all of the students in this class will seriously work to improve their research, critical thinking and speaking skills in English.
担当者の 研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	配布資料の読み込みなど、事前事後学習にかかる総時間数をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	パブリック　スピーキングｂ	科目名（英文）	Public Speaking b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	２
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ｽﾃｨｰﾌﾞ ﾄﾏｼｪﾌｽｷｰ
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	This course gives you practice in the skills needed for speaking to an audience.
到達目標	The speaking part of the course focuses on pronunciation, intonation as well as effective posture, the use of gestures and eye-contact. The rhetorical and organizational part of the course is focused on learning how to research topics; how to include visual information; and extensive practice in writing and revising your presentation transcripts.
授業方法と留意点	Classwork will include taking lecture notes, preparing and revising speaking transcripts. Emphasis in this second semester of the course will be on delivering fluent presentations.
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Review and introduction of new semester	Overview and new topics	Be sure to attend the first class and to arrive on time.
2	Informative presentations	Writing activities	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
3	Researching the topic	Reading, writing and speaking preparation	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
4	Revising transcripts	Writing activities	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
5	Preparing visuals	Research and visual designing	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
6	Pronunciation and intonation	Speaking activities	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
7	Presentations	Speaking and active listening	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
8	Persuasive presentations	Writing activities	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
9	Researching the topic	Reading, writing and speaking preparation	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
10	Using supportive material	Research and visual designing	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
11	Intonation and inflection	Speaking activities	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
12	Including a personal point of view	Writing activities	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
13	Revising and preparing	Writing and speaking activities	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
14	Pair presentations	Speaking and active listening	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
15	Individual presentations	Speaking and active listening	Finish up your work for the Fall term.

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Speaking of Speech (Latest Edition)	Harrington, LeBeau	MacMillan Language House
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English to English Dictionary		Oxford, Cambridge or other reputable publisher.
2			
3			

評価方法（基準）	Grades for this class will be based on regular attendance, that includes active class participation, 50% written presentation transcripts, 10%; and oral presentations, 40%.
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館５F
備考	予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

専門科目

科目名	ビジネス　イングリッシュ a	科目名（英文）	Business English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	抽冬　紘和
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	一般的なビジネス英語、ビジネスシーンで行うスキルを学習します。 ビジネス英語に関する英単語、英文法、トピックを学習します。
到達目標	英語を使って、ビジネスシーンでコミュニケーションをとれるように学習していきます。 また、ビジネスに関するトピック、知識についても深く学び、話題性のあるビジネスパーソンになれることを目指します。
授業方法と留意点	講義解説、個人ワーク、ペアワーク、小テスト
科目学習の効果（資格）	ビジネスに関するトピックを英語で理解し、それをライティング、スピーキングを通して理解、発信する英語を使った コミュニケーション能力を習得します。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction Unit1 Speaking Listening	個人ワーク グループワーク 講義 討論	予習 単語調べ
2	Unit1 Reading Vocabulary Grammar	個人ワーク グループワーク 講義 討論	予習 単語調べ
3	Unit 2 Speaking Listening	個人ワーク グループワーク 講義 討論	予習 単語調べ
4	Unit 2 Reading Vocabulary Grammar	個人ワーク グループワーク 講義 討論	予習 単語調べ
5	Unit 3 Speaking Listening	個人ワーク グループワーク 講義 討論	予習 単語調べ
6	Unit 3 Reading Vocabulary Grammar	個人ワーク グループワーク 講義 討論	予習 単語調べ テスト勉強
7	Review test		予習 単語調べ
8	Unit 4 Speaking Listening	個人ワーク グループワーク 講義 討論	予習 単語調べ
9	Unit 4 Reading Vocabulary Grammar	個人ワーク グループワーク 講義 討論	予習 単語調べ
10	Unit 5 Speaking Listening	個人ワーク グループワーク 講義 討論	予習 単語調べ
11	Unit 5 Reading Vocabulary Grammar	個人ワーク グループワーク 講義 討論	予習 単語調べ
12	Unit 6 Speaking Listening	個人ワーク グループワーク 講義 討論	予習 単語調べ
13	Unit 6 Reading Vocabulary Grammar	個人ワーク グループワーク 講義 討論	予習 単語調べ テスト勉強
14	Review Test2	個人ワーク グループワーク 講義 討論	予習 単語調べ
15	総復習		

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Steps to your Career	Tae Kudo & Mike Corsini	センゲージ
2			
3			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
評価方法 （基準）	授業参加 30% 課題 30% Review Test 40%
学生への メッセージ	慣れるまでは少し大変な内容かもしれませんが、日々少しづつ学習していきましょう。 英語そのものだけではなく、ビジネスコミュニケーションの能力も学びます。英語が苦手であっても楽しめる授業にしますので、 頑張りましょう。
担当者の 研究室等	７号館２階非常勤控室 連絡先:hirokazunukk@outlook.jp
備考	

専門科目

科目名	ビジネス　イングリッシュｂ	科目名（英文）	Business English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	抽冬　紘和
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	一般的なビジネス英語、ビジネスシーンで行うスキルを学習します。 ビジネス英語に関する英単語、英文法、トピックを学習します。
到達目標	英語を使って、ビジネスシーンでコミュニケーションをとれるように学習していきます。 また、ビジネスに関するトピック、知識についても深く学び、話題性のあるビジネスパーソンになれることを目指します。
授業方法と留意点	講義解説、個人ワーク、ペアワーク、小テスト
科目学習の効果（資格）	ビジネスに関するトピックを英語で理解し、それをライティング、スピーキングを通して理解、発信する英語を使った コミュニケーション能力を習得します。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction Unit7 Speaking Listening	個人ワーク グループワーク 講義 討論	予習 単語調べ
2	Unit7 Reading Vocabulary Grammar	個人ワーク グループワーク 講義 討論	予習 単語調べ
3	Unit 8 Speaking Listening	個人ワーク グループワーク 講義 討論	予習 単語調べ
4	Unit 8 Reading Vocabulary Grammar	個人ワーク グループワーク 講義 討論	予習 単語調べ
5	Unit 9 Speaking Listening	個人ワーク グループワーク 講義 討論	予習 単語調べ
6	Unit 9 Reading Vocabulary Grammar	個人ワーク グループワーク 講義 討論	予習 単語調べ テスト勉強
7	Review test		予習 単語調べ
8	Unit 10 Speaking Listening	個人ワーク グループワーク 講義 討論	予習 単語調べ
9	Unit 10 Reading Vocabulary Grammar	個人ワーク グループワーク 講義 討論	予習 単語調べ
10	Unit11 Speaking Listening	個人ワーク グループワーク 講義 討論	予習 単語調べ
11	Unit 11 Reading Vocabulary Grammar	個人ワーク グループワーク 講義 討論	予習 単語調べ
12	Unit 12 Speaking Listening	個人ワーク グループワーク 講義 討論	予習 単語調べ
13	Unit 12 Reading Vocabulary Grammar	個人ワーク グループワーク 講義 討論	予習 単語調べ テスト勉強
14	Review Test2	個人ワーク グループワーク 講義 討論	予習 単語調べ
15	総復習		

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Steps to your Career	Tae Kudo & Mike Corsini	センゲージ
2			
3			

参考書

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	授業参加 30% 課題 30% Review Test 40%
学生への メッセージ	慣れるまでは少し大変な内容かもしれませんが、日々少しづつ学習していきましょう。 英語そのものだけではなく、ビジネスコミュニケーションの能力も学びます。英語が苦手であっても楽しめる授業にしますので、 頑張りましょう。
担当者の 研究室等	７号館２階非常勤控室 連絡先:hirokazunukk@outlook.jp
備考	

科目名	ビジネスインドネシア･マレー語	科目名（英文）	Business Indonesian-Malay
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	エニ　レスタリ
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	インドネシアで仕事やビジネスに使われる、単語や表現や連絡の仕方の知識を高めるためです。
到達目標	インドネシアのビジネスの語彙を始め、様々なビジネスの場面を学習、知識をつける。
授業方法と留意点	事務所や工場での会話を学びます。映像資料も用いて会話の練習をします。
科目学習の効果（資格）	ビジネス知識を高める事が出来る。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション。	授業の内容や授業の仕方について。	授業の内容確認。
2	自己紹介。	名刺、履歴書を作る。	会社の名称、職業などを調べる。
3	自分の会社を紹介する。	会社の概要や組織を説明する。	授業の内容を復習する。
4	秘書との会話やり取り	ＯＡ機器の名称。	事務所で使う器械の名前を覚える。
5	秘書との会話	電話・伝言などに関する表現。	社内の会話を練習する。
6	オフィス受付などの表現。	会社、役所、ホテルなどのやり取り。	授業の内容を復習する。
7	経済情勢について語る	銀行関係の用語。	授業の内容を復習する。
8	1 回～7 回まとめ(小テスト)。	復習・中間テスト。	1 回から 7 回までに学んだことを再確認。
9	商談。	貿易関係の用語・商業文。	授業の内容を会話で練習する。
10	工場にて。	職員とのやり取り。	会話練習する。
11	役所との連絡。	インドネシアの習慣。	授業の内容を復習する。
12	ビジネスの手紙。	ビジネスで使う基本書式。	ビジネス手紙やメールを書く練習。
13	現在のビジネスの情報収集①。	専門的な企業・技術の単語を調べる。	インターネットやメディアから情報を集める。
14	現在のビジネスの情報収集②	専門的な企業・技術の単語を調べる	インターネットやメディアから情報を集める。
15	9 回～14 回の復習・テスト。	復習・テスト	9 回から 14 回までに学んだことを再確認。

関連科目：専攻言語インドネシア語科目のすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	仕事に役立つインドネシア語	左藤　正範	大学　書林
2	ビジネスインドネシア語	小笠原　健二　＆　V.R.クマラニングルム	東洋　書店
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業の準備・授業中の活動 50% 復習テスト 50%
学生へのメッセージ	日本～インドネシアのビジネスの専門用語やルールについてしっかり学んで知識を持つことは大切です。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	

科目名	ビジネスインドネシア語	科目名（英文）	Indonesian for Business
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	エニ　レスタリ
ディプロマポリシー(DP)	DP7○,DP8◎		

授業概要・目的	インドネシアで仕事やビジネスに使われる、単語や表現や連絡の仕方の知識を高めるためです。
到達目標	インドネシアのビジネスの語彙を始め、様々なビジネスの場面を学習、知識をつける。
授業方法と留意点	事務所や工場での会話を学びます。映像資料も用いて会話の練習をします。
科目学習の効果（資格）	ビジネス知識を高める事が出来る。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション。	授業の内容や授業の仕方について。	授業の内容確認。
2	自己紹介。	名刺、履歴書を作る。	会社の名称、職業などを調べる。
3	自分の会社を紹介する。	会社の概要や組織を説明する。	授業の内容を復習する。
4	秘書との会話やり取り	ＯＡ機器の名称。	事務所で使う器械の名前を覚える。
5	秘書との会話	電話・伝言などに関する表現。	社内の会話を練習する。
6	オフィス受付などの表現。	会社、役所、ホテルなどのやり取り。	授業の内容を復習する。
7	経済情勢について語る	銀行関係の用語。	授業の内容を復習する。
8	1 回～7 回まとめ(小テスト)。	復習・中間テスト。	1 回から 7 回までに学んだことを再確認。
9	商談。	貿易関係の用語・商業文。	授業の内容を会話で練習する。
10	工場にて。	職員とのやり取り。	会話練習する。
11	役所との連絡。	インドネシアの習慣。	授業の内容を復習する。
12	ビジネスの手紙。	ビジネスで使う基本書式。	ビジネス手紙やメールを書く練習。
13	現在のビジネスの情報収集①。	専門的な企業・技術の単語を調べる。	インターネットやメディアから情報を集める。
14	現在のビジネスの情報収集②	専門的な企業・技術の単語を調べる	インターネットやメディアから情報を集める。
15	9 回～14 回の復習・テスト。	復習・テスト	9 回から 14 回までに学んだことを再確認。

関連科目：専攻言語インドネシア語科目のすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	仕事に役立つインドネシア語	左藤　正範	大学　書林
2	ビジネスインドネシア語	小笠原　健二　&　V.R.クマラニングルム	東洋　書店
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業の準備・授業中の活動 50% 復習テスト 50%
学生へのメッセージ	日本～インドネシアのビジネスの専門用語やルールについてしっかり学んで知識を持つことは大切です。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	

科目名	ビジネスコミュニケーション論	科目名（英文）	Business Communication
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2○		

授業概要・目的	この科目は国際ビジネスプログラム対応科目である。 ２年次に習得した「異文化ビジネス論」や「ビジネス心理学」などの知識を活かしながら、国際ビジネスの現場におけるコミュニケーションの特徴や注意点について考察する。また、必要に応じて、日本語と外国語の場合を比較・対象しながら、接客から交渉に至るまで様々なビジネスの現場・場面を想定して、客観的な観点から学んでいく。
到達目標	国際化に対応したビジネス実務の基礎知識の習得と、それぞれの場面に必要な日本文化・日本語に基づいた外国語能力の向上を目標とする。?
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、積極的に学ぶ姿勢が必要であり、第二に即戦力として学習内容を実践する意識を持つことを求める。
科目学習の効果（資格）	グローバル化した日本企業などのビジネス組織で行われている基本的なビジネス実務全般を理解し、国内外との対応に必要なコミュニケーション能力の必要性を理解し、その向上を図る。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション?	・変化するビジネス組織 ・国際ビジネスの基本－あいさつ・名刺交換・席順	・事前学修：シラバスを熟読する。 ・事後学修：講義からグローバル社会に関してレポートを作成する。?
2	パーティ文化	・座席と服装、国の特徴 ・招待を受けた事例	・事前学修：公式なパーティとは何か、調べる。 ・事後学修：「パーティ文化」をノートにまとめる。
3	設営と慶弔含む贈答	・ＱＵＩＺ（第１回から第２回まで） ・日本文化における慶弔と贈答 ・主催者側としての設営	・事前学修：「慶弔」について調べる。 ・事後学修：「設営」手順を作成する。
4	会議等の設営	・会議の種類 ・会議に必要とされる書類 ・社内会議と社外会議	・事前学修：Ｍｉｎｕｔｅｓ（議事録）例を翻訳する。 ・事後学修：社内会議の案内文を作成する。
5	ビジネス対応－敬語	・常識としての敬語と礼儀正しい英語表現	・事前学修：「敬語」プリントをする。 ・事後学修：敬語表現を復習する。
6	ビジネス対応－応対	・Expressions at Reception ・ロールプレイ	・事前学修：Expressions at Reception 1, 2 & 3 のロールプレイを練習する。 ・事後学修：日本語、外国語での応対を練習する。
7	ビジネス対応－電話	・Expression at Business Call ・ロールプレイ	・事前学修：・Expression at Business Call 1, 2 & 3　のロールプレイを練習する。 ・事後学修：日本語、外国語での応対を練習する。
8	中間テスト	・中間テスト（正答率 60%で合格）	・事前学修：第３回から７回までの復習をする。 ・事後学修：中間テストの解答を?確認し、復習する。
9	海外出張	・ＹＴＴ方式の理解 ・外国語による日程表の作成	・事前学修：San Francisco に１週間の出張と考え、往復運賃、宿泊費等を調べてくる。 ・事後学修：外国語による日程表を作成する。?
10	ビジネス文書　基礎編	・文書の基本理解と作成 ・数字の扱い方、英語の略語 ・ファイリング	・事前学修：「時候のあいさつとビジネス用語プリント」をする。 ・事後学修：社内文書と社会文書、英文レターを清書する。
11	ビジネス文書　応用編①	・社内文書と社会文書作成 ・英文ビジネスレターとメモ	・事前学修：提示された条件で、文書を作成する。 ・事後学修：授業中に指示のあった社内文書と社会文書、英文レターを清書する。
12	ビジネス文書　応用編②	・日本語と外国語による社交文書作成	・事前学修：ビジネス文書のルールを再確認する。 ・事後学修：授業中に指示のあった社内文書と社会文書、英文レターを清書する。?
13	総合演習①	・ＱＵＩＺ（第 10 回から第 12 回まで） ・ロールプレイを含む課題演習①	・事前学修：ビジネス文書を書けるよう、練習しておく。 ・事後学修：課題演習①を再度確認する。
14	総合演習②	・ロールプレイを含む課題演習②	・事前学修：課題演習①を再度確認する。 ・事後学修：課題演習②を再度確認する。
15	まとめ?	・コミュニケーションのあり方	・事前学修：課題演習②を再度確認する。 ・事後学修：第１回から第 15 回までの授業内容の理解を図る。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジネス実務ワーク	石井三恵他	泉文堂
2	働く女性の英語術	光藤京子	The Japan Times
3			

評価方法（基準）	ロールプレイならびにプレゼンテーション（30%）、小テスト（10%）、レポート（20%）、中間ならびに期末テスト（40%）を総合的に評価する。?
学生へのメッセージ	グローバル化と言われ久しい日本の企業等のビジネス組織において、外国人労働者が積極的に採用・雇用される現実も見えてきました。社内を英語で統一する日本企業も出現しており、対応可能な人材として外国語が使えるだけではなく、ビジネスの担い手としての常識がますます求められています。働く意識を高め、ビジネスの現場で必要とされる態度とコミュニケーションをしっかり学び、自信を深め、一歩先を歩いてほしいと願

	っています。
担当者の 研究室等	７号館５階　キャリア教育推進室（石井）
備考	必要に応じて授業内でレジュメを配布する。

科目名	ビジネス心理学	科目名（英文）	Business Psychology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	牧野　幸志
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	この科目は「国際ビジネス」プログラム対応科目である。 現代社会における消費者の心理と行動を解説していく。ビジネスにおける消費者の心理と行動について科学的に理解することを目的とする。
到達目標	マーケティングの基礎概念および購買行動についての考察を通して，多面的に消費心理を捉える能力を養うことを目標とする。ビジネスに役立つ心理理論を学ぶことを目標とする。
授業方法と留意点	担当者が毎回パワーポイントによるプレゼンテーション形式で講義を行う。各自，ノートを取ること。授業中に発言を求めることもある。第１回授業で授業ルールなどについて説明をするので必ず参加すること。
科目学習の効果（資格）	ビジネスにおける消費者の心理と行動を理解することができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス･消費者心理の位置づけ	授業内容，授業方法について説明します。 消費者心理とは？	授業内容の復習
2	消費行動と社会心理学	消費行動とは何か？購買行動と消費行動	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
3	消費行動におけるブランド選択	商品選択と消費者心理	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
4	消費者の価値意識	ライフスタイルと商品選択	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
5	消費行動における個人内過程	消費者の非計画購買過程	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
6	消費者の価格判断	心的ものさしと商品の価格づけ	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
7	消費者間相互作用と購買意思決定	口コミによるマーケティング戦略	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
8	インターネットを利用した消費者間コミュニケーション	インターネットの利用により消費行動は変わるのか？	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
9	比較広告と消費行動	比較広告の効果と課題	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
10	広告媒体の種類と広告の効果	広告の内容分析とその効果	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
11	テレビ広告における内容分析とその効果	テレビ広告における内容分析と購買効果	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
12	悪質商法と消費者	悪質商法の手口と対策	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
13	企業のリスク･コミュニケーションと消費者	リスクを伝える工夫とリスク･マネジメント	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
14	サービスと消費者心理	接客サービスの効果と接客での問題点	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
15	消費者心理と消費行動の今後	消費者はこれからどのような商品，サービスを選んでいくのか？	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習

関連科目	「グローバルマーケティング論」と関連する。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	消費行動の社会心理学	竹村和久	北大路書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回の授業内の課題(上限 10%)，定期テスト(90%)の割合で，総合的に判断する。
学生へのメッセージ	私たちは，毎日いろいろなものを消費しています。では，なぜその商品を買ったのでしょう？なぜ，そのサービスを選んだのでしょう？値段だけでしょうか？消費者の心の動きについて，ビジネスの具体例を交えながら，解説していきます。
担当者の研究室等	11 号館 7 階(牧野幸志准教授室)
備考	他人の迷惑となる行為(遅刻，私語，居眠り，内職，スマホ，携帯電話などの使用など)はすべて禁止とします。 事前事後学習には，毎回 1 時間以上かけること。 このことを承知したうえで受講すること。 授業内の課題については，授業中に解説してフィードバックを行う。

科目名	ビジネス中国語Ⅲａ	科目名（英文）	Business Chinese IIIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	馮　艶
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この授業はビジネス中国語Ⅰ、Ⅱの続きである。中国は２００４年に、アメリカを抜いて、日本の最大の貿易相手国になった。近年でも、２０１４年には日本の対中貿易赤字が過去最高を記録するなど、日中間の経済的関係は順調に拡大しているといえる。また近年では、中国からの観光客が急増し、２０１４年には日本を訪れる中国人が２４０万人を超えて過去最多を記録するなど、新たな局面も迎えている。 本授業では、ビジネスに関する知識を広げ、ビジネスや経済に関する様々な中国語の文章を読み、中国語の応用力に磨きをかけてることを目的とする。なお、この１年間の授業をもって、１・２年次から続いたビジネス中国語の学習は終了となる。
到達目標	中国語のビジネスレターについて、その基本的な書式と常用される表現を習得する。
授業方法と留意点	文法の解説後、練習問題をこなし、特に中文和訳の精度を高めることを目指す。授業の難易度はそれほど高くないが、ビジネスや経済に興味をもつ必要がある。
科目学習の効果（資格）	ビジネス中国語検定試験２級が受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	概説１	中国語の取引文書の基本書式と構成	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	概説２	中国語の社交文書の基本書式と構成	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第１課	索求買价函	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第２課	社交賀年函	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第３課	事務関系函	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	復習チェックシート（１）	第１課～第３課の内容に合わせた練習問題により，理解度のチェックと学習内容の定着をはかる。	事前学習として第１課～第３課を復讐しておく。事後学習として，理解不足の項目をノートに整理する。
7	第４課	聯系洽談函	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第５課	建立貿易関系函	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第６課	索取商品函	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	復習チェックシート（２）	第４課～第６課の内容に合わせた練習問題により，理解度のチェックと学習内容の定着をはかる。	事前学習として第４課～第６課を復讐しておく。事後学習として，理解不足の項目をノートに整理する。
11	第７課	問价函	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第８課	答復函	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第９課	售后服務	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第１０課	招募通告	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	復習チェックシート（３）	第７課～第10課の内容に合わせた練習問題により，理解度のチェックと学習内容の定着をはかる。	事前学習として第７課～第10課を復讐しておく。事後学習として，理解不足の項目をノートに整理する。

関連科目：ビジネス中国語Ⅰab・Ⅱab

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジネス中国語Ⅲａ	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	実務書類を扱うなど難しいところもあるが、実践的な内容なので、がんばって習得してほしい。事前・事後に各60時間の学修を要する.。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	ビジネス中国語Ⅲｂ	科目名（英文）	Business Chinese IIIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	馮　艶
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この授業はビジネス中国語Ⅰ、Ⅱの続きである。中国は 2004 年に、アメリカを抜いて、日本の最大の貿易相手国になった。近年でも、2014 年には日本の対中貿易赤字が過去最高を記録するなど、日中間の経済的関係は順調に拡大しているといえる。また近年では、中国からの観光客が急増し、2014 年には日本を訪れる中国人が 240 万人を超えて過去最多を記録するなど、新たな局面も迎えている。 本授業では、ビジネスに関する知識を広げ、ビジネスや経済に関する様々な中国語の文章を読み、中国語の応用力に磨きをかけてることを目的とする。なお、この１年間の授業をもって、１・２年次から続いたビジネス中国語の学習は終了となる。
到達目標	これまで学んできたビジネス中国語を、新聞記事といった実践的な教材を通して再確認し、実用的なレベルへと近づけていく。
授業方法と留意点	配布プリントをもとに授業を進める。単語や文法事項の解説後、練習問題をこなし、特に中文和訳の精度を高めることを目指す。授業の難易度はそれほど高くないが、ビジネスや経済に興味を持つ必要がある。
科目学習の効果（資格）	ビジネス中国語検定試験２級受験可能

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第１課	ビジネスニュース（日本）　1	関連する日本語の新聞記事を講読してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第２課	ビジネスニュース（日本）　2	関連する日本語の新聞記事を講読してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第３課	ビジネスニュース（日本）　3	関連する日本語の新聞記事を講読してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第４課	ビジネスニュース（日本）　4	関連する日本語の新聞記事を講読してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	復習	第1課～第4課の内容に合わせた練習問題により，理解度のチェックと学習内容の定着をはかる。	事前学習として第1課～第4課を復讐しておく。事後学習として，理解不足の項目をノートに整理する。
6	第５課	ビジネスニュース（中国）　①	関連する日本語の新聞記事を講読してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第６課	ビジネスニュース（中国）　②	関連する日本語の新聞記事を講読してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第７課	ビジネスニュース（中国）　③	関連する日本語の新聞記事を講読してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第８課	ビジネスニュース（中国）　④	関連する日本語の新聞記事を講読してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	復習	第5課～第8課の内容に合わせた練習問題により，理解度のチェックと学習内容の定着をはかる。	事前学習として第5課～第8課を復讐しておく。事後学習として，理解不足の項目をノートに整理する。
11	第９課	ビジネスニュース（国際）　Ⅰ	関連する日本語の新聞記事を講読してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第１０課	ビジネスニュース（国際）　Ⅱ	関連する日本語の新聞記事を講読してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第１１課	ビジネスニュース（国際）　Ⅲ	関連する日本語の新聞記事を講読してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第１２課	ビジネスニュース（国際）　Ⅳ	関連する日本語の新聞記事を講読してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	復習	第9課～第12課の内容に合わせた練習問題により，理解度のチェックと学習内容の定着をはかる。	事前学習として第9課～第12課を復讐しておく。事後学習として，理解不足の項目をノートに整理する。

関連科目：ビジネス中国語Ⅰab・Ⅱab

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリント配布		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	新聞記事の内容によっては難しいところもあるが、たいへん実践的な内容なので、がんばって習得してほしい。原則として事前・事後に各 60 時間の学修を要する.。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	ビジネス中国語ａ	科目名（英文）	Business Chinese a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	瀬戸　宏
ディプロマポリシー(DP)	DP7○,DP8◎		

授業概要・目的	中国経済の発展に伴い、日中の経済的結びつきはますます強くなっている。このような状況の下、中国語を駆使するビジネスマンの役割はますます重要になっている。本学ではそのようなビジネス中国語の習得をを目指す学生のために、ビジネスに特化した中国語の講座を準備した。前期の授業は基礎知識、簡単な単語でのコミュニケーション、挨拶から質問のし方・答え方などビジネス場面で必要な会話を学ぶ。
到達目標	ビジネスシーンで使われる表現を通して，関連する語彙や初歩的な構文を習得する。
授業方法と留意点	この科目が必修科目であることに注意。また，授業の内容は１年生中国語専攻クラスの他の必修科目を履修していることを前提としている。ただし，他学部，他大学，社会人による単科目の受講は可能である。
科目学習の効果（資格）	ビジネス中国語検定試験受験など

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	中国経済の概況	改革開放前の計画経済体制から今日の市場経済体制への転換軌跡を解明し、中国の特色ある経済システムについて講義する。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第１課・第２課	発音（１）（２）ビジネス時に使う中国語の単語を材料にして発音や声調を学習する。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第３課前半	(1) 判断文　(2) 疑問文(１)「～?」 (3) 副詞「也」　(4) 姓名の表現	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第３課後半	関連表現　練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第４課前半	(1) 動詞述語文　(2) 疑問詞による疑問文 (3) 語気助詞「?」　(4) 副詞「好好儿」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第４課後半	関連表現　練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第５課前半	(1) 形容詞述語文　(2) 反復疑問文 (3) 介詞「?」　(4) 比較の表現「A 比 B～」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第５課後半	関連表現　練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第６課前半	(1) 動詞「有」(～に～がある・いる) (2) 動詞「在」　(3) 助動詞「要」 (4) 助動詞「想」　(5) 介詞「从」と「到」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第６課後半	関連表現　練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第７課前半	(1) 年月日の言い方　(2) 動詞＋「一下儿」 (3) 介詞「和」　(4) 動詞「有」(～が～を持っている)	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第７課後半	関連表現　練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第８課前半	総合復習チェックシート	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第８課後半	教養としての中国語の基礎語の学習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	総復習	第３課から第８課までの総復習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目：主言語・共通言語１年次中国語

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジネス中国語	摂南大学外国語学部編	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	単元ごとの小テストを行う。平常点（授業に取り組む姿勢、小テスト、発音など）50 パーセント　単元テスト 50 パーセント
学生へのメッセージ	必修科目ですからしっかり自覚をもって講義に臨んでください。テストの平均点が６割以上、出席回数が三分の二を越えて、はじめて単位が認定されます。 一時限開講科目ですが、30 分を越えた遅刻は欠席扱いとなりますので、いつも時間に余裕を持って出席するようにお願いします。 また、随時、始業と同時に復習テスト行います。遅刻、欠席の場合は受験できないのでご注意ください。
担当者の研究室等	７号館３階
備考	事前事後の学修に各１時間要する。 授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	ビジネス中国語ｂ	科目名（英文）	Business Chinese b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	瀬戸　宏
ディプロマポリシー(DP)	DP7○,DP8◎		

授業概要・目的	後期の授業は、基礎となる文法、会社・組織についての表現、アポイントのとり方、社交の場での会話、商談など、ビジネス現場ですぐに活用できる表現や語彙力を学ぶ。
到達目標	前期に引き続き、ビジネスシーンで使われる表現を通して、関連する語彙や初歩的な構文を習得する。
授業方法と留意点	この科目が必修科目であることに注意。また、授業の内容は１年生中国語専攻クラスの他の必修科目を履修していることを前提としている。ただし、他学部、他大学、社会人による単科目の受講は可能である。
科目学習の効果（資格）	スコア式ビジネス中国語検定試験受験など

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第８課前半	１「是不是」の用法　　２「このように」の用法 ３ 助動詞「会」の用法（～するのが上手だ）	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第８課後半	関連表現　練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第９課前半	１助詞「之」の用法　　２介詞「根据」 ３文型「只有～才～」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第９課後半	関連表現　練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第１０課前半	１助詞「&000083f7;」の用法　　２可能補語「～不了 ３文型「既…又…」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第１０課後半	関連表現　練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第１１課前半	１「記下来」（動詞＋下来）　２「写進去」（動詞＋進去）　３代詞「本」　４介詞「	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第１１課後半	関連表現　練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第１２課前半	１文型　「Ａ是Ａ」　２「為…起見」 ３接続詞「再説」の用法　４「做个市場調査」：助数詞前の「一」の省略	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第１２課後半	関連表現　練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第１３課前半	１過意不去　　２介詞「本着」 ３一定，一定　４助動詞「該」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第１３課後半	関連表現　練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第１４課前半	復習チェックシート	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第１４課後半	教養としての中国語の基礎語の学習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	総復習	第８課から第13課までを総復習する	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目：主言語・共通言語１年次中国語

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジネス中国語	摂南大学外国語学部編	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	単元ごとの小テストを行う。平常点５割　単元テスト５割を基準とします。 出席は10回以上していないと単位は認定されません。
学生へのメッセージ	必修科目ですからしっかり自覚をもって講義に臨んでください。 ビジネス中国語ａと同じく、遅刻、欠席は語学の授業では大きなロスとなりますから、慎んでください。 必ず教科書は購入してください。 事前・事後に各60分の学修を要する。
担当者の研究室等	７号館３階
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	ビジュアルデザイン論	科目名（英文）	Visual Design
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北村　元成
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	この科目は、「メディアビジネス」プログラム対応科目です。 人間が外部から得る情報量の約８割が視覚によるものといわれています。ビジュアルは人や物、企業やサービスのイメージを大きく左右するものであり、適切に且つ魅力的にデザインされるべきものです。この授業では、広告を主なテーマとして、グラフィックデザインやブランドデザイン（キャラクター）について学びます。
到達目標	ビジュアルデザインに関する基礎的な知識を得て、視覚的な表現に対する関心を高めると共に、流行や表現手法を読み解く力、そして表現力を高めることを目標とします。
授業方法と留意点	この授業では講義に合わせて演習的な課題も行います。レポートや課題の発表等も予定しています。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の概要と進め方について	デザイン関連書籍・雑誌を調べておくこと
2	ビジュアルデザインのツボ	視覚表現の仕組みやデザインの要点について	デザイン関連書籍・雑誌を調べておくこと
3	広告１	広告・広報について	身近な広告事例を調べておくこと
4	広告２	広告の事例について	身近な広告事例を調べておくこと
5	広告３	広告の要素について	身近な広告事例を調べておくこと
6	広告４	広告のワークフローと業界について	レポート課題を進めておくこと
7	フォント	フォント（書体）について	レポート課題を進めておくこと
8	広告の実践	広告の実践的な事例解説	レポート課題を進めておくこと
9	ポスター調査発表１	レポートの発表１	発表内容を振り返っておくこと
10	ポスター調査発表２	レポートの発表２	発表内容を振り返っておくこと
11	キャラクターデザイン	キャラクターデザインについて	レポート課題を進めておくこと
12	ブランドデザイン	ブランドデザインについて	レポート課題を進めておくこと
13	キャラクター制作１	レポート発表	制作課題を進めておくこと
14	キャラクター制作２	制作のチェック	制作課題を進めておくこと
15	キャラクター発表	制作の発表	発表内容を振り返っておくこと

関連科目	他の「メディアビジネス」プログラム対応科目など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中に課すレポート・課題の評価及び授業での参加態度により総合的に評価します。（課題・レポート点 70%、授業参加点 30%） なお、出席数が 2/3 に達するものを成績評価の対象とします。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	授業時間外での質問等についてはメール（motonari@center.wakayama-u.ac.jp）にてご連絡ください。

科目名	美術の歩み	科目名（英文）	Art History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩間　香
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	芸術は作者、 時代、 思想などさまざまな要素から成り立っている。 この講義では各時代の代表的な作品を鑑賞しながら、 どういう社会状況のもとに生み出されたのか、 何に用いられたのか、 主題はなにか、 技法や技術の完成度はどうかなどを解説する。日本の美術や文化を知ることは、人生を豊かにするだけでなく、グローバル社会において自分を支える力になるだろう。
到達目標	日本美術の基本的な知識を修得する。教養として必要な程度の知識を身につけるとともに、美術や歴史への関心を高める。
授業方法と留意点	講義は常時スライドや教材表示装置を使用する。必要に応じノートに描き留めてもらいたい。
科目学習の効果（資格）	日本文化・美術に関する基本的な知識を身につける。学芸員資格に必要である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	奈良時代　飛鳥美術	法隆寺の美術	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、飛鳥時代の歴史について調べておく。(90 分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90 分)
2	奈良時代　天平美術	興福寺・東大寺の仏像	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、天平時代の歴史について調べておく。(90 分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90 分)
3	平安時代　密教美術	曼荼羅／密教彫刻	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、平安前期の歴史について調べておく。(90 分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90 分)
4	平安時代　浄土教美術	平等院	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、平安後期の歴史について調べておく。(90 分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90 分)
5	平安時代　四大絵巻物	源氏物語絵巻／信貴山縁起／伴大納言絵巻／鳥獣戯画	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、院政期の歴史について調べておく。(90 分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90 分)
6	鎌倉時代　鎌倉彫刻	運慶	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、鎌倉時代の歴史について調べておく。(90 分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90 分)
7	鎌倉時代　祖師絵伝絵巻	一遍聖絵／華厳縁起	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、鎌倉新仏教について調べておく。(90 分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90 分)
8	鎌倉時代　肖像画	似絵	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、金倉後期の歴史について調べておく。(90 分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90 分)
9	室町時代　水墨画	雪舟	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、室町時代の歴史について調べておく。(90 分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90 分)
10	桃山時代　金碧障壁画	狩野永徳	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、桃山時代の歴史について調べておく。(90 分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90 分)
11	江戸時代　流派体制の確立	狩野探幽	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、江戸初期の歴史について調べておく。(90 分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90 分)
12	江戸時代　琳派の継承	俵屋宗達／尾形光琳	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、江戸前期の歴史について調べておく。(90 分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90 分)
13	江戸時代　浮世絵１	菱川師宣／鈴木春信	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、江戸後期の歴史について調べておく。(90 分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90 分)
14	江戸時代　写生派	円山応挙	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、円山派について調べておく。(90 分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90 分)
15	江戸時代　浮世絵２	歌麿／北斎／広重	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、作品を見ておく。(90 分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90 分)

関連科目	日本史学・日本文化史、学芸員課程の科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	原色日本の美術		小学館
2	人間の美術	梅原猛	学習研究社
3			

評価方法 （基準）	定期試験
学生への メッセージ	専用のノートを作り、毎回持参すること。博物館・美術館・寺・神社などに出かけて実際に美術を見に行ってください。
担当者の 研究室等	７号館５階(岩間研究室)
備考	

科目名	風土と地理	科目名（英文）	Climate and Geography
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	柴田　陽一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	現代ほど多くの人びとが移動し，さまざまな場所を観光している時代はいまだかつてない。なぜこんなに観光が盛んになったのだろうか。その背景には何があるのだろうか。本講義では，観光の歴史について学んだ後，形態別の観光とさまざまな観光地の特色を明らかにしていく。事例は日本を中心とするが，必要に応じて海外や旧植民地も取り上げる。観光は交通やメディアの発達はもちろん，広く言えば，それぞれの時代と地域の政治・経済・社会・文化と密接にかかわる現象である。したがって，観光という現象を通して，近代と現代の日本を考えてみたい。その過程で，日本という風土の特色も明らかとなろう。
到達目標	観光の歴史や形態，さまざまな観光地の特色について理解し，それをもとに，特定の観光／観光地の形成・現状・課題について説明することができる。
授業方法と留意点	配布資料とパワーポイントを用いて授業を進める。毎回授業の終わりに課題を出すので，それに取り組むことで復習・予習をしてほしい（一部は要提出）。日ごろから観光に関する報道（ＴＶニュース，新聞，ネット等）に関心を払うこと。
科目学習の効果（資格）	観光の歴史や形態，観光地の特色を学習・理解することにより，将来の進路決定をする際の一つの判断材料として役立てることができる（特に公的資格には直接つながらない）。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	旅と観光とは？	旅・観光とは何か，その定義について	課題による復習・予習
2	観光の歴史①	近代ツーリズム誕生の背景と，その後の発展について	課題による復習・予習
3	観光の歴史②	交通やメディアの発達と観光との関連，近年の観光目的の多様化について	課題による復習・予習
4	団体旅行	団体旅行の歴史とその特色について	課題による復習・予習
5	修学旅行	修学旅行の歴史とその特色について	課題による復習・予習
6	新婚旅行	新婚旅行の歴史とその特色について	課題による復習・予習
7	海外旅行	海外旅行の歴史とその特色について	課題による復習・予習
8	山	山岳観光地とその特色，登山やスキーの歴史について	課題による復習・予習
9	海	海岸観光地とその特色，海水浴，サーフィン，ダイビングなどの歴史について	課題による復習・予習
10	温泉	温泉観光地とその特色，温泉浴の歴史について	課題による復習・予習
11	まち	宗教・都市観光地とその特色について	課題による復習・予習
12	テーマパーク	テーマパークの歴史とその特色について	課題による復習・予習
13	アート，フィルム，アニメ	アートツーリズム，フィルムツーリズム，アニメツーリズムの歴史とその特色について	課題による復習・予習
14	エスニック	旧植民地などで行われているエスニックツーリズムの歴史とその特色について	課題による復習・予習
15	ダーク，まとめ	戦争や災害の跡など見るダークツーリズムの歴史とその特色について，授業全体のまとめ	期末レポートの準備

関連科目：「アーバンツーリズム論」「エコツーリズム論」等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	観光の空間：視点とアプローチ	神田孝治編	ナカニシヤ出版
2	レジャーの空間：諸相とアプローチ	神田孝治編	ナカニシヤ出版
3	観光学ガイドブック	大橋昭一ほか編	ナカニシヤ出版

評価方法（基準）	期末レポート６０％，授業中課題４０％
学生へのメッセージ	訪日外国人の増加や２０２０年の東京オリンピック・パラリンピックに向け，観光産業はますます重要性を増している。観光の歴史と形態，さまざまな観光地の特色を明らかにする本授業は，観光関連産業を将来の進路として考えている学生はもちろん，そうでない学生も興味をもって学習できる内容であろう。
担当者の研究室等	７号館５階（柴田研究室）
備考	事前・事後学習は総時間６０時間を目安とする。

科目名	Practical English Conversation	科目名（英文）	Practical English Conversation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アイビス　ウイリアム
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	留学先での生活に備えて、自分の関心事や専門分野、教育環境等を簡単な英語で説明できるようになる。
到達目標	１年時に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文を応用しながら、英語を話すための実践演習を行う。会話・寸劇・スピーチを録音・録画したものなどの成果物を発表する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction and review of semester I	Students will all skills studied in the first semester.	Students should study the content of the days lesson
2	Review of summer holiday	Discussion of summer holiday activities.	Students should study the content of the days lesson
3	Likes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson
4	Dislikes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson
5	The future	Discussing future jobs, lifestyles and dreams.	Students should study the content of the days lesson
6	The Past	Discussing past experiences and leisure activities.	Students should study the content of the days lesson
7	Mid semester review and assessment	Review and consolidation of all skills studied and a short test.	Students should study the content of the days lesson
8	Describing people	Giving and receiving personal descriptions.	Students should study the content of the days lesson
9	Eating out and food	Discussing skills used in eating out and food types.	Students should study the content of the days lesson
10	Restaurant role play	Students practicing eating out in a restaurant situation.	Students should study the content of the days lesson
11	Review	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson
12	What's that?	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson
13	Dreams	Students will have an oral written and listening test.	Students should study the content of the days lesson
14	Review	Review	Students should study the content of the days lesson
15	Summer Holiday Plans	Discussing summer holiday plans	Students should study the content of the days lesson

関連科目	Academic Reading, Academic Writing

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Top Notch TV	Joan Saslow	Pearson
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	共通課題(合同プレゼンテーション) 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	Prepare for your future by studying today.
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	Practical English Conversation	科目名（英文）	Practical English Conversation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田浦　アマンダ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	留学先での生活に備えて、自分の関心事や専門分野、教育環境等を簡単な英語で説明できるようになる。
到達目標	１年時に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文を応用しながら、英語を話すための実践演習を行う。会話・寸劇・スピーチを録音・録画したものなどの成果物を発表する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Joint class in the drama studio with all classes and teachers	DVD homework on Victoria Cityscape and Meet the People
2	Flight information Unit 1	DVD, useful vocabulary to use when flying	DVD homework
3	So where are you from? Unit 2	Expressing topics of interest about yourself	DVD homework
4	Staying at a hotel Unit 3	Making special requests	DVD homework
5	Planning a day trip Unit 4 & 5	choosing a place and organizing the transportation	DVD homework
6	Restaurants Unit 6	Ordering	DVD homework
7	Walking around Oxford Unit 7	Understanding directions	DVD homework
8	Shopping Unit 8	Understanding prices	DVD homework
9	Oh no! Where's my passport Unit 9	Losing something and what to do about it	DVD homework
10	Visiting the Doctor Unit 10	Understanding health situations and talking with the doctor	DVD homework
11	Tell me about your trip Unit 11	Asking follow-up questions, traveling safely in your host country.	DVD homework
12	Advice and travel safety Unit 12	traveling safely in your host country.	Working on a situation to perform
13	Role Plays	Preparation and Practice	Role Play
14	Role Plays	Preparation and Practice	Role Play
15	Joint Role Play Presentation	Performing the role plays with the other class members.	Final evaluation

関連科目：Academic Reading, Academic Writing

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Adventures Abroad	Fuller and Cleary	Macmillan
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

Joint Classes Final Role Play Presentation 15%　(=共通課題・合同プレゼンテーション 15%)
Review and listening quizzes 10%
Reading for Pleasure 15%
Portfolio writing 20%
Mini-role plays in class 20% / Class attitude and willingness to remain in English at all times 20%

学生へのメッセージ	Prepare for your future overseas by studying as much as you can in preparation, today.
担当者の研究室等	7 号館 5 階(田浦研究室)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	Practical English Conversation	科目名（英文）	Practical English Conversation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アレン　ニール
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	留学先での生活に備えて、自分の関心事や専門分野、教育環境等を簡単な英語で説明できるようになる。
到達目標	１年時に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文を応用しながら、英語を話すための実践演習を行う。会話・寸劇・スピーチを録音・録画したものなどの成果物を発表する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
15	Review	Feedback sessionk	・・・

関連科目：Academic Reading, Academic Writing

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	共通課題(合同プレゼンテーション) 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

専門科目

科目名	Practical English Conversation	科目名（英文）	Practical English Conversation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ｱｰｻｰ ﾛﾘﾝｸﾞｽﾝ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	留学先での生活に備えて、自分の関心事や専門分野、教育環境等を簡単な英語で説明できるようになる。
到達目標	１年時に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文を応用しながら、英語を話すための実践演習を行う。会話・寸劇・スピーチを録音・録画したものなどの成果物を発表する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Introduction	
2	Greetings and Conversation Starters	Pronunciation and intonation practice; grammar and vocabulary building exercises	Homeork
3	Approaching a Stranger	Pronunciation and intonation practice; grammar and vocabulary building exercises	Homeork
4	Making follow-up questions	Pronunciation and intonation practice; grammar and vocabulary building exercises	Homeork
5	Making follow-up questions (continued)	Pronunciation and intonation practice; grammar and vocabulary building exercises	Homeork
6	Extended Conversations Review	Pronunciation and intonation practice; grammar and vocabulary building exercises	Homeork
7	Abruptly Ending a Conversation	Pronunciation and intonation practice; grammar and vocabulary building exercises	Homeork
8	Changing a Topic	Pronunciation and intonation practice; grammar and vocabulary building exercises	Homeork
9	Talking about Taboo Topics	Pronunciation and intonation practice; grammar and vocabulary building exercises	Homeork
10	Asking Someone Out	Pronunciation and intonation practice; grammar and vocabulary building exercises	Homeork
11	Practice for final role-play project	Pronunciation and intonation practice; grammar and vocabulary building exercises	Homeork
12	Practice for final role-play project	Pronunciation and intonation practice; grammar and vocabulary building exercises	Homeork
13	Practice for final role-play project	Pronunciation and intonation practice; grammar and vocabulary building exercises	Homeork
14	Practice for final role-play project	Pronunciation and intonation practice; grammar and vocabulary building exercises	Homeork
15	Final role-play performance	Review	

関連科目：Academic Reading, Academic Writing

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

評価方法（基準）	共通課題(合同プレゼンテーション) 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	You will need a notebook and writing materials for this class.　There is no textbook.　Come see me anytime you need help with anything.
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ

	そ 15 時間程度とする。

科目名	フランス語Ⅱa	科目名（英文）	French IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中井　裕之
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本授業の目的はフランス語による基礎的コミュニケーション能力の育成にあります。挨拶、注文、道の尋ね方など、日常生活の様々な場面で役立つフランス語の表現をこの授業では学びます。
到達目標	この授業を受講すれば、学生は初歩的なフランス語が話せるようになります。一例えば、日本に旅行に来ているフランス人に偶然、街で出会ったとします。その時フランス語で声をかけてみたくはないでしょうか？あるいはフランスに旅行に行ったとします。レストランで注文する時、店でショッピングをする時、直接フランス語でやりとりがしたくはないでしょうか？この授業を取ればそれが可能となります。
授業方法と留意点	基本的な表現を繰り返し口に出して練習する。リスニング、練習問題の解答、学生同士の練習を行なう。教科書を使用するので購入して教室に持ってくること。授業への積極的な参加を望みます。
科目学習の効果（資格）	仏検（実用フランス語技能検定試験）５級へ向けた学力の準備をする。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	フランス語会話（基礎）の学び方の説明 授業の内容と進め方の説明 教科書、参考書、辞書の説明	テキスト全体に目を通し、どういったことを学習するかイメージをつかんでおく
2	『話したくなるフランス語』導入（pp. 2-3）	アルファベとその読み方	『話したくなるフランス語』導入部の予習復習
3	『話したくなるフランス語』第１課（pp. 4-9）	物の名前を正確に言う 数字の読み方（１）	『話したくなるフランス語』第１課の予習復習、練習問題１
4	『話したくなるフランス語』第１課つづき	文法事項：男性名詞と女性名詞 名詞の複数形 つづり字と発音（１）	『話したくなるフランス語』第１課の予習復習、練習問題２
5	『話したくなるフランス語』第２課（pp. 10-15）	基本的な動詞を使い、習慣になっている行為や仕事や仕事や住んでいる場所などについて話す 国、都市の名前	『話したくなるフランス語』第２課の予習復習、練習問題３
6	『話したくなるフランス語』第２課つづき	文法事項：否定文 つづり字と発音（２）	『話したくなるフランス語』第２課の予習復習、練習問題４、練習問題５
7	『話したくなるフランス語』第３課（pp. 16-21）	好き嫌いの言い方 食べ物、飲み物の名前	『話したくなるフランス語』第３課の予習復習、練習問題６、練習問題７
8	『話したくなるフランス語』第３課つづき	文法事項：定冠詞、est-ce que を用いる疑問文 リエゾン・エリズィヨン・アンシェヌマン 主語人称代名詞、-er 動詞の変化	『話したくなるフランス語』第３課の予習復習、練習問題８
9	『話したくなるフランス語』第４課（pp. 22-27）	人の身分や特徴の表現 国籍、職業の呼び方	『話したくなるフランス語』第４課の予習復習、練習問題９、練習問題 10
10	『話したくなるフランス語』第４課つづき	文法事項：形容詞の男性形と女性形 ETRE の変化	『話したくなるフランス語』第４課の予習復習、練習問題 11、練習問題 12
11	『話したくなるフランス語』第５課（pp. 28-33）	動詞 avoir を使った表現 親族の名称	『話したくなるフランス語』第５課の予習復習、練習問題 13、練習問題 14
12	『話したくなるフランス語』第５課つづき	文法事項：不定冠詞、部分冠詞、否定の冠詞 avoir の変化 つづり字と発音（３）	『話したくなるフランス語』第５課の予習復習、練習問題 15、練習問題 16、練習問題 17
13	『話したくなるフランス語』第６課（pp. 34-39）	動詞 aller を使った表現 乗り物の言い方	『話したくなるフランス語』第６課の予習復習、練習問題 18
14	『話したくなるフランス語』第６課つづき	文法事項：前置詞と定冠詞の縮約 指示形容詞 aller の変化	『話したくなるフランス語』第６課の予習復習、練習問題 19、練習問題 20
15	まとめ	前期学習内容の確認とまとめ	前期学習内容の理解のチェックと復習

関連科目：後期のフランス語 II を合わせて履修することが望ましい

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	話したくなるフランス語	岩間直文	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	対訳フランス語で読もう「異邦人」	アルベール・カミュ[著]，柳沢文昭[訳注]	第三書房
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト（50%）と平常点（授業への参加の度合い・取り組む姿勢・発表・宿題の提出など）（50%）
学生へのメッセージ	楽しくフランス語を学習しましょう。きっと何か新しい発見があると思います。フランス語で会話をすることの楽しさを感じてください。皆さんの参加をお待ちしております。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	連絡等は授業教室または非常勤講師室で金曜日の授業時間の前後に口頭または文書で。 授業時間外の質問等については相談の上、個別に時間を決めて応じる。

科目名	フランス語Ⅱb	科目名（英文）	French IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中井　裕之
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この授業では、前期に引き続き、フランス語の基礎的コミュニケーション能力の習得を目指します。挨拶、注文、道の尋ね方など日常生活の様々な場面で役立つフランス語の表現を学びます。フランス語で話す喜びを感じてください。楽しい授業を目指します。
到達目標	この授業を受講すれば、学生は初歩的なフランス語が話せるようになります。基本的なフランス語の言いまわしやを繰り返し練習することで、単に頭で理解できているばかりでなく、場面・状況に応じた表現が自然と口をついて出るようになります。
授業方法と留意点	基本的な表現を繰り返し口に出して練習する。リスニング、練習問題の解答、学生同士の練習を行なう。教科書（『かたつむりの歌（Chanson des Escargots）』、『話したくなるフランス語』）を使用するので教室に持ってくること。授業への積極的な参加を望みます。
科目学習の効果（資格）	仏検（実用フランス語技能検定試験）５級に相当する学力を目指す。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	後期オリエンテーション	後期学習へ向けた示唆 授業の内容と進め方の説明 教科書、参考書の説明	テキストの後期学習範囲に目を通しておく
2	動詞活用表	さまざま動詞の活用 以降、適宜、『かたつむりの歌』を味読する	『話したくなるフランス語』巻末動詞活用表
3	『話したくなるフランス語』第７課（pp.40-45）	人、物をたずねる表現 フランス人の名前	『話したくなるフランス語』第７課の予習復習、練習問題 21
4	『話したくなるフランス語』第７課つづき	文法事項：指示代名詞、直接目的語になる人称代名詞 つづり字と発音（４） CONNAITRE の変化	『話したくなるフランス語』第７課の予習復習、練習問題 22、練習問題 23
5	『話したくなるフランス語』第８課（pp.46―51）	可能性、許可、依頼の表現 条件法を用いた表現	『話したくなるフランス語』第８課の予習復習、練習問題 22、練習問題 24
6	『話したくなるフランス語』第８課つづき	文法事項：pouvoir の変化 つづり字と発音（５） 条件法	『話したくなるフランス語』第８課の予習復習、練習問題 25、練習問題 26
7	『話したくなるフランス語』第９課（pp.52-57）	名詞を代名詞で受ける 頻度を表わす表現	『話したくなるフランス語』第９課の予習復習、練習問題 27
8	『話したくなるフランス語』第９課つづき	文法事項：間接目的語になる人称代名詞 人称代名詞のまとめ	『話したくなるフランス語』第９課の予習復習、練習問題 28、練習問題 29
9	『話したくなるフランス語』第１０課（pp.58-63）	未来の予定 時刻の言い方	『話したくなるフランス語』第 10 課の予習復習、練習問題 30
10	『話したくなるフランス語』第１０課つづき	文法事項：代名動詞 未来の表わし方	『話したくなるフランス語』第 10 課の予習復習、練習問題 31
11	『話したくなるフランス語』第１１課（pp.64-69）	過去の表現 月、曜日、日付の言い方	『話したくなるフランス語』ト第 11 課の予習復習、練習問題 32、練習問題 33、練習問題 34
12	『話したくなるフランス語』第１１課つづき	文法事項：複合過去 半過去	『話したくなるフランス語』第 11 課の予習復習、練習問題 35、練習問題 36
13	発展的学習（１）	役に立つ表現と文法事項の補足（１） 会話練習（１）	『話したくなるフランス語』第７課～11 課の復習
14	発展的学習（２）	役に立つ表現と文法事項の補足（２） 会話練習（２）	『話したくなるフランス語』第７課～11 課の復習
15	まとめ	総まとめ	学習内容の理解のチェック

関連科目：前期のフランス語Ⅰを合わせて履修することが望ましい

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	かたつむりの歌（Chanson des Escargots）	田島宏[編]，プレヴェール[著]	第三書房
2	話したくなるフランス語	岩間直文	朝日出版社
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	対訳フランス語で読もう「異邦人」	アルベール・カミュ[著]，柳沢文昭[訳注]	第三書房
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト（50%）と平常点（授業への参加の度合い・取り組む姿勢・発表・宿題の提出など）（50%）
学生へのメッセージ	楽しくフランス語を学習しましょう。きっと何か新しい発見があると思います。フランス語で会話をすることの楽しさを感じてください。皆さんの参加をお待ちしております。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	連絡等は授業教室または非常勤講師室で金曜日の授業時間の前後に口頭または文書で。 授業時間外の質問等については相談の上、個別に時間を決めて応じる。

科目名	フランス語Ⅲa	科目名（英文）	French IIIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤本　武司
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	フランス語 I, II での学習事項をもとに、フランス語の４技能（聞く・話す・読む・書く）を総合的に高めることを目的とする。
到達目標	フランス語の基本的文法を習得し、簡単な日常会話をすることができるようになる。辞書を用いれば一般的内容の文章を読むことができる。
授業方法と留意点	基本文法を復習しながら、仏検用の教材を利用して、オーラル面での練習を行うと同時に、辞書を使ってフランス語のテキストを読むことにも力を入れる。また、フランス文化の諸相を映画・音楽を用いて紹介する。 文法理解や単語、表現の習得度を確認するため、原則として毎回小テスト（筆記または口頭）を行う。 特定の教科書は使用せず、自作のプリント教材をその都度配布する。なお、授業および予習・復習には仏和辞典が必要となるが、その選択については改めて授業で紹介・指示するので、あらかじめ購入する必要はない。
科目学習の効果（資格）	フランス語 IV とあわせて、仏検(実用フランス語検定)4 級に合格できるフランス語力をつける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 フランスの映画・音楽鑑賞	オリエンテーションとこれまでの学習内容の確認	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
2	文法確認① フランスの映画・音楽鑑賞	動詞の活用について	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
3	口頭演習① フランスの映画・音楽鑑賞	自己紹介について	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
4	講読演習① フランスの映画・音楽鑑賞	現代のフランスに関するテキスト	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
5	文法確認② フランスの映画・音楽鑑賞	冠詞・指示形容詞・所有形容詞の用法について	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
6	口頭演習② フランスの映画・音楽鑑賞	好き嫌いの表現	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
7	講読演習② フランスの映画・音楽鑑賞	現代のフランスに関するテキスト	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
8	文法確認③ フランスの映画・音楽鑑賞	形容詞・副詞、比較	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
9	口頭演習③ フランスの映画・音楽鑑賞	他人を描写する	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
10	講読演習③ フランスの映画・音楽鑑賞	現代のフランスに関するテキスト	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
11	文法確認④ フランスの映画・音楽鑑賞	人称代名詞・中性代名詞・疑問代名詞	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
12	口頭演習④ フランスの映画・音楽鑑賞	人、物について、さまざまなことを訪ねる。	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
13	講読演習④ フランスの映画・音楽鑑賞	現代のフランスに関するテキスト	次回テストの準備
14	確認テスト	これまでの学習内容を仏検 4 級形式の問題でテストする。	講読演習の準備
15	確認テスト講評 最終講読演習 フランスの映画・音楽鑑賞	現代のフランスに関するテキスト	

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	①期末試験は実施しないが、第 14 回目の授業で仏検 4 級形式のテストを行う（評価の 30～50%に充当）。 ②授業時の口頭発表、小テスト、宿題等提出物、映画鑑賞後のコメント等（評価の 50～70%に充当）。 出席しているだけでは評価の対象にならないので注意のこと。
学生へのメッセージ	単に語学の勉強というだけではなく、フランスの様々な姿や、日本との違いを一緒に考えてみたいと思います。なお、皆さんのこれまでのフランス語学習内容等にあわせて、上記の計画は大幅に変更することもあります。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	質問等は授業時および授業終了後に直接対応する。これが無理な場合は大学を通して行う。

科目名	フランス語Ⅲb	科目名（英文）	French IIIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤本　武司
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	これまでの学習事項をもとに、フランス語の４技能（聞く・話す・読む・書く）を総合的に高めることを目的とする。
到達目標	フランス語の基本的文法を習得し、簡単な日常会話をすることができるようになる。辞書を用いれば一般的内容の文章を読むことができる。
授業方法と留意点	フランス語 III と同様、基本文法を確認しながら、仏検用の教材を用いてオーラル面の練習を行うと同時に、辞書を使ってフランス語のテキストを読むことにも力を入れる。フランス文化の諸相を映画・音楽を用いて紹介する。 文法理解や単語、表現の習得度を確認するため、原則として毎回小テスト（筆記または口頭）を行う。 特定の教科書は使用せず、自作のプリント教材をその都度配布する。なお、授業および予習・復習には仏和辞典が必要。
科目学習の効果（資格）	仏検(実用フランス語検定)3 級に合格できるフランス語力をつける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 フランスの映画・音楽鑑賞	オリエンテーションとこれまでの学習内容の確認	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
2	文法講義① フランスの映画・音楽鑑賞	代名動詞	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
3	口頭演習① フランスの映画・音楽鑑賞	日課について語る	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
4	講読演習① フランスの映画・音楽鑑賞	現代のフランスに関するテキスト	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
5	文法講義② フランスの映画・音楽鑑賞	複合過去形・半過去形	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
6	口頭演習② フランスの映画・音楽鑑賞	過去の出来事を語る。思い出を語る。	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
7	講読演習② フランスの映画・音楽鑑賞	現代のフランスに関するテキスト	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
8	文法講義③ フランスの映画・音楽鑑賞	単純未来形	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
9	口頭演習③ フランスの映画・音楽鑑賞	将来の夢を語る	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
10	講読演習③ フランスの映画・音楽鑑賞	現代のフランスに関するテキスト	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
11	文法講義④ フランスの映画・音楽鑑賞	条件法	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
12	口頭演習④ フランスの映画・音楽鑑賞	仮想・妄想を語る。	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
13	講読演習④ フランスの映画・音楽鑑賞	現代のフランスに関するテキスト	次回テストの準備
14	確認テスト	これまでの学習内容を仏検 3 級形式の問題でテストする。	講読演習の準備
15	確認テスト講評 最終講読演習 フランスの映画・音楽鑑賞	現代のフランスに関するテキスト	

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	①期末試験は実施しないが、第 14 回目の授業で仏検 3 級形式のテストを行う（評価の 30～50%に充当）。 ②授業時の口頭発表、小テスト、宿題等提出物、映画鑑賞後のコメント等（評価の 50～70%に充当）。 出席しているだけでは評価の対象にならないので注意のこと。
学生へのメッセージ	単に語学の勉強というだけではなく、フランスの様々な姿や、日本との違いを一緒に考えてみたいと思います。なお、皆さんのこれまでのフランス語学習内容や到達度にあわせて、上記の計画は大幅に変更することもあります。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	質問等は授業時および授業終了後に直接対応する。これが無理な場合は大学を通して行う。

科目名	プレゼンテーション	科目名（英文）	Presentation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	マイケル　ハーキー
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル（身振り、姿勢、話し方など）や発表構成（導入・展開・結論）を修得する。
到達目標	CEFR-J [A1.1-3]を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報（自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること）を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	ハンドアウトや ICT を使って、1 人 5 分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
2	Exercises : Description and Layout	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
3	Exercises : Description and Layout	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
4	Exercises : Description and Layout	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
5	Exercises:Definition, Comparison and Contrast	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
6	Exercises:Definition, Comparison and Contrast	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
7	Exercises:Definition, Comparison and Contrast	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
8	Exercises:Visual　Support Materials	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
9	Exercises:Visual　Support Materials	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
10	Exercises:Visual　Support Materials	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
11	Exercises:Giving Presentations	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
12	Exercises:Giving Presentations	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
13	Exercises:Peer evaluation	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
14	Exercises:Peer evaluation	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	Review	Feedback session	・・・

関連科目：ドラマ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	プレゼンテーション　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	The quality of your voice and pronunciation is just as important as the content of your speech. Audiences listen to passionate speakers. Let's present from the heart.
担当者の研究室等	7 号館 3 階　Herke 研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	プレゼンテーション	科目名（英文）	Presentation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	ＣＤ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	スコット　ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料やICTを用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル（身振り、姿勢、話し方など）や発表構成（導入・展開・結論）を修得する。
到達目標	CEFR-J [A1.1-3]を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報（自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること）を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	学期末に、ハンドアウトやICTを使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 1: A new club member. Giving a presentation on another person.	Orientation and self introductions	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
2	Unit 1: A new club member. Giving a presentation on another person.	Posture and Eye Contact	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
3	Class presentations	Gestures	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
4	Unit 2: A favourite place. Giving a presentation on a favourite location.	Voice Inflection	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
5	Unit 2: A favourite place. Giving a presentation on a favourite location.	Effective Visuals	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
6	Class presentations	Explaining Visuals	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
7	Unit 3: A prized possession. Giving a presentation on an object that is dear to you.	Preparing your presentation	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
8	Unit 3: A prized possession. Giving a presentation on an object that is dear to you.	Making your presentation in the class	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
9	Class presentations	The Introduction	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
10	Unit 4: A memorable experience. Giving a presentation on a memorable event in your life.	The Body	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
11	Unit 4: A memorable experience. Giving a presentation on a memorable event in your life.	The Conclusion	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
12	Class presentations	Designing a presentation outline	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
13	Unit 5: Show me how. Demonstrating how to do/make/operate something.	Effective use of palm cards	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
14	Unit 5: Show me how. Demonstrating how to do/make/operate something.	Rehearsing your presentation	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
15	Final class presentations	Making your presentation in the class	・・・

関連科目	ドラマ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Present Yourself 1: Experiences 2nd Edition	Gershon, S.	Cambridge University Press

		(ISBN: 9781107435636)		
	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	プレゼンテーション　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	You will be able to present in a small class, in a comfortable atmosphere, and enjoy improving your speaking skills with some valuable hints on making your presentation exciting. Those who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework will benefit most from this course. You will need a dictionary in this class.
担当者の 研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	プレゼンテーション	科目名（英文）	Presentation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	フーパー　トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル（身振り、姿勢、話し方など）や発表構成（導入・展開・結論）を修得する。
到達目標	CEFR-J [A1.1-3]を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報（自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること）を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	学期末に、ハンドアウトや ICT を使って、1 人 5 分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Syllabus and Course Introduction and Unit 1	Write a presentation introduction.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson.
2	Unit 2	Write a presentation overview. Practice eye contact.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson.
3	Unit 3	Write a presentation body. Practice gestures for presentations.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson.
4	Unit 4	Write a presentation conclusion. Practice stage positioning.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson.
5	Presentation Planning 1	Prepare notes for the first presentation. Learn PowerPoint basics.	Students should prepare their ideas for their presentations.
6	Presentation 1	Present in front of the class.	Students should prepare their PowerPoint slides and practice for their presentations.
7	Unit 5	Learn new phrases for introducing ideas. Practice voice projection.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson.
8	Unit 6	Learn new phrases for paragraph transitions. Practice enunciation.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson.
9	Unit 7	Learn new phrases for introducing facts and opinions. Practice intonation.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson.
10	Unit 8	Write supporting evidence for your presentation. Practice pausing to make points clearer.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson.
11	Presentation Planning 2	Prepare notes for the second presentation. Learn advanced PowerPoint design.	Students should prepare their ideas for their presentations.
12	Presentation 2	Present in front of the class.	Students should prepare their PowerPoint slides and practice for their presentations.
13	"The Talk"	Learn how to give an interactive presentation. Practice asking the audience questions.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson.
14	Question and Answer Sessions	Practice answering questions from the audience.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson.
15	"The Talk" Presentation	Give a talk with a focus on on audience participation.	Students should prepare their visuals and practice for their talks.

関連科目	ドラマ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Successful Presentations: An Interactive Guide	Mark D. Stafford	Cengage Learning
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	プレゼンテーション　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	You will be able to present in a small class, in a comfortable atmosphere, and enjoy improving your speaking skills with some valuable hints on making your presentation exciting. Be prepared to share your ideas and opinions with everyone. You will need a dictionary in this class.
担当者の研究室等	7 号館 3 階フーパー研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

専門科目

科目名	プレゼンテーション	科目名（英文）	Presentation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	いう
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル　マリンズ
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料やICTを用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル（身振り、姿勢、話し方など）や発表構成（導入・展開・結論）を修得する。
到達目標	CEFR-J [A1.1-3]を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報（自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること）を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	学期末に、ハンドアウトやICTを使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 1: A new club member. Giving a presentation on another person.	Orientation and self introductions	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
2	Unit 1: A new club member. Giving a presentation on another person.	Posture and Eye Contact	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
3	Class presentations	Gestures	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
4	Unit 2: A favourite place. Giving a presentation on a favourite location.	Voice Inflection	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
5	Unit 2: A favourite place. Giving a presentation on a favourite location.	Effective Visuals	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
6	Class presentations	Explaining Visuals	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
7	Unit 3: A prized possession. Giving a presentation on an object that is dear to you.	Preparing your presentation	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
8	Unit 3: A prized possession. Giving a presentation on an object that is dear to you.	Making your presentation in the class	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
9	Class presentations	The Introduction	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
10	Unit 4: A memorable experience. Giving a presentation on a memorable event in your life.	The Body	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
11	Unit 4: A memorable experience. Giving a presentation on a memorable event in your life.	The Conclusion	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
12	Class presentations	Designing a presentation outline	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
13	Unit 5: Show me how. Demonstrating how to do/make/operate something.	Effective use of palm cards	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
14	Unit 5: Show me how. Demonstrating how to do/make/operate something.	Rehearsing your presentation	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
15	Final class presentations	Making your presentation in the class	・・・

関連科目	ドラマ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Present Yourself Level 1 Student's Book	Gershon, S.	Cambridge University Press

		Experiences 2nd Edition (ISBN: 9781107435636)		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	プレゼンテーション　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	You will be able to present in a small class, in a comfortable atmosphere, and enjoy improving your speaking skills with some valuable hints on making your presentation exciting. Those who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework will benefit most from this course. Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. Do not be absent for more than four lessons or you will risk failing the course. If you are more than 30 minutes late for a class, it will be counted as an absence. You will need a dictionary in this class.
担当者の 研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	プレゼンテーション	科目名（英文）	Presentation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	えお
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ニール　カー
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル（身振り、姿勢、話し方など）や発表構成（導入・展開・結論）を修得する。
到達目標	CEFR-J [A1.1-3]を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報（自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること）を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	学期末に、ハンドアウトや ICT を使って、1 人 5 分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
2	Unit 1	Posture and Eye Contact	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
3	Unit 2	Gestures	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
4	Unit 3	Voice Inflection	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
5	Unit 4	Effective Visuals	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
6	Unit 5	Explaining Visuals	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
7	Preparing for Presentation1	Preparing your presentation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
8	Presentation1	Making your presentation in the class	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
9	Unit 6	The Introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
10	Unit 7	The Body	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
11	Unit 8	The Conclusion	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
12	Preparing for Presentation2	Preparing your presentation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
13	Presentation2	Making your presentation in the class	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
14	Preparing for Final Presentation	Preparing your presentation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	Final Presentation	Making your presentation in the class	・・・

関連科目：ドラマ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Speaking of Speech: Basic Presentation Skills for Beginners	David Harrington and Charles LeBeau	Macmillan Education
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	プレゼンテーション　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	You will be able to present in a small class, in a comfortable atmosphere, and enjoy improving your speaking skills with some valuable hints on making your presentation exciting. Those who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework will benefit most from this course. You will need a dictionary in this class.
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	プレゼンテーション	科目名（英文）	Presentation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	かき
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	マシュー　クーパー
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル（身振り、姿勢、話し方など）や発表構成（導入・展開・結論）を修得する。
到達目標	CEFR-J [A1.1-3]を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報（自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること）を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	学期末に、ハンドアウトや ICT を使って、1 人 5 分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
2	Exercises : Structure	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
3	Exercises : Structure	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
4	Exercises : Structure	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
5	Exercises:Audience Analysis	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
6	Exercises:Audience Analysis	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
7	Exercises:Audience Analysis	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
8	Exercises:Delivery	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
9	Exercises:Delivery	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
10	Exercises:Delivery	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
11	Exercises:Giving Presentations	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
12	Exercises:Giving Presentations	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
13	Exercises:Peer evaluation	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
14	Exercises:Peer evaluation	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	Review	Feedback session	・・・

関連科目	ドラマ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Present yourself 1 2nd edition	Steven Gershon	Cambridge
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	プレゼンテーション　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	英語での主張のために必要な証拠、事実について、それらの効果的な提示の方法について学びます。就職活動、仕事などに役立つ知識として身につけてほしいと思います。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	プレゼンテーションインドネシア・マレー語	科目名（英文）	Indonesian Presentation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	上田　達
ディプロマポリシー(DP)	DP7○,DP8◎		

授業概要・目的	フォーマル／インフォーマルなさまざまな局面でのマレー語を使った適切な表現を理解するとともに、マレー語で意志を伝達する訓練を行う。少なくとも三回の発表の機会を設けて、フォーマルなマレー語原稿の作成と発表のための口頭表現を実践的に学ぶ。学習の成果を計るため、マレー語プレゼンテーションコンテストへの参加を必須とする。
到達目標	マレー語能力の向上。
授業方法と留意点	＊「マレー語プレゼンテーションコンテスト」への参加を必須とする。 ＊資料の収集やマレー語を使った課題を出すので、これらに自主的に取り組むこと。 ＊授業では資料の読解や文章作成の指導をおこなうとともに、提示した資料がどのような社会的背景を有するかも併せて解説する。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の進め方の概要を指示する。資料へのアクセスの仕方、課題の作成方法などについて解説する。	指示された方法で資料にアクセスする。
2	紹介１	組織や事項について書かれたマレー語による紹介文の書式、表現法、語彙について学ぶ。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
3	紹介２	受講者の関心にもとづいて選択したマレー語で書かれた紹介文を探し、講読する。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
4	紹介３	主題を設定して、学んだ書式や語彙を使いながらマレー語による紹介文を作成する。	紹介文の完成
5	演習１	紹介文を発表する。	既習事項を確認する
6	文書１	マレー語で書かれた書類の書式、表現法、語彙について学ぶ。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
7	文書２	受講者の関心にもとづいて選択したマレー語で書かれた書類の内容を理解する。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
8	文書３	既習事項に基づき、受講者で状況を設定して書類を作成する。	文章の完成と推敲
9	演習２	作成した文書を発表する。	既習事項を確認する
10	広告１	マレー語の広告表現について学ぶ。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
11	広告２	マレー語で広告を作成する。	広告についての既習事項の確認と広告の作成と推敲
12	論説１	新聞の論説記事を読み、表現や語彙を解説する。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
13	論説２	主題を個別に設定したうえで、意見を表明するための文章を作成する。	既習事項の復習
14	演習３	主題を個別に設定したうえで、意見を表明するための文章を作成する。	文章の完成、プレゼンテーションの準備
15	総合演習	これまでの既習事項を確認するとともに、完成させたプレゼンテーションを発表する。	既習事項の確認と発表のための資料作成

関連科目	インドネシア・マレー語関係の授業

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	マレーシア語学習辞典	川上雄作	アジアのことばと辞書の会
2			
3			

評価方法（基準）	三回実施する演習課題（70%）、その他課題の提出状況等授業への取り組み（30%）から総合的に評価する。
学生へのメッセージ	マレー語を使った表現を楽しみましょう。
担当者の研究室等	７号館５階上田研究室
備考	受講者の人数と関心を見て、課題の作成方法や提出方法等を決定します。初回の授業時に指示するので、必ず出席すること。 参考書は本学図書館にも所蔵しているので、課題に取り組む際には大いに参考にすること。

科目名	フレッシュマン　イングリッシュ	科目名（英文）	Freshman English
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉村　征洋
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	『暗唱英文 100』の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた筆記テストを実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目：スキルズトレーニング a、スピーキング＆ライティング Ia

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文１００	摂南大学外国語学部	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト（５回）　２５％ 筆記テスト　２５％ 受講態度、課題等　５０％
学生へのメッセージ	座学で英文法を学ぶのではなく、話すことを重視しながら英文法を身につけてもらいます。
担当者の研究室等	７号館３階　吉村　征洋研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	赤澤　春彦
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	日本の文化や歴史を中心に、各自テーマを設定し、報告、議論を通して論理的な議論の組み立て方や思考力を養う。
到達目標	論理的な思考に基づく分析と考察、ディスカッション、文章表現などの能力が身につく。
授業方法と留意点	前半は各自がテーマを複数考え、みなでディスカッションしながらテーマを絞り込む。また、文献の検索方法や研究の方法論について学ぶ。 後半は絞り込んだテーマについて調べ、レポートにまとめ、報告、議論する。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ】 歴史、文化とは何か　文献の検索と活用方法　テーマ設定 【事前事後学習】 自分の発表時はもちろん、他者が発表する前に報告者のテーマに関する文献を読み議論に備える。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	ゼミ活動への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	赤澤研究室（７号館４階）
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浅野　英一
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	前期では、担当教員の指導のもと社会貢献活動などの学外活動による課題発見対処能力を高める。その活動の中で、社会問題を提起する。
到達目標	物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確コミュニケーション能力を持つこと。
授業方法と留意点	このゼミは、「夢」を持ちそれに向かって全力投球したい学生のゼミであることから様々な課題を自分自身で課すことになる。課題発見解決能力の開発や、現場ですぐに役立つ実践力を高めるプログラムを実践する。また、幼稚園、小学校、中学校の教員を目指す学生には教員採用試験の過去問題や面接対策の勉強会を行う。OB・先輩・外国人との交流が多く、年間３～4 回のゼミ合宿に必ず参加することを強く希望する。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 社会に貢献できる活動を実践することから、学外での活動が多い。 【事前事後学習課題】文献・インターネット等で内容を調べる。 計画に基づいた活動、活動発表、報告書を総合的に評価する。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ゼミ活動参加 40%、企画力 20%、コミュニケーション能力 20%、発表力 20%で判断する。
学生へのメッセージ	一歩前進ではなく、半歩前進でも、前に進んだことになる。小さな成功体験の積み重ねが、エネルギーになることを実感すると、挑戦することが楽しくなります。
担当者の研究室等	7 号館 5 階　浅野研究室
備考	

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安達　直樹
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	文章（本や論文、記事）を正確に読み、要約し、他人に説明できるようにするための訓練。 スペイン語またはそれ以外のロマンス語の基礎知識があることが望ましいが、文献は英語、日本語のものを精読する。全体として取り組む基本書を数冊と、各自の研究のための文献（本・資料）を併読するが、どちらも丁寧に読み、要約、発表、議論などを行って、最終的にはレポートを執筆する。
到達目標	読書の習慣を作る。解釈し、要約し、説明・表現する力をつける。口頭でも文章でも、ある物事についての他者の研究・見解を、まとめ、それに対する自らの意見を構築し、発表すること。
授業方法と留意点	とにかく、毎日、論理的な書き物に触れること。日頃から、物事について思考を巡らせること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	テーマは、スペインを主とする南欧の歴史・文化・社会の研究。 具体的なテーマは、各自が強い関心を持ち、研究し続けられると思えるものであればよいが、例えば次のようなものが考えられる。 ・現代スペインの社会問題：カタルーニャの独立問題、自治州における言語政策・教育、移民問題など ・スペインやイタリアの歴史文化：ルネサンス期の人文主義、言語の問題（ラテン語から俗語へ、国語の誕生、国家の共通語のモデル）、印刷技術（情報革命）、宗教改革、都市の歴史など ・現代スペインの多様な文化、諸地域の固有の文化など とにかく文章を読み、要約し、発表する。
関連科目	スペイン語専攻の諸科目、言語科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	日ごろの受講姿勢（読書や議論、発表に対する意欲と準備の有無、精度）と発表およびレポート等の質による。 それぞれ５０％ずつを目安として判断する。
学生へのメッセージ	疑問を持つこと、思考すること、文章を読み、書くこと、自分の考えを論理的に説明すること。これらのことを日常とするように。
担当者の研究室等	7号館5階　個人研究室
備考	

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	天野　貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	2 年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。
到達目標	『大学教授のように小説を読む方法』を読みながら、物語とは何か、という問題に取り組む。
授業方法と留意点	受講生による発表を中心に授業を進める。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	前期は、『大学教授のように小説を読む方法』を読みながら、物語とは何か、という問題に取り組む。 後期は、4 年生と合同の授業をおこなう。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学教授のように小説を読む方法	トーマス・C・フォスター、矢倉尚子訳	白水社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	担当範囲の発表・・・50% 授業中の発言・・・20% レポート・・・30%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館３F　天野研究室
備考	

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有馬　善一
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	テーマ「現代社会と人間」 現代社会の様々な問題を取り上げる。教科書を中心として、さらに参考資料を読み合わせ、ディスカッションやディベートを行うことを通じて、問題の本質に迫っていくことを目指す。 これと並行して、卒業研究レポートの準備を行う。テーマの選定、文献の蒐集と読解、またそれに必要なスキルを身につける。
到達目標	現代社会の問題やそこで生きる人間のあり方について、自分なりに問題意識を涵養する。 人前で分かりやすく自分の意見を発表する力を力を身につける。 必要な文献の蒐集と読解をする。
授業方法と留意点	ゼミ形式での発表とディスカッションを行うので積極的な参加が求められる。テーマ自体は幅広いものになるので、特にどのような問題を取り上げるかは、参加者と相談の上、決定する。 卒業研究レポートについては、ゼミでの勉強を踏まえて、各自でテーマを決めてもらうが、個別に課せられた課題はしっかりとこなすことが必要。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【テーマ・内容】 「現代社会と人間」 人間と社会そのものに対する近代的な見方がもはや成り立たなくなってきているのが現代社会の特徴であろう。そのような現代社会の様々な問題を取り上げる。例えば、科学技術に対する信頼の崩壊（原発事故)、経済成長と人口の増加を前提に組み立てられてきた社会の危機（低成長と人口減少)、人々の価値観や倫理観の変化（権威に対する不信感、無差別テロや理由なき殺人)、等々。 【方法】 資料を皆で読み合わせ、ディスカッションやディベートをする。また、その結果をまとめたレポートを書いてもらう。 個別に卒業研究レポートの準備を進める。文献の蒐集と発表をする。 【事前事後学習課題】 発表の準備、発表後のレポート作成 卒業研究レポートの文献蒐集と読解。さらにテーマの発表の準備 およそ 30 時間。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新版 大学生のためのレポート・論文術	小笠原喜康	講談社現代新書
2	これから「正義」の話をしよう	サンデル	早川書房
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	参加[貢献]度、発表[プレゼンテーション]（60%)、レポート（40%）で評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 4 階　有馬研究室
備考	事前事後学習におよそ 60 時間必要。

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	岩間　香
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	文化・美術をテーマに、本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得する。
到達目標	文化・美術に関する基礎的な知識を身につける。文献探索・調査の方法を身につける。正しい日本語での表現や、社会でのマナーを身につける。
授業方法と留意点	輪読、発表、討論を行う。絵画鑑賞や実地見学を随時行う。見学では入場料・交通費などの実費が必要である。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 ＜前半＞　　美術・文化に関する本・論文を輪読し討論する。本・論文は学生の興味を重視し、日本・海外の美術、工芸、建築、世界遺産、祭り、町おこし、博物館・美術館などの中から選ぶ。 　見学・体験などを行う。　小レポートで日本語の添削を行う。 ＜後半＞　美術・文化に関する本・論文を輪読し討論し、内容をまとめる。各自の興味に従ってテーマを設定し、研究発表を行い討論する。発表では分かりやすく効果的なレジメを作る。 【事前事後学習課題】輪読では事前にテーマや分からない語句について調べておく。見学先をインターネットなどで調べておく。(90 分) 事後は課されたレポートを資料にもとづいて作成する。(90 分)
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	ゼミへの参加状況（50%）と小レポート（50%）
学生へのメッセージ	積極的に展覧会、博物館、美術館、寺院、神社などに出かけ美術や文化に触れてください。また図書館にも美術に関するおもしろい本がたくさんあります。ゼミが充実し、楽しい学習の場になるかどうかは、皆さん取り組み方で大きく変わります。ぜひ積極的にゼミ活動に参加してください。またゼミは小さな社会です。思いやりや助け合いも実践しましょう。
担当者の研究室等	7 号館５階　岩間研究室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	上田　達
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	本演習は、卒業研究を進めていく上での準備段階と位置づけている。自分で「調べる」という営みを始動することができるように演習を通じて指導を行っていく。前半は文化人類学者による調査に関する参考文献を講読する。文献の講読を通じて、人類学的なものの見方について学ぶ。後半は受講者自身による調査主題の設定に当てる。相互のディスカッションを通じて人類学的な「調べる」営みについて考えていき、卒業研究のための調査を指導することを目指す。
到達目標	適切な調査テーマを設定するとともに、そのアプローチの仕方を知る。
授業方法と留意点	前半は文化人類学に関する文献講読を行う。毎回の授業では文献に関する内容の理解を問う。 後半はディスカッション等に当てる。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	「人類学的に調べる」が本演習の主題である。文献講読と相互のディスカッションが中心になる。発表担当者は文献の内容について 30 分程度で報告をする。コメント担当者は 5 分程度のコメントが求められる。聴衆は発表についての質問をすることが求められる。いずれの役割を担うにしても、ゼミの時間を有意義に使うために、授業の前後には指定された文献を精読しておくこと。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	発言や質問など、演習への主体的な取り組み（20%）、課題（50%）、口頭発表（30%）に基づいて行う。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館５階（上田研究室）
備考	レポート等の提出課題は評価を記して返却する。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浦野　崇央
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	２年次までに培った基礎力をもとに、自身が取り組むテーマを検討する。このゼミにおいては、主に現代の日本や東南アジア世界をめぐる社会事象や社会現象を取り上げることとしたい。具体的には、本格的な文献検索や論文読解、資料調査、現地調査実習などを行い、研究手法や考え方を体得する。
到達目標	研究に対する考え方の整理を通じて、客観的な眼差しがもてるようになる。 また、日頃のゼミ活動を通してゼミ内外の人びとと接することを通じ、「気くばり」「目くばり」「心くばり」ができる人間になることを目標とする。
授業方法と留意点	授業では積極的に発言を行い、切磋琢磨できるような刺激的な環境を作っていくよう努力すること。 なお、７月に行われる４年ゼミ生による「卒業論文中間発表会」への参加を必須としている。
授業テーマ・内容･方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 ①研究方法論（研究テーマの設定法、文献資料の収集法、学術研究論文の構成や論理、研究発表や研究討論の進め方等）についての解説を行う。 ②受講生各自が関心をもつテーマについて、それがテーマとなり得るか否かを全員で討論し、各自がテーマの絞り込み作業を行う。 【事前、事後学習課題】 自身の関心のあるテーマについて、事前学習をすること。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「研究」を進めるために―研究資料ガイド 2017―	浦野崇央編	摂南大学外国語学部･浦野ゼミ
2	浦野ゼミの手引き―「卒業論文」を仕上げるまでの過程（タイムスケジュール）―		摂南大学外国語学部･浦野ゼミ
3			

評価方法（基準）	ゼミでは、積極性が特に重視されます。そこで、成績評価については、討論への積極的な参加状況（５０％）、レポートの内容（５０％）により、総合的に判断します。 なお、１回目の授業で、今後のスケジュールや参考文献資料を記した小冊子（「参考書」欄に記載）を配布し、ガイダンスを行います。
学生へのメッセージ	「研究する」という行為は、実はとてもワクワクし、楽しいものです。大学生であることを自覚し、「研究」に勤しみましょう。
担当者の研究室等	７号館４階（浦野研究室）
備考	総学修時間数は６０時間。

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大原関　一浩
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	「どうしたら異なるバックグラウンドの人たちとうまく暮らしていけるか？」「女性も男性も働きやすい社会にするにはどうしたらよいか？」日本でもこれらの課題について取り組まざるを得ない状況になりました。アメリカ合衆国は、「E Pluribus Unum（ラテン語: 多数から一つへ)」という建国の理念が示すとおり、多様性を認めながら国として一つのまとまりをめざしてきましたが、歴史をふりかえれば、現在に至るまで外国人、マイノリティ、女性に対する差別や偏見は形を変えて存在し、多文化共存や男女平等という国家目標に多くの課題を突きつけてきました。そうしたアメリカの取り組み（と失敗）をふりかえれば、多様化する日本の社会でよりよく生きるヒントが見つかるかもしれません。アメリカにも日本にもあるような課題について考え、意見交換できる「場」になればと思います。
到達目標	① アメリカ（と日本）の社会と文化、特に、ジェンダーやエスニシティに関する諸問題についての理解を深め、批判的に物事を理解できるようになる。 ② 基礎的なリサーチ、プレゼンテーション、ディスカッションの力をつける。
授業方法と留意点	① 協調性と積極性をもって、活動に参加すること。 ② 課題の内容について、わからないことがあったら質問すること。 ③ 担当の課題は責任をもってやること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	[授業テーマ・内容・方法] 文献の輪読、発表、議論を中心に進める。 [事前事後学習課題] ① 各自の役目（質問の用意、議論の司会、規定どおりのレポート作成）を果たすこと。 ② 研究ノート（初回に説明）は規定の分量を、定期的に書くこと。 課題、発表の準備、レポートの作成など合計約 30 時間。 [予定] アメリカ社会文化に関するトピックを１つ選び、それについて調べ、プレゼンテーションを各自１回してもらう予定。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新時代アメリカ社会を知るための 60 章		明石書店
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への貢献度　５０％ 課題、レポート、発表　５０％
学生へのメッセージ	このゼミは多様な見方に価値を置くので､「こんなことを言ったら笑われる」という心配はないです。お互いの話に耳を傾け、必要以上に批判的にならず、助け合おうという姿勢を重視します。
担当者の研究室等	大原関研究室（7 号館５階）
備考	

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小川　豊生
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	2 年次に培った基礎力を踏まえて、各自の興味・関心をもとに研究分野を選択する。文献探索や論文講読、資料収集、現地調査等を行い、研究手法や考え方、現地での調査法を習得する。古代から現代にわたる日本の文化を中心として、諸外国との比較を通じて、そのさまざまな特質をあきらかにすることが目的であるが、同時に、発表資料の作成や発表の仕方、発表後のレポート作成など、実践的なリテラシーの習得も大切な目標である。
到達目標	課題発見能力、発表力、聞く力、文献探求能力、書く力を総合的に養成する。
授業方法と留意点	オリエンテーション、図書館の利用と文献検索、文献目録の作成方法、地形図に関する基礎作業、統計資料の収集法、統計資料の分析、グラフ・表の作成法、論文・レポートのまとめ方、文献研究発表などについて解説していく。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ】　日本文化をめぐる諸問題 【内容・方法】 各テーマに関する文献などを読解し、問題点や研究方法を考える。大まかには以下の順序で行う。 1　導入 2　研究の方法と目的について 3　発表テーマの設定 4　全員の発表と質疑応答 5　まとめのレポート作成 【事前学習】 ・文献・インターネット等で配布資料について重要語や内容について調べてくる。 ・発表担当に向けて準備する。 【事後学習】 ・各自の発表内容の推敲・錬成。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席、取り組む姿勢、発表内容などにより、総合的に評価する。発表 50%、卒研レポート 50%。
学生へのメッセージ	冷たい頭と熱いハート、この二つを演習を通じて鍛錬しよう。
担当者の研究室等	７号館４階（小川研究室）
備考	事前事後学習時間の目安：資料探索・整理に 50 時間。その他 10 時間。

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	門脇　薫
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	【授業概要・目的・到達目標】 外国人を対象にした「外国語としての日本語教育」について考察します。 単に「ひらがなをどのように教えるか」というような教授法だけでなく、広い意味の「日本語教育」としてとらえています。例えば次のようなことも含まれます。 ＊日本語学習者の言語習得 ＊日本語の語用例からの日本語の文法や語彙の分析 ＊外国人との接触場面での異文化間コミュニケーション ＊海外における日本語教育 ＊在住外国人や留学生に関すること　　等々です。 海外や日本で起こっている様々な動きを、「日本語・日本語教育」そして 自分自身に関連づけて考えることができるようになることを目指します。
到達目標	＊専門的な知識を得る。 ＊文献を批判的に読んで考察し、自分の意見をまとめて表現することができる。 ＊テーマについて、レジュメを作成し、プレゼンテーションができる。 ＊アカデミックライティングのスキルを身につける。 ＊ゼミの活動を通して、コミュニケーション能力を向上させる。 ＊卒業研究のテーマの設定を行う。
授業方法と留意点	【授業方法と留意点】 前半は、教員が指定した日本語・日本語教育・異文化間コミュニケーションをテーマにした文献を読み、知識を増やし、内容についてディスカッションを行う。更に考察を深めレポートにまとめる。後半は各自が設定したテーマについての発表および内容についてディスカッションを行う。授業後に考察を深め、レポートにまとめ、４年時の卒業研究につなげていく。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 毎回担当者を決め、文献を読み、レジュメを作って発表する。 発表者は、資料収集、情報収集をしてレジュメを作成する。 発表後は、内容についてディスカッションを行う。 【事前事後学習課題】 授業の前に文献を読み、予習シートをまとめる。 授業後に考察した内容についてレポートを書く。 ゼミ生全員のレポートをお互いにチェックしてコメントを書く。
関連科目	「日本語教授法」「日本語学」「日本語教育実習演習」
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	文献資料、プリントを配布する		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	授業で指示する		
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度(10%)、発表及びその他課題（30%）、レポート（60%）によって総合的に評価する。
学生へのメッセージ	友達とのコミュニケーション・外国語学習・海外留学等々、様々なこれらの基になっているのは言語（日本語）です。また、大学在学中や社会人になってから、外国人（日本語を母語としない人）に日本語や日本文化について聞かれる場面はあると思います。このゼミでは、日本語は日本語教育について、皆で一緒に深く考えてみたいと思います。
担当者の研究室等	門脇研究室（7 号館 4 階）
備考	

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	神崎　舞
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	舞台芸術（演劇、ミュージカル、サーカス、ダンスなど）の映像資料の鑑賞や、作品のテキスト及び関連資料の輪読を通して、さまざまな舞台芸術に親しむ。また、研究対象とする作品や劇団が生まれた社会的・文化的背景に関する知識の習得も目指す。
到達目標	・舞台芸術について、基礎的な知識を習得する。 ・卒業研究のテーマを定める。
授業方法と留意点	・毎回の授業では、積極的に議論に参加すること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ】 舞台芸術研究入門 【内容・方法】 ・舞台芸術作品あるいは劇団などについてリサーチし、発表及び小レポートとしてまとめる。 ・プレゼンテーションや議論を重ねることで、卒業研究のテーマを定め、レポートとしてまとめる。 ・すべてのレポートは最終的に１冊の『ゼミジャーナル』として製本する。 【事前・事後学習課題】 プレゼンテーションやレポートの準備など。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（授業に取り組む姿勢など）：50% レポート：40% プレゼンテーション：10%
学生へのメッセージ	日頃から舞台芸術に対する関心を持つようにして下さい。そして受講者が主体となって、楽しく活気あるゼミを作っていきましょう。
担当者の研究室等	7号館５階　神崎研究室
備考	レポートの場合は返却時に、プレゼンテーションの場合は終了後にフィードバックを行う。

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤　一章
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	担当教員の指導のもと、本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査等を行い、研究に必要な手法や考え方を体得します。
到達目標	自分の関心のあるテーマについて文献を調べ、それを整理し、発表することができるようになる。
授業方法と留意点	「ことば」に関する資料を読みながら、基本的な知識を身につけていく。その際、全体で意見を交換・共有しながら、各トピックに関する理解を深めていく。最終的に、自分の最も関心のあるテーマを絞りこみ、卒業研究へとつなげていく。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】　言語学演習　【事前事後学習課題】文献・インターネット等で内容を調べてくる。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	授業への積極性　50% 授業での発言　20% 課題　30%
学生へのメッセージ	これから２年間、一緒に頑張っていきましょう。
担当者の研究室等	後藤研究室（７号館５階）
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤　安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	・資料調査、分析、プレゼンテーション、わかりやすい文章にまとめる、といった体験を通して、研究手法や考え方を学びます。 ・グループやペアでの活動を通して、卒業後にも生かせる、人との関わり方のバリエーションを増やします。
到達目標	・多面的に物事を見る、もしくは見ようとする姿勢を身に着ける。 ・想定する聴衆にとってわかりやすい情報の構成や見せ方を工夫できるようになる。
授業方法と留意点	・実物を観察し、触れ、また何かを作る、といった作業を体験したあと、言語化する練習をします。 ・新聞やニュースの記事（日本語・英語）、本などを用いて、調査・発表・議論をします。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 言語・文化、英術、コミュニケーションなどの分野に関する研究 【事前事後学習課題】 授業で扱ったテーマについて、自分で直接現場に行って調べたり、インターネットとは違う情報源を探してみよう。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	・授業での協働作業　　３０％ ・プレゼンテーション　　３０％ ・レポート　　４０％
学生へのメッセージ	好奇心を覚醒させて、何でも見て、体験して、自分の感性を鍛えよう。
担当者の研究室等	7号館4階　齋藤研究室
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	柴田　陽一
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	地理的イメージを中心に，各自がテーマを設定し，報告・議論を通して論理的な議論の組み立て方や思考力を養う。それとともに，全員で課題文献を読み，基礎となる知識・視点を共有する。
到達目標	論理的な思考に基づく分析と考察，ディスカッション，プレゼン，文章表現の能力を身に付ける。資料の探し方や使い方を身に付ける。
授業方法と留意点	各自が関心あるテーマについて報告し，議論する。並行して，全員で課題文献を読み，基礎となる知識・視点を共有する。その過程の中で，各自のテーマを徐々に絞り込んでいく。学期末には，その時点までの報告内容をまとめたレポートを書く。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ】 地理的イメージとは何か。それと関連する研究内容とは。基礎となる知識・視点の共有。資料の探し方・使い方。 【事前事後学習】 十分に報告準備を行うこと。報告内容を課題文献を読み，その要点をまとめること。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	平常点（報告内容，レポート，参加態度）100％
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 5 階（柴田研究室）
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	杉浦　秀行
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	米国の社会学者 Harvey Sacks たちによって創始された会話分析（Conversation Analysis）の方法論について、基本的な考え方や分析手続き・分析方法を、講義とデータ・セッション（実際のデータを見ながら議論する）を交えながら学んでいく。また、並行して、研究を進めていくための基本的な姿勢・態度、論文・レポートの執筆法、データの取り扱い方等についても随時触れていく。
到達目標	・会話分析の基本的な考え方や分析手続き・分析方法を理解する ・会話分析の方法論に基づき、実際の会話データを使って、基本的な構造を分析できる ・研究を進めていくための基本的な姿勢・態度、論文・レポートの執筆法、データの取り扱い方等に関する基本的な知識を身に付ける
授業方法と留意点	授業では、講義とデータ・セッション（実際のデータを見ながら講義で取り上げられた現象をみんなで分析し、議論する）を交えて進めていきます。特に、データ・セッション時には、議論に積極的に参加してください。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業テーマ： 会話分析の基礎を理解する 内容： 1. 会話分析の視点と研究プロセス 2. 発話の順番交替に係る組織について 3. 発話の連鎖に係る組織と発話の「優先性」に係る組織について 4. 発話の修復に係る組織について 方法： 講義とデータ・セッション（実際のデータを見ながら講義で取り上げられた現象をみんなで分析し、議論する）を交えて行います。また、講義の一部については、担当学生に教科書の指定範囲について発表してもらいます。 事前、事後の学習課題： ・指定教科書を事前に読んだり、授業後に読んで復習する ・データ分析の課題に取り組んでもらいます
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	期末レポート：50% 課題：30% 授業参加度（ディスカッション・発表を含む）：20%
学生へのメッセージ	会話分析は、言葉の形や意味そのものの分析ではなく、私たちが言葉を使って何をしているか、という切り口から見ていきます。ありふれた（日常）会話の分析を通じて、いっしょに新しい発見をしていきましょう！！
担当者の研究室等	7号館5階　杉浦研究室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	会話分析の基礎	高木智世他	ひつじ書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎から分かる会話コミュニケーション	高梨克也	ナカニシヤ出版
2	会話分析基本論集	H. サックス他（西坂仰　訳）	世界思想社
3			

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鈴木　大介
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	言語に関する身近なテーマを扱った幅広い英文を題材に、英語について、広くは言語について様々に考える機会を設けます。
到達目標	・言語に関わる諸問題について理解を深めつつ、批判的に読むことも目指します。 ・英語の基礎力や教養に加え、思考力や課題発見能力、解決能力、表現力を育成します。 （これらの能力は、就職活動をする上で、さらには社会で活躍するための基礎となるものです。）
授業方法と留意点	自ら進んで課題を設定し、その解決への方略の試行錯誤を通じて論理的に解決する、さらには相手にわかりやすいように伝えるというような実践の場を提供します。
授業テーマ・内容･方法･事前、事後学習課題	・アカデミックな題材が中心ですが、このプロセスの中で、最終的に学生自らが主体性をもって卒業研究に取り組めるようになればと思います。 ・（人間の）言葉の不思議、法則の存在、伝達のための役割等、身近なトピックを扱います。 ・なぜこの言葉を使うのか、他の言葉ではいけないのか、他にどんな言葉が使えるのか（どのような違いがあるのか）等、言葉についての素朴な疑問について議論することができたらと思います。 ・フィールドワークで外国人観光客が多く訪れる場所へ出向きます。例えば、インタビューや質問紙（調査）のため京都に何回か調査に出ます。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	ゼミおよび課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館５階　鈴木研究室
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	住吉　誠
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	2 年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに、英語の語法や文法についてさらに深く学ぶ。基本的な文法事項も再確認しながら、英語の実証的な研究の一端に触れる。適時担当を決めて、文献の購読や英語の語法文法や英語の変化について発表を行う。そのような活動を通じて、4 年次の卒業研究に向けてテーマ設定と資料収集を行う。
到達目標	本格的な文献探索や、論文講読、資料調査等を行い、研究手法や考え方を体得する。英語学に関する簡単な文献がある程度時間をかけながら理解できるようになる。英語の基本的な文法事項を整理確認する。
授業方法と留意点	文献の輪読や発表、プレゼンテーションを行う。そのような学びを通じて、4 年次の卒業研究に向けてテーマ設定と資料収集を行う。日常使われる英語の表現や語法に関心をもつことが望まれる。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	テーマ：　現代英語語法文法研究、英語の変容研究 内容：現代英語の語法や文法について学ぶ。英語の変化にも注意しながら、これまでの「定説」と違う例などがある場合は、なぜそのような形が使用されているのかといったことを考えながら、 方法： 映画の英語や、インターネット上で使用される英語、新聞などの英語から、現代英語の実態を明らかにする実例を探して、討議する。またそのような作業を進めるうえで、基本的な英文法の事項を習得しておくことが前提であるので、毎回英語の文法語法について復習を兼ねたエクササイズを行う。 事前・事後学習課題 配布された文献を読みこんでくる。また、グループでの発表のための準備。エクササイズの予習、復習など。総事前・事後学習課題は、発表の準備などを含め３０時間とする。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	授業中のプレゼンテーション　(30%) 授業中の担当発表（20%） 期末レポート（50%）
学生へのメッセージ	ちょっとした言葉の使い方に疑問を持ち、「なぜ」を追求する楽しさを実感してください。
担当者の研究室等	７号館４階　住吉　誠　研究室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田浦　アマンダ
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	Theme: Tourism and Hospitality We will look at on the job situations for cabin crew, airline ground staff and hotel staff, do tour-guiding and discuss the importance of good service and polite spoken and written English for hospitality.
到達目標	Students will attain better reading, and writing skills, with active study and increase speaking and listening skills in the class.
授業方法と留意点	Regular on-time attendance, a willingness to participate in all organised tutorial events, reading outside class for the reading marathon are the key to a good grade.
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	(First term) We will concentrate on hospitality topics, and building up reading skills in the first term from newspaper articles and the textbook. Youtube will be used for study at home to build up vocabulary and listening skills. Thesis topics will be decided towards the end of this term, with research in the library encouraged. We will also study the play to be attended during the first term, looking at four skills - speaking, listening, reading and writing to build up those skills. (Second term) Academic writing skills will be studied to help students formulate their ideas on a thesis topic and tourism and travel will be the basis for weekly topics.
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson
2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Attendance, oral presentations, reading books for pleasure in English, writing and research for the thesis questionnaire will form the basis for grading along with enthusiastic 100% participation in events organized by the teacher. Be ready to join in the reading marathon, speech/recitation contest, and outside events.
学生へのメッセージ	English only will be used in class. Please come ready to use English, read in English, write in English, and help others to stay in English for every class. Don't be afraid of making mistakes in English. It is part of the learning process. Just keep on trying, and studying outside class on a daily basis.
担当者の研究室等	７号館５階　田浦研究室（Building 7, 5th floor, Koala poster on the door）
備考	

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中　悟
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	《近現代地域研究》 各人の興味や関心を出発点として、論文を書くための手順を段階的に身に付けていくことを最終的には目指す。 第一に、他の人にも興味や関心を持ってもらえる「テーマ」を設定する。第二に、そのテーマに関連する基礎的な情報を集め、すでにある「先行研究」を探し、未解決の「問題」に的を絞る。第三に、そのような問題を考えるための「材料」（データ・資料）を集める。そして第四に、それらを使って、言える範囲で「論理的に」結論を出していく。 上に挙げたようなプロセスを実践的に試行錯誤していくためのゼミにしたいと考えている。
到達目標	演習において、様々な興味関心に基づく議論を理解した上で、ポイントを整理しながら生産的な質問やコメントができるようになることを目指す。
授業方法と留意点	学生主体で進行することを原則とし、教員はそのサポートを適宜行なう。 各人の興味・関心に基づくブックレビュー・研究計画発表・調査報告などを行ない、その場で相互に意見を交わすものとする。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	原則として隔週で発表を分担し、意見交換を行なって研究の進展を促す。 発表に当たっては、事前にアドバイスを受け、十分な準備を心がけること。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（発表内容・意見交換の場での貢献・その他課題等）100%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 4 階　田中研究室
備考	事前事後学習時間は、総計で 60 時間を目安とする。

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中　秀毅
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	２年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに、研究分野を選択します。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。
到達目標	１．英語学・言語学に関する専門知識（特に、統語論と意味論）を身につけ、専門的な考え方や研究手法に慣れる。 ２．言語学的な視点で学校英文法をとらえ直す。 ３．英語語彙力を強化する。 ４．レジュメを用いて効果的なプレゼンができる。 ５．データベースを活用して必要な研究論文の検索ができる。
授業方法と留意点	①専門知識の蓄積、②論理的思考力の強化、③表現力・伝達力の強化、の３本柱で授業を進める。 留意点は以下のとおり。 １．①～③の知力のバランスを意識して取り組むこと。 ２．指定箇所を相応の時間をかけて予習して授業に臨み、授業中のディスカッションを通じて疑問を解決できるようにすること。 ３．グループディスカッションでは積極的に発言すること。 ４．積み上げ式に学習するので復習には十分時間をかけ、わからないことは早めに質問すること（ほかの受講生にも有益なのでできるだけ授業中に設ける質問時間を活用してほしい）。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 １．英語学・言語学の専門知識と研究手法の習得 ２．学校英文法の洗い直し ３．英単語の成り立ちの理解 ４．レジュメを用いたプレゼンスキルの養成 ５．データベースを活用した研究論文の検索法の理解 【事前事後学習課題】 １．専門用語の辞典を適宜使用して専門分野の理解を深める。 ２．指定箇所の予習・復習 ３．同上 ４．指定された専門的な読み物を要約し、レジュメを作成する。(プレゼン) ５．指定されたテーマに関連する論文を検索し、レポートを作成する。(期末レポート)
関連科目	卒業研究Ⅰ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	論文の教室	戸田山　和久	NHK ブックス
2	語彙力養成の総合英語	Joe McKim	英潮社
3	ビジュアル英文法	黒川　裕一	南雲堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Collins コウビルド英英辞典 (Collins COBUILD Advanced Learner's Dictionary)		HarperCollins UK
2			
3			

評価方法（基準）	以下の各項目について、指定された割合で総合的に評価する。 ・期末レポート 60% ・プレゼン 20% ・授業態度（予習状況、質問への回答、積極性など）20%
学生へのメッセージ	本科目は４年次の「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎になる科目です。土台が安定しなければ、充実した卒業研究ができないので真剣に取り組んでください。
担当者の研究室等	田中（秀）研究室（７号館４階）　※スチューデント・アワー（前期）は水曜５時限です。
備考	１．英語の分析には英英辞典が不可欠なので、下記の英英辞典が電子辞書に入っていない人は「Collins コウビルド英英辞典」(参考書欄を参照）を購入すること。電子辞書については、学習用に適した辞書を内蔵している場合に限り使用を認める。液晶画面の小さいものや旅行用のポータブルタイプは不可。 【英英辞典のリスト】 ・ロングマン現代英英辞典（Longman Dictionary of Contemporary English） ・オックスフォード現代英英辞典（Oxford Advanced Learner's Dictionary） ２．欠席は授業に出席しなかった場合（公欠・忌引き・病欠を含む）のすべてを対象とする（ただし、やむを得ない事情と判断できる欠席については考慮するので申し出ること)。欠席回数の限度については初回授業で説明するので必ず確認すること。欠席した場合には、次回の授業の前日までに課題や配布物について確認し、自分の責任で補完しておくこと。 ３．遅刻は本人の授業理解度を低下させ、ほかの受講者の集中力を阻害するので避けること。また、携帯電話が授業中に鳴ると授業の進行の妨げになるので電源は授業開始までに切っておくこと。 ４．配付資料の読み込みなど含めて、事前・事後学習にかける総学習時間を 15 時間程度とする。

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	手代木　功基
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	地域活性化、環境問題、世界遺産、観光など、地域や地理学と関連するテーマを各自が設定し、テーマについて関心を深めていく作業を行います。
到達目標	「研究」の遂行に必要な問題の発見力、データの収集・分析力、文章の構成力、執筆能力、全体のマネジメント能力などを身につける
授業方法と留意点	研究を遂行していくための基礎（研究手法・ルール・コツ等）についてはそれぞれ解説し、それをもとに文献購読やフィールドワークを実践していきます。 また、テーマに関するプレゼンテーション及びディスカッションを参加者全員で行います。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業のテーマ】 地域を知る・地域に学ぶ 【事前事後学習】 関心のあるテーマについて、十分に情報収集をする。また、テーマや研究手法について授業外でも積極的に学び、自らの研究活動に役立てる。学習時間は６０時間以上を目安とする。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加状況（議論での積極性等）（50%）と、種々のアウトプット（プレゼンテーションの内容、レポート等）（50%）によって評価する
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館５階 手代木研究室
備考	

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥居　祐介
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	アメリカ合衆国の文化、歴史、社会についての卒業論文（研究レポート）を書くゼミです。各自、3 年次終了時点で合計 12000 字(40 字 x30 行で 10 ページ)以上のレポートを書くことを目標にします。4 年次には、さらに研究を積み重ねて、これらのレポートを卒業論文に発展させることを目指します。 各自の研究テーマは、アメリカ合衆国に関するものであれば幅広く選ぶことができます。過去のゼミ生に多いテーマは、映画や映画俳優について、音楽やミュージシャンについて、野球などのスポーツについてのものです。こうした一見カジュアルな題材を通じて、アメリカ社会の政治的、社会的、歴史的な問題点を考えるのが文化研究です。
到達目標	前期のうちに、アメリカ合衆国についての基礎的な知識を増やし、各自の卒業研究の仮テーマを決め、資料を読み、文章を書く練習を始める。小さなレポートをいくつか積み重ね、合計で少なくとも 6000 字以上を提出する。
授業方法と留意点	・最初の数週間は、全員で共通の資料を読み、アメリカ社会についての共通の理解事項を作ります。その後は、各自、自分のテーマに基づいた資料を手に入れ、読み、小さなレポートを書き、それをクラスに持ち寄って話し合う、という活動を繰り返します。 ・毎週文書を PC で作成し、学内ネットワークや電子メールを使ってやりとりをします。PC の基本操作は必須であり、自分の PC を所有しているか、好きな時に使える PC を学内および自宅に確保しておく必要があります。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 これまでのゼミ生の研究テーマには次のようなものがあります。 「ディズニーアニメを巡る人種差別論争：『ポカホンタス』『アラジン』を中心に」「ハリウッド映画が描く公民権運動：『ロング・ウォーク・ホーム』を例に」「映画『インデペンデンス・デイ』(1996)と多文化主義」「ラテンポップの舞台裏：1990 年代のサルサ音楽ブームについて」「アメリカ独自のモータースポーツ NASCAR の歴史」「アメリカにおけるラグビーの歴史」「ジャズ・トランペッター、ルイ・アームストロングとマイルス・デイビス」「初期ハリウッドの日本人スター早川雪洲」「『白雪姫』　―　グリム童話からディズニーアニメへ」「黒人メジャーリーガー、ジャッキー・ロビンソンとアメリカ社会」「チャーリー・チャップリンと赤狩りの時代」「マイケル・ジャクソンと人種問題」「黒人だけのプロ野球、ニグロ・リーグの歴史とその遺産」「黒人ブルースと白人ロックミュージシャンたち」 【事前事後学習課題】 資料を読み、文章を書くことを日々の習慣にすること。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ゼミ活動への貢献(50%)+複数の小レポートの総量と質(50%)
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 3 階 鳥居研究室
備考	

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中島　直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	・２年次までに培った修学上の基礎力や学術的な関心に基づいて、ビジネスと文化・社会の関係を中心に具体的な事例とともに研究していきます。 ・文献・資料あるいは現地で調査し、それを分析する力や、グローバルとローカルの両方の観点から論理的に考える力を養うことなどを授業目的とします。
到達目標	主にビジネスの観点から、国際社会や異文化に関する理解を深めることと、それに基づいて後期の文化演習Ⅱや４年次の卒業研究につながるような研究テーマを見つけることを目標とします。
授業方法と留意点	・新聞やビジネス誌の記事などを用いて、調査・発表・議論を軸とした演習形式で行います。 ・積極的かつ協調的な取り組みを心がけるようにしてください。
授業テーマ・内容･方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 ・テーマについては、「異文化ビジネス論」や「地域と国際ビジネス」の領域を中心にしながらも、ゼミ生の関心事も考慮して決めていきます。 ・まずは、文献・資料あるいは現地で調査し、それを客観的に分析します。次に、発表、グループディスカッション、プレゼンテーションなどを行いながら、仲間との議論を通じてそのテーマの理解を深め、問題点とその解決策を探っていきます。 【事前事後学習課題】　文献・資料の収集、テーマに関する要点や研究の手法の整理など。
関連科目	基礎演習Ⅰ・Ⅱなど
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	・発表、グループディスカッション、プレゼンテーションを中心とした授業に取り組む姿勢（６０％） ・課題やレポートなど（４０％） を合わせて評価します。
学生へのメッセージ	明朗で、行動力と協調性のある学生の育成を目指します。
担当者の研究室等	７号館４階 中島研究室
備考	

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中西　正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	Webには，解説つきの写真や動画を誰もが投稿できるサイトがある（GoogleマップやYouTubeなど）。当ゼミでは手元の写真のうち公開可能なものに日本語や外国語で案内文を作成しそれを投稿する活動を行う。授業では，各自が持ち寄った日本語文の内容や外国語への翻訳が適切かどうかを全員で検討しながら完成度を高める。撮影地は通常自由だが，ゼミによる観光地取材も適宜行う。
到達目標	自ら作成した観光案内をわかりやすい外国語に翻訳し，さらにそれを発表する能力を身につける。京都，大阪，奈良など関西の地理や歴史に対する知識を深めることも目指す。
授業方法と留意点	個人またはグループでテーマを決め，予め書籍やWebなどで調査したうえ現地へ行って写真やビデオの撮影を行う。さらにそれを素材として観光案内のための原稿を作成して授業で発表，必要な修正を加えて動画に編集したりWebサイトに登録するなどの作業を行う。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期は主として写真を動画に仕立ててそれにナレーションを付ける形式の観光案内ビデオを作成する。
関連科目	日中観光文化と通訳法
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（60%），レポート，プレゼン（40%）をもとに総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	中西研究室（7号館３階）
備考	

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西川　眞由美
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	2 年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。
到達目標	本授業を受けることによって、コミュニケーションとは何かを理論的に学ぶことができます。 さらに、テキストを正確に読み、理解し、それについて多面的に考察し、自分の意見を述べることができるようになります。 実際に何度も練習を行うことによって、コミュニケーション能力を高めることもできるようになります。
授業方法と留意点	毎回担当者を決めて発表をします。担当者だけでなく、参加者全員が予習範囲のテキストをしっかり読んで理解して授業に臨んでください。 コミュニケーションな方法だけでなく、その内容が大事です。日ごろから情報や知識の獲得を心がけてください。 英語の文献も読みますので予習をしてきてください。 毎回、スピーチをしてもらいますので準備をしてきてください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 コミュニケーションの取り方を理論的・実践的に学びます。最も大切なのは、相手の気持ちに配慮し、伝えたいことを正しくきっちり伝えることです。 そのためには何度も練習しなければなりません。 そこで、読んで考え、聞いて話すことを繰り返し行うことが決定的に重要になります。 【事前事後学習課題】 文献・インターネット等で内容を調べてくる。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	わかりやすいコミュニケーション学	岡野　雅雄	三和書籍
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点　４０％、　課題・発表　３０％、　期末レポート　３０％
学生へのメッセージ	失敗しながらも楽しくコミュニケーションを学びましょう。
担当者の研究室等	７号館４階西川研究室
備考	

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本　正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	《世界の中の日本語・日本文化》 日本文化や日本語など、「日本」について見つめ直す作業をする。 いったい日本とは、日本文化とは、日本語とは何なのか、考えてみることで、各自の関心ある言語やテーマについて、新たな視点を持つことを目指す。
到達目標	様々なテーマについて議論し、自分の意見を述べ、考えを整理できる。
授業方法と留意点	学生主体で行う。各自が関心あるテーマに基づいて報告・発表し、意見交換する。 活発な意見交換を期待する。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	「日本」をキーワードに、日本語や日本文化、文化比較などをテーマに考察する。 およそ隔週で報告を行い、毎週他の学生の報告について積極的な発言が求められる。 十分に報告準備を行うこと。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（報告内容、参加態度、課題）100％
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館４階
備考	事前事後学習時間　計６０時間

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林田　敏子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	2 年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。
到達目標	方法論としての社会史の概要を理解し、自ら問題を発見する。
授業方法と留意点	前半は、西洋社会史関連の文献を読みながら、方法論について学んでいく。新たな史料として、小説や伝説、風刺画などの「読み解き」もおこなう。 後半は、文献収集や研究の進め方、発表や討論の仕方についてガイダンスをおこなった後、各自、社会史関連のテーマを一つ選び、関連文献を収集・整理し発表をおこなう。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 （1）西洋史学の方法論、（2）社会史とは何か、（3）図像史料の可能性、（4）テーマ別討論 【事前事後学習課題】 授業中に適宜指示する。事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間。
関連科目	文化演習Ⅱ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	発表内容（テーマの掘り下げ方・発表の仕方など。40%）、討論（積極的に発言しているかなど。20%）、レポート（40%）で評価する。
学生へのメッセージ	夢中になって取り組める研究課題を見つけてください。
担当者の研究室等	７号館４階　林田研究室
備考	西洋の歴史（世界史）に関する予備知識は必ずしも必要ではない。 研究発表に関するフィードバックは発表時、レポートに関するフィードバックは第 15 回目の授業のなかで実施する。

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	フーパー　トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	The purpose of this course is to introduce language and study skills that will allow students to discuss their ideas openly and to write an academic paper in English. Additionally, by learning about the culture of the United States and other countries through comics, students will have a better understanding of how to relate to and communicate with people from those cultures.
到達目標	These are the goals for this course. You will: ?Improve your reading stamina and comprehension. ?Improve your note taking skills. ?Learn how to plan and write well-organized reports. Learn how to use technology to express your ideas. ?Actively discuss your ideas.
授業方法と留意点	Students will do weekly comic readings. After completing their readings, they will write a brief report based on the topic of the week. Each week will feature a different aspect of comics. These reports will be discussed online and in-class. In discussions, an emphasis will be placed on students making observations based on evidence and on asking questions that reveal new ways of approaching the material.
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	We will be reading and analyzing comics in this seminar. The focus will be on American comics, but comics from other cultures may also be considered. We will look at how comic creators use words and images to communicate meaning. Also, we will learn how the stories and characters in comics can reflect the values of the cultures in which they are created. Additionally, similarities and differences between American and Japanese comics will be examined. Week 1: Seminar Introduction Week 2: Discussion Skills Week 3: Defining Comics Week 4: The Vocabulary of Comics Week 5: Use of Gutters Week 6: Representation of Time in Comics Week 7: Use of Line in Comics Week 8: Combining Words and Pictures Week 9: The Six Steps of Comics Creation Week 10: Color in Comics Week 11: Putting It All Together (Review) Week 12: Introduction to Research and Writing Week 13: Writing about Comics Week 14: Report Presentations Week 15: Social Issues in Comics
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Understanding Comics	Scott McCloud	William Morrow
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Curiosity (in-class questions) 15% Knowledge (in-class answers) 15% Participation (online posts) 15% Expressiveness (words written) 15% Ideas (mind maps) 15% Reading Journal (homework) 10% Final Report 15%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	Building 7, 3rd Floor, フーパー研究室
備考	

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北條　ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	グローバリゼーションと移民をキーワードに、基本文献（日本語、英語またはスペイン語）を輪読しつつ、テーマをめぐる基礎知識や共通認識を培う。その過程で、関心を持ったテーマについてさらに詳しい先行研究に当たり、考察を文章化する。 必要な資料の検索・収集方法、理論書の読解、レジュメの書き方、論文執筆の基本ルールなどを指導する。
到達目標	基本文献を精読していきながら、卒業研究レポートで取り組みたいテーマを定める。
授業方法と留意点	毎回担当者を決めて発表をする。全員が資料を熟読したうえでゼミに臨むこと。発表に傾聴し、的確な質問や批判を自分の言葉で伝える力を養いましょう。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】　グローバリゼーション・移民・多文化社会 　基本文献を輪読し、基礎知識と共通認識を養う。レジュメの作成になれると同時に、それをもとに議論を展開できるようになることが重要である。ときに学外での研修を行うこともある。 【事前事後学習課題】 　文献を熟読し、そこから疑問点や論点を抽出し、さらに深く調べたり自分の考えを練り文章化する。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	グローバリゼーションと社会学：モダニティ・グローバリゼーション・社会的公正	宮島喬編	ミネルヴァ書房
2	揺らぐ世界	立花隆	ちくまプリマー新書
3	揺れる大欧州	アンソニー・ギデンズ	岩波書店

評価方法（基準）	発表への取り組みと内容、議論への参加等　７０％、レポート　３０％
学生へのメッセージ	日本語と専攻言語の両言語の力を伸ばし続けましょう。 専攻外国語の力を伸ばし続けることはもちろん重要ですが、日本語での読解力と論理的な文章構成力を高めることを目指してください。
担当者の研究室等	７号館５階　北條研究室
備考	授業中に出された課題に取り組むのに要す十分な時間を事前事後学習に充てること（総時間数は約 60 時間）。

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マイケル　ハーキー
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	The purpose of this class is to choose a topic related to Canada that you are passionate about and deepen your understanding through reading and research. This is an ideal course for students currently studying abroad in Canada or who plan on doing so in the future.
到達目標	It is expected that students will learn-by-doing. Using English as a medium of instruction will enable students to improve not only the four language skills, but also their critical thinking abilities.
授業方法と留意点	The material will be presented through lecture, readings, and occasionally through video and audio. Students are expected to keep a notebook. There will be opportunity for class discussion and group work.
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	The focus of this seminar is Canada. Students will learn about contemporary Canadian society as well as important historical events and how they have shaped the country. Students will study and develop their research skills and will be expected to write and present regular reports.
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	Tests 45%, assignments 45%, attendance & attitude 10%.
学生へのメッセージ	The roots of education are bitter, but the fruit is sweet.
担当者の研究室等	Building 7 3F
備考	Please bring a dictionary.

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Focus on Vocabulary 2: Mastering the Academic Word List	Diane & Norbert Schmitt	Pearson Longman
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松田　早恵
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	本を読むとき、映画を観るとき、人と話すとき、そのベースとなる背景知識を持っているか否かで話の理解度が大きく変わってきます。このゼミでは、英語圏に共通する「知っておくべき事柄」を学び、文化知識の土台作りをします。取り扱う分野は、文学、ことわざ&イディオム、神話、音楽、芸術、建築物などです。 また、ゼミとして多読活動に取り組みます。最初は自力で読める易しめの本を紹介しますが、後半には、映画化された児童文学作品を読んだり、実体験に基づくライフストーリを読んだりして、豊かな表現に触れてもらうとともに、「今まで考えたこともなかった」ような、外の世界にも目を向けてもらいます。
到達目標	与えられたテーマに関して調べ、それをレジュメにまとめて発表できるようになることを目指します。また、多読は初心者で 5 万語、経験者で 10 万語を目標とします。
授業方法と留意点	初日に決めたスケジュールに沿って、各自が当たったテーマを調べ、レジュメを作成してきます。授業中は発表と理解度チェックに充てます。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	初日に一学期間のテーマと担当を決めます。また、レジュメのサンプルを見せます。 次回からは、各人がスケジュールに沿って下調べをしレジュメを作成してきます。余力があるようなら、全員で読む本も一冊指定するかもしれません。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題準備 20%、発表 30%、理解度チェック%、多読 20%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 5 階松田研究室
備考	

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	皆本　智美
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	2 年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。
到達目標	英書や和書の読解を通して、物事を深く理解し、自分の意見を表現できるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	主な活動として、英書を読み、授業中に理解度を確認します。他の活動として、英語の技能を向上させるための練習や、西洋文化の理解を深めるための活動などを行います。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ】 英語で本を読む。 【内容・方法】 共通の英書の指定部分を全員が事前に読み、授業中は互いに理解度を確認しあう。 卒業研究の準備として、資料調査の実習を行う。 【事前事後学習課題】 授業中に適宜指示する。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	授業初回の話し合いで決定する。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業にのぞむ姿勢や態度（５０％）、発表内容（発表の仕方や積極性など）とレポート等（５０％）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	前学習時間：２時間、事後学習時間：２時間を要する。
担当者の研究室等	７号館４階　皆本研究室
備考	

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	家口　美智子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	時事問題に詳しくなり、自分の意見を自分の言葉で論理的に言える人材となるために、毎回意見発表をしてもらいます。 また英文を覚え、新聞を読むことにより、TOEIC のスコアをアップを目指します。自分の実力を上げるには、時間をたっぷり取って自分と向き合い、勉強することが大事です。求める人には担当教員も全力で与えられるものは与えたいと思います。
到達目標	＊論理的思考を身に付けることで、どんなトピックをふられても論理的に話せるようになる。 ＊TOEIC のスコアを最低 100 はアップさせる。 ＊激動する世界・日本社会の中でどんな人生を歩みたいのかを決める。
授業方法と留意点	１．①専門知識の蓄積と②論理的思考力の強化の２本柱で授業を進めるので知力のバランスを意識して取り組むこと。 ２．グループディスカッションでは積極的に発言すること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 以下の要領で授業を行う。 １．近況報告 ２．英文暗誦 ３．時事事項報告 ４．意見発表 ５．新聞講読 ６．グループディスカッション 【事前事後学習課題】 １．事前に相応の時間をかけて予習をする。 ２．指定されたテーマについてレポートを作成し、提出する。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	評価の対象　レポート，平常点 評価に対する重み　平常点（70%），レポート(30%)
学生へのメッセージ	＊将来何がしたいのかを考え、自分の人生の設計を立てましょう。 ＊この１年が人生で一番大事な時期となります。目標を立ててしっかり達成しましょう。
担当者の研究室等	家口研究室（７号館４F）
備考	授業の事前・事後に関わる学習時間は１５時間程度である。

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山口　真佐夫
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	どのように研究テーマを設定するかについて指導する。研究方法、資料収集方法についても指導する。以上の指導に基づき、各自でテーマを決め発表を行う。
到達目標	問題点を発見し、解決していく能力の獲得。
授業方法と留意点	演習では、各自が作業を行うことが多い点に留意しておくように。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	授業の中で指示された作業を必ず行うこと。特に発表の際には事前に充分準備をすること。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点、発表による総合評価 平常点 60%、発表 40%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館５階（山口研究室）
備考	指示された予習・復習・発表の準備には充分時間をかけ、学習効果を上げるようにすること。

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	兪　鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	いままで培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択し、担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査等を行い、研究手法や学問的思考を体得する。
到達目標	異文化への理解を深めることは外国語学部の学生にとって大変重要なことである。ことわざと慣用句はそれぞれの国で昔から使われてきたものなので、その国の風俗、習慣、物の見方、考え方などをよく反映するネイティブ的な表現である。このゼミでは、日本語と中国語あるいは他言語のことわざ、慣用句や慣用表現の発想・特徴などを中心に比較研究を行うことによって、広い視野から国際理解を深め、国際協調の精神を養うのを目指す。同時に研究能力を育成する。
授業方法と留意点	授業では、各自テーマを決め、収集した資料などを持ち寄り、それらをパソコンディスプレイで提示しながら他のゼミ生や指導教員に説明するとともに討議を行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【テーマ】: ことわざと慣用句の比較・対照研究 各授業において、前回はある言語のテーマを決め、意味と由来を調査した資料を提示する。次回は前テーマをめぐって他言語による検討をする。このローテーションで進む。 【事前事後学習課題】 指示に従って、文献・インターネット等で内容を調べて来る。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「言いたいこと」から引ける慣用句・ことわざ・四字熟語辞典	西谷裕子	東京堂出版
2	日英ことわざの比較文化	奥津文夫	大修館書店
3	よく似た英語と日本語の慣用句集	名和田進	文芸館

評価方法（基準）	プレゼン 30%、提出物 70%。
学生へのメッセージ	もっと知りたいという好奇心を持ちましょう。
担当者の研究室等	７号館３階(兪研究室)
備考	

科目名	文化演習Ⅰ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉村　征洋
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	国内外の映画・ドラマ・文学作品を英語で読解し、自分たちでアレンジを加えながらスクリプトを作成し、実際に演じる/演出して、オリジナルの英語ムービーを作成する。インプット（リーディング・リスニング）・アウトプット（スピーキング・ライティング）連動型の授業を行う。また 4 年次の卒業研究で扱うテーマを設定する。
到達目標	ただ漠然と対象作品を英語を読んだり、聞いたり、話したり、書いたりするのではなく、自分たちが演じる/演出することを想定しながら、英文をインプット・アウトプットできるようになる。
授業方法と留意点	グループでの作業が多くなるので、協調性と責任感を持って、授業に臨むこと。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 クラスメイトと協同で、30 分程度の英語ムービーを作成する。 【事前・事後学習課題】 毎授業で目標を設定し、その目標を達成するための事前・事後学習を行う。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	ショートムービー　50% グループワーク　30% 課題　20%
学生へのメッセージ	グループワークが基本になります。協調性を持って、ゼミメンバーとクオリティーの高い作品を完成させましょう！
担当者の研究室等	7 号館 3 階　吉村　征洋 研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	赤澤　春彦
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	日本の文化や歴史を中心に、各自テーマを設定し、報告、議論を通して論理的な議論の組み立て方や思考力を養う。 来年の卒業論文にむけて準備をする。
到達目標	論理的な思考に基づく分析と考察、ディスカッション、文章表現などの能力が身につく。
授業方法と留意点	設定したテーマについて報告と討論を行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ】 報告と討論を積み重ねることで、テーマにかかる理解を深め、卒業研究に向けて準備する。 【事前事後学習】 自分の発表時はもちろん、他者が発表する前に報告者のテーマに関する文献を読み議論に備える。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	ゼミ活動への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 4 階　赤澤研究室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浅野　英一
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	後期では、前期の活動で提起した社会問題について、様々な角度から調査し、その原因や解決方法を導くプロセスを習得する。その中から、自分にあった卒業研究テーマを見つけ出す。
到達目標	物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確コミュニケーション能力を持つこと。
授業方法と留意点	このゼミは、「夢」を持ちそれに向かって全力投球したい学生のゼミであることから様々な課題を自分自身で課すことになる。課題発見解決能力の開発や、現場ですぐに役立つ実践力を高めるプログラムを実践する。また、幼稚園、小学校、中学校の教員を目指す学生には教員採用試験の過去問題や面接対策の勉強会を行う。OB・先輩・外国人との交流が多く、年間３～4 回のゼミ合宿に必ず参加することを強く希望する。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 社会に貢献できる活動を実践することから、学外での活動が多い。 【事前事後学習課題】文献・インターネット等で内容を調べる。 計画に基づいた活動、活動発表、報告書を総合的に評価する。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ゼミ活動参加 40%、企画力 20%、コミュニケーション能力 20%、発表力 20%で判断する。
学生へのメッセージ	一歩前進ではなく、半歩前進でも、前に進んだことになる。小さな成功体験の積み重ねが、エネルギーになることを実感すると、挑戦することが楽しくなります。
担当者の研究室等	7 号館 5 階　浅野研究室
備考	

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	安達　直樹
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	文章（本や論文、記事）を正確に読み、要約し、他人に説明できるようにするための訓練。 スペイン語またはそれ以外のロマンス語の基礎知識があることが望ましいが、文献は英語、日本語のものを精読する。全体として取り組む基本書を数冊と、各自の研究のための文献（本・資料）を併読するが、どちらも丁寧に読み、要約、発表、議論などを行って、最終的にはレポートを執筆する。
到達目標	読書の習慣を作る。解釈し、要約し、説明・表現する力をつける。口頭でも文章でも、ある物事についての他者の研究・見解を、まとめ、それに対する自らの意見を構築し、発表すること。
授業方法と留意点	とにかく、毎日、論理的な書き物に触れること。日頃から、物事について思考を巡らせること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	テーマは、スペインを主とする南欧の歴史・文化・社会の研究。 具体的なテーマは、各自が強い関心を持ち、研究し続けられると思えるものであればよいが、例えば次のようなものが考えられる。 ・現代スペインの社会問題：カタルーニャの独立問題、自治州における言語政策・教育、移民問題など ・スペインやイタリアの歴史文化：ルネサンス期の人文主義、言語の問題（ラテン語から俗語へ、国語の誕生、国家の共通語のモデル）、印刷技術（情報革命）、宗教改革、都市の歴史など ・現代スペインの多様な文化、諸地域の固有の文化など とにかく文章を読み、要約し、発表する。
関連科目	スペイン語専攻の諸科目、言語科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	日ごろの受講姿勢（読書や議論、発表に対する意欲と準備の有無、精度）と発表およびレポート等の質による。 それぞれ５０％ずつを目安として判断する。
学生へのメッセージ	疑問を持つこと、思考すること、文章を読み、書くこと、自分の考えを論理的に説明すること。これらのことを日常とするように。
担当者の研究室等	7 号館 5 階　個人研究室
備考	

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	天野　貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	2 年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。
到達目標	『大学教授のように小説を読む方法』を読みながら、物語とは何か、という問題に取り組む。
授業方法と留意点	受講生による発表を中心に授業を進める。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	前期は、『大学教授のように小説を読む方法』を読みながら、物語とは何か、という問題に取り組む。 後期は、4 年生と合同の授業をおこなう。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学教授のように小説を読む方法	トーマス・C・フォスター、矢倉尚子訳	白水社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	担当範囲の発表・・・50% 授業中の発言・・・20% レポート・・・30%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館３F　天野研究室
備考	

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有馬　善一
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	テーマ「現代社会と人間」 現代社会の様々な問題を取り上げる。教科書を中心として、さらに参考資料を読み合わせ、ディスカッションやディベートを行うことを通じて、問題の本質に迫っていくことを目指す。 これと並行して、卒業研究レポートの準備を行う。テーマの選定、文献の蒐集と読解、またそれに必要なスキルを身につける。
到達目標	現代社会の問題やそこで生きる人間のあり方について、自分なりに問題意識を涵養する。 人前で分かりやすく自分の意見を発表する力を力を身につける。 必要な文献の蒐集と読解をする。
授業方法と留意点	ゼミ形式での発表とディスカッションを行うので積極的な参加が求められる。テーマ自体は幅広いものになるので、特にどのような問題を取り上げるかは、参加者と相談の上、決定する。 卒業研究レポートについては、ゼミでの勉強を踏まえて、各自でテーマを決めてもらうが、個別に課せられた課題はしっかりとこなすことが必要。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【テーマ・内容】 「現代社会と人間」 人間と社会そのものに対する近代的な見方がもはや成り立たなくなってきているのが現代社会の特徴であろう。そのような現代社会の様々な問題を取り上げる。例えば、科学技術に対する信頼の崩壊（原発事故)、経済成長と人口の増加を前提に組み立てられてきた社会の危機（低成長と人口減少)、人々の価値観や倫理観の変化（権威に対する不信感、無差別テロや理由なき殺人)、等々。 【方法】 資料を皆で読み合わせ、ディスカッションやディベートをする。また、その結果をまとめたレポートを書いてもらう。 個別に卒業研究レポートの準備を進める。文献の蒐集と発表をする。 【事前事後学習課題】 発表の準備、発表後のレポート作成 卒業研究レポートの文献蒐集と読解。さらにテーマの発表の準備 およそ 30 時間。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新版 大学生のためのレポート・論文術	小笠原喜康	講談社現代新書
2	これから「正義」の話をしよう	サンデル	早川書房
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	参加[貢献]度、発表[プレゼンテーション]（60%)、レポート（40%）で評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 4 階　有馬研究室
備考	事前事後学習におよそ 60 時間必要。

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	岩間　香
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	前期に引き続き、文化・美術の中から論文を講読する。また各自の興味のあるテーマに基づき、文章を書く練習をする。論文探索、資料調査、現地調査実習を行い、読み、考え、表現する力を養う。
到達目標	専門的な文章を書くときに必要な論文探索の方法を身につける。的確な言葉を用い、正しい日本語の文章を書くことができるようになる。学内外で責任ある社会人としての行動をとることができる。卒業研究レポートのテーマを見つける。
授業方法と留意点	１２月末までに卒業研究のテーマを決め、１月にその基本的な問題点などについて発表する。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 文化・美術 【事前事後学習課題】 事前：テーマに関して本・文献・インターネットで下調べをする。(90 分) 事後：学んだことを整理する。(90 分)
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	ゼミ活動での取り組みの姿勢（50%） レポート（30%） 発表の内容（20%）
学生へのメッセージ	ゼミが充実し、楽しい学習の場になるかどうかは、皆さん取り組み方で大きく変わります。ぜひ積極的にゼミ活動に参加してください。またゼミは小さな社会です。思いやりや助け合いも実践しましょう。
担当者の研究室等	岩間研究室（７号館５階）
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	上田　達
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	本演習は、卒業研究を進めていく上での準備段階と位置づけている。自分で「調べる」という営みを始動することができるように演習を通じて指導を行っていく。受講者自身が設定した調査主題に関連する文献の講読と、調査成果についての報告を行う。相互のディスカッションを通じて人類学的な「調べる」営みについて考えていき、卒業研究のための調査を指導することを目指す。
到達目標	主体的に「調べる」営みに取り組み、成果を適切な形でアウトプットする。
授業方法と留意点	前半は文献講読を行う。 後半は調査報告とディスカッション等に当てる。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	「人類学的に調べる」が本演習の主題である。文献講読とディスカッションが中心になる。 文献講読時は、演習の時間を有意義に使うために、授業の前に指定された文献を精読することが強く望まれる。成果報告時は配付資料の準備、その他関連資料の収集と提示など含めて一人 30 分程度の発表時間がある。発表者、コメンテイター、聴衆のいずれも発言することが求められるため、授業時間外に行う作業の質と量が問われる。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	発言や質問など、演習への主体的な取り組み（20%）、課題（50%）、口頭発表（30%）に基づいて行う。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 5 階上田研究室
備考	レポート等の提出課題は評価を記して返却する。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浦野　崇央
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	２年次までに培った基礎力をもとに、自身が取り組むテーマを検討する。このゼミにおいては、主に現代の日本や東南アジア世界をめぐる社会事象や社会現象を取り上げることとしたい。 具体的には、本格的な文献検索や論文読解、資料調査、現地調査実習などを行い、研究手法や考え方を体得する。 最終成果として、後期末に「３年次レポート」を作成、提出する。
到達目標	研究に対する考え方の整理を通じて、客観的な眼差しがもてるようになる。 また、ゼミ内外の人びとと接することを通じて、「気くばり」「目くばり」「心くばり」ができる人間になることを目標とする。
授業方法と留意点	授業では積極的に発言を行い、切磋琢磨できるような刺激的な環境を作っていくよう努力すること。 なお、４年ゼミ生との合同ゼミ合宿（秋）および１月に行われる４年ゼミ生による「卒業論文発表会」への参加を必須としている。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 各自がテーマを設定し、個別発表を行う。その際には、レジュメの作成法や研究発表の仕方等についても学ぶ。後期末には、一年間の総決算として、「３年次レポート」を作成する。 ちなみに、2016 年度生が取り組んだテーマは次の通り。 「日本におけるムスリム」「アナログからデジタルへと変化するファッション雑誌」「２番打者とは―犠打は必要か不必要か―」「人と車はどのように共存していくべきか」「日本の家族」「イギリス・フランスと比較した日本のウエディングケーキ」「『睡眠』による身体への影響」 【事前、事後学習課題】 文献資料・インターネット等を活用し、自身の研究を深化させる。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「研究」を進めるために―研究資料ガイド 2017―	浦野崇央編	摂南大学外国語学部･浦野ゼミ
2	浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル	浦野崇央編	摂南大学外国語学部･浦野ゼミ
3			

評価方法（基準）	ゼミでは、積極性が特に重視されます。そこで、成績評価については、ゼミ討論への積極的な参加状況(50%)、「３年次レポート」の成果 (50%) により、総合的に判断します。
学生へのメッセージ	ぜひ、楽しんで「研究」に取り組んでいきましょう。「研究」は、「お勉強」とは違って、必ずや、皆さんに満足感や達成感を与えるものとなることでしょう。
担当者の研究室等	７号館４階（浦野研究室）
備考	

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大原関　一浩
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	インターネットの普及やグローバル化によって、日本の企業は日々激しい変化に対応することを迫られています。景気が良かった頃のやり方をくり返すだけでは十分ではありませんし、外国の人々と取引し、働く機会も増えています。こうした状況の中、言われた仕事をこなすだけではなく、自分で考え、分析し、意見を伝えられる人材はどの分野でも必要とされています。そこで役立つのが、リサーチ、プレゼンテーション、ディスカッションの力です。前期に学んだスキルと知識を使い、自分が関心のあることについて問題を設定し、それについて調べ、自分なりの意見を効果的に表現するための訓練をさらに積んでいきます。
到達目標	① 問題を設定し、それについて調べ、自分なりの意見を効果的に表現できる技術を身につける。 ② 効果的なアカデミック・コミュニケーション能力を身につける。 ③ 課題を発見し、卒業研究で取り組むテーマに関する基礎的な知識を得る。
授業方法と留意点	① 協調性と積極性をもって、活動に参加すること。 ② 課題の内容について、わからないことがあったら質問すること。 ③ 担当の課題は責任をもってやること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	[授業テーマ・内容・方法] 文献の輪読、発表、議論を中心に進める。 [事前事後学習課題] ① 各自の役目（質問の用意、議論の司会、規定どおりのレポート作成）を果たすこと。 ② 研究ノート（初回に説明）は規定の分量を、定期的に書くこと。 [予定] ・夏休み明けに仮トピック+読書リストを提出 ・後期～春休みまで、計画に従って読書とノート・テーキングを進める 【事前事後学習】 課題、発表の準備、レポートの作成など合計約 30 時間。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新時代アメリカ社会を知るための 60 章	明石書店	
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への貢献度 50% 課題やレポート 50%
学生へのメッセージ	このゼミは多様な見方に価値を置くので､「こんなことを言ったら笑われる」という心配はないです。お互いの話に耳を傾け、必要以上に批判的にならず、助け合おうという姿勢を重視します。
担当者の研究室等	大原関研究室（7 号館５階）
備考	

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小川　豊生
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	文化演習Ⅰをうけて、さらに各自の研究テーマを深め、研究の楽しさと意義を体得する。 ひきつづき、文献探索や論文講読、資料収集、現地調査等を行い、研究手法や考え方、現地での調査法を習得する。古代から現代にわたる日本の文化を中心として、諸外国との比較を通じて、そのさまざまな特質をあきらかにすることが目的であるが、同時に、発表資料の作成や発表の仕方、発表後のレポート作成など、実践的なリテラシーの習得も大切な目標である。
到達目標	課題発見能力、発表力、聞く力、文献探求能力、書く力を総合的に身に着ける。
授業方法と留意点	オリエンテーション、図書館の利用と文献検索、文献目録の作成方法、地形図に関する基礎作業、統計資料の収集法、統計資料の分析、グラフ・表の作成法、論文・レポートのまとめ方、文献研究発表などについて解説していく。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	授業テーマ】　日本文化をめぐる諸問題 【内容・方法】 各テーマに関する文献などを読解し、問題点や研究方法を考える。大まかには以下の順序で行う。 １　導入 ２　研究の方法と目的について ３　発表テーマの設定 ４　全員の発表と質疑応答 ５　まとめのレポート作成 【事前学習】 ・文献・インターネット等で配布資料について重要語や内容について調べてくる。 ・発表担当に向けて準備する。 【事後学習】 ・各自の発表内容の推敲・錬成。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	卒業研究レポートの完成度（８０％）と、授業に取り組む姿勢（２０％） に基づいて評価します。
学生へのメッセージ	知は力なり。
担当者の研究室等	７号館４階（小川研究室）
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	門脇　薫
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	【授業概要・目的・到達目標】 外国人を対象にした「外国語としての日本語教育」について考察します。 単に「ひらがなをどのように教えるか」というような教授法だけでなく、広い意味の「日本語教育」としてとらえています。例えば次のようなことも含まれます。 ＊日本語学習者の言語習得 ＊日本語の語用例からの日本語の文法や語彙の分析 ＊外国人との接触場面での異文化間コミュニケーション ＊海外における日本語教育 ＊在住外国人や留学生に関すること　　等々です。 海外や日本で起こっている様々な動きを、「日本語・日本語教育」そして 自分自身に関連づけて考えることができるようになることを目指します。
到達目標	＊専門的な知識を得る。 ＊文献を批判的に読んで考察し、自分の意見をまとめて表現することができる。 ＊テーマについて、レジュメを作成し、プレゼンテーションができる。 ＊アカデミックライティングのスキルを身につける。 ＊ゼミの活動を通して、コミュニケーション能力を向上させる。 ＊卒業研究のテーマの設定を行う。
授業方法と留意点	【授業方法と留意点】 前半は、教員が指定した日本語・日本語教育・異文化間コミュニケーションをテーマにした文献を読み、知識を増やし、内容についてディスカッションを行う。更に考察を深めレポートにまとめる。後半は各自が設定したテーマについての発表および内容についてディスカッションを行う。授業後に考察を深め、レポートにまとめ、４年時の卒業研究につなげていく。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 毎回担当者を決め、文献を読み、レジュメを作って発表する。 発表者は、資料収集、情報収集をしてレジュメを作成する。 発表後は、内容についてディスカッションを行う。 【事前事後学習課題】 授業の前に文献を読み、予習シートをまとめる。 授業後に考察した内容についてレポートを書く。 ゼミ生全員のレポートをお互いにチェックしてコメントを書く。
関連科目	「日本語教授法」「日本語学」「日本語教育実習演習」
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	文献資料、プリントを配布する		
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	授業で指示する		
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度(10%)、発表及びその他課題（30%）、レポート（60%）によって総合的に評価する。
学生へのメッセージ	友達とのコミュニケーション・外国語学習・海外留学等々、様々なこれらの基になっているのは言語（日本語）です。また、大学在学中や社会人になってから、外国人（日本語を母語としない人）に日本語や日本文化について聞かれる場面はあると思います。このゼミでは、日本語は日本語教育について、皆で一緒に深く考えてみたいと思います。
担当者の研究室等	門脇研究室（7 号館 4 階）
備考	

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	神崎　舞
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	舞台芸術（演劇、ミュージカル、サーカス、ダンスなど）の映像資料の鑑賞や、作品のテキスト及び関連資料の輪読を通して、さまざまな舞台芸術に親しむ。また、研究対象とする作品や劇団が生まれた社会的・文化的背景に関する知識の習得も目指す。
到達目標	・舞台芸術について、基礎的な知識を習得する。 ・卒業研究のテーマを定める。
授業方法と留意点	・毎回の授業では、積極的に議論に参加すること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ】 舞台芸術研究入門 【内容・方法】 ・舞台芸術作品あるいは劇団などについてリサーチし、発表及び小レポートとしてまとめる。 ・プレゼンテーションや議論を重ねることで、卒業研究のテーマを定め、レポートとしてまとめる。 ・すべてのレポートは最終的に１冊の『ゼミジャーナル』として製本する。 【事前・事後学習課題】 プレゼンテーションやレポートの準備など。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（授業に取り組む姿勢など）：50% レポート：40% プレゼンテーション：10%
学生へのメッセージ	日頃から舞台芸術に対する関心を持つようにして下さい。そして受講者が主体となって、楽しく活気あるゼミを作っていきましょう。
担当者の研究室等	7号館５階　神崎研究室
備考	レポートの場合は返却時に、プレゼンテーションの場合は終了後にフィードバックを行う。

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤　一章
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	担当教員の指導のもと、本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査等を行い、研究に必要な手法や考え方を体得します。
到達目標	自分の関心のあるテーマについて文献を調べ、それを整理し、発表することができるようになる。
授業方法と留意点	「ことば」に関する資料を読みながら、基本的な知識を身につけていく。その際、全体で意見を交換・共有しながら、各トピックに関する理解を深めていく。最終的に、自分の最も関心のあるテーマを絞りこみ、卒業研究へとつなげていく。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】　言語学演習　【事前事後学習課題】文献・インターネット等で内容を調べてくる。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	授業への積極性　50% 授業での発言　20% 課題　30%
学生へのメッセージ	これから２年間、一緒に頑張っていきましょう。
担当者の研究室等	後藤研究室（７号館５階）
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤　安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	・資料調査、分析、プレゼンテーション、わかりやすい文章にまとめる、といった体験を通して、研究手法や考え方を学びます。 ・グループやペアでの活動を通して、卒業後にも生かせる、人との関わり方のバリエーションを増やします。
到達目標	・多面的に物事を見る、もしくは見ようとする姿勢を身に着ける。 ・想定する聴衆にとってわかりやすい情報の構成や見せ方を工夫できるようになる。
授業方法と留意点	・実物を観察し、触れ、また何かを作る、といった作業を体験したあと、言語化する練習をします。 ・新聞やニュースの記事（日本語・英語）、本などを用いて、調査・発表・議論をします。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 言語・文化、芸術、コミュニケーションなどの分野に関する研究 【事前事後学習課題】 授業で扱ったテーマについて、自分で直接現場に行って調べたり、インターネットとは違う情報源を探してみよう。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	・授業での協働作業　　３０％ ・プレゼンテーション　　３０％ ・レポート　　４０％
学生へのメッセージ	好奇心を覚醒させて、何でも見て、体験して、自分の感性を鍛えよう。
担当者の研究室等	7 号館 4 階　齋藤研究室
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	柴田　陽一
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	地理的イメージを中心に，各自がテーマを設定し，報告・議論を通して論理的な議論の組み立て方や思考力を養う。それとともに，全員で課題文献を読み，基礎となる知識・視点を共有する。
到達目標	論理的な思考に基づく分析と考察，ディスカッション，プレゼン，文章表現の能力を身に付ける。資料の探し方や使い方を身に付ける。
授業方法と留意点	各自が関心あるテーマについて報告し，議論する。並行して，全員で課題文献を読み，基礎となる知識・視点を共有する。学期末には，その時点までの報告内容をまとめたレポートを書く。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ】 地理的イメージとは何か。それと関連する研究内容とは。基礎となる知識・視点の共有。資料の探し方・使い方。 【事前事後学習】 十分に報告準備を行うこと。課題文献を読み，その要点をまとめること。学期末には，報告内容をやや長めのレポートにまとめること。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（報告内容，レポート，参加態度）100％
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 5 階（柴田研究室）
備考	

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	杉浦　秀行
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	文化演習Ⅰに引き続き、米国の社会学者 Harvey Sacks たちによって創始された会話分析（Conversation Analysis）の方法論について、基本的な考え方や分析手続き・分析方法を、講義とデータ・セッション（実際のデータを見ながら議論する）を交えながら学んでいく。また、並行して、研究を進めていくための基本的な姿勢・態度、論文・レポートの執筆法、データの取り扱い方等についても随時触れていく。
到達目標	・会話分析の基本的な考え方や分析手続き・分析方法を理解する ・会話分析の方法論に基づき、実際の会話データを使って、基本的な構造を分析できる ・研究を進めていくための基本的な姿勢・態度、論文・レポートの執筆法、データの取り扱い方等に関する基本的な知識を身に付ける
授業方法と留意点	授業では、講義とデータ・セッション（実際のデータを見ながら講義で取り上げられた現象をみんなで分析し、議論する）を交えて進めていきます。特に、データ・セッション時には、議論に積極的に参加してください。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業テーマ： 会話分析の基礎を理解する 内容： 1. 会話における語りの構造・組織について 2. 発話の組み立て・デザインと成員カテゴリーという考え方について 3. 文法を相互行為から見る 4. 教室空間における相互行為（制度的場面の会話分析）について 方法： 講義とデータ・セッション（実際のデータを見ながら講義で取り上げられた現象をみんなで分析し、議論する）を交えて行います。また、講義の一部については、担当学生に教科書の指定範囲について発表してもらいます。 事前、事後の学習課題： ・指定教科書を事前に読んだり、授業後に読んで復習する ・データ分析の課題に取り組んでもらいます
関連科目	文化演習Ⅰ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	会話分析の基礎	高木智世他	ひつじ書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎から分かる会話コミュニケーション	高梨克也	ナカニシヤ出版
2	会話分析基本論集	H. サックス他（西坂仰　訳）	世界思想社
3			

評価方法（基準）	期末レポート：50% 課題：30% 授業参加度（ディスカッション・発表を含む）：20%
学生へのメッセージ	会話分析は、言葉の形や意味そのものの分析ではなく、私たちが言葉を使って何をしているか、という切り口から見ていきます。ありふれた（日常）会話の分析を通じて、いっしょに新しい発見をしていきましょう！！
担当者の研究室等	7号館5階　杉浦研究室
備考	

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鈴木　大介
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	言語に関する身近なテーマを扱った幅広い英文を題材に、英語について、広くは言語について様々に考える機会を設けます。
到達目標	・言語に関わる諸問題について理解を深めつつ、批判的に読むことも目指します。 ・英語の基礎力や教養に加え、思考力や課題発見能力、解決能力、表現力を育成します。 （これらの能力は、就職活動をする上で、さらには社会で活躍するための基礎となるものです。）
授業方法と留意点	自ら進んで課題を設定し、その解決への方略の試行錯誤を通じて論理的に解決する、さらには相手にわかりやすいように伝えるというような実践の場を提供します。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	・アカデミックな題材が中心ですが、このプロセスの中で、最終的に学生自らが主体性をもって卒業研究に取り組めるようになればと思います。 ・（人間の）言葉の不思議、法則の存在、伝達のための役割等、身近なトピックを扱います。 ・なぜこの言葉を使うのか、他の言葉ではいけないのか、他にどんな言葉が使えるのか（どのような違いがあるのか）等、言葉についての素朴な疑問について議論することができたらと思います。 ・フィールドワークで外国人観光客が多く訪れる場所へ出向きます。例えば、インタビューや質問紙（調査）のため京都に何回か調査に出ます。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	ゼミおよび課題への取り組み（100%）
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館５階　鈴木研究室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	住吉　誠
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	前期に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに、英語の語法や文法についてさらに深く学ぶ。基本的な文法事項も再確認しながら、英語の実証的な研究の一端に触れる。適時担当を決めて、英語の語法文法や英語の変化について発表を行う。4 年次の卒業研究に向けてテーマ設定と資料収集を行う。
到達目標	本格的な文献探索や、論文講読、資料調査等を行い、研究手法や考え方を体得する。英語学に関する簡単な文献がある程度時間をかけながら理解できるようになる。英語の基本的な文法事項を整理確認する。また、前期で学習した内容を踏まえ、英語のさまざまな表現に興味を持ち、その成り立ちや意味、変化について辞書や文法書・語法書などで調べて発表できるようになる。
授業方法と留意点	文献の輪読や発表、プレゼンテーションを行う。そのような学びを通じて、4 年次の卒業研究に向けてテーマ設定と資料収集を行う。日常使われる英語の表現や語法に関心をもつことが望まれる。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	テーマ：　現代英語語法文法研究、英語の変容研究 内容：現代英語の語法や文法について学ぶ。英語の変化にも注意しながら、これまでの「定説」と違う例などがある場合は、なぜそのような形が使用されているのかといったことを考えながら、 方法： 映画の英語や、インターネット上で使用される英語、新聞などの英語から、現代英語の実態を明らかにする実例を探して、討議する。またそのような作業を進めるうえで、基本的な英文法の事項を習得しておくことが前提であるので、毎回英語の文法語法について復習を兼ねたエクササイズを行う。 事前・事後学習課題 配布された文献を読みこんでくる。また、グループでの発表のための準備。エクササイズの予習、復習など。総事前・事後学習課題は、発表の準備などを含め３０時間とする。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	授業中のプレゼンテーション（30%） 授業中の担当発表（20%） 卒研に向けた準備期末レポート(50%)
学生へのメッセージ	ちょっとした言葉の使い方に疑問を持ち、「なぜ」を追求する楽しさを実感してください。
担当者の研究室等	７号館４階　住吉　誠　研究室
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田浦　アマンダ
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	Theme: Tourism , Hospitality and Australian culture We will look at on the job situations for cabin crew, airline ground staff and hotel staff, do tour-guiding and discuss the importance of good service. Australia will also be a focus for tourist destinations.
到達目標	Students will attain better reading, and writing skills, with active study and increase speaking and listening skills in the class.
授業方法と留意点	Regular on-time attendance, a willingness to participate in all organised tutorial events, reading outside class for the reading marathon are the key to a good grade.
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	(First term) We will concentrate on hospitality topics, and building up reading skills in the first term from newspaper articles and the textbook. Youtube will be used for study at home to build up vocabulary and listening skills. Thesis topics will be decided towards the end of this term, with research in the library encouraged. We will also study the play to be attended during the first term, looking at four skills - speaking, listening, reading and writing to build up those skills. (Second term) Academic writing skills will be studied to help students formulate their ideas on a thesis topic and tourism and travel will be the basis for weekly topics.
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson
2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Attendance, oral presentations, reading and thesis will form the basis for grading along with enthusiastic 100% participation in events organized by the teacher. Be ready to join in the reading marathon, speech/recitation contest, and drama events. You will undertake a research project for your thesis in 2nd term.
学生へのメッセージ	English only will be used in class. Please come ready to use English, read in English, write in English, and help others to stay in English for every class. Don't be afraid of making mistakes in English. It is part of the learning process. Just keep on trying, and studying outside class on a daily basis.
担当者の研究室等	７号館５階　田浦研究室 (Building 7, 5th floor, Koala poster on the door)
備考	

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中　悟
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	《近現代地域研究》 各人の興味や関心を出発点として、論文を書くための手順を段階的に身に付けていくことを最終的には目指す。 第一に、他の人にも興味や関心を持ってもらえる「テーマ」を設定する。第二に、そのテーマに関連する基礎的な情報を集め、すでにある「先行研究」を探し、未解決の「問題」に的を絞る。第三に、そのような問題を考えるための「材料」（データ・資料）を集める。そして第四に、それらを使って、言える範囲で「論理的に」結論を出していく。 上に挙げたようなプロセスを実践的に試行錯誤していくためのゼミにしたいと考えている。
到達目標	演習において、様々な興味関心に基づく議論を理解した上で、ポイントを整理しながら生産的な質問やコメントができるようになることを目指す。
授業方法と留意点	学生主体で進行することを原則とし、教員はそのサポートを適宜行なう。 各人の興味・関心に基づくブックレビュー・研究計画発表・調査報告などを行ない、その場で相互に意見を交わすものとする。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	原則として隔週で発表を分担し、意見交換を行なって研究の進展を促す。 発表に当たっては、事前にアドバイスを受け、十分な準備を心がけること。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（発表内容・意見交換の場での貢献・その他課題等）100%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 4 階　田中研究室
備考	事前事後学習時間は、総計で 60 時間を目安とする。

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中　秀毅
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	２年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに、研究分野を選択します。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。
到達目標	１．英語学・言語学に関する専門知識（特に、統語論と意味論）を身につけ、専門的な考え方や研究手法に慣れる。（継続） ２．言語学的な視点から学校文法をとらえ直す。（継続） ３．英語語彙力を強化する。（継続） ４．パワーポイントを用いて効果的なプレゼンができる。 ５．言語コーパスを活用して、必要な言語データの収集ができる。 ６．卒業研究レポートを念頭に置いて、関心のある研究テーマを明確にする。
授業方法と留意点	①専門知識の蓄積、②論理的思考力の強化、③表現力・伝達力の強化、の３本柱で授業を進める。 留意点は以下のとおり。 １．①～③の知力のバランスを意識して取り組むこと。 ２．指定箇所を相応の時間をかけて予習して授業に臨み、授業中のディスカッションを通じて疑問を解決できるようにすること。 ３．グループディスカッションでは積極的に発言すること。 ４．積み上げ式に学習するので復習には十分時間をかけ、わからないことは早めに質問すること（ほかの受講生にも有益なのでできるだけ授業中に設ける質問時間を活用してほしい）。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 １．英語学・言語学の専門知識と研究手法の習得（文化演習Ⅰの続き） ２．学校英文法の洗い直し（同上） ３．英単語の成り立ちの理解（同上） ４．パワーポイントによるプレゼンスキルの養成 ５．言語コーパスを活用したデータ収集法の理解 ６．研究論文の構成と論文スキルの養成 【事前事後学習課題】 １．専門用語の辞典を適宜使用して専門分野の理解を深める。 ２．指定箇所の予習・復習 ３．同上 ４．前期の期末レポートの内容をパワーポイントを用いて発表する。（プレゼン） ５．言語コーパスを活用して必要な言語データを収集する。 ６．研究論文を通読し、構成の理解を深める。（期末レポート）
関連科目	卒業研究Ⅰ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	論文の教室	戸田山　和久	NHK ブックス
2	語彙力養成の総合英語	Joe McKim	英潮社
3	ビジュアル英文法	黒川　裕一	南雲堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Collins コウビルド英英辞典（Collins COBUILD Advanced Learner's Dictionary）		HarperCollins UK
2			
3			

評価方法（基準）	以下の各項目について、指定された割合で総合的に評価する。 ・期末レポート 60% ・プレゼン 20% ・授業態度（予習状況、質問への回答、積極性など）20%
学生へのメッセージ	本科目は４年次の「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎になる科目です。土台が安定しなければ、充実した卒業研究ができないので真剣に取り組んでください。
担当者の研究室等	田中（秀）研究室（７号館４階）　※スチューデント・アワー（後期）は月曜５時限です。
備考	１．英語の分析には英英辞典が不可欠なので、下記の英英辞典が電子辞書に入っていない人は「Collins コウビルド英英辞典」（参考書欄を参照）を購入すること。電子辞書については、学習用に適した辞書を内蔵している場合に限り使用を認める。液晶画面の小さいものや旅行用のポータブルタイプは不可。 【英英辞典のリスト】 ・ロングマン現代英英辞典（Longman Dictionary of Contemporary English） ・オックスフォード現代英英辞典（Oxford Advanced Learner's Dictionary） ２．欠席は授業に出席しなかった場合（公欠・忌引き・病欠を含む）のすべてを対象とする（ただし、やむを得ない事情と判断できる欠席については考慮するので申し出ること）。欠席回数の限度については初回授業で説明するので必ず確認すること。欠席した場合には、次回の授業の前日までに課題や配布物について確認し、自分の責任で補完しておくこと。 ３．遅刻は本人の授業理解度を低下させ、ほかの受講者の集中力を阻害するので避けること。また、携帯電話が授業中に鳴ると授業の進行の妨げになるので電源は授業開始までに切っておくこと。 ４．配付資料の読み込みなど含めて、事前・事後学習にかける総学習時間を 15 時間程度とする。

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	手代木　功基
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	地域活性化、環境問題、世界遺産、観光など、地域や地理学と関連するテーマについて各自が関心を深め、卒業論文にむけた準備作業を行います。
到達目標	「研究」の遂行に必要な問題の発見力、データの収集・分析力、文章の構成力、執筆能力、全体のマネジメント能力などを身につける
授業方法と留意点	研究を遂行していくための基礎（研究手法・ルール・コツ等）についてはそれぞれ解説し、それをもとに文献購読やフィールドワークを実践していきます。 また、テーマに関するプレゼンテーション及びディスカッションを参加者全員で行います。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業のテーマ】 地域を知る・地域に学ぶ 【事前事後学習】 関心のあるテーマについて、十分に情報収集をする。また、テーマや研究手法について授業外でも積極的に学び、自らの研究活動に役立てる。学習時間は６０時間以上を目安とする。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加状況（議論での積極性等）（50%）と、種々のアウトプット（プレゼンテーションの内容、レポート等）（50%）によって評価する
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館５階　手代木研究室
備考	

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥居　祐介
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	アメリカ合衆国の文化、歴史についての卒業論文（研究レポート）を書くゼミです。各自、3 年次終了時点で合計 12000 字(40 字 x30 行で 10 ページ)以上のレポートを書くことを目標にします。4 年次には、さらに研究を積み重ねて、これらのレポートを卒業論文に発展させることを目指します。 各自の研究テーマは、アメリカ合衆国に関するものであれば幅広く選ぶことができます。過去のゼミ生に多いテーマは、映画や映画俳優について、音楽やミュージシャンについて、野球などのスポーツについてのものです。こうした一見カジュアルな題材を通じて、アメリカ社会の政治的、社会的、歴史的な問題点を考えるのが文化研究です。
到達目標	前期からの通算で、合計少なくとも 12000 字以上のレポートを提出すること。
授業方法と留意点	・各自、自分のテーマに基づいた資料を手に入れ、読み、小さなレポートを書き、それをクラスに持ち寄って話し合う、という活動を繰り返します。 ・毎週文書を PC で作成し、学内ネットワークや電子メールを使ってやりとりをします。PC の基本操作は必須であり、自分の PC を所有しているか、好きな時に使える PC を学内および自宅に確保しておく必要があります。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 これまでのゼミ生の研究テーマには次のようなものがあります。 「ディズニーアニメを巡る人種差別論争：『ポカホンタス』『アラジン』を中心に」「ハリウッド映画が描く公民権運動：『ロング・ウォーク・ホーム』を例に」「映画『インデペンデンス・デイ』(1996)と多文化主義」「ラテンポップの舞台裏：1990 年代のサルサ音楽ブームについて」「アメリカ独自のモータースポーツ NASCAR の歴史」「アメリカにおけるラグビーの歴史」「ジャズ・トランペッター、ルイ・アームストロングとマイルス・デイビス」「初期ハリウッドの日本人スター早川雪洲」「『白雪姫』　―　グリム童話からディズニーアニメへ」「黒人メジャーリーガー、ジャッキー・ロビンソンとアメリカ社会」「チャーリー・チャップリンと赤狩りの時代」「マイケル・ジャクソンと人種問題」「黒人だけのプロ野球、ニグロ・リーグの歴史とその遺産」「黒人ブルースと白人ロックミュージシャンたち」 【事前事後学習課題】 資料を読み、文章を書くことを日々の習慣にすること。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ゼミ活動への貢献(50%)+３年次終了時点までの小レポートの総量と質(50%)
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 3 階 鳥居研究室
備考	

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中島　直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	・３年次前期までに培った修学上の基礎力や学術的な関心に基づいて、ビジネスと文化・社会の関係を中心に具体的な事例とともに研究していきます。 ・文献・資料あるいは現地で調査し、それを分析する力や、グローバルとローカルの両方の観点から論理的に考える力を養うことなどを授業目的とします。
到達目標	主にビジネスの観点から、国際社会や異文化に関する理解を深めることと、それに基づいて４年次の卒業研究につながるような研究テーマを見つけることを目標とします。
授業方法と留意点	・新聞やビジネス誌の記事などを用いて、調査・発表・議論を軸とした演習形式で行います。 ・積極的かつ協調的な取り組みを心がけるようにしてください。
授業テーマ・内容･方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 ・テーマについては、「異文化ビジネス論」や「地域と国際ビジネス」の領域を中心にしながらも、ゼミ生の関心事も考慮して決めていきます。 ・まずは、文献・資料あるいは現地で調査し、それを客観的に分析します。次に、発表、グループディスカッション、プレゼンテーションなどを行いながら、仲間との議論を通じてそのテーマの理解を深め、問題点とその解決策を探っていきます。 【事前事後学習課題】　文献・資料の収集、テーマに関する要点や研究の手法の整理など。
関連科目	文化演習Ⅰなど
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	・発表、グループディスカッション、プレゼンテーションを中心とした授業に取り組む姿勢（６０％） ・課題やレポートなど（４０％） を合わせて評価します。
学生へのメッセージ	明朗で、行動力と協調性のある学生の育成を目指します。
担当者の研究室等	７号館４階 中島研究室
備考	

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中西　正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	Web には，解説つきの写真や動画を誰もが投稿できるサイトがある（Google マップや YouTube など）。当ゼミでは手元の写真のうち公開可能なものに日本語や外国語で案内文を作成しそれを投稿する活動を行う。授業では，各自が持ち寄った日本語文の内容や外国語への翻訳が適切かどうかを全員で検討しながら完成度を高める。撮影地は通常自由だが，ゼミによる観光地取材も適宜行う。 。
到達目標	日本の歴史や地理に関する情報について，書籍や Web で得る情報と，現地での調査で得られる情報の違いを知ることができる。観光情報の翻訳作業では，必要な情報をできるだけ分かりやすい外国語に翻訳する技術を身につけることができる。また，外国人観光客に対する観光動向の調査活動を通じて，外国語によるコミュニケーション能力の向上が期待できる。
授業方法と留意点	個人またはグループでテーマを決め，予め書籍や Web などで調査したうえ現地へ行って写真やビデオの撮影を行う。さらにそれを素材として観光案内のための原稿を作成して授業で発表，必要な修正を加えて動画に編集したり Web サイトに登録するなどの作業を行う。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	後期は，前期のゼミで身につけた技術や経験を活かしながら，ビデオカメラによる撮影を現地で行い，これをつかった映像作品の作成を課題とする。また，外国人観光客へのインタビューも課題の一つとしたい。
関連科目	日中観光文化と通訳法
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（60%），レポート，プレゼン（40%）をもとに総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	中西研究室（7 号館３階）
備考	

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西川　眞由美
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	2 年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。
到達目標	本授業を受けることによって、コミュニケーションとは何かを理論的に学ぶことができます。 さらに、テキストを正確に読み、理解し、それについて多面的に考察し、自分の意見を述べることができるようになります。 実際に何度も練習を行うことによって、コミュニケーション能力を高めることもできるようになります。
授業方法と留意点	毎回担当者を決めて発表をします。担当者だけでなく、参加者全員が予習範囲のテキストをしっかり読んで理解して授業に臨んでください。 コミュニケーションな方法だけでなく、その内容が大事です。日ごろから情報や知識の獲得を心がけてください。 英語の文献も読みますので予習をしてきてください。 毎回、スピーチをしてもらいますので準備をしてきてください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 コミュニケーションの取り方を理論的・実践的に学びます。最も大切なのは、相手の気持ちに配慮し、伝えたいことを正しくきっちり伝えることです。 そのためには何度も練習しなければなりません。 そこで、読んで考え、聞いて話すことを繰り返し行うことが決定的に重要になります。 【事前事後学習課題】 文献・インターネット等で内容を調べてくる。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	平常点　４０％、　課題・発表　３０％、　期末レポート　３０％
学生へのメッセージ	失敗しながらも楽しくコミュニケーションを学びましょう。
担当者の研究室等	７号館４階西川研究室
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	わかりやすいコミュニケーション学	岡野　雅雄	三和書籍
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本　正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	《世界の中の日本語・日本文化》 日本文化や日本語など、「日本」について見つめ直す作業をする。 いったい日本とは、日本文化とは、日本語とは何なのか、考えてみることで、各自の関心ある言語やテーマについて、新たな視点を持つことを目指す。
到達目標	各自の関心あるテーマについて資料収集ができる。考えを整理し、報告できる。
授業方法と留意点	学生主体で行う。各自が関心あるテーマに基づいて報告・発表し、意見交換する。 活発な意見交換を期待する。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	「日本」をキーワードに、日本語や日本文化、文化比較などをテーマに考察する。 およそ隔週で報告を行い、毎週他の学生の報告について積極的な発言が求められる。 十分に報告準備を行うこと。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（報告内容、参加態度、課題）100％
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館４階
備考	事前事後学習時間　計６０時間

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林田　敏子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	2 年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。
到達目標	先行研究を網羅（整理・批判）した上で、問いを立てる。
授業方法と留意点	自らテーマを設定し、個別発表・討論をおこなう。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 文献収集、読解、レジュメの作成方法、討論の仕方等を指導する。 【事前事後学習課題】 授業中に適宜指示する。事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間。
関連科目	文化演習Ⅰ
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	発表内容（テーマの掘り下げ方・発表の仕方など。40%）、討論（積極的に発言しているかなど。20%）、レポート（40%）で評価する。
学生へのメッセージ	できるだけ多くの文献を読み、積極的にフィールドワークに出かけることで、広い視野をもって研究に取り組んでください。
担当者の研究室等	7 号館 4 階　林田研究室
備考	研究発表に関するフィードバックは発表時、レポートに関するフィードバックは第 15 回目の授業のなかで実施する。 西洋の歴史（世界史）に関する予備知識は必ずしも必要ではない。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	フーパー　トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	The purpose of this course is to introduce language and study skills that will allow students to discuss their ideas openly and to write an academic paper in English. Additionally, students will learn how to do a close reading of comics in order to understand how comics can provide insight into social issues.
到達目標	These are the goals for this course. You will: ?Improve your reading stamina and comprehension. ?Improve your note taking skills. ?Learn how to plan and write well-organized reports. ?Learn how to use technology to express your ideas. ?Actively discuss your ideas.
授業方法と留意点	Students will do weekly comic readings. After completing their readings, they will write a brief report based on the topic of the week. Each week will feature a different social issue. These reports will be discussed online and in-class. In discussions, an emphasis will be placed on students making observations based on evidence and on asking questions that reveal new ways of approaching the material.
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	We will be reading and analyzing comics in this seminar. The focus will be on American comics, but comics from other cultures may also be considered. We will look at how comics reflect the views of their creators on various social issues. Topics that we will cover will include race, gender, and class. By the end of this semester, students will be asked to decide the topic of their graduate thesis. Week 1: Seminar Preview Week 2: Culture and Comics Week 3: Culture and Comics Week 4: Culture and Comics Week 5: Race and Comics Week 6: Race and Comics Week 7: Gender and Comics Week 8: Gender and Comics Week 9: Class and Comics Week 10: Class and Comics Week 11: Introduction to Literature Reviews Week 12: Literature Review Writing Week 13: Literature Review Writing Week 14: Literature Review Presentations Week 15: Graduate Thesis Preview
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Curiosity (in-class questions) 15% Knowledge (in-class answers) 15% Participation (online posts) 15% Expressiveness (words written) 15% Ideas (mind maps) 15% Reading Journal (homework) 10% Final Report 15%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	Building 7, 3rd Floor, フーパー研究室
備考	

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	北條　ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	グローバリゼーションと移民をキーワードに、基本文献を輪読しつつ、テーマをめぐる基礎知識や共通認識を培う。その過程で、関心を持ったテーマについてさらに詳しい先行研究に当たり、考察を文章化する。 必要な資料の検索・収集方法、理論書の読解、レジュメの書き方、論文執筆の基本ルールなどを指導する。
到達目標	文化演習Ⅰで得た国際社会学をめぐる基礎知識と、見つけた関心領域・対象をもとに、卒業研究レポートのテーマを定めるまでに至る。
授業方法と留意点	毎回担当者を決めて発表をする。全員が資料を熟読したうえでゼミに臨むこと。発表に傾聴し、的確な質問や批判を自分の言葉で伝える力を養いましょう。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】　グローバリゼーション・移民・多文化社会 　基本文献を輪読し、基礎知識と共通認識を養う。レジュメの作成になれると同時に、それをもとに議論を展開できるようになることが重要である。ときに学外での研修を行うこともある。 【事前事後学習課題】 　文献を熟読し、そこから疑問点や論点を抽出し、自分自身の研究課題に取り組む。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	発表への取り組みと内容、議論への参加等　７０％、レポート　３０％。
学生へのメッセージ	専攻外国語の力を伸ばし続けることはもちろん重要ですが、日本語での読解力と論理的な文章校正力を高めることを目指してください。
担当者の研究室等	７号館５階　北條研究室
備考	授業中に出された課題に取り組むのに要す十分な時間を事前事後学習に充てること（総時間数は約 60 時間）。

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マイケル　ハーキー
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	The purpose of this class is to choose a topic related to Canada that you are passionate about and deepen your understanding through reading and research. This is an ideal course for students currently studying abroad in Canada or who plan on doing so in the future.
到達目標	It is expected that students will learn-by-doing. Using English as a medium of instruction will enable students to improve not only the four language skills, but also their critical thinking abilities.
授業方法と留意点	The material will be presented through lecture, readings, and occasionally through video and audio. Students are expected to keep a notebook. There will be opportunity for class discussion and group work.
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	The focus of this seminar is Canada. Students will learn about contemporary Canadian society as well as important historical events and how they have shaped the country. Students will study and develop their research skills and will be expected to write and present regular reports.
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Focus on Vocabulary 2: Mastering the Academic Word List cus on Vocabulary 2: Mastering the Academic Word List cus	Diane & Norbert Schmitt	Pearson Longman
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Tests 45% , assignments 45%, attendance& attitude 10%.
学生へのメッセージ	The roots of education are bitter, but the fruit is sweet.
担当者の研究室等	Building 7 3F
備考	Please bring a dictionary.

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松田　早恵
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	本を読むとき、映画を観るとき、人と話すとき、そのベースとなる背景知識を持っているか否かで話の理解度が大きく変わってきます。このゼミでは、英語圏に共通する「知っておくべき事柄」を学び、文化知識の土台作りをします。取り扱う分野は、文学、ことわざ&イディオム、神話、音楽、芸術、建築物などです。 また、ゼミとして多読活動に取り組みます。最初は自力で読める易しめの本を紹介しますが、後半には、映画化された児童文学作品を読んだり、実体験に基づくライフストーリを読んだりして、豊かな表現に触れてもらうとともに、「今まで考えたこともなかった」ような、外の世界にも目を向けてもらいます。
到達目標	与えられたテーマに関して調べ、それをレジュメにまとめて発表できるようになることを目指します。また、多読は初心者で 5 万語、経験者で 10 万語を目標とします。
授業方法と留意点	初日に決めたスケジュールに沿って、各自が当たったテーマを調べ、レジュメを作成してきます。授業中は発表と理解度チェックに充てます。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	初日に一学期間のテーマと担当を決めます。また、レジュメのサンプルを見せます。 次回からは、各人がスケジュールに沿って下調べをしレジュメを作成してきます。余力があるようなら、全員で読む本も一冊指定するかもしれません。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題準備 20%、発表 30%、理解度チェック%、多読 20%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 5 階松田研究室
備考	

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	皆本　智美
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	2 年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。
到達目標	英書や和書の読解を通して、物事を深く理解し、自分の意見を表現できるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	主な活動として、英書を読み、授業中に理解度を確認します。他の活動として、英語の技能を向上させるための練習や、西洋文化の理解を深めるための活動などを行います。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ】 英語で本を読む。 【内容・方法】 共通の英書の指定部分を全員が事前に読み、授業中は互いに理解度を確認しあう。 卒業研究の準備として、資料調査の実習を行う。 【事前事後学習課題】 授業中に適宜指示する。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	授業初回の話し合いで決定する。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業にのぞむ姿勢や態度（５０％）、発表内容（発表の仕方や積極性など）とレポート等（５０％）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 4 階　皆本研究室
備考	

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	家口　美智子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	時事問題に詳しくなり、自分の意見を自分の言葉で論理的に言える人材となるために、毎回意見発表をしてもらいます。 また英文を覚え、新聞を読むことにより、TOEIC のスコアをアップを目指します。自分の実力を上げるには、時間をたっぷり取って自分と向き合い、勉強することが大事です。求める人には担当教員も全力で与えられるものは与えたいと思います。
到達目標	＊論理的思考を身に付けることで、どんなトピックをふられても論理的に話せるようになる。 ＊TOEIC のスコアを最低 100 はアップさせる。 ＊激動する世界・日本社会の中でどんな人生を歩みたいのかを決める。
授業方法と留意点	１．①専門知識の蓄積と②論理的思考力の強化の２本柱で授業を進めるので知力のバランスを意識して取り組むこと。 ２．グループディスカッションでは積極的に発言すること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 以下の要領で授業を行う。 １．近況報告 ２．英文暗誦 ３．時事事項報告 ４．意見発表 ５．新聞講読 ６．グループディスカッション 【事前事後学習課題】 １．事前に相応の時間をかけて予習をする。 ２．指定されたテーマについてレポートを作成し、提出する。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	評価の対象　レポート，平常点 評価に対する重み　平常点（70%），レポート(30%)
学生へのメッセージ	＊将来何がしたいのかを考え、自分の人生の設計を立てましょう。 ＊この１年が人生で一番大事な時期となります。目標を立ててしっかり達成しましょう。
担当者の研究室等	家口研究室（７号館４F）
備考	授業の事前・事後にかかる学習時間は 15 時間程度である。

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山口　真佐夫
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	研究テーマについてどのように研究を進めるかについて指導する。収集した研究資料の分析についても指導する。以上の指導に基づき、各自でテーマを決め研究を進め研究成果を発表ししてもらう。最終的にレポートを作成する。
到達目標	研究を進め、成果をまとめる能力の獲得。
授業方法と留意点	演習では、各自が作業を行うことが多い点に留意しておくように。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	授業の中で指示された作業を必ず行うこと。特に発表の際には事前に充分準備をすること。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点、発表、レポートによる総合評価 平常点 20%、発表 30%、レポート 50%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館５階（山口研究室）
備考	指示された予習・復習・発表の準備には充分時間をかけ、学習効果を上げるようにすること。

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	兪　鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	いままで培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択し、担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査等を行い、研究手法や学問的思考を体得する。
到達目標	異文化への理解を深めることは外国語学部の学生にとって大変重要なことである。ことわざと慣用句はそれぞれの国で昔から使われてきたものなので、その国の風俗、習慣、物の見方、考え方などをよく反映するネイティブ的な表現である。このゼミでは、日本語と中国語あるいは他言語のことわざ、慣用句や慣用表現の発想・特徴などを中心に比較研究を行うことによって、広い視野から国際理解を深め、国際協調の精神を養うのを目指す。同時に研究能力を育成する。
授業方法と留意点	授業では、各自テーマを決め、収集した資料などを持ち寄り、それらをパソコンディスプレイで提示しながら他のゼミ生や指導教員に説明するとともに討議を行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【テーマ】: ことわざと慣用句の比較・対照研究 各授業において、前回はある言語のテーマを決め、意味と由来を調査した資料を提示する。次回は前テーマをめぐって他言語による検討をする。このローテーションで進む。 【事前事後学習課題】 指示に従って、文献・インターネット等で内容を調べて来る。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「言いたいこと」から引ける慣用句・ことわざ・四字熟語辞典	西谷裕子	東京堂出版
2	日英ことわざの比較文化	奥津文夫	大修館書店
3	よく似た英語と日本語の慣用句集	名和田進	文芸館

評価方法（基準）	プレゼン 30%、提出物 70%。
学生へのメッセージ	もっと知りたいという好奇心を持ちましょう。
担当者の研究室等	７号館３階(兪研究室)
備考	

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉村　征洋
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎		

授業概要・目的	国内外の映画・ドラマ・文学作品を英語で読解し、自分たちでアレンジを加えながらスクリプトを作成し、実際に演じる/演出して、オリジナルの英語ムービーを作成する。インプット（リーディング・リスニング）・アウトプット（スピーキング・ライティング）連動型の授業を行う。また 4 年次の卒業研究で扱うテーマを設定する。
到達目標	ただ漠然と対象作品を英語を読んだり、聞いたり、話したり、書いたりするのではなく、自分たちが演じる/演出することを想定しながら、英文をインプット・アウトプットできるようになる。
授業方法と留意点	グループでの作業が多くなるので、協調性と責任感を持って、授業に臨むこと。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 クラスメイトと協同で、30 分程度の英語ムービーを作成する。 【事前・事後学習課題】 毎授業で目標を設定し、その目標を達成するための事前・事後学習を行う。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	ショートムービー　50% グループワーク　30% 課題　20%
学生へのメッセージ	グループワークが基本になります。協調性を持って、ゼミメンバーとクオリティーの高い作品を完成させましょう！
担当者の研究室等	7 号館 3 階　吉村　征洋 研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	文化観光実習演習	科目名（英文）	Cultural Tourism Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林田　敏子.赤澤　春彦
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本演習では、近畿圏の歴史地区における地域振興のあり方を学ぶ。グローバル化との関連を意識しながら、資料の収集、見学、関係者への聞き取り等の調査を実施し、地域振興・観光開発を実践的に学ぶことを目的とする。
到達目標	地域における文化、観光、地域振興といった多角的な問題を個別に解決するのではなく、それぞれを有機的に関連づけて考察できるようになる。 実地調査の基礎を習得する。
授業方法と留意点	教室での講義・成果発表のほかに、実地調査もおこなう。必ず参加すること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	・実習に必要な基礎知識として、講義と演習の形式を織り交ぜながら、地域政策と観光開発について学ぶ。 ・実習では、現地調査およびインタビュー等をおこなう。 ・学習成果をまとめ、口頭発表（もしくはレポート作成）をおこなう。 ・数回程度の校外実習を行うので必ず出席すること。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への取り組みおよび校外実習への参加（40%）、成果発表（60%）で評価する。
学生へのメッセージ	自ら主体的に取り組むことが求められます。学生一人一人がつくりあげていく授業です。
担当者の研究室等	林田研究室（7 号館 4 階）
備考	第１回目の講義で校外実習の日程を決めますので必ず出席してください。 この授業は「パッケージプログラム演習（国際教養）」と合同で実施します。 事前事後学習時間：30h

科目名	文化と表現	科目名（英文）	Cultural Communication
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本　正俊
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的

※2015 年以降入学生には、この科目は、外国語専門職プログラム対応科目です。
我々は日本語を用いて、何をどのように表現しているのだろうか、そして表現できるのだろうか。
この授業では、日本人が日本語を用いて、どのように表現してきたのか、そしてどのような表現が可能なのかを、様々な事例を通して考える。
それによって、言語に対する感覚を研ぎ澄まし、言葉にこだわる人間になることを目指す。

この授業は、レポートなどに必要な「正しい」日本語を書く技能を身につける授業ではありません。日本語と格闘する授業です。

到達目標

日本語表現の特徴について、具体的に説明できる。
日本語表現を客観的にとらえ、他の言語とも比較しつつ、多様な視点から考えることができる。

授業方法と留意点

皆さんの意見も聞きながら講義を進行します。
毎回、コメントや課題が出ます。
全部で３節からなります。各節の最後にまとめのテストをします。

科目学習の効果（資格）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	日本語はどのような言語か 多様な視点から考える	授業の内容を整理する
2	世界の中の日本語	日本語は特殊な言語なのか考える	授業の内容を整理する
3	1. 言葉にこだわる 1-1. 辞書の比較	複数の辞書を用いて、日常使用する言葉について考える	指示する課題に取り組む
4	1-2. 助詞にこだわる	助詞の使い方から日本語の特徴について考える	指示する課題に取り組む
5	1-3. 日本語のレトリック	様々なレトリックを学ぶ	指示する課題に取り組む
6	1-4. 日本語のオノマトペ	日本語におけるオノマトペの果たす役割を考える	指示する課題に取り組む
7	1-5. まとめ	第１節の内容をまとめる確認テスト	第１節の内容を整理する
8	2. 詩文の日本語 2-1. 和歌に見る語感	和歌を例に、日本語の表現法を知る	指示する課題に取り組む
9	2-2. 俳句に見る語感	俳句を例に、日本語の表現法を知る	指示する課題に取り組む
10	2-3. 様々な種類の文体	詩や法律など、多様な文体について考える	指示する課題に取り組む
11	2-4. まとめ	第２節の内容をまとめる確認テスト	第２節の内容を整理する
12	3. 日本語表現を見直す 3-1. 一人称と三人称	小説を例に、人称表現について考える	指示する課題に取り組む
13	3-2. 現在形と過去形	小説を例に、現在と過去の表現について考える	指示する課題に取り組む
14	3-3. 多様な表現方法	小説を例に、日本語表現の可能性・多様性について考える	指示する課題に取り組む
15	3-4. まとめ	第３節の内容をまとめる確認テスト	第３節の内容を整理する

関連科目

外国語専門職プログラム対応科目
日本語史概論、日本語音韻論、日本語語彙論、日本語文法論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

課題（８０％）　３回以上の提出を単位認定の条件とする。
まとめテスト（１０％）
授業参加度（コメントなど）（１０％）

学生へのメッセージ

言葉に敏感になろう

担当者の研究室等

７号館４階（橋本研究室）

備考

科目名	平和の思想	科目名（英文）	Ideas for Peace
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中　悟
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	「平和」について考えるためには、「戦争」について考えることを避けることはできない。この講義は、戦場に送り出される兵士の目線から「戦争とは何か」について考察したテキストを読み進めることを通じて、平和について考える導きとすることを試みるものである。
到達目標	「戦争」や「平和」に対する考え方の違いを越えて、「戦場に置かれた人間としての兵士」が抱える問題についての理解を深めることを目標とする。
授業方法と留意点	原則として講義形式をとり、教科書の内容に即したレジュメを配布する。 教科書の章立てに沿って各回完結方式で進めていく予定であるが、進行状況等によって多少の調整がありうる。
科目学習の効果（資格）	現代社会における「戦争と平和」の問題についての基礎的な理解を深めることが期待される。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の目指すところ、テキストの内容について概説する。	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	殺人と抵抗感の存在（1）	第 1 章　闘争または逃避、威嚇または降伏 第 2 章　歴史に見る非発砲者	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
3	殺人と抵抗感の存在（2）	第 3 章　なぜ兵士は敵を殺せないのか 第 4 章　抵抗の本質と根源	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
4	殺人と戦闘の心的外傷（1）	第 5 章　精神的戦闘犠牲者の本質 第 6 章　恐怖の支配	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
5	殺人と戦闘の心的外傷（2）	第 7 章　疲憊の重圧 第 8 章　罪悪感と嫌悪感の泥沼	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
6	殺人と戦闘の心的外傷（3）	第 9 章　憎悪の風 第 10 章　忍耐力の井戸	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
7	殺人と戦闘の心的外傷（4）	第 11 章　殺人の重圧 第 12 章　盲人と象	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
8	殺人と物理的距離（1）	第 13 章　距離 第 14 章　最大距離および長距離からの殺人	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
9	殺人と物理的距離（2）	第 15 章　中距離・手榴弾距離の殺人 第 16 章　近距離での殺人	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
10	殺人と物理的距離（3）	第 17 章　刺殺距離での殺人 第 18 章　格闘距離での殺人 第 19 章　性的距離での殺人	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
11	殺人の解剖学（1）	第 20 章　権威者の要求 第 21 章　集団免責	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
12	殺人の解剖学（2）	第 22 章　心理的距離 第 23 章　犠牲者の条件	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
13	殺人の解剖学（3）	第 24 章　殺人者の攻撃的要因 第 25 章　すべての要因を盛り込む	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
14	映像作品鑑賞	講義内容に関連する映像作品を鑑賞する。	―――
15	まとめと補遺	テキストの残り部分について概観するとともに、最終レポートの執筆のための解説を行なう。	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	戦争における「人殺し」の心理学	デーヴ・グロスマン	筑摩書房
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	■最終レポート（100%）
学生へのメッセージ	最終レポートは、教科書と講義の内容を踏まえて作成することが求められる。
担当者の研究室等	7号館4階
備考	レポートに関するフィードバックは、返却時のコメントを通じて実施する。

科目名	貿易中国語 a	科目名（英文）	Chinese for International Trade a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中西　正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	本授業はビジネス現場のいろんな場面に合わせて、実用性のある表現と中国の商習慣や文化を勉強し、将来ビジネス現場で役立つ知識を習得する。
到達目標	中国語検定２級、準１級合格を目指す。
授業方法と留意点	単語の習得を重視し、語彙力を高める。新しい言葉を辞書で調べておくこと。
科目学習の効果（資格）	通訳案内士試験の受験。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第１課　上班途中	単語と会話文の勉強、会話文の翻訳	単語と会話文の暗記
2	第１課　上班途中	前回の内容の確認、自由会話の作成	中国と日本の会社における役職名を覚える
3	第２課　早晨?始工作	単語と会話文の勉強、会話文の翻訳	単語と会話文の暗記
4	第２課　早晨?始工作	前回の内容の確認、自由会話の作成	中国語の敬語表現ベスト 20 を覚える
5	第３課　早晨的工作会?	単語と会話文の勉強、会話文の翻訳	単語と会話文の暗記
6	第３課　早晨的工作会?	前回の内容の確認、自由会話の作成	中国と日本の企業文化の内容確認
7	第４課　接??	単語と会話文の勉強、会話文の翻訳	単語と会話文の暗記
8	第４課　接??	前回の内容の確認、自由会話の作成	電話の応対でよく使うフレーズを覚える
9	第５課　安排拜?客?	単語と会話文の勉強、会話文の翻訳	単語と会話文の暗記
10	第５課　安排拜?客?	前回の内容の確認、自由会話の作成	中国の経済発展の軌跡の内容確認
11	第６課　接待客人	単語と会話文の勉強、会話文の翻訳	単語と会話文の暗記
12	第６課　接待客人	前回の内容の確認、自由会話の作成	縁起の良くない贈答品と無難なお土産の確認
13	第７課　公司面?	単語と会話文の勉強、会話文の翻訳	単語と会話文の暗記
14	第７課　公司面?	前回の内容の確認、自由会話の作成	中国人の苗字の由来の確認
15	復習（第１～７課）	第１～７課の復習 ☆単元テスト３	

関連科目	「中国語原書講読Ⅱb」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジネス現場の中国語	北原　恵　　韓軍	東方書店
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	最新の時事用語を覚えましょう。事前・事後に各 60 分の学修を要する.。
担当者の研究室等	7 号館２階（非常勤講師室）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	貿易中国語 b	科目名（英文）	Chinese for International Trade b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	今中　崇文
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	本授業は経済・法律・政治・産業から科学技術・文学・スポーツ・芸能まで、中国の現状を語る中国語文章を講読し、中国語を日本語に翻訳する技術を習得する。
到達目標	中国語検定２級、準１級合格を目指す。
授業方法と留意点	単語の習得を重視し、語彙力を高める。新しい言葉は辞書で調べておくこと。
科目学習の効果（資格）	通訳案内士試験の受験。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第８課　北京，想説愛?不容易	講読と中文日訳。	声を出して読んでおく。単語の練習帳を作る。
2	第８課　北京，想説愛 ni 不容易	講読（元の新聞記事）。	練習問題 p. 100 声を出して読んでおく。単語を覚える。
3	第９課　用麻将，築起新的和平長城	講読と中文日訳。	声を出して読んでおく。単語の練習帳を作る。
4	第９課　用麻将，築起新的和平長城	講読（元の新聞記事）。	練習問題 p. 101 練声を出して読んでおく。単語を覚える。
5	第 10 課　中国老人生存之現状	講読と中文日訳。 ☆単元テスト１	声を出して読んでおく。単語の練習帳を作る。
6	第 10 課　中国老人生存之現状	講読（元の新聞記事）。	練習問題 p. 102 声を出して読んでおく。単語を覚える。
7	第 11 課　景美魚肥俊巴村	講読と中文日訳。	声を出して読んでおく。単語の練習帳を作る。
8	第 11 課　景美魚肥俊巴村	講読（元の解説文）。	練習問題 p. 103 声を出して読んでおく。単語を覚える。
9	第 12 課　中国将無人 ti 球	講読と中文日訳。	声を出して読んでおく。単語の練習帳を作る。
10	第 12 課　中国将無人球	講読（元の新聞記事）。 ☆単元テスト２	練習問題 p. 104 声を出して読んでおく。単語を覚える。
11	第 13 課　譲大運河再活両千年	講読と中文日訳。	声を出して読んでおく。単語の練習帳を作る。
12	第 13 課　譲大運河再活両千年	講読（元の新聞記事）。	練習問題 p. 105 声を出して読んでおく。単語を覚える。
13	第 14 課　制服話題二則	講読と中文日訳。	声を出して読んでおく。単語の練習帳を作る。
14	第 14 課　制服話題二則	講読（元の新聞記事）。	練習問題 p. 106 声を出して読んでおく。単語を覚える。
15	復習（第８～14 課）	第８～14 課の復習 ☆単元テスト３	

関連科目：「中国語原書講読Ⅱa」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	2015 年度　時事中国語の教科書　中国夢	三潴正道・陳祖 pei	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	最新の時事用語を覚えましょう。原則として事前・事後に各 60 分の学修を要する.。
担当者の研究室等	7 号館３階（兪研究室）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	ボキャブラリー＆グラマーａ	科目名（英文）	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大原関　一浩
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Flex Day	Online test and other make-up tests	Students should prepare for make-up tests as necessary

関連科目：スキルズトレーニング a、スピーキング＆ライティング Ia

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文１００	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷　恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	大原関研究室（７号館５階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	ボキャブラリー＆グラマーａ	科目名（英文）	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤　一章
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Flex Day	Online test and other make-up tests	Students should prepare for make-up tests as necessary

関連科目：スキルズトレーニング a、スピーキング＆ライティング Ia

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文１００	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷　恒志	成美堂
3	Essential Reading for the TOEIC Test	藤岡克則	金星堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	文法は英語力の土台になります。おろそかにせず、しっかり勉強して下さい。
担当者の研究室等	７号館５階 後藤研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	ボキャブラリー＆グラマーａ	科目名（英文）	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中　秀毅
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Flex Day	Online test and other make-up tests	Students should prepare for make-up tests as necessary

関連科目：スキルズトレーニング a、スピーキング＆ライティング Ia

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文１００	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷　恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ロングマン現代英英辞典（Longman Dictionary of Contemporary English）		ロングマン
2	オックスフォード現代英英辞典（Oxford Advanced Learner's Dictionary）		オックスフォード
3			

評価方法（基準）	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	語彙と文法は英語力を支える骨組みですからしっかり構築してください。
担当者の研究室等	田中（秀）研究室（７号館４階）　※スチューデント・アワー（前期）は水曜 5 時限です。
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	ボキャブラリー＆グラマーａ	科目名（英文）	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	ニ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西川　眞由美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Flex Day	Online test and other make-up tests	Students should prepare for make-up tests as necessary

関連科目：スキルズトレーニング a、スピーキング＆ライティング Ia

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文１００	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷　恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	言語の大事な要素を学び、それらを統合して使いこなすための練習をたくさんします。授業で学んだことは、他の授業や課外でも、くりかえし、いっぱい使ってください。
担当者の研究室等	7 号館 4 階　西川研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	ボキャブラリー＆グラマーａ	科目名（英文）	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	皆本　智美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Flex Day	Online test and other make-up tests	Students should prepare for make-up tests as necessary

関連科目：スキルズトレーニング a、スピーキング＆ライティング Ia

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文１００	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷　恒志	成美堂
3	Grammar Clinic ５分間基本英文法	佐藤誠司	南雲堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館４階　皆本研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	ボキャブラリー＆グラマーａ	科目名（英文）	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鈴木　大介
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Flex Day	Online test and other make-up tests	Students should prepare for make-up tests as necessary

関連科目：スキルズトレーニング a、スピーキング＆ライティング Ia

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文１００	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷　恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	語彙力・文法力は英語力の基本です。この授業を通して、しっかり力をつけていきましょう。
担当者の研究室等	７号館５階　鈴木研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	ボキャブラリー＆グラマーａ	科目名（英文）	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	ト
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松田　早恵
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Flex Day	Online test and other make-up tests	Students should prepare for make-up tests as necessary

関連科目：スキルズトレーニング a、スピーキング＆ライティング Ia

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文１００	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷　恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	しっかりがんばりましょう！
担当者の研究室等	７号館５階　松田研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	ボキャブラリー＆グラマーａ	科目名（英文）	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	チ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中島　直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Flex Day	Online test and other make-up tests	Students should prepare for make-up tests as necessary

関連科目：スキルズトレーニング a、スピーキング＆ライティング Ia

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文１００	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷　恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	語彙と文法は語学学習の基礎ですので、まずは高校までに習ったことをしっかりと復習しましょう。
担当者の研究室等	７号館４階 中島研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	ボキャブラリー＆グラマーａ	科目名（英文）	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	リ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	杉浦　秀行
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Flex Day	Online test and other make-up tests	Students should prepare for make-up tests as necessary

関連科目：スキルズトレーニング a、スピーキング＆ライティング Ia

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文１００	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷　恒志	成美堂
3	Essential English Grammar for TOEIC Test	アーロン　キャルコート他	南雲堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	TOEIC に対応できるしっかりとした語彙力・文法力を身に付けましょう！
担当者の研究室等	７号館５階　杉浦研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	ボキャブラリー＆グラマーａ	科目名（英文）	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉村　征洋
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	『暗唱英文 100』の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた筆記テストを実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目：スキルズトレーニング a、スピーキング＆ライティング Ia

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文１００	摂南大学外国語学部	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト（５回）　２５％ 筆記テスト　２５％ 受講態度、課題等　５０％
学生へのメッセージ	座学で英文法を学ぶのではなく、話すことを重視しながら英文法を身につけてもらいます。
担当者の研究室等	７号館３階　吉村　征洋研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	ボキャブラリー＆グラマーb	科目名（英文）	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西川　眞由美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Flex Day	Online test and make-up tests	Students should prepare for make-up tests as necessary

関連科目：スキルズトレーニング b、スピーキング＆ライティング Ib

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷　恒志	成美堂
3	Grammar Plus	Andrew E. Bennett	南雲堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	語彙力・文法力は英語力の基本です。この授業を通して、しっかり力をつけていきましょう。
担当者の研究室等	７号館４階　西川研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	ボキャブラリー＆グラマーb	科目名（英文）	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中島　直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Flex Day	Online test and make-up tests	Students should prepare for make-up tests as necessary

関連科目：スキルズトレーニング b、スピーキング＆ライティング Ib

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷　恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	語彙と文法は語学学習の基礎ですので、まずは高校までに習ったことをしっかりと復習しましょう。
担当者の研究室等	７号館４階　中島研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	ボキャブラリー＆グラマーb	科目名（英文）	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松田　早恵
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Flex Day	Online test and make-up tests	Students should prepare for make-up tests as necessary

関連科目：スキルズトレーニング b、スピーキング＆ライティング Ib

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷　恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	語彙と文法は語学学習の基礎ですので、まずは高校までに習ったことをしっかりと復習しましょう。
担当者の研究室等	７号館５階 松田研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	ボキャブラリー＆グラマーb	科目名（英文）	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤　一章
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Flex Day	Online test and make-up tests	Students should prepare for make-up tests as necessary

関連科目：スキルズトレーニング b、スピーキング＆ライティング Ib

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷　恒志	成美堂
3	Reach Your Target for the TOEIC Test Workbook 2	David E. Bramley	松柏社

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	目標を高く持って頑張ってください。
担当者の研究室等	7 号館 5 階　後藤研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	ボキャブラリー＆グラマーb	科目名（英文）	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中　秀毅
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Flex Day	Online test and make-up tests	Students should prepare for make-up tests as necessary

関連科目：スキルズトレーニング b、スピーキング＆ライティング Ib

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷　恒志	成美堂
3	５分間 TOEIC テスト・サプリメント　文法・語法	小池　直己	南雲堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ロングマン現代英英辞典（Longman Dictionary of Contemporary English）		ロングマン
2	オックスフォード現代英英辞典（Oxford Advanced Learner's Dictionary）		オックスフォード
3			

評価方法（基準）	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	語彙と文法は英語力を支える骨組みですからしっかり構築してください。
担当者の研究室等	田中（秀）研究室（７号館４階）　※スチューデント・アワー（後期）は月曜５時限です。
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	ボキャブラリー＆グラマーb	科目名（英文）	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	い
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	皆本　智美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Flex Day	Online test and make-up tests	Students should prepare for make-up tests as necessary

関連科目：スキルズトレーニング b、スピーキング＆ライティング Ib

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷　恒志	成美堂
3	５分間　TOEIC テスト・サプリメント 文法・語法 A Shorter Course in TOEIC Test Grammar	小池直己	南雲堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館４階　皆本研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	ボキャブラリー＆グラマーb	科目名（英文）	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	う
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥居　祐介
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Flex Day	Online test and make-up tests	Students should prepare for make-up tests as necessary

関連科目：スキルズトレーニング b、スピーキング＆ライティング Ib

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷　恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	何事も基本が大切です。
担当者の研究室等	７号館３階　鳥居研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	ボキャブラリー＆グラマーb	科目名（英文）	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	え
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉村　征洋
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Flex Day	Online test and make-up tests	Students should prepare for make-up tests as necessary

関連科目：スキルズトレーニング b、スピーキング＆ライティング Ib

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷　恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館３階　吉村　征洋研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	ボキャブラリー＆グラマーb	科目名（英文）	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	お
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤　安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Flex Day	Online test and make-up tests	Students should prepare for make-up tests as necessary

関連科目：スキルズトレーニング b、スピーキング＆ライティング Ib

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷　恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	外国語を使う力は、スポーツの能力と似ています。 ・目的に合った練習を、頭を使ってすること。 ・目立つ技だけでなく、地味に見える小さいことも、大切にすること。 ・自分の気分が上がる方法を、何通りか用意しておくこと。 ・いっしょにあなたの成長を喜んでくれる人を、見つけておくこと。
担当者の研究室等	７号館４階　齋藤研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	ボキャブラリー＆グラマーb	科目名（英文）	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	か
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大原関　一浩
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Flex Day	Online test and make-up tests	Students should prepare for make-up tests as necessary

関連科目：スキルズトレーニング b、スピーキング＆ライティング Ib

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷　恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	大原関研究室（７号館５階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	ボキャブラリー＆グラマーb	科目名（英文）	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	き
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鈴木　大介
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Flex Day	Online test and make-up tests	Students should prepare for make-up tests as necessary

関連科目：スキルズトレーニング b、スピーキング＆ライティング Ib

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷　恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	語彙力・文法力は英語力の基本です。この授業を通して、しっかり力をつけていきましょう。
担当者の研究室等	７号館５階 鈴木研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	ボキャブラリー＆グラマーｂ	科目名（英文）	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	俣野　裕美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	この授業では、映画『タイタニック』を視聴しながら、英語の語彙力と文法力の向上を図る。 『タイタニック』には、日常会話でよく使う表現や発音が多く使われている。それらを学ぶと同時に、4技能（読む、書く、聞く、話す）の強化にもつなげる。 インプットだけでなく、アウトプットにも重点を置き、英語で積極的に情報を発信できる力を養う。
到達目標	語彙力、文法力を定着させ、様々な場面で応用がきくようになる。 英語での日常会話がスムーズにできるようになる。 4技能（読む、書く、聞く、話す）が向上し、英語で的確かつ積極的に情報が発信できるようになる。
授業方法と留意点	・毎回、単語テストを実施する。 ・小テストを数回実施する。 ・グループワークを通じてディスカッションやリーディングを行う。 ・毎回、必ず電子辞書か辞書を持ってくること（携帯電話やスマートフォンでの代用は不可）。 ・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価する。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをする。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼす。 ①私語など授業を妨害するような行為や許可のない途中退席、テキスト忘れは、欠席とみなす。 ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方の説明、映画の説明	事後学習課題：テキストの Vocabulary と Expressions を解く
2	Unit 1:（分詞１）	単語テスト Vocabulary, Expressions の確認 映画の視聴、リスニング 文法の解説・実践問題 ディスカッション リーディング	事後学習課題：テキストの Vocabulary と Expressions を解く
3	Unit 2:（受動態）	単語テスト Vocabulary, Expressions の確認 映画の視聴、リスニング 文法の解説・実践問題 ディスカッション リーディング	事後学習課題：テキストの Vocabulary と Expressions を解く
4	Unit 3:（助動詞）	単語テスト Vocabulary, Expressions の確認 映画の視聴、リスニング 文法の解説・実践問題 ディスカッション リーディング	事後学習課題：テキストの Vocabulary と Expressions を解く
5	Unit 4:（仮定法）	単語テスト Vocabulary, Expressions の確認 映画の視聴、リスニング 文法の解説・実践問題 ディスカッション リーディング	事後学習課題：テキストの Vocabulary と Expressions を解く
6	Unit 5:（進行形）	単語テスト Vocabulary, Expressions の確認 映画の視聴、リスニング 文法の解説・実践問題 ディスカッション リーディング	事後学習課題：テキストの Vocabulary と Expressions を解く
7	Unit 6:（関係詞 1）	単語テスト Vocabulary, Expressions の確認 映画の視聴、リスニング 文法の解説・実践問題 ディスカッション リーディング	事後学習課題：テキストの Vocabulary と Expressions を解く
8	Unit 7:（関係詞 2）	単語テスト Vocabulary, Expressions の確認 映画の視聴、リスニング 文法の解説・実践問題 ディスカッション リーディング	事後学習課題：テキストの Vocabulary と Expressions を解く
9	Unit 8:（完了形）	単語テスト Vocabulary, Expressions の確認 映画の視聴、リスニング 文法の解説・実践問題 ディスカッション リーディング	事後学習課題：テキストの Vocabulary と Expressions を解く
10	Unit 9:（分詞 2）	単語テスト Vocabulary, Expressions の確認 映画の視聴、リスニング 文法の解説・実践問題 ディスカッション リーディング	事後学習課題：テキストの Vocabulary と Expressions を解く

11	Unit 10: （未来形）	単語テスト Vocabulary, Expressions の確認 映画の視聴、リスニング 文法の解説・実践問題 ディスカッション リーディング	事後学習課題：テキストの Vocabulary と Expressions を解く
12	Unit 11: （代名詞）	単語テスト Vocabulary, Expressions の確認 映画の視聴、リスニング 文法の解説・実践問題 ディスカッション リーディング	事後学習課題：テキストの Vocabulary と Expressions を解く
13	Unit 12: （動名詞）	単語テスト Vocabulary, Expressions の確認 映画の視聴、リスニング 文法の解説・実践問題 ディスカッション リーディング	事後学習課題：テキストの Vocabulary と Expressions を解く
14	Unit 13: （不定詞）	単語テスト Vocabulary, Expressions の確認 映画の視聴、リスニング 文法の解説・実践問題 ディスカッション リーディング	事後学習課題：テキストの Vocabulary と Expressions を解く
15	Unit 14: （否定） まとめ	単語テスト Vocabulary, Expressions の確認 映画の視聴、リスニング 文法の解説・実践問題 ディスカッション リーディング	期末テストの準備

関連科目

スキルズトレーニング b、スピーキング＆ライティング Ib

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Learn English with TITANIC	Teruhiko Kadoyama, Simon Capper	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷　恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

平常点（授業態度、単語テスト、小テスト(数回実施予定)、宿題、提出物等）　50%
期末テスト　50%

学生へのメッセージ

映画やテレビドラマには、実際の日常会話で使われる興味深い表現がたくさん出てきます。
ストーリーを楽しみながら、英語の習得も目指しましょう。
TOEIC や TOEFL を積極的に受けてみましょう。ランゲージパートナーを作ることもおすすめです。

担当者の研究室等

7 号館 2 階非常勤講師控室

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	ホスピタリティ・インターンシップ	科目名（英文）	Hospitality Business Internship
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	塩﨑　裕司
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP5△		

授業概要・目的	観光ホスピタリティプログラムの授業で学んだ内容を実践する。 ホスピタリテイ・インターンシップの目的は、ホスピタリティ産業において実際の仕事の現場に接することにより、 ①社会における仕事の役割・意義 ②責任とやりがい ③ホスピタリティの本質を体感することである。 ※なお、この科目は、パッケージプログラム実習・演習科目の一つです。
到達目標	ホスピタリテイ産業の現場で実務を体験することにより、仕事の厳しさ、楽しさ、やりがいなどを実感して、就業意識を高めることを目標とする。また、ここまで授業で学んできたホスピタリティの知識や感性を実際に発揮する機会を得ることである。
授業方法と留意点	６月、対象企業、参加人数、実施日時確定後に説明会を開催。履修希望者はESを提出。選考後、履修者発表。 (希望者多数の場合は、機会均等の観点から２年時に「体験型特別実習Aに参加していないものを優先する)。 ８月上旬、前期試験終了後、事前集中授業を開催(参加者は必ず受講のこと)。 ８月中下旬、各企業のインターンシップに参加。 ９月、後期授業開始前に事後授業(体験報告)を実施。 受入企業に迷惑がかかるため、受講態度、マナーの悪いものには本インターンシップへの参加を認めない。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	[事前･事後授業] 下記①、②は３９時間、③は１４時間 （１）事前授業 前期授業終了後、本学内で２～６回の事前集中授業を実施し、対象事業の基礎知識を習得するとともに、それぞれの目標、目的を見直し、参加にあたっての心構えを作り上げる。 （２）インターンシップ（対象企業は確定していません。下記は過去の実績からの予定企業です)。 ①　国際貨物業務体験型インターンシップ（４名程度） ・関西国際空港にて、国際航空貨物についても必要な訓練を実施後、実務を体験する。 ・期間　５日間（通い） ・対象企業　：　ＡＮＡカーゴ ②　海外空港実務体験（２名） ・台北空港での空港旅客取扱業務（ＧＳ業務）の実践 ・４泊５日程度で実際の訓練と実務を体験 ・対象企業　：　ＡＮＡ台北空港所 ③　ホテル業務訓練の体験（２名） ・ホテルでの新入訓練と同等の訓練の圧縮版を体験 ・２週間程度で実際の訓練と実務を体験（通い） ・対象企業　：　ＡＮＡクラウンプラザホテル大阪 （３）事後授業 後期授業開始前に事後授業として1～2回の報告会を実施する。
関連科目	「観光ホスピタリティ」プログラム科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	各インターンシップとも受入企業先評価３０％、事前・事後授業の参加姿勢３０％、体験報告の内容４０％
学生へのメッセージ	憧れのホスピタリティ産業。 ここまで学んできた知識や感性が実際の仕事を経験する中で、どこまで通用するか実感することは今後の大きな収穫です。是非、この機会に実際の宿場にチャレンジして、自分との距離を縮めてみましょう。
担当者の研究室等	７号館４階（エアーライン・ホスピタリティールーム）
備考	

科目名	ホスピタリティ論	科目名（英文）	Hospitality
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	沖中　美喜
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的

・現代社会では多種多様な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。特に観光や旅行、ショッピング等、ホスピタリティが重視される場面や産業は幅広い。ホスピタリティというものに言語、文化　そして、個人（消費者）からの視点など多角的にアプローチをし、ホスピタリティを生み出す為には何が求められるかについて考察し、理解を深めていく。それぞれが自分なりに「ホスピタリティ」について考え表現できることを目指す。

※この授業は観光ホスピタリティプログラム科目の一つである。

到達目標

・ホスピタリティについて学び、自ら考え、創造できるようになることを目指す。
・コミュニケーション能力の向上

授業方法と留意点

Power point と配布資料で授業を進めていき、適宜ディスカッション等も交えていく。授業の最後に、小レポートを課し提出。
また、簡単な社会人としてのマナーの実習も行う。

科目学習の効果（資格）

ホスピタリティがいかに重要なものかを実感し、今後のホスピタリティ産業への就職に役立つものと考える。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業履修にあたっての説明。ホスピタリティ論の概要説明。	積極的な参加
2	ホスピタリティとは	「ホスピタリティ」を語源からアプローチし、ホスピタリティというイメージを膨らませながら考察していく。	ホスピタリティとサービスの違いを考えてみる。
3	人間の感情とホスピタリティ	ホスピタリティというそのものの感覚は人間の中のどこから生まれるのかを考える。	相手の気持ちを理解するにはどうするか考えてみる。
4	事例研究１「感動はこうして生まれる」	ホスピタリティを追求している外食産業の実例を見てみる。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する
5	ホスピタリティと文化	ホスピタリティの表現について文化、文明による差異を考察する。日本のホスピタリティの原点はどこにあるのか。	文化の違いを感じたことはあるか考えてみる。
6	産業の変化とホスピタリティ	サービス産業、ホスピタリティ産業が求められる時代背景を産業構造の変化を追いながら考える。	サービス産業にはどのようなものがあるか考えてみる。
7	ホスピタリティとマニュアル	お客様へ伝えるための留意点を考える。マニュアルとホスピタリティマインドについて考察する。	アルバイト先のマニュアルがどういうものか考えてみる。
8	事例研究「顧客志向のホテル」	ホスピタリティ産業の中から顧客満足NO.１のホテル例を取り上げ検証する	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する
9	ホスピタリティとチームワーク	企業がホスピタリティをチームで生み出すために必要な要素は何かを考えていく。	チームワーク経験（スポーツ、アルバイトなど）を振り返る。
10	コミュニケーションの重要性	ホスピタリティを相手に伝える為にはコミュニケーション能力が重要となることを理解する。	自分のコミュニケーション能力を客観的に見てみる、
11	事例研究３「地域に愛されるカフェ」	地域に溶け込むカフェの秘密を探る。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する
12	ホスピタリティマネージメント	ホスピタリティを生み出していくために、どのようにマネジメントすることが必要かを考える。	新聞経済面を読む。
13	事例研究４「エンターテインメント企業のホスピタリティ」	世界を代表エンターテインメント企業のホスピタリティマネージメントを考える	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する。
14	観光立国	日本の観光の現状はどうなっているのか	新聞で観光に関する記事を見つける。
15	まとめ	授業全体のまとめ	積極的な参加

関連科目

エアライン・ホスピタリティプログラム科目（～２０１４年度入学生）
観光ホスピタリティプログラム科目（２０１５年度～入学生）　エアラインビジネス論　ホテルビジネス論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

参加態度 10%　毎回の小レポート 40%　定期試験 50%

学生へのメッセージ

・授業には適宜”社会人になる為の心得”も盛り込んでいきます。
・自分の考えをまとめ、コミュニケーションを取ることは難しいと思います。誰しも最初からできる人はいません。力まずに、まずは積極的に参加する！という気持ちを持って参加して下さい。する！という気持ちを大切に、受講して下さい。
・この授業を終えた頃には、周りの様々なことに「気づく」ということが身についているはずです。

担当者の研究室等	７号館４階（塩崎・沖中研究室）
備考	

科目名	ホスピタリティ論Ⅰ	科目名（英文）	Hospitality Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	沖中　美喜
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的

・現代社会では多種多様な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。特に観光や旅行、ショッピング等、ホスピタリティが重視される場面や産業は幅広い。ホスピタリティというものに言語、文化　そして、個人（消費者）からの視点など多角的にアプローチをし、ホスピタリティを生み出す為には何が求められるかについて考察し、理解を深めていく。それぞれが自分なりに「ホスピタリティ」について考え表現できることを目指す。

※この授業は観光ホスピタリティプログラム科目の一つである。

到達目標

・ホスピタリティについて学び、自ら考え、創造できるようになることを目指す。
・コミュニケーション能力の向上

授業方法と留意点

Power point と配布資料で授業を進めていき、適宜ディスカッション等も交えていく。授業の最後に、小レポートを課し提出。
また、簡単な社会人としてのマナーの実習も行う。

科目学習の効果（資格）

ホスピタリティがいかに重要なものかを実感し、今後のホスピタリティ産業への就職に役立つものと考える。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業履修にあたっての説明。ホスピタリティ論の概要説明。	積極的な参加
2	ホスピタリティとは	「ホスピタリティ」を語源からアプローチし、ホスピタリティというイメージを膨らませながら考察していく。	ホスピタリティとサービスの違いを考えてみる。
3	人間の感情とホスピタリティ	ホスピタリティというそのものの感覚は人間の中のどこから生まれるのかを考える。	相手の気持ちを理解するにはどうするか考えてみる。
4	事例研究１「感動はこうして生まれる」	ホスピタリティを追求している外食産業の実例を見てみる。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する
5	ホスピタリティと文化	ホスピタリティの表現について文化、文明による差異を考察する。日本のホスピタリティの原点はどこにあるのか。	文化の違いを感じたことはあるか考えてみる。
6	産業の変化とホスピタリティ	サービス産業、ホスピタリティ産業が求められる時代背景を産業構造の変化を追いながら考える。	サービス産業にはどのようなものがあるか考えてみる。
7	ホスピタリティとマニュアル	お客様へ伝えるための留意点を考える。マニュアルとホスピタリティマインドについて考察する。	アルバイト先のマニュアルがどういうものか考えてみる。
8	事例研究「顧客志向のホテル」	ホスピタリティ産業の中から顧客満足NO.１のホテル例を取り上げ検証する	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する
9	ホスピタリティとチームワーク	企業がホスピタリティをチームで生み出すために必要な要素は何かを考えていく。	チームワーク経験（スポーツ、アルバイトなど）を振り返る。
10	コミュニケーションの重要性	ホスピタリティを相手に伝える為にはコミュニケーション能力が重要となることを理解する。	自分のコミュニケーション能力を客観的に見てみる、
11	事例研究３「地域に愛されるカフェ」	地域に溶け込むカフェの秘密を探る。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する
12	ホスピタリティマネージメント	ホスピタリティを生み出していくために、どのようにマネジメントすることが必要かを考える。	新聞経済面を読む。
13	事例研究４「エンターテインメント企業のホスピタリティ」	世界を代表エンターテインメント企業のホスピタリティマネージメントを考える	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する。
14	観光立国	日本の観光の現状はどうなっているのか	新聞で観光に関する記事を見つける。
15	まとめ	授業全体のまとめ	積極的な参加

関連科目

エアライン・ホスピタリティプログラム科目（～２０１４年度入学生）
観光ホスピタリティプログラム科目（２０１５年度～入学生）　エアラインビジネス論　ホテルビジネス論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

参加態度 10%　毎回の小レポート 40%　定期試験 50%

学生へのメッセージ

・授業には適宜”社会人になる為の心得”も盛り込んでいきます。
・自分の考えをまとめ、コミュニケーションを取ることは難しいと思います。誰しも最初からできる人はいません。力まずに、まずは積極的に参加する！という気持ちを持って参加して下さい。する！という気持ちを大切に、受講して下さい。
・この授業を終えた頃には、周りの様々なことに「気づく」ということが身についているはずです。

担当者の 研究室等	７号館４階（塩崎・沖中研究室）
備考	

科目名	ホスピタリティ論Ⅱ	科目名（英文）	Hospitality II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	沖中　美喜
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	・「ホスピタリティー」についての理解を更に深める。「ホスピタリティー」を発揮するための具体的行動や組織・集団のあり方について考察する。 ・ホスピタリティー産業に関係する事業や企業活動を取り上げながら、現代社会において「ホスピタリティー」が生み出す価値の重要性について理解する。
到達目標	・コミュニケーションの重要さを学ぶことで、その能力を高める。 ・日常生活でホスピタリティを発揮するだけでなく、その分野でリードできる人材となる。
授業方法と留意点	Power point と配布資料で授業を進めていき、適宜ディスカッション等も交えていく。授業の最後に、小レポートを課し提出。 また、ホスピタリティーを発揮するためのスキルを実習を通して学習する。
科目学習の効果（資格）	ホスピタリティがいかに重要なものかを実感し、今後のホスピタリティ産業への就職に役立つものと考える。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業履修にあたっての説明。ホスピタリティ論の概要説明。	積極的な参加
2	ホスピタリティとは？	ホスピタリティの意味を再確認する。また、ホスピタリティ産業の捉え方についても考えてみる。	ホスピタリティ１の内容を復習
3	ホスピタリティの発揮１	個人のホスピタリティの発揮について一人の人間としてどのようにあるべきなのかを考える。	ホスピタリティーの高い人間について考えてみる。
4	ホスピタリティの発揮２	身だしなみ・表情など、ホスピタリティの発揮能力を更に高めていく方法について具体的な内容に触れていく。	他者とコミュニケーションをとることを意識してみる。
5	ホスピタリティの発揮３	立ち居振る舞い、言葉遣い、など、ホスピタリティの発揮能力を更に高めていく方法について具体的な内容に触れていく。	他者とコミュニケーションをとることを意識してみる。
6	ホスピタリティの発揮４	ホスピタリティの発揮と企業の関係を考える。	ホスピタリティ産業について調べる。
7	ホスピタリティと評価	ホスピタリティの評価方法、評価尺度について考える。	顧客満足について調べる。
8	事例研究1「リゾートホテル」	ホスピタリティが発揮される瞬間・場面を企業側から考える。；	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する。
9	ホスピタリティとマニュアル	ホスピタリティとマニュアルの関係について考える。	身近なお店について評価してみる。
10	事例研究２　「ホテルの社員教育」	ホスピタリティを発揮するための企業の実例を見てみる。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する。
11	ホスピタリティーとコミュニケーション	ホスピタリティを生み出すコミュニケーションとはどのようなものか、	今まで所属した組織について考えてみる。
12	事例研究３「夢を叶えるレストラン」	ホスピタリティ産業の中から例を取り上げ検証する。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する。
13	事例研究４「エンターテイメント企業」	ホスピタリティ産業の中から例を取り上げ検証する。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する。
14	ホスピタリティマネージメント	ホスピリティを発揮するための全体マネージメントを考える。	ESについて調べる。
15	事例研究５「エアライン」	ホスピタリティ産業の中から例を取り上げ検証する。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する。

関連科目：ホスピタリティ論　ホテルビジネス　エアラインビジネス

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	参加態度 30%　マナー実習 10%　プレゼン 10%　毎回の小レポート 50%
学生へのメッセージ	・ホスピタリティ論Ⅰをもっと発展させ、ホスピタリティの発揮に重点を置きます。社会人になる前に是非、身に付けておいて欲しいことをしっかり体得してください。また、様々なホスピタリティ企業を研究してみましょう。 ・力まずに、まずは積極的に参加する！という気持ちを持って受講して下さい。
担当者の研究室等	７号館４階（塩崎・沖中研究室）
備考	

科目名	ホテルビジネス論	科目名（英文）	Hotel Business
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩﨑　裕司
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	訪日外国人の増加や２０２０年東京オリンピック開催に向け、注目されるホテル業界に関心を持つ受講生に、その産業特性や歴史的経緯、日系・外資系ホテルの相違、現在の様々な課題について社会的・経済的背景を分かりやすく説明する。 また、事例を挙げながら、基礎的な事業知識や具体的な業務の実態について解説する。 ※この科目は、２０１５年度以降の入学生を対象とした「観光ホスピタリティ」プログラム対応科目の一つです。
到達目標	ホテル業界での業務知識、日系・外資系ホテルの相違点などを学ぶことにより、ホテル業界で働くための知識や、どのような意識を持てば良いのか等、就業意識や社会で働く力を高める事を目標とする。
授業方法と留意点	主にパワーポイントを使用して授業する。指定する教科書はないが、授業内容に沿ったプリントを毎回配布する。 質問については随時受け付ける。また、授業終了時に毎回提出する小レポートに質問を記入してもらい、次回の授業時に解説する。 日ごろからホテル関連の報道等に関心を持って接し、授業に臨んで欲しい。
科目学習の効果（資格）	観光産業に深く関わるホテル事業を学習、理解することにより、将来の進路の判断材料として役立てる事ができる（特に公的資格取得には繋がるものではない）。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講師紹介。授業方法の説明。授業概要、到達点の説明。成績評価、履修上の注意点などを説明。	特になし。
2	世界の宿泊業の歴史	世界の宿泊業の歴史は古代ギリシャやローマの時代に遡る。そのような宿泊施設からホテルに発展し、その後様々な形に変化して現在に至るまでを解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
3	日本の宿泊業の歴史（１）第二次世界大戦まで	日本のホテルはどのような背景で誕生し、その後発展していったのか、またその時代の社会や経済的情勢との関係を含めて、日本のホテルの歴史について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
4	日本の宿泊業の歴史（２）終戦から現代まで	前回に引き続き、太平洋戦争後から現在に至るまでのホテルの歴史について、東京オリンピックや大阪万博など様々な時代背景を交えて説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
5	日本のホテル業界の現況	日本のホテル業界は、時代の変化と共に様々な課題が生じており、決して楽観視できるような環境ではない。こうした状況について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
6	ホテルビジネスの特性	ホテル事業をより解り易く理解してもらうために、ホテル事業の「特性」について、様々な事例や他の事業との比較を交えながら説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
7	ホテルの経営方式	ホテルの経営についても様々な種類があり、他産業に比較し、独自の方式・形態も存在する。そうした方式・形態の特徴や問題点について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
8	チェーンビジネスの基本	ホテルは、何故チェーン化を進めるのか、またチェーンを統括する本部に必要な機能はどのようなものなのかについて説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
9	世界のホテルチェーン	世界の主要なホテルチェーンの展開方式や現状を解説し、外資系ホテルチェーンの日本進出を読み解く。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
10	日本のホテルチェーン	日本にも多くのホテルチェーンが存在するが、世界のホテルチェーンとは様々な面で異なる特徴を持っている。そうした特徴や今後の方向性がどのように予測されるかを説明し、主要なホテルチェーンの概要についての説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
11	日本の宿泊産業	日本の宿泊施設には、ホテル、旅館、民宿やペンションなど実に多くの宿泊施設があり、それぞれの特徴や相違点などを説明する。現在、導入されつつある民泊の現状や課題についても考察する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
12	ホテルの収入構成と収益構造について	ホテルの収入構成で営業施設毎の比率・指数、ホテルの費用構成、収益構造を中心に講義を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
13	ホテルの組織と仕事（１）宿泊部門	ホテル全体の組織の説明のあと、部門別にそれぞれの組織、具体的な業務内容について講義する。今回は宿泊部門。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
14	ホテルの組織と仕事（２）料飲・宴会部門など	前回に引き続き、料飲部門、宴会部門、管理部門の組織と業務内容について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
15	まとめと特別講義	我が国の主要ホテルを例に貫かれたアイデンティティやホスピタリティーに対する考え方について考察する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。

関連科目	エアライン・ホスピタリティプログラム科目（～2014 年度入学生） 観光ホスピタリティプログラム科目（2015 年度入学生）
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新ホテル総論	財団法人日本ホテル教育センター	プラザ出版
2	宿を支える女将たち	岩崎信也	柴田書店
3	帝国ホテル物語	武内孝夫	現代書館

評価方法 （基準）	１０回以上の出席がない場合、評価の対象とならない。 定期試験６０％、授業毎のレポート、授業参加姿勢４０％。
学生への メッセージ	訪日外国人の増加、２０２０年の東京オレンピックに向け注目されるホテル業界。その事業の実態と課題について学習します。 また、仕事の内容や求められる資質について考察します。将来の進路として考えている学生諸君にも参考になる内容です。一緒に研究しましょう。
担当者の 研究室等	７号館４階（塩崎・沖中研究室）
備考	毎回の授業でレポートを提出していただきます。そこに記載された質問については、次回授業でフィードバックいたします。

科目名	ホテルビジネス論Ⅰ	科目名（英文）	Hotel Business Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩﨑　裕司
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	訪日外国人の増加や２０２０年東京オリンピック開催に向け、注目されるホテル業界に関心を持つ受講生に、その産業特性や歴史的経緯、日系・外資系ホテルの相違、現在の様々な課題について社会的・経済的背景を分かりやすく説明する。 また、事例を挙げながら、基礎的な事業知識や具体的な業務の実態について解説する。 ※この科目は、２０１５年度以降の入学生を対象とした「観光ホスピタリティ」プログラム対応科目の一つです。
到達目標	ホテル業界での業務知識、日系・外資系ホテルの相違点などを学ぶことにより、ホテル業界で働くための知識や、どのような意識を持てば良いのか等、就業意識や社会で働く力を高める事を目標とする。
授業方法と留意点	主にパワーポイントを使用して授業する。指定する教科書はないが、授業内容に沿ったプリントを毎回配布する。 質問については随時受け付ける。また、授業終了時に毎回提出する小レポートに質問を記入してもらい、次回の授業時に解説する。 日ごろからホテル関連の報道等に関心を持って接し、授業に臨んで欲しい。
科目学習の効果（資格）	観光産業に深く関わるホテル事業を学習、理解することにより、将来の進路の判断材料として役立てる事ができる（特に公的資格取得には繋がるものではない）。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講師紹介。授業方法の説明。授業概要、到達点の説明。成績評価、履修上の注意点などを説明。	特になし。
2	世界の宿泊業の歴史	世界の宿泊業の歴史は古代ギリシャやローマの時代に遡る。そのような宿泊施設からホテルに発展し、その後様々な形に変化して現在に至るまでを解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
3	日本の宿泊業の歴史（１）第二次世界大戦まで	日本のホテルはどのような背景で誕生し、その後発展していったのか、またその時代の社会や経済的情勢との関係を含めて、日本のホテルの歴史について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
4	日本の宿泊業の歴史（２）終戦から現代まで	前回に引き続き、太平洋戦争後から現在に至るまでのホテルの歴史について、東京オリンピックや大阪万博など様々な時代背景を交えて説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
5	日本のホテル業界の現況	日本のホテル業界は、時代の変化と共に様々な課題が生じており、決して楽観視できるような環境ではない。こうした状況について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
6	ホテルビジネスの特性	ホテル事業をより解り易く理解してもらうために、ホテル事業の「特性」について、様々な事例や他の事業との比較を交えながら説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
7	ホテルの経営方式	ホテルの経営についても様々な種類があり、他産業に比較し、独自の方式・形態も存在する。そうした方式・形態の特徴や問題点について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
8	チェーンビジネスの基本	ホテルは、何故チェーン化を進めるのか、またチェーンを統括する本部に必要な機能はどのようなものなのかについて説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
9	世界のホテルチェーン	世界の主要なホテルチェーンの展開方式や現状を解説し、外資系ホテルチェーンの日本進出を読み解く。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
10	日本のホテルチェーン	日本にも多くのホテルチェーンが存在するが、世界のホテルチェーンとは様々な面で異なる特徴を持っている。そうした特徴や今後の方向性がどのように予測されるかを説明し、主要なホテルチェーンの概要についての説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
11	日本の宿泊産業	日本の宿泊施設には、ホテル、旅館、民宿やペンションなど実に多くの宿泊施設があり、それぞれの特徴や相違点などを説明する。現在、導入されつつある民泊の現状や課題についても考察する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
12	ホテルの収入構成と収益構造について	ホテルの収入構成で営業施設毎の比率・指数、ホテルの費用構成、収益構造を中心に講義を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
13	ホテルの組織と仕事（１）宿泊部門	ホテル全体の組織の説明のあと、部門別にそれぞれの組織、具体的な業務内容について講義する。今回は宿泊部門。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
14	ホテルの組織と仕事（２）料飲・宴会部門など	前回に引き続き、料飲部門、宴会部門、管理部門の組織と業務内容について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
15	まとめと特別講義	我が国の主要ホテルを例に貫かれたアイデンティティやホスピタリティーに対する考え方について考察する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。

関連科目	エアライン・ホスピタリティプログラム科目（～2014 年度入学生） 観光ホスピタリティプログラム科目（2015 年度入学生）
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新ホテル総論	財団法人日本ホテル教育センター	プラザ出版
2	宿を支える女将たち	岩崎信也	柴田書店
3	帝国ホテル物語	武内孝夫	現代書館

評価方法 （基準）	１０回以上の出席がない場合、評価の対象とならない。 定期試験６０％、授業毎のレポート、授業参加姿勢４０％。
学生への メッセージ	訪日外国人の増加、２０２０年の東京オレンピックに向け注目されるホテル業界。その事業の実態と課題について学習します。 また、仕事の内容や求められる資質について考察します。将来の進路として考えている学生諸君にも参考になる内容です。一緒に研究しましょう。
担当者の 研究室等	７号館４階（塩崎・沖中研究室）
備考	毎回の授業でレポートを提出していただきます。そこに記載された質問については、次回授業でフィードバックいたします。

科目名	ホテルビジネス論Ⅱ	科目名（英文）	Hotel Business II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩﨑　裕司
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	ホテル業をはじめとする宿泊産業に関心を持つ受講生に、ホテルマネジメント、ホテルマーケティングを大きなテーマとして取り上げ、宿泊業経営に関する知識、現状とその将来性について説明する。 宿泊業経営を理解することで、他産業にも通じる経営の基礎、一般論を学ぶ。また世界中の有名なクラシックホテルについても紹介する。
到達目標	宿泊業について主として経営面から考察し、理解する。 ホスピタリティー産業である宿泊業の経営を例に、「会社」という組織がどのような活動をしているか、経営の基礎を学び、課題認識を持って就業意欲を高めることを目標とする。
授業方法と留意点	主にパワーポイントを使用しての授業となる。 教科書は特に指定しないが、授業が良く理解できるように、授業内容に沿ったプリントを毎回配布する。 質問については随時受け付ける。また、授業終了時に毎回提出する小レポートに質問を記入してもらい、次回授業時に解説する。 最新の状況や経営環境を授業に取り入れて行くので、常にホテル関連の報道等に関心を持って接し、授業に臨んで欲しい。
科目学習の効果（資格）	ホテルという事業を例に一般企業にも通じる経営活動の概要を学習する。ホスピタリティー産業の代表ともいえるホテル事業の経営活動や業務内容を学び、そこで働く人材に求められる資質を考察することとにより、各自の進路決定にあたり一つの判断材料に資することが出来る（特に公的資格には直接つながるものではない）。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	講師紹介。授業方法の説明。授業概要、到達点の説明。成績評価、履修上の注意点などを説明。	特になし。
2	ホテル業の社会的な役割と意義－１（位置づけと役割）	第 3 次産業の中で宿泊産業はどのような位置づけにあるのか、また社会的にはどのような役割が期待されているのかを解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
3	ホテル業の社会的役割と意義－２（ホテル業の意義）	ホテル業を取り巻く時代・社会的な環境変化がどのような影響をホテル経営に及ぼすのか、そしてホテル業の意義とはどういうものかを解かり易く解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
4	ホテル業の課題	我が国のホテル業界は新しいニーズに応えられるのか、高齢者、女性、環境問題に対応できるのか、外客接遇の質は向上しているのかなど現代のホテル業界が抱える様々な課題を具体的に解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
5	ホテル業の将来性	近年、外資系の積極的な進出や民泊の導入等様々な新しい動きが見られるようになった宿泊業界。この中でホテル業界は、今後どのような動向を示すのか説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
6	ホテル業の経営・事業	一般論として経営と事業の定義について解説し、ホテル業における経営特性や経営・事業資源について解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
7	ホテルの組織と人事・労務管理－１（組織と人事管理）	ホテル業の組織を理解することにより、ホテル業における人事・労務管理面での特性を明らかにするとともに課題への対応策についても学習する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
8	ホテルの組織と人事・労務管理－２（労務管理と人材育成）	有用な人材を育成するためにどのような労務管理がなされているか所定労働時間や福利厚生についても解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
9	ホテル業の財務・会計管理	ホテルの売上と支出にはどのようなものがあり、原価管理・原価計算とはどのようなものなのか、財務管理と会計管理について基本的な事項を解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
10	仕入管理と施設管理	ホテル経営に対する効率化に重大な役割を果たす仕入管理と施設管理について解かり易く解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
11	防犯・防災・衛生管理	ホテルには利用者の生命・財産やプライバシーを守る社会的使命があり、そのために防犯・防災・衛生管理など管理業務が強化されており、それらの基本的な対応ポイントを学習する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
12	ホテルマーケティングの基本－１（企画から開業まで）	ホテルマーケティングを学ぶにあたり、その基本となる考え方やマーケティングの構成要因の概要などについて解説し、ホテル開業までのマーケティング活動について説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
13	ホテルマーケティングの基本－２（開業後）	ホテルのセールス活動とはどのようなものか、またホテルの安定かつ発展的な経営の継続に必要不可欠なホテル開業後のマーケティング活動のポイントとなる業務について解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
14	顧客満足と従業員満足	顧客満足とは何か、顧客満足の最大化が企業にどのように貢献するのか、その最大化と従業員満足の関係について解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
15	ホテルの社会的責任	今、ホテル業界が問われている社会的責	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積

			任とは何か、経済、社会、環境の観点から論じる。	極的に予備知識の習得に努める。

関連科目	ホテルビジネス論Ⅰ ツーリズム論Ⅰ・Ⅱ ホスピタリティー論Ⅰ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現代ホテル経営の基礎理論	岡本伸之	柴田書店
2	ホテル	中村正人	産学社
3	ホテルブランド物語	寺田直子	角川書店

評価方法 （基準）	最低１０回以上がない場合、評価の対象とはならない。 定期試験６０％、授業毎のレポート提出、授業参加姿勢４０％。
学生への メッセージ	ホテルビジネス論Ⅰに比べてより経営の立場からの授業になります。 企業経営の概要を知ることはホテル業界に限らず、どの業界においても重要ですが、特にホスピタリティー産業の経営を知ることにより、求められる知識や資質を知ることは今後の進路選択の重要な要素となります。是非チャレンジしてください。
担当者の 研究室等	７号館４階（エアライン・ホスピタルプログラムルーム）
備考	ホテルビジネス論Ⅰを受講していることが望ましいが履修条件ではない。 毎回の授業でレポートを提出していただきます。そこに記載された質問については次回授業でフィードバックします。

科目名	ボランティア論	科目名（英文）	Volunteerism
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浅野　英一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	この科目は、国際貢献プログラム対応科目である。 本講義では国際ボランティアを、一過性のイベントとしてとらえるのではなく、自分自身を見つけるチャンスとし、それを将来的に活用する。国際NGO、NPO、JICAボランティア青年海外協力隊や民間ボランティア等の現場を素材にケーススタディを行い、国際的社会常識と知識を深める。
到達目標	ボランティアの定義・理念、ボランティア活動に関する基礎的知識を習得する。
授業方法と留意点	ビデオ・スライドを多様してビジュアルに国際ボランティアの現状を知る。各講義の最後15～20分間は、質疑応答の時間とする。
科目学習の効果（資格）	日本の立場を国際的な視野から見る。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクションと授業内容概要	授業の目的や方針を確認し、全体の流れ（起承転結）を知る	＿＿＿＿＿
2	（起-１）ボランティア	ボランティアとは何か、活動の内容とボランティアとしての自覚を学ぶ	前回の復習と、次回への展開
3	（起-2）国際理解	なぜ貧困に悩まされているのかを知る	前回の復習と、次回への展開
4	（起-3）国際協力	国際協力とは何かを知る	前回の復習と、次回への展開
5	（承-１）貧困の現状把握	貧困で悩んでいる国々の現状を知る	前回の復習と、次回への展開
6	（承-２）国際協力の現状把握	どういった国際協力が行われてきたのか、現在、何が行われているのかを知る	前回の復習と、次回への展開
7	（転-１）国際ボランティア・NGOボランティア	国際ボランティア・NGOボランティアとは何かを知る	前回の復習と、次回への展開
8	（転-2）国際ボランティア（青年海外協力隊）	国際ボランティア（青年海外協力隊）になるにはどうしたら良いのかを知る	前回の復習と、次回への展開
9	（転-3）国際ボランティア（国連ボランティア）	国際ボランティア（国連ボランティア）になるにはどうしたら良いのかを知る	前回の復習と、次回への展開
10	（転-4）国際ボランティア（NGOボランティア）	国際ボランティア（NGOボランティア）になるにはどうしたら良いのかを知る	前回の復習と、次回への展開
11	（結-１）国際ボランティアの活動にあたって	国際ボランティアとしての自覚と次へのステップ	前回の復習と、次回への展開
12	（結-2）自分に何ができるのか	ボランティア活動をするために、自分ができる事を明確にする	前回の復習と、次回への展開
13	（結-3）更なる発展に向けて	ボランティア活動を一過性のイベントとして終わらせない	前回の復習と、次回への展開
14	今後の課題	ボランティア活動の諸問題と克服について知る	前回の復習と、次回への展開
15	総括的確認（必ず出席すること）	これまでに学んできたことについて総合的判断を行う	＿＿＿＿＿

関連科目：国際貢献プログラム科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際協力国際交流ハンドブック　基礎から実践へ	浅野英一	実教出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	記述式小テストや小レポートを合わせて(100%)評価する。
学生へのメッセージ	前期の国際協力論を履修することでこの講義内容が理解しやすくなる。
担当者の研究室等	７号館５階（浅野研究室）
備考	

科目名	翻訳文化論	科目名（英文）	Translation and Culture
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小川　豊生
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2△		

授業概要・目的	〈翻訳〉には、たんにある外国語から別の言語へと移し変えるということだけではなく、豊かな文化的な営みが含まれている。〈翻訳〉を〈文化〉の問題としてとらえ、日本で〈翻訳文化〉が登場する歴史的な流れや、新しい翻訳語創造のプロセス、名訳の誕生のいきさつなど、多角的に探究する。日本文化のなかで「翻訳」がいかに大切な問題であったかを深く理解してほしい。なお、2015 年度入学生については、この科目は外国語専門職プログラム科目です。
到達目標	・翻訳によって形づくれられてきた文化の様々な問題について知識を深める。 ・文化的な諸問題への関心を高めることによって外国語学習への意欲を促進する。
授業方法と留意点	講義とノートを中心にすすめる。外国語の修得を目的とした授業ではないことに留意してほしい。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	「翻訳文化」とはなにか	〈翻訳〉を、文化の問題としてとらえる視点をもつことの大切さについて概説する。	・指示された重要語のリサーチ ・ノート整理と自主課題提出
2	翻訳のはじまり１　中国文化の受容と翻訳	翻訳のはじまりについて古くさかのぼり歴史的に探求する。	・指示された重要語のリサーチ ・ノート整理と自主課題提出
3	翻訳のはじまり２　キリシタンと翻訳	キリシタンがになった役割は翻訳文化という側面にとってもきわめて重要な意義がある。物語や辞書づくりのなかにその足跡をたどる。	・指示された重要語のリサーチ ・ノート整理とポイントの明確化
4	江戸の翻訳文化	前近代において〈翻訳〉はどのような形で生まれたか、江戸時代の具体的な事例（『解体新書』）をとりあげて探究する。	・指示された重要語のリサーチ ・ノート整理と自主課題提出
5	明治の翻訳文化１	『西洋事情』や外国語辞書の誕生の問題をとりあげて、明治の翻訳文化の諸相を探究する。	・指示された重要語のリサーチ ・ノート整理と自主課題提出
6	明治の翻訳文化２	日本の近代化にあたって、社会と文化に大きな影響を与えた明治期の翻訳について、多角的に学ぶ。明治の翻訳の事例を具体的にとりあげ、異文化遭遇の現場を検証する。	・指示された重要語のリサーチ ・ノート整理と自主課題提出
7	明治の翻訳文化３	現代日本語に不可欠な翻訳語を取り上げ、その翻訳事情について追究する。	・指示された重要語のリサーチ ・ノート整理とポイントの明確化
8	外国人のみたイメージとしての「日本」１	日本を海外に翻訳紹介した人々について「文化の翻訳」という観点から探求する。	・指示された重要語のリサーチ ・ノート整理とポイントの明確化
9	外国人のみたイメージとしての「日本」２	日本を海外に翻訳紹介した人々について「文化の翻訳」という観点から探求する。	・指示された重要語のリサーチ ・ノート整理と自主課題提出
10	難語の翻訳	「日本らしさ」をいかに翻訳するか、いくつかの難語をテーマに考察する。	・指示された重要語のリサーチ ・ノート整理とポイントの明確化
11	映画字幕の世界	映画字幕の翻訳が生まれるプロセスを学び、現代のサブカルチャーにおける翻訳の意義について考察する。	・指示された重要語のリサーチ ・ノート整理と自主課題提出
12	歌詞と翻訳	歌詞がどのように翻訳されているか、事例をあげながら考察し、サブカルチャーにおける翻訳の意義について考える。	・指示された重要語のリサーチ ・ノート整理とポイントの明確化
13	翻訳と日本文学	俳句や古典作品、小説など名作の翻訳例を通して、翻訳文化の厚みと困難について認識を深める。	・指示された重要語のリサーチ ・ノート整理と自主課題提出
14	漫画の翻訳	翻訳テキストを例に、原文と訳文とのズレを発見・分析し、異文化理解のあり方について探究する。	・指示された重要語のリサーチ ・ノート整理と自主課題提出
15	総合評価授業	講義全体のまとめをおこない、修得度確認のための総合問題を解く。	――――

関連科目	外国語専門職プログラム科目（2015 年度入学生）および学部で開講されている文化科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『翻訳と日本文化』	芳賀徹編	山川出版社
2			
3			

評価方法（基準）	授業における中間テスト、総合テスト、および課題レポート、ミニ確認問題などを総合的に評価する。 テスト 70%、その他 30%。
学生への	外国語を文化の問題としてとらえる目を養ってほしい。

メッセージ	
担当者の 研究室等	7 号館 4 階(小川研究室)
備考	事前・事後の学習は、それぞれ 2 時間ずつ、総時間 60 時間を目安とする。

科目名	マイノリティー論	科目名（英文）	Minority Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	有馬　善一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	マイノリティーの問題について、様々な観点から、いくつかのトピックを取り上げて考察する。歴史的な観点、世界史的な観点からの考察と、現在の日本における問題の双方を取り上げる。
到達目標	マイノリティーの問題の多様性を理解する。 マイノリティーと差別の問題との関連性を理解する。 マイノリティーに対する自分自身の立場をはっきりさせ、差別のない社会を作るためにはどうしたらよいか、自分なりの考えを持つ。
授業方法と留意点	講義形式で行う。適宜、資料を配付する。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義の概要説明。イントロダクション	マイノリティについて概念規定を行う。	マイノリティという言葉についてあらかじめ調べておく。
2	マイノリティー問題の概括	マイノリティー問題を扱う理論的枠組み マイノリティー問題の２つのベクトル、差別と支配について	２回の授業内容をまとめる。
3	マイノリティー問題の原型としての「いじめ」問題	様々なレベルでの「いじめ」について考える。	「いじめ」問題に対する自分の考えをまとめる。
4	日本の差別問題（１）	日本において歴史的な背景の下に、どのような差別が行われてきたかについて、考える。 階級差別としての部落問題。 部落問題の歴史と現状。	差別問題に対する解決策について各自で掘り下げ、まとめる。
5	日本の差別問題（２）	ヤクザないしは暴力団の問題を考える。 国家権力とアウトローの衝突	事前に指示された映画を見る。 ヤクザ映画の人気はどこに理由があるのかを考えて、各自の意見をまとめる。
6	日本の差別問題（３）	在日コリアン、琉球、アイヌの人たちと「日本人」との関係について考える。	事前に指示された映画を見る。
7	ジェンダーの問題	ジェンダーとは何か。	身近にあるジェンダーの問題について取り上げて、自分の考えをまとめる。
8	セクシュアル･マイノリティーの問題（１）	LGBT（性的マイノリティー）とは何か LGBT に対する偏見と誤解の歴史 LGBT の現在	同性愛を扱った資料をあらかじめ見ておく。
9	セクシュアル･マイノリティーの問題（２）	日本における LGBT への差別 世界における LGBT への差別	授業内容をまとめておく。
10	セクシュアル･マイノリティーの問題（３）	LGBT と社会の関わり カミングアウトと LGBT の祭典	授業内容を整理して､LGBT への差別に対する自分の考えをまとめる。
11	ユダヤ人問題（１）	ユダヤ人問題の社会的・経済的側面 近代におけるユダヤ人問題 ナチスとユダヤ人虐殺	授業内容を整理しておく。
12	ユダヤ人問題（２）	ユダヤ人問題の現在 アメリカにおけるユダヤ人勢力 差別から支配への転換 イスラエルの建国とユダヤ問題　民族紛争とマイノリティ	授業内容を踏まえた上で、ユダヤ人問題についてまとめる。
13	フランスにおけるマイノリティー問題	共和制の理念と現実の乖離 イスラム系移民の問題 極右勢力の伸張	授業内容を踏まえて、フランスの共和制の理念と現実との矛盾についてまとめる。
14	アメリカにおけるマイノリティーの問題	黒人問題 ネイティブ・アメリカン問題 黄色人問題	授業内容を踏まえて、アメリカにおける人種差別の問題についてまとめる。
15	まとめ	人種･階級とマイノリティの関係についてまとめる。	これまでの授業内容をまとめておく。

関連科目	多文化の共生

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内でのレポート・平常点（40%）と授業後のレポート課題（60%）
学生へのメッセージ	マイノリティの問題は、突きつめると、人間らしく生きるということはどういうことなのかという問題に突き当たることを理解して欲しい。
担当者の	7号館4階

研究室等	
備考	講義の内容・評価方法等は、受講生の数などに応じて変更する可能性がある。変更の際には、講義中に通知する。 事前事後学習におよそ 60 時間必要。

科目名	マスコミ論	科目名（英文）	Mass Communication
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上島　誠司
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	「マスコミとは何か」という基本的な問いかけを軸に、マスコミの役割や機能、個人や社会にもたらす影響などについて理解する。一方で、「報道とは何か」というジャーナリズムの根幹やその変遷について考え、マスコミの将来について考えたい。 ※この科目は、「メディアビジネス」プログラム対応科目です。
到達目標	マスコミの基本的な役割を理解し、新聞記事やテレビニュース、ネット情報などを、メディアリテラシーに基ずく、判断ができる能力の開発を目指す。
授業方法と留意点	一方的な講義型授業ではなく、学生との対話やグループディスカッションや作業などを重視した双方向型の授業を目指したい。毎回、課題を設定し、学生自らが考え、自説を発表したり、書いたりする学生参加型授業を実践する。
科目学習の効果（資格）	マスコミを理解することによって、事態をうのみにするのではなく、リテラシー能力を持って、自分の考えをつくることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	この科目の狙いや進め方、評価方法などを説明する。	新聞やテレビニュースなどに触れる。
2	マスコミって何だろう１	マスコミの現状を知る マスコミとマスメディア SNS はマスコミか	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
3	マスコミって何だろう２	新聞記事を基に５W1H を考える	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
4	マスコミって何だろう３	ニュース記事を書いてみる ５W1H を意識して書く 発信する責任 事実を考えるうえで主観と客観を意識する	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
5	振り返り	これまでの内容を振り返り、「マスコミとは何か」という自分の考えをまとめる。	自分の見解に基づき、新聞やテレビニュースなどに触れる。
6	報道を考える１	多面的報道型とオピニオン型の違いや新聞とテレビの違いを理解する、。	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
7	報道を考える２	客観報道の意味を考え、事実と真実の関係を理解する。	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
8	報道を考える３	ジャーナリストはなぜ疑り深いのか、を考える。	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
9	振り返り	これまでの内容を振り返り、マスコミに対する自分の意見をまとめる。	自分の見解に基づき、新聞やテレビニュースなどに触れる。
10	報道と情報１	ネット情報を読み解く。ネット情報は玉石混交、情報の確度を考える。 四つの疑問（①事実か印象か②他の見方は③隠されていることは④まだ断定できるか）	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
11	報道と情報２	誤報とやらせや「伝える」と「伝わる」を考える。 四つの疑問（①事実か印象か②他の見方は③隠されていることは④まだ断定できるか）	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
12	報道と情報３	information と inteligencen の違い 四つの疑問（①事実か印象か②他の見方は③隠されていることは④まだ断定できるか）	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
13	報道と情報４	民主主義を守る報道、権力監視という役割を考える。	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
14	振り返り	情報と報道の違いを意識して、論説文を書いてみる。	あらゆる媒体に触れ、自分の意見を構築してみる。
15	全体のまとめ	学んだことを踏まえ、改めて「マスコミとは何か」という自分の考えをつくる。	自分の見解に基づき、新聞やテレビニュースなどに触れる。

関連科目：メディアビジネスプログラムの他の科目など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題・レポート（７０％）、授業への取り組みなど（３０％）により、総合的に評価する。
学生へのメッセージ	巷にあふれる情報をいかに取り入れ、正しく判断するか、を考える機会にしたいと思っています。スマホなどのネット情報だけではなく、新聞、テレビ、雑誌など幅広い媒体に興味を持つきっかけにしてください。

担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師控室）　　学習支援センター
備考	

科目名	ミュージアムコレクション論	科目名（英文）	Studies on Museum Collections
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩間　香
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	博物館資料は博物館になくてはならないものである。本講義では、博物館資料の種類や特質、及び、その収集・整理・保管の理論や方法を具体的に講義する。美術、歴史、民俗、考古など博物館の多様な資料について、基礎的な知識を身に着けることが目的である。この授業では博物館資料が専門的な知識やデータの裏付けにより収蔵され展示されていることを学ぶことになる。これらの知識は博物館における仕事に不可欠であるほか、日本の文化を学んだり、美術品を鑑賞する上でも大変に役に立つ。
到達目標	多様な博物館資料に関する基礎的な知識を身につける。それらの特性を知り、保存上の注意についての基礎的な知識を身につける。博物館・美術館で実物に接して、その種類や特性が分かるようになる。
授業方法と留意点	毎回レジメを配布して、スライドを用いながら講義を進める。博物館・美術館における臨地講義も実施する。
科目学習の効果（資格）	学芸員資格の取得（必修科目）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	博物館資料の種類	博物館資料にはどのような種類があるかを概説する。	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。(90 分) 事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90 分)
2	絵画資料について	油絵、日本画、水彩画、パステル画などの絵画資料の種類と特性を解説する。	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。(90 分) 事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90 分)
3	彫刻資料について	仏像、近代彫刻、インスタレーションなどの彫刻資料の素材、特性を解説する。	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。(90 分) 事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90 分)
4	工芸資料について	陶磁、漆芸、染織、金工、ガラスなどの工芸資料の種類と特性を解説する。	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。(90 分) 事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90 分)
5	民俗・民族資料について	民具、記録など民俗・民族資料のの種類と特性を解説する。	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。(90 分) 事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90 分)
6	歴史資料について	古文書、遺跡、遺物などの歴史資料を解説する。	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。(90 分) 事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90 分)
7	考古資料について	発掘品、遺跡などの考古資料について解説する。	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。(90 分) 事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90 分)
8	模型について	博物館における模型の種類と活用について解説する。	事前：ＷＥＢで博物館の模型の実例を調べる。(90 分) 事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90 分)
9	映像について	博物館における映像資料の種類と活用について解説する。	事前：ＷＥＢで博物館の映像資料の実例を調べる。(90 分) 事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90 分)
10	資料の収蔵	博物館のコレクションの成り立ちについて解説する。	事前：ＷＥＢで博物館の収蔵方法について調べる。(90 分) 事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90 分)
11	資料の分類・整理	博物館における資料の分類と整理の方法を解説する。	事前：ＷＥＢで博物館の資料の分類について調べる。(90 分) 事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90 分)
12	資料の活用	目録の作成、資料の貸出し、特別利用など多様な資料活用について解説する。	事前：ＷＥＢで博物館の資料活用について調べる。(90 分) 事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90 分)
13	資料の公開	出版やインターネットを介しての資料公開について解説する。	事前：ＷＥＢで博物館の資料公開について調べる。(90 分) 事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90 分)
14	博物館見学	博物館資料の展示･収蔵について実地に見学する。	事前:ＷＥＢで見学先の博物館について調べる。(90 分) 事後：レポートをまとめる。(90 分)
15	博物館見学	博物館資料の展示･収蔵について実地に見学する。	事前:ＷＥＢで見学先の博物館について調べる。(90 分) 事後：レポートをまとめる。(90 分)

関連科目：博物館科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）
小レポート３０％
定期試験７０％

	受講態度を加味する。
学生への メッセージ	各地にさまざまな博物館があります。できるだけ多くの博物館に行き、実際に展示された資料を見てください。
担当者の 研究室等	7 号館 5 階（岩間研究室）
備考	

科目名	ミュージアムへの招待	科目名（英文）	Introduction to Museum Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	谷　直樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	ミュージアムは、日本では歴史博物館・美術館・文学館・記念館・動物園・水族館などの施設で、全国でおよそ 5700 館を数えることができます。かつて「博物館行き」という言葉は古くさいものの代名詞でしたが、今日、ミュージアム・博物館はその姿を大きく変えています。カラフルなシンボル展示、IT 技術を駆使した映像展示、実物大の家を再現した体感型展示、様々な参加型プログラムなど、おしゃれで楽しめる施設へと変化しつつあります。またミュージアムグッズも図録だけでなく、Tシャツ・ぬいぐるみ・菓子などオリジナル商品を豊富に揃えている館が少なくありません。ミュージアム・博物館とは何か、これからどう変化していくのかを、その歴史や現状を学びながら考えていきましょう。
到達目標	美術館・博物館の種類・機能・社会的な役割を理解し、学芸員に必要な基礎的な知識を修得します。
授業方法と留意点	パワーポイント・ビデオなどを随時使用して、臨場感にあふれたビジュアルな講義にします。また教室内だけではなく、実際に新しい魅力的なミュージアム・博物館を見学します。現地見学の交通費や入館料は受講者負担になります。
科目学習の効果（資格）	学芸員資格

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ミューアジアム・博物館とは何か	話題のミューアジアム・博物館紹介。記憶に残る展覧会。資格取得の条件・諸注意。	旅先などで博物館や美術館の見学をする習慣をつけてください。
2	日本のミューアジアム・博物館（1）	動物園ランキング（旭山動物園と天王寺動物園）、水族館ランキング（美ら海水族館と海遊館）	子どものころに行った動物園・水族館と、最近の動物園・水族館を比較してください。
3	日本のミューアジアム・博物館（2）	美術館（近代美術館と現代美術館）、自然史系博物館（琵琶湖博物館と大阪市立自然史博物館）、歴史系博物館（大阪歴史博物館と大阪くらしの今昔館）	美術館の特別展をのぞいてみてください。
4	日本のミューアジアム・博物館（3）	野外博物館（明治村、北海道開拓の村、四国村、おきなわ郷土村、まちぐるみ博物館）	町並み保存やまちおこしも野外博物館のヒントになります。
5	日本のミューアジアム・博物館（4）	企業ミュージアム（月桂冠大倉記念館、横浜ラーメン博物館、インスタントラーメン発明記念館、くすりのまち道修町資料館、大学博物館など）。実際の博物館を見学します。詳細は講義の中で指示します。	近くにある企業ミュージアムを訪ねてください。
6	「博物館法」を読む	博物館の定義と種類。博物館法、博物館法施行規則、公立博物館に関する法律。博物館の機能、展示資料による分類、設置者による分類、制度による分類	「博物館法」は事前事後によく読んでください。
7	ミューアジアム・博物館をつくる（1）	博物館構想の策定、資料の収集と保管、調査と研究、展示と学習	ミューアジアム・博物館に行ったら、展覧会を見るだけでなく、どんな仕事をしているのかよく観察してください。
8	ミューアジアム・博物館をつくる（2）	ミュージアム・博物館の設計、博物館の空間（エントランス、展示室、収蔵庫、学習室、ミュージアムショップ、レストラン、学芸員室、事務室、駐車場、動線計画、設備計画）。博物館のバックヤード見学は講義の中で指示します。	ミューアジアム・博物館に行ったら、どんな部屋があるのか、案内図を確認してください。
9	ミューアジアム・博物館の展示	常設展示の概要	ミューアジアム・博物館の展示（とくに常設展示）を時間かけて見学してください。
10	博物館の展示	企画展示とは何か	最近話題になった特別展示を紹介しあい、一度は見学してください。
11	ミューアジアム・博物館と生涯学習	こどもとミュージアム、高齢者とミュージアム、大学生とミュージアム、観光・まちづくりとミュージアム	地域社会におけるミューアジアムの役割を考えてください。
12	ミューアジアム・博物館の歴史	日本と世界のミューアジアム・博物館ランキング。	友達どうしで、これまでに見学した博物館の中で、面白かったミューアジアムや展覧会を紹介しよう。
13	現地見学	講義の中で指示	大阪で話題の博物館を見学する。3 コマ分なので欠席しないこと。日程は初回の講義で決めます。入館料は別途徴収。
14	現地見学	講義の中で指示	大阪で話題の博物館を見学する。3 コマ分なので欠席しないこと。日程は初回の講義で決めます。入館料は別途徴収。
15	現地見学	講義の中で指示	大阪で話題の博物館を見学する。3 コマ分なので欠席しないこと。日程は初回の講義で決めます。入館料は別途徴収。

関連科目：学芸員資格の必修科目とその他の関連科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			
評価方法 （基準）	定期試験（筆記）の成績(100%）で評価します。			
学生への メッセージ	ミューアジアム・博物館に行ったことがないという人がいますが、それは間違いです。歴史資料館や美術館に行ったことがなくても、動物園や水族館には行ったことがあるはずです。実は、動物園も水族館も博物館なのです。これからのミューアジアム・博物館は、知的な好奇心を満足させてくれる楽しいところを目指しています。このミューアジアム・博物館を企画・運営している専門職員が学芸員です。少しでもミューアジアムに興味があるなら、受講してください。学芸員資格を取るには、４年生で博物館実習を行う必要があります。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)			
備考	事前・事後に 1 時間の学修時間を要する。			

科目名	ミュージアムマネジメント論	科目名（英文）	Museum Management
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	赤澤　春彦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	博物館経営に関する行財政制度を踏まえながら、さまざまな博物館の形態や多岐にわたる活動について講義する。今後の方向性を考えるとともに、学芸員に必要な博物館経営に関する基礎的知識の習得をめざす。
到達目標	博物館の現状と課題を認識しながら、博物館はどうあるべきかを考え、理想の博物館を実現するためには、どのようなミュージアムマネージメント（博物館経営）が必要であるのかを具体的に理解できる。
授業方法と留意点	配付資料やスライドを見ながら進め、適宜板書もする。 受講生が調べたり、考えたりする作業を行い、毎回レポートを課すので欠席しないようにしてください。また、受講生と相談の上、博物館の臨地講義も実施する予定である。
科目学習の効果（資格）	学芸員資格の取得（必修科目）。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ミュージアムマネージメントとは	博物館には、効果的なマネージメントが要求される現状にあることを解説する。	配布資料や参考書で復習する。
2	行財政制度と博物館	博物館に関係する法律や財務に関する制度について解説する。	配布資料や参考書で復習する。
3	博物館をめぐる行政改革	指定管理者制度、ＰＦＩ法、独立行政法人制度など、博物館に関する近年の行政改革について解説し、その問題点を考える。	PFI 法、指定管理者制度について、本や WEB で調べておく。
4	博物館の財務	博物館の基本的な歳入と歳出などを解説し、財務状況や入館料をめぐる問題点を考える。	博物館の予算的な問題について調べる。
5	博物館の立地と環境	博物館にふさわしい立地条件や自然及び社会的環境について具体的に解説する。	実際の博物館の立地・環境を調べる。
6	博物館の施設と設備	博物館にどのような施設と設備が必要であるかを解説し、館種による相違点を比較する。	配布資料や参考書で復習する。
7	博物館の組織と職員	一般的な博物館の組織と職員、学芸員の具体的な業務内容を説明する。	配布資料や参考書で復習する。
8	博物館事業のあり方	博物館の理念と目的を説明し、その達成のためにどのような事業計画が必要かを検討する。	博物館が実施している事業の具体例を調べておく。
9	博物館の評価	博物館を評価するにはどのような基準・方法があるかを解説し、評価により得られる効果を検討する。	行ったことのある博物館の評価をしてみる。
10	博物館の危機管理	博物館で想定されるさまざまな危機について解説し、その対策を具体的に検討する。	博物館にかかわる危機にはどのようなものがあるか考えておく。
11	博物館の広報活動	非営利組織のマーケティングリサーチと、博物館における広報活動の具体的な方法を解説する。	博物館のポスターやチラシなどを見ておく。
12	ミュージアムサービス	ミュージアムショップ、レストランなどに代表されるサービスの現状を説明し、今後の方向性を考える。	本や WEB で博物館のサービスの具体例を調べる。
13	市民参画をめざす博物館	友の会、ボランティアなどの支援組織や、市民参画を促す博物館事業について解説する。	WEB やリーフレットなどで、博物館の友の会などについて調べる。
14	博物館のネットワーク	いろいろな博物館のネットワークについて解説する。	WEB で、日本博物館協会、日本動物園水族館協会などの HP を見る。
15	対話と連携の博物館	博物館が目指す対話と連携を具体的に検討することで、これからの博物館の経営について考える。。	配布資料や参考書で復習する。

関連科目	ほかの学芸員科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義最終日に行う筆記試験（持ち込み不可）、講義中に課すレポートをもとに評価する。 筆記試験（70%）、レポート（30%）とします。
学生へのメッセージ	必ず毎回出席すること。また、本講義を受講する間、多くの博物館に訪れることを望みます。
担当者の研究室等	7 号館４階（赤澤研究室）

備考	事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とする。

科目名	メディア　イングリッシュ a	科目名（英文）	Media English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	あい
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	里井　真理子
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction Unit 1 創造性豊かな子供の育て方	授業内容についての説明 読解・問題（pp.2～6）	授業範囲の予習と復習
2	Unit 1 創造性豊かな子供の育て方 Unit 2 ●金持ちの富を隠す方法が情報漏洩でバレる ●情報漏洩後でもパナマ政府は「資金洗浄国」とのレッテルを受け入れない	Review 読解・問題（pp.7～11） Quiz	授業範囲の予習と復習
3	Unit 2 ●金持ちの富を隠す方法が情報漏洩でバレる ●情報漏洩後でもパナマ政府は「資金洗浄国」とのレッテルを受け入れない Unit 3 お笑い芸人、又吉の芥川賞受賞で、じり貧の出版業界に光が	Review 読解・問題（pp.11～17） Quiz	授業範囲の予習と復習
4	Unit 3 お笑い芸人、又吉の芥川賞受賞で、じり貧の出版業界に光が Unit 4 ロシア、スポーツ界の「不正行為文化」	Review 読解・問題（pp.17～23） Quiz	授業範囲の予習と復習
5	Unit 4 ロシア、スポーツ界の「不正行為文化」 Unit 5 アフリカから逃れてⅠ・Ⅱ	Review 読解・問題（pp.23～29） Quiz	授業範囲の予習と復習
6	Unit 5 アフリカから逃れてⅠ・Ⅱ Unit 6 北極圏の国境を自転車で、難民たちのロシア経由ルート	Review 読解・問題（pp.29～35） Quiz	授業範囲の予習と復習
7	Unit 6 北極圏の国境を自転車で、難民たちのロシア経由ルート Unit 7 ヨーロッパに失望し帰国するイラク人多数	Review 読解・問題（pp.35～42） Quiz	授業範囲の予習と復習
8	Unit 7 ヨーロッパに失望し帰国するイラク人多数 Unit 8 中国経済沈滞でアフリカの経済上昇の夢しぼむ	Review 読解・問題（pp.43～47） Quiz	授業範囲の予習と復習
9	Unit 8 中国経済沈滞でアフリカの経済上昇の夢しぼむ Ｕｎｉｔ ９ ●「日本死ね！」と母親は戦い続ける ●保育園問題と出生率低下問題は悪循環にはまる	Review 読解・問題（pp.48～53） Quiz	授業範囲の予習と復習
10	Ｕｎｉｔ ９ ●「日本死ね！」と母親は戦い続ける ●保育園問題と出生率低下問題は悪循環にはまる Unit 10 iPS 細胞から眼球のパーツが創り出された	Review 読解・問題（pp.54～58） Quiz	授業範囲の予習と復習
11	Unit 10 iPS 細胞から眼球のパーツが創り出された	Review 読解・問題（pp.58～61） Quiz	授業範囲の予習と復習
12	Unit 11 自動運転カーの難問は、どうしたら人に注意を向けさせ続けるかだ	読解・問題（pp.62～66） Quiz	授業範囲の予習と復習
13	Unit 11 自動運転カーの難問は、どうしたら人に注意を向けさせ続けるかだ Unit 12 人工知能に囲碁名人級の技量有り	Review 読解・問題（pp.67～71） Quiz	授業範囲の予習と復習
14	Unit 12 人工知能に囲碁名	Review	授業範囲の予習と復習

	人級の技量有り	読解・問題（pp.71～73） Quiz	
15	General Review	Unit 1～12 までの総まとめ	授業ノート・テキストをしっかり復習しておくこと。

関連科目	リーディング Ia, Ib

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English through the News Media 2017 Edition	Masami Takahashi, Noriko Itoh, Richard Powell	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	作文課題（20%）＋授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等（80%）
学生へのメッセージ	１．マナーを守ることと、授業への積極的参加を求めます。 ２．毎回、授業始めに復習テストを行います。 ３．日頃から様々な事柄に興味を持って、新聞、ニュースなどを視聴して、情報と知識を身につけましょう。 ４．予習、復習をしっかり行いましょう。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

専門科目

科目名	メディア　イングリッシュ a	科目名（英文）	Media English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	うえ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中道　英美子
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
15	Review	Feedback session	・・・

関連科目：リーディング Ia, Ib

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Broaden Your Horizon through News in English	Aoi Watanabe	Sanshusha
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	メディア　イングリッシュ a	科目名（英文）	Media English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	おか
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	瀧川　宏樹
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、Chapter 1	授業ガイダンスなど	
2	Chapter 1	小テスト、リスニング、リーディング演習	小テストの予習、教科書の予習・復習
3	Chapter2	小テスト、リスニング、リーディング演習	小テストの予習、教科書の予習・復習
4	Chapter3	小テスト、リスニング、リーディング演習	小テストの予習、教科書の予習・復習
5	まとめテスト①、Chapter4	まとめテスト、リスニング、リーディング演習	テストの予習、教科書の予習・復習
6	Chapter4	小テスト、リスニング、リーディング演習	小テストの予習、教科書の予習・復習
7	Chapter5	小テスト、リスニング、リーディング演習	小テストの予習、教科書の予習・復習
8	Chapter6	小テスト、リスニング、リーディング演習	小テストの予習、教科書の予習・復習
9	まとめテスト②、Chapter7	まとめテスト、リスニング、リーディング演習	テストの予習、教科書の予習・復習
10	Chapter7	小テスト、リスニング、リーディング演習	小テストの予習、教科書の予習・復習
11	Chapter8	小テスト、リスニング、リーディング演習	小テストの予習、教科書の予習・復習
12	Chapter9	小テスト、リスニング、リーディング演習	小テストの予習、教科書の予習・復習
13	Chapter10	小テスト、リスニング、リーディング演習	小テストの予習、教科書の予習・復習
14	まとめテスト③	まとめテスト、リスニング、リーディング演習	テストの予習、教科書の予習・復習
15	総まとめ	小テスト、リスニング、リーディング演習	小テストの予習、教科書の予習・復習

関連科目：リーディング Ia, Ib

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Insights 2017　　世界を読むメディア英語入門 2017	Junko Murao 他	金星堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	普段から、ニュースを始め様々なものに関心を持つようにしましょう！
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

専門科目

科目名	メディア　イングリッシュ a	科目名（英文）	Media English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	きく
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ｱｰｻｰ ﾛﾘﾝｸﾞｽﾝ
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
15	Review	Feedback session	・・・

関連科目：リーディング Ia, Ib

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリントを使用する		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	メディア　イングリッシュ a	科目名（英文）	Media English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	金原　真由美
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、自己紹介 簡単な小テスト Chapter 1 No tricks:Halloween	出欠の取り方、授業の進め方、評価方法の説明 Chapter 1	予習（記事の下読み、Exercise）
2	1 No tricks:Halloween	単語小テスト 記事読解、Exercise	予習（記事の下読み、Exercise）
3	2 Historic pact to slow global warming is celebrated in Paris	単語小テスト 記事読解、Exercise	予習（記事の下読み、Exercise）
4	3 Einstein's right again: Scientists detect ripples in gravity	単語小テスト 記事読解、Exercise	予習（記事の下読み、Exercise）
5	4 U.S. Navy sailing near Spratly Islands jacks up tensionswith China	単語小テスト 記事読解、Exercise	予習（記事の下読み、Exercise）
6	5 Japan enacts legislation for major shift in postwar security policy	単語小テスト 記事読解、Exercise	予習（記事の下読み、Exercise）
7	6 Two Japanese scientists receive Nobel Prize	単語小テスト 記事読解、Exercise	予習：テスト勉強
8	臨時テスト（前期中間）	前半の学習内容の確認テスト 問題解説	予習（記事の下読み、Exercise）
9	8 Letters by Toyotomi Hideyoshi show detailed instructions to chief retainer	単語小テスト 記事読解、Exercise	予習（記事の下読み、Exercise）
10	9 pris terror attacks a barbaric assault on civil society	単語小テスト 記事読解、Exercise	予習（記事の下読み、Exercise）
11	10 kondo is back with more tidying advice in Spark Joy	単語小テスト 記事読解、Exercise	予習（記事の下読み、Exercise）
12	12 U.N. health chief: Zika virus is 'spreading explosively'	単語小テスト 記事読解、Exercise	予習（記事の下読み、Exercise）
13	13 Suu Kyi party projects landslide in historic Myanmar vote	単語小テスト 記事読解、Exercise	予習（記事の下読み、Exercise）
14	14 Japanese market observers wary of slowdown of Chinese economy	単語小テスト 記事読解、Exercise	予習：テスト勉強
15	臨時テスト（前期期末）	後半の学習内容の確認テスト） 問題解説	

関連科目	リーディング Ia, Ib

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	News Gallery 2017	木下善貞、江口雅子、Adam Hailes	開文社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	毎回授業の始めに前回学習した箇所の復習小テストをする。 臨時テスト２回（中間＋期末）分も成績に加味する。 時事問題についての英文を取り扱うため、日頃から新聞などに目を通し、それらの知識をあらかじめ知っておくのが望ましい（英文が理解しやすくなる）。

	積極的な授業参加を期待します。
担当者の 研究室等	７号館２階　非常勤講師控室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	メディア　イングリッシュｂ	科目名（英文）	Media English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	あい
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	里井　真理子
ディプロマポリシー(DP)	DP7○,DP8◎		

授業概要・目的	「メディアイングリッシュａ」に引き続き、国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-2]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 13 ●伊調の史上初五輪４連覇から始まり初日、日本金３つ ●ボルト、３大会連続３種目で金メダル；日本快挙、400mリレーで銀メダル ●多文化の日本人五輪選手たち大活躍	読解・問題（pp.74～79）	授業範囲の予習と復習
2	Unit 14 寺の役割が薄れてアマゾン経由で坊さんを呼ぶ	読解・問題（pp.80～83） Quiz	授業範囲の予習と復習
3	Unit 14 寺の役割が薄れてアマゾン経由で坊さんを呼ぶ Unit 15 カンボジアの死者の霊に米ドル札が大人気	Review 読解・問題（pp.83～88） Quiz	授業範囲の予習と復習
4	Unit 15 カンボジアの死者の霊に米ドル札が大人気 Unit 16 日本人にノーベル生理学医学賞と物理学賞	Review 読解・問題（pp.89～94） Quiz	授業範囲の予習と復習
5	Unit 16 日本人にノーベル生理学医学賞と物理学賞	Review 読解・問題（pp.94～99） Quiz	授業範囲の予習と復習
6	Unit 17 ●英国の EU 離脱と「特別な関係」 ●英国の EU 離脱で英国内の日本企業に不安感 ●再投票を求めて 300 万人以上が署名	Review 読解・問題（pp.100～104） Quiz	授業範囲の予習と復習
7	Unit 18 イスラム過激派グループ、ボコ・ハラム、拉致した女性たちを自爆テロの実行犯に	Review 読解・問題（pp.105～108） Quiz	授業範囲の予習と復習
8	Unit 18 イスラム過激派グループ、ボコ・ハラム、拉致した女性たちを自爆テロの実行犯に Unit 19 ヨガマスターで「ババ・クール運動」の帝王、帝国を拡張	Review 読解・問題（pp.109～114） Quiz	授業範囲の予習と復習
9	Unit 19 ヨガマスターで「ババ・クール運動」の帝王、帝国を拡張 Unit 20 英語圏出身者の中国での風変わりな仕事	Review 読解・問題（pp.115～120） Quiz	授業範囲の予習と復習
10	Unit 20 英語圏出身者の中国での風変わりな仕事 Unit 21 責任を共有し合い銃規制を！	Review 読解・問題（pp.121～126） Quiz	授業範囲の予習と復習
11	Unit 21 責任を共有し合い銃規制を！ Unit 22 空飛ぶ新しい敵、ドローンを動物たちが見張る	Review 読解・問題（pp.127～131） Quiz	授業範囲の予習と復習
12	Unit 22 空飛ぶ新しい敵、ドローンを動物たちが見張る Unit 23 デジタル文化の中でアナログへの熱愛	Review 読解・問題（pp.131～136） Quiz	授業範囲の予習と復習
13	Unit 23 デジタル文化の中でアナログへの熱愛 Unit 24 ●オランダのサッカーチーム、中国人オーナーのせいで地元ファンの間に不満が ●レスター、初勝利に大きく前進	Review 読解・問題（pp.137～143） Quiz	授業範囲の予習と復習

	●レスター、奇跡の初優勝		
14	Unit 24 ●オランダのサッカーチーム、中国人オーナーのせいで地元ファンの間に不満が ●レスター、初勝利に大きく前進 ●レスター、奇跡の初優勝	Review 読解・問題（pp.143〜145） Quiz	授業範囲の予習と復習
15	General Review	Unit 13〜24 までの総まとめ	授業ノート・テキストをしっかり復習しておくこと。

関連科目

リーディング Ia, Ib

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English through the News Media 2017 Edition	Masami Takahashi, Noriko Itoh, Richard Powell	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

作文課題（20%）＋授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等（80%）

学生へのメッセージ

1．マナーを守ることと、授業への積極的参加を求めます。
2．毎回、授業始めに復習テストを行います。
3．日頃から様々な事柄に興味を持って、新聞、ニュースなどを視聴して、情報と知識を身につけましょう。
4．予習、復習をしっかり行いましょう。

担当者の研究室等

７号館２階　非常勤講師室

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	メディア　イングリッシュ b	科目名（英文）	Media English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	うえ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中道　英美子
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	「メディアイングリッシュ a」に引き続き、国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-2]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
15	Review	Feedback session	・・・

関連科目：リーディング Ia, Ib

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Broaden Your Horizon through News in English	Aoi Watanabe	Sanshusha
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	メディア　イングリッシュ b	科目名（英文）	Media English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	おか
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	瀧川　宏樹
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	「メディアイングリッシュ a」に引き続き、国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-2]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、Chapter 11	授業ガイダンスなど	
2	Chapter 11	小テスト、リスニング、リーディング演習	小テストの予習、教科書の予習・復習
3	Chapter12	小テスト、リスニング、リーディング演習	小テストの予習、教科書の予習・復習
4	Chapter13	小テスト、リスニング、リーディング演習	小テストの予習、教科書の予習・復習
5	まとめテスト①、Chapter14	まとめテスト、リスニング、リーディング演習	テストの予習、教科書の予習・復習
6	Chapter14	小テスト、リスニング、リーディング演習	小テストの予習、教科書の予習・復習
7	Chapter15	小テスト、リスニング、リーディング演習	小テストの予習、教科書の予習・復習
8	Chapter16	小テスト、リスニング、リーディング演習	小テストの予習、教科書の予習・復習
9	まとめテスト②、Chapter17	まとめテスト、リスニング、リーディング演習	テストの予習、教科書の予習・復習
10	Chapter17	小テスト、リスニング、リーディング演習	小テストの予習、教科書の予習・復習
11	Chapter18	小テスト、リスニング、リーディング演習	小テストの予習、教科書の予習・復習
12	Chapter19	小テスト、リスニング、リーディング演習	小テストの予習、教科書の予習・復習
13	Chapter20	小テスト、リスニング、リーディング演習	小テストの予習、教科書の予習・復習
14	まとめテスト③	まとめテスト、リスニング、リーディング演習	テストの予習、教科書の予習・復習
15	総まとめ	小テスト、リスニング、リーディング演習	小テストの予習、教科書の予習・復習

関連科目	リーディング Ia, Ib

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Insights 2017　世界を読むメディア英語入門 2017	Junko Murao 他	金星堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	普段から、ニュースを始め様々なものに関心を持つようにしましょう！
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	メディア　イングリッシュ b	科目名（英文）	Media English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	きく
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ｱｰｻｰ ﾛﾘﾝｸﾞｽﾝ
ディプロマポリシー(DP)	DP7○,DP8◎		

授業概要・目的	「メディアイングリッシュ a」に引き続き、国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-2]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
15	Review	Feedback session	・・・

関連科目：リーディング Ia, Ib

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリントを使用する		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	積極的な授業参加を望む。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	メディア　イングリッシュ b	科目名（英文）	Media English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	抽冬　紘和
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	「メディアイングリッシュ a」に引き続き、国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-2]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction Chapter 1 Lifestyle Education	リスニング 講義 ペアワーク	単語調べ
2	Chapter 2 Environment	リスニング 講義 ペアワーク	単語調べ 復習
3	Chapter 3 Health	リスニング 講義 ペアワーク	単語調べ 復習
4	Chapter 4 Social Activism	リスニング 講義 ペアワーク	単語調べ 復習
5	Chapter 5 Lifestyle Health	リスニング 講義 ペアワーク	単語調べ 復習
6	Chapter 6 Media Entertainment	リスニング 講義 ペアワーク	単語調べ 復習
7	Chapter 7 Health	リスニング 講義 ペアワーク	単語調べ 復習
8	Chapter 8 Social Media	リスニング 講義 ペアワーク	単語調べ 復習
9	Chapter 9 Health etc.	リスニング 講義 ペアワーク	単語調べ 復習
10	Chapter 10 Food Trend	リスニング 講義 ペアワーク	単語調べ 復習
11	Chapter 11 Gender Lifestyle	リスニング 講義 ペアワーク	単語調べ 復習
12	Chapter 12 Social Activism	リスニング 講義 ペアワーク	単語調べ 復習
13	Chapter 13 Food	リスニング 講義 ペアワーク	単語調べ 復習
14	Chapter 14 Business	リスニング 講義 ペアワーク	単語調べ 復習
15	Chapter 15 Technology	リスニング 講義 ペアワーク	単語調べ 復習

関連科目：リーディング Ia, Ib

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	CBS News Break 3	Nobuhiro Kumai & Stephen Timson	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	海外の、特に英語圏のニュースは日本語訳されて発信されていることが多くあります。ですが、元の言語でニュースを理解するとよりニュースの内容が頭に入り知識となります。 頑張って学習していきましょう。

担当者の 研究室等	７号館２階非常勤控室 連絡先:hirokazunukk@outlook.jp
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	メディア中国語 a	科目名（英文）	Media Chinese a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大西　紀
ディプロマポリシー(DP)	DP7○,DP8◎		

授業概要・目的	様々なトピックを通じ、現代中国の現況を理解することに努めます。
到達目標	中国語を読み、聞き、書くことで総合力を養成したいと思います。検定 3 級レベルから 2 級レベルに焦点を合わせます。
授業方法と留意点	既習事項を確認しながら授業をすすめる。辞書も必須である。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
科目学習の効果（資格）	中国語検定 3 級合格

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	就活の経験 1/2	文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
2	就活の経験 2/2	音読練習　練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
3	就活の経験小テスト 僕の恋人 1/2	第 1-2 回復習テスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
4	僕の恋人 2/2	音読練習　練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
5	僕の恋人小テスト メディアの時代 1/2	第 3-4 回復習テスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
6	メディアの時代 2/2	音読練習　練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
7	メディアの時代小テスト 祝祭日の過ごし方 1/2	第 5-6 回復習テスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
8	祝祭日の過ごし方 2/2	音読練習　練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
9	祝祭日の過ごし方小テスト 日々の憩い　1/2	第 7-8 回復習テスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
10	日々の憩い　2/2	音読練習　練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
11	日々の憩い　小テスト 結婚すべきか　1/2	第 9-10 回　復習テスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
12	結婚すべきか　2/2	音読練習　練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
13	結婚すべきか　小テスト 一人っ子の是非 1/2	第 11-12 回復習テスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
14	一人っ子の是非 2/2	音読練習　練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
15	総復習	第 13-14 回復習テスト	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。

関連科目：「中国語を読む IIa」「中国語を聞く IIa」「中国語を話す IIa」「中国語を書く IIa」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	焦点中国	植屋・谷川　等	白帝社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学期中に 7 回実施する小テストおよび授業に取り組む姿勢をもとに評価する。 授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	語学の習得には地道な努力が必要です。最後まであきらめず、頑張りぬきましょう。
担当者の研究室等	非常勤講師控室（7 号館 2 階）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	メディア中国語b	科目名（英文）	Media Chinese b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大西　紀
ディプロマポリシー(DP)	DP7○,DP8◎		

授業概要・目的	前期と同じく、様々なトピックを通じ、中国の現況に迫ります。
到達目標	中国語の総合力を養います。検定３級から２級合格を目指します。
授業方法と留意点	既習事項を確認しながら授業をすすめる。辞書も必須である。
科目学習の効果（資格）	中国語検定３級～2 級合格

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	財布の紐を握るのは　1/2	文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
2	財布の紐を握るのは　2/2	音読練習　練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
3	財布の紐を握るのは　小テスト 調和社会の悩み　1/2	第 1-2 回小テスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
4	調和社会の悩み　2/2	音読練習　練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
5	調和社会の悩み　小テスト 新興自動車王国　1/2	第 3-4 回小テスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
6	新興自動車王国　2/2	音読練習　練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
7	新興自動車王国　小テスト 少数民族の魅力　1/2	第 5-6 回小テスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
8	少数民族の魅力　2/2	音読練習　練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
9	少数民族の魅力　小テスト 明日のために省エネ　1/2	第 7-8 回小テスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
10	明日のために省エネ　2/2	音読練習　練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
11	明日のために省エネ　小テスト エコバッグ持参　1/2	第 9-10 回小テスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
12	エコバッグ持参　2/2	音読練習　練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
13	エコバッグ持参　小テスト 中国食べ歩き　1/2	第 11-12 回小テスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
14	中国食べ歩き　2/2	音読練習　練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
15	総復習	第 13-14 回小テスト	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。

関連科目：「中国語を読む IIb」「中国語を聞く IIb」「中国語を話す IIb」「中国語を書く IIb」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	焦点中国語	植屋　谷川　等	白帝社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学期中に７回実施する小テストおよび授業に取り組む姿勢をもとに評価する。 授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	教科書は前期購入したものを引き続き使用します。ご注意ください。 前期に引き続き、地道に着実にレベルアップしていきましょう。
担当者の研究室等	講師控室（7 号館 2 階）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

専門科目

科目名	メディアのスペイン語Ⅰ	科目名（英文）	Media Spanish Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ディアス　イバン
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	今までに学習したスペイン語の文法知識を十分に駆使して、新聞、雑誌、ウェブページなどの様々なメディアで用いられるスペイン語の文章をできるだけ多く読み、「メディアのスペイン語」に慣れる。 国内外のさまざまなニュースに敏感になる。 読解に必要な語彙力を養成するため、毎回、単語テストを実施する。
到達目標	スペイン語による様々な表現や文法知識の更なる習得を目指す。
授業方法と留意点	スペイン語で書かれた新聞記事、雑誌記事、ウェブ記事をプリントにして配布します。 事前に配布されたプリントに目を通しておいてください。 また、関連記事やそれに限らない国内外でのニュースなどにも日頃から目を配っておきましょう。レポートや発表を課すことがあります。テーマが変わる場合もあります。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定 4,3 級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方 メディアの多様性	授業の内容を理解しておくこと
2	日本に関するスペイン語の記事（1）	文化記事の訳読１	授業の内容を理解しておくこと
3	日本に関するスペイン語の記事（2）	文化記事の訳読２	授業の内容を理解しておくこと
4	日本に関するスペイン語の記事（3）	社会記事の訳読１	授業の内容を理解しておくこと
5	日本に関するスペイン語の記事（4）	社会記事の訳読２	授業の内容を理解しておくこと
6	日本に関するスペイン語の記事（5）	到達度確認テスト	授業の内容を理解しておくこと
7	スペインに関するスペイン語の記事（1）	スポーツ記事の訳読１	授業の内容を理解しておくこと
8	スペインに関するスペイン語の記事（2）	スポーツ記事の訳読２	授業の内容を理解しておくこと
9	スペインに関するスペイン語の記事（3）	文化記事の訳読１	授業の内容を理解しておくこと
10	スペインに関するスペイン語の記事（4）	文化記事の訳読２	授業の内容を理解しておくこと
11	中南米諸国に関するスペイン語の記事(1)	到達度確認テスト	授業の内容を理解しておくこと
12	中南米に関するのスペイン語の記事（2）	記事の訳読	授業の内容を理解しておくこと
13	世界に関するスペイン語の記事(1)	国際的記事の訳読１	授業の内容を理解しておくこと
14	世界に関するスペイン語の記事（2）	国際的記事の訳読２	授業の内容を理解しておくこと
15	到達度確認テスト	まとめ	――――――

関連科目	スペイン語科目全般　外国語通訳法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	単語テスト３０％　＋　ボキャコン２０％　＋　到達度確認テスト５０％
学生へのメッセージ	文法事項ももう一度きちんと理論的に学習し、スペイン語のスキルアップにつなげましょう。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師控室
備考	事前・事後学修に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。

科目名	メディアのスペイン語Ⅰ	科目名（英文）	Media Spanish Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	篠原　愛人
ディプロマポリシー(DP)	DP7○,DP8◎		

授業概要・目的	辞書と習得した文法知識、そしてスペイン語圏に関する知識を余すところなく駆使して、スペイン語の長文を読みこなす力を身につけていくことを目指す。授業では主にスペイン語圏に関する文章を読み進めていくが、スペイン語の文章を正しく理解するために必要な文法事項を復習するだけでなく、スペイン語圏の国々に関する知識を修得することも併せて行う。
到達目標	スペイン語の文法知識の更なる習得と、単文のみならず複文を含めた長文の読解力を身に付ける。
授業方法と留意点	文章の読解をしていく。授業では、一文一文詳しく見ていく。また、指示語や代名詞、動詞の時制などの文法事項をひとつひとつ尋ねるので、答えられるように予習の段階で確認しておくこと。事前・事後学修に各１時間を要する。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定４級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方や評価基準について	授業で指示
2	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
3	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
4	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
5	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
6	中間テスト	既習範囲の確認	単語と表現
7	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
8	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
9	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
10	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	単語と表現
11	中間テスト（２）	既習範囲の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
12	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
13	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
14	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
15	理解度確認テスト	これまでの総括	総復習

関連科目：スペイン語の科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリント		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	予習・復習の完成度２０％　＋　中間テスト　３０％　＋　理解度確認テスト５０％
学生へのメッセージ	必ず予習の段階で自分なりに訳してみること。必ず予習をして授業に出席すること。 また、辞書を持参すること。
担当者の研究室等	７号館５階（篠原研究室）
備考	

科目名	メディアのスペイン語Ⅱ	科目名（英文）	Media Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	磯野　吉美
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	これまでに学んできたスペイン語知識を活用し、国内外の事柄を扱ったニュースに取り組みます。スペイン語で書かれた政治・経済・外交・文化などを扱った文の聞き取りと翻訳を通じて、聞き取り能力と読解力の向上を図ります。
到達目標	国内外で話題になっている事柄に関する文を読むだけでなく、作成したり討論できるようになることを目指します。
授業方法と留意点	報道で使用されいるスペイン語を聞き取り、翻訳する中で、時事スペイン語やメディア特有の表現について学びます。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定３級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方や評価基準について	授業で指示
2	ニュース（1）	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
3	ニュース（2）	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
4	ニュース（3）	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
5	ニュース（4）	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
6	ニュース（5）	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
7	ニュース（6）	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
8	ニュース（7）	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
9	ニュース（8）	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
10	ニュース（9）	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
11	ニュース（１０）	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
12	ニュース（１１）	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
13	ニュース（１２）	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
14	ニュース（１３）	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
15	まとめと復習	既習項目の復習と期末テスト	授業で指示

関連科目：メディアのスペイン語

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（授業参加度）40%、臨時試験（期末）60%
学生へのメッセージ	授業への積極的な参加を望みます。国内外のニュースに敏感になってください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	事前・事後に各 60 分の学習を要する

科目名	メディアのスペイン語Ⅱ	科目名（英文）	Media Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	三浦　知佐子
ディプロマポリシー(DP)	DP7○,DP8◎		

授業概要・目的	辞書と習得した文法知識、そしてスペイン語圏に関する知識を余すところなく駆使して、スペイン語の長文を読みこなす力を身につけていくことを目指す。授業では主にスペイン語圏に関する文章を読み進めていくが、スペイン語の文章を正しく理解するために必要な文法事項を復習するだけでなく、スペイン語圏の国々に関する知識を修得することも併せて行う。
到達目標	スペイン語の文法知識の更なる習得と、単文のみならず複文を含めた長文の読解力を身に付ける。
授業方法と留意点	文章の読解をしていく。授業では、一文一文詳しく見ていく。また、指示語や代名詞、動詞の時制などの文法事項をひとつひとつ尋ねるので、答えられるように予習の段階で確認しておくこと。事前・事後学修に各１時間を要する。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定４級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方や評価基準について	授業で指示
2	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
3	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
4	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
5	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
6	中間テスト	既習範囲の確認	単語と表現
7	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
8	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
9	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
10	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	単語と表現
11	中間テスト（２）	既習範囲の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
12	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
13	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
14	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳 語彙集の作成
15	理解度確認テスト	これまでの総括	総復習

関連科目：スペイン語の科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリント		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	予習・復習の完成度２０％　＋　中間テスト　３０％　＋　理解度確認テスト５０％
学生へのメッセージ	必ず予習の段階で自分なりに訳してみること。必ず予習をして授業に出席すること。 また、辞書を持参すること。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師控室）
備考	

科目名	メディアのスペイン語Ⅲ	科目名（英文）	Media Spanish III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	磯野　吉美
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	これまでに学んできたスペイン語知識を活用し、国内外の事柄を扱ったニュースに取り組みます。スペイン語で書かれた政治・経済・外交・文化などを扱った文の聞き取りと翻訳を通じて、聞き取り能力と読解力の向上を図ります。
到達目標	国内外で話題になっている事柄に関する文を読むだけでなく、作成したり討論できるようになることを目指します。
授業方法と留意点	報道で使用されいるスペイン語を聞き取り、翻訳する中で、時事スペイン語やメディア特有の表現について学びます。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定３級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方や評価基準について	授業で指示
2	ニュース（1）	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
3	ニュース（2）	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
4	ニュース（3）	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
5	ニュース（4）	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
6	ニュース（5）	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
7	ニュース（6）	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
8	ニュース（7）	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
9	ニュース（8）	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
10	ニュース（9）	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
11	ニュース（１０）	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
12	ニュース（１１）	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
13	ニュース（１２）	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
14	ニュース（１３）	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
15	まとめと復習	既習項目の復習と期末テスト	授業で指示

関連科目：メディアのスペイン語

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（授業参加度）40%、臨時試験（期末）60%
学生へのメッセージ	授業への積極的な参加を望みます。国内外のニュースに敏感になってください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	事前・事後に各 60 分の学習を要する。

科目名	メディアのスペイン語Ⅲ	科目名（英文）	Media Spanish III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	篠原　愛人
ディプロマポリシー(DP)	DP7○,DP8◎		

授業概要・目的	今までに学習したスペイン語の文法知識を十分に駆使して、新聞、雑誌、ウェブページなどの様々なメディアで用いられるスペイン語の文章をできるだけ多く読み、「メディアのスペイン語」に慣れる。 国内外のさまざまなニュースに敏感になる。
到達目標	スペイン語による様々な表現や文法知識の更なる習得を目指す。
授業方法と留意点	スペイン語で書かれた新聞記事、雑誌記事、ウェブ記事をプリントにして配布します。 事前に配布されたプリントに目を通しておいてください。事前・事後学修に各１時間を要する。 また、関連記事やそれに限らない国内外でのニュースなどにも日頃から目を配っておきましょう。レポートを課すことがあります。テーマが変わる場合もあります。毎回、単語テストをします。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定 4,3 級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方 メディアの多様性	授業の内容を理解しておくこと
2	日本に関するスペイン語の記事（1）	文化記事の訳読１	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。単語帳の作成。
3	日本に関するスペイン語の記事（2）	文化記事の訳読２	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。単語帳の作成。
4	日本に関するスペイン語の記事（3）	社会記事の訳読１	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。単語帳の作成。
5	日本に関するスペイン語の記事（4）	社会記事の訳読２	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。単語帳の作成。
6	中間テスト	既習事項の再確認	到達度の確認
7	スペインに関するスペイン語の記事（1）	スポーツ記事の訳読１	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。単語帳の作成。
8	スペインに関するスペイン語の記事（2）	スポーツ記事の訳読２	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。単語帳の作成。
9	スペインに関するスペイン語の記事（3）	文化記事の訳読１	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。単語帳の作成。
10	ボキャコン	既習単語の確認	単語帳の整理
11	中南米諸国に関するスペイン語の記事(1)	記事の訳読	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。単語帳の作成。
12	中南米に関するのスペイン語の記事（2）	記事の訳読	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。単語帳の作成。
13	世界に関するスペイン語の記事(1)	国際的記事の訳読１	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。単語帳の作成。
14	世界に関するスペイン語の記事（2）	国際的記事の訳読２	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。単語帳の作成。
15	到達度確認テスト	既習事項の再確認	さらなる復習を

関連科目：スペイン語の全科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリント		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回の単語テスト２０％　　ボキャコン２０％　　中間テストや到達度確認テスト６０％
学生へのメッセージ	文法事項ももう一度きちんと理論的に学習し、スペイン語のスキルアップにつなげましょう。
担当者の研究室等	7 号館５階（篠原研究室）
備考	スペイン語の文章の構造を理解できるまで、修行です。

専門科目

科目名	メディア文化論	科目名（英文）	Media Culture
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森本　誠一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	私たちの身の回りにはさまざまなメディアがあふれかえっています。みなさんはそうしたメディアをどれだけ理解し、使いこなせているでしょうか。この授業では、ワークショップを通じてさまざまなメディア技法を習得しつつ、これからの社会を生きていく上で求められるメディアリテラシーを涵養します。 なお、この科目はメディアビジネスプログラム科目です。
到達目標	この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。 （1）メディアリテラシーが身につく （2）さまざまなメディアの特性について理解している （3）メディアを通じて情報を獲得したり発信したりするためのスキル（メディア技法）を身につけている
授業方法と留意点	この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業を進めていきます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、毎回の授業に出席しなければ学修の効果は薄いでしょう。また、授業の終わりに毎回リアクションペーパーを提出してもらい、第２回目以降の授業では冒頭でそれを取り上げます。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の方法・基準についても確認します。	シラバスをしっかり読んでから授業に出席しましょう。また授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態にしておきましょう。
2	メディアリテラシー	インターネットの登場により、私たちの生活は劇的に変化してきました。LineやFacebook、twitterといったSNSは私たちの人間関係にも大きな影響を及ぼしています。 私たちはこうした技術をどれだけ使いこなせているでしょうか。今回の授業では、情報社会にあって必須の能力であるメディアリテラシーを涵養します。	授業中に指示します。
3	まわしよみ新聞を作る	インターネットの普及にともなって、活字文化の衰退が危惧されます。新聞の発行部数も年々減り続ける一方です。 今回の授業では、ワークショップにより「まわしよみ新聞」を作ります。そのなかで、新聞や活字文化について学修します。	まわしよみ新聞について調べておきましょう。 まわしよみ新聞を作るために、1週間以内の新聞を持ってきましょう。
4	SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）	SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）がどのようなものなのか学修します。	授業中に指示します。
5	SNSを使いこなす	SNSの特性を理解したうえで、SNSを使って情報を獲得したり発信したりする技術を身につけます。	授業中に指示します。
6	チラシを作る――広告デザインの作法	インターネット、SNSの普及にともなって、新聞、雑誌など紙媒体のメディアが発行部数を減らす一方で、チラシやポスターは依然として身の回りにあふれています。 今回の授業では、ワークショップを通じてチラシを作ります。そのなかで、広告、デザインの作法について学修します。	あなたの好きなチラシを探して授業に持ってきましょう。
7	名刺を作る――自己をブランディングする	今回の授業では、ブランディングの基本について学修します。その上で、自分自身を効果的にアピールするための手段として、ワークショップにより名刺を作ります。	授業中に指示します。
8	中間のふり返り	前半の授業をふり返ります。不明な点があれば質疑応答により解決します。	授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習しましょう。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査しましょう。
9	メディア文化史	メディア文化の歴史について学修します。	授業中に指示します。
10	映像を撮る――世界を切り取るということ	誰もが手軽に写真や動画を撮影できるようになりました。今回の授業では、動画の撮影を通じて、世界を切り取るということの意味について学修します。	授業中に指示します。
11	映像を編集する――切り取った世界を加工するということ	動画を撮影することが世界を切り取ることであるとするならば、その編集は切り取った世界を加工することだと言えるでしょう。	授業中に指示します。

		今回の授業では、映像の編集を通じて、世界を加工することの意味について学修します。	
12	映像制作論	今回の授業では、テレビ放送のドキュメンタリー番組がどのようにして作られるのかを確認しながら、映像制作の基本を学修します。	授業中に指示します。
13	大衆文化と政治	テレビ、映画、アニメといったメディアは、これまで幾度となくプロパガンダとして政治的な宣伝に利用されてきました。 今回の授業では、映像資料を交えながら大衆文化と政治の関係について学修します。	授業中に指示します。
14	メディアと権力	権力はしばしばメディアを利用します。メディアも権力におもねることが少なくありません。メディアと権力は、たいへん結びつきやすいものなのです。民主主義の社会にあって、私たちはこのことを十分に理解し、メディアと権力の両方を監視していく必要があります。 今回の授業では、メディアと権力の関係について学修します。	授業中に指示します。
15	まとめ、全体のふり返り	これまでの授業をふり返りながら、各回の授業が全体としてどのようにつながっていたのかを確認します。成績評価の方法・基準についても再確認します。	これまでの授業で学修したことをしっかり復習して授業に参加しましょう。授業を受けたあとは改めて授業全体をふり返りながら期末試験に向けて準備をしましょう。

関連科目

メディアビジネスプログラム科目(2015 年度入学生)

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	たったひとつの「真実」なんてない――メディアは何を伝えているのか?	森達也	ちくまプリマー新書
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

この授業は、授業内課題（リフレクションシート）15%、ワークショップ 30%、講義内容に関連する課題調査 10%、期末試験 45%で評価します。

学生へのメッセージ

決して堅苦しい雰囲気の授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。

担当者の研究室等

この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメイルにて受け付けます。

7 号館 2 階 非常勤講師室

メールアドレス：xmorimse[*]edu.setsunan.ac.jp
（[*]を半角の@に置き換え）

備考

科目名	メディアリテラシー論	科目名（英文）	Media Literacy
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	有馬　善一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	この科目は、「メディアビジネス」プログラム対応科目である。 現代社会においては、インターネットの発達に伴い、メディアからの情報の量も質も大きく様変わりしている。文字通り、情報の洪水の奔流の中で、嘘と真実を見分ける能力が必要とされている。また、ソーシャルメディアを通じて、自ら情報発信をする機会も格段に増えており、情報を読みとる力と発信する力の両方が必要とされているのである。 この講義では、メディアの社会的特性を理解し、適切な情報読解と発信をするために必要な知識とスキルを修得することを目標とする。
到達目標	新聞・テレビの情報が歪んでしまうメカニズムを理解する。 インターネットの情報の真偽を見抜くためのスキルを修得する。 インターネットでの発信を正しく行うための倫理とスキルを身につける。
授業方法と留意点	講義方式で行う。適宜、資料を配布・紹介する。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	メディアとメディアリテラシー	メディアとは何か メディアリテラシーとは何か メディアリテラシーのレベル	メディアリテラシーという言葉の意味についてまとめる。
2	新聞とニュースについて（1）	新聞と世論形成 新聞の中立性と「偏向」	新聞各紙のニュースの取り上げ方の違いについて調べる。
3	新聞とニュースについて（2）	日本の新聞の経営面における問題 新聞とインターネット 新聞のデジタル化とニュースサイト	ニュースサイトのまとめと新聞記事の違いについて調べる。
4	新聞とニュースについて(3)	事例研究。朝日新聞における「慰安婦報道」について	朝日新聞と読売・産経新聞の対立の本当の理由は何かを考える。
5	テレビについて（1）	テレビの映像の特性 番組編集 「やらせ」の問題 「ムスタン王国」について	テレビの「やらせ」の事例について、さらに各自で調べてみる。
6	テレビについて（3）	NHK と民放 NHK の受信料問題 テレビの番組編成・広告における問題 ニュース番組における報道の問題	NHK と民放の違いについて考えてみる。 NHK の受信料問題についての各自の考えをまとめる。
7	テレビについて（3）	事例研究。SMAP 解散騒動における「謝罪会見」とその後の展開	テレビ・週刊誌・インターネットの報道のあり方について比較する。
8	メディアと広告	広告・CM の影響力と価値 産業としてのメディアと広告	テレビ CM が喚起するイメージについて、各自で調べてみる。
9	メディアと〈権力〉	新聞・テレビの権力との関わり メディアの支配者としての〈資本〉	授業内容をまとめる。 権力によるメディアへの介入について他の事例を調べる。
10	インターネット社会について	インターネット社会の過去 インターネット社会の現在 インターネット社会の今後のあり方	授業内容をまとめる。 インターネットの将来について議論する。
11	インターネットと倫理	ネット社会とリアル社会の倫理のズレ インターネットとプライバシー 著作権の問題 匿名性の問題	ネット社会での倫理的逸脱について各自で調べる。
12	ソーシャルメディアについて（1）	コミュニケーション空間としての SNS 電子掲示板の問題 ブログ、ホームページ ネット炎上の問題	電子掲示板やブログでの炎上の事例を調べる。
13	ソーシャルメディアについて（2）	まとめサイト フェイスブック ツイッター ソーシャルメディアと情報の商業的利用	フェイスブック、ツイッターについて、各自の利用法について報告する。
14	ソーシャルメディアについて（3）	まとめサイト閉鎖の問題 アメリカ大統領選挙におけるフェイク・ニュース問題	インターネットにおける嘘と本当を見抜くために何が必要かについて各自の考えをまとめる。
15	まとめ	メディアリテラシーについてのまとめ	

関連科目：メディアビジネスプログラム科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生のための メディアリテラシートレーニング	長谷川・村田（編著）	三省堂
2	池上彰に聞くどうなってるの？ニッポンの新聞	池上彰	東京堂出版
3			

評価方法 （基準）	授業内のレポート・平常点（40%）と授業後のレポート課題（60%）
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7 号館 4 階（有馬研究室）
備考	事前事後学習　計 60 時間

科目名	ヨーロッパ史学	科目名（英文）	European History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林田　敏子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	ヨーロッパ世界を中心に世界の歴史をたどる。ヨーロッパ諸国は、「大航海時代」以来、アジアやアフリカ、アメリカ世界と密接なかかわりをもってきた。時代によってその「中心」（覇権国）は刻々と変化するものの、ヨーロッパ世界は今日にいたるまで、ある種の一体性を有しながら発展してきたといえる。常に世界史上の重大局面にかかわってきたヨーロッパを中心に、世界の歴史を読み解くことで、現代社会を歴史的観点からとらえかえす。
到達目標	ヨーロッパ、ひいては（日本を含めた）アジアの未来に関する明確なビジョンをもつために、古代、中世、近世、近代の歴史的特質を把握する。
授業方法と留意点	毎回プリントを配布し、図像史料を活用しながら、板書をまじえて授業をすすめる。
科目学習の効果（資格）	ヨーロッパを中心とする世界の歴史への知見を深め、歴史的思考を養う。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	古代エジプト（1）	ピラミッドの「謎」と宗教	ピラミッドについて予習してくる。
2	古代エジプト（2）	ミイラ信仰にみる古代の死生観	古代エジプトにおける王権についてまとめる。
3	中世ヨーロッパにおける魔女狩り（1）	魔女狩りの時代差・地域差	魔女狩りと聞いてイメージすることを文章にしてくる。
4	中世ヨーロッパにおける魔女狩り（2）	魔女裁判の社会的・宗教的意義	魔女裁判が中世社会においてもった意義についてまとめる。
5	「大航海時代」～アジアへの道～	ヨーロッパとアジアの「出会い」	「大航海時代」の新航路の開拓を地図上にまとめる。
6	フランス革命～何が革命的だったのか～	ヨーロッパ社会に与えた影響	フランス革命に関する年表を作成する。
7	ウィーン体制	ヨーロッパ新秩序の形成	ウィーン会議がドイツやイタリアに与えた影響についてまとめる。
8	イギリス産業革命（中間テスト）	世界初の産業革命はいかにしておこったのか	イギリス以外の産業革命について調べてくる。
9	膨張するヨーロッパ（1）（中間テスト解説）	帝国の拡大とアジア	ヨーロッパの植民地開拓が中国や日本に与えた影響について調べる。
10	膨張するヨーロッパ（2）	帝国の拡大とアフリカ・インド	ヨーロッパの植民地開拓を地図上にまとめる。
11	第一次世界大戦	総力戦と銃後の社会	第一次世界大戦に関する年表を作る。
12	ナチズムの台頭	戦争国家と人種主義	ナチズムの台頭がヨーロッパ社会に与えた影響についてまとめる。
13	第二次世界大戦	二つの世界大戦と 20 世紀	第一次世界大戦と第二次世界大戦の共通点と相違点についてまとめる。
14	一体化する世界	ＥＵの誕生と拡大するヨーロッパ	ＥＵが抱えている課題についてまとめる。
15	総括	小テストの実施と解説	全授業内容を復習してくる。

関連科目：社会文化史（世界の歴史）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	第 15 回目の授業で実施する小テスト（80%）、中間テストおよび提出物（20%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	歴史学とは、過去に起こった事件の年号や偉人の名前を暗記する学問ではありません。過去の出来事を通して、現代社会や未来についての思考力を養うためのものです。積極的に関連文献を読み、講義内容を批判的に摂取するよう心がけてください。
担当者の研究室等	7 号館 4 階（林田研究室）
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間。 中間試験に関するフィードバックは第 9 回目、小テストに関するフィードバックは第 15 回目の授業のなかで実施する。

科目名	ライティングa	科目名（英文）	Writing a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アレン　ニール
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	In this class, we will try to improve fundamental communication skills. Understanding the structure of English and writing in English that is correct and easy to read. Real events from English texts are actually used to express the meaning of the story. このクラスでは、基本的なコミュニケーション能力を向上させるよう努めます。 英語の構造を理解し、読みやすくい英語で書く訓練をします。
到達目標	In Writing, understanding the structure of English and acquiring more expressive ideas, we aim to foster the ability to write an English composition. In that regard, we also aim to acquire the practical vocabulary required. ライティングの授業では、英語の構造を理解し、より表現力豊かなアイデアを得ながら、英語の文章を書く能力を養うことを目指しています。 その過程で、実用的な語彙を身につけることを目指しています
授業方法と留意点	In order to cultivate writing skills, we will learn a wide range of vocabulary used in everyday life and business. As we conduct quizzes almost every time in lessons, we definitely have to review the previous lesson. Also be sure to bring a dictionary. ライティングスキルを養うために、私たちは日常生活やビジネスで使用される幅広い語彙を学びます。 レッスンではほとんど毎回クイズを行うので、前のレッスンを復習する必要があります。 また、必ず辞書を持って来てください。
科目学習の効果（資格）	Be able to select appropriate vocabulary in actual scene. Improve vocabulary and grammar, basic ability of writing. 実際の場面で適切な語彙選択ができること。 語彙や文法、Writing の基礎力の向上。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業の進め方や予習・復習の仕方、評価方法などについて説明を行う。また、教科書の内容について導入を行う。	
2	Making Friends at College	教科書演習	Unit の予習、及び文法や教科書内容の復習
3	My Frantic Day	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
4	Time Is Not Money	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
5	Tokyo Disney Resort	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
6	Overseas Travel	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
7	Sugar Blamed for Increased Obesity Worldwide	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
8	Exam	Unit 1-6 の内容についてテストの実施とその解説	Unit 1-6 のテスト勉強、及びテスト内容の復習
9	Making the Perfect Cup of Coffee	教科書演習	Unit の予習、及び文法や教科書内容の復習
10	The Statue of Liberty	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
11	Opinion	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
12	English Language Newspapers	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
13	Managing Stress	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
14	Writing Personal and Business Letters	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
15	Exam	Unit 7-12 の内容についてテストの実施とその解説	Unit 7-12 のテスト勉強、及びテスト内容の復習

関連科目　ライティングb

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Teacher Worksheets		
2			
3			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
評価方法 （基準）	Normal point (lesson attitude, quizzes, homework, speech activity etc) 85% Common task 15% 平常点（授業態度、小テスト、 宿題、発話活動等）　85% 共通課題　15%
学生への メッセージ	In this class, we will look for new discoveries in terms of words and grammar in style that is familiar with English. We will think about and write down English sentences about familiar themes. I hope that you will actively work together with teams. このクラスでは、英語に精通したスタイルの単語や文法の新しい発見を探します。 私たちは身近なテーマについて考え、英語の文章を書き留めます。 私はあなたが積極的にチームと一緒に働くことを願っています。
担当者の 研究室等	Part-time teacher room 2nd floor, Building 7 ７号館２階　非常勤講師室
備考	The total number of hours for pre- and post-exercise is approximately 15 hours. 運動前後の合計時間は約15時間です。

科目名	ライティングｂ	科目名（英文）	Writing b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョセフ　シウンシ
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	In this class, students will learn how to express opinions about a variety of topics in writing with a focus on format and message.
到達目標	Students will acquire necessary critical thinking skills as well as improved spelling, grammar, and vocabulary. By the end of the course, students will know how to clearly state ideas in writing with an emphasis on using correct structure.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.
科目学習の効果（資格）	ＴＯＥＩＣ

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
15	Review	Feedback sessionk	・・・

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

評価方法（基準）	Writing Assignments: 80% Homework: 20%
学生へのメッセージ	You will need a notebook and writing materials for each class.
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	If you have any questions, come see me anytime. 事前事後学習の総時間数をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	ラテンアメリカ史学	科目名（英文）	Latin American History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	篠原　愛人
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的

ラテンアメリカの歴史、なかでもメキシコの歴史を、コロンブスとの接触以前からスペインによる征服・植民地時代まで概観する。それ以降の時代については「現代ラテンアメリカ論」がカバーする。

高校の世界史ではマヤ・アステカ・インカとスペインによる征服、独立がエピソード的に取り上げられるにすぎない分野である。しかし、現在の強国・大国中心の歴史でなく、500 年以上も搾取されてきた国々の歴史を知り、そこから世界史を見直す作業も、今日のグローバリゼーションを考える上で欠かせない。複眼的視点で現代を捉えることができるようになれば、と願っている。

到達目標

先スペイン期のメソアメリカ文明の豊かさをメソアメリカ考古学の進展とともに把握する。
「アメリカ発見」の世界史的意味を理解する。

授業方法と留意点

講義形式。要点を板書するよう心がけるが、それだけに頼らずノート作りをすること。事前・事後学修に各１時間を要する。

科目学習の効果（資格）

言葉の背景にある文化・歴史を知り、異文化理解の一歩となる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション･先住民文化	ラテンアメリカとは何か。 最初のアメリカ人・巨大な孤島 様々な文化圏・時代区分	配布プリント・ノートの整理
2	先住民文明（1）：メソアメリカの誕生	先古典期（オルメカ）文明 メソアメリカの共通文化要素	教科書　第１章
3	先住民文明（2）：古典期	テオティワカン、トルテカ	配布プリント・ノートの整理
4	先住民文明（3）：マヤ文明	先古典期マヤ 古典期マヤ（ティカル、パレンケ、チチェンイツァ、ウシュマル）	配布プリント・ノートの整理
5	先住民文明（4）	アステカ文明	配布プリント・ノートの整理
6	中間テスト	先スペイン期のメソアメリカ	これまでの総復習
7	ヨーロッパの中世から近世	ヨーロッパ人と異文化	教科書の関連ページ
8	大航海時代（1）：１４～１５世紀のヨーロッパとポルトガルの海外発展	地球は皿状？　地球は丸い？ なぜポルトガルはほかの国々より先に海外へ進出できたのか	教科書の関連ページ 配布プリント・ノートの整理
9	大航海時代（2）：コロンブスの航海とアメリゴ･ヴェスプッチの航海	コロンブスは何を「発見」しかのか	教科書の関連ページ
10	先住民国家（アステカ、インカ）の征服	なぜ少数のスペイン人が先住民の大国家を征服できたのか？	教科書の関連ページ
11	植民地時代（1）：先住民とスペイン人	インディアス論争：先住民は人間か？	教科書の関連ページ
12	植民地時代（2）：もう一つの征服・精神的征服（1）	世俗と教会：なぜスペイン王室はキリスト教を布教したのか？ 修道会と教区教会	教科書の関連ページ
13	植民地時代（3）：もう一つの征服・精神的征服（2）	伝道は成果をあげたか？ 先住民はキリスト教にどのような反応を示したか？	教科書の関連ページ
14	植民地時代（4）：植民地時代の先住民	先住民人口の激減、混血化の過程、労働制度の変遷	教科書の関連ページ
15	理解度確認テスト	これまでの総括	配布プリント・ノートの整理

関連科目

現代ラテンアメリカ論、スペインの社会と文化、ラテンアメリカの社会と文化

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ラテンアメリカの歴史　史料から読み解く植民地時代	染田秀藤／篠原愛人	世界思想社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

毎回の質問表１０％＋
レポート(教科書を使った課題を何度か出す)３０％＋
中間テスト３０％＋
理解度確認テスト３０％

学生へのメッセージ

歴史を見れば、ラテンアメリカの 500 年は苦難の連続でした。今日の日本は比べものにならないくらい豊かで、恵まれています。その苦しいはずのラティーノのほうが底抜けに明るいのはなぜなのでしょう。

担当者の研究室等

７号館５階(篠原研究室)

備考

毎回、数枚のプリントを配布するので、専用のファイルを用意すること。

科目名	ラテンアメリカの社会と文化	科目名（英文）	Latin American Society and Culture
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北條　ゆかり
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	ラテンアメリカは、古来先住民の文化的伝統を有しながらも、15 世紀末以降のヨーロッパによる征服と植民地支配を 3 世紀間以上にわたって経験した地域です。その後 19 世紀初頭にアジアやアフリカ諸国に比べてより早く植民地支配からの独立を遂げたこの地域がたどった歴史的独自性を知るだけではなく、隣接する北米のアングロアメリカとの歴史的関係と今後の共存のゆくえや日本とのより深い関係構築について展望できるようになることをめざします。同時に、6 つのサブ・リージョンに分け、視聴覚教材を適宜用いることで具体像を持てるよう、各回の授業テーマの中に織り込みます。 地理的に日本からは遠隔地に位置していますが、ラテンアメリカ諸国と日本との関係はますます緊密化しており、親日的な国々と人々のことをもっと知りましょう。ラテンアメリカで最も広く使われている言語はスペイン語です。
到達目標	広大なラテンアメリカという地域は、北米大陸から南米大陸にかけて、カリブ海地域を含めた 33 ヶ国から構成されています。この地域を多角的な視野から学際的かつ総合的に学ぶことで、異文化理解を深める一助となります。
授業方法と留意点	教材は授業で配布します。 毎回、質問票を書き提出してもらい、次の授業で解説を行います。
科目学習の効果（資格）	日本ではあまり知られていないラテンアメリカという地域の持つ固有の文化に親しむことで、グローバル社会の中で複眼的思考のできる観点を養う。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ラテンアメリカの地理（1）	地域名称の由来 域内諸国の名称と位置の学習	地域を構成する 33 ヶ国・13 非独立領を地図上で確認する
2	ラテンアメリカの地理（2）	地域の歴史的概要 産業と特産品	基礎統計資料一覧を読み解く ラテンアメリカ原産作物と資源について調べる
3	ラテンアメリカの地理（3）	世界文化遺産を通して見る多民族・多文化社会	ラテンアメリカの世界遺産について調べる
4	ラテンアメリカの歴史（1）	先住民古代文明	マヤ、アステカ、インカ文明のいずれかについて調べる
5	ラテンアメリカの歴史（2）	征服と植民地支配	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
6	ラテンアメリカの歴史（3）	独立とその後の近代化と従属化	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
7	ラテンアメリカの歴史（4）	20 世紀の革命と民主化過程	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
8	ラテンアメリカの文化（1）	美術・音楽	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
9	ラテンアメリカの文化（2）	文学・映画	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
10	ラテンアメリカの文化（3）	食文化	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
11	ラテンアメリカの社会	階層社会の構造、民族文化と国民社会	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
12	ラテンアメリカの政治経済	政治体制の変遷 ラテンアメリカ経済の歴史的変容、現状と課題、地域統合	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
13	現代世界の中のラテンアメリカ	国際政治・経済の中のラテンアメリカの位置づけ	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
14	ラテンアメリカと日本の関係	移住と日系社会、政治・外交関係におけるラテンアメリカと日本	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
15	総括	達成度確認テスト	総復習

関連科目	1 年次前期の「スペイン語圏概論」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内容に関する質問票、与えられたテーマに対する小論文等　５０％、達成度確認テストおよびレポート　５０％により総合的に評価する。
学生へのメッセージ	日本から遠く離れた地域ですが、不思議な魅力にあふれる混沌とした世界です。そこへと分け入ることで、自分自身のこれまでのものの見方を相対化するきっかけとなるでしょう。
担当者の研究室等	７号館５階 北條研究室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。

科目名	リーディングⅠa	科目名（英文）	Reading Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	住吉　誠
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し（目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10 分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC，英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目：スキルズトレーニング a、スピーキング＆ライティング Ia、ボキャブラリー&グラマー a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading for Speed and Fluency 1 （特注品）	Paul Nation and Casey Malarcher	Compass Publishing
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	速読・多読活動　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生へのメッセージ	速読の指定教科書以外の教材は、プリントを配布します。 英語の上達には大量のインプットが欠かせません。普段から様々な素材を用いてインプットを増やすように心がけてください。
担当者の研究室等	７号館４階　住吉研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	リーディングⅠa	科目名（英文）	Reading Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	ロハ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	里井　真理子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し（目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10 分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC，英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction Unit 1 "United" Kingdom and Ireland - How Different Are They?	授業内容についての説明 速読・多読 読解・問題（pp.9～12）	授業範囲の予習・復習
2	Unit 2 "United" Kingdom and Ireland - Who Is Most Patriotic? Unit 4 British Cuisine - Eat Like Henry! + Modern British Cuisine	速読・多読 読解・問題（pp.13～16） 読解・問題（pp.21～24） Quiz	授業範囲の予習・復習
3	Unit 3 "United" Kingdom and Ireland - King, Queen and Prince	速読・多読 読解・問題（pp.17～20） Quiz	授業範囲の予習・復習
4	Unit 5 England - Elizabethan Theatre: Shakespeare and Marlowe	速読・多読 読解・問題（pp.25～28） Quiz	授業範囲の予習・復習
5	Unit 6 England - Nursery Rhymes as History Unit 7 England - Peter Rabbit and Lake District	速読・多読 読解・問題（pp.29～36） Quiz	授業範囲の予習・復習
6	Unit 8 England - Lake District and William Wordsworth Unit 9 England - Cotswolds	速読・多読 読解・問題（pp.37～44） Quiz	授業範囲の予習・復習
7	Unit 10 England (London) - Youth Culture & Fashion Unit 11 England - Multi-racial Society "Immigration : If Someone Asks, I'm British, End of Story"	速読・多読 読解・問題（pp.45～52） Quiz	授業範囲の予習・復習
8	Unit 12 England (London) - Bend It Like Beckam Unit 13 Scotland - Difference Between Highlander and Lowlander + Bagpipes	速読・多読 読解・問題（pp.53～60） Quiz	授業範囲の予習・復習
9	Unit 14 Scotland - Kilt History Unit 15 Scotland - The Scottish Independence Referendum and Football	速読・多読 読解・問題（pp.61～68） Quiz	授業範囲の予習・復習
10	Unit 16 Wales - How Has the Welsh Language Striven? Unit 17 Wales - Welsh Music	速読・多読 読解・問題（pp.69～76） Quiz	授業範囲の予習・復習
11	Unit 18 Wales - Land of Legend and King Arthur Unit 19 Country Cuisine - from Wales, Ireland and Scotland	速読・多読 読解・問題（pp.77～84） Quiz	授業範囲の予習・復習
12	Unit 20 Ireland - Land of Culture + Irish Music and Dance Unit 21 Ireland - Fairy Tales	速読・多読 読解・問題（pp.85～92） Quiz	授業範囲の予習・復習
13	Unit 22 Ireland - Legendary Hero Cu Chulainn and G.P.O. Unit 23 Northern Ireland - Belfast Then and Now	速読・多読 読解・問題（pp.93～100） Quiz	授業範囲の予習・復習
14	Unit 24 Northern Ireland - "Bloody Sunday" and After Unit 25 United Kingdom - EU Referendum Results Fallout	速読・多読 読解・問題（pp.101～108） Quiz	授業範囲の予習・復習

	Explained: What We Know So Far After Britian Votes for Brexit		
15	General Review	Unit 1～Unit 25 までの総まとめ	授業ノート・テキストをしっかり復習しておくこと。

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング＆ライティング Ia、ボキャブラリー&グラマー a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading for Speed and Fluency 1 （特注品）	Paul Nation and Casey Malarcher	Compass Publishing
2	Journey to"Multi-cultural" Great Britaind and Ireland	永田喜文、菅野智城	三修社
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	速読・多読活動　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生への メッセージ	１．マナーを守ることと、授業への積極的参加を求めます。 ２．毎回、授業始めに復習テストを行います。 ３．日頃から様々な事柄に興味を持って、情報を集め知識を身につけましょう。 ４．予習、復習をしっかり行いましょう。
担当者の 研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	リーディングⅠa	科目名（英文）	Reading Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	ニホ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	瀧川　宏樹
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し（目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10 分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC，英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目：スキルズトレーニング a、スピーキング＆ライティング Ia、ボキャブラリー&グラマー a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading for Speed and Fluency 1 （特注品）	Paul Nation and Casey Malarcher	Compass Publishing
2	Reading Success 2　リーディングサクセス２	Akihiko Sato / Valerie Tidwell	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	速読・多読活動　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生へのメッセージ	授業ではマナーを守り、積極的かつ集中して参加してもらいたい。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	リーディングⅠa	科目名（英文）	Reading Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	ヘト
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西谷　継治
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し（目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10 分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目：スキルズトレーニング a、スピーキング＆ライティング Ia、ボキャブラリー&グラマー a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading for Speed and Fluency 1 （特注品）	Paul Nation and Casey Malarcher	Compass Publishing
2	Let's Enjoy SF Short-Shorts　超短編ＳＦで楽しく学ぶ読解・英作文	Takako Takamoto ／ Hiroshi Ikezono	開文社出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	速読・多読活動　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	リーディングⅠa	科目名（英文）	Reading Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	チリ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	湊　由妃子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し（目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10 分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC，英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業の進め方と評価方法の説明 小テストと確認	予習
2	Chapter 1: Making Friends	Reading, Reading Comprehension, Word Sense, Dialogue	復習と予習
3	Chapter 2: Renting an Apartment	Reading, Reading Comprehension, Word Sense, Dialogue	復習と予習
4	Chapter 3: Setting up a Bank Account	Reading, Reading Comprehension, Word Sense, Dialogue	復習と予習
5	Chapter 4: Phone and Internet Service	Reading, Reading Comprehension, Word Sense, Dialogue	復習と予習
6	Chapter 5: Traveling in the United States	Reading, Reading Comprehension, Word Sense, Dialogue	復習と予習
7	Chapter 6: Getting a Car	Reading, Reading Comprehension, Word Sense, Dialogue	復習と予習
8	Chapter 7: New York City	Reading, Reading Comprehension, Word Sense, Dialogue	復習と予習
9	Chapter 8: Sports in the United States	Reading, Reading Comprehension, Word Sense, Dialogue	復習と予習
10	Chapter 9: The Neighborhood Party	Reading, Reading Comprehension, Word Sense, Dialogue	復習と予習
11	Chapter 10: Ordering Pizza	Reading, Reading Comprehension, Word Sense, Dialogue	復習と予習
12	Chapter 12: Weather in the United States	Reading, Reading Comprehension, Word Sense, Dialogue	復習と予習
13	Chapter 13: Complaining	Reading, Reading Comprehension, Word Sense, Dialogue	復習と予習
14	Chapter 15: Volunteering	Reading, Reading Comprehension, Word Sense, Dialogue	復習とまとめのテストの準備
15	前期の総復習とまとめのテスト	前期の学習内容の習熟度をみるためのまとめのテスト	テスト準備

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング＆ライティング Ia、ボキャブラリー&グラマー a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading for Speed and Fluency 1 （特注品）	Paul Nation and Casey Malarcher	Compass Publishing
2	Life across the Waves	William A. O'Donnell/芝垣哲夫 1	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	速読・多読活動　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生へのメッセージ	授業ではマナーを守り、積極的かつ集中して参加してください。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	リーディングⅠa	科目名（英文）	Reading Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	金原　真由美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し（目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10 分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目：スキルズトレーニング a、スピーキング＆ライティング Ia、ボキャブラリー&グラマー a

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading for Speed and Fluency 1 （特注品）	Paul Nation and Casey Malarcher	Compass Publishing
2	More Odds & Ends（続・日常会話に役立つ英語ミニ知識）	James Tschudy、吉田秀次	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物、多読活動等）の成績を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	英語の力は学習時間に比例して伸びてゆきます。線を引いたり、書き写したり、マーカーで区別したり工夫しながら勉強しましょう。 必ず辞書を持参すること。 授業への積極的な参加を期待します。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師控室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	リーディングＩｂ	科目名（英文）	Reading Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	瀧川　宏樹
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J [A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。 難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し（目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10 分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目：スキルズトレーニング b、スピーキング＆ライティング Ib、ボキャブラリー&グラマー b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading for Speed and Fluency 1 （特注品）	Paul Nation and Casey Malarcher	Compass Publishing
2	Discoveries & Findings	Patricia Ackert / Linda Lee 著、竹内理 / 池田真生子 / 山中由香 / 近藤睦美 編著	松柏社
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	速読・多読活動　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	リーディングＩｂ	科目名（英文）	Reading Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	ＣＤ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	湊　由妃子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J [A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。 難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し（目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10 分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業の進め方と評価方法の説明 教科書 Pre-Unit	教科書をもってくること
2	Unit 1: Japanese Cultural Invasion	教科書　pp.13-18	予習と復習
3	Unit 2: Emoji (From Japan to the World)	教科書　pp.19-24	予習と復習
4	Unit 3: Tokyo 2020: Chance for a New Beginning	教科書　pp.25-30 Unit 1 & 2 の小テスト	予習と復習 テスト準備
5	Unit 4: Pet Obsession	教科書　pp.31-36	予習と復習
6	Unit 5: Silver Japan	教科書　pp.37-42 Unit 3 & 4 の小テスト	予習と復習 テスト準備
7	Unit 6: Changing Gender Roles	教科書　pp.43-48	予習と復習
8	Unit 7: Maternity Harassment	教科書　pp.49-54 Unit 5 & 6 の小テスト	予習と復習 テスト準備
9	Unit 8: Digital Youth (The Connected Generation)	教科書　pp.55-60	予習と復習
10	Unit 9: Japan's Peaceful Poor	教科書　pp.61-66 Unit 7 & 8 の小テスト	予習と復習 テスト準備
11	Unit 10: The Idol-Making Machine	教科書　pp.67-72	予習と復習
12	Unit 11: Japanese Hospitality (Second to None)	教科書　pp.73-78 Unit 9 & 10 の小テスト	予習と復習 小テスト準備
13	Unit 12: Shrinking Cities(Returning the Countryside to Nature)	教科書　pp.79-84	予習と復習
14	Unit 13: The New Youth Movement	教科書　pp.85-90 Unit 11 & 12 の小テスト	予習と復習 小テスト準備 まとめのテストの準備
15	総復習とまとめのテスト	後期学習範囲の習熟度をみるためのテスト	後期の内容をしっかり復習してくること

関連科目：スキルズトレーニング b、スピーキング＆ライティング Ib、ボキャブラリー&グラマー b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Portraits of Japan	Paul Stapleton / Atsuko Uemura	CENGAGE Learning
2	Reading for Speed and Fluency 1 （特注品）	Paul Nation and Casey Malarcher	Compass Publishing
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	速読・多読活動　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生へのメッセージ	授業にはマナーを守り、積極的かつ集中して参加してください。 教科書を忘れないこと、辞書持参、予習は厳守です。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	リーディングⅠb	科目名（英文）	Reading Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	住吉　誠
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し（目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10 分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目：スキルズトレーニング b、スピーキング＆ライティング Ib、ボキャブラリー&グラマー b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading for Speed and Fluency 1 （特注品）	Paul Nation and Casey Malarcher	Compass Publishing
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	速読・多読活動　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生へのメッセージ	速読の指定教科書以外の教材は、プリントを配布します。 英語の上達には大量のインプットが欠かせません。普段から様々な素材を用いてインプットを増やすように心がけてください。
担当者の研究室等	７号館４階　住吉研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。

科目名	リーディングⅠb	科目名（英文）	Reading Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	いう
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	金原　真由美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J [A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。 難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し（目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10 分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目：スキルズトレーニング b、スピーキング＆ライティング Ib、ボキャブラリー&グラマー b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading for Speed and Fluency 1 （特注品）	Paul Nation and Casey Malarcher	Compass Publishing
2	Reading Radius(リーディング・レイディアス科学技術の多様な側面を考える)	松尾秀樹・Stephen E. Rife・藤本温	三修社
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	速読・多読活動　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生へのメッセージ	スマートフォンや医療機器を始め、科学技術が発展し常に私たちの身近なものとしてある現代社会においては、文科系専攻の学生であっても一般的な知識として知っておく必要があるような読み物ばかりです。 英語の力は学習時間に比例して伸びてゆきます。線を引いたり、書き写したり、マーカーで区別したり工夫しながら勉強しましょう。 必ず辞書を持参すること。 授業への積極的な参加を期待します。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	リーディングⅠb	科目名（英文）	Reading Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	えお
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西谷　継治
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J [A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。 難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し（目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10 分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目：スキルズトレーニング b、スピーキング＆ライティング Ib、ボキャブラリー&グラマー b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading for Speed and Fluency 1 （特注品）	Paul Nation and Casey Malarcher	Compass Publishing
2	Simply Shakespeare	Jim Knudsen, Takao Taguchi	南雲堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	速読・多読活動　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	リーディングⅠb	科目名（英文）	Reading Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	かき
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	里井　真理子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J [A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。 難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し（目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10 分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction Unit 1 Smart Phones Deserve Smart Users Unit 2 The Animals in Our Lives	授業内容についての説明 速読・多読 読解・問題（pp.1～9）	授業範囲の予習・復習
2	Unit 2 The Animals in Our Lives Unit 3 Reforming Japan's Education System	Review 速読・多読 読解・問題（pp.10～18） Quiz	授業範囲の予習・復習
3	Unit 4 A Hungry Future Unit 5 No More Unwelcome Advertisements	Review 速読・多読 読解・問題（pp.19～28） Quiz	授業範囲の予習・復習
4	Unit 5 No More Unwelcome Advertisements Unit 6 A Living Wage	Review 速読・多読 読解・問題（pp.29～36） Quiz	授業範囲の予習・復習
5	Unit 7 Keepng Mothers on the Payroll Unit 8 Slow Life	Review 速読・多読 読解・問題（pp.37～46） Quiz	授業範囲の予習・復習
6	Unit 8 Slow Life Unit 9 Volunteering	Review 速読・多読 読解・問題（pp.47～54） Quiz	授業範囲の予習・復習
7	Unit 10 Longevity: a Mixed Blessing Unit 11 The Importance of Biodiversity	Review 速読・多読 読解・問題（pp.55～64） Quiz	授業範囲の予習・復習
8	Unit 11 The Importance of Biodiversity Unit 12 A Home for Endangered Storks	Review 速読・多読 読解・問題（pp.65～72） Quiz	授業範囲の予習・復習
9	Unit 13 Japan's Future Energy Supply Unit 14 Green Trasportation	Review 速読・多読 読解・問題（pp.73～82） Quiz	授業範囲の予習・復習
10	Unit 14 Green Trasportation Unit 15 How Much Is Nature Worth?	Review 速読・多読 読解・問題（pp.83～90） Quiz	授業範囲の予習・復習
11	Unit 16 Business Can Be Green Unit 17 Storing Energy	Review 速読・多読 読解・問題（pp.91～97） Quiz	授業範囲の予習・復習
12	Unit 17 Storing Energy Unit 18 A Dollar a Day	Review 速読・多読 読解・問題（pp.98～103） Quiz	授業範囲の予習・復習
13	Unit 18 A Dollar a Day Unit 19 Beyond Fair Trade	Review 速読・多読 読解・問題（pp.104～110） Quiz	授業範囲の予習・復習
14	Unit 19 Beyond Fair Trade Unit 20 Shrink the Economy, Not the Earth	Review 速読・多読 読解・問題（pp.110～120） Quiz	授業範囲の予習・復習
15	General Review	Unit 1～Unit 20 までの総まとめ	授業ノート・テキストをしっかり復習しておくこと。

関連科目	スキルズトレーニング b、スピーキング＆ライティング Ib、ボキャブラリー&グラマー b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	Reading for Speed and Fluency 1 （特注品）	Paul Nation and Casey Malarcher	Compass Publishing
	2	What's Going On in the World?	David Peaty, Kahori Kobayashi	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	速読・多読活動　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生への メッセージ	１．マナーを守ることと、授業への積極的参加を求めます。 ２．毎回、授業始めに復習テストを行います。 ３．日頃から様々な事柄に興味を持って、情報を集め知識を身につけましょう。 ４．予習、復習をしっかり行いましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	リーディングＩｂ	科目名（英文）	Reading Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	木村　ゆみ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J [A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。 難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し（目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10 分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目：スキルズトレーニング b、スピーキング＆ライティング Ib、ボキャブラリー&グラマー b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	What Really Happened?	Frank Bailey	開文社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	速読・多読活動　２０% 授業中の小テスト・発言、宿題、提出物等　80%
学生へのメッセージ	英語の力は学習時間に比例して伸びてゆきます。根気よく辞書を引き、暗号を解読するつもりで、英文に取り組んでください。授業への積極的な参加を期待します。授業中の居眠りや携帯使用は即減点となるので注意すること。 毎回の授業に必ず出席し、授業内容を予習・復習すること。 ＴＯＥＩＣを受験することを勧める。特に、繰り返し受験して出題形式に慣れるのが望ましい。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	リーディングⅡa	科目名（英文）	Reading IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	あい
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	湊　由妃子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し（目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。また、単語学習課題、単語テストを実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業のガイダンスと評価方法の説明 ニュース英語を読む	Unit 1の予習
2	Unit 1: Hotter and Hotter	ニュースの空所補充、語彙確認、内容把握	復習と予習
3	Unit 1: Hotter and Hotter	内容把握、練習問題、語彙問題	復習と予習 単語テストの準備
4	Unit 2: Planting the Idea of a Longer Life	単語テスト ニュースの空所補充、語彙確認、内容把握	復習と予習
5	Unit 2: Planting the Idea of a Longer Life	内容把握、練習問題、語彙問題	復習と予習 単語テストの準備
6	Unit 3: Droning on about the Weather	単語テスト ニュースの空所補充、語彙確認、内容把握	復習と予習
7	Unit 3: Droning on about the Weather	内容把握、練習問題、語彙問題	復習 単語テストの準備
8	進度調整	単語テスト 前半の進度調整にあてる	予習
9	Unit 4: More Obesse Than Undrweight	ニュースの空所補充、語彙確認、内容把握	復習と予習
10	Unit 4: More Obesse Than Underweight	内容把握、練習問題、語彙問題	復習と予習 単語テストの準備
11	Unit 5: In For a Surprise	単語テスト ニュースの空所補充、語彙確認、内容把握	復習と予習
12	Unit 5: In For a Surprise	内容把握、練習問題、語彙問題	復習と予習 単語テストの準備
13	Unit 6: Deadlly Mistakes	単語テスト ニュースの空所補充、語彙確認、内容把握	復習と予習
14	Unit 6: Deadly Mistakes	内容把握、練習問題、語彙問題	復習 まとめのテストの準備
15	前期の復習とまとめのテスト	前期学習の習得度をみる	事前に前期の復習を十分に行うこと

関連科目：リーディング Ia, Ib

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	VOA 健康と環境レポート 1	安浪誠祐/Richard S. Lavin	松柏社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	リンガポルタ上の「2017 リーディング IIa 課題」 20% TOEIC 基本語彙テスト 10% 速読・多読活動　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 50%
学生へのメッセージ	授業ではマナーを守り、積極的に、かつ集中して参加してもらいたい。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

専門科目

科目名	リーディングⅡa	科目名（英文）	Reading IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	うえ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ﾘﾁｬｰﾄﾞ ﾀﾞｨｱｰｽ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し（目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。また、単語学習課題、単語テストを実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目：リーディング Ia, Ib

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Cover to Cover 1	Richard Day	Oxford
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）
リンガポルタ上の「2017 リーディング IIa 課題」 20%
TOEIC 基本語彙テスト 10%
速読・多読活動　20%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 50%

学生へのメッセージ：Pleae please a pen, pencil, paper and dictionary (or smart phone) to class. Please don`t be shy to speak in English and make mistakes.

担当者の研究室等：７号館２階　非常勤講師室

備考：毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	リーディングⅡa	科目名（英文）	Reading IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	おか
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ｸﾞﾗﾝﾄ ﾊﾞｰﾐﾝﾊﾑ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し（目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。また、単語学習課題、単語テストを実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation	Students should study the content of the day's lesson
2	Spiders	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	The Sphinx	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Blogging	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Blockbuster Movies.	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	The Tour de France.	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Review.	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Evaluation and review	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Left-Handedness	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Body Language	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Cosmetic Surgery	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	ExeNatural Wonders	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Review	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Evaluation and review.	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目：リーディング Ia, Ib

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading Advantage 3	Casey Malarcher	Cengage Learning
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	リンガポルタ上の「2017 リーディング IIa 課題」 20% TOEIC 基本語彙テスト 10% 速読・多読活動　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 50%
学生へのメッセージ	クラス内においては出来る限り英語を話すように努力して下さい。話していると口から英語が出てくるようになります。 そしてミスを恐れず、わからないと言うことを恥ずかしがらずにどんどんと質問して下さい。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

専門科目

科目名	リーディングⅡa	科目名（英文）	Reading IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	きく
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ｼﾞｪｰﾝ ﾊﾟｰﾒﾝﾀｰ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し（目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。また、単語学習課題、単語テストを実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目：リーディング Ia, Ib

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	READ THIS! (Intro)	Daphne Mackey	CAMBRIDGE ISBN 978-1-107-63071-0
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	リンガポルタ上の「2017 リーディング IIa 課題」 20% TOEIC 基本語彙テスト 10% 速読・多読活動　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 50%
学生へのメッセージ	Welcome to Reading 2ab! We will focus on building reading skills and confidence! We will be using both our text book and the guided readers from the library.
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	リーディングⅡa	科目名（英文）	Reading IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	マーティン　オイクル
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し（目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	オリエンテーション　紹介、授業の説明。	準備は必要ありません。
2	Unit 1 The Beautiful Game.	Word groups.　同じグループの言葉を見つける。テキストを読んだ後、質疑応答。	教科書: pages 9, 159.
3	Unit 1 The Beautiful Game continued.	Separating fact and opinion.　事実と意見。テキストを読んだ後、質疑応答。	教科書: pages 10 - 13, 154.
4	Unit 2 Sports For Everyone.	Antonyms.　反意語。テキストを読んだ後、質疑応答。	教科書: pages 15 - 17, 164.
5	Unit 2 Sports For Everyone continued.	Understanding the main idea. 要点を理解する。テキストを読んだ後、質疑応答。	教科書: pages 18 - 20, 152.
6	Unit 3 Work In The World.	Recognizing parts of speech.　品詞。テキストを読んだ後、質疑応答。	教科書: pages 23 - 25, 158.
7	Unit 3 Work In The World continued.	Scanning. 何かを知ろうとじっと見る。テキストを読んだ後、質疑応答。	教科書: pages 26 - 27, 150.
8	Unit 4 Unusual Occupations.	Suffixes.　接尾辞。テキストを読んだ後、質疑応答。	教科書: pages 29 - 31, 161.
9	Unit 4 Unusual Occupations continued.	Identifying reference words. 代名詞。テキストを読んだ後、質疑応答。	教科書: pages 32 - 34, 147.
10	Unit 5 Life On Death Row.	Guessing meaning from context.　文章を読んで大体の内容を把握する。テキストを読んだ後、質疑応答。	教科書: pages 37 - 39, 156.
11	Unit 5 Life On Death Row continued.	Understanding the main idea. 要点を理解する。テキストを読んだ後、質疑応答。	教科書: pages 40 - 41, 152.
12	Unit 6 Crazy Criminals	Collocations.　語の配置。テキストを読んだ後、質疑応答。	教科書: pages 43 - 45, 162.
13	Unit 6 Crazy Criminals continued.	Identifying the topic.　論題を見つける。テキストを読んだ後、質疑応答。	教科書: pages 46 - 48, 149.
14	Unit 7 Childhood Memories.	Words with different meanings.　同じつづり、発音で意味の違う言葉。テキストを読んだ後、質疑応答。 Inferring meaning. 意味を想像する。テキストを読んだ後、質疑応答。	教科書: pages 51 - 55, 165.
15	期末テスト Units 1-7.	期末テスト Units 1-7.	Prepare for test.

関連科目：リーディング Ia, Ib

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading Keys 1	Miles Craven	MacMillan
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	辞書		
2			
3			

評価方法（基準）	クラスに積極的に参加すること 50%, Class work: 50% 期末テスト 30%, Term test: 30% 速読・多読活動 20%, Speed reading and extensive reading activity: 20%
学生へのメッセージ	クラス内においては出来る限り英語を話すように努力して下さい。話していると口から英語が出てくるようになります。 そしてミスを恐れず、わからないと言うことを恥ずかしがらずにどんどんと質問して下さい。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	リーディングⅡb	科目名（英文）	Reading IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	あい
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	湊　由妃子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し（目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。また、単語学習課題、単語テストを実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Back to the School	授業のガイダンスと評価方法の説明 ニュース英語を聴く、読む	Unit 7 の予習
2	Unit 7: Goodbye, Plants?	ニュースの空所補充、語彙確認、内容把握	復習と予習
3	Unit 7: Goodbye, Plants?	内容把握、練習問題、語彙問題	復習と予習 単語テストの準備
4	Unit 8: TB or not TB?	単語テスト ニュースの空所補充、語彙確認、内容把握	復習と予習
5	Unit 8: TB or not TB?	内容把握、練習問題、語彙問題	復習と予習 単語テストの準備
6	Unit 9: El Nino Brings Hunger	単語テスト ニュースの空所補充、語彙確認、内容把握	復習と予習
7	Unit 9: El Nino Brings Hunger	内容把握、練習問題、語彙問題	復習 単語テストの準備
8	進度調整	単語テスト 前半の進度調整にあてる	予習
9	Unit 10: Polar Bears under Threat	ニュースの空所補充、語彙確認、内容把握	復習と予習
10	Unit 10: Polar Bears under Threat	内容把握、練習問題、語彙問題	復習と予習 単語テストの準備
11	Unit 11: Storm Warnings from Space	単語テスト ニュースの空所補充、語彙確認、内容把握	復習と予習
12	Unit 11: Storm Warnings from Space	内容把握、練習問題、語彙問題	復習と予習 単語テストの準備
13	Unit12: Nuts for Nuts	単語テスト ニュースの空所補充、語彙確認、内容把握	復習と予習
14	Unit 12: Nuts for Nuts	内容把握、練習問題、語彙問題	復習 まとめのテストの準備
15	後期の復習とまとめのテスト	後期学習の習得度をみる	事前に後期の復習を十分に行うこと

関連科目：リーディング Ia, Ib

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	VOA 健康と環境レポート 1	安浪誠祐/Richard S. Lavin	松柏社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	リンガポルタ上の「2017 リーディング IIb 課題」 20% TOEIC 基本語彙テスト 10% 速読・多読活動　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 50%
学生へのメッセージ	授業ではマナーを守り、積極的に、かつ集中して参加してもらいたい。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	リーディングⅡb	科目名（英文）	Reading IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	うえ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ﾘﾁｬｰﾄﾞ ﾀﾞｨｱｰｽ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し（目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。また、単語学習課題、単語テストを実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation	Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目：リーディング Ia, Ib

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Cover to Cover 1	Richard Day	Oxford
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）
リンガポルタ上の「2017 リーディング IIb 課題」 20%
TOEIC 基本語彙テスト 10%
速読・多読活動　20%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 50%

学生へのメッセージ：Please bring a pen, pencil, paper and dictionary (or smart phone) to class. Please don`t be shy to speak in English and make mistakes.

担当者の研究室等：7 号館 2 階　非常勤講師室

備考：毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	リーディングⅡb	科目名（英文）	Reading IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	おか
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ｸﾞﾗﾝﾄ ﾊﾞｰﾐﾝﾊﾑ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し（目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。また、単語学習課題、単語テストを実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Mail	Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Motivating Students.	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Mystery Mansion	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
4	International baseball	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Strange Foods	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Review	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Evaluation and review.	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
8	A Special Station	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Taekwondo	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
10	White Sands	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Paper Products	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Camouflage Art	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Christmas and New Year	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Review	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Evaluation and Review.	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目：リーディング Ia, Ib

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading Advantage 3	Casey Malarcher	Cengage Learning
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	リンガポルタ上の「2017 リーディング IIb 課題」 20% TOEIC 基本語彙テスト 10% 速読・多読活動　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 50%
学生へのメッセージ	クラス内においては出来る限り英語を話すように努力して下さい。話していると口から英語が出てくるようになります。 そしてミスを恐れず、わからないと言うことを恥ずかしがらずにどんどんと質問して下さい。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	リーディングⅡb	科目名（英文）	Reading IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	きく
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ｼﾞｪｰﾝ ﾊﾟｰﾒﾝﾀｰ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し（目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。また、単語学習課題、単語テストを実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目：リーディング Ia, Ib

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	READ THIS! (Intro)	Daphne Mackey	CAMBRIDGE ISBN 978-1-107-63071-0
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	リンガポルタ上の「2017 リーディング IIb 課題」 20% TOEIC 基本語彙テスト 10% 速読・多読活動　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 50%
学生へのメッセージ	Welcome to Reading 2ab! We will focus on building reading skills and confidence! We will be using both our text book and the guided readers from the library.
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

専門科目

科目名	リーディングⅡb	科目名（英文）	Reading IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	マーティン　オイクル
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し（目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。また、単語学習課題、単語テストを実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 8 Growing Up.	Prefixes.　接頭辞. テキストを読んだ後、質疑応答.	教科書: pages 57 - 59, 163.
2	Unit 8 Growing Up continued.	Skimming. ざっと読む. テキストを読んだ後、質疑応答.	教科書: pages 60 - 62, 153.
3	Unit 9 Secret Of Success.	Guessing meaning from context.　文章を読んで大体の内容を把握する。テキストを読んだ後、質疑応答.	教科書: pages 65 - 67, 156.
4	Unit 9 Secret Of Success continued.	Identifying time order. テキストを読んだ後、質疑応答.	教科書: pages 68 - 69, 151.
5	Unit 10 Money.	Antonyms.　反意語. テキストを読んだ後、質疑応答.	教科書: pages 71 - 73, 164.
6	Unit 10 Money continued.	Skimming. ざっと読む. テキストを読んだ後、質疑応答.	教科書: pages 74 - 76, 153.
7	Unit 11 The Car Is King.	Collocations.　語の配置. テキストを読んだ後、質疑応答.	教科書: pages 79 - 81, 162.
8	Unit 11 The Car Is King continued.	Understanding the main idea. テキストを読んだ後、質疑応答。要点を理解する.	教科書: pages 82 - 83, 152.
9	Unit 12 Journeys.	Recognizing parts of speech.　品詞。テキストを読んだ後、質疑応答.	教科書: pages 85 - 87, 158.
10	Unit 12 Journeys continued.	Separating fact and opinion.　事実と意見. テキストを読んだ後、質疑応答.	教科書: pages 88 - 90, 154.
11	Unit 13 We Do Things.	Suffixes.　接尾辞. テキストを読んだ後、質疑応答.	教科書: pages 93 - 95, 161.
12	Unit 13 We Do Things continued.	Identifying the topic. テキストを読んだ後、質疑応答.	教科書: pages 96 - 97, 149.
13	Unit 14 The Language Puzzle.	Scanning. 何かを知ろうとじっと見る。テキストを読んだ後、質疑応答.	教科書: pages 99 - 103, 150.
14	Unit 15 No place like home.	Prefixes.　接頭辞. テキストを読んだ後、質疑応答. Identifying cause and effect.	教科書: pages 107 - 111, 155, 163.
15	期末テスト Units 8-15.	期末テスト Units 8-15.	Prepare for test.

関連科目：リーディング Ia, Ib

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading Keys 1	Miles Craven	MacMillan
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	辞書		
2			
3			

評価方法（基準）	クラスに積極的に参加すること 50%, Class work: 50% 期末テスト 30%, Term test: 30% 速読・多読活動 20%, Speed reading, extensive reading activities: 20%
学生へのメッセージ	クラス内においては出来る限り英語を話すように努力して下さい。話していると口から英語が出てくるようになります。 そしてミスを恐れず、わからないと言うことを恥ずかしがらずにどんどんと質問して下さい。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	リーディングⅢａ	科目名（英文）	Reading III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	あい
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ﾘﾁｬｰﾄﾞ ﾀﾞｨｱｰｽ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。この授業では、リーディング II より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。また、速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B2-1]レベルのリーディング力を目標とする。
授業方法と留意点	必ず予習して出席すること。授業中の応答、学習活動への積極的な参加を重視する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目：リーディング IIa, IIb

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Cover to Cover 3	Richard Day	Oxford
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	速読・多読活動　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生へのメッセージ	Pleae please a pen, pencil, paper and dictionary (or smart phone) to class. Please don`t be shy to speak in English and make mistakes.
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

専門科目

科目名	リーディングⅢa	科目名（英文）	Reading III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	うえ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー　ベル
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。この授業では、リーディング II より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。また、速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B2-1]レベルのリーディング力を目標とする。
授業方法と留意点	必ず予習して出席すること。授業中の応答、学習活動への積極的な参加を重視する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Class/Text Introduction Exercises	Textbook-based lesson with CD listening practice	Prepare the next lesson's information before the next class and complete any homework exercises.
2	Reading exercises including vocabulary, grammar and listening practice	Textbook-based lesson with CD listening practice	Prepare the next lesson's information before the next class and complete any homework exercises.
3	Reading exercises including vocabulary, grammar and listening practice	Textbook-based lesson with CD listening practice	Prepare the next lesson's information before the next class and complete any homework exercises.
4	Reading exercises including vocabulary, grammar and listening practice	Textbook-based lesson with CD listening practice	Prepare the next lesson's information before the next class and complete any homework exercises.
5	Reading exercises including vocabulary, grammar and listening practice	Textbook-based lesson with CD listening practice	Prepare the next lesson's information before the next class and complete any homework exercises.
6	Reading exercises including vocabulary, grammar and listening practice	Textbook-based lesson with CD listening practice	Prepare the next lesson's information before the next class and complete any homework exercises.
7	Reading exercises including vocabulary, grammar and listening practice	Textbook-based lesson with CD listening practice	Prepare the next lesson's information before the next class and complete any homework exercises.
8	Reading exercises including vocabulary, grammar and listening practice	Textbook-based lesson with CD listening practice	Prepare the next lesson's information before the next class and complete any homework exercises.
9	Reading exercises including vocabulary, grammar and listening practice	Textbook-based lesson with CD listening practice	Prepare the next lesson's information before the next class and complete any homework exercises.
10	Reading exercises including vocabulary, grammar and listening practice	Textbook-based lesson with CD listening practice	Prepare the next lesson's information before the next class and complete any homework exercises.
11	Reading exercises including vocabulary, grammar and listening practice	Textbook-based lesson with CD listening practice	Prepare the next lesson's information before the next class and complete any homework exercises.
12	Reading exercises including vocabulary, grammar and listening practice	Textbook-based lesson with CD listening practice	Prepare the next lesson's information before the next class and complete any homework exercises.
13	Reading exercises including vocabulary, grammar and listening practice	Textbook-based lesson with CD listening practice	Prepare the next lesson's information before the next class and complete any homework exercises.
14	Reading exercises including vocabulary, grammar and listening practice	Textbook-based lesson with CD listening practice	Prepare the next lesson's information before the next class and complete any homework exercises.
15	End of semester Test		Review course material

関連科目	リーディング IIa, IIb

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading Pass 2	Andrew E. Bennett	NAN'UN-DO ISBN978-4-523-17775-3
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	速読・多読活動　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生への メッセージ	With the increasing advances of information-based technology, English reading skills will become more and more necessary to survive in the modern world.This class will help you to improve those necessary skills.
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

専門科目

科目名	リーディングⅢa	科目名（英文）	Reading III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	おか
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松浦　茂寿
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。この授業では、リーディング II より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。また、速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B2-1]レベルのリーディング力を目標とする。
授業方法と留意点	必ず予習して出席すること。授業中の応答、学習活動への積極的な参加を重視する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業方法、提出物、評価方法についての説明	――――――
2	Unit 1 Lions　百獣の王ライオン	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 1-4
3	Unit 2 Ramen ラーメン	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 5-8
4	Unit 3 The Leaning Tower ピサの斜塔	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 9-12
5	Unit 4 A Smart Dog 賢いワンちゃん	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 13-16
6	Unit 5 Twenty-First Century Books 電子書籍	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 17-20
7	Unit 6 Valentine's Day バレンタインデー	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 21-24
8	Unit 7 The Taj Mahal ある愛の形	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 25-28
9	Unit 8 A Computer Problem コンピューターのホットな問題	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 29-32
10	Unit 9 The Mobius Band 不思議な輪	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 33-36
11	Unit 10 A Long Weekend 休日の落とし穴	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p. 37-40
12	資格・検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	習った内容を何度も復習して覚えよう
13	資格・検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	習った内容を何度も復習して覚えよう
14	資格・検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	習った内容を何度も復習して覚えよう
15	総合復習	試験に向けた復習	教科書など前期範囲一通り

関連科目：リーディング IIa, IIb

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Basic Faster Reading New Edition　速読の基礎演習　最新版	Casey Malarcher、原田慎一	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	速読・多読活動　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生へのメッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	リーディングⅢａ	科目名（英文）	Reading III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	きく
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有本　好一郎
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。この授業では、リーディング II より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。また、速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B2-1]レベルのリーディング力を目標とする。
授業方法と留意点	必ず予習して出席すること。授業中の応答、学習活動への積極的な参加を重視する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 1 College Sports: Multibillion Dollar Amateurs	授業方法、提出物、評価方法についての説明	教科書の新出単語、本文の読解
2	Unit 1 College Sports: Multibillion Dollar Amateurs	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書の新出単語、本文の読解
3	Unit 2 The Rise of the Megachurches	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書の新出単語、本文の読解
4	Unit 2 The Rise of the Megachurches	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書の新出単語、本文の読解
5	Unit 3 The Dream of a Colorblind America	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書の新出単語、本文の読解
6	Unit 3 The Dream of a Colorblind America	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書の新出単語、本文の読解
7	Unit 4 America: A bilingual country	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書の新出単語、本文の読解
8	Unit 4 America: A bilingual country	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書の新出単語、本文の読解
9	Unit 5 Steve Jobs' Legacy	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書の新出単語、本文の読解
10	Unit 5 Steve Jobs' Legacy	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書の新出単語、本文の読解
11	Unit 6 Disney and Marvel: The little Mermaid Meets the Incredible Hulk	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書の新出単語、本文の読解
12	Unit 6 Disney and Marvel: The little Mermaid Meets the Incredible Hulk	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書の新出単語、本文の読解
13	Unit 7 The Appeal of Aloha	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書の新出単語、本文の読解
14	Unit 7 The Appeal of Aloha	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書の新出単語、本文の読解
15	総合復習	試験に向けた復習	教科書など前期範囲一通り

関連科目：リーディング IIa, IIb

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ICONIC AMERICA	JEFFEY MILLER	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	速読・多読活動　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生へのメッセージ	英語ができると未来が明るくなる傾向があります。　積極的な学習、質問を期待しています。 居眠り、携帯の使用にはペナルティあり
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	リーディングⅢb	科目名（英文）	Reading III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	あい
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ﾘﾁｬｰﾄﾞ ﾀﾞｨｱｰｽ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。この授業では、リーディング II より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。また、速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B2-2]レベルのリーディング力を目標とする。
授業方法と留意点	必ず予習して出席すること。授業中の応答、学習活動への積極的な参加を重視する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Execises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Test	――――――――	――――――――

関連科目	リーディング IIa, IIb

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Cover to Cover 3	Richard Day	Oxford
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	速読・多読活動　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生へのメッセージ	Please bring a pen, pencil, paper and dictionary (or smart phone) to class. Please don`t be shy to speak in English and make mistakes.
担当者の研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	リーディングⅢｂ	科目名（英文）	Reading III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	うえ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー　ベル
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。この授業では、リーディング II より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。また、速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B2-2]レベルのリーディング力を目標とする。
授業方法と留意点	必ず予習して出席すること。授業中の応答、学習活動への積極的な参加を重視する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Class/Text Introduction Exercises	Textbook-based lesson with CD listening practice	Prepare the next lesson's information before the next class and complete any homework exercises
2	Reading exercises including vocabulary, grammar and listening practice	Textbook-based lesson with CD listening practice	Prepare the next lesson's information before the next class and complete any homework exercises
3	Reading exercises including vocabulary, grammar and listening practice	Textbook-based lesson with CD listening practice	Prepare the next lesson's information before the next class and complete any homework exercises
4	Reading exercises including vocabulary, grammar and listening practice	Textbook-based lesson with CD listening practice	Prepare the next lesson's information before the next class and complete any homework exercises
5	Reading exercises including vocabulary, grammar and listening practice	Textbook-based lesson with CD listening practice	Prepare the next lesson's information before the next class and complete any homework exercises
6	Reading exercises including vocabulary, grammar and listening practice	Textbook-based lesson with CD listening practice	Prepare the next lesson's information before the next class and complete any homework exercises
7	Reading exercises including vocabulary, grammar and listening practice	Textbook-based lesson with CD listening practice	Prepare the next lesson's information before the next class and complete any homework exercises
8	Reading exercises including vocabulary, grammar and listening practice	Textbook-based lesson with CD listening practice	Prepare the next lesson's information before the next class and complete any homework exercises
9	Reading exercises including vocabulary, grammar and listening practice	Textbook-based lesson with CD listening practice	Prepare the next lesson's information before the next class and complete any homework exercises
10	Reading exercises including vocabulary, grammar and listening practice	Textbook-based lesson with CD listening practice	Prepare the next lesson's information before the next class and complete any homework exercises
11	Reading exercises including vocabulary, grammar and listening practice	Textbook-based lesson with CD listening practice	Prepare the next lesson's information before the next class and complete any homework exercises
12	Reading exercises including vocabulary, grammar and listening practice	Textbook-based lesson with CD listening practice	Prepare the next lesson's information before the next class and complete any homework exercises
13	Reading exercises including vocabulary, grammar and listening practice	Textbook-based lesson with CD listening practice	Prepare the next lesson's information before the next class and complete any homework exercises
14	Reading exercises including vocabulary, grammar and listening practice	Textbook-based lesson with CD listening practice	Prepare the next lesson's information before the next class and complete any homework exercises
15	End of semester Test		Review course material

関連科目　リーディング IIa, IIb

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading Pass 2	Andrew E. Bennett	NAN'UN-DO ISBN978-4-523-17775-3
2			
3			

参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
評価方法 （基準）	速読・多読活動　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生への メッセージ	With the increasing advances of information-based technology, English reading skills will become more and more necessary to survive in the modern world.This class will help you to improve those necessary skills.
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	リーディングⅢb	科目名（英文）	Reading III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	おか
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦　茂寿
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。この授業では、リーディング II より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。また、速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B2-2]レベルのリーディング力を目標とする。
授業方法と留意点	必ず予習して出席すること。授業中の応答、学習活動への積極的な参加を重視する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	前期の復習	前期に習った内容の復習	――――
2	Unit 11 Breakfast in America　アメリカの朝食	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.41-44
3	Unit 12 The World Cup ワールドカップ	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.45-48
4	Unit 13 Blood Types 血液型で性格判断	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.49-52
5	Unit 14 Reality TV リアリティー番組	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.53-56
6	Unit 15 Rodeos ロデオ	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.57-60
7	Unit 16 Women's Sumo 女子相撲	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.61-64
8	Unit 17 Studying Abroad 海外で学ぼう	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.65-68
9	Unit 18 The Palace of Salt しょっぱいホテル	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.69-72
10	Unit 19 The Mona Lisa モナリザの微笑	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.73-76
11	Unit 20 Lizards トカゲは好きですか	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.77-80
12	資格・検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	習った内容を何度も復習して覚えよう
13	資格・検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	習った内容を何度も復習して覚えよう
14	資格・検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	習った内容を何度も復習して覚えよう
15	総合復習	試験に向けた復習	教科書など後期範囲一通り

関連科目：リーディング IIa, IIb

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Basic Faster Reading New Edition　速読の基礎演習　最新版	Casey Malarcher、原田慎一	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	速読・多読活動　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生へのメッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

専門科目

科目名	リーディングⅢｂ	科目名（英文）	Reading III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	きく
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有本　好一郎
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎,DP8○		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。この授業では、リーディング II より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。また、速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B2-2]レベルのリーディング力を目標とする。
授業方法と留意点	必ず予習して出席すること。授業中の応答、学習活動への積極的な参加を重視する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 8 New York City: Tragedy, Energy, and Optimism	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	新出単語の確認、本文読解
2	Unit 8 New York City: Tragedy, Energy, and Optimism	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	新出単語の確認、本文読解
3	Unit 9 Los Angeles: America's most Creative City	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	新出単語の確認、本文読解
4	Unit 9 Los Angeles: America's most Creative City	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	新出単語の確認、本文読解
5	Unit 10 The Grand Canyon: Conversation vs. Development	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	新出単語の確認、本文読解
6	Unit 10 The Grand Canyon: Conversation vs. Development	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	新出単語の確認、本文読解
7	Unit 11 Starbucks: The Third Place	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	新出単語の確認、本文読解
8	Unit 11 Starbucks: The Third Place	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	新出単語の確認、本文読解
9	Unit 12 Hip Hop: From the Ghetto to the Mainstream	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	新出単語の確認、本文読解
10	Unit 12 Hip Hop: From the Ghetto to the Mainstream	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	新出単語の確認、本文読解
11	Unit 13 Amazon.com	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	新出単語の確認、本文読解
12	Unit 13 Amazon.com	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	新出単語の確認、本文読解
13	Unit 14 From Wild Child to Goodwill Ambassador	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	新出単語の確認、本文読解
14	Unit 14 From Wild Child to Goodwill Ambassador	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	新出単語の確認、本文読解
15	総合復習	試験直前の復習	教科書など後期範囲一通り

関連科目：リーディング IIa, IIb

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ICONIC AMERICA	JEFFREY MILLER	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	速読・多読活動　20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等　80%
学生へのメッセージ	英語が得意なら未来が明るい傾向があるようです。　積極的な学習、質問を期待しています。 居眠り、携帯電話の使用にはペナルティあり
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	旅行インドネシア・マレー語	科目名（英文）	Indonesian-Malay for Travel
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大坪　紀子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	インドネシアへ実際に旅行に出かけることを想定し、さまざまな状況に応じた実践的なインドネシア語表現を学ぶことを目的とする。
到達目標	1. 交通機関を利用する際、緊急時、買い物時などの会話表現がスムーズにできるようになること。. 2. 訪問先の歴史や芸能などの予備知識をある程度得ておくと、旅がいっそう豊かな体験となることを学ぶ。 3. 日本を訪れるインドネシアからの観光客や友人との会話内容が豊かになること。
授業方法と留意点	1. テキストはテーマに応じたプリントを配布する。 2. 辞書を必ず携行すること。
科目学習の効果（資格）	「インドネシア語技能検定試験」に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	プロローグ	授業の進め方や留意点、評価基準について説明を行なう。	――――――
2	基本的な表現	旅行にも使える基本的な日常表現について、1年次で学んだことの復習も兼ねつつ習得する。	学習項目の復習
3	搭乗する	飛行機内での会話表現を習得する。	学習項目の復習
4	空港にて①	イミグレーションや税関、両替所等での表現を習得する。	学習項目の復習
5	空港にて②	イミグレーションや税関、両替所等での表現を習得する。	学習項目の復習
6	交通機関を利用する①	タクシーやバスに乗って移動する際の表現を習得する。	学習項目の復習
7	交通機関を利用する②	タクシーやバスに乗って移動する際の表現を習得する。	学習項目の復習
8	復習	これまでに学習したことの再確認（中間テスト）を行う。	これまでに学んだことの整理と復習
9	ホテルにて①	チェックインからチェックアウトまで、ホテルで過ごす際の会話表現を習得する。	学習項目の復習
10	ホテルにて②	チェックインからチェックアウトまで、ホテルで過ごす際の会話表現を習得する。	学習項目の復習
11	レストランにて	レストランを利用する際の会話表現を習得する。	学習項目の復習
12	買い物をする	買い物をする際の表現を習得する。	学習項目の復習
13	トラブルに巻き込まれる	トラブルに巻き込まれたり、病気に罹ったときに必要とされる表現を習得する。	学習項目の復習
14	観光をする	観光地を巡る際の会話表現を習得する。	学習項目の復習
15	総復習	これまでに習得した表現を再確認（理解度確認テスト）をし、陥りがちなミスの原因について考え、改める。	今までに学習したことの整理と復習

関連科目	インドネシア語・マレー語関係科目、東南アジア関係の講義科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	インドネシア語辞典ポケット版	末永晃	大学書林
2	現代日本語－インドネシア語辞典	末永晃	大学書林
3			

評価方法（基準）	中間テスト40%、理解度確認テスト40%、積極的な取り組み姿勢（ホームワーク課題、発表等）20% 詳細は、第1回目の授業で伝える。
学生へのメッセージ	1年間のインドネシア語学習を通じて、単語力や文法の理解が深まったかと思います。この授業で「生きたインドネシア語」を学び、一層の自信をつけていきましょう。
担当者の研究室等	7号館2 階（非常勤講師室）
備考	中間テストと理解度確認テストの際は、終了後に総復習を行う。予習・復習に必要な時間は最低1時間以上である。したがってこの授業全体で復習・予習に必要な総時間は15時間以上である。

科目名	旅行インドネシア語	科目名（英文）	Indonesian for Travel
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大坪　紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP7〇,DP8◎		

授業概要・目的	インドネシアへ実際に旅行に出かけることを想定し、さまざまな状況に応じた実践的なインドネシア語表現を学ぶことを目的とする。
到達目標	1. 交通機関を利用する際、緊急時、買い物時などの会話表現がスムーズにできるようになること。. 2. 訪問先の歴史や芸能などの予備知識をある程度得ておくと、旅がいっそう豊かな体験となることを学ぶ。 3. 日本を訪れるインドネシアからの観光客や友人との会話内容が豊かになること。
授業方法と留意点	1. テキストはテーマに応じたプリントを配布する。 2. 辞書を必ず携行すること。
科目学習の効果（資格）	「インドネシア語技能検定試験」に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	プロローグ	授業の進め方や留意点、評価基準について説明を行なう。	――――――
2	基本的な表現	旅行にも使える基本的な日常表現について、1年次で学んだことの復習も兼ねつつ習得する。	学習項目の復習
3	搭乗する	飛行機内での会話表現を習得する。	学習項目の復習
4	空港にて①	イミグレーションや税関、両替所等での表現を習得する。	学習項目の復習
5	空港にて②	イミグレーションや税関、両替所等での表現を習得する。	学習項目の復習
6	交通機関を利用する①	タクシーやバスに乗って移動する際の表現を習得する。	学習項目の復習
7	交通機関を利用する②	タクシーやバスに乗って移動する際の表現を習得する。	学習項目の復習
8	復習	これまでに学習したことの再確認（中間テスト）を行う。	これまでに学んだことの整理と復習
9	ホテルにて①	チェックインからチェックアウトまで、ホテルで過ごす際の会話表現を習得する。	学習項目の復習
10	ホテルにて②	チェックインからチェックアウトまで、ホテルで過ごす際の会話表現を習得する。	学習項目の復習
11	レストランにて	レストランを利用する際の会話表現を習得する。	学習項目の復習
12	買い物をする	買い物をする際の表現を習得する。	学習項目の復習
13	トラブルに巻き込まれる	トラブルに巻き込まれたり、病気に罹ったときに必要とされる表現を習得する。	学習項目の復習
14	観光をする	観光地を巡る際の会話表現を習得する。	学習項目の復習
15	総復習	これまでに習得した表現を再確認（理解度確認テスト）をし、陥りがちなミスの原因について考え、改める。	今までに学習したことの整理と復習

関連科目	インドネシア語・マレー語関係科目、東南アジア関係の講義科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	インドネシア語辞典ポケット版	末永晃	大学書林
2	現代日本語－インドネシア語辞典	末永晃	大学書林
3			

評価方法（基準）	中間テスト40%、理解度確認テスト40%、積極的な取り組み姿勢（ホームワーク課題、発表等）20% 詳細は、第1回目の授業で伝える。
学生へのメッセージ	1年間のインドネシア語学習を通じて、単語力や文法の理解が深まったかと思います。この授業で「生きたインドネシア語」を学び、一層の自信をつけていきましょう。
担当者の研究室等	7号館2 階（非常勤講師室）
備考	中間テストと理解度確認テストの際は、終了後に総復習を行う。予習・復習に必要な時間は最低1時間以上である。したがってこの授業全体で復習・予習に必要な総時間は15時間以上である。

科目名	ロマンス語研究Ⅰ	科目名（英文）	Romance Languages Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	柱本　元彦
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	イタリア語の入門。まったくのゼロからはじめる。イタリア語の全体像をイメージすることができるようになり、もっとも基本的な文法事項と表現を身につける。
到達目標	会話に必要なレベルのイタリア語文法を理解し、基本的な表現を身につける。
授業方法と留意点	スペイン語の知識も活用させながら教科書にしたがって進む。できれば AV 教材も利用したい。重要事項は授業中に理解するだけでなく記憶すること。
科目学習の効果（資格）	イタリア語とスペイン語の類似点と相違点が分かりはじめる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクションと発音	イタリアとイタリア語の紹介	イタリア語とスペイン語の違い。教科書第一章
2	発音	注意すべきイタリア語の発音	教科書第二章
3	さまざまな会話表現	よく用いられるフレーズ	教科書第三章
4	名詞・形容詞・冠詞	動詞以前の文法	教科書第四章
5	名詞・形容詞・冠詞	動詞以前の文法その２	教科書第四章
6	are 動詞	一般動詞の基本形	教科書第五章
7	are, ere, ire 動詞	一般動詞	教科書第五章
8	are, ere, ire 動詞	一般動詞全般、その応用	教科書第五章
9	essere と avere	基本の動詞	教科書第五章
10	再帰動詞	再帰動詞の用法	教科書第五章
11	近過去	過去の表現と過去分詞	教科書第六章
12	半過去	イタリア語とスペイン語の過去表現の比較	教科書第六章
13	ふたつの過去	近過去と半過去の用法	教科書第六章
14	大過去と遠過去	過去時制のまとめ	教科書第六章
15	まとめ	これまで学習した事柄ををまとめ、それをイタリア語文法全体のなかに位置づける	教科書第一章から第六章

関連科目：スペイン語

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	はじめてのイタリア語	郡史郎	講談社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	普段の授業での質疑応答 50%そして学期末提出のレポート 50%によって評価する。
学生へのメッセージ	最低限記憶すべきことを授業中に練習して記憶しましょう。それができれば宿題はなし。できなければ次回までの宿題になります。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。

科目名	ロマンス語研究Ⅱ	科目名（英文）	Romance Languages II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	柱本　元彦
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	ロマンス語研究Ⅰのつづき。辞書さえあれば自分の力で読むことができるまで、イタリア語の初級文法をひととおり学習する。ビデオ教材を多く利用する。
到達目標	言葉の運用、さまざまな表現を学ぶ。
授業方法と留意点	ロマンス語研究Ⅰの学習事項を習得していることが前提になる。AV 教材を利用し、実際的な文章も読んでいきたい。
科目学習の効果（資格）	スペイン語の知識を活用してイタリア語がそれなりに理解できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	前期の復習	とりわけ補語人称代名詞と補助動詞	プリント配布
2	過去分詞	過去分詞の形と用法	プリント配布
3	近過去	近過去の形と用法	プリント配布
4	近過去と半過去	半過去の形と近過去・半過去の相違	プリント配布
5	近過去と半過去	半過去と近過去の用法	プリント配布
6	未来	単純未来の形と用法	プリント配布
7	命令法	命令法の形と用法	プリント配布
8	構文	関係詞と比較文	プリント配布
9	構文	ジェルンディオなど	プリント配布
10	時制	大過去、時制の一致	プリント配布
11	仮定文	条件法の形と用法、接続法の説明	プリント配布
12	接続法	接続法の形と用法	プリント配布
13	構文	受動態・非人称構文	プリント配布
14	遠過去	遠過去の形と用法	プリント配布
15	総復習	イタリア語とスペイン語の比較	プリント配布

関連科目：スペイン語

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	普段の授業での質疑応答 50%そして学期末提出のレポート 50%によって評価する。
学生へのメッセージ	スペイン語の力がずいぶんと役に立ちます。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。

基　礎　科　目

科目名	インドネシア語Ⅰ	科目名（英文）	Indonesian Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	山口　玲子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7△,DP8△		

授業概要・目的	本授業は、インドネシア語における基礎的な会話能力の修得を目的とする。日常生活のさまざまな場面において役に立つ表現を学ぶ。
到達目標	この授業では、基本的なインドネシア語運用能力の修得を目指し、インドネシアへ旅行に出かけたり、インドネシア人と話す機会において不自由のない実力をつけることができる。
授業方法と留意点	配布するプリントを用いて基礎会話を中心とした学習を行う。声に出して繰り返し練習することを重視する。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語技能検定試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方 インドネシア語の特徴	学んだことの復習
2	文字と発音	アルファベットの読み方	アルファベットをきちんと読めるようにしておくこと
3	発音	基本単語の発音練習	単語の読み方を理解しておくこと
4	挨拶（1）	挨拶表現	プリントの会話部分を練習し覚えること
5	挨拶（2）	感謝、謝罪	プリントの会話部分を練習し覚えること
6	紹介（1）	自己紹介、人称代名詞について	プリントの会話部分を練習し覚えること
7	紹介（2）	自己紹介、疑問詞を用いた表現	プリントの会話部分を練習し覚えること
8	紹介（3）	家族、友人を紹介、疑問詞を用いた表現	プリントの会話部分を練習し覚えること
9	8 回までのまとめ	これまでに学んだことの復習 中間テストおよび解説	これまでに学んだことの再確認
10	数詞（1）	数詞の仕組み	プリントの会話部分を練習し覚えること
11	数詞（2）	序数詞や分数	プリントの会話部分を練習し覚えること
12	数詞（3）	電話番号と数詞の練習問題	プリントの会話部分を練習し覚えること
13	数詞（4）	日付の言い表し方	プリントの会話部分を練習し覚えること
14	10 回から 13 回までのまとめ	数詞を使った表現の復習	10 回から 13 回までの再確認
15	総復習	これまでに学んだことの総復習 理解度確認テストおよび解説	総復習

関連科目：インドネシアⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への積極的な参加度合 20%、中間テスト 40%、理解度確認テスト 40%
学生へのメッセージ	授業へは積極的に参加しましょう。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	毎週の予習は基本的に必要ないが、復習については毎週少なくとも２時間以上は行うこと。半期中の事後学習総時間は 30 時間である。授業時間外での質問等は非常勤講師室にてお昼休みに対応する。なお、中間テストおよび理解度確認テスト終了後には解説を行う。

科目名	インドネシア語Ⅰ	科目名（英文）	Indonesian Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	２
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大坪　紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7△,DP8△		

基礎科目

授業概要・目的	本授業は、インドネシア語における基礎的な会話能力の修得を目的とする。日常生活のさまざまな場面において役に立つ表現を学ぶ。
到達目標	この授業では、基本的なインドネシア語運用能力の修得を目指し、インドネシアへ旅行に出かけたり、インドネシア人と話す機会において不自由のない実力をつけることができる。
授業方法と留意点	配布するプリントを用いて基礎会話を中心とした学習を行う。声に出して繰り返し練習することを重視する。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語技能検定試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方 インドネシア語の特徴	学んだことの復習
2	文字と発音	アルファベットの読み方	アルファベットをきちんと読めるようにしておくこと
3	発音	基本単語の発音練習	単語の読み方を理解しておくこと
4	挨拶　①	挨拶表現	プリントの会話部分を練習し覚えること
5	挨拶　②	感謝・謝罪	プリントの会話部分を練習し覚えること
6	紹介　①	自己紹介、人称代名詞について	プリントの会話部分を練習し覚えること
7	紹介　②	自己紹介、疑問詞を用いた表現	プリントの会話部分を練習し覚えること
8	紹介　③	家族、友人を紹介、疑問詞用いた表現	プリントの会話部分を練習し覚えること
9	8 回までのまとめ	これまでに学んだことの復習 中間テストおよび解説	これまでに学んだことの再確認
10	数詞　①	数詞の仕組み	プリントの会話部分を練習し覚えること
11	数詞　②	序数詞や分数	プリントの会話部分を練習し覚えること
12	数詞　③	電話番号と数詞の練習問題	プリントの会話部分を練習し覚えること
13	数詞　④	日付の言い表し方	プリントの会話部分を練習し覚えること
14	10 回～13 回までのまとめ	数詞を使った表現の復習	10 回～13 回までの再確認
15	総復習	これまでに学んだことの総復習理解度確認テストおよび解説	総復習

関連科目	インドネシア語　II

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への積極的な参加度合(20%) 中間テスト(40%) 理解度確認テスト(40%)
学生へのメッセージ	授業へは積極的に参加しましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	毎週の予習は基本的に必要ないが、復習については少なくとも 1 時間以上は行うこと。半期中の事後学習総時間は 30 時間である。授業時間以外での質問は非常勤講師室にてお昼休みに対応する。なお、中間テストおよび理解度確認テスト終了後には解説を行う。

科目名	インドネシア語Ⅱ	科目名（英文）	Indonesian II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	エニ　レスタリ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7△,DP8△		

授業概要・目的	本授業は、インドネシア語における基礎的な会話能力の修得を目的とする。日常生活のさまざまな場面において役に立つ表現を学ぶ。
到達目標	この授業では、前期の「インドネシア語Ⅰ」に引き続き、基本的なインドネシア語運用能力の修得を目指し、インドネシアへ旅行に出かけたり、インドネシア人と話す機会において不自由のない実力をつけることができる。
授業方法と留意点	配布するプリントを用いて基礎会話を中心とした学習を行う。声に出して繰り返し練習することを重視する。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語技能検定

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	復習	前期の「インドネシア語Ⅰ」で学んだことの復習	前期の項目を復讐してから授業に進むこと
2	曜日　(1)	曜日、月の言い表し方	プリントの会話部分を練習し覚えること
3	曜日　(2)	季節の表現方法	プリントの会話部分を練習し覚えること
4	時間　(1)	時間の言い表し方	プリントの会話部分を練習し覚えること
5	時間　(2)	時間を使った会話	プリントの会話部分を練習し覚えること
6	色　(1)	色および形容詞	プリントの会話部分を練習し覚えること
7	色　(2)	助数詞	プリントの会話部分を練習し覚えること
8	復習	これまでに学んだことの復習 中間テスト	中間テストに向けてこれまでに学んだことの再確認
9	ショッピング　(1)	値段の尋ね方	プリントの会話部分を練習し覚えること
10	ショッピング　(2)	店での会話	プリントの会話部分を練習し覚えること
11	ショッピング　(3)	その他役に立つ表現	プリントの会話部分を練習し覚えること
12	位置　(1)	位置の表し方	プリントの会話部分を練習し覚えること
13	位置　②	道を尋ねる	プリントの会話部分を練習し覚えること
14	9 回～13 回までのまとめ	ショッピングでの会話や位置に関する表現の復習	9 回～13 回までに学んできたことの再確認ま s
15	総復習	これまでに学んだことの総復習 理解度確認テスト	これまでに学んだことの再確認

関連科目	インドネシア語Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への積極的な参加度合 20%、中間テスト 40%、理解度確認テスト 40%等に基づき総合的に評価する。
学生へのメッセージ	授業へは積極的に参加しましょう。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	毎週の予習は基本的に必要ないが復讐については毎週少なくとも 1 時間は行うこと。半期中の事後学習は 30 時間である。授業時間以外での質問は非常勤講師室にてお昼休みに対応する。

科目名	インドネシア語Ⅱ	科目名（英文）	Indonesian II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	２
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山口　玲子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7△,DP8△		

基礎科目

授業概要・目的	本授業は、インドネシア語における基礎的な会話能力の修得を目的とする。日常生活のさまざまな場面において役に立つ表現を学ぶ。
到達目標	この授業では、前期の「インドネシア語Ⅰ」に引き続き、基本的なインドネシア語運用能力の修得を目指し、インドネシアへ旅行に出かけたり、インドネシア人と話す機会において不自由のない実力をつけることができる。
授業方法と留意点	配布するプリントを用いて基礎会話を中心とした学習を行う。声に出して繰り返し練習することを重視する。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語技能検定試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	復習	前期の「インドネシア語Ⅰ」で学んだことの復習	前期の項目を復習してから授業に臨むこと
2	曜日（1）	曜日、月の言い表し方	プリントの会話部分を練習し覚えること
3	曜日（2）	季節の表現方法	プリントの会話部分を練習し覚えること
4	時間（1）	時間の言い表し方	プリントの会話部分を練習し覚えること
5	時間（2）	時間を使った会話	プリントの会話部分を練習し覚えること
6	色（1）	色および形容詞	プリントの会話部分を練習し覚えること
7	色（2）	助数詞	プリントの会話部分を練習し覚えること
8	復習	これまでに学んだことの復習 中間テストおよび解説	中間テストに向けてこれまでに学んだことの再確認
9	ショッピング（1）	店での会話	プリントの会話部分を練習し覚えること
10	ショッピング（2）	店での会話	プリントの会話部分を練習し覚えること
11	ショッピング（3）	その他役に立つ表現	プリントの会話部分を練習し覚えること
12	位置（1）	位置の表し方	プリントの会話部分を練習し覚えること
13	位置（2）	道を尋ねる	プリントの会話部分を練習し覚えること
14	9 回から 13 回までのまとめ	ショッピングでの会話や位置にかんする表現の復習	９回から 13 回までに学んできたことの再確認
15	総復習	これまでに学んできたことの総復習 理解度確認テストおよび解説	総復習

関連科目	インドネシア語Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への積極的な参加度合 20%、中間テスト 40%、理解度確認テスト 40%
学生へのメッセージ	授業へは積極的に参加しましょう。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	毎週の予習は基本的に必要ないが、復習については毎週少なくとも２時間は行うこと。半期中の事後学習総時間は 30 時間である。授業時間外での質問等は非常勤講師室にてお昼休みに対応する。なお、中間テストおよび理解度確認テスト終了後には解説を行う。

科目名	インドネシア語Ⅲ	科目名（英文）	Indonesian III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大坪　紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7△,DP8△		

授業概要・目的	インドネシア語の中級レベルの運用能力を育成する。文法説明および読解を中心に、短文の作成や会話の練習も随時おこなう。またインドネシアの文化や慣習も随時紹介する。
到達目標	中級レベルの運用能力をめざす。インドネシア語の短い文章が読め、インドネシアの人と話す時に不自由のない実力をつけることができる。
授業方法と留意点	テキストはプリントを配布する。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語の能力向上とともに、インドネシア語技能検定試験に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	1.授業の進め方を説明する。 2.インドネシア語の概要や、インドネシア語が話されている地域の概要を確認する。	前回の復習。
2	基本１	発音と語順。名詞・形容詞・副詞・否定詞・接続詞などの復習と応用練習	前回の復習。
3	基本２	前置詞、人称代名詞、呼びかけなどの復習と応用練習。接尾辞-nya。会話練習。	前回の復習。
4	基本３	挨拶。名詞文・否定文・疑問文・答え方などの復習と応用問題。 会話練習。	前回の復習。
5	数字や数の表現	数字、日付、数量などの表現と復習、応用問題。会話練習。	前回の復習。
6	動詞	基語動詞、beR-動詞、meN-動詞の復習と応用。時制。会話練習。	前回の復習。
7	短い文章の購読１	疑問詞・助動詞の復習と応用。	前回の復習。
8	・中間試験 ・短い文章の購読２	・第７回までに学んだことを確認するために中間試験をおこなう。 ・短文を読解する。	第７回までの総復習。
9	便利な表現１	・日常会話や旅行でよく使われる表現を学ぶ。 ・インドネシアの日常生活を知る。	前回の復習。
10	便利な表現２	・日常会話や旅行でよく使われる表現を学ぶ。 ・インドネシアの日常生活を知る。	前回の復習。
11	接頭辞 se-	接頭辞 se-の学習。読解。短文作成。会話練習。	前回の復習。
12	yang	yang を用いた表現の学習。読解。短文の作成。会話練習。	前回の復習。
13	受け身１	受け身表現の学習。読解。短文の作成。会話練習。	前回の復習。
14	受け身２	受け身表現の学習。読解。短文の作成。会話練習。	前回の復習。
15	まとめ	第 14 回までの理解度を確認する試験を実施する。試験のおこなったあと、理解の足りないところをとりあげて復習・解説する。	第１４回までの総復習。

関連科目：インドネシア語Ⅳ、人類学関係の授業

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への積極的な参加度合(20%) 第８回に実施される中間テスト(40%) 第１５回に実施される理解産確認テスト(40%)
学生へのメッセージ	文化・経済などインドネシアには非常に将来性があるものの、英語などに比べてインドネシア語は日本では学べる機会や機関の少ない言語です。積極的に授業に参加して、身につけましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	毎週の予習は必要ないが、復習は少なくとも 1 時間以上おこなうこと。すなわち事後学習総時間は 30 時間以上である。授業時間以外での質問は非常勤講師室にて昼休みに対応する。なお、中間テストおよび理解度確認テスト終了後には解説を行う。

科目名	インドネシア語Ⅳ	科目名（英文）	Indonesian Ⅳ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大坪　紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7△,DP8△		

基礎科目

授業概要・目的	インドネシア語の中級レベルの運用能力を育成する。文法説明および読解を中心に、短文の作成や会話の練習も随時おこなう。またテキストを通じてインドネシアの歴史や地理も紹介する。
到達目標	中級レベルの運用能力をめざす。インドネシア語の短い文章が読め、インドネシアの人と話す時に不自由のない実力をより高める。
授業方法と留意点	積極的に参加すること。テキストはプリントを配布する。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語の能力向上とともに、インドネシア語技能検定試験に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	１.授業の進め方を説明する。 ２.これまでに習得したインドネシア語能力を確認する。	前回の復習。
2	重複、接尾辞-an、　接頭辞 peN-	重複、接尾辞-an、　接頭辞 peN-の学習。読解。短文作成。	前回の復習。
3	比較・最上表現、接頭辞 ter- 、前置詞	比較・最上表現、接頭辞 ter- 、前置詞の学習。読解。短文作成。	前回の復習。
4	接続詞、付加疑問文、感嘆文	接続詞、付加疑問文、感嘆文の学習。読解。短文作成。	前回の復習。
5	共接辞 peN--an、perN--an	共接辞 peN--an、perN--an の学習。読解。短文作成。	前回の復習。
6	従位接続詞、相関構文	従位接続詞、相関構文の学習。読解。短文作成。	前回の復習。
7	共接辞 keN--an、　命令・依頼・勧誘表現	共接辞 keN--an、　命令・依頼・勧誘表現の学習。読解。短文作成。	前回の復習。
8	共接辞 keN-an、　meN--kan 動詞、meN--i 動詞、memperN--動詞	共接辞 keN-an、　meN--kan 動詞、meN--i 動詞、memperN--動詞の学習。読解。短文作成。	前回の復習。
9	歴史、地理、交通をテーマとした文章の購読　１	講読に際して注意を要する文法の説明。 インドネシアの地理に関する説明。 場所を尋ねる会話練習。	前回の復習。
10	歴史、地理、交通をテーマとした文章の購読　２	講読に際して注意を要する文法の説明。 インドネシアの地理や交通に関する説明。数字の復習。	前回の復習。
11	歴史、地理、交通をテーマとした文章の購読　３	講読に際して注意を要する文法の説明。 インドネシアの歴史に関する説明。 時間を尋ねる会話練習。	前回の復習。
12	航空に関する記事の購読１	講読に際して注意を要する文法の説明。 インドネシアでの航空に関する説明。金額を尋ねる会話練習。	前回の復習。
13	航空に関する記事の購読２	講読に際して注意を要する文法の説明。 会話練習。方法を尋ねる会話練習。	前回の復習。
14	まとめ	第 13 回までに学習した項目をまとめて復習する。許可を求める会話練習。	第 13 回までの総復習。
15	理解度確認テスト。ふりかえりと今後の学習法について	いままでの理解度を確認するために理解度確認テストを実施する。テスト終了後に理解に足りないところを説明する。また今後１人で復習・学習していくために必要な事項を伝える。	第 14 回までの総復習。

関連科目	インドネシア語関連の授業、人類学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への積極的な参加度合(20%) 随時課すまとめレポート(40%) 理解産確認テスト(40%)
学生へのメッセージ	インドネシア語は人口２億５千万人のインドネシアの国語です。運用能力を身につけ将来に役立てましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	毎週の予習は比較的少なくて済むが、復習は少なくとも毎週 1 時間以上おこなうこと。 したがって、この授業での総復習時間は 15 時間以上を求める。 授業時間以外での質問は非常勤講師室にて昼休みに対応する。 なお、随時課す宿題やまとめレポートの返却時と、理解度確認テスト終了後には解説を行う。

科目名	英語Ⅰ	科目名（英文）	English Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	Ｅ１
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小川　一美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7△,DP8△		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction Unit1 Mansion	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson. Students should also study the content of next lesson.
2	Unit 2 Repeater	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson. Students should also study the content of next lesson.
3	Unit 3 Talent	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson. Students should also study the content of next lesson.
4	Unit4 Service	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson. Students should also study the content of next lesson.
5	Unit5 OL & Businessman	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Unit6 Challenge	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson. Students should also study the content of next lesson.
7	Unit7 Claim	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson. Students should also study the content of next lesson.
8	Unit8 Manner UP	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson. Students should also study the content of next lesson.
9	Unit9 I Cut My Hair	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson. Students should also study the content of next lesson.
10	Unit10 Hearing & Listening	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Unit11 Rent & Borrow	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson. Students should also study the content of next lesson.
12	Unit12 Trip, Travel, Travel	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson. Students should also study the content of next lesson.
13	Unit13 Customer, Guest, Client	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson. Students should also study the content of next lesson.
14	Unit14 Pay, Wage, Salary	Individual Task, Pair work, and group	Students should study the content of the day's

	work	lesson. Students should also study the content of next lesson.
15	Unit15 Cost, Price, Fee, Fare	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson. Students should also study the content of next lesson.

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Say It Right in English	Mark Thompson / Toshihiro Tanioka	EIHOSHA
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

全学共通英語課題 A　20%
全学共通英語課題 B　10%
授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等含む）　70%

学生へのメッセージ

努力は報われます。頑張りましょう。

担当者の研究室等

7 号館 2 階　非常勤講師室

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	英語Ⅰ	科目名（英文）	English Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	Ｅ３
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大神　雄一郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7△,DP8△		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の内容、目標、評価について確認	Unit 1 の予習
2	Unit 1	読解・リスニング・会話・作文の総合演習	復習・Unit 2 の予習
3	Unit 2	読解・リスニング・会話・作文の総合演習	復習・Unit 3 の予習
4	Unit 3	読解・リスニング・会話・作文の総合演習	復習・Unit 4 の予習
5	Unit 4	読解・リスニング・会話・作文の総合演習	復習・Unit 5 の予習
6	Unit 5	読解・リスニング・会話・作文の総合演習	復習・Unit 6 の予習
7	Unit 6	読解・リスニング・会話・作文の総合演習	復習・Unit 7 の予習
8	Unit 7	読解・リスニング・会話・作文の総合演習	復習・Unit 8 の予習
9	Unit 8	読解・リスニング・会話・作文の総合演習	復習・Unit 9 の予習
10	Unit 9	読解・リスニング・会話・作文の総合演習	復習・Unit 10 の予習
11	Unit 10	読解・リスニング・会話・作文の総合演習	復習・Unit 11 の予習
12	Unit 11	読解・リスニング・会話・作文の総合演習	復習・Unit 12 の予習
13	Unit 12	読解・リスニング・会話・作文の総合演習	復習・Unit 13 の予習
14	Unit 13	読解・リスニング・会話・作文の総合演習	Unit 1～Unit 13 までの復習
15	まとめ	前期の総まとめ	総復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Indicator 2	Terry O’Brien 著	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等含む）　70%
学生へのメッセージ	この科目では、比較的平易な英文の読解を基本に、読む、聞く、話す、書く、といった活動を総合的に進めていきます。基礎的な事柄を改めてきっちりと身につけ、発展的な学習の土台がつくれるよう取り組んでいきましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	英語Ⅰ	科目名（英文）	English Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	Ｅ５
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	関　初海
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7△,DP8△		

基礎科目

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法について説明	Unit 1,2 の予習
2	Unit 1,2	"It's the Titanic" "A Floating Palace" （文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング）	復習・Unit 3,4 予習
3	Unit 3,4	Departure Iceberg (1) （文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング）	復習・Unit 5,6 予習
4	Unit 5,6	Iceberg (2),(3) （文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング）	復習・Unit 7,8 予習
5	Unit 7,8	Lifeboat The Miracle of Philip Aks (1) （文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング）	復習・Unit 9,10 予習
6	Unit 9,10	The Miracle of Philip Aks (2),(3) （文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング）	復習・Unit 11,12 予習
7	Unit 11,12	Mr. Smith's "White Lie" Together until the End of Their Lives (1) （文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング）	復習・Unit 13,14 予習 中間テスト準備
8	中間テストと Unit 13,14	中間テスト Together until the End of Their Lives (2) The Californian （文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング）	復習・Unit 15,16 予習
9	Unit 15,16	中間テストのフィードバック The Carpathia Radio Officers （文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング）	復習・Unit 17 予習
10	Unit 17	Firemen （文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング）	復習・Unit 18 予習
11	Unit 18	Eight Courageous Musicians (1) （文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング）	復習・Unit 19 予習
12	Unit 19	Eight Courageous Musicians (2) （文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング）	復習・Unit 20 予習
13	Unit 20	Only 705 Surviors （文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング）	復習・Unit 21 予習
14	Unit 21	If Only... （文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング）	復習・まとめテスト準備
15	まとめ	まとめテストとフィードバック	総復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Voyage	木村啓子他	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
3			

参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
評価方法 （基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等含む）　70%
学生への メッセージ	授業への積極的な参加を期待します。
担当者の 研究室等	７号館２F　非常勤講師室
備考	授業曜日以外の質問はメールで受け付ける。詳細は第１回目授業時に指示する。 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	英語Ⅰ	科目名（英文）	English Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	Ｅ２
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷脇　康子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7△,DP8△		

基礎科目

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業概要説明 初回クイズ	授業の復習
2	肯定文と否定文	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
3	平叙文と疑問文	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
4	特殊疑問文	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
5	命令文と感嘆文	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
6	名詞の用法(1)	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
7	名詞の用法(2)	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
8	まとめ 中間テスト	１回目～７回目の授業の復習 テスト実施	中間テストの準備
9	冠詞の用法	中間テスト返却と解説 プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
10	自動詞と他動詞	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
11	まちがえやすい動詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
12	完了相	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
13	進行相	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
14	まちがえやすい時制	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
15	まとめ まとめのテスト	９回目～１４回目授業の復習 テスト実施	まとめのテストの準備

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等含む）　70%
学生へのメッセージ	授業はテンポよくリズミカルに進行します。集中力を切らさず一生懸命ついてきてください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	英語Ⅰ	科目名（英文）	English Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	Ｅ４
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	曽我　直隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7△,DP8△		

授業概要・目的

比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。

到達目標

(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。
(2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。
(3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。

授業方法と留意点

演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。

科目学習の効果（資格）

TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	個人／ペア／グループワーク	授業内で指示
2	Unit 1	小テスト 個人／ペア／グループワーク	授業内で指示
3	Unit 2	小テスト 個人／ペア／グループワーク	授業内で指示
4	Unit 3	小テスト 個人／ペア／グループワーク	授業内で指示
5	Unit 4	小テスト 個人／ペア／グループワーク	授業内で指示
6	Unit 5	小テスト 個人／ペア／グループワーク	授業内で指示
7	Unit 6	小テスト 個人／ペア／グループワーク	授業内で指示
8	Unit 7	小テスト 個人／ペア／グループワーク	授業内で指示
9	Unit 8	小テスト 個人／ペア／グループワーク	授業内で指示
10	Unit 9	小テスト 個人／ペア／グループワーク	授業内で指示
11	Unit 10	小テスト 個人／ペア／グループワーク	授業内で指示
12	Unit 11	小テスト 個人／ペア／グループワーク	授業内で指示
13	Unit 12	小テスト 個人／ペア／グループワーク	授業内で指示
14	Unit 13	小テスト 個人／ペア／グループワーク	授業内で指示
15	総復習・実力チェック	個人／ペア／グループワーク	授業内で指示

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Network 2 Student Book with Online Practice	Tom Hutchinson; Kristin Sherman	Oxford University Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

全学共通英語課題 A　20%
全学共通英語課題 B　10%
授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等含む）　70%

学生へのメッセージ

皆さんには、在学中にひとりで外国を旅してくることを勧めます。
旅行会社のツアーではなく、すべて自分で計画して手配する個人旅行です。

若者の旅行者が集まる安宿が、どこの国にもあります。
そこに泊まって、いろいろな国の人と話をしてみましょう。
今のあなたの英語力でも大丈夫。
インド英語、中国英語、ヒスパニック英語…　いろいろな英語に触れれば、自分のジャパニーズ イングリッシュでも臆せず使えるようになります。

海外一人旅は、自分のことや日本のことを見つめ直す機会にもなるでしょう。
帰国する頃には、ひとまわり大きくなった自分に気づくかもしれません。

時間と体力と柔軟な心のある学生時代こそ、旅をする絶好のチャンスです。

	お金もそんなに要りません。アルバイトで十分貯められます。 自分の英語が通じるか心配？　大丈夫、なんとかなります。この授業をぜひ役立ててください。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	英語Ⅰ	科目名（英文）	English Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	Ｅ６
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	李　孝聖
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7△,DP8△		

授業概要・目的	リスニングとライティングを中心に日常生活に必要な英語の語彙力、表現力、理解力をつける事を目標とする。 又、並行して英語の資格、検定の練習問題を用いて文法事項の復習及び弱点補強も行う。 授業計画は進度によって変わる場合がある。
到達目標	この授業を通して短い文章を読解する能力と文法の基礎を習得できます。 毎回行う英単語の小テストによって大学生にとって必要不可欠な英語の語彙力が強化されます。 これらの能力を習得することによってコミュニケーションスキルに念頭を置いた実用的な英語基礎能力が期待されます。
授業方法と留意点	単なる聞き取りのみならず、理解力を上げるために英文に隠れているアメリカと日本の違いについても色々学んでいきたい。新出単語や学んだ内容を繰り返して覚えるのが上達への早道！
科目学習の効果（資格）	基本的文法の復習、リスニング、語彙力、英検や TOEIC 等の検定・資格試験にも役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入。コース全体の組み立て。授業の進め方。成績のつけ方。出席・欠席への注意など。	どうしてこのコースを選択したか。キャリアデザインとの関係。英語はどう役立つか。	Chapter I: Money: The Basics の Chapter I: Money: The Basics を読んでくる。
2	お金の機能について	I-1 Money has three functions.	Chapter I: Money: The Basics の When you borrow money, you have to pay interest. を読んでくる。
3	お金を借りたら利息がつく。	When you borrow money, you have to pay interest.	Chapter I: Money: The Basics の What happens to money you deposit in a bank? を読んでくる。
4	銀行に預けたお金はどうなるのか。	What happens to money you deposit in a bank?	Chapter I: Money: The Basics の Banks aren't the only financial institutions.
5	銀行が唯一の金融機関ではない。	Banks aren't the only financial institutions.	Chapter II: The Value of Money Constantly Changes の Prices are set according to the principle of supply and demand. を読んでくる。
6	価格は需要と供給によって決まる。	Prices are set according to the principle of supply and demand.	Chapter II: The Value of Money Constantly Changes の Foreign trade is a two-way street. を読んでくる。
7	海外貿易は二方向。	Foreign trade is a two-way street.	Chapter II: The Value of Money Constantly Changes の Exchange rates also vary according to supply and demand. を読んでくる。
8	為替レートも需要と供給。	Exchange rates also vary according to supply and demand.	Chapter II: The Value of Money Constantly Changes の Currencies continuously strengthen and weaken against one another. を読んでくる。
9	通貨の強弱。	Currencies continuously strengthen and weaken against one another.	Chapter III: How Companies Work の Joint-stock companies: how they came about を読んでくる。
10	株式会社はどう生まれたか。	Joint-stock companies: how they came about?	Chapter III: How Companies Work の Companies share their profits among their shareholders. を読んでくる。
11	企業は株主と利益を分配する。	Companies share their profits among their shareholders.	Chapter III: How Companies Work の Trading in Stocks has beome a full-fledged market. を読んでくる。
12	株式の取引は本物の市場になった。	Trading in Stocks has beome a full-fledged market.	Chapter III: How Companies Work の E-trading has changed the nature of stock trading dramatically. を読んでくる。
13	E-trading は株式の取引を根本的に変えた。	E-trading has changed the nature of stock trading dramatically.	Chapter III: How Companies Work の A company doesn't belong only to its shareholders. を読んでくる。
14	企業は株主のものだけではない。	A company doesn't belong only to its shareholders.	これまでのまとめ。
15	総復習。	これまでのまとめ。	期末テストへの注意と解説。

関連科目：他の英語関係科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	All About Money and the Economy	池上　彰	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test WORD BOOK（学校語彙で学ぶ TOEIC テスト）	西谷恒志	成美堂
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験 60%、小テスト 10%、課題レポート 10%、授業態度 10%（授業中の発表）、出席 10%の割合で評価する。
学生へのメッセージ	出席と予習を含む宿題を重視。 授業態度を重んじるので受講生はきちんと授業に参加してください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	【事前事後学習について】

	・特に単語は e-learning 学習など、毎日、平均 1 時間は学習してください。 ・授業の 13 回目までに、単語番号 201～400 までを最低一巡は終わるようにしてください。 【授業中の注意点について】 ・ 辞書を必ず持参してください。

科目名	英語Ⅰ	科目名（英文）	English Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	金原　真由美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7△,DP8△		

授業概要・目的

比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。

到達目標

(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。
(2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。
(3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。

授業方法と留意点

演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。

科目学習の効果（資格）

TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、自己紹介 簡単な小テスト	授業の進め方、出欠の扱い、評価方法などの説明	教科書解説理解 英作文
2	Part１　英語の発想で書く １　主語	文法語法解説 英作演習	教科書解説理解 英作文
3	２　動詞	文法語法解説 英作演習	教科書解説理解 英作文
4	３　形容詞（１）	文法語法解説 英作演習	教科書解説理解 英作文、課題英文読解
5	４　形容詞（２）	文法語法解説 英作演習	教科書解説理解 英作文 確認テスト事前勉強
6	中間テスト(１回目) Test 1 ５　副詞	文法語法解説 英作演習	教科書解説理解 英作文
7	６　助動詞	文法語法解説 英作演習	教科書解説理解 英作文
8	７　時制（１）	文法語法解説 英作演習	教科書解説理解 英作文
9	８　時制（２）	文法語法解説 英作演習	教科書解説理解 英作文
10	９　接続詞	文法語法解説 英作演習	教科書解説理解 英作文 確認テスト事前勉強
11	中間テスト(２回目) Test 2 Part2　より複雑な文を書く １０　単文	文法語法解説 英作演習	教科書解説理解 英作文
12	１１　重文	文法語法解説 英作演習	教科書解説理解 英作文
13	１２　複文（１）	文法語法解説 英作演習	教科書解説理解 英作文
14	１３　複文（２）	文法語法解説 英作演習	教科書解説理解 英作文
15	最終テスト(３回目) Test 3		確認テスト事前勉強

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	英語モードが身につくライティング	大井恭子、伊藤文彦	研究社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語集		成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	総合英語 Forest	石黒昭博　監修	桐原書店
2			
3			

評価方法（基準）

全学共通英語課題 A　20%
全学共通英語課題 B　10%
授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等含む）　70%

学生へのメッセージ

日本語の発想から脱して英語の発想で書く練習を重ねながら、単純な文からより複雑な文へ、そして１つのパラグラフが仕上げられるようになる事を目指します。
文法の参考書も常に利用して下さい。
授業内で３回テストを行う。

担当者の研究室等

７号館２F　非常勤講師控室

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間とする。

科目名	英語Ⅱ	科目名（英文）	English II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	Ｅ２
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小川　一美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7△,DP8△		

基礎科目

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit1 5 文型	成績評価方法について確認を行うとともに、Unit1 を通して 5 文型の基礎を確認する。	事後学習⇒Unit1 の課題 事前学習⇒Unit2-Unit8
2	Unit2-Unit8	Unit2-Unit8 を通して、一つ一つの文型の特徴や規則について学ぶ。	事後学習⇒取り組んだところまでの課題 事前学習⇒Unit2-Unit8
3	Unit2-Unit8	Unit2-Unit8 を通して、一つ一つの文型の特徴や規則について学ぶ。	事後学習⇒取り組んだところまでの課題 事前学習⇒Unit9
4	Unit9 基本時制	Unit9 を通して時制(現在・過去・未来)の基本用法から発展用法について学ぶ。	事後学習⇒Unit9 の課題 事前学習⇒Unit10
5	Unit10　進行形・完了形	Unit10 を通して進行形や完了形の基本的な表現ならびに進行形に用いない動詞にについて学ぶ。	事後学習⇒Unit10 の課題 事前学習⇒Unit11
6	Unit11　主語の選択	Unit11 を通して主語(名詞・代名詞・to 不定詞・動名詞・名詞節など)について学ぶ。	事後学習⇒Unit11 の課題 事前学習⇒Unit12
7	Unit12　郡動詞の活用	Unit12 を通して郡動詞(動詞＋前置詞/副詞・動詞＋副詞＋前置詞など)について学ぶ。	事後学習⇒Unit12 の課題 事前学習⇒Unit13
8	Unit13　助動詞の活用<1>	Unit13 を通して助動詞<can/could・may/might ・ must ・ will/would ・ shall/should>について学ぶ。	事後学習⇒Unit13 の課題 事前学習⇒Unit14
9	Unit14　助動詞の活用<2>	Unit14 を通して助動詞を用いた表現<would rather ～など>について学ぶ。	事後学習⇒Unit14 の課題 事前学習⇒Unit15
10	Unit15　受動態の活用	Unit15 を通して受動態<時制・受動態にならない動詞など>について学ぶ。	事後学習⇒Unit15 の課題 事前学習⇒Unit16
11	Unit16　比較表現	Unit16 を通して比較<原級・比較・最上級・比較構文>について学ぶ。	事後学習⇒Unit16 の課題 事前学習⇒Unit17
12	Unit17　否定表現	Unit17 を通して否定表現<not, hardly, not all, never~ without など>について学ぶ。	事後学習⇒Unit17 の課題 事前学習⇒Unit18
13	Unit18　関係詞の活用	Unit18 を通して関係代名詞/副詞・制限/非制限について学ぶ。	事後学習⇒Unit18 の課題 事前学習⇒Unit19
14	Unit19　接続詞の活用	Unit19 を通して接続詞<等位接続詞・相関接続詞・従位接続詞>について学ぶ。	事後学習⇒Unit19 の課題 事前学習⇒Unit20
15	Unit20　仮定法の活用	Unit20 を通して仮定法<wish・仮定法過去・慣用表現>について学ぶ。	事後学習⇒これまで取り組んできた内容

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Basic College Writing with 5 sentence Patterns	Hidehiko Konaka	センゲージラーニング
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等含む）　70%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館２F　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ

	そ 15 時間程度とする。

科目名	英語Ⅱ	科目名（英文）	English II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	Ｅ４
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	高橋　章夫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7△,DP8△		

基礎科目

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容、評価方法などの説明、Unit 1 の前半部分	特になし
2	Unit 1 Listen Carefully	予習テスト、ディクテーション、英作文、その他応用問題	Unit 1 の復習、Unit 2 の CheckLink の問題を解く
3	Unit 2 World Famous	予習テスト、ディクテーション、英作文、その他応用問題	Unit 2 の復習、Unit 3 の CheckLink の問題を解く
4	Unit 3 A Healthy Diet	予習テスト、ディクテーション、英作文、その他応用問題	Unit 3 の復習、Unit 4 の CheckLink の問題を解く
5	Unit 4 Heavy Traffic	予習テスト、ディクテーション、英作文、その他応用問題	Unit 4 の復習、Unit 5 の CheckLink の問題を解く
6	Unit 5 Fighting Fire	予習テスト、ディクテーション、英作文、その他応用問題	Unit 5 の復習、Unit 6 の CheckLink の問題を解く
7	Unit 6 Enjoying Sports	予習テスト、ディクテーション、英作文、その他応用問題	Unit 1-6 の復習
8	まとめテスト 1	Unit 1-6 のまとめテスト、復習	Unit 7 の CheckLink の問題を解く
9	Unit 7 Throwing a Party	まとめテスト 1 の返却、予習テスト、ディクテーション、英作文、その他応用問題	Unit 7 の復習、Unit 8 の CheckLink の問題を解く
10	Unit 8 A Good Salary	予習テスト、ディクテーション、英作文、その他応用問題	Unit 8 の復習、Unit 9 の CheckLink の問題を解く
11	Unit 9 A New Album	予習テスト、ディクテーション、英作文、その他応用問題	Unit 9 の復習、Unit 10 の CheckLink の問題を解く
12	Unit 10 Leaving the Company	予習テスト、ディクテーション、英作文、その他応用問題	Unit 10 の復習、Unit 11 の CheckLink の問題を解く
13	Unit 11 The Train Ride	予習テスト、ディクテーション、英作文、その他応用問題	Unit 7-11 の復習
14	まとめテスト 2	Unit 7-11 のまとめテスト、復習	Unit 1-11 の復習
15	まとめ	まとめテスト 2 の返却、応用問題	なし

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Live Listening 英語リスニング実践道場	Graeme Todd／Roger Palmer／加野まきみ	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等含む）　70%
学生へのメッセージ	ネイティブスピードの大量の英語を聴き、①大意を把握し、②英語特有の発音を理解し、③重要な表現を覚え、④それを発信できるよう、繰り返し訓練します。教科書付属の E-Learning を利用して予習テストを行いますので、教科書は、古書ではなく必ず新書で購入してください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師控室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	英語Ⅱ	科目名（英文）	English II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	Ｅ６
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	関　初海
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7△,DP8△		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法について説明	Unit 1,2 の予習
2	Unit 1,2	"It's the Titanic" "A Floating Palace" （文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング）	復習・Unit 3,4 予習
3	Unit 3,4	Departure Iceberg (1) （文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング）	復習・Unit 5,6 予習
4	Unit 5,6	Iceberg (2),(3) （文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング）	復習・Unit 7,8 予習
5	Unit 7,8	Lifeboat The Miracle of Philip Aks (1) （文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング）	復習・Unit 9,10 予習
6	Unit 9,10	The Miracle of Philip Aks (2),(3) （文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング）	復習・Unit 11,12 予習
7	Unit 11,12	Mr. Smith's "White Lie" Together until the End of Their Lives (1) （文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング）	復習・Unit 13,14 予習 中間テスト準備
8	中間テストと Unit 13,14	中間テスト Together until the End of Their Lives (2) The Californian （文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング）	復習・Unit 15,16 予習
9	Unit 15,16	中間テストのフィードバック The Carpathia Radio Officers （文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング）	復習・Unit 17 予習
10	Unit 17	Firemen （文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング）	復習・Unit 18 予習
11	Unit 18	Eight Courageous Musicians (1) （文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング）	復習・Unit 19 予習
12	Unit 19	Eight Courageous Musicians (2) （文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング）	復習・Unit 20 予習
13	Unit 20	Only 705 Surviors （文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング）	復習・Unit 21 予習
14	Unit 21	If Only... （文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング）	復習・まとめテスト準備
15	まとめ	まとめテストとフィードバック	総復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Voyage	木村啓子他	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
3			

参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
評価方法 （基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等含む）　70%
学生への メッセージ	授業への積極的な参加を期待します。
担当者の 研究室等	７号館２F　非常勤講師室
備考	授業曜日以外の質問はメールで受け付ける。詳細は第１回目授業時に指示する。 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	英語Ⅱ	科目名（英文）	English II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	Ｅ１
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷脇　康子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7△,DP8△		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業概要説明 初回クイズ	授業の復習
2	不定詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
3	分詞と動名詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
4	関係詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
5	形容詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
6	副詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
7	前置詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
8	まとめ 中間テスト	１回目～７回目の授業の復習 テスト実施	中間テストの準備
9	接続詞の用法	中間テスト返却と解説 プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
10	間接疑問文	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
11	仮定法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
12	受け身文	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
13	まちがえやすい語順	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
14	まちがえやすい否定表現	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
15	まとめ まとめのテスト	９回目～１４回目授業の復習 テスト実施	まとめのテストの準備

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等含む）　70%
学生へのメッセージ	授業はテンポよくリズミカルに進行します。集中力を切らさず一生懸命ついてきてください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	英語Ⅱ	科目名（英文）	English II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	Ｅ３
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	曽我　直隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7△,DP8△		

授業概要・目的

比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。

到達目標

(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。
(2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。
(3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。

授業方法と留意点

演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。

科目学習の効果（資格）

TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	個人／ペア／グループワーク	授業内で指示
2	Unit 1	小テスト 個人／ペア／グループワーク	授業内で指示
3	Unit 2	小テスト 個人／ペア／グループワーク	授業内で指示
4	Unit 3	小テスト 個人／ペア／グループワーク	授業内で指示
5	Unit 4	小テスト 個人／ペア／グループワーク	授業内で指示
6	Unit 5	小テスト 個人／ペア／グループワーク	授業内で指示
7	Unit 6	小テスト 個人／ペア／グループワーク	授業内で指示
8	Unit 7	小テスト 個人／ペア／グループワーク	授業内で指示
9	Unit 8	小テスト 個人／ペア／グループワーク	授業内で指示
10	Unit 9	小テスト 個人／ペア／グループワーク	授業内で指示
11	Unit 10	小テスト 個人／ペア／グループワーク	授業内で指示
12	Unit 11	小テスト 個人／ペア／グループワーク	授業内で指示
13	Unit 12	小テスト 個人／ペア／グループワーク	授業内で指示
14	Unit 13	小テスト 個人／ペア／グループワーク	授業内で指示
15	総復習・実力チェック	個人／ペア／グループワーク	授業内で指示

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Network 2 Student Book with Online Practice	Tom Hutchinson; Kristin Sherman	Oxford University Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

全学共通英語課題 A　20%
全学共通英語課題 B　10%
授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等含む）　70%

学生へのメッセージ

皆さんには、在学中にひとりで外国を旅してくることを勧めます。
旅行会社のツアーではなく、すべて自分で計画して手配する個人旅行です。

若者の旅行者が集まる安宿が、どこの国にもあります。
そこに泊まって、いろいろな国の人と話をしてみましょう。
今のあなたの英語力でも大丈夫。
インド英語、中国英語、ヒスパニック英語…　いろいろな英語に触れれば、自分のジャパニーズ イングリッシュでも臆せず使えるようになります。

海外一人旅は、自分のことや日本のことを見つめ直す機会にもなるでしょう。
帰国する頃には、ひとまわり大きくなった自分に気づくかもしれません。

時間と体力と柔軟な心のある学生時代こそ、旅をする絶好のチャンスです。

	お金もそんなに要りません。アルバイトで十分貯められます。 自分の英語が通じるか心配？　大丈夫、なんとかなります。この授業をぜひ役立ててください。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	英語Ⅱ	科目名（英文）	English II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	Ｅ５
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	李　孝聖
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7△,DP8△		

基礎科目

授業概要・目的	この授業を通して短い文章を読解する能力と文法の基礎を習得できます。また、発声練習や毎回行う英単語の小テストによって大学生にとって必要不可欠な英語の語彙力が強化されます。 これらの能力を習得することによってコミュニケーションスキルに念頭を置いた実用的な英語基礎能力が期待されます。
到達目標	この授業ではリスニングとライティングを中心に、英語の４技能の強化を図ります。 到達目標：日常生活で必要とする基礎的な英語の理解力・表現力を身につける。
授業方法と留意点	授業に出席しても、授業活動に参加しない学生には単位は与えません。 しっかり予習して授業に臨み、積極的に授業参加してください。
科目学習の効果（資格）	リスニング・ライティングの訓練を継続的に行えば、半年でかなりの実力が付きます。 最初は難しいと感じても、根気よく続けてください。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	後期にあたって、新たな気持ちで英語に取り組む姿勢を喚起する。	各レッスンの訳、要約。自発的で積極的な授業への取り組み方を考える。	Chapter III: The State of the Economy の The economy fluctuates in cycle. を読んでくる。 指定単語の学習
2	経済は周期的に変動する。	The economy fluctuates in cycle.	Chapter III: The State of the Economy の There are two basic ways conutries can stimulate their economics. を読んでくる。 指定単語の学習
3	経済を活性化する２方法。	There are two basic ways conutries can stimulate their economics.	Chapter III: The State of the Economy の Sometimes an economy can become too robust. を読んでくる。 指定単語の学習
4	経済はときには強すぎる。	Sometimes an economy can become too robust.	Chapter III: The State of the Economy の In extrem casas, the economy can grow like a bubble. を読んでくる。 指定単語の学習
5	経済は泡のように膨らむ。	In extrem casas, the economy can grow like a bubble.	Chapter v：Economic Systems の There are two main economic systems in operation today. を読んでくる。 指定単語の学習
6	今日の２つの経済システム。	There are two main economic systems in operation today.	これまでの復習。
7	Review, Midterm Exam	復習、期間外試験１	Chapter v：Economic Systems の Socialism largely ended in failure. を読んでくる。 指定単語の学習
8	社会主義の失敗。	Socialism largely ended in failure.	Chapter v：Economic Systems の Globalization has its good points and its bad. を読んでくる。 指定単語の学習
9	グローバリゼーションの良い点と悪い点。	Globalization has its good points and its bad.	Chapter v：Economic Systems の Neo-liberalism is changing the way business done. を読んでくる。 指定単語の学習
10	新自由主義はビジネスを変える。	Neo-liberalism is changing the way business done.	Chapter v：Economic Systems の Economic policies can serve to protect the natural environment. を読んでくる。 指定単語の学習
11	経済政策は自然環境の保護に役立つ。	Economic policies can serve to protect the natural environment.	プリントを用意する。 指定単語の学習
12	食物アレルギー	Food allergies	Food allergies を読んでくる。 指定単語の学習
13	食物アレルギー	Food allergies	プリントを用意する。 指定単語の学習
14	青色発光ダイオード	Blue LED	Blue LED を読んでくる。 指定単語の学習
15	青色発光ダイオード	Blue LED	期末テストの注意と重点項目。

関連科目　英語関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	All About Money and the Economy	池上　彰	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test WORD BOOK（学校語彙で学ぶ TOEIC テスト）	西谷恒志	成美堂
2			
3			

評価方法　定期試験 60%、小テスト 10%、課題レポート 10%、

（基準）	授業態度 10%（授業中の発表）、出席 10%の割合で評価する。 ※授業態度に問題のある場合（遅刻、居眠り、飲食、私語、携帯電話の使用など）は、教室に来ていても 「欠席」扱いとします。
学生への メッセージ	英語を効果的にマスターしたい人は、少しずつでも必ず毎日英語に触れましょう。 週に一日だけ 1 時間勉強するよりも、毎日 15 分勉強するほうがはるかに効果が上がります。 英語の力は学習時間に比例して伸びてゆきます。 授業以外にも、自分の興味ある分野の英文をどんどん読ん　でみましょう。 全員参加で活気ある授業を創り上げましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	【事前事後学習について】 ・特に単語は e-learning 学習など、毎日、平均 1 時間は学習してください。 ・授業の 13 回目までに、単語番号 600～800 までを最低一巡は終わるようにしてください。 【授業中の注意点について】 ・ 辞書を必ず持参してください。

科目名	英語Ⅱ	科目名（英文）	English II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	金原　真由美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7△,DP8△		

基礎科目

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、自己紹介 簡単な小テスト	授業の進め方、出欠の扱い、評価方法などの説明	教科書解説理解 英作文、課題英文読解
2	Reading	読解と解説	指示した箇所までを予習 小テストの準備
3	Reading	読解と解説	指示した箇所までを予習 小テストの準備
4	Reading	読解と解説	指示した箇所までを予習 小テストの準備
5	Reading	読解と解説	指示した箇所までを予習 小テストの準備
6	Reading	読解と解説	指示した箇所までを予習 小テストの準備
7	Reading	読解と解説	指示した箇所までを予習 小テストの準備
8	Reading	読解と解説	指示した箇所までを予習 小テストの準備
9	Reading	読解と解説	指示した箇所までを予習 小テストの準備
10	Reading	読解と解説	指示した箇所までを予習 小テストの準備
11	Reading	読解と解説	指示した箇所までを予習 小テストの準備
12	Reading	読解と解説	指示した箇所までを予習 小テストの準備
13	Reading	読解と解説	指示した箇所までを予習 小テストの準備
14	Reading	読解と解説	指示した箇所までを予習 小テストの準備
15	Reading	読解と解説	指示した箇所までを予習 小テストの準備

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Shakespeare Made Easy Macbeth (Modern English Version)	Alan Durband	Barron's
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語集		成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	総合英語 Forest	石黒昭博　監修	桐原書店
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等含む）　70%
学生へのメッセージ	平易な英文で書かれたシェークスピアの悲劇『マクベス』を読む。　時には映像を見て劇の雰囲気を味わい、原文に触れる。英文を読む力をつけるだけでなく、特別な状況におかれた Macbeth の深層心理に迫り作品を味わいたい。 毎回、指示した箇所まで読んでくること。状況を想像しながら一通り目を通し、それから辞書で丁寧に内容を取って下さい
担当者の研究室等	７号館２F　非常勤講師控室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間とする。

科目名	英語Ⅲ	科目名（英文）	English III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松井　信義
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7△,DP8△		

授業概要・目的	本講座は、１年次で学んだ語彙、文法を基に英語力の更なる向上を目指し、総合的な運用能力を高めることを目的とする。異文化間のコミュニケーションは、英語コミュニケーション能力だけにあるのではない。トピックは日米比較で、身の周りにあるものを取り上げ、それらの題材を通して英語力を高めると同時に、日米の差異・共通性の理解を深める。
到達目標	英検２級以上、TOEIC５５０点以上の実力をつけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業は‘Active Participation in Class’（授業への前向きな参加）が大前提である。双方向の全員参加の活発な授業を展開するので、予習が必須で辞書（できれば、紙の英和辞典）は必ず持ってくること。
科目学習の効果（資格）	予習・復習を欠かさず、英語に触れる絶対量を増やせば、英検２級以上、TOEIC５５０点以上は必ず取れるはずです。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	シラバスの説明 Lesson 1の導入 Physical Education	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など	Lesson 1の予習
2	Lesson 1 Physical Education	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
3	Lesson 2 Sports Clubs	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
4	Lesson 2 Sports Clubs	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
5	Lesson 3 Cultural Differences	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
6	Lesson 4 Haircuts	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
7	Lesson 5 Music	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
8	Lesson 6 Money	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
9	Lesson 7 Safety	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
10	Lesson 8 Life Expectancy	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
11	Lesson 9 The Metric System	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
12	Lesson 10 Police	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
13	Lesson 11 Seasons	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
14	Lesson 12 TV Sports	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
15	Lesson 1 ～ Lesson 12 Physical Education ～ TV Sports	既習範囲の総復習 定期試験（前期末）の準備	定期試験（前期末）の準備

関連科目：他の英語関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Eye on America and Japan	G. Truscott 他	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100		成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂
3	英和辞典・和英辞典		

評価方法（基準）	定期試験　６０％ 小テスト（Quiz）　２０％ 課題レポート（只管筆写、英語多読）　20％ 原則、出席率８０％以上の学生を成績評価の対象とする。
学生へのメッセージ	There is no royal road to English learning.（英語学習に王道なし）にあるように英語学習に王道（easy way)などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさない限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and（or but）steady wins the race.（急がば回れ）を心に留め、ゆっくりでも着実に学習を続けることです。そうすれば英語の力は必ず上達します。諦めずに頑張ってください。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	１．事前・事後学習に、毎回１時間以上かけること。 ２．英単語はe-learningを含めて、毎日、平均１時間は学習すること。 ３．期末試験の準備には、合計２０時間以上かけること。 ４．上記の学習に、「只管筆写」用紙を活用すること（用紙は非常勤講師室にある）。

科目名	英語Ⅳ	科目名（英文）	English Ⅳ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松井　信義
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7△,DP8△		

基礎科目

授業概要・目的	本講座は、１年次で学んだ語彙、文法を基に英語力の更なる向上を目指し、総合的な運用能力を高めることを目的とする。異文化間のコミュニケーションは、英語コミュニケーション能力だけにあるのではない。トピックは日米比較で、身の周りにあるものを取り上げ、それらの題材を通して英語力を高めると同時に、日米の差異・共通性の理解を深める。
到達目標	英検２級以上、TOEIC５５０点以上の実力をつけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業は‘Active Participation in Class’（授業への前向きな参加）が大前提である。双方向の全員参加の活発な授業を展開するので、予習が必須で辞書（できれば、紙の英和辞典）は必ず持ってくること。
科目学習の効果（資格）	予習・復習を欠かさず、英語に触れる絶対量を増やせば、英検２級以上、TOEIC５５０点以上は必ず取れるはずです。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	シラバスの説明 Lesson 13 の導入 Business	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など	Lesson 13 の予習
2	Lesson 13 Business	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
3	Lesson 14 Jobs	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
4	Lesson 14 Jobs	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
5	Lesson 15 NHK vs. PBS	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
6	Lesson 16 Marriage Ceremonies	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
7	Lesson 17 American Culture	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
8	Lesson 18 International Marriage	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
9	Lesson 19 Apartments	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
10	Lesson 20 Technology	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
11	Lesson 21 School Rules	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
12	Lesson 22 Drinking	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
13	Lesson 23 Entertaining	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
14	Lesson 24 Choice	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
15	Lesson 13 ～ Lesson 24 Business ～ Choice	既習範囲の総復習 定期試験（後期末）の準備	定期試験（後期末）の準備

関連科目	他の英語関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Eye on America and Japan	G. Truscott 他	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100		成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂
3	英和辞典・和英辞典		

評価方法（基準）	.定期試験　６０％ 小テスト（Quiz）　２０％ 課題レポート（只管筆写、英語多読）　20% 原則、出席率８０％以上の学生を成績評価の対象とする。
学生へのメッセージ	There is no royal road to English learning.（英語学習に王道なし）にあるように英語学習に王道（easy way)などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさない限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and（or but）steady wins the race.（急がば回れ）を心に留め、ゆっくりでも着実に学習を続けることです。そうすれば英語の力は必ず上達します。諦めずに頑張ってください。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	１．事前・事後学習に、毎回１時間以上かけること。 ２．英単語は e-learning を含めて、毎日、平均１時間は学習すること。 ３．期末試験の準備には、合計２０時間以上かけること。 ４．上記の学習に、「只管筆写」用紙を活用すること（用紙は非常勤講師室にある）。

科目名	韓国語Ⅰ	科目名（英文）	Korean Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	千　英子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7△,DP8△		

授業概要・目的	韓国語は日本語と酷似しており、日本語を話す人には学習しやすい言語である。本授業は初めて韓国語を学ぶ人のために、初歩的な日常会話の能力を養成することを目指している。授業中に学んだ会話パターンや熟語などを用いて会話練習を行なうことで、学習者が主体になって会話できるように指導する。ネイティブ先生による指導によって、韓国語の会話能力を一歩一歩確実に養ってゆこうというねらいである。
到達目標	韓国語の文字、発音と基礎的な文法事項を習得する、
授業方法と留意点	教科書を中心に、ロールプレー（Role Play）も行なう。必要に応じてビデオ・CD も活用しながら、k-pop や韓国ドラマも紹介する。毎回の講義では日常生活における様々な場面を想定した会話を学習し、常に会話の内容と関わる文法や発音の説明を加えながら授業を行なう。
科目学習の効果（資格）	韓国語の勉強はもとより、韓国社会と文化への理解を深める良い機会になる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	韓国語とは	韓国語の歴史、文字構成	テキストｐ．１－２
2	ハングル文字について	基本母音	テキストＰ．３－４
3	ハングル文字について	複合母音	テキストｐ．５－６
4	ハングル文字について	子音（平音）	テキストｐ．７－８
5	ハングル文字について	子音（濃音、激音）	テキストｐ．９－１０
6	パッチム	文字と発音	テキストｐ．１１－１２
7	発音規則について	連音化、濃音化	プリント配布
8	発音規則について	激音化、鼻音化、流音化	プリント配布
9	まとめ	前半のまとめ、小テスト、韓国ドラマ鑑賞	テキストｐ．１４－１５
10	出会い	単語、文法	テキストｐ．１６－１７
11	出会い	文法、本文	テキストｐ．１８－１９
12	自己紹介	単語、文法	テキスト　Ｐ．２０－２１
13	自己紹介	文法、本文	プリント配布
14	前期のまとめ、交流会	韓国留学生と韓国語で会話の練習をしながら交流する。 前期の内容について、総合的な復習をする。	プリントの配布
15	韓国ドラマの鑑賞	韓国ドラマの鑑賞、質疑回答	後期試験の準備

関連科目：韓国語初級

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	みんなで学ぶ韓国語　会話編	金真　など	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業参加状況、講義時の対応、小テストの成績などを総合的に評価する。 定期試験６０％、小テスト２０％、授業への積極性 20%（予習・復習・出席状況など）を目安とする。
学生へのメッセージ	韓国語を多言語の一つとして選択し、就職活動への活用はもとより、日韓を中心とした東アジア経済圏の発展における主役になることを期待します。日ごろの学習の成果を発表するスピーチコンテストも開催し、韓国の留学生を招いて、日韓両国の文化について教えあう交流会も行います。安価で韓国へ渡航して、学んだ韓国語を直接体験したり、確認したりすれば、大学生活の最高の思い出になるでしょう！
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	授業中に指示する。

科目名	韓国語Ⅰ	科目名（英文）	Korean Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	２
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	沈　明姫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7△,DP8△		

基礎科目

授業概要・目的	不慣れな姿のハングルを知り韓国語を学ぶことで、日本語と韓国語のもつ類似点、そして同じ漢字文化圏なので、様々な言葉や表現の共通点を発見することが出来る。隣の国、韓国を真の意味で近い国として実感し、韓国の歴史や文化に興味を深めることと、両国がより近い関係に回復できるきっかけとなってほしいと望みます。外国語である日本語を習得する過程から得られた私の経験を踏まえ、初めて韓国語を学習する人でも楽しくやさしく学ぶことが出来るように心掛けます。
到達目標	１．韓国語の文字であるハングルの読み、書きが出来るようになる。 ２．ハングルで自分の名前を覚える。 ３．簡単な挨拶や自己紹介が出来るようになる。
授業方法と留意点	教科書とプリントを配布して授業を行う。必要に応じてビデオ・CD も活用しながら、k-pop や韓国映画、ドラマも紹介する。
科目学習の効果（資格）	韓国語の勉強はもとより、韓国社会と文化への理解を深める良い機会になる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	韓国語について	韓国語の歴史、文字構成を説明。 授業の進め方についてのガイダンス及び、 受講生の希望を伺うなど、韓国語をめぐる受講生とのコミュニケーション。	特になし
2	ハングル文字について	基本母音字	テキストP．１６－１９
3	ハングル文字について	基本子音字	テキスト．２０－２７
4	ハングル文字について	複合母音字	テキストｐ．２８－３２
5	ハングル文字について	激音、濃音について。 自分の名前と家族や友達の名３をハングルで書いてみる	テキストｐ．３０－３９
6	ハングル文字について	バッチムについて。	テキストｐ．４０－４７
7	ハングル文字総合まとめ	ハングルを覚える際に使っていた単語を覚える。 韓国で使われている外来語を読んで、意味を予測してみたり、日本語との発音の違い調べてみる。	テキストｐ．１６－４７
8	ハングル文字総合まとめ	中間単語テスト	中間単語テスト勉強
9	韓国の映画を見て、耳から聞こえる韓国語を感じる	「カンナさん大成功です！」	映画の中から聞き取れた韓国語を5つ以上ノートに書く。
10	韓国の映画を見て、耳から聞こえる韓国語を感じる	「カンナさん大成功です！」	映画の中から聞き取れた韓国語を5つ以上ノートに書く。
11	基本的な助詞をまなぶ。	文字を勉強する際に覚えた単語を使って、短い作文をしながら、助詞を勉強する。	宿題；各助詞を使った作文を書いて次回の授業時間に提出する。
12	第６課　こんにちは。	基本的な挨拶と簡単な自己紹介。	テキスト　P．５２－５４
13	第６課　こんにちは。	職業は何ですか？ 用言の終止形	テキスト　p．５５－５９
14	前期総合まとめ	ハングル文字の復習 前期授業の中で出てきた単語全てを整理して覚える。 前期定期試験の準備	テキスト　ｐ．１６－５９
15	まとめ	前期定期試験	前期定期試に備えての勉強

関連科目	韓国語基礎会話

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	美しい韓国語　１－１初級　教科書	韓国語教育開発研究院	EKO ランゲージセンター
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業参加状況、講義時の対応、小テスト 50% 総合試験 50%
学生へのメッセージ	楽しく韓国語を習いましょう。積み重ねが大切ですので遅刻・欠席しないでください。安価で韓国へ渡航して、授業で学んだ韓国語を直接体験したり、確認したりすれば、大学生活の最高の思い出になるでしょう！
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	simmh71@yahoo.co.jp

科目名	韓国語Ⅱ	科目名（英文）	Korean II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	千　英子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7△,DP8△		

授業概要・目的	日韓交流の発展に伴ない、韓国語ができる人材がたくさん必要になるだろう。本授業では前期に引き続き、日常会話の能力を養成することを目指している。授業中に学んだ会話パターンや熟語などを用いて会話練習を行ない、ネイティブ先生による指導によって、韓国語の会話能力を一歩一歩確実に養ってゆこうというねらいである。学期の終わりには韓国語で簡単な韓国ドラマを理解できるようになるだろう。
到達目標	韓国語の基礎的な文法を習得しつつ、初歩的な言語能力を育成する。
授業方法と留意点	教科書を中心に、ロールプレー（Role Play）も行なう。必要に応じてビデオ・CD も活用しながら、K-POP や韓国ドラマも紹介する。毎回の講義では日常生活における様々な場面を想定した会話を学習し、常に会話の内容と関わる文法や発音の説明を加えながら授業を行なう。
科目学習の効果（資格）	韓国語の勉強はもとより、韓国社会と文化への理解を深める良い機会になる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	日課	単語、文法	テキストｐ．２２－２５
2	日課	文法、本文	テキストｐ．２６－２８
3	道で	単語、本文	テキストｐ．２９
4	道で	単語、文法	テキストｐ．３０－３１
5	お店で	単語、文法	テキストｐ．３２－３３
6	お店で	文法、本文	テキストｐ、３４－３５
7	電話で約束	単語、文法	テキストｐ．３６－３７
8	電話で約束	文法、本文	テキストｐ．３８－３９
9	まとめ	前半のまとめ、小テスト、韓国ドラマの鑑賞	プリント配布
10	食堂で	単語、本文、練習	テキストｐ．４０－４３
11	食堂で、友達の紹介	文法、本文	テキストP.44-46
12	友達の紹介、冬休みの計画	文法、本文、練習	テキスト　Ｐ．４７－５０
13	冬休みの計画、休み中の出来事	単語、文法、本文	テキスト　P,52-53
14	前期・後期のまとめ	日韓における言語と文化の類似性と相違性に関して	小テストの準備
15	前期・後期のまとめ	韓国ドラマの鑑賞、まとめ	定期試験の準備

関連科目：韓国語初級

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	みんなで学ぶ韓国語　会話編	金真　など	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業参加状況、講義時の対応、小テストの成績などを総合的に評価する。 定期試験６０％、小テスト２０％、授業への積極性 20%（予習・復習・出席状況など）を目安とする。
学生へのメッセージ	韓国語を多言語の一つとして選択し、就職活動への活用はもとより、日韓を中心とした東アジア経済圏の発展における主役になることを期待します。日ごろの学習の成果を発表するスピーチコンテストも開催し、韓国の留学生を招いて、日韓両国の文化について教えあう交流会も行います。安価で韓国へ渡航して、授業で学んだ韓国語を直接体験したり、確認したりすれば、大学生活の最高の思い出になるでしょう！
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	授業中に指示する。

科目名	韓国語Ⅱ	科目名（英文）	Korean II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	２
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	沈　明姫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7△,DP8△		

基礎科目

授業概要・目的	ハングル入門Ⅰを終了した程度の実力を持つ人を対象とします。ハングルの読み、書きが出来る能力を身につけたうえ、特に現代韓国社会で広く使われている表現や慣用句を、現代の韓流文化を交えて基本的な日常会話を導入し、即席で応用を広げ、ネイティブ講師ならではの長所を生かす実用的な韓国語の習得を心がけます。 一年間を通して基本的な韓国語を読んで、聞いて、話せるようになり、ハングル入門Ⅰ・Ⅱを履修後もさらに韓国語を続けたいという意欲を掻き立てることが出来ればと思います。
到達目標	１．韓国語の初級文法を理解し、旅行に役立つ程度の会話が出来るようになる。 ２．２００文字以上の自己紹介の作文が出来るようになる。
授業方法と留意点	教科書とプリントを配布して授業を行う。必要に応じてビデオ・CD も活用しながら、k-pop や韓国映画、ドラマも紹介する。
科目学習の効果（資格）	韓国語の勉強はもとより、韓国社会と文化への理解を深める良い機会になる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第７課　はじめまして。	国の名前、言語について学び、読み書きが出来るようにする。	テキスト　p．６３、プリント
2	第７課　はじめまして。	どの国の人ですか？ ーではありません。 助詞　ーは、ーがについて練習。	テキスト p．６２－６４
3	第７課　はじめまして。	前回の授業で新しく学んだ単語の小テスト。 初対面の人に挨拶と自己紹介する。 人を紹介する時の言い方を学ぶ。	単語の小テスト勉強 テキスト　p．６５－６８
4	第８課　これは何ですか？	前回の授業で新しく学んだ単語の小テスト。 これ、それ、あれの指示代名詞について学ぶ。 家族構成員について学ぶ。	単語の小テスト勉強 テキスト　p．７０－７２ 次回の授業中会話練習用の、日常で使う頻度の高い物を用意して来る。
5	第８課　これは何ですか？	前回の授業で新しく学んだ単語の小テスト。 日常で使う頻度の高い物を用意し、これは何ですか？の会話を練習する。 所有格助詞ーのについて学ぶ。	単語の小テスト勉強 テキスト　p．７３－７７
6	第８課　これは何ですか？ 第９課　週末に何をしますか？	前回の授業で新しく学んだ単語の小テスト。 テキストｐ．７９　私の家族を勉強し、「自分の家族」について韓国語で作文をし、提出する。	単語の小テスト勉強 テキスト　p．７９
7	韓国映画を見ながら言葉や文化になれる。	「カンナさん大成功」	映画を見ながら聞き取れた韓国語を5つノートに書き、意味を調べる。
8	韓国映画を見ながら言葉や文化になれる。	「カンナさん大成功」	映画を見ながら聞き取れた韓国語を5つノートに書き、意味を調べる。
9	第９課　週末に何をしますか？	助詞ーを、ーにを使って作文をする。 日常でよく使う動詞２０個を覚え、その終止形の活用について学ぶ。 “ーと一緒に”という言い方を練習する。	テキスト　p．８２－８７
10	第９課　週末に何をしますか？	前回の授業で新しく学んだ単語の小テスト。 いつ、誰と、何を、しますか？ について多数の例文を用いて練習をし、作文をする。	単語の小テスト勉強 テキスト　p．８８－９１
11	第１０課　ここはどこですか？どこに何がありますか？	前回の授業で新しく学んだ単語の小テスト。 漢数字について学び、漢数字を用いて数える単位を付けて練習する。 位置を表す名詞を学ぶ。	単語の小テスト勉強 テキスト　p．９４－１０１
12	第１０課　ここはどこですか？どこに何がありますか？	前回の授業で新しく学んだ単語の小テスト。 固有数字について学び、固有数字を用いて数える単位を付けて練習する。 時計の読み方を練習する。	単語の小テスト勉強 テキスト　p．９４－１０１
13	第１１課　電話番号は何番ですか？	時計の読み方のテストをする。 数字がスムーズに言えるように練習する。 助詞ーは、ーも、ーのみの使い方を練習する。	時計の読み方を練習する。 テキスト　p．１０４－１１１
14	後期総合まとめ	後期授業の中で勉強した全ての単語をテストする。 後期授業の内容整理し、復習をする。 後期定期試験の対策。	後期授業の中で勉強した単語を覚える。 テキスト　p．６２－１１１
15	まとめ	後期定期試験	後期定期試験の勉強

関連科目	韓国語基礎会話
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	美しい韓国語　１－１　初級　教科書	韓国語教育開発研究院	EKO ランゲージセンター
	2			
	3			
評価方法 （基準）	授業参加状況、講義時の対応、小テスト 50% 総合試験 50%			
学生への メッセージ	楽しく韓国語を学びましょう。語学がまじめに積み重ねる他方法がありませんので、遅刻・欠席しない用に頑張りましょう。 韓国旅行や韓国のテレビ番組などを通して、授業で学んだ韓国語が役立つという実感があれば、もしくは将来的に就職活動にまで生かすことが出来れば、最高でしょう！			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)			
備考	simmh71@yahoo.co.jp			

科目名	韓国語Ⅲ	科目名（英文）	Korean III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北島　由紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7△,DP8△		

基礎科目

授業概要・目的	初級授業で習得した韓国語の知識を確認し、さらに日常会話でよく使う表現や文法を新たに学んでいく。 韓国語を運用する上で不可欠な基本的文法事項を確認しながら、特に読み書きに重点をおいて進めていく。 授業スケジュールは目安であり、学習進度、習熟度に合わせて調整する。
到達目標	日常会話で使える様々な韓国語の基本表現を身につける
授業方法と留意点	教科書に基づいて文法説明を加えつつ、講読、作文練習等を行う。欠席すると次回の受講に困難をきたすので、なるべく欠席しないこと。
科目学習の効果（資格）	韓国語の基礎的知識や様々な表現を習得しながら、語学を通して韓国への理解を深めることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	基礎構文の復習１	語尾表現の復習	教科書　６課、８課
2	基礎構文の復習２	過去形	教科書　１３課
3	「～してください」	依頼の表現	教科書　１７課
4	「～しても良いですか」	許可をする、許可を求める表現	教科書　１８課
5	「～しなければなりません」	義務の表現	教科書　１９課
6	文法確認	文法確認	既習文法の確認
7	「～しましょう」	勧誘	教科書　１４課
8	「～しています」	現在進行形	教科書　１５課
9	「～できます」・「～できません」	可能・不可能	教科書　１６課
10	「～したいです」	意志・感情を表す表現	教科書　１７課
11	「～しないでください」	禁止の表現	教科書　１８課
12	「～するつもりです」・「～と思います」	意志・推量の表現	教科書　１９課　、２０課
13	文の練習	簡単な作文・読解	――――
14	既習文法の総確認	既習文法の総確認	――――
15	韓国語の実際	韓国のドラマを見る	――――

関連科目：韓国語関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎から学ぶ韓国語講座　初級　改訂版	木内明	国書刊行会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点 40 パーセント、授業時の各種テスト 60 パーセントで評価
学生へのメッセージ	日常韓国語の運用能力を高めながら、授業を通じて語学を学ぶことの楽しさを感じてもらえれば良いと思います。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	連絡事項がある時は事務室を通して連絡

科目名	韓国語Ⅳ	科目名（英文）	Korean Ⅳ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北島　由紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7△,DP8△		

授業概要・目的	前期に引き続き、韓国語の様々な表現、文法を学習する。様々な表現を含む、ある程度長いまとまった文の「読む・書く」能力を養う。授業スケジュールは目安であり、学習進度、習熟度に合わせて調整する。
到達目標	日常会話で使う様々な表現を学習し、活用できるように練習をしていく。
授業方法と留意点	文法説明を加えつつ、講読、作文練習等を行う。欠席すると次回の受講に困難をきたすので、なるべく欠席しないこと。辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	韓国語の様々な表現を学びながら、文章読解やある程度まとまった文を作れるようになることを目指す。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	復習１	前期の復習	既習の単語、文法の復習
2	復習２	前期の復習	既習の単語、文法の復習
3	用言文（変格活用）	変格活用の用言	教科書　ｐ１７４、１７５
4	用言文（変格活用）	変格活用の用言	教科書　ｐ１７６、１７７
5	連体形１	形容詞の連体形	教科書ｐ．１７８　およびプリントを使って、形容詞の連体形を学習
6	連体形２	動詞・存在詞の現在連体形	形容詞と動詞の連体形を区別できるようにしておくこと。
7	連体形３	動詞・存在詞の過去連体形	動詞の連体形を時制で区別できるようにしておくこと。
8	連体形４	動詞・存在詞の未来連体形	動詞の連体形を時制で区別できるようにしておくこと。
9	既習文法の確認	既習文法の確認	既習文法の確認
10	「～して」・「～なので」	文の接続（並列・理由）	接続詞の使い方を理解し、ある程度長い文を作れるように。
11	「～であるが」	文の接続（逆説）	接続詞の使い方を理解し、ある程度長い文を作れるように。
12	「～なので」	文の接続（理由）	接続詞の使い方を理解し、ある程度長い文を作れるように。
13	文の練習	ある程度まとまった文の購読・作文	ある程度の長さをもつ文章の読解
14	総合確認	総合確認	これまでの全ての既習文法、特に連体形、接続の文法を使った韓国語作文
15	韓国語の実際	韓国のドラマを見る。	韓国語の文法、フレーズを確認する

関連科目：韓国語関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎から学ぶ韓国語講座　初級　改訂版	木内明	国書刊行会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

評価方法（基準）	平常点 40 パーセント、授業時の各種テスト 60 パーセントで評価
学生へのメッセージ	これまでの韓国語の授業で培った能力を伸ばすため、より意欲的に学習してほしいと思います。韓国のドラマや歌なども使って、習得した知識を確認できる機会も持ちたいと思います。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	前半の数回は教科書も使うが、多くはプリントでの学習となる。 連絡事項がある時は事務室を通して連絡

科目名	健康論	科目名（英文）	Health Care
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西村　和恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2△		

基礎科目

授業概要・目的	健康で充実した人生を歩むための知識を総合的に理解し、実践していくための健康理念を学ぶ。
到達目標	（1）日常生活を点検・改善 （2）生活習慣病は自身がつくっているものと認識・見直し。 （3）社会人として生きる知恵を実践していくための方法を学ぶ。
授業方法と留意点	講義方式で授業を進める。なお、資料配布など、教育効果を上げる。
科目学習の効果（資格）	この講義を受講することにより、健康な身体を取り戻すための第一歩を踏み出すことが出来る。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	健康に生きる	点検	健康度をチェックし把握しておく。
2	気づき、学習、行動、評価	ライフスタイルを検証	各自で健康観をまとめておく
3	自然の摂理	今と昔の比較	資料記入
4	生活習慣の点検、受容、行動変容	生活習慣の見直し	資料記入
5	生活習慣病	疾病の種類	資料記入
6	食	現代食、古代食	書き出し
7	運動	運動不足病	現代病
8	休養	昼夜逆転生活	現代病
9	脳と健康	脳の機能	脳トレ実践
10	心と脳と神経	心はどこ？	脳のしくみ
11	ＭＣＩ	認知症症状	プリント記入
12	ストレスマネジメント	現代社会病	見直し作業
13	老化と健康、生涯健康	老化現象、平均寿命	生き方検証
14	デスエデュケーション	歳のとり方	休養スパ
15	心身を考える、まとめ	心と体と脳の関係	小テスト

関連科目：スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト及びレポート(60%)と授業態度(40%)の総合点で評価する。
学生へのメッセージ	質問などがある場合は、総合体育館１階事務室へ来てください。
担当者の研究室等	総合体育館１階　体育館事務室
備考	

科目名	時事問題Ⅰ	科目名（英文）	Current Issues Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本　文子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2◎		

授業概要・目的

時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。
「時事問題Ⅰ」では特に、「政治・経済」「暮らし」のテーマを取り上げる。

到達目標

時事問題について、正確に理解し、説明することができる。
時事問題について、「ニュース時事能力検定」３級相当の知識を有する。

授業方法と留意点

話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。
毎回 30 分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。
また、授業内において「ニュース時事能力検定」（http://www.newskentei.jp/）を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。
受験料（3 級　2,500 円、準 2 級　3,000 円、2 級　4,000 円。変更の可能性あり）が必要となるので、留意のこと。

科目学習の効果（資格）

ニュース時事能力検定　３級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業の目的と方法 今話題のニュース	時事問題を学ぶ大切さを知る	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
2	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
3	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
4	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
5	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
6	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
7	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
8	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
9	中間確認テスト	中間確認テストを行う	これまでの復習をする
10	「ニュース時事能力検定」受検	「ニュース時事能力検定」を受検する	検定に向けて学習する
11	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
12	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
13	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
14	「ニュース時事能力検定」の復習	受検した検定の問題を復習する	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
15	最終確認テスト	最終確認テストを行う	これまでの復習をする

関連科目

時事問題Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	2017 年度版ニュース検定公式テキスト&問題集　基礎編		毎日新聞社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

授業への参加度　５０％
課題・小テストへの取り組み　３０％
中間・最終確認テスト　２０％

学生へのメッセージ

担当者の研究室等

非常勤講師室（７号館２階）

備考

科目名	時事問題Ⅰ	科目名（英文）	Current Issues Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	香取　泰行
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2◎		

基礎科目

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。 「時事問題Ⅰ」では特に、「政治・経済」「暮らし」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」３級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回 30 分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」（http://www.newskentei.jp/）を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。 受験料（3 級　2,500 円、準 2 級　3,000 円、2 級　4,000 円。変更の可能性あり）が必要となるので、留意のこと。
科目学習の効果（資格）	ニュース時事能力検定　３級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業の目的と方法 今話題のニュース	時事問題を学ぶ大切さを知る	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
2	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
3	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
4	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
5	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
6	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
7	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
8	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
9	中間確認テスト	中間確認テストを行う	これまでの復習をする
10	「ニュース時事能力検定」受検	「ニュース時事能力検定」を受検する	検定に向けて学習する
11	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
12	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
13	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
14	「ニュース時事能力検定」の復習	受検した検定の問題を復習する	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
15	最終確認テスト	最終確認テストを行う	これまでの復習をする

関連科目：時事問題Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	2017 年度版ニュース検定公式テキスト&問題集　基礎編		毎日新聞社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度　５０％ 課題・小テストへの取り組み　３０％ 中間・最終確認テスト　２０％
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	非常勤講師室（７号館２階）
備考	

科目名	時事問題Ⅰ	科目名（英文）	Current Issues Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西垣　有
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2◎		

授業概要・目的

時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。
「時事問題Ⅰ」では特に、「政治・経済」「暮らし」のテーマを取り上げる。

到達目標

時事問題について、正確に理解し、説明することができる。
時事問題について、「ニュース時事能力検定」３級相当の知識を有する。

授業方法と留意点

話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。
毎回 30 分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。
また、授業内において「ニュース時事能力検定」（http://www.newskentei.jp/）を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。
受験料（3 級　2,500 円、準 2 級　3,000 円、2 級　4,000 円。変更の可能性あり）が必要となるので、留意のこと。

科目学習の効果（資格）

ニュース時事能力検定　３級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業の目的と方法 今話題のニュース	時事問題を学ぶ大切さを知る	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
2	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
3	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
4	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
5	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
6	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
7	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
8	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
9	中間確認テスト	中間確認テストを行う	これまでの復習をする
10	「ニュース時事能力検定」受検	「ニュース時事能力検定」を受検する	検定に向けて学習する
11	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
12	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
13	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
14	「ニュース時事能力検定」の復習	受検した検定の問題を復習する	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
15	最終確認テスト	最終確認テストを行う	これまでの復習をする

関連科目

時事問題Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	2017 年度版ニュース検定公式テキスト&問題集　基礎編		毎日新聞社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

授業への参加度　５０％
課題・小テストへの取り組み　３０％
中間・最終確認テスト　２０％

学生へのメッセージ

担当者の研究室等

非常勤講師室（７号館２階）

備考

科目名	時事問題Ⅰ	科目名（英文）	Current Issues Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	早川　真悠
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2◎		

基礎科目

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。 「時事問題Ⅰ」では特に、「政治・経済」「暮らし」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」３級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回 30 分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」（http://www.newskentei.jp/）を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。 受験料（3 級　2,500 円、準 2 級　3,000 円、2 級　4,000 円。変更の可能性あり）が必要となるので、留意のこと。
科目学習の効果（資格）	ニュース時事能力検定　３級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業の目的と方法 今話題のニュース	時事問題を学ぶ大切さを知る	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
2	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
3	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
4	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
5	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
6	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
7	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
8	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
9	中間確認テスト	中間確認テストを行う	これまでの復習をする
10	「ニュース時事能力検定」受検	「ニュース時事能力検定」を受検する	検定に向けて学習する
11	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
12	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
13	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
14	「ニュース時事能力検定」の復習	受検した検定の問題を復習する	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
15	最終確認テスト	最終確認テストを行う	これまでの復習をする

関連科目：時事問題Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	2017 年度版ニュース検定公式テキスト&問題集　基礎編		毎日新聞社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度　５０％ 課題・小テストへの取り組み　３０％ 中間・最終確認テスト　２０％
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	非常勤講師室（７号館２階）
備考	

科目名	時事問題Ⅱ	科目名（英文）	Current Issues II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本　文子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2◎		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。 「時事問題Ⅱ」では特に、「社会環境」「国際問題」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」準２級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回 30 分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」（http://www.newskentei.jp/）を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。 受験料（3 級　2,500 円、準 2 級　3,000 円、2 級　4,000 円。変更の可能性あり）が必要となるので、留意のこと。
科目学習の効果（資格）	ニュース時事能力検定　準２級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業の目的と方法 今話題のニュース	時事問題を学ぶ大切さを知る	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
2	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
3	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
4	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
5	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
6	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
7	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
8	中間確認テスト	中間確認テストを行う	これまでの復習をする
9	「ニュース時事能力検定」受検	「ニュース時事能力検定」を受検する	検定に向けて学習する
10	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
11	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
12	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
13	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
14	「ニュース時事能力検定」の復習	受検した検定の問題を復習する	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
15	最終確認テスト	最終確認テストを行う	これまでの復習をする

関連科目：時事問題Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	2017 年度版ニュース検定公式テキスト　発展編		毎日新聞社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度　５０％ 課題・小テストへの取り組み　３０％ 中間・最終確認テスト　２０％
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	非常勤講師室（７号館２階）
備考	

科目名	時事問題Ⅱ	科目名（英文）	Current Issues II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	香取　泰行
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2◎		

基礎科目

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。 「時事問題Ⅱ」では特に、「社会環境」「国際問題」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」準２級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回 30 分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」（http://www.newskentei.jp/）を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。 受験料（3 級　2,500 円、準 2 級　3,000 円、2 級　4,000 円。変更の可能性あり）が必要となるので、留意のこと。
科目学習の効果（資格）	ニュース時事能力検定　準２級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業の目的と方法 今話題のニュース	時事問題を学ぶ大切さを知る	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
2	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
3	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
4	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
5	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
6	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
7	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
8	中間確認テスト	中間確認テストを行う	これまでの復習をする
9	「ニュース時事能力検定」受検	「ニュース時事能力検定」を受検する	検定に向けて学習する
10	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
11	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
12	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
13	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
14	「ニュース時事能力検定」の復習	受検した検定の問題を復習する	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
15	最終確認テスト	最終確認テストを行う	これまでの復習をする

関連科目：時事問題Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	2017 年度版ニュース検定公式テキスト　発展編		毎日新聞社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度　５０％ 課題・小テストへの取り組み　３０％ 中間・最終確認テスト　２０％
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	非常勤講師室（７号館２階）
備考	

科目名	時事問題Ⅱ	科目名（英文）	Current Issues II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西垣　有
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2◎		

授業概要・目的

時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。
「時事問題Ⅱ」では特に、「社会環境」「国際問題」のテーマを取り上げる。

到達目標

時事問題について、正確に理解し、説明することができる。
時事問題について、「ニュース時事能力検定」準２級相当の知識を有する。

授業方法と留意点

話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。
毎回 30 分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。
また、授業内において「ニュース時事能力検定」（http://www.newskentei.jp/）を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。
受験料（3 級　2,500 円、準 2 級　3,000 円、2 級　4,000 円。変更の可能性あり）が必要となるので、留意のこと。

科目学習の効果（資格）

ニュース時事能力検定　準２級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業の目的と方法 今話題のニュース	時事問題を学ぶ大切さを知る	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
2	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
3	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
4	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
5	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
6	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
7	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
8	中間確認テスト	中間確認テストを行う	これまでの復習をする
9	「ニュース時事能力検定」受検	「ニュース時事能力検定」を受検する	検定に向けて学習する
10	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
11	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
12	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
13	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
14	「ニュース時事能力検定」の復習	受検した検定の問題を復習する	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
15	最終確認テスト	最終確認テストを行う	これまでの復習をする

関連科目

時事問題Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	2017 年度版ニュース検定公式テキスト　発展編		毎日新聞社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

授業への参加度　５０％
課題・小テストへの取り組み　３０％
中間・最終確認テスト　２０％

学生へのメッセージ

担当者の研究室等

非常勤講師室（７号館２階）

備考

科目名	時事問題Ⅱ	科目名（英文）	Current Issues II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	早川　真悠
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2◎		

基礎科目

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。 「時事問題Ⅱ」では特に、「社会環境」「国際問題」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」準２級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回 30 分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」（http://www.newskentei.jp/）を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。 受験料（3 級　2,500 円、準 2 級　3,000 円、2 級　4,000 円。変更の可能性あり）が必要となるので、留意のこと。
科目学習の効果（資格）	ニュース時事能力検定　準２級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業の目的と方法 今話題のニュース	時事問題を学ぶ大切さを知る	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
2	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
3	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
4	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
5	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
6	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
7	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
8	中間確認テスト	中間確認テストを行う	これまでの復習をする
9	「ニュース時事能力検定」受検	「ニュース時事能力検定」を受検する	検定に向けて学習する
10	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
11	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
12	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
13	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
14	「ニュース時事能力検定」の復習	受検した検定の問題を復習する	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
15	最終確認テスト	最終確認テストを行う	これまでの復習をする

関連科目：時事問題Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	2017 年度版ニュース検定公式テキスト　発展編		毎日新聞社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度　５０％ 課題・小テストへの取り組み　３０％ 中間・最終確認テスト　２０％
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	非常勤講師室（７号館２階）
備考	

科目名	情報処理Ⅰ	科目名（英文）	Information Processing Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	２
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	星山　幸子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2△		

授業概要・目的

Windows と実用的なアプリケーションソフトを用いた演習を通じ，情報の収集と選択，情報の処理技術，情報の蓄積と利用を学習し，課題やレポート，卒業論文を効果的に作成するために必要な情報活用能力を習得する．これらの作業によって，　コンピュータの機能を知るとともに，コンピュータの持つ特性と有用性について理解し情報処理能力の養成をはかる．

到達目標

課題やレポート、卒業論文作成のために必要な情報活用能力の習得，および就活時にアピールできるコンピュータ利用に関する技能検定への足掛かりとする．

授業方法と留意点

テキストと配布資料を用いて演習形式で行う。毎回、課題が出題される．
課題を提出しない場合は欠席とみなされるので注意すること．
授業時間内に課題を完成できない場合は次週までに提出することが求められる．
なお，出席率が８割に満たない場合は単位を認めないものとする．

科目学習の効果（資格）

就活時にアピールできるコンピュータ利用に関する技能検定に挑戦するためにも役立つ講座である．
身近なものとしては MOS 等のマイクロソフト認定資格や IT パスポート等が挙げられる．
情報処理授業単位取得後，独学で MOS を取得した学生も多い．資格取得の足掛かりとして活用してほしい．

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業計画概要と受講注意事項、 学内ネットワーク説明とガイダンス	――――――
2	コンピュータ基礎知識の確認	パーソナルコンピュータ基本知識の習得とレポート	配布資料の確認 確認用課題
3	情報の収集と選択	インターネット環境と情報の検索方法	配布資料の確認 情報検索課題
4	情報の処理技術（１）	文字情報処理の基礎１ 文書作成技術　書式設定１	配布資料の確認 文書作成練習課題１
5	情報の処理技術（２）	文字情報処理の基礎２ 文書作成技術　書式設定２	配布資料の確認 文書作成練習課題２
6	情報の処理技術（３）	文字情報処理の基礎３ 文書作成技術　表その他	配布資料の確認 文書作成練習課題３
7	情報の処理技術（４）	文字情報処理の応用１ 文書作成技術：レポート、論文の作成	配布資料の確認 文書作成練習課題４
8	前半まとめと確認	確認テスト	文書作成技法復習と技能修得度の確認
9	情報の蓄積と利用（１）	表計算基礎１ 表計算ソフトウェアの概念、数値の処理基本処理の確認	配布資料の確認 表計算練習課題１
10	情報の蓄積と利用（２）	表計算基礎２ 関数利用技術	配布資料の確認 表計算練習課題２
11	情報の蓄積と利用（３）	表計算基礎３ グラフ処理	配布資料の確認 表計算練習課題３
12	情報の蓄積と利用（４）	表計算応用１ データベースとピボットテーブル活用技術	配布資料の確認 表計算練習課題４
13	情報の蓄積と利用（５）	表計算応用２ 散布図および分析ツールと回帰分析基本	配布資料の確認 表計算練習課題５
14	情報の蓄積と連携	レポート活用の為のアプリケーションソフトの連携	配布資料の確認 Word および Excel 複合練習課題
15	後半まとめと確認	確認テスト	表計算技法復習と技能修得度の確認

関連科目

ステップアップとして「情報処理 II」の受講を薦める．

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Windows8・Office2013 による情報処理入門	安積 淳	実教出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

出席率 80%以上を必須とする．
授業参加状況、毎回の課題、実技を含む試験を総合して評価する．
（授業参加状況および毎回の課題 40%，中間テスト 30%，期末テスト 30%）

学生へのメッセージ

使いこなすには多くの練習時間が必要です．情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお薦めします．
多くの先輩が，「情報処理Ⅰ」「情報処理Ⅱ」受講の後に独学で MOS（Microsoft Office Specialist（マイクロソフト オフィス スペシャリスト）に合格していますので，就活時のアピールの為にも頑張ってください．

担当者の研究室等

７号館２階(非常勤講師室)

備考

科目名	情報処理Ⅰ	科目名（英文）	Information Processing Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	２
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤木　健史
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2△		

基礎科目

授業概要・目的	Windows と実用的なアプリケーションソフトを用いた演習を通じて、情報の収集と選択、情報の処理技術、情報の蓄積と利用を学習し、課題やレポート、卒業論文を効果的に作成するために必要な情報活用能力を習得する。これらの作業によって、 コンピュータの機能を知るとともに、 コンピュータの持つ特性と有用性について理解し、情報処理能力の養成をはかる。
到達目標	Office「Word」「Excel」の基本操作をマスターする。
授業方法と留意点	演習方式の講義です。毎回講義用資料を用意するため、指定の教科書はありません。習熟度合いに応じて、講義内容を多少変更する可能性があります。
科目学習の効果（資格）	コンピュータ利用に関する技能検定に挑戦するためにも役立つ講座である。資格取得の足掛かりとして活用してほしい。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業計画概要と受講注意事項、 学内ネットワーク説明、コンピュータの仕組み、Windows 基本操作方法	――――
2	情報の収集と選択	インターネット環境と情報の検索方法	情報検索課題
3	情報の処理技術（1）	文字情報処理の基礎 1 文書作成技術　書式設定 1	文書作成練習課題 1
4	情報の処理技術（2）	文字情報処理の基礎 2 文書作成技術　書式設定 2	文書作成練習課題 2
5	情報の処理技術（3）	文字情報処理の基礎 3 文書作成技術　表その他	文書作成練習課題 3
6	情報の処理技術（4）	文字情報処理の応用 1 文書作成技術：レポート、論文の作成 1	文書作成練習課題 4
7	情報の処理技術（5）	文字情報処理の応用 2 文書作成技術：レポート、論文の作成 2	文書作成練習課題 5
8	前半まとめと確認	まとめ	まとめ
9	情報の蓄積と利用（1）	表計算基礎 1 表計算ソフトウェアの概念、数値の処理	表計算練習課題 1
10	情報の蓄積と利用（2）	表計算基礎 2 関数利用技術	表計算練習課題 2
11	情報の蓄積と利用（3）	表計算基礎 3 グラフ処理	表計算練習課題 3
12	情報の蓄積と利用（4）	表計算応用 1 データベースとピボットテーブル活用技術	表計算練習課題 4
13	情報の蓄積と利用（5）	表計算応用 2 分析ツールと回帰分析基本	表計算練習課題 5
14	情報の蓄積と連携	アプリケーションソフトの連携	複合練習課題
15	後半まとめと確認	まとめ	まとめ

関連科目	ステップアップとして「情報処理 II」の受講を薦める

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教科書は不要です		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	参考書は不要です		
2			
3			

評価方法（基準）	授業ごとに行う練習・課題の点数を 100%で評価します。この授業は演習中心であるため、課題提出が単位取得の必要条件となります。
学生へのメッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお薦めします。
担当者の研究室等	11 号館 6 階(非常勤講師室)
備考	授業時間外での質問等がありましたら、配布資料表紙に載っているメールアドレスにお問い合わせください。

科目名	情報処理Ⅰ	科目名（英文）	Information Processing Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	星山　幸子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2△		

授業概要・目的

Windows と実用的なアプリケーションソフトを用いた演習を通じ，情報の収集と選択，情報の処理技術，情報の蓄積と利用を学習し，課題やレポート，卒業論文を効果的に作成するために必要な情報活用能力を習得する．これらの作業によって，　コンピュータの機能を知るとともに，コンピュータの持つ特性と有用性について理解し情報処理能力の養成をはかる．

到達目標

課題やレポート、卒業論文作成のために必要な情報活用能力の習得，および就活時にアピールできるコンピュータ利用に関する技能検定への足掛かりとする．

授業方法と留意点

テキストと配布資料を用いて演習形式で行う。毎回、課題が出題される．
課題を提出しない場合は欠席とみなされるので注意すること．
授業時間内に課題を完成できない場合は次週までに提出することが求められる．
なお，出席率が８割に満たない場合は単位を認めないものとする．

科目学習の効果（資格）

就活時にアピールできるコンピュータ利用に関する技能検定に挑戦するためにも役立つ講座である．
身近なものとしては MOS 等のマイクロソフト認定資格や IT パスポート等が挙げられる．
情報処理授業単位取得後，独学で MOS を取得した学生も多い．資格取得の足掛かりとして活用してほしい．

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業計画概要と受講注意事項、 学内ネットワーク説明とガイダンス	シラバスの確認 授業計画をまとめた資料を読んでおく
2	コンピュータ基礎知識の確認	パーソナルコンピュータ基本知識の習得とレポート	配布資料の確認 確認用課題
3	情報の収集と選択	インターネット環境と情報の検索方法	配布資料の確認 情報検索課題
4	情報の処理技術（１）	文字情報処理の基礎１ 文書作成技術　書式設定１	配布資料の確認 文書作成練習課題１
5	情報の処理技術（２）	文字情報処理の基礎２ 文書作成技術　書式設定２	配布資料の確認 文書作成練習課題２
6	情報の処理技術（３）	文字情報処理の基礎３ 文書作成技術　表その他	配布資料の確認 文書作成練習課題３
7	情報の処理技術（４）	文字情報処理の応用１ 文書作成技術：レポート、論文の作成	配布資料の確認 文書作成練習課題４
8	前半まとめと確認	確認テスト	文書作成技法復習と技能修得度の確認
9	情報の蓄積と利用（１）	表計算基礎１ 表計算ソフトウェアの概念、数値の処理基本処理の確認	配布資料の確認 表計算練習課題１
10	情報の蓄積と利用（２）	表計算基礎２ 関数利用技術	配布資料の確認 表計算練習課題２
11	情報の蓄積と利用（３）	表計算基礎３ グラフ処理	配布資料の確認 表計算練習課題３
12	情報の蓄積と利用（４）	表計算応用１ データベースとピボットテーブル活用技術	配布資料の確認 表計算練習課題４
13	情報の蓄積と利用（５）	表計算応用２ 散布図および分析ツールと回帰分析基本	配布資料の確認 表計算練習課題５
14	情報の蓄積と連携	レポート活用の為のアプリケーションソフトの連携	配布資料の確認 Word および Excel 複合練習課題
15	後半まとめと確認	確認テスト	表計算技法復習と技能修得度の確認

関連科目

ステップアップとして「情報処理 II」の受講を薦める．

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Windows8・Office2013 による情報処理入門	安積 淳	実教出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

出席率 80%以上を必須とする．
授業参加状況、毎回の課題、実技を含む試験を総合して評価する．
（授業参加状況および毎回の課題 40%，中間テスト 30%，期末テスト 30%）

学生へのメッセージ

使いこなすには多くの練習時間が必要です．情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお薦めします．
多くの先輩が，「情報処理Ⅰ」「情報処理Ⅱ」受講の後に独学で MOS（Microsoft Office Specialist（マイクロソフト オフィス スペシャリスト）に合格していますので，就活時のアピールの為にも頑張ってください．

担当者の研究室等

７号館２階(非常勤講師室)

備考

質問はいつでも歓迎します．
授業時間外での質問等はメールにて対応します．

科目名	情報処理Ⅰ	科目名（英文）	Information Processing Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤木　健史
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2△		

基礎科目

授業概要・目的	Windows と実用的なアプリケーションソフトを用いた演習を通じて、情報の収集と選択、情報の処理技術、情報の蓄積と利用を学習し、課題やレポート、卒業論文を効果的に作成するために必要な情報活用能力を習得する。これらの作業によって、 コンピュータの機能を知るとともに、 コンピュータの持つ特性と有用性について理解し、情報処理能力の養成をはかる。
到達目標	Office「Word」「Excel」の基本操作をマスターする。
授業方法と留意点	演習方式の講義です。毎回講義用資料を用意するため、指定の教科書はありません。習熟度合いに応じて、講義内容を多少変更する可能性があります。
科目学習の効果（資格）	コンピュータ利用に関する技能検定に挑戦するためにも役立つ講座である。資格取得の足掛かりとして活用してほしい。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業計画概要と受講注意事項、 学内ネットワーク説明、コンピュータの仕組み、Windows 基本操作方法	――――――
2	情報の収集と選択	インターネット環境と情報の検索方法	情報検索課題
3	情報の処理技術（1）	文字情報処理の基礎 1 文書作成技術　書式設定 1	文書作成練習課題 1
4	情報の処理技術（2）	文字情報処理の基礎 2 文書作成技術　書式設定 2	文書作成練習課題 2
5	情報の処理技術（3）	文字情報処理の基礎 3 文書作成技術　表その他	文書作成練習課題 3
6	情報の処理技術（4）	文字情報処理の応用 1 文書作成技術：レポート、論文の作成 1	文書作成練習課題 4
7	情報の処理技術（5）	文字情報処理の応用 2 文書作成技術：レポート、論文の作成 2	文書作成練習課題 5
8	前半まとめと確認	まとめ	まとめ
9	情報の蓄積と利用（1）	表計算基礎 1 表計算ソフトウェアの概念、数値の処理	表計算練習課題 1
10	情報の蓄積と利用（2）	表計算基礎 2 関数利用技術	表計算練習課題 2
11	情報の蓄積と利用（3）	表計算基礎 3 グラフ処理	表計算練習課題 3
12	情報の蓄積と利用（4）	表計算応用 1 データベースとピボットテーブル活用技術	表計算練習課題 4
13	情報の蓄積と利用（5）	表計算応用 2 分析ツールと回帰分析基本	表計算練習課題 5
14	情報の蓄積と連携	アプリケーションソフトの連携	複合練習課題
15	後半まとめと確認	まとめ	まとめ

関連科目	ステップアップとして「情報処理 II」の受講を薦める

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教科書は不要です		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	参考書は不要です		
2			
3			

評価方法（基準）	授業ごとに行う練習・課題の点数を 100%で評価します。この授業は演習中心であるため、課題提出が単位取得の必要条件となります。
学生へのメッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお薦めします。
担当者の研究室等	11 号館 6 階(非常勤講師室)
備考	授業時間外での質問等がありましたら、配布資料表紙に載っているメールアドレスにお問い合わせください。

科目名	情報処理Ⅱ	科目名（英文）	Information Processing II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	２
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	星山　幸子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2△		

授業概要・目的	情報処理Ⅰに引き続き，パーソナルコンピュータを操作して 情報処理の基礎を学習する. 情報を発信する側に必要とされる技能として，効果的なプレゼンテーションの学習，画像処理の知識，プログラミングの基本を習得する. これらの作業によってコンピュータの機能についてさらに知識を深め，その特性と有用性についてより深く理解するものとする.
到達目標	効率的な論文ツールの活用，画像編集，就活時にアピールできるプレゼンテーション能力の獲得等，情報発信に必要とされる知識を習得する.
授業方法と留意点	テキストと配布資料を用いて演習形式で行う. 毎回課題が出題される．課題を提出しない場合は欠席とみなされるので注意すること. 授業時間内に課題を完成できない場合，次週までに提出することが求められる. 出席率が８割に満たない場合は単位を認めない.
科目学習の効果（資格）	コンピュータ利用に関する技能検定に挑戦するためにも役立つ講座である．資格取得の足掛かりとして活用してほしい. プレゼンテーションの技術を習得することは，就活時にアピールできるだけでなく社会人としても役立つものなので，ぜひとも習得してほしい.

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	レポート･論文作成におけるツールの学習（1）	効果的な論文作成の為の参考資料リボンツールの利用、アウトラインの確認	配布資料の確認 内容の把握と整理 論文練習課題１
2	レポート･論文作成におけるツールの学習（2）	実践的な論文作成におけるツールの利用とその応用	配布資料の確認 内容の把握と整理 論文練習課題２
3	情報の表現（1）	紙メディアから電子メディアへの移行 プレゼンテーション技術１ スライド基本操作	配布資料の確認 内容の把握と整理 プレゼンテーション練習課題１
4	情報の表現（2）	プレゼンテーション技術２ 図の挿入と編集、クリップアートとスマートアート アニメーションの設定	配布資料の確認 内容の把握と整理 プレゼンテーション練習課題２
5	情報の表現（3）	プレゼンテーション技術３ 発表の基本確認	配布資料の確認 内容の把握と整理 プレゼンテーション練習課題３
6	情報の表現（4）	画像編集の基本知識 ペイント系画像編集アプリケーションソフト基本学習とプレゼンテーションソフト上における利用	配布資料の確認 内容の把握と整理 画像編集練習課題
7	課題１制作（1）	提示テーマに沿ったスライドの作成. 表示リボンの活用と発表原稿の作成.ノート機能、配布資料、印刷時の注意	課題作成を通して前半の知識の確認 内容の把握と整理、評価
8	課題１制作（2）	リハーサル機能の活用と発表用原稿とのリンク	課題作成を通して前半の知識の確認 内容の把握と整理、評価
9	情報の発信（1）	プログラミング基本操作 HTML の学習	配布資料の確認 内容の把握と整理 HTML 練習課題
10	情報の発信（2）	Web 上における能動的プレゼンテーションソフトの基本学習	配布資料の確認 内容の把握と整理 web 系プレゼンテーション基本課題
11	情報の発信（3）	Web 上における能動的プレゼンテーションソフトの学習と PowerPoint との互換性の確認	配布資料の確認 内容の把握と整理 web 系プレゼンテーション応用課題
12	課題２制作（1） グループ発表の準備	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成 グループ発表準備および資料の作成	配布資料の確認 内容の把握と整理 プレゼンテーション発表打ち合わせと準備
13	課題２制作（2） グループ発表の準備	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成 グループ発表準備および資料の作成	配布資料の確認 内容の把握と整理 プレゼンテーション発表打ち合わせと準備
14	プレゼンテーション発表（1）	グループ発表、および質疑応答と評価	プレゼンテーション発表 内容の把握と整理
15	プレゼンテーション発表（2）	グループ発表、および質疑応答と評価	プレゼンテーション発表 内容の把握と整理

関連科目	情報処理１を修得していることが望ましい

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	必要に応じて資料を配付するが，一部、情報処理Ⅰのテキストを使用する		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Windows8・Office2013 による情報処理入門	安積淳	実教出版
2			
3			

評価方法（基準）	80%以上の出席率を必要とする. 授業参加状況，毎回の課題（練習問題），実技を含む試験を総合して評価する.

学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です．情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお薦めします． 多くの先輩が「情報処理Ⅰ」「情報処理Ⅱ」の受講後，独学でMOS（Microsoft Office Specialist マイクロソフト オフィススペシャリスト）に合格しています．資格取得の足掛かりにも有用です． プレゼンテーションスキルは就職活動だけでなく，社会に出てからも役立つ技術です．
担当者の 研究室等	７号館２階(非常勤講師室)
備考	

科目名	情報処理Ⅱ	科目名（英文）	Information Processing II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	２
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤木　健史
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2△		

授業概要・目的	情報処理Ⅰに引き続き、パーソナルコンピュータを操作して、 情報処理の基礎を学習する。プレゼンテーションソフトの基本操作を通して、スライドの作成、プレゼンテーションの構成と実行を行う。プレゼンテーションソフトは、研究成果や調査結果の報告、商品企画の発表など、様々な用途で用いられており、コンピュータ社会において重要なツールである。本講義では、プレゼンテーションソフトを応用的に活用するスキルも学ぶ。
到達目標	Office「Powerpoint」の基本操作および応用的活用をマスターする。
授業方法と留意点	演習方式の講義です。毎回講義用資料を用意するため、指定の教科書はありません。習熟度合いに応じて、講義内容を多少変更する可能性があります。
科目学習の効果（資格）	ビジネスシーンを想定したスライド作成スキル以外に、簡易的な画像処理技術、ポスター制作スキルなどの応用技術も習得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法の説明	特になし
2	PowerPoint 基本操作	基本操作の復習する	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
3	PowerPoint 図の活用１	PowerPoint で図を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
4	PowerPoint 図の活用２	PowerPoint で図を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
5	PowerPoint　動画の活用	PowerPoint で動画を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
6	PowerPoint　画像処理１	PowerPoint で画像処理を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
7	PowerPoint　画像処理２	PowerPoint で画像処理を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
8	PowerPoint　画像処理３	PowerPoint で画像処理を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
9	PowerPoint　応用 1_図形の合成	PowerPoint の応用的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
10	PowerPoint　応用 2_名刺の作成	PowerPoint の応用的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
11	PowerPoint　実践１_スライドの作成	PowerPoint の実践的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
12	PowerPoint　実践２_スマートアートの活用	PowerPoint の実践的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
13	PowerPoint　実践３_アニメの有効活用	PowerPoint の実践的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
14	提出課題の発表	各自作成した課題を発表する	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
15	まとめ	まとめ、およびフォローアップを行う	特に困難な箇所の確認と復習

関連科目：「情報処理Ⅰ」を修得していることが望ましい

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教科書は不要です		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	参考書は不要です		
2			
3			

評価方法（基準）	授業ごとに行う練習・課題の点数を 100%で評価します。この授業は演習中心であるため、課題提出が単位取得の必要条件となります。
学生へのメッセージ	毎回の授業が前回までの授業内容の理解を前提として進められるので、可能な限り欠席や遅刻をしないようにしましょう。欠席するとそれ以降の授業の理解が困難となります。もし万一欠席したときには周りの友人などに授業内容・課題を聞いたりしておくとよいでしょう。
担当者の研究室等	11 号館 6 階(非常勤講師室)
備考	授業時間外での質問等がありましたら、配布資料表紙に載っているメールアドレスにお問い合わせください。

科目名	情報処理Ⅱ	科目名（英文）	Information Processing II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	星山　幸子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2△		

基礎科目

授業概要・目的	情報処理Ⅰに引き続き，パーソナルコンピュータを操作して 情報処理の基礎を学習する. 情報を発信する側に必要とされる技能として，効果的なプレゼンテーションの学習，画像処理の知識，プログラミングの基本を習得する. これらの作業によってコンピュータの機能についてさらに知識を深め，その特性と有用性についてより深く理解するものとする.
到達目標	効率的な論文ツールの活用，画像編集，就活時にアピールできるプレゼンテーション能力の獲得等，情報発信に必要とされる知識を習得する.
授業方法と留意点	テキストと配布資料を用いて演習形式で行う. 毎回課題が出題される．課題を提出しない場合は欠席とみなされるので注意すること. 授業時間内に課題を完成できない場合，次週までに提出することが求められる. 出席率が８割に満たない場合は単位を認めない.
科目学習の効果（資格）	コンピュータ利用に関する技能検定に挑戦するためにも役立つ講座である．資格取得の足掛かりとして活用してほしい. プレゼンテーションの技術を習得することは，就活時にアピールできるだけでなく社会人としても役立つものなので，ぜひとも習得してほしい.

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	レポート･論文作成におけるツールの学習（1）	効果的な論文作成の為の参考資料リボンツールの利用、アウトラインの確認	配布資料の確認 内容の把握と整理 論文練習課題１
2	レポート･論文作成におけるツールの学習（2）	実践的な論文作成におけるツールの利用とその応用	配布資料の確認 内容の把握と整理 論文練習課題２
3	情報の表現（1）	紙メディアから電子メディアへの移行 プレゼンテーション技術１ スライド基本操作	配布資料の確認 内容の把握と整理 プレゼンテーション練習課題１
4	情報の表現（2）	プレゼンテーション技術２ 図の挿入と編集、クリップアートとスマートアート アニメーションの設定	配布資料の確認 内容の把握と整理 プレゼンテーション練習課題２
5	情報の表現（3）	プレゼンテーション技術３ 発表の基本確認	配布資料の確認 内容の把握と整理 プレゼンテーション練習課題３
6	情報の表現（4）	画像編集の基本知識 ペイント系画像編集アプリケーションソフト基本学習とプレゼンテーションソフト上における利用	配布資料の確認 内容の把握と整理 画像編集練習課題
7	課題１制作（1）	提示テーマに沿ったスライドの作成. 表示リボンの活用と発表原稿の作成.ノート機能、配布資料、印刷時の注意	課題作成を通して前半の知識の確認 内容の把握と整理、評価
8	課題１制作（2）	リハーサル機能の活用と発表用原稿とのリンク	課題作成を通して前半の知識の確認 内容の把握と整理、評価
9	情報の発信（1）	プログラミング基本操作 HTML の学習	配布資料の確認 内容の把握と整理 HTML 練習課題
10	情報の発信（2）	Web 上における能動的プレゼンテーションソフトの基本学習	配布資料の確認 内容の把握と整理 web 系プレゼンテーション基本課題
11	情報の発信（3）	Web 上における能動的プレゼンテーションソフトの学習と PowerPoint との互換性の確認	配布資料の確認 内容の把握と整理 web 系プレゼンテーション応用課題
12	課題２制作（1） グループ発表の準備	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成 グループ発表準備および資料の作成	配布資料の確認 内容の把握と整理 プレゼンテーション発表打ち合わせと準備
13	課題２制作（2） グループ発表の準備	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成 グループ発表準備および資料の作成	配布資料の確認 内容の把握と整理 プレゼンテーション発表打ち合わせと準備
14	プレゼンテーション発表（1）	グループ発表、および質疑応答と評価	プレゼンテーション発表 内容の把握と整理
15	プレゼンテーション発表（2）	グループ発表、および質疑応答と評価	プレゼンテーション発表 内容の把握と整理

関連科目	情報処理１を修得していることが望ましい

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	必要に応じて資料を配付するが，一部、情報処理Ⅰのテキストを使用する		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Windows8・Office2013 による情報処理入門	安積淳	実教出版
2			
3			

評価方法（基準）	80%以上の出席率を必要とする. 授業参加状況，毎回の課題（練習問題），実技を含む試験を総合して評価する.

	〈授業参加状況および毎回の課題 40%，必須課題①30%，必須課題②（プレゼンテーション含む）30%とする〉
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です．情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお薦めします． 多くの先輩が「情報処理Ⅰ」「情報処理Ⅱ」の受講後，独学で MOS（Microsoft Office Specialist マイクロソフト オフィススペシャリスト）に合格しています．資格取得の足掛かりにも有用です． プレゼンテーションスキルは就職活動だけでなく，社会に出てからも役立つ技術です．
担当者の 研究室等	７号館２階(非常勤講師室)
備考	質問はいつでも歓迎します． 授業時間外での質問等はメールにて対応します．

科目名	情報処理Ⅱ	科目名（英文）	Information Processing II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤木　健史
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2△		

基礎科目

授業概要・目的	情報処理Ⅰに引き続き、パーソナルコンピュータを操作して、 情報処理の基礎を学習する。プレゼンテーションソフトの基本操作を通して、スライドの作成、プレゼンテーションの構成と実行を行う。プレゼンテーションソフトは、研究成果や調査結果の報告、商品企画の発表など、様々な用途で用いられており、コンピュータ社会において重要なツールである。本講義では、プレゼンテーションソフトを応用的に活用するスキルも学ぶ。
到達目標	Office「Powerpoint」の基本操作および応用的活用をマスターする。
授業方法と留意点	演習方式の講義です。毎回講義用資料を用意するため、指定の教科書はありません。習熟度合いに応じて、講義内容を多少変更する可能性があります。
科目学習の効果（資格）	ビジネスシーンを想定したスライド作成スキル以外に、簡易的な画像処理技術、ポスター制作スキルなどの応用技術も習得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法の説明	特になし
2	PowerPoint 基本操作	基本操作の復習する	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
3	PowerPoint 図の活用１	PowerPoint で図を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
4	PowerPoint 図の活用２	PowerPoint で図を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
5	PowerPoint　動画の活用	PowerPoint で動画を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
6	PowerPoint　画像処理１	PowerPoint で画像処理を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
7	PowerPoint　画像処理２	PowerPoint で画像処理を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
8	PowerPoint　画像処理３	PowerPoint で画像処理を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
9	PowerPoint　応用 1_図形の合成	PowerPoint の応用的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
10	PowerPoint　応用 2_名刺の作成	PowerPoint の応用的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
11	PowerPoint　実践１_スライドの作成	PowerPoint の実践的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
12	PowerPoint　実践２_スマートアートの活用	PowerPoint の実践的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
13	PowerPoint　実践３_アニメの有効活用	PowerPoint の実践的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
14	提出課題の発表	各自作成した課題を発表する	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
15	まとめ	まとめ、およびフォローアップを行う	特に困難な箇所の確認と復習

関連科目	「情報処理Ⅰ」を修得していることが望ましい

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教科書は不要です		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	参考書は不要です		
2			
3			

評価方法（基準）	授業ごとに行う練習・課題の点数を 100%で評価します。この授業は演習中心であるため、課題提出が単位取得の必要条件となります。
学生へのメッセージ	毎回の授業が前回までの授業内容の理解を前提として進められるので、可能な限り欠席や遅刻をしないようにしましょう。欠席するとそれ以降の授業の理解が困難となります。もし万一欠席したときには周りの友人などに授業内容・課題を聞いたりしておくとよいでしょう。
担当者の研究室等	11 号館 6 階(非常勤講師室)
備考	授業時間外での質問等がありましたら、配布資料表紙に載っているメールアドレスにお問い合わせください。

科目名	スペイン語Ⅰ	科目名（英文）	Spanish Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	西村　初美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7△,DP8△		

授業概要・目的	この授業ではスペイン語の文法の基礎を学び、基本的な単語を覚え、聴く・話すことに重点をおいて授業を進めます。
到達目標	スペイン語で日常の簡単な会話ができるようになる。
授業方法と留意点	前期ではアルファベットと発音から始め，第７課まで学習する予定です。 受講にあたっては教科書、配布されたプリント等を持参すること。 ただし、以下の授業計画は目安であり、受講生の理解度により進度を調整することがあります。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定６級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	スペイン語とスペイン語圏についての概要の説明。 アルファベットと発音の解説。	授業後、スペイン語の発音の法則を確認し、声に出して練習する。
2	前回の復習 第１課	名詞、冠詞の解説。 動詞 hay の使い方。 「スペイン行きの飛行機の中」の会話。	授業後、名詞の性・数の法則を確認して覚える。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
3	前回の復習 第２課	人称代名詞の解説。 動詞 ser の使い方。 国や国籍、職業に関する語彙。 「はじめまして」の会話。	授業後、動詞 ser の使い方を確認する。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
4	前回の復習 第３課（前半）	動詞 estar の使い方。 スペインやスペイン語圏の学生についての話題。 「スペイン語を話しますか」の会話。	授業後、動詞 estar の使い方を確認する。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
5	前回の復習 第３課（後半）	直説法現在規則活用と使用頻度の高い語彙の解説。 スペインやスペイン語圏の学生についての話題。 「スペイン語を話しますか」の会話。	授業後、規則活用形を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
6	前回の復習 第４課（前半）	形容詞の解説。 直接目的語の解説。 食材や料理に関する語彙を説明。 「パエリャを作ろう」の会話。	授業後、形容詞の確認と語彙を覚えること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
7	前回の復習 第４課（後半）	動詞 ir と venir の解説。 スペイン料理の紹介。 「パエリャを作ろう」の会話。	授業後、各動詞の活用を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
8	学習内容の確認	文法および語彙・基本表現の確認テスト	授業前に第７回までに学習した文法および語彙、会話文での表現を総確認しておくこと。
9	第５課（前半）	動詞 saber と conocer の解説。 感嘆文の作り方。 交通手段に関する語彙の説明。 「アベはスペインの新幹線だ」の会話。	授業後、各動詞の活用と使い方を確認すること。語彙を覚えること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
10	前回の復習 第５課（後半）	動詞 hacer 型の解説。 指示形容詞、指示代名詞の解説。 「アベはスペインの新幹線だ」の会話。	授業後、hacer 型動詞の活用を確認をする。語彙を覚えること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
11	前回の復習 第６課(前半)	動詞 tener 型の解説。 スペインの代表的な祭りについての紹介。 「セビージャの春祭り」の会話。	授業後、tener 型動詞の活用を確認する。 基数を覚えること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
12	前回の復習 第６課（後半）	基数の説明。 副詞の使い方と作り方。 「セビージャの春祭り」の会話。	授業後、基数の確認し暗記すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
13	前回の復習 第７課（前半）	動詞 dar 型の解説。 目的格人称代名詞の解説。 「授業では課題が多い」の会話。	授業後、dar 型動詞の活用を確認し使えるようにすること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
14	前回の復習 第７課（後半）	動詞 gustar の解説。 不定語と否定語の使い方。 「授業では課題が多い」の会話。	授業後、gustar 動詞の用法を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
15	学習内容の確認	前期に学習した文法および語彙・基本表現の確認テスト。	授業前に前期に学習した文法や語彙・表現を総確認しておくこと。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スペイン語パスポート	西川　喬	弘学社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	西和中辞典	高垣ほか	小学館
2			
3			

評価方法 （基準）	一定程度進んだ段階で理解度確認テスト(30%)をする。 最終週に既習範囲を対象とする到達度確認テスト(60%)をする。 平常点(10%)と合わせて総合的に評価する。
学生への メッセージ	初めて学ぶ外国語は覚えることが多いですが、スペイン語は母音が日本語と同じなので発音は難しくありません。文法をマスターし語彙を増やすことで会話力を高めることができます。
担当者の 研究室等	7号館2階　非常勤講師控室
備考	事前・事後学修に各1時間を要する。

科目名	スペイン語Ⅰ	科目名（英文）	Spanish Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	安達　直樹
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7△,DP8△		

授業概要・目的	この授業ではスペイン語の文法の基礎を学び、基本的な単語を覚え、聴く・話すことに重点をおいて授業を進めます。
到達目標	スペイン語で日常の簡単な会話ができるようになる。
授業方法と留意点	前期ではアルファベットと発音から始め，第７課まで学習する予定です。 受講にあたっては教科書、配布されたプリント等を持参すること。 ただし、以下の授業計画は目安であり、受講生の理解度により進度を調整することがあります。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定６級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	スペイン語とスペイン語圏についての概要の説明。 アルファベットと発音の解説。	授業後、スペイン語の発音の法則を確認し、声に出して練習する。
2	前回の復習 第１課	名詞、冠詞の解説。 動詞 hay の使い方。 「スペイン行きの飛行機の中」の会話。	授業後、名詞の性・数の法則を確認して覚える。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
3	前回の復習 第２課	人称代名詞の解説。 動詞 ser の使い方。 国や国籍、職業に関する語彙。 「はじめまして」の会話。	授業後、動詞 ser の使い方を確認する。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
4	前回の復習 第３課（前半）	動詞 estar の使い方。 スペインやスペイン語圏の学生についての話題。 「スペイン語を話しますか」の会話。	授業後、動詞 estar の使い方を確認する。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
5	前回の復習 第３課（後半）	直説法現在規則活用と使用頻度の高い語彙の解説。 スペインやスペイン語圏の学生についての話題。 「スペイン語を話しますか」の会話。	授業後、規則活用形を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
6	前回の復習 第４課（前半）	形容詞の解説。 直接目的語の解説。 食材や料理に関する語彙を説明。 「パエリャを作ろう」の会話。	授業後、形容詞の確認と語彙を覚えること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
7	前回の復習 第４課（後半）	動詞 ir と venir の解説。 スペイン料理の紹介。 「パエリャを作ろう」の会話。	授業後、各動詞の活用を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
8	学習内容の確認	文法および語彙・基本表現の確認テスト	授業前に第７回までに学習した文法および語彙、会話文での表現を総確認しておくこと。
9	第５課（前半）	動詞 saber と conocer の解説。 感嘆文の作り方。 交通手段に関する語彙の説明。 「アベはスペインの新幹線だ」の会話。	授業後、各動詞の活用と使い方を確認すること。語彙を覚えること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
10	前回の復習 第５課（後半）	動詞 hacer 型の解説。 指示形容詞、指示代名詞の解説。 「アベはスペインの新幹線だ」の会話。	授業後、hacer 型動詞の活用を確認をする。語彙を覚えること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
11	前回の復習 第６課(前半)	動詞 tener 型の解説。 スペインの代表的な祭りについての紹介。 「セビージャの春祭り」の会話。	授業後、tener 型動詞の活用を確認する。 基数を覚えること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
12	前回の復習 第６課（後半）	基数の説明。 副詞の使い方と作り方。 「セビージャの春祭り」の会話。	授業後、基数の確認し暗記すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
13	前回の復習 第７課（前半）	動詞 dar 型の解説。 目的格人称代名詞の解説。 「授業では課題が多い」の会話。	授業後、dar 型動詞の活用を確認し使えるようにすること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
14	前回の復習 第７課（後半）	動詞 gustar の解説。 不定語と否定語の使い方。 「授業では課題が多い」の会話。	授業後、gustar 動詞の用法を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
15	学習内容の確認	前期に学習した文法および語彙・基本表現の確認テスト。	授業前に前期に学習した文法や語彙・表現を総確認しておくこと。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スペイン語パスポート	西川　喬	弘学社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	西和中辞典	高垣ほか	小学館
2			
3			

評価方法 （基準）	一定程度進んだ段階で理解度確認テスト(30%)をする。 最終週に既習範囲を対象とする到達度確認テスト(60%)をする。 平常点(10%)と合わせて総合的に評価する。
学生への メッセージ	初めて学ぶ外国語は覚えることが多いですが、スペイン語は母音が日本語と同じなので発音は難しくありません。文法をマスターし語彙を増やすことで会話力を高めることができます。
担当者の 研究室等	7号館5階　安達講師室
備考	事前・事後学修に各1時間を要する。

科目名	スペイン語Ⅱ	科目名（英文）	Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西村　初美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7△,DP8△		

授業概要・目的	この授業ではスペイン語の文法の基礎を学び、基本的な単語を覚え、聴く・話すことに重点をおいて授業を進めます。
到達目標	スペイン語で日常の簡単な会話ができるようになる。 スペイン語圏の文化に親しむ。
授業方法と留意点	後期では第８課から第１５課まで学習する予定です。 受講にあたっては教科書、配布されたプリント等を持参すること。 ただし、以下の授業計画は目安であり、受講生の理解度により進度を調整することがあります。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定６級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	前期の学習内容の確認 第８課（前半）	前期で学習したことの確認。 語幹母音変化動詞の活用。 基数。 「夏休み地中海ツアー」の会話。	授業前に前期で学習したことを総復習しておくこと。 授業後は動詞の活用の確認。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
2	前回の復習 第８課（後半） 第９課（前半）	時間の表現。 従属節についての解説。 「夏休み地中海ツアー」の会話。 月名、曜日と日付の表現。	授業後、時間の表現についての確認をすること。月名・曜日・日付に関する語彙を覚えること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
3	前回の復習 第９課（後半）	過去分詞の形と用法の解説。 直説法現在完了についての解説。 「風景のある村」の会話。	授業後、過去分詞と直説法現在完了の用法を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
4	前回の復習 第１０課（前半）	再帰動詞の用法の解説。 「タブラオでフラメンンコを見る」の会話。	授業後、再帰動詞の用法を確認する。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
5	前回の復習 第 10 課（後半）	非人称表現の解説。 estar 受動態の解説。 「タブラオでフラメンンコを見る」の会話。	授業後、非人称表現と estar 受動態の確認をすること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
6	前回の復習 第１１課	点過去規則活用と用法の解説。 現在分詞の用法の解説。 「スーパーでたくさん買ったけど」の会話。	授業後、点過去規則形の確認をすること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
7	前回の復習 第１２課	点過去不規則活用の解説。 天候の表現。 「スーパーでたくさん買ったけど」の会話。	授業後、動詞の活用を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
8	学習内容の確認	文法および語彙・基本表現の確認テスト	授業前に第７回までに学習した文法および語彙、会話文での表現を総確認しておくこと。
9	第１３課（前半）	線過去の活用と用法の解説。 点過去との相違点の説明。 「闘牛はスペインの伝統だ」の会話。	授業後、動詞の活用と用法を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
10	前回の復習 第１３課（後半）	形容詞・副詞の比較級についての解説。 「闘牛はスペインの伝統だ」の会話。	授業後、比較級の確認をすること。語彙を覚えること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
11	前回の復習 第１４課(前半)	直説法過去完了の用法についての解説。 スペインのバル事情。 「バルで一杯やろう」の会話。	授業後、過去完了の用法を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
12	前回の復習 第１４課（後半）	形容詞・副詞の最上級についての解説。 不定語と否定語。 「バルで一杯やろう」の会話。	授業後、形容詞・副詞の最上級を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
13	前回の復習 第１５課（前半）	直説法未来の活用と用法についての解説。 知覚動詞についての解説。 「バルセローナに行くつもり」の会話。	授業後、未来形の活用と知覚動詞の用法をを確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
14	前回の復習 第１５課（後半）	関係代名詞の解説。 「バルセローナに行くつもり」の会話。	授業後、関係代名詞の使い方を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
15	学習内容の確認	後期に学習した文法および語彙・基本表現の確認テスト。	授業前に後期に学習した文法や語彙・表現を総確認しておくこと。

関連科目：エリア・スタディーズ（ラテンアメリカ）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スペイン語パスポート』	西川　喬	弘学社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	西和中辞典	高垣ほか	小学館
2			
3			

評価方法 （基準）	一定程度進んだ段階で理解度確認テスト（３０％）をする。 最終週に既習範囲を対象とする到達度確認テスト（６０％）をする。 平常点（１０％）と合わせて総合的に評価する。
学生への メッセージ	今学期では、前期で学習したことをさらに進めて多くの表現ができるようになります。間違いを怖れず積極的に会話をしましょう。
担当者の 研究室等	7号館２階　非常勤講師控室
備考	事前・事後学修に各１時間を要する。

科目名	スペイン語Ⅲ	科目名（英文）	Spanish III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	酒井　真梨奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7△,DP8△		

授業概要・目的

スペイン語は母音が日本語と同じで、日本人にとって発音は簡単です。あとは単語と文法をマスターするだけ。
この授業では文法の基礎を学び、基本的な単語を覚え、聴解力と会話力の増強を目指します。
なお、受講にあたっては、スペイン語Ⅰ、Ⅱの履修経験者がのぞましい。

到達目標

スペイン語の基本的な文法を学ぶことで、日常の簡単なやりとりができるようになる。

授業方法と留意点

受講に当たっては、教科書に加えて授業中に配布されたプリント等も持参すること。
前期では前年度のスペイン語Ⅱで使用したテキスト(『ディアロゴス 対話で学ぶスペイン語』)の第８課から始め、終わり次第新しいテキスト(『スペインの宝』)に入る予定です。なお、この新しいテキストはスペイン語Ⅳでも引き続き使います。
以下に記す授業計画は目安であり、受講生の理解度によって進度を調整することがあります。

科目学習の効果（資格）

スペイン語検定６級または５級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	これまでの学習内容の確認	スペイン語Ⅰ、Ⅱで習った文法事項や表現を復習する	授業後、復習した動詞の意味と活用の種類（規則・不規則・語幹母音変化等）を確認しておくこと。
2	テキスト『ディアロゴス 対話で学ぶスペイン語』 第８課（前半）	動詞 estar と hay（復習）、位置関係を示す前置詞 部屋の中にあるものを描写する	授業後、学習した前置詞の種類と用法を確認して、位置関係を示す語彙を覚えておくこと。
3	第８課（後半）	数詞（100 以上）、目的、手段、原因等を示す前置詞 住まいについて尋ねる・答える	授業後、数詞（100 以上）とよく使う前置詞の種類および用法を覚えておくこと。
4	第８課小テスト 第９課（前半）	第８課での学習事項の確認テスト 疑問詞、動詞 ser（復習） 時刻や日付を尋ねる、答える	授業後、月や曜日等、日付に関わる語彙と表現を覚えておくこと。
5	第９課（後半）	再帰動詞の基本的用法 日課について尋ねる、答える	授業後、再帰動詞の活用と用法を確認し、日課に関わるその他の動詞とともに覚えておくこと。
6	第９課小テスト 第１０課（前半）	第９課での学習事項の確認テスト 再帰動詞の派生的用法、無人称の se、序数 大学生活について話す	授業後、再帰動詞の様々な用法について確認し、序数を覚えておくこと。
7	第１０課（後半）	肯定命令文 公共施設でのマナーについて話す	授業後、肯定命令文のつくり方を確認し、10 課で習った動詞を覚えておくこと。
8	第１０課小テスト 第１１課（前半）	第１０課での学習事項の確認テスト 過去分詞、現在完了 娯楽について話す	授業後、現在完了形の活用と用法を確認し、趣味や娯楽に関わる語彙を覚えておくこと。
9	第１１課（後半）	動詞 gustar や再帰動詞の現在完了 旅行について話す	授業後、様々な動詞の現在完了の形を確認し、旅行に関連する語彙を覚えておくこと。
10	第１１課小テスト 第１２課（前半）	第１１課での学習事項の確認テスト 動詞 ir の様々な用法、不定詞の用法 休暇中の予定について話す	授業後、不定詞の使い方に関するルールを確認し、自分の休暇の予定についてスペイン語で書いてみること。
11	第１２課（後半）	前置詞句、よく使う動詞の復習 手紙やメールを書く	授業後、よく使う動詞の意味と活用および前置詞句を覚えておくこと。
12	第１２課小テスト 新テキスト『スペインの宝』 第１課～第４課	第１２課での学習事項の確認テスト 会話文の内容を確認し、単語を入れ替えるなどして、オリジナルの会話文をつくって発表する	授業前、『スペインの宝』の第１課～第４課までの会話文に目を通し、音読練習をする。
13	第５課～第８課	会話文の内容を確認し、単語を入れ替えるなどして、オリジナルの会話文をつくって発表する	授業前、第５課～第８課までの会話文に目を通し、音読練習をする。
14	第９課～１２課	会話文の内容を確認し、単語を入れ替えるなどして、オリジナルの会話文をつくって発表する	授業前、第９課～第１２課までの会話文に目を通し、音読練習をする。
15	学習内容の確認	前期に学習した文法および語彙・表現の確認テスト	授業前に、これまでに学習した文法や語彙・表現を総確認しておくこと。

関連科目

スペイン語Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ディアロゴス 対話で学ぶスペイン語	坂東省次 他	三修社
2	スペインの宝	福嶌教隆	同学社
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法

小テスト(35%)＋発表(15%)＋理解度確認テスト(50%)

（基準）	
学生への メッセージ	レアル vs バルサを現地で応援したい人、フラメンコを習いたい人、チリやスペインのワインに興味のある人、マヤの遺跡やマチュピチュ、ナスカを見てみたい人、将来リーガ・エスパニョーラでプレーしたい人、ぜひスペイン語をやりましょう。 2016 年度スペイン語Ⅰ・Ⅱの履修者は教科書『ディアロゴス』を改めて購入する必要はありません。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	事前・事後に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。

科目名	スペイン語Ⅳ	科目名（英文）	Spanish Ⅳ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西村　初美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7△,DP8△		

授業概要・目的	テキスト『El tesoro de Espa?a 』 は、主人公である日本の若者がスペインを旅するストーリー性のある内容となっている。空港やホテル、各地での観光やお祭・食べ物等のエピソードを通して実際に現地で使えるスペイン語を学習する。
到達目標	スペイン語で基本的な会話ができるようになる。 スペイン語圏の文化に親しむ。
授業方法と留意点	後期では第１３課から第２４課まで学習する予定です。 受講にあたっては教科書、配布されたプリント等を持参すること。 ただし、以下の授業計画は目安であり、受講生の理解度により進度を調整することがある。
科目学習の効果（資格）	.

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	前期の確認と復習	第１課から第１２課までの内容を確認し復習する。	予習として、第１課から第１２課までの復習をしておくこと。
2	第１３課 第１４課	再帰動詞を使って。 「バスで」の会話。 「ホテルと探して」の会話。	予習として既習した再帰動詞の活用を確認しておくこと。 授業後、語彙を覚えること。会話文を声に出して繰り返し練習すること。
3	前回の確認 第１５課 第１６課	天候の表現。 動詞原形のはたらき。 過去分詞。現在完了形。 「牛追い」の会話。 「朝食をとりながら」の会話。	予習して既習した動詞原形・現在完了形を確認しておくこと。 授業後、語彙を覚えること。会話文を声に出して繰り返し練習すること。
4	前回の確認 第１７課	現在分詞についての解説。 比較級・最上級の解説。 「一郎の夢」の会話。	予習として、既習した現在分詞を比較級・最上級について確認しておくこと。 授業後、語彙を覚えること。会話文を声に出して繰り返し練習すること。
5	前回の確認 第１８課	点過去形規則動詞の活用と用法の解説。 「謎の老婦人は何者?」の会話。	予習として、点過去規則形の活用を確認すること。 授業後、語彙を覚えること。会話文を声に出して繰り返し練習すること。
6	前回の確認 第１９課	点過去形不規則動詞の活用。 「ゴンザレス氏も加わる」の会話。	予習として、既習した点過去不規則形の活用を確認すること。 授業後、語彙を覚えること。会話文を声に出して繰り返し練習すること。
7	前回の確認 第２０課	線過去形の活用と用法の解説。 「ラ・コンチャ海岸で」の会話。	予習として、既習した線過去形の活用を確認しておくこと。 授業後、語彙を覚えること。会話文を声に出して繰り返し練習すること。
8	学習内容の確認	第２１課までの理解度確認テスト。	第２０課までの文法・語彙を総確認しておくこと。
9	前回の確認 第２１課	未来形の活用と用法の解説。 「サンティアゴ・デ・コンポステラ」の会話。	予習として、既習した未来形の活用を確認しておくこと。 授業後、語彙を覚えること。会話文を声に出して繰り返し練習すること。
10	前の確認 第２２課（前半）	接続法現在形の規則動詞の活用と用法の解説。 接続法の単文。 「レンタカーで」の会話。	授業後、接続法現在形の活用を確認し、語彙を覚えること。会話文を声に出して繰り返し練習すること。
11	前回の確認 第２２課（後半） 第２３課（前半）	接続法現在形の不規則動詞と名詞節の解説。 「ガラスの街を通って」の会話。	授業後、接続法現在形の不規則の活用をを確認し、語彙を覚えること。会話文を声に出して繰り返し練習すること。
12	前回の確認 第２３課（後半） 第２４課（前半）	能動文と受動文についての解説。 接続法の副詞節・関係節の解説。 「ヘラクレスの塔の下で」の会話。	授業後、能動文と受動文を確認しておくこと。語彙を覚え、会話文を声に出して繰り返い練習すること
13	前回の確認 第２４課（後半）	接続法のまとめ。 動詞の時制のまとめ。	授業後、語彙を覚えること。会話文を声に出して繰り返し練習すること。
14	前回の確認 第１３課から第２４課までの確認と復習		
15	学習内容の確認	後期の理解度確認テスト	後期に学習した内容を総確認しておくこと。

関連科目：エリア・スタディーズ（ラテンアメリカ）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	El tesoro de Espana（スペインの宝）	福嶋　教隆	同学社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	西和中辞典	高垣ほか	小学館
2			
3			

評価方法 （基準）	一定程度進んだ段階で理解度確認テスト（３０％）をする。 最終週に既修範囲を対象とする到達度確認テスト（６０％）をする。 平常点（１０％）と合わせて総合的に評価する。
学生への メッセージ	新しい語彙や表現が増えてきますが、授業はゆっくり進めます。スペインの語だけではなく、スペインの風景や文化に触れながらコツコツ学習しましょう。
担当者の 研究室等	７号館２階　非常勤講師控室
備考	. 事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。

科目名	スポーツ科学実習Ⅰ	科目名（英文）	Sports Science Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横山　喬之.川野　裕姫子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2△,DP5△		

授業概要・目的

生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、運動技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。

到達目標

①健康・体力の維持増進
②技能を向上させることができる
③スポーツのルールやマナーを理解することができる
④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる

授業方法と留意点

実技形式で行う（雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある）。
開講種目は、以下のとおりである。
・体育館種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど）
・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、タグラグビー、ニュースポーツなど）

※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第１回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。
原則として、スポーツ科学実習ⅠとⅡで同じ種目を履修することはできない。

科目学習の効果（資格）

基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	ルールの理解
2	体力測定①	屋外種目	測定記録評価
3	体力測定②	体育館種目	測定記録評価
4	各コース別実技	種目の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ
5	各コース別実技	ルールの解説、基礎技術練習	授業内容のまとめ
6	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ
7	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ
8	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ
9	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ
10	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
11	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
12	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
13	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
14	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
15	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ

関連科目

生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

活動点５０％、態度点２５％、技能点２５％として、総合評価する。
なお活動点とは授業への参加意欲、態度点とは積極性・集中度を示す。

学生へのメッセージ

本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。
授業への質問などは、授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館１F体育館事務室へ来ること。

担当者の研究室等

総合体育館１F　体育館事務室

備考

トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）

科目名	スポーツ科学実習Ⅰ	科目名（英文）	Sports Science Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	２
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横山　喬之.川野　裕姫子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2△,DP5△		

基礎科目

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、運動技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。
到達目標	①健康・体力の維持増進 ②技能を向上させることができる ③スポーツのルールやマナーを理解することができる ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる
授業方法と留意点	実技形式で行う（雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある）。 開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第１回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。 原則として、スポーツ科学実習ⅠとⅡで同じ種目を履修することはできない。
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	ルールの理解
2	体力測定①	屋外種目	測定記録評価
3	体力測定②	体育館種目	測定記録評価
4	各コース別実技	種目の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ
5	各コース別実技	ルールの解説、基礎技術練習	授業内容のまとめ
6	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ
7	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ
8	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ
9	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ
10	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
11	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
12	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
13	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
14	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
15	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ

関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	活動点５０％、態度点２５％、技能点２５％として、総合評価する。 なお活動点とは授業への参加意欲、態度点とは積極性・集中度を示す。
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは、授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館１F体育館事務室へ来ること。
担当者の研究室等	総合体育館１F　体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名（英文）	Sports Science II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	横山　喬之.川野　裕姫子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2△,DP5△		

授業概要・目的

生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、運動技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。

到達目標

①健康・体力の維持増進
②技能を向上させることができる
③スポーツのルールやマナーを理解することができる
④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる

授業方法と留意点

実技形式で行う。(雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある。)
開講種目は、以下のとおりである。
・体育館種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど）
・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、タグラグビー、ニュースポーツなど）

※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第１回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。
原則として、スポーツ科学実習ⅠとⅡで同じ種目を履修することはできない。

科目学習の効果（資格）

基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	ルールの理解
2	各コース別実技	種目の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ
3	各コース別実技	ルールの解説、基礎技術練習	授業内容のまとめ
4	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ
5	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ
6	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ
7	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ
8	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
9	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
10	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
11	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
12	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
13	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
14	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
15	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ

関連科目

生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

活動点５０％、態度点２５％、技能点２５％として、総合評価する。
なお活動点とは授業への参加意欲、態度点とは積極性・集中度を示す。

学生へのメッセージ

本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。
授業への質問などは、授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館１F体育館事務室へ来ること。

担当者の研究室等

総合体育館　１F　体育館事務室

備考

トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名（英文）	Sports Science II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	２
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	横山　喬之.川野　裕姫子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2△,DP5△		

基礎科目

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、運動技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。
到達目標	①健康・体力の維持増進 ②技能を向上させることができる ③スポーツのルールやマナーを理解することができる ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる
授業方法と留意点	実技形式で行う。(雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある。) 開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第１回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。 原則として、スポーツ科学実習ⅠとⅡで同じ種目を履修することはできない。
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	ルールの理解
2	各コース別実技	種目の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ
3	各コース別実技	ルールの解説、基礎技術練習	授業内容のまとめ
4	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ
5	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ
6	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ
7	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ
8	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
9	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
10	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
11	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
12	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
13	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
14	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
15	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ

関連科目：生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	活動点５０％、態度点２５％、技能点２５％として、総合評価する。 なお活動点とは授業への参加意欲、態度点とは積極性・集中度を示す。
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは、授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館１F体育館事務室へ来ること。
担当者の研究室等	総合体育館　１F　体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）

科目名	専門日本語ＦⅠ	科目名（英文）	Japanese for Specific Purposes FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡　樹里
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｆ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、E メールの書き方、自己 PR の書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果（資格）	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	復習
2	E メールの書き方１	E メールの基本	復習
3	E メールの書き方２	レポート提出のメール	復習
4	E メールの書き方３	依頼メール１	復習
5	E メールの書き方４	依頼メール２	復習
6	E メールの書き方５	問い合わせ／質問メール	復習
7	話し方１	話題の変え方	復習
8	話し方２	話の終わらせ方	復習
9	話し方３	話の広げ方	復習
10	自己 PR１	自己 PR とは何か	復習
11	自己 PR２	自己 PR 例の検討、修正１	復習
12	自己 PR３	自己 PR 例の検討、修正２	復習
13	自己 PR４	自分の自己 PR を書く１	復習
14	自己 PR５	自分の自己 PR を書く２	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目：専門日本語ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（50%）、提出物（50%）
学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。

科目名	専門日本語ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese for Specific Purposes FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡　樹里
ディプロマポリシー(DP)	Ｖ科：Ⅲ○,Ⅳ○,Ｒ科：A◎,Ａ科：C◎,Ｍ科：B2◎,Ｅ科：Ｆ○,Ｃ科：Ⅲ○,Ⅵ○,Ｌ科：DP1◎,DP7△,DP8△,Ｄ科：DP1◎,Ｓ科：DP1◎,Ｐ科：DP2△,DP4△,Ｊ科：DP1◎,Ｗ科：DP1◎,DP7◎,Ｎ科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。 ビジネスマナーや、ビジネス場面で使用する日本語も学ぶ。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。 ・ビジネスマナーに則った行動ができる。 ・ビジネス場面での電話応対ができる。
授業方法と留意点	授業では、ビジネスマナー、電話のかけ方／受け方、履歴書の書き方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果（資格）	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ビジネスマナー１	授業の説明 ビジネス場面での行動、言葉遣い１	復習
2	ビジネスマナー２	ビジネス場面での行動、言葉遣い２	復習
3	ビジネスマナー３	名刺交換、席次	復習
4	電話のかけ方／受け方１	電話の基本	復習
5	電話のかけ方／受け方２	取り次ぎ	復習
6	電話のかけ方／受け方３	コールバック１	復習
7	電話のかけ方／受け方４	コールバック２	復習
8	履歴書１	履歴書の書き方	復習
9	履歴書２	履歴書の作成	復習
10	電話のかけ方／受け方５	伝言１	復習
11	電話のかけ方／受け方６	伝言２	復習
12	電話のかけ方／受け方７	メモ・復唱	復習
13	ドラマ１	仕事に関するドラマを視聴し、内容をまとめる。また、内容について話し合う。	復習
14	ドラマ２	仕事に関するドラマを視聴し、内容をまとめる。また、内容について話し合う。	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目　専門日本語ＦⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	ビジネス場面で役立つ話し方／書き方を身につけ、将来に備えた練習をしましょう。
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。

科目名	専門日本語R	科目名（英文）	Japanese for Specific Purposes R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	
学期	前期	授業担当者	中岡　樹里
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｆ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、E メールの書き方、自己 PR の書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果（資格）	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	復習
2	E メールの書き方１	E メールの基本	復習
3	E メールの書き方２	レポート提出のメール	復習
4	E メールの書き方３	依頼メール１	復習
5	E メールの書き方４	依頼メール２	復習
6	E メールの書き方５	問い合わせ／質問メール	復習
7	話し方１	話題の変え方	復習
8	話し方２	話の終わらせ方	復習
9	話し方３	話の広げ方	復習
10	自己 PR１	自己 PR とは何か	復習
11	自己 PR２	自己 PR 例の検討、修正１	復習
12	自己 PR３	自己 PR 例の検討、修正２	復習
13	自己 PR４	自分の自己 PR を書く１	復習
14	自己 PR５	自分の自己 PR を書く２	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目	専門日本語ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（50%）、提出物（50%）
学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。

科目名	中国語Ⅰ	科目名（英文）	Chinese Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	兪　鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7△,DP8△		

基礎科目

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	発音編 第１課　発音１	ピンインと四声，単母音，子音①，複母音①。	練習問題を解答する。
2	第２課　発音２	複母音②，鼻母音，子音②。	練習問題を解答する。
3	第３課　発音３	複母音③④，子音③。	練習問題を解答する。
4	第４課　発音４	子音④⑤。	練習問題を解答する。
5	本文編 第１課　お名前は？	☆単元テスト１ 形容詞述語文，疑問文，副詞「很」。	練習問題を解答する。
6	第１課　お名前は？	副詞「不」，疑問詞疑問文，名前の言い方。	練習問題を解答する。
7	第２課　僕は日本人だ	「是」構文，副詞「都」。	練習問題を解答する。
8	第２課　僕は日本人だ	助詞「的」，反復疑問文。	練習問題を解答する。
9	第３課　君は大阪人だよね？	☆単元テスト２ 動詞述語文，終助詞「?」，副詞「也」。	練習問題を解答する。
10	第３課　君は大阪人だよね？	命令文，同時進行の表現。	練習問題を解答する。
11	第４課　おいくら？	動詞の重ね型，お金の言い方。	練習問題を解答する。
12	第４課　おいくら？	こそあどの言い方，単位の言葉「張」「個」。	練習問題を解答する。
13	第５課　どの先生が好き？	前置詞「和」，名詞述語文。	練習問題を解答する。
14	第５課　どの先生が好き？	時間の言い方。	練習問題を解答する。
15	おさらい	☆単元テスト３	練習問題を解答する。

関連科目	中国語Ⅱb

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	摂南大学　中国語入門	摂南大学外国語学部編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日辞典		
2	日中辞典		
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してたくさん読みましょう。事前・事後学習に1.5時間ずつ要します。
担当者の研究室等	非常勤講師室（７号館２階）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語Ⅰ	科目名（英文）	Chinese Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	２
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	今中　崇文
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7△,DP8△		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	発音編 第１課　発音１	ピンインと四声，単母音，子音①，複母音①。	練習問題を解答する。
2	第２課　発音２	複母音②，鼻母音，子音②。	練習問題を解答する。
3	第３課　発音３	複母音③④，子音③。	練習問題を解答する。
4	第４課　発音４	子音④⑤。	練習問題を解答する。
5	本文編 第１課　お名前は？	☆単元テスト１ 形容詞述語文，疑問文，副詞「很」。	練習問題を解答する。
6	第１課　お名前は？	副詞「不」，疑問詞疑問文，名前の言い方。	練習問題を解答する。
7	第２課　僕は日本人だ	「是」構文，副詞「都」。	練習問題を解答する。
8	第２課　僕は日本人だ	助詞「的」，反復疑問文。	練習問題を解答する。
9	第３課　君は大阪人だよね？	☆単元テスト２ 動詞述語文，終助詞「?」，副詞「也」。	練習問題を解答する。
10	第３課　君は大阪人だよね？	命令文，同時進行の表現。	練習問題を解答する。
11	第４課　おいくら？	動詞の重ね型，お金の言い方。	練習問題を解答する。
12	第４課　おいくら？	こそあどの言い方，単位の言葉「張」「個」。	練習問題を解答する。
13	第５課　どの先生が好き？	前置詞「和」，名詞述語文。	練習問題を解答する。
14	第５課　どの先生が好き？	時間の言い方。	練習問題を解答する。
15	おさらい	☆単元テスト３	練習問題を解答する。

関連科目：中国語Ⅱb

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	摂南大学　中国語入門	摂南大学外国語学部編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日辞典		
2	日中辞典		
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してたくさん読みましょう。事前事後の学修に各１時間要する。
担当者の研究室等	非常勤講師室（7号館２階）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語Ⅱ	科目名（英文）	Chinese II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	兪　鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7△,DP8△		

基礎科目

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	口語練習を重視し、中国語の発音に慣れてもらう。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準4級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第６課　今は３時５分前だ	「有」と「在」，疑問詞の使い方。	練習問題を解答する。
2	第６課　今は３時５分前だ	意見を求める言い方。	練習問題を解答する。
3	第７課　この前の土曜日映画を見に行った	副詞「経常」，例示の言い方。	練習問題を解答する。
4	第７課　この前の土曜日映画を見に行った	文型「是・・・還是・・・」。	練習問題を解答する。
5	第８課　小説は好きなの？	☆単元テスト１ 前置詞「従」と「到」，副詞「太」と「不太」。	練習問題を解答する。
6	第８課　小説は好きなの？	前置詞「離」，前置詞「跟」、副詞「又」。	練習問題を解答する。
7	第９課　ファーストフード店は家から近い	副詞「就」，副詞「才」。	練習問題を解答する。
8	第９課　ファーストフード店は家から近い	結果補語「完」，文型「一・・・就・・・」。	練習問題を解答する。
9	第10課　北京ダックを食べたことある？	☆単元テスト２ 助詞「過」，助動詞「要」。	練習問題を解答する。
10	第10課　北京ダックを食べたことある？	副詞「再」，副詞「別」。	練習問題を解答する。
11	第11課　一緒に中国語を勉強した方がいいね	「把」構文，助動詞「会」，構造助詞「得」，副詞「只」。	練習問題を解答する。
12	第11課　一緒に中国語を勉強した方がいいね	助動詞「可以」，比較の「没有」，禁止表現「不要」。	練習問題を解答する。
13	第12課　もし彼と知り合いになりたいなら	助動詞「想」，仮定表現「要是」。	練習問題を解答する。
14	第12課　もし彼と知り合いになりたいなら	方向補語「来」。	練習問題を解答する。
15	おさらい	☆単元テスト３	練習問題を解答する。

関連科目	中国語Ⅱa

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	摂南大学　中国語入門	摂南大学外国語学部編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日辞典		
2	日中辞典		
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してよく読みましょう。事前・事後に各60分の学修を要する。
担当者の研究室等	非常勤講師室（７号館２階）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語Ⅱ	科目名（英文）	Chinese II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	２
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	今中　崇文
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7△,DP8△		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	口語練習を重視し、中国語の発音に慣れてもらう。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第６課　今は３時５分前だ	「有」と「在」，疑問詞の使い方。	練習問題を解答する。
2	第６課　今は３時５分前だ	意見を求める言い方。	練習問題を解答する。
3	第７課　この前の土曜日映画を見に行った	副詞「経常」，例示の言い方。	練習問題を解答する。
4	第７課　この前の土曜日映画を見に行った	文型「是・・・還是・・・」。	練習問題を解答する。
5	第８課　小説は好きなの？	☆単元テスト１ 前置詞「従」と「到」，副詞「太」と「不太」。	練習問題を解答する。
6	第８課　小説は好きなの？	前置詞「離」，前置詞「跟」、副詞「又」。	練習問題を解答する。
7	第９課　ファーストフード店は家から近い	副詞「就」，副詞「才」。	練習問題を解答する。
8	第９課　ファーストフード店は家から近い	結果補語「完」，文型「一・・・就・・・」。	練習問題を解答する。
9	第 10 課　北京ダックを食べたことある？	☆単元テスト２ 助詞「過」，助動詞「要」。	練習問題を解答する。
10	第 10 課　北京ダックを食べたことある？	副詞「再」，副詞「別」。	練習問題を解答する。
11	第 11 課　一緒に中国語を勉強した方がいいね	「把」構文，助動詞「会」，構造助詞「得」，副詞「只」。	練習問題を解答する。
12	第 11 課　一緒に中国語を勉強した方がいいね	助動詞「可以」，比較の「没有」，禁止表現「不要」。	練習問題を解答する。
13	第 12 課　もし彼と知り合いになりたいなら	助動詞「想」，仮定表現「要是」。	練習問題を解答する。
14	第 12 課　もし彼と知り合いになりたいなら	方向補語「来」。	練習問題を解答する。
15	おさらい	☆単元テスト３	練習問題を解答する。

関連科目	中国語Ⅱa

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	摂南大学　中国語入門	摂南大学外国語学部編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日辞典		
2	日中辞典		
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してよく読みましょう。
担当者の研究室等	非常勤講師室（7号館２階）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語Ⅲ	科目名（英文）	Chinese III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	欒　玉璽
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7△,DP8△		

基礎科目

授業概要・目的	前年度に学んだ中国語を基礎に，読む・聴く・話す・書くの四つの力をさらに総合的にバランスよく学習する。1年間で中国語の運用能力の中級レベル，中国語検定試験４級レベルに達することを目指す。
到達目標	中国での買い物や移動に困らないレベルの聞く力，話す力を目指す。
授業方法と留意点	音読や教材の会話文を使ったロールプレイなど音声面のタスクを重視します。毎回予習と復習を必ず行ってください。
科目学習の効果（資格）	前期終了時に中国語検定試験４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第一課 自我介紹（1） 本文・文法	1. 念書 2. 専業 3. 愛好 4. 対～感興趣	課文，会話本文をノートに書き写しておく。
2	第一課 自我介紹（2） 会話・練習問題	5. 為什麽 6. 因為～所以～ 7. 看来	授業までに練習問題を解答しておく。
3	第二課 我的家庭（1） 本文・文法	1. 在～長大的 2. 考大学/考上大学 3. 才 4. 除了～以外	課文，会話本文をノートに書き写しておく。
4	第二課我的家庭（2） 会話・練習問題	5. 当（老師） 6. 忙得要命 7. 很少＋動詞フレーズ 8. 発短信	授業までに練習問題を解答しておく。
5	第１回単元テスト	第一課・第二課復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙，文法項目を確認しておく。
6	第三課 我的一天（1） 本文・文法	1. 上（厠所） 2.「一節」と「第一節」 3.「分」と「分鐘」 4. 我家離学校比較遠。 5. 一个多小時	課文，会話本文をノートに書き写しておく。
7	第三課 我的一天（2） 会話・練習問題	6. 我在減肥。 7. 看看電視，聴聴音楽。 8. 我起得很早，睡得不太晩。 9. 雖然～，但是～	授業までに練習問題を解答しておく。
8	第四課 請假（1） 本文・文法	1. 如果～的話 2. 請假 3. 前置詞「向」 4. 請	課文，会話本文をノートに書き写しておく。
9	第四課 請假（2） 会話・練習問題	5. 別 6. 前置詞「対」 7. 替	授業までに練習問題を解答しておく。
10	第２回単元テスト	第三課・第四課復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙，文法項目を確認しておく。
11	第五課 約会（1） 本文・文法	1. 叫/你久等了 2. 星期六還是星期天？ 3. /你看几点合適？	課文，会話本文をノートに書き写しておく。
12	第五課 約会（2） 会話・練習問題	4. 那就星期天?。 5. 反正我没什麽事儿。	授業までに練習問題を解答しておく。
13	第六課 快要考試了（1） 本文・文法	1. 今年夏天比往年来得早 2. 熱起来	課文，会話本文をノートに書き写しておく。
14	第六課 快要考試了（2） 会話・練習問題	3. 一放假，就?身 4. 趁	授業までに練習問題を解答しておく。
15	第３回単元テスト	第五課・第六課復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙，文法項目を確認しておく。

関連科目	中国語Ⅰ，中国語Ⅱ，中国語Ⅳ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語中級	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので，欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。また休講があれば，その都度進度は順次繰り延べられるので注意すること。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
担当者の研究室等	７号館２階 非常勤講師室
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問

	い合わせることもできる。

科目名	中国語Ⅳ	科目名（英文）	Chinese Ⅳ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	欒　玉璽
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7△,DP8△		

基礎科目

授業概要・目的	前年度に学んだ中国語を基礎に，読む・聴く・話す・書くの四つの力をさらに総合的にバランスよく学習する。1年間で中国語の運用能力の中級レベル，中国語検定試験４級レベルに達することを目指す。
到達目標	中国語 IIIa で学んだ事項を定着させるとともに発展させ，比較的優しい新聞記事などを辞書を使って読めるレベルを目指す。
授業方法と留意点	予習と復習を必ず行ってください。事前・事後に各 60 分の学修を要する。音読や教材の会話文を使ったロールプレイなど音声面のタスクを重視します。毎回予習と復習を必ず行ってください。
科目学習の効果（資格）	後期終了時に中国語検定試験４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第七課 中国的大学生活 (1) 本文・文法	1 無論～，都～ 2 有利于～ 3 上万元 4 為了	課文，会話本文をノートに書き写しておく。
2	第七課 中国的大学生活 (2) 会話・練習問題	5 一邊～，一邊～ 6 当家教 7 由 8 面臨着	授業までに練習問題を解答しておく。
3	第八課 中国菜　(1) 本文・文法	1 根据～不同，～也不一様 2 以～為主 3 雖然～，但是～	課文，会話本文をノートに書き写しておく。
4	第八課 中国菜　(2) 会話・練習問題	4 愛＋動詞 5 一提到～，就～ 6 即	授業までに練習問題を解答しておく。
5	第１回単元テスト	第七課・第八課復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙，文法項目を確認しておく。
6	第九課 中国的人口　(1) 本文・文法	1 也就是説 2 使 3 毎＋数量詞	課文，会話本文をノートに書き写しておく。
7	第九課 中国的人口　(2) 会話・練習問題	4 動詞＋起来 5 可是～，却～ 6 尽管～，但是～	授業までに練習問題を解答しておく。
8	第十課 中国的家庭　(1) 本文・文法	1 誰～誰～ 2 帰 3 在～上	課文，会話本文をノートに書き写しておく。
9	第十課 中国的家庭　(2) 会話・練習問題	4 把 5 看来	授業までに練習問題を解答しておく。
10	第２回単元テスト	第九課・第十課復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙，文法項目を確認しておく。
11	第十一課 中国人的交際 (1) 本文・文法	1 可見 2 誰也不白吃 3 被	課文，会話本文をノートに書き写しておく。
12	第十一課 中国人的交際 (2) 会話・練習問題	4 即使～，也～ 5 等 6 該我了	授業までに練習問題を解答しておく。
13	第十二課 漢語的外来語 (1) 本文・文法	1 譯自 2 動詞＋到	課文，会話本文をノートに書き写しておく。
14	第十二課 ??的外来語　(2) 会話・練習問題	3 動詞＋成 4 対～来説	授業までに練習問題を解答しておく。
15	第３回単元テスト	第十一課・第十二課と習熟度確認	テスト範囲の語彙，文法項目を確認しておく。

関連科目	中国語Ⅰ，中国語Ⅱ，中国語 III

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語中級	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので，欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。また休講があれば，その都度進度は順次繰り延べられるので注意すること。
担当者の研究室等	７号館２階 非常勤講師室
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は，専任教員（瀬戸，中西，兪）を通じて問い合わせることも

科目名	日本語会話ＦＩ	科目名（英文）	Japanese Conversation FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤原　京佳
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｆ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	日本や世界的に有名な企業のビジネスケースについて知り、自国の状況やビジネスモデルについて議論する。また、授業の始めに発音練習も取りいれていく。
到達目標	さまざまなビジネスケースについて、論理的に意見を述べることができるようになることを目指す。 相手に伝わる発音で話すことができる。
授業方法と留意点	グローバルに展開している企業のビジネスケースについて議論を行い、議論に必要な語彙や表現を学ぶとともに、提示されているビジネスモデルの強みや弱みなど自身の考えを深めていく。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業概要説明 発音練習①	授業の進め方、自己紹介 発音「区切り」	復習
2	発音練習② ビジネストピック１－１	発音「山と丘」 ビジネスケースを読み理解する。	復習
3	発音③ ビジネストピック１－２	発音「複合名詞」 ビジネスケースの内容を口頭でまとめる。	復習
4	発音④ ビジネストピック１－３	発音「動詞のアクセント」 ビジネスケースに関して、自国と日本の状況について話す。	復習
5	発音⑤ ビジネストピック１－４	発音「動詞の一語文」 ビジネスモデルについて議論する。	復習
6	発音⑥ ビジネストピック２－１	発音「形容詞のアクセント」 ビジネスケースを読み理解する。	復習
7	発音⑦ ビジネストピック２－２	発音「外来語のアクセント」 ビジネスケースの内容を口頭でまとめる。	復習
8	発音⑧ ビジネストピック２－３	発音「協調」 ビジネスケースに関して、自国と日本の状況について話す。	復習
9	発音⑨ ビジネストピック２－４	発音「同音異義語」 ビジネスモデルについて議論する。	復習
10	発音⑩ ビジネストピック３－１	発音「特殊拍１」 ビジネスケースを読み理解する。	復習
11	発音⑪ ビジネスケース３－２	発音「特殊拍２」 ビジネスケースの内容を口頭でまとめる。	復習
12	発音⑫ ビジネスケース３－３	発音「特殊拍３」 ビジネスケースに関して、自国と日本の状況について話す。	復習
13	ビジネスケース３－４	ビジネスモデルについて議論する。	復習 スピーチ原稿作成
14	スピーチ準備	トピックに関するスピーチ原稿の推敲 スピーチのための発音練習	スピーチ練習
15	まとめ	スピーチ発表 授業の振り返り	復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、スピーチ発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。
担当者の研究室等	国際交流センター（３号館４階）
備考	

科目名	日本語会話ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Conversation FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤原　京佳
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｆ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	日本社会におけるさまざまな問題や話題について日本語で議論する能力を伸ばす。 パワーポイントを用いた口頭発表のやり方を学ぶ。
到達目標	社会的な話題について論理的に意見を述べることができるようになることを目指す。 パワーポイントを用いた視覚資料を使って効果的に発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまな問題・話題に関する資料などを読み、話し合う。 コースの後半は学生各自が興味のある話題を持ち寄って、話し合う。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	トピック①	議論	復習
2	トピック②	議論	復習
3	トピック③	議論	復習
4	トピック④	議論	復習
5	トピック⑤	議論	復習
6	トピック⑥	議論	復習
7	トピック⑦	議論	復習
8	トピック⑧	議論	復習
9	トピック⑨	議論	復習
10	トピック⑩	議論	復習
11	学生持ち寄りのトピック①	議論 口頭発表のための論点の焦点化	復習
12	学生持ち寄りのトピック②	議論 口頭発表のための論点の焦点化	復習
13	口頭発表のやり方１	パワーポイントを使った視覚資料の作成時の注意点	視覚資料作成
14	口頭発表のやり方２	視覚資料の推敲、発音練習	発表練習
15	まとめ	口頭発表 授業の振り返り	復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業で課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。
担当者の研究室等	国際交流センター（３号館４階）
備考	

科目名	日本語会話R	科目名（英文）	Japanese Conversation R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	
学期	後期	授業担当者	藤原　京佳
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｆ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	日本社会におけるさまざまな問題や話題について日本語で議論する能力を伸ばす。 パワーポイントを用いた口頭発表のやり方を学ぶ。
到達目標	社会的な話題について論理的に意見を述べることができるようになることを目指す。 パワーポイントを用いた視覚資料を使って効果的に発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまな問題・話題に関する資料などを読み、話し合う。 コースの後半は学生各自が興味のある話題を持ち寄って、話し合う。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	トピック①	議論	復習
2	トピック②	議論	復習
3	トピック③	議論	復習
4	トピック④	議論	復習
5	トピック⑤	議論	復習
6	トピック⑥	議論	復習
7	トピック⑦	議論	復習
8	トピック⑧	議論	復習
9	トピック⑨	議論	復習
10	トピック⑩	議論	復習
11	学生持ち寄りのトピック①	議論 口頭発表のための論点の焦点化	復習
12	学生持ち寄りのトピック②	議論 口頭発表のための論点の焦点化	復習
13	口頭発表のやり方１	パワーポイントを使った視覚資料の作成時の注意点	視覚資料作成
14	口頭発表のやり方２	視覚資料の推敲、発音練習	発表練習
15	まとめ	口頭発表 授業の振り返り	復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業で課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。
担当者の研究室等	国際交流センター（３号館４階）
備考	

科目名	日本語総合ＦＩ	科目名（英文）	Comprehensive Japanese FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川　由理子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｆ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

基礎科目

授業概要・目的	この授業では次の３点を目標にします。 ①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る ②まとまった内容の文章の大意を把握する ③できるだけ速く①と②をできるようにする なお、JLPT の N1 に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。
到達目標	日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。 JLPT を受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する（N１、N２に限る）。
授業方法と留意点	この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確にていねいに読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。 １．キーワード・キーセンテンスを探す ２．接続詞に注意する ３．テキストの流れに注意する ４．予測して読む ５．テキストをまとめる
科目学習の効果（資格）	・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。 ・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。 ・その成果を専門の文章の読解に応用する。 （・JPT　N1 を持っていないものは取得を目指す。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の概要説明 プレースメントテスト	復習
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する
5	キーセンテンスを探す（1）	練習問題をこなす	授業内容を復習する
6	キーセンテンスを探す（2）	練習問題をこなす	授業内容を復習する
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する
8	説明文を読む（1）	2～3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
9	説明文を読む（2）	2～3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
10	論説文を読む（1）	2～3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
11	論説文を読む（2）	2～3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
12	随筆を読む	2～3 の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する
13	小説を読む（1）	2～3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する
14	小説を読む（2）	2～3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する

関連科目：日本語表現作文

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新完全マスター　読解　日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク
2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask
3	日本語能力試験問題集　N1 読解　スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾	Ｊリサーチ出版

評価方法（基準）	定期試験を実施（試験の形式については授業中に説明する） 出席・授業態度　＋　期末テスト　＝　100% 50%　　50%
学生へのメッセージ	受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。 出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。 質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室（7 号館 2 階）またはメールにて対応します。 メールアドレスは授業時にお知らせします。

科目名	日本語総合ＦⅡ	科目名（英文）	Comprehensive Japanese FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川　由理子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｆ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

授業概要・目的

この授業では次の３点を目標にします。
①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る
②まとまった内容の文章の大意を把握する
③できるだけ速く①と②をできるようにする

なお、JLPT の N1 に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。

到達目標

日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。

JLPT を受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する（N１、N２に限る）。

授業方法と留意点

この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確にていねいに読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。
１．キーワード・キーセンテンスを探す
２．接続詞に注意する
３．テキストの流れに注意する
４．予測して読む
５．テキストをまとめる

科目学習の効果（資格）

・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。
・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。
・その成果を専門の文章の読解に応用する。
（・JPT　N1 を持っていないものは取得を目指す。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の概要説明 プレースメントテスト	復習
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する
5	キーセンテンスを探す（1）	練習問題をこなす	授業内容を復習する
6	キーセンテンスを探す（2）	練習問題をこなす	授業内容を復習する
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する
8	説明文を読む（1）	2～3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
9	説明文を読む（2）	2～3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
10	論説文を読む（1）	2～3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
11	論説文を読む（2）	2～3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
12	随筆を読む	2～3 の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する
13	小説を読む（1）	2～3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する
14	小説を読む（2）	2～3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する

関連科目

日本語表現作文

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新完全マスター　読解　日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク
2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask
3	日本語能力試験問題集　N1 読解　スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾	Ｊリサーチ出版

評価方法（基準）

定期試験を実施（試験の形式については授業中に説明する）

出席・授業態度　＋　期末テスト　＝　100%
50%　　50%

学生へのメッセージ

受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。

出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。

担当者の研究室等

外国語学部非常勤講師室（7 号館 2 階）

備考

受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。
質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室（7 号館 2 階）またはメールにて対応します。
メールアドレスは授業時にお知らせします。

科目名	日本語総合Ｒ	科目名（英文）	Comprehensive Japanese R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	
学期	後期	授業担当者	古川　由理子
ディプロマポリシー(DP)	Ｖ科：Ⅲ○,Ⅳ○,Ｒ科：A◎,Ａ科：C◎,Ｍ科：B2◎,Ｅ科：Ｆ○,Ｃ科：Ⅲ○,Ⅵ○,Ｌ科：DP1◎,DP7△,DP8△,Ｄ科：DP1◎,Ｓ科：DP1◎,Ｐ科：DP2△,DP4△,Ｊ科：DP1◎,Ｗ科：DP1◎,DP7◎,Ｎ科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

基礎科目

授業概要・目的	この授業では次の３点を目標にします。 ①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る ②まとまった内容の文章の大意を把握する ③できるだけ速く①と②をできるようにする なお、JLPT の N1 に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。
到達目標	日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。 JLPT を受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する（N１、N２に限る）。
授業方法と留意点	この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確にていねいに読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。 １．キーワード・キーセンテンスを探す ２．接続詞に注意する ３．テキストの流れに注意する ４．予測して読む ５．テキストをまとめる
科目学習の効果（資格）	・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。 ・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。 ・その成果を専門の文章の読解に応用する。 （・JPT　N1 を持っていないものは取得を目指す。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の概要説明 プレースメントテスト	復習
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する
5	キーセンテンスを探す（1）	練習問題をこなす	授業内容を復習する
6	キーセンテンスを探す（2）	練習問題をこなす	授業内容を復習する
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する
8	説明文を読む（1）	2～3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
9	説明文を読む（2）	2～3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
10	論説文を読む（1）	2～3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
11	論説文を読む（2）	2～3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
12	随筆を読む	2～3 の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する
13	小説を読む（1）	2～3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する
14	小説を読む（2）	2～3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する

関連科目：日本語表現作文

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新完全マスター　読解　日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク
2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask
3	日本語能力試験問題集　N1 読解　スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾	Ｊリサーチ出版

評価方法（基準）	定期試験を実施（試験の形式については授業中に説明する） 出席・授業態度　＋　期末テスト　＝　100% 50%　　50%
学生へのメッセージ	受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。 出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。 質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室（7 号館 2 階）またはメールにて対応します。 メールアドレスは授業時にお知らせします。

科目名	日本語読解ＦⅠ	科目名（英文）	Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡　樹里
ディプロマポリシー(DP)	Ｖ科：Ⅲ○,Ⅳ○,Ｒ科：A◎,Ａ科：C◎,Ｍ科：B2◎,Ｅ科：Ｆ○,Ｃ科：Ⅲ○,Ⅵ○,Ｌ科：DP1◎,DP7△,DP8△,Ｄ科：DP1◎,Ｓ科：DP1◎,Ｐ科：DP2△,DP4△,Ｊ科：DP1◎,DP8◎,Ｗ科：DP1◎,DP7◎,Ｎ科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。
科目学習の効果（資格）	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
4	「科学」の定義①	読解、内容理解	復習
5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	復習
6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	復習
7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	復習
8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	復習
9	言語と文化①	読解、内容理解	復習
10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	復習
11	ローソクの進化①	読解、内容理解	復習
12	ローソクの進化①	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	復習
13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	復習
14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。

科目名	日本語読解ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡　樹里
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：F○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,DP8◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。
科目学習の効果（資格）	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
2	統計と数字①	読解、内容理解	復習
3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	復習
4	背理法①	読解、内容理解	復習
5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	復習
6	「待つ」こと①	読解、内容理解	復習
7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	復習
8	ついでに何をする？①	読解、内容理解	復習
9	ついでに何をする？②	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	復習
10	ウイルス発見！①	読解、内容理解	復習
11	ウイルス発見！②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	復習
12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	復習
13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	復習
14	「あたりまえ」を疑う社会学	読解、内容理解	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目：日本語読解ＦⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。

科目名	日本語読解R	科目名（英文）	Japanese Reading R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	
学期	前期	授業担当者	中岡　樹里
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：F○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。
科目学習の効果（資格）	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
4	「科学」の定義①	読解、内容理解	復習
5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	復習
6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	復習
7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	復習
8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	復習
9	言語と文化①	読解、内容理解	復習
10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	復習
11	ローソクの進化①	読解、内容理解	復習
12	ローソクの進化①	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	復習
13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	復習
14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解FⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。

科目名	日本語表現作文ＦⅠ	科目名（英文）	Japanese Reading and Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡　樹里
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｆ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP8◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。
到達目標	・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。
科目学習の効果（資格）	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習
4	段落①	段落構成について学ぶ	復習
5	段落②	実践練習	復習 作文課題
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習
7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習
9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習
10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題
11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習
13	要約②	実践練習	復習 作文課題
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語表現作文ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（50%）、提出物（50%）
学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。

科目名	日本語表現作文ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Reading and Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡　樹里
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｆ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP8◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	この授業では、実際にレポートを作成することを通し、レポート・論文の書き方を守ってレポートが作成できるようになることを目指す。
到達目標	・レポート・論文の文体で書ける。 ・レポート・論文の書き方を守って書ける。 ・アウトラインに沿って書ける。 ・信頼性の高い資料を集められる。
授業方法と留意点	授業では、テーマを決め、実際にレポートを作成していく。
科目学習の効果（資格）	レポートが書けるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	復習
2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	復習
3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	復習
4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	復習 資料を集める
5	資料を整理する	集めた資料を整理する	復習
6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	復習
7	序論①	序論の内容と書き方（課題、目的の提示）を学ぶ	復習
8	序論②	序論を書く	復習
9	本論①	本論の内容と書き方（データ、意見提示）を学ぶ	復習
10	本論②	本論の内容と書き方（考察、結論提示）を学ぶ	復習
11	本論③	本論を書く	復習
12	結論①	結論の内容と書き方（全体のまとめ、今後の課題）を学ぶ	復習
13	結論②	結論を書く	復習
14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	復習
15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	復習

関連科目：日本語表現作文ＦⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（30%）、レポート（30%）
学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう！
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。

科目名	日本語表現作文R	科目名（英文）	Japanese Reading and Writing R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	
学期	前期	授業担当者	中岡　樹里
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：F○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。
到達目標	・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。
科目学習の効果（資格）	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習
4	段落①	段落構成について学ぶ	復習
5	段落②	実践練習	復習 作文課題
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習
7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習
9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習
10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題
11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習
13	要約②	実践練習	復習 作文課題
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目：日本語表現作文FⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（50%）、提出物（50%）
学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。

科目名	日本語文法ＦⅠ	科目名（英文）	Japanese Grammar FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡　樹里
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｆ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP8◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

基礎科目

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。
科目学習の効果（資格）	高度な日本語運用能力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習
2	渡り鳥はなぜ迷わない？	文法項目の解説と練習	復習
3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	復習
4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	復習
5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	復習
6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	復習
7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	復習
8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	復習
9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	復習
10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	復習
11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	復習
12	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	復習
13	「割り勘」は当然？①	文法項目の解説と練習	復習
14	「割り勘」は当然？②	文法項目の解説と練習	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語文法ＦⅡ、日本語読解ＦⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、課題（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。

科目名	日本語文法ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Grammar FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡　樹里
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｆ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP8◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。
科目学習の効果（資格）	高度な日本語運用能力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	復習
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	復習
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
5	背理法②	文法項目の解説と練習	復習
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	復習
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	復習
8	ついでに何をする？①	文法項目の解説と練習	復習
9	ついでに何をする？②	文法項目の解説と練習	復習
10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	復習
11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	復習
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	復習
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	復習
14	「あたりまえ」を疑う社会学	文法項目の解説と練習	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目：日本語文法ＦⅠ、日本語読解ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、課題（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。

科目名	日本語文法R	科目名（英文）	Japanese Grammar R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	
学期	後期	授業担当者	中岡　樹里
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：F○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。
科目学習の効果（資格）	高度な日本語運用能力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	復習
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	復習
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
5	背理法②	文法項目の解説と練習	復習
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	復習
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	復習
8	ついでに何をする？①	文法項目の解説と練習	復習
9	ついでに何をする？②	文法項目の解説と練習	復習
10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	復習
11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	復習
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	復習
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	復習
14	「あたりまえ」を疑う社会学	文法項目の解説と練習	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語文法ＦⅠ、日本語読解ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、課題（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。

科目名	日本事情ＦＩ	科目名（英文）	Japanese Culture and Society FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇　薫
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1△,DP2○,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。（１）映画についての情報・その他背景知識について説明　（２）映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題　（３）テーマについてディスカッション　（４）「書く」練習
科目学習の効果（資格）	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習
2	映画１：テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
3	映画１：テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
4	映画１：テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
5	映画２：テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、　発表準備
6	映画２：テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、　発表準備
7	映画２：テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
8	テーマ１・２に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
9	映画３：テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
10	映画３：テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
11	映画３：テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
12	映画４：「ジェンダー」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、　発表準備
13	映画４：「ジェンダー」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、　発表準備
14	映画４：「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
15	テーマ３・４に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目：日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2			
3			

評価方法（基準）	各課題及びレポート（80%),授業への参加度（20%）により総合的に評価します。
学生へのメッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！　事前・事後学習は1.5時間ずつ。
担当者の研究室等	７号館４階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本事情ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Culture and Society FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	梅野　将之
ディプロマポリシー(DP)	Ｖ科：Ⅲ○,Ⅳ○,Ｒ科：A◎,Ａ科：C◎,Ｍ科：B2◎,Ｅ科：Ｂ○,Ｃ科：Ⅲ○,Ⅵ○,Ｌ科：DP1△,DP2○,Ｄ科：DP1◎,Ｓ科：DP1◎,Ｐ科：DP2△,DP4△,Ｊ科：DP1◎,DP7◎,Ｗ科：DP1◎,DP7◎,Ｎ科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	日本文化・社会について時事問題を知りその考察をするとともに、年中行事や体験を通して、日本人の考えや価値観について学ぶ。
到達目標	１）日本の文化・社会について理解を深める。 ２）時事（日常の社会の出来事）について、自発的に日本の新聞、雑誌、テレビ、ラジオやネットの記事やニュースなどを視聴する習慣を身につける。 ３）日本と自国、またはその他の国と地域の文化・社会について理解・考察・比較したことを日本語で分かりやすく説明することができる。
授業方法と留意点	１）自分が関心をもった日本のニュースや記事について５分ほどで口頭で発表する。そのため、授業の前までにテレビやラジオ、新聞、雑誌、インターネットの記事やニュースを視聴し、要約しておかなければならない。 ２）発表後はクラス全体で質問や意見交換をする（15～20 分）。 ３）講義の聴講や映像の視聴から、考察を行う。　　４）考察したことをお互い他者に伝えながら、理解を深めていく。 ５）最後に、授業で学んだこと全般について理解したことを整理する（小テスト、または小レポート）。
科目学習の効果（資格）	１）日本語での口頭表現力の向上 ２）語彙の習得
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業ガイダンス Nippon Guide 1 －日本の地理－	自己紹介、授業の概要の説明、アンケート、インタビュー、自己目標の設定 日本の国土・人口 小テスト	口頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて）
2	日本の年中行事（１） －墓参り－	口頭発表 盆と彼岸－日本人の先祖供養－ 小テスト	頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて）
3	Nippon Guide 2 －日本の歴史－	口頭発表、意見交換 時代区分と時代の特徴 小テスト	①頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて） ②『かぐや姫』（にほんごよむよむ文庫）を読む。または『かぐや姫の物語』（ジブリ）の視聴
4	日本の年中行事（２） －十五夜－ Nippon Guide 3 －マンガ･アニメのことば－	口頭発表 中秋の名月の鑑賞と初穂祭 月見団子を作ろう 小テスト	頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて） 10 月 4 日中秋の名月を楽しもう！
5	日本の年中行事（３） －日本の祭り－	口頭発表 葵祭と時代祭り	原稿、スライドの提出 10 月 22 日の時代祭りを見に行こう
6	高校訪問に向けて（１）	（発表準備） 原稿とスライドの作成 （交流準備） クイズの作成 質問文の作成	頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて）
7	高校訪問に向けて（２） Nippon Guide 4 －若者ことば・関西弁－	発表の練習	頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて）
8	高校訪問の振り返り 日本の年中行事（４） －紅葉狩り－	口頭発表 発表の振り返り 交流の振り返り 紅葉狩りの名所	①頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて） ②『日本の映画史１０』第１章、または『映画で日本文化を学ぶ人のために』の「家族の絆」を１０回目の授業までに読む。
9	日本の年中行事（５） －七五三－ Nippon Guide 5 －神社－	口頭発表 七五三 神社とその参拝方法	①頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて） ②『日本の映画史１０』第１章を次回の授業までに読む。
10	日本の家族（１）	口頭発表 視聴映画の説明 映画の視聴 小レポート	頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて）
11	日本の家族（２）	口頭発表 視聴映画の説明 映画の視聴 小レポート	頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて）
12	日本の年末（１）	お歳暮、忘年会、 宝くじ －ギャンブル大国、日本－	頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて）
13	日本の年末（２）	口頭発表 年末の大掃除 しめ縄、門松、鏡餅 大晦日 年賀状を書こう	頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて）
14	日本の年始	口頭発表 お屠蘇、お節、雑煮	頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて）

			お年玉、初詣、正月の遊び 七草粥、鏡開き どんど焼	初詣に行こう！凧揚げをしよう！
	15	2月、3月の行事 授業の振り返り	口頭発表 節分、桃の節句	成田山不動尊の節分祭に行こう！

関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日本の映画史　10のテーマ	平野共余子	くろしお出版
2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘	世界思想社
3	Hiragana　Times		ヤック企画

評価方法 （基準）	到達目標：４０％（うち自己到達目標１０％）、事前・事後学習：３０％（発表準備、発表）、授業への参加：３０％（意見交換などでの発言１５％、小テスト、小レポート：１５％）
学生への メッセージ	日本文化や社会について理解を深めるまえに、関心や興味を持つことが目的なので、関心のない人も受講してみてください。
担当者の 研究室等	国際交流センター講師控室（3号館４F）
備考	

科目名	日本事情ＲＩ	科目名（英文）	Japanese Culture & Society RI
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	
学期	前期	授業担当者	門脇　薫
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1△,DP2○,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。（１）映画についての情報・その他背景知識について説明　（２）映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題　（３）テーマについてディスカッション　（４）「書く」練習
科目学習の効果（資格）	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習
2	映画１：テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
3	映画１：テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
4	映画１：テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
5	映画２：テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、　発表準備
6	映画２：テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、　発表準備
7	映画２：テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
8	テーマ１・２に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
9	映画３：テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
10	映画３：テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
11	映画３：テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
12	映画４：「ジェンダー」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、　発表準備
13	映画４：「ジェンダー」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、　発表準備
14	映画４：「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
15	テーマ３・４に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目：日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2			
3			

評価方法（基準）	各課題及びレポート（80%),授業への参加度（20%）により総合的に評価します。
学生へのメッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！　事前・事後学習は1.5時間ずつ。
担当者の研究室等	７号館４階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本事情ＲⅡ	科目名（英文）	Japanese Culture & Society RII
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	
学期	後期	授業担当者	梅野　将之
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1△,DP2○,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	日本文化・社会について時事問題を知りその考察をするとともに、年中行事や体験を通して、日本人の考えや価値観について学ぶ。
到達目標	１）日本の文化・社会について理解を深める。 ２）時事（日常の社会の出来事）について、自発的に日本の新聞、雑誌、テレビ、ラジオやネットの記事やニュースなどを視聴する習慣を身につける。 ３）日本と自国、またはその他の国と地域の文化・社会について理解・考察・比較したことを日本語で分かりやすく説明することができる。
授業方法と留意点	１）自分が関心をもった日本のニュースや記事について５分ほどで口頭で発表する。そのため、授業の前までにテレビやラジオ、新聞、雑誌、インターネットの記事やニュースを視聴し、要約しておかなければならない。 ２）発表後はクラス全体で質問や意見交換をする（15～20 分）。 ３）講義の聴講や映像の視聴から、考察を行う。　　４）考察したことをお互い他者に伝えながら、理解を深めていく。 ５）最後に、授業で学んだこと全般について理解したことを整理する（小テスト、または小レポート）。
科目学習の効果（資格）	１）日本語での口頭表現力の向上 ２）語彙の習得
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業ガイダンス Nippon Guide 1 －日本の地理－	自己紹介、授業の概要の説明、アンケート、インタビュー、自己目標の設定 日本の国土・人口 小テスト	口頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて）
2	日本の年中行事（１） －墓参り－	口頭発表 盆と彼岸－日本人の先祖供養－ 小テスト	頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて）
3	Nippon Guide 2 －日本の歴史－	口頭発表、意見交換 時代区分と時代の特徴 小テスト	①頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて） ②『かぐや姫』（にほんごよむよむ文庫）を読む。または『かぐや姫の物語』（ジブリ）の視聴
4	日本の年中行事（２） －十五夜－ Nippon Guide 3 －マンガ･アニメのことば－	口頭発表 中秋の名月の鑑賞と初穂祭 月見団子を作ろう 小テスト	頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて） 10 月 4 日中秋の名月を楽しもう！
5	日本の年中行事（３） －日本の祭り－	口頭発表 葵祭と時代祭り	原稿、スライドの提出 10 月 22 日の時代祭りを見に行こう
6	高校訪問に向けて（１）	（発表準備） 原稿とスライドの作成 （交流準備） クイズの作成 質問文の作成	頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて）
7	高校訪問に向けて（２） Nippon Guide 4 －若者ことば・関西弁－	発表の練習	頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて）
8	高校訪問の振り返り 日本の年中行事（４） －紅葉狩り－	口頭発表 発表の振り返り 交流の振り返り 紅葉狩りの名所	①頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて） ②『日本の映画史１０』第１章、または『映画で日本文化を学ぶ人のために』の「家族の絆」を１０回目の授業までに読む。
9	日本の年中行事（５） －七五三－ Nippon Guide 5 －神社－	口頭発表 七五三 神社とその参拝方法	①頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて） ②『日本の映画史１０』第１章を次回の授業までに読む。
10	日本の家族（１）	口頭発表 視聴映画の説明 映画の視聴 小レポート	頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて）
11	日本の家族（２）	口頭発表 視聴映画の説明 映画の視聴 小レポート	頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて）
12	日本の年末（１）	お歳暮、忘年会、 宝くじ －ギャンブル大国、日本－	頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて）
13	日本の年末（２）	口頭発表 年末の大掃除 しめ縄、門松、鏡餅 大晦日 年賀状を書こう	頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて）
14	日本の年始	口頭発表 お屠蘇、お節、雑煮	頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて）

			お年玉、初詣、正月の遊び 七草粥、鏡開き どんど焼	初詣に行こう！凧揚げをしよう！
	15	2月、3月の行事 授業の振り返り	口頭発表 節分、桃の節句	成田山不動尊の節分祭に行こう！

関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 日本の映画史　10のテーマ / 平野共余子 / くろしお出版
	2 / 映画で日本文化を学ぶ人のために / 窪田守弘 / 世界思想社
	3 / Hiragana　Times / / ヤック企画
評価方法 （基準）	到達目標：４０％（うち自己到達目標１０％）、事前・事後学習：３０％（発表準備、発表）、授業への参加：３０％（意見交換などでの発言１５％、小テスト、小レポート：１５％）
学生への メッセージ	日本文化や社会について理解を深めるまえに、関心や興味を持つことが目的なので、関心のない人も受講してみてください。
担当者の 研究室等	国際交流センター講師控室（3号館４F）
備考	

科目名	フランス語Ⅰ	科目名（英文）	French Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	中井　裕之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7△,DP8△		

授業概要・目的

本授業の目的はフランス語による基礎的コミュニケーション能力の育成にあります。挨拶、注文、道の尋ね方など、日常生活の様々な場面で役立つフランス語の表現をこの授業では学びます。

到達目標

この授業を受講すれば、学生は初歩的なフランス語が話せるようになります。一例えば、日本に旅行に来ているフランス人に偶然、街で出会ったとします。その時フランス語で声をかけてみたくはないでしょうか？あるいはフランスに旅行に行ったとします。レストランで注文する時、店でショッピングをする時、直接フランス語でやりとりがしたくはないでしょうか？この授業を取ればそれが可能となります。

授業方法と留意点

基本的な表現を繰り返し口に出して練習する。リスニング、練習問題の解答、学生同士の練習を行なう。教科書を使用するので購入して教室に持ってくること。授業への積極的な参加を望みます。

科目学習の効果（資格）

仏検（実用フランス語技能検定試験）５級へ向けた学力の準備をする。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	フランス語会話（基礎）の学び方の説明 授業の内容と進め方の説明 教科書、参考書、辞書の説明	テキスト全体に目を通し、どういったことを学習するかイメージをつかんでおく
2	『話したくなるフランス語』導入（pp. 2-3）	アルファベとその読み方	『話したくなるフランス語』導入部の予習復習
3	『話したくなるフランス語』第１課（pp. 4-9）	物の名前を正確に言う 数字の読み方（１）	『話したくなるフランス語』第１課の予習復習、練習問題１
4	『話したくなるフランス語』第１課つづき	文法事項：男性名詞と女性名詞 名詞の複数形 つづり字と発音（１）	『話したくなるフランス語』第１課の予習復習、練習問題２
5	『話したくなるフランス語』第２課（pp. 10-15）	基本的な動詞を使い、習慣になっている行為や仕事や仕事や住んでいる場所などについて話す 国、都市の名前	『話したくなるフランス語』第２課の予習復習、練習問題３
6	『話したくなるフランス語』第２課つづき	文法事項：否定文 つづり字と発音（２）	『話したくなるフランス語』第２課の予習復習、練習問題４、練習問題５
7	『話したくなるフランス語』第３課（pp. 16-21）	好き嫌いの言い方 食べ物、飲み物の名前	『話したくなるフランス語』第３課の予習復習、練習問題６、練習問題７
8	『話したくなるフランス語』第３課つづき	文法事項：定冠詞、est-ce que を用いる疑問文 リエゾン・エリズィヨン・アンシェヌマン 主語人称代名詞、-er 動詞の変化	『話したくなるフランス語』第３課の予習復習、練習問題８
9	『話したくなるフランス語』第４課（pp. 22-27）	人の身分や特徴の表現 国籍、職業の呼び方	『話したくなるフランス語』第４課の予習復習、練習問題９、練習問題 10
10	『話したくなるフランス語』第４課つづき	文法事項：形容詞の男性形と女性形 ETRE の変化	『話したくなるフランス語』第４課の予習復習、練習問題 11、練習問題 12
11	『話したくなるフランス語』第５課（pp. 28-33）	動詞 avoir を使った表現 親族の名称	『話したくなるフランス語』第５課の予習復習、練習問題 13、練習問題 14
12	『話したくなるフランス語』第５課つづき	文法事項：不定冠詞、部分冠詞、否定の冠詞 avoir の変化 つづり字と発音（３）	『話したくなるフランス語』第５課の予習復習、練習問題 15、練習問題 16、練習問題 17
13	『話したくなるフランス語』第６課（pp. 34-39）	動詞 aller を使った表現 乗り物の言い方	『話したくなるフランス語』第６課の予習復習、練習問題 18
14	『話したくなるフランス語』第６課つづき	文法事項：前置詞と定冠詞の縮約 指示形容詞 aller の変化	『話したくなるフランス語』第６課の予習復習、練習問題 19、練習問題 20
15	まとめ	前期学習内容の確認とまとめ	前期学習内容の理解のチェックと復習

関連科目

後期のフランス語 II を合わせて履修することが望ましい

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	話したくなるフランス語	岩間直文	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	対訳フランス語で読もう「異邦人」	アルベール・カミュ[著]，柳沢文昭[訳注]	第三書房
2			
3			

評価方法（基準）

小テスト（50%）と平常点（授業への参加の度合い・取り組む姿勢・発表・宿題の提出など）（50%）

学生へのメッセージ

楽しくフランス語を学習しましょう。きっと何か新しい発見があると思います。フランス語で会話をすることの楽しさを感じてください。皆さんの参加をお待ちしております。

担当者の研究室等

7 号館 2 階(非常勤講師室)

備考

連絡等は授業教室または非常勤講師室で金曜日の授業時間の前後に口頭または文書で。
授業時間外の質問等については相談の上、個別に時間を決めて応じる。

科目名	フランス語Ⅱ	科目名（英文）	French II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中井　裕之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7△,DP8△		

授業概要・目的

この授業では、前期に引き続き、フランス語の基礎的コミュニケーション能力の習得を目指します。挨拶、注文、道の尋ね方など日常生活の様々な場面で役立つフランス語の表現を学びます。フランス語で話す喜びを感じてください。楽しい授業を目指します。

到達目標

この授業を受講すれば、学生は初歩的なフランス語が話せるようになります。基本的なフランス語の言いまわしやを繰り返し練習することで、単に頭で理解できているばかりでなく、場面・状況に応じた表現が自然と口をついて出るようになります。

授業方法と留意点

基本的な表現を繰り返し口に出して練習する。リスニング、練習問題の解答、学生同士の練習を行なう。教科書（『かたつむりの歌（Chanson des Escargots）』、『話したくなるフランス語』）を使用するので教室に持ってくること。授業への積極的な参加を望みます。

科目学習の効果（資格）

仏検（実用フランス語技能検定試験）５級に相当する学力を目指す。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	後期オリエンテーション	後期学習へ向けた示唆 授業の内容と進め方の説明 教科書、参考書の説明	テキストの後期学習範囲に目を通しておく
2	動詞活用表	さまざま動詞の活用 以降、適宜、『かたつむりの歌』を味読する	『話したくなるフランス語』巻末動詞活用表
3	『話したくなるフランス語』 第７課（pp.40-45）	人、物をたずねる表現 フランス人の名前	『話したくなるフランス語』第７課の予習復習、練習問題 21
4	『話したくなるフランス語』 第７課つづき	文法事項：指示代名詞、直接目的語になる人称代名詞 つづり字と発音（４） CONNAITRE の変化	『話したくなるフランス語』第７課の予習復習、練習問題 22、練習問題 23
5	『話したくなるフランス語』 第８課（pp.46―51）	可能性、許可、依頼の表現 条件法を用いた表現	『話したくなるフランス語』第８課の予習復習、練習問題 22、練習問題 24
6	『話したくなるフランス語』 第８課つづき	文法事項：pouvoir の変化 つづり字と発音（５） 条件法	『話したくなるフランス語』第８課の予習復習、練習問題 25、練習問題 26
7	『話したくなるフランス語』 第９課（pp.52-57）	名詞を代名詞で受ける 頻度を表わす表現	『話したくなるフランス語』第９課の予習復習、練習問題 27
8	『話したくなるフランス語』 第９課つづき	文法事項：間接目的語になる人称代名詞 人称代名詞のまとめ	『話したくなるフランス語』第９課の予習復習、練習問題 28、練習問題 29
9	『話したくなるフランス語』 第１０課（pp.58-63）	未来の予定 時刻の言い方	『話したくなるフランス語』第 10 課の予習復習、練習問題 30
10	『話したくなるフランス語』 第１０課つづき	文法事項：代名動詞 未来の表わし方	『話したくなるフランス語』第 10 課の予習復習、練習問題 31
11	『話したくなるフランス語』 第１１課（pp.64-69）	過去の表現 月、曜日、日付の言い方	『話したくなるフランス語』ト第 11 課の予習復習、練習問題 32、練習問題 33、練習問題 34
12	『話したくなるフランス語』 第１１課つづき	文法事項：複合過去 半過去	『話したくなるフランス語』第 11 課の予習復習、練習問題 35、練習問題 36
13	発展的学習（１）	役に立つ表現と文法事項の補足（１） 会話練習（１）	『話したくなるフランス語』第７課～11 課の復習
14	発展的学習（２）	役に立つ表現と文法事項の補足（２） 会話練習（２）	『話したくなるフランス語』第７課～11 課の復習
15	まとめ	総まとめ	学習内容の理解のチェック

関連科目

前期のフランス語Ⅰを合わせて履修することが望ましい

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	かたつむりの歌（Chanson des Escargots）	田島宏[編]，プレヴェール[著]	第三書房
2	話したくなるフランス語	岩間直文	朝日出版社
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	対訳フランス語で読もう「異邦人」	アルベール・カミュ[著]，柳沢文昭[訳注]	第三書房
2			
3			

評価方法（基準）

小テスト（50%）と平常点（授業への参加の度合い・取り組む姿勢・発表・宿題の提出など）（50%）

学生へのメッセージ

楽しくフランス語を学習しましょう。きっと何か新しい発見があると思います。フランス語で会話をすることの楽しさを感じてください。皆さんの参加をお待ちしております。

担当者の研究室等

７号館２階(非常勤講師室)

備考

連絡等は授業教室または非常勤講師室で金曜日の授業時間の前後に口頭または文書で。
授業時間外の質問等については相談の上、個別に時間を決めて応じる。

科目名	フランス語Ⅲ	科目名（英文）	French III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤本　武司
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7△,DP8△		

基礎科目

授業概要・目的	フランス語 I,II での学習事項をもとに、フランス語の４技能（聞く・話す・読む・書く）を総合的に高めることを目的とする。
到達目標	フランス語の基本的文法を習得し、簡単な日常会話をすることができるようになる。辞書を用いれば一般的内容の文章を読むことができる。
授業方法と留意点	基本文法を復習しながら、仏検用の教材を利用して、オーラル面での練習を行うと同時に、辞書を使ってフランス語のテキストを読むことにも力を入れる。また、フランス文化の諸相を映画・音楽を用いて紹介する。 文法理解や単語、表現の習得度を確認するため、原則として毎回小テスト（筆記または口頭）を行う。 特定の教科書は使用せず、自作のプリント教材をその都度配布する。なお、授業および予習・復習には仏和辞典が必要となるが、その選択については改めて授業で紹介・指示するので、あらかじめ購入する必要はない。
科目学習の効果（資格）	フランス語 IV とあわせて、仏検(実用フランス語検定)4 級に合格できるフランス語力をつける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 フランスの映画・音楽鑑賞	オリエンテーションとこれまでの学習内容の確認	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
2	文法確認① フランスの映画・音楽鑑賞	動詞の活用について	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
3	口頭演習① フランスの映画・音楽鑑賞	自己紹介について	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
4	講読演習① フランスの映画・音楽鑑賞	現代のフランスに関するテキスト	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
5	文法確認② フランスの映画・音楽鑑賞	冠詞・指示形容詞・所有形容詞の用法について	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
6	口頭演習② フランスの映画・音楽鑑賞	好き嫌いの表現	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
7	講読演習② フランスの映画・音楽鑑賞	現代のフランスに関するテキスト	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
8	文法確認③ フランスの映画・音楽鑑賞	形容詞・副詞、比較	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
9	口頭演習③ フランスの映画・音楽鑑賞	他人を描写する	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
10	講読演習③ フランスの映画・音楽鑑賞	現代のフランスに関するテキスト	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
11	文法確認④ フランスの映画・音楽鑑賞	人称代名詞・中性代名詞・疑問代名詞	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
12	口頭演習④ フランスの映画・音楽鑑賞	人、物について、さまざまなことを訪ねる。	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
13	講読演習④ フランスの映画・音楽鑑賞	現代のフランスに関するテキスト	次回テストの準備
14	確認テスト	これまでの学習内容を仏検 4 級形式の問題でテストする。	講読演習の準備
15	確認テスト講評 最終講読演習 フランスの映画・音楽鑑賞	現代のフランスに関するテキスト	

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	①期末試験は実施しないが、第 14 回目の授業で仏検 4 級形式のテストを行う（評価の 30～50%に充当）。 ②授業時の口頭発表、小テスト、宿題等提出物、映画鑑賞後のコメント等（評価の 50～70%に充当）。 出席しているだけでは評価の対象にならないので注意のこと。
学生へのメッセージ	単に語学の勉強というだけではなく、フランスの様々な姿や、日本との違いを一緒に考えてみたいと思います。なお、皆さんのこれまでのフランス語学習内容等にあわせて、上記の計画は大幅に変更することもあります。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	質問等は授業時および授業終了後に直接対応する。これが無理な場合は大学を通して行う。

科目名	フランス語Ⅳ	科目名（英文）	French Ⅳ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤本　武司
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP7△,DP8△		

授業概要・目的	これまでの学習事項をもとに、フランス語の４技能（聞く・話す・読む・書く）を総合的に高めることを目的とする。
到達目標	フランス語の基本的文法を習得し、簡単な日常会話をすることができるようになる。辞書を用いれば一般的内容の文章を読むことができる。
授業方法と留意点	フランス語 III と同様、基本文法を確認しながら、仏検用の教材を用いてオーラル面の練習を行うと同時に、辞書を使ってフランス語のテキストを読むことにも力を入れる。フランス文化の諸相を映画・音楽を用いて紹介する。 文法理解や単語、表現の習得度を確認するため、原則として毎回小テスト（筆記または口頭）を行う。 特定の教科書は使用せず、自作のプリント教材をその都度配布する。なお、授業および予習・復習には仏和辞典が必要。
科目学習の効果（資格）	仏検(実用フランス語検定)3 級に合格できるフランス語力をつける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 フランスの映画・音楽鑑賞	オリエンテーションとこれまでの学習内容の確認	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
2	文法講義① フランスの映画・音楽鑑賞	代名動詞	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
3	口頭演習① フランスの映画・音楽鑑賞	日課について語る	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
4	講読演習① フランスの映画・音楽鑑賞	現代のフランスに関するテキスト	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
5	文法講義② フランスの映画・音楽鑑賞	複合過去形・半過去形	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
6	口頭演習② フランスの映画・音楽鑑賞	過去の出来事を語る。思い出を語る。	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
7	講読演習② フランスの映画・音楽鑑賞	現代のフランスに関するテキスト	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
8	文法講義③ フランスの映画・音楽鑑賞	単純未来形	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
9	口頭演習③ フランスの映画・音楽鑑賞	将来の夢を語る	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
10	講読演習③ フランスの映画・音楽鑑賞	現代のフランスに関するテキスト	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
11	文法講義④ フランスの映画・音楽鑑賞	条件法	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
12	口頭演習④ フランスの映画・音楽鑑賞	仮想・妄想を語る。	次回小テストの準備もしくはテキスト講読の予習（内容はその都度指示する）
13	講読演習④ フランスの映画・音楽鑑賞	現代のフランスに関するテキスト	次回テストの準備
14	確認テスト	これまでの学習内容を仏検 3 級形式の問題でテストする。	講読演習の準備
15	確認テスト講評 最終講読演習 フランスの映画・音楽鑑賞	現代のフランスに関するテキスト	

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	①期末試験は実施しないが、第 14 回目の授業で仏検 3 級形式のテストを行う（評価の 30～50%に充当）。 ②授業時の口頭発表、小テスト、宿題等提出物、映画鑑賞後のコメント等（評価の 50～70%に充当）。 出席しているだけでは評価の対象にならないので注意のこと。
学生へのメッセージ	単に語学の勉強というだけではなく、フランスの様々な姿や、日本との違いを一緒に考えてみたいと思います。なお、皆さんのこれまでのフランス語学習内容や到達度にあわせて、上記の計画は大幅に変更することもあります。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	質問等は授業時および授業終了後に直接対応する。これが無理な場合は大学を通して行う。

教　養　科　目

科目名	海外ビジネスインターンシップ	科目名（英文）	Overseas Business Internship
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	佐井　英子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	本学では、将来グローバル、あるいは地域で活躍する力を身につけた知的職業人の育成を目指している。 そのためには、他者と自分の違いを理解し、相手を尊重するという姿勢が必要である。このような態度は国内においても修得可能であるが、日本とは異なる文化、経済事情、生活習慣、価値観などもつ海外においてインターンシップを体験することにより、相手を正しく理解し、尊重する姿勢、柔軟な発想力の必要性を実感し修得できる。この海外インターンシップでは、ダイバーシティ社会の中で、自分の考えを相手に伝え、また相手の考えを理解できるコミュニケーション能力と自己の責任で自ら考え行動する自律心を育成する。
到達目標	・日本と相手国（インドネシア・バリ島）の歴史、文化、経済等の違いを正しく理解する。 ・異なる文化、価値観等を尊重する姿勢を修得する。 ・他国を理解することにより、日本についての理解を深め、日本が抱えている問題について深く考察する。 ・将来、グローバルに活躍するために、自分に欠けているものは何か、大学生活で何を学ぶべきか、体得する。
授業方法と留意点	研修先として美術館（ホテル、レストラン併設）、PPLH（NPO）、ウダヤナ大学、コーヒー農園、ウブド高校,マングローブセンター等を予定しています。 研修先により研修内容は異なり、求められる資質、英語能力が異なります。事前学習において各研修先について説明しますが、受講生自身も調査し、研修先を選択します。有意義なインターンシップにするためには、学生の希望と相手先の要望とのマッチングが非常に重要になります。そのため学生の希望は配慮しますが、学生が最初に希望した研修先に配属されるとは限りません。事前に充分個人面談を行い、話し合いの上決定します。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	事前学習　１０日を予定。現地での各自の研修内容の事前準備（プレゼン等）が完了するまで行う。 ガイダンス、研修先の研修内容の解説、受け入れ先とのマッチング、バリ島の歴史、習慣、経済状況などを各自調べ発表する。 現地実習　１０日（移動日含む） １日目　移動 ２日目　環境学習　マングローブセンター、PPLH にて実習 ３日目　各研修先へ移動、ガイダンス ４日目～8 日目　各研修先にて各々インターンシップ研修実施 ９日目　現地視察 １０日目　移動日 研修内容は、研修先により環境問題に対する取り組み、日本語授業の SA、課外活動のサポート、農業経営・フェアトレードの取り組みなど異なります。各自、、毎日研修内容の報告書を作成する。 事後学習　３日（資料の作成が間に合わない場合は、追加する） 報告書の作成、指導、報告会に向けたプレゼンテーション資料の作成、指導、全体報告会
関連科目	外国語関連科目、世界の歴史、日本の歴史等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	実習前の事前学習（10%）、海外現地研修 60%（実習記録 20%、実習態度 50%（研修先からの評価を勘案し、引率教員が評価する）、実習報告書（20%）、全体報告会のプレゼン 10%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館８階　佐井研究室 11 号館８階　高尾研究室
備考	共同担当者　高尾教授

科目名	環境学	科目名（英文）	Environmental Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	手代木　功基
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	環境問題はしばしばグローバルな問題として着目されますが、実際に私たちに影響を与える環境に関わる「問題」は、地域単位で現出します。そのため、環境問題を解決に向かわせるためには、何よりも地域を知り、地域固有の文脈に沿った解決策を考えていくことが重要なステップとなります。 本講義では、国内外のさまざまな地域の環境・環境問題について学ぶことを通して、幅広い教養を身につけ、多角的な視野を獲得することを目指します。 ※なお、この科目は「国際教養」プログラム対応科目です。
到達目標	1. 環境とは何か、環境問題とは何かについて具体例をもとに説明できる幅広い知識を身につける 2. 私達が暮らしている大阪・関西の特徴を理解する 3. 多角的な視野で国内外の多様な環境や環境問題を把握することができる
授業方法と留意点	プリントの配布および投影資料を利用した講義形式。理解を深めるため、映像資料やバーチャル地球儀等を利用する。また、講義中にグループワークやディスカッション、簡単な作業などを通して受講者の意見を求めることもある。受講人数によっては屋外での巡検も計画する。
科目学習の効果（資格）	環境問題への意識向上、情報リテラシーの向上

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の概要、目的、授業の進め方、テキスト、採点方法等について理解する	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
2	環境を学ぶための基礎知識1	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
3	環境を学ぶための基礎知識2	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
4	河川がつくる地形，河川により変化する地形	河川による地形形成作用を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
5	日本の森はどうなっているのか？	河川の源流域における森林の現状と役割を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
6	淀川水系源流域の自然と文化１	淀川源流域・滋賀県における自然環境と人びとの生活を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
7	淀川水系源流域の自然と文化２	淀川源流域の滋賀県における自然環境と人びとの生活を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
8	大阪の自然と文化１	淀川水系中・下流域に位置する大阪の自然環境と人びとの生活を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
9	大阪の自然と文化２	淀川水系中・下流域に位置する大阪の自然環境と人びとの生活を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
10	大阪における自然災害	大阪において発生する自然災害の要因と被害について学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
11	京都の環境学	京都市の環境史と環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わりについて学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
12	神戸の環境学	神戸市の環境史と環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わりについて学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
13	和歌山・奈良の環境学	和歌山・奈良の環境史と環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わりについて学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
14	世界の環境問題１	地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
15	世界の環境問題２・授業のまとめ	地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題と全体のまとめ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む

関連科目：国際教養プログラム関連科目（暮らしの中の文化、多文化共生論等）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への取り組み（リアクションペーパーの内容、受講態度、議論やグループワークへの参加状況等）（50%）とレポート（50%）で評価します。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館５階（手代木研究室）
備考	事前・事後の学習は、全体で 60 時間を目安とします。 リアクションペーパーやレポート等の提出物に対してはコメントや質問回答といったフィードバックを行います。

科目名	北河内を知る	科目名（英文）	Introduction to Kita-kawachi Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	荻田　喜代一
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	摂南大学と大学が立地する「北河内」に焦点をあて、この地域の歴史・文化・産業・ライフライン、地方自治体の現状と課題、「北河内」に関係する各分野で活躍している団体や機関の人びとの活動状況などをテーマに、外部講師の講演とグループディスカッションを中心に、この地域に住む人々の暮らしや特徴、現在の問題と今後の課題を知ることにより、摂南大生として、この地域とどのようにかかわるかを考える。この授業は、「地域をつくる」「地域を考える」「地域をまなぶ」の３つのテーマからなり、地域貢献活動の動機づけを目的とする。
到達目標	北河内地域の歴史、文化、産業、街づくりを知り、地域に対する愛着を醸成し、社会の一員として地域とのかかわりの大切さを認識する。この認識を踏まえて、地域おける摂南大学の役割を考え、積極的に地域にかかわる態度を示すとともに、活気ある地域の創生に向けたアイデアを立案し、行動できる。
授業方法と留意点	北河内地域の各分野で活躍されている方々を学外講師とするオムニバス講義である。授業は、土曜日に集中的に実施し、毎回の授業で「自己学習・グループ学習」「講演の聴講」「グループワーク・成果物のプレゼンテーション」を行う。 情報収集ツールとしてスマートフォン、タブレット、ノートパソコン等を持参すること
科目学習の効果（資格）	ソーシャルイノベーション副専攻の必須科目である。「北河内を知る」を通じて、地域の課題を発見して解決する能力を身につけることに努力する。さらに、外部講師の方々と交流を深め、地域貢献活動に参画し、自ら考え行動することで、生涯にわたり学習する基盤が培われる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・グループワークのアイスブレイク	授業の進め方、成績評価方法 グループワークの進め方等を学ぶ	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
2	地域（１，２）に関する事前学習	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）の情報を収集して地域課題を発見できる	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
3	地域（１，２）に関する講演	北河内地域に関する講演を聴講し、地域課題の発見・解決の参考とする	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
4	グループワーク・プレゼンテーション	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
5	地域（３，４）に関する事前学習	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）の情報を収集して地域課題を発見できる	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。
6	地域（３，４）に関する講演	北河内地域に関する講演を聴講し、地域課題の発見・解決の参考とする	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
7	グループワーク・プレゼンテーション	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
8	地域（５，６）に関する事前学習	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）の情報を収集して地域課題を発見できる	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
9	地域（５，６）に関する講演	北河内地域に関する講演を聴講し、地域課題の発見・解決の参考とする	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
10	グループワーク・プレゼンテーション	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。
11	地域（７，８）に関する事前学習	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）の情報を収集して地域課題を発見できる	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
12	地域（７，８）に関する講演	北河内地域に関する講演を聴講し、地域課題の発見・解決の参考とする	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
13	グループワーク・プレゼンテーション	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
14	全体のまとめと振り返りのためのグループワーク	北河内地域の活性化や課題の解決のための具体的なアクションプランを策定する	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
15	プレゼンテーション	アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。

関連科目：ソーシャルイノベーション副専攻科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	個人成果物（３０％、提出物）、講演に対するグループごとの聴講態度（３０％、ルーブリック）、グループワーク・プレゼンテーションの態度および成果物（４０％、ルーブリック・提出物）。欠席・遅刻の場合には当該項目の評価は「０」とする。
学生へのメッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみませんか？
担当者の研究室等	枚方キャンパス１号館６階（薬理学研究室）、寝屋川キャンパス１１号館１階（教務課）
備考	学外講師のご都合により、授業計画の内容や順序等を変更すること、学外の方が聴講すること、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。ご了解下さい。

科目名	グローカルな視点から異文化共生を考える	科目名（英文）	Realizing the Importance of Cultural Diversity -from the Glo
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	糟谷　英之
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	摂南大学が加盟する国連アカデミックインパクトの原則 10「異文化間の対話や相互理解を促進し、不寛容を取り除く」を実施するため、移民、難民問題など人権問題を考えることによってグローカルな人材を育成することを目的とします。 現在では海外で活動する場合に限らず、地方自治体などを含め地域社会で活動する際にも国際的な人権感覚を身につけることが重要であると考えます。 こうした目的を達成するため 授業では、次の二つの課題を実行します。 ①国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)と連携し、学校パートナーズとして映画祭や講演会の企画運営をします。 ②ニュージーランドでの海外研修を行います。 ＊2017 年度については、①は、10 月、②は、2 月に実施予定。
到達目標	学校パートナーズとして UNHCR 難民映画祭の企画運営への参加およびニュージーランド海外研修を通じて、移民・難民の問題を自分自身の問題として捉え直し、グローカルな人材として必要な人権感覚を身につけます。 さらに企画運営能力や問題解決能力およびコミュニケーション能力の開発を目指します。
授業方法と留意点	集中講義の形式をとります。 通常の講義とは異なり毎週授業があるわけではありません。しかし UNHCR 難民映画祭および海外研修のため事前及び事後に不定期に集まることがあります。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	先の目的を実現するため本講義では次の二つの課題を実行します。 ①まず国連アカデミックインパクト加盟大学の取り組みの一環として、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)と連携して映画祭や講演会の企画運営を目指します。これによって受講生の国際的人権意識を高め、企画運営能力、コミュニケーション能力などを開発します。情宣活動を通じて大学構成員全体の国際的人権意識をも高めることにもなるでしょう。 ②次にニュージーランドでの海外研修を通じ、移民、難民問題をあらためて考えます。現地でのホームステイ及び語学研修、さらに現地の人々へのインタビューなどを通じて異文化共生とは何かを体感したいと思います。現地での体験が①で身につけた知識、企画運営能力、問題解決能力およびコミュニケーション能力を真に生きたものにするでしょう。 ①②の課題実行にあたって、それぞれ事前打ち合わせと事後の検証報告を行います。
関連科目	国際人権法、法律英語、グローバル社会論、国際ボランティア論など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	二つの課題①②への積極的参加および検証報告の内容を総合的に評価します。
学生へのメッセージ	いま私たちが住む世界は今までにない大きな変化を経験しています。これからは外国人を含めさまざまな人々と共に生きていく時代です。こうした社会で生きていくために我々一人ひとりにとって何が必要であるかを講義を通じて是非感じ取ってください。 海外研修を通じて異文化を体験してください。それだけでも君たちにとって大きな意味があると思います。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　糟谷研究室 E-mail: kasutani@law.setsunan.ac.jp
備考	＊海外研修もありますので、必須ではありませんが、是非前期から特に TOEIC 受験も考えて英語力の育成を意識しておいてください。また法学部学生は、前期科目の「法律英語」をできれば受講してください。 ＊UNHCR 難民映画祭や海外研修の具体的内容については、ガイダンスで紹介します。海外研修への参加費は基本的には自己負担となりますので注意してください。

科目名	経済学入門	科目名（英文）	Introduction to Economics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	原田　裕治
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	経済現象を理解するために必要な基本的知識や経済学的な考え方、現実の経済現象を事例として参照しながら、解説することを目的とする。
到達目標	１）戦後日本経済の歴史の大まかな流れについて説明できる。 ２）雇用，企業組織，財政，社会保障といった日本経済の動きに関わる基本的な事項について説明でき，日々の経済ニュースを理解できるようになる。 ３）日本経済が抱える問題について，その重要性を説明することができ，それにかんする異なる立場の議論を比較することができる。
授業方法と留意点	基本的には講義形式で進めるが、時事問題や時の話題等について、経済学ではどのような考えでどのような分析が出来るのかを解説する。毎回、レジュメを配布する。
科目学習の効果（資格）	日々の経済ニュースを理解できるようになることで，就職活動において企業を選択する際や，企業で働く際に客観的な判断ができるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	現代経済で起こっていることを概観する一方で，この授業の進め方について紹介する。	講義内容の復習
2	経済とは	経済の基本的な仕組みについて概説する	講義内容の復習
3	戦後日本経済の歩み（1）	終戦から戦後復興期における日本経済の動きについて解説する	講義内容の復習
4	戦後日本経済の歩み（2）	高度経済成長期における日本経済の動きについて解説する	講義内容の復習
5	戦後日本経済の歩み（3）	高度経済成長の終焉から安定成長期への移行について説明する	講義内容の復習
6	戦後日本経済の歩み（4）	安定成長期からバブル期にかけての日本経済の動きについて解説する	講義内容の復習、
7	戦後日本経済の歩み（5）	バブル崩壊後における日本経済の動きについて解説する	講義内容の復習
8	雇用のしくみ	企業と労働者の関係について，日本的雇用慣行を例にとりながら解説する。また，正規雇用と非正規雇用の関係についても説明する	講義内容の復習
9	企業のしくみ	所有・経営・労働の観点から企業を捉えて，その統治の仕組みついて解説する	講義内容の復習
10	授業内討論（1）非正規雇用の是非	授業で学んだ内容，および受講者が独自に調べた事項にもとづいて，受講者間でディベート形式の討論を行う	事前：討論のための準備 事後：討論内容の振り返り
11	財政のしくみ（1）	日本の財政構造，とりわけ財政支出の現状と課題について解説する	講義内容の復習
12	財政のしくみ（2）	日本の財政構造，とりわけ租税と国債発行についての現状と課題を説明する	講義内容の復習
13	社会保障のしくみ	日本における社会保障のしくみ，とりわけ公的年金制度について解説する	講義内容の復習
14	授業内討論（2）日本の公的年金制度は持続可能か	授業で学んだ内容，および受講者が独自に調べた事項にもとづいて，受講者間でディベート形式の討論を行う	事前：討論のための準備 事後：討論内容の振り返り
15	まとめ	全体の総括	講義内容の復習，定期試験への準備

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日本経済の常識	中原隆幸編	ナカニシヤ出版
2	図解雑学　資本主義のしくみ	八木紀一郎他	ナツメ社
3			

評価方法（基準）	授業時間内外の課題（50%），定期試験 50%で総合的に評価する。欠席が多い場合には，成績評価の対象から外す場合があるので注意すること。
学生へのメッセージ	日々のニュースなどで目にする「経済」に関する事柄は，小難しく自分には関係のないことのように思えてしまいますが，実際にはみなさんの身の回りで起こっていることと密接に結びついています。そうしたことをこの授業で感じ取ってもらえればと思います。そのためには，少々難しく感じても，日々の新聞やニュースで目にする経済的な事象に関心を持つことから始めてもらいたいと思います。
担当者の研究室等	
備考	受講生の理解度によって、講義の内容と進行に変更がありうる。

科目名	経済のしくみ	科目名（英文）	Basic Economics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	原田　裕治
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	経済現象を理解するために必要な基本的知識や経済学的な考え方、現実の経済現象を事例として参照しながら、解説することを目的とする。
到達目標	１）戦後日本経済の歴史の大まかな流れについて説明できる。 ２）雇用，企業組織，財政，社会保障といった日本経済の動きに関わる基本的な事項について説明でき，日々の経済ニュースを理解できるようになる。 ３）日本経済が抱える問題について，その重要性を説明することができ，それにかんする異なる立場の議論を比較することができる。
授業方法と留意点	基本的には講義形式で進めるが、時事問題や時の話題等について、経済学ではどのような考えでどのような分析が出来るのかを解説する。毎回、レジュメを配布する。
科目学習の効果（資格）	日々の経済ニュースを理解できるようになることで，就職活動において企業を選択する際や，企業で働く際に客観的な判断ができるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	現代経済で起こっていることを概観する一方で，この授業の進め方について紹介する。	講義内容の復習
2	経済とは	経済の基本的な仕組みについて概説する	講義内容の復習
3	戦後日本経済の歩み（1）	終戦から戦後復興期における日本経済の動きについて解説する	講義内容の復習
4	戦後日本経済の歩み（2）	高度経済成長期における日本経済の動きについて解説する	講義内容の復習
5	戦後日本経済の歩み（3）	高度経済成長の終焉から安定成長期への移行について説明する	講義内容の復習
6	戦後日本経済の歩み（4）	安定成長期からバブル期にかけての日本経済の動きについて解説する	講義内容の復習、
7	戦後日本経済の歩み（5）	バブル崩壊後における日本経済の動きについて解説する	講義内容の復習
8	雇用のしくみ	企業と労働者の関係について，日本的雇用慣行を例にとりながら解説する。また，正規雇用と非正規雇用の関係についても説明する	講義内容の復習
9	企業のしくみ	所有・経営・労働の観点から企業を捉えて，その統治の仕組みついて解説する	講義内容の復習
10	授業内討論（1）非正規雇用の是非	授業で学んだ内容，および受講者が独自に調べた事項にもとづいて，受講者間でディベート形式の討論を行う	事前：討論のための準備 事後：討論内容の振り返り
11	財政のしくみ（1）	日本の財政構造，とりわけ財政支出の現状と課題について解説する	講義内容の復習
12	財政のしくみ（2）	日本の財政構造，とりわけ租税と国債発行についての現状と課題を説明する	講義内容の復習
13	社会保障のしくみ	日本における社会保障のしくみ，とりわけ公的年金制度について解説する	講義内容の復習
14	授業内討論（2）日本の公的年金制度は持続可能か	授業で学んだ内容，および受講者が独自に調べた事項にもとづいて，受講者間でディベート形式の討論を行う	事前：討論のための準備 事後：討論内容の振り返り
15	まとめ	全体の総括	講義内容の復習，定期試験への準備

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日本経済の常識	中原隆幸編	ナカニシヤ出版
2	図解雑学　資本主義のしくみ	八木紀一郎他	ナツメ社
3			

評価方法（基準）	授業時間内外の課題（50%），定期試験 50%で総合的に評価する。欠席が多い場合には，成績評価の対象から外す場合があるので注意すること。
学生へのメッセージ	日々のニュースなどで目にする「経済」に関する事柄は，小難しく自分には関係のないことのように思えてしまいますが，実際にはみなさんの身の回りで起こっていることと密接に結びついています。そうしたことをこの授業で感じ取ってもらえればと思います。そのためには，少々難しく感じても，日々の新聞やニュースで目にする経済的な事象に関心を持つことから始めてもらいたいと思います。
担当者の研究室等	
備考	受講生の理解度によって、講義の内容と進行に変更がありうる。

科目名	芸術論	科目名（英文）	Fine Arts
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩間　香
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	芸術は作者、 時代、 思想などさまざまな要素から成り立っている。 この講義では各時代の代表的な作品を鑑賞しながら、 どういう社会状況のもとに生み出されたのか、 何に用いられたのか、 主題はなにか、 技法や技術の完成度はどうかなどを解説する。日本の美術や文化を知ることは、人生を豊かにするだけでなく、グローバル社会において自分を支える力になるだろう。
到達目標	日本美術の基本的な知識を修得する。教養として必要な程度の知識を身につけるとともに、美術や歴史への関心を高める。
授業方法と留意点	講義は常時スライドや教材表示装置を使用する。必要に応じノートに描き留めてもらいたい。
科目学習の効果（資格）	日本文化・美術に関する基本的な知識を身につける。学芸員資格に必要である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	奈良時代　飛鳥美術	法隆寺の美術	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、飛鳥時代の歴史について調べておく。(90 分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90 分)
2	奈良時代　天平美術	興福寺・東大寺の仏像	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、天平時代の歴史について調べておく。(90 分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90 分)
3	平安時代　密教美術	曼荼羅／密教彫刻	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、平安前期の歴史について調べておく。(90 分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90 分)
4	平安時代　浄土教美術	平等院	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、平安後期の歴史について調べておく。(90 分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90 分)
5	平安時代　四大絵巻物	源氏物語絵巻／信貴山縁起／伴大納言絵巻／鳥獣戯画	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、院政期の歴史について調べておく。(90 分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90 分)
6	鎌倉時代　鎌倉彫刻	運慶	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、鎌倉時代の歴史について調べておく。(90 分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90 分)
7	鎌倉時代　祖師絵伝絵巻	一遍聖絵／華厳縁起	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、鎌倉新仏教について調べておく。(90 分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90 分)
8	鎌倉時代　肖像画	似絵	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、金倉後期の歴史について調べておく。(90 分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90 分)
9	室町時代　水墨画	雪舟	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、室町時代の歴史について調べておく。(90 分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90 分)
10	桃山時代　金碧障壁画	狩野永徳	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、桃山時代の歴史について調べておく。(90 分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90 分)
11	江戸時代　流派体制の確立	狩野探幽	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、江戸初期の歴史について調べておく。(90 分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90 分)
12	江戸時代　琳派の継承	俵屋宗達／尾形光琳	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、江戸前期の歴史について調べておく。(90 分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90 分)
13	江戸時代　浮世絵１	菱川師宣／鈴木春信	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、江戸後期の歴史について調べておく。(90 分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90 分)
14	江戸時代　写生派	円山応挙	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、円山派について調べておく。(90 分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90 分)
15	江戸時代　浮世絵２	歌麿／北斎／広重	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、作品を見ておく。(90 分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90 分)

関連科目	日本史学・日本文化史、学芸員課程の科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

教養科目

	1			
	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	原色日本の美術		小学館
2	人間の美術	梅原猛	学習研究社
3			

評価方法 （基準）	定期試験
学生への メッセージ	専用のノートを作り、毎回持参すること。博物館・美術館・寺・神社などに出かけて実際に美術を見に行ってください。
担当者の 研究室等	７号館５階(岩間研究室)
備考	

科目名	現代社会と法	科目名（英文）	Law in Contemporary Society
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	・法は、多様な人々が共同生活を営むための相互尊重のルールであり、我々の生活を豊かにするための制度である。 ・このような法の特色と目的を踏まえつつ、現代社会の中で生じている紛争に対して、法がどのような役割を果たし、かつ、いかに争いごとを解決しているかについて、個別の法領域ごとに具体的な事件を参照しながら理解することを主な目標とする。
到達目標	・様々な法規範を適用ないし運用する上で、当該法規範の趣旨を確認し、さらにその修正規範を確実におさえる。 ・民事法と刑事法の違いについて、具体的に他者に説明できるようにする。 ・身近な事例について法学的アプローチをすることができるようになる。
授業方法と留意点	・講義形式によるが、教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。
科目学習の効果（資格）	・公務員試験や各種資格試験に必要とされる法学の基礎的知識を身につけることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 法とは何か	・講義内容と文献の紹介 ・法と道徳の違い ・法の強制力 ・法の分類	・教科書の入手 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
2	家族関係と法（1）	・婚約とその不当破棄 ・内縁と重婚的内縁関係 ・婚姻の効果 ・婚姻費用 ・日常家事債務	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
3	家族関係と法（2）	・離婚 ・協議離婚と調停離婚 ・裁判離婚 ・離婚原因 ・有責配偶者の離婚請求ほか	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
4	家族関係と法（3）	・親子 ・認知と非嫡出子 ・親族間の扶養	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
5	家族関係と法（4）	・相続 ・遺留分 ・寄与分	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
6	財産関係と法（1）	・契約と意思表示 ・契約と当事者	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
7	財産関係と法（2）	・債務不履行と危険負担 ・契約の解除 ・瑕疵担保責任	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
8	財産関係と法（3）	・事務管理と不当利得 ・不法行為 ・使用者責任	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
9	医療と法	・医療契約 ・医療過誤 ・専断的医療行為	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
10	消費者と法	・訪問販売 ・マルチ商法 ・ローンとクレジット契約 ・製造物責任法	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
11	職場と法	・労働法とは何か ・労働紛争の諸類型 ・ブラック企業 ・非正規雇用の問題点	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
12	犯罪と法（1）	・刑法の意義 ・罪刑法定主義とその派生原則 ・犯罪論 ・緊急行為 ・未遂と共犯	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
13	犯罪と法（2）	・逮捕と勾留 ・捜索と差押 ・公訴の提起 ・少年法の特例 ・死刑をめぐる諸問題	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
14	人権と国際法	・立憲主義と憲法 ・自由権と社会権 ・国際関係と紛争 ・集団的自衛権	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
15	法の適用、法源及び法の解釈	・制定法と慣習法 ・判例・学説・条理 ・概念法学と自由法学 ・文理解釈と論理解釈	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習

関連科目	日本国憲法、行政法、刑法、民法、国際法ほか

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎からわかる法学（第２版）	谷口　貴都＝松原　哲	成文堂

教養科目

2				
3				

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	法学入門（第６版補訂版）（有斐閣双書）	末川　博/編著	有斐閣
2	現代法学入門（第４版）（有斐閣双書）	伊藤　正己＝加藤一郎/編著	有斐閣
3	判例法学（第５版）	西村　健一郎＝西井　正弘＝初宿　正典/編著	有斐閣

評価方法（基準）	・定期試験の得点により評価する。
学生へのメッセージ	・法律系の番組が好きな方、あるいは、公務員試験受験や法学系資格取得を念頭に置いている方は、ぜひ受講してみてください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　　小野准教授室
備考	事前学習として、内容に記載した事項につき、毎回１時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、講義内容についてノートにまとめるなど、毎回２時間以上の復習に取り組むこと。 ・受講生の興味や関心に応じて、例えば、刑事法や家族法分野を増やすなど、講義内容を多少変更することがある。

科目名	現代ビジネス論	科目名（英文）	Modern Business
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧　美喜男
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本講義では組織行動論の中心テーマであるリーダーシップや日本企業の直面するマネジメントの国際化時代における人的資源管理を学習する。本講義の特色は将来のビジネスリーダーを目指す皆さんが考える基盤や目標の提供を目指す。 両分野の基礎知識の学習に加えて、豊富な事例を紹介する。企業の倒産や再建事例におけるリーダーの行動、皆さんが属する若者の行動や意識の特徴、日本的経営の特色や日本が生み出したビジネスリーダー実例を学習する。私たち日本人の心の奥底に存する企業観・倫理観や労働観について再検討し、グローバル化・価値観の多様化が進展する中、将来のわが国ビジネスの在り方について、皆さんと一緒に考える。
到達目標	本講義では、以下の３つの目標を設定する。 ①組織を管理するマネージャーに求められる資質やスキルを理解する。 ②日本的経営の特色および、マネジメントの国際化時代におけるその進化の方向性を理解する。 ③組織で働くとは何かを考え、自分が目指すリーダーとは何かを理解する。
授業方法と留意点	可能な限り双方向（interactive）の講義を目指す。単に教科書を読んで内容を理解するというだけでなく、レクチャーを通じて身につけた基礎的な知識に基づきながら、現実世界の経営上の諸問題についての対応策を皆さんが考え、答えを追求する。わからない点や難しい点については補足的に説明しながら、必要に応じて応用的なディスカッションを実施する。
科目学習の効果（資格）	資格等の取得はありませんが、本講義終了時には以下が身に付きます。今後のビジネス社会の方向性を理解し、ビジネスリーダーとは何か、自身はどのようなビジネスリーダーを目指すかを考える基盤を取得出来ます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	現在のビジネス環境 及びリーダーの重要性	オペレーションの国際化とマネジメントの国際化の違いを説明しリーダーの役割を述べる。ビジネスマンの職場職場の現実の雰囲気を知る。 働くとは何かをを考える。	日本企業の戦後の海外展開の歴史や現状を調べてみよう。
2	マネジャーとマネジメント	人材を管理するとは何かを学ぶ。	マネジャーはどんな仕事をしているのか、またなぜマネジメントを学ぶ必要があるか考えてみる。
3	個人行動の原点	人はどのようなときに最もよく働くのかを考える。 個人行動の起点を知る。	組織行動論の目的は何かを考えてみる。
4	リーダーシップと信頼	各種リーダー論を紹介する。	自身のリーダー体験および今までに出会った素晴らしいーダーの特徴を考えてみる。
5	変革型リーダーがなぜ求められるか	マネジメントの国際化時代の変革型リーダーの重要性を各種事例をもとに説明する。(小テスト実施)	なぜリーダーシップに信頼が強調されるのか自己の体験に照らして考えてみる。
6	国際人的資源管理とは何か	各国人材・マネジメント方式の差異。 各国企業文化を知る。	海外展開をする企業は、本国の或いは出身国の労務管理制度のどちらを採用しようとしてしているのか考えてみる。
7	日本企業国際化の軌跡	オペレーションの国際化・マネジメント国際化時代の日本企業の対応。 多国籍従業員の意識。	トヨタ自動車･GM との合弁企業 NUMMI がなぜ設立されたのか調べてみよう。 最近、日本本社で外国人が多数採用されているがその理由を考えてみよう。
8	コミュニケーションと情報	高コンテクスト文化・社内言語とコミュニケーション外国人社員は何で苦労するのかを考える。(小テスト実施)	日本人は自己主張をしないと言われいます。あなたが発揮する日本人らしさとは何でしょうか？
9	自身を考える	日米中韓 4 か国の若者調査 の紹介・12 人の有識者による若者の実像。 人材育成のモデルの紹介。 人材育成モデルの提案。	あなたは偉くなり社会に貢献したいですか？ 自身の能力をどう評価していますか？
10	日本人の特性と日本的経営の本質	歴史や地勢的観点から日本人独特の経営が生み出されたことを学ぶ。	有史以来他民族の侵略を受けてこなかった国が世界に一つだけあります。その特異性 を考えましょう。
11	自分はどのようなビジネスリーダーになるか 事例１．二宮尊徳	日本的経営の原点･心も金も豊かにする実学を学ぶ。	以下3回にわたり偉大なビジネスの先人の話をします。3 人に関する本はたくさん出版されているので図書館やインターネットで調べてみよう。
12	事例２　本田技研創業者藤沢武夫の紹介	本田の実質的な経営者の追求したマネジメントの実態に迫る。	11 回参照
13	事例３　パナソニック創業者　松下幸之助	経営の神様が追求し実践した指導者の条件。	11 回参照
14	君たちはどのようなリーダーを目指すか	自由討議 10 人ぐらいのチームに分け、討議・各グループの発表。	事例紹介のうちどの点がすごいと思ったか事前に考えておく。
15	まとめ	全 14 回の講義の中で浮かび上がってきたことを総括する。	

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	世界が称賛する日本の経営	伊勢雅臣	育鵬社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際人的資源管理	関口倫紀ほか	中央経済社
2	マネジメント入門	スティーブン P.ロビンス	ダイヤモンド社
3			

評価方法 （基準）	第５回時の小テスト（２０％）、第８回時の小テスト（２０％）、定期試験（６０％）
学生への メッセージ	自身を知り自身の特性を生かしマネジメントの国際化時代のリーダーとして活躍する。そのモデルである企業やリーダーに巡り合えると思います。紹介するリーダー事例より、自身がどのようなリーダーになりたいか自分に置き換えて考えてください。
担当者の 研究室等	教務課（11 号館１階）
備考	事前事後学習には、毎回１時間以上かけること。 「質問等は出講時に教務課にて対応する」

科目名	自然科学の理解	科目名（英文）	Introduction to Natural Science
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大塚　正人
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	地球温暖化や放射性廃棄物などの社会問題は、物理、化学、生物、天文学や地球物理学等の科学分野にまたがっている。 これらの問題を議論するときには、総合的な科学的知識が必要となり、そのような知識を得るためには、自然科学のすべてを概観でき、またこれにより自然界の構造的理解を明確にできるようになる必要がある。 このコースでは、自然科学に対しての知識の習得と、大局的な理解を目指す。
到達目標	自然科学の体系や基本的な考え方について理解し、また、自然科学のすべてを概観でき、説明できる。 またこれにより自然界の構造的理解を明確にできるようになる。科学リテラシーを確立できる。
授業方法と留意点	講義内容について資料を配付し、パワーポイント及び黒板を用いて解説する。講義ごとにミニッツペーパーの提出を求める。その他、必要に応じてレポート、小論文、演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果（資格）	科学リテラシーを確立できる。また、さまざまなテクノロジーと、我々のくらしや健康との関わりが理解できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	自然科学とは何か	自然科学の学習前に、なぜ科学を勉強していくのかを明確にする。 これから自然科学を統合的に理解することの意義を知る。	配布資料を予習・復習する。
2	天空の法則と地上での運動	自然界にある秩序を認識することで、科学的方法論が発達してきた過程を学ぶ。	配布資料を予習・復習する。
3	ニュートンの法則	ニュートンが示した、運動とその原因としての力の関係を理解する。	配布資料を予習・復習する。
4	力学的エネルギー	力学的エネルギーとは何かについて学習する。	配布資料を予習・復習する。
5	光の性質と相互作用及び相対性理論	相対性の考え方に触れ、アインシュタインの相対性理論を理解する。	配布資料を予習・復習する。
6	放射性物質と原子力	原子核の中で起こる法則について学ぶ。	配布資料を予習・復習する。
7	基本的な化学の概念と化学結合	化学の基本となる原子間の結合、化学結合について学ぶ。	配布資料を予習・復習する。
8	有機化学と化学反応	有機化学の基本的な反応の仕組みについて理解する。	配布資料を予習・復習する。
9	物質の性質と科学的新素材	物質の持つ基本的な性質を学び、近年になり増え続ける科学的新素材についても学ぶ。	配布資料を予習・復習する。
10	生命の発生と進化の戦略	生物の種類や成り立ち、生物進化の概略について学ぶ。	配布資料を予習・復習する。
11	生命の基本となる化学物質	生命科学全般について概略する。特に、生命の基本となる化学物質について学ぶ。	配布資料を予習・復習する。
12	細胞と生体エネルギー	細胞の構成や、細胞が如何にしてエネルギーを作り出しているかなどについて学ぶ	配布資料を予習・復習する。
13	ｉＰＳ細胞と遺伝子治療	iPS 細胞とは何か、また、胚性幹細胞との違いや利点などについて学ぶ。また、再生医療の最先端に触れる。	配布資料を予習・復習する。
14	なぜがんになるのか	がんとは何か、そしてがんになる過程を学び、なぜがんになるのかを知り、がんの予防法についても考察する。	配布資料を予習・復習する。
15	環境の科学と人間	主にオゾン層の破壊，地球の温暖化等に関して発生原因，発生機構，人への影響およびその防止対策に関して述べる．	配布資料を予習・復習する。

関連科目	食品機能学、人体の構造と機能、生命科学入門

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリントを配布します		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	やさしい基礎生物学	南雲保	羊土社
2	物理学入門　力と運動	武谷三男	ちくま文芸文庫
3	はし？めて学ぶ？化学	野島 高彦	化学同人

評価方法（基準）	定期試験の点数（60%）および、授業態度、ミニッツペーパー（10%）およびレポート、小論文、演習問題などの課題（30%）の総合点で評価する。
学生へのメッセージ	自然科学は多岐にわたります。物理学、化学、生命科学等を文系の学生さんによく分かるようにバランス良く解説します。
担当者の研究室等	枚方キャンパス１号館５階　大塚教授室
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、薬学部の出席および遅刻・欠席と、原則、同じ扱いします。詳細は、一回目の講義で配布する資料に従います。

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	亀田　峻宣
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策（算数・数学）について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。筆記試験で特によく使われる SPI 非言語分野の全ての範囲を学習し、実際に出題された際に説き方がすぐに思い出せるように練習します。また、社会でどのように算数・数学がどのように使われているかも学習します。実践レベルの問題を解きますので、就職活動の準備の一環として受講をお勧めします。
到達目標	就職活動に必要とされる筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。 就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果（資格）	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション･方程式	講座の目的,意義の確認・方程式	方程式を復習しておくこと(目安:30 分)･smartSPI の実施(目安：30 分)
2	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
3	金銭問題	損益算・代金の精算	文章題による損益算について復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
4	分数問題①	仕事算・復習①	文章題による仕事算について復習しておく(目安：30 分)･1～3 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安：1.5 時間)
5	分数問題②・中間テスト①	分割払い・中間テスト①	文章題による分割払いについて復習しておく(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
6	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
7	場合の数・確率	場合の数・確率	場合の数･確率を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
8	集合①	集合の基礎・復習②	文章題による集合について復習しておく(目安：30 分)･4～7 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安：1.5 時間)
9	集合②・中間テスト②	集合②・中間テスト②	文章題による集合について復習しておく(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
11	論理①	推論①	推論を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
12	論理②	論理②	推論について復習しておくこと(目安：30 分)・8～11 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:1.5 時間)
13	論理③	推論③・中間テスト③	推論について復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
14	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安：2.5 時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安：5 時間)

関連科目：コミュニケーション能力開発

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用します。　また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　30%、中間テスト・最終テスト　50%、SmartSPI　20% その他授業態度などで加減します。
学生へのメッセージ	7～8 割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの 3 回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。 受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　キャリア教育推進室
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡　亮太
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策（算数・数学）について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。筆記試験で特によく使われる SPI 非言語分野の全ての範囲を学習し、実際に出題された際に解き方がすぐに思い出せるように練習します。また、社会でどのように算数・数学がどのように使われているかも学習します。実践レベルの問題を解きますので、就職活動の準備の一環として受講をお勧めします。
到達目標	就職活動に必要とされる筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。 就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果（資格）	就職活動に必要な数学力を身につける

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション･方程式	講座の目的,意義の確認・方程式	方程式を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
2	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
3	金銭問題	損益算・代金の精算	文章題による損益算について復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
4	分数問題①	仕事算・復習①	文章題による仕事算について復習しておく(目安：30 分)・1～3 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安：1.5 時間)
5	分数問題②・中間テスト①	分割払い・中間テスト①	文章題による分割払いについて復習しておく(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
6	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
7	場合の数・確率	場合の数・確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
8	集合①	集合の基礎・復習②	文章題による集合について復習しておく(目安：30 分)･4～7 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安：1.5 時間)
9	集合②・中間テスト②	集合②・中間テスト②	文章題による集合について復習しておく(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
11	論理①	推論①	推論を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
12	論理②	論理②	推論について復習しておくこと(目安：30 分)・8～11 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:1.5 時間)
13	論理③	推論③・中間テスト③	推論について復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
14	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安：2.5 時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安：5 時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用します。　また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　30%、中間テスト・最終テスト　50%、SmartSPI　20% その他授業態度などで加減します。
学生へのメッセージ	7～8 割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくと、受けることのできる会社が広がります。その一方、3 回生の秋・冬から筆記試験対策を始めたものの、他の活動や行事が忙しく対策が出来ていないこともあります。早めに対策をしておきましょう。 受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　キャリア教育推進室
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	亀田　峻宣
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策（算数・数学）について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。この講義では、3 回生で実際の出題レベルの対策を行うために必要な、算数・数学の基礎を固めるための授業です。就職活動では、筆記試験で算数・数学に苦労する学生がとても多いですので、早めに対策をしておきましょう。算数・数学が苦手な学生や、大学に入って（もしくはそれ以前から）算数・数学に触れていない学生は特にお勧めします。また、社会でどのように算数・数学がどのように使われているかも学習します。
到達目標	就職活動に必要とされる筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。 就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果（資格）	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション･方程式	講座の目的,意義の確認・方程式	方程式を復習しておくこと(目安:30 分)･smartSPI の実施(目安：30 分)
2	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
3	金銭問題	損益算・代金の精算	文章題による損益算について復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
4	分数問題①	仕事算・復習①	文章題による仕事算について復習しておく(目安：30 分)･1～3 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安：1.5 時間)
5	分数問題②・中間テスト①	分割払い・中間テスト①	文章題による分割払いについて復習しておく(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
6	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
7	場合の数・確率	場合の数・確率	場合の数･確率を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
8	集合①	集合の基礎・復習②	文章題による集合について復習しておく(目安：30 分)･4～7 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安：1.5 時間)
9	集合②・中間テスト②	集合②・中間テスト②	文章題による集合について復習しておく(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
11	論理①	推論①	推論を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
12	論理②	論理②	推論について復習しておくこと(目安：30 分)・8～11 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:1.5 時間)
13	論理③	推論③・中間テスト③	推論について復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
14	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安：2.5 時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安：5 時間)

関連科目：キャリアデザインⅡ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用します。 また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　30%、中間テスト・最終テスト　50%、SmartSPI　20% その他授業態度などで加減します。
学生へのメッセージ	7～8 割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの 3 回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。 受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　キャリア教育推進室
備考	

科目名	食品機能学	科目名（英文）	Functional Food Science
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	青笹　治
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	食生活と健康とのかかわりを理解し、免疫系、内分泌系（体調リズム）、神経系（精神の高揚や鎮静）などの生体機能の調節に関与する機能性食品の特性についての知識を習得する。本講義では、食品の一次機能（栄養素）、二次機能（味、触感など）および三次機能（生体機能の調節などの新規機能）について学び、保健機能食品制度、特定保健用食品、栄養機能食品など新しい食品の形態を理解する。また、がんや老化に加え、肥満、高血圧、脂質異常症（高脂血症）、糖尿病などの生活習慣病を取り上げ、食生活とヒトの健康のかかわりについて習得する。 学科の学習・教育目標との対応：[A], [F]
到達目標	食品に含まれる栄養・機能成分が列挙でき、それぞれ生体調節機能と、ヒトの健康との係わりについて説明できる。
授業方法と留意点	教科書の内容に沿って、プロジェクターにより講義を行う。 中間試験を行う。 １回目の講義で、授業の進め方や成績評価の方法について説明する。
科目学習の効果（資格）	食品成分の機能についての知識が得られ、健康と食生活とのかかわりが理解できるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	食品とは	食品の特性、一次機能（栄養素）、二次機能（味、食感など）および三次機能（生体機能の調節などの新規機能）について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
2	機能性食品	保健機能食品、特別用途食品および健康食品など、新しい食品の形態や制度について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
3	活性酸素	活性酸素の生成メカニズムについて解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
4	活性酸素と疾病、がん、および老化	活性酸素と疾病、がん、および老化などとの関連について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
5	抗酸化（活性酸素除去）機能	ポリフェノールなど抗酸化物質と、それら含む抗酸化機能性食品らについて解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
6	消化、吸収のメカニズム	消化、吸収のメカニズムとミネラルについて解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
7	消化吸収促進と代謝改善機能	ミネラル吸収機能食と、大豆イソフラボンなどの代謝改善機能食品について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
8	難消化性炭水化物、食物繊維機能食品	難消化性炭水化物、食物繊維機能食品および乳酸菌類について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
9	脂質関連代謝機能	n-3 系脂肪酸と n-6 系脂肪酸、ジアシルグリセロールおよび中佐脂肪酸について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
10	コレステロールの吸収・代謝	コレステロールの吸収・代謝と共役リノールについて解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
11	血圧、消化酵素阻害と糖尿病	レニン・アンジオテンシン系と血圧、消化酵素阻害と糖尿病について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
12	酸素阻害、酵素活性機能	血圧が高めのヒトのための食品、血糖値が気になり始めた人に適した食品、肥満の人のための食品および酵素活性化について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
13	免疫機能におよぼす機能	我が国における食物アレルギー患者の現状と、その発症機構および免疫機能を活性化する食品成分について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
14	神経系におよぼす機能	カプサイシン、γ－アミノ酸、杜仲葉における有用成分、食品タンパク質から得られる鎮静効果のあるペプチドなどの機能について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
15	演習	総復習	事前に、これまでの講義内容について整理しておく。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験（70%）、中間試験（30%）、講義に取り組む姿勢により、総合的に評価する。 講義に取り組む姿勢を重視する。
学生へのメッセージ	本講義により、健康と食生活とのかかわりについての知識が得られます。授業では、理解度を確認するために演習問題に取り組んでもらいます。積極的に参加して下さい。 １回目の講義で、授業の進め方や成績評価の方法について説明します。履修する場合は、必ず、出席してください

担当者の 研究室等	１号館８階　環境分析学（青笹）　研究室
備考	

科目名	人体の構造と機能	科目名（英文）	Human Anatomy and Physiology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松浦　哲郎
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	授業内容はほぼヒトの生体の話である。生体内とはとりもなおさず、10 の器官系からなる我々の体の中のしくみと働きである。しかしながら、案外、我々は自分の体の中で行われていることを知らない。この半年間、生物学のうちで最も身近な対象である人体の構造・生理を中心に解説し、併せて最近話題となっているトピックスについて解説する。
到達目標	新聞・ニュース等で解説される生物学の用語を理解し、簡単に概略を説明できる。
授業方法と留意点	ノート・講義方式。教科書およびビデオ教材を用い、ビジュアルに解りやすくやっていきたい。授業中に理解してしまえば、特に新たな勉強は必要ない。
科目学習の効果（資格）	一般教養の充実。生物・医学関連に関する記事あるいは専門書を読む際の助けとなるような知識の向上をめざす。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業中のルール説明・試験方法についてアンケート・生物の基礎知識を問う	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。
2	細胞・組織・器官・器官系	ビデオ「動物の体」。ヒトは約６０兆個の細胞から構成されている。細胞は組織を構成し、組織は器官を造る。生物における個体と細胞の関係を理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
3	細胞説・・・細胞は生物の基本単位	ビデオ「細胞説」。自然発生説から細胞説への転換。レディの実験とパスツールの実験を通して細胞の概念を理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
4	細胞膜	ビデオ高校生物「細胞膜」。細胞膜とシャボン玉の類似点と相違点。細胞膜は脂質で構成され、様々な物質を選択的に通過することができる。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
5	原形質と原形質流動	ビデオ高校生物「細胞小器官」。細胞の内部に様々な小器官が存在することを理解する。植物の細胞質を観察し、「原形質」と「原形質流動」のイメージをつかむ。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
6	細胞小器官	ビデオ「細胞と組織」。細胞の核と細胞質の概念を理解するとともに細胞内のミトコンドリアを初めとする様々な細胞小器官の名前とその機能を覚える。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
7	胃の構造と機能	ビデオ「人体−消化吸収の妙」。消化器系について基礎知識を身につける。	該当する項目について授業内容をもとに復習を行うこと
8	循環器系	循環器系について基礎知識を身につける。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
9	循環器系	ビデオ高校生物「体液」。生物の循環器系についてのしくみを理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
10	循環器系	ビデオ「人体②しなやかなポンプ心臓・血管」。ヒトの心臓の構造と機能について理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
11	肝臓の構造と機能	ビデオ「人体−壮大な化学工場・・肝臓」	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
12	生殖器系・性周期・排卵・妊娠・出産のしくみ	男性と女性のそれぞれの生殖器系の基本的な器官とそのしくみを覚える。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
13	生殖器系	ビデオ「人体①生命誕生・・・驚異の小宇宙」。生命の神秘とともに生殖器系のしくみを理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
14	総括質問とプレゼンテーション	すべての授業内容に関する質問について答えるとともに、難解だった部分を詳細に解説する。	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。
15	習熟度試験	すべての授業範囲について総括試験を実施する。	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。

関連科目	自然科学 Ⅱと連動している。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新生物図表		浜島書店
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テストを４０％、臨時テストを４０％および授業態度を２０％で評価する
学生へのメッセージ	社会人としての一般教養の幅を拡げる授業です。次週に小テストを実施するので十分に復習してください。
担当者の研究室等	枚方・薬学部 6 号館 3 階病理学研究室 1

備考	講義後の復習（ノートをまとめ、重要単語を暗記する 1 時間 X15 回）。

科目名	心理学	科目名（英文）	Psychology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	心理学のうち，特に「ことばとコミュニケーション」に関わる領域を中心に扱う。 私達はことばを用いて思考し，情報伝達を行う。その過程において，私達はどのようにしてことばを理解し，あるいは産出しているのか。また，他者とのやりとりの中では，ことばそのものの意味だけではなく，その状況に対する知識や判断，相手の意図の推測なども不可欠である。 本科目ではこのような話題について議論する。また，私達がどのようにしてこのようなことばを使えるようになったのかという観点から，こどもの言語獲得，第二言語修得についても考察する。
到達目標	言語心理学の基本的な考え方，基礎的な知識を得ることができる。そのことにより，日常生活の中で行われている言語活動やコミュニケーションについて，心理学的に説明し，考えることができるようになる。さらに，専攻言語の学習に活かすことができる。
授業方法と留意点	講義中心で行う。必要に応じて簡易実験やグループディスカッションを取り入れる。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	言語とは何か 言語の機能	本時の復習
2	こどもの言語発達１	ことばの獲得 発話の発達 ことばの発達を支えるもの	本時の予習と復習
3	こどもの言語発達２	ことばの発達の個人差 ことばと思考 新しいことばの世界へ	本時の予習と復習
4	単語の理解１	単語の認知 心的辞書の構造	本時の予習と復習
5	単語の理解２	単語の処理 単語認識と身体 心的辞書と外的語彙	本時の予習と復習
6	文の理解１	文の理解とは 意味表象の形成	本時の予習と復習
7	文の理解２	文理解の実験的研究	本時の予習と復習
8	文章理解１	文章理解とは 一貫性の確立 照応解決	本時の予習と復習
9	文章理解２	文章理解における推論 文章理解と知識	本時の予習と復習
10	文章産出	作文の過程 作文の意義 読みやすい文章とは	本時の予習と復習
11	会話１	会話の成立 対人配慮	本時の予習と復習
12	会話２	攻撃，皮肉 誤解	本時の予習と復習
13	比喩の理解	比喩の理解と認知過程 比喩の機能	本時の予習と復習
14	第二言語習得１	生活の中の学習	本時の予習と復習
15	第二言語修得２	学校などでの学習	本時の復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	レポート 100%
学生へのメッセージ	ふだん何気なく使っていることばについて，少し意識的になってみてください。
担当者の研究室等	７号館３階
備考	

科目名	住まいとデザイン	科目名（英文）	Living Environment and Design
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北本　裕之
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	古来より人間は自然の力をかりて暮らしてきており、そこには多くの知恵と工夫を見ることができる。この授業では、インテリア・住宅・建築・まちを対象として、住まい方・デザイン・環境などに関するさまざまな事例を紹介しながら、デザイン性に優れた心地の良い空間を創り出し、快適・安全に暮らすための工夫や知恵について説明する。 将来、住み手の立場として必要となる基礎知識を身につけることが目標である。
到達目標	将来、住み手の立場で、住宅を購入したり借りるようになった時に必要な基礎知識を身につけ、賢い消費者となることを目指す。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。
科目学習の効果（資格）	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス＋住居学について	授業の進め方や受講上の注意点などのガイダンを行う。また、昨今の家族形態の変化と住まいの形の変化について学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
2	住まいの歴史	住まいの歴史について、先史時代から奈良、平安貴族、武家、町人・百姓の住まい、近代の住まいまで、時系列的な住まいの流れを学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
3	現代の住まい	終戦以後の住宅事情、住宅供給体制、新しい住様式等、現代の住まいについて学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
4	気候とくらし	日本の気候・風土（災害）と暮らし（住まいやライフスタイル）との関係について学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
5	住まいと環境（Ⅰ）	人の生理機能と取り巻く環境について学び、快適な住環境について考えていく。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
6	住まいと環境（Ⅱ）	温熱、光、音、空気、都市環境について学び、良好な住環境を実現するための手法について考えていく。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
7	住まいの材料と構造	住まいの材料（土・石・木・コンクリート・鉄）とそれぞれの構造・工法について学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
8	住まいの安全	日本において多発している自然災害（震害・風害・水害・雪害等）や火災、犯罪、日常生活事故について学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
9	住まいの管理	住まいの日常管理や定期的なメンテナンス、生活財の管理と収納、家計や住居費について学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
10	集合住宅の管理	集合住宅の形式、および、運営管理システムやメンテナンスと修繕計画、近隣生活問題について学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
11	住まいづくりと住宅問題	住まいを取り巻く様々な住宅問題や公共的な住宅政策、ハウジングの方法について学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
12	快適な住まいの設計（Ⅰ）	住宅設計の法的基準や規定、住まいの敷地と住宅地の構成について学ぶ。また、人間工学的観点や近代住居計画等、様々な住居設計を考え方を学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
13	快適な住まいの設計（Ⅱ）	インテリアと家具の設計、住宅内各室（寝室・子供室・老人室・居間・食事室・台所・便所・浴室・玄関）の設計要点について学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
14	設計図の見方，描き方 住まいのできるまで	平面図・立面図・断面図等の一般図や構造図、設備図の見方、描き方を学ぶ。また、木造住宅の施工方法について学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
15	住環境の評価と問題	街並み、景観、都市施設等の住環境や住まい手から見た望ましい住環境について学ぶ。また、高齢化社会、情報化社会における住まいの問題点について考えていく。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。

関連科目：特になし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	私たちの住居学 サスティナブル社会の住まいと暮らし	中根　芳一	オーム社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			

評価方法 （基準）	各講義ごとに講義メモの提出やレポート課題の作成が課せられる。または小テストが行われる場合もある（30%）。 期末テストを行う（70%）。両者を合わせて総合的に評価を行う。
学生への メッセージ	自分の周りにある住宅や建物、街並みなどを興味を持って眺めて下さい。また、室内の家具や照明などにも目を向けてください。きっと新しい発見があることでしょう。
担当者の 研究室等	12 号館 7 階、岩田教授室
備考	

科目名	住まいとデザイン	科目名（英文）	Living Environment and Design
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	２
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩波　由佳
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	住まいは人間の生活と深くかかわっている。原初は身の安全をはかる場所として、心の拠り所として作られ、さらには快適に過ごせて美しい空間を求めて発達してきた。また住まいの成立には自然環境の他に社会的背景や文化、風俗習慣なども関連する。 この講義では、住宅、建築、インテリア、都市について、形態やデザイン様式の移り変わりを様々な角度から、映像資料などを用いて学び、基礎的知識を習得する。そして様々な時代で求められたデザインを捉え、現代のよりよい住宅、住生活を創造する感性を身に着けることを目的とする。
到達目標	日常生活において、住まいやインテリアの選定などの際に、授業で学んだ内容や優れたデザインを参照して快適で豊かな生活空間を創造できる感覚を身に着ける。 また、日本文化の基本である住宅や建築についての知識を教養として身に着けることで、留学などの海外生活や国内での留学生との交流の際に、正しく自国の文化を論じることができる能力を培う。
授業方法と留意点	板書を中心にパワーポイントや映像資料を用いて講義を行う。プリントは適宜配布する。 毎回授業終了時に授業内容に関する質問感想を提出してもらう。 参考文献や関連書籍は授業で随時紹介する。
科目学習の効果（資格）	住まい環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	住まいの成り立ち　気候風土文化 花鳥風月 ～温暖で豊かな四季の国	日本の気候風土に適した木造住宅の特徴と発達を学び、日本人の心情や文化が住宅に反映する事例を知る。 全国の民家を概観する。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
2	住まいの成り立ち　気候風土文化 白夜の過ごし方 ～厳寒の森の国	日本と同様に木造の文化を持つが気候の厳しいフィンランドの住宅、住生活について学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
3	住まいの成り立ち　気候風土文化 月の砂漠 ～乾燥とオアシスの国	湿潤な日本と対照的な乾燥地帯であるエジプトの住宅、住生活について学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
4	住まいの移り変わり・日本(1) たてにあなを掘ると… ～洞窟を出て竪穴を	人類最古の住まいはどのようなものであったか。日本での原始の住まいはどのようなものであったか。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
5	住まいの移り変わり・日本(2) 貴族の優雅、武士の剛健 ～寝殿造・書院造…	日本文化の基盤が形成された時期の住まいやしつらい、その後の展開を学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
6	住まいの移り変わり・日本(3) もっとゴージャスに！ ～豪華絢爛なる城館、邸宅	爛熟期の文化の中での書院造の完成と成熟を学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
7	住まいの移り変わり・日本(4) デザインの極みは何処に ～美をめぐる闘い　秀吉・利休・後水尾天皇	発達と洗練を加えた書院造の展開を学ぶ。現代の和風住宅につながる流れを学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
8	住まいの移り変わり・西洋(1) 全ての道はローマに通ず ～水道、見世物、大浴場	ヨーロッパデザインの根幹である古代ローマについてデザインの特徴や展開を学び、ローマ人の住生活を知る。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
9	住まいの移り変わり・西洋(2) 教会と民衆と ～キリスト教世界のくらし	キリスト教を中心としたヨーロッパの住宅、住生活を知る。基本となる様式の変遷を学ぶ。ゴシックを中心に。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
10	住まいの移り変わり・西洋(3) 荘厳なる様式 ～華麗なる宮廷生活へようこそ	人間中心となったヨーロッパの住宅、建築のデザインを学ぶ。ルネサンスからバロック。 ヴェルサイユ宮殿案内。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
11	住まいの移り変わり・西洋(4) あたらしい人と生活のデザイン ～鉄、ガラス、コンクリート	社会の変革により出てきた新しいデザイン運動であるアーツアンドクラフツ、アールヌーヴォーなどを学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
12	住まいの移り変わり・世界 あたらしい人と生活のデザイン ～普遍なるものへの旅	民衆のための合理的デザインの追求の軌跡を学ぶ。モダニズムへ至る流れ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
13	住まいのデザインを構成するもの 光　採光・照明 ～あたたかい光、クールな光	光の特徴や種類、扱い方を学び、効果的な照明による快適な空間を考える。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
14	住まいのデザインを構成するもの 家具・ファブリックス ～くつろぐ、あつまる、ぼん	家具やファブリックス、アクセサリーの種類や効果的な用い方を事例を通して学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。

	やりする		
15	住宅をデザインする 　わたしの住みたい住まい ～とにかくイメージ、そして描いてみよう	自分にとって快適な空間を考え、表現する。	住宅、建築、インテリア雑誌などに目を通して自分の好みを考えておく。

関連科目	特になし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	定期試験８０％、提出物２０％。 授業終了時の内容に対する質問、意見も加点の対象とする。
学生への メッセージ	テレビや雑誌、インターネットなどのメディアで目にする住宅、建築に関するニュースに興味をもって見てみる。ドラマや映画、音楽ＰＶで使われている場所、漫画や小説に出てくる場所など空間に対しても注目する。また友人の家やカフェやショップなどで心地よさを感じたらそれはなぜかを考えてみる。
担当者の 研究室等	
備考	授業内容に対する質問には授業時間後に非常勤講師室で対応可能。また個別にメールでの対応も可能。

科目名	青少年育成ファシリテーター養成講座	科目名（英文）	Facilitator Training Program
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野　英一
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	教養特別講義「青少年育成ファシリテータ養成講座」は、サービスラーニングの授業であり、青少年育成活動のファシリテーターとして、知識・野外活動の方法を習得し実習を通して学びと成長を得ることができる実践型学習プログラム。実践は単なる擬似的体験ではなく、人々のために役立ったという現実的な体験を得ることを目的としている。
到達目標	到達目標として自己の振り返りと自己発見、責任感、価値観・技能や知識の獲得、リスクマネジメント、社会問題の理解を果たす体験を同時に得るものである。
授業方法と留意点	大学の授業後や、授業の無い日を利用して学外活動する。週に１度、90 分の活動が基本となっているが、夏休み・冬休みなど長期の休み期間中に集中して活動することも可能。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	活動場所は、寝屋川市内の小学校、寝屋川市教育委員会関連団体、共学センター、交野市役所、門真市役所、すさみ町役場、寝屋川青年会議所等の主催・共催事業。第１回目の事前授業は４月 10 日６時限目、1134 教室で行う。 ---------- 事前教育①～⑨回分： ①活動についての心構え、授業内容の徹底周知、ファシリテーターについて ②守秘義務：活動に伴って知った情報を漏らしてはならない義務を学ぶ ③安全管理スキル：活動に伴って発生しうる事故を未然に防ぐ方法を学ぶ ④救命救護スキル：命の大切さ、命を助ける方法、ＡＥＤの使用法を学ぶ ⑤安全対策スキル：安全。衛生管理、危険予知、責任について学ぶ ⑥コミュニケーションスキル A：対象者理解、人とのかかわり方を学ぶ ⑦コミュニケーションスキル B：報告、連絡、相談（ホウ・レン・ソウ）の重要性を学ぶ ⑧コミュニケーションスキル C：アイスブレーキング手法を学ぶ ⑨コミュニケーションスキル D：指導者のあるべき姿、リーダーシップの取り方 活動（90 分×20 回分）： 受入機関において青少年育成ファシリテーター活動実践 事後教育（90 分）： 青少年育成ファシリテーター活動実践のふりかえり ---------- 履修上の注意： 学外団体との連携と信頼関係構築が必要であることから、履修希望者は事前（2017 年２月に実施）に授業担当者から、説明を受け、活動内容を確認し履修許可を受けた学生のみ履修可能となる。 事前・事後学習課題： 学外での活動に際し、各種活動（各受入れ団体によって異なる）の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成に各１時間程度行う。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	①参加日数、②実習報告書、③最終報告書、④受入機関からの調書、以上の４点を総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ	青少年育成活動を通して、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
担当者の研究室等	７号館５階　（浅野研究室）
備考	第１回目の事前授業は４月 10 日６時限目、1134 教室で行う。

科目名	生物と環境	科目名（英文）	Life and Environment
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	手代木　功基
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	環境をめぐる諸問題は、ニュースでみない日はないほど私達にとって身近な話題となっています。しかし、みなさんは環境問題を本当に理解しているといえるでしょうか？環境問題は本来複雑なことを特徴としているため、実は背景を理解するためにはさまざまな知識や考え方が必要です。本講義では、生物と環境に関わるトピックを学ぶことを通して、私達の身の回りにある環境・環境問題を正しく理解できるようになることを目指します。そして、これからの時代を生きる人類にとって避けて通れない環境問題の解決を模索していく上で必要になる考え方を身につけ、自身で情報を見わけることができるようになることを期待します。
到達目標	1. 生物や環境に関する基礎知識を習得し、自ら説明することができる。 2. 環境問題や地域の環境の実態について、自分の意見を述べるこができる。
授業方法と留意点	プリントの配布および投影資料を利用した講義形式。 理解を深めるため、映像資料やバーチャル地球儀等を利用する。また、講義中にグループワークやディスカッション、簡単な作業などを通して受講者の意見を求めることもある。
科目学習の効果（資格）	環境問題への意識向上、情報リテラシーの向上

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、テキスト、採点方法等について理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
2	地球史と生物	生物の歴史を知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
3	生物の進化と分布	生物の歴史を知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
4	生態系の構造と機能	生態系や生物多様性を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
5	生物多様性とはなにか	生態系や生物多様性を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
6	生態系をめぐる諸問題:外来生物・開発にともなう破壊	生態系や生物多様性を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
7	食としての生物	人と密接に関わる生物と環境について学ぶ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
8	身近な生物と人類	人と密接に関わる生物と環境について学ぶ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
9	里山と生物	人と密接に関わる生物と環境について学ぶ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
10	照葉樹林と日本人	地域によって異なる生態系とそれに応じて変わる文化を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
11	ブナと日本人	地域によって異なる生態系とそれに応じて変わる文化を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
12	砂漠に生きる	地域によって異なる生態系とそれに応じて変わる文化を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
13	身近な生物・身近な環境	私たちに身近な地域を事例として生物と環境を考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
14	地球温暖化とその影響	地球温暖化を事例として地球環境問題がもたらす影響を知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
15	総括	授業のまとめ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業への取り組み（リアクションペーパーの内容、小レポート、受講態度等）（40%）、期末に実施する試験（60%）で評価します。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7 号館 5 階
備考	事前・事後の学習は、全体で 60 時間を目安とします。 リアクションペーパーやレポート等の提出物に対してはコメントや質問回答といったフィードバックを行います。

科目名	生命科学入門	科目名（英文）	Basics of Life Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大塚　正人
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	生命科学は、ウイルス、バクテリア、植物からヒトにいたるまでの生命の全体像を浮かび上がらせる学問分野であり、これまであまり生命科学になじみのなかった学生も社会常識として学ぶべき科目である。 本授業では、高校で生物学を学んだことが無い学生でも、生命科学の基礎を学び、生命科学が自分たちの生活にどのような形で関わっているかを幅広く学べるように講義する。
到達目標	・生命科学の基礎を理解し、種々の生命現象を理論的に説明できる。 ・課題（レポート）に対して自主的、継続的に取り組む能力を養う。
授業方法と留意点	・毎回の講義終了時に出席票をかねたミニレポート（小テストを含む）を提出させる。 ・レポートを提出させ、その内容を評価する。レポートの題材は、いずれかの回の講義内容に直結するものを受講生が探す。 ・独自の論考を加えたものについては、高い点を与える。 ・成績判定は出席とレポートの内容を総合して評価する。 ・欠席が７回以上の場合（初回を含めて）は、レポートの採点はおこなわない。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義について 講義の受け方 生命科学のプロローグ	講師紹介、この講義の学習の仕方・評価方法、生命科学とは何かについて説明する。	講義後によく復習しておく事
2	人類はどうやって生まれてきたか	生命の起源から地球環境と生命の進化について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
3	細胞の成り立ちと遺伝の仕組み	細胞を構成する物質から遺伝子の転写翻訳、エピジェネティクス等について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
4	進化の理論	ダーウィンの進化論・分子進化学・環境適応と進化等について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
5	細胞が増える仕組み	増殖シグナルの伝達様式や細胞周期・染色体の分離と細胞分裂について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
6	性と生殖の不思議	生殖細胞と減数分裂及び幹細胞や ES 細胞・クローン、発生工学や遺伝子ノックアウト生物について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
7	老化と病	なぜ老化するのか？抗老化ホルモンやアルツハイマー病、狂牛病や夢のやせ薬について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
8	なぜ、がんになるのか？	がんをとりまく遺伝子や浸潤と転移の仕組み、がんの分子標的治療について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
9	生体防御と感染	免疫を担う細胞群や自然免疫・獲得免疫の仕組み、アレルギーやアトピー性皮膚炎について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
10	遺伝子医療と感染症	遺伝子診断とオーダーメード医療や遺伝子治療、再生医療と感染性疾患、インフルエンザ等について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
11	先端バイオ技術の応用	個人識別と犯罪捜査、遺伝子組換え植物や不毛の地の緑地化、青いバラ等について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
12	ナノテクが拓くバイオの未来	ナノテクノロジー、ナノ医療、RNA 創薬などについて説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
13	「植物の発生」	植物の基本体制や種子形成、発芽、分枝、植物ホルモン等について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
14	人類はどこに行くのか	人類と科学技術、地球上の生命にとっての人類の役割、メタンハイドレート、核融合、バイオマス等について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
15	エピローグ	この講義の総括、補習講義、全員による討論を行う。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	生命科学の基礎	野島博	東京化学同人
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	・定期試験（６０％）、レポート（４０％）、６０％で合格とする。 ・シャトルカードにより、出席確認・講義に関する質問および要望等を受け付けます。 ・欠席が７回以上の場合（初回を含めて）は、レポートの採点はおこなわない。

学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	生命と物質	科目名（英文）	Life and Materials
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松浦　哲郎
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	授業内容はほぼヒトの生体の話である。生体内とはとりもなおさず、10 の器官系からなる我々の体の中のしくみと働きである。しかしながら、案外、我々は自分の体の中で行われていることを知らない。この半年間、生物学のうちで最も身近な対象である人体の構造・生理を中心に解説し、併せて最近話題となっているトピックスについて解説する。
到達目標	新聞・ニュース等で解説される生物学の用語を理解し、簡単に概略を説明できる。
授業方法と留意点	ノート・講義方式。教科書およびビデオ教材を用い、ビジュアルに解りやすくやっていきたい。授業中に理解してしまえば、特に新たな勉強は必要ない。
科目学習の効果（資格）	一般教養の充実。生物・医学関連に関する記事あるいは専門書を読む際の助けとなるような知識の向上をめざす。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業中のルール説明・試験方法についてアンケート・生物の基礎知識を問う	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。
2	細胞・組織・器官・器官系	ビデオ「動物の体」。ヒトは約６０兆個の細胞から構成されている。細胞は組織を構成し、組織は器官を造る。生物における個体と細胞の関係を理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
3	細胞説・・・細胞は生物の基本単位	ビデオ「細胞説」。自然発生説から細胞説への転換。レディの実験とパスツールの実験を通して細胞の概念を理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
4	細胞膜	ビデオ高校生物「細胞膜」。細胞膜とシャボン玉の類似点と相違点。細胞膜は脂質で構成され、様々な物質を選択的に通過することができる。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
5	原形質と原形質流動	ビデオ高校生物「細胞小器官」。細胞の内部に様々な小器官が存在することを理解する。植物の細胞質を観察し、「原形質」と「原形質流動」のイメージをつかむ。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
6	細胞小器官	ビデオ「細胞と組織」。細胞の核と細胞質の概念を理解するとともに細胞内のミトコンドリアを初めとする様々な細胞小器官の名前とその機能を覚える。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
7	胃の構造と機能	ビデオ「人体−消化吸収の妙」。消化器系について基礎知識を身につける。	該当する項目について授業内容をもとに復習を行うこと
8	循環器系	循環器系について基礎知識を身につける。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
9	循環器系	ビデオ高校生物「体液」。生物の循環器系についてのしくみを理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
10	循環器系	ビデオ「人体②しなやかなポンプ心臓・血管」。ヒトの心臓の構造と機能について理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
11	肝臓の構造と機能	ビデオ「人体−壮大な化学工場・・肝臓」	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
12	生殖器系・性周期・排卵・妊娠・出産のしくみ	男性と女性のそれぞれの生殖器系の基本的な器官とそのしくみを覚える。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
13	生殖器系	ビデオ「人体①生命誕生・・・驚異の小宇宙」。生命の神秘とともに生殖器系のしくみを理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
14	総括質問とプレゼンテーション	すべての授業内容に関する質問について答えるとともに、難解だった部分を詳細に解説する。	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。
15	習熟度試験	すべての授業範囲について総括試験を実施する。	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。

関連科目	自然科学 Ⅱと連動している。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新生物図表		浜島書店
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テストを４０％、臨時テストを４０％および授業態度を２０％で評価する
学生へのメッセージ	社会人としての一般教養の幅を拡げる授業です。次週に小テストを実施するので十分に復習してください。
担当者の研究室等	枚方・薬学部 6 号館 3 階病理学研究室 1

備考	講義後の復習（ノートをまとめ、重要単語を暗記する 1 時間 X15 回）。

科目名	世界の政治	科目名（英文）	World Politics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中　悟
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	本講義は、比較政治学の基礎的な議論に触れるとともに、グローバル化した現代世界における政治制度の問題に注目するものである。
到達目標	比較政治学の基本的な考え方や方法論に親しむことで、それらの観点からなされる「世界の政治」に関する諸議論の意味するところを理解した上で、自らの思考を組み立てることができるようになること。 本講義を、自らが暮らす現代社会の諸問題を比較政治の視点から受講者自身が考えていくための一つのきっかけ、手がかりとすることが目指される。
授業方法と留意点	原則として講義形式をとり、教科書の内容に即したレジュメを配布する。 基本的には教科書の章立てに沿って各回完結方式で進めていく予定であるが、その内容や進行状況等によって多少の調整がありうる。
科目学習の効果（資格）	現代社会をめぐる社会科学的な議論についての基礎的な理解力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の進め方およびテキストについて導入を行なう。	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	社会科学の方法（1）	第１章　比較政治学とは何か	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
3	社会科学の方法（2）	第１章　比較政治学とは何か 第２章　制度論	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
4	社会科学の方法（3）	第２章　制度論	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
5	政治制度（1）	第３章　選挙制度	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
6	政治制度（2）	第４章　執政制度	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
7	政治制度（3）	第５章　政党制度	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
8	政治制度（4）	第６章　議会制度	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
9	政治制度（5）	第７章　官僚制	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
10	政治制度（6）	第８章　司法制度	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
11	政治制度（7）	第９章　中央銀行制度	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
12	政治制度（8）	第 10 章　中央・地方関係制度	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
13	日本の政治制度（1）	第３章　選挙制度 第４章　執政制度 第５章　政党制度	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
14	日本の政治制度（2）	第６章　議会制度 第７章　官僚制 第８章　司法制度	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
15	日本の政治制度（3） まとめと補遺	第９章　中央銀行制度 第 10 章　中央・地方関係制度	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	比較政治制度論	建林正彦ほか	有斐閣
	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	■定期試験　80% ■平常点　20%（ミニレポートを講義内で課す予定） ただし、履修者数や進行状況等によって、多少の調整がありうる。
学生への メッセージ	教科書は定期試験でも使用する。受講者は必ず購入すること。
担当者の 研究室等	7号館4階
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	橋本　正治
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	＜過疎地域における地域資源活用プロジェクト（グリーンプロジェクト）＞ 和歌山県すさみ町にある「古民家」や「豊かな自然」を資源としてとらえ、「田舎暮らし体験のための古民家再生」、イベントとして光害の無いすさみ町での「星空観望会イベントの開催」、カヌー川下りが行われている古座川での利用を考慮した「間伐材を利用したカヤック製作・試乗イベントの開催」、などをテーマとする。 「古民家再生」では、間伐材を使ったログパネルなどを利用し、いわゆる住宅リニューアルのビフォーアフターを体験する。 具体的なイベントは、地域の連携団体（すさみ町役場地域未来課）と協働して実現することになる。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 １．チームで協働して作業することの問題点や有効性を理解できる。 ２．問題が生じたときの対処手順について理解し応用できる。 ３．ものつくりにかかわる作業設計・工程設計を実際に経験し、その有用性について理解できる。
授業方法と留意点	年数回すさみ町で作業します。(2 泊 3 日を 3-4 回、7 泊 8 日夏休み中に 1 回) それ以外は大学で装置や工程の設計を行い、可能であれば装置の試作や評価を行います。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	3 年計画の 2 年目のプロジェクトです。1 年目は、古民家再生の概念設計を行い、小型の望遠鏡とプラネタリウムを製作しました。本年度は、詳細設計と改修工事、大型天体望遠鏡の製作、観望会イベントのノウハウ収集が主なテーマです。 実施手順は １．テーマの情報共有（昨年度までの成果の説明）と本年度の目的に沿った開発プロジェクトのテーマ設定 ２．現地調査とテーマの修正と具体的な開発設備・機器の決定 ３．大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う。 ４．大型装置・設備については現地で加工組み立て ５．現地で加工、施工、組み立て開始 ６．装置・設備の完成 ７．試作装置・設備による実験評価 ８．実験結果の考察と改良 ９．改良した装置について評価実験・考察 １０．現地で再実験 １１．実験結果の考察と改良 １２．最終実地評価と報告 事前事後課題は、週 1 回行う活動に対応して次回までに実施しないといけないことをチームで決定し各自が役割を果たすことでプロジェクトをすすめていく。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	通常(週 1 回の) 活動状況とすさみでの活動状況をみて十分に自らの能力を発揮しているかどうか、活動を終え自らの体験から成長点を理解できるかどうかを元に評価する。
学生へのメッセージ	「古民家再生」では建物のビフォーアフタを実体験し、イベント開催ではアイデアを実現する良い機会です。夢を実現できる実感が得られると思います。一緒に楽しみましょう。機械工学科の学生が多いのですが、これまで建築学科、住環境デザイン学科、環境環境工学科、外国語学部の参加メンバーもいました。浅野教授担当の PBL 授業「過疎地域活性化プロジェクト」と連携して活動しています。ものつくりを通じた地域活性とも言える活動です。
担当者の研究室等	８号館１階テクノセンター、１号館５階メカトロニクス研究室で活動します。
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田　裕子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	概要：本プロジェクトは、PBL プロジェクトの初年度の 2010 年から開講し、７年間続けてきた。この間、寝屋川市内での環境学習支援や、寝屋川市内をはじめとする淀川水系の各地で様々な団体と連携し親水活動、環境保全活動や流域住民への環境・防災に関する啓発活動を行ってきた。 2017 年度も引き続き、寝屋川市立池の里市民交流センターでの子どもたちへの環境学習支援に、学生が企画・実施担当として関わることで、市民ボランティアと 子どもをつなぐ架け橋となることを目指す。また、淀川や芥川を中心に水辺整備活動を行い、淀川水系の流域連携活動を行う。 目的：池の里市民交流センターの活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組み力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 地域の子どもたちの環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での天然アユ復活や巨椋池ビオトープを題材に学習・調査を進める。プ ロジェクト全体を通して、世代を超えた人々と交流することでコミュニケーション力を学び、自分たちで企画・実践する力を身につける。
授業方法と留意点	連携内容・方法：池の里市民交流センターでは、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。 留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト 内容：　１．寝屋川市立池の里市民交流センターにおける環境学習支援 ２．巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施 ３．淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 ４．天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 ５．天然アユ復活プロジェクトの学習 ６．いい川・いい川づくりワークショップ等での発表 方法：授業のうち半分（月１回）は原則として平常授業期間内の土曜日２･３限に行い、主として午前中は学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、午後は池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9 月と 12 月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。他の半分（月１回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。 学外発表の場として、近畿水環境交流会（7 月）、天若湖アートプロジェクト（8 月）、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11 月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。 事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、前期・後期末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。
関連科目	自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C 科） 科学技術教養 C1・C2
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%) 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)
学生へのメッセージ	子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。
担当者の研究室等	１号館３階　石田准教授室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野　英一
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力（資源）を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。 地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の３種類。 ①調査：地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画：具体案を立て、評価（実現可能性、コスト、実施期間、有効性）を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施：実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告：プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と留意点	プロジェクトの実施地は、和歌山県西牟婁郡すさみ町です。活動にかかる交通手段は、バスを大学でチャーターして移動します。宿泊は、摂南大学すさみ町活動拠点（廃校になった小学校の校舎）を使うため宿泊費用は発生しません。プロジェクト実施については、調査状況に基づき事前に学内で協議して現地活動を行います。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	すさみ町は人口が約 4700 人で、39 ある集落のうち 18 が限界集落の町で、その中の１つ、佐本・大都河地域は人口約 360 人、高齢化率 60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティーの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化（社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など）を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。 すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィシュトーナメント」「ケンケン鰹祭り」の運営協力、220 年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。 大阪府寝屋川市からすさみ町まで､貸切の大型バスで片道５時間という距離である｡この距離が PDCA を行うために重要なキーポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港（大学）を出港（出発）して、遠洋（すさみ町）で漁業（活動）するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段など PDCA を現実に体験する。 事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	参加態度 40%、企画力 20%、コミュニケーション能力 20%、発表能力 20%で評価する。
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。
担当者の研究室等	7 号館 5 階　浅野研究室
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保　貞也
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト　?産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる? 地元の産業を活性化させる商品企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の企画・運営、社会教育への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ・地域の課題を認識する ・課題を解決する方法を考える ・解決策を実行する ・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する 以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。
授業方法と留意点	学内でのレクチャー（学部講師を含む）、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。 プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。 参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ】 学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト　?産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる? 【内容】 対象予定とするプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬けの続編や販売展開（寝屋川市、京都市ほか）、ビジネスプランコンテスト、平和教育に関するイルミネーションイベント（枚方市）、大学共同のイルミネーションイベント（茨木市）、スポーツ教室運営（門真市）、地域の IT スキル測定と教育（摂津市）、歴史資産の展覧会企画（河南町）などである。 【方法】 ・レクチャー ・グループ学習 ・オンラインミーティング ・博物館や自治体の見学会 ・実地調査 ・企画書や報告書の作成 ・学外でのプレゼンテーション など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。 【事前学習課題】 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。 【事後学習課題】 プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学（消費者）、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価から総合的に評価する。
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。
担当者の研究室等	11 号館 7 階　久保准教授室、針尾准教授室、牧野准教授室、山本准教授室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂　貴恵
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	和歌山県由良町の地域ブランドを創造するため、地域資源を使った商品等を開発し、販売をしていく。それにより、由良町の交流人口を増やし、地域経済活性化の一助とする。 今年度は①由良町観光パンフレットの多言語化 ②ゆらの助をゆるキャラグランプリで優勝させよう大作戦 ③「海の学校」の企画、運営　　を行います。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ①由良町の地域資源を発見する。 ②パンフレットの作成。 ③企画立案の手法を習得する。 ④企画したものをカタチにする。 ⑤自ら考え行動できる力をつける。 ⑥チームで活動できる力をつける。
授業方法と留意点	講義とフィールドワーク 由良町へ出向き現地調査や成果発表を行います。 企画立案したものをカタチにしますので、無責任な行動はやめてください。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	１．オリエンテーション 今後の進め方、グループ分けを行います ２．由良町の現状を学ぶ１ 由良町の抱える問題について学びます。　事前学習：由良町の WEB サイトを閲覧する 事後学習：総合戦略の報告書を理解する ３．マーケティング　商品開発について１ マーケティングの基礎を学びます。　事前学習：あらかじめ配布されたテキスト等を読んでくる 事後学習：学んだ内容を復習する ４．マーケティング　商品開発について２ マーケティングの基礎を学びます　事前学習：あらかじめ配布されたテキスト等を読んでくる 事後学習：学んだ内容を復習する ５．地域資源の発掘 グループごとに地域資源について意見交換　事前学習：由良町の地域資源について調べる 事後学習：意見交換の結果をまとめる ６．パンフレットの原案作成 グループで活用できる地域資源について意見交換 事前学習：意見交換結果をふまえパンフレットに使えそうな地域資源を検討 事後学習：活用できるものを絞り込む ７．ゆらの助をゆるキャラグランプリで優勝させよう大作戦の企画立案 企画案の議論を行う　事前学習：アイデアを考える 事後学習：グループで出された案をまとめる ８．７の企画案を固め、準備していく 企画を実行するために何が必要か、タイムスケジュール、役割分担を決める 事前学習：企画案を理解し、自分が推すものを決める 事後調査：決まったことを整理 ９．７の実現 事前学習：イベント準備 事後学習：振り返り 10.「海の日」イベント企画　事前学習：自分の案を企画する 事後学習：データ整理 11.１０企画案を固め、準備していく 企画を実行するために何が必要か、タイムスケジュール、役割分担を決める 事前学習：企画案を理解し、自分が推すものを決める 事後調査：決まったことを整理 12.11 の実現 事前学習：イベント準備 事後学習：振り返り 13.全体ふりかえり この間に中間報告会、最終報告会が入ります。
関連科目	各学部マーケティング関連科目
教科書	番号 ／ 書籍名 ／ 著者名 ／ 出版社名

教養科目

1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞出版社
2	地域マネジメント戦略	池田潔ほか	同友館
3			

評価方法 （基準）	プロジェクトへの参加度　50%　　提出物　50%
学生への メッセージ	和歌由良町は過疎地域です。日本にはこのようなまちが沢山存在しています。授業で学んだことを、このような地域でどのように生かせばいいかを体験学習を通じて考察してほしいと思います。中途半端な気持ちでは最後まで続きません。ある程度の覚悟を持って参加してください。最後までやりとおすことができ、企画がカタチになれば、みなさんの達成感は半端ないものになることをまちがいなしです。
担当者の 研究室等	11 号館７階　鶴坂研究室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	尾山　廣
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	最も身近な自然現象を創りだす“星”にまつわる科学を、現在稼働していない交野市のプラネタリウムを学生自ら操作し、星の動きや種類・神話を交えて、交野市の小学生に向けた自然科学(宇宙や生命の誕生)の楽しさを伝える上映プログラムを製作する。今年度は、中学生を対象に、上演を試行し、その結果も踏まえて、一方的でなく小学生が自分の星座をつくるなどの参加型のプレゼンテーションを開発する。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 天体の基礎的な知識を身につける。 プラネタリウムの基礎知識を修得する。 星のまち交野の特徴を説明できる。 様々な問題について理論的・分析的な関心をもてる。 小学生に星の神秘を伝えることができる。
授業方法と留意点	松尾研究室、川上研究室、尾山研究室のゼミ生と同時に活動する。主な活動期間は 2017 年 5 月～2018 年 1 月であり、月２回の全体ミーティングと年間 9 回の交野市での活動を予定している。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	・プロジェクトの概要と基本方針の説明(評価法の提示) ・プラネタリウム見学(連携団体との協議を含む) (1) 投影機本体の状態把握、ドーム（10m の半球形空間）の空間使用案と投影案を決定 (2) 年間計画の策定(到達目標の修正と日程の調整) ・プラネタリウム投影機のメンテナンスと並行して上映プログラムを決定 ・プレゼンテーションに必要なフィルムやスライドの作成 ・交野市理科教室参加の中学生をゲストに、プレゼンテーション(中間発表)を試行 (3) 問題点の抽出と修正案の検討(連携団体との協議を含む) ・追加スライドの作成と上映プログラム全体の問題点の改善と内容の修正 ・トライアル上映会の試行と最終プログラムの策定(連携団体との協議を含む) ・交野市小学生(または交野市教育委員会関係者)を対象に上映会を試行 ・プロジェクトのまとめと今後の方向性を確認(連携団体との協議を含む) 上記の項目を 2017 年４月～2018 年１月に実施する(機器の状況により変更がある)。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	①天体・星の知識(プレゼンテーションを含む)やプラネタリウムの操作方法を理解できている。②空間(半球形空間)を利用した効果的なプレゼンテーションを考えている。③小中学生や外部の方々との接し方(態度)ができている。 以上の３点について、ﾙｰﾌﾞﾘｯｸ評価表などで評価を行う。
学生へのメッセージ	理科教育プログラムの開発（ソフト）を目的とするため、教職希望の学生など、星が好き、子供たちに教えることが好きな学生を募集しています。
担当者の研究室等	理工学部生命科学科（松尾先生、尾山）は１号館８階または９階、住環境デザイン学科（川上先生）は１２号館７階に教授室がある。
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	居場　嘉教
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	〈摂大ブランド商品の企画プロジェクト〉 様々な大学でオリジナル商品が作られており、食品・お酒・化粧品から文具・雑貨に至るまで多種多様なものがある。本プロジェクトでは、各大学のオリジナル商品を調査し、それらを整理・分析することで、摂南大学オリジナル商品の目指すべき方向性を明らかにする。さらに、いくつかの商品候補について、商品開発に向けた具体的な方略を考え、次年度以降の商品開発プロジェクトに繋げる。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 １．必要な情報を収集することができる。 ２．情報を整理し、分析することができる。 ３．お互いに意見を出し合い、それらを集約できる。 ４．結果を第三者に説明できる。
授業方法と留意点	４人の教員が担当し、１グループ５人（合計 20 名）までの少人数で活動を行う。 そのため、各自が役割を果たし、積極的に取り組むことが求められる。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	次年度以降の商品開発プロジェクトに繋げるための萌芽的な取り組みである。 実施手順は以下のとおりである。 １．新聞やインターネット上の情報の中から、必要な情報を探し出す。 ２．集めた情報を一定の形式に整理する。 ３．それらをインパクトの大きさおよび実現可能性の観点から整理・分析する。 ４．お互いに意見を出し合い、摂南大学オリジナル商品の方向性を決定する。 ５．候補商品についてグループごとにプレゼンテーションを行い、候補商品を絞り込む。 ６．候補商品（１～数個）に対する連携企業を探す。 週１回行う活動に対応して、次回までに行わなければならない課題を決める。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	活動状況、取り組む姿勢および活動成果を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	居場講師室（1 号館９階）、木村准教授室（1 号館８階）、船越准教授室（1 号館９階）、青笹教授室（1 号館８階）
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	一色　美博
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	ミニ鉄道プロジェクトとして、レール間隔３．５インチ、５インチのミニ鉄道を製作し、各種のイベントにおいて運転会などの企画・運営を行う。 蒸気機関車、電気機関車や客車の製作に加えて、軌道、鉄橋、駅舎なども製作し、イベント会場などで運転会・展示会を催す。 また、運転会・展示会では製作過程や駆動原理などの展示を行い、参加者のものづくりへの関心を高める。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、 「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、 「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 蒸気機関車や鉄道施設などの製作を通して、ものづくりの技術を能動的に習得する。 イベントにおける運転会の企画・準備・運営を通して、目標達成のために自律的に計画し遂行する能力を身につける。
授業方法と留意点	週１回のミーティングでプロジェクトの企画、運営、製作について、計画や進捗状況の報告を行う。履修者が決定する時間割に従って、テクノセンターで部品を製作し技術を習得する。 この科目では、能動的に活動できる能力を培うことが大きな狙いである。 与えられた課題に対して全貌を把握した上で計画を作り、その計画を確実に実行する姿勢を学んでほしい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	本年度はレール間隔３．５インチ、５インチの蒸気機関車の製作を継続するとともに、運行イベントの企画・運営を行う。 １．教員の指導の下に目標と計画を作る。 ２．計画に従って、技術指導を受けながら蒸気機関車、鉄道施設を製作する。 ３．計画からの遅れには対策を講じる。 ４．製作時に利用する金属材料、工作機械、工作方法などについては図書館で調べ知識を確かなものとする。 ５．運行イベントの企画・運営を計画し、実施する。 ６．計画、進捗状況、調査結果等をミーティングで報告する。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	汎用的能力（40%）、主体性・柔軟性・課題発見解決（30%）、貢献度（30%）について、ミーティングでの報告、イベントや作業時の態度で評価する。
学生へのメッセージ	与えられた環境、条件のもとで、工夫して自律的に課題を達成できる能力は、社会人として必須の力です。この授業で「指示待ち」から「自ら行動する」姿勢を学んでください。
担当者の研究室等	担当者の研究室等 １号館３階　一色教授室 ８号館１階　テクノセンター
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田中　賢太郎
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	テーマとしては、橋梁模型コンペティションの参加に見るエンジニアリングデザイン教育である。橋梁模型ブリッジコンペティションは、学生自身が橋梁の設計、製作と架設を行い、“ものづくり”の真の楽しさを経験するコンペティションである。基本的な工学知識の応用力、課題解決能力、プレゼンテーション能力を培うこと、学生や参加者の協調性を養うことを期待している。エンジニアとして大切な要素である課題解決力・実践力・チームワーク力・協調性なども身につけさせる。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 橋梁模型製作においてある制約条件の下、アイデアを出ししっかりとディスカッションでき、課題解決し計画通りに実行できる。チームワーク力を高めるように参加者には協調性なども学ぶ。また、これまで学習したことを復習し応用できる。また、専門的に学んでいる学生と他分野で学んでいる学生とで協力し合うことにより、新しい発想や役割分担が出来るのでチーム全体の能力が向上することも期待する。
授業方法と留意点	構造力学・鋼構造学などの座学に加え、AutoCAD の使用方法、橋梁模型およびポスター作成のデザイン能力、プレゼンテーション能力、解析ソフトウェアの使用方法などの知識・技術の習得が必要である。教科書を補足するプリントを随時配布し、進捗状況を確認しながら授業を進める。これまでの構造力学の教科書や計算機、メモ用紙を毎回持参するようにしてください。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	課題名：橋梁模型コンペティションの参加に見るエンジニアリングデザイン教育 授業概要・流れ 現場見学を実施し、実際の構造物を見て構造を理解し、また、橋梁の補修・補強の技術や耐震補強の技術を学ぶ。実際のフィールドで学んだことを活かし、橋梁模型をデザイン・製作する。さらに、橋梁模型コンペティションに参加して、学生自身が橋梁の設計、製作と架設を行い、“ものづくり”の真の楽しさを経験することである。基本的な工学知識の応用力、課題解決能力を培うこと、学生や参加者の協調性を養うことを期待している。 0.専門知識の習得（復習・新たに勉強）、現場見学を実施することによる学び、1.制約条件の確認、2.構造形式を決定（調査・ディスカッションなどで）、3.図面化、4.解析ソフトウェアを用いた数値計算、5.模型製作、6.ポスター作成、7.プレゼンテーションの資料作成、8.コンペティション参加、9.成果報告および反省会 「前期」 ・コンペティションの制約条件の確認 ・構造形式のディスカッション、解析により数値計算 ・図面化 ・プレゼンテーション資料・ポスターの作成、橋梁模型製作 ・橋梁模型製作、前期で目標にしているコンペティションへ参加 「後期」 ・コンペティションの制約条件の確認 ・構造形式のディスカッション、図面化 ・ポスターの作成、橋梁模型製作 ・橋梁模型製作、後期で目標にしているコンペティションへ参加
関連科目	構造力学基礎、構造力学基礎演習、構造力学Ⅰ・Ⅱ、鋼構造学、ＣＡＤ実習

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『基本を学ぶ構造力学』	崎元達郎	森北出版
2	『新編 橋梁工学』	中井博・北田俊行	共立出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『「道路橋示方書・同解説」（共通編，鋼橋編）』	日本道路協会編	日本道路協会
2			
3			

評価方法（基準）	上記の到達目標に対して、計画をたてて、工程表を作成ししっかりと役割分担表を作成する。計画通りに進んでいるか、また計画通りに進んでいない場合は、どういうふうに考えて乗り越えたかなどの資料を残していく。プロジェクトにおける成果をまとめて資料を作成する。この作成した資料をみて評価する。まとめ資料は提出を求めるので、項目抜けがなく、かつ、丁寧にかくこと。 また、確認テストを実施する。
学生へのメッセージ	参加するブリッジコンペティションは、学生自身が橋梁の設計、製作と架設を行い、“ものづくり”の面白さや楽しさを経験するコンペティションである。基本的な工学知識の応用力、課題解決能力、プレゼンテーション能力を培うこと、学生や参加者の協調性を養うことを期待している。また、分野外の方の参加も大歓迎。
担当者の研究室等	１号館３階　田中准教授室
備考	構造力学系の知識、ＣＡＤの知識を復習または勉強すること。また、数値計算に慣れること。自らの手を動かして頑張りましょう。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	大田　住吉
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	・学ぶのは、「ビジネス戦略」です。本 PBL のプロジェクトテーマは、「交野市との連携事業～起業・創業を応援する取組み～」です。文系・理系を問わず、それぞれの立場で地域社会（交野市）の異世代の人々と交流し、「ビジネス戦略」を考え、学生自身がこの授業・活動等をプロデュースします。 ・主な学修テーマは、以下のとおりです。 ① 新たにビジネスを始め、それを軌道に乗せるためには、何を、どのように準備・実践すれば良いのか？ ② 学生の目線と地域社会（交野市）の異世代の人々の目線は、何が違うのか？ ③ 学内の授業と学外の活動との相乗効果を、どう実現するのか？ ④ 自分自身が PBL プロジェクトから何を吸収し、また何が貢献できるのか？
到達目標	【本 PBL プロジェクトの到達目標】 ・実社会で「戦力」として通用するビジネスリーダーを養成することが、本 PBL の到達目標です。 ・地域社会の実際のビジネス現場において「戦略」を分析し、判断し、表現する、実践的な知識および能力を身につけることができます。 【摂南大学 PBL プロジェクト到達目標（全プロジェクト共通）】 ・本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と留意点	・大きく分けて、学外の PBL 活動と学内の PBL 授業に分かれます。 【学外 PBL 活動】 ① 交野市において、地域住民、行政、商工会議所、金融機関等と連携し、「起業・開業のビジネス戦略」について体験・活動します。 ② 各学生の希望に応じて小チームに分かれ、「交野おりひめ大学」（市民大学）における蕎麦づくり、地酒づくり、自然農法、歴史文化、商品企画等の戦略プロデュースにも関わってもらう予定です。 【学内 PBL 授業】 ① 上記の学外活動におけるヒアリング結果、成果物等について学生同士で報告し、全員で情報共有するとともに、今後の課題について検討します。 ② 「起業・開業ビジネス」に関し、実例にもとづくアクティブラーニング(少人数グループ討議形式のケースメソッド)授業を実施します。学生同士のグループディスカッション、プレゼン、質疑応答などを徹底的に繰り返し、明るく、楽しく、わかりやすく学びます。 【授業・活動上の注意点】 ① 年間を通じて、単位取得に必要な授業・活動時間数を確保します。 ② 実際の PBL 授業・活動は、土日祝日等に実施される場合があります。 ③ 先方(交野市関係者)のご事情等により、授業・活動内容が一部変更となる場合があります。 ④ 本 PBL 履修の募集定員は、30 名(ゼミ生含む)程度です。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	【４月】 ①小テスト～交野市の現状と課題～、②この授業の受講目的・ニーズの個別ヒアリング、③PBL ガイダンス 【５月】 ①交野市の現地ビジネス視察、②交野市の現状と課題について整理 【６月】 ・「起業・開業ビジネス」に関するアクティブラーニング(少人数グループ討議形式のケースメソッド)授業 【７月】 ①七夕イベントなど現地活動への参加・企画体験 ②「起業・開業ビジネス」に関するアクティブラーニング(少人数グループ討議形式のケースメソッド)授業 【８～９月】 ①小チーム(4～5 人程度)に分かれ、複数の現地関係先へのヒアリング調査、面談メモ提出 ②後期 PBL 活動における所属小チームの決定 【10～11 月】 ①小チーム(4～5 人程度)に分かれ、現地での PBL 活動、毎回の活動報告提出 ②関連業界調査、資料・データ等収集、市役所、商工会議所、金融機関など関係先へのヒアリング、面談メモ提出 ③各チーム同士の報告会、反省と課題整理 【12 月】 ①成果と検証（何をアウトプットするのか？）、②最終成果発表準備 【１月】 ・最終成果発表（学内） 【２～３月】 ①最終成果発表(学外、第三者評価含む)、②次年度への課題・引き継ぎ事項 【事前学習課題】 ・必ず、毎回の授業・活動において、次回までの事前学習課題を学生自身で考えます。自分なりに取り組み、次回に発表できる様にして下さい。

教養科目

	【事後学習課題】 ・毎回の授業・活動におけるポイント、キーワード、失敗体験などを記録・保存し、次回以降に活かし、実践できる様にして下さい。
関連科目	・２年次…企業論、３年次…経営戦略論、企業分析(経営戦略ケース分析)、ものづくりと経営など ・各学生が所属する小チームのプロジェクトテーマに応じ、修得が好ましい授業科目を紹介します。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教員によるオリジナル作成のビジネス・ストーリー教材を配布・使用する場合があります。		
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	受講学生のニーズに応じて、都度紹介します。		
2			
3			

評価方法 （基準）	① 本 PBL 授業・活動に対する参加意欲・貢献度（50%）、 ② 本 PBL 授業・活動における成果物、プレゼン内容、プレゼン力（25%）、 ③ 交野市関係者を含む学内外の第三者評価（25%） による総合評価。 ただし、原則として毎回の授業・活動の都度採点し、集計します。
学生への メッセージ	・PBL の最大のメリットは、通常の授業では決して経験できない、実践的な現場体験学修ができることです。 ・35 年間の民間企業・公的機関等でのビジネス経験やコンサルティング経験をもとに、皆さんと熱くディスカッションしましょう！ ・失敗は大いに結構です。実社会に通用する真のビジネスリーダーにチャレンジしたい人、大歓迎です。
担当者の 研究室等	11 号館 7 階　大田住吉研究室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井　信輝
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーＡリーグの PR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。将来的には 2019 年ラグビーW杯に向けてのインバウンドへと繋げる。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態（座学、現地調査）を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々と調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	以下の手続きで授業を展開する １．プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 ２．マーケティング手法の学習（座学による） ３．連携先との面談 ４．連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 ５．学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査 ６．広報誌制作準備（広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行） ７．学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL 中間報告会、広報誌の発行、来場者への 　　アンケートの実施 ８．まとめと最終報告会
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	活動報告、活動現場での取り組を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	積極的に活動してください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井准教授室 ７号館３階　水野講師室
備考	

教養科目

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	内部　昭彦
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	大阪府下の小学校や、スポーツ少年団などと協働し、実際のスポーツ活動の運営や指導を行うことで、小学生のスポーツ活動を活性化させ、実社会でも求められるリーダーシップを育成する。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ①　小学生の運動活動を活性させると共に、スポーツの定着を図り、子供の体力向上に寄与することができる ②　小学校やスポーツ少年団のスポーツ活動の運営や指導をすることによりリーダーシップを育成することができる
授業方法と留意点	学内での事前学習を行った後、学外の小学校及びラグビースクールに出向き、タグラグビーを指導する。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	子供たちのスポーツ活動の活性化を目指すことがテーマである。 また、プロジェクトの前段階として現状の把握を行い、ジュニア期の指導法とリスク管理を理解させ、学生が自らプランを立てることができるよう指導する。その後、実際に実習を行い、課題を検証し、次回の実習までに改善させる（フィードバック）。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	実習（小学校に訪問し指導サポート）や発表会の参加は必須とし、事前学習の評価、実習の評価、研究発表の評価を総合してルーブリック評価で判定する。
学生へのメッセージ	積極的な参加を期待します。
担当者の研究室等	総合体育館１Ｆ　内部研究室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	藤林　真美
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	北河内および和歌山にお住いの高齢者が、スポーツを通して明るく元気な生活を送ってもらえるような提案を行い、高齢者と活動を共にするプロジェクトです。 高齢者は学生との交流により心身が活性化し、健康を維持・増進できます。皆さんの運動の得手不得手は全く問いません。「おじいちゃん・おばあちゃんが大好き、高齢者福祉に役立ちたい」と思っている学生の履修を期待します。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 プロジェクトとしての達成目標 1. チームのなかでの役割を認識し、主体的に行動できるようになる。 2. 計画を立て、段取りが組める。 3. 超高齢社会の現状を理解し，高齢者の健康増進について提案ができる。 プロセス 1. 学生や学外者とのコミュニケーションをとり、問題・課題を迅速に把握し対応する。 2. チームで仕事をするときの方法を学ぶ。
授業方法と留意点	他者（プロジェクトメンバーや連携先）のことを慮りながら、能動的に参加してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	■4 月 ・ガイダンス ・高齢社会および高齢者の身体について学ぶ ■5 月 ・グループ決め ・活動内容の検討 ・寝屋川市高齢介護室および枚方市地域包括センターへ提言、内容検討 ■6 月? ・北河内にて活動開始 ・由良町へ提言、内容検討 ■10 月 ・中間報告会 ・由良町にて活動 ■１月 ・最終報告会 ■2 月 ・ふりかえり ・総括
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
評価方法（基準）	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。
学生へのメッセージ	現場の視察と活動を繰り返し行いながら、皆さんのアイディアを形にしてゆく授業です。 主体的に取り組んで、活動しながら改善点を見つけていってください。
担当者の研究室等	総合体育館１階　藤林研究室
備考	

教養科目

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	【テーマ】　紙芝居ボランティアを通した社会貢献 【概　要】　寝屋川市の自転車安全条例を小学生に伝える紙芝居の読み聞かせ，および，門真市の民話に関する紙芝居の作成と上演活動を行う。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 役割意識や自己効力感を育むために、仲間と協働しながら社会に貢献する喜びを体験する。
授業方法と留意点	学生が中心となって活動する読み聞かせボランティアのプロジェクトです。 全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【方法】 ・寝屋川市役所や警察署のご担当者，門真市役所や歴史資料館のご担当者の方と学生が直接連絡をとり，相談して活動内容や日時を決定する。 ・毎週一回のミーティングと報告書で情報共有を図り、必要に応じて適宜集合して練習、作業などを行う。 ・活動内容は、大学ホームページなどで学外にも公表するとともに、中間報告会、最終報告会などでも発表する。 【内容】 年間を通じて、市と連携して読み聞かせ活動を実施する。 ・寝屋川市自転車安全条例普及のための紙芝居 寝屋川市安全協会の活動に同行し，近隣の小学校で自転車事故の減少のために前年度作成の紙芝居の読み聞かせ活動をする。 ・門真市の民話を語り継ぐための紙芝居 門真市役所や歴史資料館のご担当者の方と相談して活動内容を決定する。既存のイベントへの参加，学生自らイベントの企画提案，幼少学校での上演などが考えられる。さらに，門真市の民話をもとに紙芝居を作成する。 ・その他 適宜、要請に応じて紙芝居を作成したり、読み聞かせ活動を実施することがある。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全体で行う活動やミーティングの参加態度（40%）、自分の役割に対する貢献（40%）、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表（20%）
学生へのメッセージ	昨年は寝屋川市の小学校だけでも多数活動しました。さらに、夏休みも利用して紙芝居の読み聞かせの練習・実演を行うなど、活動は大変ボリュームがありました。 今年も同様にボリュームのある活動になると思いますが、そのぶん達成感や団結力がつよくなると思います。 プロジェクトを通して、社会と関わり、仲間と試行錯誤する難しさ、楽しさを体験してください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　キャリア教育推進室　水野　武
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	林　茂樹
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	寝屋川市成美小校区地域協働協議会青少年部会のみなさんと連携して、成美小学校在籍児童に将来の社会生活に向けてのお金との付き合い方を学んでもらうために、経済のしくみや街の経済の動き等について、体験的な学習を軸にした学習プログラムを作成・実施する。 　社会的活動への貢献を通しての社会の中での役割の自覚、地域経済、子どもを取り巻く教育環境の調査・分析に基づいた課題の明確化・抽出化、子どもを相手にした教育行為の省察等を通して、自らも成長を実感することをねらいとする。
到達目標	本プロジェクトは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 　また、次の事項を具体的な達成目標として設定する。 ①地域の社会的活動への参加を通じて自らの社会的役割を自覚できるようになる。 ②経営と教職の学生がコラボすることにより相互に学び合いをすることができる。 ③経営学部生は経営学的な研究方法により各団体機関が実現しようとしている企てを把握し、その評価をする経験を積む。 ④教職履修学生はメンター的な関りによって子どもたちに寄り添う経験、作成した教材を教授場面で臨機応変に修正する経験を積むとともに、学習場面での発問、説明、指示、助言など、子どもたちの思考や行動への具体的な働きかけの経験を積む。
授業方法と留意点	寝屋川市成美小校区地域協働協議会のメンバーとプログラムの準備・実施・総括の全過程を、協力協働しながら進めます。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	4 月～6 月 　プログラムコンテンツの作成 　体験実習先の選定、小学生向けの学習プログラムの検討、地域の調査等 　学習指導要領・教科書の関連内容の調査、ワークショップの準備等 7 月～8 月 　①小学生・摂大生の初セッション（アイスブレーキング、グループワーク） 　②フィールドワークⅠ（例えば、日銀大阪支店、造幣局本局大阪工場） 　③フィールドワークⅡ（例えば、地元運動団体、地元商店街） 　④フィールドワークⅢ（例えば、寝屋川市役所、北大阪商工会議所等） 　⑤学習会（例えば、家族でもともに学ぶ機会を設ける） 　9 月～10 月 　①体験活動の振り返り 　②摂大祭りでの発表・展示（中間報公開を兼ねる） 　小学生・保護者・協働協議会員を招待 1 月 　最終報告会
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	企画書、活動報告書、リーダーシップ、レポートを総合的に評価する。
学生へのメッセージ	経営学部と教職課程履修学生以外の学生の参加も歓迎します。
担当者の研究室等	林研究室（7 号館 3 階） 鶴坂研究室（11 号館 7 階）
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	荻田　喜代一
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	【テーマ】 ビジネスパーソンのための夜間連続講演会『インテリジェントアレー撰壇塾』の企画・運営 【概要と目的】 公益財団法人関西生産性本部が開催予定の『インテリジェントアレー撰壇塾』の企画・運営を通して、ビジネスマナー、ビジネスコミュニケーション、段取り・タイムマネジメント、コストマネジメント、マーケティングを中心とした社会人基礎力を学習する。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 また、ビジネスマナー、ビジネスコミュニケーション、段取り・タイムマネジメント、コストマネジメント、マーケティングを中心とした社会人基礎力を身につける。
授業方法と留意点	活動は、主に学内と OIT 梅田タワーで行う。 本学的な活動を行う前に、コミュニケーション研修やビジネスマナー研修を行う。 アドバイスは教員に加えて、連携先の関西生産性本部の職員が行う。 関西生産性本部の HP を必ず閲覧すること
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期のビジネスパーソン向けの講座の企画、講師の折衝、広報、講座の運営を公益財団法人関西生産性本部の担当者にアドバイスを受けながら実施し、身に付けたスキルを生かして後期の講座を実施する。その過程で、上記目標の達成を目指す。 (2017 年) 3 月　　オリエンテーション(研修) 3～5 月　前期日程の企画検討、講師選定、講師折衝、企画完成、企画案内(HP など)作成、告知等のマーケティング 6～8 月　講座実施、運営補助 8～9 月　前期まとめ、中間報告 9～10 月　後期日程の企画検討、講師選定、講師折衝、企画完成、企画案内(HP など)作成、告知等のマーケティング 11 月　　講座実施、運営補助 (2018 年) 1 月　　学内 PBL 発表会 2 月　　年間まとめ、年間の結果報告
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
評価方法（基準）	PBL での活動による成長内容をルーブリックで評価する（５０％） 提案書等のレポート（５０％） ６０％で合格とする。
学生へのメッセージ	本プロジェクトにおいてかかわる人々はすべて社会人ですので、社会人マナーが必要となります。 社会人マナーが身につける学修態度が重要です。また、協働できる学生を求めます。
担当者の研究室等	・荻田喜代一（薬学部教授・教務部長）：寝屋川キャンパス 11 号館 10 階あるいは教務課、枚方キャンパス 1 号館 6 階薬理学研究室（履修者には詳細な連絡先を周知します） ・水野　武（教務部キャリア推進室）：寝屋川キャンパス、７号館３階 ・今井起代（就職課長）：寝屋川キャンパス１０号館１階、就職部
備考	

教養科目

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	西之坊　穂
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	企業の若手を対象にしたリーダーシップ研修の企画提案プロジェクト　－中小企業にフォーカスして－ 【目的】 本学の教育理念である「自ら課題を発見し、そして解決することができる知的専門職業人の育成」を実践することを目的とする。 【概要】 リーダーシップに関する理論的知識をベースに、若手リーダーに育成したいリーダーシップについて大手企業の管理職以上数名にインタビュー調査を行い、商工会議所にリーダーシップ研修の企画提案を行い評価してもらう。また、プロジェクトのプロセスを通じて参加者のリーダーシップを開発することも目的とする。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、『主体性を持って前向きに取り組む力』、『自分とは異なった価値観を受け入れる力』、『課題を発見し、解決する力』を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 （1）リーダーシップに関する知見を知る （2）企業の若手に求められるリーダーシップの内容を理解し、企画提案力を身につける （3）プロジェクトの活動を通じてリーダーシップを身につける 以上の成果を得るため、学生が自ら課題を発見し、プロジェクトのメンバーと協働して、課題の解決に取り組む創造的・社会的な学びを得ることが到達目標である。
授業方法と留意点	まず、学内でのレクチャー、プロの研修講師によるリーダーシップ研修を受講することで、リーダーシップに関する知識とスキルの向上を図る。 また、企業訪問を数回行い、実務家と交流を繰り返すことで組織社会化を促進する。 最後に、このＰＢＬのプロセス全体を通じて、参加者自らのリーダーシップを開発する。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ】 企業の若手を対象にしたリーダーシップ研修の企画提案プロジェクト　－中小企業にフォーカスして－ 【内容】 （1）基本的リーダーシップ理論の理解 （2）実務家との交流による組織社会化の促進 （3）提案およびフィードバックの繰り返しによる提案力の向上 （4）プロジェクトのプロセスを通じた自らのリーダーシップ開発 【方法】 ・レクチャー ・リーダーシップ研修受講 ・企業訪問 ・本プロジェクト担当者へのプレゼンテーション ・研修講師へのプレゼンテーション ・商工会議所等へのプレゼンテーション ・中間報告会でのプレゼンテーション ・最終報告会でのプレゼンテーション 【事前学習課題】 ・人材開発に関心を持ち、人材開発に関する書籍、新聞、雑誌などに目を通す。 【事後学習課題】 ・プロジェクトで得られたフィードバックを記録し、次回は必ずレベルアップできるようにＰＤＣＡサイクルをまわす習慣を身につける。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	まとめ役になれる！リーダーシップ入門	小野善生	中央経済社
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	準備や出席回数、達成した内容、外部からの評価、メンバー間の相互評価から総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 8 階　西之坊研究室、7 号館 3 階　水野研究室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	栢木　紀哉
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	さまざまな生活雑貨を扱う小売店「ロフト」(梅田ロフト）と連携し、若者ならではの発想で、ロフトの魅力がさらにアップするような提案を行い、ロフトで実現していくプロジェクトです。 皆さんの斬新なアイデアを形にするチャンスです。「面白いことをやってみたい！」と思っている積極的な学生の履修を期待します。ロフトは皆さんの「若い感性」を待っています。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 プロジェクトとしての達成目標 1.チームのなかでの役割を認識し能動的に行動できるようになる 2.計画を立て、段取りが組める 3.小売業界の現状を理解する プロセス 学生とのコミュニケーションをとり、問題・課題を迅速に把握し対応する。 チームで仕事をするときの方法を教える。
授業方法と留意点	他者（プロジェクトメンバーや連携先）のことを慮りながら、能動的に参加してください。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	■4 月 ・ガイダンス ・小売業について学ぶ ・ロフトについて学ぶ ■5 月～7 月 ・企画提案の作成 ・梅田ロフトへの提言　プレゼンテーション実施 ・グループ決め ・ロフトでのミーティング ■8 月～9 月 ・提言内容の実施準備 ・提言内容の実施 ■10 月 ・中間報告会 ■ 1 月 ・最終報告会 ■2 月 ・ふりかえり ・総括
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。
学生へのメッセージ	現場への視察と提案を繰り返し行いながら、皆さんのアイディアを形にしてゆく授業です。 主体的に取り組んで、活動しながら改善点を見つけていってください。
担当者の研究室等	11 号館 7 階　経営学部　鶴坂研究室 11 号館 8 階　経営学部　栢木研究室 7 号館 3 階　キャリア教育推進室　水野研究室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	橋本　正治
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	＜過疎地域における地域資源活用プロジェクト（グリーンプロジェクト）＞ 和歌山県すさみ町にある「古民家」や「豊かな自然」を資源としてとらえ、「田舎暮らし体験のための古民家再生」、イベントとして光害の無いすさみ町での「星空観望会イベントの開催」、カヌー川下りが行われている古座川での利用を考慮した「間伐材を利用したカヤック製作・試乗イベントの開催」、などをテーマとする。 「古民家再生」では、間伐材を使ったログパネルなどを利用し、いわゆる住宅リニューアルのビフォーアフターを体験する。 具体的なイベントは、地域の連携団体（すさみ町役場地域未来課）と協働して実現することになる。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 １．チームで協働して作業することの問題点や有効性を理解できる。 ２．問題が生じたときの対処手順について理解し応用できる。 ３．ものつくりにかかわる作業設計・工程設計を実際に経験し、その有用性について理解できる。
授業方法と留意点	年数回すさみ町で作業します。(2 泊 3 日を 3-4 回、7 泊 8 日夏休み中に 1 回) それ以外は大学で装置や工程の設計を行い、可能であれば装置の試作や評価を行います。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	3 年計画の 2 年目のプロジェクトです。1 年目は、古民家再生の概念設計を行い、小型の望遠鏡とプラネタリウムを製作しました。本年度は、詳細設計と改修工事、大型天体望遠鏡の製作、観望会イベントのノウハウ収集が主なテーマです。 実施手順は １．テーマの情報共有（昨年度までの成果の説明）と本年度の目的に沿った開発プロジェクトのテーマ設定 ２．現地調査とテーマの修正と具体的な開発設備・機器の決定 ３．大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う。 ４．大型装置・設備については現地で加工組み立て ５．現地で加工、施工、組み立て開始 ６．装置・設備の完成 ７．試作装置・設備による実験評価 ８．実験結果の考察と改良 ９．改良した装置について評価実験・考察 １０．現地で再実験 １１．実験結果の考察と改良 １２．最終実地評価と報告 事前事後課題は、週 1 回行う活動に対応して次回までに実施しないといけないことをチームで決定し各自が役割を果たすことでプロジェクトをすすめていく。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	通常(週 1 回の) 活動状況とすさみでの活動状況をみて十分に自らの能力を発揮しているかどうか、活動を終え自らの体験から成長点を理解できるかどうかを元に評価する。
学生へのメッセージ	「古民家再生」では建物のビフォーアフタを実体験し、イベント開催ではアイデアを実現する良い機会です。夢を実現できる実感が得られると思います。一緒に楽しみましょう。機械工学科の学生が多いのですが、これまで建築学科、住環境デザイン学科、環境環境工学科、外国語学部の参加メンバーもいました。浅野教授担当の PBL 授業「過疎地域活性化プロジェクト」と連携して活動しています。ものつくりを通じた地域活性とも言える活動です。
担当者の研究室等	８号館１階テクノセンター、１号館５階メカトロニクス研究室で活動します。
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田　裕子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	概要：本プロジェクトは、PBL プロジェクトの初年度の 2010 年から開講し、７年間続けてきた。この間、寝屋川市内での環境学習支援や、寝屋川市内をはじめとする淀川水系の各地で様々な団体と連携し親水活動、環境保全活動や流域住民への環境・防災に関する啓発活動を行ってきた。 2017 年度も引き続き、寝屋川市立池の里市民交流センターでの子どもたちへの環境学習支援に、学生が企画・実施担当として関わることで、市民ボランティアと 子どもをつなぐ架け橋となることを目指す。また、淀川や芥川を中心に水辺整備活動を行い、淀川水系の流域連携活動を行う。 目的：池の里市民交流センターの活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組み力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 地域の子どもたちの環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での天然アユ復活や巨椋池ビオトープを題材に学習・調査を進める。プ ロジェクト全体を通して、世代を超えた人々と交流することでコミュニケーション力を学び、自分たちで企画・実践する力を身につける。
授業方法と留意点	連携内容・方法：池の里市民交流センターでは、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。 留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト 内容：　１．寝屋川市立池の里市民交流センターにおける環境学習支援 ２．巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施 ３．淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 ４．天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 ５．天然アユ復活プロジェクトの学習 ６．いい川・いい川づくりワークショップ等での発表 方法：授業のうち半分（月１回）は原則として平常授業期間内の土曜日２･３限に行い、主として午前中は学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、午後は池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9 月と 12 月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。他の半分（月１回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。 学外発表の場として、近畿水環境交流会（7 月）、天若湖アートプロジェクト（8 月）、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11 月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。 事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、前期・後期末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。
関連科目	自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C 科） 科学技術教養 C1・C2
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%) 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)
学生へのメッセージ	子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。
担当者の研究室等	１号館３階　石田准教授室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野　英一
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力（資源）を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。 地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の３種類。 ①調査：地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画：具体案を立て、評価（実現可能性、コスト、実施期間、有効性）を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施：実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告：プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と留意点	プロジェクトの実施地は、和歌山県西牟婁郡すさみ町です。活動にかかる交通手段は、バスを大学でチャーターして移動します。宿泊は、摂南大学すさみ町活動拠点（廃校になった小学校の校舎）を使うため宿泊費用は発生しません。プロジェクト実施については、調査状況に基づき事前に学内で協議して現地活動を行います。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	すさみ町は人口が約 4700 人で、39 ある集落のうち 18 が限界集落の町で、その中の１つ、佐本・大都河地域は人口約 360 人、高齢化率 60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティーの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化（社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など）を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。 すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィシュトーナメント」「ケンケン鰹祭り」の運営協力、220 年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。 大阪府寝屋川市からすさみ町まで､貸切の大型バスで片道５時間という距離である｡この距離が PDCA を行うために重要なキーポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港（大学）を出港（出発）して、遠洋（すさみ町）で漁業（活動）するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段など PDCA を現実に体験する。 事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	参加態度 40%、企画力 20%、コミュニケーション能力 20%、発表能力 20%で評価する。
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。
担当者の研究室等	7 号館 5 階　浅野研究室
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保　貞也
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト　?産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる? 地元の産業を活性化させる商品企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の企画・運営、社会教育への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ・地域の課題を認識する ・課題を解決する方法を考える ・解決策を実行する ・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する 以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。
授業方法と留意点	学内でのレクチャー（学部講師を含む）、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。 プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。 参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ】 学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト　?産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる? 【内容】 対象予定とするプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬けの続編や販売展開（寝屋川市、京都市ほか）、ビジネスプランコンテスト、平和教育に関するイルミネーションイベント（枚方市）、大学共同のイルミネーションイベント（茨木市）、スポーツ教室運営（門真市）、地域の IT スキル測定と教育（摂津市）、歴史資産の展覧会企画（河南町）などである。 【方法】 ・レクチャー ・グループ学習 ・オンラインミーティング ・博物館や自治体の見学会 ・実地調査 ・企画書や報告書の作成 ・学外でのプレゼンテーション など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。 【事前学習課題】 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。 【事後学習課題】 プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学（消費者）、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価から総合的に評価する。
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。
担当者の研究室等	11 号館 7 階　久保准教授室、針尾准教授室、牧野准教授室、山本准教授室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂　貴恵
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	和歌山県由良町の地域ブランドを創造するため、地域資源を使った商品等を開発し、販売をしていく。それにより、由良町の交流人口を増やし、地域経済活性化の一助とする。 今年度は①由良町観光パンフレットの多言語化 ②ゆらの助をゆるキャラグランプリで優勝させよう大作戦 ③「海の学校」の企画、運営　　を行います。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ①由良町の地域資源を発見する。 ②パンフレットの作成。 ③企画立案の手法を習得する。 ④企画したものをカタチにする。 ⑤自ら考え行動できる力をつける。 ⑥チームで活動できる力をつける。
授業方法と留意点	講義とフィールドワーク 由良町へ出向き現地調査や成果発表を行います。 企画立案したものをカタチにしますので、無責任な行動はやめてください。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	１．オリエンテーション 今後の進め方、グループ分けを行います ２．由良町の現状を学ぶ１ 由良町の抱える問題について学びます。　事前学習：由良町の WEB サイトを閲覧する 事後学習：総合戦略の報告書を理解する ３．マーケティング　商品開発について１ マーケティングの基礎を学びます。　事前学習：あらかじめ配布されたテキスト等を読んでくる 事後学習：学んだ内容を復習する ４．マーケティング　商品開発について２ マーケティングの基礎を学びます　事前学習：あらかじめ配布されたテキスト等を読んでくる 事後学習：学んだ内容を復習する ５．地域資源の発掘 グループごとに地域資源について意見交換　事前学習：由良町の地域資源について調べる 事後学習：意見交換の結果をまとめる ６．パンフレットの原案作成 グループで活用できる地域資源について意見交換 事前学習：意見交換結果をふまえパンフレットに使えそうな地域資源を検討 事後学習：活用できるものを絞り込む ７．ゆらの助をゆるキャラグランプリで優勝させよう大作戦の企画立案 企画案の議論を行う　事前学習：アイデアを考える 事後学習：グループで出された案をまとめる ８．７の企画案を固め、準備していく 企画を実行するために何が必要か、タイムスケジュール、役割分担を決める 事前学習：企画案を理解し、自分が推すものを決める 事後調査：決まったことを整理 ９．７の実現 事前学習：イベント準備 事後学習：振り返り 10.「海の日」イベント企画　事前学習：自分の案を企画する 事後学習：データ整理 11.１０企画案を固め、準備していく 企画を実行するために何が必要か、タイムスケジュール、役割分担を決める 事前学習：企画案を理解し、自分が推すものを決める 事後調査：決まったことを整理 12.11 の実現 事前学習：イベント準備 事後学習：振り返り 13.全体ふりかえり この間に中間報告会、最終報告会が入ります。
関連科目	各学部マーケティング関連科目
教科書	番号 ／ 書籍名 ／ 著者名 ／ 出版社名

教養科目

1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞出版社
2	地域マネジメント戦略	池田潔ほか	同友館
3			

評価方法 （基準）	プロジェクトへの参加度　50%　　提出物　50%
学生への メッセージ	和歌由良町は過疎地域です。日本にはこのようなまちが沢山存在しています。授業で学んだことを、このような地域でどのように生かせばいいかを体験学習を通じて考察してほしいと思います。中途半端な気持ちでは最後まで続きません。ある程度の覚悟を持って参加してください。最後までやりとおすことができ、企画がカタチになれば、みなさんの達成感は半端ないものになることをまちがいなしです。
担当者の 研究室等	11 号館７階　鶴坂研究室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	尾山　廣
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	最も身近な自然現象を創りだす“星”にまつわる科学を、現在稼働していない交野市のプラネタリウムを学生自ら操作し、星の動きや種類・神話を交えて、交野市の小学生に向けた自然科学(宇宙や生命の誕生)の楽しさを伝える上映プログラムを製作する。今年度は、中学生を対象に、上演を試行し、その結果も踏まえて、一方的でなく小学生が自分の星座をつくるなどの参加型のプレゼンテーションを開発する。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 天体の基礎的な知識を身につける。 プラネタリウムの基礎知識を修得する。 星のまち交野の特徴を説明できる。 様々な問題について理論的・分析的な関心をもてる。 小学生に星の神秘を伝えることができる。
授業方法と留意点	松尾研究室、川上研究室、尾山研究室のゼミ生と同時に活動する。主な活動期間は 2017 年 5 月～2018 年 1 月であり、月２回の全体ミーティングと年間 9 回の交野市での活動を予定している。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	・プロジェクトの概要と基本方針の説明(評価法の提示) ・プラネタリウム見学(連携団体との協議を含む) (1) 投影機本体の状態把握、ドーム（10m の半球形空間）の空間使用案と投影案を決定 (2) 年間計画の策定(到達目標の修正と日程の調整) ・プラネタリウム投影機のメンテナンスと並行して上映プログラムを決定 ・プレゼンテーションに必要なフィルムやスライドの作成 ・交野市理科教室参加の中学生をゲストに、プレゼンテーション(中間発表)を試行 (3) 問題点の抽出と修正案の検討(連携団体との協議を含む) ・追加スライドの作成と上映プログラム全体の問題点の改善と内容の修正 ・トライアル上映会の試行と最終プログラムの策定(連携団体との協議を含む) ・交野市小学生(または交野市教育委員会関係者)を対象に上映会を試行 ・プロジェクトのまとめと今後の方向性を確認(連携団体との協議を含む) 上記の項目を 2017 年４月～2018 年１月に実施する(機器の状況により変更がある)。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	①天体・星の知識(プレゼンテーションを含む)やプラネタリウムの操作方法を理解できている。②空間(半球形空間)を利用した効果的なプレゼンテーションを考えている。③小中学生や外部の方々との接し方(態度)ができている。 以上の３点について、ﾙｰﾌﾞﾘｯｸ評価表などで評価を行う。
学生へのメッセージ	理科教育プログラムの開発（ソフト）を目的とするため、教職希望の学生など、星が好き、子供たちに教えることが好きな学生を募集しています。
担当者の研究室等	理工学部生命科学科（松尾先生、尾山）は１号館８階または９階、住環境デザイン学科（川上先生）は１２号館７階に教授室がある。
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	居場　嘉教
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	〈摂大ブランド商品の企画プロジェクト〉 様々な大学でオリジナル商品が作られており、食品・お酒・化粧品から文具・雑貨に至るまで多種多様なものがある。本プロジェクトでは、各大学のオリジナル商品を調査し、それらを整理・分析することで、摂南大学オリジナル商品の目指すべき方向性を明らかにする。さらに、いくつかの商品候補について、商品開発に向けた具体的な方略を考え、次年度以降の商品開発プロジェクトに繋げる。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 １．必要な情報を収集することができる。 ２．情報を整理し、分析することができる。 ３．お互いに意見を出し合い、それらを集約できる。 ４．結果を第三者に説明できる。
授業方法と留意点	４人の教員が担当し、１グループ５人（合計 20 名）までの少人数で活動を行う。 そのため、各自が役割を果たし、積極的に取り組むことが求められる。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	次年度以降の商品開発プロジェクトに繋げるための萌芽的な取り組みである。 実施手順は以下のとおりである。 １．新聞やインターネット上の情報の中から、必要な情報を探し出す。 ２．集めた情報を一定の形式に整理する。 ３．それらをインパクトの大きさおよび実現可能性の観点から整理・分析する。 ４．お互いに意見を出し合い、摂南大学オリジナル商品の方向性を決定する。 ５．候補商品についてグループごとにプレゼンテーションを行い、候補商品を絞り込む。 ６．候補商品（１～数個）に対する連携企業を探す。 週１回行う活動に対応して、次回までに行わなければならない課題を決める。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	活動状況、取り組む姿勢および活動成果を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	居場講師室（1 号館９階）、木村准教授室（1 号館８階）、船越准教授室（1 号館９階）、青笹教授室（1 号館８階）
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	一色　美博
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	ミニ鉄道プロジェクトとして、レール間隔３．５インチ、５インチのミニ鉄道を製作し、各種のイベントにおいて運転会などの企画・運営を行う。 蒸気機関車、電気機関車や客車の製作に加えて、軌道、鉄橋、駅舎なども製作し、イベント会場などで運転会・展示会を催す。 また、運転会・展示会では製作過程や駆動原理などの展示を行い、参加者のものづくりへの関心を高める。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、 「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、 「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 蒸気機関車や鉄道施設などの製作を通して、ものづくりの技術を能動的に習得する。 イベントにおける運転会の企画・準備・運営を通して、目標達成のために自律的に計画し遂行する能力を身につける。
授業方法と留意点	週１回のミーティングでプロジェクトの企画、運営、製作について、計画や進捗状況の報告を行う。履修者が決定する時間割に従って、テクノセンターで部品を製作し技術を習得する。 この科目では、能動的に活動できる能力を培うことが大きな狙いである。 与えられた課題に対して全貌を把握した上で計画を作り、その計画を確実に実行する姿勢を学んでほしい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	本年度はレール間隔３．５インチ、５インチの蒸気機関車の製作を継続するとともに、運行イベントの企画・運営を行う。 １．教員の指導の下に目標と計画を作る。 ２．計画に従って、技術指導を受けながら蒸気機関車、鉄道施設を製作する。 ３．計画からの遅れには対策を講じる。 ４．製作時に利用する金属材料、工作機械、工作方法などについては図書館で調べ知識を確かなものとする。 ５．運行イベントの企画・運営を計画し、実施する。 ６．計画、進捗状況、調査結果等をミーティングで報告する。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	汎用的能力（40%）、主体性・柔軟性・課題発見解決（30%）、貢献度（30%）について、ミーティングでの報告、イベントや作業時の態度で評価する。
学生へのメッセージ	与えられた環境、条件のもとで、工夫して自律的に課題を達成できる能力は、社会人として必須の力です。この授業で「指示待ち」から「自ら行動する」姿勢を学んでください。
担当者の研究室等	担当者の研究室等 １号館３階　一色教授室 ８号館１階　テクノセンター
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田中　賢太郎
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	テーマとしては、橋梁模型コンペティションの参加に見るエンジニアリングデザイン教育である。橋梁模型ブリッジコンペティションは、学生自身が橋梁の設計、製作と架設を行い、“ものづくり”の真の楽しさを経験するコンペティションである。基本的な工学知識の応用力、課題解決能力、プレゼンテーション能力を培うこと、学生や参加者の協調性を養うことを期待している。エンジニアとして大切な要素である課題解決力・実践力・チームワーク力・協調性なども身につけさせる。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 橋梁模型製作においてある制約条件の下、アイデアを出ししっかりとディスカッションでき、課題解決し計画通りに実行できる。チームワーク力を高めるように参加者には協調性なども学ぶ。また、これまで学習したことを復習し応用できる。また、専門的に学んでいる学生と他分野で学んでいる学生とで協力し合うことにより、新しい発想や役割分担が出来るのでチーム全体の能力が向上することも期待する。
授業方法と留意点	構造力学・鋼構造学などの座学に加え、AutoCAD の使用方法、橋梁模型およびポスター作成のデザイン能力、プレゼンテーション能力、解析ソフトウェアの使用方法などの知識・技術の習得が必要である。教科書を補足するプリントを随時配布し、進捗状況を確認しながら授業を進める。これまでの構造力学の教科書や計算機、メモ用紙を毎回持参するようにしてください。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	課題名：橋梁模型コンペティションの参加に見るエンジニアリングデザイン教育 授業概要・流れ 現場見学を実施し、実際の構造物を見て構造を理解し、また、橋梁の補修・補強の技術や耐震補強の技術を学ぶ。実際のフィールドで学んだことを活かし、橋梁模型をデザイン・製作する。さらに、橋梁模型コンペティションに参加して、学生自身が橋梁の設計、製作と架設を行い、“ものづくり”の真の楽しさを経験することである。基本的な工学知識の応用力、課題解決能力を培うこと、学生や参加者の協調性を養うことを期待している。 0.専門知識の習得（復習・新たに勉強）、現場見学を実施することによる学び、1.制約条件の確認、2.構造形式を決定（調査・ディスカッションなどで）、3.図面化、4.解析ソフトウェアを用いた数値計算、5.模型製作、6.ポスター作成、7.プレゼンテーションの資料作成、8.コンペティション参加、9.成果報告および反省会 「前期」 ・コンペティションの制約条件の確認 ・構造形式のディスカッション、解析により数値計算 ・図面化 ・プレゼンテーション資料・ポスターの作成、橋梁模型製作 ・橋梁模型製作、前期で目標にしているコンペティションへ参加 「後期」 ・コンペティションの制約条件の確認 ・構造形式のディスカッション、図面化 ・ポスターの作成、橋梁模型製作 ・橋梁模型製作、後期で目標にしているコンペティションへ参加
関連科目	構造力学基礎、構造力学基礎演習、構造力学Ⅰ・Ⅱ、鋼構造学、ＣＡＤ実習

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『基本を学ぶ構造力学』	崎元達郎	森北出版
2	『新編 橋梁工学』	中井博・北田俊行	共立出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『「道路橋示方書・同解説」（共通編，鋼橋編）』	日本道路協会編	日本道路協会
2			
3			

評価方法（基準）	上記の到達目標に対して、計画をたてて、工程表を作成ししっかりと役割分担表を作成する。計画通りに進んでいるか、また計画通りに進んでいない場合は、どういうふうに考えて乗り越えたかなどの資料を残していく。プロジェクトにおける成果をまとめて資料を作成する。この作成した資料をみて評価する。まとめ資料は提出を求めるので、項目抜けがなく、かつ、丁寧にかくこと。 また、確認テストを実施する。
学生へのメッセージ	参加するブリッジコンペティションは、学生自身が橋梁の設計、製作と架設を行い、“ものづくり”の面白さや楽しさを経験するコンペティションである。基本的な工学知識の応用力、課題解決能力、プレゼンテーション能力を培うこと、学生や参加者の協調性を養うことを期待している。また、分野外の方の参加も大歓迎。
担当者の研究室等	１号館３階　田中准教授室
備考	構造力学系の知識、ＣＡＤの知識を復習または勉強すること。また、数値計算に慣れること。自らの手を動かして頑張りましょう。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	大田　住吉
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	・学ぶのは、「ビジネス戦略」です。本 PBL のプロジェクトテーマは、「交野市との連携事業～起業・創業を応援する取組み～」です。文系・理系を問わず、それぞれの立場で地域社会（交野市）の異世代の人々と交流し、「ビジネス戦略」を考え、学生自身がこの授業・活動等をプロデュースします。 ・主な学修テーマは、以下のとおりです。 ① 新たにビジネスを始め、それを軌道に乗せるためには、何を、どのように準備・実践すれば良いのか？ ② 学生の目線と地域社会（交野市）の異世代の人々の目線は、何が違うのか？ ③ 学内の授業と学外の活動との相乗効果を、どう実現するのか？ ④ 自分自身が PBL プロジェクトから何を吸収し、また何が貢献できるのか？
到達目標	【本 PBL プロジェクトの到達目標】 ・実社会で「戦力」として通用するビジネスリーダーを養成することが、本 PBL の到達目標です。 ・地域社会の実際のビジネス現場において「戦略」を分析し、判断し、表現する、実践的な知識および能力を身につけることができます。 【摂南大学 PBL プロジェクト到達目標（全プロジェクト共通）】 ・本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と留意点	・大きく分けて、学外の PBL 活動と学内の PBL 授業に分かれます。 【学外 PBL 活動】 ① 交野市において、地域住民、行政、商工会議所、金融機関等と連携し、「起業・開業のビジネス戦略」について体験・活動します。 ② 各学生の希望に応じて小チームに分かれ、「交野おりひめ大学」（市民大学）における蕎麦づくり、地酒づくり、自然農法、歴史文化、商品企画等の戦略プロデュースにも関わってもらう予定です。 【学内 PBL 授業】 ① 上記の学外活動におけるヒアリング結果、成果物等について学生同士で報告し、全員で情報共有するとともに、今後の課題について検討します。 ② 「起業・開業ビジネス」に関し、実例にもとづくアクティブラーニング(少人数グループ討議形式のケースメソッド)授業を実施します。学生同士のグループディスカッション、プレゼン、質疑応答などを徹底的に繰り返し、明るく、楽しく、わかりやすく学びます。 【授業・活動上の注意点】 ① 年間を通じて、単位取得に必要な授業・活動時間数を確保します。 ② 実際の PBL 授業・活動は、土日祝日等に実施される場合があります。 ③ 先方(交野市関係者)のご事情等により、授業・活動内容が一部変更となる場合があります。 ④ 本 PBL 履修の募集定員は、30 名(ゼミ生含む)程度です。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	【４月】 ①小テスト～交野市の現状と課題～、②この授業の受講目的・ニーズの個別ヒアリング、③PBL ガイダンス 【５月】 ①交野市の現地ビジネス視察、②交野市の現状と課題について整理 【６月】 ・「起業・開業ビジネス」に関するアクティブラーニング(少人数グループ討議形式のケースメソッド)授業 【７月】 ①七夕イベントなど現地活動への参加・企画体験 ②「起業・開業ビジネス」に関するアクティブラーニング(少人数グループ討議形式のケースメソッド)授業 【８～９月】 ①小チーム(4～5 人程度)に分かれ、複数の現地関係先へのヒアリング調査、面談メモ提出 ②後期 PBL 活動における所属小チームの決定 【10～11 月】 ①小チーム(4～5 人程度)に分かれ、現地での PBL 活動、毎回の活動報告提出 ②関連業界調査、資料・データ等収集、市役所、商工会議所、金融機関など関係先へのヒアリング、面談メモ提出 ③各チーム同士の報告会、反省と課題整理 【12 月】 ①成果と検証（何をアウトプットするのか？）、②最終成果発表準備 【１月】 ・最終成果発表（学内） 【２～３月】 ①最終成果発表(学外、第三者評価含む)、②次年度への課題・引き継ぎ事項 【事前学習課題】 ・必ず、毎回の授業・活動において、次回までの事前学習課題を学生自身で考えます。自分なりに取り組み、次回に発表できる様にして下さい。

	【事後学習課題】 ・毎回の授業・活動におけるポイント、キーワード、失敗体験などを記録・保存し、次回以降に活かし、実践できる様にして下さい。
関連科目	・２年次…企業論、３年次…経営戦略論、企業分析(経営戦略ケース分析)、ものづくりと経営など ・各学生が所属する小チームのプロジェクトテーマに応じ、修得が好ましい授業科目を紹介します。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教員によるオリジナル作成のビジネス・ストーリー教材を配布・使用する場合があります。		
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	受講学生のニーズに応じて、都度紹介します。		
2			
3			

評価方法 （基準）	① 本 PBL 授業・活動に対する参加意欲・貢献度（50%）、 ② 本 PBL 授業・活動における成果物、プレゼン内容、プレゼン力（25%）、 ③ 交野市関係者を含む学内外の第三者評価（25%） による総合評価。 ただし、原則として毎回の授業・活動の都度採点し、集計します。
学生への メッセージ	・PBL の最大のメリットは、通常の授業では決して経験できない、実践的な現場体験学修ができることです。 ・35 年間の民間企業・公的機関等でのビジネス経験やコンサルティング経験をもとに、皆さんと熱くディスカッションしましょう！ ・失敗は大いに結構です。実社会に通用する真のビジネスリーダーにチャレンジしたい人、大歓迎です。
担当者の 研究室等	11 号館 7 階　大田住吉研究室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井　信輝
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーＡリーグの PR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。将来的には 2019 年ラグビーW杯に向けてのインバウンドへと繋げる。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態（座学、現地調査）を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々と調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	以下の手続きで授業を展開する １．プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 ２．マーケティング手法の学習（座学による） ３．連携先との面談 ４．連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 ５．学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査 ６．広報誌制作準備（広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行） ７．学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL 中間報告会、広報誌の発行、来場者への 　　アンケートの実施 ８．まとめと最終報告会
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	活動報告、活動現場での取り組を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	積極的に活動してください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井准教授室 ７号館３階　水野講師室
備考	

教養科目

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	内部　昭彦
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	大阪府下の小学校や、スポーツ少年団などと協働し、実際のスポーツ活動の運営や指導を行うことで、小学生のスポーツ活動を活性化させ、実社会でも求められるリーダーシップを育成する。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ①　小学生の運動活動を活性させると共に、スポーツの定着を図り、子供の体力向上に寄与することができる ②　小学校やスポーツ少年団のスポーツ活動の運営や指導をすることによりリーダーシップを育成することができる
授業方法と留意点	学内での事前学習を行った後、学外の小学校及びラグビースクールに出向き、タグラグビーを指導する。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	子供たちのスポーツ活動の活性化を目指すことがテーマである。 また、プロジェクトの前段階として現状の把握を行い、ジュニア期の指導法とリスク管理を理解させ、学生が自らプランを立てることができるよう指導する。その後、実際に実習を行い、課題を検証し、次回の実習までに改善させる（フィードバック）。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	実習（小学校に訪問し指導サポート）や発表会の参加は必須とし、事前学習の評価、実習の評価、研究発表の評価を総合してルーブリック評価で判定する。
学生へのメッセージ	積極的な参加を期待します。
担当者の研究室等	総合体育館１Ｆ　内部研究室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	藤林　真美
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	北河内および和歌山にお住いの高齢者が、スポーツを通して明るく元気な生活を送ってもらえるような提案を行い、高齢者と活動を共にするプロジェクトです。 高齢者は学生との交流により心身が活性化し、健康を維持・増進できます。皆さんの運動の得手不得手は全く問いません。「おじいちゃん・おばあちゃんが大好き、高齢者福祉に役立ちたい」と思っている学生の履修を期待します。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 プロジェクトとしての達成目標 1. チームのなかでの役割を認識し、主体的に行動できるようになる。 2. 計画を立て、段取りが組める。 3. 超高齢社会の現状を理解し，高齢者の健康増進について提案ができる。 プロセス 1. 学生や学外者とのコミュニケーションをとり、問題・課題を迅速に把握し対応する。 2. チームで仕事をするときの方法を学ぶ。
授業方法と留意点	他者（プロジェクトメンバーや連携先）のことを慮りながら、能動的に参加してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	■4 月 ・ガイダンス ・高齢社会および高齢者の身体について学ぶ ■5 月 ・グループ決め ・活動内容の検討 ・寝屋川市高齢介護室および枚方市地域包括センターへ提言、内容検討 ■6 月? ・北河内にて活動開始 ・由良町へ提言、内容検討 ■10 月 ・中間報告会 ・由良町にて活動 ■１月 ・最終報告会 ■2 月 ・ふりかえり ・総括
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
評価方法（基準）	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。
学生へのメッセージ	現場の視察と活動を繰り返し行いながら、皆さんのアイディアを形にしてゆく授業です。 主体的に取り組んで、活動しながら改善点を見つけていってください。
担当者の研究室等	総合体育館１階　藤林研究室
備考	

教養科目

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	【テーマ】　紙芝居ボランティアを通した社会貢献 【概　要】　寝屋川市の自転車安全条例を小学生に伝える紙芝居の読み聞かせ，および，門真市の民話に関する紙芝居の作成と上演活動を行う。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 役割意識や自己効力感を育むために、仲間と協働しながら社会に貢献する喜びを体験する。
授業方法と留意点	学生が中心となって活動する読み聞かせボランティアのプロジェクトです。 全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【方法】 ・寝屋川市役所や警察署のご担当者，門真市役所や歴史資料館のご担当者の方と学生が直接連絡をとり，相談して活動内容や日時を決定する。 ・毎週一回のミーティングと報告書で情報共有を図り、必要に応じて適宜集合して練習、作業などを行う。 ・活動内容は、大学ホームページなどで学外にも公表するとともに、中間報告会、最終報告会などでも発表する。 【内容】 年間を通じて、市と連携して読み聞かせ活動を実施する。 ・寝屋川市自転車安全条例普及のための紙芝居 寝屋川市安全協会の活動に同行し，近隣の小学校で自転車事故の減少のために前年度作成の紙芝居の読み聞かせ活動をする。 ・門真市の民話を語り継ぐための紙芝居 門真市役所や歴史資料館のご担当者の方と相談して活動内容を決定する。既存のイベントへの参加，学生自らイベントの企画提案，幼少学校での上演などが考えられる。さらに，門真市の民話をもとに紙芝居を作成する。 ・その他 適宜、要請に応じて紙芝居を作成したり、読み聞かせ活動を実施することがある。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全体で行う活動やミーティングの参加態度（40%）、自分の役割に対する貢献（40%）、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表（20%）
学生へのメッセージ	昨年は寝屋川市の小学校だけでも多数活動しました。さらに、夏休みも利用して紙芝居の読み聞かせの練習・実演を行うなど、活動は大変ボリュームがありました。 今年も同様にボリュームのある活動になると思いますが、そのぶん達成感や団結力がつよくなると思います。 プロジェクトを通して、社会と関わり、仲間と試行錯誤する難しさ、楽しさを体験してください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　キャリア教育推進室　水野　武
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	林　茂樹
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	寝屋川市成美小校区地域協働協議会青少年部会のみなさんと連携して、成美小学校在籍児童に将来の社会生活に向けてのお金との付き合い方を学んでもらうために、経済のしくみや街の経済の動き等について、体験的な学習を軸にした学習プログラムを作成・実施する。 　社会的活動への貢献を通しての社会の中での役割の自覚、地域経済、子どもを取り巻く教育環境の調査・分析に基づいた課題の明確化・抽出化、子どもを相手にした教育行為の省察等を通して、自らも成長を実感することをねらいとする。
到達目標	本プロジェクトは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 　また、次の事項を具体的な達成目標として設定する。 ①地域の社会的活動への参加を通じて自らの社会的役割を自覚できるようになる。 ②経営と教職の学生がコラボすることにより相互に学び合いをすることができる。 ③経営学部生は経営学的な研究方法により各団体機関が実現しようとしている企てを把握し、その評価をする経験を積む。 ④教職履修学生はメンター的な関りによって子どもたちに寄り添う経験、作成した教材を教授場面で臨機応変に修正する経験を積むとともに、学習場面での発問、説明、指示、助言など、子どもたちの思考や行動への具体的な働きかけの経験を積む。
授業方法と留意点	寝屋川市成美小校区地域協働協議会のメンバーとプログラムの準備・実施・総括の全過程を、協力協働しながら進めます。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	4 月～6 月 　プログラムコンテンツの作成 　体験実習先の選定、小学生向けの学習プログラムの検討、地域の調査等 　学習指導要領・教科書の関連内容の調査、ワークショップの準備等 7 月～8 月 　①小学生・摂大生の初セッション（アイスブレーキング、グループワーク） 　②フィールドワークⅠ（例えば、日銀大阪支店、造幣局本局大阪工場） 　③フィールドワークⅡ（例えば、地元運動団体、地元商店街） 　④フィールドワークⅢ（例えば、寝屋川市役所、北大阪商工会議所等） 　⑤学習会（例えば、家族でもともに学ぶ機会を設ける） 　9 月～10 月 　①体験活動の振り返り 　②摂大祭りでの発表・展示（中間報公開を兼ねる） 　小学生・保護者・協働協議会員を招待 1 月 　最終報告会
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	企画書、活動報告書、リーダーシップ、レポートを総合的に評価する。
学生へのメッセージ	経営学部と教職課程履修学生以外の学生の参加も歓迎します。
担当者の研究室等	林研究室（7 号館 3 階） 鶴坂研究室（11 号館 7 階）
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	荻田　喜代一
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	【テーマ】 ビジネスパーソンのための夜間連続講演会『インテリジェントアレー撰壇塾』の企画・運営 【概要と目的】 公益財団法人関西生産性本部が開催予定の『インテリジェントアレー撰壇塾』の企画・運営を通して、ビジネスマナー、ビジネスコミュニケーション、段取り・タイムマネジメント、コストマネジメント、マーケティングを中心とした社会人基礎力を学習する。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 また、ビジネスマナー、ビジネスコミュニケーション、段取り・タイムマネジメント、コストマネジメント、マーケティングを中心とした社会人基礎力を身につける。
授業方法と留意点	活動は、主に学内と OIT 梅田タワーで行う。 本学的な活動を行う前に、コミュニケーション研修やビジネスマナー研修を行う。 アドバイスは教員に加えて、連携先の関西生産性本部の職員が行う。 関西生産性本部の HP を必ず閲覧すること
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期のビジネスパーソン向けの講座の企画、講師の折衝、広報、講座の運営を公益財団法人関西生産性本部の担当者にアドバイスを受けながら実施し、身に付けたスキルを生かして後期の講座を実施する。その過程で、上記目標の達成を目指す。 (2017 年) 3 月　　オリエンテーション(研修) 3～5 月　前期日程の企画検討、講師選定、講師折衝、企画完成、企画案内(HP など)作成、告知等のマーケティング 6～8 月　講座実施、運営補助 8～9 月　前期まとめ、中間報告 9～10 月　後期日程の企画検討、講師選定、講師折衝、企画完成、企画案内(HP など)作成、告知等のマーケティング 11 月　　講座実施、運営補助 (2018 年) 1 月　　学内 PBL 発表会 2 月　　年間まとめ、年間の結果報告
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
評価方法（基準）	PBL での活動による成長内容をルーブリックで評価する（５０％） 提案書等のレポート（５０％） ６０％で合格とする。
学生へのメッセージ	本プロジェクトにおいてかかわる人々はすべて社会人ですので、社会人マナーが必要となります。 社会人マナーが身につける学修態度が重要です。また、協働できる学生を求めます。
担当者の研究室等	・荻田喜代一（薬学部教授・教務部長）：寝屋川キャンパス 11 号館 10 階あるいは教務課、枚方キャンパス 1 号館 6 階薬理学研究室（履修者には詳細な連絡先を周知します） ・水野　武（教務部キャリア推進室）：寝屋川キャンパス、７号館３階 ・今井起代（就職課長）：寝屋川キャンパス１０号館１階、就職部
備考	

教養科目

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	西之坊　穂
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	企業の若手を対象にしたリーダーシップ研修の企画提案プロジェクト　－中小企業にフォーカスして－ 【目的】 本学の教育理念である「自ら課題を発見し、そして解決することができる知的専門職業人の育成」を実践することを目的とする。 【概要】 リーダーシップに関する理論的知識をベースに、若手リーダーに育成したいリーダーシップについて大手企業の管理職以上数名にインタビュー調査を行い、商工会議所にリーダーシップ研修の企画提案を行い評価してもらう。また、プロジェクトのプロセスを通じて参加者のリーダーシップを開発することも目的とする。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、『主体性を持って前向きに取り組む力』、『自分とは異なった価値観を受け入れる力』、『課題を発見し、解決する力』を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 （1）リーダーシップに関する知見を知る （2）企業の若手に求められるリーダーシップの内容を理解し、企画提案力を身につける （3）プロジェクトの活動を通じてリーダーシップを身につける 以上の成果を得るため、学生が自ら課題を発見し、プロジェクトのメンバーと協働して、課題の解決に取り組む創造的・社会的な学びを得ることが到達目標である。
授業方法と留意点	まず、学内でのレクチャー、プロの研修講師によるリーダーシップ研修を受講することで、リーダーシップに関する知識とスキルの向上を図る。 また、企業訪問を数回行い、実務家と交流を繰り返すことで組織社会化を促進する。 最後に、このＰＢＬのプロセス全体を通じて、参加者自らのリーダーシップを開発する。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ】 企業の若手を対象にしたリーダーシップ研修の企画提案プロジェクト　－中小企業にフォーカスして－ 【内容】 （1）基本的リーダーシップ理論の理解 （2）実務家との交流による組織社会化の促進 （3）提案およびフィードバックの繰り返しによる提案力の向上 （4）プロジェクトのプロセスを通じた自らのリーダーシップ開発 【方法】 ・レクチャー ・リーダーシップ研修受講 ・企業訪問 ・本プロジェクト担当者へのプレゼンテーション ・研修講師へのプレゼンテーション ・商工会議所等へのプレゼンテーション ・中間報告会でのプレゼンテーション ・最終報告会でのプレゼンテーション 【事前学習課題】 ・人材開発に関心を持ち、人材開発に関する書籍、新聞、雑誌などに目を通す。 【事後学習課題】 ・プロジェクトで得られたフィードバックを記録し、次回は必ずレベルアップできるようにＰＤＣＡサイクルをまわす習慣を身につける。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	まとめ役になれる！リーダーシップ入門	小野善生	中央経済社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	準備や出席回数、達成した内容、外部からの評価、メンバー間の相互評価から総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 8 階　西之坊研究室、7 号館 3 階　水野研究室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	栢木　紀哉
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	さまざまな生活雑貨を扱う小売店「ロフト」(梅田ロフト）と連携し、若者ならではの発想で、ロフトの魅力がさらにアップするような提案を行い、ロフトで実現していくプロジェクトです。 皆さんの斬新なアイデアを形にするチャンスです。「面白いことをやってみたい！」と思っている積極的な学生の履修を期待します。ロフトは皆さんの「若い感性」を待っています。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 プロジェクトとしての達成目標 1.チームのなかでの役割を認識し能動的に行動できるようになる 2.計画を立て、段取りが組める 3.小売業界の現状を理解する プロセス 学生とのコミュニケーションをとり、問題・課題を迅速に把握し対応する。 チームで仕事をするときの方法を教える。
授業方法と留意点	他者（プロジェクトメンバーや連携先）のことを慮りながら、能動的に参加してください。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	■4 月 ・ガイダンス ・小売業について学ぶ ・ロフトについて学ぶ ■5 月～7 月 ・企画提案の作成 ・梅田ロフトへの提言　プレゼンテーション実施 ・グループ決め ・ロフトでのミーティング ■8 月～9 月 ・提言内容の実施準備 ・提言内容の実施 ■10 月 ・中間報告会 ■ 1 月 ・最終報告会 ■2 月 ・ふりかえり ・総括
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
評価方法（基準）	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。
学生へのメッセージ	現場への視察と提案を繰り返し行いながら、皆さんのアイディアを形にしてゆく授業です。 主体的に取り組んで、活動しながら改善点を見つけていってください。
担当者の研究室等	11 号館 7 階　経営学部　鶴坂研究室 11 号館 8 階　経営学部　栢木研究室 7 号館 3 階　キャリア教育推進室　水野研究室
備考	

教養科目

科目名	ソーシャル・イノベーション実務総論	科目名（英文）	Social Innovation Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	ICT 部門が急速な発展を遂げているビジネス社会にあって、ビジネスパーソン自身のあり方も大きく変わってきている。ライフスタイルの変化は、単にキャリアパスを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性を意識せざるを得ない。グローバル社会において必要とされるビジネス実務とは何かを学ぶとともに、変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、社会に貢献し、革新を起こすクリエイティビティを発揮する自らの職業観を確立することを目的とする。
到達目標	１）ビジネスに必要なビジネス実務能力を理解し、計画的に身に付ける必要性を学ぶ。 ２）社会に貢献するためのビジネスという概念から、「異世代・異文化（多様性）を主体的に理解する力」、「地域社会の課題を主体的に発見する力」、「主体的に課題を解決し、新しい価値を生み出す力」（３つの力）を理解できる。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。 また、毎回の座学の後、グループワークを通して課題を議論し、もしくは事前に与えた課題に関してのプレゼンテーションを行う。
科目学習の効果（資格）	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。 ・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。 ・自己紹介後、グループ形成をする。	・事前学修：自己紹介の原案を考える。 ・事後学修：プレゼンテーション資料を熟読する。
2	ビジネスの定義	・ビジネスとは何かを考察する。 ・イノベーションが繰り返し唱えられる理由について考察する。	・事前学修：テキストの指定個所を熟読し、ノートにまとめる。 ・事後学修：企業の事例を調べる。
3	組織の種類　－営利組織と非営利組織－	・阪神淡路大震災後、急速に進化した NPO 組織について考える。 ・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。	・事前学修：NPO について調べる。 ・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成する。
4	ビジネス環境をとらえる①－経済のグローバル化と高度情報化－	・グローバル化の明暗について考察する。	・事前学修：グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集める。 ・事後学修：日本のグローバル化に関する小レポートを作成する。
5	ビジネス環境をとらえる②－地球環境問題と少子高齢社会－	・地球環境問題とジェンダーエンパワーメント指数について考察する。	・事前学修：ジェンダーエンパワーメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめる。 ・事後学修:地球市民として考えたことをまとめる。
6	ビジネス現場をとらえる－オフィスからワークプレイスへ－	・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。	・事前学修:将来の働き方をイメージし、まとめる。 ・事後学修：グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成する。
7	ビジネス実務能力	・企業等のビジネス組織で必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。	・事前学修：働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身に付けるかをまとめる。 ・事後学修：自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめる。
8	ビジネス実務の基本①　－仕事の進め方－	・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。	・事前学修：問題プリント①を解く。 ・事後学修：問題プリント②を解く。
9	ビジネス実務の基本②－ビジネスと諸活動－	・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。	・事前学修：CSR について調べ、まとめる。 ・事後学修：一企業の CSR を選び、レポートを作成する。
10	ビジネス実務の基本③－ビジネスと経営資源－	・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。	・事前学修：男女共同参画社会に関して調べ、まとめてくる。 ・事後学修：、ワークライフバランスに関してレポートを作成する。
11	ビジネス実務の基本④－ビジネスと PDCA サイクル／マーケティング活動とコストパフォーマンス（経理財務）－	・PDCA サイクルを理解する。 ・マーケティングとコストの関係について理解する。	・事前学修：業界内の 2 社 CM を比較し、その特徴をまとめる。 ・事後学修:CM の必要性の有無に関してレポートを作成する。
12	自己実現とキャリアプランニング　－セルフマネジメントと自己啓発－	・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。 ・社会の中における自己を位置づける。	・事前学修：自己振り返りシートを作成する。 ・事後学修：再度自己振り返りシートを作成し、職業を通した自己意識をまとめる。
13	ビジネスプラン①－起業への意識－	・日常生活での不便な点、改善すべき点を挙げ、提案をするためのグループワークを行う。 ・CM 比較をイノベーションの観点から行う。	・事前学修：各自がテーマを見つける。 ・事後学修：グループ活動においてビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行う。
14	ビジネスプラン②	・CM 比較プレゼンテーションを行う。 ・実際に企画を考える。	・事前学修：グループのビジネスプランを発展させる。 ・事後学修：グループ活動においてビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行う。
15	ビジネスプラン・プレゼンテーション	・作成したビジネスプランに基づいて発表する。	・事前学修：プレゼンテーション準備を行う。 ・事後学修：最終レポートを作成する。

関連科目	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の科目。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

教養科目

	1	ビジネス実務総論	全国大学実務教育協会	紀伊国屋書店
	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	20 歳のときに知っておきたかったこと	ティナ・シーリグ	阪急コミュニケーションズ
2	イノベーションと企業家精神	P.F.ドラッカー	ダイヤモンド社
3	「デザイン思考」を超えるデザイン思考	DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部	ダイヤモンド社

評価方法 （基準）	・グループワーク（30%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（40%）を総合的に評価する。 ・毎回、座学ののち、グループワークとプレゼンが繰り返される予定であるので、準備を怠ることがないように注意する。
学生への メッセージ	私たちが生きている社会を「ビジネス」という視点で見つめなおしたとき、異なったものが見えてきます。私たちの生活を豊かにしてくれる企業等のビジネス組織へただ何となく参加するのではなく、その実態を理解し、自ら参画することを選びませんか。さまざまな組織ではさまざまな働き方がありますが、基本はビジネス実務能力が求められています。それを理解したうえで、従来の社会の上に新しい視点を作り上げていきましょう。
担当者の 研究室等	７号館５階　キャリア教育推進室（石井）
備考	予習・復習に毎回２時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。

科目名	組織と経営	科目名（英文）	Organizations and Management
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西之坊　穂
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的

【授業概要】
基本的な企業経営の仕組みについての講義を行います。この講義では、組織論・管理論・戦略論の基本的な用語と概念を学び、それらを用いて具体的な経営現象を説明していきます。

【目的】
経営学の基本的な理論と概念を理解すること

到達目標

【到達目標】
経営学の基本的な概念や用語を説明できるようにします。
国家公務員一般職試験および地方上級職試験における専門試験で出題される「経営学」を理解できる程度の知識を習得します。

授業方法と留意点

教科書を中心にした講義を行います。講義の理解を促進するために、講義の中で理解度テストを行うことがあります。

科目学習の効果（資格）

国家公務員一般職試験および地方上級職試験における専門試験科目の「経営学」対策

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	本講義のガイダンスを行います。	シラバスを事前に読んでおくこと
2	企業経営の基本的な仕組み	企業、経営、管理、経営資源といったキーワードから、企業経営の基本的な仕組みについて学習します。	今回のノートの復習
3	古典的管理論	テイラーの科学的管理法およびファヨールの管理過程論について学習します。	今回のノートの復習
4	フォード・システム	フォード・システムおよびフォーディズムについて学習し、フォード・システムが世の中に与えた影響や意義について検討します。	今回のノートの復習
5	人間関係論	メイヨーの人間関係論についてホーソン実験を通じて学習します。	今回のノートの復習
6	新人間関係論(1)	アージリスの成熟・未成熟理論、マズローの欲求階層説、アルダーファーのERG理論、マグレガーのX理論・Y理論について学習します。	今回のノートの復習
7	新人間関係論(2)	マレーの欲求リスト、マクレランドの達成欲求理論、ハーズバーグの二要因理論について学習します。	今回のノートの復習
8	モチベーション理論(1)	デシの内発的動機付け理論、ロックの目標設定理論の他にモチベーションの内容理論である誇りの理論や目標共有理論について学習します。	今回のノートの復習
9	モチベーション理論(2)	モチベーションのプロセス理論である、アダムスの公平理論、ヒュースマンの公平感受性理論、ブルームの期待理論について学習します。	今回のノートの復習
10	中間テスト	中間テストを行います。テスト終了後、解説を行います。	第1～9回に行った講義内容を復習しておくこと。
11	モチベーション向上の実践	TESSEI の事例を用いて、ワークを行います。また、企業で実際に導入されているモチベーション向上施策について学習します。	今回のノートの復習
12	ヒトのマネジメント	企業の人事管理について学習します。具体的には、人事評価制度、賃金制度、教育制度について学習した上で、企業がどのような人材を求めているのかを紹介します。	今回のノートの復習
13	近代組織論と意思決定論(1)	バーナード革命とサイモンの意思決定理論について学習します。	今回のノートの復習
14	近代組織論と意思決定論(2)	バーナード革命とサイモンの意思決定理論について学習します。	今回のノートの復習
15	DVD視聴	ガイアの夜明け（セブンイレブンの海外進出）を視聴し、今後海外展開する上で必要な知識やスキルについてワークを行います。	今回のノートの復習

関連科目

経営学、経営管理論、経営組織論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	経験から学ぶ経営学入門	上林憲雄他	有斐閣ブックス

	2	経営管理論	上野恭裕/馬場大治	中央経済社
	3	テキスト経営学（第3版）	井原久光	ミネルヴァ書房

評価方法 （基準）	期末試験（論述式）70%と中間テスト30%の成績によって評価します。
学生への メッセージ	経営学は、社会で働く上で役立つ知識になります。理論が企業内でどのように活用されているのか等、実経営のエピソードを絡ませて解説します。 授業の方法は講義形式になりますが、より主体的に学べるように工夫します。
担当者の 研究室等	11号館8階　西之坊講師室
備考	

科目名	ダイバーシティとコミュニケーション	科目名（英文）	Diversity and Communication
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,N科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れている。「境界線」も一つの視野では理解できない。さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ（多様性）を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。 ジェンダーの基本的理解はもちろん、ビジネスにおけるダイバーシティ・マネジメントをジェンダー視点で俯瞰することが目的である。
到達目標	ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス理論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって社会生活に活かすことを目標とする。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。
科目学習の効果（資格）	・ダイバーシティ・マネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。 ・「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ダイバーシティの世界へようこそ ・政策提言へ向けて	・事前学修：ダイバーシティに関して、調べる。 ・事後学修：身近なダイバーシティに対する気づきに関してレポートを作成する。
2	ダイバーシティと境界線	・ウチとソトの感覚	・事前学修：私たちの周りにある伝統や習慣について考える。 ・事後学修：「ウチとソト」に関するレポートを作成をする。
3	ジェンダー視点	・フェミニズム×女性学＋男性学＝人間学 ・時代を生きた女性たち６名に関して調査	・事前学修：フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて調べる。 ・事後学修：活躍した女性たちに関してグループで文献調査し、まとめる。
4	日本の近代化	・明治の落とし物 ・グループで時代を生きた女性た地に関するプレゼンテーション	・事前学修：明治・大正・昭和の歴史年表を作成する。 ・事後学修：明治・大正・昭和の世相と時代を文学の世界から垣間見ることによって、現代にも残存している慣習に関してレポートを作成する。
5	国際統計比較①	・ジェンダーエンパワーメント指数	・事前学修：国際的統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考える。 ・事後学修：国際的統計から理解できたことに関してレポートを作成する。
6	性役割の形成①	・発達段階における「刷り込み」	・事前学修：性役割を理解し、幼児期から振り返る。 ・事後学修：自らの「刷り込み」体験に関するレポートを作成する。
7	性役割形成②	・結婚と母性信仰	・事前学修：共同作業である結婚の意味を見直すと同時に、親役割に関して考える。 ・事後学修：自らの結婚観に関するレポートを作成する。
8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	・M字型労働力率曲線とビジネスマインドの形成	・事前学修：日本と世界を比較しながら、女性労働について考える。 ・事後学修：M字型労働力率曲線の底を上げるための提言レポートを作成する。
9	ワークライフバランスとビジネス組織	・ジェンダー・マネジメント	・事前学修：ワークライフバランスとは何か、政府の見解を調べる。 ・事後学修：ワークライフバランスが必要な理由をまとめ、レポートを作成する。
10	アサーティブネス理論①	・世界中でアサーティブネスが用いられる理由 ・政策提言へ向けての中間レポート提出	・事前学修：アサーティブネスについて調べる。 ・事後学修：アサーティブに話す練習をする。
11	アサーティブネス理論②	・スキルを身に付ける	・事前学修：アサーティブネス理論を実生活に活かす事例を考える。 ・事後学修：アサーティブネス理論を使うことによる自身の変化についてレポートを作成する。
12	国際統計比較②	・男女共同参画社会とは	・事前学修：男女共同参画社会に関して調べる。 ・事後学修：男女共同参画社会に関して自分の意見をまとめ、レポートを作成する。
13	ダイバーシティ・マネジメント①	・企業比較から政策提言へ	・事前学修：企業が必ず取り入れているダイバーシティ・マネジメントについて、事例研究する。 ・事後学修：興味のある企業のダイバーシティ・マネジメントに関してダイバーシティの視点からの政策提言に関するレポートを作成する。
14	ダイバーシティ・マネジメント②	・政策提言プレゼンテーション ・自由討議	・事前学修：事例研究した内容をプレゼンテーションできるよう練習する。 ・事後学修：事例研究した内容をより上手くプレゼンテーションできるよう練習する。
15	まとめ	・最終レポート提出 ・まとめ	・事前学修：ダイバーシティ・マネジメントについて述べられるようまとめる。 ・事後学修：ダイバーシティ・マネジメントが必要である理由について述べられるようまとめる。

関連科目	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンス科目」の「共通」分野に位置している科目である。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

教養科目

	1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂
	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社
2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房
3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書

評価方法（基準）	ロールプレイ（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	皆さんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論にあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもにそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。社会的弱者と呼ばれる私たちの身近な事例を通して、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。
担当者の研究室等	７号館５階　キャリア教育推進室（石井）
備考	予習・復習に毎回２時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。

科目名	地域と私	科目名（英文）	Introduction to Regional Science
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鶴坂　貴恵
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	「地域」に焦点を当てて学ぶ意義を理解し、地域ではどのような課題が存在しているかを学ぶために、テーマごとに学習をします。その後、体験学習では過疎地域である由良町を対象として、由良町の現状と課題を知った上で、現地に赴いて、グループ単位で調査の上、解決策を考え発表します。 この授業は、講義のテーマによって担当教員が変わるオムニバス授業です。
到達目標	・地域のことを学ぶ意義を理解する。 ・地域の課題を理解する。 ・地域の課題について解決策を提案できる。 ・グループ内で相互理解を図りながら活動できる。 ・グループの中で自分の役割を理解しながら活動できる。
授業方法と留意点	グループで議論等をした上で、グループごとに発表するといったグループワークが中心の授業です。 第２回目、３回目は外部講師による体験型の研修となります。 第 11 回目は和歌山県由良町での体験学習となります。 グループワークで学習を進めて行きますので、グループのメンバーに迷惑がかからないよう責任のある行動をしてください。
科目学習の効果（資格）	
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 4 月 8 日（土）	到達目標や授業方法、成績評価方法等について説明します。 地域のことを学ぶ意義を解説します。 （荻田・鶴坂）	【事前学習】 シラバスをみて、内容を確認する。 地域のことを学ぶことについて自分なりに考える。 【事後学習】 地域という視点で新聞等のニュースを探し、読み、自分なりの意見を考える。
2	自己の探求 4 月 15 日（土）	自己理解を深め、他者への配慮をしながら主体的に行動できるための体験型セミナーを受講します。 (外部講師)	体験型セミナーでの気づきをまとめる。
3	自己の探求 4 月 16 日（日）	自己理解を深め、他者への配慮をしながら主体的に行動できるための体験型セミナーを受講します。 （外部講師）	体験型セミナーでの気づきを今後、どのように活かすかを考える。
4	今、地域で何が起きているか ５月６日（土）１限	人口減少時代の都市・地域の問題や課題について解説し、地域貢献活動の重要性について考えます。 （鶴坂）	【事前学習】 キーワード「消滅都市」について調べる。 【事後学習】インターネットで地方都市では具体的にどのような問題が発生しているのか、その問題をどうやって解決しようとしているのかを調べる。
5	地域経済・経営 －地域の観光･ブランディング－ 5 月 6 日（土）２限	観光資源を活用した地域経済の活性化と地域のブランディングについて学習し、都市部と過疎地域での取組の違いを議論します。 （鶴坂・久保）	【事前学習】 地域資源を活用した観光によるまちおこしの事例を調べる。 【事後学習】 自分の地元と和歌山の観光の目玉を考える。
6	地域環境・防災 －空き家の現状と課題－ 5 月 6 日（土）３限	大都市周辺市街地と地方農山村部とでは空き家を取り巻く状況は異なります。地域特性ごとに異なる空き家の現状と課題を学習し、寝屋川市や和歌山県下の市町村などを対象とした空き家対策などについて議論します。 （平田・稲地）	【事前学習】 授業前に国内の空き家問題を概観するために、国土交通省や自治体などが行っている調査結果、対策、制度など情報をインターネットなどで収集・整理しておくこと 【事後学習】 授業後は議論した内容を整理しておくこと
7	地域政策・文化 －地域とスポーツ－ 5 月 20 日（土）１限	地域とスポーツとの関連；「トップスポーツ（プロ野球やプロサッカー、ラグビーのトップリーグ、都道府県対抗駅伝など）との循環による郷土愛的な地域性」および「地域スポーツクラブにおける住民のスポーツ参加」について理解・議論します。 （藤林・内部）	【事前学習】 事前に提示するキーワードについて予習しておくこと 【事後学習】 授業ノート等で復習すること
8	地域医療 －地域で健康な生活を送るには？－ 5 月 20 日（土）２限	地域で健康な生活を支える上で住民が活用できる、組織、サービス、専門職について理解し、地域で健康な生活を送るための課題を多様な視点から話し合います。 （荻田・田中）	【事前学習】事前に提示するキーワードについて各自調べておくこと。 【事後学習】 授業で発表された内容について整理し、地域医療に関する知識をまとめておくこと。
9	事前学習① 由良町関係者の講演 ５月 20 日（土）３限	和歌山県由良町役場の方に来学いただき、由良町の現状や課題をお聞きします。	【事前学習】 和歌山県由良町の概要を調べる。 【事後学習】 和歌山県由良町の課題をまとめる。
10	事前学習② グループワーク 6 月３日（土）１、２限	由良町を対象として、地域経済・経営、地域政策・文化、地域環境・防災、地域医療のどの切り口で課題発見や解決策に取組むかをグループで検討します。また、グループ内での分担を決めます。	【事前学習】 グループでどの領域の問題を取り扱うか決めておく。 【事後学習】 由良町でのフィールドワークの準備を行う。
11	体験学習 （和歌山県由良町）	由良町に出かけ、フィールドワーク（調査）を行います。	【事前学習】 現地で調べることについて予備調査しておく。

	6月17日（土）終日		【事後学習】 現地で得られた情報をまとめておく。
12	プレゼンテーション講座 7月1日（土）1限	プレゼンテーションについての解説、パワーポイントによる資料作成方法の解説をします。 （石井、鶴坂）	【事前学習】 現地で得た情報をまとめておく。 【事後学習】 スライドをつくってみる。
13	事後学習① グループワーク 7月1日（土）2限	現地で得た情報の整理をもちより、発表できる形にしていきます。	【事前学習】 グループで情報を共有化しておく。 【事後学習】 発表できるよう準備をする。
14	事後学習② 成果発表会 7月15日（土）1、2限	作成したスライドを使い、成果発表を行います。	【事前学習】 発表の練習を行う。 【事後学習】 他のグループの取組内容の整理をする。 発表したときのコメントや質問を自分たちのグループの発表内容に反映させ、レポート作成に役立たせる。
15	事後学習③ ふりかえり 7月15日（土）3限	「地域と私」全体の総括、ふりかえりを行います。（鶴坂）	【事前学習】 これまでのプリントや副専攻課程ガイドブック等を整理する。 【事後学習】 副専攻課程ガイドブックの完成、レポート作成。

関連科目	ソーシャル・イノベーション副専攻科目群

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	グループワークの成果物　40% グループの成果発表　20% 最終レポート　40%　６０%で合格とする。
学生への メッセージ	地域で起きていることを自分ごとにしていくための基礎を形成する授業です。また、副専攻科目を履修していくうえでの、基本的な学びができる科目でもあります。基本をしっかり身につけ、さらに学びを深めるためにも、主体的な学びの姿勢を期待します。
担当者の 研究室等	鶴坂研究室　11号館7階
備考	

科目名	地域連携教育活動Ⅰ	科目名（英文）	Communitiy-Based Education Support Activities Ⅰ
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田　佐治子.朝日　素明.小山　裕樹.林　茂樹
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,N科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	本科目はサービスラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の幼稚園・小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週１回９０分行う。
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年１月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の校長・教頭・園長との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」を初めて履修する学生を対象とする。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	事前指導１　活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備 事前指導２　マナー講座・小中学校の教育現場について 事前指導３　「守秘義務」の意味とその内容について 活動準備　受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する 活動 1～25　受け入れ校にて活動　（活動業務日報・活動時間票の提出） 最終報告会　活動報告会を開催する。 ※注意事項 事前指導に１回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。 事前・事後学習課題　学外での活動に際し、各種活動（各受入れ団体によって異なる）の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成に各１時間程度行う。
関連科目	教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	①年間活動計画書 ②活動業務日報・活動時間数（出席数）票 ③活動進捗状況報告書 ④最終活動報告書の全てを提出し、発表会で活動報告した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の幼稚園、小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
担当者の研究室等	7号館3階（朝日研究室）、7号館4階（小山研究室）、7号館3階（林研究室）、7号館3階（吉田研究室）
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。

科目名	地域連携教育活動Ⅱ	科目名（英文）	Communitiy-Based Education Support Activities II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田　佐治子.朝日　素明.小山　裕樹.林　茂樹
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,N科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	本科目はサービスラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の幼稚園・小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週１回９０分行う。
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年１月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の校長・教頭・園長との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」を履修した学生のみとする。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	事前指導１　活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備 事前指導２　マナー講座・小中学校の教育現場について 事前指導３　「守秘義務」の意味とその内容について 活動準備　受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する 活動 1～25　受け入れ校にて活動　（活動業務日報・活動時間票の提出） 最終報告会　活動報告会を開催する。 ※注意事項 事前指導に１回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。 事前・事後学習課題　学外での活動に際し、各種活動（各受入れ団体によって異なる）の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成に各１時間程度行う。
関連科目	教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	①年間活動計画書 ②活動業務日報・活動時間数（出席数）票 ③活動進捗状況報告書 ④最終活動報告書の全てを提出し、発表会で活動報告した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の幼稚園、小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
担当者の研究室等	7号館3階（朝日研究室）、7号館４階（小山研究室）、7号館3階（林研究室）、7号館3階（吉田研究室）
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。

科目名	チームビルディング	科目名（英文）	Team Building
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	成熟社会においては個人の力を集合させてプロジェクトを作り上げる「チームビルディングの思考や技術」を学ぶことが重要である。 本科目はチームビルディングの理論を学び、様々なアクティビティを通してチームに貢献する方法を考えられるようになるための授業である。 ２回生以降に摂南大学 PBL プロジェクトを履修する際にも役立つ。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部［II］
到達目標	チームで物事を進める際に必要な知識が理解出来るようになり、技能を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	講義は受講生によるアクティビティ・プレゼンテーション・グループワークなどを織り交ぜて進める。
科目学習の効果（資格）	チームで物事を進める際の基礎知識が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の進め方 ・なぜチームが必要なのかを知る ・チームビルディングとは何か　を理解する	本科目のシラバスを精読すること。
2	チームビルディングとは何か	・自己紹介ワーク ・チームビルディングの理論を学ぶ ・チームビルディングのための技能を知る	チームにどのように貢献できるかを考える。
3	チームビルディング体験	・ペーパータワーワーク（予定） ・チームの 10 カ条 などに取り組み、チームビルディングを体験する	チームでの取り組みを振り返る。
4	チームにおけるリーダーとフォロワーの役割	・リーダーシップとフォロワーシップを学ぶ ・メンバーを支援するための質問術、傾聴術を身につける	配布資料を熟読する。
5	学習するためのチームづくり	・チームを機能させるために必要な要素を学ぶ	配布資料を精読する。
6	話し合う技術	・チーム話し合う際の技術を学ぶ	配布資料を熟読する事
7	ビジネス記事を活用したディスカッション	記事を活用して情報の読み取りと活用、自分ならどうするかを考える	チームでのディスカッションを振り返える。
8	チームビルディングの技術を身につけるためのアクティビティ①	・ペアワークに取り組み、情報の読み取りと活用、提案することを学ぶ	チームにどのように貢献できるかを考える。
9	チームビルディングの技術を身につけるためのアクティビティ②	・グループでニッポンの課題の解決策を考える	チームにどのように貢献できるかを考える。
10	チームでプロジェクトを企画する	・講義の中間おさらい ・ヒーローインタビュー ・チームでプロジェクトを企画する	チームにどのように貢献できるかを考える。
11	摂南大学 PBL プロジェクトの紹介①	本学で開講されている摂南大学 PBL プロジェクトの紹介	興味を持ったプロジェクトについて調べる。
12	摂南大学 PBL プロジェクトの紹介②	本学で開講されている摂南大学 PBL プロジェクトの紹介	興味を持ったプロジェクトについて調べる。
13	工程管理を意識したチームビルディング	ビジネスゲームを題材にリソースとコスト、工程管理を意識したワークに取り組む	工程管理に関して調べる。
14	プロジェクトのプレゼンテーション	第１０回目の課題の報告プレゼンテーション	プレゼンテーションの際に留意することを考える。
15	講義のまとめと振り返り	講義のおさらいと振り返りを行う	提出物などの出し忘れがないか確認する。

関連科目

・「ソーシャル・イノベーション副専攻科目過程」の科目
・キャリアデザインⅠ・Ⅱ、摂南大学 PBL プロジェクト、ソーシャルイノベーション実務総論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	チームでの提出物 20%、チームへの貢献度とワーク後の振り返りシート 30%、最終レポート 50%　で総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ワークやアクティビティを織り交ぜる授業となるので、主体性を持って講義に挑むこと。
担当者の	7 号館 3 階　キャリア教育推進室（水野研究室）

研究室等	
備考	・参考とする書籍、文献は適宜提示する。

科目名	哲学から学ぶ	科目名（英文）	Philosophy
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	有馬　善一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	哲学的な知の営みは、他の学問と比較してどのような独自性、特徴を持つであろうか。本講義では哲学的に問うことの本質を明らかにしながら、いくつかの哲学的・倫理学的問題を取り上げ、受講生と共に考えていく。「人間の心と動物の心」、「悪」、「人生と時間」といったテーマを中心に論じる。
到達目標	哲学的に考えるとはどういうことであるかを理解する。 授業で取り上げる個々の哲学・倫理学のテーマに関して、自分なりによく考える。さらに、それを論理的に文章にまとめる力をつける。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行うが、受講者同士のディスカッションの時間も組み込む予定。また、必要に応じて資料を配付する。
科目学習の効果（資格）	哲学的に考えることとはどういうことであるかを理解し、これを実践することは、学問的に必要であるばかりではなく、人生の様々な局面においても求められるものである。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義へのイントロダクション	哲学とは何かについて解説をする。 古代ギリシアにおける哲学 近代哲学における精神と物質の二元論 現代哲学の諸課題	哲学に対する自分なりのイメージをまとめておく。
2	知識について（1）	どうやって私たちは何かを知るのだろうか。 経験論と合理論	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
3	知識について（2）	科学と哲学との対立と対話	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
4	知識について（3）	言葉が意味を持つとはどういうことか。 どうしてコミュニケーションが可能になるのか。 言葉の意味と音としての言葉	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
5	心の問題（1）	心の中というものはあるのだろうか。 現象学と行動主義	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
6	心の問題（2）	他人の心を知ることはできるのだろうか。 独我論と共同主観性	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
7	心の問題（3）	心と身体の関係はどうなっているのだろうか。 身心問題の難しさ。 観念論と実在論を越えた身体のあり方	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
8	自由と因果性（1）	私たちの行為は自由に基づいているのか、それとも、何らかの法則に決定されてるのか。 カントの倫理思想	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
9	自由と因果性（2）	実存哲学の自由に対する捉え方 因果性と関係性	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
10	悪について	正しいことと悪いこととの区別はどのような根拠があるのか。 悪とは何か。	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
11	生と死（1）	生きることの意味。死ぬこととはどういうことか	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
12	生と死（2）	ハイデガーの死に関する思想 仏教の死に関する思想	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
13	神について	神は存在するのか。 魂の不死の問題	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
14	世界について	我々の生きる世界とはいかなるものか。 人間の世界における位置。	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
15	まとめ	講義を通じて明らかになった哲学的な考え方の特徴を改めてまとめてみる。	授業全体をまとめておくこと。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	〈子ども〉のための哲学	永井均	講談社現代新書
2	ダンゴムシに心はあるのか	森山徹	PHP サイエンス・ワールド新書
3	哲学ってどんなこと？	ネーゲル	昭和堂

評価方法（基準）	授業内でのレポート・平常点（40%）と授業後のレポート課題（60%）
学生へのメッセージ	大学までは、哲学的なものの考え方を訓練する機会がなかなかなかったと思いますが、これからの困難な時代を生き抜くためには、自分でものを考えることが一番大事です。
担当者の研究室等	7 号館 4 階
備考	適宜参考資料を紹介する。

	事前事後学習に 60 時間必要。

科目名	統計学	科目名（英文）	Statistics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	星山　幸子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	統計学を身につけるメリットは，データに裏打ちされた客観的な事実を見抜く技術を身につけることであり，論理的思考ができるようになることである．また、統計学の考え方は企業における意思決定支援のためのデータ解析手法として多くの場面で利用されている．この授業では，初めて統計学を学ぶ学生を対象に,表計算ソフトを使用しながら統計学の基本的な考え方を学び,統計データの解析に必要となる基礎的知識を習得する．
到達目標	データを解析・整理・要約するための基本的な統計学の理解および知識の習得を目標とする．
授業方法と留意点	毎回提示される課題を提出すること．未提出の場合は欠席とみなす．なお、出席が８割未満の場合は単位を認めない．Microsoft EXCEL を使用するので情報処理の基本知識を有していることが望ましい．
科目学習の効果（資格）	卒業論文やレポートなどにおけるデータの整理や解析方法の習得が期待される．また，企業においては多方面で統計学の知識が活用されていることから，文系学生の就職活動にもアピールできるものと考えられる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業計画概要と受講注意事項、 学内ネットワーク説明、統計学概要	シラバスの確認
2	変量のデータ（1）	基本統計量 平均と中央値，最頻値. 最大値と最小値，範囲.	前回の復習と課題の提出 配布資料の確認
3	変量のデータ（2）	ヒストグラムと度数分布表	前回の復習と課題の提出 配布資料の確認
4	変量のデータ（3）	ばらつき	前回の復習と課題の提出 配布資料の確認
5	確率分布（1）	正規分布と確率分布	前回の復習と課題の提出 配布資料の確認
6	統計的推定（1）	母集団と標本、区間推定	前回の復習と課題の提出 配布資料の確認
7	統計的推定（2）	クロス表の作成	前回の復習と課題の提出 配布資料の確認
8	統計的推定（3）	検定統計量、棄却域 カイ二乗検定	前回の復習と課題の提出 配布資料の確認
9	前半まとめ	確認テスト	内容の把握と整理、評価 前半復習と修得度の確認
10	空間と事象（1）	ベン図，和事象，排反関係	課題の提出 配布資料の確認
11	確率と統計（1）	理論的確率と条件的確率	前回の復習と課題の提出 配布資料の確認
12	確率と統計（2）	ツリーダイアグラム	前回の復習と課題の提出 配布資料の確認
13	相関分析と回帰分析（1）	散布図と相関係数、回帰直線	前回の復習と課題の提出 配布資料の確認
14	相関分析と回帰分析（2）	回帰分析：判別分析	前回の復習と課題の提出 配布資料の確認
15	後半まとめ	確認テスト	内容の把握と整理、評価 後半復習と修得度の確認

関連科目：情報処理Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	毎回、資料を配布する		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	統計学がわかる	向後千春	技術評論社
2			
3			

評価方法（基準）	授業参加状況，毎回の課題，定期試験を総合して評価する． （授業参加状況および毎回の課題 40%，中間試験 30%，定期試験 30%）
学生へのメッセージ	数学が苦手でも大きな問題はありませんが，復習は必須です．使いこなすには多くの練習時間が必要です．空き時間を使って復習することをお薦めします．文系の学生にとって統計学の知識は、就職活動時にアピールできるばかりでなく、社会に出てからも必ず役立ちます．
担当者の研究室等	７号館２階(非常勤講師室)
備考	質問はいつでも歓迎します． 授業時間外での質問等はメールにて対応します．

科目名	日本国憲法	科目名（英文）	Japanese Constitution
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	・憲法は、専断的になりがちな公権力に制限を加え、国民の基本的人権を広く保障しようとする国家の基礎法である。 ・日本国憲法は、主に基本的人権とそれを担保するための統治機構の規定から構成される。 ・こうした憲法上の規定をめぐり争われる、国民と国家機関ないし国家類似団体間での法的紛争をめぐる諸問題について、身近な事例を取り上げながら、わかりやすく解説を加える。 ・また、講義を通じて、事例から憲法上の争点を抽出する能力、争点に対する考え方（判例や学説）を理解する能力、および、争点に対する結論とその論拠についてコンパクトにまとめて提示できる能力の養成を目的とする。
到達目標	・「立憲主義」とはどういうものかを説明できるようになる。 ・日本国憲法上の論点（問題の争点）を抽出し、それに対する判例や通説的見解を説明できる。 ・公務員試験に出題される憲法に関する問題を素早く解けるようになる。
授業方法と留意点	・原則として講義形式で行うが、質疑応答を通じて受講生との双方向理解につとめたい。
科目学習の効果（資格）	・各種の公務員試験（行政職、警察官、消防官など）では、必ず、憲法やそれに関連する問題が出題されます。 ・これらの試験を受けようとする人は充分に理解してください。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	憲法と立憲主義	・憲法と法律 ・立憲主義 ・権力分立と法の支配	教科書の入手 事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
2	日本国憲法の制定過程	・マッカーサー・ノート ・大日本帝国憲法改正限界論 ・日本国憲法の正当性	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
3	平和主義	・日本国憲法９条１項の解釈 ・日本国憲法９条２項の解釈 ・自衛隊の海外活動 ・集団的自衛権	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
4	基本的人権	・人権とは何か ・近代自然法と社会契約説 ・夜警国家と福祉国家 ・公共の福祉 ・プログラム規定	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
5	基本的人権の享有主体 憲法の私人間効力	・天皇の人権享有主体性 ・外国人の人権享有主体性 ・子どもの人権とその制約 ・憲法の直接適用説と間接適用説	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
6	精神的自由権（１）	・思想良心の自由 ・信教の自由とその限界 ・政教分離の原則と違憲審査基準	・事前：教科書該当箇所の精読 ・事後：要点をノートに整理
7	精神的自由権（２）	・表現の自由とその類型 ・表現の自由に対する規制類型 ・報道の自由と限界 ・学問の自由と最先端科学研究	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
8	経済的自由権（1）	・　職業選択と営業のの自由 ・居住と移転の自由	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
9	経済的自由権（2）	・財産権の保障 ・財産権の限界 ・私有財産に対する正当な補償	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
10	人身の自由	・適正手続の保障 ・罪刑法定主義 ・令状主義とその例外 ・接見交通権 ・黙秘権と拷問の禁止 ・残虐な刑罰と死刑制度 ・刑事補償請求権	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
11	社会権	・生存権の保障 ・教育を受ける権利 ・労働基本権	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
12	包括的基本権 平等権	・幸福追求権と死刑 ・新しい人権 ・機会の平等と結果の平等 法の下の平等をめぐる違憲審査基準 ・尊属殺人罪（刑法旧 200 条）と尊属傷害致死罪（刑法旧 205 条２項）	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
13	国会	・国権の最高機関性と「政治的美称説」 ・二院制 ・委員会中心主義 ・議員の免責特権	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
14	内閣と裁判所	・議院内閣制 ・独立行政委員会 ・内閣不信任決議と衆議院の解散 ・司法権の独立と「児島惟謙」 ・違憲審査制 ・違憲判決の効果	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
15	財政、地方自治、憲法の保障	・財政民主主義 ・地方自治の本旨	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理

			・憲法改正の手続と限界	

関連科目	行政法、民法及び刑法その他諸法と密接に関連しています。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	憲法の時間	井上典之＝浮田徹ほか	成文堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	憲法（第６版）	芦部　信喜＝高橋　和之（補訂）	岩波書店
2	スタート憲法（第２版補訂版）	吉田仁美	成文堂
3	憲法判例集（第 10 版）	野中　俊彦＝江橋　崇	有斐閣新書

評価方法（基準）	・定期試験の成績のみで評価する。
学生へのメッセージ	・各種国家試験や資格試験、および、公務員試験受験予定者は、この講義そのものが試験対策になり得ますので、積極的に受講してください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　小野准教授室
備考	事前学習として、内容に記載した事項につき、毎回１時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、講義内容についてノートにまとめるなど、毎回２時間以上の復習に取り組むこと。

科目名	人間の探求	科目名（英文）	Humanities
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	池田　清
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	フロイトの精神分析は、現在でも多くの批判にさらされているとはいえ、無意識という新しい観点から人間の考え方や振舞い方の意味を考えるその立場は、西欧の伝統的な人間論と深い関係をもっている。授業では、フランスの哲学者デカルト以来の近代の人間論をフロイトの精神分析の過激性と対比させながら、その理論的厳密性を紹介する。また、後半では、授業で得た知識を確認するために、デカルトの考え方を批判的に捉えた映画『Blade Runner』を観る。
到達目標	他者との関係、自分自身との関係、見ることの複雑性、記憶の現在性などに対する問題意識の形成。
授業方法と留意点	テキストは使用しない。板所はかなりの量になるので、ノートは必ず準備すること。書き残したノートがないと、試験問題に解答することはできません。参考文献は、そのつど紹介します。
科目学習の効果（資格）	人間論によって自分自身の存在＝「私は何ものなのか」、あるいは死＝「私が無になるとは、どういうことなのか」について考えることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	講義の概要	――――――
2	フロイトの生涯	フロイトの人生と思想の流れ	シラバスの熟読
3	無意識の存在	ヒステリー研究	前回のノートの見直し
4	無意識の存在	夢の解釈方法	前回のノートの見直し
5	心的外傷	抑圧の事後性	前回のノートの見直し
6	心的外傷	現実か幻想か	前回のノートの見直し
7	デカルトの思想	「私は考える、故に私は存在する」	前回のノートの見直し
8	デカルトの思想	欺く神と神の誠実性	前回のノートの見直し
9	死の欲動	糸巻き遊びによる反復強迫	前回のノートの見直し
10	死の欲動	快感原則と現実原則	前回のノートの見直し
11	ラカンの精神分析	自我の誕生としての鏡像	前回のノートの見直し
12	ラカンの精神分析	言語と無意識	前回のノートの見直し
13	生と死の意味	『Blade Runner』鑑賞	前回のノートの見直し
14	生と死の意味	『Blade Runner』鑑賞及び分析	前回のノートの見直し
15	試験対策	試験問題答案の書き方	これまでのノートの見直し

関連科目：思想系の科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	レポート（２０%）、定期試験（８０%）により総合的に評価。
学生へのメッセージ	自分自身のあり方、人間関係のあり方、生きるあるいは死ぬとはどういうことか、こうした根本的な問題に関して、答えは出ないものの、新しい見方をすることができると思います。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	犯罪被害者の支援と法的救済	科目名（英文）	Legal Remedies for Victims of Crime
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	・日常的な人間関係や医療過誤を通じて、何らかの犯罪の被害者となった場合、犯罪被害者はどのような対処をとることができるだろうか。 ・たとえば、医療機関における医療ミス、交友関係をめぐって生じるストーカーやデート DV の被害、近親者からの精神的・肉体的な虐待、学生をカモにする巧妙な儲け話から起因する詐欺被害（マルチ商法）、とりわけ男子学生が陥りやすい出会い系を通じた美人局被害、あるいは、家族が犯罪に遭うことによる経済的損失ないし被害など、事例を挙げればきりがない。 ・近年、わが国でも犯罪被害に遭った者を支援する制度が構築されつつある。 しかし、わが国ではこうした支援ないし救済策が講じられてこなかった期間が長すぎたため、多くの国民にその内容が浸透していない。そのため、依然として被害者は泣き寝入りするか、何も打つ手をとらずに最悪の結果を招来することもある。 ・本講義では、自身や家族が犯罪被害者となってしまった場合、どのような救済策があるのかをわかりやすく解説し、被害を最小限度にとどめ、さらには犯罪被害者に対する理解を深めることを目的とする。 ・犯罪被害者を論ずる前に、講義の数回を用いて、まず「加害者」の法的責任、「犯罪者」刑事責任、「犯罪者」の処遇、刑罰の正当化根拠、厳罰化をめぐる諸問題など、犯罪被害者を講じる前提となる伝統的な刑事学の講義を行う。 ・法的知識は、時代を生き抜く上での一種の「転ばぬ先の杖」（教養）でもあるため、文系や理系を問わず、幅広い学生を履修対象とする。
到達目標	・「被害者」概念について説明できるようになる。 ・犯罪被害者の救済制度を挙げ、これを説明できるようになる。 ・犯罪被害者の支援制度について理解する。
授業方法と留意点	・原則として講義形式で行うが、教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答も随時行いたい。
科目学習の効果（資格）	・万が一に犯罪の被害に遭ったとしても、泣き寝入りすることなく、正当な手法による被害回復や救済手段を身につけることができる。 ・公務員や法律事務所などへの就職に役立ちうる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 「加害者」と「犯罪者」 「被害者」と「犯罪被害者」	・授業の進め方と文献紹介 ・「加害者」の法的責任 ・「加害者」と「犯罪者」 ・「被害者」の意義 ・「犯罪被害者」の意義	事前：「犯罪被害者」について調べてみよう 事後：重要事項をまとめる
2	「犯罪者」をめぐる諸問題	・「犯罪者」の刑事責任 ・刑罰の正当化根拠 ・厳罰化をめぐる諸問題	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる
3	犯罪被害の告訴・告発と証拠収集 犯罪捜査への対応	・告訴と告発の方法 ・証拠保全 ・犯罪被害者に対するメディアスクラム ・報道による被害（テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、ネット） ・被害者連絡制度 ・被害者側からの問い合わせ ・被害者からの事情聴取 ・警察と検察によるカウンセリング体制	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる
4	加害者との示談	・示談の意義 ・示談が与える影響 ・示談慰謝料の算定	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる
5	加害者の不起訴と検察審査会	・検察審査会 ・検察審査員 ・審査申立手続 ・検察審査会と被害者 ・起訴議決制度	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる
6	刑事公判と被害者	・被害者による裁判傍聴 ・被害者による記録の閲覧と謄写 ・被害者の意見陳述 ・被害者等特定事項の非公開	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる
7	犯罪被害者参加制度	・対象犯罪 ・被害者に認められる行為 ・参加の申出と参加時期 ・公判前整理手続への参加 ・被害者の証人尋問 被告人質問と意見陳述	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる
8	遺族による法廷への遺影の持ち込みをめぐる諸問題	・遺影の持ち込みと公正なる刑事裁判	事前：前回までの復習 事後：重要事項をまとめる
9	損害賠償命令制度	・制度の趣旨 ・対象犯罪 ・遺族による申立 ・請求対象とその範囲 ・管轄裁判所と申立期間	事前：「犯罪被害者への経済支援」を調べよう 事後：重要事項をまとめる
10	被害者通知制度 犯罪被害者等給付金制度	・加害者の施設内処遇と社会内処遇 ・加害者の仮釈放 ・犯罪被害者への経済支援制度 ・受給資格 ・支給要件と支給額 ・不服申立	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる

11	その他の経済的支援制度	・犯罪被害者救護基金 ・交通事故犯罪 ・犯罪による精神被害	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる
12	少年事件における被害者保護	・少年法と犯罪被害者救済 ・少年事件における記録閲覧 ・少年審判の傍聴 ・少年事件での意見陳述 ・少年とその親に対する損害賠償 ・少年法と犯罪被害者救済	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる
13	DV 被害	・DV とは何か ・配偶者による犯罪 ・DV 被害者の保護と支援 ・保護命令	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる
14	ストーカー被害	・いわゆる「ストーカー規制法」の概要 ・ストーカーへの行政処分 ・ストーカー犯罪の類型 ・ストーカーへの対応策	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる
15	高齢者の虐待	・高齢者虐待の原因論	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる

関連科目

各学部開講の教養科目・・・法学入門、現代社会と法、日本国憲法
法学部開講の専門科目・・・刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事政策、少年法、民法、民事訴訟法ほか

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	開講時に指示する。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	開講時に指示する。		
2			
3			

評価方法（基準）

・期末試験の成績による。

学生へのメッセージ

・事件報道やその後の話、あるいは社会の問題に関心のある学生が受講することをおすすめします。知って得をすることがあっても、損はさせない内容です。

担当者の研究室等

11 号館 10 階　小野准教授室

備考

事前学習として、内容に記載した事項につき、毎回１時間以上の予習に取り組むこと。
事後学習として、講義内容についてノートにまとめるなど、毎回２時間以上の復習に取り組むこと。

科目名	ビジネスマナー	科目名（英文）	Business Manners
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	奥田　和子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。 企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。
到達目標	クリエイティブなビジネスパースンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	ロールプレイやグループワークを多く取り入れるため、学生の積極的な参加が求められる。
科目学習の効果（資格）	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション －あいさつの重要性（理論と実践）	・授業のオリエンテーション ・授業のルール ・あいさつの真の意味とは ・正しい基本姿勢を学ぶ	・事前学修：ビジネスマナーとは何かを考える。 ・事後学修：ビジネスマナーの意義とは何か、400字でまとめる。
2	仕事の進め方と組織活動	・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の８つの意識 ・話し方と聞き方	・事前学修：仕事の基本の８つの意識について調べる。 ・事後学修：仕事の取り組み方の基本は何か、まとめる。
3	目標設定と PDCA サイクル	・目標設定（MBO） ・PDCA とは ・チームと個人の役割	・事前学修：PDCA について調べる。 ・事後学修：あなたの日常生活における MBO とと PDCA を考え、まとめる（400 字以上）。
4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT 方式-	・事前学修：あなたの１週間予定表を作成する。 ・事後学修：あなたの予定表を作成提出し、改善点をまとめる。
5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TPO をもとに-	・事前学修：敬語プリント①をする。 ・事後学修：ケーススタディプリントをする。
6	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護（P マーク） ・コンプライアンス	・事前学習：コンプライアンスについて調べる。 ・事後学修：個人情報保護法についてレポートを作成する（400 字以上）。
7	ホウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修：報告・連絡・相談の重要性について調べる。 ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。
8	電話応対	・ビジネスフォンの扱い方 ・５W２H から６W３H へ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修：電話応対プリントをする。 ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。
9	来客応対	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換	・事前学修：来客応対プリント①をする。 ・事後学修：来客対応プリント②をする。
10	設営の基本	・YTT 方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修：同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。 ・事後学修：設営事例をまとめる。
11	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社交文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修：ビジネス文書①をする。 ・事後学修：ビジネス文書②をする。
12	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修：ビジネス文書③をする。 ・事後学修：ビジネス文書④をする。
13	ビジネス通信の基本	・通信手段（電子メール、ファックス等）の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修：郵便の知識プリント①をする。 ・事後学修：メール文書を作成する。
14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修：慶弔・贈答プリント①をする。 ・事後学修：ビジネス文書（社外社内）、郵便の知識、慶事のマナーのポイントをまとめる。
15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修：ビジネス実務能力を身に付け、グローバル社会へ対応していく決意を示す。 ・事後学修：全体をまとめる。

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
評価方法 （基準）	ロールプレイ等のワーク（20%）、複数回のレポート（40%）、期末試験（40%）を総合的に評価する。
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。
担当者の 研究室等	７号館５階　キャリア教育推進室（石井）
備考	予習・復習に毎回２時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。

科目名	武道論	科目名（英文）	Budo-ron（Theory of Japanese Martial Arts）
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	横山　喬之
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	「武道とは何か」、「なぜ今武道なのか」等、現代における武道の特性などを概説し、現状と課題について検討していく。 また、武道の特性が理解でき、日本人の行動様式やものの考え方についても知ることができることを一般的な目標とする。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部［II］
到達目標	日本伝統文化である武道（意味・種類）についての理解を深めることができる。 日本人の精神を「武士道」より学び、道徳についての理解を深めることができる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。
科目学習の効果（資格）	武道の特性を理解することができる。また、伝統的な行動様式を学ぶ中から現代にない思考力が育まれることを期待する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業内容の説明と武道について	武道について調べてくる
2	武道とは何か	武道の意味や言語について概説する	武道にはどのような種目があるのか調べる
3	武道と武術について	武道と武術の違いについて	武芸十八般について調べてくる
4	武道（柔道 1）	柔道の創始と嘉納治五郎について	嘉納治五郎について調べ内容をまとめる
5	武道（柔道 2）	柔道の普及発展、形について	柔道の普及発展、形について調べ内容をまとめる
6	武道（剣道 1）	剣道の起源について	剣道の起源について調べ内容をまとめる
7	武道（剣道 2）	流派の成立について	流派の成立について調べ内容をまとめる
8	武道（弓道・相撲）	弓道・相撲について	弓道・相撲について調べ内容をまとめる
9	武道（空手・合気道）	空手・合気道について	空手・合気道について調べ内容をまとめる
10	武士道から見る日本人の道徳心①	武士道とは何か	著者・著作にいたる背景を調べまとめる
11	武士道から見る日本人の道徳心②	武士道の道徳心	武士はどのような道徳を持ち生活していたか調べまとめる
12	武道と修行	武道における修行について	千日回峰行とは何かを調べまとめる
13	武道の国際化	武道の国際化について	武道がどのように世界に普及したか調べまとめる
14	武道の身体技法	武道特有の身体技法について	武道の身体技法とは何か調べまとめる
15	武道論総括	１４回まで行った授業の内容に関してまとめを行う	これまでの授業の復習

関連科目

スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ
生涯スポーツ実習
健康論
保健論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	武士道	新渡戸　稲造	
2	今、なぜ武道か	中村　民雄	
3			

評価方法（基準）	出席率 80%以上のものを評価資格者とする。遅刻は 2 回で 1 回の欠席と同等とみなす。（遅刻は授業開始から 30 分以内に入室したことをいう） 提出課題、小テスト、総括を総合的に評価し、単位を認定する。（ただし、上記の出席率を満たした者のみを評価対象者とする。）
学生へのメッセージ	質問等がある場合には、横山講師室に来てください。
担当者の研究室等	総合体育館 1 F 横山講師室
備考	

科目名	プレゼンテーション論	科目名（英文）	Presentation
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,N科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	現代社会における企業等のビジネス組織で用いられているプレゼンテーションに関する知識や技法についての基礎的理論を体系的に学習する。また、基本的コミュニケーションの在り方からスピーチの構成と実践に取り組み、次いでプレゼンテーションでの実践へと段階的に学習し、体得することを目的とする。
到達目標	１）自己紹介等、自分のことや興味・関心の高いものを堂々と述べることができるようになる。 ２）相手を尊重したコミュニケーションの必要性を理解できるようになる。 ３）自分の伝えたいことを明確にし、それを伝えるための初歩的スキルを身に付けることができる。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。 個人のプレゼンテーションを繰り返すので、学んだことを実践に移す努力が必要である。そのためにプレゼンしている姿をカメラ等で撮影し、それを基に自分自身で改善してくことが望まれる。
科目学習の効果（資格）	コミュニケーションに対する理解が深まり、自主性を養うことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・プレゼンテーションの定義	・事前学修：プレゼンテーションの意味を考える。 ・事後学修：初歩的プレゼンテーションについてレポートを作成する。
2	自己紹介プレゼンテーション①	・漢字一文字で自分を表現する。	・事前学修：漢字一文字表現を練習する。 ・事後学修：漢字一文字表現を練習し、自己紹介プレゼンの構造を考える。
3	プレゼンテーションとコミュニケーション	・プレゼンはコミュニケーションの一部であること、それ以前にプレゼンターとしての人間的要素を高めることの必要性を学ぶ。	・事前学修：漢字一文字表現を練習し、自己紹介プレゼンの構造を考え、練習する。 ・事後学修：コミュニケーション思考についてレポートを作成する。
4	プレゼンテーションの基本	・基本的スキルの提示、ならびにそれを高める努力の在り方を学ぶ。	・事前学修：プレゼンテーションの基本は何かを考える。 ・事後学修：自己紹介プレゼンの構造を考え、練習する。
5	自己紹介プレゼンテーション②	・1 分、3 分という時間を使い切るプレゼンテーションを練習する。	・事前学修：初歩的プレゼンテーションレポートを振り返る。 ・事後学修：自己紹介プレゼンの構造を考え、練習する。
6	プレゼンテーションの評価	・プレゼンテーションは評価されるものであることを理解し、その観点をアイデア会議で抽出する。	・事前学修：自己紹介プレゼンを修正する。 ・事後学修：評価の意味を考え、自己紹介プレゼンを評価する。
7	プレゼンテーションの構成	・プレゼテーションの論理的組み立て方と校正方法を学ぶ。	・事前学修：評価から修正した自己紹介プレゼンを練習する。 ・事後学修：自己紹介プレゼンをさらに評価し、修正したものを練習する。
8	評価表作成①	・グループワークの中で、アイデア会議で抽出したことばを基に、評価表を作成する。	・事前学修：修正した自己紹介プレゼンをさら練習する。 ・事後学修：クループ活動としての評価表作成を行う。
9	評価表作成②	・グループ活動で作成した評価表を基に、グループ内で自己紹介のプレゼンテーションを実際に評価し、調整し、完成する。	・事前学修：評価表作成を行う。 ・事後学修：グループ内で評価表に基づいた評価を行い、完成させる。
10	評価表作成③	・各グループで作成した評価表を発表し、本年度のプレゼン評価表を全体で完成する。 ・「良かった点・改善点」であるフィードバックの意味を理解する。	・事前学修：評価表を完成させる。 ・事後学修：フィードバックの必要性に関してレポートを作成する。
11	紹介プレゼンテーション①	・紹介したいモノを選択し、各自で紹介プレゼンテーションの作成をする。	・事前学修：紹介プレゼンを練習する。 ・事後学修：紹介プレゼンを練習する。
12	紹介プレゼンテーション②	・紹介プレゼンテーションを評価表を基に完成させる。	・事前学修：紹介プレゼンを練習する。 ・事後学修：作成した評価表が機能するか、紹介プレゼンで確かめる。
13	紹介プレゼンテーション③	・グループ内発表、全体発表を繰り返し、評価表に記入する。 ・個人プレゼンのテーマを決め、実際に練習する。	・事前学修：紹介プレゼンを完成させる。 ・事後学修：個人プレゼンを完成させる。
14	フィードアフォード	・「良かった点・改善すべき点」のフードバックを受け、フィードフォワードとする意味を理解する。	・事前学修：個人プレゼンを完成させる。 ・事後学修：個人プレゼンに関して改善レポートを作成する。
15	まとめ	・まとめワーク。 ・個人プレゼン発表。	

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>プレゼンテーション ZEN</td><td>ガー・レイノルズ</td><td>阪急コミュニケーションズ</td></tr><tr><td>2</td><td>TED トーク 世界最高のプレゼン術</td><td>ジェレミー・ドノバン</td><td>新潮社</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	プレゼンテーション（50%）、レポート（50%）で評価し、総点の 60%で合格とする。
学生への メッセージ	人前で話すこと、意見を述べることが得意な人は決して多くはありません。しかしながら、社会人ともなればコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力が問われます。不得意だという意識を変え、自分なりに取り組む方法を覚え、練習を重ねていくことによって、以前とは異なった自分自身を発見できるでしょう。
担当者の 研究室等	７号館５階　キャリア教育推進室（石井）
備考	予習・復習に毎回２時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。

科目名	プロポーザル・デザイン	科目名（英文）	Design and Proposal
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北村　浩
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	サービスデザインの概観を学習する。新しい商品・サービスを企画段階では、提供者（企業）、利用者（消費者）の発信する情報をいかに融合させて価値を示していくのかが課題である。本授業は、Web サービスの普及において、企業・消費者等の叡智を融合する『デザイン思考（Design Thinking)』の手法により、多様な視点で共創型の提案をどのように進めるのかを学ぶ。デザイン思考は、学部・専攻の枠を超えた汎用的な課題解決プロセスを提供し、多くの産官学で実践されている米国発の方法論で、新サービスの発想を形にする手段として、市場から注目を集めている。
到達目標	インターネットやソーシャルメディアの利活用を図り、新サービスを提供する業界・企業等の事例研究、ミニ提案活動の体験をとおして、提案を支援するリテラシーとコミュニケーション力を育成する。 1. サービス思考　どのようなサービスを提案し、いかにつくるのかを思考する。 2. 共創（コラボレーション）　異分野や立場の異なる人達と思考ベクトルを融合させ、新しい価値の創出を狙う。 3. サービス提案　共創のアウトプット（結果）を整理し、アウトカム（成果）としてまとめて、プレゼン等で発信する。 プロポーザル・デザインに係るテーマとして、①e-Sales 商材開拓、②e-Promotion SNS 利活用広報、③e-Local 地域活性化支援 の簡易な課題を指定する。（これらの事業に係る企業や NPO 法人からのゲスト講演の受講機会あり。）
授業方法と留意点	レジュメを中心にテキストで基礎的なテーマを解説する講義を中心に、特定テーマについて、グループワーク（7～8 名／グループ）を複数行う。デザイン思考は、新サービスの発想を形にするコミュニケーション支援の方法論で、異なる価値観を有する人達との間で、グループワークをとおして成果を導き出す狙いがある。異分野交流を期待する人に向いた内容。
科目学習の効果（資格）	・新聞や Web が提供する Web デザイン関連テーマの記事の骨格を理解することができる。 ・同僚・先輩学生と意見交換を図るための基礎知識や素養を身につけることができる。 ・異分野者の間のグループワークによる交流・親交の機会に接する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	・授業ガイダンス ・『デザイン思考（Design Thinking)』とは何か	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Web ニュース）の予習・復習
2	サービスのデザイン科学	・サービスをデザインする ・Web サービスと人間系サービス ・人間中心のデザイン（Human-Centered Design)	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Web ニュース）の予習・復習
3	ケーススタディ 1	・サービスにおける人間系要素の考慮 ・メンタルマトリックス ・グループワーク［ミニ課題 1］	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Web ニュース）の予習・復習
4	サービスの市場	・『市場（Market)』とは何か ・Web サービスの特質 ・市場の生態系	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Web ニュース）の予習・復習
5	『デザイン思考（Design Thinking)』の概観	・『デザイン思考（Design Thinking)』の骨子 ・ワークショップ適用事例　効果と考慮点	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Web ニュース）の予習・復習
6	ケーススタディ 2	・発散思考と収束思考の両立 ・ユーザーエクスペリエンスデザイン（User Experience Design) ・グループワーク［ミニ課題 2］	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Web ニュース）の予習・復習
7	『デザイン思考（Design Thinking)』の手順	・デザイン思考の標準ステップ ・発見（Discover）/定義（Define）/発想（Ideate）/実証（Prototype）	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Web ニュース）の予習・復習
8	『デザイン思考（Design Thinking)』の視点	・サービス提供者（企業）と利用者（消費者）の関係性マネジメント ・RAD（Rapid Application Development）	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Web ニュース）の予習・復習
9	ケーススタディ 3	・プロトタイピング ・人間系の考慮　顧客、取引先、CMO（chief marketing officer)、利益団体（Interest Group) ・グループワーク［ミニ課題 3］	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Web ニュース）の予習・復習
10	『デザイン思考（Design Thinking ）』と提案（Proposal）活動	・提案（Proposal）活動の骨子 ・ビジネス活動事例　効果と考慮点	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Web ニュース）の予習・復習
11	ケーススタディ 4-1	・ビジネスデザイン思考 ・ケーススタディ・ガイダンス ・グループワーク［課題 4］	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Web ニュース）の予習・復習
12	ケーススタディ 4-2	・グループワーク［課題 4］	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Web ニュース）の予習・復習
13	ケーススタディ 5-1	・オープンデザイン ・グループワーク［課題 5］	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Web ニュース）の予習・復習
14	ケーススタディ 5-2	・グループワーク［課題 5］ ・ゲスト講演の聴講	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Web ニュース）の予習・復習
15	まとめ	・ゲスト講演の聴講 総括	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Web ニュース）の予習・復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オープンデザイン ―参加と共創から生まれる「つくりかたの未来」	Bas Van Abel	オライリージャパン

2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	デザイン思考が世界を変える	ティム・ブラウン	早川書房
2	IBM の思考とデザイン	山崎 和彦	丸善出版
3	Fab ―パーソナルコンピュータからパーソナルファブリケーションへ	Neil Gershenfeld	オライリージャパン

評価方法 （基準）	平常点（25%）、課題・レポートの提出（15%）、定期試験（60%）による総合評価を行う。平常点は、小テスト（不定期）、グループワークでのディスカッション、積極的・建設的な発言等の授業への参画内容で評価する。私語、携帯機器の利用、遅刻等の進行を妨げる者、授業に無関係な行動を行う者については退室指示等で厳しく対処し、かつ成績評価に反映するので、くれぐれも注意すること。
学生への メッセージ	新サービスの発想を形にする手段として、市場から注目を集めている『デザイン思考（Design Thinking）』の手法は、多様な視点で共創型の提案をどのように進めるのか、新サービスの発想を形にするコミュニケーション支援の方法論です。異なる価値観を有する人達との間で、グループワークをとおして成果を導き出すアプローチに慣れ親しんでください。
担当者の 研究室等	11 号館 7 階（北村教授室）
備考	全座席指定での着席をお願いします。10 号館設備（グループワークスペース、情報処理室等）を利用する場合あり。#11～#15 の授業は、梅田キャンパスでグループワークを実施します。寝屋川からの移動時間を考え、これらの回は、4 時限ではなく 5 時限での授業です。その際、企業や NPO 法人によるゲスト講演の聴講機会を設けます。（初回授業で、学生の皆さんの梅田 5 時限開催を再周知します。）

科目名	文化人類学	科目名（英文）	Cultural Anthropology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西垣　有
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	人類学はこれまで、世界中のさまざまな人々の多様な生の理解を通して、私たち人類が地球上に生き、存在するということがどのような事態なのかを探求してきた。本講義では、人類学の基礎的な概念や方法を概説し、人類学がどのような学問なのかを示した上で、そのような人類学的な見方の成立と歴史的展開をあとづける。
到達目標	・人類学がどのような学問であるかを理解すること。 ・人類学誕生以来の学説史的な展開、流れを理解すること。
授業方法と留意点	講義
科目学習の効果（資格）	異なった視点からものごとをみることにより、私たちの思考や制度を可能にしているさまざまな前提をゆさぶり、世界の見方を新たにする。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	文化人類学とは？	人間、文化、フィールドワーク、エスノグラフィーなど人類学の基礎的な概念、方法論について概説する。	特になし
2	人類学の誕生（1）：博物学から人類学へ	19 世紀におこった博物学から進化論人類学へという変化をとおしていわゆる人類学の誕生をあとづける。	特になし
3	人類学の誕生（2）：進化論人類学	タイラー、モーガン、フレイザーの研究を例に進化論人類学とそれまでの博物学的研究との違いをみる。	特になし
4	機能主義人類学（1）：マリノフスキーとフィールドワーク	フランス社会学におけるデュルケーム学派の成立とイギリスの機能主義人類学について、マリノフスキーとラドクリフ=ブラウンの研究を中心に概説する。	特になし
5	機能主義人類学（2）：有機的全体としての社会	前回の続き	特になし
6	アメリカ文化人類学の誕生（1）：	フランツ・ボアズの研究を概説する。	特になし
7	アメリカ文化人類学の誕生（2）	前回の続き	特になし
8	アメリカ文化人類学の展開（1）	ルース・ベネディクトとマーガレット・ミードの研究を紹介し、アメリカ人類学のおける「文化」概念の精緻化の過程をみる。	特になし
9	アメリカ文化人類学の展開（2）	前回の続き	特になし
10	構造主義（1）	モースとレヴィ=ストロースの研究を中心に構造主義について概説する。	特になし
11	構造主義（2）	前回の続き	特になし
12	解釈人類学（1）	クリフォード・ギアツの研究を概説する。	特になし
13	解釈人類学（2）	前回の続き	特になし
14	文化を書く	80 年代以降のポストモダン人類学について概説する。	特になし
15	ポスト・ポストモダン人類学と文化の行方	これまでの議論のまとめと総括を行う。	特になし

関連科目	学芸員課程

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	100%試験によって評価する。 評価の基準は、人類学がどのような学問であるかを講義で説明した流れに沿ってきちんと理解できているかどうかにおく。
学生へのメッセージ	情報量が多いのでたくさんノートを取ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	マーケティングと歴史	科目名（英文）	Marketing and History
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居　奈緒子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。
到達目標	マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	講義形式を基本としますが、実態分析にも力を入れます。
科目学習の効果（資格）	マーケティング的発想で社会を見る眼が養えます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
6	マーケティングのＳＴＰアプローチ	市場細分化について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
8	マーケティングの歴史的研究と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的研究と三井越後屋の商法について説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
10	越後屋の仕入機構（１）	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
11	越後屋の仕入機構（２）	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
15	まとめ	全体のまとめをします。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大規模呉服商の流通革新と進化ー三井越後屋における商品仕入れ体制の変遷ー	武居　奈緒子	千倉書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	史料が語る三井のあゆみ	三井文庫編	吉川弘文館
2	消費行動	武居　奈緒子	晃洋書房
3			

評価方法（基準）	期末テストの成績 70%、授業内課題 30%
学生へのメッセージ	授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましょう。
担当者の研究室等	11 号館８階　武居教授室
備考	

科目名	マーケティング入門	科目名（英文）	Introduction to Marketing
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居　奈緒子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この科目は、国際ビジネスプログラムおよびメディアビジネスプログラムの対象科目である。 マーケティング初心者対象ということで、まずマーケティングの基本的概念を説明した後に、グローバルマーケティングについて説明する。
到達目標	グローバルマーケティングについて理解を深める。
授業方法と留意点	講義形式を基本としますが、企業の具体的な事例についても言及します。
科目学習の効果（資格）	
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	グローバルマーケティングの全体像を示します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
2	マーケティング志向	マーケティングの原点であるマーケティング志向について説明します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
3	マーケティングの４P	製品、販売、流通、価格の基本的な知識について説明します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
4	マーケティングの STP	セグメンテーションやターゲティングについて説明します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
5	競争戦略	企業の競争関係について説明します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
6	マーケティングとグローバル化	グローバルな市場創造について説明します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
7	グローバル・マーケティングリサーチ	マーケティングリサーチのプロセスについて、説明します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
8	グローバル市場参入戦略	市場参入戦略について、説明します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
9	グローバル製品戦略	グローバルな製品の基本的な知識について説明します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
10	グローバル価格戦略	グローバルな価格の基本的な知識について説明します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
11	グローバル広告戦略	グローバルな販売促進の基本的な知識について説明します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
12	グローバル・ロジスティクス戦略	グローバルなロジスティクスの基本的な知識について説明します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
13	グローバルマーケティングの組織	グローバルな組織構築について説明します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
14	グローバルマーケティングの調整と統制	グローバルに展開するときの調整と統制について説明します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
15	まとめ	全体のまとめをします。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。

関連科目	国際ビジネスプログラム科目、メディアビジネスプログラム科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	グローバル・マーケティング	諸上茂登、藤沢武史	中央経済社
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末テストの成績 70%、授業内課題 30%
学生へのメッセージ	授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましょう。
担当者の研究室等	１１号館８階（武居教授室）
備考	

科目名	身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	科目名（英文）	Neighborhood Crime Prevention
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト（青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー）で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間で犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部［II］
到達目標	自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようにする。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよいと考える。
授業方法と留意点	とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視野、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。警察の防犯実務者や、活躍する防犯ボランティア団体の世話役の方をお招きしたインタビュー講義も交えていく。
科目学習の効果（資格）	各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守れるようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか？	昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どういう理由でねらわれているのか探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
2	犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか？	刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。１件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の数え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
3	犯罪はなぜ起こるのか？どうやって減らすのか？	悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すきがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
4	大阪の治安はどのくらい悪いのか？どのように防犯対策を進めているのか？	大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト１を返上する取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
5	街頭犯罪――ひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に	一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
6	住宅への空き巣、忍び込み、居空き	泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最近の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
7	性犯罪――街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ	大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
8	子どもをねらった犯罪	子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
9	ストーカー、DV（配偶者からの暴力）	ストーカーや DV は、個人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まずさが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
10	詐欺――高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など	昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、実例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
11	サイバー犯罪――子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪	子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでの ID、パスワード盗難など、身近なサイバー犯罪を取り上げる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。

12	違法ドラッグの実態と対策	違法ドラッグについて、その危険性、販売の実態、取締の方法を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
13	防犯カメラの普及と効果	急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
14	防犯ボランティアの活動	近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青パト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
15	警察官の仕事の実際	犯罪が起きれば捜査し検挙する。犯罪が起きないように市民や企業に防犯をうながす。それを職業とする警察官の仕事の実際を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。

関連科目

法学部「刑事政策」「経済刑法」「地域防犯政策」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

定期試験 60%、講義毎回の確認ペーパー30%、受講態度（投げかける質問に対する発言など）10%で総合的に評価する。

学生へのメッセージ

勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できるところからでよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえると思う。

担当者の研究室等

11 号館 9 階 中沼研究室

備考

科目名	ものづくりインターンシップ基礎	科目名（英文）	Internship for Manufacturing Basics
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥野　竜平
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	これから就職活動を始める学生（大学３年）を対象に、社会人として必要とされる規律やマナー、製造業など企業で働く上での基礎知識、課題を発見して解決する方法などを習得することを目的とする。履修後には、社会人・企業人としての役割および責任、仕事への情熱、創造的態度、自己の能力向上意欲が喚起されることを期待する。
到達目標	(1)社会人としてのマナーを身につける。(2)仕事の基本に関する知識を修得する。(3)環境問題/意識についての体験をする。(4)企業における品質問題を体験する。(5)原価管理の基礎知識を修得する。(6)PDCA サイクルによる課題解決を体験する。
授業方法と留意点	パナソニック（株）より講師を招き、社会人・企業人としての基礎である知識と心がまえについて、パナソニック（株）の新入社員研修の方式に従い、講義に加えて具体事例演習を通じて体得させる。摂大教員も教室に常駐し、授業の補助と成績評価を分担する。授業は挨拶に始まり、挨拶で終わるので遅刻は厳禁です。なお、2～6 回目までは 120 分授業とする。
科目学習の効果（資格）	社会が学生に何を求めているのかを体得し、職業意識を高め、自発的に能力向上を行えるようになる。就職後ただちに、社会人・企業人としての適切な行動が取れるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	開講にあたり 4 月 6 日（木）	インターンシップ研修の目的・ねらい等の概要を説明する	-----
2	プレゼンテーションの方法 4 月 13 日（木）	プレゼンテーションの基礎知識を習得する	-----
3	企業・製造業・仕事の基本とは① 4 月 20 日（木）	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	企業・製造業・仕事の基本①の講義終了後、レポートを提出のこと（書式は別途）
4	企業・製造業・仕事の基本とは② 4 月 27 日（木）	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	-----
5	企業・製造業・仕事の基本とは③ 5 月 11 日（木）	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	企業・製造業・仕事の基本②～③の講義終了後、レポートを提出のこと（書式は別途）
6	企業・製造業・仕事の基本とは④ 5 月 18 日（木）	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	-----
7	企業・製造業・仕事の基本とは⑤ 5 月 25 日（木）	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	企業・製造業・仕事の基本④～⑤の講義終了後、レポートを提出のこと（書式は別途）
8	品質教育① 6 月 1 日（木）	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からＱＣ7 つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する	-----
9	品質教育② 6 月 8 日（木）	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からＱＣ7 つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する	品質教育①～②の講義終了後、レポートを提出する（書式は別途）
10	原価・コスト教育① 6 月 15 日（木）	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	-----
11	原価・コスト教育② 6 月 22 日（木）	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	-----
12	原価・コスト教育③ 6 月 29 日（木）	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	原価・コスト教育①～③の講義終了後、レポートを提出する（書式は別途）
13	課題解決教育① 7 月 6 日（木）	PDCA サイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	-----
14	課題解決教育② 7 月 13 日（木）	PDCA サイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	課題解決教育①～②の講義終了後、レポートを提出のこと（書式は別途） また、14 回目までの講義を総括して、最終回での質問事項を考えておくこと
15	全体討議・質疑応答 7 月 20 日（木）	14 回の講義を総括しての討議・質疑応答を実施する	最終報告として受講レポートを提出する。

関連科目：『ものづくりインターンシップ実践』を履修する学生は、必ずこの科目を履修すること。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法：課題レポート（6 回）と受講レポート 50%、授業姿勢（積極性）20%、全体討議（プレゼンテーション）10%、期末試験 20%とした総合評価を

（基準）	行う。
学生への メッセージ	日本を代表する企業であるパナソニック（株）と共同で実施する研修を受講して、社会と企業は学生に何を求めているのかを知り、職業人としての基礎知識を身につけ、社会人になるための意識転換をしましょう。この科目を履修する学生は、この科目と「ものづくりインターンシップ実践」を同時に受講することが前提です。
担当者の 研究室等	1 号館 4 階　奥野教授室
備考	毎回の講義内容を振り返りのための学習毎回 1 時間程度。　レポート各回 3 時間程度，プレゼン準備と期末試験のための学習 20 時間程度。 全体討議におけるプレゼンテーション資料作成のため，2 回 実習前指導を実施する（7/6(木)，7/13(木)6 限目）. パナソニック講師：佐藤哲志、山下秀行、斎藤遵、高岡清

科目名	ものづくりインターンシップ基礎	科目名（英文）	Internship for Manufacturing Basics
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	諏訪　晴彦
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	本科目は，夏期の「ものづくり海外インターンシップ」で，実際に海外に渡航し，海外で実習を受けるために必要な英語力やマナー、現地の予備知識（社会・文化等）,協同作業能力などを身につけるための講義である。日本の企業がますますグローバル化する中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となっている。本科目では，将来グローバルに活躍できる人材の育成を視野に入れ，海外事情や企業のグローバル化の実態、持続可能な開発の在り方を学ぶほか，英語によるコミュニケーション力や海外での企業や大学の人たちと交流・研究する際の社会人としてのマナーなどについて養成する。?
到達目標	(1)海外事情が理解できる。(2)海外渡航の手順や手続きが理解できる。(3)グローバル企業の現状が理解できる。(4)海外インターンシップ先の事情が理解できる。(5)英語による基本的なコミュニケーションができる。(6)社会人としてのマナーが身につく。
授業方法と留意点	講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識は特に必要としないので、参加学生は専門分野も，文系・理系も問わない。また男女も問わない。本講義は，夏期の「ものづくり海外インターンシップ」の準備のための講義とする。夏期の実習先の受け入れ人数に制限があるため，希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。講義室内ではできるだけ，日本語を使わないようにする。
科目学習の効果（資格）	英語による基本的なコミュニケーション力が身につく。TOEIC や英検などを受験する契機となる。また，社会人としてのマナーが身につく。?海外における実体験ができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス,海外渡航手続き概要,英語コミュニケーション１	パスポート，チケット予約（航空機，ホテル），保険，海外渡航準備，英語による自己紹介	今回の課題レポート作成 次回の英語による自己紹介の準備
2	海外事情,日系企業のグローバル化,英語コミュニケーション２	英語による自己紹介発表，海外の文化，経済，グローバル化事情	今回の課題レポート作成 研修先の英字新聞の調査
3	研修先　事前調査,英語コミュニケーション３	英字新聞記事の調査，文化，歴史，経済事情，企業・大学	今回の課題レポート作成 格差社会の調査
4	格差社会の問題	これからのグローバル人材として必要な素養を考える，ビデオ鑑賞など	今回の課題レポート作成 格差社会の問題についてレポート提出 英語による日本の紹介準備
5	社会人基礎力,英語コミュニケーション４	社会人として必要な基礎力,英語による日本の紹介発表	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
6	英語コミュニケーション５	海外渡航，海外生活，大学紹介，専門科目の紹介	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
7	英語コミュニケーション６	研修先企業，大学の調査，英語による発表，英語によるワークショップなど	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
8	英語コミュニケーション７	海外研修を想定したグループ実習１,テクノセンター見学，ヒヤリングなど	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
9	英語コミュニケーション８	海外研修を想定したグループ実習２,テクニカルニュースのリスニングなど	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
10	英語コミュニケーション９	海外研修を想定したグループ実習３,テクニカルニュースの発表など	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
11	英語コミュニケーション１０	海外研修を想定したグループ実習４,英語フレーズ集の作成など	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
12	英語コミュニケーション１１	海外研修を想定したグループ実習５,英語フレーズ集の作成など	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
13	マナー実習	挨拶，礼儀，服装，ミーティング，質疑，懇親会，感謝，気配り，機転	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
14	海外渡航，海外生活	渡航準備，入出国，習慣，食生活，健康管理	今回の課題レポート作成 成果発表の準備
15	英語による成果発表	まとめ	成果発表の反省

関連科目：ものづくり海外インターンシップ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題レポート６０％，取組み姿勢２０％，成果発表２０％として評価を行う。
学生へのメッセージ	これまでに「ものづくり海外インターンシップ」を受講した学生は，海外実習後に顕著な成長が認められるので，大いにチャレンジしてほしい。授業方法，留意点にも記載のとおり，参加学生は専門分野も，文系・理系も問わない。また男女も問わない。
担当者の研究室等	１号館４階　諏訪教授室
備考	【事前事後学習】レポート作成，復習の学習時間：20 時間程度 【共同担当者】　諏訪教授（M 科），石田准教授（C 科），川野教授（M 科），理工学部インターンシップ委員会委員

科目名	ものづくりインターンシップ実践	科目名（英文）	Internship for Manufacturing Practice
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	奥野　竜平
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	『ものづくりインターンシップ基礎』 の実践コースである。『ものづくりインターンシップ基礎』 で学んだ内容をパナソニックのモノづくり現場で具体実習・実践することにより、 更なる理解を進め、習得して自らの強みとすることを目的とする。
到達目標	(1)生産革新・改善を体験する。(2)製造業の成り立ち・仕組みを体験する。(3)チームワーク・ＱＣＤ問題を体験する。(4)パナソニックの工場を見学する。(5)研修成果を発表する。
授業方法と留意点	『ものづくりインターンシップ基礎』で学んだ内容を体験するため、パナソニック（株）人材開発カンパニーで、計７日間の宿泊実習を行なう。また、事前指導として『ものづくりインターンシップ基礎』のまとめを行い、事後指導として実習で得られた成果の定着をはかるためにプレゼンテーションによる報告を行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	直前指導 ・1 回目　ものづくりインターンシップ基礎のまとめ，インターンシップⅡの準備　7/9（木）　6 限目 ・2 回目　ものづくりインターンシップ基礎全体討議プレゼンテーション指導　7/16（木）　6 限目 宿泊実習（パナソニック人材開発カンパニー） ・1～3 日目 【授業テーマ】 生産革新演習 【内容・方法等】 1 個流しセル生産のロールプレイを通じて、生産革新実践・方法等を体得する。（グループ演習） 【事前・事後学習課題】 演習終了後、レポートを提出のこと ・4～5 日目 【授業テーマ】 モノづくりシュミレーション演習 【内容・方法等】 四角錐製作を通じて、製造業の成り立ち・しくみを習得（設計～生産）し、目標達成のためのチームワーク・QCD 問題意識の重要性を体得する。（グループ演習） 【事前・事後学習】 演習終了後、レポートを提出のこと ・6 日目 【授業テーマ】 工場見学 【内容・方法等】 パナソニックのモノづくりを工場見学を通じて体得する。(2 工場) 【事前・事後学習課題】 見学終了後、レポートを提出のこと ・7 日目 【授業テーマ】 研修成果報告会 【内容・方法等】 研修成果報告会の実施。（グループ単位） 【事前・事後学習課題】 グループ単位でプレゼン資料をまとめておくこと 実習中指導 ・9 月 2 日（土）　1～4 限目　プレゼンテーション指導 実習後指導 ・1 回目　体験報告書の添削指導 ・2 回目　研修成果報告会（2 回目）に向けたプレゼンテーション指導 ・3 回目　研修成果報告会（2 回目）に向けたプレゼンテーション指導 ・4 回目　研修成果報告会（2 回目） ・5 回目　全体報告会　学生代表者の発表・質疑 ・6 回目　全体報告会　企業管理者の講演と講評
関連科目	ものづくりインターンシップ基礎
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
評価方法（基準）	実習成果 40%、研修成果報告会（2 回）20%、実習最終レポート 10%、体験報告書 10%、実習・授業態度 20%とした総合評価を行なう。
学生へのメッセージ	この科目は「ものづくりインターンシップ基礎」を同時に受講することが前提です。

教養科目

研究室等	
備考	期間：2017 年 8 月 28 日（月）～9 月 1 日（金）、9 月 4 日（月）～9 月 5 日（火）　パナソニック（株）人材開発カンパニーでの宿泊研修です。9 月 3 日（土）には摂大でプレゼン資料を作成します。その間、パナソニック㈱社員の、朝礼、ランニングにも参加します。ジーンズ、スリッパは禁止。ランニングできる履物、着替えが必要です。学生負担金・食費等は別途徴収します。 【事前事後学習】 レポート作成，プレゼン準備としての学習時間：20 時間程度。 【担当者】 パナソニック講師：佐藤哲志、高岡清、熊本義久、西尾幹夫

科目名	ものづくり海外インターンシップ	科目名（英文）	International Internship for Manufacturing
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	諏訪　晴彦
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	日本の企業がますますグローバル化する中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となる。本科目は,「ものづくり海外インターンシップ」と呼び，世界展開をしている「ものづくり企業」の海外工場において具体的に実習体験をすることにより、グローバル企業の現状を理解するとともに、自らの視野と経験を広げることを目的とする。研修先はとりわけ東南アジアとする。?研修先によっては，海外の大学でワークショップ体験も含める。
到達目標	(1)グローバル企業の現状が理解できる。(2)英語による基本的なコミュニケーションができる。(3)海外でのものづくりの工程を体験できる。(4)チームワークを体験できる。(5)国際的視野を広げられる。(6)研修成果が発表できる。
授業方法と留意点	東南アジアは，フィリピン１箇所とタイ１箇所を予定している。受講者はいずれかの企業において、本学の夏休み中に往復を含めて約１０日間（予定）の現場実習を行う。実習後にレポート作成および海外実習の成果報告会を行う。講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識は特に必要としないので、参加学生は専門分野も，文系・理系も問わない。また男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため，希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。なお，本講義を受講する学生は，前期の「ものづくりインターンシップ基礎（海外班）」の受講を必須とする。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	直前指導 　ものづくり海外インターンシップ基礎の全体報告会に向けたプレゼンテーションの指導，海外実習の準備など 海外実習 ・1～2 日目 【授業テーマ】移動、オリエンテーション 【内容・方法等】研修先の概要、オリエンテーション、語学（英語）研修など 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと ・3 日目 【授業テーマ】企画・設計部門実習／ワークショップ 【内容・方法等】ものづくり工程の上流である企画・設計部門。 【事前・事後学習】実習終了後、レポート，アイディアスケッチなどを提出のこと ・4～5 日目 【授業テーマ】製造工場見学 【内容・方法等】関連工場，施設，建築，デザイン作品の見学、現地従業員，大学生との交流会に参加する。交流会では、英語によるコミュニケーションを行う。 【事前・事後学習課題】交流会終了後、レポート，アイディアスケッチなどを提出のこと ・6～8 日目 【授業テーマ】製造系実習 【内容・方法等】製造系の加工、組立、検査・品質管理など。(グループ演習) 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと ・9～10 日目 【授業テーマ】研修成果報告会、移動 【内容・方法等】グループ単位で PPT でプレゼン，または部分模型やその他手法を用いてプレゼンしてもよい。 【事前・事後学習課題】実習終了後、最終レポート、または各グループで研究成果ポスター、または梗概作成をを提出のこと 実習後指導 ・1 回目　最終レポート（体験報告書）の添削指導 ・2 回目　成果報告会に向けたプレゼンテーション指導 ・3 回目　全体報告会　学生代表者の発表・質疑 ・4 回目　全体報告会　企業管理者の講演と講評
関連科目	ものづくりインターンシップ基礎

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	海外現地研修 60%（実習記録簿 20%，実習・授業態度 20%，実習成果プレゼン 20%)，実習前後の学習 5%，実習最終レポート 10%、体験報告書 10%、成果報告会（2 回）15%として評価を行う。
学生へのメッセージ	これまでに受講した学生は，海外実習後に顕著な成長が認められるので，大いにチャレンジしてほしい。授業方法，留意点にも記載のとおり，参加学生は専門分野も，文系・理系も問わない。また男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため，希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。本講義を受講する学生は，前期の「ものづくりインターンシップ基礎（海外班)」の受講を必須とする。
担当者の研究室等	１号館４階　諏訪教授室，川野教授室， １号館３階　石田准教授室
備考	【注意事項】研修予定期間：2017 年 8 月中旬（研修先の都合により変更する場合があります。） 航空運賃、宿泊費、保険代などは自己負担となります。 【事前事後学習】レポート作成，復習の学習時間：20 時間程度 【共同担当者】　石田准教授，川野教授，理工学部インターンシップ委員会委員

科目名	ものづくり研究の世界	科目名（英文）	Introduction to Manufacturing Technology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀江　昌朗
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	機械工学は，ヒトが活動する上での効率化，合理化，さらには自動化を図るモノやコトの技術・学問の体系である。本講義では，ヒトはなぜモノを作ろうとするのか，何を用いてモノを作ってきたのか，どのようにモノを作るのかに注目し，その上で日本が世界に誇ると言われる「モノづくり」の諸技術を学ぶ。モノの材料から道具を作ること，さらには産業の発展に役立ってきたさまざま機械とその諸技術について学ぶ。
到達目標	機械技術およびものづくり技術全般の基礎知識を身につけ，機械工学と社会・生活との関わりを理解できる。
授業方法と留意点	・各テーマごとにその歴史，基本原理，最先端の話題を２回もしくは３回にわたって提供する。 ・スライドを中心にビデオを用いた講義形式を取る。講義の終盤に講義内容のメモ（ノート）を提出するため，講義の内容をよく聞き，ノートにていねいにまとめていくことが大事。
科目学習の効果（資格）	世の中に存在する工業製品，人力を越えた能力を備える機械など人工物・人工物システムの役割・仕組み・機能に関する幅広い知識を得て，知見を広めることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	機械工学とは？	・機械工学の発展の歴史を概観する。 ・「機械工学曼荼羅」を用いて，機械工学の役割，範囲，応用を紹介する。	配布資料に目を通しておくこと。
2	道具を作る(1) － ヒトと道具	・道具の歴史：ヒトの手の動作を補う道具から労働としての道具へ ・農具 漁具 大工道具 手動工具 電動工具	配布資料に目を通しておくこと。
3	道具を作る(2) － 作り方	・鋳造，塑性加工，粉末冶金，材料加工，生産加工 ・刀鍛冶，セラミックス，溶接・切断	配布資料に目を通しておくこと。
4	モノの材料を知る(1) － 金属材料	・金属材料はなぜ素材たり得るか？ ・鉄鋼の製造方法	配布資料に目を通しておくこと。
5	モノの材料を知る(2) － セラミックス・ポリマー	・セラミックス・ポリマーの構造（金属と何が異なるか？） ・高強度・機能性材料の話	配布資料に目を通しておくこと。
6	モノの材料を知る(3) － 新素材	・新素材と高度産業化社会 ・形状記憶，超伝導，ナノ材料	配布資料に目を通しておくこと。
7	ものづくり(1) － 母なる機械	・機械部品を作る機械（工作機械の歴史） ・機械時計，工具と運動，機械部品	配布資料に目を通しておくこと。
8	ものづくり(2) － 精密に加工する	・精度を追求する（コンピュータと工作機械） ・精密加工，マシニングセル，ナノ加工	配布資料に目を通しておくこと。
9	ものづくり(3) － 工場（ファクトリー）	・世界が学ぶ・日本が誇る製造システム ・無人化工場，デジタル屋台，トヨタ生産方式	配布資料に目を通しておくこと。
10	大きな力を得る(1) － 車輪	・作業を補助する機械の歴史 ・車輪，滑車，てこ，歯車	配布資料に目を通しておくこと。
11	大きな力を得る(2) － 建設運搬機械	・巨大な力を得るためのアクチュエータ ・油圧・水圧・空気圧機器，電動機	配布資料に目を通しておくこと。
12	大きな力を得る(3) － パワーアシスト	・アクチュエータの知能化とパワーアシスト ・パワードスーツ，電動アシスト自転車，人工筋肉	配布資料に目を通しておくこと。
13	ミクロの機械(1) － 精密機械	・小さくなることで変わる使い方 ・時計，携帯電話，計算機，テレビカメラ，情報機器	配布資料に目を通しておくこと。
14	ミクロの機械(2) － 小さく作る	・小さくすることで変わる物理の法則，加工法・アクチュエータ ・微細加工，ナノテク，半導体製造，カーボンナノチューブ，微細気泡	配布資料に目を通しておくこと。
15	ミクロの機械(3) － 小さくて広大な世界	・半導体製造技術を用いた微細構造を持つ機械 ・カプセル内視鏡，鞭毛モーター	配布資料に目を通しておくこと。

関連科目：産業技術史

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	科学技術教養Ｍ１		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回，講義メモとレポートを提出する。 受講態度（20%），講義メモ（40%），レポート（40%）を評価する。
学生へのメッセージ	機械工学が関わる製品や技術を，大きなスケールで幅広く知ることができます。また，道具はどうやって進化してきたのか？ 日本の「ものづくり」がなぜ優れているのか？ 近未来にどういう乗り物が実現されているか？等々，工業製品にまつわる歴史や最新のトピックを紹介します。本講義を受講し，就職活動や職業観の涵養に役立てましょう。

担当者の 研究室等	担当教員の居室〔1 号館の 3 階・4 階・5 階〕
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。

科目名	役立つ金融知力	科目名（英文）	Financial Literacy
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	陸川　富盛
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,N科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	諸君は大学生になるまでは、「これまでに既に起きたこと」を学んできました。「既に起きたこと」は変わりようがありませんから必ず正解があり、それらを覚えておけば済みました。つまり、たかだか「要領良く正解を教えてもらって覚えるだけ」という程度のことをやってきたに過ぎません。 しかし、諸君がこれから歩を進めていく実社会は「明日を創っていく社会」ですから、そこに最初から決まり切った正解なんかありません。自分で自分の答えを創り出して行くしかないのです。 実社会で諸君が自ら成長し自分の人生を築き上げていくことは、企業がより良い企業となることを目指して経営していくことと同じです。つまり、諸君のこれからの人生は「自分株式会社を経営していくこと」に他なりません。それには、自ら考えて決断し行動する「賢い経済主体」となる、という大きな方向転換が必要なのです。そしてそのためには、先ずは市場経済や契約社会の仕組みを実感覚として理解し、様々なリスクや不確実性に果敢に立ち向かっていく能力と気概を身に着ける必要があります。 経済や法律などの学問的知識に加え、金融や投資などファイナンスに関する実戦的な知識を得てそれらを日常的に活用していくことは、単にお金の問題に役立つだけでなく、より良い人生や社会の実現に欠かせないのです。 本講義の目的は、人生のさまざまな局面で的確に決断し行動できるよう、ファイナンスの知識や考え方を含めた実戦的なビジネスインテリジェンスの基本を身に着けることです。
到達目標	主としてファイナンスの観点から、実戦的なビジネスインテリジェンスの基本を身に着ける。 諸君が、将来直面する経済生活やビジネスライフにおいて、「賢い経済主体」として適宜的確に行動できるようになることを目指します。 講義にただ出席して教科書を開いているだけでは、この目標に到達することはあり得ません。「講義を毎回きちんと受講し、自分で考えて講義内容を理解し行動する」という自分自身の努力が不可欠です。
授業方法と留意点	本講義は１５回全体を通して次の三つのステップで構成し、各回とも教科書を使用した講義形式で進めます。 ①　先ずは経済主体としての視点で、社会の仕組みの全体観を把握し、様々な課題や対処法を認識します。 ②　次に、ファイナンスの基礎知識を、大学で学ぶ様々な専門知識と関連付けながら、実戦的に学んでいきます。 ③　更に、それらを統合し活用する能力をインテリジェンスとして身に着け、社会生活に応用する方法を学びます。 本講義では毎回必ず教科書をベースに講義を進めるため、レジュメ等の資料を配布することは一切ありません。受講者は指定された教科書を必ず持参してください。 但し、教科書は単なる教材として手元資料的に利用するに過ぎず、講義内容は教科書通りではありませんので、毎回きちんと聴講しなければ成果は得られません。
科目学習の効果（資格）	経済・社会生活やビジネスライフに必要な意思決定を適宜適切に行えるよう、ファイナンスの知識を活用する実戦的なビジネスインテリジェンスの基本を身に着けます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	「経済主体としての立ち位置 」	テキスト＜P15～14,4～13＞ ・私たちのくらしと経済 ・戦後の社会発展 ・パラダイムシフト ・変革の必要性
2	経済・金融の基礎知識 ①	「国際経済と国家財政」	テキスト＜P44～49,38～44＞ ・国際経済 ・国家の財政
3	経済・金融の基礎知識 ②	「市場経済と金融の役割」	テキスト＜P16～18,25～29,18～25＞ ・お金の役割 ・市場経済のしくみと意義 ・金融の役割と銀行
4	法律の基礎知識	「契約の基本」	テキスト＜P154～157,159～166＞ ・契約社会　Ⅰ ・ローン・クレジット ・契約社会　Ⅱ
5	リスクと向き合う ①	「日常生活のリスク」	テキスト＜P79～87,166～168,157～159,168＞ ・リスクマネジメント ・契約社会　Ⅲ
6	リスクと向き合う ②	「リタイアメント」	テキスト＜P88～97＞ ・年金制度 ・老後生活資金
7	投資の基礎知識	「投資とは何か」	テキスト＜P98～104＞ ・投資とは ・投資意思決定プロセス
8	経済活動と金融市場	「景気・株価」	テキスト＜P30～31,56～57,32～36,54～55,37,50～53＞ 景気 景気と株価
9	金融商品の基礎知識 ①	「代表的な金融商品（株式等)」	テキスト＜P123～135＞ ・株式 ・投資信託 ・外貨建て商品 ・保険商品 ・デリバティブ
10	金融商品の基礎知識 ②	「代表的な金融商品（債券他)」	テキスト＜P117～123＞ ・預貯金 ・信託

教養科目

			・債券
11	金融商品の基礎知識 ③	「金融市場と金融商品の性格」	テキスト＜P105～117＞ ・直接金融と間接金融 ・金融商品の性格
12	投資のリスク管理	「投資のリスクマネジメント」	テキスト＜P136～153＞ ・分散投資 ・時間分散 ・長期投資
13	ライフプランニング ①	「ライフプランニング表」	テキスト＜P58～67＞ ・ライフプランニング
14	ライフプランニング ②	「プラン見直しと人生の三大資金」	テキスト＜P68～78＞ ・キャッシュフロー表の見直し ・ライフイベントごとの課題
15	最終まとめ	「講義のまとめ」	全体レビュー 講義で得た金融インテリジェンスのレビューを行い、実戦力を確認します。

関連科目

民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学　など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎		金融知力普及協会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

下記のとおり、本講義と課題に対する取り組み姿勢や理解度等を総合的に評価します。
・試験　　：　20%（経済やファイナンスに関する知識の正確性を評価します。試験範囲は講義全体です。）
・レポート　：　50%（自分で考えて調査し問題解決する能力、即ち、全講義を受講して得た知見を評価します。）
・平常点　　：　30%（全員の受講状況と態度、質疑応答、課題・討議などを評価します。出席点ではありません。）

講義にただ出席して教科書を開いているだけでは、目標に到達することはあり得ませんから、当然ながら単位も取得できません。毎回きちんと意識を集中して受講し、「自分で考えて講義内容を理解し行動する」という自分自身の努力を積み重ねる事が必要です。

講義の中で提示した課題については、当日の講義中または次回の講義で検討と解説を行ないますので、知識の確認に適宜役立ててください。

成績評価の一つとなる上記課題レポートは表計算ソフト「エクセル」で出題するので、提出期限（定期試験当日を予定）までにこの課題レポートの出題に答えて必要事項を調査・入力し、内容を精査すること。
（講義では「エクセル」の使い方は教えませんが、フォーマットを提示するので表入力と確認が必要です。）

なお、レポート課題は大学内の情報システムを通じて掲示・連絡しますので、学内情報システムの利用や連絡設定は各自で事前に必ず行っておいてください。

学生へのメッセージ

本講義は「受講者の誰もが覚えられるように一つ一つ教えていく」のではなく、初回「イントロダクション」でも説明する通り、全１５回を通して受講することによって、情報収集能力、考える力、判断力などの実力が付くように構成してあります。このため本講義を聴講すると、諸君は実戦と同じく、広範で大量の情報が一方的に流れてくることを経験することになります。
しかし、諸君は既に大学生なのだから、「自分に分かる程度のことを自分に分かるように教えてもらえるのが当然だ」などという子供じみた甘えは捨て去ること。
その上で、「講義されている内容を自分自身で考えて理解しよう」という確固たる意志を持ち、私語を慎み毎回静粛に受講すること。
そうすればこれまでと異なる観点に立つことができ、本講義本来の効果を各自が最大限に得ることができます。

本講義ではレジュメ等の資料を配布することは一切ありませんが、スマホやタブレット等からのネット検索やサイトの利用を適宜指示することがあります。

受講者は指定された教科書を必ず購入してください。但し、教科書は単なる教材として手元資料的に利用するに過ぎず、講義内容も教科書通りではありませんので、毎回きちんと聴講しなければ成果は得られません。

その他、課題の提示方法等についても詳しくは講義の中で説明しますので、講義は毎回注意深く受講し、指示に従って下さい。こうした日常の情報収集能力が、各自の実力や成績評価にも大きく影響します。

本講義で得た知識は、自分が学んでいる様々な専門知識と組み合わせて考えていくことで、より高い効果を得ることができます。安直にありきたりの答えを求めるのではなく、自分で考える習慣を身に着けてください。

なお、講義中に席を立ったり私語が多いなど講義の妨げとなる学生には、講義を中断して注意を促し退席を命じる場合があります。

担当者の研究室等

11 号館 1 階（教務課）

備考

・この授業は、ＳＭＢＣ日興証券グループによる「寄附講座」です。

・「事前・事後学習課題」について
　予習（シラバス記載の教科書該当ページを事前に読む）：３０分程度
　復習（講義の内容を振り返り、自分の言葉で整理する）：３０分程度

・当然の前提として、単位取得するには全講義を静かに聴講すること。
　私語が多い者、授業の妨げとなる者には適宜指導を行い、それに従わない場合は容赦なく退席させる。

科目名	ライフサイエンスの基礎	科目名（英文）	Introduction to Life Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西矢　芳昭.青笹　治.井尻　貴之.居場　嘉教.尾山　廣.川崎　勝己.木村　朋紀.中嶋　義隆.長田　武.西村　仁.船越　英資.松尾　康光.松川　通.村田　幸作
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,N科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	ライフサイエンスの基礎知識は、医療、環境、食品分野などへの生物機能の応用、すなわちバイオテクノロジーと密接に係る。ライフサイエンスおよびバイオテクノロジーの知識を深めることで、最新の科学情報を理解できると共に、社会人として相応しい教養が身に付く。ライフサイエンスの各分野を深く学ぶためにも役立つ基礎的知識を、各専門分野に精通した教員により概説する。
到達目標	教養としてのライフサイエンスの基礎的知識の理解
授業方法と留意点	配布資料に沿って、板書およびプロジェクターによる講義を行う。
科目学習の効果（資格）	生命科学の学習に必要な基礎的事項を理解することができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	概要説明 特殊環境微生物学（西矢）	授業の進め方を説明する。 特殊環境の微生物に関する基礎知識・キーワードを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
2	食品微生物学（村田）	微生物と生命・食糧・環境について解説する。	講義後に小論文を課す。
3	神経生物学（松川）	生命はどのようにして出現したのか、そしてそもそも生命とは何か考えてみよう。	講義後に小論文を課す。
4	分子生物学（川崎）	分子生物学ににについて説明する。 個体ゲノム制御機構に関する基礎知識・キーワードを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
5	環境分析学（青笹）	食品因子の機能性と生活習慣病などの健康との係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
6	生命環境科学（長田）	ライフサイエンスにおける植物について解説する。	講義後に小論文を課す。
7	細胞機能学（船越）	生物の構成単位である細胞の構造、種類や機能について解説する。	課題レポート、または確認小テストを課す。
8	環境毒性学（木村）	環境化学物質による健康リスクへのライフサイエンスの係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
9	構造生物学（中嶋）	生体分子がもつ分子構造を機能の関係性について解説する。	課題レポートを課す。
10	タンパク質科学（丸山）	タンパク質の生合成、分類、機能、解析方法などについて概説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
11	分子細胞制御学（西村）	多くの生命現象は「現在（いま）」を生きるためだが，生殖は「未来」を作る現象であり，具体的に生殖とは何かを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
12	生体触媒科学（井尻）	生殖細胞におけるエネルギー代謝について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
13	病態薬理学（居場）	薬理学の基本について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
14	発生遺伝学（吉岡）	形態形成を中心にモデル生物を用いた応用研究についても解説する。	講義中にレポートを課す。
15	生体分子機能学（尾山）	さまざまな機能性タンパク質について解説する。	確認小テストを課す。

関連科目：生物学概論、生化学Ⅰ、生物無機化学、生物統計学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義中の積極性、各回のレポートや知識確認テスト、小論文などで総合評価する。
学生へのメッセージ	不明な点があれば、各回の担当教員に遠慮無く質問して下さい。
担当者の研究室等	１号館　８階および９階　（理工学部生命科学科全専任教員）
備考	

教養科目

キャリア形成科目

科目名	インターンシップⅠ	科目名（英文）	Internship Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP2〇		

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に　1）仕事の社会における役割　2）仕事の成果とは　　3）仕事の責任と充実感　を直接肌で感じることである。 事前学修として、ビジネス組織のあり方、マナーや常識を習得する。
到達目標	インターンシップへ意欲的に自信を持って参加できるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	グループワークやプレゼンテーションなどを行う参加型の授業である。 インターンシップの現場につながる講義（演習を含む）であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。
科目学習の効果（資格）	インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	インターンシップとは	・授業オリエンテーション ・学生と社会人の違いを理解する ・インターンシップの目的を考える	・インターンシップとは何かについて考えること。
2	企業組織・ビジネスの理解	・組織の形態を知る ・ビジネスへの理解を深める	・ビジネスとは何かを考えること。
3	実習参加企業について	・産業の分類を知る ・業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る	・インターン受入企業等の組織のリストに目を通しておくこと。
4	効果的なプレゼンテーションとは	・効果的なプレゼンテーションの仕方、注意点などを知る	・プレゼンテーションができるように準備すること。
5	課題のプレゼンテーション①	・第４回目の課題をプレゼンテーションする	・第４回目の課題について、プレゼンテーションの準備をすること。
6	社会人のマナー①	・社会人としての心構えを知る ・身だしなみ	・マナーがなぜ大切なのかを考えること。
7	社会人のマナー②	・文書でのコミュニケーション	・授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みること。
8	社会人のマナー③	・口頭でのコミュニケーション	・マナーの大切さを再度考えること。
9	履歴書を記入する	・インターンシップ用の履歴書を記入する	・履歴書を書く準備をしておくこと。
10	グループワーク①	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	・グループ内の自分の役割を考えること。
11	グループワーク②	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	・グループの最大の力を出すために、自分に何ができるかを考え、プレゼンテーションの準備をして下さい。
12	事前訪問について	・事前訪問のマナーと準備について	・インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べること。
13	課題のプレゼンテーション②	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をすること。
14	課題のプレゼンテーション③	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をすること。
15	振り返りとまとめ	・授業を振り返る ・インターンシップの目的を再考する	・インターンシップで何を身につけたいかをもう一度考えること。

関連科目：この科目を履修する学生は、「インターンシップⅡ（企業等の組織での就業体験）」を履修することが望まれる。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	発表（40%）、レポート等の提出物（30%）、授業態度（30%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	インターンシップの流れは以下のとおりである。 ※４月下旬にリスト公開→５月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→５月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→６月末頃に事前訪問→８月上旬からインターンシップ開始（予定） インターン先の都合により、流れの日程等が変更する場合もある。
担当者の研究室等	７号館５階　キャリア教育推進室（石井）
備考	教科書・・・必要に応じてレジュメを配布 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示 インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。 なお、事前事後学習には毎回１時間以上かけること。

科目名	インターンシップⅡ	科目名（英文）	Internship II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井　三恵.水野　武
ディプロマポリシー(DP)	DP2〇		

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に社会における仕事の役割、仕事の成果、仕事に対する責任と充実感を肌で感じることである。
到達目標	インターンシップ先での実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性を広げること、職業観の涵養に努めることを目標とする。
授業方法と留意点	「事前学修→インターンシップ実習→事後学修」という流れで実施するので、必ず日程を確認しておくこと。 実習中は、大学の代表、そして実習先の一員としての意識を持って参加すること。 事前学修・事後学修はすべてスーツ着用のこと。 受講態度や規則等を著しく逸脱し、注意しても改善が見られない場合は、実習参加を許可しない場合もあることを理解しておく。
科目学習の効果（資格）	就職活動や将来を考えるうえでの貴重な出会いや気づきを得ることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	直前学修① ６月１７日(土)　３限目(予定)	・インターンシップの心構え ・今後のスケジュールの確認	・社会人を意識したスーツ着用のこと。 ・身だしなみを自分なりに整えてくること。
2	直前学修② ６月１７日(土)　４限目(予定)	・報告書の書き方、注意点/マナー ・身だしなみの最終確認 ・グループワークとプレゼンテーション	・マナーについて考えること。
3	インターンシップ実習	・夏季休暇中に１０日間以上（原則）	・実習中は毎日日誌をつけること。
4	インターンシップ実習	・夏季休暇中に１０日間以上（原則）	・実習中は毎日日誌をつけること。
5	インターンシップ実習	・夏季休暇中に１０日間以上（原則）	・実習中は毎日日誌をつけること。
6	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上（原則）	・事前に立てた目標を意識して参加すること。
7	体験報告書の作成・提出・指導	・報告書提出/ゼミ教員・インターンシップ担当教員における報告書のチェックと指導 （担当教員への提出と教務課へ電子データを提出）	・事前学修の通りに報告書を作成する。提出前に必ず推敲を行うこと。 提出期限を厳守すること。
8	事後学修① ９月１６日(土)　３限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること。
9	事後学修② ９月１６日(土)　４限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること。
10	事後学修③ ９月３０日(土)　３限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること。
11	事後学修④ ９月３０日(土)　４限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること。
12	事後学修⑤ １０月１４日（土）　３限目（予定）	・インターンシップを振り返る （実習記録簿の提出）	・実習記録簿を見直してくること。
13	事後学修⑥ １０月１４日（土）　４限目（予定）	・インターンシップを振り返る	・実習記録簿を見直してくること。
14	事後学修⑦ １０月２１日（土）　１限目（予定）	・全体報告会 ・学生代表者の発表	・学生代表者はパワーポイントで１０分で報告ができるように準備すること。
15	事後学修⑧ １０月２１日（土）　２限目（予定）	・全体報告会 ・受け入れ企業管理者の講演とまとめ（予定）	・全員スーツ着用

関連科目	インターンシップⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	企業による報告書（20%）、体験報告書など提出物（40%）、発表を含む授業態度（40%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	「インターンシップⅠ」を必ず履修すること。 「インターンシップⅠ」の履修には、ガイダンスに出席し、履修申し込み書を提出する必要がある。 履修希望者が多い場合は、選考することもある。
担当者の研究室等	７号館５階　キャリア教育推進室（石井）
備考	教科書・・・必要に応じてレジュメを配布する。

	参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示する。 なお、振り返りの課題（体験報告書、報告プレゼンテーションのためのスライド作成など）は 3 時間以上かけて仕上げること。 事前事後学修に出席する際はスーツを着用してくること。

科目名	エンプロイメントデザインⅠ	科目名（英文）	Employment Development Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野　武.石井　三恵.荻田　喜代一
ディプロマポリシー(DP)	DP2○		

授業概要・目的	大学での学生生活の過ごし方、学修に対する姿勢、大学を卒業するにあたってどのような進路を選択し、 またどのような職業へと導かれたかの３つのテーマを基に、本学の教職員から多様な生き方を聴き、 それらに基づいたグループワーク、個人ワークを行う。 この活動により、４年間の学生生活をプランニングし、自分の意見を持つことを主な目的とする。 また、大教室での多くの学生と共に話を聴くという態度を養い、グループに分かれて他者との意見の交換を 行うことで、自分には思いつかなかった考え方を理解する。
到達目標	講師の意見を聴き、自身のキャリア（職業生活）を通したライフプランニング（人生設計）を必ず描いてみること、またそのための試行錯誤することを学ぶことが目標である。
授業方法と留意点	人生の先輩方のお話を真摯な態度で聴く姿勢をもつことを心がける。また、話を聴くことが主となり、 内容に関して調べ、まとめることを課題とするため、メモを取る習慣を身に付ける。 この科目は１年生向けの科目である。
科目学習の効果（資格）	大学生活の過ごし方や将来への目標の設定の仕方から、職業人として働くことや人・社会とかかわることについて考える契機となる。
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・科目の趣旨・目的と評価について ・受講上の注意ならびに大教室でのマナーに関して ・キーワードの調べ方とレポートに関して	・講義を振り返る
2	学生生活① 未来の自分に何を渡すか！ ～大学生活で成長するために必要な３つのこと～ （担当：地域連携センター係長 古屋豊吾）	・みなさんと同じ摂大生として、ラグビー部での経験と社会で活かせる能力とを関連付けて、「自己肯定感」の重要性についてお話します。 個人ワークやミニゲームを取り入れながら進行します。	・講義を振り返る
3	学生生活② チャンスだらけの摂南大学-学生時代に飛躍する方法- （担当：経営学部　准教授 久保 貞也　）	（１）摂南大学をうまく活かした先輩たち（事例紹介） （２）チャンスを失う典型的な学生（注意喚起） （３）摂大でチャンスを得る方法	・講義を振り返る
4	学生生活③ 大学生活が教えてくれた１０のこと（担当：教務課　池田 有紀）	・講師の話を聴き、自分が「好きなこと・モノ」を明確化するとともに、大学生活のなかで何かに向かって試行錯誤しながらチャレンジするきっかけを作る。	・講義を振り返る
5	学生生活④ 講義の中間まとめ（担当：キャリア教育推進室）	・グループ分けの実施 ・講義２回から４回のまとめ ・レポートの書き方	・講義を振り返る ・第１回「学生生活」に関するレポート締切
6	キャリアパス① 「私のキャリア」　キャリアアップを考える（担当：経済学部 教授　持永 政人）	・企業での経験を踏まえ、将来のキャリアアップのために学生時代に何をすべきかを講義します。	・講義を振り返る
7	キャリアパス② 個別ワーク「私が NO.1 プロジェクト」	・今、自分が属しているコミュニティにおいて、何かで「NO.1 になる」為の計画を立て、実践する。	・設定した課題を実践すること
8	キャリアパス③ 自分のキャリア形成のためには何が必要なのか？（担当：スポツ振興センター　准教授　藤林 真美）	・自身の失敗（しかし、将来への原動力につながる）から、充足・不足していたことを紹介します。事前課題として「学歴、資金、マンパワーなど何一つ心配することなく、自分のやりたい職業に就ける or 起業できると仮定し、その内容と準備について」自由な発想で考えてきてください。	・講義を振り返る
9	キャリアパス④ 「NO.1 プロジェクト」途中経過の共有	・講義７で設定した個別の課題の経過、結果をグループで共有する。	・講義を振り返る ・グループワークでメンバーから得た知見を振り返ること
10	キャリアパス⑤ 自らのキャリアは自らデザインする（担当：経営学部講師　西之坊 穂）	・自らの"employability"を高めるために何をすべきか、講師のキャリア事例を通じてお話します。	・講義を振り返る
11	キャリアパス⑥ 講義の中間まとめ（担当：キャリア教育推進室）	・キャリアパスの回のまとめ ・グループワーク	・第２回課題「キャリアパス」に関する課題を提出
12	学修① 学修の回のオリエンテーション（担当：キャリア教育推進室）	・学修の回のオリエンテーション ・グループワーク「グループで課題研究のためのリサーチプロポーザルの作成」	・講義を振り返る
13	学修② 法律とスポーツと将来の職 （担当：法学部　准教授　石井信輝）	法とスポーツとの関係性は見出しにくいが、様々な関係性を有する。したがって、その関係性を解説しながら、担当者が研究に取り組むに至った経緯や大学における学習に向かう心構え等について講義する。	・講義を振り返る
14	学修③	・講義１２で取り組んだ課題をグループ	・講義を振り返る

	課題「グループで課題研究」の発表	ごとに発表する。	・グループ課題を提出
15	講義のまとめ（担当：キャリア教育推進室）	・キャリアパスを中心としたエンプロイメントデザインⅠの振り返り	・講義を振り返る ・第３回課題「講義のまとめのレポート」

関連科目	キャリアデザインⅠ・キャリアデザインⅡ・エンプロイメントデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回のミニッツペーパー（15%）、グループワーク（15%）、グループ課題（10%）、レポート３回（60%）、を総合的に判断する。
学生へのメッセージ	学生生活４年間を以下に有意義に過ごすかをプランニングし、社会人・職業人としてのライフスタイルを考えるために、人生の先輩のお話を真摯な態度で聴いてほしい。また、自ら考え、選択し、決定していくプロセスを大切にし、行動へ繋ぐ大切を学んでほしい。
担当者の研究室等	11 号館 10 階（荻田） ７号館５階キャリア教育推進室（石井） ７号館３階キャリア教育推進室（水野）
備考	教科書：各回の講師が必要に応じ、プリント配布。 参考書：各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。 講師・内容は都合により変更することもある。

科目名	エンプロイメントデザインⅡ	科目名（英文）	Employment Development II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野　武.安久　典宏.石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP2〇		

授業概要・目的	外部講師（本学卒業生を含む）をお招きし、仕事・職業観・人生経験やキャリア・パス等についてのお話を聴く。質疑応答の時間を設けているので、勇気を持って講師に質問をするだけでなく、質問時の態度や表現の仕方を学ぶ。 また、さまざまな職業について理解し、多様な仕事術についての知識を得ること、さらには仕事観や人生観の涵養を目的とする。
到達目標	さまざまな職業についての知識を得て、多様な仕事術を理解できるようになることを講義の目標とする。
授業方法と留意点	話を聴くことが主となるため、社会人としての真摯な態度での話の聴き方、メモの取り方、積極的に質問すること等の習慣を身に付ける。
科目学習の効果（資格）	人や社会に関わること、仕事力の伸ばし方について考えるきっかけとなる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション（キャリア教育推進室）	・講義のオリエンテーション ・ゲスト講義の際の注意点（特に聴く態度）について	・講義の感想を提出
2	「先人（企業家）に学ぶ　～仕事への心構え」（商工会議所 /管理職）	・企業家から学ぶ、仕事の心構えについてお話します。	・講義の感想を提出
3	ジャーナリストの仕事（新聞社/編集局）	・情報収集の手法とジャーナリズムの使命についてお話しします。	・講義の感想を提出
4	お坊さんから後輩のみなさんへ（摂大 OB/住職）	・一人の学生が僧侶として歩みだすまでの過程を自身の学生生活の経験談を交えながらお話します。	・講義の感想を提出
5	企業人の私が経験した摂大ＯＢとしての歩み方（摂南大学 OB・メーカー／営業管理職）	・キャリアデザインへのアプローチ方法の観点から、先輩、同期、後輩のユニークなキャリアを紹介しつつ、在学中に人とのつながりを多く持ち、卒業後も自信を持って摂南大学卒ＯＢといえる人物であってほしい願いを込めてお話しします。	・講義の感想を提出
6	私が大阪府警察で働く理由～警察官の数だけ理由がある～（警察官）	・採用担当者が大阪府警察の仕事、働く上でのやりがいなどを紹介。警察学校の生活を紹介する DVD の上映も行います。	・講義の感想を提出
7	プログラマを目指して摂南大学に入学してから NPO 代表になるまで（摂大 OB/NPO 法人代表）	・理系学部でプログラマーを目指しながらもスタープログラマーになれなかった男が、“公共性“を武器に NPO 法人を設立するまでのキャリア構築の過程をお話します。	・講義の感想を提出
8	「やりがいのある仕事」とは？ 社会貢献の意義と実践 （牧師）	・外交官を辞してキリスト教会の牧師となり、フリースクールや社会福祉法人を運営するようになった経緯や経験をお話しし、皆さんが本当にやりがいのある仕事とは何かについて考える機会を持って頂きたいと思います。	・講義の感想を提出 ・中間レポート
9	信用金庫の歴史と社会的使命 （金融/人財開発）	・信用金庫の設立と信用金庫理念、そして北おおさか信用金庫の取り組みについて講義します。	・講義の感想を提出
10	新卒での就職活動で全てが決まる！？（摂南大学 OG・旅行代理店/カウンター業務）	・講師の学生生活、キャリア形成のプロセスなどを実体験を交えてお話しします。	・講義の感想を提出 ・中間レポートを提出
11	これから ～自分の将来像について考える～（摂大 OB/警備会社人事）	・「どのような人生をどのように歩んでいきたいか」を、就職についての話を踏まえながら、学生のみなさんにも考えてもらいます。	・講義の感想を提出
12	高校教師の仕事（高校教師）	・高校の教師の仕事についてお話します。	・講義の感想を提出
13	今求められる公務員像（摂南大学ＯＢ／市役所職員）	・あるべき姿からありたい姿へ-職業としての公務員- 経験談を通して、公務員になりたい自分を再度見つめ直していただきます。	・講義の感想を提出
14	社会人に求められるもの（摂南大学ＯＢ／代表取締役社長）	・社会人となる学生へ、体験談を通して企業の中で誠実に生き抜くことを伝えます。	・講義の感想を提出
15	講義のまとめ	・エンプロイメントデザインⅡのまとめ ・まとめのワークシート	・最終レポートを提出

関連科目	キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、エンプロイメントデザインⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	毎回の感想（30%）、レポート２回（70%）を総合的に判断する。
学生への メッセージ	講師の多様な仕事に対する意識や成果の上げ方等を聴くことで、職業観の形成に役立ててほしい。また、摂大生として誠実な態度で質疑応答に臨んでほしい。
担当者の 研究室等	７号館５階キャリア教育推進室（石井） ７号館３階キャリア教育推進室（水野）
備考	講師・内容は都合により変更することもある。 教科書：各回の講師が必要に応じ、プリント配布する。 参考書：各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。

科目名	キャリアデザイン	科目名（英文）	Career Design
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石井　三恵.亀田　峻宣.水野　武.山岡　亮太
ディプロマポリシー(DP)	DP2○		

授業概要・目的	１）就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 ２）基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 ３)専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 ４）講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。
到達目標	１）摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 ２）社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 ３）調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義だけでなくグループワークなどを織り交ぜて進行するので積極的な態度で受講すること。
科目学習の効果（資格）	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か？何故必要なのか？ ・公と私について考える	・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること。
2	さぁ始めよう！大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける	・大学で学ぶ意味について考えること。
3	摂大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・先輩の話を聴く	・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること。 ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること。
4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・設定された個人ワークに取り組むこと。
5	グループ課題の設定	・グループワーク（インタビュープロジェクト）の目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える	・チームの中で「自分はどんな役割を果たしたいか」を考えること。
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・社会で求められる人材について考えること。
7	社会の仕組み①	・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること。
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・配布資料を熟読すること。
9	自分づくり①	・自分の良いところを１００挙げる ・ペアワーク	・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと。
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学４年間の目標設定	・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること。
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・社会人基礎力を実践する方法を考えること。
12	ビブリオバトル①	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・他者に紹介したい本を選んでおくこと。
13	グループ課題の発表会	・グループ課題の発表会	・グループ内のプレゼンテーションの内容をまとめること。
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をすること。
15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	・学びのプランニング ・講義の振り返り	・夏休み以降の大学生活の目標を考えること。

関連科目

キャリアデザインⅡ 、キャリアデザインⅢ 、インターンシップⅠ 、インターンシップⅡ
エンプロイメントデザイン Ⅰ、エンプロイメントデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	グループワーク（20%）、授業参加度（30%）、レポート（50%）で総合的に評価する。
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。
担当者の 研究室等	７号館５階　キャリア教育推進室（石井） ７号館３階　キャリア教育推進室（水野）
備考	必要に応じて授業内でレジュメを配布する。

科目名	キャリアプランニング	科目名（英文）	Career Planning
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中島　直嗣.赤澤　春彦.中西　正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2〇		

授業概要・目的	本授業はキャリア形成科目の一つであり、社会と仕事の関係や就職の現状を学びながら、自分の進路や職業について考えていきます。 後半（１１月以降）は、将来のキャリアプランにつながる６つの分野で構成される「パッケージプログラム」の概要を学び、その選択を行います。
到達目標	人間はなぜ働くのかという哲学的な問いから、社会の中でどのように生きていくかといった人生観に至るまで、多面的に今後のキャリアプランについて考えるとともに、それに基づいて「パッケージプログラム」を選択し、来年度以降の学びにつなげていくことを目標とします。
授業方法と留意点	・講義と演習を織り交ぜながら行っていきます。 ・第２～７回（計６回）は、キャリア教育推進室の教員（複数）が、合同（１つの大教室）で授業を行います。 ・それ以外の授業は、３つのクラスに分かれて、外国語学部の教員（複数）が授業を行います。
科目学習の効果（資格）	就職活動に活かせるような知識が習得できます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・授業の目的、進め方、評価方法などを説明する。 ・パッケージプログラムの選択申請や期末レポートについて、前もって周知する。	シラバスを熟読し、理解する。
2	人生のイベントについて	キャリアの節目、人生のイベントについて考える。 ※キャリア教育推進室の教員による合同授業。	事前学修：自分の将来について考え、ノートにまとめる。 事後学修：キャリアの節目、人生にイベントについて自分の考えをまとめる。
3	人はなぜ働くのか	報酬、やりがい、役割など、様々な「働く理由」を考える。 ※キャリア教育推進室の教員による合同授業。	事前学修：働いている人にインタビューをしてレポートにまとめる。 事後学修：「働く理由」に関して自分の考えをまとめる。
4	グループワーク	前回（第３回）の課題を持ち寄り、グループで討議、発表する。 ※キャリア教育推進室の教員による合同授業。	事前学修：働いている人にインタビューをしてレポートにまとめたものを見直す。 事後学修：インタビューした人に自分の感想とお礼を記した手紙を書く。
5	業種について学ぶ	・視点/視座/視野の使い方と事例を知る。 ・業種・職種の概念を理解する ・川上～川下の概念を理解する。 ※キャリア教育推進室の教員による合同授業。	事前学修：就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。 事後学修：授業で学んだことを振り返りながら、再度就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。
6	会社と職種について学ぶ	・会社・業種・職種を理解する。 ・付加価値について考える。 ※キャリア教育推進室の教員による合同授業。	事前学修：授業で学んだことを振り返りながら、再度就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。 事後学修：授業で学んだことを振り返りながら、再度就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。
7	未来の働き方を考える	未来ではどのような力・考え方が必要であるのかを考える。 ※キャリア教育推進室の教員による合同授業。	事前学修：「未来の働き方」を考える。 事後学修：第２～７回のまとめのレポートを作成する。
8	パッケージプログラムの紹介（1）	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容（概要）について説明する。 ・ワークシートの作成	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
9	パッケージプログラムの紹介（2）	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容（概要）について説明する。 ・ワークシートの作成	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
10	パッケージプログラムの紹介（3）	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容（概要）について説明する。 ・ワークシートの作成	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
11	パッケージプログラムの紹介（4）	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容（概要）について説明する。 ・ワークシートの作成	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
12	パッケージプログラムの紹介（5）	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容（概要）について説明する。 ・ワークシートの作成	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
13	パッケージプログラムの紹介（6）	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容（概要）について説明する。 ・ワークシートの作成	・どのパッケージプログラムを選択するかしっかり考える。 ・期末レポートの準備をする。
14	「期末レポート」の作成 パッケージプログラムの選択申請	・「期末レポート」を授業中に作成し、提出する。 ・パッケージプログラムを１つ選択し、申請書を提出する。	・提出したレポートの内容について振り返ってみる。 ・選択したパッケージプログラムについて確認する。
15	総括（まとめ）	・これまで学んできたことを総括する。 ・提出したワークシートやレポートについて講評する。	今後の大学生活で自分がやるべきことを整理してみる。

関連科目	キャリアデザイン、エンプロイメントデザインなど。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	（必要に応じて指示します）		

	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	（必要に応じて指示します）		
2			
3			

評価方法 （基準）	・ワークシートや課題、授業に取り組む姿勢などを中心とした平常点（６０％） ・期末レポート（４０％） ※ただし、原則として、出席率８０％以上の学生のみを成績評価の対象とします。
学生への メッセージ	出席と提出物を重視して、がんばってください。
担当者の 研究室等	７号館４階　（中島研究室）
備考	・事前および事後に１時間以上の学習を必要とします。 ・ワークシートやレポートに関するフィードバックは、第１５回の授業にて行います。

科目名	キャリアプランニング	科目名（英文）	Career Planning
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浅野　英一.後藤　一章.齋藤　安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP2〇		

授業概要・目的	本授業はキャリア形成科目の一つであり、社会と仕事の関係や就職の現状を学びながら、自分の進路や職業について考えていきます。 後半（１１月以降）は、将来のキャリアプランにつながる６つの分野で構成される「パッケージプログラム」の概要を学び、その選択を行います。
到達目標	人間はなぜ働くのかという哲学的な問いから、社会の中でどのように生きていくかといった人生観に至るまで、多面的に今後のキャリアプランについて考えるとともに、それに基づいて「パッケージプログラム」を選択し、来年度以降の学びにつなげていくことを目標とします。
授業方法と留意点	・講義と演習を織り交ぜながら行っていきます。 ・第２～７回（計６回）は、キャリア教育推進室の教員が、合同（１つの大教室）で授業を行います。 ・それ以外の授業は、３つのクラスに分かれて授業を行います。
科目学習の効果（資格）	就職活動に活かせるような知識が習得できます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・授業の目的、進め方、評価方法などを説明する。 ・期末レポートについて、事前説明を行う。	シラバスを熟読する。
2	人生のイベントについて	キャリアの節目、人生のイベントについて考える。 ※キャリア教育推進室の教員による合同授業。	事前学修：自分の将来について考え、ノートにまとめる。 事後学修：キャリアの節目、人生にイベントについて自分の考えをまとめる。
3	人はなぜ働くのか	報酬、やりがい、役割など様々な「働く理由」を考える。 ※キャリア教育推進室の教員による合同授業。	事前学修：働いている人にインタビューをしてレポートにまとめる。 事後学修：「働く理由」に関して自分の考えをまとめる。
4	グループワーク	第３ｊ回（前回）の課題を持ち寄り、グループで討議し、発表する。 ※キャリア教育推進室の教員による合同授業。	事前学修：働いている人にインタビューをしてレポートにまとめたものを見直す。 事後学修：インタビューした人に自分の感想とお礼を記した手紙を書く。
5	業種について学ぶ	・視点/視座/視野の使い方事例を知る。 ・業種・職種の概念を理解する。 ・川上～川下の概念を理解する。 ※キャリア教育推進室の教員による合同授業。	事前学修：就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。 事後学修：授業で学んだことを振り返りながら、再度就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。
6	会社と職種について学ぶ	・会社・業種・職種を理解する。 ・付加価値について考える。 ※キャリア教育推進室の教員による合同授業。	事前学修：授業で学んだことを振り返りながら、再度就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。 事後学修：授業で学んだことを振り返りながら、再度就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。
7	未来の働き方を考える	未来ではどのような力・考え方が必要であるのかを考える。 ※キャリア教育推進室の教員による合同授業。	事前学修：「未来の働き方」を考える。 事後学修：2～7 回のまとめのレポートを行う。
8	パッケージプログラムの紹介（1）	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容（概要）について説明する。 ・ワークシートの提出	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
9	パッケージプログラムの紹介（2）	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容（概要）について説明する。 ・ワークシートの提出	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
10	パッケージプログラムの紹介（3）	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容（概要）について説明する。 ・ワークシートの提出	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
11	パッケージプログラムの紹介（4）	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容（概要）について説明する。 ・ワークシートの提出	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
12	パッケージプログラムの紹介（5）	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容（概要）について説明する。 ・ワークシートの提出	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
13	パッケージプログラムの紹介（6）	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容（概要）について説明する。 ・ワークシートの提出	・どのパッケージプログラムを選択するかしっかり考える。 ・期末レポートの準備をする。
14	「期末レポート」の作成 パッケージプログラムの選択申請	・「期末レポート」を授業中に作成し、提出する。 ・パッケージプログラムを１つ選択し、申請書を提出する。	・提出したレポートの内容について振り返ってみる。 ・選択したパッケージプログラムについて確認する。
15	総括（まとめ）	・これまで学んできたことを総括する。 ・提出したワークシートやレポートについて講評する。	今後の大学生活で自分がやるべきことを整理してみる。

関連科目	キャリアデザイン、エンプロイメントデザインなど。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	（必要に応じて指示します）		
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	（必要に応じて指示します）		
2			
3			

評価方法 （基準）	・各回のワークシートや課題、授業に取り組む姿勢などを中心とした平常点（６０％） ・期末レポート（４０％） ※ただし、原則として、出席率８０％以上の学生のみを成績評価の対象とします。
学生への メッセージ	出席と提出物を重視して、がんばってください。
担当者の 研究室等	７号館５階　（浅野研究室）
備考	・事前および事後に１時間以上の学習を必要とします。 ・ワークシートやレポートに関するフィードバックは、第１５回の授業にて行います。

科目名	キャリアプランニング	科目名（英文）	Career Planning
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林田　敏子.住吉　誠
ディプロマポリシー(DP)	DP2〇		

授業概要・目的	本授業はキャリア形成科目の一つであり、社会と仕事の関係や就職の現状を学びながら、自分の進路や職業について考えていきます。 後半（１１月以降）は、将来のキャリアプランにつながる６つの分野で構成される「パッケージプログラム」の概要を学び、その選択を行います。
到達目標	人間はなぜ働くのかという哲学的な問いから、社会の中でどのように生きていくかといった人生観に至るまで、多面的に今後のキャリアプランについて考えるとともに、それに基づいて「パッケージプログラム」を選択し、来年度以降の学びにつなげていくことを目標とします。
授業方法と留意点	・講義と演習を織り交ぜながら行っていきます。 ・第２～７回（計６回）は、キャリア教育推進室の教員（複数）が、合同（１つの大教室）で授業を行います。 ・それ以外の授業は、３つのクラスに分かれて、外国語学部の教員（複数）が授業を行います。
科目学習の効果（資格）	就職活動に活かせるような知識が習得できます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・授業の目的、進め方、評価方法などを説明する。 ・パッケージプログラムの選択申請や期末レポートについて、前もって周知する。	シラバスを熟読し、理解する。
2	人生のイベントについて	キャリアの節目、人生のイベントについて考える。 ※キャリア教育推進室の教員による合同授業。	事前学修：自分の将来について考え、ノートにまとめる。 事後学修：キャリアの節目、人生にイベントについて自分の考えをまとめる。
3	人はなぜ働くのか	報酬、やりがい、役割など、様々な「働く理由」を考える。 ※キャリア教育推進室の教員による合同授業。	事前学修：働いている人にインタビューをしてレポートにまとめる。 事後学修：「働く理由」に関して自分の考えをまとめる。
4	グループワーク	前回（第３回）の課題を持ち寄り、グループで討議、発表する。 ※キャリア教育推進室の教員による合同授業。	事前学修：働いている人にインタビューをしてレポートにまとめたものを見直す。 事後学修：インタビューした人に自分の感想とお礼を記した手紙を書く。
5	業種について学ぶ	・視点/視座/視野の使い方と事例を知る。 ・業種・職種の概念を理解する ・川上～川下の概念を理解する。 ※キャリア教育推進室の教員による合同授業。	事前学修：就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。 事後学修：授業で学んだことを振り返りながら、再度就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。
6	会社と職種について学ぶ	・会社・業種・職種を理解する。 ・付加価値について考える。 ※キャリア教育推進室の教員による合同授業。	事前学修：授業で学んだことを振り返りながら、再度就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。 事後学修：授業で学んだことを振り返りながら、再度就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。
7	未来の働き方を考える	未来ではどのような力・考え方が必要であるのかを考える。 ※キャリア教育推進室の教員による合同授業。	事前学修：「未来の働き方」を考える。 事後学修：第２～７回のまとめのレポートを作成する。
8	パッケージプログラムの紹介（1）	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容（概要）について説明する。 ・ワークシートの作成	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
9	パッケージプログラムの紹介（2）	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容（概要）について説明する。 ・ワークシートの作成	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
10	パッケージプログラムの紹介（3）	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容（概要）について説明する。 ・ワークシートの作成	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
11	パッケージプログラムの紹介（4）	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容（概要）について説明する。 ・ワークシートの作成	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
12	パッケージプログラムの紹介（5）	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容（概要）について説明する。 ・ワークシートの作成	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
13	パッケージプログラムの紹介（6）	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容（概要）について説明する。 ・ワークシートの作成	・どのパッケージプログラムを選択するかしっかり考える。 ・期末レポートの準備をする。
14	「期末レポート」の作成 パッケージプログラムの選択申請	・「期末レポート」を授業中に作成し、提出する。 ・パッケージプログラムを１つ選択し、申請書を提出する。	・提出したレポートの内容について振り返ってみる。 ・選択したパッケージプログラムについて確認する。
15	総括（まとめ）	・これまで学んできたことを総括する。 ・提出したワークシートやレポートについて講評する。	今後の大学生活で自分がやるべきことを整理してみる。

関連科目	キャリアデザイン、エンプロイメントデザインなど。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	（必要に応じて指示します）		

	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	（必要に応じて指示します）		
2			
3			

評価方法 （基準）	・ワークシートや課題、授業に取り組む姿勢などを中心とした平常点（６０％） ・期末レポート（４０％） ※ただし、原則として、出席率８０％以上の学生のみを成績評価の対象とします。
学生への メッセージ	出席と提出物を重視して、がんばってください。
担当者の 研究室等	７号館４階　（林田研究室）
備考	・事前および事後に１時間以上の学習を必要とします。 ・ワークシートやレポートのフィードバックは、第１５回の授業にて行います。

科目名	コミュニケーション能力開発	科目名（英文）	Development of Communication Skills
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	津村　忠.橋本　朗子
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2△		

授業概要・目的	社会で必要なコミュニケーションスキルを習得するための授業です。読む・書く・話す・聴くの４技能は常に求められるスキルですが、それらは「技術」として認識し、訓練することによってより実践的なものに高めることが可能です。この授業では毎回「こちらの意図を的確に伝える」技術や「相手の意図を十分に理解する」技術、すなわち「話す」「聴く」技術を高める練習をします。これはまた、本格的に社会生活を始める前に経験する「就職活動」においてもポイントとなるスキルです。普段、ディスカッションをしたり、プレゼンを練習する機会はあまりありません。講義を通じてこれら社会で求められる力を身につけたい人は受講をお勧めします。
到達目標	高度なコミュニケーションスキルを身につけることを目標とします。具体的には社会活動において、自らが望む相応の結果を出すためのスキルを身につけることが目標です。
授業方法と留意点	毎回、個人ワーク・グループワーク等演習を中心に進行します。主体性を持って積極的に参加することで一層の学習効果が期待できます。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	コミュニケーションとは	コミュニケーションの本質を考える。	シラバス熟読
2	聞く技術、話す技術	話す、聴くための技術の基本的な方法を学ぶ。	講義内容を復習しておく。
3	言語能力開発①	正しい日本語の基礎を学ぶ。（語彙について）	講義内容を復習しておく。
4	言語能力開発②	正しい日本語の基礎を学ぶ。（文章について）	講義内容を復習しておく。
5	言語能力開発③	正しい日本語の基礎を学ぶ。（敬語表現について）	講義内容を復習しておく。
6	ロジカルシンキング①	論理的思考法の基礎、概要を学ぶ。	講義内容をまとめておく。
7	ロジカルシンキング②	論理的思考法を用いて、文章を構築する。	自己 PR を完成させる。
8	中間テスト	言語表現能力（日本語力／語彙力、文章構築力）を問う。	中間テスト
9	プレゼンテーション	論理的思考法を用いて構築した文章を効果的に伝える方法を学ぶ。	講義で学んだことを実践する。
10	グループディスカッション①	グループディスカッションの概要を知り、体験する。	講義で学んだことを実践する。
11	グループディスカッション②	ディベート型ディスカッションを体験する。	講義で学んだことを実践する。
12	グループディスカッション③	問題解決型ディスカッションを体験する。	講義で学んだことを実践する。
13	面接演習①	対人コミュニケーションの代表的事例として面接を体験する。	自己 PR やアピールポイントなどを整理しておく。
14	面接演習②	対人コミュニケーションの代表的事例として面接を体験する。	自己 PR やアピールポイントなどを整理しておく。
15	講義の振り返り	全体のまとめとレポート作成	全ての範囲を確認しておく。

関連科目：キャリアデザインⅡ,数的能力開発

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点 40%　テスト＆授業内レポート 60%（中間テスト及び最終レポート）で評価します。
学生へのメッセージ	人間は「社会的動物」です。他者との関係の中で生きていかねばなりません。 他者との関係性を良好に保つことは、豊かな人生を送るための重要な条件になります。 そのために求められるものが「コミュニケーション能力」です。 ビジネスにおいても同様です。社会を形成する一要素がビジネスなのだから当然ですね。 だから「学生に一番求める能力は？」というアンケートで、コミュニケーション能力は 10 年以上もずっと 1 位であり続けるのです。 さあ、その能力を、今から一緒に磨いて行きましょう！
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	数的能力開発	科目名（英文）	Development of Mathematical Ability
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村　忠
ディプロマポリシー(DP)	DP1△,DP2△		

授業概要・目的	中学・高校の授業の中で数学が嫌い・苦手だったという人は多いと思います。この授業では社会人として必要とされる基礎的な数学力を身につけることを目的としています。社会人として算数・数学を使う場面は意外と多いですし、就職活動でも筆記試験で算数・数学はよく使われます。そのために、現段階から算数・数学を学習することで、数学の問題が解けるようになります。
到達目標	社会人として必要とされる基礎的な数学力が身についていること
授業方法と留意点	授業はオリジナル教材を元に行います。講義を自力で解く→解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。 授業に集中して望むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 また、毎回小テストをするので講義で取り扱った問題の復習、宿題は必ず行うようにしてください。
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	講義で取り扱った問題の復習
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	講義で取り扱った問題の復習
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	講義で取り扱った問題の復習
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	講義で取り扱った問題の復習
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	講義で取り扱った問題の復習
7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	社会で使う算数・数学②	場合の数	講義で取り扱った問題の復習
10	社会で使う算数・数学②	集合問題	講義で取り扱った問題の復習
11	社会で使う算数・数学③	図表問題	講義で取り扱った問題の復習
12	社会で使う算数・数学④	論証問題	講義で取り扱った問題の復習
13	社会で使う算数・数学⑤	推理問題	講義で取り扱った問題の復習
14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

関連科目：キャリアデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、Smart SPI 10%の配分にて評価します。
学生へのメッセージ	算数や数学を楽しんで学習してください。 また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。
担当者の研究室等	7号館3階　キャリア教育推進室
備考	テキストはオリジナル教材を別途指示します。 また、Smart SPI を利用します。

科目名	日本語能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田林　千尋
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2△		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方１	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	――――
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
4	【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習
7	フィードバック	課題１のフィードバック	課題１を見直す
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
10	引用の復習 意見を述べる	文章と図表の引用の復習 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
11	【課題２】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習
12	レポートの書き方１	レポート作成の方法と体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習
13	レポートの書き方２ フィードバック１	レポート作成の補足 課題２のフィードバック	課題２を見直す
14	フィードバック２ 資料収集の方法	課題２のフィードバック 文献の検索について学ぶ	課題２を見直す
15	レポート提出 小テストの復習テスト	レポートを提出する	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回１時間程度はかけること。

科目名	日本語能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	髙嶋　藍
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2△		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方１	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	――――
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
4	【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習
7	フィードバック	課題１のフィードバック	課題１を見直す
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
10	引用の復習 意見を述べる	文章と図表の引用の復習 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
11	【課題２】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習
12	レポートの書き方１	レポート作成の方法と体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習
13	レポートの書き方２ フィードバック１	レポート作成の補足 課題２のフィードバック	課題２を見直す
14	フィードバック２ 資料収集の方法	課題２のフィードバック 文献の検索について学ぶ	課題２を見直す
15	レポート提出 小テストの復習テスト	レポートを提出する	小テストの復習

関連科目：キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回１時間程度はかけること。

科目名	日本語能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中　教子
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2△		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方１	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	――――
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
4	【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
6	フィードバック	課題１のフィードバック	前回の復習
7	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	課題１を見直す
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
9	図表を引用する 意見を述べる	図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
10	【課題２】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	前回の復習
11	レポートの書き方１	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	これまでの復習
12	フィードバック レポートの書き方２	課題２のフィードバック レポート作成の注意点をおさえる	前回の復習
13	資料収集の方法	文献の検索について学ぶ	課題２を見直す
14	小テストの復習 【 レポート 】	小テストの復習テスト レポートを提出する	小テストの復習 レポートを作成する
15	レポートの講評	レポートについて講評する	これまでの復習

関連科目：キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回１時間程度はかけること。

科目名	日本語能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	人形寺　英利子
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2△		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方１	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	――――
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
4	【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習
7	フィードバック	課題１のフィードバック	課題１を見直す
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
10	引用の復習 意見を述べる	文章と図表の引用の復習 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
11	【課題２】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習
12	レポートの書き方１	レポート作成の方法と体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習
13	レポートの書き方２ フィードバック１	レポート作成の補足 課題２のフィードバック	課題２を見直す
14	フィードバック２ 資料収集の方法	課題２のフィードバック 文献の検索について学ぶ	課題２を見直す
15	レポート提出 小テストの復習テスト	レポートを提出する	小テストの復習

関連科目：キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回１時間程度はかけること。

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田林　千尋
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2△		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活で必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。３回の課題を提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の目的、進め方の説明	――――――
2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
3	【課題１】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
5	フィードバック	課題１のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題１を見直す
7	【課題２】手紙	手紙を作成する	前回の復習
8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
9	フィードバック	課題２のフィードバック	前回の復習
10	ディスカッション１	グループ分けとディスカッションを行う	課題２を見直す テーマの下調べ
11	ディスカッション２	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
12	プレゼンテーション１	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
13	プレゼンテーション２	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
14	【課題３】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回１時間程度はかけること。

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	髙嶋　藍
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2△		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活で必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。３回の課題を提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の目的、進め方の説明	――――――
2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
3	【課題１】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
5	フィードバック	課題１のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題１を見直す
7	【課題２】手紙	手紙を作成する	前回の復習
8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
9	フィードバック	課題２のフィードバック	前回の復習
10	ディスカッション１	グループ分けとディスカッションを行う	課題２を見直す テーマの下調べ
11	ディスカッション２	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
12	プレゼンテーション１	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
13	プレゼンテーション２	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
14	【課題３】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目：キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回１時間程度はかけること。

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中　教子
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2△		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活で必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。３回の課題を提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の目的、進め方の説明	――――――
2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
3	【課題１】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
5	フィードバック	課題１のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題１を見直す
7	【課題２】手紙	手紙を作成する	前回の復習
8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
9	フィードバック	課題２のフィードバック	前回の復習
10	ディスカッション１	グループ分けとディスカッションを行う	課題２を見直す テーマの下調べ
11	ディスカッション２	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
12	プレゼンテーション１	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
13	プレゼンテーション２	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
14	【課題３】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目：キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回１時間程度はかけること。

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	人形寺　英利子
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2△		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活で必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。３回の課題を提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の目的、進め方の説明	――――――
2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
3	【課題１】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
5	フィードバック	課題１のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題１を見直す
7	【課題２】手紙	手紙を作成する	前回の復習
8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
9	フィードバック	課題２のフィードバック	前回の復習
10	ディスカッション１	グループ分けとディスカッションを行う	課題２を見直す テーマの下調べ
11	ディスカッション２	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
12	プレゼンテーション１	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
13	プレゼンテーション２	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
14	【課題３】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目：キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回１時間程度はかけること。

科目名	ビジネスマナー	科目名（英文）	Bisiness Manners
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松尾　久美子
ディプロマポリシー(DP)	DP1○,DP2○		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。 企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。
到達目標	クリエイティブなビジネスパースンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	ロールプレイやグループワークを多く取り入れるため、学生の積極的な参加が求められる。
科目学習の効果（資格）	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ーあいさつの重要性(理論と実践)	・授業のオリエンテーション ・授業のルール ・あいさつの真の意味とは ・正しい基本姿勢を学ぶ	・事前学修：ビジネスマナーとは何かを考える。 ・事後学修：ビジネスマナーの意義とは何か、400字でまとめる。
2	仕事の進め方と組織活動　・仕事の基本動作とサイクル	・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の８つの意識 ・話し方と聞き方	・事前学修：仕事の基本の８つの意識について調べる。 ・事後学修：仕事の取り組み方の基本は何か、まとめる。
3	目標設定と PDCA サイクル	・目標設定（MBO） ・PDCA とは ・チームと個人の役割	・事前学修：PDCA について調べる。 ・事後学修：あなたの日常生活における MBO とと PDCA を考え、まとめる（400 字以上）。
4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT 方式-	・事前学修：あなたの１週間予定表を作成する。 ・事後学修：あなたの予定表を作成提出し、改善点をまとめる。
5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TPO をもとに-	・事前学修：敬語プリント①をする。 ・事後学修：ケーススタディプリントをする。
6	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護（Ｐマーク） ・コンプライアンス	・事前学習：コンプライアンスについて調べる。 ・事後学修：個人情報保護法についてレポートを作成する（400 字以上）。
7	ホウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修：報告・連絡・相談の重要性について調べる。 ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。
8	電話応対	・ビジネスフォンの扱い方 ・５Ｗ２Ｈから６Ｗ３Ｈへ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修：電話応対プリントをする。 ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。
9	来客応対	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換	・事前学修：来客応対プリント①をする。 ・事後学修：来客対応プリント②をする。
10	設営の基本	・YTT 方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修：同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。 ・事後学修：設営事例をまとめる。
11	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社交文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修：ビジネス文書①をする。 ・事後学修：ビジネス文書②をする。
12	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修：ビジネス文書③をする。 ・事後学修：ビジネス文書④をする。
13	ビジネス通信の基本	・通信手段（電子メール、ファックス等）の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修：郵便の知識プリント①をする。 ・事後学修：メール文書を作成する。
14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修：慶弔・贈答プリント①をする。 ・事後学修：ビジネス文書（社外社内）、郵便の知識、慶事のマナーのポイントをまとめる。
15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修：ビジネス実務能力を身に付け、グローバル社会へ対応していく決意を示す。 ・事後学修：全体をまとめる。

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
評価方法 （基準）	ロールプレイ等のワーク（20%）、複数回のレポート（40%）、期末試験（40%）を総合的に評価する。
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。
担当者の 研究室等	７号館５階　キャリア教育推進室（石井）
備考	予習・復習に毎回２時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。

教　職　科　目

科目名	英語科教育法Ⅰ	科目名（英文）	English Teaching Methods Ⅰ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	家口　美智子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	現在の英語教育学界は，小学校への英語教育導入を始め，高等学校への英語による英語授業への展開等，目まぐるしい動きを見せている。これから英語教師になる学生は，それに対応できるように，新たな英語教育へ向けて，過去の英語教育の歴史を始め，英語教授法や授業のスキル等を身につけてもらうことが，この授業の目的である。当然，更なる英語力の伸長やレベルの高いプレゼンテーション能力向上も培ってもらいたい。
到達目標	１．指導案が書けるようになる。 ２．工夫した授業ができるようになる。 ３．自らのパフォーマンスを客観的に見て、弱点を改善することができる。
授業方法と留意点	授業では基本的に講義と演習（発表）を併用して展開します。必ず予習をして出席すること。授業での発表，態度，出席状況は特に重視する。
科目学習の効果（資格）	英語教員免許(中・高) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	英語教育の基礎理論	英語科教育法とは 実力診断テスト	序章
2	英語教育の基礎理論	日本の英語教育の歴史	第１章（1h）
3	英語教育の基礎理論	学習指導要領	第２章（1h）
4	英語教育の基礎理論	英語教授法（１）及び指導案作成	第３章（前半）（1h）
5	英語教育の基礎理論	英語教授法（２）及び模擬授業	第３章（後半）（1h）
6	英語教育の基礎理論	英語教員の役割等	第４章（1h）
7	英語教育の基礎理論	第１言語習得と第２言語習得	第５章（1h）
8	英語教育の基礎理論	学習者理論	第６章（1h）
9	英語教育の基礎理論	コミュニケーション能力･国際理解教育	第７章・第８章（1h）
10	英語教育の実践編	4 技能の指導(1)	第 11 章・第 12 章（1h）
11	英語教育の実践編	4 技能の指導(2)	第 13 章・第 14 章（1h）
12	英語教育の実践編	語彙・文法指導	第 15 章・第 16 章（1h）
13	英語教育の実践編	中学校での指導	第 18 章（1h）
14	英語教育の実践編	高等学校での指導	第 19 章（1h）
15	まとめ	総復習	――――

関連科目：「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新学習指導要領にもとづく英語科教育法	望月昭彦編著	大修館書店
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Common Errors in English Writing	Kizuka & Northridge	Macmillan
2			
3			

評価方法（基準）	模擬授業(10%)+学習指導案(5%)+授業中の参加度(5%)+テスト(80%)で評価する。 模擬授業はわかりやすさと工夫度を評価する。
学生へのメッセージ	英語教師を希望する人に，英語教育の初歩から応用まで，英語教育学全般を全てを学んでもらいたいと思います。この授業が皆さんの英語教師への道のりに役に立てばと思います。
担当者の研究室等	7 号館 4 階(家口研究室)
備考	高い英語力を身につけること。 中学校の教科書を別途購入してもらう予定です。（1 冊 300 円ほど）

科目名	英語科教育法Ⅱ	科目名（英文）	English Teaching Methods II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤　安以子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的

・高い英語の学力と教授法の知識に基づいた具体的な指導のスキルを身につけることが、この授業の目的である。

・スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの４つの基本スキルの指導、授業の準備や分析、評価などを演習を通して学ぶ。

・教育機器の効果的な使い方を覚える。

・他の受講生と、互いの授業を改善するための、根拠を示した建設的なディスカッション方法を学ぶ。

到達目標

・現代の日本の中学校・高等学校を想定した、英語による英語の授業を計画できるようになる。

・充分な計画の推敲と練習を行う習慣を身に着ける。

・学習者のモデルになるような、正確な英語による模擬授業ができるようになる。

・学年ごとのカリキュラムを考え、ユニットや個々の授業時間の学習目標を設定できるようになる。

・模擬授業を分析し、授業展開のオプションを検討できるようになる。

授業方法と留意点

・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。
・各自が授業指導案を作成する際は、担当者が随時添削など個別指導を行う。

留意点：
・毎回の授業で予習・参加・復習が必須。
・ブロークンではなく正確な英語を話したり書いたりするためのトレーニングを、授業外でも各自行うこと。
・「学習者」と「授業を創る側」の両方の立場で、自分が大学で受講中の授業を分析的に見る。
・教授法を学ぶ前段階として必要な英文法・語彙の習得が足りないと判断される場合は、履修を続行する以前に、基礎の復習を先に行うことを勧めることがある。

科目学習の効果（資格）

英語教員免許（中・高）
【免許法施行規則に定める科目区分】
科目：教育課程及び指導法に関する科目
各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	英語の発音指導	基本母音と子音・機材の利用について	発音記号の復習（読み方・聞き分け・調音の仕組み）
2	英語の文法・構文指導 小学校での外国語活動（1）	文法・語彙指導とその方法 小学校での外国語活動の実例紹介	基本的な英文法の復習と教員としての英語のモデル音読の練習（1）
3	コミュニケーション･デザイン 小学校での外国語活動（2）	言葉を介したコミュニケーションの土台となる対人関係について 小学校での外国語活動の学習活動体験	基本的な英文法の復習と教員としての英語のモデル音読の練習（2）
4	リーディング 中学校の検定教科書（1）	読解の指導･スキミングやスキャニング等を中心に 中学校の検定教科書を分析する	基本的な英文法の復習と教員としての英語のモデル音読の練習（3）
5	リスニング 中学校の検定教科書（2）	リスニング力の向上の方法に関して 中学校で学ぶ語彙・文法について	公立高校の入試問題を解く（1）
6	スピーキング	指導上の留意点･生徒の発話を引き出す方法	公立高校の入試問題を解く（2）
7	ライティング 高等学校の検定教科書（1）	ライティングの指導法･方法論に関して 高等学校の検定教科書を分析する	検定教科書の付属教材を自分で解いてみる（1）
8	教材研究の仕方 高等学校の検定教科書（2）	普段の授業準備・日常の研修について 高等学校のさまざまな検定教科書を比較する	検定教科書の付属教材を自分で解いてみる（2）
9	板書と教材作成	板書と教材:アイディアを最大限に生かす形で実現するには	センター入試の前年度の問題を自分で解いてみる
10	教科書の選び方	レベルと指導法・授業目標を中心に 指導案の書き方（1）	空き教室の黒板とホワイトボードで板書の練習（1）
11	カリキュラムの立て方	カリキュラムの理論：基礎と作り方 指導案の書き方（2）	空き教室の黒板とホワイトボードで板書の練習（2）
12	英語での模擬授業（1）	自分で企画した授業をクラスで実践する	授業の練習
13	英語での模擬授業（2）	自分で企画した授業をクラスで実践する	授業の練習
14	英語での模擬授業（3）	自分で企画した授業をクラスで実践する	授業の練習
15	授業の自己分析と評価	分析と改善	復習

関連科目

教職科目全般
英語科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	改訂版　新学習指導要領にもとづく英語科教育法 [ISBN 978-4-469-24558-5]	望月　昭彦　編著	大修館書店
2	The History of the English Language [ISBN 978-0-19-423397-2	Brigit Viney	Oxford UP
3			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
評価方法 （基準）	日本の検定教科書を使って中学・高校で英語科目を教えるに充分な英語の知識と運用力を前提とした、 （1）模擬授業　（レッスンプラン作成・15 回の授業時間中に行う実技・レポート） （2）筆記試験 上記項目の両方の評価がいずれも 100 点満点中の 60 点以上で合格とする。
学生への メッセージ	・この科目を十分理解し、授業立案・実技などを行うためには、辞書をひきながら英語を読み解き、正確に理解し、文法的に正確な例文を書く能力が必要です。 ・今の大学生が高校生だったころよりも、日本の中高の教育が目指す英語教育の目標が引き上げられています。3 年次のうちに英検準 1 級の取得をめざしましょう。 ・英語の文法、語彙、スペル、発音等、中高生にとってお手本になれるよう、基礎から復習をしてください。
担当者の 研究室等	7 号館 4 階（齋藤研究室）
備考	・履修前に、学習指導要領を、文部科学省のＨＰで読んでおくこと。 ・日々、学校教育や言語学習をめぐるニュースに目を向けよう。

科目名	英語科教育法Ⅲ	科目名（英文）	English Teaching Methods III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤　安以子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	・高い英語の学力と教授法の知識に基づいた具体的な指導のスキルを身につけることが、この授業の目的である。 ・スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの４つの基本スキルの指導、授業の準備や分析、評価などを演習を通して学ぶ。 ・教育機器の効果的な使い方を覚える。 ・他の受講生と、互いの授業を改善するための、根拠を示した建設的なディスカッション方法を学ぶ。
到達目標	・現代の日本の中学校・高等学校を想定した、英語による英語の授業を計画できるようになる。 ・充分な計画の推敲と練習を行う習慣を身に着ける。 ・学習者のモデルになるような、正確な英語による模擬授業ができるようになる。 ・学年ごとのカリキュラムを考え、ユニットや個々の授業時間の学習目標を設定できるようになる。 ・模擬授業を分析し、授業展開のオプションを検討できるようになる。
授業方法と留意点	・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。 ・各自が授業指導案を作成する際は、担当者が随時添削など個別指導を行う。 留意点： ・毎回の授業で予習・参加・復習が必須。 ・ブロークンではなく正確な英語を話したり書いたりするためのトレーニングを、授業外でも各自行う。 ・「学習者」と「授業を創る側」の両方の立場で、自分が大学で受講中の授業を分析的に見る。 ・教授法を学ぶ前段階として必要な英文法・語彙の習得が足りないと判断される場合は、履修を続行する以前に、基礎の復習を先に行うことを勧めることがある。
科目学習の効果（資格）	英語教員免許（中・高） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	音声指導（1）＋指導案作成	調音の仕組み	鏡を見て自分の発声を観察する・いろいろな音を聞き分ける
2	音声指導（2）＋指導案作成	英語の音と日本語の音のちがい	音の出し方を他人に説明する練習をする
3	音声指導（3）＋模擬授業	イントネーション	意識的な音の出し方を練習する
4	対面のコミュニケーションを教える（1）＋指導案作成	対面コミュニケーションを支える要素	自分のスピーチをビデオ録画で観察する
5	対面のコミュニケーションを教える（2）＋指導案作成	言語と非言語コミュニケーション	非言語コミュニケーションを意識的に変えてみる
6	対面のコミュニケーションを教える（3）＋模擬授業	上達のためのコーチング	日常生活の中から、質問のバリエーションを広げる
7	教材開発：身近な題材（1）＋指導案作成	何でも教材になる	広告や雑誌・新聞などを教材の材料として注意深く見る
8	教材開発：身近な題材（2）＋模擬授業	教材の作りやすさと使いやすさ	糊とはさみで教材を作る
9	教材開発：機器を使う（1）＋指導案作成	使えるものは何でも使ってみよう：学校の機器を使って、学習活動のバリエーションを増やす	校内にあるさまざまな教具や機器を探す
10	教材開発：機器を使う（2）＋模擬授業	授業の狙いと機器の価値：実際に教室の機器や学内の設備を使って、教科書の価値を高める教え方・学び方を考える	校内にあるさまざまな教具や機器が授業でどのように使われているか調査する
11	模擬授業と指導案の分析（1）	自分で企画した授業をクラスで分析する	授業見学
12	模擬授業と指導案の分析（2）	自分で企画した授業をクラスで分析する	授業見学
13	模擬授業と指導案の分析（3）	自分で企画した授業をクラスで分析する	授業見学
14	外国語教育に関する報道	社会が要請する外国語教育について、報道記事を元に考え、討論する	復習
15	アクションリサーチとは	問題があることに気づく・解決のために行動する 今学期の自分の変化を語る・今後の目標と到達のための手がかりを探す	これまでの自分の学習を振り返る

関連科目	・教職科目全般 ・英語科目全般
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	改訂版　新学習指導要領にもとづく英語科教育法［ISBN 978-4-469-24558-5］	望月　昭彦　編著	大修館書店
2	The History of the English Language ［ISBN 978-0-19-423397-2］	Brigit Viney	Oxford UP
3			

参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	日本の検定教科書を使って中学・高校で英語科目を教えるに充分な英語の知識と運用力を前提とした、 （1）模擬授業　（レッスンプラン作成・15 回の授業時間中に行う実技・レポート） （2）筆記試験 上記項目の両方の評価がいずれも 100 点満点の 60 点以上で合格とする。
学生への メッセージ	・この科目を十分理解し、授業立案・実技などを行うためには、辞書をひきながら英語を読み解き、正確に理解し、文法的に正確な例文を書く能力が必要です。 ・今の大学生が高校生だったころよりも、日本の中高の教育が目指す英語教育の目標が引き上げられています。3 年次のうちに英検準 1 級の取得をめざしましょう。 ・英語の文法、語彙、スペル、発音等、中高生にとってお手本になれるよう、基礎から復習をしてください。 ・大好きな科目、大好きな学校 で働きたい、と思うなら、責任を持って教えられる人になるため、貪欲に知識を増やし、妥協せず能力を磨いていきましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 4 階(齋藤研究室)
備考	・履修前に、学習指導要領を、文部科学省のＨＰで読んでおくこと。 ・日々、学校教育や言語学習をめぐるニュースに目を向けよう。

科目名	英語科教育法Ⅳ	科目名（英文）	English Teaching Methods IV
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	家口　美智子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	現在の英語教育学界は，小学校への英語教育導入を始め，高等学校への英語による英語授業への展開等，目まぐるしい動きを見せている。これから英語教師になる学生は，それに対応できるように，新たな英語教育へ向けて，過去の英語教育の歴史を始め，英語教授法や授業のスキル等を身につけてもらうことが，この授業の目的である。当然，更なる英語力の伸長やレベルの高いプレゼンテーション能力向上も培ってもらいたい。
到達目標	１．指導案が書けるようになる。 ２．工夫した授業ができるようになる。 ３．自らのパフォーマンスを客観的に見て、弱点を改善することができる。
授業方法と留意点	授業では基本的に講義と演習（発表）を併用して展開します。必ず予習をして出席すること。授業での発表，態度，出席状況は特に重視する。
科目学習の効果（資格）	英語教員免許(中・高) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	英語教育の基礎理論	英語科教育法とは 実力診断テストの実施	序章（1h）
2	英語教育の基礎理論	日本の英語教育の歴史	第１章（1h）
3	英語教育の基礎理論	学習指導要領	第２章（1h）
4	英語教育の基礎理論	英語教授法（１）及び指導案作成	第３章（前半）（1h）
5	英語教育の基礎理論	英語教授法（２）及び模擬授業	第３章（後半）（1h）
6	英語教育の基礎理論	英語教員の役割等	第４章（1h）
7	英語教育の基礎理論	第１言語習得と第２言語習得	第５章（1h）
8	英語教育の基礎理論	学習者理論	第６章（1h）
9	英語教育の基礎理論	コミュニケーション能力・国際理解教育	第７章・第８章（1h）
10	英語教育の実践編	4 技能の指導(1)	第 11 章・第 12 章（1h）
11	英語教育の実践編	4 技能の指導(2)	第 13 章・第 14 章（1h）
12	英語教育の実践編	語彙・文法指導	第 15 章・第 16 章（1h）
13	英語教育の実践編	中学校での指導	第 18 章（1h）
14	英語教育の実践編	高等学校での指導	第 19 章（1h）
15	まとめ	総復習	――――

関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新学習指導要領にもとづく英語科教育法（改訂版）	望月昭彦	大修館書店
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Common Errors in English Writing	Kizuka & Northridge	Macmillan
2			
3			

評価方法（基準）	模擬授業(10%)+学習指導案(5%)+授業中の参加度(5%)+テスト(80%)で評価する。 模擬授業はわかりやすさと工夫度を評価する。
学生へのメッセージ	英語教師を希望する人に，英語教育の初歩から応用まで，英語教育学全般を全てを学んでもらいたいと思います。この授業が皆さんの英語教師への道のりに役に立てばと思います。
担当者の研究室等	7 号館 4 階(家口研究室)
備考	高い英語力を身につけること。

科目名	教育課程論	科目名（英文）	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大野　順子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	（1）教育課程(カリキュラム)とは何かについて考える。教育課程(カリキュラム)はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。また、同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。 （2）わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りである。 （1）学校教育における教育課程の意義について理解できる。 （2）将来、教職に就いた際、適切な教育課程（カリキュラム）を計画・編成し、かつ、実践、評価できる資質が身につく。
授業方法と留意点	テキストや資料を中心に授業を進める講義形式が基本となるが、扱うテーマによってはグループワークを導入するなど、学生一人一人の授業への主体的な参加が求められる。また、授業準備として各自が取得する免許教科の中学校・高等学校の教科書を読んだり、それぞれの教科の学習指導要領を入手し、目を通しておくことが望ましい。また本授業用のノートを１冊準備すること。授業でレジュメを配布予定としているが、板書やパワーポイント資料の中の内容を記述するためのノートを一冊準備しておくこと。
科目学習の効果（資格）	教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	教育課程とは何か／オリエンテーション	学校教育のもつ機能について。	課題：シラバスに挙げているテキストの該当する分を読んでおくこと。
2	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅰ	戦前から戦後（経験主義～系統主義：高度経済成長期）の教育課程変遷について。	課題：テキストの該当する部分と授業（第１回目）で配布する資料に目を通しておくこと。
3	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅱ	1970 年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について。	課題：テキストの該当する部分と授業（第１回目）で配布する資料に目を通しておくこと。
4	教育課程（カリキュラム）の概念と構造、および教育課程編成について	教育課程の編成要素（内部要因と外部要因）について。	課題：シラバスに挙げているいずれかのテキストの該当する分を読んでおくこと。
5	教育評価　その１	子どもたちの発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について。	課題：事前に配布した資料を読んでおくこと。
6	教育評価　その２	教育課程評価について。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4 一枚程度、詳細は授業で伝える)。
7	『総合的な学習の時間』について	導入の背景とそのねらいについて（学生グループによる発表を予定）。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4 一枚程度、詳細は授業で伝える)。
8	新しい教育課程　その１	「キャリア教育」について（学生グループによる発表を予定）。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4 一枚程度、詳細は授業で伝える)。
9	新しい教育課程　その２	「アクティブラーニング」について。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4 一枚程度、詳細は授業で伝える)。
10	新しい教育課程　その３	「社会に開かれた教育課程」について。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4 一枚程度、詳細は授業で伝える)。
11	教育課程と教育改革　その１	特色のある学校づくり＝小中高編（学生グループによる発表を予定）。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4 一枚程度、詳細は授業で伝える)。
12	教育課程と教育改革　その２	カリキュラム・マネジメントについて。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4 一枚程度、詳細は授業で伝える)。
13	教育課程と教育格差　その１	学力格差と学力低下問題について（学生グループによる発表を予定）。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4 一枚程度、詳細は授業で伝える)。
14	教育課程と教育格差　その２	教育格差に抗する学校の取り組みについて（学生グループによる発表を予定）。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4 一枚程度、詳細は授業で伝える)。
15	総括：教育課程をめぐる諸問題	海外の学校教育課程の動向、及び、キー・コンピテンシー（OECD）について。	課題：事前に配布した資料を読んでおくこと。

関連科目	教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる所や特徴点を整理していくことが重要。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席（8 割以上必須）、学期末試験（単位取得のためには 60 点以上必要）、中間試験（予定）、レポート及び授業態度や授業への貢献度（発表を含む）など総合的に評価を行う。特に、学期末試験の結果は成績評価に大きく影響することから、日頃からしっかりと予習復習を怠らないこと。また、遅刻、欠席が多い者については成績評価の対象から外すので注意すること（原則、第一回目から全 15 回出席すること）。
学生へのメッセージ	１．第一回目の授業は必ず出席すること。 ２．欠席・遅刻はしない。 ３．私語はしない。 ４．グループワークでは何事にも積極的に取り組む。 ５．授業内容の復習を怠らないこと。 ６．授業内容で分からない点については遠慮せずに質問する。

担当者の 研究室等	７号館３階(大野順子研究室)
備考	2009 年度以前入学生は、(高校) 教免取得上選択 授業計画、及び内容は授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 テキストに代わる配布資料（「『新教育課程ライブラリ』、発行：ぎょうせい」を使用予定）については事前に該当箇所を配布します。

科目名	教育経営論	科目名（英文）	Studies of Educational Administration
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日　素明
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本科目では、公教育システムに関してなじみの深い事例を参照し、そこから政策や法制、機構、理論や論争、現実や実態を明らかにし、検討していきます。これを通して、私たちにとってはあたりまえで意識することもないような、学校教育を中心とした公教育システムのしくみやはたらきについて理解します。
到達目標	例えば「何をどう教えるのか」という内容的・技術的な事柄も実はさまざまな制度やその運用のし方などによって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がりが理解できるようになります。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション（LTD；Learning Through Discussion）等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をすることがあります。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 公教育とは	授業概要、方法としてのLTDについて説明 公教育の成立前史 教育における「公」と「私」	シラバスを読んでくる。
2	教育権の構造	「教育をする権利」「教育を受ける権利」「学習する権利」 教育権論争について簡単なグループワーク	テキスト第３章１節を読んでくる。
3	教育を受ける権利の保障	教育の制度原理 「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク	テキスト第３章２節を読んでくる。
4	学校体系のしくみ	段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者	テキスト第７章１・２節を読んでくる。
5	学校体系の現代的課題	選別・分離と接続・統合 「選抜・選別」について簡単なグループワーク	テキスト第３章３節を読んでくる。 学校の機能に関する配布資料を読んでくる。
6	教育条件整備の法制度と新しい動向	公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか 学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク	テキスト第７章２・３節を読んでくる。 学校統廃合に関する配布資料を読んでくる。
7	学校の組織管理	教職員配置と組織編制	テキスト第４章１・２節を読んでくる。
8	学校経営の新しい動向	「開かれた学校」 学校評議員制度、学校運営協議会制度 地域運営学校について簡単なグループワーク	テキスト第４章３・４節を読んでくる。 コミュニティスクールまたは学校参加に関する配布資料を読んでくる。
9	教育課程経営	学習指導要領の性質と特徴の変遷 学力論争と教育評価論 学力低下論争をめぐって簡単なグループワーク	テキスト第１０章１・２節を読んでくる。 学力低下論争に関する配布資料を読んでくる。
10	教科書制度と指導行政	教科書検定 教科書採択 制度をめぐって簡単なグループワーク	テキスト第１０章３・４節を読んでくる。 教科書検定または教科書採択制度に関する配布資料を読んでくる。
11	社会教育行政	社会教育と生涯学習 社会教育の理念と展開	テキスト第８章１・２節を読んでくる。
12	生涯学習社会への移行と生涯学習振興	社会教育行政の運営原則 社会教育の諸制度 社会教育不要論をめぐって簡単なグループワーク	テキスト第８章３・４節を読んでくる。 社会教育不要論に関する配布資料を読んでくる。
13	教育行政のはたらきと地方教育行政組織	教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき 教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク	テキスト第２章１節を読んでくる。 教育委員会制度の動向に関する配布資料を読んでくる。
14	国の教育行政と地方との関係	国の教育行政を動かす組織のしくみとはたらき 教育行政関係の新しい動向	テキスト第２章２・３節を読んでくる。
15	教育費と教育財政	教育財政の考え方 国・地方の教育費と教育財政 義務教育費国庫負担制度とその改革 学校財務	テキスト第６章を読んでくる。

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育社会学」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教育行政学　（改訂新版）	勝野正章・藤本典裕	学文社
2			
3			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
評価方法 （基準）	定期試験 60%、レポート内容 30%、グループワーク・ピア評価 10%。定期試験を受験しなかった場合は評価をしません。
学生への メッセージ	教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。 遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　朝日研究室
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。

科目名	教育原理	科目名（英文）	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小山　裕樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	あなたは、「そもそも「教育」とはいったい何なのだろう」と疑問に思ったことはありませんか。あるいは、この疑問と関連して、次のように問うてみたことはありませんか。すなわち、「教育を受けることで、自分は本当に「善く」なったのだろうか」。「いやむしろ、教育を受けることで、何らかの「型」にはめられてしまったのではないか」。「教育には、今あるいわゆる「学校教育」のようなあり方しか存在しないのだろうか」……などなど。この授業では、以上のような素朴な、とはいえ重要な問いを大切にしながら、「教育」という営みについてもう一度丁寧に考え直してみることを目的とします。なお、その際に参考にするのは、「教育」に対して真摯に向き合った思想家たちの思索や、「教育」の歴史です。これらの思索や歴史を踏まえることで、受講者たちがそれぞれに「教育」について自分なりの考えを深めることができるようにします。
到達目標	「教育」をめぐる思想や歴史に関する基礎的な知識や考え方を身に付けたうえで、受講者たちがそれぞれに「教育」について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。
授業方法と留意点	授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的には講義形式で行います。とはいえ、毎回授業の最後に受講者にコメントペーパーを書いてもらって次の授業中にその内容のいくつかを紹介することで、受講者が相互に関心を共有し合うとともに、その都度のテーマに対して主体的かつ多角的に考えを深められるよう配慮します。
科目学習の効果（資格）	（1）高等学校教諭１種免許状　（2）中学校教諭１種免許状の取得　（3）学芸員資格の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス:教育を原理的に考察すること	教育を原理的に考察することの意味を考える。	「自分にとって教育とは何か」を考えておく。
2	動物と人間の違い①	「野生児」の例から教育について考える。	授業の内容を踏まえたうえで、「野生児」は教育されるべきであったかについてもう一度考える。
3	動物と人間の違い②	「野生児」の例から教育について引き続き考察を深める。	二回分の授業の内容を踏まえたうえで、「野生児」の教育についてより広い観点から考察を深める。
4	教育をめぐる諸論理①:「教える」と「学ぶ」	①教育という営みを構成している二大要素である「教える」と「学ぶ」の関係について考える。 ②ヘレン・ケラーの「学び」を事例として、「学び」を形成している諸側面について検討する。	「教える」と「学ぶ」の違いや関係について、授業後にもう一度整理しておく。
5	教育をめぐる諸論理②:「発達」と「生成」	いわゆる「発達」論と「生成」論に含まれている「教育」観（あるいは「人間形成」観）の質的な違いについて考える。	「発達」と「生成」の違いについて、授業後にもう一度整理しておく。
6	教育をめぐる諸論理③:「子ども」観の歴史的変遷と「子どもの権利」	①「子ども」観や親子関係に対する見方が、古代から現代まで歴史的にどのように変遷してきたのかを概観する。 ②「子ども」観の歴史的変遷を踏まえたうえで、「子どもの権利条約」が制定されるまでの経緯を確認する。	「子ども」一般に対して自分が抱いているイメージを思い起こしておく。さらに、授業の内容を踏まえたうえで、授業後にもう一度自分の「子ども」観について考えてみる。
7	教育の思想の歴史①	ロック、ルソーらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
8	教育の思想の歴史②	ペスタロッチ、フレーベルらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
9	教育の思想の歴史③	ヘルバルト、デューイらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
10	日本の教育の歴史①	明治期の日本における近代学校制度の成立と展開の過程について概観する。	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
11	日本の教育の歴史②	大正自由主義教育運動から、大戦中の教育、そして戦後教育改革へという歴史の展開過程について概観する。	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
12	教育と権力①	ミシェル・フーコーの規律訓練論について概観し、教育を権力論との関わりから捉え直す。	教育と権力との関わりについて、授業後にもう一度考えてみる。
13	教育と権力②	①権力論の新たなる展開の例として「環境管理型権力」の問題について扱う。 ②いわゆる「教育空間論」について考えを深める。	「教育空間論」の可能性について、授業後にもう一度考えてみる。
14	媒介者としての教師	様々な困難のなかに立たされつつも、極めて重要な役割を与えられる教師のあり方を、「媒介者」という観点から考える。	「自分が将来どのような教師になりたいか」を考えておく。
15	まとめと補足	授業に関してまとめの考察を行う。	授業時に指示する。

関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみることが大切です。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	西洋教育思想史	眞壁宏幹	慶應義塾大学出版会
2			
3			

評価方法 （基準）	毎回の授業中に書いてもらうコメントペーパーや、学期末試験の結果などをもとに、総合的に評価します。なお、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る者に対しては厳正に対処をしますので、学生としての自覚と覚悟をもって授業に参加すること。
学生への メッセージ	受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。
担当者の 研究室等	７号館４階(小山研究室)
備考	

科目名	教育実習Ⅰ	科目名（英文）	Teaching Practice Ⅰ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大野　順子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	学校現場の実情及び教育実習中の留意事項に関し、講義や実際に教育現場での体験、学校訪問等を通して実践的に学ぶ。そして、それらを通して、教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに、教育実習生として必要な心構えを身に付け、次年度に行われる学校現場での教育実習に備える。
到達目標	実習校での実習に必要な指導力、生徒理解、そして教育評価のあり方を踏まえるとともに、自己の専門性を高め、より効果的な授業実践が行え、生徒指導ができるようになる。
授業方法と留意点	①講義（テキストを使って教育実習の実際についての情報提供及び教育実習に臨む心構え等について講義を行う。） ②課外活動の実施（学校訪問や子どもを対象としたイベントを企画することで教師としての実践力を高める。） ③体験報告（教育実習を終えた４年生をゲストティーチャーに招いて体験を聞く。） ④模擬授業の実施（取得予定校種・教科の１単位時間分の学習指導案の略案を作成し、それにもとづく５分程度の模擬授業を行い、参加者からの講評を受ける。）
科目学習の効果（資格）	教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 教育実習

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義：本講義 15 回の講義予定の説明と確認、自己紹介、ワークショップ	特になし
2	教育実習について　その１	講義・ディスカッション	講読テキストの要約、及び、発表の準備
3	教育実習について　その２	講義・ディスカッション	講読テキストの要約、及び、発表の準備
4	場面指導　その１	ケースワーク	場面指導に関する事前に配布する資料を読み、それぞれの対応の仕方についてまとめてくる。
5	場面指導　その２	ケースワーク	場面指導に関する事前に配布する資料を読み、それぞれの対応の仕方についてまとめてくる。
6	課外活動　その１	子どもを対象とした事業の企画運営	昨年度の実績：あるイベントにおいて託児所の機能をもった「こどもの広場」を企画し、運営する。
7	課外活動　その２	学校・子ども・教育に関連した事業への参加と運営	事前準備とふりかえり。
8	現代子ども理解　その１	映像などの視聴覚教材を使用し、現代の子どもたちが抱える問題（例えば貧困など）について学ぶ。	事前配布資料を読み、まとめる。
9	現代子ども理解　その２	外部講師による講演、及び質疑応答	昨年度の実績：大阪市立保育園保育士による「現代の子ども事情」についての報告。
10	学校見学　その１	中学・高校訪問	昨年度の実績：系列校である常翔学園中高への学校・授業見学。
11	学校見学　その２	高校訪問	昨年度の実績：府立定時制高校への学校・授業見学。
12	教育実習経験者による体験報告	4 回生の教育実習経験者による実習体験報告、及びグループに分かれての質疑応答	事前に各自、実習経験者へ質問する内容を５点ずつ考えてくる。
13	模擬授業　その１	模擬授業実践（一人５分間）	模擬授業の準備、相互評価。
14	模擬授業　その２	模擬授業実践（一人５分間）	模擬授業の準備、相互評価。
15	まとめ	講義 振り返りレポート	振り返りレポートを作成、提出。

関連科目	すべての教職科目と関連がある。これまでに学習した内容について、復習し整理しておくことが大切である。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	レポート（課外活動や学校見学について）や要約資料、課題発表、模擬授業の実践、さらに、積極的かつ誠実な授業への参加・貢献度等により総合的に評価する。
学生へのメッセージ	教職科目の特質をよく理解し、「学ぶこと」を通して「教えること」への実践的理解を深めるとともに、教師としての役割を自覚することが大切である。また、「教育実習」はこれまでの学習の総まとめであることから、これまで学習した内容を振り返り、構造的な理解に努めた上で、実習に備えること。
担当者の研究室等	７号館３階(大野順子研究室)
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 上記計画は 2016 年度実施内容を参考にしています。

科目名	教育実習Ⅱ	科目名（英文）	Teaching Practice II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日　素明
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	「教育実習Ⅱ」では、教育実習校において 10 日間以上の実習を行う。（１）教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。（２）事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。（３）教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。（４）事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。
授業方法と留意点	（１）教育実習校での実習を中心に行う。（２）大学での事前指導・事後指導は「教育実習Ⅲ」と合同で行う。（３）事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。（４）事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	1　教育実習特別個人指導（４月） 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じること。 2　教育実習事前指導（４月～５月） 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出 3　教育実習個人指導（４月～５月） 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること（必要な者のみ)。 4　前期教育実習開始（５月～６月） 実習校において授業を行なったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 5　後期教育実習開始（９月～１０月） 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 6　教育実習事後指導（７月～１１月） 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。 7　教育実習体験発表会（１０月） 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。 8　教育実習総括講義（１１月） 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 「教育実習記録」を提出する。
関連科目	教職関連科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新編教育実習の常識 － 事例にもとづく必須６６項	教育実習を考える会	蒼丘書林
2	学習指導要領解説	文部科学省	
3			

評価方法（基準）	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び課題提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。
担当者の研究室等	７号館３階（朝日研究室）
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。

科目名	教育実習Ⅲ	科目名（英文）	Teaching Practice III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日　素明
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	「教育実習Ⅲ」では、教育実習校において 15 日間以上の実習を行う。（１）教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。（２）事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。（３）教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。（４）事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。
授業方法と留意点	（１）教育実習校での実習を中心に行う。（２）大学での事前・事後指導は「教育実習Ⅱ」と合同で行う。（３）事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。（４）事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	1　教育実習特別個人指導（４月） 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じること。 2　教育実習事前指導（４月～５月） 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出 3　教育実習個人指導（４月～５月） 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること（必要な者のみ)。 4　前期教育実習開始（５月～６月） 実習校において授業を行なったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 5　後期教育実習開始（９月～１０月） 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 6　教育実習事後指導（７月～１１月） 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。 7　教育実習体験発表会（１０月） 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。 8　教育実習総括講義（１０月） 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 「教育実習記録」を提出する。
関連科目	教職関連科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新編教育実習の常識 － 事例にもとづく必須６６項	教育実習を考える会	蒼丘書林
2	学習指導要領解説	文部科学省	
3			

評価方法（基準）	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び各種提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。
担当者の研究室等	７号館３階
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。

科目名	教育社会学	科目名（英文）	Sociology of Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大野　順子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的

近年、学校教育現場では様々な問題を抱えるようになってきました。一般的に私たちはそうした問題に対し、学校教育内部でのみ対処し解決しようとする傾向があります。しかしながら、そうした問題の多くは、時に関係のないような社会的、経済的、政治的、そして文化的なシステムと密接な関係性をもっていることが多々あります。そこで本講義では、教育現場で生じている諸問題を、特に社会学的観点からとらえ、検討していくことを目標とします。特に、最近社会問題化している子どもの貧困や教育格差問題等を扱いながら、体系的に現代社会と教育の関係性について学び、教育社会学の理論や概念を学んでいきます。

到達目標

本講義の到達目標は以下の通りです。
１．教育社会学の基礎理論と概念について学習する。
２．現代社会における様々な教育問題について理解する。
３．教育に関わる諸問題を社会学的観点からとらえ、論理的に思考し、分析し、検討する力を養う。
４．様々な教育問題に対して、それぞれ意見発表を行い、他者と議論し、解決の方向を見出せる力をつける。

授業方法と留意点

講義形式を中心としますが、ワークショップや体験活動・課外活動、問題理解・解決に向け議論する手法を取り入れるなど、受講生の皆さんの主体的な参加の機会を多く提供します。実際に学校教育現場へ出向き、リアルな学校教育現場の様子を体験し、学ぶ機会もあります。基本的に履修生は全プログラム（週末などに実施される課外活動含む）に出席する義務があります。また、毎時間、講義開始５分間、教育社会学必須単語の小テストを行います。遅刻や欠席が多い場合小テストが０点となりますので気を付けてください。
〇準備学習の具体的な方法
指定しているテキストを購入し、事前に講義で扱うテーマに該当する部分を要約する。そして日頃から新聞・雑誌等で教育に関する記事を読み、どのような問題が教育界では話題になっているのかについて情報を収集する。また、毎時間の小テスト対策として必須単語帳に記載されている単語をすべて覚える。

科目学習の効果（資格）

（１）高等学校教諭１種免許状　　（２）中学校教諭１種免許状の取得に必要です。
【免許法施行規則に定める科目区分】
科目：教育の基礎理論に関する科目
各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション　教育社会学とは	教育社会学という学問の特質、及び、その課題を知る。	事前課題：教科書の序章を読み、疑問点についてまとめてくる。
2	近代学校教育制度	近代国民国家が求めた「学校教育制度」の意義や性格について考える。	事前課題：小テスト対策、教科書の第１章、第２章の要約。
3	教師と子ども	「教師－生徒の関係性」という視点から学校における教育活動全般を考えていく。	事前課題：教小テスト対策、科書の第３章、第４章の要約。
4	校則・体罰・校内暴力	学校が抱える諸問題（体罰等）が発生する背景や要因について考える。	事前課題：小テスト対策、事前に配布する論文資料を読み、要約する。
5	いじめ	学校病理問題の一つである「いじめ」について社会学的観点からいじめが発生する構造について明らかにする。	事前課題：事小テスト対策、前に配布する論文資料を読み、要約する。
6	不登校	学校病理問題の一つである「不登校」問題について社会学的観点から迫り、解釈する。	事前課題：小テスト対策、事前に配布する論文資料を読み、要約する。
7	教育格差・階層問題Ⅰ	貧困と格差が子どもたちにもたらす影響について考える。子どもの貧困に関する映画鑑賞（予定）	事前課題：小テスト対策、教科書の第７章の要約。
8	教育格差・階層問題Ⅱ	格差解消に向けた学校、家庭、地域社会等の取り組みについて。	事前課題：小テスト対策、事前に配布する論文資料を読み、要約する。
9	国の教育政策：海外との比較	教育政策、教育費、制度等の観点から日本の教育と海外の教育について比較検討する。	事前課題：小テスト対策、事前に配布する論文資料を読み、要約する。
10	地域と学校Ⅰ	地域社会の変容、それに伴う、学校のあり方について検討する。	事後課題：小テスト対策、事前に配布する論文資料を読み、要約する。
11	地域と学校Ⅱ	地域連携、学社融合の取り組みについての事例研究を行う。	事後課題：小テスト対策、事前に配布する論文資料を読み、要約する。
12	ジェンダーと教育	学校や家庭、社会に潜むジェンダーに関わる問題について考える。	事後課題：小テスト対策、事前に配布する論文資料を読み、要約する。
13	国家と教育	教育の政治化と学校現場において子どもたちや教師たちが直面する問題について考える。	事後課題：小テスト対策、教科書の第９章、及び事前に配布する論文資料を読み、要約する。
14	在日外国人の子どもたち	学校の中におけるマイノリティとしての「外国にルーツのある子どもたち」の状況について考える。	事後課題：小テスト対策、事前に配布する論文資料を読み、要約する。
15	総括	「教育改革」をキーワードにこれからの教育のあり方について考える。	事後課題：小テスト対策、教科書の第10章の要約。

関連科目

「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習Ⅰ」「教職実践演習」「各教科教育法」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教師教育テキストシリーズ『教育社会学』	久富善之、長谷川裕	学文社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現代教育社会学	岩井八郎、近藤博之	有斐閣ブックス

	2	新版『教育社会学を学ぶ人のために』	石戸教嗣	世界思想社
	3			

評価方法 （基準）	出席・授業貢献度、試験（毎時間行う小テストと期末試験）、学校でのボランティア活動体験報告書（必須）、課題・レポート等により総合的に評価するが、試験で６割以上取れない場合、さらに、出席が 80%に満たない者、課題（要約）の提出が十分でない者は成績評価の対象外とする（期末試験の受験資格なし）。遅刻は欠席とする。
学生への メッセージ	本講義を履修する者は、原則、学校現場での活動経験（学習支援、授業補助、部活指導等内容は問わない長期、短期の無償・有償ボランティア活動）をしている（あるいは今後する予定、過去に経験したことがある）ことが必須条件とします。学校での活動経験のない者については履修期間中、学校で活動することを義務づけます。よって、学校でのボランティア活動をやっていない者、やりたくない者、やる予定がない者は履修しても単位認定しませんのでお気を付けください。また、提出物に関しては締め切りを厳守すること。締め切り以降の提出に関しては受け取りますが「未提出」扱いとします。
担当者の 研究室等	７号館３階(大野順子研究室)
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。また、課外活動が通常の時間割外に予定されています。課外活動に参加できない人は本科目の単位を取得することは困難です。また、学校でのボランティア活動への参加も必須です。こちらへの参加ができない人も本科目の単位取得が困難となりますので、ご注意ください。

科目名	教育心理学	科目名（英文）	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	学校での教育活動において、教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、様々な形で援助していくためにはどうすればよいのか、それを考えていくにあたって必要な、基礎的な知識を身につけることを目標とし、特に、認知的な側面に焦点を当てて議論していく。具体的には、教育について考える際に、ある意味基本となる「発達と学習」、学習者が主体的に学ぶための「学習意欲」、個人差の理解、障害の理解と特別支援教育について考える「個に応じた教育」を中心とする。また、学校を学習の場としてとらえたときの「人間関係」についてもふれることとする。
到達目標	教育心理学の基本的な考え方、基礎的な知識を得ることができる。そのことにより、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになる。
授業方法と留意点	講義中心で行う。必要に応じて，簡易実験やグループディスカッション等を行う。
科目学習の効果（資格）	教員免許状取得上必修，免許法施行規則に定められた「教育の基礎理論に関する科目」６単位のうち２単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	発達と教育と心理学と	教育に対して心理学ができること、発達と教育	＿＿＿＿＿
2	教育を支える認知機能１	思考(1)……人間の思考の特徴	テキスト第８章、第９章を読む
3	教育を支える認知機能２	思考(2)……思考の発達、メタ認知	テキスト第７章の１、第８章、第９章を読む
4	教育を支える認知機能３	言語(1)……言語の機能、言語の発達	テキスト第９章の２、第11章を読む
5	教育を支える認知機能４	言語(2)……文章理解	テキスト第11章を読む
6	教育を支える認知機能５	記憶(1)……記憶のメカニズム	テキスト第４章、第５章を読む
7	教育を支える認知機能６	記憶(2)……記憶の発達	テキスト第４章、第５章を読む
8	こどもの学び１	様々な学習(1)……学習とは何か、古典的条件づけ	テキスト第１章を読む
9	こどもの学び２	様々な学習(2)……道具的条件付け、観察学習	テキスト第１章を読む
10	学習を支える動機づけ１	意欲とは何か……動機づけ過程、期待×価値理論、学習性無力感	テキスト第２章、第３章を読む
11	学習を支える動機づけ２	さまざまな学習意欲(1)……外発的動機づけ	テキスト第２章、第３章を読む
12	学習を支える動機づけ３	さまざまな学習意欲(2)……内発的動機づけ	テキスト第２章、第３章を読む
13	学習を支える動機づけ４	学習意欲を育むために ……報酬と罰、評価、目標、教師の対応	テキスト第０章の２、第２章、第３章を読む
14	個に応じた教育１	個人差の理解と教育……ATI、学習方略	テキスト第０章の３，第６章を読む
15	個に応じた教育２	「障害」の理解と特別支援教育	テキスト第13章を読む

関連科目：教育原理，教育相談

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	絶対役立つ教育心理学―実践の理論，理論を実践―	藤田哲也（編著）	ミネルヴァ書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト30%　期末試験70%
学生へのメッセージ	これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。
担当者の研究室等	７号館３階（吉田研究室）
備考	小テストは次回授業時に返却します。定期テストは希望者に返却します。

科目名	教育相談	科目名（英文）	School Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	教育相談の考え方や進め方についての理解を深め、生徒が成長する過程に生じるさまざまな課題や問題に対処するための援助の考え方や実際、カウンセリングの基礎知識と教育相談の技法を身につけることを目標とする。学校における教育相談に焦点を当て、教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために、教育相談のもつ今日的な意義を解説し、カウンセリングの基礎知識およびその実践的な手法を紹介する。併せて、「問題」に悩む児童・生徒への実践的な取り組み方を考える.
到達目標	教育相談の基本的な考え方、カウンセリングの基礎、生徒理解と「問題」への対応についての知識を得ることができる。その上で、生徒を援助するための具体的な方法について考えることができる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせて行う。演習は，グループごとに取り組んだ課題について発表するものとする。
科目学習の効果（資格）	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」４単位のうち２単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 各科目に含める必要事項：教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について	――――
2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方、教師としての立場、カウンセリングマインド	テキスト第 1 章、第 2 章を読む
3	グループ発表の準備	グループワーク	――――
4	学校教育相談の全体像	校内での役割分担と協力体制、専門機関との連携とその方法	テキスト第 12 章、第 13 章を読む
5	学校におけるカウンセリング活動 1	カウンセリング活動のいろいろ(1)……治療的カウンセリング活動、予防的カウンセリング活動	テキスト第 10 章を読む
6	学校におけるカウンセリング活動 2	カウンセリング活動のいろいろ(2)……開発的カウンセリング活動	テキスト第 10 章を読む
7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために、パーソナリティ理解をゆがめるもの	――――
8	問題の理解と対応 1	問題とは何か、その原因・背景と対応、適応過程	テキスト第 3 章を読む
9	問題の理解と対応 2	ストレス、欲求不満，葛藤	テキスト第 3 章、第 4 章を読む
10	心の発達と危機	認知の発達、自己意識の発達、道徳性の発達、仲間関係の発達	教育心理学の復習
11	相談援助活動の実際 1	不登校……その理解と対応（学生グループ発表）	テキスト第 5 章を読む
12	相談援助活動の実際 2	いじめ……その理解と対応（学生グループ発表）	テキスト第 6 章を読む
13	相談援助活動の実際 3	学級崩壊・授業崩壊……その理解と対応（学生グループ発表）	テキスト第 7 章を読む
14	相談援助活動の実際 4	反社会的行動……その理解と対応（学生グループ発表）	テキスト第 8 章を読む
15	教員のメンタル・ヘルス	教員自身が健康であるために，教員への対応	テキスト第 14 章を読む

関連科目：教育方法論、生徒指導論、教育心理学、教育社会学など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	学校教育相談	一丸藤太郎・菅野信夫	ミネルヴァ書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループ発表 50%　期末試験 50%
学生へのメッセージ	これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。
担当者の研究室等	７号館３階（吉田研究室）
備考	グループ発表について，他の受講者からの評価をまとめたものを次回授業時に配付します。また，全発表中最も評価が高かったグループも、最後にお知らせします。 グループ内ではピア評価を行います。

科目名	教育方法論	科目名（英文）	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林　茂樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	教職課程「教育の方法及び技術」に対応する科目である。授業は、教育方法の歴史と理論を概観する講義、授業の設計・展開から評価に至る授業構成の理解と学習指導を組織化するための基礎的な授業技術と方略を習得するミニ講座、それらに土台に、チームの共同作業によるマイクロ・ティーチングにより構成する。授業を「受ける」立場からではなく、「作る」立場から能動的な学びを経験することになる。 　それらのことを通じて、つぎのことをめざす。 (1) 自己の被教育体験を出発点に、学ぶこと・教えることの意味について考え、学習観・授業観・学校観を問い直す作業を通して、今日の教師に求められる多様な資質・能力についての理解を深める。 (2) 「教え込む技術」の習得をめざすのではなく、生徒の生活背景を把握し、生徒の声を聴き取り、生徒どうしをつなぎ、教材の文脈にもどし、教室での出来事に柔軟かつ的確に対処しながら、教室を豊かな学びの場とするような授業を構想する。 (3) 教育実践の質を向上させるためには、個々の教師が専門性を向上させるだけでなく、相互に学び合える同僚性を構築すること、教育諸科学研究から新しい知見を摂取し続けることが重要であることを理解する。
到達目標	教師と生徒が意思疎通を図りつつ、相互に作用しながら、主体的に問題を発見し、協力協同しながら解に接近する時空間としての授業を構想することをめざして、 (1) 指導目標を適切に設定し、多角的な視点から教材研究を行い、学習指導案を作成するとともに、同僚との協議を踏まえて指導案を改善することができる。 (2) 豊富な事例研究を通して、教育実践を対象として分析、批判、省察、再構成できる力を養う。
授業方法と留意点	(1) 講義・ワークを中心に授業を進める。インタラクティブ（双方向的）な授業構成となるよう積極的な参加を求める。私語は厳禁だが、質問や意見提起は歓迎する。 (2) 毎回、講義資料とコメントペーパーを配付する。講義資料は各自ファイリングし、「コメントペーパー」は記入・提出すること（編集して、次回に配布し、共有すべき点についてコメントを行う。なお、「コメントペーパー」の返却はできないので、必要な場合はメモを残しておくこと）。 (3)　第9～12回でチームによるマイクロティーチングを実施する。また、チーム授業に関するレポートの提出をもとめる（中間レポートとして）。 (4) 定期試験を受験すること。
科目学習の効果（資格）	教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション･現代教育方法学の論点と課題 授業技術ミニ講座①授業びらき・授業じまい	「学力」の登場と学力論争、「問題解決学習」論争、「たのしい授業」論争、「教育技術」をめぐる論争	教科書第３章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
2	子どもは何を学ぶのか(教育目標・内容論) 授業技術ミニ講座②授業のルールづくり	教育目標に関する基本的な考え方、教育目標・内容の諸相、育成すべき資質と能力、学校教育目標	教科書第４章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
3	学習とは何か（学習論） 授業技術ミニ講座③私語の傾向と対策	学習をめぐる３つの理論、学習理論にもとづく学習方法、学習における他者の役割 、学習指導の形態	教科書第５章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
4	学力をどう高めるか（学力論） 授業技術ミニ講座④板書の技術	学力をどうとらえるか、「できる学力」を高める、「分かる学力」を高める、学力調査をめぐって	教科書第６章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
5	授業をどうデザインするか（計画論） 授業技術ミニ講座⑤発問の工夫と仕方	授業のデザインとは、教育内容と子どもの学び、対話的・協働的な学び合い、授業づくりの課程と構造、学びのための指導・支援	教科書第７章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
6	教育の道具・素材・環境（教材論） 授業技術ミニ講座⑥指名、指示の仕方、発言のさせ方	教材づくり、メディアとしての教材、教材概念の拡張、学習環境としての時空間	教科書第８章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
7	何をどう評価するか（評価論） チーム授業顔合わせ･自己紹介	目標に準拠した評価と相対評価、形成的評価と自己評価、パフォーマンス評価とポートフォリオ評価、指導と評価の一体化	教科書第９章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
8	欧米における授業の歴史 チーム授業①打ち合わせ	近代教育思想と教授学の成立、教育学の体系化と授業の組織化、カリキュラム研究の成立と展開、科学技術の進歩と教育改革	教科書第１章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
9	日本における授業の歴史 チーム授業②第 1 グループのマイクロ･ティーチング実施	近代学校制度と授業の成立、授業の定型化、新教育の受容と戦後改革、新自由主義的教育改革	教科書第２章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
10	誰がカリキュラムを編成するのか（カリキュラム論） チーム授業③第２グループのマイクロ･ティーチング実施	カリキュラム・イメージの払拭、カリキュラムの編成原理、学習指導要領、カリキュラム開発、隠れたカリキュラム	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。
11	ICTを活用した授業をつくる① チーム授業④第３グループのマイクロ･ティーチング実施	各種メディアの授業への活用、学習用デジタル・コンテンツの利用	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。
12	ICTを活用した授業をつくる②	情報教育、メディア・リテラシー、ｅラーニング、学校運営・教務事務の ICT 化	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。

教職科目

	チーム授業⑤第４グループのマイクロ・ティーチング実施		
13	インクルーシブな授業をつくる 授業技術ミニ講座⑦個別指導と一斉指導 チーム授業⑥マイクロティーチングの振り返り	通常学級における特別支援教育、個に応じた指導とは、学級集団づくりと授業づくり、授業の「わかりやすさ」と多様な参加	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。
14	授業のユニバーサルデザイン化 授業技術ミニ講座⑧ほめ方・叱り方	バリアフリーとユニバーサルデザイン、学習環境のユニバーサルデザイン化、指導方法のユニバーサルデザイン化、学習のユニバーサルデザインと合理的配慮	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。
15	まとめ～学び続ける教員像をめぐって 授業技術ミニ講座⑨グループ学習の方法	２つの教師モデル、専門家としての教師、教師としての成長に向けて	教科書第１１章をよく読んでおく。学習内容を整理する。

関連科目

教職科目全般と関連性をもつ。特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」での既習内容と関連させて理解を深めることが大切である。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新しい時代の教育方法	田中耕治他	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教育の方法	佐藤学	左右社
2			
3			

評価方法（基準）

定期試験（50%）、レポート（30%）、コメントペーパー（20%）により総合的に評価する。

学生へのメッセージ

「授業に出席するだけ」という受動的な構えを取るのではなく、日々、メディアで取り上げられる教育諸課題に敏感に反応し、教育の方法的視点でどのように対処すべきかを常に考える癖をつけるようにしてください。

担当者の研究室等

７号館３階(林研究室)

備考

科目名	教職実践演習（中・高）	科目名（英文）	Practicum in Prospective Teachers
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	○教育実習を終え、各自の問題点を明確化しながら今後の自らの実践課題をグループワーク等を通して再認識し、教員としての適性や実践的な力量について確認する。 ○中学・高校での現場体験学習を基に、現職・元教員、教育委員会指導主事等と研究交流し、生徒理解を通して生徒指導・進路指導ができることを確認する。 ○教科に関する科目の担当者や科目の指導主事・現職教員と連携協議し、専門科目・教職科目の学習を深め、授業実践ができることを確認する。 ○教員としての適性や力量、特に「授業を創造する意欲と能力」「対人関係能力と社会性・協調性」「使命感・責任感」「学校教育活動におけるリーダーシップ」等を有していることを確認する。
到達目標	免許教科に関する学習、中学校での学習、今日的な教育問題に関する学習など、様々な学習を通して自身の課題を見つめ直し、教員としての適性や力量について確認することができる。
授業方法と留意点	○教職課程の専任教員５名による全体指導と、各専任教員毎のグループ学習を中心に進める。１グループは 15～20 名。さらに、長年の実践経験を有する教員から実践を通して見えてくる学校現場の諸課題を知り、自己の実習経験と重ねる中で、新たな課題を探り、かつ全体でも共有していく。 ○大学の教科に関する科目の担当者・指導主事・現職教員と連絡協議し、教科指導・生徒指導・進路指導等ができることを確認していく。
科目学習の効果（資格）	○教職実践演習は、当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目（教職実践演習を除く） の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するもの。 ○教職課程の必修科目。免許資格取得と同時に即学校現場で生かせる実践力を身に付けることが求められる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	「教職実践演習」のガイダンス	・科目の目的、内容方法についての確認 ・各自の教育実習後の課題についての確認 ・３回以降のグループ学習の各課題の確認	・教育実習ノートの点検と再確認
2	専攻科目に於ける実践上の課題	・専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野に関する個々の課題について教科担当教員が指導。	・専攻教科における分野ごとの課題を整理
3	専攻科目に於ける実践上の課題	・専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野と実践上の課題について、教科担当教員が指導。その上で、研究交流する。	・専攻教科における分野ごとの課題を整理
4	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)	地元市教委との連携協力を基に、中学校現場を全体で参観し、生徒指導・進路指導上の実践課題を知る。	中学生における集団づくりと個別指導(生徒指導・進路指導のあり方)についてレポートにまとめる
5	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)	地元市教委との連携協力を基に、中学校現場をグループ毎に参観し、教科指導上の実践課題を知る。	中学生における集団づくりと個別指導(教科指導のあり方)についてレポートにまとめる
6	いじめの現状	問題行動のなかから特に「いじめ」を取り上げ、その多様性、メカニズム、深刻さを理解する。 配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前)配布資料の熟読 (事後)小レポートの提出
7	いじめ問題への取り組み	日常の些細な出来事がどのように「いじめ」に発展するのか、教師がいじめを見抜くのはどうして困難なのかを考える。 配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前)配布資料の熟読 (事後)小レポートの提出
8	ジェンダーと教育	近現代社会は「個人の尊重」という理念のもと成り立っている。しかしながら、その背後には伝統的な価値規範を内包していることも忘れてはならない。 近代国家によって制度化されてきた学校教育も現在では自由や個性の尊重を掲げながら、一方では伝統的な価値観を強制している部分があるのではないか。 そうしことを考えるきっかけとして「ジェンダー」という視点を用い、学校教育を改めて考えてみたい。 特に、身近なところからジェンダーについて考え、学校教育や社会について検討していく。	第一回目の授業で配布する資料を読み、Ａ４サイズの用紙１?2 枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。
9	学校の中のマイノリティ:外国にルーツをもつ子どもたち	1990 年代以降、日本の入国管理政策の転換により、多くの外国人が家族とともに渡日するようになった。 それに伴い多くの外国人の子どもたちは日本の学校へ通うことになったが、彼らは日本語の問題や日本特有の学校文化など様々な問題に直面することとなった。 ここでは外国にルーツをもつ子どもたちの視点から日本の学校教育制度について講義、およびディスカッションを通して考えていく。	第一回目の授業で配布する資料を読み、Ａ４サイズの用紙１?2 程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。
10	教師の「自律性」、あるいは「市民」としての教師	皆さんは、教師という職業についた後、どのように生きていきたいだろうか。教師は、職業人としては教師であるが、同時に「人間」であり、「自律した市民」	（事前）自分は教師としてどのように生きていきたいかを考えてみる。 （事後）小レポートの提出。

教職科目

		でもある。ここでは、こうした二重の生を送ることになる教師のあり方を、哲学的に考えていく。	
11	「学び続ける教員像」再考	昨今、社会の急激な変化に伴い、知識・技能の絶えざる刷新が不可欠であることから、政府の側からも「学び続ける教員像の確立」が求められてきている。ここでは、教師が学び続けることの意味、さらには、学ぶこと一般の意味について、改めて考えていく。	（事前）自分にとって学ぶことの意味とは何かを考えてみる。 （事後）小レポートの提出。
12	生活背景を視野に入れた生徒支援	貧困や虐待等、生活背景に課題のある生徒に対する支援のあり方について事例研究及びグループ討議を行う。	「子供の貧困対策に関する大綱」を一読しておくこと。授業後にミニレポートを課す。
13	コミュニケーション能力のとらえ方とその育成	生徒間の相互関係を深め、共感しながら人間関係やチームワークを形成する方策についての事例研究及びグループ討議を行う。	文部科学省コミュニケーション教育推進会議審議経過報告「子どもたちのコミュニケーション能力を育むために」を一読しておくこと。授業後、ミニレポートを課す。
14	カウンセリングマインドと生徒対応	カウンセリングの技法を生徒への対応，保護者への対応に応用する。	（事前）カウンセリングマインドについての復習。中学生あるいはその親のもつ“悩み”を３つあげる。 （事後）小レポート
15	「自分」を知る	教育職における「自己を知る」ことの重要性を知り，そのための１方法としてのエゴグラム作成を行う。	（事前）「自分」について考える。 （事後）小レポート

関連科目	全ての教職課程必修科目、取得予定免許状に関わる各教科毎の必修科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	グループ学習が中心であり，それぞれについて課題が出される。それらの評価を総合し、最終的な評価とする。
学生への メッセージ	教育実習を終えた時点で各自が自らの実習を省察すること。その中で、問題点を見出し、諸課題を自ら設定し、この科目を軸にしながら、全体講義やグループワークを通して課題克服を目指しながら、さらなる実践的力量を身に付けること。
担当者の 研究室等	７号館３階（朝日、大野、林、吉田） ７号館４階（小山）
備考	

科目名	教師論	科目名（英文）	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日　素明
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や責任は何か」「教師の職務とはどのようなものか」「教師として生きるとはどのようなことか」などについて基礎的な知識を講義し、これを基づいてグループワークを行います。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分はどのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション（LTD；Learning Through Discussion）等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教職の意義等に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）・進路選択に資する各種の機会の提供等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教職への道	科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	本科目のシラバスの熟読
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
3	教師教育と教職の専門性（1）	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
4	教師教育と教職の専門性（2）	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
5	教師教育と教職の専門性（3）	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
6	教師教育と教職の専門性（4）	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
7	さまざまな教師像（1）	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
8	さまざまな教師像（2）	「不良教師」（文献・映像に基づく教師像の探究） レポートに基づくグループワーク	「不良教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	さまざまな教師像（3）	「熱血教師」（文献・映像に基づく教師像の探究） レポートに基づくグループワーク	「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	さまざまな教師像（4）	「人間教師」（文献・映像に基づく教師像の探究） レポートに基づくグループワーク	「人間教師」に関する配布資料を読みレポート提出
11	さまざまな教師像（5）	「プロ教師」（文献・映像に基づく教師像の探究） レポートに基づくグループワーク	「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
12	教員の役割・職務（1）	教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
13	教員の役割・職務（2）	学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
14	教員の役割・職務（3）	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障 教員の勤務条件	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務（4）	教員のメンタルヘルス、バーンアウト 教育改革と教員	メンタルヘルスに関する配布資料

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験 70%、レポート 20%、グループワーク・ピア評価 10%
学生へのメッセージ	教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることになります。教養をもとに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。

	遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　朝日研究室
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。

科目名	生徒指導論	科目名（英文）	Studies of Guidance and Counceling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日　素明
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	生徒指導、進路指導は、学校教育をすすめるうえで重要な役割を占めています。非行、いじめ、不登校、学級崩壊、受験競争、進路のミスマッチなど、生徒指導・進路指導上の諸問題については、その解決の重要性が認識されています。本科目では、多くの具体的な問題事象に通底する基本的で普遍的な原理について学びます。
到達目標	学生は、生徒指導、進路指導の意義や指導の方法に関する基本的な事柄について必要最低限の知識を獲得し、さまざまな問題事象を適切に捉え対処する基礎力を身につけることができます。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義を中心に、内容をめぐってのディスカッション等も織り交ぜて授業を進めます。また時折、レポートを課します。 「事前・事後学習課題」はすべて事前課題です。事後課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目 各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導の理論及び方法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 生徒指導の目標と意義	科目概要について説明 自分の生徒指導上の体験のふりかえり 生徒指導の目標と意義	テキスト pp. 3-10
2	生徒指導の実践	生徒指導の実践課題と領域	テキスト pp. 10-24
3	生徒指導の理論（1）	理論の重要性 発達に関する理論	テキスト pp. 32-39
4	生徒指導の理論（2）	生徒指導における治療的支援に関する理論 相談理論など	テキスト pp. 39-42
5	生徒理解の進め方（1）	生徒理解の意義と目的	テキスト pp. 43-46
6	生徒理解の進め方（2）	生徒理解の方法 生徒の自己理解の支援	テキスト pp. 46-56
7	生徒理解の進め方（3）	教師の生徒認知のありよう	テキスト pp. 56-61
8	学級経営の進め方（1）	学級経営の意義 学級集団の役割・機能	テキスト pp. 63-68
9	学級経営の進め方（2）	学級集団の力学 学級経営の方法	テキスト pp. 68-74
10	学級経営の進め方（3）	教師のリーダーシップ	テキスト pp. 74-79
11	生徒指導上の諸問題の理解と対応	生徒指導上の諸問題とは 最近の諸問題の動向 諸問題にどう対応するか	生徒指導上の諸問題に関する配布資料
12	進路指導の意義と課題	進路指導の意義 進路指導の現代社会的課題	テキスト pp. 135-159
13	勤労観・職業観の形成と変容	青少年の勤労観・職業観 勤労観・職業観の形成と変容	テキスト pp. 176-195
14	進路指導の理論	キャリア発達に関する諸理論	キャリア発達理論に関する配布資料
15	学校教育における進路指導の実践展開	進路指導における「ガイダンスの機能」 進路指導実践の展開モデル	テキスト pp. 215-234

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育心理学」「特別活動の理論と方法」「教育経営論」に関連する事柄を含みます。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	生徒指導・進路指導	高橋超・石井真治・熊谷信順	ミネルヴァ書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験 80%、レポート 20%。定期試験を受験しなかった場合、評価はしません。
学生へのメッセージ	生徒指導、進路指導を学ぶ原資になる自らの体験は大事です。さらに自らの体験を対象化して考える習慣をつけましょう。そのために、基礎的な知識をしっかりと身につけてください。 授業への遅刻、無断欠席・早退等は厳禁です。生徒指導を行おうとする者としての適格性が問われます。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　朝日研究室
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポート課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。

科目名	中国語科教育法Ⅰ	科目名（英文）	Chinese Teaching Methods Ⅰ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	瀬戸　宏
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	中国語および中国語教育についての基礎知識を身につけ、その概要がわかるようにする。授業の成果を踏まえ、授業案を書く練習、それに基づく模擬授業の練習もおこなう。
到達目標	中国語教育の歴史と現状および中国語教育に必要な中国語の概要(音声・文法・表記上の特徴)が理解できる。
授業方法と留意点	講義形式を主にするが、教材分析などでは学生に発表も課する。
科目学習の効果（資格）	中国語教員免許の必須科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	中国語概論Ⅰ	中国語の歴史・性格・構造について考える。	教科書の該当部分を予習しておく
2	中国語概論Ⅱ	中国語が使われる範囲や中国語教育の概要について考える。	教科書の該当部分を予習しておく
3	中国語の学習段階と学習目標Ⅰ	中国語教育における初級・中級・上級段階とは何かを考える。	教科書の該当部分を予習しておく
4	中国語の学習段階と学習目標Ⅱ	引き続き、初級を中心にその内容について考えていく。	教科書の該当部分を予習しておく
5	教授法概論Ⅰ	各種の外国語教授法について概説する。	教科書の該当部分を予習しておく
6	教授法概論Ⅱ	引き続き中国語の教授法について考えていく。特に学習指導案に重点を置く。	教科書の該当部分を予習しておく
7	初級教材研究Ⅰ	初級教材の内容について中国で出版された教科書を使いながら具体的に分析していく。	教科書の該当部分を予習しておく
8	初級教材研究Ⅱ	引き続き初級段階の内容について考えていく。	教科書の該当部分を予習しておく
9	初級教材研究Ⅲ	引き続き初級段階の内容について考えていく。	教科書の該当部分を予習しておく
10	中級教材研究	中級段階の内容について考えていく	教科書の該当部分を予習しておく
11	上級教材研究	上級段階の内容について引き続き考えていく	教科書の該当部分を予習しておく
12	高校中国語研究Ⅰ	高校中国語教育の内容について考えていく	教科書の該当部分を予習しておく
13	高校中国語研究Ⅱ	引き続き高校中国語教育の内容について考えていく	教科書の該当部分を予習しておく
14	高校中国語研究Ⅲ	引き続き高校中国語教育の内容について考えていき、学習指導案を実際に書いてみる。	教科書の該当部分を予習しておく
15	まとめ	前回作成した学習指導案に基づき模擬授業を行う。それを通して、日本における中国語教育のまとめをおこなう	教科書の該当部分を予習しておく

関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業参加 60%、レポート 40%
学生へのメッセージ	比較的少人数の授業です。一緒に勉強していきましょう。
担当者の研究室等	７号館３階(瀬戸研究室)
備考	

科目名	中国語科教育法Ⅱ	科目名（英文）	Chinese Teaching Methods II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中西　正樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	「中国語科教育法Ⅰ」で学ぶ中国語教育の実状と指導のあり方をふまえつつ、ここでは授業を「計画」「実践」「反省」するという体験を経ることによって、「何を」「どのように」教えるかを理解する。具体的には： １．日本語を母語とする中国語学習者にとって何が必要で何が必要でないかを学ぶ。 ２．学習者の状態を常に目と耳を使って観察することを学ぶ。 ３．学習者の状態によっては教える「内容」と「方法」を随時調整せねばならないことを学ぶ。
到達目標	教える能力としては，教育実習の場面で学習歴，クラスサイズ，教材などさまざまな状況に対応しながら学習者の知的好奇心を刺激できるような授業ができることを目標とする。 教科内容については，中国語の文法や語彙を系統的に整理する能力を高めて，学習者の状況に合わせた教材やテストを用意できる能力を身につける。
授業方法と留意点	教育実習時に不可欠な「学習指導案」作成を中心に据えながら、これに実践と自己分析を盛り込む。したがって実習にじゅうぶんな時間を当てる。
科目学習の効果（資格）	中国語教員免許状 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	発音とピンイン指導	中国語の発音やピンインの指導では、日本語の発音やローマ字から逸脱する事項に重点を置き、これを学習者に十分理解させる。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
2	学習指導案作成Ⅰ（発音篇）	入門期の学習者がつまづきやすい二音節語の声調パタンの学習を想定し、音声素材を活用した授業を企画する。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
3	発音の指導と評価実習	他の受講生を学習者と見立てながら、前回に作成した指導案に沿って授業を実践する。模範の提示、評価、アドバイスは適切だろうか。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
4	講読・作文の指導	文の意味を理解し、文を自在に生成するために文法を理解させねばならない。日本語などとの比較を通して、効果的に「読み」「書き」を教える。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
5	学習指導案作成Ⅱ（講読・作文篇）	動詞「是」の学習を想定する。英語の be 動詞との比較やパタン練習をうまく構成して一回の授業でこの動詞を理解させる指導案を作ってみる。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
6	講読・作文の指導実習	指導案に沿って授業をしてみる。パタン練習では学習者をうまくオペレートできるだろうか？質問に的確に答えられるだろうか？	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
7	リスニング指導と関連機器	テープ・ＭＤ・ＣＤ・ＰＣ・ＤＶＤなどメディアの特性に加えてＬＬやＣＡＬＬの概念をよく理解し、これらを授業にうまく利用する。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
8	学習指導案作成Ⅲ（リスニング篇）	ディクテーションやサイトトランスレーション・シャドウイングなど「リスニング」に関わる訓練法を取り入れた指導案を作成する。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
9	ディクテーションとシャドウイング	LL 教室を使用する。すでに作成してある指導案に沿いながら、音声や映像メディアの送出や学習者のモニタリングを実習する。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
10	テストの目的とその方法	テストとは既習事項の達成度を測り、その結果を学習者と教師双方の指針とするものである。テスト問題作成の方法とその結果の扱いを学ぶ。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
11	テストを作ってみる	授業２～３回分の既習事項を確認するためのショートテストを Word で作ってみる。レイアウトにも気を配りながら過不足なく適切な問題を作る。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
12	学習者へのフィードバックと成績管理	（１）服務の宣誓　（２）信用失墜行為の禁止　（３）兼職の禁止　等について	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
13	マルチメディアを利用する(1)	CD や DVD あるいは Web で入手可能な音声･映像素材を教材用に編集する技術を学ぶとともに著作権の概念を理解する。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
14	マルチメディアを利用する(2)	e-ラーニング及びさまざまな Web サービスを利用した授業を考える。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
15	マルチメディアを利用する(3)	CALL 教室で模擬授業をする。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。

関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	小テスト及び単元テスト 80% 授業参加度や提出物 20%
学生への メッセージ	「教えられる者」の視点に立つ、つまり生徒を観察する余裕が持てること。大切なことなのですがこれがなかなか難しいのです。この問題を授業の中で皆さんといっしょに考えて生きたいと思います。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階(中西研究室)
備考	

科目名	中国語科教育法Ⅲ	科目名（英文）	Chinese Teaching Methods III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	瀬戸　宏
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	中国語教科教育法Ⅰ、Ⅱで学んだことを基礎に、中国語教科教育法に関する中国語の論文を読みます。中国語教科教育法の知識の向上と中国語の読解力の向上を同時に目指します。
到達目標	中国での中国語教育の現状と理論の概要が理解できます。
授業方法と留意点	毎回、中国語の論文を訳読します。高度な内容の論文を読むので必ず予習が必要です。また授業の最後には、授業の成果を踏まえて教案を書き、更にそれに基づく模擬授業もしてもらいます。
科目学習の効果（資格）	中国語教科教育法の知識の向上と中国語の読解力の向上に欠かせない講義です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	黎天睦『現代外語教学法　理論与実践』（北京語言学院出版社）	現代外語教学法近況	教科書の該当部分を予習しておく
2	黎天睦『現代外語教学法　理論与実践』（北京語言学院出版社）	現代外語教学法近況	教科書の該当部分を予習しておく
3	黎天睦『現代外語教学法　理論与実践』（北京語言学院出版社）	現代外語教学法近況	教科書の該当部分を予習しておく
4	黎天睦『現代外語教学法　理論与実践』（北京語言学院出版社）	分階段教学法与外語教学理論	教科書の該当部分を予習しておく
5	黎天睦『現代外語教学法　理論与実践』（北京語言学院出版社）	分階段教学法与外語教学理論	教科書の該当部分を予習しておく
6	黎天睦『現代外語教学法　理論与実践』（北京語言学院出版社）	分階段教学法与外語教学理論	教科書の該当部分を予習しておく
7	黎天睦『現代外語教学法　理論与実践』（北京語言学院出版社）	分階段教学法与外語教学理論	教科書の該当部分を予習しておく
8	黎天睦『現代外語教学法　理論与実践』（北京語言学院出版社）	現代外語教学法的心理学基礎	教科書の該当部分を予習しておく
9	黎天睦『現代外語教学法　理論与実践』（北京語言学院出版社）	現代外語教学法的心理学基礎	教科書の該当部分を予習しておく
10	黎天睦『現代外語教学法　理論与実践』（北京語言学院出版社）	現代外語教学法的心理学基礎	教科書の該当部分を予習しておく
11	黎天睦『現代外語教学法　理論与実践』（北京語言学院出版社）	現代外語教学法的心理学基礎	教科書の該当部分を予習しておく
12	黎天睦『現代外語教学法　理論与実践』（北京語言学院出版社）	現代外語教学法的語言学基礎	教科書の該当部分を予習しておく
13	黎天睦『現代外語教学法　理論与実践』（北京語言学院出版社）	現代外語教学法的語言学基礎	教科書の該当部分を予習しておく
14	まとめ１	これまでの学習成果を踏まえ、中国語授業の教案を書き、それを検討する。	教科書の該当部分を予習しておく
15	まとめ２	前回作成した教案をもとに、中国語の模擬授業を行う。その検討と反省を通して、授業全体のまとめをおこなう。	教科書の該当部分を予習しておく

関連科目：中国語教科教育法Ⅳ.

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業参加 60%、レポート 40%
学生へのメッセージ	しっかり勉強すれば必ず力がつきます。

担当者の 研究室等	7 号館 3 階(瀬戸研究室)
備考	

科目名	中国語科教育法Ⅳ	科目名（英文）	Chinese Teaching Methods Ⅳ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	兪　鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	中国語の教員になるためには、中国語学、中国文学、中国語コミュニケーション、異文化理解の４つの分野を学ばなければなりません。 この授業は中国語科教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで学んだことを基礎に、異文化理解を同時に目指す中国語教育に関する論文を読みます。中国語教科教育法の知識の向上と教育法に関する研究能力の向上を目指します。
到達目標	異文化理解を目指す中国語教育のためのポイントを学びます。
授業方法と留意点	毎回、中国語の論文を訳読します。高度な内容の論文を読むので必ず予習が必要です。また授業の最後には、授業の成果を踏まえて教案を書き、更にそれに基づく模擬授業もしてもらいます。
科目学習の効果（資格）	中国語教科教育法の知識の向上と中国語の読解力の向上に欠かせない講義です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	中国語教材における文化知識導入の研究	現状と問題	教科書の該当部分を予習しておく
2	中国語教材における文化知識導入の研究	文化知識導入の理論と原則	教科書の該当部分を予習しておく
3	中国語教材における文化知識導入の研究	教材分析１	教科書の該当部分を予習しておく
4	中国語教材における文化知識導入の研究	教材分析２	教科書の該当部分を予習しておく
5	中国語教材における文化知識導入の研究	教材分析３	教科書の該当部分を予習しておく
6	中国語教材における文化知識導入の研究	教材分析４	教科書の該当部分を予習しておく
7	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	語彙を中心に①	教科書の該当部分を予習しておく
8	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	語彙を中心に②	教科書の該当部分を予習しておく
9	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	文構文を中心に①	教科書の該当部分を予習しておく
10	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	文構文を中心に②	教科書の該当部分を予習しておく
11	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	文章構成を中心に	教科書の該当部分を予習しておく
12	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	話題を中心に①	教科書の該当部分を予習しておく
13	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	話題を中心に②	教科書の該当部分を予習しておく
14	まとめ１	これまでの学習成果を踏まえ、中国語授業の教案を書き、それを検討する。	教案を練る。
15	まとめ２	前回作成した教案をもとに、中国語の模擬授業を行う。その検討と反省を通して、授業全体のまとめをおこなう。	レポートを書く。

関連科目：中国語教科教育法Ⅲ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業参加およびレポート
学生へのメッセージ	しっかり勉強すれば必ず力が付きます。
担当者の研究室等	７号館３階(兪研究室)
備考	

科目名	道徳教育の研究	科目名（英文）	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小山　裕樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この授業では、日本の道徳教育に関する基礎的な知識や考え方（日本の道徳教育の歴史、道徳教育の内容を構成する諸概念、道徳性の発達理論、等）について解説を加えたうえで、実際に学校でどのように道徳教育を行えばよいのかを考えていきます。
到達目標	受講者が日本の道徳教育に関する基礎的な知識や考え方を身に付けたうえで、道徳教育に関する具体的な授業計画を立案することができるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的には講義形式で行いますが、「道徳科」の学習指導案を書く演習等も適宜取り入れます。また、毎回授業の最後に受講者にコメントペーパーを書いてもらって次の授業中にその内容のいくつかを紹介することで、受講者が相互に関心を共有し合うとともに、その都度のテーマに対して主体的かつ多角的に考えを深められるよう配慮します。
科目学習の効果（資格）	中学校教諭１種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各項目に含める必要事項：道徳の指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス:道徳教育をどのように考えるか	①現在道徳教育がどのように考えられているかを、確認する。 ②道徳の読み物教材の分析を通して、道徳教育に対するアプローチ法を考える。	自分が受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出しておく。
2	日本の道徳教育の歴史①:戦前の道徳教育	①明治から昭和初期にかけての道徳教育の歴史を概観する。 ②「個人主義」について多角的に考える。	授業の内容を踏まえたうえで、「個人主義」についてより深く考える。
3	日本の道徳教育の歴史②:戦後の道徳教育	道徳教育に関する戦後すぐの教育改革の動向と、それに対するいわゆる保守反動的な動きとについて考える。	政治的・経済的状況との関わりから、道徳教育の歴史的変遷を整理する。
4	日本の道徳教育の歴史③:現代の道徳教育	①近年の道徳教育をめぐる教育改革の動向を概観する。 ②道徳教育推進論の論拠の一つともなっている「いじめ」問題について考えを深める。	自分の周囲で起こった「いじめ」体験について思い出しておく。さらに、その体験について、授業の内容を踏まえたうえで再考する。
5	諸外国の道徳教育	①諸外国の道徳教育の状況について概観する。 ②諸外国の道徳教育を事例として、道徳教育と「宗教教育」との関係について考える。	諸外国の道徳教育と自分の受けてきた道徳教育とを比較検討し、共通点と相違点とを整理する。
6	道徳教育の内容①：自我	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として自分自身に関すること」をめぐり、「自我」（＝「私」）について道徳教育の視点から考える。	普段の自分の生活や授業の内容を振り返り、「私」のあり方についてより深く考える。
7	道徳教育の内容②：他者	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として人との関わりに関すること」をめぐり、道徳教育の視点から「他者」との関わりのなかで「私」を捉え直す。	普段の自分の生活を振り返り、そこでの「私」と「他者」との関わりについて考えておく。さらに、授業を踏まえたうえで、それについて再考する。
8	道徳教育の内容③:生命と自然	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」をめぐり、道徳教育（とりわけ「いのちの教育」）の実践例を検討する。	「いのちの教育」の実践について、授業の内容を踏まえたうえで、より深く考える。
9	道徳教育の内容④:美と崇高	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として生命や自然、崇高なものとのかかわりに関すること」をめぐり、道徳教育をいわゆる「情操教育」的な観点から検討する。	授業の内容を踏まえたうえで、「情操教育」的な観点から道徳教育について再考する。
10	道徳教育の内容⑤：社会	①学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として集団や社会との関わりに関すること」をめぐり、道徳教育の視点から「社会」との関わりのなかで「私」を捉え直す。 ②いわゆる「スクールカースト」について考える。	自分の周囲で起こった「スクールカースト」の体験について思い出しておく。さらに、その体験について授業の内容を踏まえたうえで再考する。
11	道徳性の発達	①コールバーグによる道徳性の発達理論（およびギリガンによるその批判）について検討する。 ②道徳性の発達理論を応用したいわゆる「モラル・ジレンマ授業」について理解を深める。	「モラル・ジレンマ授業」について構想するための準備をする。
12	道徳の授業の位置づけ	①教育課程編成上の道徳教育の位置づけを確認する。 ②他教科での教育のなかで行われた道徳教育の実践例をもとに、道徳教育の幅広い可能性について考える。	他教科での教育と道徳教育の関わりについて整理する。
13	学習指導案の作成と授業の展開①	①学校における道徳教育の「要」とされている「道徳科」の位置づけについて考える。	授業時に指示する。

		②「道徳科」の時間を計画的に進めるための学習指導案の書き方について具体的に考えていく。	
14	学習指導案の作成と授業の展開②	「道徳科」の学習指導案の書き方について、引き続き具体的に考えていく。	授業時に指示する。
15	まとめ:道徳教育と教師の責任	①道徳教育についてまとめとして考えるために、ある実験授業の記録を扱う。 ②この実験授業において生じた結果から、道徳教育が有する「可能性」や「限界」等について考察する。	授業時に指示する。

関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみることが大切です。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「甘え」と「自律」の教育学――ケア・道徳・関係性	下司晶	世織書房
2			
3			

評価方法 (基準)	毎回の授業中に書いてもらうコメントペーパーや、課題として作成してもらう「道徳科」の学習指導案、学期末試験の結果などをもとに、総合的に評価します。なお、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る者に対しては厳正に対処をしますので、学生としての自覚と覚悟をもって授業に参加すること。
学生への メッセージ	受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。
担当者の 研究室等	７号館４階(小山研究室)
備考	

科目名	特別活動の理論と方法	科目名（英文）	Theories and Methods for Special Activities
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林　茂樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	(1) 学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動（児童会活動）、学校行事,それぞれの指導目標や内容等に関する基礎的・基本的事項について整理する。 (2) 子どもの現状を踏まえ、望ましい集団活動が生徒の個人的な資質と社会的な資質を育むとともに、学習活動を統合し補完する役割を果たしていることについての理解を深める。 (3) 「学級づくり」（教師と生徒の関係づくり、生徒どうしの関係づくり）に視点を据え、7 つの教育課題を取り上げ、問題発生の背景を踏まえた対応の方法について、事例をもとにグループ討議や即興劇を行い、交流する。
到達目標	将来、学級担任として、望ましい集団活動を育て、すべての子どもが安心して学校生活を送ることができるよう、学級経営や学級づくりを行う必要があることから、まずはその前段階として、学校支援ボランティアの学生の立場で教員と協力・連携しながら学級集団への適切なサポートができるようになる。
授業方法と留意点	講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動を指導する立場にたつ教員として、集団をファシリテートすることができるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。
科目学習の効果（資格）	教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：特別活動の指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・特別活動の意義と課題	特別活動とは何か、特別活動の教育的意義、社会の変貌と子どもたちの状況、学級担任の役割	教科書第 1 章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
2	特別活動の目的・内容・方法 ワーク①「キャラ」をめぐって	教科外活動としての位置づけ、特別活動の３つの内容、方法としての集団活動・体験活動 ソロワークと意見交換	教科書第 1･2 章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
3	学級活動（ホームルーム活動）その１ ワーク②大学に入って	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画 ソロワークと意見交換	教科書第 4･11 章をよく読んでおく。学習事項を整理する。
4	学級活動（ホームルーム活動）その２ ワーク③学級活動（係・班・当番・委員）の思い出	人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直 ソロワークと意見交換	教科書第 4･11 章をよく読んでおく。学習事項を整理する。
5	生徒会活動（児童会活動）・学級行事 ワーク④学校行事（運動会・体育祭・文化祭等）の思い出	生徒会（児童会）活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点 ソロワークと意見交換	教科書第 5・6･12･13 章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
6	体験活動の意義 ワーク⑤「14 歳の頃」・「17 歳の頃」	特別活動の目標と体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験のもつ教育力と教師の指導性 グループワークの班分け、顔合わせ	教科書第 2 章、配布プリントをよく読んでおく。
7	特別活動の歴史・領域・方法 グループワーク①いじめ（その１）	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがい グループ討議・発表・交流	教科書第 2・3 章をよく読んでおく。学習事項を整理する。
8	特別活動と学級経営 グループワーク②暴力	学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動 グループ討議・発表・交流	教科書第 9 章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく
9	特別活動と生徒指導 グループワーク③非行	生徒指導との関連、積極的生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成 グループ討議・発表・交流	教科書第 10 章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく
10	特別活動における評価 グループワーク④不登校	評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用 グループ討議・発表・交流	配布プリントをよく読んでおく。
11	特別活動と道徳教育 グループワーク⑤いじめ（その２）	特別活動と道徳教育との関連及びそれぞれの教育的意義 即興劇・交流	教科書第 8 章を読んでおく。学習事項を整理する。
12	特別活動と総合的な学習 グループワーク⑥進路指導・キャリア教育	特別活動と総合的な学習の時間との関連及びそれぞれの教育的意義 グループ討議・発表・交流	教科書第 7･14 章を読んでおく。学習事項を整理する。
13	現行学習指導要領について グループワーク⑦インクルーシブ教育	現行学習指導要領における改定の要点、言語能力・体験活動の重視 グループ討議・発表・交流	教科書第 3 章及び資料編を読んでおく。学習事項を整理する。
14	特別活動の指導計画・指導案の作成 グループワーク⑧ジェンダー	全体計画・年間指導計画と配慮事項、1 単位時間の指導計画・指導案の作成 グループ討議・発表・交流	配布プリントをよく読んでおく。
15	まとめ～子どもの自尊感情を高めるということ	集団的な自尊感情を育むことの重要性について	全学習事項について再度振り返り整理する。

関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、「教師論」、「教育原理」「教育心理学」で学習したことと関連づけるともに、「教育方法論」、「生徒指導論」、「教育社会学」などの学習につなげることが大切である。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

教職科目

	1	新しい時代の特別活動	相原次男他	ミネルヴァ書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説　特別活動	文部科学省	ぎょうせい
	2	高等学校学習指導要領解説　特別活動	文部科学省	海文堂出版
	3			

評価方法 （基準）	定期試験（50%）、中間レポート（30%）、コメントペーパー、ミニエッセイ及び授業への参加状況（20%）を総合的に評価する。定期試験の内容は客観式＋記述式とする。中間レポートは、ミニエッセイをもとに「自分史に関するエッセイ」をまとめ、提出すること。毎回のコメントペーパー・ミニエッセイの作成と授業への出席をもとに授業への参加状況を評価する。
学生への メッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだということが言われる。学級づくりには多様な方法論が存在するが、要は子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。
担当者の 研究室等	７号館３階(林研究室)
備考	

発行　2017年4月

常翔学園　摂南大学

寝屋川校地　〒572-8508
大阪市寝屋川市池田中町17番8号

電話(072)-839-9106 【教務課】

発行　2017年4月

常翔学園　摂南大学

枚方校地　〒573-0101
大阪市枚方市長尾峠町45番1号

電話(072)-866-3101 【枚方事務室】

SETSUDAI